

基礎演習I 1

12141

担当者名 / Instructor 門田 幸太郎

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生が協働して学んでいく演習スタイルの科目です。この科目では今後4年間大学で研究を行っていく上で、最低限必要とされる知識と技術を習得していきます。具体的にはクラスのなかでさらにグループ分けを行い、そのグループごとに研究調査を行い、その成果を発表・討論を実施します

到達目標 / Attainment Objectives

「与えられた問題」に正しい答えを出さず高校までの勉強とは異なり、大学での研究ではまず自分自身で「問題(あるいはテーマ)を発見すること」から出発しなければなりません。基礎演習ではいかにして意味のある問題、取り組むべきテーマを発見するか、その問題・テーマに答えるべく、どのように文献調査やフィールドワークを行うか、そのスキルを身につけます。さらにそれらの調査研究の結果や成果を発表し、グループやゼミ全体で討論する際の技法の習得もめざします。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

学部から配布する『さんしゃハンドブック』を活用してください。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業の進め方やスケジュールについては各担当教員の指示に従ってください。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	開講回数の三分の二以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は平常点(グループ学習、発表、討論への参加)やレポート・小論文などによりますが、詳しい評価方法については担当教員が指示します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

前期では2回生、3回生の「エンター」と呼ばれる先輩が、大学での学修面や生活面に関してみなさんの相談に乗ってくれます。後期はより専門的な知識をもった先輩が研究面においてサポートしてくれます。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『さんしゃハンドブック(入門編)』など。	///

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

基礎演習12

12142

担当者名 / Instructor 深澤 敦

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生が協働して学んでいく演習スタイルの科目です。この科目では今後4年間大学で研究を行っていく上で、最低限必要とされる知識と技術を習得していきます。具体的にはクラスのなかでさらにグループ分けを行い、そのグループごとに研究調査を行い、その成果を発表・討論を実施します

到達目標 / Attainment Objectives

「与えられた問題」に正しい答えを出す高校までの勉強とは異なり、大学での研究ではまず自分自身で「問題(あるいはテーマ)を発見すること」から出発しなければなりません。基礎演習ではいかにして意味のある問題、取り組むべきテーマを発見するか、その問題・テーマに答えるべく、どのように文献調査やフィールドワークを行うか、そのスキルを身につけます。さらにそれらの調査研究の結果や成果を発表し、グループやゼミ全体で討論する際の技法の習得もめざします。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

学部から配布する『さんしゃハンドブック』を活用してください。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業の進め方やスケジュールについては各担当教員の指示に従ってください。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	開講回数の三分の二以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は平常点(グループ学習、発表、討論への参加)やレポート・小論文などによりますが、詳しい評価方法については担当教員が指示します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

前期では2回生、3回生の「エンター」と呼ばれる先輩が、大学での学修面や生活面に関してみなさんの相談に乗ってくれます。後期はより専門的な知識をもった先輩が研究面においてサポートしてくれます。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『さんしゃハンドブック(入門編)』など。	///

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

基礎演習13

12143

担当者名 / Instructor 高嶋 正晴

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生が協働して学んでいく演習スタイルの科目です。この科目では今後4年間大学で研究を行っていく上で、最低限必要とされる知識と技術を習得していきます。具体的にはクラスのなかでさらにグループ分けを行い、そのグループごとに研究調査を行い、その成果を発表・討論を実施します

到達目標 / Attainment Objectives

「与えられた問題」に正しい答えを出す高校までの勉強とは異なり、大学での研究ではまず自分自身で「問題(あるいはテーマ)を発見すること」から出発しなければなりません。基礎演習ではいかにして意味のある問題、取り組むべきテーマを発見するか、その問題・テーマに答えるべく、どのように文献調査やフィールドワークを行うか、そのスキルを身につけます。さらにそれらの調査研究の結果や成果を発表し、グループやゼミ全体で討論する際の技法の習得もめざします。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

学部から配布する『さんしゃハンドブック』を活用してください。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業の進め方やスケジュールについては各担当教員の指示に従ってください。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	開講回数の三分の二以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は平常点(グループ学習、発表、討論への参加)やレポート・小論文などによりますが、詳しい評価方法については担当教員が指示します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

前期では2回生、3回生の「エンター」と呼ばれる先輩が、大学での学修面や生活面に関してみなさんの相談に乗ってくれます。後期はより専門的な知識をもった先輩が研究面においてサポートしてくれます。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『さんしゃハンドブック(入門編)』など。	///

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

基礎演習I 4

12144

担当者名 / Instructor 杉本 通百則

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生が協働して学んでいく演習スタイルの科目です。この科目では今後4年間大学で研究を行っていく上で、最低限必要とされる知識と技術を習得していきます。具体的にはクラスのなかでさらにグループ分けを行い、そのグループごとに研究調査を行い、その成果を発表・討論を実施します

到達目標 / Attainment Objectives

「与えられた問題」に正しい答えを出す高校までの勉強とは異なり、大学での研究ではまず自分自身で「問題(あるいはテーマ)を発見すること」から出発しなければなりません。基礎演習ではいかにして意味のある問題、取り組むべきテーマを発見するか、その問題・テーマに答えるべく、どのように文献調査やフィールドワークを行うか、そのスキルを身につけます。さらにそれらの調査研究の結果や成果を発表し、グループやゼミ全体で討論する際の技法の習得もめざします。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

学部から配布する『さんしゃハンドブック』を活用してください。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業の進め方やスケジュールについては各担当教員の指示に従ってください。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	開講回数の三分の二以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は平常点(グループ学習、発表、討論への参加)やレポート・小論文などによりますが、詳しい評価方法については担当教員が指示します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

前期では2回生、3回生の「エンター」と呼ばれる先輩が、大学での学修面や生活面に関してみなさんの相談に乗ってくれます。後期はより専門的な知識をもった先輩が研究面においてサポートしてくれます。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『さんしゃハンドブック(入門編)』など。	///

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

基礎演習15

12145

担当者名 / Instructor 竹濱 朝美

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生が協働して学んでいく演習スタイルの科目です。この科目では今後4年間大学で研究を行っていく上で、最低限必要とされる知識と技術を習得していきます。具体的にはクラスのなかでさらにグループ分けを行い、そのグループごとに研究調査を行い、その成果を発表・討論を実施します

到達目標 / Attainment Objectives

「与えられた問題」に正しい答えを出す高校までの勉強とは異なり、大学での研究ではまず自分自身で「問題(あるいはテーマ)を発見すること」から出発しなければなりません。基礎演習ではいかにして意味のある問題、取り組むべきテーマを発見するか、その問題・テーマに答えるべく、どのように文献調査やフィールドワークを行うか、そのスキルを身につけます。さらにそれらの調査研究の結果や成果を発表し、グループやゼミ全体で討論する際の技法の習得もめざします。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

学部から配布する『さんしゃハンドブック』を活用してください。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業の進め方やスケジュールについては各担当教員の指示に従ってください。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	開講回数の三分の二以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は平常点(グループ学習、発表、討論への参加)やレポート・小論文などによりますが、詳しい評価方法については担当教員が指示します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

前期では2回生、3回生の「エンター」と呼ばれる先輩が、大学での学修面や生活面に関してみなさんの相談に乗ってくれます。後期はより専門的な知識をもった先輩が研究面においてサポートしてくれます。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『さんしゃハンドブック(入門編)』など。	///

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

基礎演習I 6

12146

担当者名 / Instructor 木田 融男

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生が協働して学んでいく演習スタイルの科目です。この科目では今後4年間大学で研究を行っていく上で、最低限必要とされる知識と技術を習得していきます。具体的にはクラスのなかでさらにグループ分けを行い、そのグループごとに研究調査を行い、その成果を発表・討論を実施します

到達目標 / Attainment Objectives

「与えられた問題」に正しい答えを出す高校までの勉強とは異なり、大学での研究ではまず自分自身で「問題(あるいはテーマ)を発見すること」から出発しなければなりません。基礎演習ではいかにして意味のある問題、取り組むべきテーマを発見するか、その問題・テーマに答えるべく、どのように文献調査やフィールドワークを行うか、そのスキルを身につけます。さらにそれらの調査研究の結果や成果を発表し、グループやゼミ全体で討論する際の技法の習得もめざします。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

学部から配布する『さんしゃハンドブック』を活用してください。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業の進め方やスケジュールについては各担当教員の指示に従ってください。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	開講回数の三分の二以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は平常点(グループ学習、発表、討論への参加)やレポート・小論文などによりますが、詳しい評価方法については担当教員が指示します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

前期では2回生、3回生の「エンター」と呼ばれる先輩が、大学での学修面や生活面に関してみなさんの相談に乗ってくれます。後期はより専門的な知識をもった先輩が研究面においてサポートしてくれます。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『さんしゃハンドブック(入門編)』など。	///

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

基礎演習17

12147

担当者名 / Instructor 山口 歩

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生が協働して学んでいく演習スタイルの科目です。この科目では今後4年間大学で研究を行っていく上で、最低限必要とされる知識と技術を習得していきます。具体的にはクラスのなかでさらにグループ分けを行い、そのグループごとに研究調査を行い、その成果を発表・討論を実施します

到達目標 / Attainment Objectives

「与えられた問題」に正しい答えを出す高校までの勉強とは異なり、大学での研究ではまず自分自身で「問題(あるいはテーマ)を発見すること」から出発しなければなりません。基礎演習ではいかにして意味のある問題、取り組むべきテーマを発見するか、その問題・テーマに答えるべく、どのように文献調査やフィールドワークを行うか、そのスキルを身につけます。さらにそれらの調査研究の結果や成果を発表し、グループやゼミ全体で討論する際の技法の習得もめざします。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

学部から配布する『さんしゃハンドブック』を活用してください。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業の進め方やスケジュールについては各担当教員の指示に従ってください。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	開講回数の三分の二以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は平常点(グループ学習、発表、討論への参加)やレポート・小論文などによりますが、詳しい評価方法については担当教員が指示します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

前期では2回生、3回生の「エンター」と呼ばれる先輩が、大学での学修面や生活面に関してみなさんの相談に乗ってくれます。後期はより専門的な知識をもった先輩が研究面においてサポートしてくれます。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『さんしゃハンドブック(入門編)』など。	///

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

基礎演習18

12148

担当者名 / Instructor 永橋 為介

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生が協働して学んでいく演習スタイルの科目です。この科目では今後4年間大学で研究を行っていく上で、最低限必要とされる知識と技術を習得していきます。具体的にはクラスのなかでさらにグループ分けを行い、そのグループごとに研究調査を行い、その成果を発表・討論を実施します

到達目標 / Attainment Objectives

「与えられた問題」に正しい答えを出す高校までの勉強とは異なり、大学での研究ではまず自分自身で「問題(あるいはテーマ)を発見すること」から出発しなければなりません。基礎演習ではいかにして意味のある問題、取り組むべきテーマを発見するか、その問題・テーマに答えるべく、どのように文献調査やフィールドワークを行うか、そのスキルを身につけます。さらにそれらの調査研究の結果や成果を発表し、グループやゼミ全体で討論する際の技法の習得もめざします。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

学部から配布する『さんしゃハンドブック』を活用してください。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業の進め方やスケジュールについては各担当教員の指示に従ってください。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	開講回数の三分の二以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は平常点(グループ学習、発表、討論への参加)やレポート・小論文などによりますが、詳しい評価方法については担当教員が指示します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

前期では2回生、3回生の「エンター」と呼ばれる先輩が、大学での学修面や生活面に関してみなさんの相談に乗ってくれます。後期はより専門的な知識をもった先輩が研究面においてサポートしてくれます。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『さんしゃハンドブック(入門編)』など。	///

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

基礎演習19

12149

担当者名 / Instructor 樋口 耕一

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生が協働して学んでいく演習スタイルの科目です。この科目では今後4年間大学で研究を行っていく上で、最低限必要とされる知識と技術を習得していきます。具体的にはクラスのなかでさらにグループ分けを行い、そのグループごとに研究調査を行い、その成果を発表・討論を実施します

到達目標 / Attainment Objectives

「与えられた問題」に正しい答えを出す高校までの勉強とは異なり、大学での研究ではまず自分自身で「問題(あるいはテーマ)を発見すること」から出発しなければなりません。基礎演習ではいかにして意味のある問題、取り組むべきテーマを発見するか、その問題・テーマに答えるべく、どのように文献調査やフィールドワークを行うか、そのスキルを身につけます。さらにそれらの調査研究の結果や成果を発表し、グループやゼミ全体で討論する際の技法の習得もめざします。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

学部から配布する『さんしゃハンドブック』を活用してください。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業の進め方やスケジュールについては各担当教員の指示に従ってください。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	開講回数の三分の二以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は平常点(グループ学習、発表、討論への参加)やレポート・小論文などによりますが、詳しい評価方法については担当教員が指示します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

前期では2回生、3回生の「エンター」と呼ばれる先輩が、大学での学修面や生活面に関してみなさんの相談に乗ってくれます。後期はより専門的な知識をもった先輩が研究面においてサポートしてくれます。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『さんしゃハンドブック(入門編)』など。	///

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

基礎演習I 10

12150

担当者名 / Instructor 小澤 亘

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生が協働して学んでいく演習スタイルの科目です。この科目では今後4年間大学で研究を行っていく上で、最低限必要とされる知識と技術を習得していきます。具体的にはクラスのなかでさらにグループ分けを行い、そのグループごとに研究調査を行い、その成果を発表・討論を実施します

到達目標 / Attainment Objectives

「与えられた問題」に正しい答えを出す高校までの勉強とは異なり、大学での研究ではまず自分自身で「問題(あるいはテーマ)を発見すること」から出発しなければなりません。基礎演習ではいかにして意味のある問題、取り組むべきテーマを発見するか、その問題・テーマに答えるべく、どのように文献調査やフィールドワークを行うか、そのスキルを身につけます。さらにそれらの調査研究の結果や成果を発表し、グループやゼミ全体で討論する際の技法の習得もめざします。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

学部から配布する『さんしゃハンドブック』を活用してください。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業の進め方やスケジュールについては各担当教員の指示に従ってください。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	開講回数の三分の二以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は平常点(グループ学習、発表、討論への参加)やレポート・小論文などによりますが、詳しい評価方法については担当教員が指示します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

前期では2回生、3回生の「エンター」と呼ばれる先輩が、大学での学修面や生活面に関してみなさんの相談に乗ってくれます。後期はより専門的な知識をもった先輩が研究面においてサポートしてくれます。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『さんしゃハンドブック(入門編)』など。	///

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

基礎演習I 11

12151

担当者名 / Instructor 赤井 正二

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生が協働して学んでいく演習スタイルの科目です。この科目では今後4年間大学で研究を行っていく上で、最低限必要とされる知識と技術を習得していきます。具体的にはクラスのなかでさらにグループ分けを行い、そのグループごとに研究調査を行い、その成果を発表・討論を実施します

到達目標 / Attainment Objectives

「与えられた問題」に正しい答えを出す高校までの勉強とは異なり、大学での研究ではまず自分自身で「問題(あるいはテーマ)を発見すること」から出発しなければなりません。基礎演習ではいかにして意味のある問題、取り組むべきテーマを発見するか、その問題・テーマに答えるべく、どのように文献調査やフィールドワークを行うか、そのスキルを身につけます。さらにそれらの調査研究の結果や成果を発表し、グループやゼミ全体で討論する際の技法の習得もめざします。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

学部から配布する『さんしゃハンドブック』を活用してください。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業の進め方やスケジュールについては各担当教員の指示に従ってください。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	開講回数の三分の二以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は平常点(グループ学習、発表、討論への参加)やレポート・小論文などによりますが、詳しい評価方法については担当教員が指示します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

前期では2回生、3回生の「エンター」と呼ばれる先輩が、大学での学修面や生活面に関してみなさんの相談に乗ってくれます。後期はより専門的な知識をもった先輩が研究面においてサポートしてくれます。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『さんしゃハンドブック(入門編)』など。	///

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

基礎演習I 12

12152

担当者名 / Instructor 小泉 秀昭

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生が協働して学んでいく演習スタイルの科目です。この科目では今後4年間大学で研究を行っていく上で、最低限必要とされる知識と技術を習得していきます。具体的にはクラスのなかでさらにグループ分けを行い、そのグループごとに研究調査を行い、その成果を発表・討論を実施します

到達目標 / Attainment Objectives

「与えられた問題」に正しい答えを出す高校までの勉強とは異なり、大学での研究ではまず自分自身で「問題(あるいはテーマ)を発見すること」から出発しなければなりません。基礎演習ではいかにして意味のある問題、取り組むべきテーマを発見するか、その問題・テーマに答えるべく、どのように文献調査やフィールドワークを行うか、そのスキルを身につけます。さらにそれらの調査研究の結果や成果を発表し、グループやゼミ全体で討論する際の技法の習得もめざします。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

学部から配布する『さんしゃハンドブック』を活用してください。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業の進め方やスケジュールについては各担当教員の指示に従ってください。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	開講回数の三分の二以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は平常点(グループ学習、発表、討論への参加)やレポート・小論文などによりますが、詳しい評価方法については担当教員が指示します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

前期では2回生、3回生の「エンター」と呼ばれる先輩が、大学での学修面や生活面に関してみなさんの相談に乗ってくれます。後期はより専門的な知識をもった先輩が研究面においてサポートしてくれます。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『さんしゃハンドブック(入門編)』など。	///

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

基礎演習I 13

12153

担当者名 / Instructor 浪田 陽子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生が協働して学んでいく演習スタイルの科目です。この科目では今後4年間大学で研究を行っていく上で、最低限必要とされる知識と技術を習得していきます。具体的にはクラスのなかでさらにグループ分けを行い、そのグループごとに研究調査を行い、その成果を発表・討論を実施します

到達目標 / Attainment Objectives

「与えられた問題」に正しい答えを出す高校までの勉強とは異なり、大学での研究ではまず自分自身で「問題(あるいはテーマ)を発見すること」から出発しなければなりません。基礎演習ではいかにして意味のある問題、取り組むべきテーマを発見するか、その問題・テーマに答えるべく、どのように文献調査やフィールドワークを行うか、そのスキルを身につけます。さらにそれらの調査研究の結果や成果を発表し、グループやゼミ全体で討論する際の技法の習得もめざします。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

学部から配布する『さんしゃハンドブック』を活用してください。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業の進め方やスケジュールについては各担当教員の指示に従ってください。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	開講回数の三分の二以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は平常点(グループ学習、発表、討論への参加)やレポート・小論文などによりますが、詳しい評価方法については担当教員が指示します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

前期では2回生、3回生の「エンター」と呼ばれる先輩が、大学での学修面や生活面に関してみなさんの相談に乗ってくれます。後期はより専門的な知識をもった先輩が研究面においてサポートしてくれます。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『さんしゃハンドブック(入門編)』など。	///

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

基礎演習I 14

12154

担当者名 / Instructor 仲間 裕子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生が協働して学んでいく演習スタイルの科目です。この科目では今後4年間大学で研究を行っていく上で、最低限必要とされる知識と技術を習得していきます。具体的にはクラスのなかでさらにグループ分けを行い、そのグループごとに研究調査を行い、その成果を発表・討論を実施します

到達目標 / Attainment Objectives

「与えられた問題」に正しい答えを出す高校までの勉強とは異なり、大学での研究ではまず自分自身で「問題(あるいはテーマ)を発見すること」から出発しなければなりません。基礎演習ではいかにして意味のある問題、取り組むべきテーマを発見するか、その問題・テーマに答えるべく、どのように文献調査やフィールドワークを行うか、そのスキルを身につけます。さらにそれらの調査研究の結果や成果を発表し、グループやゼミ全体で討論する際の技法の習得もめざします。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

学部から配布する『さんしゃハンドブック』を活用してください。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業の進め方やスケジュールについては各担当教員の指示に従ってください。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	開講回数の三分の二以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は平常点(グループ学習、発表、討論への参加)やレポート・小論文などによりますが、詳しい評価方法については担当教員が指示します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

前期では2回生、3回生の「エンター」と呼ばれる先輩が、大学での学修面や生活面に関してみなさんの相談に乗ってくれます。後期はより専門的な知識をもった先輩が研究面においてサポートしてくれます。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『さんしゃハンドブック(入門編)』など。	///

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

基礎演習I 15

12155

担当者名 / Instructor 福岡 良明

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生が協働して学んでいく演習スタイルの科目です。この科目では今後4年間大学で研究を行っていく上で、最低限必要とされる知識と技術を習得していきます。具体的にはクラスのなかでさらにグループ分けを行い、そのグループごとに研究調査を行い、その成果を発表・討論を実施します

到達目標 / Attainment Objectives

「与えられた問題」に正しい答えを出す高校までの勉強とは異なり、大学での研究ではまず自分自身で「問題(あるいはテーマ)を発見すること」から出発しなければなりません。基礎演習ではいかにして意味のある問題、取り組むべきテーマを発見するか、その問題・テーマに答えるべく、どのように文献調査やフィールドワークを行うか、そのスキルを身につけます。さらにそれらの調査研究の結果や成果を発表し、グループやゼミ全体で討論する際の技法の習得もめざします。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

学部から配布する『さんしゃハンドブック』を活用してください。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業の進め方やスケジュールについては各担当教員の指示に従ってください。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	開講回数の三分の二以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は平常点(グループ学習、発表、討論への参加)やレポート・小論文などによりますが、詳しい評価方法については担当教員が指示します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

前期では2回生、3回生の「エンター」と呼ばれる先輩が、大学での学修面や生活面に関してみなさんの相談に乗ってくれます。後期はより専門的な知識をもった先輩が研究面においてサポートしてくれます。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『さんしゃハンドブック(入門編)』など。	///

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

基礎演習I 16

12156

担当人名 / Instructor 瓜生 吉則

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生が協働して学んでいく演習スタイルの科目です。この科目では今後4年間大学で研究を行っていく上で、最低限必要とされる知識と技術を習得していきます。具体的にはクラスのなかでさらにグループ分けを行い、そのグループごとに研究調査を行い、その成果を発表・討論を実施します

到達目標 / Attainment Objectives

「与えられた問題」に正しい答えを出す高校までの勉強とは異なり、大学での研究ではまず自分自身で「問題(あるいはテーマ)を発見すること」から出発しなければなりません。基礎演習ではいかにして意味のある問題、取り組むべきテーマを発見するか、その問題・テーマに答えるべく、どのように文献調査やフィールドワークを行うか、そのスキルを身につけます。さらにそれらの調査研究の結果や成果を発表し、グループやゼミ全体で討論する際の技法の習得もめざします。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

学部から配布する『さんしゃハンドブック』を活用してください。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業の進め方やスケジュールについては各担当教員の指示に従ってください。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	開講回数の三分の二以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は平常点(グループ学習、発表、討論への参加)やレポート・小論文などによりますが、詳しい評価方法については担当教員が指示します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

前期では2回生、3回生の「エンター」と呼ばれる先輩が、大学での学修面や生活面に関してみなさんの相談に乗ってくれます。後期はより専門的な知識をもった先輩が研究面においてサポートしてくれます。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『さんしゃハンドブック(入門編)』など。	///

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

基礎演習I 17

12157

担当者名 / Instructor 佐々木 嬉代三

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生が協働して学んでいく演習スタイルの科目です。この科目では今後4年間大学で研究を行っていく上で、最低限必要とされる知識と技術を習得していきます。具体的にはクラスのなかでさらにグループ分けを行い、そのグループごとに研究調査を行い、その成果を発表・討論を実施します

到達目標 / Attainment Objectives

「与えられた問題」に正しい答えを出す高校までの勉強とは異なり、大学での研究ではまず自分自身で「問題(あるいはテーマ)を発見すること」から出発しなければなりません。基礎演習ではいかにして意味のある問題、取り組むべきテーマを発見するか、その問題・テーマに答えるべく、どのように文献調査やフィールドワークを行うか、そのスキルを身につけます。さらにそれらの調査研究の結果や成果を発表し、グループやゼミ全体で討論する際の技法の習得もめざします。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

学部から配布する『さんしゃハンドブック』を活用してください。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業の進め方やスケジュールについては各担当教員の指示に従ってください。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	開講回数の三分の二以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は平常点(グループ学習、発表、討論への参加)やレポート・小論文などによりますが、詳しい評価方法については担当教員が指示します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

前期では2回生、3回生の「エンター」と呼ばれる先輩が、大学での学修面や生活面に関してみなさんの相談に乗ってくれます。後期はより専門的な知識をもった先輩が研究面においてサポートしてくれます。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『さんしゃハンドブック(入門編)』など。	///

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

基礎演習I 18

12158

担当者名 / Instructor 遠藤 保子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生が協働して学んでいく演習スタイルの科目です。この科目では今後4年間大学で研究を行っていく上で、最低限必要とされる知識と技術を習得していきます。具体的にはクラスのなかでさらにグループ分けを行い、そのグループごとに研究調査を行い、その成果を発表・討論を実施します

到達目標 / Attainment Objectives

「与えられた問題」に正しい答えを出す高校までの勉強とは異なり、大学での研究ではまず自分自身で「問題(あるいはテーマ)を発見すること」から出発しなければなりません。基礎演習ではいかにして意味のある問題、取り組むべきテーマを発見するか、その問題・テーマに答えるべく、どのように文献調査やフィールドワークを行うか、そのスキルを身につけます。さらにそれらの調査研究の結果や成果を発表し、グループやゼミ全体で討論する際の技法の習得もめざします。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

学部から配布する『さんしゃハンドブック』を活用してください。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業の進め方やスケジュールについては各担当教員の指示に従ってください。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	開講回数の三分の二以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は平常点(グループ学習、発表、討論への参加)やレポート・小論文などによりますが、詳しい評価方法については担当教員が指示します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

前期では2回生、3回生の「エンター」と呼ばれる先輩が、大学での学修面や生活面に関してみなさんの相談に乗ってくれます。後期はより専門的な知識をもった先輩が研究面においてサポートしてくれます。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『さんしゃハンドブック(入門編)』など。	///

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

基礎演習I 19

12168

担当者名 / Instructor 山下 高行

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生が協働して学んでいく演習スタイルの科目です。この科目では今後4年間大学で研究を行っていく上で、最低限必要とされる知識と技術を習得していきます。具体的にはクラスのなかでさらにグループ分けを行い、そのグループごとに研究調査を行い、その成果を発表・討論を実施します

到達目標 / Attainment Objectives

「与えられた問題」に正しい答えを出す高校までの勉強とは異なり、大学での研究ではまず自分自身で「問題(あるいはテーマ)を発見すること」から出発しなければなりません。基礎演習ではいかにして意味のある問題、取り組むべきテーマを発見するか、その問題・テーマに答えるべく、どのように文献調査やフィールドワークを行うか、そのスキルを身につけます。さらにそれらの調査研究の結果や成果を発表し、グループやゼミ全体で討論する際の技法の習得もめざします。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

学部から配布する『さんしゃハンドブック』を活用してください。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業の進め方やスケジュールについては各担当教員の指示に従ってください。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	開講回数の三分の二以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は平常点(グループ学習、発表、討論への参加)やレポート・小論文などによりますが、詳しい評価方法については担当教員が指示します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

前期では2回生、3回生の「エンター」と呼ばれる先輩が、大学での学修面や生活面に関してみなさんの相談に乗ってくれます。後期はより専門的な知識をもった先輩が研究面においてサポートしてくれます。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『さんしゃハンドブック(入門編)』など。	///

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

基礎演習I 20

12159

担当者名 / Instructor 権 学俊

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生が協働して学んでいく演習スタイルの科目です。この科目では今後4年間大学で研究を行っていく上で、最低限必要とされる知識と技術を習得していきます。具体的にはクラスのなかでさらにグループ分けを行い、そのグループごとに研究調査を行い、その成果を発表・討論を実施します

到達目標 / Attainment Objectives

「与えられた問題」に正しい答えを出す高校までの勉強とは異なり、大学での研究ではまず自分自身で「問題(あるいはテーマ)を発見すること」から出発しなければなりません。基礎演習ではいかにして意味のある問題、取り組むべきテーマを発見するか、その問題・テーマに答えるべく、どのように文献調査やフィールドワークを行うか、そのスキルを身につけます。さらにそれらの調査研究の結果や成果を発表し、グループやゼミ全体で討論する際の技法の習得もめざします。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

学部から配布する『さんしゃハンドブック』を活用してください。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業の進め方やスケジュールについては各担当教員の指示に従ってください。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	開講回数の三分の二以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は平常点(グループ学習、発表、討論への参加)やレポート・小論文などによりますが、詳しい評価方法については担当教員が指示します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

前期では2回生、3回生の「エンター」と呼ばれる先輩が、大学での学修面や生活面に関してみなさんの相談に乗ってくれます。後期はより専門的な知識をもった先輩が研究面においてサポートしてくれます。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『さんしゃハンドブック(入門編)』など。	///

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

基礎演習I 21

12160

担当者名 / Instructor 漆原 良

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生が協働して学んでいく演習スタイルの科目です。この科目では今後4年間大学で研究を行っていく上で、最低限必要とされる知識と技術を習得していきます。具体的にはクラスのなかでさらにグループ分けを行い、そのグループごとに研究調査を行い、その成果を発表・討論を実施します

到達目標 / Attainment Objectives

「与えられた問題」に正しい答えを出す高校までの勉強とは異なり、大学での研究ではまず自分自身で「問題(あるいはテーマ)を発見すること」から出発しなければなりません。基礎演習ではいかにして意味のある問題、取り組むべきテーマを発見するか、その問題・テーマに答えるべく、どのように文献調査やフィールドワークを行うか、そのスキルを身につけます。さらにそれらの調査研究の結果や成果を発表し、グループやゼミ全体で討論する際の技法の習得もめざします。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

学部から配布する『さんしゃハンドブック』を活用してください。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業の進め方やスケジュールについては各担当教員の指示に従ってください。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	開講回数の三分の二以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は平常点(グループ学習、発表、討論への参加)やレポート・小論文などによりますが、詳しい評価方法については担当教員が指示します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

前期では2回生、3回生の「エンター」と呼ばれる先輩が、大学での学修面や生活面に関してみなさんの相談に乗ってくれます。後期はより専門的な知識をもった先輩が研究面においてサポートしてくれます。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『さんしゃハンドブック(入門編)』など。	///

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

基礎演習I 22

12161

担当者名 / Instructor 大谷 いづみ

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生が協働して学んでいく演習スタイルの科目です。この科目では今後4年間大学で研究を行っていく上で、最低限必要とされる知識と技術を習得していきます。具体的にはクラスのなかでさらにグループ分けを行い、そのグループごとに研究調査を行い、その成果を発表・討論を実施します

到達目標 / Attainment Objectives

「与えられた問題」に正しい答えを出す高校までの勉強とは異なり、大学での研究ではまず自分自身で「問題(あるいはテーマ)を発見すること」から出発しなければなりません。基礎演習ではいかにして意味のある問題、取り組むべきテーマを発見するか、その問題・テーマに答えるべく、どのように文献調査やフィールドワークを行うか、そのスキルを身につけます。さらにそれらの調査研究の結果や成果を発表し、グループやゼミ全体で討論する際の技法の習得もめざします。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

学部から配布する『さんしゃハンドブック』を活用してください。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業の進め方やスケジュールについては各担当教員の指示に従ってください。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	開講回数の三分の二以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は平常点(グループ学習、発表、討論への参加)やレポート・小論文などによりますが、詳しい評価方法については担当教員が指示します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

前期では2回生、3回生の「エンター」と呼ばれる先輩が、大学での学修面や生活面に関してみなさんの相談に乗ってくれます。後期はより専門的な知識をもった先輩が研究面においてサポートしてくれます。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『さんしゃハンドブック(入門編)』など。	///

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

基礎演習I 23

12162

担当者名 / Instructor 野田 正人

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生が協働して学んでいく演習スタイルの科目です。この科目では今後4年間大学で研究を行っていく上で、最低限必要とされる知識と技術を習得していきます。具体的にはクラスのなかでさらにグループ分けを行い、そのグループごとに研究調査を行い、その成果を発表・討論を実施します

到達目標 / Attainment Objectives

「与えられた問題」に正しい答えを出す高校までの勉強とは異なり、大学での研究ではまず自分自身で「問題(あるいはテーマ)を発見すること」から出発しなければなりません。基礎演習ではいかにして意味のある問題、取り組むべきテーマを発見するか、その問題・テーマに答えるべく、どのように文献調査やフィールドワークを行うか、そのスキルを身につけます。さらにそれらの調査研究の結果や成果を発表し、グループやゼミ全体で討論する際の技法の習得もめざします。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

学部から配布する『さんしゃハンドブック』を活用してください。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業の進め方やスケジュールについては各担当教員の指示に従ってください。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	開講回数の三分の二以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は平常点(グループ学習、発表、討論への参加)やレポート・小論文などによりますが、詳しい評価方法については担当教員が指示します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

前期では2回生、3回生の「エンター」と呼ばれる先輩が、大学での学修面や生活面に関してみなさんの相談に乗ってくれます。後期はより専門的な知識をもった先輩が研究面においてサポートしてくれます。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『さんしゃハンドブック(入門編)』など。	///

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

基礎演習I 24

12140

担当者名 / Instructor 竹内 謙彰

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生が協働して学んでいく演習スタイルの科目です。この科目では今後4年間大学で研究を行っていく上で、最低限必要とされる知識と技術を習得していきます。具体的にはクラスのなかでさらにグループ分けを行い、そのグループごとに研究調査を行い、その成果を発表・討論を実施します

到達目標 / Attainment Objectives

「与えられた問題」に正しい答えを出す高校までの勉強とは異なり、大学での研究ではまず自分自身で「問題(あるいはテーマ)を発見すること」から出発しなければなりません。基礎演習ではいかにして意味のある問題、取り組むべきテーマを発見するか、その問題・テーマに答えるべく、どのように文献調査やフィールドワークを行うか、そのスキルを身につけます。さらにそれらの調査研究の結果や成果を発表し、グループやゼミ全体で討論する際の技法の習得もめざします。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

学部から配布する『さんしゃハンドブック』を活用してください。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業の進め方やスケジュールについては各担当教員の指示に従ってください。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	開講回数のおよそ二以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は平常点(グループ学習、発表、討論への参加)やレポート・小論文などによりますが、詳しい評価方法については担当教員が指示します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

前期では2回生、3回生の「エンター」と呼ばれる先輩が、大学での学修面や生活面に関してみなさんの相談に乗ってくれます。後期はより専門的な知識をもった先輩が研究面においてサポートしてくれます。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『さんしゃハンドブック(入門編)』など。	///

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

基礎演習I 25

12163

担当者名 / Instructor 芝田 英昭

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生が協働して学んでいく演習スタイルの科目です。この科目では今後4年間大学で研究を行っていく上で、最低限必要とされる知識と技術を習得していきます。具体的にはクラスのなかでさらにグループ分けを行い、そのグループごとに研究調査を行い、その成果を発表・討論を実施します

到達目標 / Attainment Objectives

「与えられた問題」に正しい答えを出す高校までの勉強とは異なり、大学での研究ではまず自分自身で「問題(あるいはテーマ)を発見すること」から出発しなければなりません。基礎演習ではいかにして意味のある問題、取り組むべきテーマを発見するか、その問題・テーマに答えるべく、どのように文献調査やフィールドワークを行うか、そのスキルを身につけます。さらにそれらの調査研究の結果や成果を発表し、グループやゼミ全体で討論する際の技法の習得もめざします。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

学部から配布する『さんしゃハンドブック』を活用してください。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業の進め方やスケジュールについては各担当教員の指示に従ってください。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	開講回数の三分の二以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は平常点(グループ学習、発表、討論への参加)やレポート・小論文などによりますが、詳しい評価方法については担当教員が指示します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

前期では2回生、3回生の「エンター」と呼ばれる先輩が、大学での学修面や生活面に関してみなさんの相談に乗ってくれます。後期はより専門的な知識をもった先輩が研究面においてサポートしてくれます。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『さんしゃハンドブック(入門編)』など。	///

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

基礎演習I 26

12164

担当者名 / Instructor 石倉 康次

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生が協働して学んでいく演習スタイルの科目です。この科目では今後4年間大学で研究を行っていく上で、最低限必要とされる知識と技術を習得していきます。具体的にはクラスのなかでさらにグループ分けを行い、そのグループごとに研究調査を行い、その成果を発表・討論を実施します

到達目標 / Attainment Objectives

「与えられた問題」に正しい答えを出す高校までの勉強とは異なり、大学での研究ではまず自分自身で「問題(あるいはテーマ)を発見すること」から出発しなければなりません。基礎演習ではいかにして意味のある問題、取り組むべきテーマを発見するか、その問題・テーマに答えるべく、どのように文献調査やフィールドワークを行うか、そのスキルを身につけます。さらにそれらの調査研究の結果や成果を発表し、グループやゼミ全体で討論する際の技法の習得もめざします。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

学部から配布する『さんしゃハンドブック』を活用してください。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業の進め方やスケジュールについては各担当教員の指示に従ってください。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	開講回数の三分の二以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は平常点(グループ学習、発表、討論への参加)やレポート・小論文などによりますが、詳しい評価方法については担当教員が指示します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

前期では2回生、3回生の「エンター」と呼ばれる先輩が、大学での学修面や生活面に関してみなさんの相談に乗ってくれます。後期はより専門的な知識をもった先輩が研究面においてサポートしてくれます。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『さんしゃハンドブック(入門編)』など。	///

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

基礎演習I 27

12165

担当者名 / Instructor 秋葉 武

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生が協働して学んでいく演習スタイルの科目です。この科目では今後4年間大学で研究を行っていく上で、最低限必要とされる知識と技術を習得していきます。具体的にはクラスのなかでさらにグループ分けを行い、そのグループごとに研究調査を行い、その成果を発表・討論を実施します

到達目標 / Attainment Objectives

「与えられた問題」に正しい答えを出す高校までの勉強とは異なり、大学での研究ではまず自分自身で「問題(あるいはテーマ)を発見すること」から出発しなければなりません。基礎演習ではいかにして意味のある問題、取り組むべきテーマを発見するか、その問題・テーマに答えるべく、どのように文献調査やフィールドワークを行うか、そのスキルを身につけます。さらにそれらの調査研究の結果や成果を発表し、グループやゼミ全体で討論する際の技法の習得もめざします。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

学部から配布する『さんしゃハンドブック』を活用してください。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業の進め方やスケジュールについては各担当教員の指示に従ってください。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	開講回数の三分の二以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は平常点(グループ学習、発表、討論への参加)やレポート・小論文などによりますが、詳しい評価方法については担当教員が指示します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

前期では2回生、3回生の「エンター」と呼ばれる先輩が、大学での学修面や生活面に関してみなさんの相談に乗ってくれます。後期はより専門的な知識をもった先輩が研究面においてサポートしてくれます。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『さんしゃハンドブック(入門編)』など。	///

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

基礎演習I 28

12167

担当者名 / Instructor 櫻谷 真理子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生が協働して学んでいく演習スタイルの科目です。この科目では今後4年間大学で研究を行っていく上で、最低限必要とされる知識と技術を習得していきます。具体的にはクラスのなかでさらにグループ分けを行い、そのグループごとに研究調査を行い、その成果を発表・討論を実施します

到達目標 / Attainment Objectives

「与えられた問題」に正しい答えを出す高校までの勉強とは異なり、大学での研究ではまず自分自身で「問題(あるいはテーマ)を発見すること」から出発しなければなりません。基礎演習ではいかにして意味のある問題、取り組むべきテーマを発見するか、その問題・テーマに答えるべく、どのように文献調査やフィールドワークを行うか、そのスキルを身につけます。さらにそれらの調査研究の結果や成果を発表し、グループやゼミ全体で討論する際の技法の習得もめざします。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

学部から配布する『さんしゃハンドブック』を活用してください。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業の進め方やスケジュールについては各担当教員の指示に従ってください。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	開講回数の三分の二以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は平常点(グループ学習、発表、討論への参加)やレポート・小論文などによりますが、詳しい評価方法については担当教員が指示します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

前期では2回生、3回生の「エンター」と呼ばれる先輩が、大学での学修面や生活面に関してみなさんの相談に乗ってくれます。後期はより専門的な知識をもった先輩が研究面においてサポートしてくれます。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『さんしゃハンドブック(入門編)』など。	///

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

基礎演習I 29

12166

担当者名 / Instructor 山本 耕平

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生が協働して学んでいく演習スタイルの科目です。この科目では今後4年間大学で研究を行っていく上で、最低限必要とされる知識と技術を習得していきます。具体的にはクラスのなかでさらにグループ分けを行い、そのグループごとに研究調査を行い、その成果を発表・討論を実施します

到達目標 / Attainment Objectives

「与えられた問題」に正しい答えを出す高校までの勉強とは異なり、大学での研究ではまず自分自身で「問題(あるいはテーマ)を発見すること」から出発しなければなりません。基礎演習ではいかにして意味のある問題、取り組むべきテーマを発見するか、その問題・テーマに答えるべく、どのように文献調査やフィールドワークを行うか、そのスキルを身につけます。さらにそれらの調査研究の結果や成果を発表し、グループやゼミ全体で討論する際の技法の習得もめざします。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

学部から配布する『さんしゃハンドブック』を活用してください。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業の進め方やスケジュールについては各担当教員の指示に従ってください。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	開講回数の三分の二以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は平常点(グループ学習、発表、討論への参加)やレポート・小論文などによりますが、詳しい評価方法については担当教員が指示します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

前期では2回生、3回生の「エンター」と呼ばれる先輩が、大学での学修面や生活面に関してみなさんの相談に乗ってくれます。後期はより専門的な知識をもった先輩が研究面においてサポートしてくれます。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『さんしゃハンドブック(入門編)』など。	///

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

基礎演習I 30

12169

担当者名 / Instructor 高垣 忠一郎

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生が協働して学んでいく演習スタイルの科目です。この科目では今後4年間大学で研究を行っていく上で、最低限必要とされる知識と技術を習得していきます。具体的にはクラスのなかでさらにグループ分けを行い、そのグループごとに研究調査を行い、その成果を発表・討論を実施します

到達目標 / Attainment Objectives

「与えられた問題」に正しい答えを出す高校までの勉強とは異なり、大学での研究ではまず自分自身で「問題(あるいはテーマ)を発見すること」から出発しなければなりません。基礎演習ではいかにして意味のある問題、取り組むべきテーマを発見するか、その問題・テーマに答えるべく、どのように文献調査やフィールドワークを行うか、そのスキルを身につけます。さらにそれらの調査研究の結果や成果を発表し、グループやゼミ全体で討論する際の技法の習得もめざします。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

学部から配布する『さんしゃハンドブック』を活用してください。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業の進め方やスケジュールについては各担当教員の指示に従ってください。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	開講回数の三分の二以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は平常点(グループ学習、発表、討論への参加)やレポート・小論文などによりますが、詳しい評価方法については担当教員が指示します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

前期では2回生、3回生の「エンター」と呼ばれる先輩が、大学での学修面や生活面に関してみなさんの相談に乗ってくれます。後期はより専門的な知識をもった先輩が研究面においてサポートしてくれます。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『さんしゃハンドブック(入門編)』など。	///

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

基礎演習Ⅱ 1

12220

担当者名 / Instructor 門田 幸太郎

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生が協働して学んでいく演習スタイルの科目です。この科目では今後4年間大学で研究を行っていく上で、最低限必要とされる知識と技術を習得していきます。具体的にはクラスのなかでさらにグループ分けを行い、そのグループごとに研究調査を行い、その成果を発表・討論を実施します

到達目標 / Attainment Objectives

「与えられた問題」に正しい答えを出す高校までの勉強とは異なり、大学での研究ではまず自分自身で「問題(あるいはテーマ)を発見すること」から出発しなければなりません。基礎演習ではいかにして意味のある問題、取り組むべきテーマを発見するか、その問題・テーマに答えるべく、どのように文献調査やフィールドワークを行うか、そのスキルを身につけます。さらにそれらの調査研究の結果や成果を発表し、グループやゼミ全体で討論する際の技法の習得もめざします。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

学部から配布する『さんしゃハンドブック』を活用してください。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業の進め方やスケジュールについては各担当教員の指示に従ってください。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	開講回数のおよそ二以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は平常点(グループ学習、発表、討論への参加)やレポート・小論文などによりますが、詳しい評価方法については担当教員が指示します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

前期では2回生、3回生の「エンター」と呼ばれる先輩が、大学での学修面や生活面に関してみなさんの相談に乗ってくれます。後期はより専門的な知識をもった先輩が研究面においてサポートしてくれます。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『さんしゃハンドブック(入門編)』など。	///

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

基礎演習II 2

12221

担当者名 / Instructor 深澤 敦

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生が協働して学んでいく演習スタイルの科目です。この科目では今後4年間大学で研究を行っていく上で、最低限必要とされる知識と技術を習得していきます。具体的にはクラスのなかでさらにグループ分けを行い、そのグループごとに研究調査を行い、その成果を発表・討論を実施します

到達目標 / Attainment Objectives

「与えられた問題」に正しい答えを出す高校までの勉強とは異なり、大学での研究ではまず自分自身で「問題(あるいはテーマ)を発見すること」から出発しなければなりません。基礎演習ではいかにして意味のある問題、取り組むべきテーマを発見するか、その問題・テーマに答えるべく、どのように文献調査やフィールドワークを行うか、そのスキルを身につけます。さらにそれらの調査研究の結果や成果を発表し、グループやゼミ全体で討論する際の技法の習得もめざします。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

学部から配布する『さんしゃハンドブック』を活用してください。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業の進め方やスケジュールについては各担当教員の指示に従ってください。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	開講回数の三分の二以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は平常点(グループ学習、発表、討論への参加)やレポート・小論文などによりますが、詳しい評価方法については担当教員が指示します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

前期では2回生、3回生の「エンター」と呼ばれる先輩が、大学での学修面や生活面に関してみなさんの相談に乗ってくれます。後期はより専門的な知識をもった先輩が研究面においてサポートしてくれます。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『さんしゃハンドブック(入門編)』など。	///

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

基礎演習II 3

12222

担当者名 / Instructor 高嶋 正晴

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生が協働して学んでいく演習スタイルの科目です。この科目では今後4年間大学で研究を行っていく上で、最低限必要とされる知識と技術を習得していきます。具体的にはクラスのなかでさらにグループ分けを行い、そのグループごとに研究調査を行い、その成果を発表・討論を実施します

到達目標 / Attainment Objectives

「与えられた問題」に正しい答えを出す高校までの勉強とは異なり、大学での研究ではまず自分自身で「問題(あるいはテーマ)を発見すること」から出発しなければなりません。基礎演習ではいかにして意味のある問題、取り組むべきテーマを発見するか、その問題・テーマに答えるべく、どのように文献調査やフィールドワークを行うか、そのスキルを身につけます。さらにそれらの調査研究の結果や成果を発表し、グループやゼミ全体で討論する際の技法の習得もめざします。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

学部から配布する『さんしゃハンドブック』を活用してください。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業の進め方やスケジュールについては各担当教員の指示に従ってください。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	開講回数の三分の二以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は平常点(グループ学習、発表、討論への参加)やレポート・小論文などによりますが、詳しい評価方法については担当教員が指示します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

前期では2回生、3回生の「エンター」と呼ばれる先輩が、大学での学修面や生活面に関してみなさんの相談に乗ってくれます。後期はより専門的な知識をもった先輩が研究面においてサポートしてくれます。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『さんしゃハンドブック(入門編)』など。	///

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

基礎演習II 4

12223

担当者名 / Instructor 杉本 通百則

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生が協働して学んでいく演習スタイルの科目です。この科目では今後4年間大学で研究を行っていく上で、最低限必要とされる知識と技術を習得していきます。具体的にはクラスのなかでさらにグループ分けを行い、そのグループごとに研究調査を行い、その成果を発表・討論を実施します

到達目標 / Attainment Objectives

「与えられた問題」に正しい答えを出す高校までの勉強とは異なり、大学での研究ではまず自分自身で「問題(あるいはテーマ)を発見すること」から出発しなければなりません。基礎演習ではいかにして意味のある問題、取り組むべきテーマを発見するか、その問題・テーマに答えるべく、どのように文献調査やフィールドワークを行うか、そのスキルを身につけます。さらにそれらの調査研究の結果や成果を発表し、グループやゼミ全体で討論する際の技法の習得もめざします。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

学部から配布する『さんしゃハンドブック』を活用してください。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業の進め方やスケジュールについては各担当教員の指示に従ってください。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	開講回数の三分の二以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は平常点(グループ学習、発表、討論への参加)やレポート・小論文などによりますが、詳しい評価方法については担当教員が指示します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

前期では2回生、3回生の「エンター」と呼ばれる先輩が、大学での学修面や生活面に関してみなさんの相談に乗ってくれます。後期はより専門的な知識をもった先輩が研究面においてサポートしてくれます。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『さんしゃハンドブック(入門編)』など。	///

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

基礎演習II 5

12224

担当者名 / Instructor 竹濱 朝美

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生が協働して学んでいく演習スタイルの科目です。この科目では今後4年間大学で研究を行っていく上で、最低限必要とされる知識と技術を習得していきます。具体的にはクラスのなかでさらにグループ分けを行い、そのグループごとに研究調査を行い、その成果を発表・討論を実施します

到達目標 / Attainment Objectives

「与えられた問題」に正しい答えを出す高校までの勉強とは異なり、大学での研究ではまず自分自身で「問題(あるいはテーマ)を発見すること」から出発しなければなりません。基礎演習ではいかにして意味のある問題、取り組むべきテーマを発見するか、その問題・テーマに答えるべく、どのように文献調査やフィールドワークを行うか、そのスキルを身につけます。さらにそれらの調査研究の結果や成果を発表し、グループやゼミ全体で討論する際の技法の習得もめざします。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

学部から配布する『さんしゃハンドブック』を活用してください。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業の進め方やスケジュールについては各担当教員の指示に従ってください。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	開講回数の三分の二以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は平常点(グループ学習、発表、討論への参加)やレポート・小論文などによりますが、詳しい評価方法については担当教員が指示します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

前期では2回生、3回生の「エンター」と呼ばれる先輩が、大学での学修面や生活面に関してみなさんの相談に乗ってくれます。後期はより専門的な知識をもった先輩が研究面においてサポートしてくれます。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『さんしゃハンドブック(入門編)』など。	///

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

基礎演習II 6

12225

担当者名 / Instructor 木田 融男

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生が協働して学んでいく演習スタイルの科目です。この科目では今後4年間大学で研究を行っていく上で、最低限必要とされる知識と技術を習得していきます。具体的にはクラスのなかでさらにグループ分けを行い、そのグループごとに研究調査を行い、その成果を発表・討論を実施します

到達目標 / Attainment Objectives

「与えられた問題」に正しい答えを出す高校までの勉強とは異なり、大学での研究ではまず自分自身で「問題(あるいはテーマ)を発見すること」から出発しなければなりません。基礎演習ではいかにして意味のある問題、取り組むべきテーマを発見するか、その問題・テーマに答えるべく、どのように文献調査やフィールドワークを行うか、そのスキルを身につけます。さらにそれらの調査研究の結果や成果を発表し、グループやゼミ全体で討論する際の技法の習得もめざします。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

学部から配布する『さんしゃハンドブック』を活用してください。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業の進め方やスケジュールについては各担当教員の指示に従ってください。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	開講回数の三分の二以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は平常点(グループ学習、発表、討論への参加)やレポート・小論文などによりますが、詳しい評価方法については担当教員が指示します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

前期では2回生、3回生の「エンター」と呼ばれる先輩が、大学での学修面や生活面に関してみなさんの相談に乗ってくれます。後期はより専門的な知識をもった先輩が研究面においてサポートしてくれます。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『さんしゃハンドブック(入門編)』など。	///

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

基礎演習Ⅱ 7

12226

担当者名 / Instructor 山口 歩

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生が協働して学んでいく演習スタイルの科目です。この科目では今後4年間大学で研究を行っていく上で、最低限必要とされる知識と技術を習得していきます。具体的にはクラスのなかでさらにグループ分けを行い、そのグループごとに研究調査を行い、その成果を発表・討論を実施します

到達目標 / Attainment Objectives

「与えられた問題」に正しい答えを出す高校までの勉強とは異なり、大学での研究ではまず自分自身で「問題(あるいはテーマ)を発見すること」から出発しなければなりません。基礎演習ではいかにして意味のある問題、取り組むべきテーマを発見するか、その問題・テーマに答えるべく、どのように文献調査やフィールドワークを行うか、そのスキルを身につけます。さらにそれらの調査研究の結果や成果を発表し、グループやゼミ全体で討論する際の技法の習得もめざします。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

学部から配布する『さんしゃハンドブック』を活用してください。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業の進め方やスケジュールについては各担当教員の指示に従ってください。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	開講回数の三分の二以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は平常点(グループ学習、発表、討論への参加)やレポート・小論文などによりますが、詳しい評価方法については担当教員が指示します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

前期では2回生、3回生の「エンター」と呼ばれる先輩が、大学での学修面や生活面に関してみなさんの相談に乗ってくれます。後期はより専門的な知識をもった先輩が研究面においてサポートしてくれます。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『さんしゃハンドブック(入門編)』など。	///

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

基礎演習II 8

12227

担当者名 / Instructor 永橋 為介

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生が協働して学んでいく演習スタイルの科目です。この科目では今後4年間大学で研究を行っていく上で、最低限必要とされる知識と技術を習得していきます。具体的にはクラスのなかでさらにグループ分けを行い、そのグループごとに研究調査を行い、その成果を発表・討論を実施します

到達目標 / Attainment Objectives

「与えられた問題」に正しい答えを出す高校までの勉強とは異なり、大学での研究ではまず自分自身で「問題(あるいはテーマ)を発見すること」から出発しなければなりません。基礎演習ではいかにして意味のある問題、取り組むべきテーマを発見するか、その問題・テーマに答えるべく、どのように文献調査やフィールドワークを行うか、そのスキルを身につけます。さらにそれらの調査研究の結果や成果を発表し、グループやゼミ全体で討論する際の技法の習得もめざします。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

学部から配布する『さんしゃハンドブック』を活用してください。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業の進め方やスケジュールについては各担当教員の指示に従ってください。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	開講回数の三分の二以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は平常点(グループ学習、発表、討論への参加)やレポート・小論文などによりますが、詳しい評価方法については担当教員が指示します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

前期では2回生、3回生の「エンター」と呼ばれる先輩が、大学での学修面や生活面に関してみなさんの相談に乗ってくれます。後期はより専門的な知識をもった先輩が研究面においてサポートしてくれます。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『さんしゃハンドブック(入門編)』など。	///

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

基礎演習II 9

12228

担当者名 / Instructor 樋口 耕一

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生が協働して学んでいく演習スタイルの科目です。この科目では今後4年間大学で研究を行っていく上で、最低限必要とされる知識と技術を習得していきます。具体的にはクラスのなかでさらにグループ分けを行い、そのグループごとに研究調査を行い、その成果を発表・討論を実施します

到達目標 / Attainment Objectives

「与えられた問題」に正しい答えを出す高校までの勉強とは異なり、大学での研究ではまず自分自身で「問題(あるいはテーマ)を発見すること」から出発しなければなりません。基礎演習ではいかにして意味のある問題、取り組むべきテーマを発見するか、その問題・テーマに答えるべく、どのように文献調査やフィールドワークを行うか、そのスキルを身につけます。さらにそれらの調査研究の結果や成果を発表し、グループやゼミ全体で討論する際の技法の習得もめざします。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

学部から配布する『さんしゃハンドブック』を活用してください。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業の進め方やスケジュールについては各担当教員の指示に従ってください。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	開講回数の三分の二以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は平常点(グループ学習、発表、討論への参加)やレポート・小論文などによりますが、詳しい評価方法については担当教員が指示します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

前期では2回生、3回生の「エンター」と呼ばれる先輩が、大学での学修面や生活面に関してみなさんの相談に乗ってくれます。後期はより専門的な知識をもった先輩が研究面においてサポートしてくれます。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『さんしゃハンドブック(入門編)』など。	///

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

基礎演習II 10

12229

担当者名 / Instructor 小澤 亘

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生が協働して学んでいく演習スタイルの科目です。この科目では今後4年間大学で研究を行っていく上で、最低限必要とされる知識と技術を習得していきます。具体的にはクラスのなかでさらにグループ分けを行い、そのグループごとに研究調査を行い、その成果を発表・討論を実施します

到達目標 / Attainment Objectives

「与えられた問題」に正しい答えを出す高校までの勉強とは異なり、大学での研究ではまず自分自身で「問題(あるいはテーマ)を発見すること」から出発しなければなりません。基礎演習ではいかにして意味のある問題、取り組むべきテーマを発見するか、その問題・テーマに答えるべく、どのように文献調査やフィールドワークを行うか、そのスキルを身につけます。さらにそれらの調査研究の結果や成果を発表し、グループやゼミ全体で討論する際の技法の習得もめざします。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

学部から配布する『さんしゃハンドブック』を活用してください。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業の進め方やスケジュールについては各担当教員の指示に従ってください。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	開講回数の三分の二以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は平常点(グループ学習、発表、討論への参加)やレポート・小論文などによりますが、詳しい評価方法については担当教員が指示します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

前期では2回生、3回生の「エンター」と呼ばれる先輩が、大学での学修面や生活面に関してみなさんの相談に乗ってくれます。後期はより専門的な知識をもった先輩が研究面においてサポートしてくれます。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『さんしゃハンドブック(入門編)』など。	///

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

基礎演習II 11

12230

担当者名 / Instructor 赤井 正二

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生が協働して学んでいく演習スタイルの科目です。この科目では今後4年間大学で研究を行っていく上で、最低限必要とされる知識と技術を習得していきます。具体的にはクラスのなかでさらにグループ分けを行い、そのグループごとに研究調査を行い、その成果を発表・討論を実施します

到達目標 / Attainment Objectives

「与えられた問題」に正しい答えを出す高校までの勉強とは異なり、大学での研究ではまず自分自身で「問題(あるいはテーマ)を発見すること」から出発しなければなりません。基礎演習ではいかにして意味のある問題、取り組むべきテーマを発見するか、その問題・テーマに答えるべく、どのように文献調査やフィールドワークを行うか、そのスキルを身につけます。さらにそれらの調査研究の結果や成果を発表し、グループやゼミ全体で討論する際の技法の習得もめざします。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

学部から配布する『さんしゃハンドブック』を活用してください。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業の進め方やスケジュールについては各担当教員の指示に従ってください。	

 (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	開講回数の三分の二以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は平常点(グループ学習、発表、討論への参加)やレポート・小論文などによりますが、詳しい評価方法については担当教員が指示します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

前期では2回生、3回生の「エンター」と呼ばれる先輩が、大学での学修面や生活面に関してみなさんの相談に乗ってくれます。後期はより専門的な知識をもった先輩が研究面においてサポートしてくれます。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『さんしゃハンドブック(入門編)』など。	///

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

基礎演習II 12

12231

担当者名 / Instructor 小泉 秀昭

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生が協働して学んでいく演習スタイルの科目です。この科目では今後4年間大学で研究を行っていく上で、最低限必要とされる知識と技術を習得していきます。具体的にはクラスのなかでさらにグループ分けを行い、そのグループごとに研究調査を行い、その成果を発表・討論を実施します

到達目標 / Attainment Objectives

「与えられた問題」に正しい答えを出す高校までの勉強とは異なり、大学での研究ではまず自分自身で「問題(あるいはテーマ)を発見すること」から出発しなければなりません。基礎演習ではいかにして意味のある問題、取り組むべきテーマを発見するか、その問題・テーマに答えるべく、どのように文献調査やフィールドワークを行うか、そのスキルを身につけます。さらにそれらの調査研究の結果や成果を発表し、グループやゼミ全体で討論する際の技法の習得もめざします。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

学部から配布する『さんしゃハンドブック』を活用してください。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業の進め方やスケジュールについては各担当教員の指示に従ってください。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	開講回数の三分の二以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は平常点(グループ学習、発表、討論への参加)やレポート・小論文などによりますが、詳しい評価方法については担当教員が指示します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

前期では2回生、3回生の「エンター」と呼ばれる先輩が、大学での学修面や生活面に関してみなさんの相談に乗ってくれます。後期はより専門的な知識をもった先輩が研究面においてサポートしてくれます。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『さんしゃハンドブック(入門編)』など。	///

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

基礎演習II 13

12232

担当者名 / Instructor 浪田 陽子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生が協働して学んでいく演習スタイルの科目です。この科目では今後4年間大学で研究を行っていく上で、最低限必要とされる知識と技術を習得していきます。具体的にはクラスのなかでさらにグループ分けを行い、そのグループごとに研究調査を行い、その成果を発表・討論を実施します

到達目標 / Attainment Objectives

「与えられた問題」に正しい答えを出す高校までの勉強とは異なり、大学での研究ではまず自分自身で「問題(あるいはテーマ)を発見すること」から出発しなければなりません。基礎演習ではいかにして意味のある問題、取り組むべきテーマを発見するか、その問題・テーマに答えるべく、どのように文献調査やフィールドワークを行うか、そのスキルを身につけます。さらにそれらの調査研究の結果や成果を発表し、グループやゼミ全体で討論する際の技法の習得もめざします。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

学部から配布する『さんしゃハンドブック』を活用してください。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業の進め方やスケジュールについては各担当教員の指示に従ってください。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	開講回数の三分の二以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は平常点(グループ学習、発表、討論への参加)やレポート・小論文などによりますが、詳しい評価方法については担当教員が指示します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

前期では2回生、3回生の「エンター」と呼ばれる先輩が、大学での学修面や生活面に関してみなさんの相談に乗ってくれます。後期はより専門的な知識をもった先輩が研究面においてサポートしてくれます。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『さんしゃハンドブック(入門編)』など。	///

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

基礎演習II 14

12233

担当者名 / Instructor 仲間 裕子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生が協働して学んでいく演習スタイルの科目です。この科目では今後4年間大学で研究を行っていく上で、最低限必要とされる知識と技術を習得していきます。具体的にはクラスのなかでさらにグループ分けを行い、そのグループごとに研究調査を行い、その成果を発表・討論を実施します

到達目標 / Attainment Objectives

「与えられた問題」に正しい答えを出す高校までの勉強とは異なり、大学での研究ではまず自分自身で「問題(あるいはテーマ)を発見すること」から出発しなければなりません。基礎演習ではいかにして意味のある問題、取り組むべきテーマを発見するか、その問題・テーマに答えるべく、どのように文献調査やフィールドワークを行うか、そのスキルを身につけます。さらにそれらの調査研究の結果や成果を発表し、グループやゼミ全体で討論する際の技法の習得もめざします。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

学部から配布する『さんしゃハンドブック』を活用してください。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業の進め方やスケジュールについては各担当教員の指示に従ってください。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	開講回数の三分の二以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は平常点(グループ学習、発表、討論への参加)やレポート・小論文などによりますが、詳しい評価方法については担当教員が指示します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

前期では2回生、3回生の「エンター」と呼ばれる先輩が、大学での学修面や生活面に関してみなさんの相談に乗ってくれます。後期はより専門的な知識をもった先輩が研究面においてサポートしてくれます。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『さんしゃハンドブック(入門編)』など。	///

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

基礎演習II 15

12234

担当者名 / Instructor 福岡 良明

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生が協働して学んでいく演習スタイルの科目です。この科目では今後4年間大学で研究を行っていく上で、最低限必要とされる知識と技術を習得していきます。具体的にはクラスのなかでさらにグループ分けを行い、そのグループごとに研究調査を行い、その成果を発表・討論を実施します

到達目標 / Attainment Objectives

「与えられた問題」に正しい答えを出す高校までの勉強とは異なり、大学での研究ではまず自分自身で「問題(あるいはテーマ)を発見すること」から出発しなければなりません。基礎演習ではいかにして意味のある問題、取り組むべきテーマを発見するか、その問題・テーマに答えるべく、どのように文献調査やフィールドワークを行うか、そのスキルを身につけます。さらにそれらの調査研究の結果や成果を発表し、グループやゼミ全体で討論する際の技法の習得もめざします。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

学部から配布する『さんしゃハンドブック』を活用してください。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業の進め方やスケジュールについては各担当教員の指示に従ってください。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	開講回数の三分の二以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は平常点(グループ学習、発表、討論への参加)やレポート・小論文などによりますが、詳しい評価方法については担当教員が指示します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

前期では2回生、3回生の「エンター」と呼ばれる先輩が、大学での学修面や生活面に関してみなさんの相談に乗ってくれます。後期はより専門的な知識をもった先輩が研究面においてサポートしてくれます。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『さんしゃハンドブック(入門編)』など。	///

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

基礎演習II 16

12235

担当者名 / Instructor 瓜生 吉則

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生が協働して学んでいく演習スタイルの科目です。この科目では今後4年間大学で研究を行っていく上で、最低限必要とされる知識と技術を習得していきます。具体的にはクラスのなかでさらにグループ分けを行い、そのグループごとに研究調査を行い、その成果を発表・討論を実施します

到達目標 / Attainment Objectives

「与えられた問題」に正しい答えを出す高校までの勉強とは異なり、大学での研究ではまず自分自身で「問題(あるいはテーマ)を発見すること」から出発しなければなりません。基礎演習ではいかにして意味のある問題、取り組むべきテーマを発見するか、その問題・テーマに答えるべく、どのように文献調査やフィールドワークを行うか、そのスキルを身につけます。さらにそれらの調査研究の結果や成果を発表し、グループやゼミ全体で討論する際の技法の習得もめざします。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

学部から配布する『さんしゃハンドブック』を活用してください。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業の進め方やスケジュールについては各担当教員の指示に従ってください。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	開講回数の三分の二以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は平常点(グループ学習、発表、討論への参加)やレポート・小論文などによりますが、詳しい評価方法については担当教員が指示します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

前期では2回生、3回生の「エンター」と呼ばれる先輩が、大学での学修面や生活面に関してみなさんの相談に乗ってくれます。後期はより専門的な知識をもった先輩が研究面においてサポートしてくれます。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『さんしゃハンドブック(入門編)』など。	///

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

基礎演習II 17

12236

担当者名 / Instructor 佐々木 嬉代三

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生が協働して学んでいく演習スタイルの科目です。この科目では今後4年間大学で研究を行っていく上で、最低限必要とされる知識と技術を習得していきます。具体的にはクラスのなかでさらにグループ分けを行い、そのグループごとに研究調査を行い、その成果を発表・討論を実施します

到達目標 / Attainment Objectives

「与えられた問題」に正しい答えを出す高校までの勉強とは異なり、大学での研究ではまず自分自身で「問題(あるいはテーマ)を発見すること」から出発しなければなりません。基礎演習ではいかにして意味のある問題、取り組むべきテーマを発見するか、その問題・テーマに答えるべく、どのように文献調査やフィールドワークを行うか、そのスキルを身につけます。さらにそれらの調査研究の結果や成果を発表し、グループやゼミ全体で討論する際の技法の習得もめざします。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

学部から配布する『さんしゃハンドブック』を活用してください。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業の進め方やスケジュールについては各担当教員の指示に従ってください。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	開講回数の三分の二以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は平常点(グループ学習、発表、討論への参加)やレポート・小論文などによりますが、詳しい評価方法については担当教員が指示します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

前期では2回生、3回生の「エンター」と呼ばれる先輩が、大学での学修面や生活面に関してみなさんの相談に乗ってくれます。後期はより専門的な知識をもった先輩が研究面においてサポートしてくれます。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『さんしゃハンドブック(入門編)』など。	///

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

基礎演習II 18

12237

担当者名 / Instructor 遠藤 保子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生が協働して学んでいく演習スタイルの科目です。この科目では今後4年間大学で研究を行っていく上で、最低限必要とされる知識と技術を習得していきます。具体的にはクラスのなかでさらにグループ分けを行い、そのグループごとに研究調査を行い、その成果を発表・討論を実施します

到達目標 / Attainment Objectives

「与えられた問題」に正しい答えを出す高校までの勉強とは異なり、大学での研究ではまず自分自身で「問題(あるいはテーマ)を発見すること」から出発しなければなりません。基礎演習ではいかにして意味のある問題、取り組むべきテーマを発見するか、その問題・テーマに答えるべく、どのように文献調査やフィールドワークを行うか、そのスキルを身につけます。さらにそれらの調査研究の結果や成果を発表し、グループやゼミ全体で討論する際の技法の習得もめざします。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

学部から配布する『さんしゃハンドブック』を活用してください。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業の進め方やスケジュールについては各担当教員の指示に従ってください。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	開講回数の三分の二以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は平常点(グループ学習、発表、討論への参加)やレポート・小論文などによりますが、詳しい評価方法については担当教員が指示します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

前期では2回生、3回生の「エンター」と呼ばれる先輩が、大学での学修面や生活面に関してみなさんの相談に乗ってくれます。後期はより専門的な知識をもった先輩が研究面においてサポートしてくれます。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『さんしゃハンドブック(入門編)』など。	///

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

基礎演習II 19

12248

担当者名 / Instructor 山下 高行

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生が協働して学んでいく演習スタイルの科目です。この科目では今後4年間大学で研究を行っていく上で、最低限必要とされる知識と技術を習得していきます。具体的にはクラスのなかでさらにグループ分けを行い、そのグループごとに研究調査を行い、その成果を発表・討論を実施します

到達目標 / Attainment Objectives

「与えられた問題」に正しい答えを出す高校までの勉強とは異なり、大学での研究ではまず自分自身で「問題(あるいはテーマ)を発見すること」から出発しなければなりません。基礎演習ではいかにして意味のある問題、取り組むべきテーマを発見するか、その問題・テーマに答えるべく、どのように文献調査やフィールドワークを行うか、そのスキルを身につけます。さらにそれらの調査研究の結果や成果を発表し、グループやゼミ全体で討論する際の技法の習得もめざします。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

学部から配布する『さんしゃハンドブック』を活用してください。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業の進め方やスケジュールについては各担当教員の指示に従ってください。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	開講回数の三分の二以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は平常点(グループ学習、発表、討論への参加)やレポート・小論文などによりますが、詳しい評価方法については担当教員が指示します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

前期では2回生、3回生の「エンター」と呼ばれる先輩が、大学での学修面や生活面に関してみなさんの相談に乗ってくれます。後期はより専門的な知識をもった先輩が研究面においてサポートしてくれます。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『さんしゃハンドブック(入門編)』など。	///

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

基礎演習II 20

12238

担当者名 / Instructor 権 学俊

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生が協働して学んでいく演習スタイルの科目です。この科目では今後4年間大学で研究を行っていく上で、最低限必要とされる知識と技術を習得していきます。具体的にはクラスのなかでさらにグループ分けを行い、そのグループごとに研究調査を行い、その成果を発表・討論を実施します

到達目標 / Attainment Objectives

「与えられた問題」に正しい答えを出す高校までの勉強とは異なり、大学での研究ではまず自分自身で「問題(あるいはテーマ)を発見すること」から出発しなければなりません。基礎演習ではいかにして意味のある問題、取り組むべきテーマを発見するか、その問題・テーマに答えるべく、どのように文献調査やフィールドワークを行うか、そのスキルを身につけます。さらにそれらの調査研究の結果や成果を発表し、グループやゼミ全体で討論する際の技法の習得もめざします。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

学部から配布する『さんしゃハンドブック』を活用してください。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業の進め方やスケジュールについては各担当教員の指示に従ってください。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	開講回数の三分の二以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は平常点(グループ学習、発表、討論への参加)やレポート・小論文などによりますが、詳しい評価方法については担当教員が指示します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

前期では2回生、3回生の「エンター」と呼ばれる先輩が、大学での学修面や生活面に関してみなさんの相談に乗ってくれます。後期はより専門的な知識をもった先輩が研究面においてサポートしてくれます。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『さんしゃハンドブック(入門編)』など。	///

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

基礎演習II 21

12239

担当者名 / Instructor 漆原 良

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生が協働して学んでいく演習スタイルの科目です。この科目では今後4年間大学で研究を行っていく上で、最低限必要とされる知識と技術を習得していきます。具体的にはクラスのなかでさらにグループ分けを行い、そのグループごとに研究調査を行い、その成果を発表・討論を実施します

到達目標 / Attainment Objectives

「与えられた問題」に正しい答えを出す高校までの勉強とは異なり、大学での研究ではまず自分自身で「問題(あるいはテーマ)を発見すること」から出発しなければなりません。基礎演習ではいかにして意味のある問題、取り組むべきテーマを発見するか、その問題・テーマに答えるべく、どのように文献調査やフィールドワークを行うか、そのスキルを身につけます。さらにそれらの調査研究の結果や成果を発表し、グループやゼミ全体で討論する際の技法の習得もめざします。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

学部から配布する『さんしゃハンドブック』を活用してください。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業の進め方やスケジュールについては各担当教員の指示に従ってください。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	開講回数の三分の二以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は平常点(グループ学習、発表、討論への参加)やレポート・小論文などによりますが、詳しい評価方法については担当教員が指示します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

前期では2回生、3回生の「エンター」と呼ばれる先輩が、大学での学修面や生活面に関してみなさんの相談に乗ってくれます。後期はより専門的な知識をもった先輩が研究面においてサポートしてくれます。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『さんしゃハンドブック(入門編)』など。	///

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

基礎演習II 22

12240

担当者名 / Instructor 大谷 いづみ

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生が協働して学んでいく演習スタイルの科目です。この科目では今後4年間大学で研究を行っていく上で、最低限必要とされる知識と技術を習得していきます。具体的にはクラスのなかでさらにグループ分けを行い、そのグループごとに研究調査を行い、その成果を発表・討論を実施します

到達目標 / Attainment Objectives

「与えられた問題」に正しい答えを出さず高校までの勉強とは異なり、大学での研究ではまず自分自身で「問題(あるいはテーマ)を発見すること」から出発しなければなりません。基礎演習ではいかにして意味のある問題、取り組むべきテーマを発見するか、その問題・テーマに答えるべく、どのように文献調査やフィールドワークを行うか、そのスキルを身につけます。さらにそれらの調査研究の結果や成果を発表し、グループやゼミ全体で討論する際の技法の習得もめざします。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

学部から配布する『さんしゃハンドブック』を活用してください。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業の進め方やスケジュールについては各担当教員の指示に従ってください。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	開講回数の三分の二以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は平常点(グループ学習、発表、討論への参加)やレポート・小論文などによりますが、詳しい評価方法については担当教員が指示します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

前期では2回生、3回生の「エンター」と呼ばれる先輩が、大学での学修面や生活面に関してみなさんの相談に乗ってくれます。後期はより専門的な知識をもった先輩が研究面においてサポートしてくれます。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『さんしゃハンドブック(入門編)』など。	///

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

基礎演習II 23

12241

担当者名 / Instructor 野田 正人

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生が協働して学んでいく演習スタイルの科目です。この科目では今後4年間大学で研究を行っていく上で、最低限必要とされる知識と技術を習得していきます。具体的にはクラスのなかでさらにグループ分けを行い、そのグループごとに研究調査を行い、その成果を発表・討論を実施します

到達目標 / Attainment Objectives

「与えられた問題」に正しい答えを出す高校までの勉強とは異なり、大学での研究ではまず自分自身で「問題(あるいはテーマ)を発見すること」から出発しなければなりません。基礎演習ではいかにして意味のある問題、取り組むべきテーマを発見するか、その問題・テーマに答えるべく、どのように文献調査やフィールドワークを行うか、そのスキルを身につけます。さらにそれらの調査研究の結果や成果を発表し、グループやゼミ全体で討論する際の技法の習得もめざします。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

学部から配布する『さんしゃハンドブック』を活用してください。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業の進め方やスケジュールについては各担当教員の指示に従ってください。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	開講回数の三分の二以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は平常点(グループ学習、発表、討論への参加)やレポート・小論文などによりますが、詳しい評価方法については担当教員が指示します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

前期では2回生、3回生の「エンター」と呼ばれる先輩が、大学での学修面や生活面に関してみなさんの相談に乗ってくれます。後期はより専門的な知識をもった先輩が研究面においてサポートしてくれます。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『さんしゃハンドブック(入門編)』など。	///

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

基礎演習II 24

12242

担当者名 / Instructor 竹内 謙彰

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生が協働して学んでいく演習スタイルの科目です。この科目では今後4年間大学で研究を行っていく上で、最低限必要とされる知識と技術を習得していきます。具体的にはクラスのなかでさらにグループ分けを行い、そのグループごとに研究調査を行い、その成果を発表・討論を実施します

到達目標 / Attainment Objectives

「与えられた問題」に正しい答えを出す高校までの勉強とは異なり、大学での研究ではまず自分自身で「問題(あるいはテーマ)を発見すること」から出発しなければなりません。基礎演習ではいかにして意味のある問題、取り組むべきテーマを発見するか、その問題・テーマに答えるべく、どのように文献調査やフィールドワークを行うか、そのスキルを身につけます。さらにそれらの調査研究の結果や成果を発表し、グループやゼミ全体で討論する際の技法の習得もめざします。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

学部から配布する『さんしゃハンドブック』を活用してください。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業の進め方やスケジュールについては各担当教員の指示に従ってください。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	開講回数の三分の二以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は平常点(グループ学習、発表、討論への参加)やレポート・小論文などによりますが、詳しい評価方法については担当教員が指示します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

前期では2回生、3回生の「エンター」と呼ばれる先輩が、大学での学修面や生活面に関してみなさんの相談に乗ってくれます。後期はより専門的な知識をもった先輩が研究面においてサポートしてくれます。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『さんしゃハンドブック(入門編)』など。	///

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

基礎演習II 25

12243

担当者名 / Instructor 芝田 英昭

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生が協働して学んでいく演習スタイルの科目です。この科目では今後4年間大学で研究を行っていく上で、最低限必要とされる知識と技術を習得していきます。具体的にはクラスのなかでさらにグループ分けを行い、そのグループごとに研究調査を行い、その成果を発表・討論を実施します

到達目標 / Attainment Objectives

「与えられた問題」に正しい答えを出す高校までの勉強とは異なり、大学での研究ではまず自分自身で「問題(あるいはテーマ)を発見すること」から出発しなければなりません。基礎演習ではいかにして意味のある問題、取り組むべきテーマを発見するか、その問題・テーマに答えるべく、どのように文献調査やフィールドワークを行うか、そのスキルを身につけます。さらにそれらの調査研究の結果や成果を発表し、グループやゼミ全体で討論する際の技法の習得もめざします。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

学部から配布する『さんしゃハンドブック』を活用してください。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業の進め方やスケジュールについては各担当教員の指示に従ってください。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	開講回数のおよそ二以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は平常点(グループ学習、発表、討論への参加)やレポート・小論文などによりますが、詳しい評価方法については担当教員が指示します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

前期では2回生、3回生の「エンター」と呼ばれる先輩が、大学での学修面や生活面に関してみなさんの相談に乗ってくれます。後期はより専門的な知識をもった先輩が研究面においてサポートしてくれます。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『さんしゃハンドブック(入門編)』など。	///

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

基礎演習II 26

12244

担当者名 / Instructor 松田 亮三

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生が協働して学んでいく演習スタイルの科目です。この科目では今後4年間大学で研究を行っていく上で、最低限必要とされる知識と技術を習得していきます。具体的にはクラスのなかでさらにグループ分けを行い、そのグループごとに研究調査を行い、その成果を発表・討論を実施します

到達目標 / Attainment Objectives

「与えられた問題」に正しい答えを出す高校までの勉強とは異なり、大学での研究ではまず自分自身で「問題(あるいはテーマ)を発見すること」から出発しなければなりません。基礎演習ではいかにして意味のある問題、取り組むべきテーマを発見するか、その問題・テーマに答えるべく、どのように文献調査やフィールドワークを行うか、そのスキルを身につけます。さらにそれらの調査研究の結果や成果を発表し、グループやゼミ全体で討論する際の技法の習得もめざします。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

学部から配布する『さんしゃハンドブック』を活用してください。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業の進め方やスケジュールについては各担当教員の指示に従ってください。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	開講回数の三分の二以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は平常点(グループ学習、発表、討論への参加)やレポート・小論文などによりますが、詳しい評価方法については担当教員が指示します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

前期では2回生、3回生の「エンター」と呼ばれる先輩が、大学での学修面や生活面に関してみなさんの相談に乗ってくれます。後期はより専門的な知識をもった先輩が研究面においてサポートしてくれます。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『さんしゃハンドブック(入門編)』など。	///

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

基礎演習II 27

12245

担当者名 / Instructor 秋葉 武

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生が協働して学んでいく演習スタイルの科目です。この科目では今後4年間大学で研究を行っていく上で、最低限必要とされる知識と技術を習得していきます。具体的にはクラスのなかでさらにグループ分けを行い、そのグループごとに研究調査を行い、その成果を発表・討論を実施します

到達目標 / Attainment Objectives

「与えられた問題」に正しい答えを出す高校までの勉強とは異なり、大学での研究ではまず自分自身で「問題(あるいはテーマ)を発見すること」から出発しなければなりません。基礎演習ではいかにして意味のある問題、取り組むべきテーマを発見するか、その問題・テーマに答えるべく、どのように文献調査やフィールドワークを行うか、そのスキルを身につけます。さらにそれらの調査研究の結果や成果を発表し、グループやゼミ全体で討論する際の技法の習得もめざします。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

学部から配布する『さんしゃハンドブック』を活用してください。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業の進め方やスケジュールについては各担当教員の指示に従ってください。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	開講回数の三分の二以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は平常点(グループ学習、発表、討論への参加)やレポート・小論文などによりますが、詳しい評価方法については担当教員が指示します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

前期では2回生、3回生の「エンター」と呼ばれる先輩が、大学での学修面や生活面に関してみなさんの相談に乗ってくれます。後期はより専門的な知識をもった先輩が研究面においてサポートしてくれます。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『さんしゃハンドブック(入門編)』など。	///

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

基礎演習II 28

12247

担当者名 / Instructor 櫻谷 真理子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生が協働して学んでいく演習スタイルの科目です。この科目では今後4年間大学で研究を行っていく上で、最低限必要とされる知識と技術を習得していきます。具体的にはクラスのなかでさらにグループ分けを行い、そのグループごとに研究調査を行い、その成果を発表・討論を実施します

到達目標 / Attainment Objectives

「与えられた問題」に正しい答えを出す高校までの勉強とは異なり、大学での研究ではまず自分自身で「問題(あるいはテーマ)を発見すること」から出発しなければなりません。基礎演習ではいかにして意味のある問題、取り組むべきテーマを発見するか、その問題・テーマに答えるべく、どのように文献調査やフィールドワークを行うか、そのスキルを身につけます。さらにそれらの調査研究の結果や成果を発表し、グループやゼミ全体で討論する際の技法の習得もめざします。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

学部から配布する『さんしゃハンドブック』を活用してください。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業の進め方やスケジュールについては各担当教員の指示に従ってください。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	開講回数の三分の二以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は平常点(グループ学習、発表、討論への参加)やレポート・小論文などによりますが、詳しい評価方法については担当教員が指示します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

前期では2回生、3回生の「エンター」と呼ばれる先輩が、大学での学修面や生活面に関してみなさんの相談に乗ってくれます。後期はより専門的な知識をもった先輩が研究面においてサポートしてくれます。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『さんしゃハンドブック(入門編)』など。	///

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

基礎演習II 29

12246

担当者名 / Instructor 山本 耕平

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生が協働して学んでいく演習スタイルの科目です。この科目では今後4年間大学で研究を行っていく上で、最低限必要とされる知識と技術を習得していきます。具体的にはクラスのなかでさらにグループ分けを行い、そのグループごとに研究調査を行い、その成果を発表・討論を実施します

到達目標 / Attainment Objectives

「与えられた問題」に正しい答えを出す高校までの勉強とは異なり、大学での研究ではまず自分自身で「問題(あるいはテーマ)を発見すること」から出発しなければなりません。基礎演習ではいかにして意味のある問題、取り組むべきテーマを発見するか、その問題・テーマに答えるべく、どのように文献調査やフィールドワークを行うか、そのスキルを身につけます。さらにそれらの調査研究の結果や成果を発表し、グループやゼミ全体で討論する際の技法の習得もめざします。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

学部から配布する『さんしゃハンドブック』を活用してください。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業の進め方やスケジュールについては各担当教員の指示に従ってください。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	開講回数の三分の二以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は平常点(グループ学習、発表、討論への参加)やレポート・小論文などによりますが、詳しい評価方法については担当教員が指示します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

前期では2回生、3回生の「エンター」と呼ばれる先輩が、大学での学修面や生活面に関してみなさんの相談に乗ってくれます。後期はより専門的な知識をもった先輩が研究面においてサポートしてくれます。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『さんしゃハンドブック(入門編)』など。	///

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

基礎演習II 30

12249

担当者名 / Instructor 高垣 忠一郎

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生が協働して学んでいく演習スタイルの科目です。この科目では今後4年間大学で研究を行っていく上で、最低限必要とされる知識と技術を習得していきます。具体的にはクラスのなかでさらにグループ分けを行い、そのグループごとに研究調査を行い、その成果を発表・討論を実施します

到達目標 / Attainment Objectives

「与えられた問題」に正しい答えを出す高校までの勉強とは異なり、大学での研究ではまず自分自身で「問題(あるいはテーマ)を発見すること」から出発しなければなりません。基礎演習ではいかにして意味のある問題、取り組むべきテーマを発見するか、その問題・テーマに答えるべく、どのように文献調査やフィールドワークを行うか、そのスキルを身につけます。さらにそれらの調査研究の結果や成果を発表し、グループやゼミ全体で討論する際の技法の習得もめざします。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

学部から配布する『さんしゃハンドブック』を活用してください。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業の進め方やスケジュールについては各担当教員の指示に従ってください。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	開講回数の三分の二以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は平常点(グループ学習、発表、討論への参加)やレポート・小論文などによりますが、詳しい評価方法については担当教員が指示します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

前期では2回生、3回生の「エンター」と呼ばれる先輩が、大学での学修面や生活面に関してみなさんの相談に乗ってくれます。後期はより専門的な知識をもった先輩が研究面においてサポートしてくれます。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『さんしゃハンドブック(入門編)』など。	///

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

プロジェクトスタディIA 1A

13160

担当者名 / Instructor 高木 正朗

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

日本社会の問題構造を「世間」というキーワードで掘り下げようとした入門書(阿部謹也著『日本社会で生きるということ』朝日新聞社、1999年)を取り上げ、公共領域と私的世界の間に存在する「世間」という日本社会に特徴的な集団構造のあり方について考えていく。

到達目標 / Attainment Objectives

- テキストの読解と討論の技術の修得を基本とする。
それを通して、次のことがらの修得を目標とする。
- ・テーマの発見とキーワードによる問題意識の表現
 - ・文献検索の技術の修得
 - ・論文内容の要約文章の作成

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

なし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の概要と導入	自己紹介 テキスト紹介 分担決定
第2回	「世間」と日本人ー新しい差別論のために	なぜ「世間」を取り上げるか 日本に「個人」は存在するか 「世間」の機能
第3回	「世間」と日本人ー新しい差別論のために	「穢れ」を生む「世間」「聖俗」未分離
第4回	「世間」と日本人ー新しい差別論のために	ディスカッション
第5回	「世間」とは何か	建前と本音 比較社会 「世間」という人間関係
第6回	「世間」とは何か	「人権」「他人」「社会」「差別」
第7回	「世間」とは何か	ディスカッション
第8回	差別とは何か	被差別民 ヨーロッパ中世 コスモロジー
第9回	差別とは何か	キリスト教と賤視 都市化 部落差別
第10回	差別とは何か	ディスカッション
第11回	公衆衛生と「世間」	身体観 個人の誕生 都市と衛生管理 公共性
第12回	公衆衛生と「世間」	ディスカッション
第13回	日本の教育に欠けているもの	日本の近代化 「建前」の世界
第14回	日本の教育に欠けているもの	ディスカッション
第15回	「<公共圏>と<親密圏>から現代社会を読み解く」のまとめ	テーマの発見、キーワードとしての表現、論文検索

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	テーマの発見とキーワードによる表現、文献検索、論文の要約などを総合的に評価する。
平常点(日常的)	50 %	出席、発表およびディスカッションへの参加度を総合して評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

3, 4回生の演習に向けて、「テキストの読解方法」「自分の興味あるテーマの発見」「文献検索と論文の収集」「論文の要約作成」など基本的な学習技術の修得を目指したい。とにかく、アクティブに授業に参加してほしい。必ず、力がついていくのを実感できるだろう。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『日本社会で生きるということ』	阿部謹也著／朝日新聞社／1999年

(アマゾンなどによっても、各人にて格安にて入手可能と思われる。全員分入手不可能な場合は、テキストのプリント配布を考えたい。)

参考書 / Reference Books

上記文献のリストを参照されたい。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

そうしたウェブデータを調べていくことも本授業の目的となる。

プロジェクトスタディIA 1B

13161

担当者名 / Instructor 門田 幸太郎

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

日本社会の問題構造を「世間」というキーワードで掘り下げようとした入門書(阿部謹也著『日本社会で生きるということ』朝日新聞社、1999年)を取り上げ、公共領域と私的世界の間に存在する「世間」という日本社会に特徴的な集団構造のあり方について考えていく。

到達目標 / Attainment Objectives

- テキストの読解と討論の技術の修得を基本とする。
それを通して、次のことがらの修得を目標とする。
- ・テーマの発見とキーワードによる問題意識の表現
 - ・文献検索の技術の修得
 - ・論文内容の要約文章の作成

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

なし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	テーマ 授業の概要と導入	キーワード 自己紹介 テキスト紹介 分担決定
第2回	テーマ 「世間」と日本人ー新しい差別論のために	キーワード なぜ「世間」を取り上げるか 日本に「個人」は存在するか 「世間」の機能
第3回	テーマ 「世間」と日本人ー新しい差別論のために	キーワード 「穢れ」を生む「世間」 「聖俗」未分離
第4回	テーマ 「世間」と日本人ー新しい差別論のために	キーワード ディスカッション
第5回	テーマ 「世間」とは何か	キーワード 建前と本音 比較社会 「世間」という人間関係
第6回	テーマ 「世間」とは何か	キーワード 「人権」「他人」「社会」「差別」
第7回	テーマ 「世間」とは何か	キーワード ディスカッション
第8回	テーマ 差別とは何か	キーワード 被差別民 ヨーロッパ中世 コスモロジー
第9回	テーマ 差別とは何か	キーワード キリスト教と賤視 都市化 部落差別
第10回	テーマ 差別とは何か	キーワード ディスカッション
第11回	テーマ 公衆衛生と「世間」	キーワード 身体観 個人の誕生 都市と衛生管理 公共性
第12回	テーマ 公衆衛生と「世間」	キーワード ディスカッション
第13回	テーマ 日本の教育に欠けているもの	キーワード 日本の近代化 「建前」の世界
第14回	テーマ 日本の教育に欠けているもの	キーワード ディスカッション
第15回	テーマ 「<公共圏>と<親密圏>から現代社会を読み解く」のまとめ	キーワード テーマの発見、キーワードとしての表現、論文検索

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	テーマの発見とキーワードによる表現、文献検索、論文の要約などを総合的に評価する。
平常点(日常的)	50 %	出席、発表およびディスカッションへの参加度を総合して評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

3, 4回生の演習に向けて、「テキストの読解方法」「自分の興味あるテーマの発見」「文献検索と論文の収集」「論文の要約作成」など基本的な学習技術の修得を目指したい。とにかく、アクティブに授業に参加してほしい。必ず、力がついていくのを実感できるだろう。

教科書 / Textbooks

書名 / Title 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『日本社会で生きるということ』 阿部謹也著／朝日新聞社／1999年

(アマゾンなどによっても、各人にて格安にて入手可能と思われる。全員分入手不可能な場合は、テキストのプリント配布を考えたい。)

参考書 / Reference Books

上記文献のリストを参照されたい。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

そうしたウェブデータを調べていくことも本授業の目的となる。

その他 / Others

担当者名 / Instructor 小澤 亘

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

日本社会の問題構造を「世間」というキーワードで掘り下げようとした入門書(阿部謹也著『日本社会で生きるということ』朝日新聞社、1999年)を取り上げ、公共領域と私的世界の間に存在する「世間」という日本社会に特徴的な集団構造のあり方について考えていく。

到達目標 / Attainment Objectives

- テキストの読解と討論の技術の修得を基本とする。
それを通して、次のことがらの修得を目標とする。
- ・テーマの発見とキーワードによる問題意識の表現
 - ・文献検索の技術の修得
 - ・論文内容の要約文章の作成

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

なし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	テーマ 授業の概要と導入	キーワード 自己紹介 テキスト紹介 分担決定
第2回	テーマ 「世間」と日本人—新しい差別論のために	キーワード なぜ「世間」を取り上げるか 日本に「個人」は存在するか 「世間」の機能
第3回	テーマ 「世間」と日本人—新しい差別論のために	キーワード 「穢れ」を生む「世間」 「聖俗」未分離
第4回	テーマ 「世間」と日本人—新しい差別論のために	キーワード ディスカッション
第5回	テーマ 「世間」とは何か	キーワード 建前と本音 比較社会 「世間」という人間関係
第6回	テーマ 「世間」とは何か	キーワード 「人権」「他人」「社会」「差別」
第7回	テーマ 「世間」とは何か	キーワード ディスカッション
第8回	テーマ 差別とは何か	キーワード 被差別民 ヨーロッパ中世 コスモロジー
第9回	テーマ 差別とは何か	キーワード キリスト教と賤視 都市化 部落差別
第10回	テーマ 差別とは何か	キーワード ディスカッション
第11回	テーマ 公衆衛生と「世間」	キーワード 身体観 個人の誕生 都市と衛生管理 公共性
第12回	テーマ 公衆衛生と「世間」	キーワード ディスカッション
第13回	テーマ 日本の教育に欠けているもの	キーワード 日本の近代化 「建前」の世界
第14回	テーマ 日本の教育に欠けているもの	キーワード ディスカッション
第15回	テーマ 「<公共圏>と<親密圏>から現代社会を読み解く」のまとめ	キーワード テーマの発見、キーワードとしての表現、論文検索

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	テーマの発見とキーワードによる表現、文献検索、論文の要約などを総合的に評価する。
平常点(日常的)	50 %	出席、発表およびディスカッションへの参加度を総合して評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

3, 4回生の演習に向けて、「テキストの読解方法」「自分の興味あるテーマの発見」「文献検索と論文の収集」「論文の要約作成」など基本的な学習技術の修得を目指したい。とにかく、アクティブに授業に参加してほしい。必ず、力がついていくのを実感できるだろう。

教科書 / Textbooks

書名 / Title 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『日本社会で生きるということ』 阿部謹也著 / 朝日新聞社 / 1999年

(アマゾンなどによっても、各人にて格安にて入手可能と思われる。全員分入手不可能な場合は、テキストのプリント配布を考えたい。)

参考書 / Reference Books

上記文献のリストを参照されたい。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

そうしたウェブデータを調べていくことも本授業の目的となる。

その他 / Others

プロジェクトスタディIA 1D

13163

担当者名 / Instructor 中谷 義和

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

日本社会の問題構造を「世間」というキーワードで掘り下げようとした入門書(阿部謹也著『日本社会で生きるということ』朝日新聞社、1999年)を取り上げ、公共領域と私的世界の間に存在する「世間」という日本社会に特徴的な集団構造のあり方について考えていく。

到達目標 / Attainment Objectives

- テキストの読解と討論の技術の修得を基本とする。
それを通して、次のことからの修得を目標とする。
- ・テーマの発見とキーワードによる問題意識の表現
 - ・文献検索の技術の修得
 - ・論文内容の要約文章の作成

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

なし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	テーマ 授業の概要と導入	キーワード 自己紹介 テキスト紹介 分担決定
第2回	テーマ 「世間」と日本人—新しい差別論のために	キーワード なぜ「世間」を取り上げるか 日本に「個人」は存在するか 「世間」の機能
第3回	テーマ 「世間」と日本人—新しい差別論のために	キーワード 「穢れ」を生む「世間」「聖俗」未分離
第4回	テーマ 「世間」と日本人—新しい差別論のために	キーワード ディスカッション
第5回	テーマ 「世間」とは何か	キーワード 建前と本音 比較社会 「世間」という人間関係
第6回	テーマ 「世間」とは何か	キーワード 「人権」「他人」「社会」「差別」
第7回	テーマ 「世間」とは何か	キーワード ディスカッション
第8回	テーマ 差別とは何か	キーワード 被差別民 ヨーロッパ中世 コスモロジー
第9回	テーマ 差別とは何か	キーワード キリスト教と賤視 都市化 部落差別
第10回	テーマ 差別とは何か	キーワード ディスカッション
第11回	テーマ 公衆衛生と「世間」	キーワード 身体観 個人の誕生 都市と衛生管理 公共性
第12回	テーマ 公衆衛生と「世間」	キーワード ディスカッション
第13回	テーマ 日本の教育に欠けているもの	キーワード 日本の近代化 「建前」の世界
第14回	テーマ 日本の教育に欠けているもの	キーワード ディスカッション
第15回	テーマ 「<公共圏>と<親密圏>から現代社会を読み解く」のまとめ	キーワード テーマの発見、キーワードとしての表現、論文検索

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	テーマの発見とキーワードによる表現、文献検索、論文の要約などを総合的に評価する。
平常点(日常的)	50 %	出席、発表およびディスカッションへの参加度を総合して評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

3, 4回生の演習に向けて、「テキストの読解方法」「自分の興味あるテーマの発見」「文献検索と論文の収集」「論文の要約作成」など基本的な学習技術の修得を目指したい。とにかく、アクティブに授業に参加してほしい。必ず、力がついていくのを実感できるだろう。

教科書 / Textbooks

書名 / Title 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『日本社会で生きるということ』 阿部謹也著 / 朝日新聞社 / 1999年

(アマゾンなどによっても、各人にて格安にて入手可能と思われる。全員分入手不可能な場合は、テキストのプリント配布を考えたい。)

参考書 / Reference Books

上記文献のリストを参照されたい。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

そうしたウェブデータを調べていくことも本授業の目的となる。

その他 / Others

プロジェクトスタディIA 1E

13164

担当者名 / Instructor 深澤 敦

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

こんにちの格差社会をめぐる議論を客観的・批判的に検討しながら、こうした格差社会論がこれほどブームになってきたのはなぜか、など現代の社会背景を視野に入れて考えていく。

到達目標 / Attainment Objectives

今日の社会の重要なテーマ「格差社会」をめぐる議論に関連する代表的な文献・資料を読んでいくことを基本とする。

それを通して、現代社会の問題を批判的・分析的に考える基本的能力を獲得することを目標とする。

あわせて、今後の大学生活の中で取り組むレポート・論文を作成する際に必要となるスキル(技法、考え方、分析の視点ややり方、表現方法など)を習得することを目標とする。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

なし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	イントロダクション、テキスト第1章1節	
2	テキスト第1章2～5節	
3	テキスト第2章1, 2節	
4	テキスト第2章3, 4節	
5	テキスト第3章1～3節	
6	テキスト第3章4, 5節	
7	テキスト第4章1～3節	
8	テキスト第4章4, 5節	
9	テキスト第5章1節	
10	テキスト第5章2節	
11	テキスト第5章3節	
12	テキスト第5章4節	
13	テキスト第5章5節	
14	テキスト第5章6, 7節	
15	「<格差社会>に立ち向かう」のまとめと課題(学部科目へのつながり)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	
平常点(日常的)	50 %	(出席、発表およびディスカッションへの参加度などを総合して評価する)

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
格差社会：何が問題なのか	橘木俊昭 / 岩波新書 / 4004310334 /

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
不平等社会日本—さよなら総中流	佐藤 俊樹 / 中公新書 / 4121015371 /
社会階層—豊かさの中の不平等	原 純輔・盛山 和夫 / 東京大学出版会 / 4130530127 /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

特になし

プロジェクトスタディIA 1F

13165

担当者名 / Instructor 松葉 正文

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

こんにちの格差社会をめぐる議論を客観的・批判的に検討しながら、こうした格差社会論がこれほどブームになってきたのはなぜか、など現代の社会背景を視野に入れて考えていく。

到達目標 / Attainment Objectives

今日の社会の重要なテーマ「格差社会」をめぐる議論に関連する代表的な文献・資料を読んでいくことを基本とする。

それを通して、現代社会の問題を批判的・分析的に考える基本的能力を獲得することを目標とする。

あわせて、今後の大学生活の中で取り組むレポート・論文を作成する際に必要となるスキル(技法、考え方、分析の視点ややり方、表現方法など)を習得することを目標とする。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	イントロダクション、テキスト第1章1節	
2	テキスト第1章2～5節	
3	テキスト第2章1, 2節	
4	テキスト第2章3, 4節	
5	テキスト第3章1～3節	
6	テキスト第3章4, 5節	
7	テキスト第4章1～3節	
8	テキスト第4章4, 5節	
9	テキスト第5章1節	
10	テキスト第5章2節	
11	テキスト第5章3節	
12	テキスト第5章4節	
13	テキスト第5章5節	
14	テキスト第5章6, 7節	
15	「<格差社会>に立ち向かう」のまとめと課題(学部科目へのつながり)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	
平常点(日常的)	50 %	(出席、発表およびディスカッションへの参加度などを総合して評価する)

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
格差社会：何が問題なのか	橘木俊昭 / 岩波新書 / 4004310334 /

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
不平等社会日本—さよなら総中流	佐藤 俊樹 / 中公新書 / 4121015371 /
社会階層—豊かさの中の不平等	原 純輔・盛山 和夫 / 東京大学出版会 / 4130530127 /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

特になし

プロジェクトスタディIA 1G

13166

担当者名 / Instructor 高嶋 正晴

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

こんにちの格差社会をめぐる議論を客観的・批判的に検討しながら、こうした格差社会論がこれほどブームになってきたのはなぜか、など現代の社会背景を視野に入れて考えていく。

到達目標 / Attainment Objectives

今日の社会の重要なテーマ「格差社会」をめぐる議論に関連する代表的な文献・資料を読んでいくことを基本とする。

それを通して、現代社会の問題を批判的・分析的に考える基本的能力を獲得することを目標とする。

あわせて、今後の大学生活の中で取り組むレポート・論文を作成する際に必要となるスキル(技法、考え方、分析の視点ややり方、表現方法など)を習得することを目標とする。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

なし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	イントロダクション、テキスト第1章1節	
2	テキスト第1章2～5節	
3	テキスト第2章1, 2節	
4	テキスト第2章3, 4節	
5	テキスト第3章1～3節	
6	テキスト第3章4, 5節	
7	テキスト第4章1～3節	
8	テキスト第4章4, 5節	
9	テキスト第5章1節	
10	テキスト第5章2節	
11	テキスト第5章3節	
12	テキスト第5章4節	
13	テキスト第5章5節	
14	テキスト第5章6, 7節	
15	「<格差社会>に立ち向かう」のまとめと課題(学部科目へのつながり)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	
平常点(日常的)	50 %	(出席、発表およびディスカッションへの参加度などを総合して評価する)

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
格差社会：何が問題なのか	橘木俊昭／岩波新書／4004310334 /

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
不平等社会日本—さよなら総中流	佐藤 俊樹／中公新書／4121015371 /
社会階層—豊かさの中の不平等	原 純輔・盛山 和夫／東京大学出版会／4130530127 /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

特になし

その他 / Others

プロジェクトスタディIA 1H

13167

担当者名 / Instructor 中井 美樹

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

こんにちの格差社会をめぐる議論を客観的・批判的に検討しながら、こうした格差社会論がこれほどブームになってきたのはなぜか、など現代の社会背景を視野に入れて考えていく。

到達目標 / Attainment Objectives

今日の社会の重要なテーマ「格差社会」をめぐる議論に関連する代表的な文献・資料を読んでいくことを基本とする。

それを通して、現代社会の問題を批判的・分析的に考える基本的能力を獲得することを目標とする。

あわせて、今後の大学生活の中で取り組むレポート・論文を作成する際に必要となるスキル(技法、考え方、分析の視点ややり方、表現方法など)を習得することを目標とする。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

なし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	イントロダクション、テキスト第1章1節	
2	テキスト第1章2～5節	
3	テキスト第2章1, 2節	
4	テキスト第2章3, 4節	
5	テキスト第3章1～3節	
6	テキスト第3章4, 5節	
7	テキスト第4章1～3節	
8	テキスト第4章4, 5節	
9	テキスト第5章1節	
10	テキスト第5章2節	
11	テキスト第5章3節	
12	テキスト第5章4節	
13	テキスト第5章5節	
14	テキスト第5章6, 7節	
15	「<格差社会>に立ち向かう」のまとめと課題(学部科目へのつながり)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	
平常点(日常的)	50 %	(出席、発表およびディスカッションへの参加度などを総合して評価する)

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
格差社会：何が問題なのか	橘木俊昭 / 岩波新書 / 4004310334 /

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
不平等社会日本—さよなら総中流	佐藤 俊樹 / 中公新書 / 4121015371 /
社会階層—豊かさの中の不平等	原 純輔・盛山 和夫 / 東京大学出版会 / 4130530127 /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

特になし

プロジェクトスタディIA II

13168

担当者名 / Instructor 山口 歩

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

こんにちの格差社会をめぐる議論を客観的・批判的に検討しながら、こうした格差社会論がこれほどブームになってきたのはなぜか、など現代の社会背景を視野に入れて考えていく。

到達目標 / Attainment Objectives

今日の社会の重要なテーマ「格差社会」をめぐる議論に関連する代表的な文献・資料を読んでいくことを基本とする。

それを通して、現代社会の問題を批判的・分析的に考える基本的能力を獲得することを目標とする。

あわせて、今後の大学生活の中で取り組むレポート・論文を作成する際に必要となるスキル(技法、考え方、分析の視点ややり方、表現方法など)を習得することを目標とする。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

なし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	イントロダクション、テキスト第1章1節	
2	テキスト第1章2～5節	
3	テキスト第2章1, 2節	
4	テキスト第2章3, 4節	
5	テキスト第3章1～3節	
6	テキスト第3章4, 5節	
7	テキスト第4章1～3節	
8	テキスト第4章4, 5節	
9	テキスト第5章1節	
10	テキスト第5章2節	
11	テキスト第5章3節	
12	テキスト第5章4節	
13	テキスト第5章5節	
14	テキスト第5章6, 7節	
15	「<格差社会>に立ち向かう」のまとめと課題(学部科目へのつながり)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	
平常点(日常的)	50 %	「<格差社会>に立ち向かう」のまとめと課題(学部科目へのつながり)

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
格差社会：何が問題なのか	橘木俊昭 / 中公新書 / 4121015371 /

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
不平等社会日本—さよなら総中流	佐藤 俊樹 / 中公新書 / 4121015371 /
社会階層—豊かさの中の不平等	原 純輔・盛山 和夫 / 東京大学出版会 / 4130530127 /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

特になし

その他 / Others

プロジェクトスタディIA 1J

13169

担当者名 / Instructor 杉本 通百則

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

見田宗介『社会学入門—人間と社会の未来』(岩波新書、2006)の文献を全員が読み、クラスで内容をめぐって報告と討議を行う。そのことを通じて、社会とはまた広い意味での社会学とは何かを、理解する手がかりとし、社会を分析し批判する基礎となるスタイルを養う。

到達目標 / Attainment Objectives

文献を読み解くこと、および文献内容を報告し討議することに習熟することを基本目標とする。
それを通して、社会を分析し批判する基礎となるスタイルが少しでも養えることを期待したい。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

なし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	全体の進めかたの説明と分担の決定	
第2回	文献購読01: 文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第3回	文献購読02: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第4回	文献購読03: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第5回	文献購読04: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第6回	文献購読05: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第7回	文献購読06: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第8回	中間でのふりかえり	
第9回	文献購読07: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第10回	文献購読08: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第11回	文献購読09: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第12回	文献購読10: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第13回	文献購読11: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第14回	文献購読12: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第15回	「社会を読み解き、批判する<作法>」のまとめと課題	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	
平常点(日常的)	50 %	(出席、発表およびディスカッションへの参加度などを総合して評価する)

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

テキストは報告者以外も、必ず当日報告される箇所については最低読んで来て欲しい。
また、関連する文献等も、ぜひ積極的に読みすすめて欲しい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『社会学入門—人間と社会の未来』	見田宗介 / 岩波新書 / 2006

参考書 / Reference Books

授業で紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

プロジェクトスタディIA 1K

13170

担当者名 / Instructor リム・ボン

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

受講者が順番で指定された文献を読み、その内容についての報告を行なった後、受講者全員で報告内容について質疑応答、意見交換を行う小集団参加型授業

到達目標 / Attainment Objectives

きちんと文献を読み、そこに述べられている内容を把握する読解力と論点を整理して資料化し(レジュメを作成し)人前で発表・説明できる力を養うことを基本とする。

あわせて、他者の発表にたいして批判する力を養う

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

なし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	全体の進めかたの説明と分担の決定	
第2回	文献購読01: 文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第3回	文献購読02: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第4回	文献購読03: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第5回	文献購読04: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第6回	文献購読05: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第7回	文献購読06: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第8回	中間でのふりかえり	
第9回	文献購読07: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第10回	文献購読08: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第11回	文献購読09: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第12回	文献購読10: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第13回	文献購読11: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第14回	文献購読12: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第15回	「<持続的な社会>を模索する」のまとめと課題	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	
平常点(日常的)	50 %	(出席、発表およびディスカッションへの参加度などを総合して評価する)

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「がんばっている日本を世界はまだ知らない vol.2」	松廣淳子+JFS/海象社//2005

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

プロジェクトスタディIA 1L

13171

担当者名 / Instructor 竹濱 朝美

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

受講者が順番で指定された文献を読み、その内容についての報告を行なった後、受講者全員で報告内容について質疑応答、意見交換を行う小集団参加型授業

到達目標 / Attainment Objectives

きちんと文献を読み、そこに述べられている内容を把握する読解力と論点を整理して資料化し(レジュメを作成し)人前で発表・説明できる力を養うことを基本とする。

あわせて、他者の発表にたいして批判する力を養う

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

なし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	全体の進めかたの説明と分担の決定	
第2回	文献購読01: 文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第3回	文献購読02: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第4回	文献購読03: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第5回	文献購読04: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第6回	文献購読05: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第7回	文献購読06: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第8回	中間でのふりかえり	
第9回	文献購読07: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第10回	文献購読08: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第11回	文献購読09: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第12回	文献購読10: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第13回	文献購読11: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第14回	文献購読12: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第15回	「<持続的な社会>を模索する」のまとめと課題	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	
平常点(日常的)	50 %	(出席、発表およびディスカッションへの参加度などを総合して評価する)

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「がんばっている日本を世界はまだ知らない vol.2」	松廣淳子+JFS/海象社//2005年

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

プロジェクトスタディIA 1M

13172

担当者名 / Instructor 乾 亨

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

受講者が順番で指定された文献を読み、その内容についての報告を行なった後、受講者全員で報告内容について質疑応答、意見交換を行う小集団参加型授業

到達目標 / Attainment Objectives

きちんと文献を読み、そこに述べられている内容を把握する読解力と論点を整理して資料化し(レジュメを作成し)人前で発表・説明できる力を養うことを基本とする。

あわせて、他者の発表にたいして批判する力を養う

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

なし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	全体の進めかたの説明と分担の決定	
第2回	文献購読01: 文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第3回	文献購読02: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第4回	文献購読03: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第5回	文献購読04: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第6回	文献購読05: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第7回	文献購読06: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第8回	中間でのふりかえり	
第9回	文献購読07: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第10回	文献購読08: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第11回	文献購読09: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第12回	文献購読10: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第13回	文献購読11: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第14回	文献購読12: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第15回	「<持続的な社会>を模索する」のまとめと課題	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	
平常点(日常的)	50 %	(出席、発表およびディスカッションへの参加度などを総合して評価する)

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「がんばっている日本を世界はまだ知らない vol.2」	松廣淳子+JFS/海象社//2005年

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

プロジェクトスタディIA 1N

13173

担当者名 / Instructor 永橋 為介

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

受講者が順番で指定された文献を読み、その内容についての報告を行なった後、受講者全員で報告内容について質疑応答、意見交換を行う小集団参加型授業

到達目標 / Attainment Objectives

きちんと文献を読み、そこに述べられている内容を把握する読解力と論点を整理して資料化し(レジュメを作成し)人前で発表・説明できる力を養うことを基本とする。

あわせて、他者の発表にたいして批判する力を養う

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

なし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	全体の進めかたの説明と分担の決定	
第2回	文献購読01: 文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第3回	文献購読02: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第4回	文献購読03: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第5回	文献購読04: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第6回	文献購読05: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第7回	文献購読06: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第8回	中間でのふりかえり	
第9回	文献購読07: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第10回	文献購読08: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第11回	文献購読09: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第12回	文献購読10: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第13回	文献購読11: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第14回	文献購読12: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第15回	「<持続的な社会>を模索する」のまとめと課題	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	
平常点(日常的)	50 %	(出席、発表およびディスカッションへの参加度などを総合して評価する)

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「がんばっている日本を世界はまだ知らない vol.2」	松廣淳子+JFS/海象社//2005年

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

プロジェクトスタディA 10

13174

担当者名 / Instructor 樋口 耕一

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

見田宗介『社会学入門—人間と社会の未来』(岩波新書、2006)の文献を全員が読み、クラスで内容をめぐって報告と討議を行う。そのことを通じて、社会とはまた広い意味での社会学とは何かを、理解する手がかりとし、社会を分析し批判する基礎となるスタイルを養う。

到達目標 / Attainment Objectives

文献を読み解くこと、および文献内容を報告し討議することに習熟することを基本目標とする。それを通して、社会を分析し批判する基礎となるスタイルが少しでも養えることを期待したい。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

なし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	全体の進めかたの説明と分担の決定	
第2回	文献購読01: 文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第3回	文献購読02: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第4回	文献購読03: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第5回	文献購読04: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第6回	文献購読05: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第7回	文献購読06: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第8回	中間でのふりかえり	
第9回	文献購読07: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第10回	文献購読08: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第11回	文献購読09: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第12回	文献購読10: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第13回	文献購読11: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第14回	文献購読12: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第15回	「社会を読み解き、批判する<作法>」のまとめと課題	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	
平常点(日常的)	50 %	(出席、発表およびディスカッションへの参加度などを総合して評価する)

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

テキストは報告者以外も、必ず当日報告される箇所については最低読んで来て欲しい。
また、関連する文献等も、ぜひ積極的に読みすすめて欲しい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『社会学入門—人間と社会の未来』	見田宗介 / 岩波新書 / 2006

参考書 / Reference Books

授業で紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

プロジェクトスタディIA 1P

13175

担当者名 / Instructor 原尻 英樹

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

見田宗介『社会学入門—人間と社会の未来』(岩波新書、2006)の文献を全員が読み、クラスで内容をめぐって報告と討議を行う。そのことを通じて、社会とはまた広い意味での社会学とは何かを、理解する手がかりとし、社会を分析し批判する基礎となるスタイルを養う。

到達目標 / Attainment Objectives

文献を読み解くこと、および文献内容を報告し討議することに習熟することを基本目標とする。
それを通して、社会を分析し批判する基礎となるスタイルが少しでも養えることを期待したい。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	全体の進めかたの説明と分担の決定	
第2回	文献購読01: 文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第3回	文献購読02: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第4回	文献購読03: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第5回	文献購読04: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第6回	文献購読05: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第7回	文献購読06: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第8回	中間でのふりかえり	
第9回	文献購読07: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第10回	文献購読08: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第11回	文献購読09: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第12回	文献購読10: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第13回	文献購読11: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第14回	文献購読12: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第15回	「社会を読み解き、批判する<作法>」のまとめと課題	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	
平常点(日常的)	50 %	(出席、発表およびディスカッションへの参加度などを総合して評価する)

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

テキストは報告者以外も、必ず当日報告される箇所については最低読んで来て欲しい。
また、関連する文献等も、ぜひ積極的に読みすすめて欲しい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『社会学入門—人間と社会の未来』	見田宗介 / 岩波新書 / / 2006

参考書 / Reference Books

授業で紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

プロジェクトスタディIA 1Q

13176

担当者名 / Instructor 原尻 英樹

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

見田宗介『社会学入門—人間と社会の未来』(岩波新書、2006)の文献を全員が読み、クラスで内容をめぐって報告と討議を行う。そのことを通じて、社会とはまた広い意味での社会学とは何かを、理解する手がかりとし、社会を分析し批判する基礎となるスタイルを養う。

到達目標 / Attainment Objectives

文献を読み解くこと、および文献内容を報告し討議することに習熟することを基本目標とする。
それを通して、社会を分析し批判する基礎となるスタイルが少しでも養えることを期待したい。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

なし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	全体の進めかたの説明と分担の決定	
第2回	文献購読01: 文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第3回	文献購読02: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第4回	文献購読03: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第5回	文献購読04: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第6回	文献購読05: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第7回	文献購読06: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第8回	中間でのふりかえり	
第9回	文献購読07: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第10回	文献購読08: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第11回	文献購読09: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第12回	文献購読10: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第13回	文献購読11: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第14回	文献購読12: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第15回	「社会を読み解き、批判する<作法>」のまとめと課題	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	
平常点(日常的)	50 %	(出席、発表およびディスカッションへの参加度などを総合して評価する)

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

テキストは報告者以外も、必ず当日報告される箇所については最低読んで来て欲しい。
また、関連する文献等も、ぜひ積極的に読みすすめて欲しい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『社会学入門—人間と社会の未来』	見田宗介 / 岩波新書 / 2006

参考書 / Reference Books

授業で紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

プロジェクトスタディIA 1R

13177

担当者名 / Instructor 木田 融男

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

見田宗介『社会学入門—人間と社会の未来』(岩波新書、2006)の文献を全員が読み、クラスで内容をめぐって報告と討議を行う。そのことを通じて、社会とはまた広い意味での社会学とは何かを、理解する手がかりとし、社会を分析し批判する基礎となるスタイルを養う。

到達目標 / Attainment Objectives

文献を読み解くこと、および文献内容を報告し討議することに習熟することを基本目標とする。
それを通して、社会を分析し批判する基礎となるスタイルが少しでも養えることを期待したい。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

なし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	全体の進めかたの説明と分担の決定	
第2回	文献購読01: 文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第3回	文献購読02: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第4回	文献購読03: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第5回	文献購読04: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第6回	文献購読05: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第7回	文献購読06: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第8回	中間でのふりかえり	
第9回	文献購読07: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第10回	文献購読08: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第11回	文献購読09: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第12回	文献購読10: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第13回	文献購読11: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第14回	文献購読12: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第15回	「社会を読み解き、批判する<作法>」のまとめと課題	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	
平常点(日常的)	50 %	(出席、発表およびディスカッションへの参加度などを総合して評価する)

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

テキストは報告者以外も、必ず当日報告される箇所については最低読んで来て欲しい。
また、関連する文献等も、ぜひ積極的に読みすすめて欲しい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『社会学入門—人間と社会の未来』	見田宗介 / 岩波新書 / 2006

参考書 / Reference Books

授業で紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

プロジェクトスタディIA 1S

13178

担当者名 / Instructor 奥川 櫻豊彦

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

見田宗介『社会学入門—人間と社会の未来』(岩波新書、2006)の文献を全員が読み、クラスで内容をめぐって報告と討議を行う。そのことを通じて、社会とはまた広い意味での社会学とは何かを、理解する手がかりとし、社会を分析し批判する基礎となるスタイルを養う。

到達目標 / Attainment Objectives

文献を読み解くこと、および文献内容を報告し討議することに習熟することを基本目標とする。
それを通して、社会を分析し批判する基礎となるスタイルが少しでも養えることを期待したい。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

なし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	全体の進めかたの説明と分担の決定	
第2回	文献購読01: 文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第3回	文献購読02: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第4回	文献購読03: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第5回	文献購読04: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第6回	文献購読05: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第7回	文献購読06: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第8回	中間でのふりかえり	
第9回	文献購読07: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第10回	文献購読08: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第11回	文献購読09: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第12回	文献購読10: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第13回	文献購読11: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第14回	文献購読12: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第15回	「社会を読み解き、批判する<作法>」のまとめと課題	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	
平常点(日常的)	50 %	(出席、発表およびディスカッションへの参加度などを総合して評価する)

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

テキストは報告者以外も、必ず当日報告される箇所については最低読んで来て欲しい。
また、関連する文献等も、ぜひ積極的に読みすすめて欲しい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『社会学入門—人間と社会の未来』	見田宗介 / 岩波新書 / 2006

参考書 / Reference Books

授業で紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

プロジェクトスタディIA 2A

13179

担当者名 / Instructor 赤井 正二

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

新しいビルが完成したり、美術展に多くの人が訪れたり、有名な観光地で年中行事が行われたり、マラソンで交通規制が行われたり、新しい地下鉄が開通したり…、街は日々出来事に満ちています。こうした出来事は新聞の記事となってはいはすぐに消えていきます。この分野では、「文化」(景観、芸術、観光、スポーツなど)に関係する新聞記事のいくつかに注目して、実際の体験、取材をとおしてレポートし、出来事の背景にある経過や別の所でのよく似た出来事などとのつながりを見つけてという仕方、「社会と文化」を分析し伝える力について考えていきます。また必要に応じて、複数の新聞を使って同じトピックに関する記事を比較しますが、日本の新聞だけではなく、海外の英字新聞も対象として調査をするなども行います。

到達目標 / Attainment Objectives

- (1) 日常の出来事の背景を理解し説明する分析能力の養成、向上
- (2) 社会・文化にかかわるさまざまな分野の動向・経過についての知識の獲得
- (3) 新聞データベースの活用、記事の比較・分析など、情報収集力と分析力の向上

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

現代とメディア

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の概要と到達目標	進め方の説明と担当者の紹介、文化関係記事の事例、小グループ編成
第2回	出来事の記録と表現との差異	取材マナー、各グループ別に文化関係記事の選択と内容分析
第3回	「事実」とは何か、「事実」の社会的意味について	ニュースの体験とフォト・レポート 1、講評
第4回	「事実」とは何か、「事実」の社会的意味について、続き	ニュースの体験とフォト・レポート 2、講評
第5回	出来事の背景にあるものの探求	新聞データベースの活用
第6回	出来事の社会的背景、経過	ニュースの解説レポート 1、講評
第7回	記事の比較から見えるもの、類似の出来事との比較、他の記事との比較	ニュースの解説レポート 2、講評
第8回	記事の「作成」と「解説」	専門書などを利用した解説
第9回	出来事、記録、表現、視点	プロジェクト・スタディー・レポートの企画書作成
第10回	見出し、本文、写真、解説	プロジェクト・スタディー・レポートの作成
第11回	出来事の意味と表現1	プロジェクト・スタディー・レポートの中間報告、講評
第12回	出来事の意味と表現2	プロジェクト・スタディー・レポートの予備発表 1、講評
第13回	出来事の意味と表現3	プロジェクト・スタディー・レポートの予備発表 2、講評
第14回	出来事の意味と表現4	プロジェクト・スタディー・レポートの予備発表 3、講評
第15回	全体講評と課題	再度、出来事と「社会」をつなげるという視点について、提出レポート作成上の注意

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

この分野は新聞を素材にしますので、常に新聞に目を通していただくことが当然必要です。

社会文化にかかわる個別分野(景観、芸術、観光、スポーツなど)の動向については、授業の進行にかかわらず専門書などによって学習を進めることが強く望まれます。適当な専門書については、担当者と相談してください。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	70 %	「プロジェクト・スタディー・レポート」を文書にしたものを提出すること。テーマ設定の妥当性、背景知識の妥当性、構成力などにより判定します。
平常点(日常的)	30 %	出席と報告への取組

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

各種「新聞」を教科書として活用します。

参考書 / Reference Books

書名 / Title

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

『メディア文化論-メディアを学ぶ人のための15
話』 吉見俊哉／有斐閣／978-4641121904／

『現代文化を学ぶ人のために』 井上俊編／世界思想社／978-4790707318／

その他は各クラスで指示します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

各クラスで指示します。

その他 / Others

プロジェクトスタディIA 2B

13180

担当者名 / Instructor 小泉 秀昭

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

プロジェクトスタディ・メディア社会専攻では「新聞で始めるさまざまな力の獲得」を目指します。特に「市民とメディア」では「メディア・アクセス」をテーマに表現力を身につけることに主眼がおかれています。新聞の読者投稿(オピニオン)や広告表現などを互いに議論しあい、また実際に広告作成や投稿を行います。

市民の目線で新聞を読み解くとは、どういうことか。

市民とは誰か

市民とマス・メディア

市民のメディア

*メディア・アクセスの3つのパート

パート1 新聞を解剖する(第1回～第4回)

パート2 新聞を遊ぶ(第5回～第9回)

パート3 新聞を作る(第10回～第15回)

*評価基準 出席点、グループワーク、個人ワーク

到達目標 / Attainment Objectives

読者投稿や広告表現について学びつつ、自らもそれらを作成したり投稿するというプロセスを通じ、市民としてメディアに対してアクティブに参加する態度を養います。そして、専攻の違いにかかわらず、専門演習での学びに際して基礎となる「問題発見の力」の獲得を目指します。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	講義の概要と到達目標の説明／新聞・記事の分析／市民の目線で新聞にアクセスするとは？	全国紙、地方紙、総合面、国際面、社会面
第2回	新聞一面の内容分析	題字、記事、広告
第3回	社会面の内容分析	生活、個人
第4回	社説の読み比べ	新聞社の意見、違い
第5回	読者投稿とは	新聞社への投稿
第6回	読者投稿の発表	プレゼンテーション
第7回	意見広告とはなにか	政治的、公共的
第8回	意見広告の作成	ヘッドコピー、リード、キービジュアル
第9回	意見広告の発表	プレゼンテーション
第10回	記事の書き方①	記事の要件、形態
第11回	記事の書き方②	見出し、リード、本文、良い記事・悪い記事
第12回	記事の書き方③	取材方法、インタビュー、調査
第13回	新聞1面をつくる①	レイアウト、段
第14回	新聞1面をつくる②	レイアウト、段
第15回	新聞一面をつくる③	プレゼンテーション

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

常に、新聞に対する興味を持ち、極力毎日新聞を読むことを期待する。各課題に関しては、授業内でも制作を行なうが、課題が終了していない場合には授業外でグループごとに集まり課題を行なう。授業外での学習が比較的多いことが予想される。

意見広告、読者投稿、新聞一面の作成等は授業外の作業になり、授業では、それらの課題の発表およびディスカッションが中心となる。読者投稿は個人レベルであるが、その他の内容は4～5人程度のグループ単位で行なう。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	個人レベルで、新聞、意見広告、読者投稿の今日的課題について、レポートをまとめて提出する。
平常点(日常的)	50 %	新聞内容分析、意見広告の作成、読者投稿、新聞一面などの具体的な課題への取り組みを重視。毎回出席をとり、それも評価に加味する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

各クラスの進み方により、すべての内容カバーしない場合がある。特に新聞一面をつくるは行なわない可能性もある。

教科書 / Textbooks

特になし

参考書 / Reference Books

<u>書名 / Title</u>	<u>出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment</u>
「実践ジャーナリスト育成講座」	花田達朗・ニューズラボ研究会編著 / 平凡社 / / 2004年
「新聞の読み方上達法」	熊田亘 / ほるぷ出版 / / 1994年
「意見広告、入門」	糸川精一 / 日本機関紙出版センター / / 1984年

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference**その他 / Others**

プロジェクトスタディIA 2C

13181

担当者名 / Instructor 坂田 謙司

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

プロジェクトスタディ・メディア社会専攻では「新聞で始めるさまざまな力の獲得」を目指します。特に「市民とメディア」では「メディア・アクセス」をテーマに表現力を身につけることに主眼がおかれています。新聞の読者投稿(オピニオン)や広告表現などを互いに議論しあい、また実際に広告作成や投稿を行います。

市民の目線で新聞を読み解くとは、どういうことか。

市民とは誰か

市民とマス・メディア

市民のメディア

*メディア・アクセスの3つのパート

パート1 新聞を解剖する(第1回～第4回)

パート2 新聞を遊ぶ(第5回～第9回)

パート3 新聞を作る(第10回～第15回)

*評価基準 出席点、グループワーク、個人ワーク

到達目標 / Attainment Objectives

読者投稿や広告表現について学びつつ、自らもそれらを作成したり投稿するというプロセスを通じ、市民としてメディアに対してアクティブに参加する態度を養います。そして、専攻の違いにかかわらず、専門演習での学びに際して基礎となる「問題発見の力」の獲得を目指します。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	講義の概要と到達目標の説明／新聞・記事の分析／市民の目線で新聞にアクセスするとは？	全国紙、地方紙、総合面、国際面、社会面
第2回	新聞一面の内容分析	題字、記事、広告
第3回	社会面の内容分析	生活、個人
第4回	社説の読み比べ	新聞社の意見、違い
第5回	読者投稿とは	新聞社への投稿
第6回	読者投稿の発表	プレゼンテーション
第7回	意見広告とはなにか	政治的、公共的
第8回	意見広告の作成	ヘッドコピー、リード、キービジュアル
第9回	意見広告の発表	プレゼンテーション
第10回	記事の書き方①	記事の要件、形態
第11回	記事の書き方②	見出し、リード、本文、良い記事・悪い記事
第12回	記事の書き方③	取材方法、インタビュー、調査
第13回	新聞1面をつくる①	レイアウト、段
第14回	新聞1面をつくる②	レイアウト、段
第15回	新聞一面をつくる③	プレゼンテーション

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

常に、新聞に対する興味を持ち、極力毎日新聞を読むことを期待する。各課題に関しては、授業内でも制作を行なうが、課題が終了していない場合には授業外でグループごとに集まり課題を行なう。授業外での学習が比較的多いことが予想される。

意見広告、読者投稿、新聞一面の作成等は授業外の作業になり、授業では、それらの課題の発表およびディスカッションが中心となる。読者投稿は個人レベルであるが、その他の内容は4～5人程度のグループ単位で行なう。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	個人レベルで、新聞、意見広告、読者投稿の今日的課題について、レポートをまとめて提出する。
平常点(日常的)	50 %	新聞内容分析、意見広告の作成、読者投稿、新聞一面などの具体的な課題への取り組みを重視。毎回出席をとり、それも評価に加味する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

各クラスの進み方により、すべての内容カバーしない場合がある。特に新聞一面をつくるは行なわない可能性もある。

教科書 / Textbooks**参考書 / Reference Books**

<u>書名 / Title</u>	<u>出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment</u>
「実践ジャーナリスト育成講座」	花田達朗・ニューズラボ研究会編著 / 平凡社 / /
「新聞の読み方上達法」	熊田亘 / ほるぷ出版 / /
「意見広告、入門」	糸川精一 / 日本機関紙出版センター / /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference**その他 / Others**

プロジェクトスタディIA 2D

13182

担当者名 / Instructor 坂田 謙司

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

プロジェクトスタディ・メディア社会専攻では「新聞で始めるさまざまな力の獲得」を目指します。特に「市民とメディア」では「メディア・アクセス」をテーマに表現力を身につけることに主眼がおかれています。新聞の読者投稿(オピニオン)や広告表現などを互いに議論しあい、また実際に広告作成や投稿を行います。

市民の目線で新聞を読み解くとは、どういうことか。

市民とは誰か

市民とマス・メディア

市民のメディア

*メディア・アクセスの3つのパート

パート1 新聞を解剖する(第1回～第4回)

パート2 新聞を遊ぶ(第5回～第9回)

パート3 新聞を作る(第10回～第15回)

*評価基準 出席点、グループワーク、個人ワーク

到達目標 / Attainment Objectives

読者投稿や広告表現について学びつつ、自らもそれらを作成したり投稿するというプロセスを通じ、市民としてメディアに対してアクティブに参加する態度を養います。そして、専攻の違いにかかわらず、専門演習での学びに際して基礎となる「問題発見の力」の獲得を目指します。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	講義の概要と到達目標の説明／新聞・記事の分析／市民の目線で新聞にアクセスするとは？	全国紙、地方紙、総合面、国際面、社会面
第2回	新聞一面の内容分析	題字、記事、広告
第3回	社会面の内容分析	生活、個人
第4回	社説の読み比べ	新聞社の意見、違い
第5回	読者投稿とは	新聞社への投稿
第6回	読者投稿の発表	プレゼンテーション
第7回	意見広告とはなにか	政治的、公共的
第8回	意見広告の作成	ヘッドコピー、リード、キービジュアル
第9回	意見広告の発表	プレゼンテーション
第10回	記事の書き方①	記事の要件、形態
第11回	記事の書き方②	見出し、リード、本文、良い記事・悪い記事
第12回	記事の書き方③	取材方法、インタビュー、調査
第13回	新聞1面をつくる①	レイアウト、段
第14回	新聞1面をつくる②	レイアウト、段
第15回	新聞一面をつくる③	プレゼンテーション

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

常に、新聞に対する興味を持ち、極力毎日新聞を読むことを期待する。各課題に関しては、授業内でも制作を行なうが、課題が終了していない場合には授業外でグループごとに集まり課題を行なう。授業外での学習が比較的多いことが予想される。

意見広告、読者投稿、新聞一面の作成等は授業外の作業になり、授業では、それらの課題の発表およびディスカッションが中心となる。読者投稿は個人レベルであるが、その他の内容は4～5人程度のグループ単位で行なう。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	個人レベルで、新聞、意見広告、読者投稿の今日的課題について、レポートをまとめて提出する。
平常点(日常的)	50 %	新聞内容分析、意見広告の作成、読者投稿、新聞一面などの具体的な課題への取り組みを重視。毎回出席をとり、それも評価に加味する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

各クラスの進み方により、すべての内容カバーしない場合がある。特に新聞一面をつくるは行なわない可能性もある。

教科書 / Textbooks

特になし

参考書 / Reference Books

<u>書名 / Title</u>	<u>出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment</u>
「実践ジャーナリスト育成講座」	花田達朗・ニューズラボ研究会編著 / 平凡社 / / 2004年
「新聞の読み方上達法」	熊田亘 / ほるぷ出版 / / 1994年
「意見広告、入門」	糸川精一 / 日本機関紙出版センター / / 1984年

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference**その他 / Others**

担当者名 / Instructor 津田 正夫

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

新聞記事を手がかりにして、現在起きている政治・経済・社会などの問題について正しく理解しましょう。大学で今後リサーチを行うにも、社会に出てからの情報収集においても、新聞を活用することは大切です。継続的に読み、断片的な記事をつなぎ合わせてある問題の全体像を把握するという方法を身につけましょう。またニュースがどのように作られるのか、その仕組みを知ることを通してどのような情報の「偏り」が生じるのかも理解しましょう。

到達目標 / Attainment Objectives

- ①政治、経済、外交、社会などの基礎的な用語やコンセプトについて自分なりの説明ができるようになること。
- ②日本の新聞の記事の特徴や海外紙との比較、各紙のものの味方の違いなどを理解し、過去記事の検索を含め効果的な情報収集を行う能力を磨く。
- ③複数の情報を照らし合わせて正確な情報を選択する方法を学ぶ。
- ④新聞記事をもとに、とりあげられている政治・経済・社会の問題についてさらに深くリサーチする。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「現代とメディア」

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	新聞には何が書いてあるのか — 導入のはなし	(ある記事をもとにあなたが何を知らないのか、どうすれば知ることができるのか考えましょう)
第2回	生活の安全・安心(1)	担当教員が示す記事を元に、「何が起きているのか」「何がわからないのか」を話し合おう
第3回	生活の安全・安心(2)	前回見つけた課題をもとにリサーチ・発表 今後どんな点に注目していけばいいのか理解しよう。
第4回	教育と歴史認識(1)	「靖国神社」「戦後補償」「鳩山ドクトリン」「南京事件」「教科書検定」
第5回	教育と歴史認識(2)	(リサーチ・発表をもとに理解を深めるためのディスカッション)
第6回	政治と民主主義(1)	「55年体制」「国対政治」「派閥」「族議員」「小選挙区制度」「政治資金規制」
第7回	政治と民主主義(2)	(リサーチ・発表をもとに理解を深めるためのディスカッション)
第8回	外交と安全保障(1)	「帝国主義」「冷戦」「核戦争と抑止」「国連中心主義」「日米安保条約」「ミサイル防衛」「テロ」
第9回	外交と安全保障(2)	(リサーチ・発表をもとに理解を深めるためのディスカッション)
第10回	スポーツと文化の問題(1)	「オリンピックの精神」「プロとアマ」「契約金ビジネス」「国技と品格」「選手育成制度」
第11回	スポーツと文化の問題(2)	(リサーチ・発表をもとに理解を深めるためのディスカッション)
第12回	開発とグローバリズム(1)	「南北問題」「新自由主義」「エネルギー」「HIV」「格差」「環境破壊」「気候変動」「人身売買」
第13回	開発とグローバリズム(2)	(リサーチ・発表をもとに理解を深めるためのディスカッション)
第14回	情報とセキュリティ(1)	「個人情報保護法」「生体認証」「ブロードバンド」「著作権」「放送と通信の融合」「ウィニー裁判」
第15回	情報とセキュリティ(2) まとめの議論	テーマ・ディスカッションとともに、今後どのようにメディアを利用していくのか考察します。

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

・備考

※1 これはあくまでも1例であり、担当教員によって扱うテーマや内容に変更される可能性があります。

※2 扱うテーマは以下のような問題から担当教員が選択します。

- 1) 政治と民主主義・権力
- 2) 警察・検察・司法の問題
- 3) 人権・生活の安全や安心
- 4) 外交と安全保障・国際機関
- 5) 教育と歴史認識

- 6) 経済と豊かな社会
- 7) スポーツと文化
- 8) 開発とグローバリズム
- 9) 情報社会とセキュリティ
- 10) ジャーナリズムの社会的役割

※3 問題の重点は担当教員によって変わる場合があります。また、重大な事件が起きたときは途中でその内容を変更して新しい出来事の勉強に変更する可能性があります。

※4 宿題は発表課題についてのスケジュールは、担当教員の指示に従ってください。

・授業外学習の指示

- 1) クラスで扱うテーマとは関係なく、少なくとも1紙は毎日読んでください。
- 2) クラスで扱う課題については、すべての受講者が過去の記事や参考文献などをあたりディスカッションの準備をしてください。
- 3) 必要に応じて発表などを行うこともあるので、担当教員の指示に従ってください。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	テーマは追って指示します。リサーチや討論で得た成果を報告してもらいます。評価は情報収集の厚みと考察の深さで行います。
平常点(日常的)	50 %	討論にどれだけ参加できているか、そのための準備をどの程度行っているかで判断します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

特になし

教科書 / Textbooks

特になし

参考書 / Reference Books

特になし

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

特になし

その他 / Others

プロジェクトスタディIA 2F

13184

担当者名 / Instructor 浪田 陽子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

新しいビルが完成したり、美術展に多くの人が訪れたり、有名な観光地で年中行事が行われたり、マラソンで交通規制が行われたり、新しい地下鉄が開通したり…、街は日々出来事に満ちています。こうした出来事は新聞の記事となってたいてはすぐに消えていきます。この分野では、「文化」(景観、芸術、観光、スポーツなど)に関係する新聞記事のいくつかに注目して、実際の体験、取材をとおしてレポートし、出来事の背景にある経過や別の所でのよく似た出来事などとのつながりを見つけてという仕方、「社会と文化」を分析し伝える力について考えていきます。また必要に応じて、複数の新聞を使って同じトピックに関する記事を比較しますが、日本の新聞だけではなく、海外の英字新聞も対象として調査をするなども行います。

到達目標 / Attainment Objectives

- (1) 日常の出来事の背景を理解し説明する分析能力の養成、向上
- (2) 社会・文化にかかわるさまざまな分野の動向・経過についての知識の獲得
- (3) 新聞データベースの活用、記事の比較・分析など、情報収集力と分析力の向上

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

現代とメディア

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の概要と到達目標	進め方の説明と担当者の紹介、文化関係記事の事例、小グループ
第2回	出来事の記録と表現との差異	取材マナー、各グループ別に文化関係記事の選択と内容分析
第3回	「事実」とは何か、「事実」の社会的意味について	ニュースの体験とフォト・レポート 1、講評
第4回	「事実」とは何か、「事実」の社会的意味について、続き	ニュースの体験とフォト・レポート 2、講評
第5回	出来事の背景にあるものの探求	新聞データベースの活用
第6回	出来事の社会的背景、経過	ニュースの解説レポート 1、講評
第7回	記事の比較から見えるもの、類似の出来事との比較、他の記事との比較	ニュースの解説レポート 2、講評
第8回	記事の「作成」と「解説」	専門書などを利用した解説
第9回	出来事、記録、表現、視点	プロジェクト・スタディー・レポートの企画書作成
第10回	見出し、本文、写真、解説	プロジェクト・スタディー・レポートの作成
第11回	出来事の意味と表現1	プロジェクト・スタディー・レポートの中間報告、講評
第12回	出来事の意味と表現2	プロジェクト・スタディー・レポートの予備発表 1、講評
第13回	出来事の意味と表現3	プロジェクト・スタディー・レポートの予備発表 2、講評
第14回	出来事の意味と表現4	プロジェクト・スタディー・レポートの予備発表 3、講評
第15回	全体講評と課題	再度、出来事と「社会」をつなげるという視点について、提出レポート作成上の注意

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

この分野は新聞を素材にしますので、常に新聞に目を通していただくことが当然必要です。

社会文化にかかわる個別分野(景観、芸術、観光、スポーツなど)の動向については、授業の進行にかかわらず専門書などによって学習を進めることが強く望まれます。適当な専門書については、担当者と相談してください。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	70 %	「プロジェクト・スタディー・レポート」を文書にしたものを提出すること。テーマ設定の妥当性、背景知識の妥当性、構成力などにより判定します。
平常点(日常的)	30 %	出席と報告への取組

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

各種「新聞」を教科書として活用します。

参考書 / Reference Books

書名 / Title

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

『メディア文化論-メディアを学ぶ人のための15
話』 吉見俊哉／有斐閣／978-4641121904／

『現代文化を学ぶ人のために』 井上俊編／世界思想社／978-4790707318／

その他は各クラスで指示します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

各クラスで指示します。

その他 / Others

プロジェクトスタディIA 2G

13185

担当者名 / Instructor 仲間 裕子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

新しいビルが完成したり、美術展に多くの人が訪れたり、有名な観光地で年中行事が行われたり、マラソンで交通規制が行われたり、新しい地下鉄が開通したり…、街は日々出来事に満ちています。こうした出来事は新聞の記事となってたいてはすぐに消えていきます。この分野では、「文化」(景観、芸術、観光、スポーツなど)に関係する新聞記事のいくつかに注目して、実際の体験、取材をとおしてレポートし、出来事の背景にある経過や別の所でのよく似た出来事などとのつながりを見つけてという仕方、「社会と文化」を分析し伝える力について考えていきます。また必要に応じて、複数の新聞を使って同じトピックに関する記事を比較しますが、日本の新聞だけではなく、海外の英字新聞も対象として調査をするなども行います。

到達目標 / Attainment Objectives

- (1) 日常の出来事の背景を理解し説明する分析能力の養成、向上
- (2) 社会・文化にかかわるさまざまな分野の動向・経過についての知識の獲得
- (3) 新聞データベースの活用、記事の比較・分析など、情報収集力と分析力の向上

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

現代とメディア

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の概要と到達目標	進め方の説明と担当者の紹介、文化関係記事の事例、小グループ編成
第2回	出来事の記録と表現との差異	取材マナー、各グループ別に文化関係記事の選択と内容分析
第3回	「事実」とは何か、「事実」の社会的意味について	ニュースの体験とフォト・レポート 1、講評
第4回	「事実」とは何か、「事実」の社会的意味について、続き	ニュースの体験とフォト・レポート 2、講評
第5回	出来事の背景にあるものの探求	新聞データベースの活用
第6回	出来事の社会的背景、経過	ニュースの解説レポート 1、講評
第7回	記事の比較から見えるもの、類似の出来事との比較、他の記事との比較	ニュースの解説レポート 2、講評
第8回	記事の「作成」と「解説」	専門書などを利用した解説
第9回	出来事、記録、表現、視点	プロジェクト・スタディー・レポートの企画書作成
第10回	見出し、本文、写真、解説	プロジェクト・スタディー・レポートの作成
第11回	出来事の意味と表現1	プロジェクト・スタディー・レポートの中間報告、講評
第12回	出来事の意味と表現2	プロジェクト・スタディー・レポートの予備発表 1、講評
第13回	出来事の意味と表現3	プロジェクト・スタディー・レポートの予備発表 2、講評
第14回	出来事の意味と表現4	プロジェクト・スタディー・レポートの予備発表 3、講評
第15回	全体講評と課題	再度、出来事と「社会」をつなげるという視点について、提出レポート作成上の注意

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

この分野は新聞を素材にしますので、常に新聞に目を通していただくことが当然必要です。

社会文化にかかわる個別分野(景観、芸術、観光、スポーツなど)の動向については、授業の進行にかかわらず専門書などによって学習を進めることが強く望まれます。適当な専門書については、担当者と相談してください。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	70 %	「プロジェクト・スタディー・レポート」を文書にしたものを提出すること。テーマ設定の妥当性、背景知識の妥当性、構成力などにより判定します。
平常点(日常的)	30 %	出席と報告への取組

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

各種「新聞」を教科書として活用します。

参考書 / Reference Books

書名 / Title

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

『メディア文化論-メディアを学ぶ人のための15
話』 吉見俊哉／有斐閣／978-4641121904／

『現代文化を学ぶ人のために』 井上俊編／世界思想社／978-4790707318／

その他は各クラスで指示します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

各クラスで指示します。

その他 / Others

プロジェクトスタディIA 2H

13186

担当者名 / Instructor 奥村 信幸

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

新聞記事を手がかりにして、現在起きている政治・経済・社会などの問題について正しく理解しましょう。大学で今後リサーチを行うにも、社会に出てからの情報収集においても、新聞を活用することは大切です。継続的に読み、断片的な記事をつなぎ合わせてある問題の全体像を把握するという方法を身につけましょう。またニュースがどのように作られるのか、その仕組みを知ることを通してどのような情報の「偏り」が生じるのかも理解しましょう。

到達目標 / Attainment Objectives

- ①政治、経済、外交、社会などの基礎的な用語やコンセプトについて自分なりの説明ができるようになること。
- ②日本の新聞の記事の特徴や海外紙との比較、各紙のものの味方の違いなどを理解し、過去記事の検索を含め効果的な情報収集を行う能力を磨く。
- ③複数の情報を照らし合わせて正確な情報を選択する方法を学ぶ。
- ④新聞記事をもとに、とりあげられている政治・経済・社会の問題についてさらに深くリサーチする。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「現代とメディア」

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	新聞には何が書いてあるのか — 導入のはなし	(ある記事をもとにあなたが何を知らないのか、どうすれば知ることができるのか考えましょう)
第2回	生活の安全・安心(1)	担当教員が示す記事を元に、「何が起きているのか」「何がわからないのか」を話し合おう
第3回	生活の安全・安心(2)	前回見つけた課題をもとにリサーチ・発表 今後どんな点に注目していけばいいのか理解しよう。
第4回	教育と歴史認識(1)	「靖国神社」「戦後補償」「鳩山ドクトリン」「南京事件」「教科書検定」
第5回	教育と歴史認識(2)	(リサーチ・発表をもとに理解を深めるためのディスカッション)
第6回	政治と民主主義(1)	「55年体制」「国対政治」「派閥」「族議員」「小選挙区制度」「政治資金規制」
第7回	政治と民主主義(2)	(リサーチ・発表をもとに理解を深めるためのディスカッション)
第8回	外交と安全保障(1)	「帝国主義」「冷戦」「核戦争と抑止」「国連中心主義」「日米安保条約」「ミサイル防衛」「テロ」
第9回	外交と安全保障(2)	(リサーチ・発表をもとに理解を深めるためのディスカッション)
第10回	スポーツと文化の問題(1)	「オリンピックの精神」「プロとアマ」「契約金ビジネス」「国技と品格」「選手育成制度」
第11回	スポーツと文化の問題(2)	(リサーチ・発表をもとに理解を深めるためのディスカッション)
第12回	開発とグローバリズム(1)	「南北問題」「新自由主義」「エネルギー」「HIV」「格差」「環境破壊」「気候変動」「人身売買」
第13回	開発とグローバリズム(2)	(リサーチ・発表をもとに理解を深めるためのディスカッション)
第14回	情報とセキュリティ(1)	「個人情報保護法」「生体認証」「ブロードバンド」「著作権」「放送と通信の融合」「ウィニー裁判」
第15回	情報とセキュリティ(2) まとめの議論	テーマ・ディスカッションとともに、今後どのようにメディアを利用していくのか考察します。

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

・備考

※1 これはあくまでも1例であり、担当教員によって扱うテーマや内容は変更される可能性があります。

※2 扱うテーマは以下のような問題から担当教員が選択します。

- 1) 政治と民主主義・権力
- 2) 警察・検察・司法の問題
- 3) 人権・生活の安全や安心
- 4) 外交と安全保障・国際機関
- 5) 教育と歴史認識

- 6) 経済と豊かな社会
- 7) スポーツと文化
- 8) 開発とグローバリズム
- 9) 情報社会とセキュリティ
- 10) ジャーナリズムの社会的役割

※3 問題の重点は担当教員によって変わる場合があります。また、重大な事件が起きたときは途中でその内容を変更して新しい出来事の勉強に変更する可能性があります。

※4 宿題は発表課題についてのスケジュールは、担当教員の指示に従ってください。

・授業外学習の指示

- 1) クラスで扱うテーマとは関係なく、少なくとも1紙は毎日読んでください。
- 2) クラスで扱う課題については、すべての受講者が過去の記事や参考文献などをあたりディスカッションの準備をしてください。
- 3) 必要に応じて発表などを行うこともあるので、担当教員の指示に従ってください。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	テーマは追って指示します。リサーチや討論で得た成果を報告してもらいます。評価は情報収集の厚みと考察の深さで行います。
平常点(日常的)	50 %	討論にどれだけ参加できているか、そのための準備をどの程度行っているかで判断します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

特になし

教科書 / Textbooks

特になし

参考書 / Reference Books

特になし

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

特になし

その他 / Others

プロジェクトスタディIA 2I

13187

担当者名 / Instructor 福岡 良明

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

プロジェクトスタディ・メディア社会専攻では「新聞で始めるさまざまな力の獲得」を目指します。特に「市民とメディア」では「メディア・アクセス」をテーマに表現力を身につけることに主眼がおかれています。新聞の読者投稿(オピニオン)や広告表現などを互いに議論しあい、また実際に広告作成や投稿を行います。

市民の目線で新聞を読み解くとは、どういうことか。

市民とは誰か

市民とマス・メディア

市民のメディア

*メディア・アクセスの3つのパート

パート1 新聞を解剖する(第1回～第4回)

パート2 新聞を遊ぶ(第5回～第9回)

パート3 新聞を作る(第10回～第15回)

*評価基準 出席点、グループワーク、個人ワーク

到達目標 / Attainment Objectives

読者投稿や広告表現について学びつつ、自らもそれらを作成したり投稿するというプロセスを通じ、市民としてメディアに対してアクティブに参加する態度を養います。そして、専攻の違いにかかわらず、専門演習での学びに際して基礎となる「問題発見の力」の獲得を目指します。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	講義の概要と到達目標の説明／新聞・記事の分析／市民の目線で新聞にアクセスするとは？	全国紙、地方紙、総合面、国際面、社会面
第2回	新聞一面の内容分析	題字、記事、広告
第3回	社会面の内容分析	生活、個人
第4回	社説の読み比べ	新聞社の意見、違い
第5回	読者投稿とは	新聞社への投稿
第6回	読者投稿の発表	プレゼンテーション
第7回	意見広告とはなにか	政治的、公共的
第8回	意見広告の作成	ヘッドコピー、リード、キービジュアル
第9回	意見広告の発表	プレゼンテーション
第10回	記事の書き方①	記事の要件、形態
第11回	記事の書き方②	見出し、リード、本文、良い記事・悪い記事
第12回	記事の書き方③	取材方法、インタビュー、調査
第13回	新聞1面をつくる①	レイアウト、段
第14回	新聞1面をつくる②	レイアウト、段
第15回	新聞一面をつくる③	プレゼンテーション

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

常に、新聞に対する興味を持ち、極力毎日新聞を読むことを期待する。各課題に関しては、授業内でも制作を行なうが、課題が終了していない場合には授業外でグループごとに集まり課題を行なう。授業外での学習が比較的多いことが予想される。

意見広告、読者投稿、新聞一面の作成等は授業外の作業になり、授業では、それらの課題の発表およびディスカッションが中心となる。読者投稿は個人レベルであるが、その他の内容は4～5人程度のグループ単位で行なう。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	個人レベルで、新聞、意見広告、読者投稿の今日的課題について、レポートをまとめ提出する。
平常点(日常的)	50 %	新聞内容分析、意見広告の作成、読者投稿、新聞一面などの具体的な課題への取り組みを重視。毎回出席をとり、それも評価に加味する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

各クラスの進み方により、すべての内容カバーしない場合がある。特に新聞一面をつくるは行なわない可能性もある。

教科書 / Textbooks

特になし

参考書 / Reference Books**書名 / Title****出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment**

「実践ジャーナリスト育成講座」

花田達朗・ニューズラボ研究会編著 / 平凡社 / / 2004年

「新聞の読み方上達法」

熊田亘 / ほるぷ出版 / / 1994年

「意見広告、入門」

糸川精一 / 日本機関紙出版センター / / 1984年

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference**その他 / Others**

プロジェクトスタディIA 2J

13188

担当者名 / Instructor 瓜生 吉則

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

プロジェクトスタディ・メディア社会専攻では「新聞で始めるさまざまな力の獲得」を目指します。特に「市民とメディア」では「メディア・アクセス」をテーマに表現力を身につけることに主眼がおかれています。新聞の読者投稿(オピニオン)や広告表現などを互いに議論しあい、また実際に広告作成や投稿を行います。

市民の目線で新聞を読み解くとは、どういうことか。

市民とは誰か

市民とマス・メディア

市民のメディア

*メディア・アクセスの3つのパート

パート1 新聞を解剖する(第1回～第4回)

パート2 新聞を遊ぶ(第5回～第9回)

パート3 新聞を作る(第10回～第15回)

*評価基準 出席点、グループワーク、個人ワーク

到達目標 / Attainment Objectives

読者投稿や広告表現について学びつつ、自らもそれらを作成したり投稿するというプロセスを通じ、市民としてメディアに対してアクティブに参加する態度を養います。そして、専攻の違いにかかわらず、専門演習での学びに際して基礎となる「問題発見の力」の獲得を目指します。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	講義の概要と到達目標の説明／新聞・記事の分析／市民の目線で新聞にアクセスするとは？	全国紙、地方紙、総合面、国際面、社会面
第2回	新聞一面の内容分析	題字、記事、広告
第3回	社会面の内容分析	生活、個人
第4回	社説の読み比べ	新聞社の意見、違い
第5回	読者投稿とは	新聞社への投稿
第6回	読者投稿の発表	プレゼンテーション
第7回	意見広告とはなにか	政治的、公共的
第8回	意見広告の作成	ヘッドコピー、リード、キービジュアル
第9回	意見広告の発表	プレゼンテーション
第10回	記事の書き方①	記事の要件、形態
第11回	記事の書き方②	見出し、リード、本文、良い記事・悪い記事
第12回	記事の書き方③	取材方法、インタビュー、調査
第13回	新聞1面をつくる①	レイアウト、段
第14回	新聞1面をつくる②	レイアウト、段
第15回	新聞一面をつくる③	プレゼンテーション

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

常に、新聞に対する興味を持ち、極力毎日新聞を読むことを期待する。各課題に関しては、授業内でも制作を行なうが、課題が終了していない場合には授業外でグループごとに集まり課題を行なう。授業外での学習が比較的多いことが予想される。

意見広告、読者投稿、新聞一面の作成等は授業外の作業になり、授業では、それらの課題の発表およびディスカッションが中心となる。読者投稿は個人レベルであるが、その他の内容は4～5人程度のグループ単位で行なう。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	個人レベルで、新聞、意見広告、読者投稿の今日的課題について、レポートをまとめ提出する。
平常点(日常的)	50 %	新聞内容分析、意見広告の作成、読者投稿、新聞一面などの具体的な課題への取り組みを重視。毎回出席をとり、それも評価に加味する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

各クラスの進み方により、すべての内容カバーしない場合がある。特に新聞一面をつくるは行なわない可能性もある。

教科書 / Textbooks

特になし

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「実践ジャーナリスト育成講座」	花田達朗・ニューズラボ研究会編著 / 平凡社 / / 2004年
「新聞の読み方上達法」	熊田亘 / ほるぷ出版 / / 1994年
「意見広告、入門」	糸川精一 / 日本機関紙出版センター / / 1984年

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference**その他 / Others**

プロジェクトスタディIA 2L

13190

担当者名 / Instructor 宮下 晋吉

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

新聞記事を手がかりにして、現在起きている政治・経済・社会などの問題について正しく理解しましょう。大学で今後リサーチを行うにも、社会に出てからの情報収集においても、新聞を活用することは大切です。継続的に読み、断片的な記事をつなぎ合わせてある問題の全体像を把握するという方法を身につけましょう。またニュースがどのように作られるのか、その仕組みを知ることを通してどのような情報の「偏り」が生じるのかも理解しましょう。

到達目標 / Attainment Objectives

- ①政治、経済、外交、社会などの基礎的な用語やコンセプトについて自分なりの説明ができるようになること。
- ②日本の新聞の記事の特徴や海外紙との比較、各紙のものの味方の違いなどを理解し、過去記事の検索を含め効果的な情報収集を行う能力を磨く。
- ③複数の情報を照らし合わせて正確な情報を選択する方法を学ぶ。
- ④新聞記事をもとに、とりあげられている政治・経済・社会の問題についてさらに深くリサーチする。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「現代とメディア」

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	新聞には何が書いてあるのか — 導入のはなし	(ある記事をもとにあなたが何を知らないのか、どうすれば知ることができるのか考えましょう)
第2回	生活の安全・安心(1)	担当教員が示す記事を元に、「何が起きているのか」「何がわからないのか」を話し合おう
第3回	生活の安全・安心(2)	前回見つけた課題をもとにリサーチ・発表 今後どんな点に注目していけばいいのか理解しよう。
第4回	教育と歴史認識(1)	「靖国神社」「戦後補償」「鳩山ドクトリン」「南京事件」「教科書検定」
第5回	教育と歴史認識(2)	(リサーチ・発表をもとに理解を深めるためのディスカッション)
第6回	政治と民主主義(1)	「55年体制」「国対政治」「派閥」「族議員」「小選挙区制度」「政治資金規制」
第7回	政治と民主主義(2)	(リサーチ・発表をもとに理解を深めるためのディスカッション)
第8回	外交と安全保障(1)	「帝国主義」「冷戦」「核戦争と抑止」「国連中心主義」「日米安保条約」「ミサイル防衛」「テロ」
第9回	外交と安全保障(2)	(リサーチ・発表をもとに理解を深めるためのディスカッション)
第10回	スポーツと文化の問題(1)	「オリンピックの精神」「プロとアマ」「契約金ビジネス」「国技と品格」「選手育成制度」
第11回	スポーツと文化の問題(2)	(リサーチ・発表をもとに理解を深めるためのディスカッション)
第12回	開発とグローバリズム(1)	「南北問題」「新自由主義」「エネルギー」「HIV」「格差」「環境破壊」「気候変動」「人身売買」
第13回	開発とグローバリズム(2)	(リサーチ・発表をもとに理解を深めるためのディスカッション)
第14回	情報とセキュリティ(1)	「個人情報保護法」「生体認証」「ブロードバンド」「著作権」「放送と通信の融合」「ウィニー裁判」
第15回	情報とセキュリティ(2) まとめの議論	テーマ・ディスカッションとともに、今後どのようにメディアを利用していくのか考察します。

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

・備考

※1 これはあくまでも1例であり、担当教員によって扱うテーマや内容に変更される可能性があります。

※2 扱うテーマは以下のような問題から担当教員が選択します。

- 1) 政治と民主主義・権力
- 2) 警察・検察・司法の問題
- 3) 人権・生活の安全や安心
- 4) 外交と安全保障・国際機関
- 5) 教育と歴史認識

- 6) 経済と豊かな社会
- 7) スポーツと文化
- 8) 開発とグローバリズム
- 9) 情報社会とセキュリティ
- 10) ジャーナリズムの社会的役割

※3 問題の重点は担当教員によって変わる場合があります。また、重大な事件が起きたときは途中でその内容を変更して新しい出来事の勉強に変更する可能性があります。

※4 宿題は発表課題についてのスケジュールは、担当教員の指示に従ってください。

・授業外学習の指示

- 1) クラスで扱うテーマとは関係なく、少なくとも1紙は毎日読んでください。
- 2) クラスで扱う課題については、すべての受講者が過去の記事や参考文献などをあたりディスカッションの準備をして ください。
- 3) 必要に応じて発表などを行うこともあるので、担当教員の指示に従ってください。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	テーマは追って指示します。リサーチや討論で得た成果を報告してもらいます。評価は情報収集の厚みと考察の深さで行います。
平常点(日常的)	50 %	討論にどれだけ参加できているか、そのための準備をどの程度行っているかで判断します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

特になし

教科書 / Textbooks

特になし

参考書 / Reference Books

特になし

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

特になし

その他 / Others

プロジェクトスタディIA 2M

13191

担当者名 / Instructor 松田 亜希

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

プロジェクトスタディ・メディア社会専攻では「新聞で始めるさまざまな力の獲得」を目指します。特に「市民とメディア」では「メディア・アクセス」をテーマに表現力を身につけることに主眼がおかれています。新聞の読者投稿(オピニオン)や広告表現などを互いに議論しあい、また実際に広告作成や投稿を行います。

市民の目線で新聞を読み解くとは、どういうことか。

市民とは誰か

市民とマス・メディア

市民のメディア

*メディア・アクセスの3つのパート

パート1 新聞を解剖する(第1回～第4回)

パート2 新聞を遊ぶ(第5回～第9回)

パート3 新聞を作る(第10回～第15回)

*評価基準 出席点、グループワーク、個人ワーク

到達目標 / Attainment Objectives

読者投稿や広告表現について学びつつ、自らもそれらを作成したり投稿するというプロセスを通じ、市民としてメディアに対してアクティブに参加する態度を養います。そして、専攻の違いにかかわらず、専門演習での学びに際して基礎となる「問題発見の力」の獲得を目指します。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	講義の概要と到達目標の説明／新聞・記事の分析／市民の目線で新聞にアクセスするとは？	全国紙、地方紙、総合面、国際面、社会面
第2回	新聞一面の内容分析	題字、記事、広告
第3回	社会面の内容分析	生活、個人
第4回	社説の読み比べ	新聞社の意見、違い
第5回	読者投稿とは	新聞社への投稿
第6回	読者投稿の発表	プレゼンテーション
第7回	意見広告とはなにか	政治的、公共的
第8回	意見広告の作成	ヘッドコピー、リード、キービジュアル
第9回	意見広告の発表	プレゼンテーション
第10回	記事の書き方①	記事の要件、形態
第11回	記事の書き方②	見出し、リード、本文、良い記事・悪い記事
第12回	記事の書き方③	取材方法、インタビュー、調査
第13回	新聞1面をつくる①	レイアウト、段
第14回	新聞1面をつくる②	レイアウト、段
第15回	新聞一面をつくる③	プレゼンテーション

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

常に、新聞に対する興味を持ち、極力毎日新聞を読むことを期待する。各課題に関しては、授業内でも制作を行なうが、課題が終了していない場合には授業外でグループごとに集まり課題を行なう。授業外での学習が比較的多いことが予想される。

意見広告、読者投稿、新聞一面の作成等は授業外の作業になり、授業では、それらの課題の発表およびディスカッションが中心となる。読者投稿は個人レベルであるが、その他の内容は4～5人程度のグループ単位で行なう。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	個人レベルで、新聞、意見広告、読者投稿の今日的課題について、レポートをまとめて提出する。
平常点(日常的)	50 %	新聞内容分析、意見広告の作成、読者投稿、新聞一面などの具体的な課題への取り組みを重視。毎回出席をとり、それも評価に加味する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

各クラスの進み方により、すべての内容カバーしない場合がある。特に新聞一面をつくるは行なわない可能性もある。

教科書 / Textbooks

特になし

参考書 / Reference Books

<u>書名 / Title</u>	<u>出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment</u>
「実践ジャーナリスト育成講座」	花田達朗・ニューズラボ研究会編著 / 平凡社 / / 2004年
「新聞の読み方上達法」	熊田亘 / ほるぷ出版 / / 1994年
「意見広告、入門」	糸川精一 / 日本機関紙出版センター / / 1984年

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference**その他 / Others**

プロジェクトスタディIA 2N

13192

担当者名 / Instructor 登丸 あすか

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

プロジェクトスタディ・メディア社会専攻では「新聞で始めるさまざまな力の獲得」を目指します。特に「市民とメディア」では「メディア・アクセス」をテーマに表現力を身につけることに主眼がおかれています。新聞の読者投稿(オピニオン)や広告表現などを互いに議論しあい、また実際に広告作成や投稿を行います。

市民の目線で新聞を読み解くとは、どういうことか。

市民とは誰か

市民とマス・メディア

市民のメディア

*メディア・アクセスの3つのパート

パート1 新聞を解剖する(第1回～第4回)

パート2 新聞を遊ぶ(第5回～第9回)

パート3 新聞を作る(第10回～第15回)

*評価基準 出席点、グループワーク、個人ワーク

到達目標 / Attainment Objectives

読者投稿や広告表現について学びつつ、自らもそれらを作成したり投稿するというプロセスを通じ、市民としてメディアに対してアクティブに参加する態度を養います。そして、専攻の違いにかかわらず、専門演習での学びに際して基礎となる「問題発見の力」の獲得を目指します。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	講義の概要と到達目標の説明／新聞・記事の分析／市民の目線で新聞にアクセスするとは？	全国紙、地方紙、総合面、国際面、社会面
第2回	新聞一面の内容分析	題字、記事、広告
第3回	社会面の内容分析	生活、個人
第4回	社説の読み比べ	新聞社の意見、違い
第5回	読者投稿とは	新聞社への投稿
第6回	読者投稿の発表	プレゼンテーション
第7回	意見広告とはなにか	政治的、公共的
第8回	意見広告の作成	ヘッドコピー、リード、キービジュアル
第9回	意見広告の発表	プレゼンテーション
第10回	記事の書き方①	記事の要件、形態
第11回	記事の書き方②	見出し、リード、本文、良い記事・悪い記事
第12回	記事の書き方③	取材方法、インタビュー、調査
第13回	新聞1面をつくる①	レイアウト、段
第14回	新聞1面をつくる②	レイアウト、段
第15回	新聞一面をつくる③	プレゼンテーション

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

常に、新聞に対する興味を持ち、極力毎日新聞を読むことを期待する。各課題に関しては、授業内でも制作を行なうが、課題が終了していない場合には授業外でグループごとに集まり課題を行なう。授業外での学習が比較的多いことが予想される。

意見広告、読者投稿、新聞一面の作成等は授業外の作業になり、授業では、それらの課題の発表およびディスカッションが中心となる。読者投稿は個人レベルであるが、その他の内容は4～5人程度のグループ単位で行なう。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	個人レベルで、新聞、意見広告、読者投稿の今日的課題について、レポートをまとめ提出する。
平常点(日常的)	50 %	新聞内容分析、意見広告の作成、読者投稿、新聞一面などの具体的な課題への取り組みを重視。毎回出席をとり、それも評価に加味する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

各クラスの進み方により、すべての内容カバーしない場合がある。特に新聞一面をつくるは行なわない可能性もある。

教科書 / Textbooks

特になし

参考書 / Reference Books書名 / Title出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

「実践ジャーナリスト育成講座」

花田達朗・ニューズラボ研究会編著 / 平凡社 / / 2004年

「新聞の読み方上達法」

熊田亘 / ほるぷ出版 / / 1994年

「意見広告、入門」

糸川精一 / 日本機関紙出版センター / / 1984年

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference**その他 / Others**

プロジェクトスタディIA 20

13193

担当者名 / Instructor 登丸 あすか

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

プロジェクトスタディ・メディア社会専攻では「新聞で始めるさまざまな力の獲得」を目指します。特に「市民とメディア」では「メディア・アクセス」をテーマに表現力を身につけることに主眼がおかれています。新聞の読者投稿(オピニオン)や広告表現などを互いに議論しあい、また実際に広告作成や投稿を行います。

市民の目線で新聞を読み解くとは、どういうことか。

市民とは誰か

市民とマス・メディア

市民のメディア

*メディア・アクセスの3つのパート

パート1 新聞を解剖する(第1回～第4回)

パート2 新聞を遊ぶ(第5回～第9回)

パート3 新聞を作る(第10回～第15回)

*評価基準 出席点、グループワーク、個人ワーク

到達目標 / Attainment Objectives

読者投稿や広告表現について学びつつ、自らもそれらを作成したり投稿するというプロセスを通じ、市民としてメディアに対してアクティブに参加する態度を養います。そして、専攻の違いにかかわらず、専門演習での学びに際して基礎となる「問題発見の力」の獲得を目指します。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	講義の概要と到達目標の説明／新聞・記事の分析／市民の目線で新聞にアクセスするとは？	全国紙、地方紙、総合面、国際面、社会面
第2回	新聞一面の内容分析	題字、記事、広告
第3回	社会面の内容分析	生活、個人
第4回	社説の読み比べ	新聞社の意見、違い
第5回	読者投稿とは	新聞社への投稿
第6回	読者投稿の発表	プレゼンテーション
第7回	意見広告とはなにか	政治的、公共的
第8回	意見広告の作成	ヘッドコピー、リード、キービジュアル
第9回	意見広告の発表	プレゼンテーション
第10回	記事の書き方①	記事の要件、形態
第11回	記事の書き方②	見出し、リード、本文、良い記事・悪い記事
第12回	記事の書き方③	取材方法、インタビュー、調査
第13回	新聞1面をつくる①	レイアウト、段
第14回	新聞1面をつくる②	レイアウト、段
第15回	新聞一面をつくる③	プレゼンテーション

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

常に、新聞に対する興味を持ち、極力毎日新聞を読むことを期待する。各課題に関しては、授業内でも制作を行なうが、課題が終了していない場合には授業外でグループごとに集まり課題を行なう。授業外での学習が比較的多いことが予想される。

意見広告、読者投稿、新聞一面の作成等は授業外の作業になり、授業では、それらの課題の発表およびディスカッションが中心となる。読者投稿は個人レベルであるが、その他の内容は4～5人程度のグループ単位で行なう。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	個人レベルで、新聞、意見広告、読者投稿の今日的課題について、レポートをまとめて提出する。
平常点(日常的)	50 %	新聞内容分析、意見広告の作成、読者投稿、新聞一面などの具体的な課題への取り組みを重視。毎回出席をとり、それも評価に加味する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

各クラスの進み方により、すべての内容カバーしない場合がある。特に新聞一面をつくるは行なわない可能性もある。

教科書 / Textbooks

特になし

参考書 / Reference Books**書名 / Title****出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment**

「実践ジャーナリスト育成講座」

花田達朗・ニューズラボ研究会編著 / 平凡社 / / 2004年

「新聞の読み方上達法」

熊田亘 / ほるぷ出版 / / 1994年

「意見広告、入門」

糸川精一 / 日本機関紙出版センター / / 1984年

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference**その他 / Others**

プロジェクトスタディIA 3A

13194

担当者名 / Instructor 山下 秋二

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

スポーツと社会の関わり方を学ぶ

この授業では、スポーツの成り立っている社会的仕組みや社会に与えている影響はどのようなものかを、スポーツを取り扱っている雑誌や文献、新聞に表れているスポーツ事象を通して学び、それぞれ任意のテーマを設定して、レポートにまとめることにしたいと思います。そのため授業は以下のような組み立てで行います。まずスポーツと社会の関わり方を学んでいく課題や方向を、幾つか代表的著作の章構成やトピックを参照していくことからはかんでいきたいと思っています。つぎに主に新聞を素材に、スポーツと社会の関連について具体的な事例を検討していきたいと思っています。それを経て、基本的な文献の読解と、またそれぞれに応じたトピックとを探索作業を行いたいと思っています。この作業は班ごとに行い、報告とディスカッションと言うプロセスをとり、授業終了時にレポートとしてまとめたいと思います。

到達目標 / Attainment Objectives

- 1) スポーツと社会との幅広い関連を理解できる目を養うこと。
- 2) 情報を集め、分析し、それを表現する能力をつけること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	スポーツと社会一課題の多様性を知る	政治、ビジネス、社会病理
第2回	メディアで報道されるスポーツ (1)ビジネス	スポーツビジネス、市場
第3回	メディアで報道されるスポーツ (2)政治	地域、社会病理、若者
第4回	メディアで報道されるスポーツ (3)グローバル化	国際関係、移民、グローバルマーケット
第5回	メディアで報道されるスポーツ (4)マスメディア	グローバルメディア、国際競技大会、スポーツスター
第6回	班別の課題設定と作業スケジュールの議論	
第7回	基本テキストの読解と討論	
第8回	基本テキストの読解と討論	
第9回	基本テキストの読解と討論	
第10回	基本テキストの読解と討論	
第11回	基本テキストの読解と討論	
第12回	班別課題報告とディスカッション	
第13回	班別課題報告とディスカッション	
第14回	班別課題報告とディスカッション	
第15回	クラス全体でのディスカッション: スポーツと社会の関連枠組みと課題	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

授業進度に応じて個別に指示する。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	60 %	
平常点(日常的)	40 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

主体的に課題発見を行うよう、受け身ではなく授業に積極的に参加し、みずから作り上げていくことを望みたい。

教科書 / Textbooks

授業開始後、学生の関心に応じて個々のクラスごとに指示する予定である。

参考書 / Reference Books

授業中適宜指示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

日本スポーツ産業学会 <http://www.spo-sun.gr.jp/html/index/index.html>
 日本スポーツ社会学会 <http://www.jsss.jp/>
 日本体育学会 <http://www.soc.nii.ac.jp/jspe3/>

授業の概要 / Course Outline

「スポーツと社会の関わり方を学ぶ」

この授業では、スポーツの成り立っている社会的仕組みや社会に与えている影響はどのようなものかを、スポーツを取り扱っている雑誌や文献、新聞に表れているスポーツ事象を通して学び、それぞれ任意のテーマを設定して、レポートにまとめることにしたいと思います。そのため授業は以下のような組み立てで行います。まずスポーツと社会の関わり方を学んでいく課題や方向を、幾つか代表的著作の章構成やトピックを参照していくことからつかんでいきたいと思ひます。つぎに主に新聞を素材に、スポーツと社会の関連について具体的な事例を検討していきたいと思ひます。それを経て、基本的な文献の読解と、またそれぞれに応じたトピックとを探索作業を行いたいと思ひます。この作業は班ごとに行い、報告とディスカッションと言うプロセスをとり、授業終了時にレポートとしてまとめたいと思ひます。

到達目標 / Attainment Objectives

- 1) スポーツと社会との幅広い関連を理解できる目を養うこと。
- 2) 情報を集め、分析し、それを表現する能力をつけること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study**授業スケジュール / Course Schedule**

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	スポーツと社会一課題の多様性を知る	政治、ビジネス、社会病理
第2回	メディアで報道されるスポーツ (1)ビジネス	スポーツビジネス、市場
第3回	メディアで報道されるスポーツ (2)政治	地域、社会病理、若者
第4回	メディアで報道されるスポーツ (3)グローバル化	国際関係、移民、グローバルマーケット
第5回	メディアで報道されるスポーツ (4)マスメディア	グローバルメディア、国際競技大会、スポーツスター
第6回	班別の課題設定と作業スケジュールの議論	
第7回	基本テキストの読解と討論	
第8回	基本テキストの読解と討論	
第9回	基本テキストの読解と討論	
第10回	基本テキストの読解と討論	
第11回	基本テキストの読解と討論	
第12回	班別課題報告とディスカッション	
第13回	班別課題報告とディスカッション	
第14回	班別課題報告とディスカッション	
第15回	クラス全体でのディスカッション: スポーツと社会の関連枠組みと課題	

**(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method**

授業進度に応じて個別に指示する。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	60 %	
平常点(日常的)	40 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

主体的に課題発見を行うよう、受け身ではなく授業に積極的に参加し、みずから作り上げていくことを望みたい。

教科書 / Textbooks

授業開始後、学生の関心に応じて個々のクラスごとに指示する予定である。

参考書 / Reference Books

授業中適宜指示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

日本スポーツ産業学会 <http://www.spo-sun.gr.jp/html/index/index.html>

日本スポーツ社会学会 <http://www.jsss.jp/>

日本体育学会 <http://www.soc.nii.ac.jp/jspe3/>

担当者名 / Instructor 権 学俊

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツと社会の関わり方を学ぶ」

この授業では、スポーツの成り立っている社会的仕組みや社会に与えている影響はどのようなものかを、スポーツを取り扱っている雑誌や文献、新聞に表れているスポーツ事象を通して学び、それぞれ任意のテーマを設定して、レポートにまとめることにしたいと思います。そのため授業は以下のような組み立てで行います。まずスポーツと社会の関わり方を学んでいく課題や方向を、幾つか代表的著作の章構成やトピックを参照していくことからつかんでいきたいと思ひます。つぎに主に新聞を素材に、スポーツと社会の関連について具体的な事例を検討していきたいと思ひます。それを経て、基本的な文献の読解と、またそれぞれに応じたトピックとを探索作業を行いたいと思ひます。この作業は班ごとに行い、報告とディスカッションと言うプロセスをとり、授業終了時にレポートとしてまとめたいと思ひます。

到達目標 / Attainment Objectives

- 1) スポーツと社会との幅広い関連を理解できる目を養うこと。
- 2) 情報を集め、分析し、それを表現する能力をつけること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study**授業スケジュール / Course Schedule**

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	スポーツと社会一課題の多様性を知る	政治、ビジネス、社会病理
第2回	メディアで報道されるスポーツ (1)ビジネス	スポーツビジネス、市場
第3回	メディアで報道されるスポーツ (2)政治	地域、社会病理、若者
第4回	メディアで報道されるスポーツ (3)グローバル化	国際関係、移民、グローバルマーケット
第5回	メディアで報道されるスポーツ (4)マスメディア	グローバルメディア、国際競技大会、スポーツスター
第6回	班別の課題設定と作業スケジュールの議論	
第7回	基本テキストの読解と討論	
第8回	基本テキストの読解と討論	
第9回	基本テキストの読解と討論	
第10回	基本テキストの読解と討論	
第11回	基本テキストの読解と討論	
第12回	班別課題報告とディスカッション	
第13回	班別課題報告とディスカッション	
第14回	班別課題報告とディスカッション	
第15回	クラス全体でのディスカッション: スポーツと社会の関連枠組みと課題	

**(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method**

授業進度に応じて個別に指示する。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	60 %	
平常点(日常的)	40 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

主体的に課題発見を行うよう、受け身ではなく授業に積極的に参加し、みずから作り上げていくことを望みたい。

教科書 / Textbooks

授業開始後、学生の関心に応じて個々のクラスごとに指示する予定である。

参考書 / Reference Books

授業中適宜指示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

日本スポーツ産業学会 <http://www.spo-sun.gr.jp/html/index/index.html>

日本スポーツ社会学会 <http://www.jsss.jp/>

日本体育学会 <http://www.soc.nii.ac.jp/jspe3/>

プロジェクトスタディA 3D

13197

担当者名 / Instructor 山下 高行

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ文化を学ぶ」

スポーツとはどのような文化なのか、それはどのような発展をしてきたのか、また現在スポーツ文化はどのような問題を持っているのか、これらを歴史や文化論、遊び論などの文献や、新聞に表れているスポーツ事象を通して学び、それぞれ任意のテーマを設定してレポートにまとめることにしたいと思います。そのため授業は以下のような組み立てで行います。まずスポーツ文化を学んでいく課題や方向を、代表的著作の章構成やトピックを参照していくことから考えていきたいと思います。つぎに主に新聞を素材に、スポーツ文化が現在どのようにとらえられているのか、その「語られ方」の中から考えていきたいと思います。それを経て、基本的な文献の読解と、またそれぞれに応じたトピックとを探するという作業を行いたいと思います。この作業は班ごとに行い、報告とディスカッションというプロセスをとり、授業終了時にレポートとしてまとめたいと思います。

到達目標 / Attainment Objectives

- 1) 自らのスポーツ像の「概念砕き」等を通して「スポーツ」という文化を対象的に捕らえられる目を養うこと。
- 2) 情報を集め、分析し、それを表現する能力をつけること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	スポーツ文化を学ぶ一課題の多様性を知る	文化、スポーツ、人間、歴史
第2回	メディアに表れたスポーツ文化 (1) 身体	身体、健康、医療、障害者
第3回	メディアに表れたスポーツ文化 (2) 規範	ルール、スポーツマンシップ、フェアプレー
第4回	メディアに表れたスポーツ文化 (3) 教育	学校、生涯教育
第5回	メディアに表れたスポーツ文化 (4) 競技	ゲーム、開会式、賞
第6回	班別の課題設定と作業スケジュールの議論	
第7回	基本テキストの読解と討論	
第8回	基本テキストの読解と討論	
第9回	基本テキストの読解と討論	
第10回	基本テキストの読解と討論	
第11回	基本テキストの読解と討論	
第12回	班別課題報告とディスカッション	
第13回	班別課題報告とディスカッション	
第14回	班別課題報告とディスカッション	
第15回	クラス全体でのディスカッション: スポーツ文化とは何か	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

授業進度に応じて個別に指示する。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	60 %	
平常点(日常的)	40 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

主体的に課題発見を行うよう、受け身ではなく授業に積極的に参加し、みずから作り上げていくことを望みたい。

教科書 / Textbooks

授業開始後、学生の関心に応じて個々のクラスごとに指示する予定である。

参考書 / Reference Books

授業中適宜指示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

日本スポーツ社会学会 <http://www.jsss.jp/>
 日本体育学会 <http://www.soc.nii.ac.jp/jspe3/>
 日本体育学会体育史専門分科会 <http://www.taiikushi.org/>
 スポーツ史学会 <http://www.soc.nii.ac.jp/jssh/>

プロジェクトスタディA 3E

13198

担当者名 / Instructor 藪 耕太郎

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ文化を学ぶ」

スポーツとはどのような文化なのか、それはどのような発展をしてきたのか、また現在スポーツ文化はどのような問題を持っているのか、これらを歴史や文化論、遊び論などの文献や、新聞に表れているスポーツ事象を通して学び、それぞれ任意のテーマを設定してレポートにまとめることにしたいと思います。そのため授業は以下のような組み立てで行います。まずスポーツ文化を学んでいく課題や方向を、代表的著作の章構成やトピックを参照していくことから考えていきたいと思います。つぎに主に新聞を素材に、スポーツ文化が現在どのようにとらえられているのか、その「語られ方」の中から考えていきたいと思います。それを経て、基本的な文献の読解と、またそれぞれに応じたトピックとを探するという作業を行いたいと思います。この作業は班ごとに行い、報告とディスカッションというプロセスをとり、授業終了時にレポートとしてまとめたいと思います。

到達目標 / Attainment Objectives

- 1) 自らのスポーツ像の「概念砕き」等を通して「スポーツ」という文化を対象的に捕らえられる目を養うこと。
- 2) 情報を集め、分析し、それを表現する能力をつけること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	スポーツ文化を学ぶ一課題の多様性を知る	文化、スポーツ、人間、歴史
第2回	メディアに表れたスポーツ文化 (1) 身体	身体、健康、医療、障害者
第3回	メディアに表れたスポーツ文化 (2) 規範	ルール、スポーツマンシップ、フェアプレー
第4回	メディアに表れたスポーツ文化 (3) 教育	学校、生涯教育
第5回	メディアに表れたスポーツ文化 (4) 競技	ゲーム、開会式、賞
第6回	班別の課題設定と作業スケジュールの議論	
第7回	基本テキストの読解と討論	
第8回	基本テキストの読解と討論	
第9回	基本テキストの読解と討論	
第10回	基本テキストの読解と討論	
第11回	基本テキストの読解と討論	
第12回	班別課題報告とディスカッション	
第13回	班別課題報告とディスカッション	
第14回	班別課題報告とディスカッション	
第15回	クラス全体でのディスカッション: スポーツ文化とは何か	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

授業進度に応じて個別に指示する。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	60 %	
平常点(日常的)	40 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

主体的に課題発見を行うよう、受け身ではなく授業に積極的に参加し、みずから作り上げていくことを望みたい。

教科書 / Textbooks

授業開始後、学生の関心に応じて個々のクラスごとに指示する予定である。

参考書 / Reference Books

授業中適宜指示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

日本スポーツ社会学会 <http://www.jsss.jp/>
 日本体育学会 <http://www.soc.nii.ac.jp/jspe3/>
 日本体育学会体育史専門分科会 <http://www.taiikushi.org/>
 スポーツ史学会 <http://www.soc.nii.ac.jp/jssh/>

授業の概要 / Course Outline

スポーツ文化を学ぶ」

スポーツとはどのような文化なのか、それはどのような発展をしてきたのか、また現在スポーツ文化はどのような問題を持っているのか、これらを歴史や文化論、遊び論などの文献や、新聞に表れているスポーツ事象を通して学び、それぞれ任意のテーマを設定してレポートにまとめることにしたいと思います。そのため授業は以下のような組み立てで行います。まずスポーツ文化を学んでいく課題や方向を、代表的著作の章構成やトピックを参照していくことから考えていきたいと思います。つぎに主に新聞を素材に、スポーツ文化が現在どのようにとらえられているのか、その「語られ方」の中から考えていきたいと思います。それを経て、基本的な文献の読解と、またそれぞれに応じたトピックとを探するという作業を行いたいと思います。この作業は班ごとに行い、報告とディスカッションというプロセスをとり、授業終了時にレポートとしてまとめたいと思います。

到達目標 / Attainment Objectives

- 1) 自らのスポーツ像の「概念砕き」等を通して「スポーツ」という文化を対象的に捕らえられる目を養うこと。
- 2) 情報を集め、分析し、それを表現する能力をつけること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study**授業スケジュール / Course Schedule**

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	スポーツ文化を学ぶ一課題の多様性を知る	文化、スポーツ、人間、歴史
第2回	メディアに表れたスポーツ文化 (1) 身体	身体、健康、医療、障害者
第3回	メディアに表れたスポーツ文化 (2) 規範	ルール、スポーツマンシップ、フェアプレー
第4回	メディアに表れたスポーツ文化 (3) 教育	学校、生涯教育
第5回	メディアに表れたスポーツ文化 (4) 競技	ゲーム、開会式、賞
第6回	班別の課題設定と作業スケジュールの議論	
第7回	基本テキストの読解と討論	
第8回	基本テキストの読解と討論	
第9回	基本テキストの読解と討論	
第10回	基本テキストの読解と討論	
第11回	基本テキストの読解と討論	
第12回	班別課題報告とディスカッション	
第13回	班別課題報告とディスカッション	
第14回	班別課題報告とディスカッション	
第15回	クラス全体でのディスカッション: スポーツ文化とは何か	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

授業進度に応じて個別に指示する。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	60 %	
平常点(日常的)	40 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

主体的に課題発見を行うよう、受け身ではなく授業に積極的に参加し、みずから作り上げていくことを望みたい。

教科書 / Textbooks

授業開始後、学生の関心に応じて個々のクラスごとに指示する予定である。

参考書 / Reference Books

授業中適宜指示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

日本スポーツ社会学会 <http://www.jsss.jp/>
 日本体育学会 <http://www.soc.nii.ac.jp/jspe3/>
 日本体育学会体育史専門分科会 <http://www.taiikushi.org/>
 スポーツ史学会 <http://www.soc.nii.ac.jp/jssh/>

プロジェクトスタディIA 3G

13200

担当者名 / Instructor 西原 茂樹

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツと社会の関わり方を学ぶ」

この授業では、スポーツの成り立っている社会的仕組みや社会に与えている影響はどのようなものかを、スポーツを取り扱っている雑誌や文献、新聞に表れているスポーツ事象を通して学び、それぞれ任意のテーマを設定して、レポートにまとめることにしたいと思います。そのため授業は以下のような組み立てで行います。まずスポーツと社会の関わり方を学んでいく課題や方向を、幾つか代表的著作の章構成やトピックを参照していくことからつかんでいきたいと思ひます。つぎに主に新聞を素材に、スポーツと社会の関連について具体的な事例を検討していきたいと思ひます。それを経て、基本的な文献の読解と、またそれぞれに応じたトピックとを探す作業を行いたいと思ひます。この作業は班ごとに行い、報告とディスカッションと言うプロセスをとり、授業終了時にレポートとしてまとめたいと思ひます。

到達目標 / Attainment Objectives

- 1) スポーツと社会との幅広い関連を理解できる目を養うこと。
- 2) 情報を集め、分析し、それを表現する能力をつけること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	テーマ : スポーツと社会一課題の多様性を知る	キーワード 政治、ビジネス、社会病理
第2回	テーマ : メディアで報道されるスポーツ (1) ビジネス	キーワード スポーツビジネス、市場
第3回	テーマ : メディアで報道されるスポーツ (2) 政治	キーワード 地域、社会病理、若者
第4回	テーマ : メディアで報道されるスポーツ (3) グローバル化	キーワード 国際関係、移民、グローバルマーケット
第5回	テーマ : メディアで報道されるスポーツ (4) マスメディア	キーワード グローバルメディア、国際競技大会、スポーツスター
第6回	テーマ : 班別の課題設定と作業スケジュールの議論	
第7回	テーマ : 基本テキストの読解と討論	
第8回	テーマ : 基本テキストの読解と討論	
第9回	テーマ : 基本テキストの読解と討論	
第10回	テーマ : 基本テキストの読解と討論	
第11回	テーマ : 基本テキストの読解と討論	
第12回	テーマ : 班別課題報告とディスカッション	
第13回	テーマ : 班別課題報告とディスカッション	
第14回	テーマ : 班別課題報告とディスカッション	
第15回	テーマ : クラス全体でのディスカッション: スポーツと社会の関連枠組みと課題	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

授業震度に応じて個別に支持する。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	60 %	
平常点(日常的)	40 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

主体的に課題発見を行うよう、受け身ではなく授業に積極的に参加し、みずから作り上げていくことを望みたい。

教科書 / Textbooks

授業開始後、学生の関心に応じて個々のクラスごとに指示する予定である。

参考書 / Reference Books

授業中適宜指示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

日本スポーツ産業学会 <http://www.spo-sun.gr.jp/html/index/index.html>

日本スポーツ社会学会 <http://www.jsss.jp/>
日本体育学会 <http://www.soc.nii.ac.jp/jspe3/>

その他 / Others

プロジェクトスタディA 4A

13201

担当者名 / Instructor 伊藤 隆司

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

基本的テーマは「自分の教育体験を概念的に把握する」ことにあります。初等、中等教育においては被教育者であったみなさん一人ひとりが、1年間の学生生活を体験したのち、あらためてみずからの受けてきた学校教育を俯瞰し、体験を構造的に把握し、3年次の専門演習などの出発点を発見できるようにすることを目標としています。

教育の問題を語る時、必ず自分自身の教育体験(被教育体験)をベースにして語るようになるでしょう。それはそれで重要なことなのですが、ここでは、教育的事実を社会の主体である人間の再生産の問題として考えます。これが教育体験の構造的把握という意味です。

そのために、荻谷剛彦『大衆教育社会のゆくえ』(中公新書、1995年)を共通テキストとします。このテキストは、上にのべたことを、「メリトクラシー」「大衆社会」「階層」といったキーコンセプト(鍵概念)として、戦後の教育変動を説明しようとしています。受講生自身の教育体験を、その保護者世代、祖父母世代からの再生産の営為として考えます。教育学的な発想のなかには、どのような内容(教育課程)を、どのように(教育方法)行うのかという根幹となる課題があります。プロジェクトスタディを主宰、運営するにあたって、この観点を貫きたいと考えています。それはつぎのようなことです。

到達目標 / Attainment Objectives

- 1 自分の受けてきた教育体験を、教育社会学的タームの読解を通じて社会認識とすることができる。
- 2 学ぶ立場から教える立場への転換(教育的関係の可視化・自覚化)をはかることができる。
- 3 説明する立場になってはじめて学ぶ必要を発見する、という体験をする。
- 4 わかるように伝えるということはこのプロジェクトを通して身につける。
- 5 社会構造とその歴史主体のあり方について理解する。
- 6 データとその意味理解などをふくめてテキスト読解の基礎を身につける。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	テーマの設定と運営方法について	
第2回	大衆教育社会の理解 受講生による確認	
第3回	大衆教育社会と受講生の教育体験・報告と討論	
第4回	学校をとりまく貧困と階層の問題	
第5回	学校をとりまく貧困と階層の問題・報告と討論	
第6回	教育の機会と階層問題	
第7回	教育の機会と階層問題 / 報告と討論	
第8回	昼間まとめ	
第9回	社会的再生と学歴主義	
第10回	社会的再生と学歴主義・報告と討論	
第11回	文化的再生産論または不平等の再生産	
第12回	文化的再生産論または不平等の再生産・報告と討論	
第13回	1990年代以降の日本の学校と教育	
第14回	1990年代以降の日本の学校と教育・報告と討論	
第15回	大衆教育社会のなかに自分たちの生活と学びを位置づける/総括討論	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	60 %	
平常点(検証テスト)	40 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『大衆教育社会のゆくえ』	荻谷剛彦 / 中公新書 / /

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

『学校って何だろう』

苅谷剛彦／ちくま文庫／／

『考えある技術』

苅谷剛彦・西研／ちくま文庫／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

プロジェクトスタディIA 4B

13202

担当者名 / Instructor 大谷 いづみ

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

基本的テーマは「自分の教育体験を概念的に把握する」ことにあります。初等、中等教育においては被教育者であったみなさん一人ひとりが、1年間の学生生活を体験したのち、あらためてみずからの受けてきた学校教育を俯瞰し、体験を構造的に把握し、3年次の専門演習などの出発点を発見できるようにすることを目標としています。

教育の問題を語る時、必ず自分自身の教育体験(被教育体験)をベースにして語ることになるでしょう。それはそれで重要なことなのですが、ここでは、教育的事実を社会の主体である人間の再生産の問題として考えます。これが教育体験の構造的把握という意味です。

そのために、荻谷剛彦『大衆教育社会のゆくえ』(中公新書、1995年)を共通テキストとします。このテキストは、上にのべたことを、「メリトクラシー」「大衆社会」「階層」といったキーコンセプト(鍵概念)として、戦後の教育変動を説明しようとしています。受講生自身の教育体験を、その保護者世代、祖父母世代からの再生産の営為として考えます。教育学的な発想のなかには、どのような内容(教育課程)を、どのように(教育方法)行うのかという根幹となる課題があります。プロジェクトスタディを主宰、運営するにあたって、この観点を貫きたいと考えています。それはつぎのようなことです。

到達目標 / Attainment Objectives

- 1 自分の受けてきた教育体験を、教育社会学的タームの読解を通じて社会認識とすることができる。
- 2 学ぶ立場から教える立場への転換(教育的関係の可視化・自覚化)をはかることができる。
- 3 説明する立場になってはじめて学ぶ必要を発見する、という体験をする。
- 4 わかるように伝えるということはこのプロジェクトを通して身につける。
- 5 社会構造とその歴史主体のあり方について理解する。
- 6 データとその意味理解などをふくめてテキスト読解の基礎を身につける。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	テーマの設定と運営方法について	
第2回	大衆教育社会の理解 受講生による確認	
第3回	大衆教育社会と受講生の教育体験・報告と討論	
第4回	学校をとりまく貧困と階層の問題	
第5回	学校をとりまく貧困と階層の問題・報告と討論	
第6回	教育の機会と階層問題	
第7回	教育の機会と階層問題 / 報告と討論	
第8回	昼間まとめ	
第9回	社会的再生と学歴主義	
第10回	社会的再生と学歴主義・報告と討論	
第11回	文化的再生産論または不平等の再生産	
第12回	文化的再生産論または不平等の再生産・報告と討論	
第13回	1990年代以降の日本の学校と教育	
第14回	1990年代以降の日本の学校と教育・報告と討論	
第15回	大衆教育社会のなかに自分たちの生活と学びを位置づける/総括討論	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	60 %	
平常点(検証テスト)	40 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『大衆教育社会のゆくえ』	荻谷剛彦 / 中公新書 / /

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

『学校って何だろう』

苅谷剛彦／ちくま文庫／／

『考えある技術』

苅谷剛彦・西研／ちくま文庫／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

プロジェクトスタディIA 4C

13203

担当者名 / Instructor 中山 一樹

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

基本的テーマは「自分の教育体験を概念的に把握する」ことにあります。初等、中等教育においては被教育者であったみなさん一人ひとりが、1年間の学生生活を体験したのち、あらためてみずからの受けてきた学校教育を俯瞰し、体験を構造的に把握し、3年次の専門演習などの出発点を発見できるようにすることを目標としています。

教育の問題を語る時、必ず自分自身の教育体験(被教育体験)をベースにして語ることになるでしょう。それはそれで重要なことなのですが、ここでは、教育的事実を社会の主体である人間の再生産の問題として考えます。これが教育体験の構造的把握という意味です。

そのために、荻谷剛彦『大衆教育社会のゆくえ』(中公新書、1995年)を共通テキストとします。このテキストは、上にのべたことを、「メリトクラシー」「大衆社会」「階層」といったキーコンセプト(鍵概念)として、戦後の教育変動を説明しようとしています。受講生自身の教育体験を、その保護者世代、祖父母世代からの再生産の営為として考えます。教育学的な発想のなかには、どのような内容(教育課程)を、どのように(教育方法)行うのかという根幹となる課題があります。プロジェクトスタディを主宰、運営するにあたって、この観点を貫きたいと考えています。それはつぎのようなことです。

到達目標 / Attainment Objectives

- 1 自分の受けてきた教育体験を、教育社会学的タームの読解を通じて社会認識とすることができる。
- 2 学ぶ立場から教える立場への転換(教育的関係の可視化・自覚化)をはかることができる。
- 3 説明する立場になってはじめて学ぶ必要を発見する、という体験をする。
- 4 わかるように伝えるということはこのプロジェクトを通して身につける。
- 5 社会構造とその歴史主体のあり方について理解する。
- 6 データとその意味理解などをふくめてテキスト読解の基礎を身につける。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	テーマの設定と運営方法について	
第2回	大衆教育社会の理解 受講生による確認	
第3回	大衆教育社会と受講生の教育体験・報告と討論	
第4回	学校をとりまく貧困と階層の問題	
第5回	学校をとりまく貧困と階層の問題・報告と討論	
第6回	教育の機会と階層問題	
第7回	教育の機会と階層問題/報告と討論	
第8回	昼間まとめ	
第9回	社会的再生と学歴主義	
第10回	社会的再生と学歴主義・報告と討論	
第11回	文化的再生産論または不平等の再生産	
第12回	文化的再生産論または不平等の再生産・報告と討論	
第13回	1990年代以降の日本の学校と教育	
第14回	1990年代以降の日本の学校と教育・報告と討論	
第15回	大衆教育社会のなかに自分たちの生活と学びを位置づける/総括討論	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	60 %	
平常点(検証テスト)	40 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『大衆教育社会のゆくえ』	荻谷剛彦 / 中公新書 / 199 /

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
------------	--

『学校って何だろう』

苅谷剛彦／ちくま文庫／／

『考えある技術』

苅谷剛彦／ちくま文庫／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

授業の概要 / Course Outline

近年の日本社会の状況は、「貧困」の広がりが誰にでも見える時代になったと言って過言でない。年収200万円以下の労働者が1000万人を越えたという。「ワーキングプア」のことだ。がそればかりか「違法ハケン」「ピンハネ」「偽装請け負い」が蔓延し、正社員は「カローシ(過労死)」の淵に立たされている。都市のホームレスは「ネットカフェ難民」や「河川敷生活者」に広がっている。一方、困窮しても生活保護の申請をさせてもらえなかった男性が、「おにぎり食べたい」と書き残し餓死していた。90歳のお母さんと介護していた60歳代の娘さんが2人とも亡くなって発見された事件や介護殺人など悲惨な事件もあとを絶たない。「新しい貧困」の一つとして人々の孤立や社会的排除も問題となっている。

ところで、受講生の皆さんが「あなたは今豊かですか？それとも貧しいですか？」と問われたとしたら、答えに窮するだろう。簡単な例をあげれば、「アルバイトを沢山しているからお金は困っていないが時間がない」場合、自由なお金は「豊か」だが自由な時間は「貧しい」ことになる。下宿している学生の住居は豊かであろうか？「三間(時間・空間・仲間)の喪失」ということばがあるが「豊かさ」がモノだけでは測れないよい例である。「貧困」は人ごとではないということでもある。

さて、先に示した人々の「貧困」は個人責任に帰すべきであろうか？貧困の中には、明らかに人為的に作られものも多いが、中には一見個人責任のように見えても、社会的要因を少なからずもっているものもある。ではなぜ個人責任のように見えるのか、それは生活問題の多くは「私生活」の困難として現われからである。しかし社会福祉の立場から、生活問題を解決または緩和するためには、社会や地域全体への対応と個人や家庭に対する個別的支援の両方が必要となる。例えて言うならば「森を見る」と「木を見る」の違い、「鳥の眼で見る」と「虫の眼で見る」の違いである。

貧困を考えると暗い気持ちになってしまうが、暗い事ばかりでもない。世論の力で薬害肝炎の被害者全員が救済されるという画期的な動きがある。生活保護が必要な人々の権利が保障される動きもある。このことは、私たちが主体者として問題を解決・緩和できる可能性を示している。その基本は福祉社会のシステムを人間の力で再構築していくという実践である。人々が「生きていて良かった」と言える社会は、家庭・諸組織・地域・社会全体において、人々の協同と社会福祉制度を再生し持続させる実践によって実現される。

本プロジェクトスタディはこうした展望を、「真の豊かさ」の理解に求めテキストを選択した。テキストの精読と討議、レポート作成により「アカデミックリーディング」「アカデミックライティング」の基礎を修得する。

到達目標 / Attainment Objectives

- ①「福祉社会」に関わる現実の理解及び基本的な知識と考え方の修得
- ②文献・資料を的確に理解し、それを正確に表現し伝える能力の形成

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	人間福祉専攻「分野I」の概要、目標、進め方／「豊かさ」の考え方	アカデミックリーディング、豊かさ
第2回	文献I・切り裂かれる労働と生活の世界	労働と生活、生活の不安、低賃金と失業、過労死、貧困とホームレス、社会的排除、多重債務
第3回	文献I・不安な社会に生きる子供たち	日本と西ドイツの子ども、教育の豊かさと貧しさ、競争の中の子ども
第4回	なぜ助け合うのか	助け合い、いじめ・不登校、生活の全体性、助け合いで支える心、ボランティア
第5回	文献I・NGOの活動と若者達	NGO、内戦と難民、阪神大震災、援助活動、山が動く
第6回	文献I・支え合う人間の歴史・希望を拓く	人間の歴史、生存競争、生活の共同、協同組合、豊かさの条件
第7回	討議のまとめとアカデミックライティング演習・指導	アカデミックライティング
第8回	文献II・現代の社会をどうとらえるか	現代社会、福祉国家、環境・福祉・経済、市場、大きな国家と小さな国家
第9回	文献II・個人の生活保障はどうあるべきか	社会保障、コミュニティの解体、雇用、医療・介護、ライフサイクル、三世モデル、税財源
第10回	文献II・福祉の充実は環境と両立するか	環境・エコロジカル、個人の自由、機会の平等・潜在的自由、地域レベルと地球レベル
第11回	文献II・新たな「豊かさ」のかたちを求めて	市場、成長と定常状態、定常型社会、持続可能、時間観、セーフティネット、営利と非営利
第12回	討議のまとめとアカデミックライティング演習・指導	アカデミックライティング
第13回	参考文献・副教材の活用とアカデミックライティング演習・指導	アカデミックライティング
第14回	参考文献・副教材の活用とアカデミックライティング演習・指導	アカデミックライティング
第15回	参考文献・副教材の活用とアカデミックライティング演習・指導／到達目標の再確認	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	70 %	レポート課題は分野で統一したものを示します。
平常点(日常的)	30 %	日常点には、出席、授業における報告・討議などの取り組みが含まれる。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『豊かさの条件』	暉峻淑子／岩波新書／／
『定常型社会』	広井良典／岩波新書／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

授業の概要 / Course Outline

近年の日本社会の状態は、「貧困」の広がりが誰にでも見える時代になったと言って過言でない。年収200万円以下の労働者が1000万人を越えたという。「ワーキングプア」のことだ。がそればかりか「違法ハケン」「ピンハネ」「偽装請け負い」が蔓延し、正社員は「カローシ(過労死)」の淵に立たされている。都市のホームレスは「ネットカフェ難民」や「河川敷生活者」に広がっている。一方、困窮しても生活保護の申請をさせてもらえなかった男性が、「おにぎり食べたい」と書き残し餓死していた。90歳のお母さんと介護していた60歳代の娘さんが2人とも亡くなって発見された事件や介護殺人など悲惨な事件もあとを絶たない。「新しい貧困」の一つとして人々の孤立や社会的排除も問題となっている。

ところで、受講生の皆さんが「あなたは今豊かですか？それとも貧しいですか？」と問われたとしたら、答えに窮するだろう。簡単な例をあげれば、「アルバイトを沢山しているからお金は困っていないが時間がない」場合、自由なお金は「豊か」だが自由な時間は「貧しい」ことになる。下宿している学生の住居は豊かであろうか？「三間(時間・空間・仲間の喪失)」ということばがあるが「豊かさ」がモノだけでは測れないよい例である。「貧困」は人ごとではないということでもある。

さて、先に示した人々の「貧困」は個人責任に帰すべきであろうか？貧困の中には、明らかに人為的に作られものも多いが、中には一見個人責任のように見えても、社会的要因を少なからずもっているものもある。ではなぜ個人責任のように見えるのか、それは生活問題の多くは「私生活」の困難として現われからである。しかし社会福祉の立場から、生活問題を解決または緩和するためには、社会や地域全体への対応と個人や家庭に対する個別的支援の両方が必要となる。例えて言うならば「森を見る」と「木を見る」の違い、「鳥の眼で見る」と「虫の眼で見る」の違いである。

貧困を考えると暗い気持ちになってしまうが、暗い事ばかりでもない。世論の力で薬害肝炎の被害者全員が救済されるという画期的な動きがある。生活保護が必要な人々の権利が保障される動きもある。このことは、私たちが主体者として問題を解決・緩和できる可能性を示している。その基本は福祉社会のシステムを人間の力で再構築していくという実践である。人々が「生きていて良かった」と言える社会は、家庭・諸組織・地域・社会全体において、人々の協同と社会福祉制度を再生し持続させる実践によって実現される。

本プロジェクトスタディはこうした展望を、「真の豊かさ」の理解に求めテキストを選択した。テキストの精読と討議、レポート作成により「アカデミックリーディング」「アカデミックライティング」の基礎を修得する。

到達目標 / Attainment Objectives

- ①「福祉社会」に関わる現実の理解及び基本的な知識と考え方の修得
- ②文献・資料を的確に理解し、それを正確に表現し伝える能力の形成

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	[人間福祉専攻]「分野 I」の概要、目標、進め方／「豊かさ」の考え方	アカデミックリーディング、豊かさ
第2回	文献 I ・切り裂かれる労働と生活の世界	労働と生活、生活の不安、低賃金と失業、過労死、貧困とホームレス、社会的排除、多重債務
第3回	文献 I ・不安な社会に生きる子供たち	日本と西ドイツの子ども、教育の豊かさと貧しさ、競争の中の子ども
第4回	なぜ助け合うのか	助け合い、いじめ・不登校、生活の全体性、助け合いで支える心、ボランティア
第5回	文献 I ・NGOの活動と若者達	NGO、内戦と難民、阪神大震災、援助活動、山が動く
第6回	文献 I ・支え合う人間の歴史・希望を拓く	人間の歴史、生存競争、生活の共同、協同組合、豊かさの条件
第7回	討議のまとめとアカデミックライティング演習・指導	アカデミックライティング
第8回	文献 II ・現代の社会をどうとらえるか	現代社会、福祉国家、環境・福祉・経済、市場、大きな国家と小さな国家
第9回	文献 II ・個人の生活保障はどうあるべきか	社会保障、コミュニティの解体、雇用、医療・介護、ライフサイクル、三世代モデル、税財源
第10回	文献 II ・福祉の充実は環境と両立するか	環境・エコロジカル、個人の自由、機会の平等・潜在的自由、地域レベルと地球レベル
第11回	文献 II ・新たな「豊かさ」のかたちを求めて	市場、成長と定常状態、定常型社会、持続可能、時間観、セーフティネット、営利と非営利
第12回	討議のまとめとアカデミックライティング演習・指導	アカデミックライティング
第13回	参考文献・副教材の活用とアカデミックライティング演習・指導	アカデミックライティング
第14回	参考文献・副教材の活用とアカデミックライティング演習・指導	アカデミックライティング
第15回	参考文献・副教材の活用とアカデミックライティング演習・指導／到達目標の再確認	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	70 %	レポート課題は分野で統一したものを示します。
平常点(日常的)	30 %	日常点には、出席、授業における報告・討議などの取り組みが含まれる。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『豊かさの条件』	暉峻淑子 / 岩波新書 / /
『定常型社会』	広井良典 / 岩波新書 / /

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

授業の概要 / Course Outline

近年の日本社会の状況は、「貧困」の広がりが誰にでも見える時代になったと言っても過言でない。年収200万円以下の労働者が1000万人を越えたという。「ワーキングプア」のことだ。がそればかりか「違法ハケン」「ピンハネ」「偽装請け負い」が蔓延し、正社員は「カローシ(過労死)」の淵に立たされている。都市のホームレスは「ネットカフェ難民」や「河川敷生活者」に広がっている。一方、困窮しても生活保護の申請をさせてもらえなかった男性が、「おにぎり食べたい」と書き残し餓死していた。90歳のお母さんと介護していた60歳代の娘さんが2人とも亡くなって発見された事件や介護殺人など悲惨な事件もあとを絶たない。「新しい貧困」の一つとして人々の孤立や社会的排除も問題となっている。

ところで、受講生の皆さんが「あなたは今豊かですか？それとも貧しいですか？」と問われたとしたら、答えに窮するだろう。簡単な例をあげれば、「アルバイトを沢山しているでお金は困っていないが時間がない」場合、自由なお金は「豊か」だが自由な時間は「貧しい」ことになる。下宿している学生の住居は豊かであろうか？「三間(時間・空間・仲間)の喪失」ということばがあるが「豊かさ」がモノだけでは測れないよい例である。「貧困」は人ごとではないということでもある。

さて、先に示した人々の「貧困」は個人責任に帰すべきであろうか？貧困の中には、明らかに人為的に作られものも多いが、中には一見個人責任のように見えても、社会的要因を少なからずもっているものもある。ではなぜ個人責任のように見えるのか、それは生活問題の多くは「私生活」の困難として現われからである。しかし社会福祉の立場から、生活問題を解決または緩和するためには、社会や地域全体への対応と個人や家庭に対する個別的支援の両方が必要となる。例えて言うならば「森を見る」と「木を見る」の違い、「鳥の眼で見る」と「虫の眼で見る」の違いである。

貧困を考えると暗い気持ちになってしまうが、暗い事ばかりでもない。世論の力で薬害肝炎の被害者全員が救済されるという画期的な動きがある。生活保護が必要な人々の権利が保障される動きもある。このことは、私たちが主体者として問題を解決・緩和できる可能性を示している。その基本は福祉社会のシステムを人間の力で再構築していくという実践である。人々が「生きていて良かった」と言える社会は、家庭・諸組織・地域・社会全体において、人々の協同と社会福祉制度を再生し持続させる実践によって実現される。

本プロジェクトスタディはこうした展望を、「真の豊かさ」の理解に求めテキストを選択した。テキストの精読と討議、レポート作成により「アカデミックリーディング」「アカデミックライティング」の基礎を修得する。

到達目標 / Attainment Objectives

- ①「福祉社会」に関わる現実の理解及び基本的な知識と考え方の修得
- ②文献・資料を的確に理解し、それを正確に表現し伝える能力の形成

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	[人間福祉専攻]「分野 I」の概要、目標、進め方／「豊かさ」の考え方	アカデミックリーディング、豊かさ
第2回	文献 I・切り裂かれる労働と生活の世界	労働と生活、生活の不安、低賃金と失業、過労死、貧困とホームレス、社会的排除、多重債務
第3回	文献 I・不安な社会に生きる子供たち	日本と西ドイツの子ども、教育の豊かさと貧しさ、競争の中の子ども
第4回	なぜ助け合うのか	助け合い、いじめ・不登校、生活の全体性、助け合いで支える心、ボランティア
第5回	文献 I・NGOの活動と若者達	NGO、内戦と難民、阪神大震災、援助活動、山が動く
第6回	文献 I・支え合う人間の歴史・希望を拓く	人間の歴史、生存競争、生活の共同、協同組合、豊かさの条件
第7回	討議のまとめとアカデミックライティング演習・指導	アカデミックライティング
第8回	文献 II・現代の社会をどうとらえるか	現代社会、福祉国家、環境・福祉・経済、市場、大きな国家と小さな国家
第9回	文献 II・個人の生活保障はどうあるべきか	社会保障、コミュニティの解体、雇用、医療・介護、ライフサイクル、三世モデル、税財源
第10回	文献 II・福祉の充実環境と両立するか	環境・エコロジカル、個人の自由、機会の平等・潜在的自由、地域レベルと地球レベル
第11回	文献 II・新たな「豊かさ」のかたちを求めて	市場、成長と定常状態、定常型社会、持続可能、時間観、セーフティネット、営利と非営利
第12回	討議のまとめとアカデミックライティング演習・指導	アカデミックライティング
第13回	参考文献・副教材の活用とアカデミックライティング演習・指導	アカデミックライティング
第14回	参考文献・副教材の活用とアカデミックライティング演習・指導	アカデミックライティング
第15回	参考文献・副教材の活用とアカデミックライティング演習・指導／到達目標の再確認	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	70 %	レポート課題は分野で統一したものを示します。
平常点(日常的)	30 %	日常点には、出席、授業における報告・討議などの取り組みが含まれる。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『豊かさの条件』	暉峻淑子 / 岩波新書 / /
『定常型社会』	広井良典 / 岩波新書 / /

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

プロジェクトスタディIA 5D

13207

担当者名 / Instructor 竹内 謙彰

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

1. テキストとして、エリクソン『ライフサイクル, その完結』(みすず書房)を用いる。
2. 授業8回程度を使って、グループ単位で丁寧にテキストを講読し、担当グループでないものは各自で該当章を読んだ上でコメントを提出する。
3. 授業は、最初の週が導入、そこで班分けを行うとともにテキストの分担を決める。講読は班ごとに授業1回として8週。それ以外に、教員の側から、エリクソンの研究や生涯に関する情報提供(映像資料等)を2週程度。さらに、班単位で、エリクソンの8つの発達段階に即したテーマでプレゼンテーションを行うのが4週。最後に総括の週を置く

到達目標 / Attainment Objectives

- (1) 発達臨床に関わる基本文献を読み込み理解する力を獲得する。
- (2) テーマをたててチームによるプロジェクト的探求活動を行う力を獲得する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

該当無し

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	テーマ 授業の導入:授業の進め方についての説明, 及び, 班分けと担当章の決定	
第2回	テーマ 講読第1回	
第3回	テーマ 講読第2回	
第4回	テーマ 講読第3回	
第5回	テーマ 講読第4回	
第6回	テーマ 講読第5回	
第7回	テーマ 講読第6回	
第8回	テーマ 講読第7回	
第9回	テーマ 講読第8回	
第10回	テーマ エリクソンの研究と生涯	
第11回	テーマ 各班のテーマによるプレゼンテーション①	
第12回	テーマ 各班のテーマによるプレゼンテーション②	
第13回	テーマ 各班のテーマによるプレゼンテーション③	
第14回	テーマ 各班のテーマによるプレゼンテーション④	
第15回	テーマ 授業全体の総括・・・反省と相互評価	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

授業の前半では、丁寧にテキストを読み込むことが重要なので、発表担当以外の章についても事前に必ず読んでおき、サマリーとコメントを提出すること。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	成果報告レポート
平常点(検証テスト)	50 %	日常的な授業に対する取組状況等の評価

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『ライフサイクル, その完結』	エリクソン / (みすず書房) / 4-622-03967-2 / 2,940円(税込み)

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

プロジェクトスタディIA 5E

13208

担当者名 / Instructor 村本 邦子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

1. テキストとして、エリクソン『ライフサイクル, その完結』(みすず書房)を用いる。
2. 授業8回程度を使って、グループ単位で丁寧にテキストを講読し、担当グループでないものは各自で該当章を読んだ上でコメントを提出する。
3. 授業は、最初の週が導入、そこで班分けを行うとともにテキストの分担を決める。講読は班ごとに授業1回として8週。それ以外に、教員の側から、エリクソンの研究や生涯に関する情報提供(映像資料等)を2週程度。さらに、班単位で、エリクソンの8つの発達段階に即したテーマでプレゼンテーションを行うのが4週。最後に総括の週を置く

到達目標 / Attainment Objectives

- (1) 発達臨床に関わる基本文献を読み込み理解する力を獲得する。
- (2) テーマをたててチームによるプロジェクト的探求活動を行う力を獲得する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

該当無し

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の導入: 授業の進め方についての説明, 及び, 班分けと担当章の決定	
第2回	講読第1回	
第3回	講読第2回	
第4回	講読第3回	
第5回	講読第4回	
第6回	講読第5回	
第7回	講読第6回	
第8回	講読第7回	
第9回	講読第8回	
第10回	エリクソンの研究と生涯	
第11回	各班のテーマによるプレゼンテーション①	
第12回	各班のテーマによるプレゼンテーション②	
第13回	各班のテーマによるプレゼンテーション③	
第14回	各班のテーマによるプレゼンテーション④	
第15回	授業全体の総括・・・反省と相互評価	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

授業の前半では、丁寧にテキストを読み込むことが重要なので、発表担当以外の章についても事前に必ず読んでおき、サマリーとコメントを提出すること。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	成果報告レポート
平常点(検証テスト)	50 %	日常的な授業に対する取組状況等の評価

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『ライフサイクル, その完結』	エリクソン/(みすず書房)/4-622-03967-2/2,940円(税込み)

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

プロジェクトスタディIA 5F

13209

担当者名 / Instructor 櫻谷 真理子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

1. テキストとして、エリクソン『ライフサイクル, その完結』(みすず書房)を用いる。
2. 授業8回程度を使って、グループ単位で丁寧にテキストを講読し、担当グループでないものは各自で該当章を読んだ上でコメントを提出する。
3. 授業は、最初の週が導入、そこで班分けを行うとともにテキストの分担を決める。講読は班ごとに授業1回として8週。それ以外に、教員の側から、エリクソンの研究や生涯に関する情報提供(映像資料等)を2週程度。さらに、班単位で、エリクソンの8つの発達段階に即したテーマでプレゼンテーションを行うのが4週。最後に総括の週を置く

到達目標 / Attainment Objectives

- (1) 発達臨床に関わる基本文献を読み込み理解する力を獲得する。
- (2) テーマをたててチームによるプロジェクト的探求活動を行う力を獲得する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

該当無し

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	テーマ 授業の導入: 授業の進め方についての説明, 及び, 班分けと担当章の決定	
第2回	テーマ 講読第1回	
第3回	テーマ 講読第2回	
第4回	テーマ 講読第3回	
第5回	テーマ 講読第4回	
第6回	テーマ 講読第5回	
第7回	テーマ 講読第6回	
第8回	テーマ 講読第7回	
第9回	テーマ 講読第8回	
第10回	テーマ エリクソンの研究と生涯	
第11回	テーマ 各班のテーマによるプレゼンテーション①	
第12回	テーマ 各班のテーマによるプレゼンテーション②	
第13回	テーマ 各班のテーマによるプレゼンテーション③	
第14回	テーマ 各班のテーマによるプレゼンテーション④	
第15回	テーマ 授業全体の総括...反省と相互評価	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

授業の前半では、丁寧にテキストを読み込むことが重要なので、発表担当以外の章についても事前に必ず読んでおき、サマリーとコメントを提出すること。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	成果報告レポート
平常点(検証テスト)	50 %	日常的な授業に対する取組状況等の評価

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『ライフサイクル, その完結』	エリクソン/(みすず書房) / 4-622-03967-2 / 2,940円(税込み)

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

プロジェクトスタディIA 5G

13210

担当者名 / Instructor 岡田 まり

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

1. テキストとして、エリクソン『ライフサイクル, その完結』(みすず書房)を用いる。
2. 授業8回程度を使って、グループ単位で丁寧にテキストを講読し、担当グループでないものは各自で該当章を読んだ上でコメントを提出する。
3. 授業は、最初の週が導入、そこで班分けを行うとともにテキストの分担を決める。講読は班ごとに授業1回として8週。それ以外に、教員の側から、エリクソンの研究や生涯に関する情報提供(映像資料等)を2週程度。さらに、班単位で、エリクソンの8つの発達段階に即したテーマでプレゼンテーションを行うのが4週。最後に総括の週を置く

到達目標 / Attainment Objectives

- (1) 発達臨床に関わる基本文献を読み込み理解する力を獲得する。
- (2) テーマをたててチームによるプロジェクト的探求活動を行う力を獲得する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

該当無し

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の導入: 授業の進め方についての説明, 及び, 班分けと担当章の決定	
第2回	講読第1回	
第3回	講読第2回	
第4回	講読第3回	
第5回	講読第4回	
第6回	講読第5回	
第7回	講読第6回	
第8回	講読第7回	
第9回	講読第8回	
第10回	エリクソンの研究と生涯	
第11回	各班のテーマによるプレゼンテーション①	
第12回	各班のテーマによるプレゼンテーション②	
第13回	各班のテーマによるプレゼンテーション③	
第14回	各班のテーマによるプレゼンテーション④	
第15回	授業全体の総括・・・反省と相互評価	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

授業の前半では、丁寧にテキストを読み込むことが重要なので、発表担当以外の章についても事前に必ず読んでおき、サマリーとコメントを提出すること。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	成果報告レポート
平常点(検証テスト)	50 %	日常的な授業に対する取組状況等の評価

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『ライフサイクル, その完結』	エリクソン/(みすず書房)/4-622-03967-2/2,940円(税込み)

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

担当者名 / Instructor 芝田 英昭

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

近年の日本社会の状況は、「貧困」の広がりが誰にでも見える時代になったと言っても過言でない。年収200万円以下の労働者が1000万人を越えたという。「ワーキングプア」のことだ。がそればかりか「違法ハケン」「ピンハネ」「偽装請け負い」が蔓延し、正社員は「カローシ(過労死)」の淵に立たされている。都市のホームレスは「ネットカフェ難民」や「河川敷生活者」に広がっている。一方、困窮しても生活保護の申請をさせてもらえなかった男性が、「おにぎり食べたい」と書き残し餓死していた。90歳のお母さんと介護していた60歳代の娘さんが2人とも亡くなって発見された事件や介護殺人など悲惨な事件もあとを絶たない。「新しい貧困」の一つとして人々の孤立や社会的排除も問題となっている。

ところで、受講生の皆さんが「あなたは今豊かですか？それとも貧しいですか？」と問われたとしたら、答えに窮するだろう。簡単な例をあげれば、「アルバイトを沢山しているでお金は困っていないが時間がない」場合、自由なお金は「豊か」だが自由な時間は「貧しい」ことになる。下宿している学生の住居は豊かであろうか？「三間(時間・空間・仲間)の喪失」ということばがあるが「豊かさ」がモノだけでは測れないよい例である。「貧困」は人ごとではないということでもある。

さて、先に示した人々の「貧困」は個人責任に帰すべきであろうか？貧困の中には、明らかに人為的に作られものも多いが、中には一見個人責任のように見えても、社会的要因を少なからずもっているものもある。ではなぜ個人責任のように見えるのか、それは生活問題の多くは「私生活」の困難として現われからである。しかし社会福祉の立場から、生活問題を解決または緩和するためには、社会や地域全体への対応と個人や家庭に対する個別的支援の両方が必要となる。例えて言うならば「森を見る」と「木を見る」の違い、「鳥の眼で見る」と「虫の眼で見る」の違いである。

貧困を考えると暗い気持ちになってしまうが、暗い事ばかりでもない。世論の力で薬害肝炎の被害者全員が救済されるという画期的な動きがある。生活保護が必要な人々の権利が保障される動きもある。このことは、私たちが主体者として問題を解決・緩和できる可能性を示している。その基本は福祉社会のシステムを人間の力で再構築していくという実践である。人々が「生きていて良かった」と言える社会は、家庭・諸組織・地域・社会全体において、人々の協同と社会福祉制度を再生し持続させる実践によって実現される。

本プロジェクトスタディはこうした展望を、「真の豊かさ」の理解に求めテキストを選択した。テキストの精読と討議、レポート作成により「アカデミックリーディング」「アカデミックライティング」の基礎を修得する。

到達目標 / Attainment Objectives

- ①「福祉社会」に関わる現実の理解及び基本的な知識と考え方の修得
- ②文献・資料を的確に理解し、それを正確に表現し伝える能力の形成

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	[人間福祉専攻]「分野 I」の概要、目標、進め方／「豊かさ」の考え方	アカデミックリーディング、豊かさ
第2回	文献 I・切り裂かれる労働と生活の世界	労働と生活、生活の不安、低賃金と失業、過労死、貧困とホームレス、社会的排除、多重債務
第3回	文献 I・不安な社会に生きる子供たち	日本と西ドイツの子ども、教育の豊かさと貧しさ、競争の中の子ども
第4回	なぜ助け合うのか	助け合い、いじめ・不登校、生活の全体性、助け合いで支える心、ボランティア
第5回	文献 I・NGOの活動と若者達	NGO、内戦と難民、阪神大震災、援助活動、山が動く
第6回	文献 I・支え合う人間の歴史・希望を拓く	人間の歴史、生存競争、生活の共同、協同組合、豊かさの条件
第7回	討議のまとめとアカデミックライティング演習・指導	アカデミックライティング
第8回	文献 II・現代の社会をどうとらえるか	現代社会、福祉国家、環境・福祉・経済、市場、大きな国家と小さな国家
第9回	文献 II・個人の生活保障はどうあるべきか	社会保障、コミュニティの解体、雇用、医療・介護、ライフサイクル、三世モデル、税財源
第10回	文献 II・福祉の充実は環境と両立するか	環境・エコロジカル、個人の自由、機会の平等・潜在的自由、地域レベルと地球レベル
第11回	文献 II・新たな「豊かさ」のかたちを求めて	市場、成長と定常状態、定常型社会、持続可能、時間観、セーフティネット、営利と非営利
第12回	討議のまとめとアカデミックライティング演習・指導	アカデミックライティング
第13回	参考文献・副教材の活用とアカデミックライティング演習・指導	アカデミックライティング
第14回	参考文献・副教材の活用とアカデミックライティング演習・指導	アカデミックライティング
第15回	参考文献・副教材の活用とアカデミックライティング演習・指導／到達目標の再確認	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	70 %	レポート課題は分野で統一したものを示します。
平常点(日常的)	30 %	日常点には、出席、授業における報告・討議などの取り組みが含まれる。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『豊かさの条件』	暉峻淑子 / 岩波新書 / /
『定常型社会』	広井良典 / 岩波新書 / /

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

授業の概要 / Course Outline

近年の日本社会の状況は、「貧困」の広がりが誰にでも見える時代になったと言っても過言でない。年収200万円以下の労働者が1000万人を越えたという。「ワーキングプア」のことだ。がそればかりか「違法ハケン」「ピンハネ」「偽装請け負い」が蔓延し、正社員は「カローシ(過労死)」の淵に立たされている。都市のホームレスは「ネットカフェ難民」や「河川敷生活者」に広がっている。一方、困窮しても生活保護の申請をさせてもらえなかった男性が、「おにぎり食べたい」と書き残し餓死していた。90歳のお母さんと介護していた60歳代の娘さんが2人とも亡くなって発見された事件や介護殺人など悲惨な事件もあとを絶たない。「新しい貧困」の一つとして人々の孤立や社会的排除も問題となっている。

ところで、受講生の皆さんが「あなたは今豊かですか？それとも貧しいですか？」と問われたとしたら、答えに窮するだろう。簡単な例をあげれば、「アルバイトを沢山しているからお金は困っていないが時間がない」場合、自由なお金は「豊か」だが自由な時間は「貧しい」ことになる。下宿している学生の住居は豊かであろうか？「三間(時間・空間・仲間)の喪失」ということばがあるが「豊かさ」がモノだけでは測れないよい例である。「貧困」は人ごとではないということでもある。

さて、先に示した人々の「貧困」は個人責任に帰すべきであろうか？貧困の中には、明らかに人為的に作られものも多いが、中には一見個人責任のように見えても、社会的要因を少なからずもっているものもある。ではなぜ個人責任のように見えるのか、それは生活問題の多くは「私生活」の困難として現われからである。しかし社会福祉の立場から、生活問題を解決または緩和するためには、社会や地域全体への対応と個人や家庭に対する個別的支援の両方が必要となる。例えて言うならば「森を見る」と「木を見る」の違い、「鳥の眼で見る」と「虫の眼で見る」の違いである。

貧困を考えると暗い気持ちになってしまうが、暗い事ばかりでもない。世論の力で薬害肝炎の被害者全員が救済されるという画期的な動きがある。生活保護が必要な人々の権利が保障される動きもある。このことは、私たちが主体者として問題を解決・緩和できる可能性を示している。その基本は福祉社会のシステムを人間の力で再構築していくという実践である。人々が「生きていて良かった」と言える社会は、家庭・諸組織・地域・社会全体において、人々の協同と社会福祉制度を再生し持続させる実践によって実現される。

本プロジェクトスタディはこうした展望を、「真の豊かさ」の理解に求めテキストを選択した。テキストの精読と討議、レポート作成により「アカデミックリーディング」「アカデミックライティング」の基礎を修得する。

到達目標 / Attainment Objectives

- ①「福祉社会」に関わる現実の理解及び基本的な知識と考え方の修得
- ②文献・資料を的確に理解し、それを正確に表現し伝える能力の形成

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	[人間福祉専攻]「分野 I」の概要、目標、進め方／「豊かさ」の考え方	アカデミックリーディング、豊かさ
第2回	文献 I ・切り裂かれる労働と生活の世界	労働と生活、生活の不安、低賃金と失業、過労死、貧困とホームレス、社会的排除、多重債務
第3回	文献 I ・不安な社会に生きる子供たち	日本と西ドイツの子ども、教育の豊かさとは貧しさ、競争の中の子ども
第4回	なぜ助け合うのか	助け合い、いじめ・不登校、生活の全体性、助け合いで支える心、ボランティア
第5回	文献 I ・NGOの活動と若者達	NGO、内戦と難民、阪神大震災、援助活動、山が動く
第6回	文献 I ・支え合う人間の歴史・希望を拓く	人間の歴史、生存競争、生活の共同、協同組合、豊かさの条件
第7回	討議のまとめとアカデミックライティング演習・指導	アカデミックライティング
第8回	文献 II ・現代の社会をどうとらえるか	現代社会、福祉国家、環境・福祉・経済、市場、大きな国家と小さな国家
第9回	文献 II ・個人の生活保障はどうあるべきか	社会保障、コミュニティの解体、雇用、医療・介護、ライフサイクル、三世モデル、税財源
第10回	文献 II ・福祉の充実とは環境と両立するか	環境・エコロジカル、個人の自由、機会の平等・潜在的自由、地域レベルと地球レベル
第11回	文献 II ・新たな「豊かさ」のかたちを求めて	市場、成長と定常状態、定常型社会、持続可能、時間観、セーフティネット、営利と非営利
第12回	討議のまとめとアカデミックライティング演習・指導	アカデミックライティング
第13回	参考文献・副教材の活用とアカデミックライティング演習・指導	アカデミックライティング
第14回	参考文献・副教材の活用とアカデミックライティング演習・指導	アカデミックライティング
第15回	参考文献・副教材の活用とアカデミックライティング演習・指導／到達目標の再確認	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	70 %	レポート課題は分野で統一したものを示します。
平常点(日常的)	30 %	日常点には、出席、授業における報告・討議などの取り組みが含まれる。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『豊かさの条件』	暉峻淑子 / 岩波新書 / /
『定常型社会』	広井良典 / 岩波新書 / /

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

プロジェクトスタディIA 5J

13213

担当者名 / Instructor 山本 耕平

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

1. テキストとして、エリクソン『ライフサイクル, その完結』(みすず書房)を用いる。
2. 授業8回程度を使って、グループ単位で丁寧にテキストを講読し、担当グループでないものは各自で該当章を読んだ上でコメントを提出する。
3. 授業は、最初の週が導入、そこで班分けを行うとともにテキストの分担を決める。講読は班ごとに授業1回として8週。それ以外に、教員の側から、エリクソンの研究や生涯に関する情報提供(映像資料等)を2週程度。さらに、班単位で、エリクソンの8つの発達段階に即したテーマでプレゼンテーションを行うのが4週。最後に総括の週を置く

到達目標 / Attainment Objectives

- (1) 発達臨床に関わる基本文献を読み込み理解する力を獲得する。
- (2) テーマをたててチームによるプロジェクト的探求活動を行う力を獲得する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

該当無し

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	テーマ 授業の導入:授業の進め方についての説明, 及び, 班分けと担当章の決定	
第2回	テーマ 講読第1回	
第3回	テーマ 講読第2回	
第4回	テーマ 講読第3回	
第5回	テーマ 講読第4回	
第6回	テーマ 講読第5回	
第7回	テーマ 講読第6回	
第8回	テーマ 講読第7回	
第9回	テーマ 講読第8回	
第10回	テーマ エリクソンの研究と生涯	
第11回	テーマ 各班のテーマによるプレゼンテーション①	
第12回	テーマ 各班のテーマによるプレゼンテーション②	
第13回	テーマ 各班のテーマによるプレゼンテーション③	
第14回	テーマ 各班のテーマによるプレゼンテーション④	
第15回	テーマ 授業全体の総括・・・反省と相互評価	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

授業の前半では、丁寧にテキストを読み込むことが重要なので、発表担当以外の章についても事前に必ず読んでおき、サマリーとコメントを提出すること。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	成果報告レポート
平常点(検証テスト)	50 %	日常的な授業に対する取組状況等の評価

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『ライフサイクル, その完結』	エリクソン / (みすず書房) / 4-622-03967-2 / 2,940円(税込み)

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

プロジェクトスタディIA 5K

13214

担当者名 / Instructor 加藤 直樹

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

1. テキストとして、エリクソン『ライフサイクル, その完結』(みすず書房)を用いる。
2. 授業8回程度を使って、グループ単位で丁寧にテキストを講読し、担当グループでないものは各自で該当章を読んだ上でコメントを提出する。
3. 授業は、最初の週が導入、そこで班分けを行うとともにテキストの分担を決める。講読は班ごとに授業1回として8週。それ以外に、教員の側から、エリクソンの研究や生涯に関する情報提供(映像資料等)を2週程度。さらに、班単位で、エリクソンの8つの発達段階に即したテーマでプレゼンテーションを行うのが4週。最後に総括の週を置く

到達目標 / Attainment Objectives

- (1) 発達臨床に関わる基本文献を読み込み理解する力を獲得する。
- (2) テーマをたててチームによるプロジェクト的探求活動を行う力を獲得する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

該当無し

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	テーマ 授業の導入: 授業の進め方についての説明, 及び, 班分けと担当章の決定	
第2回	テーマ 講読第1回	
第3回	テーマ 講読第2回	
第4回	テーマ 講読第3回	
第5回	テーマ 講読第4回	
第6回	テーマ 講読第5回	
第7回	テーマ 講読第6回	
第8回	テーマ 講読第7回	
第9回	テーマ 講読第8回	
第10回	テーマ エリクソンの研究と生涯	
第11回	テーマ 各班のテーマによるプレゼンテーション①	
第12回	テーマ 各班のテーマによるプレゼンテーション②	
第13回	テーマ 各班のテーマによるプレゼンテーション③	
第14回	テーマ 各班のテーマによるプレゼンテーション④	
第15回	テーマ 授業全体の総括...反省と相互評価	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

授業の前半では、丁寧にテキストを読み込むことが重要なので、発表担当以外の章についても事前に必ず読んでおき、サマリーとコメントを提出すること。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	成果報告レポート
平常点(検証テスト)	50 %	日常的な授業に対する取組状況等の評価

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『ライフサイクル, その完結』	エリクソン/(みすず書房) / 4-622-03967-2 / 2,940円(税込み)

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

プロジェクトスタディIIA 1A

15609

担当者名 / Instructor 高木 正朗

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

日本社会の問題構造を「世間」というキーワードで掘り下げようとした入門書(阿部謹也著『日本社会で生きるということ』朝日新聞社、1999年)を取り上げ、公共領域と私的世界の間に存在する「世間」という日本社会に特徴的な集団構造のあり方について考えていく。

到達目標 / Attainment Objectives

- テキストの読解と討論の技術の修得を基本とする。
それを通して、次のことがらの修得を目標とする。
- ・テーマの発見とキーワードによる問題意識の表現
 - ・文献検索の技術の修得
 - ・論文内容の要約文章の作成

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

なし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	テーマ 授業の概要と導入	キーワード 自己紹介 テキスト紹介 分担決定
第2回	テーマ 「世間」と日本人ー新しい差別論のために	キーワード なぜ「世間」を取り上げるか 日本に「個人」は存在するか 「世間」の機能
第3回	テーマ 「世間」と日本人ー新しい差別論のために	キーワード 「穢れ」を生む「世間」 「聖俗」未分離
第4回	テーマ 「世間」と日本人ー新しい差別論のために	キーワード ディスカッション
第5回	テーマ 「世間」とは何か	キーワード 建前と本音 比較社会 「世間」という人間関係
第6回	テーマ 「世間」とは何か	キーワード 「人権」「他人」「社会」「差別」
第7回	テーマ 「世間」とは何か	キーワード ディスカッション
第8回	テーマ 差別とは何か	キーワード 被差別民 ヨーロッパ中世 コスモロジー
第9回	テーマ 差別とは何か	キーワード キリスト教と賤視 都市化 部落差別
第10回	テーマ 差別とは何か	キーワード ディスカッション
第11回	テーマ 公衆衛生と「世間」	キーワード 身体観 個人の誕生 都市と衛生管理 公共性
第12回	テーマ 公衆衛生と「世間」	キーワード ディスカッション
第13回	テーマ 日本の教育に欠けているもの	キーワード 日本の近代化 「建前」の世界
第14回	テーマ 日本の教育に欠けているもの	キーワード ディスカッション
第15回	テーマ 「<公共圏>と<親密圏>から現代社会を読み解く」のまとめ	キーワード テーマの発見、キーワードとしての表現、論文検索

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	テーマの発見とキーワードによる表現、文献検索、論文の要約などを総合的に評価する。
平常点(日常的)	50 %	出席、発表およびディスカッションへの参加度を総合して評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

3, 4回生の演習に向けて、「テキストの読解方法」「自分の興味あるテーマの発見」「文献検索と論文の収集」「論文の要約作成」など基本的な学習技術の修得を目指したい。とにかく、アクティブに授業に参加してほしい。必ず、力がついていくのを実感できるだろう。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『日本社会で生きるということ』	阿部謹也著／朝日新聞社／1999年

(アマゾンなどによっても、各人にて格安にて入手可能と思われる。全員分入手不可能な場合は、テキストのプリント配布を考えたい。)

参考書 / Reference Books

上記文献のリストを参照されたい。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

そうしたウェブデータを調べていくことも本授業の目的となる。

その他 / Others

プロジェクトスタディIIA 1B

15610

担当者名 / Instructor 門田 幸太郎

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

日本社会の問題構造を「世間」というキーワードで掘り下げようとした入門書(阿部謹也著『日本社会で生きるということ』朝日新聞社、1999年)を取り上げ、公共領域と私的世界の間に存在する「世間」という日本社会に特徴的な集団構造のあり方について考えていく。

到達目標 / Attainment Objectives

- テキストの読解と討論の技術の修得を基本とする。
それを通して、次のことからの修得を目標とする。
- ・テーマの発見とキーワードによる問題意識の表現
 - ・文献検索の技術の修得
 - ・論文内容の要約文章の作成

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

なし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	テーマ 授業の概要と導入	キーワード 自己紹介 テキスト紹介 分担決定
第2回	テーマ 「世間」と日本人—新しい差別論のために	キーワード なぜ「世間」を取り上げるか 日本に「個人」は存在するか 「世間」の機能
第3回	テーマ 「世間」と日本人—新しい差別論のために	キーワード 「穢れ」を生む「世間」 「聖俗」未分離
第4回	テーマ 「世間」と日本人—新しい差別論のために	キーワード ディスカッション
第5回	テーマ 「世間」とは何か	キーワード 建前と本音 比較社会 「世間」という人間関係
第6回	テーマ 「世間」とは何か	キーワード 「人権」「他人」「社会」「差別」
第7回	テーマ 「世間」とは何か	キーワード ディスカッション
第8回	テーマ 差別とは何か	キーワード 被差別民 ヨーロッパ中世 コスモロジー
第9回	テーマ 差別とは何か	キーワード キリスト教と賤視 都市化 部落差別
第10回	テーマ 差別とは何か	キーワード ディスカッション
第11回	テーマ 公衆衛生と「世間」	キーワード 身体観 個人の誕生 都市と衛生管理 公共性
第12回	テーマ 公衆衛生と「世間」	キーワード ディスカッション
第13回	テーマ 日本の教育に欠けているもの	キーワード 日本の近代化 「建前」の世界
第14回	テーマ 日本の教育に欠けているもの	キーワード ディスカッション
第15回	テーマ 「<公共圏>と<親密圏>から現代社会を読み解く」のまとめ	キーワード テーマの発見、キーワードとしての表現、論文検索

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	テーマの発見とキーワードによる表現、文献検索、論文の要約などを総合的に評価する。
平常点(日常的)	50 %	出席、発表およびディスカッションへの参加度を総合して評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

- 3, 4回生の演習に向けて、「テキストの読解方法」「自分の興味あるテーマの発見」「文献検索と論文の収集」「論文の要約作成」など基本的な学習技術の修得を目指したい。とにかく、アクティブに授業に参加してほしい。必ず、力がついていくのを実感できるだろう。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『日本社会で生きるということ』	阿部謹也著 / 朝日新聞社 / 1999年

(アマゾンなどによっても、各人にて格安にて入手可能と思われる。全員分入手不可能な場合は、テキストのプリント配布を考えたい。)

参考書 / Reference Books

上記文献のリストを参照されたい。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

そうしたウェブデータを調べていくことも本授業の目的となる。

その他 / Others

担当者名 / Instructor 小澤 亘

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

日本社会の問題構造を「世間」というキーワードで掘り下げようとした入門書(阿部謹也著『日本社会で生きるということ』朝日新聞社、1999年)を取り上げ、公共領域と私的世界の間に存在する「世間」という日本社会に特徴的な集団構造のあり方について考えていく。

到達目標 / Attainment Objectives

- テキストの読解と討論の技術の修得を基本とする。
それを通して、次のことがらの修得を目標とする。
- ・テーマの発見とキーワードによる問題意識の表現
 - ・文献検索の技術の修得
 - ・論文内容の要約文章の作成

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

なし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	テーマ 授業の概要と導入	キーワード 自己紹介 テキスト紹介 分担決定
第2回	テーマ 「世間」と日本人ー新しい差別論のために	キーワード なぜ「世間」を取り上げるか 日本に「個人」は存在するか 「世間」の機能
第3回	テーマ 「世間」と日本人ー新しい差別論のために	キーワード 「穢れ」を生む「世間」 「聖俗」未分離
第4回	テーマ 「世間」と日本人ー新しい差別論のために	キーワード ディスカッション
第5回	テーマ 「世間」とは何か	キーワード 建前と本音 比較社会 「世間」という人間関係
第6回	テーマ 「世間」とは何か	キーワード 「人権」「他人」「社会」「差別」
第7回	テーマ 「世間」とは何か	キーワード ディスカッション
第8回	テーマ 差別とは何か	キーワード 被差別民 ヨーロッパ中世 コスモロジー
第9回	テーマ 差別とは何か	キーワード キリスト教と賤視 都市化 部落差別
第10回	テーマ 差別とは何か	キーワード ディスカッション
第11回	テーマ 公衆衛生と「世間」	キーワード 身体観 個人の誕生 都市と衛生管理 公共性
第12回	テーマ 公衆衛生と「世間」	キーワード ディスカッション
第13回	テーマ 日本の教育に欠けているもの	キーワード 日本の近代化 「建前」の世界
第14回	テーマ 日本の教育に欠けているもの	キーワード ディスカッション
第15回	テーマ 「<公共圏>と<親密圏>から現代社会を読み解く」のまとめ	キーワード テーマの発見、キーワードとしての表現、論文検索

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	テーマの発見とキーワードによる表現、文献検索、論文の要約などを総合的に評価する。
平常点(日常的)	50 %	出席、発表およびディスカッションへの参加度を総合して評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

3, 4回生の演習に向けて、「テキストの読解方法」「自分の興味あるテーマの発見」「文献検索と論文の収集」「論文の要約作成」など基本的な学習技術の修得を目指したい。とにかく、アクティブに授業に参加してほしい。必ず、力がついていくのを実感できるだろう。

教科書 / Textbooks

書名 / Title 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『日本社会で生きるということ』 阿部謹也著／朝日新聞社／1999年

(アマゾンなどによっても、各人にて格安にて入手可能と思われる。全員分入手不可能な場合は、テキストのプリント配布を考えたい。)

参考書 / Reference Books

上記文献のリストを参照されたい。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

そうしたウェブデータを調べていくことも本授業の目的となる。

その他 / Others

担当者名 / Instructor 中谷 義和

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

日本社会の問題構造を「世間」というキーワードで掘り下げようとした入門書(阿部謹也著『日本社会で生きるということ』朝日新聞社、1999年)を取り上げ、公共領域と私的世界の間に存在する「世間」という日本社会に特徴的な集団構造のあり方について考えていく。

到達目標 / Attainment Objectives

- テキストの読解と討論の技術の修得を基本とする。
それを通して、次のことがらの修得を目標とする。
- ・テーマの発見とキーワードによる問題意識の表現
 - ・文献検索の技術の修得
 - ・論文内容の要約文章の作成

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

なし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	テーマ 授業の概要と導入	キーワード 自己紹介 テキスト紹介 分担決定
第2回	テーマ 「世間」と日本人—新しい差別論のために	キーワード なぜ「世間」を取り上げるか 日本に「個人」は存在するか 「世間」の機能
第3回	テーマ 「世間」と日本人—新しい差別論のために	キーワード 「穢れ」を生む「世間」 「聖俗」未分離
第4回	テーマ 「世間」と日本人—新しい差別論のために	キーワード ディスカッション
第5回	テーマ 「世間」とは何か	キーワード 建前と本音 比較社会 「世間」という人間関係
第6回	テーマ 「世間」とは何か	キーワード 「人権」「他人」「社会」「差別」
第7回	テーマ 「世間」とは何か	キーワード ディスカッション
第8回	テーマ 差別とは何か	キーワード 被差別民 ヨーロッパ中世 コスモロジー
第9回	テーマ 差別とは何か	キーワード キリスト教と賤視 都市化 部落差別
第10回	テーマ 差別とは何か	キーワード ディスカッション
第11回	テーマ 公衆衛生と「世間」	キーワード 身体観 個人の誕生 都市と衛生管理 公共性
第12回	テーマ 公衆衛生と「世間」	キーワード ディスカッション
第13回	テーマ 日本の教育に欠けているもの	キーワード 日本の近代化 「建前」の世界
第14回	テーマ 日本の教育に欠けているもの	キーワード ディスカッション
第15回	テーマ 「<公共圏>と<親密圏>から現代社会を読み解く」のまとめ	キーワード テーマの発見、キーワードとしての表現、論文検索

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	テーマの発見とキーワードによる表現、文献検索、論文の要約などを総合的に評価する。
平常点(日常的)	50 %	出席、発表およびディスカッションへの参加度を総合して評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

- 3, 4回生の演習に向けて、「テキストの読解方法」「自分の興味あるテーマの発見」「文献検索と論文の収集」「論文の要約作成」など基本的な学習技術の修得を目指したい。とにかく、アクティブに授業に参加してほしい。必ず、力がついていくのを実感できるだろう。

教科書 / Textbooks

書名 / Title 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

『日本社会で生きるということ』

阿部謹也著／朝日新聞社／1999年

(アマゾンなどによっても、各人にて格安にて入手可能と思われる。全員分入手不可能な場合は、テキストのプリント配布を考えたい。)

参考書 / Reference Books

上記文献のリストを参照されたい。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

そうしたウェブデータを調べていくことも本授業の目的となる。

その他 / Others

プロジェクトスタディIIA 1E

15613

担当者名 / Instructor 深澤 敦

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

こんにちの格差社会をめぐる議論を客観的・批判的に検討しながら、こうした格差社会論がこれほどブームになってきたのはなぜか、など現代の社会背景を視野に入れて考えていく。

到達目標 / Attainment Objectives

今日の社会の重要なテーマ「格差社会」をめぐる議論に関連する代表的な文献・資料を読んでいくことを基本とする。

それを通して、現代社会の問題を批判的・分析的に考える基本的能力を獲得することを目標とする。

あわせて、今後の大学生活の中で取り組むレポート・論文を作成する際に必要となるスキル(技法、考え方、分析の視点ややり方、表現方法など)を習得することを目標とする。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

なし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	イントロダクション、テキスト第1章1節	
2	テキスト第1章2～5節	
3	テキスト第2章1, 2節	
4	テキスト第2章3, 4節	
5	テキスト第3章1～3節	
6	テキスト第3章4, 5節	
7	テキスト第4章1～3節	
8	テキスト第4章4, 5節	
9	テキスト第5章1節	
10	テキスト第5章2節	
11	テキスト第5章3節	
12	テキスト第5章4節	
13	テキスト第5章5節	
14	テキスト第5章6, 7節	
15	「<格差社会>に立ち向かう」のまとめと課題(学部科目へのつながり)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	
平常点(日常的)	50 %	(出席、発表およびディスカッションへの参加度などを総合して評価する)

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
格差社会：何が問題なのか	橘木俊昭 / 岩波新書 / 4004310334 /

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
不平等社会日本—さよなら総中流	佐藤 俊樹 / 中公新書 / 4121015371 /
社会階層—豊かさの中の不平等	原 純輔・盛山 和夫 / 東京大学出版会 / 4130530127 /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

特になし

プロジェクトスタディIIA 1F

15614

担当者名 / Instructor 高嶋 正晴

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

こんにちの格差社会をめぐる議論を客観的・批判的に検討しながら、こうした格差社会論がこれほどブームになってきたのはなぜか、など現代の社会背景を視野に入れて考えていく。

到達目標 / Attainment Objectives

今日の社会の重要なテーマ「格差社会」をめぐる議論に関連する代表的な文献・資料を読んでいくことを基本とする。

それを通して、現代社会の問題を批判的・分析的に考える基本的能力を獲得することを目標とする。

あわせて、今後の大学生活の中で取り組むレポート・論文を作成する際に必要となるスキル(技法、考え方、分析の視点ややり方、表現方法など)を習得することを目標とする。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

なし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	イントロダクション、テキスト第1章1節	
2	テキスト第1章2～5節	
3	テキスト第2章1, 2節	
4	テキスト第2章3, 4節	
5	テキスト第3章1～3節	
6	テキスト第3章4, 5節	
7	テキスト第4章1～3節	
8	テキスト第4章4, 5節	
9	テキスト第5章1節	
10	テキスト第5章2節	
11	テキスト第5章3節	
12	テキスト第5章4節	
13	テキスト第5章5節	
14	テキスト第5章6, 7節	
15	「<格差社会>に立ち向かう」のまとめと課題(学部科目へのつながり)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	
平常点(日常的)	50 %	(出席、発表およびディスカッションへの参加度などを総合して評価する)

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
格差社会：何が問題なのか	橘木俊昭／岩波新書／4004310334 /

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
不平等社会日本—さよなら総中流	佐藤 俊樹／中公新書／4121015371 /
社会階層—豊かさの中の不平等	原 純輔・盛山 和夫／東京大学出版会／4130530127 /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

特になし

その他 / Others

プロジェクトスタディIIA 1G

15615

担当者名 / Instructor 高嶋 正晴

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

こんにちの格差社会をめぐる議論を客観的・批判的に検討しながら、こうした格差社会論がこれほどブームになってきたのはなぜか、など現代の社会背景を視野に入れて考えていく。

到達目標 / Attainment Objectives

今日の社会の重要なテーマ「格差社会」をめぐる議論に関連する代表的な文献・資料を読んでいくことを基本とする。

それを通して、現代社会の問題を批判的・分析的に考える基本的能力を獲得することを目標とする。

あわせて、今後の大学生活の中で取り組むレポート・論文を作成する際に必要となるスキル(技法、考え方、分析の視点ややり方、表現方法など)を習得することを目標とする。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

なし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	イントロダクション、テキスト第1章1節	
2	テキスト第1章2～5節	
3	テキスト第2章1, 2節	
4	テキスト第2章3, 4節	
5	テキスト第3章1～3節	
6	テキスト第3章4, 5節	
7	テキスト第4章1～3節	
8	テキスト第4章4, 5節	
9	テキスト第5章1節	
10	テキスト第5章2節	
11	テキスト第5章3節	
12	テキスト第5章4節	
13	テキスト第5章5節	
14	テキスト第5章6, 7節	
15	「<格差社会>に立ち向かう」のまとめと課題(学部科目へのつながり)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	
平常点(日常的)	50 %	(出席、発表およびディスカッションへの参加度などを総合して評価する)

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
格差社会：何が問題なのか	橘木俊昭／岩波新書／4004310334 /

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
不平等社会日本—さよなら総中流	佐藤 俊樹／中公新書／4121015371 /
社会階層—豊かさの中の不平等	原 純輔・盛山 和夫／東京大学出版会／4130530127 /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

特になし

その他 / Others

プロジェクトスタディIIA 1H

15616

担当者名 / Instructor 中井 美樹

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

こんにちの格差社会をめぐる議論を客観的・批判的に検討しながら、こうした格差社会論がこれほどブームになってきたのはなぜか、など現代の社会背景を視野に入れて考えていく。

到達目標 / Attainment Objectives

今日の社会の重要なテーマ「格差社会」をめぐる議論に関連する代表的な文献・資料を読んでいくことを基本とする。

それを通して、現代社会の問題を批判的・分析的に考える基本的能力を獲得することを目標とする。

あわせて、今後の大学生活の中で取り組むレポート・論文を作成する際に必要となるスキル(技法、考え方、分析の視点ややり方、表現方法など)を習得することを目標とする。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	イントロダクション、テキスト第1章1節	
2	テキスト第1章2～5節	
3	テキスト第2章1, 2節	
4	テキスト第2章3, 4節	
5	テキスト第3章1～3節	
6	テキスト第3章4, 5節	
7	テキスト第4章1～3節	
8	テキスト第4章4, 5節	
9	テキスト第5章1節	
10	テキスト第5章2節	
11	テキスト第5章3節	
12	テキスト第5章4節	
13	テキスト第5章5節	
14	テキスト第5章6, 7節	
15	「<格差社会>に立ち向かう」のまとめと課題(学部科目へのつながり)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	
平常点(日常的)	50 %	(出席、発表およびディスカッションへの参加度などを総合して評価する)

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
格差社会：何が問題なのか	橋本俊昭／岩波新書／4004310334 /

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
不平等社会日本—さよなら総中流	佐藤 俊樹／中公新書／4121015371 /
社会階層—豊かさの中の不平等	原 純輔・盛山 和夫／東京大学出版会／4130530127 /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

特になし

その他 / Others

プロジェクトスタディIIA 11

15617

担当者名 / Instructor 山口 歩

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

こんにちの格差社会をめぐる議論を客観的・批判的に検討しながら、こうした格差社会論がこれほどブームになってきたのはなぜか、など現代の社会背景を視野に入れて考えていく。

到達目標 / Attainment Objectives

今日の社会の重要なテーマ「格差社会」をめぐる議論に関連する代表的な文献・資料を読んでいくことを基本とする。

それを通して、現代社会の問題を批判的・分析的に考える基本的能力を獲得することを目標とする。

あわせて、今後の大学生活の中で取り組むレポート・論文を作成する際に必要となるスキル(技法、考え方、分析の視点ややり方、表現方法など)を習得することを目標とする。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

なし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	イントロダクション、テキスト第1章1節	
2	テキスト第1章2～5節	
3	テキスト第2章1, 2節	
4	テキスト第2章3, 4節	
5	テキスト第3章1～3節	
6	テキスト第3章4, 5節	
7	テキスト第4章1～3節	
8	テキスト第4章4, 5節	
9	テキスト第5章1節	
10	テキスト第5章2節	
11	テキスト第5章3節	
12	テキスト第5章4節	
13	テキスト第5章5節	
14	テキスト第5章6, 7節	
15	「<格差社会>に立ち向かう」のまとめと課題(学部科目へのつながり)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	
平常点(日常的)	50 %	(出席、発表およびディスカッションへの参加度などを総合して評価する)

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
格差社会：何が問題なのか	橘木俊昭 / 岩波新書 / 4004310334 /

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
不平等社会日本—さよなら総中流	佐藤 俊樹 / 中公新書 / 4121015371 /
社会階層—豊かさの中の不平等	原 純輔・盛山 和夫 / 東京大学出版会 / 4130530127 /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

特になし

プロジェクトスタディIIA 1J

15618

担当者名 / Instructor 杉本 通百則

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

見田宗介『社会学入門—人間と社会の未来』(岩波新書、2006)の文献を全員が読み、クラスで内容をめぐって報告と討議を行う。そのことを通じて、社会とはまた広い意味での社会学とは何かを、理解する手がかりとし、社会を分析し批判する基礎となるスタイルを養う。

到達目標 / Attainment Objectives

文献を読み解くこと、および文献内容を報告し討議することに習熟することを基本目標とする。
それを通して、社会を分析し批判する基礎となるスタイルが少しでも養えることを期待したい。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

なし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	全体の進めかたの説明と分担の決定	
第2回	文献購読01: 文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第3回	文献購読02: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第4回	文献購読03: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第5回	文献購読04: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第6回	文献購読05: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第7回	文献購読06: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第8回	中間でのふりかえり	
第9回	文献購読07: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第10回	文献購読08: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第11回	文献購読09: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第12回	文献購読10: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第13回	文献購読11: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第14回	文献購読12: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第15回	「社会を読み解き、批判する<作法>」のまとめと課題	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	
平常点(日常的)	50 %	(出席、発表およびディスカッションへの参加度などを総合して評価する)

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

テキストは報告者以外も、必ず当日報告される箇所については最低読んで来て欲しい。
また、関連する文献等も、ぜひ積極的に読みすすめて欲しい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『社会学入門—人間と社会の未来』	見田宗介 / 岩波新書 / 2006

参考書 / Reference Books

授業で紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

プロジェクトスタディIIA 1K

15619

担当者名 / Instructor 高木 正朗

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

こんにちの格差社会をめぐる議論を客観的・批判的に検討しながら、こうした格差社会論がこれほどブームになってきたのはなぜか、など現代の社会背景を視野に入れて考えていく。

到達目標 / Attainment Objectives

今日の社会の重要なテーマ「格差社会」をめぐる議論に関連する代表的な文献・資料を読んでいくことを基本とする。

それを通して、現代社会の問題を批判的・分析的に考える基本的能力を獲得することを目標とする。

あわせて、今後の大学生活の中で取り組むレポート・論文を作成する際に必要となるスキル(技法、考え方、分析の視点ややり方、表現方法など)を習得することを目標とする。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

なし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	イントロダクション、テキスト第1章1節	
2	テキスト第1章2～5節	
3	テキスト第2章1, 2節	
4	テキスト第2章3, 4節	
5	テキスト第3章1～3節	
6	テキスト第3章4, 5節	
7	テキスト第4章1～3節	
8	テキスト第4章4, 5節	
9	テキスト第5章1節	
10	テキスト第5章2節	
11	テキスト第5章3節	
12	テキスト第5章4節	
13	テキスト第5章5節	
14	テキスト第5章6, 7節	
15	「<格差社会>に立ち向かう」のまとめと課題(学部科目へのつながり)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	
平常点(日常的)	50 %	(出席、発表およびディスカッションへの参加度などを総合して評価する)

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
格差社会：何が問題なのか	橋本俊詔 / 岩波新書 / 4004310334 /

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
不平等社会日本—さよなら総中流	佐藤 俊樹 / 中公新書 / 4121015371 /
社会階層—豊かさの中の不平等	原 純輔・盛山 和夫 / 東京大学出版会 / 4130530127 /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

特になし

その他 / Others

プロジェクトスタディIIA 1L

15620

担当者名 / Instructor 竹濱 朝美

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

受講者が順番で指定された文献を読み、その内容についての報告を行なった後、受講者全員で報告内容について質疑応答、意見交換を行う小集団参加型授業

到達目標 / Attainment Objectives

きちんと文献を読み、そこに述べられている内容を把握する読解力と論点を整理して資料化し(レジュメを作成し)人前で発表・説明できる力を養うことを基本とする。

あわせて、他者の発表にたいして批判する力を養う

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

なし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	全体の進めかたの説明と分担の決定	
第2回	文献購読01: 文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第3回	文献購読02: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第4回	文献購読03: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第5回	文献購読04: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第6回	文献購読05: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第7回	文献購読06: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第8回	中間でのふりかえり	
第9回	文献購読07: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第10回	文献購読08: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第11回	文献購読09: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第12回	文献購読10: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第13回	文献購読11: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第14回	文献購読12: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第15回	「<持続的な社会>を模索する」のまとめと課題	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	
平常点(日常的)	50 %	(出席、発表およびディスカッションへの参加度などを総合して評価する)

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「がんばっている日本を世界はまだ知らない vol.2」	松廣淳子+JFS/海象社//2005年

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

プロジェクトスタディIIA 1M

15621

担当者名 / Instructor 乾 亨

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

受講者が順番で指定された文献を読み、その内容についての報告を行なった後、受講者全員で報告内容について質疑応答、意見交換を行う小集団参加型授業

到達目標 / Attainment Objectives

きちんと文献を読み、そこに述べられている内容を把握する読解力と論点を整理して資料化し(レジュメを作成し)人前で発表・説明できる力を養うことを基本とする。

あわせて、他者の発表にたいして批判する力を養う

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

なし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	全体の進めかたの説明と分担の決定	
第2回	文献購読01: 文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第3回	文献購読02: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第4回	文献購読03: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第5回	文献購読04: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第6回	文献購読05: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第7回	文献購読06: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第8回	中間でのふりかえり	
第9回	文献購読07: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第10回	文献購読08: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第11回	文献購読09: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第12回	文献購読10: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第13回	文献購読11: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第14回	文献購読12: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第15回	「<持続的な社会>を模索する」のまとめと課題	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	
平常点(日常的)	50 %	(出席、発表およびディスカッションへの参加度などを総合して評価する)

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「がんばっている日本を世界はまだ知らない vol.2」	松廣淳子+JFS/海象社//2005年

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

プロジェクトスタディIIA 1N

15622

担当者名 / Instructor 永橋 為介

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

受講者が順番で指定された文献を読み、その内容についての報告を行なった後、受講者全員で報告内容について質疑応答、意見交換を行う小集団参加型授業

到達目標 / Attainment Objectives

きちんと文献を読み、そこに述べられている内容を把握する読解力と論点を整理して資料化し(レジュメを作成し)人前で発表・説明できる力を養うことを基本とする。

あわせて、他者の発表にたいして批判する力を養う

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

なし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	全体の進めかたの説明と分担の決定	
第2回	文献購読01: 文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第3回	文献購読02: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第4回	文献購読03: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第5回	文献購読04: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第6回	文献購読05: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第7回	文献購読06: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第8回	中間でのふりかえり	
第9回	文献購読07: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第10回	文献購読08: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第11回	文献購読09: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第12回	文献購読10: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第13回	文献購読11: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第14回	文献購読12: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第15回	「<持続的な社会>を模索する」のまとめと課題	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	
平常点(日常的)	50 %	(出席、発表およびディスカッションへの参加度などを総合して評価する)

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「がんばっている日本を世界はまだ知らない vol.2」	松廣淳子+JFS/海象社//2005年

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

プロジェクトスタディIIA 10

15623

担当者名 / Instructor 樋口 耕一

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

見田宗介『社会学入門—人間と社会の未来』(岩波新書、2006)の文献を全員が読み、クラスで内容をめぐって報告と討議を行う。そのことを通じて、社会とはまた広い意味での社会学とは何かを、理解する手がかりとし、社会を分析し批判する基礎となるスタイルを養う。

到達目標 / Attainment Objectives

文献を読み解くこと、および文献内容を報告し討議することに習熟することを基本目標とする。
それを通して、社会を分析し批判する基礎となるスタイルが少しでも養えることを期待したい。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

なし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	全体の進めかたの説明と分担の決定	
第2回	文献購読01: 文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第3回	文献購読02: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第4回	文献購読03: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第5回	文献購読04: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第6回	文献購読05: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第7回	文献購読06: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第8回	中間でのふりかえり	
第9回	文献購読07: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第10回	文献購読08: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第11回	文献購読09: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第12回	文献購読10: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第13回	文献購読11: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第14回	文献購読12: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第15回	「社会を読み解き、批判する<作法>」のまとめと課題	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	
平常点(日常的)	50 %	(出席、発表およびディスカッションへの参加度などを総合して評価する)

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

テキストは報告者以外も、必ず当日報告される箇所については最低読んで来て欲しい。
また、関連する文献等も、ぜひ積極的に読みすすめて欲しい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『社会学入門—人間と社会の未来』	見田宗介 / 岩波新書 / 2006

参考書 / Reference Books

授業で紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

プロジェクトスタディIIA 1P

15624

担当者名 / Instructor 原尻 英樹

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

見田宗介『社会学入門—人間と社会の未来』(岩波新書、2006)の文献を全員が読み、クラスで内容をめぐって報告と討議を行う。そのことを通じて、社会とはまた広い意味での社会学とは何かを、理解する手がかりとし、社会を分析し批判する基礎となるスタイルを養う。

到達目標 / Attainment Objectives

文献を読み解くこと、および文献内容を報告し討議することに習熟することを基本目標とする。それを通して、社会を分析し批判する基礎となるスタイルが少しでも養えることを期待したい。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

なし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	全体の進めかたの説明と分担の決定	
第2回	文献購読01: 文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第3回	文献購読02: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第4回	文献購読03: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第5回	文献購読04: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第6回	文献購読05: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第7回	文献購読06: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第8回	中間でのふりかえり	
第9回	文献購読07: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第10回	文献購読08: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第11回	文献購読09: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第12回	文献購読10: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第13回	文献購読11: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第14回	文献購読12: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第15回	「社会を読み解き、批判する<作法>」のまとめと課題	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	
平常点(日常的)	50 %	(出席、発表およびディスカッションへの参加度などを総合して評価する)

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

テキストは報告者以外も、必ず当日報告される箇所については最低読んで来て欲しい。
また、関連する文献等も、ぜひ積極的に読みすすめて欲しい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『社会学入門—人間と社会の未来』	見田宗介 / 岩波新書 / 2006

参考書 / Reference Books

授業で紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

プロジェクトスタディIIA 1Q

15625

担当者名 / Instructor 原尻 英樹

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

見田宗介『社会学入門—人間と社会の未来』(岩波新書、2006)の文献を全員が読み、クラスで内容をめぐって報告と討議を行う。そのことを通じて、社会とはまた広い意味での社会学とは何かを、理解する手がかりとし、社会を分析し批判する基礎となるスタイルを養う。

到達目標 / Attainment Objectives

文献を読み解くこと、および文献内容を報告し討議することに習熟することを基本目標とする。
それを通して、社会を分析し批判する基礎となるスタイルが少しでも養えることを期待したい。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

なし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	全体の進めかたの説明と分担の決定	
第2回	文献購読01: 文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第3回	文献購読02: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第4回	文献購読03: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第5回	文献購読04: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第6回	文献購読05: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第7回	文献購読06: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第8回	中間でのふりかえり	
第9回	文献購読07: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第10回	文献購読08: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第11回	文献購読09: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第12回	文献購読10: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第13回	文献購読11: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第14回	文献購読12: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第15回	「社会を読み解き、批判する<作法>」のまとめと課題	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	
平常点(日常的)	50 %	(出席、発表およびディスカッションへの参加度などを総合して評価する)

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

テキストは報告者以外も、必ず当日報告される箇所については最低読んで来て欲しい。
また、関連する文献等も、ぜひ積極的に読みすすめて欲しい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『社会学入門—人間と社会の未来』	見田宗介 / 岩波新書 / 2006

参考書 / Reference Books

授業で紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

プロジェクトスタディIIA 1R

15626

担当者名 / Instructor 木田 融男

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

見田宗介『社会学入門—人間と社会の未来』(岩波新書、2006)の文献を全員が読み、クラスで内容をめぐって報告と討議を行う。そのことを通じて、社会とはまた広い意味での社会学とは何かを、理解する手がかりとし、社会を分析し批判する基礎となるスタイルを養う。

到達目標 / Attainment Objectives

文献を読み解くこと、および文献内容を報告し討議することに習熟することを基本目標とする。
それを通して、社会を分析し批判する基礎となるスタイルが少しでも養えることを期待したい。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

なし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	全体の進めかたの説明と分担の決定	
第2回	文献購読01: 文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第3回	文献購読02: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第4回	文献購読03: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第5回	文献購読04: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第6回	文献購読05: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第7回	文献購読06: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第8回	中間でのふりかえり	
第9回	文献購読07: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第10回	文献購読08: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第11回	文献購読09: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第12回	文献購読10: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第13回	文献購読11: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第14回	文献購読12: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第15回	「社会を読み解き、批判する<作法>」のまとめと課題	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	
平常点(日常的)	50 %	(出席、発表およびディスカッションへの参加度などを総合して評価する)

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

テキストは報告者以外も、必ず当日報告される箇所については最低読んで来て欲しい。
また、関連する文献等も、ぜひ積極的に読みすすめて欲しい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『社会学入門—人間と社会の未来』	見田宗介 / 岩波新書 / 2006

参考書 / Reference Books

授業で紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

プロジェクトスタディIIA 1S

15627

担当者名 / Instructor 奥川 櫻豊彦

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

見田宗介『社会学入門—人間と社会の未来』(岩波新書、2006)の文献を全員が読み、クラスで内容をめぐって報告と討議を行う。そのことを通じて、社会とはまた広い意味での社会学とは何かを、理解する手がかりとし、社会を分析し批判する基礎となるスタイルを養う。

到達目標 / Attainment Objectives

文献を読み解くこと、および文献内容を報告し討議することに習熟することを基本目標とする。
それを通して、社会を分析し批判する基礎となるスタイルが少しでも養えることを期待したい。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

なし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	全体の進めかたの説明と分担の決定	
第2回	文献購読01: 文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第3回	文献購読02: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第4回	文献購読03: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第5回	文献購読04: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第6回	文献購読05: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第7回	文献購読06: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第8回	中間でのふりかえり	
第9回	文献購読07: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第10回	文献購読08: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第11回	文献購読09: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第12回	文献購読10: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第13回	文献購読11: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第14回	文献購読12: 前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第15回	「社会を読み解き、批判する<作法>」のまとめと課題	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	
平常点(日常的)	50 %	(出席、発表およびディスカッションへの参加度などを総合して評価する)

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

テキストは報告者以外も、必ず当日報告される箇所については最低読んで来て欲しい。
また、関連する文献等も、ぜひ積極的に読みすすめて欲しい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『社会学入門—人間と社会の未来』	見田宗介 / 岩波新書 / 2006

参考書 / Reference Books

授業で紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

担当者名 / Instructor 赤井 正二

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

新しいビルが完成したり、美術展に多くの人が訪れたり、有名な観光地で年中行事が行われたり、マラソンで交通規制が行われたり、新しい地下鉄が開通したり…、街は日々出来事に満ちています。こうした出来事は新聞の記事となってたいてはすぐに消えていきます。この分野では、「文化」(景観、芸術、観光、スポーツなど)に関係する新聞記事のいくつかに注目して、実際の体験、取材をとおしてレポートし、出来事の背景にある経過や別の所でのよく似た出来事などとのつながりを見つけてという仕方、「社会と文化」を分析し伝える力について考えていきます。また必要に応じて、複数の新聞を使って同じトピックに関する記事を比較しますが、日本の新聞だけではなく、海外の英字新聞も対象として調査をするなども行います。

到達目標 / Attainment Objectives

- (1) 日常の出来事の背景を理解し説明する分析能力の養成、向上
- (2) 社会・文化にかかわるさまざまな分野の動向・経過についての知識の獲得
- (3) 新聞データベースの活用、記事の比較・分析など、情報収集力と分析力の向上

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

現代とメディア

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の概要と到達目標	進め方の説明と担当者の紹介、文化関係記事の事例、小グループ編成
第2回	出来事の記録と表現との差異	取材マナー、各グループ別に文化関係記事の選択と内容分析
第3回	「事実」とは何か、「事実」の社会的意味について	ニュースの体験とフォト・レポート 1、講評
第4回	「事実」とは何か、「事実」の社会的意味について、続き	ニュースの体験とフォト・レポート 2、講評
第5回	出来事の背景にあるものの探求	新聞データベースの活用
第6回	出来事の社会的背景、経過	ニュースの解説レポート 1、講評
第7回	記事の比較から見えるもの、類似の出来事との比較、他の記事との比較	ニュースの解説レポート 2、講評
第8回	記事の「作成」と「解説」	専門書などを利用した解説
第9回	出来事、記録、表現、視点	プロジェクト・スタディー・レポートの企画書作成
第10回	見出し、本文、写真、解説	プロジェクト・スタディー・レポートの作成
第11回	出来事の意味と表現1	プロジェクト・スタディー・レポートの中間報告、講評
第12回	出来事の意味と表現2	プロジェクト・スタディー・レポートの予備発表 1、講評
第13回	出来事の意味と表現3	プロジェクト・スタディー・レポートの予備発表 2、講評
第14回	出来事の意味と表現4	プロジェクト・スタディー・レポートの予備発表 3、講評
第15回	全体講評と課題	再度、出来事と「社会」をつなげるという視点について、提出レポート作成上の注意

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

この分野は新聞を素材にしますので、常に新聞に目を通していただくことが当然必要です。

社会文化にかかわる個別分野(景観、芸術、観光、スポーツなど)の動向については、授業の進行にかかわらず専門書などによって学習を進めることが強く望まれます。適当な専門書については、担当者と相談してください。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	70 %	「プロジェクト・スタディー・レポート」を文書にしたものを提出すること。テーマ設定の妥当性、背景知識の妥当性、構成力などにより判定します。
平常点(日常的)	30 %	出席と報告への取組

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

各種「新聞」を教科書として活用します。

参考書 / Reference Books

書名 / Title

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

『メディア文化論-メディアを学ぶ人のための15
話』 吉見俊哉／有斐閣／978-4641121904／

『現代文化を学ぶ人のために』 井上俊編／世界思想社／978-4790707318／

その他は各クラスで指示します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

各クラスで指示します。

その他 / Others

授業の概要 / Course Outline

新聞記事を手がかりにして、現在起きている政治・経済・社会などの問題について正しく理解しましょう。大学で今後リサーチを行うにも、社会に出てからの情報収集においても、新聞を活用することは大切です。継続的に読み、断片的な記事をつなぎ合わせてある問題の全体像を把握するという方法を身につけましょう。またニュースがどのように作られるのか、その仕組みを知ることを通してどのような情報の「偏り」が生じるのかも理解しましょう。

到達目標 / Attainment Objectives

- ① 政治、経済、外交、社会などの基礎的な用語やコンセプトについて自分なりの説明ができるようになること。
- ② 日本の新聞の記事の特徴や海外紙との比較、各紙のものの味方の違いなどを理解し、過去記事の検索を含め効果的な情報収集を行う能力を磨く。
- ③ 複数の情報を照らし合わせて正確な情報を選択する方法を学ぶ。
- ④ 新聞記事をもとに、とりあげられている政治・経済・社会の問題についてさらに深くリサーチする。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「現代とメディア」

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	新聞には何が書いてあるのか - 導入のはなし	(ある記事をもとにあなたが何を知らないのか、どうすれば知ることができるのか考えましょう)
第2回	生活の安全・安心(1)	担当教員が示す記事を元に、「何が起きているのか」「何がわからないのか」を話し合おう
第3回	生活の安全・安心(2)	前回見つけた課題をもとにリサーチ・発表 今後どんな点に注目していけばいいのか理解しよう。
第4回	教育と歴史認識(1)	「靖国神社」「戦後補償」「鳩山ドクトリン」「南京事件」「教科書検定」
第5回	教育と歴史認識(2)	(リサーチ・発表をもとに理解を深めるためのディスカッション)
第6回	政治と民主主義(1)	「55年体制」「国対政治」「派閥」「族議員」「小選挙区制度」「政治資金規制」
第7回	政治と民主主義(2)	(リサーチ・発表をもとに理解を深めるためのディスカッション)
第8回	外交と安全保障(1)	「帝国主義」「冷戦」「核戦争と抑止」「国連中心主義」「日米安保条約」「ミサイル防衛」「テロ」
第9回	外交と安全保障(2)	(リサーチ・発表をもとに理解を深めるためのディスカッション)
第10回	スポーツと文化の問題(1)	「オリンピックの精神」「プロとアマ」「契約金ビジネス」「国技と品格」「選手育成制度」
第11回	スポーツと文化の問題(2)	(リサーチ・発表をもとに理解を深めるためのディスカッション)
第12回	開発とグローバリズム(1)	「南北問題」「新自由主義」「エネルギー」「HIV」「格差」「環境破壊」「気候変動」「人身売買」
第13回	開発とグローバリズム(2)	(リサーチ・発表をもとに理解を深めるためのディスカッション)
第14回	情報とセキュリティ(1)	「個人情報保護法」「生体認証」「ブロードバンド」「著作権」「放送と通信の融合」「ウィニー裁判」
第15回	情報とセキュリティ(2) まとめの議論	テーマ・ディスカッションとともに、今後どのようにメディアを利用していくのか考察します。

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

・備考

※1 これはあくまでも1例であり、担当教員によって扱うテーマや内容に変更される可能性があります。

※2 扱うテーマは以下のような問題から担当教員が選択します。

- 1) 政治と民主主義・権力
- 2) 警察・検察・司法の問題
- 3) 人権・生活の安全や安心
- 4) 外交と安全保障・国際機関
- 5) 教育と歴史認識

- 6) 経済と豊かな社会
- 7) スポーツと文化
- 8) 開発とグローバリズム
- 9) 情報社会とセキュリティ
- 10) ジャーナリズムの社会的役割

※3 問題の重点は担当教員によって変わる場合があります。また、重大な事件が起きたときは途中でその内容を変更して新しい出来事の勉強に変更する可能性があります。

※4 宿題は発表課題についてのスケジュールは、担当教員の指示に従ってください。

・授業外学習の指示

- 1) クラスで扱うテーマとは関係なく、少なくとも1紙は毎日読んでください。
- 2) クラスで扱う課題については、すべての受講者が過去の記事や参考文献などをあたりディスカッションの準備をしてください。
- 3) 必要に応じて発表などを行うこともあるので、担当教員の指示に従ってください。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	テーマは追って指示します。リサーチや討論で得た成果を報告してもらいます。評価は情報収集の厚みと考察の深さで行います。
平常点(日常的)	50 %	討論にどれだけ参加できているか、そのための準備をどの程度行っているかで判断します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

特になし

教科書 / Textbooks

特になし

参考書 / Reference Books

特になし

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

特になし

その他 / Others

担当者名 / Instructor 浪田 陽子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

新しいビルが完成したり、美術展に多くの人が訪れたり、有名な観光地で年中行事が行われたり、マラソンで交通規制が行われたり、新しい地下鉄が開通したり…、街は日々出来事に満ちています。こうした出来事は新聞の記事となってたいてはすぐに消えていきます。この分野では、「文化」(景観、芸術、観光、スポーツなど)に関係する新聞記事のいくつかに注目して、実際の体験、取材をとおしてレポートし、出来事の背景にある経過や別の所でのよく似た出来事などとのつながりを見つけてという仕方、「社会と文化」を分析し伝える力について考えていきます。また必要に応じて、複数の新聞を使って同じトピックに関する記事を比較しますが、日本の新聞だけではなく、海外の英字新聞も対象として調査をするなども行います。

到達目標 / Attainment Objectives

- (1) 日常の出来事の背景を理解し説明する分析能力の養成、向上
- (2) 社会・文化にかかわるさまざまな分野の動向・経過についての知識の獲得
- (3) 新聞データベースの活用、記事の比較・分析など、情報収集力と分析力の向上

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

現代とメディア

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の概要と到達目標	進め方の説明と担当者の紹介、文化関係記事の事例、小グループ編成
第2回	出来事の記録と表現との差異	取材マナー、各グループ別に文化関係記事の選択と内容分析
第3回	「事実」とは何か、「事実」の社会的意味について	ニュースの体験とフォト・レポート 1、講評
第4回	「事実」とは何か、「事実」の社会的意味について、続き	ニュースの体験とフォト・レポート 2、講評
第5回	出来事の背景にあるものの探求	新聞データベースの活用
第6回	出来事の社会的背景、経過	ニュースの解説レポート 1、講評
第7回	記事の比較から見えるもの、類似の出来事との比較、他の記事との比較	ニュースの解説レポート 2、講評
第8回	記事の「作成」と「解説」	専門書などを利用した解説
第9回	出来事、記録、表現、視点	プロジェクト・スタディー・レポートの企画書作成
第10回	見出し、本文、写真、解説	プロジェクト・スタディー・レポートの作成
第11回	出来事の意味と表現1	プロジェクト・スタディー・レポートの中間報告、講評
第12回	出来事の意味と表現2	プロジェクト・スタディー・レポートの予備発表 1、講評
第13回	出来事の意味と表現3	プロジェクト・スタディー・レポートの予備発表 2、講評
第14回	出来事の意味と表現4	プロジェクト・スタディー・レポートの予備発表 3、講評
第15回	全体講評と課題	再度、出来事と「社会」をつなげるという視点について、提出レポート作成上の注意

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

この分野は新聞を素材にしますので、常に新聞に目を通していることが当然必要です。

社会文化にかかわる個別分野(景観、芸術、観光、スポーツなど)の動向については、授業の進行にかかわらず専門書などによって学習を進めることが強く望まれます。適当な専門書については、担当者と相談してください。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	70 %	「プロジェクト・スタディー・レポート」を文書にしたものを提出すること。テーマ設定の妥当性、背景知識の妥当性、構成力などにより判定します。
平常点(日常的)	30 %	出席と報告への取組

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

各種「新聞」を教科書として活用します。

参考書 / Reference Books

書名 / Title

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

『メディア文化論-メディアを学ぶ人のための15
話』 吉見俊哉／有斐閣／978-4641121904／

『現代文化を学ぶ人のために』 井上俊編／世界思想社／978-4790707318／

その他は各クラスで指示します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

各クラスで指示します。

その他 / Others

プロジェクトスタディIIA 2D

15631

担当者名 / Instructor 坂田 謙司

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

プロジェクトスタディ・メディア社会専攻では「新聞で始めるさまざまな力の獲得」を目指します。特に「市民とメディア」では「メディア・アクセス」をテーマに表現力を身につけることに主眼がおかれています。新聞の読者投稿(オピニオン)や広告表現などを互いに議論しあい、また実際に広告作成や投稿を行います。

市民の目線で新聞を読み解くとは、どういうことか。

市民とは誰か

市民とマス・メディア

市民のメディア

*メディア・アクセスの3つのパート

パート1 新聞を解剖する(第1回～第4回)

パート2 新聞を遊ぶ(第5回～第9回)

パート3 新聞を作る(第10回～第15回)

*評価基準 出席点、グループワーク、個人ワーク

到達目標 / Attainment Objectives

読者投稿や広告表現について学びつつ、自らもそれらを作成したり投稿するというプロセスを通じ、市民としてメディアに対してアクティブに参加する態度を養います。そして、専攻の違いにかかわらず、専門演習での学びに際して基礎となる「問題発見の力」の獲得を目指します。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	講義の概要と到達目標の説明／新聞・記事の分析／市民の目線で新聞にアクセスするとは？	全国紙、地方紙、総合面、国際面、社会面
第2回	新聞一面の内容分析	題字、記事、広告
第3回	社会面の内容分析	生活、個人
第4回	社説の読み比べ	新聞社の意見、違い
第5回	読者投稿とは	新聞社への投稿
第6回	読者投稿の発表	プレゼンテーション
第7回	意見広告とはなにか	政治的、公共的
第8回	意見広告の作成	ヘッドコピー、リード、キービジュアル
第9回	意見広告の発表	プレゼンテーション
第10回	記事の書き方①	記事の要件、形態
第11回	記事の書き方②	見出し、リード、本文、良い記事・悪い記事
第12回	記事の書き方③	取材方法、インタビュー、調査
第13回	新聞1面をつくる①	レイアウト、段
第14回	新聞1面をつくる②	レイアウト、段
第15回	新聞一面をつくる③	プレゼンテーション

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

常に、新聞に対する興味を持ち、極力毎日新聞を読むことを期待する。各課題に関しては、授業内でも制作を行なうが、課題が終了していない場合には授業外でグループごとに集まり課題を行なう。授業外での学習が比較的多いことが予想される。

意見広告、読者投稿、新聞一面の作成等は授業外の作業になり、授業では、それらの課題の発表およびディスカッションが中心となる。読者投稿は個人レベルであるが、その他の内容は4～5人程度のグループ単位で行なう。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	個人レベルで、新聞、意見広告、読者投稿の今日的課題について、レポートをまとめて提出する。
平常点(日常的)	50 %	新聞内容分析、意見広告の作成、読者投稿、新聞一面などの具体的な課題への取り組みを重視。毎回出席をとり、それも評価に加味する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

各クラスの進み方により、すべての内容カバーしない場合がある。特に新聞一面をつくるは行なわない可能性もある。

教科書 / Textbooks

特になし

参考書 / Reference Books

<u>書名 / Title</u>	<u>出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment</u>
「実践ジャーナリスト育成講座」	花田達朗・ニューズラボ研究会編著 / 平凡社 / / 2004年
「新聞の読み方上達法」	熊田亘 / ほるぷ出版 / / 1994年
「意見広告、入門」	糸川精一 / 日本機関紙出版センター / / 1984年

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference**その他 / Others**

担当者名 / Instructor 津田 正夫

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

新聞記事を手がかりにして、現在起きている政治・経済・社会などの問題について正しく理解しましょう。大学で今後リサーチを行うにも、社会に出てからの情報収集においても、新聞を活用することは大切です。継続的に読み、断片的な記事をつなぎ合わせてある問題の全体像を把握するという方法を身につけましょう。またニュースがどのように作られるのか、その仕組みを知ることを通してどのような情報の「偏り」が生じるのかも理解しましょう。

到達目標 / Attainment Objectives

- ①政治、経済、外交、社会などの基礎的な用語やコンセプトについて自分なりの説明ができるようになること。
- ②日本の新聞の記事の特徴や海外紙との比較、各紙のものの味方の違いなどを理解し、過去記事の検索を含め効果的な情報収集を行う能力を磨く。
- ③複数の情報を照らし合わせて正確な情報を選択する方法を学ぶ。
- ④新聞記事をもとに、とりあげられている政治・経済・社会の問題についてさらに深くリサーチする。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「現代とメディア」

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	新聞には何が書いてあるのか - 導入のはなし	(ある記事をもとにあなたが何を知らないのか、どうすれば知ることができるのか考えましょう)
第2回	生活の安全・安心(1)	担当教員が示す記事を元に、「何が起きているのか」「何がわからないのか」を話し合おう
第3回	生活の安全・安心(2)	前回見つけた課題をもとにリサーチ・発表 今後どんな点に注目していけばいいのか理解しよう。
第4回	教育と歴史認識(1)	「靖国神社」「戦後補償」「鳩山ドクトリン」「南京事件」「教科書検定」
第5回	教育と歴史認識(2)	(リサーチ・発表をもとに理解を深めるためのディスカッション)
第6回	政治と民主主義(1)	「55年体制」「国対政治」「派閥」「族議員」「小選挙区制度」「政治資金規制」
第7回	政治と民主主義(2)	(リサーチ・発表をもとに理解を深めるためのディスカッション)
第8回	外交と安全保障(1)	「帝国主義」「冷戦」「核戦争と抑止」「国連中心主義」「日米安保条約」「ミサイル防衛」「テロ」
第9回	外交と安全保障(2)	(リサーチ・発表をもとに理解を深めるためのディスカッション)
第10回	スポーツと文化の問題(1)	「オリンピックの精神」「プロとアマ」「契約金ビジネス」「国技と品格」「選手育成制度」
第11回	スポーツと文化の問題(2)	(リサーチ・発表をもとに理解を深めるためのディスカッション)
第12回	開発とグローバリズム(1)	「南北問題」「新自由主義」「エネルギー」「HIV」「格差」「環境破壊」「気候変動」「人身売買」
第13回	開発とグローバリズム(2)	(リサーチ・発表をもとに理解を深めるためのディスカッション)
第14回	情報とセキュリティ(1)	「個人情報保護法」「生体認証」「ブロードバンド」「著作権」「放送と通信の融合」「ウィニー裁判」
第15回	情報とセキュリティ(2) まとめの議論	テーマ・ディスカッションとともに、今後どのようにメディアを利用していくのか考察します。

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

・備考

※1 これはあくまでも1例であり、担当教員によって扱うテーマや内容に変更される可能性があります。

※2 扱うテーマは以下のような問題から担当教員が選択します。

- 1) 政治と民主主義・権力
- 2) 警察・検察・司法の問題
- 3) 人権・生活の安全や安心
- 4) 外交と安全保障・国際機関
- 5) 教育と歴史認識

- 6) 経済と豊かな社会
- 7) スポーツと文化
- 8) 開発とグローバリズム
- 9) 情報社会とセキュリティ
- 10) ジャーナリズムの社会的役割

※3 問題の重点は担当教員によって変わる場合があります。また、重大な事件が起きたときは途中でその内容を変更して新しい出来事の勉強に変更する可能性があります。

※4 宿題は発表課題についてのスケジュールは、担当教員の指示に従ってください。

・授業外学習の指示

- 1) クラスで扱うテーマとは関係なく、少なくとも1紙は毎日読んでください。
- 2) クラスで扱う課題については、すべての受講者が過去の記事や参考文献などをあたりディスカッションの準備をしてください。
- 3) 必要に応じて発表などを行うこともあるので、担当教員の指示に従ってください。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	テーマは追って指示します。リサーチや討論で得た成果を報告してもらいます。評価は情報収集の厚みと考察の深さで行います。
平常点(日常的)	50 %	討論にどれだけ参加できているか、そのための準備をどの程度行っているかで判断します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

特になし

教科書 / Textbooks

特になし

参考書 / Reference Books

特になし

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

特になし

その他 / Others

担当者名 / Instructor 浪田 陽子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

新しいビルが完成したり、美術展に多くの人が訪れたり、有名な観光地で年中行事が行われたり、マラソンで交通規制が行われたり、新しい地下鉄が開通したり…、街は日々出来事に満ちています。こうした出来事は新聞の記事となってたいてはすぐに消えていきます。この分野では、「文化」(景観、芸術、観光、スポーツなど)に関係する新聞記事のいくつかに注目して、実際の体験、取材をとおしてレポートし、出来事の背景にある経過や別の所でのよく似た出来事などとのつながりを見つけてという仕方、「社会と文化」を分析し伝える力について考えていきます。また必要に応じて、複数の新聞を使って同じトピックに関する記事を比較しますが、日本の新聞だけではなく、海外の英字新聞も対象として調査をするなども行います。

到達目標 / Attainment Objectives

- (1) 日常の出来事の背景を理解し説明する分析能力の養成、向上
- (2) 社会・文化にかかわるさまざまな分野の動向・経過についての知識の獲得
- (3) 新聞データベースの活用、記事の比較・分析など、情報収集力と分析力の向上

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

現代とメディア

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の概要と到達目標	進め方の説明と担当者の紹介、文化関係記事の事例、小グループ編成
第2回	出来事の記録と表現との差異	取材マナー、各グループ別に文化関係記事の選択と内容分析
第3回	「事実」とは何か、「事実」の社会的意味について	ニュースの体験とフォト・レポート 1、講評
第4回	「事実」とは何か、「事実」の社会的意味について、続き	ニュースの体験とフォト・レポート 2、講評
第5回	出来事の背景にあるものの探求	新聞データベースの活用
第6回	出来事の社会的背景、経過	ニュースの解説レポート 1、講評
第7回	記事の比較から見えるもの、類似の出来事との比較、他の記事との比較	ニュースの解説レポート 2、講評
第8回	記事の「作成」と「解説」	専門書などを利用した解説
第9回	出来事、記録、表現、視点	プロジェクト・スタディー・レポートの企画書作成
第10回	見出し、本文、写真、解説	プロジェクト・スタディー・レポートの作成
第11回	出来事の意味と表現1	プロジェクト・スタディー・レポートの中間報告、講評
第12回	出来事の意味と表現2	プロジェクト・スタディー・レポートの予備発表 1、講評
第13回	出来事の意味と表現3	プロジェクト・スタディー・レポートの予備発表 2、講評
第14回	出来事の意味と表現4	プロジェクト・スタディー・レポートの予備発表 3、講評
第15回	全体講評と課題	再度、出来事と「社会」をつなげるという視点について、提出レポート作成上の注意

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

この分野は新聞を素材にしますので、常に新聞に目を通していることが当然必要です。

社会文化にかかわる個別分野(景観、芸術、観光、スポーツなど)の動向については、授業の進行にかかわらず専門書などによって学習を進めることが強く望まれます。適当な専門書については、担当者と相談してください。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	70 %	「プロジェクト・スタディー・レポート」を文書にしたものを提出すること。テーマ設定の妥当性、背景知識の妥当性、構成力などにより判定します。
平常点(日常的)	30 %	出席と報告への取組

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

各種「新聞」を教科書として活用します。

参考書 / Reference Books

書名 / Title

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

『メディア文化論-メディアを学ぶ人のための15
話』 吉見俊哉／有斐閣／978-4641121904／

『現代文化を学ぶ人のために』 井上俊編／世界思想社／978-4790707318／

その他は各クラスで指示します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

各クラスで指示します。

その他 / Others

担当者名 / Instructor 仲間 裕子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

新しいビルが完成したり、美術展に多くの人が訪れたり、有名な観光地で年中行事が行われたり、マラソンで交通規制が行われたり、新しい地下鉄が開通したり…、街は日々出来事に満ちています。こうした出来事は新聞の記事となってたいてはすぐに消えていきます。この分野では、「文化」(景観、芸術、観光、スポーツなど)に関係する新聞記事のいくつかに注目して、実際の体験、取材をとおしてレポートし、出来事の背景にある経過や別の所でのよく似た出来事などとのつながりを見つけてという仕方、「社会と文化」を分析し伝える力について考えていきます。また必要に応じて、複数の新聞を使って同じトピックに関する記事を比較しますが、日本の新聞だけではなく、海外の英字新聞も対象として調査をするなども行います。

到達目標 / Attainment Objectives

- (1) 日常の出来事の背景を理解し説明する分析能力の養成、向上
- (2) 社会・文化にかかわるさまざまな分野の動向・経過についての知識の獲得
- (3) 新聞データベースの活用、記事の比較・分析など、情報収集力と分析力の向上

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

現代とメディア

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の概要と到達目標	進め方の説明と担当者の紹介、文化関係記事の事例、小グループ編成
第2回	出来事の記録と表現との差異	取材マナー、各グループ別に文化関係記事の選択と内容分析
第3回	「事実」とは何か、「事実」の社会的意味について	ニュースの体験とフォト・レポート 1、講評
第4回	「事実」とは何か、「事実」の社会的意味について、続き	ニュースの体験とフォト・レポート 2、講評
第5回	出来事の背景にあるものの探求	新聞データベースの活用
第6回	出来事の社会的背景、経過	ニュースの解説レポート 1、講評
第7回	記事の比較から見えるもの、類似の出来事との比較、他の記事との比較	ニュースの解説レポート 2、講評
第8回	記事の「作成」と「解説」	専門書などを利用した解説
第9回	出来事、記録、表現、視点	プロジェクト・スタディー・レポートの企画書作成
第10回	見出し、本文、写真、解説	プロジェクト・スタディー・レポートの作成
第11回	出来事の意味と表現1	プロジェクト・スタディー・レポートの中間報告、講評
第12回	出来事の意味と表現2	プロジェクト・スタディー・レポートの予備発表 1、講評
第13回	出来事の意味と表現3	プロジェクト・スタディー・レポートの予備発表 2、講評
第14回	出来事の意味と表現4	プロジェクト・スタディー・レポートの予備発表 3、講評
第15回	全体講評と課題	再度、出来事と「社会」をつなげるという視点について、提出レポート作成上の注意

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

この分野は新聞を素材にしますので、常に新聞に目を通していただくことが当然必要です。

社会文化にかかわる個別分野(景観、芸術、観光、スポーツなど)の動向については、授業の進行にかかわらず専門書などによって学習を進めることが強く望まれます。適当な専門書については、担当者と相談してください。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	70 %	「プロジェクト・スタディー・レポート」を文書にしたものを提出すること。テーマ設定の妥当性、背景知識の妥当性、構成力などにより判定します。
平常点(日常的)	30 %	出席と報告への取組

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

各種「新聞」を教科書として活用します。

参考書 / Reference Books

書名 / Title

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

『メディア文化論-メディアを学ぶ人のための15
話』 吉見俊哉／有斐閣／978-4641121904／

『現代文化を学ぶ人のために』 井上俊編／世界思想社／978-4790707318／

その他は各クラスで指示します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

各クラスで指示します。

その他 / Others

担当者名 / Instructor 日高勝之

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

新聞記事を手がかりにして、現在起きている政治・経済・社会などの問題について正しく理解しましょう。大学で今後リサーチを行うにも、社会に出てからの情報収集においても、新聞を活用することは大切です。継続的に読み、断片的な記事をつなぎ合わせてある問題の全体像を把握するという方法を身につけましょう。またニュースがどのように作られるのか、その仕組みを知ることを通してどのような情報の「偏り」が生じるのかも理解しましょう。

到達目標 / Attainment Objectives

- ①政治、経済、外交、社会などの基礎的な用語やコンセプトについて自分なりの説明ができるようになること。
- ②日本の新聞の記事の特徴や海外紙との比較、各紙のものの味方の違いなどを理解し、過去記事の検索を含め効果的な情報収集を行う能力を磨く。
- ③複数の情報を照らし合わせて正確な情報を選択する方法を学ぶ。
- ④新聞記事をもとに、とりあげられている政治・経済・社会の問題についてさらに深くリサーチする。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「現代とメディア」

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	新聞には何が書いてあるのか - 導入のはなし	(ある記事をもとにあなたが何を知らないのか、どうすれば知ることができるのか考えましょう)
第2回	生活の安全・安心(1)	担当教員が示す記事を元に、「何が起きているのか」「何がわからないのか」を話し合おう
第3回	生活の安全・安心(2)	前回見つけた課題をもとにリサーチ・発表 今後どんな点に注目していけばいいのか理解しよう。
第4回	教育と歴史認識(1)	「靖国神社」「戦後補償」「鳩山ドクトリン」「南京事件」「教科書検定」
第5回	教育と歴史認識(2)	(リサーチ・発表をもとに理解を深めるためのディスカッション)
第6回	政治と民主主義(1)	「55年体制」「国対政治」「派閥」「族議員」「小選挙区制度」「政治資金規制」
第7回	政治と民主主義(2)	(リサーチ・発表をもとに理解を深めるためのディスカッション)
第8回	外交と安全保障(1)	「帝国主義」「冷戦」「核戦争と抑止」「国連中心主義」「日米安保条約」「ミサイル防衛」「テロ」
第9回	外交と安全保障(2)	(リサーチ・発表をもとに理解を深めるためのディスカッション)
第10回	スポーツと文化の問題(1)	「オリンピックの精神」「プロとアマ」「契約金ビジネス」「国技と品格」「選手育成制度」
第11回	スポーツと文化の問題(2)	(リサーチ・発表をもとに理解を深めるためのディスカッション)
第12回	開発とグローバリズム(1)	「南北問題」「新自由主義」「エネルギー」「HIV」「格差」「環境破壊」「気候変動」「人身売買」
第13回	開発とグローバリズム(2)	(リサーチ・発表をもとに理解を深めるためのディスカッション)
第14回	情報とセキュリティ(1)	「個人情報保護法」「生体認証」「ブロードバンド」「著作権」「放送と通信の融合」「ウィニー裁判」
第15回	情報とセキュリティ(2) まとめの議論	テーマ・ディスカッションとともに、今後どのようにメディアを利用していくのか考察します。

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

・備考

※1 これはあくまでも1例であり、担当教員によって扱うテーマや内容に変更される可能性があります。

※2 扱うテーマは以下のような問題から担当教員が選択します。

- 1) 政治と民主主義・権力
- 2) 警察・検察・司法の問題
- 3) 人権・生活の安全や安心
- 4) 外交と安全保障・国際機関
- 5) 教育と歴史認識

- 6) 経済と豊かな社会
- 7) スポーツと文化
- 8) 開発とグローバリズム
- 9) 情報社会とセキュリティ
- 10) ジャーナリズムの社会的役割

※3 問題の重点は担当教員によって変わる場合があります。また、重大な事件が起きたときは途中でその内容を変更して新しい出来事の勉強に変更する可能性があります。

※4 宿題は発表課題についてのスケジュールは、担当教員の指示に従ってください。

・授業外学習の指示

- 1) クラスで扱うテーマとは関係なく、少なくとも1紙は毎日読んでください。
- 2) クラスで扱う課題については、すべての受講者が過去の記事や参考文献などをあたりディスカッションの準備をしてください。
- 3) 必要に応じて発表などを行うこともあるので、担当教員の指示に従ってください。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	テーマは追って指示します。リサーチや討論で得た成果を報告してもらいます。評価は情報収集の厚みと考察の深さで行います。
平常点(日常的)	50 %	討論にどれだけ参加できているか、そのための準備をどの程度行っているかで判断します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

特になし

教科書 / Textbooks

特になし

参考書 / Reference Books

特になし

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

特になし

その他 / Others

プロジェクトスタディIIA 2I

15636

担当者名 / Instructor 福間 良明

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

プロジェクトスタディ・メディア社会専攻では「新聞で始めるさまざまな力の獲得」を目指します。特に「市民とメディア」では「メディア・アクセス」をテーマに表現力を身につけることに主眼がおかれています。新聞の読者投稿(オピニオン)や広告表現などを互いに議論しあい、また実際に広告作成や投稿を行います。

市民の目線で新聞を読み解くとは、どういうことか。

市民とは誰か

市民とマス・メディア

市民のメディア

*メディア・アクセスの3つのパート

パート1 新聞を解剖する(第1回～第4回)

パート2 新聞を遊ぶ(第5回～第9回)

パート3 新聞を作る(第10回～第15回)

*評価基準 出席点、グループワーク、個人ワーク

到達目標 / Attainment Objectives

読者投稿や広告表現について学びつつ、自らもそれらを作成したり投稿するというプロセスを通じ、市民としてメディアに対してアクティブに参加する態度を養います。そして、専攻の違いにかかわらず、専門演習での学びに際して基礎となる「問題発見の力」の獲得を目指します。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	講義の概要と到達目標の説明／新聞・記事の分析／市民の目線で新聞にアクセスするとは？	全国紙、地方紙、総合面、国際面、社会面
第2回	新聞一面の内容分析	題字、記事、広告
第3回	社会面の内容分析	生活、個人
第4回	社説の読み比べ	新聞社の意見、違い
第5回	読者投稿とは	新聞社への投稿
第6回	読者投稿の発表	プレゼンテーション
第7回	意見広告とはなにか	政治的、公共的
第8回	意見広告の作成	ヘッドコピー、リード、キービジュアル
第9回	意見広告の発表	プレゼンテーション
第10回	記事の書き方①	記事の要件、形態
第11回	記事の書き方②	見出し、リード、本文、良い記事・悪い記事
第12回	記事の書き方③	取材方法、インタビュー、調査
第13回	新聞1面をつくる①	レイアウト、段
第14回	新聞1面をつくる②	レイアウト、段
第15回	新聞一面をつくる③	プレゼンテーション

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

常に、新聞に対する興味を持ち、極力毎日新聞を読むことを期待する。各課題に関しては、授業内でも制作を行なうが、課題が終了していない場合には授業外でグループごとに集まり課題を行なう。授業外での学習が比較的多いことが予想される。

意見広告、読者投稿、新聞一面の作成等は授業外の作業になり、授業では、それらの課題の発表およびディスカッションが中心となる。読者投稿は個人レベルであるが、その他の内容は4～5人程度のグループ単位で行なう。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	個人レベルで、新聞、意見広告、読者投稿の今日的課題について、レポートをまとめ提出する。
平常点(日常的)	50 %	新聞内容分析、意見広告の作成、読者投稿、新聞一面などの具体的な課題への取り組みを重視。毎回出席をとり、それも評価に加味する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

各クラスの進み方により、すべての内容カバーしない場合がある。特に新聞一面をつくるは行なわない可能性もある。

教科書 / Textbooks

特になし

参考書 / Reference Books

<u>書名 / Title</u>	<u>出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment</u>
「実践ジャーナリスト育成講座」	花田達朗・ニューズラボ研究会編著 / 平凡社 / 2004年 /
「新聞の読み方上達法」	熊田亘 / ほるぷ出版 / 1994年 /
「意見広告、入門」	糸川精一 / 日本機関紙出版センター / 1984年 /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference**その他 / Others**

プロジェクトスタディIIA 2J

15637

担当者名 / Instructor 瓜生 吉則

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

新聞記事を手がかりにして、現在起きている政治・経済・社会などの問題について正しく理解しましょう。大学で今後リサーチを行うにも、社会に出てからの情報収集においても、新聞を活用することは大切です。継続的に読み、断片的な記事をつなぎ合わせてある問題の全体像を把握するという方法を身につけましょう。またニュースがどのように作られるのか、その仕組みを知ることを通してどのような情報の「偏り」が生じるのかも理解しましょう。

到達目標 / Attainment Objectives

- ① 政治、経済、外交、社会などの基礎的な用語やコンセプトについて自分なりの説明ができるようになること。
- ② 日本の新聞の記事の特徴や海外紙との比較、各紙のものの味方の違いなどを理解し、過去記事の検索を含め効果的な情報収集を行う能力を磨く。
- ③ 複数の情報を照らし合わせて正確な情報を選択する方法を学ぶ。
- ④ 新聞記事をもとに、とりあげられている政治・経済・社会の問題についてさらに深くリサーチする。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「現代とメディア」

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	新聞には何が書いてあるのか — 導入のはなし	(ある記事をもとにあなたが何を知らないのか、どうすれば知ることができるのか考えましょう)
第2回	生活の安全・安心(1)	担当教員が示す記事を元に、「何が起きているのか」「何がわからないのか」を話し合おう
第3回	生活の安全・安心(2)	前回見つけた課題をもとにリサーチ・発表 今後どんな点に注目していけばいいのか理解しよう。
第4回	教育と歴史認識(1)	「靖国神社」「戦後補償」「鳩山ドクトリン」「南京事件」「教科書検定」
第5回	教育と歴史認識(2)	(リサーチ・発表をもとに理解を深めるためのディスカッション)
第6回	政治と民主主義(1)	「55年体制」「国対政治」「派閥」「族議員」「小選挙区制度」「政治資金規制」
第7回	政治と民主主義(2)	(リサーチ・発表をもとに理解を深めるためのディスカッション)
第8回	外交と安全保障(1)	「帝国主義」「冷戦」「核戦争と抑止」「国連中心主義」「日米安保条約」「ミサイル防衛」「テロ」
第9回	外交と安全保障(2)	(リサーチ・発表をもとに理解を深めるためのディスカッション)
第10回	スポーツと文化の問題(1)	「オリンピックの精神」「プロとアマ」「契約金ビジネス」「国技と品格」「選手育成制度」
第11回	スポーツと文化の問題(2)	(リサーチ・発表をもとに理解を深めるためのディスカッション)
第12回	開発とグローバリズム(1)	「南北問題」「新自由主義」「エネルギー」「HIV」「格差」「環境破壊」「気候変動」「人身売買」
第13回	開発とグローバリズム(2)	(リサーチ・発表をもとに理解を深めるためのディスカッション)
第14回	情報とセキュリティ(1)	「個人情報保護法」「生体認証」「ブロードバンド」「著作権」「放送と通信の融合」「ウィニー裁判」
第15回	情報とセキュリティ(2) まとめの議論	テーマ・ディスカッションとともに、今後どのようにメディアを利用していくのか考察します。

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

・備考

※1 これはあくまでも1例であり、担当教員によって扱うテーマや内容に変更される可能性があります。

※2 扱うテーマは以下のような問題から担当教員が選択します。

- 1) 政治と民主主義・権力
- 2) 警察・検察・司法の問題
- 3) 人権・生活の安全や安心
- 4) 外交と安全保障・国際機関
- 5) 教育と歴史認識

- 6) 経済と豊かな社会
- 7) スポーツと文化
- 8) 開発とグローバリズム
- 9) 情報社会とセキュリティ
- 10) ジャーナリズムの社会的役割

※3 問題の重点は担当教員によって変わる場合があります。また、重大な事件が起きたときは途中でその内容を変更して新しい出来事の勉強に変更する可能性があります。

※4 宿題は発表課題についてのスケジュールは、担当教員の指示に従ってください。

・授業外学習の指示

- 1) クラスで扱うテーマとは関係なく、少なくとも1紙は毎日読んでください。
- 2) クラスで扱う課題については、すべての受講者が過去の記事や参考文献などをあたりディスカッションの準備をしてください。
- 3) 必要に応じて発表などを行うこともあるので、担当教員の指示に従ってください。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	テーマは追って指示します。リサーチや討論で得た成果を報告してもらいます。評価は情報収集の厚みと考察の深さで行います。
平常点(日常的)	50 %	討論にどれだけ参加できているか、そのための準備をどの程度行っているかで判断します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

特になし

教科書 / Textbooks

特になし

参考書 / Reference Books

特になし

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

特になし

その他 / Others

プロジェクトスタディIIA 2K

15638

担当者名 / Instructor 日高 勝之

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

新聞記事を手がかりにして、現在起きている政治・経済・社会などの問題について正しく理解しましょう。大学で今後リサーチを行うにも、社会に出てからの情報収集においても、新聞を活用することは大切です。継続的に読み、断片的な記事をつなぎ合わせてある問題の全体像を把握するという方法を身につけましょう。またニュースがどのように作られるのか、その仕組みを知ることを通してどのような情報の「偏り」が生じるのかも理解しましょう。

到達目標 / Attainment Objectives

- ① 政治、経済、外交、社会などの基礎的な用語やコンセプトについて自分なりの説明ができるようになること。
- ② 日本の新聞の記事の特徴や海外紙との比較、各紙のものの味方の違いなどを理解し、過去記事の検索を含め効果的な情報収集を行う能力を磨く。
- ③ 複数の情報を照らし合わせて正確な情報を選択する方法を学ぶ。
- ④ 新聞記事をもとに、とりあげられている政治・経済・社会の問題についてさらに深くリサーチする。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「現代とメディア」

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	新聞には何が書いてあるのか - 導入のはなし	(ある記事をもとにあなたが何を知らないのか、どうすれば知ることができるのか考えましょう)
第2回	生活の安全・安心(1)	担当教員が示す記事を元に、「何が起きているのか」「何がわからないのか」を話し合おう
第3回	生活の安全・安心(2)	前回見つけた課題をもとにリサーチ・発表 今後どんな点に注目していけばいいのか理解しよう。
第4回	教育と歴史認識(1)	「靖国神社」「戦後補償」「鳩山ドクトリン」「南京事件」「教科書検定」
第5回	教育と歴史認識(2)	(リサーチ・発表をもとに理解を深めるためのディスカッション)
第6回	政治と民主主義(1)	「55年体制」「国対政治」「派閥」「族議員」「小選挙区制度」「政治資金規制」
第7回	政治と民主主義(2)	(リサーチ・発表をもとに理解を深めるためのディスカッション)
第8回	外交と安全保障(1)	「帝国主義」「冷戦」「核戦争と抑止」「国連中心主義」「日米安保条約」「ミサイル防衛」「テロ」
第9回	外交と安全保障(2)	(リサーチ・発表をもとに理解を深めるためのディスカッション)
第10回	スポーツと文化の問題(1)	「オリンピックの精神」「プロとアマ」「契約金ビジネス」「国技と品格」「選手育成制度」
第11回	スポーツと文化の問題(2)	(リサーチ・発表をもとに理解を深めるためのディスカッション)
第12回	開発とグローバリズム(1)	「南北問題」「新自由主義」「エネルギー」「HIV」「格差」「環境破壊」「気候変動」「人身売買」
第13回	開発とグローバリズム(2)	(リサーチ・発表をもとに理解を深めるためのディスカッション)
第14回	情報とセキュリティ(1)	「個人情報保護法」「生体認証」「ブロードバンド」「著作権」「放送と通信の融合」「ウィニー裁判」
第15回	情報とセキュリティ(2) まとめ議論	テーマ・ディスカッションとともに、今後どのようにメディアを利用していくのか考察します。

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

・備考

※1 これはあくまでも1例であり、担当教員によって扱うテーマや内容は変更される可能性があります。

※2 扱うテーマは以下のような問題から担当教員が選択します。

- 1) 政治と民主主義・権力
- 2) 警察・検察・司法の問題
- 3) 人権・生活の安全や安心
- 4) 外交と安全保障・国際機関

- 5)教育と歴史認識
- 6)経済と豊かな社会
- 7)スポーツと文化
- 8)開発とグローバリズム
- 9)情報社会とセキュリティ
- 10)ジャーナリズムの社会的役割

※3 問題の重点は担当教員によって変わる場合があります。また、重大な事件が起きたときは途中でその内容を変更して新しい出来事の勉強に変更する可能性があります。

※4 宿題は発表課題についてのスケジュールは、担当教員の指示に従ってください。

・授業外学習の指示

- 1)クラスで扱うテーマとは関係なく、少なくとも1紙は毎日読んでください。
- 2)クラスで扱う課題については、すべての受講者が過去の記事や参考文献などをあたりディスカッションの準備をして ください。
- 3)必要に応じて発表などを行うこともあるので、担当教員の指示に従ってください。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	テーマは追って指示します。リサーチや討論で得た成果を報告してもらいます。評価は情報収集の厚みと考察の深さで行います。
平常点(日常的)	50 %	討論にどれだけ参加できているか、そのための準備をどの程度行っているかで判断します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

特になし

教科書 / Textbooks

特になし

参考書 / Reference Books

特になし

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

特になし

その他 / Others

担当者名 / Instructor 宮下 晋吉

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

新聞記事を手がかりにして、現在起きている政治・経済・社会などの問題について正しく理解しましょう。大学で今後リサーチを行うにも、社会に出てからの情報収集においても、新聞を活用することは大切です。継続的に読み、断片的な記事をつなぎ合わせてある問題の全体像を把握するという方法を身につけましょう。またニュースがどのように作られるのか、その仕組みを知ることを通してどのような情報の「偏り」が生じるのかも理解しましょう。

到達目標 / Attainment Objectives

- ①政治、経済、外交、社会などの基礎的な用語やコンセプトについて自分なりの説明ができるようになること。
- ②日本の新聞の記事の特徴や海外紙との比較、各紙のものの味方の違いなどを理解し、過去記事の検索を含め効果的な情報収集を行う能力を磨く。
- ③複数の情報を照らし合わせて正確な情報を選択する方法を学ぶ。
- ④新聞記事をもとに、とりあげられている政治・経済・社会の問題についてさらに深くリサーチする。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「現代とメディア」

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	新聞には何が書いてあるのか - 導入のはなし	(ある記事をもとにあなたが何を知らないのか、どうすれば知ることができるのか考えましょう)
第2回	生活の安全・安心(1)	担当教員が示す記事を元に、「何が起きているのか」「何がわからないのか」を話し合おう
第3回	生活の安全・安心(2)	前回見つけた課題をもとにリサーチ・発表 今後どんな点に注目していけばいいのか理解しよう。
第4回	教育と歴史認識(1)	「靖国神社」「戦後補償」「鳩山ドクトリン」「南京事件」「教科書検定」
第5回	教育と歴史認識(2)	(リサーチ・発表をもとに理解を深めるためのディスカッション)
第6回	政治と民主主義(1)	「55年体制」「国対政治」「派閥」「族議員」「小選挙区制度」「政治資金規制」
第7回	政治と民主主義(2)	(リサーチ・発表をもとに理解を深めるためのディスカッション)
第8回	外交と安全保障(1)	「帝国主義」「冷戦」「核戦争と抑止」「国連中心主義」「日米安保条約」「ミサイル防衛」「テロ」
第9回	外交と安全保障(2)	(リサーチ・発表をもとに理解を深めるためのディスカッション)
第10回	スポーツと文化の問題(1)	「オリンピックの精神」「プロとアマ」「契約金ビジネス」「国技と品格」「選手育成制度」
第11回	スポーツと文化の問題(2)	(リサーチ・発表をもとに理解を深めるためのディスカッション)
第12回	開発とグローバリズム(1)	「南北問題」「新自由主義」「エネルギー」「HIV」「格差」「環境破壊」「気候変動」「人身売買」
第13回	開発とグローバリズム(2)	(リサーチ・発表をもとに理解を深めるためのディスカッション)
第14回	情報とセキュリティ(1)	「個人情報保護法」「生体認証」「ブロードバンド」「著作権」「放送と通信の融合」「ウィニー裁判」
第15回	情報とセキュリティ(2) まとめの議論	テーマ・ディスカッションとともに、今後どのようにメディアを利用していくのか考察します。

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

・備考

※1 これはあくまでも1例であり、担当教員によって扱うテーマや内容に変更される可能性があります。

※2 扱うテーマは以下のような問題から担当教員が選択します。

- 1) 政治と民主主義・権力
- 2) 警察・検察・司法の問題
- 3) 人権・生活の安全や安心
- 4) 外交と安全保障・国際機関
- 5) 教育と歴史認識

- 6) 経済と豊かな社会
- 7) スポーツと文化
- 8) 開発とグローバリズム
- 9) 情報社会とセキュリティ
- 10) ジャーナリズムの社会的役割

※3 問題の重点は担当教員によって変わる場合があります。また、重大な事件が起きたときは途中でその内容を変更して新しい出来事の勉強に変更する可能性があります。

※4 宿題は発表課題についてのスケジュールは、担当教員の指示に従ってください。

・授業外学習の指示

- 1) クラスで扱うテーマとは関係なく、少なくとも1紙は毎日読んでください。
- 2) クラスで扱う課題については、すべての受講者が過去の記事や参考文献などをあたりディスカッションの準備をしてください。
- 3) 必要に応じて発表などを行うこともあるので、担当教員の指示に従ってください。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	テーマは追って指示します。リサーチや討論で得た成果を報告してもらいます。評価は情報収集の厚みと考察の深さで行います。
平常点(日常的)	50 %	討論にどれだけ参加できているか、そのための準備をどの程度行っているかで判断します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

特になし

教科書 / Textbooks

特になし

参考書 / Reference Books

特になし

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

特になし

その他 / Others

プロジェクトスタディIIA 2M

15640

担当者名 / Instructor 松田 亜希

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

プロジェクトスタディ・メディア社会専攻では「新聞で始めるさまざまな力の獲得」を目指します。特に「市民とメディア」では「メディア・アクセス」をテーマに表現力を身につけることに主眼がおかれています。新聞の読者投稿(オピニオン)や広告表現などを互いに議論しあい、また実際に広告作成や投稿を行います。

市民の目線で新聞を読み解くとは、どういうことか。

市民とは誰か

市民とマス・メディア

市民のメディア

*メディア・アクセスの3つのパート

パート1 新聞を解剖する(第1回～第4回)

パート2 新聞を遊ぶ(第5回～第9回)

パート3 新聞を作る(第10回～第15回)

*評価基準 出席点、グループワーク、個人ワーク

到達目標 / Attainment Objectives

読者投稿や広告表現について学びつつ、自らもそれらを作成したり投稿するというプロセスを通じ、市民としてメディアに対してアクティブに参加する態度を養います。そして、専攻の違いにかかわらず、専門演習での学びに際して基礎となる「問題発見の力」の獲得を目指します。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	講義の概要と到達目標の説明／新聞・記事の分析／市民の目線で新聞にアクセスするとは？	全国紙、地方紙、総合面、国際面、社会面
第2回	新聞一面の内容分析	題字、記事、広告
第3回	社会面の内容分析	生活、個人
第4回	社説の読み比べ	新聞社の意見、違い
第5回	読者投稿とは	新聞社への投稿
第6回	読者投稿の発表	プレゼンテーション
第7回	意見広告とはなにか	政治的、公共的
第8回	意見広告の作成	ヘッドコピー、リード、キービジュアル
第9回	意見広告の発表	プレゼンテーション
第10回	記事の書き方①	記事の要件、形態
第11回	記事の書き方②	見出し、リード、本文、良い記事・悪い記事
第12回	記事の書き方③	取材方法、インタビュー、調査
第13回	新聞1面をつくる①	レイアウト、段
第14回	新聞1面をつくる②	レイアウト、段
第15回	新聞一面をつくる③	プレゼンテーション

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

常に、新聞に対する興味を持ち、極力毎日新聞を読むことを期待する。各課題に関しては、授業内でも制作を行なうが、課題が終了していない場合には授業外でグループごとに集まり課題を行なう。授業外での学習が比較的多いことが予想される。

意見広告、読者投稿、新聞一面の作成等は授業外の作業になり、授業では、それらの課題の発表およびディスカッションが中心となる。読者投稿は個人レベルであるが、その他の内容は4～5人程度のグループ単位で行なう。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	個人レベルで、新聞、意見広告、読者投稿の今日的課題について、レポートをまとめて提出する。
平常点(日常的)	50 %	新聞内容分析、意見広告の作成、読者投稿、新聞一面などの具体的な課題への取り組みを重視。毎回出席をとり、それも評価に加味する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

各クラスの進み方により、すべての内容カバーしない場合がある。特に新聞一面をつくるは行なわない可能性もある。

教科書 / Textbooks

特になし

参考書 / Reference Books

<u>書名 / Title</u>	<u>出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment</u>
「実践ジャーナリスト育成講座」	花田達朗・ニューズラボ研究会編著 / 平凡社 / / 2004年
「新聞の読み方上達法」	熊田亘 / ほるぷ出版 / / 1994年
「意見広告、入門」	糸川精一 / 日本機関紙出版センター / / 1984年

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference**その他 / Others**

プロジェクトスタディIIA 2N

15641

担当者名 / Instructor 登丸 あすか

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

プロジェクトスタディ・メディア社会専攻では「新聞で始めるさまざまな力の獲得」を目指します。特に「市民とメディア」では「メディア・アクセス」をテーマに表現力を身につけることに主眼がおかれています。新聞の読者投稿(オピニオン)や広告表現などを互いに議論しあい、また実際に広告作成や投稿を行います。

市民の目線で新聞を読み解くとは、どういうことか。

市民とは誰か

市民とマス・メディア

市民のメディア

*メディア・アクセスの3つのパート

パート1 新聞を解剖する(第1回～第4回)

パート2 新聞を遊ぶ(第5回～第9回)

パート3 新聞を作る(第10回～第15回)

*評価基準 出席点、グループワーク、個人ワーク

到達目標 / Attainment Objectives

読者投稿や広告表現について学びつつ、自らもそれらを作成したり投稿するというプロセスを通じ、市民としてメディアに対してアクティブに参加する態度を養います。そして、専攻の違いにかかわらず、専門演習での学びに際して基礎となる「問題発見の力」の獲得を目指します。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	講義の概要と到達目標の説明／新聞・記事の分析／市民の目線で新聞にアクセスするとは？	全国紙、地方紙、総合面、国際面、社会面
第2回	新聞一面の内容分析	題字、記事、広告
第3回	社会面の内容分析	生活、個人
第4回	社説の読み比べ	新聞社の意見、違い
第5回	読者投稿とは	新聞社への投稿
第6回	読者投稿の発表	プレゼンテーション
第7回	意見広告とはなにか	政治的、公共的
第8回	意見広告の作成	ヘッドコピー、リード、キービジュアル
第9回	意見広告の発表	プレゼンテーション
第10回	記事の書き方①	記事の要件、形態
第11回	記事の書き方②	見出し、リード、本文、良い記事・悪い記事
第12回	記事の書き方③	取材方法、インタビュー、調査
第13回	新聞1面をつくる①	レイアウト、段
第14回	新聞1面をつくる②	レイアウト、段
第15回	新聞一面をつくる③	プレゼンテーション

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

常に、新聞に対する興味を持ち、極力毎日新聞を読むことを期待する。各課題に関しては、授業内でも制作を行なうが、課題が終了していない場合には授業外でグループごとに集まり課題を行なう。授業外での学習が比較的多いことが予想される。

意見広告、読者投稿、新聞一面の作成等は授業外の作業になり、授業では、それらの課題の発表およびディスカッションが中心となる。読者投稿は個人レベルであるが、その他の内容は4～5人程度のグループ単位で行なう

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	個人レベルで、新聞、意見広告、読者投稿の今日的課題について、レポートをまとめて提出する。
平常点(日常的)	50 %	新聞内容分析、意見広告の作成、読者投稿、新聞一面などの具体的な課題への取り組みを重視。毎回出席をとり、それも評価に加味する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

新聞内容分析、意見広告の作成、読者投稿、新聞一面などの具体的な課題への取り組みを重視。毎回出席をとり、それも評価に加味する。

教科書 / Textbooks

特になし

参考書 / Reference Books

<u>書名 / Title</u>	<u>出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment</u>
「実践ジャーナリスト育成講座」	花田達朗・ニューズラボ研究会編著 / 平凡社 / / 2004年
「新聞の読み方上達法」	熊田亘 / ほるぷ出版 / / 1994年
「意見広告、入門」	糸川精一 / 日本機関紙出版センター / / 1984年

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference**その他 / Others**

担当者名 / Instructor 登丸 あすか

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

プロジェクトスタディ・メディア社会専攻では「新聞で始めるさまざまな力の獲得」を目指します。特に「市民とメディア」では「メディア・アクセス」をテーマに表現力を身につけることに主眼がおかれています。新聞の読者投稿(オピニオン)や広告表現などを互いに議論しあい、また実際に広告作成や投稿を行います。

市民の目線で新聞を読み解くとは、どういうことか。

市民とは誰か

市民とマス・メディア

市民のメディア

*メディア・アクセスの3つのパート

パート1 新聞を解剖する(第1回～第4回)

パート2 新聞を遊ぶ(第5回～第9回)

パート3 新聞を作る(第10回～第15回)

*評価基準 出席点、グループワーク、個人ワーク

到達目標 / Attainment Objectives

読者投稿や広告表現について学びつつ、自らもそれらを作成したり投稿するというプロセスを通じ、市民としてメディアに対してアクティブに参加する態度を養います。そして、専攻の違いにかかわらず、専門演習での学びに際して基礎となる「問題発見の力」の獲得を目指します。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	講義の概要と到達目標の説明／新聞・記事の分析／市民の目線で新聞にアクセスするとは？	全国紙、地方紙、総合面、国際面、社会面
第2回	新聞一面の内容分析	題字、記事、広告
第3回	社会面の内容分析	生活、個人
第4回	社説の読み比べ	新聞社の意見、違い
第5回	読者投稿とは	新聞社への投稿
第6回	読者投稿の発表	プレゼンテーション
第7回	意見広告とはなにか	政治的、公共的
第8回	意見広告の作成	ヘッドコピー、リード、キービジュアル
第9回	意見広告の発表	プレゼンテーション
第10回	記事の書き方①	記事の要件、形態
第11回	記事の書き方②	見出し、リード、本文、良い記事・悪い記事
第12回	記事の書き方③	取材方法、インタビュー、調査
第13回	新聞1面をつくる①	レイアウト、段
第14回	新聞1面をつくる②	レイアウト、段
第15回	新聞一面をつくる③	プレゼンテーション

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study**(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method**

常に、新聞に対する興味を持ち、極力毎日新聞を読むことを期待する。各課題に関しては、授業内でも制作を行なうが、課題が終了していない場合には授業外でグループごとに集まり課題を行なう。授業外での学習が比較的多いことが予想される。

意見広告、読者投稿、新聞一面の作成等は授業外の作業になり、授業では、それらの課題の発表およびディスカッションが中心となる。読者投稿は個人レベルであるが、その他の内容は4～5人程度のグループ単位で行なう。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	個人レベルで、新聞、意見広告、読者投稿の今日的課題について、レポートをまとめて提出する
平常点(日常的)	50 %	新聞内容分析、意見広告の作成、読者投稿、新聞一面などの具体的な課題への取り組みを重視。毎回出席をとり、それも評価に加味する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

新聞内容分析、意見広告の作成、読者投稿、新聞一面などの具体的な課題への取り組みを重視。毎回出席をとり、それも評価に加味する。

教科書 / Textbooks

特になし

参考書 / Reference Books

<u>書名 / Title</u>	<u>出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment</u>
「実践ジャーナリスト育成講座」	花田達朗・ニューズラボ研究会編著 / 平凡社 / / 2004年
「新聞の読み方上達法」	熊田亘 / ほるぷ出版 / / 1994年
「意見広告、入門」	糸川精一 / 日本機関紙出版センター / / 1984年

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference**その他 / Others**

担当者名 / Instructor 日高勝之

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

新聞記事を手がかりにして、現在起きている政治・経済・社会などの問題について正しく理解しましょう。大学で今後リサーチを行うにも、社会に出てからの情報収集においても、新聞を活用することは大切です。継続的に読み、断片的な記事をつなぎ合わせてある問題の全体像を把握するという方法を身につけましょう。またニュースがどのように作られるのか、その仕組みを知ることを通してどのような情報の「偏り」が生じるのかも理解しましょう。

到達目標 / Attainment Objectives

- ①政治、経済、外交、社会などの基礎的な用語やコンセプトについて自分なりの説明ができるようになること。
- ②日本の新聞の記事の特徴や海外紙との比較、各紙のものの味方の違いなどを理解し、過去記事の検索を含め効果的な情報収集を行う能力を磨く。
- ③複数の情報を照らし合わせて正確な情報を選択する方法を学ぶ。
- ④新聞記事をもとに、とりあげられている政治・経済・社会の問題についてさらに深くリサーチする。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「現代とメディア」

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	新聞には何が書いてあるのか - 導入のはなし	(ある記事をもとにあなたが何を知らないのか、どうすれば知ることができるのか考えましょう)
第2回	生活の安全・安心(1)	担当教員が示す記事を元に、「何が起きているのか」「何がわからないのか」を話し合おう
第3回	生活の安全・安心(2)	前回見つけた課題をもとにリサーチ・発表 今後どんな点に注目していけばいいのか理解しよう。
第4回	教育と歴史認識(1)	「靖国神社」「戦後補償」「鳩山ドクトリン」「南京事件」「教科書検定」
第5回	教育と歴史認識(2)	(リサーチ・発表をもとに理解を深めるためのディスカッション)
第6回	政治と民主主義(1)	「55年体制」「国対政治」「派閥」「族議員」「小選挙区制度」「政治資金規制」
第7回	政治と民主主義(2)	(リサーチ・発表をもとに理解を深めるためのディスカッション)
第8回	外交と安全保障(1)	「帝国主義」「冷戦」「核戦争と抑止」「国連中心主義」「日米安保条約」「ミサイル防衛」「テロ」
第9回	外交と安全保障(2)	(リサーチ・発表をもとに理解を深めるためのディスカッション)
第10回	スポーツと文化の問題(1)	「オリンピックの精神」「プロとアマ」「契約金ビジネス」「国技と品格」「選手育成制度」
第11回	スポーツと文化の問題(2)	(リサーチ・発表をもとに理解を深めるためのディスカッション)
第12回	開発とグローバリズム(1)	「南北問題」「新自由主義」「エネルギー」「HIV」「格差」「環境破壊」「気候変動」「人身売買」
第13回	開発とグローバリズム(2)	(リサーチ・発表をもとに理解を深めるためのディスカッション)
第14回	情報とセキュリティ(1)	「個人情報保護法」「生体認証」「ブロードバンド」「著作権」「放送と通信の融合」「ウィニー裁判」
第15回	情報とセキュリティ(2) まとめの議論	テーマ・ディスカッションとともに、今後どのようにメディアを利用していくのか考察します。

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

・備考

※1 これはあくまでも1例であり、担当教員によって扱うテーマや内容に変更される可能性があります。

※2 扱うテーマは以下のような問題から担当教員が選択します。

- 1) 政治と民主主義・権力
- 2) 警察・検察・司法の問題
- 3) 人権・生活の安全や安心
- 4) 外交と安全保障・国際機関
- 5) 教育と歴史認識

- 6) 経済と豊かな社会
- 7) スポーツと文化
- 8) 開発とグローバリズム
- 9) 情報社会とセキュリティ
- 10) ジャーナリズムの社会的役割

※3 問題の重点は担当教員によって変わる場合があります。また、重大な事件が起きたときは途中でもその内容を変更して新しい出来事の勉強に変更する可能性があります。

※4 宿題は発表課題についてのスケジュールは、担当教員の指示に従ってください。

・授業外学習の指示

- 1) クラスで扱うテーマとは関係なく、少なくとも1紙は毎日読んでください。
- 2) クラスで扱う課題については、すべての受講者が過去の記事や参考文献などをあたりディスカッションの準備をしてください。
- 3) 必要に応じて発表などを行うこともあるので、担当教員の指示に従ってください。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	0 %	テーマは追って指示します。リサーチや討論で得た成果を報告してもらいます。評価は情報収集の厚みと考察の深さで行います。
レポート試験	50 %	
平常点(日常的)	50 %	討論にどれだけ参加できているか、そのための準備をどの程度行っているかで判断します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

特になし

教科書 / Textbooks

特になし

参考書 / Reference Books

特になし

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

特になし

その他 / Others

担当者名 / Instructor 山下 秋二

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツと社会の関わり方を学ぶ」

この授業では、スポーツの成り立っている社会的仕組みや社会に与えている影響はどのようなものかを、スポーツを取り扱っている雑誌や文献、新聞に表れているスポーツ事象を通して学び、それぞれ任意のテーマを設定して、レポートにまとめることにしたいと思います。そのため授業は以下のような組み立てで行います。まずスポーツと社会の関わり方を学んでいく課題や方向を、幾つか代表的著作の章構成やトピックを参照していくことからつかんでいきたいと思ひます。つぎに主に新聞を素材に、スポーツと社会の関連について具体的な事例を検討していきたいと思ひます。それを経て、基本的な文献の読解と、またそれぞれに応じたトピックとを探す作業を行いたいと思ひます。この作業は班ごとに行い、報告とディスカッションと言うプロセスをとり、授業終了時にレポートとしてまとめたいと思ひます。

到達目標 / Attainment Objectives

- 1) スポーツと社会との幅広い関連を理解できる目を養うこと。
- 2) 情報を集め、分析し、それを表現する能力をつけること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study**授業スケジュール / Course Schedule**

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	スポーツと社会一課題の多様性を知る	政治、ビジネス、社会病理
第2回	メディアで報道されるスポーツ (1)ビジネス	スポーツビジネス、市場
第3回	メディアで報道されるスポーツ (2)政治	地域、社会病理、若者
第4回	メディアで報道されるスポーツ (3)グローバル化	国際関係、移民、グローバルマーケット
第5回	メディアで報道されるスポーツ (4)マスメディア	グローバルメディア、国際競技大会、スポーツスター
第6回	班別の課題設定と作業スケジュールの議論	
第7回	基本テキストの読解と討論	
第8回	基本テキストの読解と討論	
第9回	基本テキストの読解と討論	
第10回	基本テキストの読解と討論	
第11回	基本テキストの読解と討論	
第12回	班別課題報告とディスカッション	
第13回	班別課題報告とディスカッション	
第14回	班別課題報告とディスカッション	
第15回	クラス全体でのディスカッション: スポーツと社会の関連枠組みと課題	

**(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method**

授業進度に応じて個別に指示する。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	60 %	
平常点(日常的)	40 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

主体的に課題発見を行うよう、受け身ではなく授業に積極的に参加し、みずから作り上げていくことを望みたい。

教科書 / Textbooks

授業開始後、学生の関心に応じて個々のクラスごとに指示する予定である。

参考書 / Reference Books

授業中適宜指示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

日本スポーツ社会学会 <http://www.jsss.jp/>
 日本体育学会 <http://www.soc.nii.ac.jp/jspe3/>
 日本体育学会体育史専門分科会 <http://www.taiikushi.org/>
 スポーツ史学会 <http://www.soc.nii.ac.jp/jssh/>

担当者名 / Instructor 権 学俊

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツと社会の関わり方を学ぶ」

この授業では、スポーツの成り立っている社会的仕組みや社会に与えている影響はどのようなものかを、スポーツを取り扱っている雑誌や文献、新聞に表れているスポーツ事象を通して学び、それぞれ任意のテーマを設定して、レポートにまとめることにしたいと思います。そのため授業は以下のような組み立てで行います。まずスポーツと社会の関わり方を学んでいく課題や方向を、幾つか代表的著作の章構成やトピックを参照していくことからつかんでいきたいと思ひます。つぎに主に新聞を素材に、スポーツと社会の関連について具体的な事例を検討していきたいと思ひます。それを経て、基本的な文献の読解と、またそれぞれに応じたトピックとを採る作業を行いたいと思ひます。この作業は班ごとに行い、報告とディスカッションと言うプロセスをとり、授業終了時にレポートとしてまとめたいと思ひます。

到達目標 / Attainment Objectives

- 1) スポーツと社会との幅広い関連を理解できる目を養うこと。
- 2) 情報を集め、分析し、それを表現する能力をつけること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study**授業スケジュール / Course Schedule**

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	スポーツと社会一課題の多様性を知る	政治、ビジネス、社会病理
第2回	メディアで報道されるスポーツ (1)ビジネス	スポーツビジネス、市場
第3回	メディアで報道されるスポーツ (2)政治	地域、社会病理、若者
第4回	メディアで報道されるスポーツ (3)グローバル化	国際関係、移民、グローバルマーケット
第5回	メディアで報道されるスポーツ (4)マスメディア	グローバルメディア、国際競技大会、スポーツスター
第6回	班別の課題設定と作業スケジュールの議論	
第7回	基本テキストの読解と討論	
第8回	基本テキストの読解と討論	
第9回	基本テキストの読解と討論	
第10回	基本テキストの読解と討論	
第11回	基本テキストの読解と討論	
第12回	班別課題報告とディスカッション	
第13回	班別課題報告とディスカッション	
第14回	班別課題報告とディスカッション	
第15回	クラス全体でのディスカッション: スポーツと社会の関連枠組みと課題	

**(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method**

授業進度に応じて個別に指示する。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	60 %	
平常点(日常的)	40 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

主体的に課題発見を行うよう、受け身ではなく授業に積極的に参加し、みずから作り上げていくことを望みたい。

教科書 / Textbooks

授業開始後、学生の関心に応じて個々のクラスごとに指示する予定である。

参考書 / Reference Books

授業中適宜指示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

日本スポーツ産業学会 <http://www.spo-sun.gr.jp/html/index/index.html>

日本スポーツ社会学会 <http://www.jsss.jp/>

日本体育学会 <http://www.soc.nii.ac.jp/jspe3/>

担当者名 / Instructor 権 学俊

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツと社会の関わり方を学ぶ」

この授業では、スポーツの成り立っている社会的仕組みや社会に与えている影響はどのようなものかを、スポーツを取り扱っている雑誌や文献、新聞に表れているスポーツ事象を通して学び、それぞれ任意のテーマを設定して、レポートにまとめることにしたいと思います。そのため授業は以下のような組み立てで行います。まずスポーツと社会の関わり方を学んでいく課題や方向を、幾つか代表的著作の章構成やトピックを参照していくことからつかんでいきたいと思っています。つぎに主に新聞を素材に、スポーツと社会の関連について具体的な事例を検討していきたいと思っています。それを経て、基本的な文献の読解と、またそれぞれに応じたトピックとを探す作業を行いたいと思っています。この作業は班ごとに行い、報告とディスカッションと言うプロセスをとり、授業終了時にレポートとしてまとめたいと思っています。

到達目標 / Attainment Objectives

- 1) スポーツと社会との幅広い関連を理解できる目を養うこと。
- 2) 情報を集め、分析し、それを表現する能力をつけること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study**授業スケジュール / Course Schedule**

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	スポーツと社会一課題の多様性を知る	政治、ビジネス、社会病理
第2回	メディアで報道されるスポーツ (1)ビジネス	スポーツビジネス、市場
第3回	メディアで報道されるスポーツ (2)政治	地域、社会病理、若者
第4回	メディアで報道されるスポーツ (3)グローバル化	国際関係、移民、グローバルマーケット
第5回	メディアで報道されるスポーツ (4)マスメディア	グローバルメディア、国際競技大会、スポーツスター
第6回	班別の課題設定と作業スケジュールの議論	
第7回	基本テキストの読解と討論	
第8回	基本テキストの読解と討論	
第9回	基本テキストの読解と討論	
第10回	基本テキストの読解と討論	
第11回	基本テキストの読解と討論	
第12回	班別課題報告とディスカッション	
第13回	班別課題報告とディスカッション	
第14回	班別課題報告とディスカッション	
第15回	クラス全体でのディスカッション: スポーツと社会の関連枠組みと課題	

**(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method**

授業進度に応じて個別に指示する。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	60 %	
平常点(日常的)	40 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

主体的に課題発見を行うよう、受け身ではなく授業に積極的に参加し、みずから作り上げていくことを望みたい。

教科書 / Textbooks

授業開始後、学生の関心に応じて個々のクラスごとに指示する予定である。

参考書 / Reference Books

授業中適宜指示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

日本スポーツ産業学会 <http://www.spo-sun.gr.jp/html/index/index.html>

日本スポーツ社会学会 <http://www.jsss.jp/>

日本体育学会 <http://www.soc.nii.ac.jp/jspe3/>

担当者名 / Instructor 藪 耕太郎

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ文化を学ぶ」

スポーツとはどのような文化なのか、それはどのような発展をしてきたのか、また現在スポーツ文化はどのような問題を持っているのか、これらを歴史や文化論、遊び論などの文献や、新聞に表れているスポーツ事象を通して学び、それぞれ任意のテーマを設定してレポートにまとめることにしたいと思います。そのため授業は以下のような組み立てで行います。まずスポーツ文化を学んでいく課題や方向を、代表的著作の章構成やトピックを参照していくことから考えていきたいと思います。つぎに主に新聞を素材に、スポーツ文化が現在どのようなようにとらえられているのか、その「語られ方」の中から考えていきたいと思います。それを経て、基本的な文献の読解と、またそれぞれに応じたトピックとを探索するという作業を行いたいと思います。この作業は班ごとに行い、報告とディスカッションというプロセスをとり、授業終了時にレポートとしてまとめたいと思います。

到達目標 / Attainment Objectives

- 1) 自らのスポーツ像の「概念砕き」等を通して「スポーツ」という文化を対象的に捕らえられる目を養うこと。
- 2) 情報を集め、分析し、それを表現する能力をつけること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	テーマ : スポーツ文化を学ぶ一課題の多様性を知る	キーワード 文化、スポーツ、人間、歴史
第2回	テーマ : メディアに表れたスポーツ文化 (1) 身体	キーワード 身体、健康、医療、障害者
第3回	テーマ : メディアに表れたスポーツ文化 (2) 規範	キーワード ルール、スポーツマンシップ、フェアプレー
第4回	テーマ : メディアに表れたスポーツ文化 (3) 教育	キーワード 学校、生涯教育、
第5回	テーマ : メディアに表れたスポーツ文化 (4) 競技	テーマ : メディアに表れたスポーツ文化 (4) 競技
第6回	テーマ : 班別の課題設定と作業スケジュールの議論	
第7回	テーマ : 基本テキストの読解と討論	
第8回	テーマ : 基本テキストの読解と討論	
第9回	テーマ : 基本テキストの読解と討論	
第10回	テーマ : 基本テキストの読解と討論	
第11回	テーマ : 基本テキストの読解と討論	
第12回	テーマ : 班別課題報告とディスカッション	
第13回	テーマ : 班別課題報告とディスカッション	
第14回	テーマ : 班別課題報告とディスカッション	
第15回	テーマ : クラス全体でのディスカッション : スポーツ文化とは何か	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

授業進度に応じて個別に指示する。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	60 %	
平常点(日常的)	40 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

主体的に課題発見を行うよう、受け身ではなく授業に積極的に参加し、みずから作り上げていくことを望みたい。

教科書 / Textbooks

授業開始後、学生の関心に応じて個々のクラスごとに指示する予定である。

参考書 / Reference Books

授業中適宜指示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

日本スポーツ社会学会 <http://www.jsss.jp/>
 日本体育学会 <http://www.soc.nii.ac.jp/jspe3/>
 日本体育学会体育史専門分科会 <http://www.taiikushi.org/>
 スポーツ史学会 <http://www.soc.nii.ac.jp/jssh/>

担当者名 / Instructor 西原 茂樹

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ文化を学ぶ」

スポーツとはどのような文化なのか、それはどのような発展をしてきたのか、また現在スポーツ文化はどのような問題を持っているのか、これらを歴史や文化論、遊び論などの文献や、新聞に表れているスポーツ事象を通して学び、それぞれ任意のテーマを設定してレポートにまとめることにしたいと思います。そのため授業は以下のような組み立てで行います。まずスポーツ文化を学んでいく課題や方向を、代表的著作の章構成やトピックを参照していくことから考えていきたいと思ひます。つぎに主に新聞を素材に、スポーツ文化が現在どのようにとらえられているのか、その「語られ方」の中から考えていきたいと思ひます。それを経て、基本的な文献の読解と、またそれぞれに応じたトピックとを探するという作業を行いたいと思ひます。この作業は班ごとに行い、報告とディスカッションというプロセスをとり、授業終了時にレポートとしてまとめたいと思ひます。

到達目標 / Attainment Objectives

- 1) 自らのスポーツ像の「概念砕き」等を通して「スポーツ」という文化を対象的に捕らえられる目を養うこと。
- 2) 情報を集め、分析し、それを表現する能力をつけること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	テーマ : スポーツ文化を学ぶー課題の多様性を知る	キーワード 文化、スポーツ、人間、歴史
第2回	テーマ : メディアに表れたスポーツ文化 (1) 身体	キーワード 身体、健康、医療、障害者
第3回	テーマ : メディアに表れたスポーツ文化 (2) 規範	キーワード ルール、スポーツマンシップ、フェアプレー
第4回	テーマ : メディアに表れたスポーツ文化 (3) 教育	キーワード 学校、生涯教育、
第5回	テーマ : メディアに表れたスポーツ文化 (4) 競技	キーワード ゲーム、開会式、賞
第6回	テーマ : 班別の課題設定と作業スケジュールの議論	
第7回	テーマ : 基本テキストの読解と討論	
第8回	テーマ : 基本テキストの読解と討論	
第9回	テーマ : 基本テキストの読解と討論	
第10回	テーマ : 基本テキストの読解と討論	
第11回	テーマ : 基本テキストの読解と討論	
第12回	テーマ : 班別課題報告とディスカッション	
第13回	テーマ : 班別課題報告とディスカッション	
第14回	テーマ : 班別課題報告とディスカッション	
第15回	テーマ : クラス全体でのディスカッション : スポーツ文化とは何か	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

授業進度に応じて個別に指示する。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	60 %	
平常点(日常的)	40 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

主体的に課題発見を行うよう、受け身ではなく授業に積極的に参加し、みずから作り上げていくことを望みたい。

教科書 / Textbooks

授業開始後、学生の関心に応じて個々のクラスごとに指示する予定である。

参考書 / Reference Books

授業中適宜指示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

- 日本スポーツ社会学会 <http://www.jsss.jp/>
 日本体育学会 <http://www.soc.nii.ac.jp/jspe3/>
 日本体育学会体育史専門分科会 <http://www.taiikushi.org/>

担当者名 / Instructor 漆原 良

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ文化を学ぶ」

スポーツとはどのような文化なのか、それはどのような発展をしてきたのか、また現在スポーツ文化はどのような問題を持っているのか、これらを歴史や文化論、遊び論などの文献や、新聞に表れているスポーツ事象を通して学び、それぞれ任意のテーマを設定してレポートにまとめることにしたいと思います。そのため授業は以下のような組み立てで行います。まずスポーツ文化を学んでいく課題や方向を、代表的著作の章構成やトピックを参照していくことから考えていきたいと思います。つぎに主に新聞を素材に、スポーツ文化が現在どのようにとらえられているのか、その「語られ方」の中から考えていきたいと思います。それを経て、基本的な文献の読解と、またそれぞれに応じたトピックとを探するという作業を行いたいと思います。この作業は班ごとに行い、報告とディスカッションというプロセスをとり、授業終了時にレポートとしてまとめたいと思います。

到達目標 / Attainment Objectives

- 1) 自らのスポーツ像の「概念砕き」等を通して「スポーツ」という文化を対象的に捕らえられる目を養うこと。
- 2) 情報を集め、分析し、それを表現する能力をつけること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study**授業スケジュール / Course Schedule**

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	スポーツ文化を学ぶ一課題の多様性を知る	文化、スポーツ、人間、歴史
第2回	メディアに表れたスポーツ文化 (1) 身体	身体、健康、医療、障害者
第3回	メディアに表れたスポーツ文化 (2) 規範	ルール、スポーツマンシップ、フェアプレー
第4回	メディアに表れたスポーツ文化 (3) 教育	学校、生涯教育
第5回	メディアに表れたスポーツ文化 (4) 競技	ゲーム、開会式、賞
第6回	班別の課題設定と作業スケジュールの議論	
第7回	基本テキストの読解と討論	
第8回	基本テキストの読解と討論	
第9回	基本テキストの読解と討論	
第10回	基本テキストの読解と討論	
第11回	基本テキストの読解と討論	
第12回	班別課題報告とディスカッション	
第13回	班別課題報告とディスカッション	
第14回	班別課題報告とディスカッション	
第15回	クラス全体でのディスカッション: スポーツ文化とは何か	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

授業進度に応じて個別に指示する。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	60 %	
平常点(日常的)	40 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

主体的に課題発見を行うよう、受け身ではなく授業に積極的に参加し、みずから作り上げていくことを望みたい。

教科書 / Textbooks

授業開始後、学生の関心に応じて個々のクラスごとに指示する予定である。

参考書 / Reference Books

授業中適宜指示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

日本スポーツ社会学会 <http://www.jsss.jp/>
 日本体育学会 <http://www.soc.nii.ac.jp/jspe3/>
 日本体育学会体育史専門分科会 <http://www.taiikushi.org/>
 スポーツ史学会 <http://www.soc.nii.ac.jp/jssh/>

担当者名 / Instructor 山下 高行

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ文化を学ぶ」

スポーツとはどのような文化なのか、それはどのような発展をしてきたのか、また現在スポーツ文化はどのような問題を持っているのか、これらを歴史や文化論、遊び論などの文献や、新聞に表れているスポーツ事象を通して学び、それぞれ任意のテーマを設定してレポートにまとめることにしたいと思います。そのため授業は以下のような組み立てで行います。まずスポーツ文化を学んでいく課題や方向を、代表的著作の章構成やトピックを参照していくことから考えていきたいと思います。つぎに主に新聞を素材に、スポーツ文化が現在どのようにとらえられているのか、その「語られ方」の中から考えていきたいと思います。それを経て、基本的な文献の読解と、またそれぞれに応じたトピックとを探するという作業を行いたいと思います。この作業は班ごとに行い、報告とディスカッションというプロセスをとり、授業終了時にレポートとしてまとめたいと思います。

到達目標 / Attainment Objectives

- 1) 自らのスポーツ像の「概念砕き」等を通して「スポーツ」という文化を対象的に捕らえられる目を養うこと。
- 2) 情報を集め、分析し、それを表現する能力をつけること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study**授業スケジュール / Course Schedule**

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	スポーツ文化を学ぶ一課題の多様性を知る	文化、スポーツ、人間、歴史
第2回	メディアに表れたスポーツ文化 (1) 身体	身体、健康、医療、障害者
第3回	メディアに表れたスポーツ文化 (2) 規範	ルール、スポーツマンシップ、フェアプレー
第4回	メディアに表れたスポーツ文化 (3) 教育	学校、生涯教育
第5回	メディアに表れたスポーツ文化 (4) 競技	ゲーム、開会式、賞
第6回	班別の課題設定と作業スケジュールの議論	
第7回	基本テキストの読解と討論	
第8回	基本テキストの読解と討論	
第9回	基本テキストの読解と討論	
第10回	基本テキストの読解と討論	
第11回	基本テキストの読解と討論	
第12回	班別課題報告とディスカッション	
第13回	班別課題報告とディスカッション	
第14回	班別課題報告とディスカッション	
第15回	クラス全体でのディスカッション: スポーツ文化とは何か	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

授業進度に応じて個別に指示する。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	60 %	
平常点(日常的)	40 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

主体的に課題発見を行うよう、受け身ではなく授業に積極的に参加し、みずから作り上げていくことを望みたい。

教科書 / Textbooks

授業開始後、学生の関心に応じて個々のクラスごとに指示する予定である。

参考書 / Reference Books

授業中適宜指示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

日本スポーツ社会学会 <http://www.jsss.jp/>
 日本体育学会 <http://www.soc.nii.ac.jp/jspe3/>
 日本体育学会体育史専門分科会 <http://www.taiikushi.org/>
 スポーツ史学会 <http://www.soc.nii.ac.jp/jssh/>

プロジェクトスタディIA 3H

16971

担当者名 / Instructor 西原 茂樹

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツと社会の関わり方を学ぶ」

この授業では、スポーツの成り立っている社会的仕組みや社会に与えている影響はどのようなものかを、スポーツを取り扱っている雑誌や文献、新聞に表れているスポーツ事象を通して学び、それぞれ任意のテーマを設定して、レポートにまとめることにしたいと思います。そのため授業は以下のような組み立てで行います。まずスポーツと社会の関わり方を学んでいく課題や方向を、幾つか代表的著作の章構成やトピックを参照していくことからつかんでいきたいと思ひます。つぎに主に新聞を素材に、スポーツと社会の関連について具体的な事例を検討していきたいと思ひます。それを経て、基本的な文献の読解と、またそれぞれに応じたトピックとを探す作業を行いたいと思ひます。この作業は班ごとに行い、報告とディスカッションと言うプロセスをとり、授業終了時にレポートとしてまとめたいと思ひます。

到達目標 / Attainment Objectives

- 1) スポーツと社会との幅広い関連を理解できる目を養うこと。
- 2) 情報を集め、分析し、それを表現する能力をつけること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	テーマ : スポーツと社会一課題の多様性を知る	キーワード 政治、ビジネス、社会病理
第2回	テーマ : メディアで報道されるスポーツ (1) ビジネス	キーワード スポーツビジネス、市場
第3回	テーマ : メディアで報道されるスポーツ (2) 政治	キーワード 地域、社会病理、若者
第4回	テーマ : メディアで報道されるスポーツ (3) グローバル化	キーワード 国際関係、移民、グローバルマーケット
第5回	テーマ : メディアで報道されるスポーツ (4) マスメディア	キーワード グローバルメディア、国際競技大会、スポーツスター
第6回	テーマ : 班別の課題設定と作業スケジュールの議論	
第7回	テーマ : 基本テキストの読解と討論	
第8回	テーマ : 基本テキストの読解と討論	
第9回	テーマ : 基本テキストの読解と討論	
第10回	テーマ : 基本テキストの読解と討論	
第11回	テーマ : 基本テキストの読解と討論	
第12回	テーマ : 班別課題報告とディスカッション	
第13回	テーマ : 班別課題報告とディスカッション	
第14回	テーマ : 班別課題報告とディスカッション	
第15回	テーマ : クラス全体でのディスカッション: スポーツと社会の関連枠組みと課題	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

授業震度に応じて個別に支持する。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	60 %	
平常点(日常的)	40 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

主体的に課題発見を行うよう、受け身ではなく授業に積極的に参加し、みずから作り上げていくことを望みたい。

教科書 / Textbooks

授業開始後、学生の関心に応じて個々のクラスごとに指示する予定である。

参考書 / Reference Books

授業中適宜指示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

日本スポーツ産業学会 <http://www.spo-sun.gr.jp/html/index/index.html>
日本スポーツ社会学会 <http://www.jsss.jp/>

授業の概要 / Course Outline

基本的テーマは「自分の教育体験を概念的に把握する」ことにあります。初等、中等教育においては被教育者であったみなさん一人ひとりが、1年間の学生生活を体験したのち、あらためてみずからの受けてきた学校教育を俯瞰し、体験を構造的に把握し、3年次の専門演習などの出発点を発見できるようにすることを目標としています。

教育の問題を語る時、必ず自分自身の教育体験(被教育体験)をベースにして語ることになるでしょう。それはそれで重要なことなのですが、ここでは、教育的事実を社会の主体である人間の再生産の問題として考えます。これが教育体験の構造的把握という意味です。

そのために、荻谷剛彦『大衆教育社会のゆくえ』(中公新書、1995年)を共通テキストとします。このテキストは、上にのべたことを、「メリトクラシー」「大衆社会」「階層」といったキーコンセプト(鍵概念)として、戦後の教育変動を説明しようとしています。受講生自身の教育体験を、その保護者世代、祖父母世代からの再生産の営為として考えます。教育学的な発想のなかには、どのような内容(教育課程)を、どのように(教育方法)行うのかという根幹となる課題があります。プロジェクトスタディを主宰、運営するにあたって、この観点を貫きたいと考えています。それはつぎのようなことです。

到達目標 / Attainment Objectives

- 1 自分の受けてきた教育体験を、教育社会学的タームの読解を通じて社会認識とすることができる。
- 2 学ぶ立場から教える立場への転換(教育的関係の可視化・自覚化)をはかることができる。
- 3 説明する立場になってはじめて学ぶ必要を発見する、という体験をする。
- 4 わかるように伝えるということはこのプロジェクトを通して身につける。
- 5 社会構造とその歴史主体のあり方について理解する。
- 6 データとその意味理解などをふくめてテキスト読解の基礎を身につける。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	テーマの設定と運営方法について	
第2回	大衆教育社会の理解 受講生による確認	
第3回	大衆教育社会と受講生の教育体験・報告と討論	
第4回	学校をとりまく貧困と階層の問題	
第5回	学校をとりまく貧困と階層の問題・報告と討論	
第6回	教育の機会と階層問題	
第7回	教育の機会と階層問題 / 報告と討論	
第8回	昼間まとめ	
第9回	社会的再生と学歴主義	
第10回	社会的再生と学歴主義・報告と討論	
第11回	文化的再生産論または不平等の再生産	
第12回	文化的再生産論または不平等の再生産・報告と討論	
第13回	1990年代以降の日本の学校と教育	
第14回	1990年代以降の日本の学校と教育・報告と討論	
第15回	大衆教育社会のなかに自分たちの生活と学びを位置づける/総括討論	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	60 %	
平常点(検証テスト)	40 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『大衆教育社会のゆくえ』	荻谷剛彦 / 中公新書 / 199 /

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
------------	--

『学校って何だろう』

苅谷剛彦／ちくま文庫／／

『考えある技術』

苅谷剛彦／ちくま文庫／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

担当者名 / Instructor 大谷 いづみ

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

基本的テーマは「自分の教育体験を概念的に把握する」ことにあります。初等、中等教育においては被教育者であったみなさん一人ひとりが、1年間の学生生活を体験したのち、あらためてみずからの受けてきた学校教育を俯瞰し、体験を構造的に把握し、3年次の専門演習などの出発点を発見できるようにすることを目標としています。

教育の問題を語る時、必ず自分自身の教育体験(被教育体験)をベースにして語ることになるでしょう。それはそれで重要なことなのですが、ここでは、教育的事実を社会の主体である人間の再生産の問題として考えます。これが教育体験の構造的把握という意味です。

そのために、荻谷剛彦『大衆教育社会のゆくえ』(中公新書、1995年)を共通テキストとします。このテキストは、上にのべたことを、「メリトクラシー」「大衆社会」「階層」といったキーコンセプト(鍵概念)として、戦後の教育変動を説明しようとしています。受講生自身の教育体験を、その保護者世代、祖父母世代からの再生産の営為として考えます。教育学的な発想のなかには、どのような内容(教育課程)を、どのように(教育方法)行うのかという根幹となる課題があります。プロジェクトスタディを主宰、運営するにあたって、この観点を貫きたいと考えています。それはつぎのようなことです。

到達目標 / Attainment Objectives

- 1 自分の受けてきた教育体験を、教育社会学的タームの読解を通じて社会認識とすることができる。
- 2 学ぶ立場から教える立場への転換(教育的関係の可視化・自覚化)をはかることができる。
- 3 説明する立場になってはじめて学ぶ必要を発見する、という体験をする。
- 4 わかるように伝えるということはこのプロジェクトを通して身につける。
- 5 社会構造とその歴史主体のあり方について理解する。
- 6 データとその意味理解などをふくめてテキスト読解の基礎を身につける。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	テーマの設定と運営方法について	
第2回	大衆教育社会の理解 受講生による確認	
第3回	大衆教育社会と受講生の教育体験・報告と討論	
第4回	学校をとりまく貧困と階層の問題	
第5回	学校をとりまく貧困と階層の問題・報告と討論	
第6回	教育の機会と階層問題	
第7回	教育の機会と階層問題 / 報告と討論	
第8回	昼間まとめ	
第9回	社会的再生と学歴主義	
第10回	社会的再生と学歴主義・報告と討論	
第11回	文化的再生産論または不平等の再生産	
第12回	文化的再生産論または不平等の再生産・報告と討論	
第13回	1990年代以降の日本の学校と教育	
第14回	1990年代以降の日本の学校と教育・報告と討論	
第15回	大衆教育社会のなかに自分たちの生活と学びを位置づける/総括討論	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	60 %	
平常点(検証テスト)	40 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『大衆教育社会のゆくえ』	荻谷剛彦 / 中公新書 / 199 /

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
------------	--

『学校って何だろう』

苅谷剛彦／ちくま文庫／／

『考えある技術』

苅谷剛彦／ちくま文庫／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

担当者名 / Instructor 笹野 恵理子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

基本的テーマは「自分の教育体験を概念的に把握する」ことにあります。初等、中等教育においては被教育者であったみなさん一人ひとりが、1年間の学生生活を体験したのち、あらためてみずからの受けてきた学校教育を俯瞰し、体験を構造的に把握し、3年次の専門演習などの出発点を発見できるようにすることを目標としています。

教育の問題を語る時、必ず自分自身の教育体験(被教育体験)をベースにして語ることになるでしょう。それはそれで重要なことなのですが、ここでは、教育的事実を社会の主体である人間の再生産の問題として考えます。これが教育体験の構造的把握という意味です。

そのために、苅谷剛彦『大衆教育社会のゆくえ』(中公新書、1995年)を共通テキストとします。このテキストは、上にのべたことを、「メリトクラシー」「大衆社会」「階層」といったキーコンセプト(鍵概念)として、戦後の教育変動を説明しようとしています。受講生自身の教育体験を、その保護者世代、祖父母世代からの再生産の営為として考えます。教育学的な発想のなかには、どのような内容(教育課程)を、どのように(教育方法)行うのかという根幹となる課題があります。プロジェクトスタディを主宰、運営するにあたって、この観点を貫きたいと考えています。それはつぎのようなことです。

到達目標 / Attainment Objectives

- 1 自分の受けてきた教育体験を、教育社会学的タームの読解を通じて社会認識とすることができる。
- 2 学ぶ立場から教える立場への転換(教育的関係の可視化・自覚化)をはかることができる。
- 3 説明する立場になってはじめて学ぶ必要を発見する、という体験をする。
- 4 わかるように伝えるということはこのプロジェクトを通して身につける。
- 5 社会構造とその歴史主体のあり方について理解する。
- 6 データとその意味理解などをふくめてテキスト読解の基礎を身につける。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	テーマの設定と運営方法について	
第2回	大衆教育社会の理解 受講生による確認	
第3回	大衆教育社会と受講生の教育体験・報告と討論	
第4回	学校をとりまく貧困と階層の問題	
第5回	学校をとりまく貧困と階層の問題・報告と討論	
第6回	教育の機会と階層問題	
第7回	教育の機会と階層問題 / 報告と討論	
第8回	昼間まとめ	
第9回	社会的再生と学歴主義	
第10回	社会的再生と学歴主義・報告と討論	
第11回	文化的再生産論または不平等の再生産	
第12回	文化的再生産論または不平等の再生産・報告と討論	
第13回	1990年代以降の日本の学校と教育	
第14回	1990年代以降の日本の学校と教育・報告と討論	
第15回	大衆教育社会のなかに自分たちの生活と学びを位置づける/総括討論	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	60 %	
平常点(検証テスト)	40 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『大衆教育社会のゆくえ』	苅谷剛彦 / 中公新書 / 199 /

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
------------	--

『学校って何だろう』

苅谷剛彦／ちくま文庫／／

『考えある技術』

苅谷剛彦／ちくま文庫／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

プロジェクトスタディIIA 4D

16786

担当者名 / Instructor 山下 芳樹

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

基本的テーマは「自分の教育体験を概念的に把握する」ことにあります。初等、中等教育においては被教育者であったみなさん一人ひとりが、1年間の学生生活を体験したのち、あらためてみずからの受けてきた学校教育を俯瞰し、体験を構造的に把握し、3年次の専門演習などの出発点を発見できるようにすることを目標としています。

教育の問題を語る時、必ず自分自身の教育体験(被教育体験)をベースにして語ることになるでしょう。それはそれで重要なことなのですが、ここでは、教育的事実を社会の主体である人間の再生産の問題として考えます。これが教育体験の構造的把握という意味です。

そのために、苅谷剛彦『大衆教育社会のゆくえ』(中公新書、1995年)を共通テキストとします。このテキストは、上にのべたことを、「メリトクラシー」「大衆社会」「階層」といったキーコンセプト(鍵概念)として、戦後の教育変動を説明しようとしています。受講生自身の教育体験を、その保護者世代、祖父母世代からの再生産の営為として考えます。教育学的な発想のなかには、どのような内容(教育課程)を、どのように(教育方法)行うのかという根幹となる課題があります。プロジェクトスタディを主宰、運営するにあたって、この観点を貫きたいと考えています。それはつぎのようなことです。

到達目標 / Attainment Objectives

1 自分の受けてきた教育体験を、教育社会学的タームの読解を通じて社会認識とすることができる。

2 学ぶ立場から教える立場への転換(教育的関係の可視化・自覚化)をはかることができる。

3 説明する立場になってはじめて学ぶ必要を発見する、という体験をする。

4 わかるように伝えるということはこのプロジェクトを通して身につける。

5 社会構造とその歴史主体のあり方について理解する。

6 データとその意味理解などをふくめてテキスト読解の基礎を身につける。

事前に履修しておくことが望まれる科目

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	テーマの設定と運営方法について	
第2回	大衆教育社会の理解 受講生による確認	
第3回	大衆教育社会と受講生の教育体験・報告と討論	
第4回	学校をとりまく貧困と階層の問題	
第5回	学校をとりまく貧困と階層の問題・報告と討論	
第6回	教育の機会と階層問題	
第7回	教育の機会と階層問題 / 報告と討論	
第8回	昼間まとめ	
第9回	社会的再生と学歴主義	
第10回	社会的再生と学歴主義・報告と討論	
第11回	文化的再生産論または不平等の再生産	
第12回	文化的再生産論または不平等の再生産・報告と討論	
第13回	1990年代以降の日本の学校と教育	
第14回	1990年代以降の日本の学校と教育・報告と討論	
第15回	大衆教育社会のなかに自分たちの生活と学びを位置づける/総括討論	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	60 %	
平常点(検証テスト)	40 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『大衆教育社会のゆくえ』	苅谷剛彦 / 中公新書 /

参考書 / Reference Books

書名 / Title

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

『学校って何だろう』

荻谷剛彦 / ちくま文庫 / /

『考えある技術』

荻谷剛彦・西研 / ちくま文庫 / /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

担当者名 / Instructor 中山 一樹

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

基本的テーマは「自分の教育体験を概念的に把握する」ことにあります。初等、中等教育においては被教育者であったみなさん一人ひとりが、1年間の学生生活を体験したのち、あらためてみずからの受けてきた学校教育を俯瞰し、体験を構造的に把握し、3年次の専門演習などの出発点を発見できるようにすることを目標としています。

教育の問題を語る時、必ず自分自身の教育体験(被教育体験)をベースにして語ることになるでしょう。それはそれで重要なことなのですが、ここでは、教育的事実を社会の主体である人間の再生産の問題として考えます。これが教育体験の構造的把握という意味です。

そのために、荻谷剛彦『大衆教育社会のゆくえ』(中公新書、1995年)を共通テキストとします。このテキストは、上にのべたことを、「メリトクラシー」「大衆社会」「階層」といったキーコンセプト(鍵概念)として、戦後の教育変動を説明しようとしています。受講生自身の教育体験を、その保護者世代、祖父母世代からの再生産の営為として考えます。教育学的な発想のなかには、どのような内容(教育課程)を、どのように(教育方法)行うのかという根幹となる課題があります。プロジェクトスタディを主宰、運営するにあたって、この観点を貫きたいと考えています。それはつぎのようなことです。

到達目標 / Attainment Objectives

- 1 自分の受けてきた教育体験を、教育社会学的タームの読解を通じて社会認識とすることができる。
- 2 学ぶ立場から教える立場への転換(教育的関係の可視化・自覚化)をはかることができる。
- 3 説明する立場になってはじめて学ぶ必要を発見する、という体験をする。
- 4 わかるように伝えるということはこのプロジェクトを通して身につける。
- 5 社会構造とその歴史主体のあり方について理解する。
- 6 データとその意味理解などをふくめてテキスト読解の基礎を身につける。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	テーマの設定と運営方法について	
第2回	大衆教育社会の理解 受講生による確認	
第3回	大衆教育社会と受講生の教育体験・報告と討論	
第4回	学校をとりまく貧困と階層の問題	
第5回	学校をとりまく貧困と階層の問題・報告と討論	
第6回	教育の機会と階層問題	
第7回	教育の機会と階層問題 / 報告と討論	
第8回	昼間まとめ	
第9回	社会的再生と学歴主義	
第10回	社会的再生と学歴主義・報告と討論	
第11回	文化的再生産論または不平等の再生産	
第12回	文化的再生産論または不平等の再生産・報告と討論	
第13回	1990年代以降の日本の学校と教育	
第14回	1990年代以降の日本の学校と教育・報告と討論	
第15回	大衆教育社会のなかに自分たちの生活と学びを位置づける/総括討論	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	60 %	
平常点(検証テスト)	40 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『大衆教育社会のゆくえ』	荻谷剛彦 / 中公新書 / /

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
------------	--

『学校って何だろう』

苅谷剛彦／ちくま文庫／／

『考えある技術』

苅谷剛彦・西研／ちくま文庫／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

担当者名 / Instructor 小原 豊

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

基本的テーマは「自分の教育体験を概念的に把握する」ことにあります。初等、中等教育においては被教育者であったみなさん一人ひとりが、1年間の学生生活を体験したのち、あらためてみずからの受けてきた学校教育を俯瞰し、体験を構造的に把握し、3年次の専門演習などの出発点を発見できるようにすることを目標としています。

教育の問題を語る時、必ず自分自身の教育体験(被教育体験)をベースにして語ることになるでしょう。それはそれで重要なことなのですが、ここでは、教育的事実を社会の主体である人間の再生産の問題として考えます。これが教育体験の構造的把握という意味です。

そのために、荻谷剛彦『大衆教育社会のゆくえ』(中公新書、1995年)を共通テキストとします。このテキストは、上にのべたことを、「メリトクラシー」「大衆社会」「階層」といったキーコンセプト(鍵概念)として、戦後の教育変動を説明しようとしています。受講生自身の教育体験を、その保護者世代、祖父母世代からの再生産の営為として考えます。教育学的な発想のなかには、どのような内容(教育課程)を、どのように(教育方法)行うのかという根幹となる課題があります。プロジェクトスタディを主宰、運営するにあたって、この観点を貫きたいと考えています。それはつぎのようなことです。

到達目標 / Attainment Objectives

- 1 自分の受けてきた教育体験を、教育社会学的タームの読解を通じて社会認識とすることができる。
- 2 学ぶ立場から教える立場への転換(教育的関係の可視化・自覚化)をはかることができる。
- 3 説明する立場になってはじめて学ぶ必要を発見する、という体験をする。
- 4 わかるように伝えるということはこのプロジェクトを通して身につける。
- 5 社会構造とその歴史主体のあり方について理解する。
- 6 データとその意味理解などをふくめてテキスト読解の基礎を身につける。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	テーマの設定と運営方法について	
第2回	大衆教育社会の理解 受講生による確認	
第3回	大衆教育社会と受講生の教育体験・報告と討論	
第4回	学校をとりまく貧困と階層の問題	
第5回	学校をとりまく貧困と階層の問題・報告と討論	
第6回	教育の機会と階層問題	
第7回	教育の機会と階層問題 / 報告と討論	
第8回	昼間まとめ	
第9回	社会的再生と学歴主義	
第10回	社会的再生と学歴主義・報告と討論	
第11回	文化的再生産論または不平等の再生産	
第12回	文化的再生産論または不平等の再生産・報告と討論	
第13回	1990年代以降の日本の学校と教育	
第14回	1990年代以降の日本の学校と教育・報告と討論	
第15回	大衆教育社会のなかに自分たちの生活と学びを位置づける/総括討論	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	60 %	
平常点(検証テスト)	40 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『大衆教育社会のゆくえ』	荻谷剛彦 / 中公新書 / /

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

『学校って何だろう』

苅谷剛彦／ちくま文庫／／

『考えある技術』

苅谷剛彦・西研／ちくま文庫／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

担当者名 / Instructor 中山 一樹

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

基本的テーマは「自分の教育体験を概念的に把握する」ことにあります。初等、中等教育においては被教育者であったみなさん一人ひとりが、1年間の学生生活を体験したのち、あらためてみずからの受けてきた学校教育を俯瞰し、体験を構造的に把握し、3年次の専門演習などの出発点を発見できるようにすることを目標としています。

教育の問題を語るとき、必ず自分自身の教育体験(被教育体験)をベースにして語ることになるでしょう。それはそれで重要なことなのですが、ここでは、教育的事実を社会の主体である人間の再生産の問題として考えます。これが教育体験の構造的把握という意味です。

そのために、荻谷剛彦『大衆教育社会のゆくえ』(中公新書、1995年)を共通テキストとします。このテキストは、上にのべたことを、「メリトクラシー」「大衆社会」「階層」といったキーコンセプト(鍵概念)として、戦後の教育変動を説明しようとしています。受講生自身の教育体験を、その保護者世代、祖父母世代からの再生産の営為として考えます。教育学的な発想のなかには、どのような内容(教育課程)を、どのように(教育方法)行うのかという根幹となる課題があります。プロジェクトスタディを主宰、運営するにあたって、この観点を貫きたいと考えています。それはつぎのようなことです。

到達目標 / Attainment Objectives

- 1 自分の受けてきた教育体験を、教育社会学的タームの読解を通じて社会認識とすることができる。
- 2 学ぶ立場から教える立場への転換(教育的関係の可視化・自覚化)をはかることができる。
- 3 説明する立場になってはじめて学ぶ必要を発見する、という体験をする。
- 4 わかるように伝えるということはこのプロジェクトを通して身につける。
- 5 社会構造とその歴史主体のあり方について理解する。
- 6 データとその意味理解などをふくめてテキスト読解の基礎を身につける。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	テーマの設定と運営方法について	
第2回	大衆教育社会の理解 受講生による確認	
第3回	大衆教育社会と受講生の教育体験・報告と討論	
第4回	学校をとりまく貧困と階層の問題	
第5回	学校をとりまく貧困と階層の問題・報告と討論	
第6回	教育の機会と階層問題	
第7回	教育の機会と階層問題 / 報告と討論	
第8回	昼間まとめ	
第9回	社会的再生と学歴主義	
第10回	社会的再生と学歴主義・報告と討論	
第11回	文化的再生産論または不平等の再生産	
第12回	文化的再生産論または不平等の再生産・報告と討論	
第13回	1990年代以降の日本の学校と教育	
第14回	1990年代以降の日本の学校と教育・報告と討論	
第15回	大衆教育社会のなかに自分たちの生活と学びを位置づける/総括討論	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	60 %	
平常点(検証テスト)	40 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『大衆教育社会のゆくえ』	荻谷剛彦 / 中公新書 / /

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

『学校って何だろう』

苅谷剛彦／ちくま文庫／／

『考えある技術』

苅谷剛彦・西研／ちくま文庫／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

授業の概要 / Course Outline

近年の日本社会の状況は、「貧困」の広がりが誰にでも見える時代になったと言って過言でない。年収200万円以下の労働者が1000万人を越えたという。「ワーキングプア」のことだ。がそればかりか「違法ハケン」「ピンハネ」「偽装請け負い」が蔓延し、正社員は「カローシ(過労死)」の淵に立たされている。都市のホームレスは「ネットカフェ難民」や「河川敷生活者」に広がっている。一方、困窮しても生活保護の申請をさせてもらえなかった男性が、「おにぎり食べたい」と書き残し餓死していた。90歳のお母さんと介護していた60歳代の娘さんが2人も亡くなって発見された事件や介護殺人など悲惨な事件もあとを絶たない。「新しい貧困」の一つとして人々の孤立や社会的排除も問題となっている。

ところで、受講生の皆さんが「あなたは今豊かですか？それとも貧しいですか？」と問われたとしたら、答えに窮するだろう。簡単な例をあげれば、「アルバイトを沢山しているでお金は困っていないが時間がない」場合、自由なお金は「豊か」だが自由な時間は「貧しい」ことになる。下宿している学生の住居は豊かであろうか？「三間(時間・空間・仲間)の喪失」ということばがあるが「豊かさ」がモノだけでは測れないよい例である。「貧困」は人ごとではないということでもある。

さて、先に示した人々の「貧困」は個人責任に帰すべきであろうか？貧困の中には、明らかに人為的に作られものも多いが、中には一見個人責任のように見えても、社会的要因を少なからずもっているものもある。ではなぜ個人責任のように見えるのか、それは生活問題の多くは「私生活」の困難として現われからである。しかし社会福祉の立場から、生活問題を解決または緩和するためには、社会や地域全体への対応と個人や家庭に対する個別的支援の両方が必要となる。例えて言うならば「森を見る」と「木を見る」の違い、「鳥の眼で見る」と「虫の眼で見る」の違いである。

貧困を考えると暗い気持ちになってしまうが、暗い事ばかりでもない。世論の力で薬害肝炎の被害者全員が救済されるという画期的な動きがある。生活保護が必要な人々の権利が保障される動きもある。このことは、私たちが主体者として問題を解決・緩和できる可能性を示している。その基本は福祉社会のシステムを人間の力で再構築していくという実践である。人々が「生きていて良かった」と言える社会は、家庭・諸組織・地域・社会全体において、人々の協同と社会福祉制度を再生し持続させる実践によって実現される。

本プロジェクトスタディはこうした展望を、「真の豊かさ」の理解に求めテキストを選択した。テキストの精読と討議、レポート作成により「アカデミックリーディング」「アカデミックライティング」の基礎を修得する。

到達目標 / Attainment Objectives

- ①「福祉社会」に関わる現実の理解及び基本的な知識と考え方の修得
- ②文献・資料を的確に理解し、それを正確に表現し伝える能力の形成

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	[人間福祉専攻]「分野 I」の概要、目標、進め方／「豊かさ」の考え方	アカデミックリーディング、豊かさ
第2回	文献 I ・切り裂かれる労働と生活の世界	労働と生活、生活の不安、低賃金と失業、過労死、貧困とホームレス、社会的排除、多重債務
第3回	文献 I ・不安な社会に生きる子供たち	日本と西ドイツの子ども、教育の豊かさと貧しさ、競争の中の子ども
第4回	なぜ助け合うのか	助け合い、いじめ・不登校、生活の全体性、助け合いで支える心、ボランティア
第5回	文献 I ・NGOの活動と若者達	NGO、内戦と難民、阪神大震災、援助活動、山が動く
第6回	文献 I ・支え合う人間の歴史・希望を拓く	人間の歴史、生存競争、生活の共同、協同組合、豊かさの条件
第7回	討議のまとめとアカデミックライティング演習・指導	アカデミックライティング
第8回	文献 II ・現代の社会をどうとらえるか	現代社会、福祉国家、環境・福祉・経済、市場、大きな国家と小さな国家
第9回	文献 II ・個人の生活保障はどうあるべきか	社会保障、コミュニティの解体、雇用、医療・介護、ライフサイクル、三世モデル、税財源
第10回	文献 II ・福祉の充実は環境と両立するか	環境・エコロジカル、個人の自由、機会の平等・潜在的自由、地域レベルと地球レベル
第11回	文献 II ・新たな「豊かさ」のかたちを求めて	市場、成長と定常状態、定常型社会、持続可能、時間観、セーフティネット、営利と非営利
第12回	討議のまとめとアカデミックライティング演習・指導	アカデミックライティング
第13回	参考文献・副教材の活用とアカデミックライティング演習・指導	アカデミックライティング
第14回	参考文献・副教材の活用とアカデミックライティング演習・指導	アカデミックライティング
第15回	参考文献・副教材の活用とアカデミックライティング演習・指導／到達目標の再確認	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	70 %	レポート課題は分野で統一したものを示します。
平常点(日常的)	30 %	日常点には、出席、授業における報告・討議などの取り組みが含まれる。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『豊かさの条件』	暉峻淑子 / 岩波新書 / /
『定常型社会』	広井良典 / 岩波新書 / /

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

担当者名 / Instructor 松田 亮三

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

近年の日本社会の状態は、「貧困」の広がりが誰にでも見える時代になったと言って過言でない。年収200万円以下の労働者が1000万人を越えたという。「ワーキングプア」のことだ。がそればかりか「違法ハケン」「ピンハネ」「偽装請け負い」が蔓延し、正社員は「カローシ(過労死)」の淵に立たされている。都市のホームレスは「ネットカフェ難民」や「河川敷生活者」に広がっている。一方、困窮しても生活保護の申請をさせてもらえなかった男性が、「おにぎり食べたい」と書き残し餓死していた。90歳のお母さんと介護していた60歳代の娘さんが2人とも亡くなって発見された事件や介護殺人など悲惨な事件もあとを絶たない。「新しい貧困」の一つとして人々の孤立や社会的排除も問題となっている。

ところで、受講生の皆さんが「あなたは今豊かですか？それとも貧しいですか？」と問われたとしたら、答えに窮するだろう。簡単な例をあげれば、「アルバイトを沢山しているからお金は困っていないが時間がない」場合、自由なお金は「豊か」だが自由な時間は「貧しい」ことになる。下宿している学生の住居は豊かであろうか？「三間(時間・空間・仲間の喪失)」ということばがあるが「豊かさ」がモノだけでは測れないよい例である。「貧困」は人ごとではないということでもある。

さて、先に示した人々の「貧困」は個人責任に帰すべきであろうか？貧困の中には、明らかに人為的に作られものも多いが、中には一見個人責任のように見えても、社会的要因を少なからずもっているものもある。ではなぜ個人責任のように見えるのか、それは生活問題の多くは「私生活」の困難として現われからである。しかし社会福祉の立場から、生活問題を解決または緩和するためには、社会や地域全体への対応と個人や家庭に対する個別的支援の両方が必要となる。例えて言うならば「森を見る」と「木を見る」の違い、「鳥の眼で見る」と「虫の眼で見る」の違いである。

貧困を考えると暗い気持ちになってしまうが、暗い事ばかりでもない。世論の力で薬害肝炎の被害者全員が救済されるという画期的な動きがある。生活保護が必要な人々の権利が保障される動きもある。このことは、私たちが主体者として問題を解決・緩和できる可能性を示している。その基本は福祉社会のシステムを人間の力で再構築していくという実践である。人々が「生きていて良かった」と言える社会は、家庭・諸組織・地域・社会全体において、人々の協同と社会福祉制度を再生し持続させる実践によって実現される。

本プロジェクトスタディはこうした展望を、「真の豊かさ」の理解に求めテキストを選択した。テキストの精読と討議、レポート作成により「アカデミックリーディング」「アカデミックライティング」の基礎を修得する。

到達目標 / Attainment Objectives

- ①「福祉社会」に関わる現実の理解及び基本的な知識と考え方の修得
- ②文献・資料を的確に理解し、それを正確に表現し伝える能力の形成

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	[人間福祉専攻]「分野 I」の概要、目標、進め方／「豊かさ」の考え方	アカデミックリーディング、豊かさ
第2回	文献 I ・切り裂かれる労働と生活の世界	労働と生活、生活の不安、低賃金と失業、過労死、貧困とホームレス、社会的排除、多重債務
第3回	文献 I ・不安な社会に生きる子供たち	日本と西ドイツの子ども、教育の豊かさと貧しさ、競争の中の子ども
第4回	なぜ助け合うのか	助け合い、いじめ・不登校、生活の全体性、助け合いで支える心、ボランティア
第5回	文献 I ・NGOの活動と若者達	NGO、内戦と難民、阪神大震災、援助活動、山が動く
第6回	文献 I ・支え合う人間の歴史・希望を拓く	人間の歴史、生存競争、生活の共同、協同組合、豊かさの条件
第7回	討議のまとめとアカデミックライティング演習・指導	アカデミックライティング
第8回	文献 II ・現代の社会をどうとらえるか	現代社会、福祉国家、環境・福祉・経済、市場、大きな国家と小さな国家
第9回	文献 II ・個人の生活保障はどうあるべきか	社会保障、コミュニティの解体、雇用、医療・介護、ライフサイクル、三世代モデル、税財源
第10回	文献 II ・福祉の充実は環境と両立するか	環境・エコロジカル、個人の自由、機会の平等・潜在的自由、地域レベルと地球レベル
第11回	討議のまとめとアカデミックライティング演習・指導	市場、成長と定常状態、定常型社会、持続可能、時間観、セーフティネット、営利と非営利
第12回	討議のまとめとアカデミックライティング演習・指導	アカデミックライティング
第13回	参考文献・副教材の活用とアカデミックライティング演習・指導	アカデミックライティング
第14回	参考文献・副教材の活用とアカデミックライティング演習・指導	アカデミックライティング
第15回	参考文献・副教材の活用とアカデミックライティング演習・指導／到達目標の再確認	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	70 %	レポート課題は分野で統一したものを示します。
平常点(日常的)	30 %	日常点には、出席、授業における報告・討議などの取り組みが含まれる。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『豊かさの条件』	暉峻淑子 / 岩波新書 / /
『定常型社会』	広井良典 / 岩波新書 / /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

担当者名 / Instructor 竹内 謙彰

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

1. テキストとして、竹内常一『子どもの自分くずしと自分づくり』(東京大学出版会)を用います。主として教育現場で見られる思春期頃の発達上の危機に関する問題を取り上げた文献です。出版された時期はやや古いものの、今日においても共通してみられる問題があります。それと同時に、時期が現代とは異なることから、問題の捉え方が、現状に合っているのかどうかについて、検討することも必要になってきます。内容を協力して読み込みながら、ディスカッションをしていきたいと考えています。
2. 上で述べたように、班単位で丁寧にテキストを講読していきます。担当班でないものも各自で該当章を読んで来て下さい。毎回、授業終了時にコミュニケーションペーパーを提出することを求めます。
3. 授業はまずテキストを精読することを基本として進めます。講読は班ごとに授業1回として6週の予定、それ以外に、教員の側から、解説と情報提供などを行う予定です。さらに、後半では、できれば4班程度に班の組み替えを行い班単位で独自に設定したテーマでプレゼンテーションを行います。各班でのテーマ設定や発表準備のための時間も授業の中に位置づけることとします。最後に総括の週を置きます。
4. 後半のプレゼンテーションのまとめに関するレポートは、成果物として冊子にまとめる予定です。

到達目標 / Attainment Objectives

- (1) 発達臨床に関わる文献を読み込み理解するとともに、それを的確に要約し報告できるようになること。
- (2) テーマをたててチームによるプロジェクト的探求活動を行うことが出来るようになること。
- (3) 報告したことをまとめ、適切な形でレポートにまとめられるようになること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特にありません

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の導入(文献の紹介と授業の進め方)、受講者の自己紹介、班分けと担当章の決定	
第2回	児童期と思春期の特徴について	
第3回	文献講読①: 文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第4回	文献講読②: 前回の振り返り、文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第5回	文献講読③: 前回の振り返り、文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第6回	文献講読④: 前回の振り返り、文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第7回	文献講読⑤: 前回の振り返り、文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第8回	文献講読⑥: 前回の振り返り、文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第9回	文献講読の総括(文献講読全体を通じた意見交換等)、班の組み替え、各班のテーマ設定と発表準備①	
第10回	各班のテーマ設定と発表準備②	
第11回	各班のテーマによるプレゼンテーション①(報告・質疑応答・意見交換)	
第12回	各班のテーマによるプレゼンテーション②(報告・質疑応答・意見交換)	
第13回	各班のテーマによるプレゼンテーション③(報告・質疑応答・意見交換)	
第14回	各班のテーマによるプレゼンテーション④(報告・質疑応答・意見交換)	
第15回	全体を透しての総括	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	前半の講読に関するまとめレポート + 後半のプレゼンテーションに関するまとめレポート +

最終講義時間における授業内小レポート（成績評価配点のおおよその目安は、2:2:1程度とする）

 平常点(日常的) 50 % 出席、コミュニケーションペーパー、ディスカッションへの参加状況等を考慮して日常点評価とする

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

『子どもの自分くずしと自分づくり』

竹内常一 / 東京大学出版会 / 4-13-002056-0 /

全員で分担して発表しながら読み進めます。

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

担当者名 / Instructor 櫻谷 真理子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

1. テキストとして、竹内常一『子どもの自分くずしと自分づくり』(東京大学出版会)を用います。主として教育現場で見られる思春期頃の発達上の危機に関する問題を取り上げた文献です。出版された時期はやや古いものの、今日においても共通してみられる問題があります。それと同時に、時期が現代とは異なることから、問題の捉え方が、現状に合っているのかどうかについて、検討することも必要になってきます。内容を協力して読み込みながら、ディスカッションをしていきたいと考えています。
2. 上で述べたように、班単位で丁寧にテキストを講読していきます。担当班でないものも各自で該当章を読んで来て下さい。毎回、授業終了時にコミュニケーションペーパーを提出することを求めます。
3. 授業はまずテキストを精読することを基本として進めます。講読は班ごとに授業1回として6週の予定、それ以外に、教員の側から、解説と情報提供なども行う予定です。さらに、後半では、できれば4班程度に班の組み替えを行い班単位で独自に設定したテーマでプレゼンテーションを行います。各班でのテーマ設定や発表準備のための時間も授業の中に位置づけることとします。最後に総括の週を置きます。
4. 後半のプレゼンテーションのまとめに関するレポートは、成果物として冊子にまとめる予定です。

到達目標 / Attainment Objectives

- (1) 発達臨床に関わる文献を読み込み理解するとともに、それを的確に要約し報告できるようになること。
- (2) テーマをたててチームによるプロジェクト的探求活動を行うことが出来るようになること。
- (3) 報告したことをまとめ、適切な形でレポートにまとめられるようになること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特にありません

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の導入(文献の紹介と授業の進め方)、受講者の自己紹介、班分けと担当章の決定	
第2回	児童期と思春期の特徴について	
第3回	文献講読①: 文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第4回	文献講読②: 前回の振り返り、文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第5回	文献講読③: 前回の振り返り、文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第6回	文献講読④: 前回の振り返り、文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第7回	文献講読⑤: 前回の振り返り、文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第8回	文献講読⑥: 前回の振り返り、文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第9回	文献講読の総括(文献講読全体を通じた意見交換等)、班の組み替え、各班のテーマ設定と発表準備①	
第10回	各班のテーマ設定と発表準備②	
第11回	各班のテーマによるプレゼンテーション①(報告・質疑応答・意見交換)	
第12回	各班のテーマによるプレゼンテーション②(報告・質疑応答・意見交換)	
第13回	各班のテーマによるプレゼンテーション③(報告・質疑応答・意見交換)	
第14回	各班のテーマによるプレゼンテーション④(報告・質疑応答・意見交換)	
第15回	全体を透しての総括	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50%	前半の講読に関するまとめレポート + 後半のプレゼンテーションに関するまとめレポート + 最終講義時間における授業内小レポート (成績評価配点のおおよその目安は、2:2:1程度とする)

平常点(日常的)

50 % 出席、コミュニケーションペーパー、ディスカッションへの参加状況等を考慮して日常点評価とする

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

『子どもの自分くずしと自分づくり』

竹内常一 / 東京大学出版会 / 4-13-002056-0 /

全員で分担して発表しながら読み進めます。

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

授業の概要 / Course Outline

近年の日本社会の状況は、「貧困」の広がりが誰にでも見える時代になったと言って過言でない。年収200万円以下の労働者が1000万人を越えたという。「ワーキングプア」のことだ。がそればかりか「違法ハケン」「ピンハネ」「偽装請け負い」が蔓延し、正社員は「カローシ(過労死)」の淵に立たされている。都市のホームレスは「ネットカフェ難民」や「河川敷生活者」に広がっている。一方、困窮しても生活保護の申請をさせてもらえなかった男性が、「おにぎり食べたい」と書き残し餓死していた。90歳のお母さんと介護していた60歳代の娘さんが2人とも亡くなって発見された事件や介護殺人など悲惨な事件もあとを絶たない。「新しい貧困」の一つとして人々の孤立や社会的排除も問題となっている。

ところで、受講生の皆さんが「あなたは今豊かですか？それとも貧しいですか？」と問われたとしたら、答えに窮するだろう。簡単な例をあげれば、「アルバイトを沢山しているでお金は困っていないが時間がない」場合、自由なお金は「豊か」だが自由な時間は「貧しい」ことになる。下宿している学生の住居は豊かであろうか？「三間(時間・空間・仲間)の喪失」ということばがあるが「豊かさ」がモノだけでは測れないよい例である。「貧困」は人ごとではないということでもある。

さて、先に示した人々の「貧困」は個人責任に帰すべきであろうか？貧困の中には、明らかに人為的に作られものも多いが、中には一見個人責任のように見えても、社会的要因を少なからずもっているものもある。ではなぜ個人責任のように見えるのか、それは生活問題の多くは「私生活」の困難として現われからである。しかし社会福祉の立場から、生活問題を解決または緩和するためには、社会や地域全体への対応と個人や家庭に対する個別的支援の両方が必要となる。例えて言うならば「森を見る」と「木を見る」の違い、「鳥の眼で見る」と「虫の眼で見る」の違いである。

貧困を考えると暗い気持ちになってしまうが、暗い事ばかりでもない。世論の力で薬害肝炎の被害者全員が救済されるという画期的な動きがある。生活保護が必要な人々の権利が保障される動きもある。このことは、私たちが主体者として問題を解決・緩和できる可能性を示している。その基本は福祉社会のシステムを人間の力で再構築していくという実践である。人々が「生きていて良かった」と言える社会は、家庭・諸組織・地域・社会全体において、人々の協同と社会福祉制度を再生し持続させる実践によって実現される。

本プロジェクトスタディはこうした展望を、「真の豊かさ」の理解に求めテキストを選択した。テキストの精読と討議、レポート作成により「アカデミックリーディング」「アカデミックライティング」の基礎を修得する。

到達目標 / Attainment Objectives

- ①「福祉社会」に関わる現実の理解及び基本的な知識と考え方の修得
- ②文献・資料を的確に理解し、それを正確に表現し伝える能力の形成

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	[人間福祉専攻]「分野 I」の概要、目標、進め方／「豊かさ」の考え方	アカデミックリーディング、豊かさ
第2回	文献 I・切り裂かれる労働と生活の世界	労働と生活、生活の不安、低賃金と失業、過労死、貧困とホームレス、社会的排除、多重債務
第3回	文献 I・不安な社会に生きる子供たち	日本と西ドイツの子ども、教育の豊かさと貧しさ、競争の中の子ども
第4回	なぜ助け合うのか	助け合い、いじめ・不登校、生活の全体性、助け合いで支える心、ボランティア
第5回	文献 I・NGOの活動と若者達	NGO、内戦と難民、阪神大震災、援助活動、山が動く
第6回	文献 I・支え合う人間の歴史・希望を拓く	人間の歴史、生存競争、生活の共同、協同組合、豊かさの条件
第7回	討議のまとめとアカデミックライティング演習・指導	アカデミックライティング
第8回	文献 II・現代の社会をどうとらえるか	現代社会、福祉国家、環境・福祉・経済、市場、大きな国家と小さな国家
第9回	文献 II・個人の生活保障はどうあるべきか	社会保障、コミュニティの解体、雇用、医療・介護、ライフサイクル、三世モデル、税財源
第10回	文献 II・福祉の充実は環境と両立するか	環境・エコロジカル、個人の自由、機会の平等・潜在的自由、地域レベルと地球レベル
第11回	文献 II・新たな「豊かさ」のかたちを求めて	市場、成長と定常状態、定常型社会、持続可能、時間観、セーフティネット、営利と非営利
第12回	討議のまとめとアカデミックライティング演習・指導	アカデミックライティング
第13回	参考文献・副教材の活用とアカデミックライティング演習・指導	アカデミックライティング
第14回	参考文献・副教材の活用とアカデミックライティング演習・指導	アカデミックライティング
第15回	参考文献・副教材の活用とアカデミックライティング演習・指導／到達目標の再確認	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	70 %	レポート課題は分野で統一したものを示します。
平常点(日常的)	30 %	日常点には、出席、授業における報告・討議などの取り組みが含まれる。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『豊かさの条件』	暉峻淑子 / 岩波新書 / /
『定常型社会』	広井良典 / 岩波新書 / /

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

授業の概要 / Course Outline

近年の日本社会の状況は、「貧困」の広がりが誰にでも見える時代になったと言って過言でない。年収200万円以下の労働者が1000万人を越えたという。「ワーキングプア」のことだ。がそればかりか「違法ハケン」「ピンハネ」「偽装請け負い」が蔓延し、正社員は「カローシ(過労死)」の淵に立たされている。都市のホームレスは「ネットカフェ難民」や「河川敷生活者」に広がっている。一方、困窮しても生活保護の申請をさせてもらえなかった男性が、「おにぎり食べたい」と書き残し餓死していた。90歳のお母さんと介護していた60歳代の娘さんが2人とも亡くなって発見された事件や介護殺人など悲惨な事件もあとを絶たない。「新しい貧困」の一つとして人々の孤立や社会的排除も問題となっている。

ところで、受講生の皆さんが「あなたは今豊かですか？それとも貧しいですか？」と問われたとしたら、答えに窮するだろう。簡単な例をあげれば、「アルバイトを沢山しているでお金は困っていないが時間がない」場合、自由なお金は「豊か」だが自由な時間は「貧しい」ことになる。下宿している学生の住居は豊かであろうか？「三間(時間・空間・仲間)の喪失」ということばがあるが「豊かさ」がモノだけでは測れないよい例である。「貧困」は人ごとではないということでもある。

さて、先に示した人々の「貧困」は個人責任に帰すべきであろうか？貧困の中には、明らかに人為的に作られものも多いが、中には一見個人責任のように見えても、社会的要因を少なからずもっているものもある。ではなぜ個人責任のように見えるのか、それは生活問題の多くは「私生活」の困難として現われからである。しかし社会福祉の立場から、生活問題を解決または緩和するためには、社会や地域全体への対応と個人や家庭に対する個別的支援の両方が必要となる。例えて言うならば「森を見る」と「木を見る」の違い、「鳥の眼で見る」と「虫の眼で見る」の違いである。

貧困を考えると暗い気持ちになってしまうが、暗い事ばかりでもない。世論の力で薬害肝炎の被害者全員が救済されるという画期的な動きがある。生活保護が必要な人々の権利が保障される動きもある。このことは、私たちが主体者として問題を解決・緩和できる可能性を示している。その基本は福祉社会のシステムを人間の力で再構築していくという実践である。人々が「生きていて良かった」と言える社会は、家庭・諸組織・地域・社会全体において、人々の協同と社会福祉制度を再生し持続させる実践によって実現される。

本プロジェクトスタディはこうした展望を、「真の豊かさ」の理解に求めテキストを選択した。テキストの精読と討議、レポート作成により「アカデミックリーディング」「アカデミックライティング」の基礎を修得する。

到達目標 / Attainment Objectives

- ①「福祉社会」に関わる現実の理解及び基本的な知識と考え方の修得
- ②文献・資料を的確に理解し、それを正確に表現し伝える能力の形成

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	[人間福祉専攻]「分野 I」の概要、目標、進め方／「豊かさ」の考え方	アカデミックリーディング、豊かさ
第2回	文献 I・切り裂かれる労働と生活の世界	労働と生活、生活の不安、低賃金と失業、過労死、貧困とホームレス、社会的排除、多重債務
第3回	文献 I・不安な社会に生きる子供たち	日本と西ドイツの子ども、教育の豊かさと貧しさ、競争の中の子ども
第4回	なぜ助け合うのか	助け合い、いじめ・不登校、生活の全体性、助け合いで支える心、ボランティア
第5回	文献 I・NGOの活動と若者達	NGO、内戦と難民、阪神大震災、援助活動、山が動く
第6回	文献 I・支え合う人間の歴史・希望を拓く	人間の歴史、生存競争、生活の共同、協同組合、豊かさの条件
第7回	討議のまとめとアカデミックライティング演習・指導	アカデミックライティング
第8回	文献 II・現代の社会をどうとらえるか	現代社会、福祉国家、環境・福祉・経済、市場、大きな国家と小さな国家
第9回	文献 II・個人の生活保障はどうあるべきか	社会保障、コミュニティの解体、雇用、医療・介護、ライフサイクル、三世モデル、税財源
第10回	文献 II・福祉の充実は環境と両立するか	環境・エコロジカル、個人の自由、機会の平等・潜在的自由、地域レベルと地球レベル
第11回	文献 II・新たな「豊かさ」のかたちを求めて	市場、成長と定常状態、定常型社会、持続可能、時間観、セーフティネット、営利と非営利
第12回	討議のまとめとアカデミックライティング演習・指導	アカデミックライティング
第13回	参考文献・副教材の活用とアカデミックライティング演習・指導	アカデミックライティング
第14回	参考文献・副教材の活用とアカデミックライティング演習・指導	アカデミックライティング
第15回	参考文献・副教材の活用とアカデミックライティング演習・指導／到達目標の再確認	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	70 %	レポート課題は分野で統一したものを示します。
平常点(日常的)	30 %	日常点には、出席、授業における報告・討議などの取り組みが含まれる。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『豊かさの条件』	暉峻淑子 / 岩波新書 / /
『定常型社会』	広井良典 / 岩波新書 / /

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

担当者名 / Instructor 山本 耕平

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

1. テキストとして、竹内常一『子どもの自分くずしと自分づくり』(東京大学出版会)を用います。主として教育現場で見られる思春期頃の発達上の危機に関する問題を取り上げた文献です。出版された時期はやや古いものの、今日においても共通してみられる問題があります。それと同時に、時期が現代とは異なることから、問題の捉え方が、現状に合っているのかどうかについて、検討することも必要になってきます。内容を協力して読み込みながら、ディスカッションをしていきたいと考えています。
2. 上で述べたように、班単位で丁寧にテキストを講読していきます。担当班でないものも各自で該当章を読んで来て下さい。毎回、授業終了時にコミュニケーションペーパーを提出することを求めます。
3. 授業はまずテキストを精読することを基本として進めます。講読は班ごとに授業1回として6週の予定、それ以外に、教員の側から、解説と情報提供などを行う予定です。さらに、後半では、できれば4班程度に班の組み替えを行い班単位で独自に設定したテーマでプレゼンテーションを行います。各班でのテーマ設定や発表準備のための時間も授業の中に位置づけることとします。最後に総括の週を置きます。
4. 後半のプレゼンテーションのまとめに関するレポートは、成果物として冊子にまとめる予定です。

到達目標 / Attainment Objectives

- (1) 発達臨床に関わる文献を読み込み理解するとともに、それを的確に要約し報告できるようになること。
- (2) テーマをたててチームによるプロジェクト的探求活動を行うことが出来るようになること。
- (3) 報告したことをまとめ、適切な形でレポートにまとめられるようになること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特にありません

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の導入(文献の紹介と授業の進め方)、受講者の自己紹介、班分けと担当章の決定	
第2回	児童期と思春期の特徴について	
第3回	文献講読①: 文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第4回	文献講読②: 前回の振り返り、文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第5回	文献講読③: 前回の振り返り、文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第6回	文献講読④: 前回の振り返り、文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第7回	文献講読⑤: 前回の振り返り、文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第8回	文献講読⑥: 前回の振り返り、文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第9回	文献講読の総括(文献講読全体を通じた意見交換等)、班の組み替え、各班のテーマ設定と発表準備①	
第10回	各班のテーマ設定と発表準備②	
第11回	各班のテーマによるプレゼンテーション①(報告・質疑応答・意見交換)	
第12回	各班のテーマによるプレゼンテーション②(報告・質疑応答・意見交換)	
第13回	各班のテーマによるプレゼンテーション③(報告・質疑応答・意見交換)	
第14回	各班のテーマによるプレゼンテーション④(報告・質疑応答・意見交換)	
第15回	全体を透しての総括	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	前半の講読に関するまとめレポート + 後半のプレゼンテーションに関するまとめレポート +

最終講義時間における授業内小レポート（成績評価配点のおおよその目安は、2:2:1程度とする）

平常点(日常的) 50 % 出席、コミュニケーションペーパー、ディスカッションへの参加状況等を考慮して日常点評価とする

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

『子どもの自分くずしと自分づくり』 竹内常一 / 東京大学出版会 / 4-13-002056-0 /

全員で分担して発表しながら読み進めます。

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

担当者名 / Instructor 加藤 直樹

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

1. テキストとして、竹内常一『子どもの自分くずしと自分づくり』(東京大学出版会)を用います。主として教育現場で見られる思春期頃の発達上の危機に関する問題を取り上げた文献です。出版された時期はやや古いものの、今日においても共通してみられる問題があります。それと同時に、時期が現代とは異なることから、問題の捉え方が、現状に合っているのかどうかについて、検討することも必要になってきます。内容を協力して読み込みながら、ディスカッションをしていきたいと考えています。
2. 上で述べたように、班単位で丁寧にテキストを講読していきます。担当班でないものも各自で該当章を読んで来て下さい。毎回、授業終了時にコミュニケーションペーパーを提出することを求めます。
3. 授業はまずテキストを精読することを基本として進めます。講読は班ごとに授業1回として6週の予定、それ以外に、教員の側から、解説と情報提供なども行う予定です。さらに、後半では、できれば4班程度に班の組み替えを行い班単位で独自に設定したテーマでプレゼンテーションを行います。各班でのテーマ設定や発表準備のための時間も授業の中に位置づけることとします。最後に総括の週を置きます。
4. 後半のプレゼンテーションのまとめに関するレポートは、成果物として冊子にまとめる予定です。

到達目標 / Attainment Objectives

- (1) 発達臨床に関わる文献を読み込み理解するとともに、それを的確に要約し報告できるようになること。
- (2) テーマをたててチームによるプロジェクト的探求活動を行うことが出来るようになること。
- (3) 報告したことをまとめ、適切な形でレポートにまとめられるようになること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特にありません

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の導入(文献の紹介と授業の進め方)、受講者の自己紹介、班分けと担当章の決定	
第2回	児童期と思春期の特徴について	
第3回	文献講読①: 文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第4回	文献講読②: 前回の振り返り、文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第5回	文献講読③: 前回の振り返り、文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第6回	文献講読④: 前回の振り返り、文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第7回	文献講読⑤: 前回の振り返り、文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第8回	文献講読⑥: 前回の振り返り、文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第9回	文献講読の総括(文献講読全体を通じた意見交換等)、班の組み替え、各班のテーマ設定と発表準備①	
第10回	各班のテーマ設定と発表準備②	
第11回	各班のテーマによるプレゼンテーション①(報告・質疑応答・意見交換)	
第12回	各班のテーマによるプレゼンテーション②(報告・質疑応答・意見交換)	
第13回	各班のテーマによるプレゼンテーション③(報告・質疑応答・意見交換)	
第14回	各班のテーマによるプレゼンテーション④(報告・質疑応答・意見交換)	
第15回	全体を透しての総括	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	前半の講読に関するまとめレポート + 後半のプレゼンテーションに関するまとめレポート + 最終講義時間における授業内小レポート (成績評価配点のおおよその目安は、2:2:1程度とする)

平常点(日常的)

50 % 出席、コミュニケーションペーパー、ディスカッションへの参加状況等を考慮して日常点評価とする

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

『子どもの自分くずしと自分づくり』

竹内常一 / 東京大学出版会 / 4-13-002056-0 /

全員で分担して発表しながら読み進めます。

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

演習II 1A

14366

担当者名 / Instructor 角田 将士

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

2回生までの学習・研究あるいは演習 I / 人間福祉演習 I の成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表し、討議し、そしてレポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

到達目標 / Attainment Objectives

- ① 社会科学的な視点から現代社会における諸課題を見出すことができる。
- ② ①の課題解決にとって相応しい研究方法を活用することができる。
- ③ 研究成果を発表し、レポート、論文としてまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回		
第2回		
第3回		
第4回		
第5回		
第6回		
第7回		
第8回		
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	* 演習 II ではレポート、論文などの成果物を提出する。
平常点(日常的)	50 %	* 日常的な授業に対する取り組みの評価に関しては、各演習で確認される。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

* 専門演習では学生の研究力量が問われる。学生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究力量を高める努力が要請される。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

演習II 1B

14374

担当者名 / Instructor 木田 融男

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

2回生までの学習・研究あるいは演習 I / 人間福祉演習 I の成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表し、討議し、そしてレポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

到達目標 / Attainment Objectives

- ① 社会科学的な視点から現代社会における諸課題を見出すことができる。
- ② ①の課題解決にとって相応しい研究方法を活用することができる。
- ③ 研究成果を発表し、レポート、論文としてまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回		
第2回		
第3回		
第4回		
第5回		
第6回		
第7回		
第8回		
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	* 演習 II ではレポート、論文などの成果物を提出する。
平常点(日常的)	50 %	* 日常的な授業に対する取り組みの評価に関しては、各演習で確認される。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

* 専門演習では学生の研究力量が問われる。学生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究力量を高める努力が要請される。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

演習II 1C

14386

担当者名 / Instructor 國廣 敏文

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

2回生までの学習・研究あるいは演習 I / 人間福祉演習 I の成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表し、討議し、そしてレポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

到達目標 / Attainment Objectives

- ① 社会科学的な視点から現代社会における諸課題を見出すことができる。
- ② ①の課題解決にとって相応しい研究方法を活用することができる。
- ③ 研究成果を発表し、レポート、論文としてまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回		
第2回		
第3回		
第4回		
第5回		
第6回		
第7回		
第8回		
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	* 演習 II ではレポート、論文などの成果物を提出する。
平常点(日常的)	50 %	* 日常的な授業に対する取り組みの評価に関しては、各演習で確認される。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

* 専門演習では学生の研究力量が問われる。学生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究力量を高める努力が要請される。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

演習II 1D

14376

担当者名 / Instructor 杉本 通百則

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

2年生までの学習・研究あるいは演習 I / 人間福祉演習 I の成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表し、討議し、そしてレポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

到達目標 / Attainment Objectives

- ① 社会科学的な視点から現代社会における諸課題を見出すことができる。
- ② ①の課題解決にとって相応しい研究方法を活用することができる。
- ③ 研究成果を発表し、レポート、論文としてまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回		
第2回		
第3回		
第4回		
第5回		
第6回		
第7回		
第8回		
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	* 演習 II ではレポート、論文などの成果物を提出する。
平常点(日常的)	50 %	* 日常的な授業に対する取り組みの評価に関しては、各演習で確認される。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

* 専門演習では学生の研究力量が問われる。学生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究力量を高める努力が要請される。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

演習II 1E

14377

担当者名 / Instructor 高嶋 正晴

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

2回生までの学習・研究あるいは演習 I / 人間福祉演習 I の成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表し、討議し、そしてレポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

到達目標 / Attainment Objectives

- ① 社会科学的な視点から現代社会における諸課題を見出すことができる。
- ② ①の課題解決にとって相応しい研究方法を活用することができる。
- ③ 研究成果を発表し、レポート、論文としてまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回		
第2回		
第3回		
第4回		
第5回		
第6回		
第7回		
第8回		
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	* 演習 II ではレポート、論文などの成果物を提出する。
平常点(日常的)	50 %	* 日常的な授業に対する取り組みの評価に関しては、各演習で確認される。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

* 専門演習では学生の研究力量が問われる。学生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究力量を高める努力が要請される。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

演習II 1F

14402

担当者名 / Instructor 中西 仁

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

2回生までの学習・研究あるいは演習 I / 人間福祉演習 I の成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表し、討議し、そしてレポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

到達目標 / Attainment Objectives

- ① 社会科学的な視点から現代社会における諸課題を見出すことができる。
- ② ①の課題解決にとって相応しい研究方法を活用することができる。
- ③ 研究成果を発表し、レポート、論文としてまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回		
第2回		
第3回		
第4回		
第5回		
第6回		
第7回		
第8回		
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	* 演習 II ではレポート、論文などの成果物を提出する。
平常点(日常的)	50 %	* 日常的な授業に対する取り組みの評価に関しては、各演習で確認される。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

* 専門演習では学生の研究力量が問われる。学生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究力量を高める努力が要請される。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

演習II 1G

14385

担当者名 / Instructor 山口 歩

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

2回生までの学習・研究あるいは演習 I / 人間福祉演習 I の成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表し、討議し、そしてレポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

到達目標 / Attainment Objectives

- ① 社会科学的な視点から現代社会における諸課題を見出すことができる。
- ② ①の課題解決にとって相応しい研究方法を活用することができる。
- ③ 研究成果を発表し、レポート、論文としてまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回		
第2回		
第3回		
第4回		
第5回		
第6回		
第7回		
第8回		
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	* 演習 II ではレポート、論文などの成果物を提出する。
平常点(日常的)	50 %	* 日常的な授業に対する取り組みの評価に関しては、各演習で確認される。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

* 専門演習では学生の研究力量が問われる。学生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究力量を高める努力が要請される。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

演習II 1H

14410

担当者名 / Instructor 石本 幸良

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

2回生までの学習・研究あるいは演習 I / 人間福祉演習 I の成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表し、討議し、そしてレポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

到達目標 / Attainment Objectives

- ① 社会科学的な視点から現代社会における諸課題を見出すことができる。
- ② ①の課題解決にとって相応しい研究方法を活用することができる。
- ③ 研究成果を発表し、レポート、論文としてまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回		
第2回		
第3回		
第4回		
第5回		
第6回		
第7回		
第8回		
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	* 演習 II ではレポート、論文などの成果物を提出する。
平常点(日常的)	50 %	* 日常的な授業に対する取り組みの評価に関しては、各演習で確認される。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

* 専門演習では学生の研究力量が問われる。学生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究力量を高める努力が要請される。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

演習II 2A

14393

担当者名 / Instructor 坂田 謙司

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

2回生までの学習・研究あるいは演習 I / 人間福祉演習 I の成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表し、討議し、そしてレポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

到達目標 / Attainment Objectives

- ① 社会科学的な視点から現代社会における諸課題を見出すことができる。
- ② ①の課題解決にとって相応しい研究方法を活用することができる。
- ③ 研究成果を発表し、レポート、論文としてまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回		
第2回		
第3回		
第4回		
第5回		
第6回		
第7回		
第8回		
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	* 演習 II ではレポート、論文などの成果物を提出する。
平常点(日常的)	50 %	* 日常的な授業に対する取り組みの評価に関しては、各演習で確認される。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

* 専門演習では学生の研究力量が問われる。学生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究力量を高める努力が要請される。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

演習II 2B

14378

担当者名 / Instructor 神保 哲生

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

2回生までの学習・研究あるいは演習 I / 人間福祉演習 I の成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表し、討議し、そしてレポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

到達目標 / Attainment Objectives

- ① 社会科学的な視点から現代社会における諸課題を見出すことができる。
- ② ①の課題解決にとって相応しい研究方法を活用することができる。
- ③ 研究成果を発表し、レポート、論文としてまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回		
第2回		
第3回		
第4回		
第5回		
第6回		
第7回		
第8回		
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	* 演習 II ではレポート、論文などの成果物を提出する。
平常点(日常的)	50 %	* 日常的な授業に対する取り組みの評価に関しては、各演習で確認される。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

* 専門演習では学生の研究力量が問われる。学生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究力量を高める努力が要請される。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

演習II 2C

14387

担当者名 / Instructor 津田 正夫

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

2回生までの学習・研究あるいは演習 I / 人間福祉演習 I の成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表し、討議し、そしてレポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

到達目標 / Attainment Objectives

- ① 社会科学的な視点から現代社会における諸課題を見出すことができる。
- ② ①の課題解決にとって相応しい研究方法を活用することができる。
- ③ 研究成果を発表し、レポート、論文としてまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回		
第2回		
第3回		
第4回		
第5回		
第6回		
第7回		
第8回		
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	* 演習 II ではレポート、論文などの成果物を提出する。
平常点(日常的)	50 %	* 日常的な授業に対する取り組みの評価に関しては、各演習で確認される。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

* 専門演習では学生の研究力量が問われる。学生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究力量を高める努力が要請される。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

演習II 2D

14367

担当者名 / Instructor 宮下 晋吉

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

2回生までの学習・研究あるいは演習 I / 人間福祉演習 I の成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表し、討議し、そしてレポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

到達目標 / Attainment Objectives

- ① 社会科学的な視点から現代社会における諸課題を見出すことができる。
- ② ①の課題解決にとって相応しい研究方法を活用することができる。
- ③ 研究成果を発表し、レポート、論文としてまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回		
第2回		
第3回		
第4回		
第5回		
第6回		
第7回		
第8回		
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	* 演習 II ではレポート、論文などの成果物を提出する。
平常点(日常的)	50 %	* 日常的な授業に対する取り組みの評価に関しては、各演習で確認される。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

* 専門演習では学生の研究力量が問われる。学生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究力量を高める努力が要請される。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

演習II 2E

14396

担当者名 / Instructor 柳澤 伸司

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

2回生までの学習・研究あるいは演習 I / 人間福祉演習 I の成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表し、討議し、そしてレポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

到達目標 / Attainment Objectives

- ① 社会科学的な視点から現代社会における諸課題を見出すことができる。
- ② ①の課題解決にとって相応しい研究方法を活用することができる。
- ③ 研究成果を発表し、レポート、論文としてまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回		
第2回		
第3回		
第4回		
第5回		
第6回		
第7回		
第8回		
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	* 演習 II ではレポート、論文などの成果物を提出する。
平常点(日常的)	50 %	* 日常的な授業に対する取り組みの評価に関しては、各演習で確認される。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

* 専門演習では学生の研究力量が問われる。学生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究力量を高める努力が要請される。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

演習II 2F

14369

担当者名 / Instructor 伊藤 武夫

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

2回生までの学習・研究あるいは演習 I / 人間福祉演習 I の成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表し、討議し、そしてレポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

到達目標 / Attainment Objectives

- ① 社会科学的な視点から現代社会における諸課題を見出すことができる。
- ② ①の課題解決にとって相応しい研究方法を活用することができる。
- ③ 研究成果を発表し、レポート、論文としてまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回		
第2回		
第3回		
第4回		
第5回		
第6回		
第7回		
第8回		
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	* 演習 II ではレポート、論文などの成果物を提出する。
平常点(日常的)	50 %	* 日常的な授業に対する取り組みの評価に関しては、各演習で確認される。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

* 専門演習では学生の研究力量が問われる。学生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究力量を高める努力が要請される。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

演習II 2G

14390

担当者名 / Instructor 松田 亜希

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

2回生までの学習・研究あるいは演習 I / 人間福祉演習 I の成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表し、討議し、そしてレポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

到達目標 / Attainment Objectives

- ① 社会科学的な視点から現代社会における諸課題を見出すことができる。
- ② ①の課題解決にとって相応しい研究方法を活用することができる。
- ③ 研究成果を発表し、レポート、論文としてまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回		
第2回		
第3回		
第4回		
第5回		
第6回		
第7回		
第8回		
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	* 演習 II ではレポート、論文などの成果物を提出する。
平常点(日常的)	50 %	* 日常的な授業に対する取り組みの評価に関しては、各演習で確認される。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

* 専門演習では学生の研究力量が問われる。学生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究力量を高める努力が要請される。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

演習II 2H

14365

担当者名 / Instructor 浪田 陽子

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

2回生までの学習・研究あるいは演習 I / 人間福祉演習 I の成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表し、討議し、そしてレポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

到達目標 / Attainment Objectives

- ① 社会科学的な視点から現代社会における諸課題を見出すことができる。
- ② ①の課題解決にとって相応しい研究方法を活用することができる。
- ③ 研究成果を発表し、レポート、論文としてまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回		
第2回		
第3回		
第4回		
第5回		
第6回		
第7回		
第8回		
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	* 演習 II ではレポート、論文などの成果物を提出する。
平常点(日常的)	50 %	* 日常的な授業に対する取り組みの評価に関しては、各演習で確認される。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

* 専門演習では学生の研究力量が問われる。学生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究力量を高める努力が要請される。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

演習II 2I

14411

担当者名 / Instructor 鈴木 隆

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

2回生までの学習・研究あるいは演習 I / 人間福祉演習 I の成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表し、討議し、そしてレポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

到達目標 / Attainment Objectives

- ① 社会科学的な視点から現代社会における諸課題を見出すことができる。
- ② ①の課題解決にとって相応しい研究方法を活用することができる。
- ③ 研究成果を発表し、レポート、論文としてまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回		
第2回		
第3回		
第4回		
第5回		
第6回		
第7回		
第8回		
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	* 演習 II ではレポート、論文などの成果物を提出する。
平常点(日常的)	50 %	* 日常的な授業に対する取り組みの評価に関しては、各演習で確認される。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

* 専門演習では学生の研究力量が問われる。学生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究力量を高める努力が要請される。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

演習II 2J

17124

担当者名 / Instructor 日高 勝之単位数 / Credit 4授業の概要 / Course Outline到達目標 / Attainment Objectives履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study授業スケジュール / Course Schedule(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods教科書 / Textbooks参考書 / Reference Books参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Referenceその他 / Others

演習II 3A

14370

担当者名 / Instructor 景井 充

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

2回生までの学習・研究あるいは演習 I / 人間福祉演習 I の成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表し、討議し、そしてレポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

到達目標 / Attainment Objectives

- ① 社会科学的な視点から現代社会における諸課題を見出すことができる。
- ② ①の課題解決にとって相応しい研究方法を活用することができる。
- ③ 研究成果を発表し、レポート、論文としてまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回		
第2回		
第3回		
第4回		
第5回		
第6回		
第7回		
第8回		
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	* 演習 II ではレポート、論文などの成果物を提出する。
平常点(日常的)	50 %	* 日常的な授業に対する取り組みの評価に関しては、各演習で確認される。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

* 専門演習では学生の研究力量が問われる。学生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究力量を高める努力が要請される。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

演習II 3B

14375

担当者名 / Instructor 金井 淳二

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

2回生までの学習・研究あるいは演習 I / 人間福祉演習 I の成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表し、討議し、そしてレポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

到達目標 / Attainment Objectives

- ① 社会科学的な視点から現代社会における諸課題を見出すことができる。
- ② ①の課題解決にとって相応しい研究方法を活用することができる。
- ③ 研究成果を発表し、レポート、論文としてまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回		
第2回		
第3回		
第4回		
第5回		
第6回		
第7回		
第8回		
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	* 演習 II ではレポート、論文などの成果物を提出する。
平常点(日常的)	50 %	* 日常的な授業に対する取り組みの評価に関しては、各演習で確認される。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

* 専門演習では学生の研究力量が問われる。学生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究力量を高める努力が要請される。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

演習II 3C

14397

担当者名 / Instructor 藪 耕太郎、草深 直臣

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

2回生までの学習・研究あるいは演習 I / 人間福祉演習 I の成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表し、討議し、そしてレポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

到達目標 / Attainment Objectives

- ① 社会科学的な視点から現代社会における諸課題を見出すことができる。
- ② ①の課題解決にとって相応しい研究方法を活用することができる。
- ③ 研究成果を発表し、レポート、論文としてまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回		
第2回		
第3回		
第4回		
第5回		
第6回		
第7回		
第8回		
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	* 演習 II ではレポート、論文などの成果物を提出する。
平常点(日常的)	50 %	* 日常的な授業に対する取り組みの評価に関しては、各演習で確認される。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

* 専門演習では学生の研究力量が問われる。学生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究力量を高める努力が要請される。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

演習II 3D

14379

担当者名 / Instructor 佐々木 嬉代三

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

2回生までの学習・研究あるいは演習 I / 人間福祉演習 I の成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表し、討議し、そしてレポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

到達目標 / Attainment Objectives

- ① 社会科学的な視点から現代社会における諸課題を見出すことができる。
- ② ①の課題解決にとって相応しい研究方法を活用することができる。
- ③ 研究成果を発表し、レポート、論文としてまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回		
第2回		
第3回		
第4回		
第5回		
第6回		
第7回		
第8回		
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	* 演習 II ではレポート、論文などの成果物を提出する。
平常点(日常的)	50 %	* 日常的な授業に対する取り組みの評価に関しては、各演習で確認される。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

* 専門演習では学生の研究力量が問われる。学生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究力量を高める努力が要請される。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

演習II 3E

14388

担当者名 / Instructor 佐藤 春吉

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

2回生までの学習・研究あるいは演習 I / 人間福祉演習 I の成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表し、討議し、そしてレポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

到達目標 / Attainment Objectives

- ① 社会科学的な視点から現代社会における諸課題を見出すことができる。
- ② ①の課題解決にとって相応しい研究方法を活用することができる。
- ③ 研究成果を発表し、レポート、論文としてまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回		
第2回		
第3回		
第4回		
第5回		
第6回		
第7回		
第8回		
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	* 演習 II ではレポート、論文などの成果物を提出する。
平常点(日常的)	50 %	* 日常的な授業に対する取り組みの評価に関しては、各演習で確認される。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

* 専門演習では学生の研究力量が問われる。学生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究力量を高める努力が要請される。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

演習II 3F

14368

担当者名 / Instructor 高木 正朗

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

2回生までの学習・研究あるいは演習 I / 人間福祉演習 I の成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表し、討議し、そしてレポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

到達目標 / Attainment Objectives

- ① 社会科学的な視点から現代社会における諸課題を見出すことができる。
- ② ①の課題解決にとって相応しい研究方法を活用することができる。
- ③ 研究成果を発表し、レポート、論文としてまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回		
第2回		
第3回		
第4回		
第5回		
第6回		
第7回		
第8回		
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	* 演習 II ではレポート、論文などの成果物を提出する。
平常点(日常的)	50 %	* 日常的な授業に対する取り組みの評価に関しては、各演習で確認される。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

* 専門演習では学生の研究力量が問われる。学生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究力量を高める努力が要請される。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

演習II 3G

14407

担当者名 / Instructor 宝月 誠

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

2回生までの学習・研究あるいは演習 I / 人間福祉演習 I の成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表し、討議し、そしてレポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

到達目標 / Attainment Objectives

- ① 社会科学的な視点から現代社会における諸課題を見出すことができる。
- ② ①の課題解決にとって相応しい研究方法を活用することができる。
- ③ 研究成果を発表し、レポート、論文としてまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回		
第2回		
第3回		
第4回		
第5回		
第6回		
第7回		
第8回		
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	* 演習 II ではレポート、論文などの成果物を提出する。
平常点(日常的)	50 %	* 日常的な授業に対する取り組みの評価に関しては、各演習で確認される。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

* 専門演習では学生の研究力量が問われる。学生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究力量を高める努力が要請される。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

演習II 3H

14412

担当者名 / Instructor 森田 真樹

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

2回生までの学習・研究あるいは演習 I / 人間福祉演習 I の成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表し、討議し、そしてレポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

到達目標 / Attainment Objectives

- ① 社会科学的な視点から現代社会における諸課題を見出すことができる。
- ② ①の課題解決にとって相応しい研究方法を活用することができる。
- ③ 研究成果を発表し、レポート、論文としてまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回		
第2回		
第3回		
第4回		
第5回		
第6回		
第7回		
第8回		
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	* 演習 II ではレポート、論文などの成果物を提出する。
平常点(日常的)	50 %	* 日常的な授業に対する取り組みの評価に関しては、各演習で確認される。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

* 専門演習では学生の研究力量が問われる。学生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究力量を高める努力が要請される。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

演習II 3I

14413

担当者名 / Instructor 山下 高行

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

2回生までの学習・研究あるいは演習 I / 人間福祉演習 I の成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表し、討議し、そしてレポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

到達目標 / Attainment Objectives

- ① 社会科学的な視点から現代社会における諸課題を見出すことができる。
- ② ①の課題解決にとって相応しい研究方法を活用することができる。
- ③ 研究成果を発表し、レポート、論文としてまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回		
第2回		
第3回		
第4回		
第5回		
第6回		
第7回		
第8回		
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	* 演習 II ではレポート、論文などの成果物を提出する。
平常点(日常的)	50 %	* 日常的な授業に対する取り組みの評価に関しては、各演習で確認される。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

* 専門演習では学生の研究力量が問われる。学生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究力量を高める努力が要請される。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

演習II 4A

14364

担当者名 / Instructor 荒木 穂積

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

2回生までの学習・研究あるいは演習 I / 人間福祉演習 I の成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表し、討議し、そしてレポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

到達目標 / Attainment Objectives

- ① 社会科学的な視点から現代社会における諸課題を見出すことができる。
- ② ①の課題解決にとって相応しい研究方法を活用することができる。
- ③ 研究成果を発表し、レポート、論文としてまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回		
第2回		
第3回		
第4回		
第5回		
第6回		
第7回		
第8回		
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	* 演習 II ではレポート、論文などの成果物を提出する。
平常点(日常的)	50 %	* 日常的な授業に対する取り組みの評価に関しては、各演習で確認される。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

* 専門演習では学生の研究力量が問われる。学生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究力量を高める努力が要請される。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

演習II 4B

14371

担当者名 / Instructor 生田 正幸

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

2回生までの学習・研究あるいは演習 I / 人間福祉演習 I の成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表し、討議し、そしてレポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

到達目標 / Attainment Objectives

- ① 社会科学的な視点から現代社会における諸課題を見出すことができる。
- ② ①の課題解決にとって相応しい研究方法を活用することができる。
- ③ 研究成果を発表し、レポート、論文としてまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回		
第2回		
第3回		
第4回		
第5回		
第6回		
第7回		
第8回		
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	* 演習 II ではレポート、論文などの成果物を提出する。
平常点(日常的)	50 %	* 日常的な授業に対する取り組みの評価に関しては、各演習で確認される。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

* 専門演習では学生の研究力量が問われる。学生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究力量を高める努力が要請される。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

演習II 4C

14405

担当者名 / Instructor 小川 栄二

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

2回生までの学習・研究あるいは演習 I / 人間福祉演習 I の成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表し、討議し、そしてレポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

到達目標 / Attainment Objectives

- ① 社会科学的な視点から現代社会における諸課題を見出すことができる。
- ② ①の課題解決にとって相応しい研究方法を活用することができる。
- ③ 研究成果を発表し、レポート、論文としてまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回		
第2回		
第3回		
第4回		
第5回		
第6回		
第7回		
第8回		
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	* 演習 II ではレポート、論文などの成果物を提出する。
平常点(日常的)	50 %	* 日常的な授業に対する取り組みの評価に関しては、各演習で確認される。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

* 専門演習では学生の研究力量が問われる。学生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究力量を高める努力が要請される。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

演習II 4D

14406

担当者名 / Instructor 芝田 英昭

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

2回生までの学習・研究あるいは演習 I / 人間福祉演習 I の成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表し、討議し、そしてレポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

到達目標 / Attainment Objectives

- ① 社会科学的な視点から現代社会における諸課題を見出すことができる。
- ② ①の課題解決にとって相応しい研究方法を活用することができる。
- ③ 研究成果を発表し、レポート、論文としてまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回		
第2回		
第3回		
第4回		
第5回		
第6回		
第7回		
第8回		
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	* 演習 II ではレポート、論文などの成果物を提出する。
平常点(日常的)	50 %	* 日常的な授業に対する取り組みの評価に関しては、各演習で確認される。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

* 専門演習では学生の研究力量が問われる。学生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究力量を高める努力が要請される。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

演習II 4E

14391

担当者名 / Instructor 高橋 正人

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

2回生までの学習・研究あるいは演習 I / 人間福祉演習 I の成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表し、討議し、そしてレポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

到達目標 / Attainment Objectives

- ① 社会科学的な視点から現代社会における諸課題を見出すことができる。
- ② ①の課題解決にとって相応しい研究方法を活用することができる。
- ③ 研究成果を発表し、レポート、論文としてまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回		
第2回		
第3回		
第4回		
第5回		
第6回		
第7回		
第8回		
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	* 演習 II ではレポート、論文などの成果物を提出する。
平常点(日常的)	50 %	* 日常的な授業に対する取り組みの評価に関しては、各演習で確認される。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

* 専門演習では学生の研究力量が問われる。学生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究力量を高める努力が要請される。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

演習II 4F

14380

担当者名 / Instructor 竹内 謙彰

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

2回生までの学習・研究あるいは演習 I / 人間福祉演習 I の成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表し、討議し、そしてレポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

到達目標 / Attainment Objectives

- ① 社会科学的な視点から現代社会における諸課題を見出すことができる。
- ② ①の課題解決にとって相応しい研究方法を活用することができる。
- ③ 研究成果を発表し、レポート、論文としてまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回		
第2回		
第3回		
第4回		
第5回		
第6回		
第7回		
第8回		
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	* 演習 II ではレポート、論文などの成果物を提出する。
平常点(日常的)	50 %	* 日常的な授業に対する取り組みの評価に関しては、各演習で確認される。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

* 専門演習では学生の研究力量が問われる。学生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究力量を高める努力が要請される。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

演習II 4G

14398

担当者名 / Instructor 中川 勝雄

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

2回生までの学習・研究あるいは演習 I / 人間福祉演習 I の成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表し、討議し、そしてレポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

到達目標 / Attainment Objectives

- ① 社会科学的な視点から現代社会における諸課題を見出すことができる。
- ② ①の課題解決にとって相応しい研究方法を活用することができる。
- ③ 研究成果を発表し、レポート、論文としてまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回		
第2回		
第3回		
第4回		
第5回		
第6回		
第7回		
第8回		
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	* 演習 II ではレポート、論文などの成果物を提出する。
平常点(日常的)	50 %	* 日常的な授業に対する取り組みの評価に関しては、各演習で確認される。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

* 専門演習では学生の研究力量が問われる。学生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究力量を高める努力が要請される。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

演習II 5A

14381

担当者名 / Instructor 乾 亨

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

2回生までの学習・研究あるいは演習 I / 人間福祉演習 I の成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表し、討議し、そしてレポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

到達目標 / Attainment Objectives

- ① 社会科学的な視点から現代社会における諸課題を見出すことができる。
- ② ①の課題解決にとって相応しい研究方法を活用することができる。
- ③ 研究成果を発表し、レポート、論文としてまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回		
第2回		
第3回		
第4回		
第5回		
第6回		
第7回		
第8回		
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	* 演習 II ではレポート、論文などの成果物を提出する。
平常点(日常的)	50 %	* 日常的な授業に対する取り組みの評価に関しては、各演習で確認される。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

* 専門演習では学生の研究力量が問われる。学生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究力量を高める努力が要請される。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

演習II 5B

14399

担当者名 / Instructor 大谷 いづみ

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

2回生までの学習・研究あるいは演習 I / 人間福祉演習 I の成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表し、討議し、そしてレポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

到達目標 / Attainment Objectives

- ① 社会科学的な視点から現代社会における諸課題を見出すことができる。
- ② ①の課題解決にとって相応しい研究方法を活用することができる。
- ③ 研究成果を発表し、レポート、論文としてまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回		
第2回		
第3回		
第4回		
第5回		
第6回		
第7回		
第8回		
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	* 演習 II ではレポート、論文などの成果物を提出する。
平常点(日常的)	50 %	* 日常的な授業に対する取り組みの評価に関しては、各演習で確認される。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

* 専門演習では学生の研究力量が問われる。学生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究力量を高める努力が要請される。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

演習II 5C

14394

担当者名 / Instructor 竹濱 朝美

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

2回生までの学習・研究あるいは演習 I / 人間福祉演習 I の成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表し、討議し、そしてレポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

到達目標 / Attainment Objectives

- ① 社会科学的な視点から現代社会における諸課題を見出すことができる。
- ② ①の課題解決にとって相応しい研究方法を活用することができる。
- ③ 研究成果を発表し、レポート、論文としてまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回		
第2回		
第3回		
第4回		
第5回		
第6回		
第7回		
第8回		
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	* 演習 II ではレポート、論文などの成果物を提出する。
平常点(日常的)	50 %	* 日常的な授業に対する取り組みの評価に関しては、各演習で確認される。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

* 専門演習では学生の研究力量が問われる。学生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究力量を高める努力が要請される。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

演習II 5D

14392

担当者名 / Instructor 小泉 秀昭

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

2回生までの学習・研究あるいは演習 I / 人間福祉演習 I の成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表し、討議し、そしてレポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

到達目標 / Attainment Objectives

- ① 社会科学的な視点から現代社会における諸課題を見出すことができる。
- ② ①の課題解決にとって相応しい研究方法を活用することができる。
- ③ 研究成果を発表し、レポート、論文としてまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回		
第2回		
第3回		
第4回		
第5回		
第6回		
第7回		
第8回		
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	* 演習 II ではレポート、論文などの成果物を提出する。
平常点(日常的)	50 %	* 日常的な授業に対する取り組みの評価に関しては、各演習で確認される。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

* 専門演習では学生の研究力量が問われる。学生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究力量を高める努力が要請される。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

演習II 5E

14382

担当者名 / Instructor 筒井 淳也

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

2回生までの学習・研究あるいは演習 I / 人間福祉演習 I の成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表し、討議し、そしてレポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

到達目標 / Attainment Objectives

- ① 社会科学的な視点から現代社会における諸課題を見出すことができる。
- ② ①の課題解決にとって相応しい研究方法を活用することができる。
- ③ 研究成果を発表し、レポート、論文としてまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回		
第2回		
第3回		
第4回		
第5回		
第6回		
第7回		
第8回		
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	* 演習 II ではレポート、論文などの成果物を提出する。
平常点(日常的)	50 %	* 日常的な授業に対する取り組みの評価に関しては、各演習で確認される。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

* 専門演習では学生の研究力量が問われる。学生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究力量を高める努力が要請される。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

演習II 5F

14400

担当者名 / Instructor 池田 知加

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

2回生までの学習・研究あるいは演習 I / 人間福祉演習 I の成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表し、討議し、そしてレポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

到達目標 / Attainment Objectives

- ① 社会科学的な視点から現代社会における諸課題を見出すことができる。
- ② ①の課題解決にとって相応しい研究方法を活用することができる。
- ③ 研究成果を発表し、レポート、論文としてまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回		
第2回		
第3回		
第4回		
第5回		
第6回		
第7回		
第8回		
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	* 演習 II ではレポート、論文などの成果物を提出する。
平常点(日常的)	50 %	* 日常的な授業に対する取り組みの評価に関しては、各演習で確認される。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

* 専門演習では学生の研究力量が問われる。学生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究力量を高める努力が要請される。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

演習II 5G

14372

担当者名 / Instructor 有賀 郁敏

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

2年生までの学習・研究あるいは演習 I / 人間福祉演習 I の成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表し、討議し、そしてレポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

到達目標 / Attainment Objectives

- ① 社会科学的な視点から現代社会における諸課題を見出すことができる。
- ② ①の課題解決にとって相応しい研究方法を活用することができる。
- ③ 研究成果を発表し、レポート、論文としてまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回		
第2回		
第3回		
第4回		
第5回		
第6回		
第7回		
第8回		
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	* 演習 II ではレポート、論文などの成果物を提出する。
平常点(日常的)	50 %	* 日常的な授業に対する取り組みの評価に関しては、各演習で確認される。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

* 専門演習では学生の研究力量が問われる。学生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究力量を高める努力が要請される。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

演習II 5H

14383

担当者名 / Instructor 遠藤 保子

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

2回生までの学習・研究あるいは演習 I / 人間福祉演習 I の成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表し、討議し、そしてレポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

到達目標 / Attainment Objectives

- ① 社会科学的な視点から現代社会における諸課題を見出すことができる。
- ② ①の課題解決にとって相応しい研究方法を活用することができる。
- ③ 研究成果を発表し、レポート、論文としてまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回		
第2回		
第3回		
第4回		
第5回		
第6回		
第7回		
第8回		
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	* 演習 II ではレポート、論文などの成果物を提出する。
平常点(日常的)	50 %	* 日常的な授業に対する取り組みの評価に関しては、各演習で確認される。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

* 専門演習では学生の研究力量が問われる。学生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究力量を高める努力が要請される。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

演習II 5I

14403

担当者名 / Instructor 久津内 一雄

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

2回生までの学習・研究あるいは演習 I / 人間福祉演習 I の成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表し、討議し、そしてレポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

到達目標 / Attainment Objectives

- ① 社会科学的な視点から現代社会における諸課題を見出すことができる。
- ② ①の課題解決にとって相応しい研究方法を活用することができる。
- ③ 研究成果を発表し、レポート、論文としてまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回		
第2回		
第3回		
第4回		
第5回		
第6回		
第7回		
第8回		
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	* 演習 II ではレポート、論文などの成果物を提出する。
平常点(日常的)	50 %	* 日常的な授業に対する取り組みの評価に関しては、各演習で確認される。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

* 専門演習では学生の研究力量が問われる。学生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究力量を高める努力が要請される。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

演習II 5J

14389

担当者名 / Instructor 村本 邦子

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

2回生までの学習・研究あるいは演習 I / 人間福祉演習 I の成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表し、討議し、そしてレポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

到達目標 / Attainment Objectives

- ① 社会科学的な視点から現代社会における諸課題を見出すことができる。
- ② ①の課題解決にとって相応しい研究方法を活用することができる。
- ③ 研究成果を発表し、レポート、論文としてまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回		
第2回		
第3回		
第4回		
第5回		
第6回		
第7回		
第8回		
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	* 演習 II ではレポート、論文などの成果物を提出する。
平常点(日常的)	50 %	* 日常的な授業に対する取り組みの評価に関しては、各演習で確認される。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

* 専門演習では学生の研究力量が問われる。学生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究力量を高める努力が要請される。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

演習II 5K

14384

担当者名 / Instructor 峰島 厚

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

2回生までの学習・研究あるいは演習 I / 人間福祉演習 I の成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表し、討議し、そしてレポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

到達目標 / Attainment Objectives

- ① 社会科学的な視点から現代社会における諸課題を見出すことができる。
- ② ①の課題解決にとって相応しい研究方法を活用することができる。
- ③ 研究成果を発表し、レポート、論文としてまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回		
第2回		
第3回		
第4回		
第5回		
第6回		
第7回		
第8回		
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	* 演習 II ではレポート、論文などの成果物を提出する。
平常点(日常的)	50 %	* 日常的な授業に対する取り組みの評価に関しては、各演習で確認される。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

* 専門演習では学生の研究力量が問われる。学生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究力量を高める努力が要請される。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

演習II 5L

14414

担当者名 / Instructor 小澤 亘

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

2回生までの学習・研究あるいは演習 I / 人間福祉演習 I の成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表し、討議し、そしてレポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

到達目標 / Attainment Objectives

- ① 社会科学的な視点から現代社会における諸課題を見出すことができる。
- ② ①の課題解決にとって相応しい研究方法を活用することができる。
- ③ 研究成果を発表し、レポート、論文としてまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回		
第2回		
第3回		
第4回		
第5回		
第6回		
第7回		
第8回		
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	* 演習 II ではレポート、論文などの成果物を提出する。
平常点(日常的)	50 %	* 日常的な授業に対する取り組みの評価に関しては、各演習で確認される。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

* 専門演習では学生の研究力量が問われる。学生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究力量を高める努力が要請される。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

演習II 6A

14401

担当者名 / Instructor 深澤 敦

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

2回生までの学習・研究あるいは演習 I / 人間福祉演習 I の成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表し、討議し、そしてレポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

到達目標 / Attainment Objectives

- ① 社会科学的な視点から現代社会における諸課題を見出すことができる。
- ② ①の課題解決にとって相応しい研究方法を活用することができる。
- ③ 研究成果を発表し、レポート、論文としてまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回		
第2回		
第3回		
第4回		
第5回		
第6回		
第7回		
第8回		
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	* 演習 II ではレポート、論文などの成果物を提出する。
平常点(日常的)	50 %	* 日常的な授業に対する取り組みの評価に関しては、各演習で確認される。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

* 専門演習では学生の研究力量が問われる。学生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究力量を高める努力が要請される。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

演習II 6B

14373

担当者名 / Instructor 増田 幸子

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

2回生までの学習・研究あるいは演習 I / 人間福祉演習 I の成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表し、討議し、そしてレポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

到達目標 / Attainment Objectives

- ① 社会科学的な視点から現代社会における諸課題を見出すことができる。
- ② ①の課題解決にとって相応しい研究方法を活用することができる。
- ③ 研究成果を発表し、レポート、論文としてまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回		
第2回		
第3回		
第4回		
第5回		
第6回		
第7回		
第8回		
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	* 演習 II ではレポート、論文などの成果物を提出する。
平常点(日常的)	50 %	* 日常的な授業に対する取り組みの評価に関しては、各演習で確認される。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

* 専門演習では学生の研究力量が問われる。学生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究力量を高める努力が要請される。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

演習II 6D

14395

担当者名 / Instructor 秋葉 武

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

2回生までの学習・研究あるいは演習 I / 人間福祉演習 I の成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表し、討議し、そしてレポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

到達目標 / Attainment Objectives

- ① 社会科学的な視点から現代社会における諸課題を見出すことができる。
- ② ①の課題解決にとって相応しい研究方法を活用することができる。
- ③ 研究成果を発表し、レポート、論文としてまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回		
第2回		
第3回		
第4回		
第5回		
第6回		
第7回		
第8回		
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	* 演習 II ではレポート、論文などの成果物を提出する。
平常点(日常的)	50 %	* 日常的な授業に対する取り組みの評価に関しては、各演習で確認される。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

* 専門演習では学生の研究力量が問われる。学生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究力量を高める努力が要請される。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

演習II 6E

14408

担当者名 / Instructor 林 堅太郎

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

2回生までの学習・研究あるいは演習 I / 人間福祉演習 I の成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表し、討議し、そしてレポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

到達目標 / Attainment Objectives

- ① 社会科学的な視点から現代社会における諸課題を見出すことができる。
- ② ①の課題解決にとって相応しい研究方法を活用することができる。
- ③ 研究成果を発表し、レポート、論文としてまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回		
第2回		
第3回		
第4回		
第5回		
第6回		
第7回		
第8回		
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	* 演習 II ではレポート、論文などの成果物を提出する。
平常点(日常的)	50 %	* 日常的な授業に対する取り組みの評価に関しては、各演習で確認される。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

* 専門演習では学生の研究力量が問われる。学生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究力量を高める努力が要請される。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

演習II 6F

14409

担当者名 / Instructor 山本 隆

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

2回生までの学習・研究あるいは演習 I / 人間福祉演習 I の成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表し、討議し、そしてレポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

到達目標 / Attainment Objectives

- ① 社会科学的な視点から現代社会における諸課題を見出すことができる。
- ② ①の課題解決にとって相応しい研究方法を活用することができる。
- ③ 研究成果を発表し、レポート、論文としてまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回		
第2回		
第3回		
第4回		
第5回		
第6回		
第7回		
第8回		
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	* 演習 II ではレポート、論文などの成果物を提出する。
平常点(日常的)	50 %	* 日常的な授業に対する取り組みの評価に関しては、各演習で確認される。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

* 専門演習では学生の研究力量が問われる。学生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究力量を高める努力が要請される。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

卒業研究指導 1A

14322

担当者名 / Instructor 樋口 耕一、斎藤 真緒

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

到達目標 / Attainment Objectives

① 自ら研究テーマを設定し、卒業研究として論文などの成果物を提出することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回		
第2回		
第3回		
第4回		
第5回		
第6回		
第7回		
第8回		
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

 (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	* 卒業研究(論文など)を提出する。
平常点(日常的)	20 %	* それぞれの卒業研究において確定される。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

* 卒業研究では学生の研究力量が問われる。学生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究力量を高める努力が要請される。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

卒業研究指導 1B

14318

担当者名 / Instructor 辻 勝次、牧野 泰典

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

到達目標 / Attainment Objectives

① 自ら研究テーマを設定し、卒業研究として論文などの成果物を提出することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回		
第2回		
第3回		
第4回		
第5回		
第6回		
第7回		
第8回		
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

 (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	* 卒業研究(論文など)を提出する。
平常点(日常的)	20 %	* それぞれの卒業研究において確定される。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

* 卒業研究では学生の研究力量が問われる。学生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究力量を高める努力が要請される。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

卒業研究指導 1D

14349

担当者名 / Instructor 牧野 泰典

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

到達目標 / Attainment Objectives

① 自ら研究テーマを設定し、卒業研究として論文などの成果物を提出することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回		
第2回		
第3回		
第4回		
第5回		
第6回		
第7回		
第8回		
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	* 卒業研究(論文など)を提出する。
平常点(日常的)	20 %	* それぞれの卒業研究において確定される。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

* 卒業研究では学生の研究力量が問われる。学生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究力量を高める努力が要請される。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

卒業研究指導 1E

14350

担当者名 / Instructor 石本 幸良

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

到達目標 / Attainment Objectives

① 自ら研究テーマを設定し、卒業研究として論文などの成果物を提出することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回		
第2回		
第3回		
第4回		
第5回		
第6回		
第7回		
第8回		
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	* 卒業研究(論文など)を提出する。
平常点(日常的)	20 %	* それぞれの卒業研究において確定される。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

* 卒業研究では学生の研究力量が問われる。学生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究力量を高める努力が要請される。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

卒業研究指導 1F

14339

担当者名 / Instructor 和田 武

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

到達目標 / Attainment Objectives

① 自ら研究テーマを設定し、卒業研究として論文などの成果物を提出することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回		
第2回		
第3回		
第4回		
第5回		
第6回		
第7回		
第8回		
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	* 卒業研究(論文など)を提出する。
平常点(日常的)	20 %	* それぞれの卒業研究において確定される。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

* 卒業研究では学生の研究力量が問われる。学生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究力量を高める努力が要請される。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

卒業研究指導 1G

14334

担当者名 / Instructor 澤井 勝

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

到達目標 / Attainment Objectives

① 自ら研究テーマを設定し、卒業研究として論文などの成果物を提出することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回		
第2回		
第3回		
第4回		
第5回		
第6回		
第7回		
第8回		
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	* 卒業研究(論文など)を提出する。
平常点(日常的)	20 %	* それぞれの卒業研究において確定される。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

* 卒業研究では学生の研究力量が問われる。学生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究力量を高める努力が要請される。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

卒業研究指導 2A

14323

担当者名 / Instructor 津田 正夫

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

到達目標 / Attainment Objectives

① 自ら研究テーマを設定し、卒業研究として論文などの成果物を提出することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回		
第2回		
第3回		
第4回		
第5回		
第6回		
第7回		
第8回		
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

 (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	* 卒業研究(論文など)を提出する。
平常点(日常的)	20 %	* それぞれの卒業研究において確定される。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

* 卒業研究では学生の研究力量が問われる。学生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究力量を高める努力が要請される。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

卒業研究指導 2B

14347

担当者名 / Instructor 神保 哲生

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

到達目標 / Attainment Objectives

① 自ら研究テーマを設定し、卒業研究として論文などの成果物を提出することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回		
第2回		
第3回		
第4回		
第5回		
第6回		
第7回		
第8回		
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

 (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	* 卒業研究(論文など)を提出する。
平常点(日常的)	20 %	* それぞれの卒業研究において確定される。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

* 卒業研究では学生の研究力量が問われる。学生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究力量を高める努力が要請される。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

卒業研究指導 2C

14324

担当者名 / Instructor 柳澤 伸司

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

到達目標 / Attainment Objectives

① 自ら研究テーマを設定し、卒業研究として論文などの成果物を提出することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回		
第2回		
第3回		
第4回		
第5回		
第6回		
第7回		
第8回		
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

 (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	* 卒業研究(論文など)を提出する。
平常点(日常的)	20 %	* それぞれの卒業研究において確定される。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

* 卒業研究では学生の研究力量が問われる。学生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究力量を高める努力が要請される。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

卒業研究指導 2D

14325

担当者名 / Instructor 坂田 謙司

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

到達目標 / Attainment Objectives

① 自ら研究テーマを設定し、卒業研究として論文などの成果物を提出することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回		
第2回		
第3回		
第4回		
第5回		
第6回		
第7回		
第8回		
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

 (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	* 卒業研究(論文など)を提出する。
平常点(日常的)	20 %	* それぞれの卒業研究において確定される。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

* 卒業研究では学生の研究力量が問われる。学生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究力量を高める努力が要請される。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

卒業研究指導 2E

14335

担当者名 / Instructor 島岡 哉

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

到達目標 / Attainment Objectives

① 自ら研究テーマを設定し、卒業研究として論文などの成果物を提出することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回		
第2回		
第3回		
第4回		
第5回		
第6回		
第7回		
第8回		
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

 (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	* 卒業研究(論文など)を提出する。
平常点(日常的)	20 %	* それぞれの卒業研究において確定される。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

* 卒業研究では学生の研究力量が問われる。学生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究力量を高める努力が要請される。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

卒業研究指導 2F

14338

担当者名 / Instructor 増田 幸子

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

到達目標 / Attainment Objectives

①自ら研究テーマを設定し、卒業研究として論文などの成果物を提出することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回		
第2回		
第3回		
第4回		
第5回		
第6回		
第7回		
第8回		
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

 (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	* 卒業研究(論文など)を提出する。
平常点(日常的)	20 %	* それぞれの卒業研究において確定される。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

* 卒業研究では学生の研究力量が問われる。学生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究力量を高める努力が要請される。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

卒業研究指導 2G

14333

担当者名 / Instructor 小泉 秀昭

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

到達目標 / Attainment Objectives

① 自ら研究テーマを設定し、卒業研究として論文などの成果物を提出することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回		
第2回		
第3回		
第4回		
第5回		
第6回		
第7回		
第8回		
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

 (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	* 卒業研究(論文など)を提出する。
平常点(日常的)	20 %	* それぞれの卒業研究において確定される。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

* 卒業研究では学生の研究力量が問われる。学生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究力量を高める努力が要請される。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

卒業研究指導 2H

14361

担当者名 / Instructor 池田 知加

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

到達目標 / Attainment Objectives

① 自ら研究テーマを設定し、卒業研究として論文などの成果物を提出することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回		
第2回		
第3回		
第4回		
第5回		
第6回		
第7回		
第8回		
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

 (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	* 卒業研究(論文など)を提出する。
平常点(日常的)	20 %	* それぞれの卒業研究において確定される。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

* 卒業研究では学生の研究力量が問われる。学生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究力量を高める努力が要請される。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

卒業研究指導 3A

14340

担当者名 / Instructor 門田 幸太郎

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

到達目標 / Attainment Objectives

① 自ら研究テーマを設定し、卒業研究として論文などの成果物を提出することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回		
第2回		
第3回		
第4回		
第5回		
第6回		
第7回		
第8回		
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

 (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	* 卒業研究(論文など)を提出する。
平常点(日常的)	20 %	* それぞれの卒業研究において確定される。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

* 卒業研究では学生の研究力量が問われる。学生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究力量を高める努力が要請される。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

卒業研究指導 3B

14336

担当者名 / Instructor 景井 充

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

到達目標 / Attainment Objectives

① 自ら研究テーマを設定し、卒業研究として論文などの成果物を提出することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回		
第2回		
第3回		
第4回		
第5回		
第6回		
第7回		
第8回		
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	* 卒業研究(論文など)を提出する。
平常点(日常的)	20 %	* それぞれの卒業研究において確定される。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

* 卒業研究では学生の研究力量が問われる。学生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究力量を高める努力が要請される。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

卒業研究指導 3C

14326

担当者名 / Instructor 佐藤 春吉

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

到達目標 / Attainment Objectives

① 自ら研究テーマを設定し、卒業研究として論文などの成果物を提出することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回		
第2回		
第3回		
第4回		
第5回		
第6回		
第7回		
第8回		
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

 (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	* 卒業研究(論文など)を提出する。
平常点(日常的)	20 %	* それぞれの卒業研究において確定される。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

* 卒業研究では学生の研究力量が問われる。学生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究力量を高める努力が要請される。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

卒業研究指導 3D

14362

担当者名 / Instructor 森西 真弓

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

到達目標 / Attainment Objectives

① 自ら研究テーマを設定し、卒業研究として論文などの成果物を提出することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回		
第2回		
第3回		
第4回		
第5回		
第6回		
第7回		
第8回		
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	* 卒業研究(論文など)を提出する。
平常点(日常的)	20 %	* それぞれの卒業研究において確定される。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

* 卒業研究では学生の研究力量が問われる。学生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究力量を高める努力が要請される。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

卒業研究指導 3E

14345

担当者名 / Instructor 出口 剛司

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

到達目標 / Attainment Objectives

① 自ら研究テーマを設定し、卒業研究として論文などの成果物を提出することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回		
第2回		
第3回		
第4回		
第5回		
第6回		
第7回		
第8回		
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

 (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	* 卒業研究(論文など)を提出する。
平常点(日常的)	20 %	* それぞれの卒業研究において確定される。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

* 卒業研究では学生の研究力量が問われる。学生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究力量を高める努力が要請される。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

卒業研究指導 3F

14341

担当者名 / Instructor 崎山 治男、大野 威

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

到達目標 / Attainment Objectives

① 自ら研究テーマを設定し、卒業研究として論文などの成果物を提出することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回		
第2回		
第3回		
第4回		
第5回		
第6回		
第7回		
第8回		
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

 (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	* 卒業研究(論文など)を提出する。
平常点(日常的)	20 %	* それぞれの卒業研究において確定される。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

* 卒業研究では学生の研究力量が問われる。学生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究力量を高める努力が要請される。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

卒業研究指導 3G

14316

担当者名 / Instructor 金井 淳二

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

到達目標 / Attainment Objectives

① 自ら研究テーマを設定し、卒業研究として論文などの成果物を提出することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回		
第2回		
第3回		
第4回		
第5回		
第6回		
第7回		
第8回		
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

 (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	* 卒業研究(論文など)を提出する。
平常点(日常的)	20 %	* それぞれの卒業研究において確定される。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

* 卒業研究では学生の研究力量が問われる。学生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究力量を高める努力が要請される。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

卒業研究指導 4A

14317

担当者名 / Instructor 生田 正幸

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

到達目標 / Attainment Objectives

① 自ら研究テーマを設定し、卒業研究として論文などの成果物を提出することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回		
第2回		
第3回		
第4回		
第5回		
第6回		
第7回		
第8回		
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	* 卒業研究(論文など)を提出する。
平常点(日常的)	20 %	* それぞれの卒業研究において確定される。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

* 卒業研究では学生の研究力量が問われる。学生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究力量を高める努力が要請される。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

卒業研究指導 4B

14351

担当者名 / Instructor 荒木 穂積

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

到達目標 / Attainment Objectives

① 自ら研究テーマを設定し、卒業研究として論文などの成果物を提出することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回		
第2回		
第3回		
第4回		
第5回		
第6回		
第7回		
第8回		
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

 (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	* 卒業研究(論文など)を提出する。
平常点(日常的)	20 %	* それぞれの卒業研究において確定される。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

* 卒業研究では学生の研究力量が問われる。学生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究力量を高める努力が要請される。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

卒業研究指導 4C

14352

担当者名 / Instructor 峰島 厚

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

到達目標 / Attainment Objectives

① 自ら研究テーマを設定し、卒業研究として論文などの成果物を提出することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回		
第2回		
第3回		
第4回		
第5回		
第6回		
第7回		
第8回		
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

 (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	* 卒業研究(論文など)を提出する。
平常点(日常的)	20 %	* それぞれの卒業研究において確定される。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

* 卒業研究では学生の研究力量が問われる。学生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究力量を高める努力が要請される。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

卒業研究指導 4D

14346

担当者名 / Instructor 岡田 まり

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

到達目標 / Attainment Objectives

① 自ら研究テーマを設定し、卒業研究として論文などの成果物を提出することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回		
第2回		
第3回		
第4回		
第5回		
第6回		
第7回		
第8回		
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

 (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	* 卒業研究(論文など)を提出する。
平常点(日常的)	20 %	* それぞれの卒業研究において確定される。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

* 卒業研究では学生の研究力量が問われる。学生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究力量を高める努力が要請される。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

卒業研究指導 4E

14353

担当者名 / Instructor 竹内 謙彰、石倉 康次

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

到達目標 / Attainment Objectives

① 自ら研究テーマを設定し、卒業研究として論文などの成果物を提出することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回		
第2回		
第3回		
第4回		
第5回		
第6回		
第7回		
第8回		
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

 (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	* 卒業研究(論文など)を提出する。
平常点(日常的)	20 %	* それぞれの卒業研究において確定される。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

* 卒業研究では学生の研究力量が問われる。学生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究力量を高める努力が要請される。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

卒業研究指導 4F

14356

担当者名 / Instructor 高橋 正人

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

到達目標 / Attainment Objectives

① 自ら研究テーマを設定し、卒業研究として論文などの成果物を提出することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回		
第2回		
第3回		
第4回		
第5回		
第6回		
第7回		
第8回		
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

 (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	* 卒業研究(論文など)を提出する。
平常点(日常的)	20 %	* それぞれの卒業研究において確定される。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

* 卒業研究では学生の研究力量が問われる。学生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究力量を高める努力が要請される。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

卒業研究指導 4G

14363

担当者名 / Instructor 高垣 忠一郎

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

到達目標 / Attainment Objectives

① 自ら研究テーマを設定し、卒業研究として論文などの成果物を提出することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回		
第2回		
第3回		
第4回		
第5回		
第6回		
第7回		
第8回		
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	* 卒業研究(論文など)を提出する。
平常点(日常的)	20 %	* それぞれの卒業研究において確定される。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

* 卒業研究では学生の研究力量が問われる。学生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究力量を高める努力が要請される。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

卒業研究指導 5A

14358

担当者名 / Instructor 伊藤 武夫

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

到達目標 / Attainment Objectives

① 自ら研究テーマを設定し、卒業研究として論文などの成果物を提出することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回		
第2回		
第3回		
第4回		
第5回		
第6回		
第7回		
第8回		
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	* 卒業研究(論文など)を提出する。
平常点(日常的)	20 %	* それぞれの卒業研究において確定される。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

* 卒業研究では学生の研究力量が問われる。学生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究力量を高める努力が要請される。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

卒業研究指導 5B

14327

担当者名 / Instructor 乾 亨

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

到達目標 / Attainment Objectives

① 自ら研究テーマを設定し、卒業研究として論文などの成果物を提出することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回		
第2回		
第3回		
第4回		
第5回		
第6回		
第7回		
第8回		
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

 (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	* 卒業研究(論文など)を提出する。
平常点(日常的)	20 %	* それぞれの卒業研究において確定される。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

* 卒業研究では学生の研究力量が問われる。学生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究力量を高める努力が要請される。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

卒業研究指導 5C

14328

担当者名 / Instructor 松葉 正文、高嶋 正晴

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

到達目標 / Attainment Objectives

① 自ら研究テーマを設定し、卒業研究として論文などの成果物を提出することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回		
第2回		
第3回		
第4回		
第5回		
第6回		
第7回		
第8回		
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

 (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	* 卒業研究(論文など)を提出する。
平常点(日常的)	20 %	* それぞれの卒業研究において確定される。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

* 卒業研究では学生の研究力量が問われる。学生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究力量を高める努力が要請される。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

卒業研究指導 5D

14342

担当者名 / Instructor 鈴木 隆

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

到達目標 / Attainment Objectives

① 自ら研究テーマを設定し、卒業研究として論文などの成果物を提出することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回		
第2回		
第3回		
第4回		
第5回		
第6回		
第7回		
第8回		
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	* 卒業研究(論文など)を提出する。
平常点(日常的)	20 %	* それぞれの卒業研究において確定される。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

* 卒業研究では学生の研究力量が問われる。学生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究力量を高める努力が要請される。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

卒業研究指導 5E

14343

担当者名 / Instructor 筒井 淳也

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

到達目標 / Attainment Objectives

① 自ら研究テーマを設定し、卒業研究として論文などの成果物を提出することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回		
第2回		
第3回		
第4回		
第5回		
第6回		
第7回		
第8回		
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

 (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	* 卒業研究(論文など)を提出する。
平常点(日常的)	20 %	* それぞれの卒業研究において確定される。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

* 卒業研究では学生の研究力量が問われる。学生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究力量を高める努力が要請される。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

卒業研究指導 5F

14330

担当者名 / Instructor 宝月 誠

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

到達目標 / Attainment Objectives

① 自ら研究テーマを設定し、卒業研究として論文などの成果物を提出することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回		
第2回		
第3回		
第4回		
第5回		
第6回		
第7回		
第8回		
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	* 卒業研究(論文など)を提出する。
平常点(日常的)	20 %	* それぞれの卒業研究において確定される。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

* 卒業研究では学生の研究力量が問われる。学生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究力量を高める努力が要請される。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

卒業研究指導 5G

14329

担当者名 / Instructor 高木 正朗

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

到達目標 / Attainment Objectives

① 自ら研究テーマを設定し、卒業研究として論文などの成果物を提出することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回		
第2回		
第3回		
第4回		
第5回		
第6回		
第7回		
第8回		
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	* 卒業研究(論文など)を提出する。
平常点(日常的)	20 %	* それぞれの卒業研究において確定される。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

* 卒業研究では学生の研究力量が問われる。学生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究力量を高める努力が要請される。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

卒業研究指導 5H

14337

担当者名 / Instructor 金井 淳二、草深 直臣

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

到達目標 / Attainment Objectives

① 自ら研究テーマを設定し、卒業研究として論文などの成果物を提出することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回		
第2回		
第3回		
第4回		
第5回		
第6回		
第7回		
第8回		
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	* 卒業研究(論文など)を提出する。
平常点(日常的)	20 %	* それぞれの卒業研究において確定される。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

* 卒業研究では学生の研究力量が問われる。学生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究力量を高める努力が要請される。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

卒業研究指導 5I

14354

担当者名 / Instructor 津止 正敏

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

到達目標 / Attainment Objectives

① 自ら研究テーマを設定し、卒業研究として論文などの成果物を提出することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回		
第2回		
第3回		
第4回		
第5回		
第6回		
第7回		
第8回		
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	* 卒業研究(論文など)を提出する。
平常点(日常的)	20 %	* それぞれの卒業研究において確定される。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

* 卒業研究では学生の研究力量が問われる。学生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究力量を高める努力が要請される。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

卒業研究指導 5J

14331

担当者名 / Instructor 中村 正

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

到達目標 / Attainment Objectives

① 自ら研究テーマを設定し、卒業研究として論文などの成果物を提出することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回		
第2回		
第3回		
第4回		
第5回		
第6回		
第7回		
第8回		
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	* 卒業研究(論文など)を提出する。
平常点(日常的)	20 %	* それぞれの卒業研究において確定される。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

* 卒業研究では学生の研究力量が問われる。学生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究力量を高める努力が要請される。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

卒業研究指導 5K

14319

担当者名 / Instructor 中川 勝雄

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

到達目標 / Attainment Objectives

① 自ら研究テーマを設定し、卒業研究として論文などの成果物を提出することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回		
第2回		
第3回		
第4回		
第5回		
第6回		
第7回		
第8回		
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

 (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	* 卒業研究(論文など)を提出する。
平常点(日常的)	20 %	* それぞれの卒業研究において確定される。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

* 卒業研究では学生の研究力量が問われる。学生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究力量を高める努力が要請される。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

卒業研究指導 6A

14332

担当者名 / Instructor 松田 博

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

到達目標 / Attainment Objectives

① 自ら研究テーマを設定し、卒業研究として論文などの成果物を提出することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回		
第2回		
第3回		
第4回		
第5回		
第6回		
第7回		
第8回		
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	* 卒業研究(論文など)を提出する。
平常点(日常的)	20 %	* それぞれの卒業研究において確定される。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

* 卒業研究では学生の研究力量が問われる。学生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究力量を高める努力が要請される。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

卒業研究指導 6B

14320

担当者名 / Instructor 津田 正夫、奥村 信幸

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

到達目標 / Attainment Objectives

① 自ら研究テーマを設定し、卒業研究として論文などの成果物を提出することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回		
第2回		
第3回		
第4回		
第5回		
第6回		
第7回		
第8回		
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

 (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	* 卒業研究(論文など)を提出する。
平常点(日常的)	20 %	* それぞれの卒業研究において確定される。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

* 卒業研究では学生の研究力量が問われる。学生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究力量を高める努力が要請される。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

卒業研究指導 6C

14321

担当者名 / Instructor 池内 靖子

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

到達目標 / Attainment Objectives

① 自ら研究テーマを設定し、卒業研究として論文などの成果物を提出することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回		
第2回		
第3回		
第4回		
第5回		
第6回		
第7回		
第8回		
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	* 卒業研究(論文など)を提出する。
平常点(日常的)	20 %	* それぞれの卒業研究において確定される。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

* 卒業研究では学生の研究力量が問われる。学生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究力量を高める努力が要請される。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

卒業研究指導 6D

14344

担当者名 / Instructor 櫻井 純理

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

到達目標 / Attainment Objectives

① 自ら研究テーマを設定し、卒業研究として論文などの成果物を提出することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回		
第2回		
第3回		
第4回		
第5回		
第6回		
第7回		
第8回		
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	* 卒業研究(論文など)を提出する。
平常点(日常的)	20 %	* それぞれの卒業研究において確定される。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

* 卒業研究では学生の研究力量が問われる。学生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究力量を高める努力が要請される。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

卒業研究指導 6E

14355

担当者名 / Instructor 篠田 武司

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

到達目標 / Attainment Objectives

① 自ら研究テーマを設定し、卒業研究として論文などの成果物を提出することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回		
第2回		
第3回		
第4回		
第5回		
第6回		
第7回		
第8回		
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	* 卒業研究(論文など)を提出する。
平常点(日常的)	20 %	* それぞれの卒業研究において確定される。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

* 卒業研究では学生の研究力量が問われる。学生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究力量を高める努力が要請される。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

卒業研究指導 6F

14348

担当者名 / Instructor 山本 隆

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

到達目標 / Attainment Objectives

① 自ら研究テーマを設定し、卒業研究として論文などの成果物を提出することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回		
第2回		
第3回		
第4回		
第5回		
第6回		
第7回		
第8回		
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	* 卒業研究(論文など)を提出する。
平常点(日常的)	20 %	* それぞれの卒業研究において確定される。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

* 卒業研究では学生の研究力量が問われる。学生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究力量を高める努力が要請される。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

アートマネジメント論 S

13078

担当者名 / Instructor 森口 まどか

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

そもそもアートマネジメントとは、芸術をマネージ(運営・管理)するとはどのような事柄を意味するのだろうか。一般に、アートマネジメントによって芸術と社会を結び、双方がより良く生かされる方策を考え出すと捉えられている。しかしながら、その前提である現代社会においてなぜ芸術は必要か、ということをもとに問はなくてはならないだろう。

近年、国立博物館・美術館・文化財研究所が独立行政法人化されたり、指定管理者制度の導入に伴い公共文化施設の管理者やその運営方法が審議されたりと、わが国における芸術文化施設の在り方が根本的に問い直されている。このような現状を踏まえると、芸術と社会が相互に生かされる方策、すなわちアートマネジメントの必要性が増していることはいうまでもなく、先の問いに検討をくわえることが重要であろう。

本授業では、芸術は社会になぜ必要かを問い、考察する。そのために、近代的ミュージアム形成の歴史および、主に美術分野における国際展やパブリック・アートなどの事例を紹介しながらさまざまな問題点を検証する。そして、次代の芸術の役割について考えてゆきたい。

到達目標 / Attainment Objectives

- ・社会と芸術の関係についての知見を幅広く論じることができる。
- ・わが国における博物館・美術館の現状を確認し、その問題点をさまざまな視点から挙げるることができる。
- ・次代のミュージアム像を描いてみるることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

美術、音楽、文学などの芸術全般にわたる基礎的な知識があることが望まれるが、たとえば、美術史概論が事前に必要な履修科目ではない。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	アートマネジメントとは: 今日におけるアートマネジメントの必要性を中心に	
第2~4回目	ミュージアムについて: その歴史、社会、思想的背景から	啓蒙主義思想、公共性、蒐集、美術
第5~7回目	オフ・ミュージアムについて: 1960年代以降の美術を中心として	アートセンター、パブリック・アート、インスタレーション
第7~8回目	国際美術展その歴史と運営について	
第9~10回目	アーティスト・イン・レジデンスの考え方	コミュニティ、コミュニケーション
第11~12回目	NPO活動とアートについて	独立行政法人化、指定管理者制度
第13回目	「ワークショップ」という在り方	
第14~15回目	まとめ: 1.アートの社会的価値について 2.次代のミュージアム	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	70 %	授業内容を踏まえ、基本的な語句の理解および、現代社会における芸術の役割などについてを問う。自身の視点で論理的に展開記述できるかを評価する。
平常点(日常的)	30 %	授業内容に関する理解度を確認するための設問を出す。実施時期は、前期中頃。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

さまざまな機会を捉えて美術館、コンサートホールなどの芸術文化施設へ積極的に出かけること。そうした機会を増やすところから、芸術と社会の関係を考えてゆくようにすることが望ましい。

教科書 / Textbooks

特になし

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『アートマネジメント』	伊東正伸、岡部あおみ、他著 / 武蔵野美術大学出版局 / 4-901631-52-7 / 2003年
『進化するアートマネジメント』	林容子 / レイライン / 4-902550-01-6 / 2004年
『二十一世紀博物館—博物資源立国へ地平を拓く』	西野嘉章 / 東京大学出版会 / 4-13-003317-4 / 2000年
『創造—現場から / 現場へ』	小林康夫・松浦寿輝編 / 東京大学出版会 / 4-13-014116-3 / 2000年、(『表象のディスクール6』)
『美術のアイデンティティー』	佐藤道信 / 吉川弘文館 / 978-4-642-03778-5 / 2007年
『アーツ・マネジメント概論』	伊藤裕夫、小林真理、他著 / 水曜社 / 978-4880651323 / 2004年(新訂版)

その他適宜紹介する。

授業内容全般をより理解するための参考書。(『アートマネージメント』、『進化するアートマネージメント』、『アーツ・マネージメント概論』)

特に、美術館についての理解をより広め、深めるときの参考書。(『二十一世紀博物館－博物資源立国へ地平を拓く』、『創造－現場から／現場へ』、『美術のアイデンティティ』)

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

<http://www.nettam.jp>

アートマネージメント全般の知識と現在の動向を知るのに参考となる。また、さまざまなwwwページにリンクされている。

その他 / Others

アジアの福祉研究 S § アジアの福祉研究 I

13125

担当者名 / Instructor 桂 良太郎

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

アジアの高齢者と子どもに焦点をおきながら、10年後、20年後のアジアの社会情勢を考える講座である。アジアの高齢者や子どもまたは障がい者の人権保障がどのように守られるか、守られなければならないかについてさまざまな角度から分析したことがらについて考察しながら、ディスカッションしたい。

到達目標 / Attainment Objectives

未来のアジアの情勢をしっかりと人口統計学的な背景からみた場合の予測をもとに、高齢者や子ども、とくに障がいをかかえた子どもたちの人権保障がどのように世界的なパースペクティブ(視角)から構築されなければならないかについて検討すること、それによって今後のわが国の社会福祉のあり方を考えることが本講座の目標である。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

国際関係論、国際社会学、および国際福祉の視点や分析方法などをしっかりおさえながら講義にのぞんでほしい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	講義をはじめるにあたって一講義のすすめかた、目標などについて	講義の目標
2	今なぜアジアの社会福祉なのか!?	アジア型社会福祉、欧米型社会福祉
3	貧困・不平等の福祉	貧困・不平等の福祉
4	子どもの福祉	子どもの福祉、児童問題、児童憲章
5	ジェンダーと福祉	ジェンダーと福祉
6	障がいと福祉	障がいとは何か、ディスエイブル
7	高齢者と福祉	高齢化、高齢社会、高齢者問題、介護と生きがい
8	難民と福祉	難民問題
9	社会的排除と福祉	社会的排除
10	エコロジーと福祉	持続的発展
11	社会開発と福祉	社会開発
12	国際機関・国際NGO活動と国際協力	グローバル社会、国際協力、ODA、国連
13	アジア各国の社会福祉・社会保障の制度政策 東アジア(①中国②韓国)	中国の社会福祉、韓国の社会福祉
14	アジア各国の社会福祉・社会保障の制度政策 東南アジア(①シンガポール②タイ③その他)	シンガポールの社会福祉、タイの社会福祉、
15	講義を終えるにあたって(A+希望学生はプレゼンテーション)	アジアの社会福祉、ソーシャルワーク

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

できるだけ各自で、新聞の切り抜きや情報を集めてほしい、そうした情報をもとに、アジアの今日的な情勢を社会福祉の視点から展望できるようにしながら、国内外でのボランティア活動にも関心をもってもらえるような講義にしたい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	20 %	講義をつうじて関心をもったことがらについて、各自で調べたことや、体験したことがらなどをレポートにして提出することを希望する。
平常点(検証テスト)	20 %	毎回の講義のポイントをまとめたもの(A4版1~2枚)を次回の講義時に提出すること
平常点(日常的)	60 %	6割以上の出席が原則

A+を希望する学生は事前に申し出ること。プレゼンテーションをしてもらいます。
万一出席日数が足りない場合は事前に相談しにくること。特別課題を与えます。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
アジアの社会福祉	萩原康生他 / 日本出版放送協会 / ISBN4-595-30606-7 / 2006年3月発売
2006年3月発売	

放送大学(ラジオ)にて、昨年から「アジアの社会福祉」という講座がはじまっています。桂はそのなかで、アジアの子どもと福祉(第3章)高齢者と福祉(第6章)担当しています。

参考書 / Reference Books

参考書は講義のなかで紹介します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

今年は、「第6回国際平和博物館会議」(10月6日～10日京都、広島)と「第8回日中韓居住問題国際会議」(11月17日～20日京都)が開催されます。ぜひ参加してください。

アジア社会論 S

20274

担当者名 / Instructor 宋 基燦

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

日本による植民地統治の記憶にまつわる両国の近現代史は、地理的に最も近い国でありながら、心理的には距離を縮めることのできない関係を作り続けてきた。近年、日本国内における「韓流」の流行は、このような日韓関係に変化をもたらしている。また、韓国内部でも日本の大衆文化開放後、若者を中心に日本の大衆文化の影響力は強まっている。この授業はこのように激変している日韓両国の関係の中で、日本の隣の国、韓国の今日を理解することを通じて日本の東アジアとの付き合い方を考えてみることを目指す。

到達目標 / Attainment Objectives

- ・現代韓国に関する理解と関連知識を習得する。
- ・グローバル化が進んでいるなかで、韓国の現在を通じて東アジアの未来を展望する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	イントロダクション	授業の進め方
第2回	異文化を研究することの意味。	
第3回	「国民性」という本質主義を越えて	
第4回	朝鮮半島の地理的概観	自然環境と人文地理、伝統・宗教など
第5回	韓国の食文化	
第6回	IT・インターネット事情	
第7回	韓国の軍隊と徴兵制度	
第8回	教育問題	
第9回	宗教事情	
第10回	韓国の市民運動	
第11回	植民地支配の記憶の今日	反日感情と「ニッポンビル」
第12回	朝鮮半島の軍事的機器と東アジアの安全保障	
第13回	李明博大統領以後の韓国の展望	
第14回	朝鮮半島にまつわる古代史の今日的課題	東アジアの未来に向けて、東アジア共同体は可能なのか
第15回	まとめおよび確認テスト	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

授業進行上、細部項目は変更されることもある。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(検証テスト)	20 %	授業内容に関する具体的知識を問うテストを最終講義日に行う。
平常点(日常的)	80 %	研究発表(レポート)、出席状況および討論への参加態度などをもとに総合的に判断する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
現代韓国を知るための55章	石坂浩一、館野哲 / 明石書店 / /
なるほど!これが韓国か—名言・流行語・造語で知る現代史	李 泳采、韓 興鉄 / 朝日選書 / /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

アジア文化論 S

15535

担当者名 / Instructor 文 楚雄

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

アジアには多くの国や地域があり、様々な文化や伝統がある。また豊かな人的資源があり、潜在的な大きな経済市場もある。日本はアジアの一員である。地理的にも歴史的にも文化的にもアジアと強い絆を持っている。故に日本は大いにアジアに目を向けるべきであると思う。

本授業は、東アジアの日本、中国、韓国を中心に、アジアの文化、伝統、価値観、生活スタイルなどを比較しながら、その同質性や異質性を考えることにしたい。この授業を通じて、アジアの国々の文化に対する関心や理解を深めると同時に、日本文化に対する再認識をも深めたい。

到達目標 / Attainment Objectives

- ◎ 中国、韓国を中心としたアジアの国々の文化に対する理解を深めることができる。
- ◎ 日本文化に対する再認識を深めることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	文化とは何か。視点や方法。文化・文明の衝突。	
第2回	日本人・中国人・韓国人の国民性	
第3回	儒教文化とその伝承	
第4回	言語と文化 —— 日本語、中国語、英語の比較から——	
第5回	婚姻法から見た儒教思想	
第6回	文学から見た文化——平家物語を中心に——	
第7回	道教・神道・禅	
第8回	日・中・韓の食文化とマナー	
第9回	住まい文化	
第10回	仏教文化	
第11回	本学の留学生との交流	
第12回	金閣寺と銀閣寺	
第13回	祭りの文化	
第14回	日・中・韓文化の特徴	
第15回	まとめ、予備	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	60 %	最終レポートを提出しなければならない。
平常点(日常的)	40 %	出席や日常的な取り組み
期末の最終レポートや出席などの平常点を総合して判断する。		

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

プリント教材、授業時随時配布。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『現代中国の生活変動』	飯田哲也編 / 時潮社 / /
『韓国人の心』	李御寧 / 学生社 / /
『日本人・中国人・韓国人』	金文学 / 白帝社 / /
現代の中国、韓国を知るにはたいへん役に立つ。教科書並みの参考書となる。	

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

医療福祉論 S

13012

担当者名 / Instructor 小西 直毅

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「医療福祉」という用語は近年様々な概念で使用されている。本講義で取り扱う「医療福祉」は社会福祉の専門分野の一つ、即ち「保健医療分野における社会福祉」とする。

講義の内容は以下3点である。①医療保険制度の現状について学ぶ。②病院等の保健医療機関において、社会福祉の立場から患者のかかえる経済的、心理的、社会的問題の解決、調整を援助し、社会復帰の促進を図る保健医療ソーシャルワーカーが、実際にどのような福祉実践を担っているのかを学ぶ。③近年、高度専門職者（「保健医療ソーシャルワーカー」然り）にも求められるようになってきている医療・福祉マネジメントについて学ぶ。

講義担当者（小西）は、現任のソーシャルワーカーとして近畿大学医学部附属病院に勤務している。その強みである臨床家としての経験を活かし、現実に直面している問題、典型的な事例等を学習の素材として提示していく。

到達目標 / Attainment Objectives

- ①医療保険制度に関する現状を理解する。
- ②保健医療ソーシャルワーカーのものの見方、考え方を理解する。
- ③医療・福祉マネジメントについて理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

社会福祉論、社会福祉援助技術論を習得し、ソーシャルワークについての基本的知識を習得していることが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	医療福祉とは(講義のオリエンテーション)	保健・医療・福祉, 医療福祉, 保健医療ソーシャルワーカー
2	保健医療ソーシャルワーカーの実際 (ビデオ学習)	「患者相談室」
3	医療保険制度の現状①『病院にいられない』(ビデオ学習)	「急増する医療難民」
4	医療保険制度の現状②『病院がつぶれる』(ビデオ学習)	「地域医療は守れるか」
5	医療保険制度の現状③『病院にかかれぬ』(ビデオ学習)	「危機に立つ国民皆保険」
6	保健医療ソーシャルワークの価値	ソーシャルワークの価値・倫理・知識
7	保健医療をめぐる動向とソーシャルワーカーの視点 (ビデオ学習)	医療保険制度, クリティカルパス, DPC, 「ベッド難民はどこへ行く?」
8	病院にソーシャルワーカーがいる意味	生老病死, パターナリズム
9	ソーシャルワーカーと組織/ソーシャルワーカーが行う管理/業務マネジメントから業務開発へ	ヒューマンサービス組織, 業務マネジメント, 業務開発
10	連携つくり	連携, 協議, ネットワーク, コンサルテーション, 協働, 管理
11	ソーシャルワークの実践アプローチ	心理社会的アプローチ, 機能主義アプローチ, 問題解決アプローチ, システム理論, 危機介入アプローチ, 課題中心アプローチ, 生態学的アプローチ, エンパワメントアプローチ
12	総体としてのソーシャルワーク援助	人と環境の相互作用
13	医療・福祉マネジメント	医療・福祉職とマネジメント, マネジメントの対象の拡がり, 医療・福祉マネジメントの実際
14	講義のまとめ/質問やご意見への返答など	
15	定期試験	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

第1～5回講義、及び第14回講義はテキストを使用しない。第6～12回講義はテキスト『保健医療ソーシャルワーク原論新訂版』の章立て(一部省略)を基本に進行する。第13回は参考書『医療・福祉マネジメント』に基づく講義を行う。

講義時には資料、レジュメを配布する。

尚、配布資料、レジュメは講義終了後、Web CT「講義レジュメ」フォルダに入れるので講義を休んだ学生は各自出力をして自己学習しておいて欲しい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	60 %	講義内容の習得程度を確認するための定期試験を実施する。

平常点(日常的) 40 % 毎回講義時間内に、出席の確認を兼ねて講義の理解度を確認したり自分の考えをまとめてもらうレポートを作成してもらい、その内容や授業態度を評価する。

* 具体的な知識、ソーシャルワーカーとしてのものの見方、考え方、については定期試験として実施する。出席状況、講義時に作成してもらう簡単なレポート、受講態度も考慮して総合的評価を行う。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

保健医療ソーシャルワーカーを志望している者にとってこれからは、実質的に「社会福祉士」取得が必須となる。したがってその指定科目取得に加え、今後必修化が見込まれる「保健医療サービス」系の本講義を通して、保健医療機関において何故福祉実践が必要とされるのかを理解して欲しい。また職能団体(日本医療社会事業協会や都道府県協会等)の学生向け企画への参加や課外実習などに取り組んでおくことも有用である。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
保健医療ソーシャルワーク原論 新訂版	(社)日本医療社会事業協会編/相川書房/978-4-7501-0340-2(4-7501-0340-3)/

テキストは購入し、通読するようにして欲しい。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
保健医療ソーシャルワーク実践1～3	(社)日本社会福祉士会・(社)日本医療社会事業協会編/中央法規/4-8058-2422-0,4-8058-2423-9,4-8058-2424-7/
医療ソーシャルワーク	杉本敏夫監修/久美株式会社/4-907757-24-7/
転換期の医療福祉	牧洋子・和田謙一郎編/せせらぎ出版/4-88416-140-8/
医療・福祉マネジメント	近藤克則著/ミネルヴァ書房/978-4-623-04796-3/

参考書は必ずしも購入する必要はないが、出来れば自己学習に役立ててもらいたい。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

<http://www.jaswhs.or.jp/>

その他 / Others

教室は前から着席して欲しい。
講義中の私語は厳禁である。

ウエルネス論 S

15573

担当者名 / Instructor 漆原 良

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

ウエルネスの概念では、ヘルスに定義されるような単なる心身の健康状態の維持にとどまらず、自らがより積極的に充実した生活を創造していくことが真の健康と考えられている。このような考え方の基礎には、人間は単に健全な個々の要素や部分が集まって総和的に健康となるのではなく、すべての要素が関連しあいながら1つの心身を形成し、その全体において健全となることを重視する発想がある。この関連性に着目した視点から、相互に影響を及ぼし合う個人や環境における「関係」といった集団や社会における問題も、実は生命科学的な仕組みとつながるものであることを理解する必要がある。

本講義では、ヒトの生命維持や身体を支える諸機能の基礎を学び、その全体としての関係性が単に生物学的な問題に限らず、社会を形成する人間行動の問題にもつながることを理解するとともに、そこで機能している人間行動における制御・調整能力という面からウエルネスについて考察していく。

到達目標 / Attainment Objectives

ウエルネスの概念に基づいて、ヒトを個々の部分の総和としてではなく関連性をもった全体としてとらえる考え方および、日常生活においてその実現を支える調整力(コーディネーション能力)について理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特に必須の科目はないが、「生理学」や「ヘルスマネジメント論」では関連する内容を扱うため、合わせて履修することで理解が深まる。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の概要と導入 ウエルネスとは?	ヘルス, ウエルネス
2	生命の維持 ホメオスタシスとは	ホメオスタシス, 内部環境
3	生命維持のエネルギーを生み出す食物の燃焼	代謝, 消化・吸収, ATP
4	酸素がなければ食物は燃やせない	外呼吸, 内呼吸
5	生命の糧を運び届ける血液	心臓, 循環, 血液
6	生命維持には不要物も無駄にしない	排泄, 体温調節
7	ヒトが運動する仕組み	骨格・筋
8	ヒトが情報を扱う仕組み	神経, 感覚, 知覚, 認知
9	前半まとめ 健康に筋力, 持久力は必要か?	総和と全体
10	ウエルネスとしての健康のとらえ方	調整力
11	身体のみとまりー部分と部分のコーディネーションー	感覚運動統合, バランス
12	人間と人間とのふれあいー集団としてのコーディネーションー	認知, 予測, 判断
13	環境への適応ー環境とのコーディネーションー	適応
14	ウエルネスを支える調整力	QOL
15	まとめ 自分で考え, 行動する生活	コーディネーション

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

講義開始時に講義内容に関連する知識や意見を問うことがある。また授業で学んだことを自分たちの日常生活の中で実践して試してもらうために、定期的に授業内容を整理するための簡単な課題を課すことがあるので、常に授業内容について自ら考えておいてもらいたい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	70 %	キーワードを理解した上で、自らの言葉で論理的な記述ができる
平常点(日常的)	30 %	出席及び受講態度についてリアクションペーパーを中心に評価する

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

講義内では、ウエルネスに見られる部分と部分の総和ではなく、部分と部分の関連による全体が持つ重要性、そしてそれを支える身体の機能や調整力について解説するが、それぞれ自分たちが日常行っている活動の中で如何に応用することができるかを意識し、ぜひ自分たちで応用、実践してもらいたい。

教科書 / Textbooks

特に指定しない。
講義内容に応じて、随時資料を配付する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

生理学

真島英信／文光堂／978-4830602016／講義の前半部分, ヒトの生理機能の理解に役立つ

その他, 必要に応じて講義内で適宜紹介する

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

特にない

その他 / Others

担当者名 / Instructor 梁 仁 實

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本講義では、主に戦後発展してきた日本を含むアジア映画について学ぶ。主に、アジア各国の近現代史と映画とのかかわりを踏まえながら、アジア映画の現像と課題を整理していく。

到達目標 / Attainment Objectives

- ・映画と社会や時代との関係について学ぶ。
- ・アジア各国の映画について学ぶ。
- ・国境を越える映画について考える。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

アジアの社会に関わる他の科目を受講していることが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	ガイダンス、日本映画の50年代 1:世界に「発見」された日本映画	第二次黄金期、5社協定、小津・黒澤、溝口
第2回目	日本映画の50年代 2:社会と映画 例)『朝鮮の子』	東映教育映画、自主映画組織
第3回目	フランスのヌヴェール・バーグ:1960年代前後の「カイエ・デュ・シネマ」を中心とした映画 例)『勝手にしやがれ』	作家主義、シネマ・ベリテ派、カイエ派
第4回目	日本のヌヴェール・バーグ:1960年代前後の日本映画 例)『絞死刑』	大島渚、国家と映画
第5回目	韓国の60年代:近代化と映画 例)『青春双曲線』	メロドラマ、家父長制
第6回目	映画からテレビへ:1960年代の日本映画	ノンフィクション劇場、牛山純一
第7回目	アメリカン・ニューシネマ:1960年代から70年代初頭にかけてのアメリカ社会と映画 例)『俺たちに明日はない』『招かざる客』	プロダクション・コード、レイティング制
第8回目	1980年代以降香港映画、香港返還3部作 例)『メイド・イン・ホンコン』『硝子の城』	香港ノーワール、香港ニューウェーブ
第9回目	1980年代以降中国映画、台湾の民主化と映画 例)『赤いコーリヤン』『非常城市』	文化大革命と第五世代、台湾ニューウェーブ
第10回目	1990年代以降日本映画と社会:映画の多様化 例)『HARUKO』	ドキュメンタリー映画、「在日」
第11回目	1995年以降韓国映画:韓国の民主化と映画産業への関与 例)『灼熱の午後』	韓国ニューウェーブ
第12回目	2000年以降の韓国映画:韓国の独立映画	UCC、運動としての映画
第14回目	越境するアジア映画:合作、映画スターたち 例)『不夜城』	金城武、ディアスポラ
第15回目	まとめ:映画と社会	映画の越境性と土着性、社会性

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

- ・講義の中で触れた映画作品などは可能な限り、各自が見ておいてほしい。
- ・映画産業の現状についてはニュースでも取り上げられることがあるので、新聞などに日々意識して目を通しておくことが望ましい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	70 %	4回のレポートと各授業で3回のミニレポートを書いてもらい、総合評価する。
平常点(日常的)	30 %	授業中に数回の受講エッセイを課す。

・4回のレポートはA4(1200字)10枚前後の分量を提出してもらう。
 ・ミニレポートはA4(1200字)3枚前後の分量を提出してもらう。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

- ・映画が見られる講義ではないので、安易に登録しても単位取得が難しいだけである。登録の際、よく検討してほしい。
- ・遅刻には厳しく対処する。特に、他の受講生への迷惑もあり、30分を超えた遅刻の場合、入室は遠慮してほしい。
- ・授業開始から30分後、レジュメ等の配布を一切しないので注意すること。

教科書 / Textbooks

教科書は、特に指定しない。授業中にレジュメや資料を配付する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『映像／言説の文化社会学』	中村秀之／岩波書店／4000265172／フィルムノールを社会学的に分析している著書
『映画の政治学』	長谷正人編／青弓社／4787232207／映画を社会的・政治的な産物として捉え、分析している著書
『男たちの絆、アジア映画』	斉藤綾子編／平凡社／4582282504／アジア映画研究者たちの論文をまとめた著書

他は授業中に随時紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

アメリカ映画協会 <http://www.mpa.org/>
(社)日本映画製作者連盟 <http://www.eiren.org/>

その他 / Others

授業の概要 / Course Outline

アートとしての映画、構造としての映画、時間としての映画

構造概念を必要とする真の理由は、文化現象の静態面ではなく動態面を、部分的像ではなく全体的像を見ようとする、構造の静態面よりもむしろ、構造自らがもつ変換可能性による動態面を問題としなければならない。従って、映画を各国映画史として、言語と文化の枠の中で、歴史過程としての継続的変化として捉えるとなかなか展望が見えてこない。

映画の共時性を通時態の軸に変換して眺めるためには、いくつかの概念装置が必要となる。まず、映画の共時性と通時性という概念装置と、映画の属性(=本質)である越境性と変換性という概念装置も必要である。そして、さらに映画の作家性と映画の時間性という概念装置が必要となる。この二つの概念装置を加えることによって、映画という文化現象を現代思想の視点から眺めることが可能となる。

映画の共時態の通時的変換を解明する最も重要な概念装置が映画の作家性である。映画の作家性という概念装置からは、映画の世界には国境はなく、ただ、非作家の映画と作家の映画という二つの種類の映画が存在するだけであるという、二項対立的な関係の構図を鮮明に描き出すことが可能となる。しかし、作家という概念は、個々の作家の属人性が見え隠れする概念で、人間の個性性と具体性と一回性とを前提にする概念である。さらに、作家概念の欠落点は、作家という概念には、映画を享受する受け手としての観客の概念がない、ということである。これに比べて時間概念は、個々の作家や個々の観客の人間のあり方を前提としつつも、作家概念よりも、より包括的で、より純粹で、より均質な装置となりうる。従って、映画の構造、すなわちその共時態とその通時態を、一元的に時間の概念によって説明できることが理論的要請となる。つまり、ヌーヴェル・ヴァーグの作家性からタルコフスキーの時間性への概念装置としてのクォーリティー・アップは、現代思想が切り開いた視角から映画を捉えることを可能にした、と言っても過言ではない。これはシネマ・アート論のパラダイム変換として理解しよう。

このことは、シネマ・アートの創造主体、すなわち映画作家とそれを享受する主体、すなわち観客を生身の生きた、そして死すべき有限の事実存在、つまり個性性と主体性を持った人間存在として捉えることを可能にする。言い換えるならばそれは、シネマ・アートの創造主体、すなわち映画作家とそれを享受する主体、すなわち観客との関係性、つまりシネマ・アートの作家性を、概念としてよりクォーリティー・アップした、メ・レベルのハイゲー的の時間性として捉え直したことに他ならない。

さらに、普遍性と日常性という概念装置を加え、新たに、視点に組み込むと、新たな問いかけが生まれてくる。普遍は可能性として、個性性と具体性と一回性のものの中にしか現れないと考えると、普遍とは実人生の日常に由来し、日常に還って行くという世界観に繋がって行く。つまり普遍はその可能性として、日常性という属性を帯び、実人生の日常の中でしか、具象化しえないものということになる。

アートのイメージが人間の実人生そのものよりもはるかにユニークで豊かなものになるのは、イメージをよりリアルなものにしようとするとき、あるいは典型的なものをより完全に表現しようとするとき、イメージそれ自体はより個人的な、よりユニークなものになることを意味する。なぜならばアートのイメージとは、反復不可能な人生の一瞬の姿、すなわち、個性性と具体性と一回性という属性を有する人間存在に現れる普遍への可能性のイメージであるからだ。そのイメージは、現実存在するものを凌駕して、実人生そのものよりもはるかにユニークで豊かなものとなる。従って、重要な点は次の点である。すなわちこのイメージは、現実を超越した具象化ではなく、日常性という属性を帯び、実人生の日常の中でしか、具象化しえないものである、という点である。

何のイメージであれ、イメージそれ自体は個性性と具体性と一回性という属性を有するものとして現れる。つまり、普遍の存在を信じようが、普遍への可能性と控えめに言おうが、重要なのは、そのイメージ化、すなわちその具象化は、すべて日常に由来し、そして日常に還って行くという事実である。小津安二郎やテオ・アンゲロプロスやヴァイナル・エリセやジュゼッペ・トルナトーレの映画が、今日ますます煌めきを発するのは、彼らが描く普遍的世界は、すべて日常に由来し、そして日常に還って行くからである。

小津安二郎の「東京物語」の冒頭シーンで、隣家の主婦、高橋豊子が笠智衆と東山千栄子の夫婦に声をかける。そしてラストシーンで、高橋豊子が妻を亡くした笠智衆と同じように声をかけるが、我々観客は、冒頭シーンの笠智衆とラストシーンの笠智衆とは、上映時間では二時間ちょっとの間に、同じ日常ではありながら、もう取り返しがつかないほどに人生が変わってしまっていることに気づくのである。そして我々観客はまた、笠智衆の後ろ姿に自分の人生を重ね合わせながら、この二時間ちょっとの間に、もう後戻りが出来ないほどに自分の人生が変わってしまっていることに突然気付かされるのである。

ここに、具体と普遍との関係、すなわち個性性と普遍性との関係についての知見があり、そしてアートの無限の可能性がある、ということになる。タルコフスキーが映画とは時間のアートである、と言うとき、彼の念頭にあるのは、この具体と普遍との関係の知見と、この時間アートの無限の可能性への確信である。ここに、シネマ・アートの新たな言説の可能性がある。

到達目標 / Attainment Objectives

- ①世界の映画史の把握
- ②現在の世界の映画状況の把握
- ③理論的把握(文化論的・記号論的把握)

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1~3	映画芸術論への導入	ヘーゲルのアート論、空間アートと時間アート、モニタージュとクロスアップという映像の操作術
4	モニタージュ論	演劇(=ライブ・アート)に対して映画(=モニタージュ・アート)が獲得した途方もない自由
5	作家主義論	作家主義を標榜するヌーヴェル・ヴァーグとは、イタリア・ネオ・レアリズムの精神を受け継ぎ、さらにハリウッド的なスタジオ・システムを否定し、独自のリアリズムを追求した映画改革運動である。
6	ショット論	映画の秘密はショットの中を流れている時間にある。映画の越境性とは、言語の壁を容易に越えてしまうという特性である。

7	創生期の映画	リュミエール兄弟とエジソン、メイェス、ゼツカ、ホーター、イタリア史劇、グリフィス、チャップリン、ドイツ表現主義、ガンズ、ソヴェイト映画、エイゼンシュテインのモンタージュ理論、フランス・ヌーヴェル・ヴァーグのグリフィス再評価。
8	アメリカ映画黄金期	グリフィスとフォードはアメリカ映画を代表する二大監督といわれ、時代に翻弄されながらも最後まで自分たちの美学を貫き通したことが彼らに共通する特徴である。しかし作家主義の観点から見ると、グリフィスは映画作家が目指すべき作家の映画の原点であるのに比べて、フォードは作家の映画とは相容れない、スタジオシステムの映画、プロデューサーの映画の巨匠と見なされる。その意味で、作家主義を信奉するヌーヴェル・ヴァーグが批判の矛先をフォードに向けたのは正解である。なぜならば、ジョン・フォードは良きにつけ悪きにつけ、アメリカ映画を代表する唯一の映画監督だからだ。第二次大戦後の世界の映画状況が一気に変化する。イタリアで、新しいリアリズム映画が誕生する。イタリア・ネオ・リアリズムの誕生とは、古典的ヒューマンイズムを越えた新しい社会的リアリズムの誕生を意味する。第二次世界大戦が映画スタイルを構造的にいかに変えてしまったかが分かる。それは一言で言えば、スタジオシステムの映画(=プロデューサーの映画)から、ある映画作家が企画、脚本、キャストから撮影、編集までの映画制作の全てを取り仕切る、現場主義の映画への変換である。アメリカン・ニュー・シネマとは1960年代後半から70年代前半にかけてハリウッドで作られた、既存のスペクタクル路線とは一線を画した作品を一般には言うが、一言で言えば、作家性に貫かれた映画史に燦然と輝くアメリカB級映画群のことである。
9	日本映画黄金期	50年代日本映画黄金期、溝口健二、小津安二郎、黒澤明、成瀬巳喜男、木下恵介、今井正、小林正樹、市川崑。特に、日本を代表する二人の映画作家、溝口健二と小津安二郎。さらに、ヌーヴェル・ヴァーグの日本映画評
10	フランスヌーヴェル・ヴァーグ	作家主義論を提唱したフランス・ヌーヴェル・ヴァーグの最大の功績は、イタリア・ネオ・リアリズムが果たした現場主義の映画への変換を継承し、さらに映画創造の真の主体を作家に置き、その作家性をシネマ・アートの第一要素として捉えたことである。ここに構造主義の手法に共通する二項対立によって、言語と文化の枠を超えた関係の構図を鮮明に描き出すことが可能となった。すなわち、映画の世界には国境はなく、ただ、非作家の映画と作家の映画という二つの種類の映画が存在するだけである、と主張できるようになった。作家とは、自己の哲学と美学とを作品全体にわたって展開する映画人で、多くの場合自ら脚本を書き、台詞を書き、そして演出もする。彼らはこの立場から映画を作り、便宜的なモンタージュによらず現実の多様性を反復不可能に切り取ることを心がけた。これこそが真のリアリズムだと考えた。そして観客の想像力を刺激する作り方の姿勢と、一つ一つのショットへのこだわりこそ、ヌーヴェル・ヴァーグの映画作家たちが目指したものである。このように映画のアートとしての可能性をもっとも強く証明しようとしたのが、ヌーヴェル・ヴァーグの映画作家たちである。
11～12	80年代から現在までの映画史	フランス映画改革運動の理論的シンボルである作家主義論は、国境を越えて、他の国の映画改革運動に受け継がれていく。彼らの自由な作風は、後のアメリカン・ニュー・シネマの監督たちに影響を与える。そしてアメリカン・ニュー・シネマを見ながら青春時代を送ったヨーロッパ各国の映画作家らが、一斉に映画を作り始めた。これが80年代ヨーロッパ映画の復興期である。80年代以降のヨーロッパ映画作家たちは、アメリカ映画に比して益々、凋落傾向にある自国映画を復活させようと努力した。これらの映画復興努力は国境を越えて(=言語と文化の壁を越えて)ヨーロッパ各国に及んだ。彼らの多くは、日本の溝口健二や小津安二郎、あるいはヌーヴェル・ヴァーグやアメリカン・ニュー・シネマから多くのことを学んだ、作家主義の立場に立った映画作家たちである。
13～15	映画芸術論の結論	シネマ・アートとは、事実存在(=実存)としての人間が出会う、可能性としての時間、その時間のアートである。

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

テキストを配布します。

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

担当者名 / Instructor 津田 正夫

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

映画が世界に登場して100年余り。ビデオやインターネット、デジタル技術の進化によってジャーナリズムをとりまく環境と内実は激変した。一方、先進・西欧諸国中心に発信・流通されてきた情報やジャーナリズムは、グローバル化の中で大きな権力・資本力にコントロールされがちになっている。そうした現実に対して途上国やさまざまなマイノリティからの批判が高まり、多様な価値や文化を反映するジャーナリズムが求められている。この授業では、映像ジャーナリズムが登場した歴史的背景を知ると同時に、活字テキストなどのジャーナリズムとは際立った特性をもつ映像ジャーナリズムの全体像を、ジャーナリズム現場に即して理解すると同時に、今後の課題を実践的に考えるものとする。

到達目標 / Attainment Objectives

- ・映像ジャーナリズムが登場した歴史的背景を知る
- ・映像ジャーナリズムの際立った機能と特性を理解する
- ・現代の映像ジャーナリズムがもたらす課題を理解する

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

ジャーナリズム関連科目
映像関連科目
現代史関連科目

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス	今なぜ映像ジャーナリズムか、今日の映像ニュース
2	ジャーナリズムと映像	映像の誕生、記事と映像、写真・フィルム・ビデオ
3	映像表現技術と影響力	モンタージュ、フィクション、『激動の記録』、感覚性/論理性、独創性/通俗性
4	エド・マローの世界	現場中継、放送ジャーナリズム、『シー・イット・ナウ』、マッカーシズム
5	キャパ神話をめぐって	フォト・ジャーナリズム、危機とイデオロギー、マグナム
6	ベトナム戦争報道	アメリカ民主主義、公民権運動、自由な取材、正義の報道
7	湾岸戦争報道	ベトナムの教訓、メディアコントロール、プール取材、衛星伝送
8	イラク戦争報道	エンベッド、報道協定、メディア爆撃、アルジャジーラ
9	北朝鮮報道をめぐって	バイアスのかかりかた、海外映像取材の実際
10	カメラと取材の暴力性	機材の異物性、主客の関係性、メディア・スクラム、「ダイアナ報道」事件
11	テレビ取材の系列化/階層化	「発掘！！あるある大事典Ⅱ」事件、プロダクション、資本・人種系列
12	対抗ジャーナリズムの出現	独立ジャーナリズム、異文化ジャーナリズム
13	映像ジャーナリズムの現場から	
14	映像発信の戦略	発信/配信のリテラシー、「瀋陽事件」報道、『戦争広告代理店』
15	ジャーナリズム再論	ジャーナリズムとは、メディアの立場性、はなかみ通信、政治/経済/文化的立場性

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	90 %	
平常点(日常的)	10 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
ドキュメンタリー映画の地平	佐藤真／凱風社／／

映像メディアと報道	今村庸一／丸善／／
テレビの自画像	桜井均／筑摩書房／／
国際紛争のメディア学	橋本晃／青弓社／／
テレビジャーナリズムの現在	津田正夫ほか／現代書館／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

担当者名 / Instructor 篠木 涼

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

多種多様なイメージが氾濫する現代社会において、私たちは常にイメージに取り囲まれている。そのシステムを理解することは、自己を再認識することにつながる。本講義では、各時代の最先端でイメージおよび映像を生み出してきた芸術作品を、社会学および哲学的な観点から検討する。

到達目標 / Attainment Objectives

テクノロジーの発達と切り離すことのできない芸術動向と、そこから事後的に生まれる社会の変容とを理解することによって、映像メディアと自己との関係を認識してほしい。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	イントロダクション	メディア・アート・テクノロジー
第2回	テクノロジーの発達と社会の変容(1)	産業革命と社会の変化
第3回	テクノロジーの発達と社会の変容(2)	写真・映画の発明
第4回	テクノロジーの発達と社会の変容(3)	テレビの発明
第5回	後期資本主義のイメージシステム	CM・広告・イメージ戦略
第6回	キッチュの氾濫	大衆・娯楽・物質主義
第7回	アウラの消失	ベンヤミン・芸術作品の意義の変容
第8回	シミュラクルとシミュレーション	ボードリヤール・予定調和的社会
第9回	作者の死	バルト・芸術の終焉・主体の変容
第10回	開かれた作品	インタラクティビティ
第11回	映像の遍歴	映画・TVドラマ・CM
第12回	映像・イメージ・身体(1)	ビデオ・アート・その位置づけ
第13回	映像・イメージ・身体(2)	ビデオ・アート・知覚への挑戦
第14回	映像・イメージ・身体(3)	ビデオ・アート・新たな認識
第15回	確認テストと解説	テスト60分・解説30分

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(検証テスト)	60 %	
平常点(日常的)	40 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

講義中に適宜指示します。

教科書 / Textbooks

使用しません。

参考書 / Reference Books

講義中に適宜指示します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

講義中に適宜指示します。

その他 / Others

映像表現論 S

13090

担当者名 / Instructor 梁 仁貴

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本講義では、映像メディアと時代とのかかわりを考えつつ、その一つである映画をとりあげる。

映画については、第7芸術と呼ばれた時代の芸術的な側面、そして商業的価値で語られるエンターテインメント性ばかりが重視されてきたが、本講義では、主に戦前の世界の映画の発展の歴史に沿いつつも、映画の表現様式とその表現が生成する社会的意味について学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

- ・110年に及ぶ世界の映画の発展の歴史の外観が把握できる。
- ・映画を中心とする映像表現の文法の基礎が理解できる。
- ・映画を時代や社会との関係から考察することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

- ・映像をはじめとしたメディア分析に関わる科目を受講していることが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	イントロダクション: 映画の歴史とは? 動く映像のはじまりから映画の誕生までの経緯と時代	リュミエール兄弟、シネマトグラフ、サイレント映画
第2回目	映像の文法1: 「見る」ことの生理学、言語としての映画 鑑賞予定の作品例)『サイコ』	image、デノテーションとコノテーション、コード
第3回目	映像の文法2: 映画の空間と時間の統辞法 例)『戦艦ポチョムキン』	演出(ミザンセヌ)とモンタージュ
第4回目	1920年代のフランス映画: 実験映画を中心とした総合芸術としての映画製作 例)『アンダルシアの犬』	シュルレアリスム、アバンギャルド、第七芸術論
第5回目	ドイツ表現主義: 第1次世界大戦後のドイツと映画 例)『カリガリ博士』『メトロポリス』	ウーファ
第6回目	日本映画の黄金期: 1930年代日本の無声映画と社会 例)『汗』	内田土夢、傾向映画
第7回目	プロパガンダと映画1: 第3帝国と映画利用 例)『民族の祭典』	映画法、レニ・リーフェンシュタール
第8回目	プロパガンダと映画2: 第二次世界大戦とハリウッド 例)『汝の敵を知れ』	combat film, 教育映画
第9回目	プロパガンダ映画と映画3: 日本における戦時の映画利用 例)『戦ふ兵隊』	国策映画、文化映画
第10回目	イタリアのネオリアリスモ: イタリア・ファシズムと映画製作、その後 例)『戦火のかなた』	レジスタンス、ロッセリーニ
第11回目	プロパガンダ映画と映画4: 「極楽静土」満州 例)『満映ニュース』	満州映画、ニュース映画
第12回目	プロパガンダ映画と映画5: 満州映画と5族協和	李香蘭、大東亜映画共栄圏
第13回目	プロパガンダ映画と映画5: 娯楽は「敵」なのか。 例)『望楼の決死隊』	国策映画、娯楽映画
第14回目	戦時中の合作映画1: 日本とドイツの合作映画 例)『新しき土』	原節子、女優たちと戦争
第15回目	戦時中の合作映画2: 日本映画? 朝鮮映画? 例)『半島の春』	ナショナル・シネマ

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

- ・時間の関係上、講義に関連した作品をすべて見ることは難しいので、できる限り講義で取り上げた作品を各自で見てください。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	70 %	合計4回のレポートを出してもらい、総合採点する。
平常点(日常的)	30 %	授業中に数回の受講エッセイを課す。

・受講者の人数等によって、以上のことに変更が生じることがあるが、その場合はなるべくすみやかに授業中に知らせる。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

- ・随時具体的な作品を示しつつ授業を進めるが、映画が見られるという安易な考えで受講しても楽しいばかりの作品ではないので、十分に検討し

た後で登録することを勧める。

- ・遅刻には厳しく対処する。特に、他の受講生への迷惑もあり、30分を超えた遅刻の場合、入室は遠慮してほしい。
- ・授業開始から30分後、レジュメ等の配布を一切しないので注意すること。

教科書 / Textbooks

教科書は、特に指定しない。授業中にレジュメや資料を配付する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『映画の教科書』	ジェイムズ・モナコ／フィルムアート社／4845983486／映像の文法や映画の記号的性質について、参考になる。
『映画映像史』	出口丈人／小学館／4093874859／映像映画の歴史を概観するのに役立つ。
『ワールド・シネマ・ヒストリー』	アンドレア・グローネマイヤー／昇洋書房／4771015244／『映画映像史』とともに参考にすることを推奨する。
『映画技法のリテラシー〈1〉〈2〉』	ルイス・ジアネッティ／フィルムアート社／4845903547,4845903547／〈1〉と〈2〉合わせて読むと、より参考になる。
『アメリカ映画に現れた「日本」イメージの変遷』	増田幸子／大阪大学出版会／4872591771／第2次大戦とハリウッドについての部分を参考にしてほしい。

その他のものについては、随時授業中に紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

Internet Movie Database(IMDb) <http://www.imdb.com/>

その他 / Others

衛生学 S

20300

担当者名 / Instructor 白井 こころ、塩崎 麻里子、伊藤 ゆり、月野木 ルミ

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「公衆衛生学・衛生学」の概念と、公衆衛生の各分野における現状や法制度について学ぶことを通して、自分自身の健康と、社会の健康を保持・増進する方法について、理解を深めることを目的とする。

到達目標 / Attainment Objectives

「健康」は人生の重要な資源であり、全ての人の生活に関わるものである。しかしながら、その課題および対象は多岐にわたり、国民・地域・社会の健康を守り、増進していくための公衆衛生(学)全体像を把握することは、時に困難を伴う。多様化・複雑化する今日の公衆衛生課題について理解し、その解決の方法について、自ら考えることの出来る力を身につけることを目指す。そのための基礎知識や方法論の習得、実践のための学問的基礎体力作りを目標とする。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

事前の要履修科目は特にないが、「地域保健論」、「地域社会論」、「地域福祉論」、「現代人とヘルスケア」等の講義と併せて受講されることで、より理解が深まると考えられる。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	講義概要と導入 / 健康と公衆衛生	授業の到達目標・進め方・成績評価法等 / 公衆衛生学とは? / 健康の概念
2	地域保健 (ヘルスプロモーション・生活習慣病予防)	生活習慣病の基礎 / 地域における介入 / ヘルスプロモーションの概念
3	健康の指標(保健・医療統計) / 感染症 / 難病	保健統計の役割と基礎 (疾病罹患率・有病率・死亡率 etc) / 感染症について
4	疫学・統計概論	疫学の方法 / 統計 / 研究計画
5	保健・医療制度	医療制度 / 保健医療体制 / 医療保険
6	がんの疫学Ⅰ	がんの基礎統計 / がんのメカニズム
7	がんの疫学Ⅱ	がん登録制度 / 健康教育 / 喫煙対策
8	環境保健・衛生	化学物質 / 職業性疾患 / 公害
9	健康心理学概論Ⅰ	ストレス・コーピング / 対人関係
10	健康心理学概論Ⅱ	ソーシャルサポート / パーソナリティ / 生活習慣病
11	健康心理学概論Ⅲ	健康行動 / 行動変容 / 疾病予防
12	食品保健と公衆栄養	栄養 / 食行動 と健康
13	母子保健・学校保健	母子保健制度 / 地域における母子保健事業の実際 / 周産期医療の課題 / 学校保健制度 / 予防接種
14	産業保健・精神保健	産業保健 / 生活習慣病対策 / 労働災害 / メンタルヘルス対策
15	老人保健・国際保健	老人保健制度 / 介護保険 / 国際保健 / globalizationと健康格差

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	20 %	講義時に指示する なお、定期試験による評価に変更する場合もある点留意のこと
平常点(検証テスト)	40 %	講義内で適宜指示を行う 公衆衛生(衛生学)の各論は幅広い分野を網羅するため、各分野ごとの基本知識の習熟度確認のために行う
平常点(日常的)	40 %	主に、以下2点を中心に評価する 1)出席状況 2)質問やDiscussionへの参加を含め、講義への主体的な参加と積極的な貢献を期待する

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks**参考書 / Reference Books**

<u>書名 / Title</u>	<u>出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment</u>
シンプル衛生公衆衛生学	鈴木庄亮・久道茂編著 / 南江堂 / /
国民衛生の動向	厚生統計協会 / 編集 / 厚生統計協会 / /
国民の福祉の動向	厚生統計協会 / 編集 / 厚生統計協会 / /
わかりやすい公衆衛生学	清水忠彦・難波正宗編著 / 廣川出版 / /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

厚生労働省 <http://www.mhlw.go.jp/>
WHO <http://www.who.int/en/>
CDC <http://www.cdc.gov/>

その他 / Others

担当者名 / Instructor 原尻 英樹

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

アメリカと日本のコリアタウンの比較を通して、アメリカと日本の近代国民国家としての普遍性と各国民国家の特殊性を明らかにし、そこにおける「民族」のもつ意味(エスニシティ)について考察する。さらに、今日のグローバリゼーションの状況のなかで、以上の近代性がどのように変容しつつあるのかを記述・分析し、現代世界におけるエスニシティへのアプローチの方法的有効性を検証する。方法論的には、エスニック・スタディーズ、カルチュラル・スタディーズ、ポストコロニアル・スタディーズ、それにグローバリゼーション・スタディーズ、これらを相対化して、新たな方法論の地平を模索するが、特に、フィールドワークによるミクロ・アプローチと、東アジア・太平洋を含む世界全体の構造変化を分析するマクロ・アプローチとを関係づける。さらに、これらの基礎的研究を基にして、多文化共生社会に向けての認識方法、倫理観、実践論を展開する。

到達目標 / Attainment Objectives

- (1) エスニシティの普遍的意味を日本の現実との関連で理解すること。
- (2) エスニシティに関わる多文化共生社会の可能性を考え、そしてその実現に向けて実践すること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「文化人類学入門」、「比較文化論」、「文化人類学」であるが、「エスニシティ」履修後に、これらの三科目を履修することも可能である。これら四つの科目によって、文化人類学についての基本的知識と考え方が修得可能となる。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	東アジアの前近代における朝鮮半島からの移動(総説)、火田民と海人	前近代、移動、焼畑、海人
2	東アジアの近代における朝鮮半島からの移動(総説)	近代、植民地主義、大量移動
3	日本の植民地主義と朝鮮半島からの移動	強制移住、ダブルバインド、ねじれた形での社会上昇
4	近代国民国家・大韓民国からの移動: アメリカと中国	アメリカンドリーム、中国での投資、グローバル・ファミリー
5	ハワイのコリアン: 「アメリカン・コリアン」とHanguk-saram	写真結婚、旧移民と新移民、誰が韓国人か?
6	モダン/ポストモダン都市、ロサンジェルスのコリアタウン: コリアン、ラティーノ、黒人	コリアンとラティーノ、黒人との関係、コリアンドリームと両班意識
7	大阪・生野のコリアタウン: 済州島から在日コリアンへの過程	〇〇ムラビトー済州島人ー在日コリアン、日本人意識の形成過程
8	川崎のコリアタウン構想: 地域おこしのためのエスニック・タウン	行政の介入、地域社会とは何か?、コリアタウンの表象
9	日米のコリアタウンと国民国家システム: 国民国家とエスニシティ	国民国家、エスニシティ
10	コリアンアメリカンとアメリカの人種・民族カテゴリー	「民族」と「人種」のカテゴリー
11	1992年4月29日 ロス暴動: コンフリクトの実像	コンフリクト、マスメディア
12	民族と学校教育: 創られる「民族」	「民族学校」、エスニック or 民族、国民教育と民族教育
13	グローバリゼーションのなかのコリアン: 境界を越える認識方法	ネットワーク、虹のイメージ、我からわれわれへ
14	新たな関係性を求めて①	他者認識と自己認識、倫理性、人であることの意味
15	新たな関係性を求めて②	構え、関係性、作法

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

教科書及び配布プリントの読書を中心として、その他参考文献の読書。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	70 %	授業と教科書等の内容の理解度及びそれについての自らの批判的考察。
平常点(検証テスト)	30 %	リアクション・ペーパー(抜き打ち)数回提出。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

授業はひとつの刺激です。もちろん、上記の授業目標を達成することも重要ですが、それに加えて、例えば、フィールドワーク、アメリカ研究、韓国・朝鮮研究、近現代史等に関心を広げることも可能ですので、この授業をひとつの刺激にして、自らの可能性を発掘・発展させてください。授業中に様々な参考文献を紹介します。また、質問をドシドシしてください。

「求めよさらば与えられん」です。

教科書 / Textbooks**書名 / Title****出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment**

コリアンタウンの民族誌

原尻英樹 / ちくま新書 / 教室で配布 (割引料金600円)

上記の教科書は絶版なので、教室で配布します (割引料金で一冊600円)。これは基本的文献ですので、この本を補うためのプリントを何回か配布します。

参考書 / Reference Books

参考書、参考文献は、随時、授業時に紹介します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference**その他 / Others**

担当者名 / Instructor 秋葉 武

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

社会的に重要な役割を持ち始めたNPO・NGOについて、学んでいきたい。福祉、環境、人権、まちづくり等様々な分野の組織を中心に切りあげる。また、企業および行政組織と比較して、NPOのサービスの特徴を考察していく(例えば、NPOのリーダーの多くが①いわゆる「専門家ではない」地域の市民 ②既存の制度から「はみ出した」専門家、である)。上記のテーマを学んでいくため、講義においてはビデオ等の視覚教材を毎回使用し、ゲスト・スピーカーを1-2回招くなどして最新の話題を取り上げていく。また受講者の意見を求める等、なるべく双方向のコミュニケーションに努める。

なお国際協力分野のNPO・NGOについては、本講義では取り扱わず、(秋葉が担当する)「国際NPO・NGO論」で取り扱うこととなるので、留意されたい。

到達目標 / Attainment Objectives

- ・サードセクターとしてのNPO——政府および企業だけでは、なぜ社会がうまく機能しなくなっているのか、を理解する。
- ・NPOは閉塞感を深める日本社会のなかで、具体的にどのような役割を果たせるのか、を具体的に理解する。
- ・NPOという組織における働き方は、新しい働き方を社会に提起しているといわれる。職員、ボランティアを含めたNPOの人材をみることで社会について考える題材とする。
- ・NPOは呼称、活動分野が多様であることから、一見理解し辛いイメージがあるが、その点についても整理して理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

秋葉担当の「国際ボランティア論／国際NPO・NGO論」

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の概要と導入	授業の趣旨、達成目標、成績評価方法、担当教員の自己紹介
2	NPO・NGOの概論①——阪神大震災時のボランティア活動を事例として——	用語・概念の整理、NPO・NGOの社会的存在理由、行政の限界
3	NPO・NGOの概論②——NGOでの職員の働き方を事例として——	用語・概念の整理、NPO・NGOの社会的存在理由、サービスの特徴
4	無給ボランティアから有給スタッフへ——阪神大震災時のボランティア活動を事例として——	NPO・NGOの学術的概念、呼称の固有性、有償化のプロセス
5	政府とNPOの関係——「NPO大国」アメリカのボランティア活動を事例として——	アメリカのNPOの歴史、寄付行為、公共への市民参加
6	政府とNPOの関係——アメリカのNPOの企業、政府とのパートナーシップを事例として——	「大きな政府」の世界的な退潮、市民の公共への参加を促す社会制度
7～8	地球環境問題とNGO——地球温暖化防止に取り組むNGOの役割から——	国益追求の限界、市民組織の役割
9	市民の公共への参加を促す社会制度——1998年のNPO法成立の背景から——	「認証」と「認可」の違い、法人格の意味
10	NPOの制度化——NPOの介護保険制度への参入を事例として——	在宅福祉NPOと介護保険、経営管理の重要性
11	企業とNPOの比較——Linuxの成功から——	情報化、IT化とNPO
12～13	事業型NPOおよび社会指向型企業の誕生	ソーシャル・ベンチャー、社会企業家
14	NPOの資源開発——パブリックリソースセンターの取り組みから——	寄付マーケットの開拓、SRI(社会的責任投資)
15	NPOの将来と展望	日本のNPOの果たす役割と今後

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	50 %	定期試験とレポート提出の両方が必要です。
レポート試験	30 %	定期試験とレポート提出の両方が必要です。与えられたテーマについて、レポートを提出し、教員はそれを評価します。
平常点(日常的)	20 %	主に、コミュニケーションペーパーの提出となります。

ガイダンスに必ず出席して、受講するか否かを決めてください。ガイダンスに出てみて「面白そうだな」と思ったら受講登録するのがよいと思います。

下記の行為をする受講生は「F」評価としています。

- ①他の受講生の受講権の侵害・授業中の私語、大幅な遅刻、頻繁な途中入退室など
- ②マナーの欠如(携帯電話の時計以外の目的での使用など)

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

せっかく受講されるので、ぜひ授業以外で勉強すると、新しい視野が開かれると思います。

教科書 / Textbooks

新聞でNPOの記事をチェックしてみましょう

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
NPO基礎講座[新版](2005)	山岡義典/ぎょうせい//

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

NPOを取り巻く外部環境は急速に変化していますので、下記のHPなどをぜひチェックしてみてください。

日本NPOセンターHP	http://www.jnpoc.ne.jp/
パブリックリソースセンターHP	http://www.public.or.jp/

その他 / Others

演劇論 S

15451

担当者名 / Instructor 池内 靖子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

演劇というメディアは、劇場、舞台空間のデザイン、衣装、メイク、照明、演出、演技、台本といった多様な要素を含む、ライブの総合芸術である。講義では、演劇の魅力について、学際的な知の枠組み、演劇的なパラダイムから、近代演劇の誕生とともに、60年代～70年代のアンガラ小劇場運動に焦点を当て、同時に広く現代のパフォーマンス・アートを含めて考察する。とりわけ、パフォーマンスとジェンダーの交差について重点的に考察する。

到達目標 / Attainment Objectives

演劇的な知、パラダイム、理論的な枠組みについて学ぶと同時に、地域や都市の演劇空間、個別の演劇・パフォーマンスの表現について調べ、考察する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス、都市・地域と劇場	シアター・オリムピクス
2	国民国家と演劇	近代演劇と女優の誕生
3	帝国のロマンス	『マダム・バタフライ』『M.バタフライ』『ミス・サイゴン』
4	宝塚歌劇 I	男役と娘役、ジェンダー／セクシュアリティの構築
5	宝塚歌劇 II	ファンは何を求めているか
6	60～70年代のアンガラ小劇場運動 I	鈴木忠志、唐十郎、佐藤信
7	60～70年代のアンガラ小劇場運動 II	寺山修司の「天井桟敷」
8	舞踏の身体	土方巽、肉体の反乱
9	アンガラと女性演劇人	ウーマン・リブ、セクシュアリティ／ジェンダーの脱構築
10	アート・アクティヴィズム／言説と身体	ダム・タイプ、異性装／越境について
11	ダンスとシアターの間	ピナ・バウシュ、コリオグラフィ
12	パフォーマンス・アート／言語・映像・身体	テレサ・ハッキオン・チャのテキストの舞台化
13	オルタナティブな演劇空間と身体表現 I	金満里の劇団「態変」
14	オルタナティブな演劇空間と身体表現 II	ニューヨークのコミュニティ・シアター
15	まとめ	近代演劇を超えて

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

授業外学習の指示 / Out of class assignment

個人やグループで、演劇やパフォーマンスを観に行き、劇場と地域の関係についてフィールドワークを行う。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	小レポートと試験に代わる最終レポートを課す。
平常点(日常的)	50 %	ビデオの感想を書き、グループでの議論に参加すること。

レポート課題は2つ実施する。1つは、個人あるいはグループで、地域と劇場についてフィールドワークした調査結果についてまとめる。2つ目は、試験に代わる最終レポート(個人課題)として、受講して興味を持ったテーマを自由に設定し、考察したことをまとめる。

※日常点評価50%
ビデオを資料として使うので、それを見た後、感想を書いたり、適宜グループ・ディスカッションに積極的に参加する(日常点を加味する)。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

演劇に関する広い興味、関心をもち、それが私たちが生きる社会にとってどういう意味をもっているかについて考えること。劇場と地域の関係についてフィールドワークを行う。講義では、グループ・ディスカッションに積極的に参加すること。

教科書 / Textbooks

教科書は使用しない。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
女優の誕生と終焉—パフォーマンスとジェンダー	池内靖子／平凡社／／

踊る帝国主義 宝塚をめぐるセクシュアルポリ
ティクスと大衆文化 ジェニファー・ロバートソン／現代書館／／

宝塚というユートピア 川崎賢子／岩波書店／978-4-00-430940-6／

迷路と死海 寺山修司／白水社／978-4-560-03254-1／

ディクテ テレサ・ハッキョン・チャ／青土社／4-7917-6043-3／

その他、参考文献については、授業で紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

演出論 S

13138

担当者名 / Instructor 三浦 基

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

この授業は、演劇を多角的に論じ、演劇的知性について考える演劇専門の講義です。

「演劇とは何か？」という問いを授業のテーマとします。

古典・近代演劇のビデオや資料を用いて、日本および世界の演劇の流れを把握します。

また具体的に、現場での演出家の仕事について触れながら、現代社会における芸術の関わりについて視野を広げ、研究・考察することを目的とします。

到達目標 / Attainment Objectives

専門的には、芸術に関連した職業、特にアートマネジメントに関する基礎知識・考え方を学ぶこと。

一般的には、各自が、積極的に演劇をはじめとする舞台芸術に触れ、批評眼を養うこと。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	演劇人の現在1	日本における演劇活動の実情
第2回	演劇人の現在2	世界における演劇活動の実情
第3回	演出家の仕事1	戯曲との距離
第4回	演出家の仕事2	絵画と写真
第5回	俳優の演技について1	名人芸と呼ばれるもの
第6回	俳優の演技について2	パフォーマーという捉え方
第7回	スタッフワーク1	コンセプトの捉え方
第8回	スタッフワーク2	美学という問題
第9回	劇場文化	革命の時代
第10回	演劇とは何か？	表現することの必然と偶然
第11回	演劇のとは何か？	他ジャンルとの接点
第12回	フィクションとノンフィクション	演劇の特性と弱点
第13回	演出家とは職業なのか？	歴史への意識
第14回(最終回)	現代演劇というもの	行為と現象
レポート作成	批評してみる	課題後日発表

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

三浦基演出の劇団「地点」の上演が行われます。できる限り観劇して理解を深めてください。

地点によるチーフホフ四大戯曲連続上演

2008年7月5日～13日『三人姉妹』原作：アントン・チェーホフ

大阪・芸術創造館

2008年10月10日～22日『三人姉妹』『桜の園』の2本立て公演 原作：アントン・チェーホフ

東京・吉祥寺シアター

詳細は、地点のホームページで更新されます。(http://www.chiten.org/)

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	0 %	特になし
レポート試験	50 %	学期の授業中に課題発表
平常点(検証テスト)	0 %	特になし
平常点(日常的)	50 %	出席率、授業態度(コメントシート回収)などを評価対象とする
特になし		

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

教科書特になし

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
桜の園・三人姉妹	チエーホフ／新潮社／ISBN 4-10-206501-6 c0197／近代戯曲の代表として教材に使用

なんだなんだそうだったのか、早く言えよ。(ピエ ジュアル論覚え書)	加藤典洋／五柳書院／ISBN-10: 4906010628 / 批評の例として引用する
--------------------------------------	---

この授業は、演劇および演出を学問として専門的に分析する内容です。
 受講生には、その専門知識や芸術に対する基本的なセンスを学んでもらいます。
 講義形式の授業ですが、コメントシート回収などしますので、できるだけ応答ができるように配慮します。
 学期末のレポート作成が課題となりますが、昨年の経験上、出席率が低い受講生は、それに比例してレポートの内容がないという傾向が顕著にあります。
 (実際に、落第している受講生が数少なくありません)
 まず、授業にまじめに取り組む、つまりまじめに出席することが大切です。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

三浦基代表の劇団地点のホームページ<http://www.chiten.org/>

その他 / Others

担当者名 / Instructor 坂田 謙司

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

メディアは、特性によってテキスト、画像、音声の3種類に大別できる。この中で、人間にとってもっとも原初的で、コミュニケーションの基礎となるのが音声メディアである。しかし、われわれの日常を見渡してみると、テキストベースの電子メールによって、人間関係のほとんどが構築され、写真や動画はもっとも身近な記録メディアとなっている。

これらは、「携帯電話」という本来音声データによる双方向のコミュニケーション・メディアに組み込まれているものだが、もはやそれは機能の一部でしかなくなっている。また、新聞(テキスト)、テレビ(画像)、ラジオ(音声)という、日常接するメディアを並べてみた場合でも、誰もがテレビ>新聞>ラジオの順に自分との関係の深さを示すであろう。このように、音声メディアはわれわれにとって原初的でありながら、もっとも遠い存在となっているように感じる。だが、果たしてそうだろうか？ iPodに代表される携帯音楽プレイヤーは若者の多くが利用し、日本のラジオ局は無くなるどころか総数はむしろ増えているのだ。

本講義では、このような音声メディアについて、第1部「理論と研究」、第2部「19世紀末までの社会と音声メディア」、第3部「日本社会と音声メディア」の3部構成で学んでいく。

到達目標 / Attainment Objectives

この授業を通じて学ぶ到達点は、以下の3点である。

1. 音声メディアを学ぶ上で必要な理論と視点の持ち方及び問いの立て方を理解する。
2. 個別の音声メディアと社会との関係を歴史的な観点から知り、メディアが社会の中で存在する意味を理解する。
3. 現代社会の中で忘れられがちな音声メディアへの興味・関心をもつ。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	人間と音声メディア(理論と研究)	コミュニケーションと音声
2	音声メディア研究1	声の文化と文字の文化
3	音声メディア研究2	「サウンド・スケープ(音風景)」
4	音声メディア研究3	音楽と音声メディア(小レポート)
5	音声メディアと暮らし(19世紀末までの社会と音声メディア)	社会と音声メディア
6	オルゴール・蓄音機	自動演奏楽器 音声の記録
7	電話	放送の原型からおしゃべりメディアへ
8	無線・ラジオ	ワイアードからワイアレスへ(小レポート)
9	瞽女・巡回蓄音機(日本社会と音声メディア)	地方を巡る音文化
10	無線電話・ラヂオ	新しいメディアを巡るせめぎ合い
11	共同聴取・有線放送	メディアを求める欲望
12	電話・有線放送電話	電話を巡るナショナルとローカル
13	ミニFMとウォークマン	音声メディアと若者
14	コミュニティFMと多言語放送	ラジオの新しい役割
15	新しい音文化の誕生	ネットと音声メディア(小レポート)

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	70 %	客観問題と論述問題を併用
レポート試験	30 %	各パートの最後に小レポートを、各回10%計算で実施。 2回以上提出されていない場合は、評価の対象とならない。 各小レポートは内容によって5段階で評価し、評価に沿った点数(10→0)を割り当てる。

レジュメおよび資料は、授業開始後30分経過した時点で配布を終了する。以降は、理由に関わらずいっさい配布しないので注意すること。また、授業中の私語は、厳しく対処する。

各回の授業予定は、最新のトピックスに合わせて変更する場合がある。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
コミュニケーション物語	竹内成明 / 人文書院 / /
声の文化と文字の文化	ウォルター・J. オング / 藤原書店 / /
世界の調律 サウンドスケープとはなにか	マリー・シェーファー / 平凡社 / /
声の資本主義 電話・ラジオ・蓄音機の社会史	吉見俊哉 / 講談社 / /
「声」の有線メディア史	坂田謙司 / 世界思想社 / /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

外国語文献研究 SA

13111

担当者名 / Instructor 市井 吉興

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

近年、社会保障論で注目を集める「ベーシック・インカム」を扱った文献を読むことを通じて、私たちの生活の在り方(労働、所得、消費、時間、ジェンダー、福祉etc)を検証する。

到達目標 / Attainment Objectives

外国語(ドイツ語)文献講読なので、文法や構文を押さえた「きれいな翻訳」も大事だが、それとともに私たち日本の現状を検討していく視点を獲得することにも力点を置きたい。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

ドイツ語文法の基礎知識があるほうが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス	今後の講義のアウトラインの提示と成績評価方法の確認。
2~5	ベーシック・インカムとは、なにか？	ここではベーシック・インカムの基本的理念の理解を目指す。
6~9	ベーシック・インカムを導入するうえでの「困難」や「障害」とは、なにか？	近年の社会保障政策や労働政策を検討しながら、論点を整理する。
10~14	ベーシック・インカムとワークシェアリング	これからの福祉社会の構想として、ベーシック・インカムとワークシェアリングとの「協同」を試みる。
15	まとめ	これまでの講義を振り返り、受講生各自の問題意識の発展や感想を交流したい。

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	30 %	講義を通じて深めた各自の問題意識をまとめた、簡単なレポートを提出してもらう。
平常点(日常的)	70 %	出席重視。15回の講義で5回以上の欠席は、評価の対象から外す。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

講義で用いる基本文献は、Götz W. WernerのEin Grund für die Zukunft: das Grundeinkommen. Interviews und Reaktionen(Freies Geistesleben GmbH 2006)を用いる。講義で使用する箇所は、講義担当者が事前に配布するので、テキストを購入する必要はない。さらに、講義テーマに関連した論文、雑誌記事、新聞記事等をその都度配布する。また、講義テーマに関連したドイツ語資料等を受講生が講義に持ち込んでもらっても、かまわない。なお、理解を深めるためにも映像資料を積極的に活用したい。

参考書 / Reference Books

講義において適宜紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

外国語文献研究 SB

15566

担当者名 / Instructor 市井 吉興

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

近年、社会保障論で注目を集める「ベーシック・インカム」を扱った文献を読むことを通じて、私たちの生活の在り方(労働、所得、消費、時間、ジェンダー、福祉etc)を検証する。

到達目標 / Attainment Objectives

外国語(ドイツ語)文献講読なので、文法や構文を押さえた「きれいな翻訳」も大事だが、それとともに私たち日本の現状を検討していく視点を獲得することにも力点を置きたい。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

ドイツ語文法の基礎知識があるほうが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス	今後の講義のアウトラインの提示と成績評価方法の確認。
2~5	ベーシック・インカムとは、なにか？	ここではベーシック・インカムの基本的理念の理解を目指す。
6~9	ベーシック・インカムを導入するうえでの「困難」や「障害」とは、なにか？	近年の社会保障政策や労働政策を検討しながら、論点を整理する。
10~14	ベーシック・インカムとワークシェアリング	これからの福祉社会の構想として、ベーシック・インカムとワークシェアリングとの「協同」を試みる。
15	まとめ	これまでの講義を振り返り、受講生各自の問題意識の発展や感想を交流したい。

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	30 %	講義を通じて深めた各自の問題意識をまとめた、簡単なレポートを提出してもらう。
平常点(日常的)	70 %	出席重視。15回の講義で5回以上の欠席は、評価の対象から外す。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

講義で用いる基本文献は、Götz W. WernerのEin Grund für die Zukunft: das Grundeinkommen. Interviews und Reaktionen(Freies Geistesleben GmbH 2006)を用いる。講義で使用する箇所は、講義担当者が事前に配布するので、テキストを購入する必要はない。さらに、講義テーマに関連した論文、雑誌記事、新聞記事等をその都度配布する。また、講義テーマに関連したドイツ語資料等を受講生が講義に持ち込んでもらっても、かまわない。なお、理解を深めるためにも映像資料を積極的に活用したい。

参考書 / Reference Books

講義において適宜紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

外国語文献研究 SC

13112

担当者名 / Instructor 藤田 博文

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

テーマ:「自己が自己と関わっていくことの意味」

本講義では、現代社会における諸問題を考えていく際に、非常に重要な領域として見なされている「倫理éthique」について考察していきます。特に他者と関わっていく際に、自分自身と関わっていくことの意味の重要性について考えていきます。テキストは、社会学や現代思想において重要な役割を果たしているフランスのミシェル・フーコーの講義録(講義を活字におこしたもの)を使用します。

到達目標 / Attainment Objectives

1. 論理的な思考を身につける。
2. フランス語の構文、文法、熟語などを「生きた」文章のなかで理解する。
3. フランス語がもつ語と語、文と文との明確で厳密な関係を理解できる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「履修しておくことが望まれる科目」はありません。フランス語初級文法程度の知識を持っている学生が対象です。しかしこれからフランス語文献を読んでいきたいという意欲ある学生であれば受講は可能です。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	(1)講義の目的。講義の進め方。(2)テキストについての説明。(3)社会学の中心的主題について。	社会統合、個人、社会形成。
第2回以降	基本的に輪読形式で進めていく。適宜、重要な概念についての解説や議論を行う。	自己への配慮、汝自身を知れ、主体、スピリチュアリティ、変化。

 (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	(1)出席。(2)翻訳の正確さとテキスト内容の理解を問う。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

- (1) 毎回、予習(日本語に訳す)をしてきてください。
- (2) 辞書を頻繁に使用するので、仏和辞書(電子辞書を含む)を毎回持ってきてください。

教科書 / Textbooks

フランス語文献に関しては、講義で配布しますので、購入する必要はありません。

テキストは、Michel Foucault, L'herméneutique du sujet: Cours au Collège de France, Paris: Seuil/Gallimard を使用します。なお、テキストは変更する場合があります。

参考書 / Reference Books

- (1) テキストの内容に関する文献については、その都度講義で指示します。
- (2) フランス語の文法や構文などに関する文献についても、その都度講義で指示しますし、絶対に覚えておかなければならない重要なところに関しては、その文献の一部をコピーして配布します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

外国語文献研究 SD

15567

担当者名 / Instructor 藤井 友紀

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

Jean Baudrillardの"La société de consommation"(Gallimard,1996)を用いて、消費文化における「記号」や「価値」の有り様に関する理解を深めます。

現代社会には様々なモノや宣伝広告が溢れ、我々の関心をひいています。我々はどのようにして、多くのモノの中から流行を選び、モノの「価値」や「意味」を決めているのでしょうか。

到達目標 / Attainment Objectives

フランス語の文法および読解力を習得するとともに、消費文化に関する分析を通じて、現代社会と社会現象に対する分析的まなざしを身につけます。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

基本的なフランス語文法を習得していることが望ましいですが、意欲があれば未修者・初心者でも履修可能です。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	ガイダンス	講義の進め方について
第2回	La liturgie formelle de l' objet	
第3回	Théorie de la consommation ①	
第4回	Théorie de la consommation ②	
第5回	Théorie de la consommation ③	
第6回	Théorie de la consommation ④	
第7回	Théorie de la consommation ⑤	
第8回	Théorie de la consommation ⑥	
第9回	Théorie de la consommation ⑦	
第10回	Mass media, sexe et loisirs ①	
第11回	Mass media, sexe et loisirs ②	
第12回	Mass media, sexe et loisirs ③	
第13回	Mass media, sexe et loisirs ④	
第14回	Mass media, sexe et loisirs ⑤	
第15回	Conclusion	試験とまとめ

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(検証テスト)	30 %	
平常点(日常的)	70 %	出席と予習、講義への参加を目安に評価します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

翻訳作業は大変かと思いますが、完璧を目指す必要はありません。むしろ、テキストから現代社会や社会現象に対する社会学的なものを見方を学び、今後の生活に生かしてもらえればと思います。

また、スケジュールは登録者の語学熟練度や人数、進行具合によって変更する場合があります。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
La société de consommation	Jean Baudrillard / Gallimard, 1996

適宜コピーを配布するので、特に購入の必要はありません。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
仏和辞典	///
『物の体系』	ボードリヤール / 法政大学出版 /
『消費社会の神話と構造』	ボードリヤール / 紀伊国屋書店 /

仏和辞典は必須です。

またフランス語初学者は簡単な文法規則についてのテキストを適宜購入して下さい。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

授業の概要 / Course Outline

中国は現在目まぐるしい変化を遂げつつあります。そんな日進月歩の社会の表層を追いかけることを中国語学習の目的と考えているわけではありませんが、本テキストはたまたま中国の最新情報が紹介されています。当世学生気質から、日常生活に対する感覚まで内容は雑然と多方面にわたっており、これらを読むことで現代中国の実態の一端が窺えることでしょう。また、使われている文体も平易で日常的なものです。全体で10課ですから、3回で1課という進度で進めていきます。時間に余裕があるようなら、関連した資料やビデオ等も取り入れて、理解を深めることが出来たらと思っています。一緒に楽しく学んでいきましょう。

到達目標 / Attainment Objectives

中国語検定2級、3級レベルの実力を身につけることを目指します。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

中国語学習歴のある学生の参加を望んでいます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第一回	導入 第一課 キャンパス・ライフ	「把」構文、「只要~就~」構文、「除了~还/都~」構文 「動詞1+着+動詞2」構文
第二回	第一課 キャンパス・ライフ	「把」構文、「只要~就~」構文、「除了~还/都~」構文 「動詞1+着+動詞2」構文
第三回	第一課 キャンパス・ライフ	「把」構文、「只要~就~」構文、「除了~还/都~」構文 「動詞1+着+動詞2」構文
第四回	第二課 難関	兼語文、可能補語、「无论~都/也~」構文、「越来越~」構文
第五回	第二課 難関	兼語文、可能補語、「无论~都/也~」構文、「越来越~」構文
第六回	第二課 難関	兼語文、可能補語、「无论~都/也~」構文、「越来越~」構文
第七回	第三課 職業選択観の変化	「不管~都/也~」構文、「即使~也~」構文、「又~又~」 構文、「不但~而且~」構文、「以~为~」構文
第八回	第三課 職業選択観の変化	「不管~都/也~」構文、「即使~也~」構文、「又~又~」 構文、「不但~而且~」構文、「以~为~」構文
第九回	第三課 職業選択観の変化	「不管~都/也~」構文、「即使~也~」構文、レポート発 表、「不但~而且~」構文、「以~为~」構文
第十回	第四課 愛情・肉親の情・友情	進行形、副詞「才」の主な用法、「A不如B」構文、 「像~似的」構文
第十一回	第四課 愛情・肉親の情・友情	進行形、副詞「才」の主な用法、「A不如B」構文、 「像~似的」構文
第十二回	第四課 愛情・肉親の情・友情	進行形、副詞「才」の主な用法、「A不如B」構文、 「像~似的」構文
第十三回	第五課 腹が減っては戦はできぬ	レポート発表(各課のテーマに関連した内容)
第十四回	第五課 腹が減っては戦はできぬ	レポート発表(各課のテーマに関連した内容)
第十五回	第五課 腹が減っては戦はできぬ	レポート発表(各課のテーマに関連した内容)

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

事前に予習をしてください。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	
平常点(日常的)	50 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

『中国は今』

孟 広学・本間 史 / 白水社 / /

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

授業の概要 / Course Outline

授業で、電車の中で、飲食店の行列で、職場で、我われは日常生活において様々な社会的「集まり」の場面に参与している。KY(空気読めない／空気読め)という流行り言葉が口にされると、「空気」とは第一義的にはこの社会的「集まり」の場を満たしているものであるだろう。この授業では、社会的「集まり」の場において人びとの振る舞いにおける秩序がいかんにして保たれているか(これにはある意味で「空気」がいかんにして読まれているか)という問いが含まれている)を論じたErving Goffman『Behaviour in Public Places: the Social Organization of Gatherings』の輪読を通じ、我われが普段そのような社会的「集まりの場」においていかに振る舞っているかを理解し、そしてそのような日常生活における些細な振る舞いを研究対象にする社会学のセンスを身に着ける訓練を行う。

到達目標 / Attainment Objectives

- ・身近な日常生活で行われる些細な行為を、社会学的な事象として捉える感覚を身につける。
- ・社会学の基本文献の内容を理解する程度の英文読解力を身につける。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	オリエンテーション	講義内容の紹介、進め方の決定等
第2回	Erving Goffmanの社会学	Goffmanの社会学とその社会学史の中での位置づけを概説
第3回	第1部:「Introduction」	輪読
第4回	第1部:「Introduction」	輪読
第5回	第1部:「Introduction」	輪読
第6回	第2部:「Unfocused Interaction」	輪読
第7回	第2部:「Unfocused Interaction」	輪読
第8回	第2部:「Unfocused Interaction」	輪読
第9回	第3部:「Focused Interaction」	輪読
第10回	第3部:「Focused Interaction」	輪読
第11回	第3部:「Focused Interaction」	輪読
第12回	第4部:「Accessible Engagements」	輪読
第13回	第4部:「Accessible Engagements」	輪読
第14回	第4部:「Accessible Engagements」	輪読
第15回	第5部:「Interpretations」	概説

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(検証テスト)	50 %	基本的に出席点と授業への取り組み状況の評価するが、レポート等の提出により加点する場合があります。
平常点(日常的)	50 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

訳出は主に一行ずつの輪読形式で行うが、わからない場合はパスしてもかまわない。量をこなすことによって、皆で徐々に英文読解に慣れてゆくかたちをとる。

教科書 / Textbooks

Erving Goffman (1963)『Behavior in Public Places: Notes on the Social Organization of Gatherings』, Free Press.
適宜使用部分をコピーして渡すため、購入の必要はない。

参考書 / Reference Books

英和辞書があるとよい。英英辞書もあればなおよし。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

担当者名 / Instructor 吉田 幸治

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本講義では、社会学の入門書であるRandall CollinsのSociological Insight(『社会学的洞察力』)を講読する。このテキストでは、近代社会における合理性の問題や、社会の秩序形成と宗教の関係といった、社会の基本的なあり方を把握する上で重要となる論点について考察されている。講義ではそれらの考察を通して、社会学を学ぶ上で必要な基礎知識や発想について理解を深めることを目的としている。またさらには、その第1章と第2章を受講者全員で輪読することにより、テキスト内で議論されている内容を正確に訳出できる技量の獲得をも目指す。なお、テキスト中で言及されているウェーバーやデュルケム等の社会学に関する重要な基礎概念については、講義中で適宜解説を行う。

到達目標 / Attainment Objectives

テキスト本文において論じられている内容の正確な訳出と、社会学的基礎知識の理解。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の概要と導入	第1回授業時において、次回の翻訳担当者を決定。以下、毎回翻訳担当者を決め、受講者全員によるテキストの読み合わせを進めながら、適宜内容の解説や議論を行う。ただし受講者の人数やテキスト講読の進捗等により、読み合わせの方法については変更もありうる。
第2回～14回	輪読	
第15回	輪読、講義総括	読み進めてきたテキストの内容について、総括を行う。

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

事前に社会学史に関する簡単な概説書(入門書程度でよい)を講読しておくことが望ましい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	出席状況、担当箇所の翻訳、講義期間中に実施する小レポートによって評価を行う。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

受講生によるテキストの翻訳を中心に講義を進めるが、その進め方については、第1回講義時に受講生と協議を行う。原則的には輪読形式を予定している。なお、受講にあたっての最低限のルールとして、自分の翻訳担当箇所だけでなく、他の担当者分の箇所も必ず読んでくれることが求められる。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
Sociological Insight	Randall Collins / Oxford University Press / /
上記テキストのうち、Chapter1.The Nonrational Foundations of Rationality、及びChapter2.The Sociology of Godを講読する予定である。なお使用する部分は講義で配布するので、テキストを購入する必要はない。	

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
社会学のあゆみ	新睦人 他著 / 有斐閣(有斐閣新書) / 4641088578 /
社会学のあゆみパート2～新しい社会学の展開～	新睦人 他著 / 有斐閣(有斐閣新書) / 4641090467 /
リフレクション～社会学的な感受性へ～	野村一夫 著 / 文化書房博文社 / 4830106964 /
現代社会学講義	佐藤慶幸 著 / 有斐閣(有斐閣ブックス) / 4641086281 /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

外国語文献研究 SH

本文無し

担当者名 / Instructor単位数 / Credit授業の概要 / Course Outline到達目標 / Attainment Objectives履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study授業スケジュール / Course Schedule(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods教科書 / Textbooks参考書 / Reference Books参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Referenceその他 / Others

カウンセリング論 S

13057

担当者名 / Instructor 高垣 忠一郎

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

現代という時代や社会は人間の心にどのような影響をもたらし、どのような問題を引き起こしているのか？「癒し」「心の時代」「心の教育」「心の商品化」「心の専門家」「心理主義」「臨床心理士」「心理治療」「カウンセリング」「心のケア」などの言葉が氾濫しているなかで、「心」に注目が集まっているように見える。なぜ今日の社会で「心」がこれほど問題になるのか？その背景にはなにがあるのか？「心の問題」をどのようにとらえればいいのか？カウンセリングは「心の問題」をどのようにとらえ、どのようにアプローチするのか？現代社会における、カウンセリングの意義、役割、その功罪は何なのかを考えると共に、主要なカウンセリングの理論や技法についても、具体的に紹介する。

到達目標 / Attainment Objectives

- ①心理臨床、カウンセリングが注目される社会的背景や歴史的背景を理解すること。
- ②カウンセリングとはどういうものであるのか、その基本を理解すること。
- ③カウンセリングのいくつかの理論や方法を具体的に理解すること。
- ④以上を通じて現代人の心の問題とそれへの援助のあり方を考えられるようになること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

履修しておくことが望まれる科目は特にないが、単にカウンセリングや心についての知識を得るのではなく、自分自身の頭と心とをくぐり抜けて、心の問題や今日の社会のあり方を真剣に考えてみる心構えを持っていて欲しい。授業が自分自身と向き合い、自分の心に問いかけるきっかけになれば結構なことだし、その心を通じて、自分の生きる時代や社会を深く考察するきっかけになればもっとよい。とりわけ、「平和」が脅かされている情勢のなかで、「平和」と「心」の問題に関心をもつ人の参加を歓迎する。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	カウンセリングとはどういうものか？	相談・コンサルテーション・心への援助
2	カウンセリングと物語	人生・自己物語・自分探し
3	カウンセリングの歴史	カウンセリングの3つの起源・日本での小史
4	今日の社会とカウンセリング(1)	心の時代・心の商品化・感情労働
5	今日の社会とカウンセリング(2)	生涯学習社会・自己実現・消費社会
6	不登校・ひきこもり・ニート問題とカウンセリング	高速道路・構造改革・規制緩和
7	カウンセリングの基本問題	カウンセリングの目的・症状・
8	カウンセリングの人間観と基本的態度	受容・共感的理解・自己一致
9	カウンセリングのプロセス	傾聴・応答・展開
10	来談者中心療法	ロジャース・自己概念・経験
11	認知療法	認知の歪み・うつ・感情
12	交流分析(1)	エゴグラム・チェックリスト
13	交流分析(2)	自我状態・トランザクション・ゲーム・ラケット
14	精神分析	フロイト・無意識・ヒステリー・夢分析
15	予備	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	80 %	心の問題と社会的背景についての理解やカウンセリングの基本概念についての理解を試す問題を出す。文章の構成や自分の考え、理解をきちんと論理的に述べる事ができているかどうかを重視する
平常点(日常的)	20 %	2回程度それまでの授業の理解度を確かめるためのレポートを課す

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「心の専門家」はいらない	小沢牧子 / 洋泉社 / /
管理される心	A.R.ホックシールド / 世界思想社 / /
共に待つ心たち	高垣忠一郎 / かもがわ出版 / /

生きることと自己肯定感

高垣忠一郎／新日本出版／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

家族関係論 S

13064

担当者名 / Instructor 櫻谷 真理子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

今日、社会構造の急激な変化に伴い、さまざまな家族問題が出現している。育児不安、児童虐待、家庭内暴力、夫婦、親子の断絶の危機等、家族の崩壊へもつながりかねない不安定要素が増大し、あらためて家族のあり方が問われている。そこで、家族がお互いの人格を尊重しあい、独自の存在として生きることを妨げる要因及び家族福祉の課題を探りながら、これからの家族について考えてみたい。

到達目標 / Attainment Objectives

- ・家族の定義、概念、家族の動向に関する基本的な理解を得る。
- ・家族問題について幅広く理解できる。
- ・家族福祉の現状や課題についての理解を深める。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	導入講義	家族とは何か
2	現代家族の諸相(1)	少子化、核家族化、子どもの価値の変化
3	現代家族の諸相(2)	結婚観の変化、晩婚化、性別役割分業、専業主婦
4	母親一人の子育てと育児不安	子育て家族の孤立化、育児文化の衰退
5	3歳児神話の影響	ポウルビィ、母性愛剥奪理論
6	父親の役割、育児参加	父性、育児休業
7	子どもを虐待する家族の特徴	生活問題、親の養育体験、子育ての技術
8	子ども虐待と家族援助	親業訓練、子育て支援ネットワーク
9	思春期、青年期危機と親子関係(1)	「良い子」の苦しみ
10	思春期、青年期危機と親子関係(2)	親からの自立
11	機能不全家族の中の子ども	機能不全家族、アダルトチルドレン
12	ドメスティック・バイオレンスの中の子ども	家庭内暴力、シェルター
13	カナダにおける子どもの権利擁護と家族支援	アドボカシー、子ども家庭福祉
14	世界に学ぶ子育て支援、家族支援の方向	保育保障、経済的支援、父親の育児参加
15	総括講義	これからの家族のあり方

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	70 %	通常の試験を実施する。
平常点(日常的)	30 %	レポートを提出してもらうことがある。また、コミュニケーションカード等による授業の感想や意見も評価に加えることがある。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
子育て支援の現在	垣内国光、櫻谷真理子 / ミネルヴァ書房 / 4-623-03643-XC3336 /

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

家族社会学 S

13097

担当者名 / Instructor 斎藤 真緒

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

私たちは、「学校」「企業」「市民社会」など、多様な集団および組織に属しているが、自分にとって最も身近な集団が「家族」である。家族をめぐる諸問題は、非常に身近な問題であるだけに、社会的・個人的関心の高い学問領域である。本講義では、「家族」というフィルターを通して、戦後日本社会の生活構造の歴史的形成過程および今日的課題について検討する。

到達目標 / Attainment Objectives

本講義では、家族社会学に関する理論的知識を習得すると同時に、こうした分析ツールを用いて、自分の家族関係を含む現代の家族変動の趨勢を客観化し、批判的に読み解くことを目標とする。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	家族研究の課題	家族の定義
第2回	家族社会学の歴史①	ライフサイクル ライフコース ライフスタイル
第3回	家族社会学の歴史②	パーソンズ 近代家族 社会システム
第4回	「近代家族」以前の家族	伝統家族 親族
第5回	「近代家族」の成立	アリエス 「子ども」、主婦、「母性愛」
第6回	日本における「近代家族」の発展	戸籍制度、専業主婦、企業戦士、性別役割分業、夫婦別姓
第7回	「近代家族」と結婚①	宮廷恋愛、恋愛結婚、ロマンティックラブ・イデオロギー
第8回	「近代家族」と結婚②	未婚化、晩婚化、新・専業主婦願望
第9回	「近代家族」の病理①	デートDV、恋愛依存症、共依存
第10回	「近代家族」の病理②	閉鎖的育児、三歳児神話、児童虐待
第11回	「近代家族」のゆらぎ① 結婚をめぐる変化	離婚 再婚 ドメスティック・パートナー法
第12回	「近代家族」のゆらぎ② 子育ての「社会化」	パパ・クォータ
第13回	「近代家族」のゆらぎ③ 介護の「社会化」	介護保険制度、遠距離介護、男性介護者
第14回	「近代家族」のゆらぎ④ 生殖技術	生殖技術 不妊
第15回	私たちがつくるこれからの家族	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

事件、映画、小説といった家族に関するトピックスを意識的にチェックすること。講義の理解を深めるために、講義に関連する参考文献を適宜提示する。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	50 %	
平常点(日常的)	50 %	講義の際にミニレポートを提出してもらう場合がある。

本講義は、一方向的な講義ではなく、受講生に自らの問題として考えてもらうことを目指しているために、ミニレポートを通じた日常点評価を重視する。したがって恒常的な出席が難しい学生には適さない。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

受講に際しては、社会学の基礎知識を有していることが望ましい。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

レジュメについては、WebCTにおいて公開する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

学校カウンセリング論 S

20368

担当者名 / Instructor 野田 正人

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

【本科目は、小学校教諭一種免許状課程の必修科目です】

この科目は、子ども社会専攻の「子どもと発達分野」科目群に位置づけ、小学校一種免許状取得に際しては必修科目です。

学校という場所は、人の人生に関する指導を行う機会が多岐にわたるにもかかわらず、その指導方法に関して体系だった構造をなかなか持ち得ないという特性がある。

本講義では、学校という場と、カウンセリングという支援方法を如何に融合できるのかを考えると同時に、その方法・技法に関しても学びたいとする。特にカウンセラーではなく、教師としてこの課題にどう取り組むかを中心に考えることとする。

到達目標 / Attainment Objectives

学校におけるカウンセリングの有用性と課題を知り、活用の端緒を経験する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	学校とカウンセリング	
2	学校カウンセリングの特性	
3	カウンセリング活用の場面	
4	カウンセリングにおけるアセスメントの意義	
5	カウンセリングの前提 1 発達	
6	カウンセリングの前提 2 虐待	
7	カウンセリングの方法1 信頼関係	
8	カウンセリングの方法2 場面構造	
9	カウンセリングの方法3 聴くこと	
10	カウンセリングの方法4 聴くに徹する	
11	カウンセリングの方法5 記録	
12	カウンセリングの方法6 指示と支持	
13	学校カウンセリングの役割	
14	スクールカウンセラーとの共同	スクールソーシャルワーカーとの共同
15	学校カウンセリングの課題と展望	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	60 %	各自の到達度を表現することを求める
平常点(日常的)	40 %	系統的に学習することが必要となるので、頻繁に小課題を出すので、授業中のアナウンスに留意すること

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
相談活動に生かせる15の心理技法	「月刊学校教育相談」編集部／ほんの森出版／4-938874-43-1／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

学校カリキュラム論 S

20335

担当者名 / Instructor 谷川 邦宏

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

【本科目は、小学校教諭一種免許状課程の必修科目です】

教育課程やカリキュラムは、教育内容としての教材や、児童の学習経験を、組織的に編成するために用意された教育計画である。本講義では、我が国の学習指導要領の歴史的展開や社会状況の変化についての理解を踏まえ、特に小学校段階の教育課程に焦点をあて、その特色、編成原理、規定内容などについて理解を深めていく、また、小学校現場におけるカリキュラム開発や評価方法、諸課題、潜在的なカリキュラム論等についても考察していく。

到達目標 / Attainment Objectives

- I、カリキュラム(教育課程)の語源を理解し、教育課程の構成についての歴史的変遷について学ぶ
- II、日本における小学校教育課程が、どのように構成され変貌して来たかを理解する。
- III、教育課程編成における、基本的原則と構成要件を理解し説明できる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

子どもと教育の歴史

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	「学習の進め方について」グループ編成の確認	学習態度 討論の進行 資料の収集
第2回	「カリキュラム(教育課程)の概念」	語源 教科課程 教育内容 教育計画
第3回	「近代日本の教育課程の歩み」	学制発布と近代学校の発足 小学教則 小学校教則綱領
第4回	「戦前・戦時の小学校教則綱領」	国民学校の教育課程 皇民練成の思想
第5回	「戦後日本の教育課程の歩み」	軍国主義から民主主義へ 47年・51年改訂の指導要領
第6回	「教育課程の基本を占める学習指導要領」	試案 通知 公示 中央教育審議会 法的拘束力
第7回	「教育改革の流れと学習指導要領の変遷」	臨時教育審議会 教育改革国民会議 教育再生会議
第8回	「教育課程編成論の変遷」	
第9回	「教育課程をどう編成するのか」	指導要領 教科書
第10回	「地域特性と教育課程」	学校評価 学校評議会
第11回	「各地の教育課程から学ぶ①」	教育特区
第12回	「各地の教育課程から学ぶ②」	
第13回	「教育課程編成の構成要件」	基本要件 教育条件 前提条件 教育課程編成の制度
第14回	「教育課程編成の基本原則」	学校を基礎に
第15回	「今日的課題に応える教育課程をどう編成するのか」	

(学教科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

学校現場の理解のために時間に余裕があれば、学校ボランティアを経験することが望ましい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	30 %	課題の理解・感想文の提出を基本とする。
平常点(検証テスト)	40 %	カリキュラム(教育課程)の基本原則・構成要件の理解と説明。
平常点(日常的)	30 %	出席を極めて重視する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教育についての情報を出るだけ収集すること、インターネットを利用して新聞社の教育関係ニュースを観ることを勧めたい

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
小学校学習指導要領解説(総則編)	文部省(旧版)///
新しい時代の教育課程	田中耕治・水原克敏・三石初雄・西岡加名恵 著 / 有斐閣 ///

今年度は学習指導要領の改訂の年で08年3月末までに新指導要領の告示がされる予定となっているが出版については遅れることが予想される。新旧対比の必要もあるから、とりあえず旧版を購入しておくこと、新版については情報が判明しだい指示する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

市民立学校をつくる教育ガバナンス

池上洋通・荒井文昭・安藤聡彦・朝岡幸彦編著 / 大月書店 / /

授業を変える学校が変わる

佐藤学 著 / 小学館 / /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

学校文化・学校空間論 S

20338

担当者名 / Instructor 四方 利明

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

学校には、学校組織のなかで暗黙に共有された規範や行動様式、すなわち学校文化が存在する。本講義では、学校文化や、学校空間など学校文化を支えるさまざまな装置に焦点をあて、それらを主として社会的なアプローチから考察することを通して、学校文化をとらえる視座を獲得し、広い視野と深い洞察力をもって学校という場をとらえることができるようになることを目指す。

到達目標 / Attainment Objectives

世間に流布された学校の定型的な語りを相対化し、主観的かつ感情論的な学校論から脱して、学校に対して多様で確かな視点でもって考察することができるようになる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーション	中心／周縁、境界
2	学校建築論(1)	オープンスペーススクール
3	学校建築論(2)	ツリー／セミラチス、境界人
4	学校建築論(3)	学校施設の複合化
5	学校建築論(4)	学校と地域社会
6	学校トイレ考	日常／非日常、中心／周縁、アジール
7	映画にみる学校(1)	夜間中学
8	映画にみる学校(2)	近代学校、教える／学ぶ
9	「はだしのゲン」がいた風景(1)	境界、他者、学校司書、境界人
10	「はだしのゲン」がいた風景(2)	学校図書館
11	「はだしのゲン」がいた風景(3)	メディア
12	「はだしのゲン」がいた風景(4)	近代、成長
13	「はだしのゲン」がいた風景(5)	越境、戦争、記憶
14	「はだしのゲン」がいた風景(6)	表現史、文化史
15	まとめ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind 割合 / Percentage 評価基準等 / Grading Criteria etc.

レポート試験 100 % 到達目標にのっとって、まとまったレポートが作成されているかどうか。

この授業の後半では、受講生による発表を取り入れる予定にしており、発表を行ったか否かによって、レポートの内容と枚数が大きく変わってくるので、注意されたい。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

この授業では、前半は教員が講義し、後半はテキストを用いた文献講読を行う予定にしているため、主体的かつ積極的に参加できる方のみ受講していただきたい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「はだしのゲン」がいた風景 吉村和真・福岡良明／粹出版社／

参考書 / Reference Books

書名 / Title 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
学校の境界 中島勝住／阿吽社／
学校のモノ語り 教育解放研究会／東方出版／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

学校保健 S

20342

担当者名 / Instructor 三浦 正行

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

公表される多くの「客観的」データを見る限り、世界中が羨むほどの健康状態にある日本。そして、それを「支えて」いるのが学校保健と言っても過言ではない。学校保健は、教育の場における「保健教育」・「保健管理」が総合されたものである。しかし、その学校保健が本当に「教育的な営み」の中で実施されるかどうかは、真の「健康づくり」のための日常的なさまざまな努力との関係が大きい。

この講義では、とくに学校保健の保健教育に携わる教師として身につけるべき「健康づくり」のうえでの「教養」を大切にしていく。そして、学校教育の場における「健康づくり」の諸問題が、地域・国レベルでの「健康づくり」のあり方と密接に関わっていることをしっかりと結び付けて考えていく。

到達目標 / Attainment Objectives

いわゆる「健康の主人公」づくりが、学校保健の目的と考える。子どもたちが「健康の主人公」に育っていくための鍵となるのが「人とコトとモノとの関係性」と言える。ここでは、健康における「人とコトとモノとの関係性」について深い理解まで到達し、授業実践者として、健康をとりまく諸問題の「教材化」への基礎力を身につけることを目標とする。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	ごくありふれた問題としての「健康とは何か」を考える。	「WHO憲章」、「健康権」
第2回	日本の「健康度(水準)」を考える	「平均寿命」「少子高齢社会」
第3回	「世界の中の日本の健康状態」を考える	「国際保健」「アルマ・アタ宣言」「オタワ憲章」
第4回	「子どものおかしさ」の問題を考える	「虫歯・近視・アレルギー」「生きる力」
第5回	健康づくりの基本「健康の三原則」を考える	「睡眠」「栄養」「運動」
第6回	「中間まとめ」のテスト・レポート	
第7回	「学校保健」の歴史・沿革を知る	「学校病」「身体検査」「保健室」
第8回	「学校保健」を担う人々①	「校医」「養護教諭」
第9回	「学校保健」を担う人々②	「一般教職員」「医療関係者」
第10回	「教育としての学校保健」とは何かを考える	「教育的な営み」「学校保健診断」「保健管理」「保健教育」
第11回	保健教育の重要性を考える	「学習指導要領」「保健学習」「教材編成」
第12回	「中間まとめ」のテスト・レポート	
第13回	学校保健実習—「日赤」による講習①	
第14回	学校保健実習—「日赤」による講習②授業実践への適用を考える	「授業試案」「指導案」
第15回	授業実践への適用を考える—「まとめ」にかえて	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(検証テスト)	40 %	2回の中間テスト(20×2)
平常点(日常的)	60 %	2回の中間小レポート(15×2)と最終レポートとしての「模擬指導案」(30)

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

新聞に掲載された健康問題記事等によく目を通しておくことが、講義内容の理解の一助となる。また、身近なところで起こっている健康に関わる諸問題にも敏感でいて欲しい。

教科書 / Textbooks

特に無し

参考書 / Reference Books

講義の中で、紹介していく。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

活字メディア分析 S

13082

担当者名 / Instructor 福田 徹

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

様々な情報が入り乱れるIT社会、インターネット社会で、新聞を中心とした活字メディアは情報の洪水に押し流されないための確かなメディアに位置づけられる。元新聞記者として国内外の事件や政治・行政などを取材した体験をもとに活字メディアの取材・編集の実態を解説し、テレビのニュース解説者の体験から「読むニュース」と「聞くニュース」の違いを考察。毎週、注目したい記事を取り上げ、時事問題を解説、メディア情報を主体的に読み解く姿勢を啓発する。さらに、新聞を活用する学習活動・NIEや新聞でコミュニケーション力をはぐくむ方を学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

- (1) 活字メディアに親しむことによって、社会への関心を高め、時事知識、一般常識を身に付ける。
- (2) 様々なメディアの情報を吟味して読み解く習慣を身に付ける。
- (3) 活字メディアから、文章の基本的な書き方を学ぶ。
- (4) 新聞を活用する学習活動・NIEの基本的知識を得る。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	情報社会を生きる(70分)とメディアとの接触アンケート(20分)	確かな情報、心を揺さぶる記事、生きる力のパトナリレー
第2回目	メディア比較(60分)とアンケート分析(30分)	聞くニュース、読むニュース、インターネットと新聞、この1週間の注目したい記事
第3回目	ニュースとは	ニュースバリュー、人間性、社会性、国際性、地域性、記録性、この1週間の注目したい記事
第4回目	新聞制作の実際	新聞の版建て、面建て、構成、この1週間の注目したい記事
第5回目	言論機関と報道機関	メディアの社会的役割、署名と匿名、この1週間の注目したい記事
第6回目	主観報道と客観報道	新聞社の違い、記者のフィルター、数字の魔術、この1週間の注目したい記事
第7回目	編集のプロの技—取材	取材の心得、夜討ち朝駆け、パソコンの誘惑、この1週間の注目したい記事
第8回目	編集のプロの技—見出し	凝縮の文学、ニュースの顔、分からん3段、昭和史に残る名句、この1週間の注目したい記事
第9回目	編集のプロの技—記事執筆	記事の書き方、間違った表現・言葉、5W1H、この1週間の注目したい記事
第10回目	編集のプロの技—校閲	間違いのない文章、校閲の極意、点検の仕方、この1週間の注目したい記事
第11回目	採点者から見た良い小論文とは	入社試験、かりやすい文章、起承転結、漫画の構成、短文、この1週間の注目したい記事
第12回目	メディアは真実を伝えているか1	真実を伝えない七つのパターン、昭和の三大誤報、平成の三大誤報、合成写真、この1週間の注目したい記事
第13回目	メディアは真実を伝えているか2	新聞社の違い、比べ読み、この1週間の注目したい記事
第14回目	NIE1(70分)とメディアとの接触アンケート(20分)	新聞で高まる5つの力、学びの動機づけ、学力、社会への関心、この1週間の注目したい記事
第15回目	NIE2(70分)とメディアとの接触アンケート分析(20分)	NIEの実際、メディアとの接触アンケート、この1週間の注目したい記事

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

授業によっては、その日の朝刊を学生に購入してもらうことがある。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	受講者が、授業で扱った内容から、印象に残ったテーマを選び、意見を記す。情報を吟味し、論理的に考え、正しい文章表現で、相手に分かりやすく伝えるように記述されているかどうかをみる。

平常点(日常的)

50 %

受講者は開講期間中、少なくとも1回は「この1週間で気になった記事」を紹介し、感想を述べ、課題・問題等を指摘する。発表の内容と議論への発言内容を評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

新聞を知る 新聞で学ぶ

妹尾彰 福田徹 / 晩成書房 / 授業内容を整理して理解する参考書である

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

活字メディア論 G

13227

担当者名 / Instructor 渡辺 悟

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

戦後史の現場に立ち会った新聞記者の取材活動や思いを追体験することでジャーナリズムの可能性と課題を探る実践新聞学。戦争、政治、国際、社会、学芸などのジャンルから「事件」をピックアップし、歴史に個人(記者)がいかに肉薄したか、し得なかったか再現を試みつつ、それぞれの事件の今日的意味も考える。

到達目標 / Attainment Objectives

- ・スクープを狙うジャーナリズムの生理と論理、内的な仕組み(出稿者と編集者との緊張関係など)を理解することで、新聞が無謬ではあり得ないという事実も含めた立体的な情報リテラシーを体得する。
- ・歴史を、無機質な年表としてではなく、生きた人間の営みの有機的な集合体として理解し、併せて戦後史＝時事問題の大まかな土地鑑を獲得する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	新聞概論	活字離れ、新聞離れの中の未来
2	封印された原爆報道	悔悟から執念へ
3	敗戦の日の報道	それでも書く
4	サンフランシスコ条約	クビを賭けた社論
5	下山事件	コミ(聞き込み)の勝利
6	日本兵の帰国	心の闇照らした名古屋弁
7	3億円事件	誤報の構造
8	赤ちゃんあっせん事件	?が生んだ大スクープ
9	富士・八幡合併	正しい仮説をどう立てるか
10	「女のしんぶん」	グチを変革の力に
11	考古学報道	情熱が歴史を塗り替えた
12	西山事件	倫理に隠れた国家のウソ
13	ポル・ポト大虐殺	悲劇を発掘出来なかった悔い
14	水俣病	なぜ記者はたじろいだか
15	ある記者のがん闘病記	記者の「業」ということ

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	提示する特定のテーマについて、定められた字数で書いてもらう。結論の是非優劣ではなく、結論に至る考え方の筋道と説得力を基準に評価する。
平常点(日常的)	50 %	ともに考える場としたいので、出席状況を評価対象とする。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

講義は過去の特定の事件の解説にとどまらない。常に現在との間を行き来しつつ進めるので、新聞、放送、映画、音楽、読書などを通じて、より幅広くより意識的に「時代」を呼吸するよう努めてもらいたい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
20世紀事件史 歴史の現場	毎日新聞社 / 毎日新聞社 / 4-620-31454-4 / テーマに該当する箇所を事前に読んでおく

参考書 / Reference Books

推薦図書については講義のつど紹介していきたい。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

担当者名 / Instructor 竹濱 朝美

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

テーマ: 気候変動・環境保全と消費者

この講義では、気候変動・環境保全と消費生活とのかかわりについて、考察する。次の諸点を取り上げる。気候変動 (climate change、温暖化) が消費者の生活に及ぼす影響、温室効果ガス削減に対して消費者が果たすべき責任について考える。現代の大量消費スタイルから発生する環境負荷、食生活から発生する温暖化負荷の実態を学ぶ。危険な気候変動を緩和するためのemission pathway、温室効果ガスの削減量と削減期限、削減ペース、消費者部門における温室効果ガス削減対策を学ぶ。気候変動に関する消費者向け情報コミュニケーションについて考察する。

到達目標 / Attainment Objectives

- ・温室効果ガス削減は、なぜ、緊急かつ大量に必要なのか、「気候変動の影響・被害に対する対策は、なぜ、緊急に必要なのか」、「climate changeは、なぜ、消費者政策として、重要な課題なのか」を理解することが、第一の目標である。
- ・学生一人一人が、気候変動は自らの生活に直接かつ深刻な影響を及ぼす問題として、自分のライフスタイルを振り返る契機にする。
- ・climate science, 気候変動政策に関する英文の資料、英文の科学ニュースを読むことを通じて、EUで報じられる気候変動ニュースと日本のマスコミ報道の違いに気づく。
- ・climate change の現状、温室効果ガスの長期的影響、climate inertia に関する基礎的知識を得る。climate changeの影響、被害最小化の対応策について、基礎知識を獲得する。
- ・消費者部門から発生する環境負荷について、基礎的知識を獲得する。
- ・家庭部門における温室効果ガスの削減対策について、理解を深める。日本とEUにおける温室効果ガス削減策を比較し、日本の最策は、どこに問題があるのか、考える。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし。

この科目では、IPCCの第四次報告書や、EUの政策文書など、直接に、英文資料を読む。気候変動について、より専門的に掘り下げた講義となる。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	はじめに。なぜ、気候変動が消費者政策にとって重要か。海外の気候変動ニュースとビデオ。	
2	気候変動に関する海外のDVDを見る。An Inconvenient Truth、または、Global Dimming	
3	IPCC第四次報告書の概略、温度上昇、海面上昇の予測	
4	温室効果ガスの長期的影響。温室効果ガスの大気中寿命。climate inertia。海洋における熱エネルギー。重要なthresholds。「危険な気候変動」。2°C、3°C上昇の意味。	小レポートを行う。
5	温度2°C上昇、3°C上昇のリスク。温室効果ガス安定化濃度。550ppm安定化と気温上昇。排出削減パス。必要な削減量とpeakingの期限。	
6	京都議定書と各国の温室効果ガス排出量。世界の温室効果ガス排出量の推移予測。UNFCCCの温室効果ガス排出量のデータを読む。	小レポートを行う
7	気候変動による被害と熱波対策。イギリスの熱波警報システム(Heat-Health-Watch)、EU、オーストラリアの熱波マニュアル。どのような人がハイリスクか？	
8	日本における気候変動の影響。台風、集中豪雨の予測、高潮リスク。海外における気象災害の予測。洪水被害とEUにおける洪水対策。	
9	海外の気象災害に対する対応策について、復習する。	小レポートを行う。
10	温室効果ガス削減策としての自然エネルギーの導入。風力、太陽光発電に関するEUの政策。ドイツの再生可能エネルギー政策。	
11	EUにおける再生可能エネルギーと気候保全対策の関係。EUの再生可能エネルギー目標、欧州における再生可能エネルギー産業の成長。	
12	交通部門における温室効果ガス削減策。EUにおける乗用車に対する二酸化炭素排出規制、飛行機旅行に対する規制。日本との比較。	小レポートを行う。
13	家庭部門における温室効果ガス削減策。住宅における断熱性能の改善。家電製品に関する省エネ製品の導入。海外の取り組み。	

14	気候変動による農産物生産への影響。日本の食糧自給率とフードマイレージ。オーストラリアの穀物生産と早魃の影響。ビデオを見る。	気候変動と食料政策への影響について、ニュースを読む
15	温室効果ガス削減策と、気候変動の影響に対する適応策について講義のまとめ。	最終の小レポートを行う。

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

講義では、主に、気候変動に関する最近の英文ニュース、資料を使用する。気候変動に関する最新の情報は、多くは、英文である。このため、授業中に配布する英文資料について、毎回、復習すること。十分な復習がなければ、授業内容を理解することは困難である。最終講義試験では、授業中に配布した英文資料から出題する。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	授業中の小レポート、および、最終講義における小レポートで判断する。 単位取得を希望するものは、必ず、最終の講義における小レポートを提出すること。 就職などで、提出できないものは、指定した期限内に、代わりに小レポートを提出すること。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

授業中に使用する資料の大半は、英文資料を予定している。単位修得のためには、授業中に配布する英文資料を「毎回十分に復習する」ことが不可欠である。

気候変動 (climate change、または温暖化) は既にかなり進行しており、温度上昇は今世紀中、進行する。気候変動がいかに深刻化しているかについて、消費者が正確に理解すること無しには、なぜ、緊急かつ大量に、温室効果ガス削減が必要か理解することができない。温室効果ガスの削減を実行するためには、消費者が気候変動の現状について正確な知識を持つことが必要であり、climate science (気候変動科学) の基礎知識は不可欠である。講義では、climate science に関するサイエンス情報、およびEUの政策文書、政策ニュースを取り上げる。これらの情報はほとんど英語である。英文資料を読むことが単位取得量上、不可欠である。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
呉世煌・西村多嘉子編、『消費経済学体系・3・消費者問題』、第9章、2005年。	／慶応義塾大学出版会／ISBN 4-7664-1211-7。／第9章。竹濱朝美、「地球温暖化の影響と家庭部門における二酸化炭素削減策」、
竹濱朝美、「気候変動をめぐる消費者向け環境情報——温暖化影響および家庭部門における二酸化炭素削減策——」『立命館産業社会論集』第41巻第2号、2005年12月。	／／／
IPCC, Climate Change 2007: The Physical Science Basis, Summary for Policy Makers, contribution of working Group I to the Forth Assessment Report of the Intergovernmental panel on Climate Change.	／／／インターネットより入手可能
「環境展望」、Vol. 2、3、4、5	日本科学者会議公害問題研究会、環境展望編集会編／実教出版／／
「温室効果ガス排出削減の道すじ」『日本の科学者』2007年12月、42巻。	竹濱朝美／本の泉社／／雑誌論文

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

環境省、温暖化ホームページ (<http://www.env.go.jp/earth/index.html#ondanka>)
 The Intergovernmental Panel on Climate Change (IPCC) (<http://www.ipcc.ch>)

その他 / Others

環境教育論 S

20279

担当者名 / Instructor 竹濱 朝美

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

温室効果ガス削減対策、気候変動の影響に対する適応策に関連して、市民向け環境教育の基礎的な知識を学ぶ。
 環境教育のなかで、気候変動・温暖化がどのように取り上げられてきたか、市民向け環境教育プログラムの事例について学ぶ。市民レベル、地域自治体レベルで取り組める気候変動対策、気候変動に対する適応策を学ぶ。
 授業中に数回の小レポートを実施し、到達度を確認する。

到達目標 / Attainment Objectives

目標
 温室効果ガス削減対策、気候変動の影響に対する適応策に関連して、市民向け環境教育の基礎的な知識を学ぶ。
 環境教育のなかで、気候変動・温暖化がどのように取り上げられてきたか、市民向け環境教育プログラムの事例について学ぶ。市民レベル、地域自治体レベルで取り組める気候変動対策、気候変動に対する適応策を学ぶ。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	気候変動に関するニュースおよびビデオ。気候変動に関する温室効果ガス削減対策と適応策の概略	
2	温暖化の基礎知識1 (気温上昇予測、海面上昇予測、北極・南極の氷の減少予測)	
3	温暖化の基礎知識2 (水資源への影響予測、食料農産物生産への影響予測、水産資源への影響予測、生態系への影響予測、洪水被害予測、干ばつ被害予測)	
4	EUと日本における気候変動に関する市民啓発プログラムの比較:小レポート①	
5	温室効果ガス削減をめぐる温室効果ガス濃度安定化とemission pathways(削減経路),削減の量と時期の条件、先進国の削減責任。	
6	温室効果ガス削減対策と環境教育1 (再生可能エネルギー教育)	
7	温室効果ガス削減対策と環境教育2 (交通部門の対策と建築部門、省エネ対策)	
8	温室効果ガス削減策に関する環境教育の比較(EUと日本)、小レポート②	
9	日本の学校教育カリキュラムにおける環境教育の歴史: 中学校および高校における学習指導要領と環境教育、温暖化問題の位置づけ	
10	自治体における温暖化対策と環境教育1: 自治体における再生可能エネルギーの普及政策、省エネ対策	
11	自治体における温暖化対策と環境教育2: 自治体における市民啓発の取り組み	
12	環境NGOにおける温暖化対策と温暖化教育: 主な環境NGO、環境NGOによる温暖化キャンペーンの事例、NGOの役割。	
13	気候変動災害と防災教育: 洪水と熱波に関する防災対策および防災教育の事例(EU、日本、アメリカ)	
14	ビデオおよび海外の気候変動災害に関するニュース、小レポート③	
15	講義のまとめ、環境教育における気候変動対策の教育の役割について、小レポート④ (単位取得を希望するものは、必ず最終の小レポートを受けること)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	講義中に数回の小レポートを実施する。これを提出すること。

単位取得を希望する学生は、必ず、最終講義における小レポートを受けること。単位取得を希望するものは、必ず、最終の小レポートを受ける必要がある。

就職活動などで、最終の小レポートを授業中に提出することができないものは、事前に申し出て、別途、期限内にレポートを提出すること。

評価方法は、平常点100%(講義中に課す小レポートにより評価する。提出できなかったものは、授業中に指定する期限内に、代わりのレポートを提出しなければならない。)

就職活動などで、最終の小レポートを授業中に提出することができないものは、事前に申し出て、別途、期限内にレポートを提出すること。評価方法は、平常点100%(講義中に課す小レポートにより評価する。提出できなかったものは、授業中に指定する期限内に、代わりのレポートを提出しなければならない。)

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

授業中に配布する英文資料について、自分で読めるようにすること。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「環境展望」Vol.3, Vol.4, Vol.5。	日本科学者会議公害環境問題研究委員会／実教出版／／
、「市民・地域が進める地球温暖化防止」	和田武・田浦健朗／学芸出版社／／
Change: How can you control climate change?	／／／
Carbon calculator (http://www.mycarbonfootprint.eu/)	／／／
「飛躍するドイツの再生可能エネルギー—地球温暖化防止と持続可能社会構築をめざして」	和田武／世界思想社／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

UNFCCC, IPCC、国立環境研究所、環境省の気候変動に関するサイト。

その他 / Others

担当者名 / Instructor 山口 歩

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本講義は、ライフスタイルと環境負荷の関係を問うものである。

よく知られているように、温暖化をくいとめるために必要な二酸化炭素の削減量は、現状の約60%と伝えられる。この量は、現状の省エネやリサイクル活動を積み重ねることで達成できるレベルをはるかに超えているように思われる。これを問題設定の出発点とする。

この問題を根本的に解決していくには、現今の生活スタイルを劇的に転換していく必要がある。基本的にはエネルギー消費を劇的に減らすことであるが、それが可能となるライフスタイルについては、さまざまな選択肢がある。この講義では、現今の技術システム、ライフスタイルがどのような環境負荷をもたらしているのかについて概説し、オルタナティブなライフスタイルを模索していく。

到達目標 / Attainment Objectives

- 1 問題の概要(事実)をつかむこと
- 2 問題を処理する論理の概要をつかむこと

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

教養の現代環境論をとっていると理解の助けになる

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	導入 資源エネルギーの考え方	資源エネルギー
第2回	地球環境問題概説 1	温暖化
第3回	地球環境問題概観 2	公害論と地球環境問題
第4回	自然史の中の人間	進化 自然
第5回	資源とエネルギー1	エネルギー政策 電力発達史
第6回	資源とエネルギー2	化石燃料 資源寿命
第7回	原子力問題	原子力 放射能
第8回	再生可能エネルギー論1	風力発電 電力コスト
第9回	再生可能エネルギー2	太陽光発電 電力支援政策
第10回	交通体系とエネルギー消費	LRT
第11回	資源とリサイクル 1 概論	3R 消費生活
第12回	資源とリサイクル 2 石油とプラスチック	容器包装法 PET
第13回	資源とリサイクル 3 耐久消費財	家電リサイクル法 PSE法
第14回	資源とリサイクル 4 希少金属	タンタル
第15回	全体まとめ 日本の資源エネルギー政策	エネルギー政策

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

なし

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind 割合 / Percentage 評価基準等 / Grading Criteria etc.

定期試験(筆記) 100% 講義者の論理をよく理解すること

テキストがないので、欠席すると全体の流れがつかめなくなります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

なし

教科書 / Textbooks

テキストはありません。随時レジュメ、参考資料を配布します

参考書 / Reference Books

書名 / Title 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

『エネルギーと私たちの社会』 J.S.ノルゴー、B.L.クリステンセン / 新評論 / ISBN4-7948-0559-4 /

『新・地球環境論』 和田武 / 創元社 / ISBN4-422-40017-7 /

随時追加で紹介します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

講義中指示します。

その他 / Others

なし

環境形成論 S

20282

担当者名 / Instructor 永橋 為介

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「持続可能な社会」とは何か？いかにして創造しうのか？「持続可能な社会」構築のためには「空間づくり」「ひとづくり」「関係づくり」を同時に進めていく必要がある。本講座ではランドスケープ・デザインや緑地生態学などが蓄積してきた「空間づくり」の技術や知見、そして教育学、社会学、心理学が蓄積してきた「ひとづくり」「関係づくり」に関する知見をpushしあえつつ、国内外で展開されている「持続可能な社会」を探求する試みからその様々なイメージを把握し、「持続可能な環境」形成に必要なプロセス、空間デザインやコミュニケーションの作法を探り、共有する。

到達目標 / Attainment Objectives

- (1)「聴く」「眺める」「表現する」ことを駆使して授業に積極的に参加することの楽しさを体感する。
- (2)自分の考えを持つこと、他者の考えを知ること、その上でやりとりすることの楽しさや効果を体感する。
- (3)「持続可能な環境、社会って何ですか？」と問われた時に、自分の考えを整理して披露できる。
- (4)他者と「持続可能な環境、社会とは何か？」を巡って意見交換ができ、その結果、自分が持っていた考えよりもさらに深い発想や新たな疑問に到達することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

後期に実施される「ネットワーク論」、「参加のデザイン論」、「景観デザイン論」と併せて履修すると持続可能な環境や地域社会が「ひとづくり」「関係づくり」「空間(計画)づくり」の3つを同時に満たす必要があることを深く理解できます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	オリエンテーション 持続可能な環境や地域社会とは何か？	講義の目的と進め方ならびに成績評価方法についての説明、「持続可能な社会」が求められている背景
第2回	持続可能な環境を形成する試みと作法(入門編) その1	ステークホルダー間の合意形成(事例:京都市ちびっこ広場再生計画)
第3回	持続可能な環境を形成する試みと作法(入門編) その2	空間のネットワークと交通システム(事例:尼崎市せせらぎの道計画)
第4回	持続可能な環境を形成する試みと作法(入門編) その3	環境と経済の融合(事例:大分市府内五番商店街再生計画)
第5回	持続可能な環境を形成する試みと作法(入門編) その4	地産地消と環境的公正(事例:エディブル・スクールヤード計画)
第6回	持続可能な環境を形成する作法と技術の源流 その1	空間学からのアプローチ(サイトアナリシス、利用行動調査)
第7回	持続可能な環境を形成する作法と技術の源流 その2	コミュニティ・デザインからのアプローチ(15のステップ、ワークショップ)
第8回	持続可能な環境を形成する作法と技術の源流 その3	教育学・心理学・社会学からのアプローチ(グループ・カウンセリング、アクション・リサーチ)
第9回	持続可能な環境を形成する試みと作法(チャレンジ編) その1	排除とソーシャル・インクルージョン(事例:釜ヶ崎の再生プロセス)
第10回	持続可能な環境を形成する試みと作法(チャレンジ編) その2	共生のためのオルタナティブ(事例:公園とホームレス問題)
第11回	持続可能な環境を形成する試みと作法(チャレンジ編) その3	流域保全におけるオルタナティブ(事例:脱ダムと緑のダム、吉野川第十堰保全代替案づくり)
第12回	持続可能な環境を形成する試みと作法(チャレンジ編) その4	地域づくりのオルタナティブ(事例:環境基本計画、持続可能な開発のための教育)
第13回	持続可能な環境を形成するための仕組み その1	行政と市民のパートナーシップ、市民参画による政策作成と推進
第14回	持続可能な環境を形成するための仕組み その2	事業者と行政・市民とのパートナーシップ、企業の社会的責任(CSR)
第15回	検証テストの実施とこれまでの講義のふりかえり	持続可能な環境を目指して「その課題と展望」

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(検証テスト)	50 %	最終回に、講座の全体テーマに関わる「お題」を講師から出し、A4用紙1枚程度の小レポートを記述、提出してもらおう。論理構成、オリジナリティーの観点から講師が「良・可・不可」で評価する。「不可」の場合、「日常的な授業に対する取り組み状況等の評価」の如何に関わらず、単位は認められない。

平常点(日常的) 50 % 最終回を除く毎回、各回テーマに関する「お題」を講師が出し、受講者には所定の用紙に受講者自身の考えを記入してもらい、毎回、記入・提出してもらったものを講師が3段階「良・可・不可」で評価し、各回の参加度、習熟度を量る。欠席や記入済み用紙未提出の場合も不可とみなす。「不可」が連続3回続いた場合、もしくは最終回を除く14回のうち「不可」が合計7回続いた場合には単位を認められず、最終回の「検証テスト」の受験資格も失う。逆に14回全て「不可」以外の評価でも、最終回の「検証テスト」で「不可」が付いた場合には、単位は認められない。

最終回を除く毎回、講師が出した「お題」に対して、講師が感じ入った「答え」を記述し、提出した受講生には、その次の回の授業のはじめに、プレゼンテーションや講師とのディスカッションをお願いする場合があります。その場合は日常点に加算がなされます。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

「持続可能な環境形成の作法」としての「聴く」「眺める」「表現する」ことの大切さや有効性を講義の中で紹介していきますが、この講義に参加する作法としても「聴く」「眺める」「表現する」ことを大切に、講師からだけでなく受講者同士互いに学び合う姿勢を大事にしたいと思います。「表現する」とは、コミュニケーションの基本であり、議論や合意形成をしていくプロセスを「見えるようにする」技法、そして「思いをカタチにする」技法です。授業の中でもフリップに意見や絵、図をかいてもらい皆で眺める参加型授業を展開しますので、「聴く」「眺める」「表現する」練習の機会として利用して下さい。

教科書 / Textbooks

教科書は使用しません。適宜、レジュメを配布したり参考書を紹介したりします。

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

環境経済学 S

20278

担当者名 / Instructor 知足 章宏

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

大気汚染、水汚染、廃棄物問題、地球温暖化など、世界中で様々な環境問題が深刻化しているなか、環境と経済システムの関係を再考し、適切な環境政策を確立していくことが益々重要になっている。本講義では、特に政治経済学的アプローチからサステナブル・エコノミー実現のための新たな環境経済政策の確立に向けた展望・課題を考究する。

講義序盤では、環境経済学・環境政策の基礎的概念について概説する。その後、様々な環境問題と環境政策の展開、課題について考察する。

到達目標 / Attainment Objectives

環境経済学の基礎的概念を理解し、環境政策の意義と問題点について理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	講義の概要とイントロダクション	講義の視点と目的, 評価方法
2	環境経済学概説 I	
3	環境経済学概説 II	
4	環境政策の基本手法	直接規制, 税・課徴金, 補助金
5	エネルギー政策	エネルギー, 原子力, 地球温暖化
6	鉱工業政策	公害, 鉱工業, 環境保全型生産システム
7	都市政策	都市問題, サステナブル・シティ
8	交通政策	大気汚染, 税・財政政策, 社会的費用
9	廃棄物政策	ごみ処理, 発生抑制インセンティブ, 不法投棄
10	森林政策	森林資源, 林政
11	海洋環境政策	海洋汚染, 海洋環境問題
12	環境政策と技術革新	ポーター仮説, 環境規制, 技術開発
13	環境保全を促進する貿易政策	環境貿易措置, WTO
14	税財政のグリーン改革	環境税, タックス・シフト, 補助金改革
15	講義の総括	各講義のポイント, 重要用語の復習

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	重要用語の適切な理解を問う問題(50点満点)と論述式の問題(50点満点)である。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
新しい環境経済政策	寺西俊一編 / 東洋経済新報社 / 4-492-31327-3 /

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
環境経済・政策学の基礎知識	環境経済・政策学会編 / 有斐閣 / 4-641-18333-3 /
地球環境保全への途	寺西俊一・大島堅一・井上真編 / 有斐閣 / 4-641-28101-7 /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

環境保全論 S

13139

担当者名 / Instructor 和田 武

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

環境保全論/リサイクル論「持続可能な環境保全型社会の構築」20世紀後半以降、展開されてきた物とエネルギーの使い捨て型大量生産・消費を軸とする社会は、地球環境破壊や資源枯渇を引き起こす持続不可能な社会であることが判明してきた。本講では、「物」と「エネルギー」の生産体系の現状と問題点を国際的、国内的事例の分析に基づいて明らかにし、持続可能な環境保全型社会への転換を実現するための条件とプロセスについて論じる。

到達目標 / Attainment Objectives

地球環境問題を引き起こしているこれまでの持続不可能な生産・消費システムについて理解し、それを持続可能なものに転換するための国内外の取り組みについての知識を獲得すること。それらを分析して、持続可能な生産・消費システムに転換するための方策について考察する力をもてるようにすること。さらに、生産・消費システムの転換が今後の持続可能な社会への発展につながることを認識し、今後の自らの生き方のなかに環境保全的要素を導入できるようにすること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

総合学術科目「現代環境論」

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	自然の物質、エネルギー、生態系の循環平衡と人間活動	自然、物質、エネルギー、生態系、人間活動、循環平衡
1	大量生産消費システムがもたらす問題?資源枯渇、廃棄物問題と有害物質汚染、地球環境問題	大量生産消費システム、資源枯渇、廃棄物問題、有害物質汚染、地球環境問題、地球温暖化
1	持続可能な環境保全型生産消費システムのあり方	持続可能な生産消費システム、持続不可能な生産消費システム、物的生産、エネルギー生産
1	日本の資源循環利用の現状と問題点(1)資源循環利用の方法	日本、資源循環利用、廃棄物、3R、
1	日本の資源循環利用の現状と問題点(2)廃棄物・リサイクルに関する制度	日本、資源循環利用、廃棄物、リサイクル制度、容器包装リサイクル、製品リサイクル、循環型社会
1	諸外国の資源循環利用対策(1)ドイツの容器包装リサイクル	資源循環利用、ドイツ、容器包装リサイクル、拡大生産者責任、DSD社
1	諸外国の資源循環利用対策(2)EU諸国の容器包装リサイクル	資源循環利用、EU、容器包装リサイクル、拡大生産者責任、環境税、デポジット制度、
1	諸外国の資源循環利用対策(3)製品リサイクル	諸外国、資源循環利用、製品リサイクル、家電製品、自動車、拡大生産者責任、
1	日本と世界のエネルギー利用の現状と問題点	日本、世界、エネルギー、化石資源、原子力、
1	持続可能なエネルギーシナリオ	温暖化防止、CO2削減、再生可能エネルギー、省エネルギー、エネルギー効率
1	諸外国のエネルギー利用(1)デンマークとドイツのエネルギー対策	エネルギー、デンマーク、ドイツ、風力発電、太陽光発電、バイオマス
1	諸外国のエネルギー利用(2)発展途上国のエネルギー対策?インドと中国を中心に?	エネルギー、発展途上国、インド、中国、地域社会、未電化地域、電化、
1	再生可能エネルギー普及論?市民参加による再生可能エネルギー普及?	再生可能エネルギー普及論、住民、市民、エネルギー生産手段、所有、
1	日本の再生可能エネルギー普及	日本、再生可能エネルギー、自治体、市民参加、住民参加、市民共同発電所、地域主導
1	まとめ:持続可能な社会の構築	持続可能な社会、社会発展論、市民の生産関与、生産手段の所有、生産の民主的社会的化、社会発展プロセス、

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

自主的な学びを積極的に進めてほしい。環境保全に関して自主的に調査、実践、学習した成果を「自主レポート」として提出することを歓迎する(テーマや作成方法は自由。提出期限は最終講義)。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	80 %	100点満点の試験点数に0.8がけ
レポート試験	0 %	自主レポートの提出を歓迎する。提出した場合、その内容に応じて0-10点を加算する。
平常点(日常的)	20 %	授業時に講義の感想、意見、質問などを随時、小レポートとして提出を求め、それを採点する。

定期試験を実施 定期試験に日常点(小レポート)を加味して評価。評価の比重は、試験80%、日常点(小レポート)20%。小レポートは授業期間中、随時、数回提出を求める。なお、優れた「自主レポート」については、内容により成績評価に0?20点を加算する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

高度な予備知識はとくに必要ないが、講義はまじめに出席、受講すること。ときどき、授業中に小レポート(感想、意見、質問など)の提出を求めるので、必ず提出すること(後日の提出は認めない)。

教科書 / Textbooks

使用しない。参考書のうち少なくとも2冊、読むことを勧める。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
市民・地域が進める地球温暖化防止	和田武・田浦健朗 / 学芸出版 / 地球温暖化防止の取り組み事例も豊富に掲載。
新・地球環境論	和田 武 / 創元社 / とくに第10章を参照
地球温暖化を防止するエネルギー戦略	林、和田ほか / 実教出版 / 省エネと再生可能エネルギー利用
環境展望 (Vol.1-5)	日本科学者会議公害環境問題研究委員会 / 実教出版 / 多様な環境問題について学ぶ
地球白書(各年度版)	C.フレイビンら / 家の光協会 / 地球規模の環境課題を学ぶ
21世紀世界のリサイクル	ジェトロ・ワールドナウ / JETRO / 循環型生産に必要なリサイクル
ドイツの再生可能エネルギー	和田 武 / 世界思想社 / ドイツの再生可能エネルギー普及政策や事例から学ぶ。
よくわかる地球温暖化問題	気候ネットワーク / 中央法規 / 地球温暖化問題とその対策を学べる。
スモール・イズ・プロフィタブル	E.B.ロビンス / 省エネルギーセンター / 今後のエネルギーのあり方の参考になる。
環境問題資料集全14巻	日本科学者会議公害環境問題研究委員会 / 旬報社 / あらゆる環境問題についての豊富な資料が参考になる。

石弘之「必読・環境本100冊」は各分野の環境関連書籍を選択する上で参考になる。その他、和田武『環境問題を学ぶ人のために』世界思想社、循環型社会法制研究会『循環型社会形成推進基本法の解説』ぎょうせい、日本科学者会議『地球温暖化防止とエネルギーの課題』水曜社、佐藤由美「自然エネルギーが地域を変える」学芸出版、エネルギー推進市民フォーラム「よくわかる自然エネルギー」合同出版、気候ネットワーク「地球温暖化防止の市民戦略」中央法規、などを推薦する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

環境省; <http://www.env.go.jp/>、厚生労働省; <http://www.mhlw.go.jp/>、日本容器リサイクル協会; <http://www.jcpra.or.jp/>、環境goo; <http://eco.goo.ne.jp/>、資源エネルギー庁; <http://www.enecho.meti.go.jp/>、NEDO(新エネルギー産業技術開発機構); <http://www.nedo.go.jp/>、気候ネットワーク; <http://www.jca.apc.org/kiconet/>、自然エネルギー市民の会; <http://www.bnet.jp/pare/>、 など。

その他 / Others

できるだけ欠席しないこと。自主的、積極的に学んでほしい。質問は大いに歓迎するが、メールよりも、授業終了後に直接、質問するほうがやり取りができるので理解しやすいと思う。

担当者名 / Instructor 杉本 通百則

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

環境問題の一層の深刻化を考えれば、21世紀の社会が今日のような経済体制、企業行動、ライフスタイルの単なる延長として存在できないことは明らかであり、人類史のうえで新しい行動規範を必要としている。こうしたなか複雑化する環境破壊現象の法則的解明を目指し、現代社会における公害・環境問題がいかなるメカニズムで発生しているのかを社会科学的に分析し、その解決策を提示することを課題とする「環境論」の発展が求められている。

本講義では、環境破壊の歴史と人間の社会的活動とのかかわりを概観したうえで、公害問題、廃棄物問題、エネルギー問題、自然破壊問題、地球環境問題などについて歴史的・多角的視点から考察する。また、公害・環境問題と人間社会との関係一般についての基礎理論を概説しつつ、持続可能な社会の実現の諸条件について検討したい。

到達目標 / Attainment Objectives

- ・公害・環境問題に関する基礎理論や社会的要因について多角的視点から理解できる。
- ・公害・環境問題を歴史的脈絡のなかで捉えることができる。
- ・公害・環境問題の解決の方向性について自己の見解を論理的に述べるることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「現代環境論」を履修しておくことが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	はじめにー環境論の射程	
第2回目	環境問題の歴史(1)	
第3回目	環境問題の歴史(2)	
第4回目	日本の公害問題の歴史	
第5回目	大気汚染公害(1)	
第6回目	大気汚染公害(2)	
第7回目	地球温暖化問題とエネルギー(1)	
第8回目	地球温暖化問題とエネルギー(2)	
第9回目	廃棄物問題とリサイクル(1)	
第10回目	廃棄物問題とリサイクル(2)	
第11回目	自然(生態系)破壊問題(1)	
第12回目	自然(生態系)破壊問題(2)	
第13回目	公害・環境問題に関する諸理論(1)	
第14回目	公害・環境問題に関する諸理論(2)	
第15回目	まとめー持続可能な社会の構築に向けて	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study**(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods**

日頃から環境問題に関する本、新聞、雑誌、テレビ、ビデオ、インターネット、映画、文学、フィールドワークなどを通して、現実の環境問題についてのイメージをつかむように努力してほしい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	60 %	講義の理解度70%、論旨の明瞭度20%、議論の現実性10%
平常点(日常的)	40 %	中間レポート(20%)、および講義中に随時実施する小レポート(20%)などを評価。いわゆる出席点はなし。

中間レポートの課題については適切な時期に講義の中で発表する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

「現代環境論」を受講していない人は『新・地球環境論』を読んでほしい。

教科書 / Textbooks

テキストは特に指定しない。必要に応じて講義レジュメや資料などを配布する。また時にはビデオ教材も利用する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
破壊されゆく地球	ジョン・ペラミー・フォスター／こぶし書房／4875591616／

緑の世界史(上・下)

クライブ・ボンティング／朝日新聞社／4022596031・402259604X／

新・地球環境論

和田 武／創元社／4422400177／

日本公害論

加藤邦興／青木書店／4250770257／

その他の参考文献については講義中に適宜紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

観光文化論 S

20290

担当者名 / Instructor 赤井 正二

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

現代は大旅行時代に入っています。2006年には8億4200万人が国境を越えて旅行し、2020年までにはさらに倍増すると予想されています。観光などの旅行や訪問に関する産業の経済規模は、日本のGDPではその約6%ですが、全世界のGDPでは10%を越えています。旅行と観光の規模が拡大するにつれて、国・地方レベルでの政策が次々に打ち出されるとともに、学術的にも経済学や文化人類学など多方面から研究されるようになってきました。

この講義では、主に社会学と社会心理学の観点から、実際に「旅行する人」を出発点として、現代の旅行と観光を分析します。旅行に出かける動機、旅行先の魅力、旅立つ決定のさいの要因とくにメディアを介した観光情報の役割、旅行先での行動、観光地域の変化、観光政策の動向、文化交流などを取り上げますが、全体として、観光を「異文化交流・コミュニケーション」のひとつの形としてとらえ、観光が文化を形成する重要な働きをしていることを学びます。

この講義によって、経済的な行動と見なされることの多い観光行動を、文化的行動としても考えることの重要性と意義を理解し、この理解を現代の社会と文化についての学習に活用することを期待しています。

到達目標 / Attainment Objectives

観光旅行についての社会学と社会心理学からの基礎的な問題意識と研究を学び、現代の観光旅行と文化変容についての理解を深めること。具体的には、第一に、観光行動を諸段階に区分して分析する「プロセス・モデル」の考え方と基本的な事項を理解すること、また第二に、個々の観光行動と社会文化の変容とを結びつけて考える想像力を陶冶し、講義内容に関連した問題について、講義内容を踏まえて、独自の回答を組み立てる力を形成することです。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	「観光旅行」への多様な視点、講義の概要	問題提起、ブーアスティンの現代観光批判、「観光と文化」という見方の特長
2	観光をめぐる現状、現代観光の概況	『観光白書』を読む、「観光競争ランキング」
3	旅行したいという気持ち—観光と人間 1—	期待と失望、人を旅へと押し出す動機
4	場所の魅力 場所魅力認知—観光と人間 2—	人を引きつける場所の魅力、「観光資源」
5	旅行の計画と決定—観光と人間 3—	「クチコミ」と「マスコミ」、観光雑誌、相談相手
6	旅行経験—観光と人間 4—	「ランドマーク」、「旅行キャリア」
7	観光産業と商品としての旅行—観光と社会 1—	トーマス・クック、「観光産業」から「ビジター産業」へ
8	日本の観光政策の動向—観光と社会 2—	観光基本法から観光立国推進法へ、フランスとドイツの観光政策、「世界観光倫理コード」
9	地域の観光政策の動向—観光と社会 3—	京都の場合、「ソーシャル・ツーリズム」という考え方
10	自然風景の発見—観光と文化形成 1—	新日本八景騒動、国立公園、温泉、「世界遺産」指定の功罪
11	都市文化の発見—観光と文化形成 2—	都市公園、博覧会、街並み、
12	「ジャポニスム」—観光と文化交流 1—	万国博覧会、印象派絵画、日本を旅した外国人の眼
13	西洋に出会った日本—観光と文化交流 2—	「鎖国」時代の西洋文化移入、浮世絵、林忠正
14	明治の留学体験—観光と文化交流 3—	岩倉使節団、夏目漱石のロンドン留学、「カルチャーショック」
15	全体まとめと補足	異文化接触、異文化コミュニケーションとしての観光

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

講義はレジメを使用して進行しますが、レジメに載せられた文献を実際に読んでみることを期待されます。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	基本的事項の理解の程度、小論文の論理的構成員

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

私語は厳禁。

参考文献の一つでも実際に手にとって読めば、講義はより意義深いものとなります。

教科書 / Textbooks

レジメを使用する。

レジメは教室内でのみ配布します。

参考書 / Reference Books

<u>書名 / Title</u>	<u>出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment</u>
『観光旅行の心理学』	佐々木土師二 / 北大路書房 / /
『観光学入門―ポスト・マス・ツーリズムの観光学―』	岡本伸之編著 / 有斐閣アルマBasic / /
『旅する哲学』	アラン・ド・ボトン / 集英社 / /
『京都観光学のススメ』	井口和起 他 / 人文書院 / /
『観光社会学―ツーリズム研究の冒険的試み』	須藤広、遠藤英樹 / 明石書店 / /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference**その他 / Others**

特になし

企画研究 SA § 企画研究(自主企画研究) SA

14415

担当者名 / Instructor 白石 憲二

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「学生の意見10(変革のための提言づくり)」(学外とのコラボレート先 朝日新聞社)

治安維持法が猛威をふるい、日中戦争から太平洋戦争へと「滅びの道」をたどった戦前を知る人たちから、「あの時代に似てきた」との声がきかれる。「言論の自由」が保障されている現代にそんな懸念は「杞憂」に過ぎないとの見方もある。実際のところ、1945年8月15日を一つの区切りとして、何が変わり、何が変わっていないのか。法制度、言論機関、地域社会のありかたなど、様々な側面から比較、検証したうえで、より自由で開かれた社会にしていくなための提言を「学生の意見10」と名付ける。

到達目標 / Attainment Objectives

「学生の意見10」を具体的な政策として提言できるレベルまで高め、朝日新聞での紙上掲載を目指す。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1-5	70年前の日本社会の実態に迫る。ミニレポートにして提出。	臣民
6-10	「変わった点」「変わっていない点」を腑分けして整理、議論を深める。	潜在意識
7-15	「提言」をまとめる	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	
平常点(日常的)	50 %	

「提言」の参考にするのは、「日本を変えよう。市民の意見30」(1989年1月16日朝日新聞朝刊の意見広告)。1999年から2000年にかけて朝日新聞(大阪本社)の家庭・文化・芸能面に長期連載された企画「日本は変わったのか」

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

企画研究 SB § 企画研究(自主企画研究) SB

14416

担当者名 / Instructor 神谷 雅子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

映画興行における宣伝の重要性について、前期は、具体的な作品の事例研究、後期は、自分たちで選んだ作品の上映会を企画運営し、実践的に研究する。なお、上映作品は日本映画、必ず監督かプロでユーザーをゲストとして招いて行う。

到達目標 / Attainment Objectives

映画興行における宣伝戦略の重要性の理解。宣伝戦略の立て方の理解。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	映画興行の現状	
第2回	映画の宣伝とは	
第3回	サンプル作品の具体的な宣伝方法について	
第4回	配給会社の宣伝プロデューサーによる講義	
第5回	後期上映作品の選定	
第6回	上映決定作品の宣伝戦略の検討1	
第7回	上映決定作品の宣伝戦略の検討2	
第8回	上映会に向けて 役割分担の決定	
第9回	宣伝チラシなど、宣伝物の作成1	
第10回	宣伝チラシ等、宣伝物の作成2	
第11回	上映会の動員対策、当日の役割分担、アンケートの準備	
第12回	上映会のまとめ アンケート分析	
第13回	ゼミナール大会にむけての発表準備	
第14回	ゼミナール大会のまとめ	
第15回	論文作成のうちあわせ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

授業スケジュールは、ゲストの予定ならびに上映作品、上映会の日程等で変更することがあり得る。基本的に上映会は、11月の上旬が望ましい。京都シネマの協力で、作品等の選定は行う。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	ゼミナール大会への報告レポートで、評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

企画研究 SC § 企画研究(自主企画研究) SC

14417

担当者名 / Instructor 神谷 雅子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

日本にシネマコンプレックスが導入されたのは、1990年代。まだ10数年余りしかたっていないが、映画館は、シネコンでの興行が一般的となっている。シネコンの導入に寄る映画産業の構造変化を検証し、今後の映画興行の方向を探っていく。

到達目標 / Attainment Objectives

日本のシネコンの歴史と、現在の映画興行の状況についての理解。シネコンの功罪の理解。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	シネマコンプレックスとは	
第2回	シネマコンプレックスの現状	
第3回	京都のシネマコンプレックス見学 MOVIX京都	
第4回	京都のシネマコンプレックス見学 TOHOシネマズ二条	
第5回	TOHOシネマズの戦略 TOHOシネマズ西日本の立命館OBIに今後の戦略を聞く	
第6回	シネマコンプレックスと地元映画館の違い	
第7回	京都シネマ見学	
第8回	京都みなみ会館見学	
第9回	各自レポート発表 シネコンの歴史とその展開についてなど	
第10回	各自レポート発表	
第11回	ゼミナール大会発表に向けて役割分担	
第12回	ゼミナール大会発表準備	
第13回	ゼミナール大会発表準備	
第14回	ゼミナール大会の反省およびまとめ	
第15回	論文提出	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

スケジュールに関しては、ゲストスピーカーの予定によって変わることがある。実際にシネコンや映画館に行くことが多いので、現地集いや、次の授業時間との関係で、土曜日などを使う場合もある。受講者の希望を聞きながら日程調整をしていく。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	ゼミナール大会への報告レポートで評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
映画館ほど素敵な商売はない	神谷雅子 / かもがわ出版 / 978-4-7803-0134-2 / シネコンではない映画館の果たして行こうとする役割について詳述している。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

担当者名 / Instructor 赤井 正二

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

テーマ ジンメル『社会学の根本問題』と小論をみんなで読む

「社会学」は面白そうだけど何かいまいち全体がよく見えないという人が多いと思いますが、それは実際「いろいろな社会学」があるからです。ジンメルという人は社会学を始めた人の一人です。この企画研究では、ジンメルの晩年のパンフレットで、各国で読み継がれてきた定評のある『社会学の根本問題』の二つの章と二つの小論を輪読していきます。すべて短いもので、さっと読んでしまうこともできますが、よく考えればパズルのような深さも持っています。人と人とのつながり、秘密や裏切り、表面的なつきあいの意義、こういう内容こそジンメルは社会学独自の内容と考えたのです。この企画研究から「こういう社会学もある」ということを学んでもらいたい。実際テキストをみんなで読みながら、解説や議論をして丁寧に進めていきます。

到達目標 / Attainment Objectives

到達目標は、古典的なテキストをじっくり読む力を養うことです。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ジンメルとはどんな人か?、授業の進め方	ジンメル紹介、テキストの紹介
2	ジンメルの時代	「社会学」がどのようにして生まれきたか、デュルケムとウェーバーの間で、
3	『社会学の根本問題』第1章 社会学の領域1	「社会」の過大評価と過小評価
4	『社会学の根本問題』第1章 社会学の領域2	「社会」「社会化」
5	『社会学の根本問題』第1章 社会学の領域3	相互行為
6	『社会学の根本問題』第3章 社交1	会話
7	『社会学の根本問題』第3章 社交2	節度
8	『社会学の根本問題』第3章 社交3	民主主義
9	エッセイ:「大都市と精神生活」1	神経生活
10	エッセイ:「大都市と精神生活」2	都会人のつきあい方
11	エッセイ:「大都市と精神生活」3	都市の可能性
12	『社会学』から「感覚の社会学」1	視覚
13	『社会学』から「感覚の社会学」2	触覚
14	『社会学』から「感覚の社会学」3	嗅覚
15	まとめと補足	今後の学習の進め方

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

- ・評価は、出席状況など日常点によって行います。
- ・授業は前期に週一回で15回行います。後期は別途指示します。
- ・テキストはすべてプリントを用意します。
- ・参考書: 菅野 仁『ジンメル・つながりの哲学』NHKブックス、2003年。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind 割合 / Percentage 評価基準等 / Grading Criteria etc.

平常点(日常的) 100 % 出席、事前学習、討論参加

- ・評価は、出席状況など日常点によって行います。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

- ・授業は前期に週一回で15回行います。後期は別途指示します。

教科書 / Textbooks

- ・テキストはすべてプリントを用意します。

参考書 / Reference Books

書名 / Title 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『ジンメル・つながりの哲学』 菅野 仁 / NHKブックス / 2003年

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

担当者名 / Instructor 坂田 謙司

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

株式会社エフエム京都(αステーション)を対象に、ラジオの現状と将来についての考察を行う。

到達目標 / Attainment Objectives

1. 大学生が考える新しいラジオ番組企画

大学生ならではの視点で、実現性のあるラジオ番組企画を考える。その際、何を意識しなければならないのか、何を欠いてはいけないのか、何を想像し何を創造しなければならないのか。現実のラジオ番組作りの過程を知り、考察する。

2. αステーションのある生活をつくるにはどうすればいいか

「ラジオのリスナーを広げ、媒体価値を高めるためには何が大切か」「魅力的な番組とは。そのために何が必要か」「音楽中心を貫くか、情報系番組をどうするか」「地域性をどのように活かすか、京都に特化するか」「ラジオの属性と将来」「ラジオはマスメディアかパーソナルメディアか」などを課題として取り上げ、考察する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

音声メディア、放送、地域に関する授業の受講を推奨する。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	概要説明 日本のラジオ事情考察	ラジオ 放送
2	αステーション担当者とディスカッション1	ラジオ αステーション
3	αステーションの番組分析	ラジオ 番組
4	αステーション担当者とディスカッション2	ラジオ αステーション 番組
5	αステーションの広報分析	ラジオ αステーション 広報
6	αステーション担当者とディスカッション3	ラジオ αステーション
7	αステーションの地域性分析	ラジオ αステーション 地域
8	前期総括プレゼンテーション	ラジオ αステーション
9	夏休み課題発表と後期進行打ち合わせ	ラジオ αステーション
10	αステーション担当者とディスカッション4	ラジオ αステーション
11	αステーションの番組編成分析	ラジオ αステーション 番組編成
12	αステーション担当者とディスカッション5	ラジオ αステーション
13	αステーションの番組制作分析	ラジオ αステーション 番組制作
14	αステーション担当者とディスカッション6	ラジオ αステーション
15	総括プレゼンテーション	最終番組企画のプレゼンテーション

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	2/3以上の出席と前期・後期のプレゼンテーションへの参加、最終番組提案の提出によって評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

ラジオという媒体に関心を持ち、積極的、主体的な取り組みを行ってほしい。その際の視点の持ち方(関心の持ち方)は受講生一人一人違ってよい。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

担当者名 / Instructor 坂田 謙司

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

関西テレビ放送(関テレ)を対象に、関西ローカルにおけるテレビ放送の現状と将来についての考察を行う。デジタル化において、ローカル・コンテンツはその重要度を増している。その一方で、ローカル・コンテンツの中身に関しては、まだまだ模索が続いている。関西という地から、テレビのローカルリティを考えるのがこの授業の狙いである。

到達目標 / Attainment Objectives

最終的に関西ローカル放送局の存在を理解し、学生の目線による将来像に関する一定の見解を関西テレビ側にプレゼンすることを目標とする。08年度における主要なテーマは、以下の通り。

1. 東京一極集中のテレビ状況における関西ローカルのあり方を考察。
2. 関西ローカルの特色を生かしたテレビ番組の考察。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

地域、放送、メディアに関する授業の受講を推奨する

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	イントロダクション 授業概要説明及びテレビにおける関西とは	テレビ ネットワーク
2	関西テレビ担当者とディスカッション1	関西テレビの仕事
3	関西ローカルについて	テレビ ローカル
4	関西テレビ担当者とディスカッション2	関西テレビの役割
5	テレビ番組の関西らしさとは	テレビ 関西ローカル
6	関西テレビ担当者とディスカッション3	関西テレビの特徴
7	関西タレントと関西らしさ	テレビ 関西のイメージ
8	前期総括プレゼンテーション	関西テレビにて実施
9	関西テレビ担当者とディスカッション3	関西テレビの番組
10	番組企画案発表・討議	テレビ関西
11	関西テレビ担当者とディスカッション3	関西テレビの考え
12	番組企画案発表・討議	テレビ 関西
13	関西テレビ担当者とディスカッション	関西テレビが作る京都 京都チャンネル
14	番組企画最終ディスカッション	テレビ 関西
15	最終プレゼンテーション	関西ローカルの特色を生かしたテレビ番組の考察

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study**(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method****成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation**

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	2/3以上の出席と前期・後期のプレゼンテーションへの参加、最終番組提案の提出によって評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

テレビの制作現場ではなく、ローカル・テレビ局の現状と今後、あるいはテレビ・メディアにおけるローカルリティに関心のある学生を対象とする。単にテレビ局にあこがれを持つのではなく、テレビ局が抱える問題に対して、学生独自の視点を持って積極的に考察を深めることが求められる。関西だけでなく、関西以外を出身とする学生の視点も重要な問題意識に発展するので、積極的な参加を期待する。

教科書 / Textbooks**参考書 / Reference Books****参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference****その他 / Others**

企画研究 SH § 企画研究(自主企画研究) SH

14422

担当者名 / Instructor 津田 正夫

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

テーマ「障害者向け放送の現況と課題」

学外コラボレート先「NPO法人・CS障害者放送統一機構」、「社会福祉法人・日本福祉放送」など

到達目標 / Attainment Objectives

諸外国では障害者の生活や文化を伝える現実のニュース・番組制作は、コミュニケーションや教育の手段として広く普及しているが、日本では、障害者に向けた放送はきわめて貧しく、聴覚障害者向けテレビ「目で聴くテレビ」、視覚障害者向けラジオ「日本福祉放送」に限られている。日本の障害者のメディア環境はどのような実態にあるのか、「目で聴くテレビ」や「日本福祉放送」は誰がなんのためにやっているのか、どのような歴史的経緯があり障害者の現実の生活にどこまで役立っているのか、ニュース・番組制作の財政・技術・発信/受信環境はどうなっているか、今後の課題は何かなど、基本的現況を調査・分析して、障害者向け放送の課題を明らかにする。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

パブリック・アクセス関連科目

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス	
2	視覚障害者/聴覚障害者向け放送制作の歴史・概念(1)	
3	視覚障害者/聴覚障害者向け放送制作の歴史・概念(2)	
4	視覚障害者/聴覚障害者向け放送制作の歴史・概念(3)	
5	障害者向け放送制作担当者に学ぶ	
6	先行研究を学ぶ(1)	
7	先行研究を学ぶ(2)	
8~10	番組の企画検討・基礎取材	
11~20	取材・番組制作(参加)・編集	
21~22	放送	
23~26	報告書執筆・作成	
27~28	報告準備と発表	
29~30	総括	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	
平常点(日常的)	50 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
パブリック・アクセスを学ぶ人のために	津田正夫・平塚千尋ほか / 世界思想社 / /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

<http://www.medekiku.jp/index.html>
<http://www.jbs.or.jp/>

その他 / Others

企画研究 SJ § 企画研究(自主企画研究) SJ

14424

担当者名 / Instructor 景井 充、高嶋 正晴

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

【テーマ】大学とNPOの協働による地域活性化(京北プロジェクトを中心に)
 【概要】京都市京北町をフィールドワークの対象地として、納豆づくりや、その他、当該地域での農林業活動を体験し、それらを通じて地域の生活・産業を具体的に知るとともに、京北地域の課題と活性化に向けての可能性について調査研究を行う。15回の講座では、NPOフロンティア協会との協力のもとに毎回、学内外の関係者や専門家をスピーカーに招いて実施する予定である。

到達目標 / Attainment Objectives

本プロジェクトの活動を通じて、大学とNPOの協働による地域活動について、各人の関心・テーマからフィールドワークや調査研究を行い、その成果を学内・学外で発表するとともに、年度末に成果報告書としてまとめる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の概要と導入	本企画研究のねらい、フィールドワークやその他諸活動の概要・予定
第2回	京北町の概要～地域的特性を知る～	
第3回	京北町の農業と納豆づくり	
第4回	京北町の林業と栃の木植林活動	
第5回	京北町の歴史文化資源～古城調査の実践から～	
第6回	京北町の地域活性化活動～地域・NPO・大学の協働から～	
第7回	中山間地の諸課題と地域づくり	
第8回	地域産業の活性化への取組み事例報告	
第9、10回	NPOの地域取組み事例報告	
第11、12回	大学の地域取組み事例報告	
第13回	大学とNPOの協働活動事例報告	
第14、15回	学内外での活動成果報告	納豆フォーラム、栃の木フォーラムなど(11月、12月を予定)

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	40 %	研究・活動についての成果報告書
平常点(日常的)	60 %	講義への出席、活動への参加、および学内外のフォーラムでの成果報告など。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

【本研究の取組みにあたって受講生に望むこと】
 京北プロジェクトを中心として、NPOフロンティア協会がアレンジする各種フィールドワークやボランティア活動への積極的に参加。納豆フォーラムや栃の木フォーラムなど学内外での成果・活動事例の発表(※なお、フィールドワークや地域行事などは、土曜日、日曜日に実施する。受講に際してはその点に十分に留意し、参加に支障が出ないようにすること。)

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

- ・特定非営利法人フロンティア協会ホームページ <http://www.nethousing.co.jp/frontier/>
- ・京北商工会ホームページ <http://keihoku.kyoto-fsci.or.jp/>

その他 / Others

担当者名 / Instructor 遠藤 保子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

京都市にある7つの青少年活動センター(北、中京、下京、南、伏見、東山、山科)では、青少年の自主的な活動を様々に支援している。その支援とは、青少年が家庭、学校、地域社会などでの活動場面への参加を通じて社会と交わり、青少年自身の興味や関心を豊かにし、青少年が必要とした場合、助言、情報または多様な人的・物的資源を得られるような機会を提供するものである。この授業では、それらのセンターの現状を把握し、課題を浮き彫りにし、さらにこれらのセンター運営に関係している京都市ユースサービス協会および京都市ユースアクションプランについて検討する。

到達目標 / Attainment Objectives

この授業の目標は、ユースサービスの概念を理解すること、京都市における青少年活動センターと京都市ユースサービス協会の現状と課題を知り、青少年と社会との関係をさまざまな観点から考察する力を養うことにある。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1回目	授業の概要と導入	自己紹介、授業の到達目標、進め方、成績評価方法等
2回目	京都の7つの青少年活動センターの諸相	北、中京、下京、南、伏見、東山、山科における青少年活動センターの理念、活動内容、特色
3回目	青少年活動センターの管理・運営している(財)京都市ユースサービス協会の概要	基本理念としてのユースサービス、ユースワーカー、ユースサービス協会の歴史
4回目	京都市における青少年行政とユースアクションプラン	青少年行政、非行対策、京都市の青少年行政の基本理念、ユースアクションプランの概要
5回目	ユースアクションプランの中間見直し	青少年の自主的な活動の推進、生きる力と創造性の開発、青少年に開かれた地域社会づくり、キャリア形成支援等
6回目	北青少年活動センターの概要	環境学習の推進、エコカフェ、社会参加活動の促進、サンプラザプロジェクト、異世代との交流事業、伝記プロジェクト
7回目	中京青少年活動センター	情報発信・交流の促進、指導者養成、キャリア形成支援、京都若者サポートステーション
8回目	中間のまとめ	ユースサービスと現代の青少年、グループワーク、プレゼンテーション
9回目	下京青少年活動センター	スポーツ活動の推進、ニュースポーツの実施、指導者養成
10回目	南青少年活動センター	居場所づくり、思春期の心と身体の健康づくり、課題を抱える青少年への包括的な支援
11回目	伏見青少年活動センター	多文化共生、青少年と地域をつなぐ様々な団体、企業との連携
12回目	東山青少年活動センター	文化創造活動の推進、創造力を育む機会づくり、青少年施設と学校との連携
13回目	山科青少年活動センター	環境学習の推進・蛍プロジェクト、世代間・異年齢間の交流の推進、青少年の情報交流の推進
14回目	7つの青少年活動センターの特性と課題と京都市ユースサービス協会	グループワーク、課題に関する討論、プレゼンテーション
15回目	総まとめ、課題とその解決	総合的な討論、レポート提出

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	授業の目的にそった力を養うことができたのか、またレポート課題に関して論理的に記述することができたのかなどを評価する。
平常点(日常的)	20 %	日常の授業に積極的に取り組んだのか、事前事後の学習をしっかりとったのか、などを評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

現代の青少年(改定版)

柴野昌山 / 学文社 / /

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

企画研究 SM § 企画研究(自主企画研究) SM

20060

担当者名 / Instructor 山下 芳樹

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

【元気な市民を育てる科学カリキュラムをデザインする(『もの(モノ, 人)』づくりの匠の技に学ぶ)】がテーマ。教材作成の最前線に触れ、素材を教材に高める教材作成の「匠」の技を学び取ることによって、「教材(もの造り)」という視点から理科の学びを再認識する。また作成した教材を「科学の祭典」をはじめとした各種草の根の活動という実践の場に用い、企画・運営の能力を高めるとともに教材の持つ「威力」と「限界」を体感する。

到達目標 / Attainment Objectives

- ①教材作成の現場を探ることにより、教材作成の「匠」の技を味わい・学びとれる。
- ②学校外での科学の取り組みの実態を探り、科学教育にかけられる市民の熱き思いに触れ・共感できる。
- ③科学サークルなど各種団体との連携を通じ、各種事業の企画・運営能力を育成し・高め、「働きかけ、読み取り、働き返す」というアクティブな学びができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

理科入門Ⅱ(事前に必要な知識、心構えを説明しています。)ガイダンスを実施しますので、そこでしっかり確認をしておけば大丈夫です。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回, 第2回	【教材作成の現場を探る】—事前学習(グループ活動による演習形式)—	第3回～第7回に実施する教材会社(工房)での実習を前に、実験教材を中心とした事前学習を行う。
第3回～第5回	【教材作成の現場を探る】—教材の「匠」から教材作成のノウハウを学ぶ(その1)—	各グループ2つのテーマ(教材)について、教材工房にて匠から指導を受ける。
第6回	【科学サークルの取り組みの実態を探る】—科学サークル(6月事業)への参加—	民間の科学サークルの事業に参加(企画・運営)し、市民レベルでの科学啓蒙活動を体感する。
第7回, 第8回	【教材作成の現場を探る】—教材の「匠」から教材作成のノウハウを学ぶ(その2)—	教材作成の匠の指導のもと、後期から使用する教材(開発教材・教具)の作成を行う。
第9回～第11回	【各種場面での科学の取り組みの実態を探る】—作成した教材の活用と、企画・運営の技を学ぶ(その1)—	科学の祭典等、市民レベルでの各種事業に参加し、企画・運営の仕方のノウハウを学ぶ。
第12～第14回	【各種場面での科学の取り組みの実態を探る】—作成した教材の活用と、企画・運営の技を学ぶ(その2)—	幼稚園、小学校、また図書館での科学劇等に参加し、企画・運営の実態とその実践について学ぶ。
第15回	【発表会の実施】—企画研究の成果を学内・学外に対して発表する—	開発した教材・教具、および新規事業(科学劇)を学内・学外に披露し、企画研究の成果を問う。

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

前期・後期とも、科学の各種サークルの活動に参加し、作成した教材を使用し、素材から教材への高まりに参加児童・生徒の反応を通して学ぶことが大切。特に、土日や、夏期休暇を利用した「企画(催し物)」については、積極的な参加(企画運営での参加)を期待したい。通常の「教室での座学」ではない点に注意。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	最終回に実施する「発表会」において、その企画書(授業書)の内容と、参加者の反応(アンケート)、ならびに発表後の自己評価等を総合的に判断して評価とする。
平常点(日常的)	50 %	教材作成においては、匠からの指導を受けることが原則。出席とともに、何を学び、その結果、何を作成したかを評価する。成果物(教材)と当初の素材との「違い」を重視する。事業の企画運営にあたっては、諸事業への参加と貢献度を評価の対象とする。

後期に実施する学校内外での諸事業では、その都度、反省会を実施する。事業主催者側からの評価、また参加した児童生徒の反応等が、すべてその事業に対する取り組みの評価につながる。平常点評価には、これらの評価も含める。最終回での発表会は、実施した企画研究の成果として地域の学校、また科学サークル(市民)にも公開する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

ものづくりに興味関心があり、また各種団体とのコラボレーションによる新規事業の企画・運営等に活発に参加しようという前向きな姿勢が望まれます。特に、将来学校教員を志望する学生にとっては、その後の学びにも影響するよい体験となるのが期待されます。

教科書 / Textbooks

教科書、参考書は、その都度紹介します。

参考書 / Reference Books

教科書、参考書は、その都度紹介します。小学校、中学校理科の教科書は重要な資料です。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その都度、紹介します。

その他 / Others

この授業の目的を再度示しておきます。

- 教材開発会社での教材の「匠」から学ぶ教材作成の醍醐味(主に、前期セメスター)
- 科学の楽しさを伝える各種団体の心意気を学ぶ(主に、後期セメスター)

です。参加学生自身が楽しむのが大前提です。

企画研究 SN § 企画研究(自主企画研究) SN

20061

担当者名 / Instructor 荒木 穂積

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

日本の保育園・幼稚園、学校、福祉施設あるいは家庭、地域での障害児のあそびや学び、仕事の実態などについて研究し、2008年8月にホーチミン市(予定)で開催される、日本ベトナム友好障害児教育・福祉セミナーに参加し報告する。

また、セミナー期間中に、ベトナムの学生と協力してベトナムの保育園・幼稚園、学校、福祉施設について研究しする。

到達目標 / Attainment Objectives

- ・帰国後、セミナーでの発表報告をもとに報告書(レポート)を作成する。
- ・レポートをもとに2008年12月に開催される産業社会学会主催のゼミナール大会で発表をおこなう。
- ・日本とベトナムの学生・研究者の交流活動に参加したり、学部内外の関連する授業に参加したりして本授業の補いとする。
- ・他大学学生との共同研究も積極的にすすめる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	顔合わせ/各自の興味や関心を出し合う。	
第2回~4回	昨年度までのセミナーの様子をビデオや写真で見たり、先輩や関係者の話を聞いたりして、研究・発表の方法やイメージをつかむ。	
第5回~8回	8月のセミナーでの発表に向けてテーマを確定し、フィールド調査、観察、文献研究などの準備を始める。7月に事前発表会。できればパワーポイントを使って報告する。	
第11回~12回	帰国後、セミナーの反省およびゼミナール大会に向けての発表の打ち合わせを行う。必要に応じて追加調査を実施する。	
第13回	ゼミナール大会にむけての資料とパワーポイントを準備する。	
第14回	ゼミナール大会で発表する	
第15回	1年間の活動のまとめと来年の課題の確認	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

上記以外に発表(セミナーおよびゼミナール大会)の準備のために集まることもある。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	成績評価は、ベトナムに行ったかどうかではなく、セミナーでの研究報告の準備過程への参加の度合いと内容で評価します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

- ・ベトナムへの渡航費用は自費が原則です。
- ・年度によっては授業登録者へ海外研修費補助が出ることがあります。

企画研究 SO § 企画研究(自主企画研究) SO

20062

担当者名 / Instructor 文 楚雄

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

この企画研究の授業は、教員の指導の下に中国のことばや文化・社会について、それぞれの関心領域やテーマを設定し、前期の学習、夏休みの蘇州での現地調査(9月17—23日予定)及び後期のレポート作成に向けての学習の三セクションの勉強を通じて、激変している中国の社会や文化に対する認識を深めると同時に、実用の中国語会話も身につけていくことを目標とする。

到達目標 / Attainment Objectives

- ◎ 現地調査などを通じて中国の文化や社会を実践的体験できる。
- ◎ 中国のことば、文化、社会に対する理解や認識が深められる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	各自の関心領域の紹介や到達目標の設定	
第2回	関心領域の先行研究の状況	
第3回	現代中国の社会・文化の実情や問題点	
第4回	領域1の研究討論	
第5回	領域2の研究討論	
第6回	領域3の研究討論	
第7回	蘇州についての学習	
第8回	上海についての学習	
第9~10回	夏休みの9月17—23日(予定)は中国の蘇州市へ出かけ、現地調査を行う。と同時に、蘇州大学の教授による特別講義3回を受ける。また、蘇州大学の学生との交流も大いに進めていく。蘇州は日本企業が300社あまり進出していることから、日系企業の見学も視野に入れている。蘇州大学での特別の講義、蘇州の現地調査などは授業2回分に換算する。	
第11回	現地調査を踏まえた研究討論(1)	
第12回	現地調査を踏まえた研究討論(2)	
第13回	現地調査を踏まえた研究討論(3)	
第14回	レポート作成の討論学習	
第15回	レポート集の完成・編集	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	普段の取り組み、最終レポートの提出・編集
企画研究に関するレポートは学部統一の字数の要件がありますので、ご注意ください。		

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

中国語の能力を問わないが、現地へ行って学んでみたい、現地の大学生と交流してみたいという意欲のある者を優先する。中国を訪問してみたい、現地の人々と中国語を使ってみたいという動機の強い者はこのパートに応募してください。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『現代中国の生活変動』	飯田哲也・坪井健共編、／時潮社／／
『中国のことばと文化・社会』	中文礎雄著／時潮社／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

中国現地調査のための渡航費用は10万円程度が必要である。

企画研究 SP § 企画研究(自主企画研究) SP

16823

担当者名 / Instructor 野田 正人

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

中国江蘇省立蘇州大学との提携に基づき、現地での協力が期待できる企画である。中国語の経験は必要ないが、経済発展と変化の著しい中国沿海部の諸課題について関心をもち、歴史・町作り・家族・教育など、各自の関心ある切り口から、今日の中国と日本のあり方に積極的な関心をもって臨むことを希望する。

事前学習では、中国語会話(入門レベル)と中国の社会・文化について学び、あわせて各自の関心に基づいた研究課題を設定し、現地調査と比較研究を行う。

到達目標 / Attainment Objectives

- 1 中国を訪問し、現地を経験する。
- 2 各自の設定した研究課題について現地での調査と比較研究を行う。
- 3 経験と研究とをまとめ、報告する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	中国語会話 中国の文化と社会入門(基本)	各自の課題の選定
2	中国語会話 中国の文化と社会入門(文化)	各自の課題の報告
3	中国語会話 中国の文化と社会入門(蘇州の地域)	日本の課題の研究
4	中国語会話 中国の文化と社会入門(具体的課題)	比較研究の課題
5	中国現地調査(9月に1週間程度)	蘇州と上海
6	現地調査振り返りと報告	
7-10	報告書の作成	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	課題を報告書にまとめる。
平常点(日常的)	50 %	各自の課題への取り組み。 授業出席。 現地調査への参加と役割の遂行。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

各自の関心テーマを、激動する中国に行つて比較研究しようというダイナミックな学びの機会であり、参加して意味ある研究にしたい。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

企業社会論 S

20271

担当者名 / Instructor 大野 威、木田 融男

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

講義では以下のことがらに着目しながら、広く企業社会について考察を進めていく。①まず企業と社会の関係について考える。現代社会における企業の位置、企業が幅をきかす社会としての現代日本、日本企業の特質などについて考える。②次に社会集団、社会組織としての企業について考える。人を雇用し、人に仕事を与え、生き甲斐を与え、働かせる場としての企業の側面を取り上げる。③企業と市民社会の関係について考える。企業と株主、消費者、業界、環境、社員などを媒介にして望ましい企業と社会の関係について考える。

到達目標 / Attainment Objectives

企業社会論には次のような分析視点がある。一つは企業が幅をきかせ企業が支配する社会を問題とする視点。もう一つは企業の中で働く人びとがつくる社会＝会社を考察する視点。3つめには社会と企業の望ましい関係の問題を論じる視点。企業社会論はこうした視点に着目しながら、現代日本における企業の位置、社員の企業における働き方と働かせ方、よりよい企業と社会、企業と人間の関係の形成などについて広く考察を進めていく。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

経営学 産業社会学 労働社会学

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	イントロダクション	
第2回	企業社会の進化の歴史	株式会社、法人格の発生、会社の発達
第3回	社会における企業の位置1	環境問題、児童労働、遺伝子作物
第4回	社会における企業の位置2	WTOと民営化
第5回	企業の社会的責任1	企業不祥事、企業倫理
第6回	企業の社会的責任2	エンロンの事例
第7回	働く場としての企業 日本的雇用慣行	年功制と長期雇用 プラスとマイナス
第8回	企業社会の変容	新しい働かせ方 ジェンダー
第9回	<中間考察> 企業社会を考える、企業と社会と国家	企業社会、市民社会、企業国家
第10回	企業社会にいたるまでの形成史	企業社会にいたるまでの形成史
第11回	企業社会と市民社会	市場関係、企業中心社会
第12回	企業社会と消費	消費者操作、消費者誘導
第13回	企業社会とグローバリゼーション	多国籍企業
第14回	企業社会と公共性	公共性、社会化、社会的責任
第15回	企業社会を超えて	新自由主義、ジェンダー、福祉社会、市民社会

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

新聞には毎日のように、いくつもの企業のさまざまな企業行動が報じられる、業績・決算、企業不祥事 合併・分社化 採用・募集など。これらの記事を丁寧に読む必要がある。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	4段階評価

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
	///

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『21世紀の日本を見つめる：家族から地球まで』	立命館大学現代社会研究会 2004/晃洋書房//
『家族 ジェンダー 企業社会』	木本喜美子 1995/ミネルヴァ書房//
『企業社会と労働組合』	熊沢誠 1977/三一書房//
『企業社会と人間：トヨタの労働、生活、地域』	職業。生活研究会1994/法律文化社//

『企業と社会』	梅沢正 2000/ミネルヴァ書房//
『キャリアの社会学』	辻 勝次編著 2007/ミネルヴァ書房//
『企業社会・日本はどこへ行くのか』	渡辺治/教育史料出版会//
『変容期の企業と社会：現代日本社会の再編』	浪江巖・木田融男・守屋貴司編/八千代出版//

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

基礎社会学 SA

12398

担当者名 / Instructor 筒井 淳也

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

産業社会学部では「メディア」や「福祉」を始め様々な専門領域をまなぶことができるが、それらの領域を深いレベルで基礎づけている土台の一つに「社会学」がある。産業社会学部の学生は、社会学の基礎的な知識を身につけた上で専門科目やゼミを受講することが望まれる。社会学は簡単に言えば「社会の背景にある仕組み」を説明するための学問である。対象領域は多様であるが、「基礎社会学」では、基礎理論、文化、家族、エスニシティ、社会階層、組織などの主要領域について基礎的な社会学的見方を講義していく。

到達目標 / Attainment Objectives

社会学の基礎概念、主要領域について学ぶことを通じて、社会学的な社会の説明の仕方を身につけること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	社会学とは何か (テキスト第1章)	社会学理論、マルクス、ウェーバー、デュルケム
第2回	行為と集団(1) (テキスト第3章)	行為類型、集団、大衆
第3回	行為と集団(2) (テキスト第3章)	同上
第4回	地域社会とエスニシティ(1) (テキスト第4章、第7章)	地域と都市、人種と民族
第5回	地域社会とエスニシティ(2) (テキスト第4章、第7章)	同上
第6回	文化と社会規範(1) (テキスト第5章、第10章)	規範・逸脱、準拠集団、文化研究
第7回	文化と社会規範(2) (テキスト第5章、第10章)	同上
第8回	社会階層と社会福祉(1) (テキスト第6章、第15章)	階層の再生産、貧困・格差、福祉国家
第9回	社会階層と社会福祉(2) (テキスト第6章、第15章)	同上
第10回	ジェンダーと家族(1) (テキスト第8章、第9章)	フェミニズム、女性の就労、結婚
第11回	ジェンダーと家族(2) (テキスト第8章、第9章)	同上
第12回	産業・組織・労働(1) (テキスト第12章)	大量生産、人間関係学派、日本の経営
第13回	産業・組織・労働(2) (テキスト第12章)	同上
第14回	社会学と現代社会(1)	
第15回	社会学と現代社会(2)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

予習として、テキストの該当箇所を各講義の前に読むことが望ましい。また、講義で使用しなかったテキストの章(2:社会調査、11:教育と社会、13:政治と社会、14:宗教と社会、16:コミュニケーションと社会、17:人口・環境と社会など)も各自読んでおき、専門科目に備えること。また、留学に興味がある人は「付録2:留学して社会学を学ぶ」の部分を読んでみるとよい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	85 %	社会学についての基礎的な理解が達成されていることを確認する。教科書の該当章の他、各講義で取り扱った内容が試験範囲となる。
平常点(日常的)	15 %	期間中に1回レポートを課し、評価の参考とする。また受講態度が非常に悪い場合は、平常点から減点することもある。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

出席はとらないが、その分真摯な態度を持って講義に望んで欲しい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
現代社会学[第2版]	松田健/ミネルヴァ書房/978-4-623-04976-9/社会学の主要分野を網羅した、パランスのよい定番テキストである。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
基礎社会学講義	飯田哲也/学文社/978-4762011634/

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

基礎社会学 SB

12399

担当者名 / Instructor 大野 威

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

産業社会学部では「メディア」や「福祉」を始め様々な専門領域をまなぶことができるが、それらの領域を深いレベルで基礎づけている土台の一つに「社会学」がある。産業社会学部の学生は、社会学の基礎的な知識を身につけた上で専門科目やゼミを受講することが望まれる。社会学は簡単に言えば「社会の背景にある仕組み」を説明するための学問である。対象領域は多様であるが、「基礎社会学」では、基礎理論、文化、家族、エスニシティ、社会階層、組織などの主要領域について基礎的な社会学的見方を講義していく。

到達目標 / Attainment Objectives

社会学の基礎概念、主要領域について学ぶことを通じて、社会学的な社会の説明の仕方を身につけること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	社会学とは何か (テキスト第1章)	社会学理論、マルクス、ウェーバー、デュルケム
第2回	行為と集団(1) (テキスト第3章)	行為類型、集団、大衆
第3回	行為と集団(2) (テキスト第3章)	同上
第4回	地域社会とエスニシティ(1) (テキスト第4章、第7章)	地域と都市、人種と民族
第5回	地域社会とエスニシティ(2) (テキスト第4章、第7章)	同上
第6回	文化と社会規範(1) (テキスト第5章、第10章)	規範・逸脱、準拠集団、文化研究
第7回	文化と社会規範(2) (テキスト第5章、第10章)	同上
第8回	社会階層と社会福祉(1) (テキスト第6章、第15章)	階層の再生産、貧困・格差、福祉国家
第9回	社会階層と社会福祉(2) (テキスト第6章、第15章)	同上
第10回	ジェンダーと家族(1) (テキスト第8章、第9章)	フェミニズム、女性の就労、結婚
第11回	ジェンダーと家族(2) (テキスト第8章、第9章)	同上
第12回	産業・組織・労働(1) (テキスト第12章)	大量生産、人間関係学派、日本の経営
第13回	産業・組織・労働(2) (テキスト第12章)	同上
第14回	社会学と現代社会(1)	
第15回	社会学と現代社会(2)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

予習として、テキストの該当箇所を各講義の前に読むことが望ましい。また、講義で使用しなかったテキストの章(2:社会調査、11:教育と社会、13:政治と社会、14:宗教と社会、16:コミュニケーションと社会、17:人口・環境と社会など)も各自読んでおき、専門科目に備えること。また、留学に興味がある人は「付録2:留学して社会学を学ぶ」の部分を読んでみるとよい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	85 %	社会学についての基礎的な理解が達成されていることを確認する。教科書の該当章の他、各講義で取り扱った内容が試験範囲となる。
平常点(日常的)	15 %	期間中に1回レポートを課し、評価の参考とする。また受講態度が非常に悪い場合は、平常点から減点することもある。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

出席はとらないが、その分真摯な態度を持って講義に望んで欲しい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
現代社会学[第2版]	松田健/ミネルヴァ書房/978-4-623-04976-9/社会学の主要分野を網羅した、パランスのよい定番テキストである。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
基礎社会学講義	飯田哲也/学文社/978-4762011634/

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

基礎社会学 SC

12400

担当者名 / Instructor 木田 融男

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

産業社会学部では「メディア」や「福祉」を始め様々な専門領域をまなぶことができるが、それらの領域を深いレベルで基礎づけている土台の一つに「社会学」がある。産業社会学部の学生は、社会学の基礎的な知識を身につけた上で専門科目やゼミを受講することが望まれる。社会学は簡単に言えば「社会の背景にある仕組み」を説明するための学問である。対象領域は多様であるが、「基礎社会学」では、基礎理論、文化、家族、エスニシティ、社会階層、組織などの主要領域について基礎的な社会学的見方を講義していく。

到達目標 / Attainment Objectives

社会学の基礎概念、主要領域について学ぶことを通じて、社会学的な社会の説明の仕方を身につけること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	社会学とは何か (テキスト第1章)	社会学理論、マルクス、ウェーバー、デュルケム
第2回	行為と集団(1) (テキスト第3章)	行為類型、集団、大衆
第3回	行為と集団(2) (テキスト第3章)	同上
第4回	地域社会とエスニシティ(1) (テキスト第4章、第7章)	地域と都市、人種と民族
第5回	地域社会とエスニシティ(2) (テキスト第4章、第7章)	同上
第6回	文化と社会規範(1) (テキスト第5章、第10章)	規範・逸脱、準拠集団、文化研究
第7回	文化と社会規範(2) (テキスト第5章、第10章)	同上
第8回	社会階層と社会福祉(1) (テキスト第6章、第15章)	階層の再生産、貧困・格差、福祉国家
第9回	社会階層と社会福祉(2) (テキスト第6章、第15章)	同上
第10回	ジェンダーと家族(1) (テキスト第8章、第9章)	フェミニズム、女性の就労、結婚
第11回	ジェンダーと家族(2) (テキスト第8章、第9章)	同上
第12回	産業・組織・労働(1) (テキスト第12章)	大量生産、人間関係学派、日本の経営
第13回	産業・組織・労働(2) (テキスト第12章)	同上
第14回	社会学と現代社会(1)	
第15回	社会学と現代社会(2)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

予習として、テキストの該当箇所を各講義の前に読むことが望ましい。また、講義で使用しなかったテキストの章(2:社会調査、11:教育と社会、13:政治と社会、14:宗教と社会、16:コミュニケーションと社会、17:人口・環境と社会など)も各自読んでおき、専門科目に備えろとよい。また、留学に興味がある人は「付録2:留学して社会学を学ぶ」の部分を読んでみるとよい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	85 %	社会学についての基礎的な理解が達成されていることを確認する。教科書の該当章の他、各講義で取り扱った内容が試験範囲となる。
平常点(日常的)	15 %	期間中に1回レポートを課し、評価の参考とする。また受講態度が非常に悪い場合は、平常点から減点することもある。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

出席はとらないが、その分真摯な態度を持って講義に望んで欲しい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
現代社会学[第2版]	松田健/ミネルヴァ書房/978-4-623-04976-9/社会学の主要分野を網羅した、パランスのよい定番テキストである。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
基礎社会学講義	飯田哲也/学文社/978-4762011634/

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

基礎社会学 SD

12401

担当者名 / Instructor 中井 美樹

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

産業社会学部では「メディア」や「福祉」を始め様々な専門領域をまなぶことができるが、それらの領域を深いレベルで基礎づけている土台の一つに「社会学」がある。産業社会学部の学生は、社会学の基礎的な知識を身につけた上で専門科目やゼミを受講することが望まれる。社会学は簡単に言えば「社会の背景にある仕組み」を説明するための学問である。対象領域は多様であるが、「基礎社会学」では、基礎理論、文化、家族、エスニシティ、社会階層、組織などの主要領域について基礎的な社会学的見方を講義していく。

到達目標 / Attainment Objectives

社会学の基礎概念、主要領域について学ぶことを通じて、社会学的な社会の説明の仕方を身につけること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	社会学とは何か (テキスト第1章)	社会学理論、マルクス、ウェーバー、デュルケム
第2回	行為と集団(1) (テキスト第3章)	行為類型、集団、大衆
第3回	行為と集団(2) (テキスト第3章)	同上
第4回	地域社会とエスニシティ(1) (テキスト第4章、第7章)	地域と都市、人種と民族
第5回	地域社会とエスニシティ(2) (テキスト第4章、第7章)	同上
第6回	文化と社会規範(1) (テキスト第5章、第10章)	規範・逸脱、準拠集団、文化研究
第7回	文化と社会規範(2) (テキスト第5章、第10章)	同上
第8回	社会階層と社会福祉(1) (テキスト第6章、第15章)	階層の再生産、貧困・格差、福祉国家
第9回	社会階層と社会福祉(2) (テキスト第6章、第15章)	同上
第10回	ジェンダーと家族(1) (テキスト第8章、第9章)	フェミニズム、女性の就労、結婚
第11回	ジェンダーと家族(2) (テキスト第8章、第9章)	同上
第12回	産業・組織・労働(1) (テキスト第12章)	大量生産、人間関係学派、日本の経営
第13回	産業・組織・労働(2) (テキスト第12章)	同上
第14回	社会学と現代社会(1)	
第15回	社会学と現代社会(2)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

予習として、テキストの該当箇所を各講義の前に読むことが望ましい。また、講義で使用しなかったテキストの章(2:社会調査、11:教育と社会、13:政治と社会、14:宗教と社会、16:コミュニケーションと社会、17:人口・環境と社会など)も各自読んでおき、専門科目に備えること。また、留学に興味がある人は「付録2:留学して社会学を学ぶ」の部分を読んでみるとよい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	85 %	社会学についての基礎的な理解が達成されていることを確認する。教科書の該当章の他、各講義で取り扱った内容が試験範囲となる。
平常点(日常的)	15 %	期間中に1回レポートを課し、評価の参考とする。また受講態度が非常に悪い場合は、平常点から減点することもある。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

出席はとらないが、その分真摯な態度を持って講義に望んで欲しい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
現代社会学[第2版]	松田健/ミネルヴァ書房/978-4-623-04976-9/社会学の主要分野を網羅した、パランスのよい定番テキストである。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
基礎社会学講義	飯田哲也/学文社/978-4762011634/

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

基礎社会学 SE

12402

担当者名 / Instructor 佐藤 春吉

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

産業社会学部では「メディア」や「福祉」を始め様々な専門領域をまなぶことができるが、それらの領域を深いレベルで基礎づけている土台の一つに「社会学」がある。産業社会学部の学生は、社会学の基礎的な知識を身につけた上で専門科目やゼミを受講することが望まれる。社会学は簡単に言えば「社会の背景にある仕組み」を説明するための学問である。対象領域は多様であるが、「基礎社会学」では、基礎理論、文化、家族、エスニシティ、社会階層、組織などの主要領域について基礎的な社会学的見方を講義していく。

到達目標 / Attainment Objectives

社会学の基礎概念、主要領域について学ぶことを通じて、社会学的な社会の説明の仕方を身につけること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	社会学とは何か (テキスト第1章)	社会学理論、マルクス、ウェーバー、デュルケム
第2回	行為と集団(1) (テキスト第3章)	行為類型、集団、大衆
第3回	行為と集団(2) (テキスト第3章)	同上
第4回	地域社会とエスニシティ(1) (テキスト第4章、第7章)	地域と都市、人種と民族
第5回	地域社会とエスニシティ(2) (テキスト第4章、第7章)	同上
第6回	文化と社会規範(1) (テキスト第5章、第10章)	規範・逸脱、準拠集団、文化研究
第7回	文化と社会規範(2) (テキスト第5章、第10章)	同上
第8回	社会階層と社会福祉(1) (テキスト第6章、第15章)	階層の再生産、貧困・格差、福祉国家
第9回	社会階層と社会福祉(2) (テキスト第6章、第15章)	同上
第10回	ジェンダーと家族(1) (テキスト第8章、第9章)	フェミニズム、女性の就労、結婚
第11回	ジェンダーと家族(2) (テキスト第8章、第9章)	同上
第12回	産業・組織・労働(1) (テキスト第12章)	大量生産、人間関係学派、日本の経営
第13回	産業・組織・労働(2) (テキスト第12章)	同上
第14回	社会学と現代社会(1)	
第15回	社会学と現代社会(2)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

予習として、テキストの該当箇所を各講義の前に読むことが望ましい。また、講義で使用しなかったテキストの章(2:社会調査、11:教育と社会、13:政治と社会、14:宗教と社会、16:コミュニケーションと社会、17:人口・環境と社会など)も各自読んでおき、専門科目に備えるとよい。また、留学に興味がある人は「付録2:留学して社会学を学ぶ」の部分を読んでみるとよい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	85 %	社会学についての基礎的な理解が達成されていることを確認する。教科書の該当章の他、各講義で取り扱った内容が試験範囲となる。
平常点(日常的)	15 %	期間中に1回レポートを課し、評価の参考とする。また受講態度が非常に悪い場合は、平常点から減点することもある。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

出席はとらないが、その分真摯な態度を持って講義に望んで欲しい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
現代社会学[第2版]	松田健/ミネルヴァ書房/978-4-623-04976-9/社会学の主要分野を網羅した、パランスのよい定番テキストである。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
基礎社会学講義	飯田哲也/学文社/978-4762011634/

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

キャリアデザイン論 S

20268

担当者名 / Instructor 辻 勝次

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

働き方と働き方の社会学

君たちが就活を始めて今更のように思うことは、①働く側として「自分は何がしたいのか、何に向いているのか」ははっきりしていないことであり、②働かせる側である会社や仕事先には「どんな仕事があって、どうしたらそこへたどり着けるのか」という疑問である。キャリアデザイン論では自分の適性を考えることを助け、また会社の中で働くときに会う会社の仕組みや状況についての理解を助ける。いわば、働き方と働き方についての社会学の知恵を学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

この講義を取ったからといってすぐにいい職に就けるわけではない。ただし、いい職を探すにはどんなことに気を付けなければならないかについて知ることはできる。職探しの主人公はあくまでも君たち自身である。また良い仕事というのは、目の就活・就職の問題だけではなく、人生全体の生き方、人生行路の問題であることを理解して欲しい。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	キャリア問題をめぐる最近の状況	最近の雇用・労働事情
第2回	仕事と労働の歴史	労働思想史、労働哲学史 労働史
第3回	働く側からのキャリア 1	「仕事円錐」、人の成熟と職業生涯
第4回	働く側からのキャリア 2	キャリアパターンと社会移動
第5回	働かせる側からのキャリア1	日本的雇用慣行とキャリア
第6回	働かせる側からのキャリア2	社内昇進競争とキャリア
第7回	事例研究 事務系ホワイトカラーの職業生涯	
第8回	事例研究 技術系ホワイトカラーの職業生涯	
第9回	事例研究 事務系女子社員の職業生涯	
第10回	事例研究 量産型労働者の職業生涯	
第11回	事例研究 一品型労働者の職業生涯	
第12回	働かせ方の変化と働き方の変化	パブル以後の状況
第13回	新しい働き方と働かせ方	契約 派遣 請負
第14回	よい仕事を求めて	シャインのキャリアアンカーについて考える
第15回	企業会社から職業社会へ	自立としての職業とキャリア

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

担当者名 / Instructor 乾 亨

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本講義では、一人ひとりにとって居心地のいい居住環境とはどのようなものなのかを明らかにするとともに、そのような環境を創出するための考え方や知恵や技を伝授する。

多くの具体的事例を通して、「空間・場(都市・まち)」の質が「ひと」の在り方(社会関係や文化等)を規定し「できごと(生活のドラマ)」を誘発すると同時に、「ひと」の「思い」や「できごと」が「場」に意味を与えるという、「場」と「人」の「創り・創られる」相互浸透的で重層的な関係として「居住環境」を読み解く視点を学んでいく。

講義では、スライド映像等を活用しつつ、多くの事例をもとに「見える都市」から「見えない都市」を読み解いていく。知識提供型ではなく、事例を物語りその意味を考えてもらう問題提起型の講義。

到達目標 / Attainment Objectives

人々が心地よく暮らさう「場=居住環境」とはなにかを知り、そのような環境を創出するための考え方や技を身に着けるための糸口を、事例とその解説を通じて自ら学び、発見する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本講義のみで完結する内容ですが、後期におこなう「参加のデザイン論」をあわせて受講することを期待します。より理解の幅が深まるはずで

す。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	「居住環境デザイン論」ってなに? 「居住環境」ってなに?	本授業の視点の提供: 「ひと」と「場所=都市(まち・地域)」の関係論
第2回	だから都市はおもしろい その1	京都歴史散歩…京都は千年の都、万古不易って本当?
第3回	だから都市はおもしろい その2	続・京都歴史散歩…「都市」の魅力は多層性・多義性にある
第4回	だから都市はおもしろい その3	都市はうつろいゆくもの。網目としての都市・自己創出系としての都市=「まちづくり」の視座
第5回	「都市をつくる企て」としての近代都市計画 その1	都市計画とはなにか
第6回	「都市をつくる企て」としての近代都市計画 その2	「理想の都市」は創りうるか=近代都市計画の光と影(1)
第7回	「都市をつくる企て」としての近代都市計画 その3	「理想の都市」は創りうるか=近代都市計画の光と影(2)
第8回	中間まとめ	
第9回	「都市」の構造を継承するところみ その1	こちよい場所をつくる「まちづくり」事例(1)
第10回	「都市」の構造を継承するところみ その2	こちよい場所をつくる「まちづくり」事例(2)
第11回	「都市」の構造を継承するところみ その3	こちよい場所をつくる「まちづくり」事例(3)
第12回	「都市」(まち)に住み続けるために その1	京都の現状…京都は住み続けられるまちか?(1)
第13回	「都市」(まち)に住み続けるために その2	京都の現状…京都は住み続けられるまちか?(2)
第14回	「都市」(まち)に住み続けるために その3	新しい京都の動き
第15回	まとめ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	100 %	基本的には提出された「試験レポート」の質で評価。それなりに厳しく採点します。
平常点(日常的)	20 %	適宜(数回/半期)、出席確認を兼ねて感想や質問を提出してもらい、出席率がいい人は「試験にかわるレポート」の評価に加点します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

知識提供型ではなく、事例を物語りその意味を考えてもらう問題提起型の講義なので、きちんと出席して継続して受講することを望みます

教科書 / Textbooks

教科書は用いず、適宜レジュメを配布します。

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

福祉住環境論 S

13043

担当者名 / Instructor 蔵田 力

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

テーマ「高齢者・障害者が住まいで地域で安心して住み続けられるために」我が国の急速に進む高齢社会において、障害を持つ高齢者も増え続けている。高齢者・障害者が住まいで、地域で人間らしく安心して住み続けられる環境はどうあるべきか。日本の住宅政策、福祉政策を先進の北欧等の国々と歴史的に比較しながら考察していく。また、国連における「居住の権利」宣言等の最近の動きも学びながら、「住まうことは基本的人権」であることを確認する。なお現在、世界および日本の各地で取り組まれている住民と各分野の専門家及び行政の連携による「住まいの環境改善」や「福祉のまちづくり」の実践例を学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

世界的な流れである「住まいは福祉の基盤」「住まいは人権」を理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

高齢者・障害者の福祉および「住まい」「まちづくり」に対して興味を持っていること。又、将来それらに関わることを目指している。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	講義概要、流れ、到達目標等説明	
第2回	住宅総論Ⅰ「住まい」とは	
第3回	住宅総論Ⅱ「居住の権利宣言」を学ぶ	
第4回	住宅総論Ⅲ 日本、世界の住宅政策と福祉政策	
第5回	住宅各論Ⅰ バリアフリーの考え方	
第6回	住宅各論Ⅱ-1 「住まいの環境改善」のあり方	
第7回	住宅各論Ⅱ-2 「住まいの環境改善」における専門家の連携	
第8回	住宅各論Ⅱ-3 事例研究	
第9回	住宅各論Ⅲ 「住まい」と家族	
第10回	住宅各論Ⅳ 「住まい」と健康	
第11回	住宅各論Ⅴ ホームレス問題	
第12回	地域論Ⅰ 日本と世界の都市政策	
第13回	地域論Ⅱ-1 高齢者・障害者が住み続けられる「まちづくり」	
第14回	地域論Ⅱ-2 生活圏構想	
第15回	まとめ・超高齢社会を展望する「まちづくり」の課題(討論)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

配布資料および参考書のポイントを復習、また事前に配布された資料の予習

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	講義の理解度および与えられたテーマに対して、主体的にどう深めたのかを評価
平常点(検証テスト)	20 %	コミュニケーションカードの講義に対する感想等で評価

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

- (1) 配布資料は必ず整理し、毎回の講義に持参する。
- (2) コミュニケーションカードには、積極的に感想、意見を述べる。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「居住福祉」	早川和男／岩波新書／／大学生協等で各自購入

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「住宅の権利・誓約集」	監修・中林 浩／日本住宅会議／／日本住宅会議が注文販売

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

グローバルスポーツ論 S

20298

担当者名 / Instructor 藪 耕太郎

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

スポーツのグローバルな展開、とはどのような歴史的経緯を経て形成され、現代におけるいかなる位相においてみることができるのであろうか。本講義では、「南米」と「移民」を主たるキーワードに、スポーツがグローバルな単位で伝播する過程と、普及－受容の双方向的な関係に着目することで、その課題に応えることを目的とする。

到達目標 / Attainment Objectives

- ①スポーツのグローバル化に伴う歴史的変遷過程と、諸権力との結びつきを理解する。
- ②グローバルに展開するスポーツのありようを複眼的に捉えるための眼を養う。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	ガイダンス	講義目的、進め方、授業評価について
第2回	祝祭としてのフットボールから近代サッカーへの変遷①	民俗フットボール、パブリックスクール、アスレティズム、アマチュアリズム
第3回	祝祭としてのフットボールから近代サッカーへの変遷②	フットボールアソシエーション、プロフェッショナリズム
第4回	グローバルスポーツとしてのサッカー①	国際サッカー連盟、国際大会、ナショナリズム
第5回	グローバルスポーツとしてのサッカー②	日常性からの脱却、国威発揚
第6回	グローバルスポーツとしてのサッカー③	ビデオ鑑賞
第7回	日本から海外への柔術の普及とJiu-Jitsuの受容①	ジャポニズム、オリエンタリズム、日露戦争
第8回	日本から海外への柔術の普及とJiu-Jitsuの受容②	現地社会と受容基盤、異種格闘技試合
第9回	Jiu-Jitsuの逆輸入①	ブラジリアン柔術、変種
第10回	Jiu-Jitsuの逆輸入②	商業イベント、メディア
第11回	移民とスポーツ①	スポーツ労働移民
第12回	移民とスポーツ②	日系移民社会、コミュニティ、トランス・ナショナルなネットワーク
第13回	移民とスポーツ③	ナショナル・アイデンティティ
第14回	スポーツのグローバル化と「国技」	相撲、バスケットボール、伝統と変容
第15回	グローバルとローカルの共振 ーまとめにかえて	文化帝国主義

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	70 %	授業内容の理解度を判定する。
平常点(検証テスト)	20 %	講義期間中に2回(第8回頃・第14回頃)、ミニレポートを課す。それぞれの試験では、授業の前半・後半の理解度を評価する。
平常点(日常的)	10 %	自学自習を随時受け付ける。評価基準は提出回数と内容で判定する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

学校体育や民間のスポーツ団体などにおける自らのスポーツ経験、あるいはスポーツニュースなどから得た興味と本講義を批判的に結びつけて受講することが望ましい。そうすれば身近な関心事としてのスポーツを、これまでとは違う角度で見つめ直すための一助になるだろう。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
サッカー狂の社会学—ブラジルの社会とスポーツ	J・リーヴァー／世界思想社／4790706117／
スポーツ文化論シリーズ①～⑭	中村敏雄編／創文企画／／
日系人とグローバリゼーション—北米、南米、日本	レイン・リョウ・ヒラバヤシ他編／人文書院／4409230395／
文化帝国主義	J・トムリンソン／青土社／4791755499／

スポーツと帝国—近代スポーツと文化帝国主義 A・グットマン／昭和堂／4812297125／

越境するスポーツ—グローバリゼーションとロー
カリティ 高津勝・尾崎正峰編／創文企画／492116441X／

『日系人とグローバリゼーション—北米、南米、日本』(2006)は、スポーツを主題とするものではないが、本講義で扱う日系社会のありようを知るために一読を勧める。また、上記以外の文献に関しても、適宜紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

グローバルメディア論 S § グローバルメディア論 I

15517

担当者名 / Instructor 日高 勝之

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

現代のメディアをめぐる社会的環境の変化の中で、グローバリゼーションは最重要なもの1つである。しかし、グローバリゼーションは一般に知られているより遥かに多様な側面を持つと共に、実に複雑な影響をメディアに与え、また逆にメディアそのものがグローバリゼーションに影響を与えてもいる。

本講義では、最初にグローバリゼーションの基本的な概念を学び、その上で世界で起きている様々な事例を通して、グローバリゼーションのダイナミズム、メディアとグローバリゼーションの相互影響と、そこから生じる問題を考える。最後にメディアを巡るグローバル化が様々な問題を抱える中で、グローバルな次元での共生、アイデンティティ構築が可能なのか考察する。

到達目標 / Attainment Objectives

1. グローバリゼーションを巡る様々な概念を、具体的な事例と共に理解し、説明できるようになること。
2. グローバル化時代におけるメディア・文化の構造と様々な問題点の基礎的な理解をし、その上で批判的な視座に立ち、各自の意見が言えるようになること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の概要と導入～グローバリゼーションとは何か～	グローバリゼーションの定義、時間と空間の圧縮
第2回	グローバリゼーションの諸理論とメディア、情報の接点	文化帝国主義、ハイブリディゼーション
第3回	メディアとナショナリズムを考える	アンダーソン、ゲルナー、ビルリッグ、日米関係、
第4回	国際報道をめぐるグローバルな地政学	海外支局・特派員、中心と周縁、戦後の国際報道
第5回	ニュース報道のグローバル化とローカル化	英米の国際報道、ニュースの商業主義、グローカリゼーション、ローカル・ニュース
第6回	メディアとテロリズムを結ぶもの	戦後のテロ、セカンドハンド・テロリズム、イスラム過激派サイト
第7回	文化摩擦・交流とメディア	ハンチントン、多文化主義、日韓文化交流
第8回	国際政治とメディア報道	先進国メディア、ウオーターゲート事件、ペンタゴン・ペーパーズ事件、ニュースの議題設定
第9回	グローバルなメディア・情報格差	CNN、マードック、ニュース・コーポレーション
第10回	オンライン・ジャーナリズムの役割と可能性	コンボ空爆、セカンド・ハンドニュース
第11回	歴史、記憶とメディア①歴史から記憶の優位性へ	E.H.カー、コリングウッド、ピエール・ノラ他、記憶と映画①
第12回	歴史、記憶とメディア②記憶装置としてのメディア	テッサ・モーリス＝スズキ他、記憶と映画②
第13回	モダニティ、消費化する世界とメディア①	ギデンズ、ボードリヤール、モダニティと映画①
第14回	モダニティ、消費化する世界とメディア②	ヘリテージ産業、モダニティと映画②
第15回	グローバルな市民意識は可能か	脱西洋化理論、コスモポリタニズム、バフチン

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

授業で学んだことの復習・応用を念頭に置いて、授業内に参考資料、応用への取り組み等を適宜紹介する。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	90 %	
レポート試験	0 %	
平常点(日常的)	10 %	授業内でレポートを書いてもらう。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

- ・メディアは生き物です。大事件が起きてニュースになれば、授業では、それに関連付けて議論を展開することもあります。従って、普段から新聞、ニュースにしっかりと触れるようにしてください。それによって講義の理解度に大きな差が出ます。
- ・受講人数にもよりますが、テーマに応じたディスカッションを随時実施し、問題意識と応用力を鍛えます。
- ・本科目の性質上、時事問題を重視するため、ニュースを騒がす大きな事件が発生した場合などには、授業内容の変更があったり、授業外学習の指示を中心に授業を行うこともあります。
- ・私語は厳禁です。周囲の学生に迷惑な私語には厳しく対処します。

教科書 / Textbooks

書名 / Title

グローバル社会とメディア

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

武市英雄・原寿雄(責任編集) / ミネルヴァ書房 / 4-623-03618-9 / 特に第1回から第10回の授業内容と密接に関係する。

テキストは、第10回までは、毎回持参すること。

参考書 / Reference Books

参考書、資料については、必要に応じて授業で適宜、指示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

景観デザイン論 S

20284

担当者名 / Instructor 永橋 為介

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

産業社会学部の中で「景観デザイン論」を学ぶことにはどのような意味や意義があるのか？本講座では、まず「人が景観をどう捉え、扱い、働きかけてきたのか？」という疑問を解きほぐし、次に「逆に、景観が人々の身体や感性、生活にどのような影響をあたえてきたのか？」という疑問を解きほぐしていく。そして、この2つ疑問とその解きほぐしの中から、持続可能な環境や社会を形成する作法としての景観デザインの発想法と方法論を学ぶ。その際、工学的、技術的な観点からだけでなく、社会的、経済的、生態学的、身体的、美学的そして政治的な観点からの景観デザインに対する把握と理解が不可欠になる。ここに「景観デザイン論」を産業社会学部の中で学ぶことの意味や意義が見いだせるだろう。

到達目標 / Attainment Objectives

- (1) 景観に対しては様々なアプローチがあることを理解する
- (2) 景観の概念と捉え方を幅広く理解し、自分の経験とも照らし合わせながら説明できる
- (3) 景観デザインという行為が、様々な領域や人間の活動に関係していることを理解し、説明できる
- (4) 持続可能な環境や社会の形成の観点から景観デザインの課題と可能性を自分の言葉で説明できる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

前期に実施される「環境形成論」を履修しておくことが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	オリエンテーション 景観デザイン論を学ぶことの意義と射程	講義の目的と進め方ならびに成績評価方法についての説明、景観デザイン論を学ぶ意義と射程
第2回	景観、風景、景色という概念の基礎理解	景観、風景、景色という言葉のどのように使われているか？文脈と感覚を大観し、本講義での使い方を整理す
第3回	景観デザインの系譜 その1 土木工学、景観工学は景観／風景をどう扱ってきたか？	土木工学、景観工学が扱う景観論や景観デザインの発想法や手法のレビュー
第4回	景観デザインの系譜 その2 造園学、ランドスケープ・デザインは景観／風景をどう扱ってきたか？	造園学が扱う景観論や景観デザインの発想法や手法のレビュー
第5回	景観デザインの系譜 その3 生態学、生態保全学が景観デザインにあたえたインパクト	エコロジーとデザインの融合、ビオトープ・ネットワーク、里山里地保全、エコトーン
第6回	景観デザインの系譜 その4 都市社会学、地理学は景観／風景にどうアプローチしているか？	都市社会学や地理学が景観を扱う際の発想と手法のレビュー、景観論や景観デザイン論への批判的検証
第7回	景観デザインの系譜 その5 文学、文芸評論は景観／風景をどう捉えてきたか？	文学作品や文芸批評における景観／風景の取り扱い方、捉え方のレビュー
第8回	景観デザインのオルタナティブ その1	コミュニティ・デザインとしての景観デザイン
第9回	景観デザインのオルタナティブ その2	身近な公園、広場へのコミュニティ・デザインからのアプローチ
第10回	景観デザインのオルタナティブ その3	まちなみ、まちかど、商店街へのコミュニティ・デザインからのアプローチ
第11回	景観デザインのオルタナティブ その4	疲弊した農漁村再生へのコミュニティ・デザインからのアプローチ
第12回	景観デザインのオルタナティブ その5	森林保全、流域管理へのコミュニティ・デザインからのアプローチ
第13回	自治体にみる景観行政、景観施策 その1	景観法、景観条例、美の条例、風景づくり作法
第14回	自治体にみる景観行政、景観施策 その2	誰が景観を守り育てるのか？合意形成、パートナーシップ
第15回	検証テストの実施とこれまでの講義のふりかえり	持続可能な環境形成の作法としての「景観デザイン」の課題と展望

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(検証テスト)	50 %	最終回に、講座の全体テーマに関わる「お題」を講師から出し、A4用紙1枚程度の小レポートを記述、提出してもらおう。論理構成、オリジナリティーの観点から講師が「良・可・不可」で評価する。「不可」の場合、「日常的な授業に対する取り組み状況等の評価」の如何に関わらず、単位は認められない。

平常点(日常的) 50 % 最終回を除く毎回、各回テーマに関する「お題」を講師が出し、受講者には所定の用紙に受講者自身の考えを記入してもらい、毎回、記入・提出してもらったものを講師が3段階「良・可・不可」で評価し、各回の参加度、習熟度を量る。欠席や記入済み用紙未提出の場合も不可とみなす。「不可」が連続3回続いた場合、もしくは最終回を除く14回のうち「不可」が合計7回続いた場合には単位を認められず、最終回の「検証テスト」の受験資格も失う。逆に14回全て「不可」以外の評価でも、最終回の「検証テスト」で「不可」が付いた場合には、単位は認められない。

最終回を除く毎回、講師が出した「お題」に対して、講師が感じ入った「答え」を記述し、提出した受講生には、その次の回の授業のはじめに、プレゼンテーションや講師とのディスカッションをお願いする場合があります。その場合は日常点に加算がなされます。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

いま世の中に存在するデザイン手法や景観の形成や管理が、持続可能な環境や社会を形成することに寄与しているかどうかを、批判的に検証する視点を大事にしたいと思います。そのためには自分が日常目にする景観や風景(景観という言葉と風景という言葉の概念については講義の中で触れます)、そして出来事の観察、吟味が欠かせません。自分が当たり前と持っていること(認識、景観、風景)は、実は当たり前ではないのだ、という視点が大事になります。好奇心と「疑問に思う力」がその助けになります。この講義に参加する作法としても、好奇心と「疑問に思う力」をフルに働かせて下さい。

教科書 / Textbooks

教科書は使用しません。毎回テーマ毎に参考書を紹介したり、必要な場合には、適宜、レジュメを配布したりします。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
環境と都市のデザイン	斉藤潮・土肥真人他 / 学芸出版社 / ISBN4-7615-2346-8 / 景観工学者とコミュニティ・デザイナーの激突から生まれた本。講師は第5章「市民とデザイナー 共同の可能性」を担当。景観や環境、デザインを扱うことの課題と可能性を理解するための本。
美しい都市・醜い都市	五十嵐太郎 / 中公新書クラレ / ISBN4-12-150228-0 / 都市の美しさや醜さ、景観の美しさ、醜さは誰が決めるのか？誰かに決められるのか？に疑問を持った時に読むと良い入門書。
過防備都市	五十嵐太郎 / 中公新書クラレ / ISBN4-12-150140-3 / 現代に生きることの不安を空間操作で解消することはできるのか？空間操作の権力性を理解したいときの入門書。
失われた景観	松原隆一郎 / PHP新書 / ISBN4-12-62270-4 / 景観を扱うことは実は政治、民主主義を扱うことなのだ、ということを理解させてくれる入門書
風景の中の環境哲学	桑子敏雄 / 東京大学出版会 / ISBN4-13-013024-2 / 上記3冊の新書を読んだ後に読むと、景観や風景を民主主義や政治的な文脈の中で語る際には、また別の文体や論理展開があるのだ、ということ学べる本。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

担当者名 / Instructor 伊藤 正純

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

まず現実の経済を認識するための基礎タームである、国民所得、GDP成長率、国際収支、財政(歳入・歳出)などを説明する。次いで、「生活の豊かさ」とは何かを考えるため、労働分配率や損益分岐点を使って、外需依存型経済と内需依存型経済の違いを検討する。現在の日本の「構造改革」(「小さな政府」、「金融資本主義」指向)は「格差社会」をもたらした。その問題点を日本とは対極にある北欧諸国の経済改革を念頭に考えていきたい。

到達目標 / Attainment Objectives

経済理論の基礎タームを理解すること。そのうえで、日本の「構造改革」とは何か、それは日本社会をどういう方向に「改革」しようとしているのか。それは「生活の豊かさ」を実現するのか、等々を考えていけるようにしたい。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
4/9	国民所得とは何か	市場経済 GDP 国民所得 経済成長率
4/16	市場経済だけでよいのか	市場経済と財政は相互補完的
4/23	「小さな政府」でよいのか	国民負担率 生活の豊かさ
4/30	損益分岐点からみた景気回復	利潤、賃金、労働分配率、損益分岐点
5/7	労働分配率とは何か	労資関係、労働時間、労働組合、剰余価値
5/14	国際収支とは何か	経常収支 資本収支 為替 円高 円安
5/21	金融市場のカジノ化	金融自由化 先物取引 サブプライムローン
5/28	世界経済の循環構造	アメリカ 中国 EU 中東 モノの流れと資金の流
6/4	財政の役割	歳入 歳出 財政政策 有効需要政策
6/11	社会保障の役割	公共の責任 社会保険 社会扶助
6/18	生活の豊かさとは何か	ワーキングプア 貧困 非婚率の上昇
6/25	強い国際競争力を実現した北欧社会	平等と効率は相反関係ではない 普遍的福祉 強い国際競争力 人口
7/2	豊かな生活を実現した北欧社会	労働市場の流動化 エンployアビリティ 積極的労働市場政策
7/9	ワーク・ライフ・バランスを考える	日本の「ワーク・ライフ・バランス」論の怪しさ 3つの生活(職業生活、家庭生活、社会生活)での男女平等
7/16	生活の豊かさを実現するには	アメリカ型「小さな政府」 北欧型「大きな政府」

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	記述式論文試験。持ち込み不可。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
スウェーデンにみる個性重視社会	二文字理明・伊藤正純 / 桜井書店 / ISBN4-921190-16-X /
日本経済を問う	伊東光晴 / 岩波書店 / ISBN4-00-024243-1 /
入門社会経済学	宇仁宏幸他 / ナカニシヤ出版 / ISBN4-88848-879-7 /
希望の構想	神野直彦・井手英策 / 岩波書店 / ISBN4-00-022553-7 /
格差社会の構造	森岡孝二他 / 桜井書店 / ISBN978-4-921190-43-9 /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

授業の概要 / Course Outline

この授業では主に、統計的な調査にもとづいて社会を記述・説明しようとする試みを扱う。私たちは日々、社会・世の中・世間といったものの一部分に触れてはいるはずだが、全体としての社会の姿・特徴を想像することは実は非常に難しい。そこで計量社会学では、アンケートの結果を用いて統計解析を行ったり、官庁統計を利用したりといった社会調査の方法を用いることで、より正確かつより鮮明に社会の姿や世間のしくみをとらえることを目指す。この授業では、そうした量的社会調査の方法とともに、その方法を用いることで社会についての発見を得た、既存の優れた計量社会学の研究に学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

統計的な分析を通じて社会の仕組み・動きを浮かび上がらせるおもしろさを実感してもらうことが主要な目標である。そのために社会調査法の基礎的な事項として、サンプリングやデータ収集・編集方法、度数分布やクロス集計などの記述統計の読み方とその計算法、相関係数などの基礎的な統計概念、因果関係と相関関係の区別などを習得する。加えて、これらの手法を用いた計量社会学の研究を理解するために、社会階層論や社会意識論の分野における基礎的な概念・知識を学ぶ。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	科目内容についての概説	
第2回目	社会調査の目的と調査方法	社会学理論、社会学的想像力、社会統計学
第3回目	調査の種類と実例	質問紙調査、繰り返し調査、パネル調査、SSM調査、日本人の国民性調査
第4回目	量的調査と質的調査	相補的な関係、参与観察、フィールドワーク、インタビュー
第5回目	量的調査の仮説構成	理論、概念、測定、仮説検証、探索的分析、計量的モノグラフ
第6回目	質問文・調査票の作り方	既存の調査の活用、データ・アーカイブ
第7回目	標本数と誤差、サンプリングの諸方法	サンプリング・エラーとその他のエラー、統計学的仮説検定
第8回目	実査方法論	調査票の配布・回収法、インタビュー、エディティング、コーディング
第9回目	調査データによる記述的分析	度数分布表、ヒストグラム、箱ひげ図、散布図、代表値
第10回目	調査データを用いたクロス集計表の作成	カイニ乗検定、CramerのV
第11回目	調査データによる関連の検討	相関係数、回帰分析
第12回目	調査データの分析にもとづく社会階層と社会的不平等の検討	世代間移動、学歴、「中」意識
第13回目	調査データの分析にもとづく働き方・転職・失業の検討	非正規雇用、フリーター、失業のリスク
第14回目	調査データの分析にもとづく学術論文の購読	
第15回目	まとめ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

授業中に出題された課題を行うほかにも、新聞記事やテレビニュースに「社会調査」「世論調査」の結果が登場した時には、手続きや記述に問題がないかどうか、改善の余地がないかどうかを考えてみよう。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	55 %	学期末に最終レポート提出を課す。
平常点(日常的)	45 %	学期中に2~3度程度の平常レポート提出を課す。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

- [1] 分析手法を学ぶに当たって、社会調査データを実際に分析する実習を一部予定している。実習には、自分なりに「こんなことを調べてみよう」という課題を持って積極的に参加する態度が望まれる
- [2] 調査法や分析手法の解説を聞く際にも常に、「その方法をどんなふうに使えば、社会・世の中のことを明らかにできるだろうか」という意識を持つことが望ましい。
- [3] 授業中に「後で復習しよう」とは考えないこと。授業中に一通り理解するつもりで出席することが望ましい。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

<u>書名 / Title</u>	<u>出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment</u>
日本人の姿	岩井紀子・佐藤博樹編 / 有斐閣 / 4641280681 /
社会調査へのアプローチ	大谷信介・木下栄二・後藤範章・小松洋・永野武 / ミネルヴァ書房 / 4623041042 /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

社会調査データ・アーカイブ「SRDQ」
<http://srdq.hus.osaka-u.ac.jp>

その他 / Others

授業の概要 / Course Outline

この授業では主に、統計的な調査にもとづいて社会を記述・説明しようとする試みを扱う。私たちは日々、社会・世の中・世間といったものの一部分に触れてはいるはずだが、全体としての社会の姿・特徴を想像することは実は非常に難しい。そこで計量社会学では、アンケートの結果を用いて統計解析を行ったり、官庁統計を利用したりといった社会調査の方法を用いることで、より正確かつより鮮明に社会の姿や世間のしくみをとらえることを目指す。この授業では、そうした量的社会調査の方法とともに、その方法を用いることで社会についての発見を得た、既存の優れた計量社会学の研究に学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

統計的な分析を通じて社会の仕組み・動きを浮かび上がらせるおもしろさを実感してもらうことが主要な目標である。そのために社会調査法の基礎的な事項として、サンプリングやデータ収集・編集方法、度数分布やクロス集計などの記述統計の読み方とその計算法、相関係数などの基礎的な統計概念、因果関係と相関関係の区別などを習得する。加えて、これらの手法を用いた計量社会学の研究を理解するために、社会階層論や社会意識論の分野における基礎的な概念・知識を学ぶ。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	科目内容についての概説	
第2回目	社会調査の目的と調査方法	社会学理論、社会学的想像力、社会統計学
第3回目	調査の種類と実例	質問紙調査、繰り返し調査、パネル調査、SSM調査、日本人の国民性調査
第4回目	量的調査と質的調査	相補的な関係、参与観察、フィールドワーク、インタビュー
第5回目	量的調査の仮説構成	理論、概念、測定、仮説検証、探索的分析、計量的モノグラフ
第6回目	質問文・調査票の作り方	既存の調査の活用、データ・アーカイブ
第7回目	標本数と誤差、サンプリングの諸方法	サンプリング・エラーとその他のエラー、統計学的仮説検定
第8回目	実査方法論	調査票の配布・回収法、インタビュー、エディティング、コーディング
第9回目	調査データによる記述的分析	度数分布表、ヒストグラム、箱ひげ図、散布図、代表値
第10回目	調査データを用いたクロス集計表の作成	カイニ乗検定、CramerのV
第11回目	調査データによる関連の検討	相関係数、回帰分析
第12回目	調査データの分析にもとづく社会階層と社会的不平等の検討	世代間移動、学歴、「中」意識
第13回目	調査データの分析にもとづく働き方・転職・失業の検討	非正規雇用、フリーター、失業のリスク
第14回目	調査データの分析にもとづく学術論文の購読	
第15回目	まとめ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

授業中に課題された課題を行うほかにも、新聞記事やテレビニュースに「社会調査」「世論調査」の結果が登場した時には、手続きや記述に問題がないかどうか、改善の余地がないかどうかを考えてみよう。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	55 %	学期末に最終レポート提出を課す。
平常点(日常的)	45 %	学期中に2~3度程度の平常レポート提出を課す。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

- [1] 分析手法を学ぶに当たって、社会調査データを実際に分析する実習を一部予定している。実習には、自分なりに「こんなことを調べてみよう」という課題を持って参加する態度が望まれる。
- [2] 調査法や分析手法の解説を聞く際にも常に、「その方法をどんなふうに使えば、社会・世の中のことをより明らかにできるだろうか」という意識を持つことが望ましい。
- [3] 授業中に「後で復習しよう」とは考えないこと。授業中に一通り理解するつもりで出席することが望ましい。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
日本人の姿	岩井紀子・佐藤博樹編 / 有斐閣 / 4641280681 /
社会調査へのアプローチ	大谷信介・木下栄二・後藤範章・小松洋・永野武 / ミネルヴァ書房 / 4623041042 /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

社会調査データ・アーカイブ「SRDQ」
<http://srdq.hus.osaka-u.ac.jp>

その他 / Others

芸術社会論 S

15452

担当者名 / Instructor 仲間 裕子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

芸術家はその作品によって来るべき「社会を予兆する」と言われるほど、社会の現象に敏感であり続けた。西洋の美術の歴史を学ぶことによって、まず、美術作品を生み出した時代の文化や社会の様相を見、中世から現代に至る社会の中で、芸術家がいかに彼らをとりにくく時代の環境や現実を表現し、独自の世界観を観者に伝えようとしたのかについて考える。美術作品は単なる芸術家の個性表現や制作技術の成果にとどまらず、文化や社会においてメディア的な機能をもつことを認識する。

到達目標 / Attainment Objectives

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

表象文化論／芸術表現論

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	講義の全体像	美術、文化、社会
第2回	《ユスティニアヌス帝と従者たち》	ビザンティン美術、モザイク
第3回	《ロランの聖母》(ヤン・ヴァン・エイク)	象徴性、空間表現
第4回	《ヴィーナスの誕生》(ボッティチェリ)	ヴィーナスの系譜、ヌードの歴史の再考
第5回	《メレンコリアII》(デューラー)	知的創造、人文主義
第6回	《干草の収穫》(ブリュゲル)	地理誌、パノラマ的風景画、月暦図
第7回	《静物》(ヘダ)	静物画、近代資本主義、ヴァニタス
第8回	《画家のアトリエからの眺め》(フリードリヒ)	ドイツ・ロマン主義、思考の風景画
第9回	《フォーリー・ベルジェールの酒場》(マネ)	近代都市の肖像、断片性
第10回	《坊主としての自画像》(ゴッホ)	日本への憧憬、ジャポニズム
第11回	《ヴァイオリンを持つ男》(ピカソ)	視線の複合化、幾何学的抽象
第12回	《ナンバー 50、1950》(ポロック)	戦後のアメリカの象徴とその受容
第13回	《無題#93》(シャーマン)	ジェンダー、アプロプリエーション、自己演出
第14回	《20世紀の終焉》(ボイス)	人間学、環境問題
第15回	確認のテスト	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	80 %	
平常点(日常的)	20 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
西洋美術の歴史	H.W.ジャンソン／創元社／／
芸術学ハンドブック	神林恒道他編／勁草書房／／
各講義で作品に応じた他の参考書も紹介します。	

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

表象文化論 S § 芸術表現論 S

15600

担当者名 / Instructor 仲間 裕子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

美術作品にどのように時代の観察者の眼が反映しているのか。科学的、思想的、政治的な観点から考える。17世紀オランダのリアリズム、近代の自然描写と思想、あるいは断片の世界観、そして政治的な視線の差異などを中心テーマとする。フェルメール、ヘダ、フリードリヒ、アングル、マネ、モネ、セザンヌ、ゴッゲン、ピカソ、ボッチョーニ、モンドリアン、デュシャン、ヘッヒ、ポロック、ボイス、リヒター、キーンパーなど17世紀から現在までの絵画、写真作品、および展覧会を対象として、観察者の立場で作品に向き合う。

到達目標 / Attainment Objectives

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

芸術社会論

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	講義の全体像	観察者、自然、都市、視線の差異
第2回	17世紀オランダ絵画と観察の眼(1)	カメラ・オブスクーラ、植物図鑑、室内画、静物画
第3回	17世紀オランダ絵画と観察の眼(1)	カメラ・オブスクーラ、植物図鑑、室内画、静物画
第4回	自然と観察者(1)	ドイツ・ロマン主義
第5回	自然と観察者(2)	ドイツ・ロマン主義
第6回	芸術における自然観(3)	都市vs田園
第7回	芸術における自然観(4)	20世紀美術
第8回	芸術における自然観(5)	コンテンポラリーアート
第9回	「断片」の美学(1)	フランス近代、印象派
第10回	「断片」の美学(2)	20世紀美術、キュビズム、未来派、新造形主義
第11回	「断片」の美学(3)	フォトモンタージュ
第12回	「自己」と「他者」の視線(1)	プリミティヴ・アート
第13回	「自己」と「他者」の視線(2)	オリエンタリズム、写真、美術
第14回	「自己」と「他者」の視線(3)	展覧会、ドクメンタ、アジアのトリエンナーレ、ビエンナーレ
第15回	確認のテスト	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	80 %	
平常点(日常的)	20 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
観察者の系譜－視覚空間の変容とモダニティ	ジョナサン・クレーリー／以文社／／
絵画の政治学	リンダ・ノックリン／彩樹社／／
C.D.フリードリヒ、《画家のアトリエからの眺め》－視覚と思考の近代	仲間裕子／三元社／／
美術史をつくった女性たち－モダニズムの歩みのなかで	神林恒道・仲間裕子編／勁草書房／／
20世紀美術におけるプリミティヴィズム	ウィリアム・ルービン編／淡交社／／
<方法>としての人間と文化	佐藤嘉一編／ミネルヴァ書房／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

担当者名 / Instructor 草深 直臣

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

スポーツをめぐる状況は、世界的規模で急変している。グローバルな市場経済に翻弄される一方で、健康づくり・地域コミュニケーション・自己実現などの価値に向かって、生活の文化として定着しつつある。入門科目として、スポーツ文化と社会に関する基礎的知識を整理し、現状の問題点を抽出しながら、課題の重要性を解明する。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの体験で培われてきた感性を対象化し。客観化することを通じて、スポーツ文化の社会性の理解に重点をおく。スポーツは社会構造のさまざまな要素から影響を受け、同時に「人間」の理想像の探求として、社会に影響を与えてきた。こうした関係を理解しながら、現代日本スポーツが持つ問題点を抽出し、それを打開していく方向性をさぐりながら、学びの道筋を発見することを目標とする。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

教養科目「スポーツの発展と歴史」「スポーツと現代社会」をあわせて履修することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	序章:	【スポーツ社会専攻】での学び、小テスト(クイズ形式)
2	序章	「習わなかった体育理論」「スポーツ体験」の対象化
3	第1章 「する」スポーツの思想	「ゲーム」内の世界 ゲームの「心構え」論
4	第1章 「する」スポーツの思想	アマチュアリズム K・デームの思想 アマチュアリズムとナショナリズム 「東京オリンピック」
5	第2章 ビッグイベントビジネスの登場—越境するイベント	第1節 アマチュアリズムの崩壊 / 冷戦体制の中の五輪 / ロス・五輪と「ユベロス」神話
6	第2章 ビッグイベントビジネスの登場—越境するイベント	第2節 プロスポーツとボーダレス化 / グローバリゼーション / スポーツ市場 / 国籍条項 / アメリカナイゼーション
7	第2章 ビッグイベントビジネスの登場—越境するイベント	第3節 イベントビジネスとメディア資本(文化帝国) / 放映権 / プロパピリティ / テレ・メディアの介入
8	第2章 ビッグイベントビジネスの登場—越境するイベント	第4節 スポーツ文化のナショナリティ / 数量化と客観的判定 / 勝利至上主義とナショナリズム / 非合理的の美
9	第2章のまとめと小テスト	
10	第3章 現代日本のスポーツ事情	第1節 増大するスポーツ要求 / 「スポーツ世論調査」の変遷 / スポーツの価値と多様性 / ユネスコ「スポーツ国際憲章」第2節 エリア・スクール・ビジネスの限界 / 「バブル」の後先 / 「宴」の後で
11	第3章 現代日本のスポーツ事情	第2節 エリア・スクール・ビジネスの限界 / 「バブル」の後先 / 「宴」の後で
12	第3章 現代日本のスポーツ事情	第3節 新「地域スポーツ振興策の展開と問題点」 / 「総合型地域スポーツクラブ」の発足と展開
13	第3章 現代日本のスポーツ事情	第4節 新「地域スポーツ振興策の展開と問題点」 / 「スポーツNPO」 / スポーツ事業と財務 / プロのキャリア形成
14	第3章 現代日本のスポーツ事情	第5節 新「地域スポーツ振興策の展開と問題点」 / マーケティングとマネジement: 小テスト
15	終章: 「する」「見る」時代から「考える」「創る」時代へ	横浜Fマリノス事件から学ぶ / 「プロ野球ストライキ」から学ぶ / スポーツ文化の担い手

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

テキストは指定しない。講義は章または節毎にまとめたレジュメによって展開する。レジュメは教室でのみ配布。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	80 %	基礎的な概念の理解、錯綜する構造の総合的分析力
平常点(日常的)	20 %	基礎的な用語・概念についての理解

出欠は取りません。ただし、点数化はしません。小テストをシラバスの予告週および予告なく2回行い、日常点として組み入れます。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

分からないことは率直に質問すること。用語・概念を正確に理解すること。日々のスポーツ報道に目を配ること。

教科書 / Textbooks

テキストは指定しません。講義は毎週、教室内でのみ配布されるレジュメによって展開されます。

参考書 / Reference Books

書名 / Title

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

スポーツを考える

多木浩二 / 中公新書 / 少し難しいけど、チャレンジされるように

参考文献・資料はレジュメの章末に掲載します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

<http://www.sportsnetwork.co.jp/cgi-bin/index.html>

その他 / Others

【スポーツ】のゲームだけを考える時代は終わった。さまざまな教養科目・専門科目の知見と照らし合わせて、スポーツ問題を捉えるように期待する。

現代とメディア SA

12330

担当者名 / Instructor 筒井 淳也

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本講義は前半と後半の2つのパートに別れており、2人の講師(筒井、浪田)がそれぞれのパートを担当する。「メディアの成り立ち」(第1回～7回:浪田担当)では私たちの社会環境の不可欠な部分となっているメディアの仕組みや歴史について、「メディアと社会」(第8回～14回:筒井担当)では広い視点から社会全体におけるメディアの位置づけについて、学んでいく。

到達目標 / Attainment Objectives

- ・メディアについて理解するための基礎知識を身につける。
- ・メディアが社会の様々な働き(政治、経済、社会的ネットワーク等)に作用する仕方について理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

導入科目につき、特になし。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	メディアとは何か? :そもそもメディアとは何をさすのか? メディアの基本概念を説明する。	
2	メディアの歴史:活版印刷術の発明は社会をどう変えたのか。活字メディアを中心にメディアの歴史を学ぶ。	
3	メディアの歴史(続き):ラジオとテレビを中心に、放送メディアの歴史を学ぶ。	
4	メディア・リテラシーとは何か? :メディア・リテラシーの基本概念を説明するとともに、メディアを能動的に学習・活用する方法を探る。	
5	メディアとリプレゼンテーション:メディアのテキストはどう構成されているのか、メディアの仕組みを説明する。	
6	メディアとオーディエンス:オーディエンスとは何か? またメディアとオーディエンスの関係を考える。	
7	メディア産業:メディア産業の制度と仕組みを学ぶ。	
8	情報化とは何か? :漠然と語れることが多い「情報化」について、基礎から説明する。	
9	情報化と政治・経済:具体的な社会的領域に対してメディアがどのように作用するのかを説明する。特に政治と経済の仕組みに注目し、メディアが政治と経済の領域に与える影響を理解する。	
10	情報化と社会的ネットワーク:同じく、対人関係の領域にメディアが与える影響について説明する。	
11	情報化とその他の社会生活:仕事のスタイル、教育の位置づけなどその他の領域におけるメディアの影響を考える。	
12	電子ネットワークのインパクト:電子ネットワーク、特にインターネットについて、その成立から発展までの成り行きを説明する。	
13	電子ネットワークのインパクト(続き):インターネットは社会をどのように変えていく可能性があるのか?	
14	広告とは何か? :そもそも広告とは何なのか? また、その社会的な働きはどこにあり、何が問題になっているのか?	
15	総括ならびに今後のメディア研究に向けて:これまでの授業のまとめと、次学期以降さらに専門的にメディアを学ぶにあたってのアドバイス。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	70 %	教科書と授業内容の理解度をはかる。試験形式は、選択式と記述式の併用。持ち込み不可。
平常点(日常的)	30 %	不定期に授業中にコミュニケーション・ペーパーを課す。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

メディア社会の歩き方

伊藤武夫他 / 世界思想社 / 4790710572 /

参考書 / Reference Books

授業中に適宜指示を行う。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

本講義は、各パートを2人の担当者がリレー形式で行うため、実際の講義の順序はクラスによって異なる。

現代とメディア SB

12331

担当者名 / Instructor 浪田 陽子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本講義は前半と後半の2つのパートに別れており、2人の講師(筒井、浪田)がそれぞれのパートを担当する。「メディアの成り立ち」(第1回～7回:浪田担当)では私たちの社会環境の不可欠な部分となっているメディアの仕組みや歴史について、「メディアと社会」(第8回～14回:筒井担当)では広い視点から社会全体におけるメディアの位置づけについて、学んでいく。

到達目標 / Attainment Objectives

- ・メディアについて理解するための基礎知識を身につける。
- ・メディアが社会の様々な働き(政治、経済、社会的ネットワーク等)に作用する仕方について理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

導入科目につき、特になし。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	メディアとは何か? :そもそもメディアとは何をさすのか? メディアの基本概念を説明する。	
2	メディアの歴史:活版印刷術の発明は社会をどう変えたのか。活字メディアを中心にメディアの歴史を学ぶ。	
3	メディアの歴史(続き):ラジオとテレビを中心に、放送メディアの歴史を学ぶ。	
4	メディア・リテラシーとは何か? :メディア・リテラシーの基本概念を説明するとともに、メディアを能動的に学習・活用する方法を探る。	
5	メディアとリプレゼンテーション:メディアのテキストはどう構成されているのか、メディアの仕組みを説明する。	
6	メディアとオーディエンス:オーディエンスとは何か? またメディアとオーディエンスの関係を考える。	
7	メディア産業:メディア産業の制度と仕組みを学ぶ。	
8	情報化とは何か? :漠然と語れることが多い「情報化」について、基礎から説明する。	
9	情報化と政治・経済:具体的な社会的領域に対してメディアがどのように作用するのかを説明する。特に政治と経済の仕組みに注目し、メディアが政治と経済の領域に与える影響を理解する。	
10	情報化と社会的ネットワーク:同じく、対人関係の領域にメディアが与える影響について説明する。	
11	情報化とその他の社会生活:仕事のスタイル、教育の位置づけなどその他の領域におけるメディアの影響を考える。	
12	電子ネットワークのインパクト:電子ネットワーク、特にインターネットについて、その成立から発展までの成り行きを説明する。	
13	電子ネットワークのインパクト(続き):インターネットは社会をどのように変えていく可能性があるのか?	
14	広告とは何か? :そもそも広告とは何なのか? また、その社会的な働きはどこにあり、何が問題になっているのか?	
15	総括ならびに今後のメディア研究に向けて:これまでの授業のまとめと、次学期以降さらに専門的にメディアを学ぶにあたってのアドバイス。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	70 %	教科書と授業内容の理解度をはかる。試験形式は、選択式と記述式の併用。持ち込み不可。
平常点(日常的)	30 %	不定期に授業中にコミュニケーション・ペーパーを課す。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

メディア社会の歩き方

伊藤武夫他 / 世界思想社 / 4790710572 /

参考書 / Reference Books

授業中に適宜指示を行う。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

本講義は、各パートを2人の担当者がリレー形式で行うため、実際の講義の順序はクラスによって異なる。

授業の概要 / Course Outline

この科目は、身近な社会現象についての多角的な分析を通じて、現代とはどのような時代か、社会構造はどのように変わろうとしているのかを考える。この科目は、社会分析に必要な基礎的な理論、基礎的概念、および分析視点を提供する。本年度は、グローバルな視点および文化的な視点を取り込んで、各担当者は次のような内容を取り上げる。1) (小澤) 世代と文化、ボランティアと文化、公共性問題、グローバリゼーションと文化など、2) (リム) 世界都市・ニューヨークについてその誕生、都市文化の開花、マイノリティの可能性、都市再生の条件など、3) (高嶋) グローバル化時代における現代日本社会の変化と問題点について、とくに企業社会、新自由主義、社会的不平等と格差、労働・雇用などを中心に。これら3つのテーマについて、それぞれの基礎的倫理、基礎的概念、主要な事例分析を見ていく。
なお、この科目では、第1回目と第14回目をのぞいて、3名の担当者が輪番で各自4回ずつ講義を行う。

到達目標 / Attainment Objectives

- 1) 「世代と文化」、「ボランティアと文化」、「公共性問題」、「グローバリゼーションと文化」、などについて扱い、今日、かかわり合いや結びつきの大きな変化の中で生み出されている危機と可能性の両面を考察することによって、自分自身の「文化を見る視点」を獲得すること。
- 2) 世界都市・ニューヨークの基本的構造を分析する作業を通じて、都市型社会の生成発展過程とその将来展望に関する理解力と教養を深めること。
- 3) グローバル化時代の現代日本社会について、とくに、企業社会、新自由主義、格差問題、労働といった視点から、その社会変化の内容と性質、問題点、そして展望について理解すること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の概要と導入(小澤、リム、高嶋)	授業の到達目標、進め方、成績評価方法など
第2回	若者たち自身による「若者論」(小澤)	頭脳地図による若者論、世代論、文化相対主義
第3回	ボランティアに見る「かかわり」の文化の可能性と問題性(小澤)	ボランティア文化、国際比較、日本文化論
第4回	「新たな公共性」を求めて(小澤)	公共性論、アソシエーション論、市民社会
第5回	グローバルなものとナショナルなもの(小澤)	グローバリゼーション、ナショナリズム、NGO
第6回	マンハッタンの誕生(リム)	自然環境、先住民、移民、貿易港、都市計画、摩天楼
第7回	都市文化の開花(リム)	20世紀、世界都市、ボヘミアン、ハーレム・ルネサンス
第8回	マイノリティの可能性(リム)	人種差別、エスニック・コミュニティ、ホームレス
第9回	都市再生の条件(リム)	「9・11事件」、共生、モザイク社会、NPO、社会起業家
第10回	グローバル化と企業社会の変化—グローバル化時代の企業と日本社会の変化—(高嶋)	企業社会、法人資本主義、企業の社会的責任(CSR)、NPOセクター
第11回	新自由主義と現代日本社会の変化—新自由主義とその導入、帰結について—(高嶋)	新自由主義、市場、規制緩和、自由化、民営化
第12回	グローバリゼーションと格差問題—社会的不平等をどう考えるか—(高嶋)	社会的不平等、社会的格差、所得格差、男女格差、都市と地方の格差
第13回	グローバル化時代の雇用と労働—労働が多様化することの意味について—(高嶋)	労働の多様化、正規雇用と非正規雇用、ワーキングプア、キャリア形成
第14回	講義のまとめ	論点確認と補足説明
第15回	現代社会をとらえる多角的なまなざしの意味	現代における社会学の意義とその面白さについて

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	55 %	基本概念や語句や事例の理解など、授業内容にかかわって、その学修到達の程度を確認する。
平常点(日常的)	45 %	学期期間中に3回のミニレポート課題などを課す。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

テキストについては、授業の資料あるいはホームワーク用資料として使用する。基礎的理論の解説のほか、参考文献、参考WEBなど有益な情報を紹介しているので、各自、有効に利用すること。なお、小澤担当セッションにおいては、『<方法>としての人間と文化』の入手が困難となっているため、第7～10章をプリントし配布する予定である。

教科書 / Textbooks

書名 / Title

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

『21世紀の日本を見つめる: 家族から地球まで』 立命館大学現代社会研究会／晃洋書房／4-7710-1592-0／2004年

随時参考図書を紹介し、また必要な参考資料は配布します。

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

随時紹介する。

その他 / Others

授業の概要 / Course Outline

この科目は、身近な社会現象についての多角的な分析を通じて、現代とはどのような時代か、社会構造はどのように変わろうとしているのかを考える。この科目は、社会分析に必要な基礎的な理論、基礎的概念、および分析視点を提供する。本年度は、グローバルな視点および文化的な視点を取り込んで、各担当者は次のような内容を取り上げる。1) (小澤) 世代と文化、ボランティアと文化、公共性問題、グローバリゼーションと文化など、2) (リム) 世界都市・ニューヨークについてその誕生、都市文化の開花、マイノリティの可能性、都市再生の条件など、3) (高嶋) グローバル化時代における現代日本社会の変化と問題点について、とくに企業社会、新自由主義、社会的不平等と格差、労働・雇用などを中心に。これら3つのテーマについて、それぞれの基礎的倫理、基礎的概念、主要な事例分析を見ていく。

なお、この科目では、第1回目と第14回目をのぞいて、3名の担当者が輪番で各自4回ずつ講義を行う。

到達目標 / Attainment Objectives

- 1) 「世代と文化」、「ボランティアと文化」、「公共性問題」、「グローバリゼーションと文化」、などについて扱い、今日、かかわり合いや結びつきの大きな変化の中で生み出されている危機と可能性の両面を考察することによって、自分自身の「文化を見る視点」を獲得すること。
- 2) 世界都市・ニューヨークの基本的構造を分析する作業を通じて、都市型社会の生成発展過程とその将来展望に関する理解力と教養を深めること。
- 3) グローバル化時代の現代日本社会について、とくに、企業社会、新自由主義、格差問題、労働といった視点から、その社会変化の内容と性質、問題点、そして展望について理解すること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の概要と導入(小澤、リム、高嶋)	授業の到達目標、進め方、成績評価方法など
第2回	若者たち自身による「若者論」(小澤)	頭脳地図による若者論、世代論、文化相対主義
第3回	ボランティアに見る「かかわり」の文化の可能性と問題性(小澤)	ボランティア文化、国際比較、日本文化論
第4回	「新たな公共性」を求めて(小澤)	公共性論、アソシエーション論、市民社会
第5回	グローバルなものとナショナルなもの(小澤)	グローバリゼーション、ナショナリズム、NGO
第6回	マンハッタンの誕生(リム)	自然環境、先住民、移民、貿易港、都市計画、摩天楼
第7回	都市文化の開花(リム)	20世紀、世界都市、ボヘミアン、ハーレム・ルネサンス
第8回	マイノリティの可能性(リム)	人種差別、エスニック・コミュニティ、ホームレス
第9回	都市再生の条件(リム)	「9・11事件」、共生、モザイク社会、NPO、社会起業家
第10回	グローバル化と企業社会の変化—グローバル化時代の企業と日本社会の変化—(高嶋)	企業社会、法人資本主義、企業の社会的責任(CSR)、NPOセクター
第11回	新自由主義と現代日本社会の変化—新自由主義とその導入、帰結について—(高嶋)	新自由主義、市場、規制緩和、自由化、民営化
第12回	グローバリゼーションと格差問題—社会的不平等をどう考えるか—(高嶋)	社会的不平等、社会的格差、所得格差、男女格差、都市と地方の格差
第13回	グローバル化時代の雇用と労働—労働が多様化することの意味について—(高嶋)	労働の多様化、正規雇用と非正規雇用、ワーキングプア、キャリア形成
第14回	講義のまとめ	論点確認と補足説明
第15回	現代社会をとらえる多角的なまなざしの意味	現代における社会学の意義とその面白さについて

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	55 %	基本概念や語句や事例の理解など、授業内容にかかわって、その学修到達の程度を確認する。
平常点(日常的)	45 %	学期期間中に3回のミニレポート課題などを課す。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

テキストについては、授業の資料あるいはホームワーク用資料として使用する。基礎的理論の解説のほか、参考文献、参考WEBなど有益な情報を紹介しているので、各自、有効に利用すること。なお、小澤担当セッションにおいては、『<方法>としての人間と文化』の入手が困難となっているため、第7～10章をプリントし配布する予定である。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

『21世紀の日本を見つめる: 家族から地球まで』 立命館大学現代社会研究会／晃洋書房／4-7710-1592-0／2004年

随時参考図書を紹介し、また必要な参考資料は配布します。

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

随時紹介する。

その他 / Others

授業の概要 / Course Outline

この科目は、身近な社会現象についての多角的な分析を通じて、現代とはどのような時代か、社会構造はどのように変わろうとしているのかを考える。この科目は、社会分析に必要な基礎的な理論、基礎的概念、および分析視点を提供する。本年度は、グローバルな視点および文化的な視点を取り込んで、各担当者は次のような内容を取り上げる。1) (小澤) 世代と文化、ボランティアと文化、公共性問題、グローバリゼーションと文化など、2) (リム) 世界都市・ニューヨークについてその誕生、都市文化の開花、マイノリティの可能性、都市再生の条件など、3) (高嶋) グローバル化時代における現代日本社会の変化と問題点について、とくに企業社会、新自由主義、社会的不平等と格差、労働・雇用などを中心に。これら3つのテーマについて、それぞれの基礎的倫理、基礎的概念、主要な事例分析を見ていく。
なお、この科目では、第1回目と第14回目をのぞいて、3名の担当者が輪番で各自4回ずつ講義を行う。

到達目標 / Attainment Objectives

- 1) 「世代と文化」、「ボランティアと文化」、「公共性問題」、「グローバリゼーションと文化」、などについて扱い、今日、かかわり合いや結びつきの大きな変化の中で生み出されている危機と可能性の両面を考察することによって、自分自身の「文化を見る視点」を獲得すること。
- 2) 世界都市・ニューヨークの基本的構造を分析する作業を通じて、都市型社会の生成発展過程とその将来展望に関する理解力と教養を深めること。
- 3) グローバル化時代の現代日本社会について、とくに、企業社会、新自由主義、格差問題、労働といった視点から、その社会変化の内容と性質、問題点、そして展望について理解すること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の概要と導入(小澤、リム、高嶋)	授業の到達目標、進め方、成績評価方法など
第2回	若者たち自身による「若者論」(小澤)	頭脳地図による若者論、世代論、文化相対主義
第3回	ボランティアに見る「かかわり」の文化の可能性と問題性(小澤)	ボランティア文化、国際比較、日本文化論
第4回	「新たな公共性」を求めて(小澤)	公共性論、アソシエーション論、市民社会
第5回	グローバルなものとナショナルなもの(小澤)	グローバリゼーション、ナショナリズム、NGO
第6回	マンハッタンの誕生(リム)	自然環境、先住民、移民、貿易港、都市計画、摩天楼
第7回	都市文化の開花(リム)	20世紀、世界都市、ボヘミアン、ハーレム・ルネサンス
第8回	マイノリティの可能性(リム)	人種差別、エスニック・コミュニティ、ホームレス
第9回	都市再生の条件(リム)	「9・11事件」、共生、モザイク社会、NPO、社会起業家
第10回	グローバル化と企業社会の変化—グローバル化時代の企業と日本社会の変化—(高嶋)	企業社会、法人資本主義、企業の社会的責任(CSR)、NPOセクター
第11回	新自由主義と現代日本社会の変化—新自由主義とその導入、帰結について—(高嶋)	新自由主義、市場、規制緩和、自由化、民営化
第12回	グローバリゼーションと格差問題—社会的不平等をどう考えるか—(高嶋)	社会的不平等、社会的格差、所得格差、男女格差、都市と地方の格差
第13回	グローバル化時代の雇用と労働—労働が多様化することの意味について—(高嶋)	労働の多様化、正規雇用と非正規雇用、ワーキングプア、キャリア形成
第14回	講義のまとめ	論点確認と補足説明
第15回	現代社会をとらえる多角的なまなざしの意味	現代における社会学の意義とその面白さについて

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	55 %	基本概念や語句や事例の理解など、授業内容にかかわって、その学修到達の程度を確認する。
平常点(日常的)	45 %	学期期間中に3回のミニレポート課題などを課す。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

テキストについては、授業の資料あるいはホームワーク用資料として使用する。基礎的理論の解説のほか、参考文献、参考WEBなど有益な情報を紹介しているので、各自、有効に利用すること。なお、小澤担当セッションにおいては、『<方法>としての人間と文化』の入手が困難となっているため、第7～10章をプリントし配布する予定である。

教科書 / Textbooks

書名 / Title

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

『21世紀の日本を見つめる: 家族から地球まで』 立命館大学現代社会研究会／晃洋書房／4-7710-1592-0／2004年

随時参考図書を紹介し、また必要な参考資料は配布します。

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

随時紹介する。

その他 / Others

現代と福祉 SA § 現代と福祉 SA

11208

担当者名 / Instructor 芝田 英昭

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

この授業は、人間福祉専攻の基幹的な導入科目に位置づく。より人間らしく生きる福祉社会をめざして、現状や福祉社会のあり方に関して問題提起したいくつかの文章を素材に学習する。最終的には、各人が4年間の学びに向けた課題意識を持てることを期待する。

到達目標 / Attainment Objectives

授業では教員の問題提起に対して「感想や意見」をペーパーなどで求めるが、最終的には、現代的な福祉課題について、各自の関心から意見を文章で展開できるようになってもらいたい。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

この授業では、人間福祉学科教員の執筆による「人間らしく生きる福祉学」(ミネルヴァ書房)を毎回テキストとして使用する。入門書であり独習もできる。毎回該当する章を読んでおくことが授業の前提となる。

授業では19章全部をとりあげることはできない。多様な角度から問題提起されている書であり、そこから学生が自分の課題を見つけられるようにしている。取り上げられなかった章については独習すること。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	「その他」参照	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	70 %	
平常点(日常的)	30 %	

受講生数にもよるが、原則として1サイクル(5回)ごとの日常点評価と、定期試験成績を半々で評価する。

日常点評価は、形態は多様であるが、出席、発言、意見発表、レポート、小テスト、感想提出などをもとに1サイクルごとにする。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

加藤・峰島・山本編著「人間らしく生きる福祉学」ミネルヴァ書房2005年

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

授業は5回を1サイクルとして芝田・秋葉・竹内が各クラスを順にまわる。

各サイクルでは、テキストの章をいくつかずつとりあげる。それぞれの章は人間福祉専攻教員が、福祉社会の現状をどうとらえるか、どう改善していくべきか、いろんな問題を多様な角度から取り上げ、問題提起している。各章の授業では、その共通の理解の下に、論点を抽出し、それについて各人の考えを磨きあう学習をすすめる。学びの形態は、受講生数にもよるが、多様な考えや見方に触れつつというものを追及したい。

こうした3サイクルの学習をとおして、各自が関心をもてる分野や課題を設定し、その現状をどうみるのか、どう改善していくべきか、などの課題意識をまとめられるようにする。

担当者名 / Instructor 竹内 謙彰

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

この授業は、人間福祉専攻の基幹的な導入科目に位置づく。より人間らしく生きる福祉社会をめざして、現状や福祉社会のあり方に関して問題提起したいくつかの文章を素材に学習する。最終的には、各人が4年間の学びに向けた課題意識を持てることを期待する。

到達目標 / Attainment Objectives

授業では教員の問題提起に対して「感想や意見」をペーパーなどで求めるが、最終的には、現代的な福祉課題について、各自の関心から意見を文章で展開できるようになってもらいたい。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

この授業では、人間福祉学科教員の執筆による「人間らしく生きる福祉学」(ミネルヴァ書房)を毎回テキストとして使用する。入門書であり独習もできる。毎回該当する章を読んでおくことが授業の前提となる。

授業では19章全部をとりあげることはできない。多様な角度から問題提起されている書であり、そこから学生が自分の課題を見つけられるようにしている。取り上げられなかった章については独習すること。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	「その他」参照	

**(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method****成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation**

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	70 %	
平常点(日常的)	30 %	

受講生数にもよるが、原則として1サイクル(5回)ごとの日常点評価と、定期試験成績を半々で評価する。

日常点評価は、形態は多様であるが、出席、発言、意見発表、レポート、小テスト、感想提出などをもとに1サイクルごとにする。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods**教科書 / Textbooks**

加藤・峰島・山本編著「人間らしく生きる福祉学」ミネルヴァ書房2005年

参考書 / Reference Books**参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference****その他 / Others**

授業は5回を1サイクルとして芝田・秋葉・竹内が各クラスを順にまわる。

各サイクルでは、テキストの章をいくつかずつとりあげる。それぞれの章は人間福祉専攻教員が、福祉社会の現状をどうとらえるか、どう改善していくべきか、いろんな問題を多様な角度から取り上げ、問題提起している。各章の授業では、その共通の理解の下に、論点を抽出し、それについて各人の考えを磨きあう学習をすすめる。学びの形態は、受講生数にもよるが、多様な考えや見方に触れつつというものを追及したい。

こうした3サイクルの学習とおして、各自が関心をもてる分野や課題を設定し、その現状をどうみるのか、どう改善していくべきか、などの課題意識をまとめられるようにする。

現代と福祉 SC § 現代と福祉 SC

11210

担当者名 / Instructor 秋葉 武

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

この授業は、人間福祉専攻の基幹的な導入科目に位置づく。より人間らしく生きる福祉社会をめざして、現状や福祉社会のあり方に関して問題提起したいくつかの文章を素材に学習する。最終的には、各人が4年間の学びに向けた課題意識を持てることを期待する。

到達目標 / Attainment Objectives

授業では教員の問題提起に対して「感想や意見」をペーパーなどで求めるが、最終的には、現代的な福祉課題について、各自の関心から意見を文章で展開できるようになってもらいたい。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

この授業では、人間福祉学科教員の執筆による「人間らしく生きる福祉学」(ミネルヴァ書房)を毎回テキストとして使用する。入門書であり独習もできる。毎回該当する章を読んでおくことが授業の前提となる。

授業では19章全部をとりあげることはできない。多様な角度から問題提起されている書であり、そこから学生が自分の課題を見つけられるようにしている。取り上げられなかった章については独習すること。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	「その他」参照	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	70 %	
平常点(日常的)	30 %	

受講生数にもよるが、原則として1サイクル(5回)ごとの日常点評価と、定期試験成績を半々で評価する。

日常点評価は、形態は多様であるが、出席、発言、意見発表、レポート、小テスト、感想提出などをもとに1サイクルごとにする。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

加藤・峰島・山本編著「人間らしく生きる福祉学」ミネルヴァ書房2005年

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

授業は5回を1サイクルとして芝田・秋葉・竹内が各クラスを順にまわる。

各サイクルでは、テキストの章をいくつかずつとりあげる。それぞれの章は人間福祉専攻教員が、福祉社会の現状をどうとらえるか、どう改善していくべきか、いろんな問題を多様な角度から取り上げ、問題提起している。各章の授業では、その共通の理解の下に、論点を抽出し、それについて各人の考えを磨きあう学習をすすめる。学びの形態は、受講生数にもよるが、多様な考えや見方に触れつつというものを追及したい。

こうした3サイクルの学習をとおして、各自が関心をもてる分野や課題を設定し、その現状をどうみるのか、どう改善していくべきか、などの課題意識をまとめられるようにする。

授業の概要 / Course Outline

『はだしのゲン』は「原爆」を扱った代表的なマンガである。これはなぜか、学校図書館や学級文庫に多く蔵書されている。図書館や学級文庫にマンガがほとんど置かれていないことを考えると、それはかなり奇異に思える。

また、われわれは、8月15日を「終戦記念日」として記憶に留めている。だが、その日は他国との「終戦」が成立した日ではない。ポツダム宣言受諾は8月14日、降伏文書調印は9月2日である。にもかかわらず、なぜ、その日を「記念」するのか。ちなみに、沖縄では6月23日（沖縄戦が終わったとされる日）や4月28日（サンフランシスコ講和条約が発効した日）が、戦争をめぐる記念日として多く語られてきたが、日本本土では原爆の日と言及されても、それらの日が記念されることは皆無に近い。

こう考えると、「戦争」をめぐる戦後の「常識」にはさまざまな疑問が思い浮かぶ。この授業では、こうした疑問を念頭に置きながら、戦後のメディア史（ジャーナリズム史・マンガ史・出版史・映画史など）を見渡し、ナショナルな世論やアイデンティティの変容プロセスを検証する。

なお、本講義は史的事実の「暗記」を目的とするものではない。「歴史（メディア史・近現代史）」を通して、「現代」をいかに批判的に読み解くのか—それを考えることに本講義の目的がある。そもそも、現代の状況は、「現在」だけでなく、「歴史」をふまえなければ、十分に見渡すことはできない。こうした観点に立ちながら、本講義は、「メディア史」そのものというよりは、それを「利用」すること、すなわち「<メディア史>する」ことを実践し、解説する。

到達目標 / Attainment Objectives

戦後のメディア史と世論史を歴史社会的な観点で捉える視点を養う。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	ガイダンス	授業の概要・導入
第2回	「原爆マンガ」のメディア史(1)～『はだしのゲン』前史	戦後初期の「原爆」イメージとリアリティ
第3・4回	「原爆マンガ」のメディア史(2)～『はだしのゲン』の正典化	マンガ雑誌の戦後史
第5・6回	教養主義と学徒出陣の記憶～『きけわだつみのこえ』をめぐる世論と輿論(1)	教養と戦争の記憶
第7・8回	教養主義と学徒出陣の記憶～『きけわだつみのこえ』をめぐる世論と輿論(2)	戦後の出版史(岩波文庫・光文社カッパブックス・東京大学出版会等)
第9・10回	戦記ブームと映画メディアの盛衰～「特攻」イメージの変容(1)	戦記ブームの変容
第11・12回	戦記ブームと映画メディアの盛衰～「特攻」イメージの変容(2)	特攻映画・任侠映画と全共闘
第13～15回	沖縄における「終戦記念日」の変容～戦後日本と「4月28日」の忘却	沖縄の戦後ジャーナリズム史

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

【重要】

・授業ではパワーポイントや映像資料を用いるほか、プリントを用いる。

・授業各回のプリントについては、授業用HP (<http://www.eonet.ne.jp/~yfukuma/>) の「授業に関するご連絡」よりダウンロードし、出力のうえ、授業にのぞむこと。授業時には配布しません。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	60 %	
レポート試験	30 %	中間レポートとして実施。未提出の場合は原則として成績評価対象にならない。
平常点(日常的)	10 %	適宜コミュニケーションペーパー等の提出を求める。出席点は設けない。
私語や携帯電話の使用をなす者は、即「不可」とし、以後の受講は認めない。		

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

史実は授業の中でわかりやすく解説する予定なので、現時点での歴史の知識の有無は問いません。歴史との対比で現代を読み解いていく面白さを感じてもらえる受講者の履修を望みます。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『殉国と反逆—「特攻」の語りの戦後史』	福間良明／青弓社／978-4-7872-2022-6 /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

現代家族論 S

13041

担当者名 / Instructor 中川 順子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「家族のありかた」に様々な変化が起きている。この科目は、その変化とは何か、その変化の要因とは何か、これからどのような「家族」を私たちは展望出来るのか、について、考えるきっかけとなるものです。社会学を中心にしながら、経済学などその他の学問領域での調査研究をも踏まえて、多面的に現代の家族の変化の様相を見ていく。

到達目標 / Attainment Objectives

社会と家族の関係について理解することができる。
家族問題について考える際の社会的視点を獲得することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

家族社会学、ジェンダー論、家族福祉、企業社会に関連する科目を履修することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	家族の定義	家族の多様化・個人化
2	日本の家族の現状―統計でみる家族の変容―	少子化・晩婚化・高齢化
3	現代家族の形成―1	近代・近代家族・国民国家
4	現代家族の形成―2	母性・性別分業・無償労働・親密圏
5	日本における近代家族の形成―1	日本国憲法24条
6	日本における近代家族の形成―2	労働者家族・生活様式・企業
7	現代家族の諸相―1	女性・ライフサイクルの変化・ライフコースの多様化
8	現代家族の諸相―2	男性・雇用システムの変化・ワークライフバランス
9	現代家族の諸相―3	若者・フリーター・格差社会
10	現代家族の諸相―4	子育て不安・専業主婦
11	現代家族の諸相―5	高齢者・ケア
12	家族政策の動向―1	日本型福祉社会
13	家族政策の動向―2	市場化・転職社会
14	男女共同参画社会と家族	人口減少社会・女性参加可能な社会システム
15	おわりに―一家族のつくりかた―	個人単位・ワークライフバランス

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

講義中に指示する参考文献、ウェブページ、資料などを積極的に活用し、学習を深めて欲しい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	論述試験。講義内容の理解度を総合的に判断。

数回の小レポートを課す。出席状況と理解状況の確認・コミュニケーション・ペーパーとして活用。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

取り上げる課題の追加や削除、時事的問題の挿入などのため、講義の速度・内容を若干変更する場合がある。

教科書 / Textbooks

テキストは使用しない。

参考書 / Reference Books

参考文献は講義の進行に即して適宜指示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

講義に有用なサイトを適宜紹介する。

その他 / Others

私語・飲食等は厳に謹んで欲しい。

現代学校教育論 S

15575

担当者名 / Instructor 陰山 英男

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

学力低下問題が言われてずいぶん時間が経過したが、06年度のPISAによる国際学力調査では、またしても日本の得点並びに順位は低下した。政府は、教育再生会議ははじめ対応策を打ち出してきたが、それがまだ効果を発揮していない。いったいそれはなぜなのか。この課題に対し、実践を通じて実証し、その結果について学んでもらい、今後の学校教育の在り方について具体的な方法を提言する。そして、今後学校現場に教師として入っていく指導力を身につける。

到達目標 / Attainment Objectives

今日の教育の混迷の原因を理解し、これを解決していく具体的方向について見通しを持つ。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	テーマ 現在の教育の混迷をどう考えるか。	キーワード ゆとり教育批判、いじめ、必修教科の未履修
第2回	テーマ 管理教育批判が吹き荒れた背景には何があるか。	キーワード 校内暴力 不登校 つめこみ教育
第3回	テーマ ゆとり教育と学力低下問題の関係はどこにあるか。	キーワード 学力低下問題 PISA調査 個性尊重 新しい学力観
第4回	テーマ 山口小学校の実践が社会に与えた影響はどのようなものであったか。	キーワード 読み書き計算 基礎基本 クローズアップ現代
第5回	テーマ 土堂小学校の実践内容はどのようなものであったか。	キーワード 校長公募 モジュール授業 徹底反復
第6回	テーマ 土堂小学校の実践の意義とは何であったか。	キーワード 学力向上 早寝早起き朝ごはん
第7回	テーマ 山陽小野田市実践で明かになったことは何だろうか。	キーワード 知能指数 実証主義
第8回	テーマ 学級集団作りと生活指導の今日的課題	キーワード 学級集団 問題行動 いじめ
第9回	テーマ 音読指導と漢字指導その具体的指導方法について。	キーワード 素読 前倒し
第10回	テーマ 計算指導と算数指導、その具体的指導方法について。	キーワード 百ます計算 思考力
第11回	テーマ 社会や理科の指導のポイント	キーワード もの作り フィールドワーク 体験的学習と
第12回	テーマ これからの教育とICT	キーワード 電子黒板 タブレットパソコン
第13回	テーマ 新しい指導要領と教育再生会議が目指すものは何か。	キーワード コミュニティスクール、パウチャー制度
第14回	テーマ総括討論「教育が今必要としているもの」とは何か。	キーワード 望まれる教師の指導力量とは
第15回	テーマ 現代の学校に要求されるものに対する理解を問うテスト	キーワード

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

日本のゆとり教育を巡る議論の変遷について、調べておくこと。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	10 %	講義のポイントをしっかりと理解しているかどうか。
レポート試験	30 %	講義や日常のニュースなどから、現代の教育について何を感じ、考えているか。
平常点(検証テスト)	50 %	講義の中で解説した、現代の学校の困難の実態と解決の方向性を理解しているかどうか。
平常点(日常的)	10 %	授業に対する構えや、教育に対する熱意の感じられる態度になっているかどうか。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

授業者は、教育再生会議委員や中央教育審議会委員などを務めている。その動向は、まさしく次の学校教育にかかわる。授業者について理解し、その上で審議の動向とともに、教育を考えてもらいたい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title

学力の新しいルール

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

陰山英男／文藝春秋／4163674802／

参考書 / Reference Books書名 / Title

本当の学力をつける本

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

陰山英男／文藝春秋／4163583203／授業者の出世作。ゆとり教育の混迷を予期し、現実の解決の処方箋を作るべく奮闘した実践記録

学力をつける食事

廣瀬正義／文藝春秋／4167660539／授業者が、生活と学力を関連づけるために探して見つけた資料がこの本の中にある。

自分の脳を自分で育てる

川島隆太／くもん出版／4774304484／今につながる脳のトレーニングを初めて提起した歴史的な本

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

陰山公式サイト

<http://kageyamahideo.com/index.htm>**その他 / Others**

担当者名 / Instructor 櫻井 純理

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

近年、日本企業の多くが正規(典型)社員の長期雇用の見直しや成果主義の導入などを進める一方、非正規(非典型)社員の比率を増大させている。ホワイトカラー・エグゼンプションの導入や貧困・格差問題、少子高齢化問題など、日本の経済・社会にとって重要な諸課題はこうした企業における雇用慣行の変化と切り離しては語れない。この授業では、日本企業における雇用慣行の変化に焦点を当てて、それが労働者と日本社会全体にどのような影響を及ぼしているのかについて検討する。

到達目標 / Attainment Objectives

上述したテーマについて正確に理解し、自分自身の意見を持てるようにすること。また、今後社会に出ていく上で、自分自身の働き方についても指針をもてるようにすること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特にないが、雇用問題に関心を持っていることを望む。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	イントロダクション(授業概要)	様々な賃金制度:職能賃金制度(日本)と職務賃金制度(ヨーロッパ)の比較を中心に
2	年功的賃金の意義と変容	成果主義的賃金:企業が導入している様々な賃金制度の事例
3	長期雇用慣行と「リストラ」問題	「企業再編」に伴うダウンサイジング
4	企業内キャリア形成の類型	ジェネラリストとスペシャリスト、配属と異動の要因
5	キャリア概念とキャリア・アンカー概念	企業間を横断する流動的なキャリア形成(パチンコ店従業員の事例)
6	雇用の非正規化①派遣労働、請負労働、個人事業主	労働者派遣法の改正、日雇い派遣・業務請負と個人事業主の問題点
7	雇用の非正規化②「パートタイム」の問題、間接差別、均等待遇	男女雇用機会均等法とパートタイム労働法の改正
8	官民格差と公務労働の民営化・非正規化(公共サービスに従事する臨時・非常勤職員)	「官」の民営化がもたらしているもの:アメリカ、イタリア、日本の事例
9	若年労働問題:若年ワーキング・プアと新しいユニオン運動	「マック労働」に従事する若者たち、首都圏青年ユニオン・ガテン系連帯
10	長時間過密労働の問題と過労死、過労自殺	日本企業における年間労働時間の推移、なぜ長時間労働がなくなるのか
11	労働時間の弾力化、管理監督者、ホワイトカラー・エグゼンプション	変形労働時間制・裁量労働制・フレックスタイム制、WCエグゼンプションがもたらすもの
12	ワーク・ライフ・バランスの実態と政策課題①	ファミリーフレンドリーからWLバランスへ、欧米と日本における諸政策
13	ワーク・ライフ・バランスの実態と政策課題②	日本におけるワーク・ライフ・バランスの実態、民間企業が導入している諸制度
14	グローバル化と労使関係の変容	グローバル化が企業経営と労働に与える影響、株主資本主義、労働組合の役割
15	講義内容のまとめと振り返り	定期試験についての説明

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

必要に応じて適宜指示する。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	80 %	授業内容に関連した試験を実施する。
平常点(日常的)	20 %	授業時間中に意見・感想を記入してもらう。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

きまったテキストは使用しない。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
労働ダンピング	中野麻美 / 岩波書店 / 近年の雇用の「多様化」の問題点を具体的に論じた書。
格差社会の構造—グローバル資本主義の断層	森岡孝二編 / 桜井書店 / グローバル化に伴い、日本の経済(特に雇用)に生じつつある変化を多角的に検証した論文集。
使い捨てられる若者たち	スチュアート・タノック / 岩波書店 / アメリカのファストフード労働のルポ。読み物として面白い。
はたらく若者たち 1979～81	後藤正治 / 岩波書店 / 世の中の様々な仕事に携わる人々の労働観が伝わるルポ。社会に出る前にぜひ読んでほしい一冊。
格差社会ニッポンで働くということ	熊沢誠 / 岩波書店 / 日本の労働を具体的かつ平易に分析し、格差社会問題を労働の観点から検証している。
能力主義と企業社会	熊沢誠 / 岩波書店 / 労働社会学の第一人者による日本型雇用の変化に関する分析の書。
ワーキング・プア	デイヴィッド・K・シブラー / 岩波書店 / アメリカにおける低賃金労働者の実態に関するルポ。
グローバリゼーションと労働世界の変容—労使関係の国際比較	田端博邦 / 旬報社 / 新自由主義的なグローバリゼーションの拡大によって、先進諸国の労使関係に生じている変化を国際比較の観点からまとめている。
何がサラリーマンを駆りたてるのか	櫻井純理 / 学文社 / キャリア形成の分析の授業で使用する。
その他の参考書、参考論文については授業中に適宜紹介するが、雑誌では「ビジネス・レーパー・トレンド」(JILPT)が参考になる。	

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業中に適宜紹介する。

その他 / Others

現代教育社会論 S

20320

担当者名 / Instructor 中山 一樹

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

【本科目は、小学校教諭一種免許状課程の必修科目です】

高校までの中等教育とはどのような目的をもち、どのように機能してきたのか。大学における学び・研究を展望するために、履修生の被教育体験を更新することをねらいとする。

戦後の日本社会における人間の再生産について、社会構造と日常的に経験することがらの双方から検討する。教育経験は産育、学校体験、そして労働による社会参加という過程のなかで、個別に又は同世代に共通なこととして体験されると考えられやすい。そのために、自分の体験が普遍的世界であるかのような陥穽に陥りがちである。そこで本講義では、固定化しやすい教育体験を、戦後の歴史や、生きる世界の差異、ひとり一人の将来展望など条件の差異などを検討しながら、それらを相対化する視点を提供する。

到達目標 / Attainment Objectives

- ・教育体験の目的と手段を峻別する。
- ・学びの空洞化という現象を理解する。
- ・私は学びを欲しているのかどうかを再審にかけることができる。
- ・人間の再生産という時代の構造のなかで学びをとらえることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	講義の構成 学校体験と教育イメージ	多様な被教育体験
2	再生産システムとしての教育・社会的カテゴリーとしての教育	自己形成 教育 教化
3	労働と生活に埋めこまれた再生産(再生産の共同性)	生活と再生産 教育の共同的性格
4	制度としての教育	普通教育 専門教育 職業教育
5	教育機会の拡大と学校化社会	メリトクラシー 能力主義
6	教育家族と学校化社会	近代家族 学校化社会
7	「家族・学校・生活=労働世界」から「家族・学校・消費文化世界」	再生産システムの転換
8	パターナリズムから社会的シティズンシップ形成へ	教育の主体
9	中間まとめとディスカッション	被教育体験認識
10	知識と技能を教え伝える過程について	周辺参加論
11	教育のレリバンズと公共的支援	社会的生存権
12	学び=教える関係のかたち	戦後の教育課程
13	学校文化と若者文化の対抗から消費文化世界へ	能力主義 自己責任の矛盾
14	階層化社会における社会参加の展望	社会参加 労働世界へのトランジション
15	総括的まとめとレポートの講評	納得知 手続知

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	40 %	受講生の教育についての見解を構成する際に必要な基本概念についての理解を確認する。
レポート試験	40 %	数度のレポートによって、教育を構造的に認識するための基本枠組みが受講生自身の言葉に変換されているかどうかを確認する。
平常点(日常的)	20 %	出席はもとより発言等により、高等教育機関において学ぶ意思の確認をしたい。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

各回の講義でレジュメを配付する。また、資料と参考文献を適宜紹介する。

教育現象は時系列で生起することなので、適宜映像資料を提供する。

受講人数にもよるが、レポートやプレゼンテーションを行う。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業の概要 / Course Outline

【本科目は、小学校教諭一種免許状課程の必修科目です】

初等教育課程において教師を志望する学生が履修の意思を固めることを意図した科目です。

志望動機を整理し確認する作業から始めます。受講生の動機が、現実の教師の仕事を踏まえたものでなにかどうかを確認してください。小学生たちとの間で「教え・学ぶ関係」を構築するときどのような課題が内在化させているのか、自分の学びの体験を越えて考えたいと思います。このようなねらいから、本講義では知識を蓄積させることよりも、受講生一人ひとりの思考や表現(発言や報告)を強く求めます。

到達目標 / Attainment Objectives

- ・教師志望の意思を形成することができる。
- ・初等教育の学びの目標と課題を的確に把握することができる。
- ・初等教育の教育課程を概括することができる
- ・教え=学ぶ関係の当事者になる準備ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	講義の意図と構成—受講生自身の初等教育体験を検討する	
2	受講生自身の初等教育体験を報告する	被教育体験
3	受講生の育ちのプロフィールを個別の視点から検討する	教育者 被教育者
4	受講生の教育体験を教育制度の視点から整理する	教育制度の体系
5	教え=学ぶ関係について1	学ぶ立場は教える立場とどのような関連にあるのか
6	教え=学ぶ関係について2	教師という大人の存在意義 体系的アプローチと正統的な周辺参加論
7	中間まとめと討論	
8	学校の位置づけ	「家族・学校・生活=労働世界」「家族・学校・消費文化世界」
9	あらためて学びの意義を検討する	学びの空洞化 社会化
10	パターナリズムから社会的シティズンシップへ	社会的主体形成の課題
11	社会の一員として社会参加することと普通教育	教養 リテラシー 社会参加
12	知識や技能の教育と社会の主体形成の教育	教育課程 生活知 学校知
13	戦後教育課程の変遷と90年代以降の課題	受講生の被教育体験を構造化する
14	教育のレリバンスと公共的支援	再生産構造
15	総括的まとめと報告やレポートの講評	教師像

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	60 %	
平常点(日常的)	40 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「学ぶ」ということの意味	佐伯胖 / 岩波書店 / /

各回の講義でレジュメを配付する。また、資料と参考文献を適宜紹介する。

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

現代経済論 S

13081

担当者名 / Instructor 松葉 正文

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

現代日本経済分析をテーマとし、はじめに方法として「市民社会と企業社会」について考えたうえで、1990年以降のバブル崩壊不況と近年における若干の景気回復状況など、文字通りの「現局面」分析を行なう。

本科目は、もちろん独立した科目であるが、私のもう1つの担当科目「日本経済論」と連結しておりその前半部分にあたる。

到達目標 / Attainment Objectives

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1.	はじめにー問題の所在	
2.	日本経済の概況	
3.	「高度成長」と企業社会の成立	
4.	企業社会と市民社会	
5.	市民社会の概念規定	
6.	大企業体制の2類型	
7.	貿易関係と資本の対外的展開	
8.	同上(2)	
9.	不良債権問題の経過と問題点	
10.	同上(2)	
11.	六大企業集団と法人資本主義	
12.	同上(2)	
13.	日本的経営について	
14.	まとめ	
15.	定期試験	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

松葉正文『現代日本経済論:市民社会と企業社会の間』晃洋書房。

参考書 / Reference Books

授業中に適時紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

現代産業論 S

13083

担当者名 / Instructor 伊藤 武夫

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

現代社会は、国際化、情報化、サービス化の真直中にある。その土台となり基軸となっているのが諸般の産業活動である。この講義は、現代日本社会のここ20年間ほどの期間にみられた主要産業の動向を解説し、現代産業の構造とその発展方向を明らかにしてゆきたい。

到達目標 / Attainment Objectives

現代日本の主要な産業動向に関する認識を深め、各自それなりの知見に確信が持てるようにする。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

現代経済論 社会発展論

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	なぜ現代産業論かー その課題をめぐって	世界的な大競争時代、長期不況、日本経済の構造転換、この講義の流れの確認
第2回	1990年代における世界の産業とアメリカ	ME化、情報化、アメリカ産業構造の変化 次回からの産業別分析の流れの再確認
第3回	鉄鋼産業	鉄鋼生産と内需の特徴、海外進出、大規模高炉企業の「合理化」
第4回	自動車産業	海外現地生産、新製品開発、輸出依存体質
第5回	半導体産業	世界のIC産業、国際競争の激化、我が国半導体産業の対応と課題
第6回	コンピューター産業	ローコスト・フレキシブル生産システムの構築、ネット家電戦略とその後
第7回	通信産業の再編	国際、長距離、地域、移動体通信の再編 NTT、携帯電話
第8回	工作機械工業の構造転換	生産力の発展と「高蓄積」、ロボット化
第9回	家電産業の「輸出拡大型」からの転換	海外生産の拡大、業界再編
第10回	有機化学産業	高蓄積から「合理化」へ、国際的再編
第11回	石油産業	過剰設備の顕在化と再編、LPG・石炭との関係
第12回	金融業界の再編	多国籍銀行、リージョナル・バンク、保険業・カード会社との連繋
第13回	繊維産業の担い手たち	伝統産業と繊維産業、アパレル産業
第14回	流通業界の再編	百貨店、スーパー・マーケット、コンビニ
第15回	日本農業の現状と課題	コメ自由化以後の農業、日本資本主義の再生産構造と農業

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	90 %	基本的に定期試験で評価。
平常点(日常的)	10 %	出席票提出の際、質問を書いて頂き、それに答える機会を設ける。その対応を若干、定期試験の評価に加味する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

個別の産業活動に関する分析を重ねるかたちで、日本の産業構造の特質を浮かび上がらせようになりたいと思う。諸君自身で、興味を引いた産業については、より深く分析を進めてもらいたい。講義毎に、さらに読み進めると良い参考文献を、適宜紹介する。

教科書 / Textbooks

特になし。毎回レジメで講義を進める。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
現代日本産業の構造と動態	産業構造研究会／新日本出版社／4-406-02729-7／2000年刊行、講義ではその後を見る

現代日本経済[新版]

橋本寿朗ほか／有斐閣アルマ／4-641-12297-0／2006年の新版が参考になる

日本の不平等

大竹文雄／日本経済新聞社／4-532-13295-9／成果主義賃金制度がわかる

先のも述べたように、このほか講義の中で適宜紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

講義の中で適宜紹介する。

その他 / Others

特になし

現代史 S

15483

担当者名 / Instructor 伊藤 武夫

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

テーマ: 現代日本の世界史的な位置。

現代は、多面的な異文化交流が繰り返される一方、人種・民族・宗教問題、あるいは地域間経済格差の拡大などを背景とした戦争・内紛が絶えない。この講義では、①20世紀の歴史を振り返り、今日的な諸問題が形成されてきた経過を確認し、そのうえで、②世界的な視点から、今日の日本の産業・労働環境、教育・福祉などをめぐる問題と今後の課題を検討したい。

到達目標 / Attainment Objectives

今日の政治的・経済的・文化的な諸国際機関の役割と、日本の経済社会との重層的な構造的連関を理解すること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特に希望はない。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	資本主義世界システムの形成と展開	国民国家の誕生、国軍と司法、国民教育、産業振興
第2回	19世紀末の世界ー 帝国主義と社会主義	後発資本主義国の発展 パックス・ブリタニカ 19世紀末の文化
第3回	第1次世界大戦の勃発と戦争の長期化	総力戦体制 日本の対応
第4回	終戦と新しい世界秩序	ヴェルサイユ体制とワシントン会議
第5回	1920年代のヨーロッパとアジア フランスの外交努力	中東とインド 中国の内戦 日本の大陸政策
第6回	世界恐慌の諸相	アメリカの恐慌 スターリン体制 日本の恐慌
第7回	ファシズムの台頭	ナチス・ドイツ、イタリア、スペイン
第8回	第2次世界大戦とその帰結	日本の総力戦
第9回	東西冷戦と戦後復興	東西冷戦のはじまり 国際連合 マーシャル・プラン 朝鮮戦争
第10回	福祉国家の形成と展開	「五悪」との戦い 大衆社会の形成 福祉国家の性格
第11回	ラテンアメリカとアフリカ	移民社会 開発と国際協力 アフリカの独立
第12回	1970年代の世界の重層構造	フォーディズムからフレキシブル生産体制へ アジア諸地域の脱植民地主義、
第13回	新自由主義の世界的な潮流	福祉国家の変質 途上国の債務と経済協力の性格
第14回	教育・文化をめぐる先進国と途上国	少子化 教育 グローバル・メディア
第15回	現代世界とモダニティの変容ー1つのまとめー	グローバリズムとセフティーネット

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	90 %	基本的に定期試験で評価。
平常点(日常的)	10 %	出席票を配布する際、講義に関する質問を書いて頂き、授業のなかで返事をする機会をつくる。その対応を若干、定期試験の評価に加味する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

この講義は、現代社会に生起している諸問題を考える視点や射程を私なりに紹介するものであり、その際、歴史学の方法で進めているにすぎない。

講義で話題にしたことについて、それに関連する書籍・文献を独自に読み進め、理解を深める学習を切に希望する。

教科書 / Textbooks

教科書は、このシラバスを出稿する時点では、使用しないとす(変更する際は、授業で説明する)。毎回、レジメにて、講義に関連する文献を紹介する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
現代史への視座	竹内 啓 / 東洋経済新報社 / 978-4-492-06143-5 / 多少刺激的である

新自由主義

デヴィッド・ハーヴェイ／作品社／978-4-86182-106-6／一度、通読されることを薦める

昭和史 全2巻

中村隆英／東洋経済新報社／日本の戦後史の概説書

このほか、講義のなかで、先にも述べたように適宜、参考文献紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

最近では、歴史に関する用語やキー概念を、サーチ・エンジンに入力すれば、関連する用語解説が簡単に検索できるので、まずはどのような用語でも良いから検索してみることである。

その他 / Others

特になし

現代市民社会論 S

15508

担当者名 / Instructor 篠田 武司

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

いま社会の中で「人々の絆」が弱くなってきています。「あなたは、見知らぬ他人を信じていることができるか」というアンケートに信じていることができないと答えた人の割合が以前と比べて増えてきています。それとともに社会的犯罪や病理現象も増えてきているといえます。なぜでしょうか？いろいろな答えがあるかもしれませんが、人々が利己的になりつつあること、社会のことを考えなくなってきたことが大きな原因の一つであることは確かです。こうしたなかで市民社会についての議論が近年大きくクローズアップされています。人々はどのようにこれまで他人と絆を結びつつ社会を形成してきたのか。またなぜ絆が弱くなりつつあるのか、それを克服することができるのか。本講義は、近代社会が市民社会として形成されてきた歴史をたどりながら、人々が市民社会のなかで個人と社会(他人)との関係をどう捉えてきたのかを思想家の議論をたどりながら見ていくものであり、そのなかで上記の問いを考えていくものである。

到達目標 / Attainment Objectives

- 1) 近代(市民)社会形成の原理が何であったのかを、ルソー、スミスをとおして理解すること
- 2) 現代(市民)社会の構成原理をハーバマス、パットナム、ハーストをとおして理解すること
- 3) 現代社会において自明とされている社会・人間観を懐疑し、再考すること

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

基礎社会学
社会倫理
社会ガバナンス論

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1回目	近代市民社会の成立ーフランス革命	アンシャンレジーム、ブルジョア、革命
2回目	市民社会の原理ーフランス人権宣言を読む	自由、平等、博愛、所有
3回目	古典に見る社会像1ールソーの描いた社会	自然状態、文明社会、不平等、自愛心と慈愛心
4回目	古典に見る社会像2ースミスの描いた社会	商業社会、利己心、同感の原理、正義、ホブス
5回目	古典に見る社会像3ーマルクスの描いた社会	個人と私人、貨幣物神
6回目	小括・まとめ	理解確認テスト(評価には無関係)、アンケート、質問
7回目	ハーバマスと市民社会1ーハーバマスの課題	東欧革命、システム世界、生活世界、植民地化
8回目	ハーバマスと市民社会2ー市民的公共性	批判的公共性、熟議民主主義、公共圏
9回目	パットナムと市民社会1ーボーリング・アローン	市民社会の衰退、政治参加、市民参加、友人、家族
10回目	パットナムと市民社会2ー社会関係資本と格差	社会関係資本、信頼、互酬性
10回目	ハーストと市民社会1ー社会の統治・ガバナンス	国家の市民社会化、社会ガバナンス、メタガバナンス
11回目	ハーストと市民社会2ーラディカル民主主義	社会への参加、市民社会の公共化、グローバル化と市民社会
12回目	小括・まとめ	ハーバマス以降のまとめ。アンケート。質問。
13回目	ギデンズと市民社会1ー「第三の道」	福祉国家批判、新自由主義批判
14回目	ギデンズと市民社会2ー「第三の道」	アクティブ市民社会、社会包含、政府と市民社会とのパートナーシップ
15回目	市民社会とは？	様々な市民社会論の紹介。講義全体のまとめ

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	80 %	講義の理解度を考査する
平常点(日常的)	20 %	3~4回の出席をとり、それを点数に換算する
評価は、定期試験80点。出席点(5~7点)20点=100点とする。		

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

講義中に適時参考文献を知らせるので、読んでおくことが望ましい。

教科書 / Textbooks

教科書は使わない。講義はレジュメが中心となる。
なお、以下の参考文献を読むことが望ましい。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『市民社会論』	山口定 / 有斐閣 / /
『市民の政治学』	篠原一 / 岩波新書 / /
『相対化の時代』	坂本義和 / 岩波新書 / /
『公共性』	斎藤純一 / 岩波書店 / /
『孤独なボーリング』	パットナム (鹿内訳) / 柏書房 / /
『第三の道』ギデンス (佐和訳) 日本経済新聞社。	

なお、適時、講義中に参考文献を知らせることとする。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

現代若者論 S

20331

担当者名 / Instructor 西平 直

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

現代若者を、その当事者である現代若者が問う、時間とする。
したがって、現代若者を「対象」とした社会科学的研究ではない。
当事者が、自分自身の在り方(生き方・問題性)を問い直すことになる。

到達目標 / Attainment Objectives

受講者が、現代社会における自らの位置(可能性・問題性)を自覚すること。
それを相互に伝えあい、文字にして表現すること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

なし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	テーマ 現代若者を問う「わたし」(1)	キーワード 現代若者、当事者、「わたし」
第2回	テーマ 現代若者を問う「わたし」(2)	キーワード 仮面
第3回	テーマ 現代若者を問う「わたし」(3)	キーワード 「アイデンティティ」という言葉
第4回	テーマ 現代若者を問う「わたし」(4)	キーワード エゴイズム
第5回	テーマ 現代若者を問う「わたし」(5)	キーワード 中間討論(1)
第6回	テーマ 現代若者を問う学生(1)	キーワード 競争
第7回	テーマ 現代若者を問う学生(2)	キーワード 自信
第8回	テーマ 現代若者を問う学生(3)	キーワード 劣等感
第9回	テーマ 現代若者を問う学生(4)	キーワード 中間討論(2)
第10回	テーマ 現代若者を問う現代若者(1)	キーワード 選択
第11回	テーマ 現代若者を問う現代若者(2)	キーワード 決断
第12回	テーマ 現代若者を問う現代若者(3)	キーワード 後悔と再出発
第13回	テーマ 現代若者を問う現代若者(4)	キーワード 自分の道
第14回	テーマ 現代若者を問う	キーワード 最終討論
第15回	テーマ 現代若者を問う	キーワード 最終レポート

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(検証テスト)	40 %	
平常点(日常的)	60 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

夏季集中講義である。授業の詳細は参加受講者と相談しながら進める。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『魂のアイデンティティ』	西平直 / (金子書房、1998年) / /

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

現代政治論 S

13075

担当者名 / Instructor 國廣 敏文

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

20世紀の科学＝技術や医学の飛躍的進歩によって、人類は宇宙旅行を現実のものとしクローンを作り出すまでになった。だが同時に20世紀は“紛争と革命の世紀”でもあり、飢餓や貧困、紛争や差別、エネルギー・食料問題など未解決の問題が山積しており、その意味で、人類は自然と社会を統治しえていない。政治学の観点から見ると、20世紀は「国民国家」の時代であるが、その国家が世紀末に至って“ゆらぎ”始めている。本講義では、分裂と統合の間を揺れ動く現代国家および世界政治の諸相と諸問題を把握するとともに、現代世界の構造と動態についての政治学的分析に必要な基礎概念や視点・方法を探る。

到達目標 / Attainment Objectives

- ・グローバル化の進み中で、国家や人々が解決を迫られている現代的諸問題を広く理解する。
- ・それらの解決のための方策を考える。
- ・現代世界を捉えるための理論的枠組みについて理解を深め、自らの社会的視座を形成するとこをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

現代政治論はグローバルな視点から現代世界の諸問題を考察しますので、各国政治を、より具体的に見ていくには、「比較政治論」もあわせて履修することを推奨します。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	I. 歴史認識と政治学の視点	現代という時代—20世紀から21世紀へ— 科学技術・医学発展の世紀、戦争と革命の世紀 20世紀
第2回	政治学の方法と課題 —グローバル・プロブレマティークとは何か—	政治学、グローバル・プロブレマティーク
第3回	II. 現代政治の諸相—国家、民族、紛争—	「国民国家」の拡大と“ゆらぎ”—「相対化の時代」か— 「国民国家」、「相対化の時代」
第4回	国家とは何か	国家
第5回	国家形成と国民形成	国家と国民
第6回	民族とは何か	民族
第7回	現代民族問題の概観(1)—人種、言語、宗教との関わりで—	人種、言語、宗教
第8回	現代民族問題の概観(2)—いくつかの事例を中心に—	民族問題の現状
第9回	「国民国家」と民族問題の将来	国家と民族問題の展望
第10回	III. 分析枠組	「世界システム論」の方法 世界システム論
第11回	「世界システム論」の意義と問題点	世界システム論
第12回	「国際社会学」の意義と問題点	国際社会学
第13回	「国際社会学」の意義と問題点	国際社会学
第14回	グローバル・ガバナンスとグローバルデモクラシー	グローバル・ガバナンス、グローバルデモクラシー
第15回	IV. まとめと展望: グローバルデモクラシーの可能性を考える	「グローバリゼーション」の時代と私たちの課題

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

新聞やニュースに普段から接するように心がけることと、分からない言葉や問題があったときに、それを調べる癖を身につけること。そうした探求心や好奇心から、勉強することへの興味が湧いてきます。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	70 %	講義で話した内容についての理解度・学習到達度を測る
レポート試験	20 %	講義内容あるいは特別講義に関するもの
平常点(日常的)	10 %	出席点を加味する * 定期試験として実施 成績評価＝単位認定は、セメスター終了時の論述試験を中心としますが、毎回出席を取ります。100点満点のうち、10点として総合点に参入します

テキストはとくに指定しないが、授業に際して参考文献等を適宜紹介するので、事前・事後の学習に役立てて欲しい。

現代の世界的状況を理解するための参考書として、D. ヘルド編(中谷義和監訳)『グローバル化とはなにか』法律文化社、2002年10月刊を挙げておきます。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業の中で紹介します。

その他 / Others

「私語」は、自らの学習権の放棄であると同時に、他者のそれへの侵害でもあるので、厳禁する。

現代文化論 S

20275

担当者名 / Instructor 佐藤 嘉一

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

文化の現在について人間科学の観点から論じます。「もの」の社会的事実よりも「言語」や「記号」や映像の「社会的事実」が「もの」をいう時代の到来を「現代文化」の一大特質として特徴づける文化理論について「論」じます。たとえば「ロビンソン・クルーソー」よりも「ドン・キホーテ」が物語としてより「現代」的であるわけ、社会経済構造として「生産」の契機よりも「消費」の契機がより「現代」的であるわけ、源氏物語が漫画で読まれるのが「現代的」であるわけ、そして、巨匠ヴィスコンティがブルースト『失われた時を求めて』を映画化しようとしたわけ等について論じます。

到達目標 / Attainment Objectives

現代文化の諸相を、人間科学(「生きる・働く・語る」人間についての知の体系)の知見をひも解きながら、社会の<客観的な構造変動>のプロセス(大きな歴史)と各個人のユニークな「生きる時間」(体験)の物語(小さな歴史)という二つのレンズから解き明かす試みです。時間と空間のフレームのうちに彩られる文化現象の現在を「社会構造とパーソナリティ」との関わりにおいて考察する社会学の学習です。講義科目「人間論」および「文化理論」の応用と展開を目指します。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

一回生配当科目「人間と文化」同「基礎社会学」、二回生配当科目「人間論」同「文化理論」などの受講が望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	文化の現在1:「ドン・キホーテ」を「ロビンソン・クルーソー」と対比することが現代的であるわけ	「資本主義」の文化、ポストモダンの文化、文化と人格と社会構造、孤独な群衆、脱工業社会、メディア・リテラシー
第2回	文化の現在2:「豊かな社会」と欲望の構造変動—「使用価値」を超える	有閑階級の理論、ソーンステイン・ヴェブレン、誇示的消費、誇示的余暇、制度としての高等教育
第3回	文化の現在3:「豊かな社会」と欲望の構造変動—記号としての「もの」文化	使用価値、交換価値、記号価値、象徴交換、ボードリヤール
第4回	文化の現在4:「複製技術時代における芸術作品」を読む	「芸術作品」、歴史的個性、大量生産と歴史主義、実存と大衆、写真、メディア、ベンヤミン
第5回	文化の現在5:現代文化のフレームとしての「時間」の問題	魂の時間、世界の時間、時間の現われと不可視の時間、暦と歴史:世代の継承—同時代人・先人・後人のカテゴリー
第6回	文化の現在6:ヴィスコンティのシナリオ「失われた時を求めて」を読む	歴史、記憶、忘却、時間の「映像化」、虚構の時間構成、物語、リクール
第7回	文化の現在7:ハンブティダンブティイがおこちた!—記号論からみた「現代文化」	不思議の国のアリス、記号と自然、物の秩序、言語の秩序、制度と行為、記号を欲望する
第8回	文化の現在8:現代文化と「生」の問題	労働=創り出す文化、生=築き上げる文化、言語=聴き取る文化、文化の三つの形式、多元的現実、A・シュツツ
第9回	文化の現在9:「もの」「こと」「ことば」の現象学的社会学の可能性	諸事物の秩序、労働・生・言語、文化の認識論の3つのモデル:歴史分析・精神分析・制度分析、
第10回	文化の現在10:視覚的人間の問題—雑誌『ライフ』の運命	鼻の先の目で、類型、相貌、表情、クローズ・アップ、表現主義、ミクロとマクロ、写真と「活動写真」
第11回	文化の現在11:音の現象学—「時間」のなかの現代人の現在	音、沈黙、樹、草原、音の余白、魂、自閉、音楽の起源、'making music together'、タケミツ・トオル
第12回	文化の現在12:茶の間と戦争のテロリズム—現代人の「社交」の構造	クレー「顔のない自画像」、情報・画像・映像のなかの「出会い」、遠方の声たち、ちくはぐな「リアリティ」の現
第13回	まとめ1 われわれは「ドン・キホーテ」のリアリティの複製であるか	第1回から第6回までの「おさらい」:グローバリゼーションのカテゴリーを中心に
第14回	まとめ2 「失われた時間を探すこと」と「時間をふたたび見出すこと」	第7回から第12回までの「おさらい」:「時間・空間・社交」のカテゴリーを中心に「私の物語」の現在を構築する
第15回	まとめ3 現代文化を「生きる」とはどのようなことか	第1回から第14回までのキーワードを用いながら、上記のテーマについて総括討論を行う

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	80 %	①基礎概念の理解度、②問題を体系的に分析し、総合的に問題を理解する作業(文章表現力)の達成度、以上の二点を評価する

平常点(検証テスト)	20 %	学期中に2回レポートを課す
平常点(日常的)	0 %	コメント・シートを毎時間配布し、授業の感想、質問、要望などを記してもらい、次週の講義に反映するように努力します。これは直接評価にはイレリヴァントです。

授業のなかで示される参考文献のうち最小限一冊の文献を読了すること

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

授業のなかで示される参考文献のうち最小限一冊の文献を読了すること。教科書の欄に記された書物は、教科書ではなく、参考書です。教科書は使用しません。勉強の基本姿勢は、「問題そのものへ」Zu den Sachen selbstの精神で臨むことです。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
記号の経済学批判	ボードリヤール / 法政大学出版会 / ? / 最重要の参考書
有閑階級の理論	ソーンステイン・ヴェブレン / ちくま学芸文庫 / 4-480-08416-9 / 最重要の参考書
言葉と物	ミシェル・フーコー / 新潮社 / 4-10-506701-x / 最重要の参考書
複製技術時代の芸術作品	ベンヤミン / 晶文社 / 4-7949-266-8 / 最重要の参考書
ヴィスコンティ=ブルースト	大篠成昭 / 筑摩書房 / 0098-83071-4064 / 最重要の参考文献
視覚的人間	ペラ=バラージュ / 岩波文庫 / ? / 最重要の参考文献

本講義は「教科書」を用いません。上記の図書および参考書欄の図書のいずれか一冊を読了することが受講生には期待されます。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
ドン・キホーテ	セルバンテス / 岩波文庫 / 4-00-327211-0 /
言語にとって美とはなにか I・II	吉本隆明 / 河出文庫 / ? /
ハイ・イメージ論	吉本隆明 / 福武文庫 / 4-8288-3283-1 /
資本主義の文化的矛盾	ダニエル・ベル / 講談社学術文庫 / 4-06-158085 /
消費社会の神話と構造	ジャン・ボードリヤール / 紀伊国屋書店 / ? /
孤独な大衆	リースマン / みすず書房 / ? /

教科書欄および本欄掲載の参考文献のうちいずれか一冊を読了することが受講生には期待されます。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

現代余暇論 S § 余暇論 S

15506

担当者名 / Instructor 棚山 研

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本講義では、まず人間と社会にとっての余暇・自由時間の意義について説明し、次に近年の日本の余暇の全体的状況を概観・分析し、さらにグリーンツーリズムや「まちづくり」活動などの「新しい余暇活動」について解説していく。そして、そのような余暇活動がいかなる社会的背景を持った人々によって支えられているのか、また、そこから照らし出される現代社会の諸相について、あるいは余暇活動における人々の主体的実践がどのような社会的可能性を持っているのか、について解説する。

到達目標 / Attainment Objectives

労働(あるいはカネ)だけではなく、余暇・自由時間もまた現代の人間と社会にとって、必要不可欠かつ固有の意義を持っていることを理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「産業社会学」、「労働社会学」、「余暇・スポーツ史」、「スポーツ文化史」

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	講義ガイダンス	「カネか時間か」
第2回	余暇の「人間的意義」について—文化的意義と生存的意義— ①文化的意義	「余暇」、スコレー、オティム、産業革命、消費文化、フォーディズム
第3回	余暇の「人間的意義」について—文化的意義と生存的意義— ②生存的意義	肉体的疲労 精神的疲労 レクリエーション
第4回	現代日本の労働時間—国際比較も兼ねて	年総実労働時間 毎月勤労統計調査、労働力調査、週休2日制、有給休暇
第5回	現代日本の余暇活動(1)—余暇に関する意識、支出	自由時間関連支出、「カネか時間か」
第6回	現代日本の余暇活動(2)—余暇活動の実態、およびレジャー産業の動向から見る	NHK国民生活時間調査、テレビ視聴時間、「薄利多売」、余暇市場
第7回	日本の余暇政策をめぐって(1)	「36協定」「前川リポート」
第8回	日本における余暇政策の展開(2)	リゾート・ブーム グリーン・ツーリズム バカンス
第9回	現代日本の余暇活動(3)—「新しい余暇活動」のトレンド、『レジャー白書』より	「自然・健康(いやし)」、「能力向上」、「交流」、「地域活動(社会性余暇)」、「スロー」、IT化、地域
第10回	「新しい余暇活動」について(1)—グリーンツーリズムをめぐって	「いやし」、「まじわり」、「スロー」、カントリーサイド、農村、都会、農業、地域振興、産地交流
第11回	「新しい余暇活動」について(2)—「まちづくり」など「社会性余暇」を中心に	「社会性余暇」、ボランティア、公共事業、地域資源
第12回	「新しい余暇活動」について(3)—「新しい余暇活動」と市民社会	「縁」、楽しみ、公共性、市民社会、市民権
第13回	余暇と「格差社会」	ワークシェアリング 「格差社会」 社会的排除
第14回	まとめ—講義全体を総括しつつ、「余暇社会」の可能性について考える	情報化、脱物質主義、脱消費主義、想像力
第15回	到達度の検証テスト(60分)と解説(30分)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

何よりも日本の余暇問題は労働時間問題である。授業では簡単に触れるに留めるが、他の授業などを通じて、労働時間についての基本的知識(国際比較など)を持っておくことが望ましい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	「これが正解」というものを求める授業ではないので、試験もレポートに準じたものとして、余暇・自由時間についての考え方を問うものになる。
平常点(日常的)	0 %	「余暇に関する適当なテーマ」で個人発表の時間を設ける予定。発表した人には、原則として単位認定する予定。下記「その他」参照。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

主として、データを掲載した資料・レジュメと、板書を使用した講義となる。特にデータの解説の要点は板書するが、詳細は口頭になるので注意すること。例年、受講生が多いので、やり取りはコミュニケーションペーパーを使う予定。

教科書 / Textbooks

使用しない。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『余暇生活論』	一番ヶ瀬康子ほか / 有斐閣 / /
『自由時間』	内田弘 / 有斐閣 / /
『大真面目に休む国ドイツ』	福田直子 / 平凡社(新書) / /
『レジャー白書』2001、2003年版	社会経済生産性本部編 / / /
『働きすぎの時代』	森岡孝二 / 岩波書店(新書) / /
その他、適宜指示する。	

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

適宜紹介する。

その他 / Others

その他、学生参加の授業形態を予定している。授業中、希望者を募り「余暇に関する適当なテーマ」で個人発表の時間を設ける。発表した人には、原則として単位認定する予定。第1回目の授業で希望者を募り、報告日程を決める(日程は講義日日程後半に設定する)。詳しくは授業中に説明する。

現代労働論 S

20270

担当者名 / Instructor 大野 威

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

日本における賃金、労使関係、技能訓練の特徴を、国際比較を交えながら概観する。

到達目標 / Attainment Objectives

賃金、労使関係、技能訓練にかかわる新聞記事やテレビニュースを、その背景まで含めて十分に理解できるようになる。
日本の賃金制度や労使関係が、他の先進主要諸国とどのように異なり、また共通性をもっているか理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

労働社会学

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	現代労働論では何を学ぶか	
2	最低賃金制度と生活賃金(生活できる賃金水準)	
3	賃金水準の国際比較:日本の賃金水準はどのくらい?	
4	アメリカの賃金制度1:職務給とは何か?	
5	アメリカの賃金制度2:アメリカにおける能力主義の実態	
6	日本の賃金制度1:日本の大企業における賃金制度の変遷	
7	日本の賃金制度2:日本とアメリカの能力主義の違い	
8	ドイツの労使関係と働き方1	
9	ドイツの労使関係と働き方2	
10	アメリカの労使関係と働き方1	
11	アメリカの労使関係と働き方2	
12	日本の労使関係の特徴	
13	技能形成の国際比較(自動車産業を事例として)1	
14	技能形成の国際比較(自動車産業を事例として)2	
15	全体の整理	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	授業の理解度。
平常点(日常的)	0 %	場合により出席点を加点することがある。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

新聞やテレビ等で、賃金、労使関係(労働組合)、技能形成にかかわる記事や番組があったら、興味を持って見て欲しい。また、身近に働いている人がいたら、授業で興味を持ったことをいろいろ質問(インタビュー)してみることも有益である。

教科書 / Textbooks

必要な資料は、授業中に適宜配布する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
アメリカの賃金・評価システム	笹島芳雄 / 日本経団連出版 / 4818521035 /

授業内容に関連した基本文献については、授業中に適宜紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

労働政策研究・研修機構 <http://www.jil.go.jp/>
厚生労働省 <http://www.mhlw.go.jp/>

その他 / Others

言語表現論 S

13056

担当者名 / Instructor 瀧本 和成

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本講義は、江戸から明治へ、封建社会から近代社会への転換期に位置する明治元(1868)年から20(1887)年までの文学を取り上げます。政治・経済・文化等あらゆる方面で近代化の扉が開かれたこの時期に焦点を絞り、日本近代文学の萌芽と成立の過程を言語・表現に注目し丁寧に読んで行きたい。

到達目標 / Attainment Objectives

文語体から言文一致体(口語体)への変遷過程や、文章上での比喩(暗喩・隠喩)と諷刺を理解し、字間(行間)を読みとることの重要性を知る。また、表現(form)と意味(idea)の関係を明らかにする。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	福沢諭吉と近代文学①	「学問のすゝめ」
第2回目	福沢諭吉と近代文学②	「学問のすゝめ」
第3回目	坪内逍遙の文学①	「小説神髓」
第4回目	坪内逍遙の文学②	「小説神髓」
第5回目	坪内逍遙の文学③	「当世書生気質」
第6回目	二葉亭四迷の文学①	「小説総論」
第7回目	二葉亭四迷の文学②	「浮雲」
第8回目	二葉亭四迷の文学③	「浮雲」
第9回目	近代短歌の黎明①	明治の和歌
第10回目	近代短歌の黎明②	落合直文と新派和歌運動
第11回目	新派和歌から短歌へ①	落合直文と新派和歌運動
第12回目	新派和歌から短歌へ②	与謝野鉄幹の短歌革新運動
第13回目	新派和歌から短歌へ③	東京新詩社と「明星」
第14回目	浪漫主義の系譜	鉄幹から晶子へ『みだれ髪』の発刊
第15回目	明治初期の文体の特質	近代言語表現史の中の位置づけ

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

言語表現の特質を中心に、作品読解を丁寧にやりたい(講義形式)。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	80 %	試験(テキスト・ノート類持込可)によって評価。
平常点(日常的)	20 %	小レポート

定期試験の成績を主とし、これに小レポート等を加味して総合評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

参考書・研究書を読むときは、鵜呑みにしないで批判摂取することを望む。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『明治文芸館 I』	上田博・瀧本和成編／嵯峨野書院／2001・5刊

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『明治文学史』	上田博・瀧本和成編／晃洋書房／4-7710-1060-9 C3091／1998・11刊

上記以外の参考書・研究書等は講義中適宜指示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

担当者名 / Instructor 久津内 一雄

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

世界内存在としての人間の中心に、エネルゲイアとしてのことばを位置づけたフホルトに始まる言語相対主義がソシュールを経由して構造主義へと結実して行く。構造主義は確かに言語と人間科学を結び付ける役割を果たし、一定程度の成果を得ることができた。しかし、現代では、言語の理論面からの追究に代わって、ことばの使用へと我々の関心がシフトしてきたことも事実である。そこから言語使用論が浮上してくることになる。

言語使用論が浮上してくる背景には、近現代言語学が確立してきた方法論上の危うさの認識がある。近代言語学にふさわしい組織付けを行ったソシュールの場合、そのラングや共時態などの概念装置は、何よりも、隣接の諸科学の中から、言語学に固有の対象を与えて自立させ、固有の原理に基づく独自の独立の領域として組織するという、社会的要請があった。つまり、ソシュールのおかげで、現代言語学の扉が開かれ、その対象としての体系をなす言語は、ますます均質であり、純粋であることが求められて行った。つまり近現代言語学は、ことばの脱人間化と脱社会化と脱歴史化とを追求して行ったのだ。

しかし、動いている、生きている現実、すなわち言語ゲームが営まれている現実を目を向けると、言語学にとって必要であった独立領域や個別領域の確定は、むしろことばの生きた姿をゆがめるものでさえあった。ヴァイトゲンシュタインが捉えたことばの生きた姿とは、いま現に、話す人々の心の中に生きて動いている、意味を作り出す機能であった。従って当然、共時的でなければならなかった。つまり、ことばを等しく共時態として観察しようという点において、ヴァイトゲンシュタインとソシュールは同じ空気を吸っていたとすることができる。しかし、ヴァイトゲンシュタインにはソシュールと違って、均質な体系をなす、ラングというものを作り出す必要はなく、むしろ多様な言語活動の場にこそ、彼の熱い視線が注がれていたのである。

均質な体系ではなく、多様な層において、ことばを取り上げようとする人々にとって、伝達技術のための装置としての言語を扱う言語学は、もはや頼りがいのある学問ではない。そのための不満は繰り返し表明されることになるが、1950年代末に、チョムスキーが均質モデルを極限にまで押し進めていったとき、危機を感じた一群の言語研究者たちが社会言語学の名乗りを上げるようになった。その意味において、言語使用論と社会言語学の浮上は、共に根底的に共通する根拠を有するのである。

到達目標 / Attainment Objectives

- ① 言語を巡る諸問題の整理・把握
- ② 近代言語学の祖ソシュールからチョムスキーまたは社会言語学に至る言語学史の整理・把握
- ③ 言語学の文化論的・記号論的展開の整理・把握

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	近代言語学の成立とその背景	ソシュールが求めたラングは、話し手の意識の中にあり、それ以外のどこにもない。
2	青年文法学派の自然科学主義と心理主義、さらにソシュールの反歴史主義	方法論的に言語変化を法則にゆだねることを可能にするものは、言語共同体の個々人に共有される心の働きだということになる。だから青年文法学派が、あたかも言語を自然物であるかのように音韻法則の盲目的な貫徹を主張する一方で、それとは全く相容れない心理主義をしっかりと握って離さないのは、それが全理論を支える説明原理として必要とされているからだ。ソシュールが、通時言語学に対する共時言語学の優位性を主張したのは、検証できない過去の出来事に立脚するのではなく、話し手の意識の共時性や現在性そのものを手がかりに、言語の本質にたどり着こうという立場を貫いたからだ。まさに歴史の否定という原則こそが、ソシュール以前と以後とを分かち、最も重要な分岐点である。
3	ソシュールからチョムスキーへの潮流	ソシュールを経てチョムスキーに至る近現代言語学の流れを振り返ると、近現代言語学には、ひととき目立つ、一貫した執念のような傾向が認められる。それは、ラングという、この科学にとっての研究対象を、均質なものとして確立しようという欲求である。
4	ソシュールから社会言語学への系譜	近代言語学の扉を開いたソシュールは、話す主体の意志の外にあって、無意識のうちに君臨する社会的事実としての共時態としてのラングと、話す主体があって、この意識的な積極的な活動こそが、ラングの生成変化を可能にするという通時態としてのラングという、鋭い対立点をむき出しにしたまま、現代言語学に引き継いだのだ。社会的な視点をもち込んだ社会言語学の主眼点とは、変化こそ言語の重要な特徴である、という点である。
5	言語相対主義の潮流	ソシュールが提示してみせたのは、これは後に言語論的転回と呼ばれるパラダイムをもたらした考え方である。ソシュールは、ことばが存在して初めて、概念や対象が誕生する。なぜならば、ことばが、境界のない連続的現実世界を切り取ることに伴い、概念が作り上げられるからというわけである。

6	フンボルトに始まる言語相対論	フンボルト言語学が近代言語学の三大源泉の一つだと言われる最大の理由は、近現代言語学を一貫して貫く言語相対主義の考え方の発端、すなわち母語の発見と言語と民族との間に生ずる不可分の関係の発見をそこに見いだすことが出来るからである。この考え方は、フンボルト言語学に端を発し、ソシュール言語学で理論的肉付けを完成し、後のサピア=ウォーフ仮説やドイツ意味論学派に受け継がれて行く、言語相対主義に貫かれた言語理論である。
7	サピア=ウォーフ仮説	サピア=ウォーフ仮説とは、アメリカの言語学者サピアと、その弟子にあたるウォーフが唱えた言語相対論である。その説とは、それぞれの言語の持つ固有の構造から、その言語共同体に属する人々の世界像が帰結するという仮説である。
8	ドイツ意味論学派=新フンボルト学派	フンボルトに端を発する言語相対論の考え方の基本にあるのは、言語共同体に固有の分節・認知の仕組みこそが、その構成員の魂であり、精神であり、アイデンティティである、という積極的な人間のあり方を規定する、というものである。つまり、人間がことばを支配するのではなく、ことばが人間を支配することになる、ということは、まさしくフンボルトが、言語を創られたものという意味でのエルゴンではなく、創るものという意味でのエルゲイアとして定着させた、言語に対するポジティブな考え方の帰結なのである。
9	シュバルト言語学	シュバルト言語学の革命性とは、言語を自然の有機体ではなく、社会の産物であると見なし、言語は混交を繰り返す、音韻法則は存在しないと宣言したことである。さらに、言語が混交する場合、言語と言語の接触によって、文法体系や音韻体系同士が衝突するのではなく、二つの言語を用いる話し手の意識の中での混交である、というクレオール学の基本をなす言語混交説を主張したことである。
10	言語と国家 I	民族語や方言は国家の言語になったとたん、全く新しい資格付けを与えられる。何よりもまず、文字の使用とやがて文法を要求し、また文字で書かれた文学を要求する。近代国家が非日常的な古典語を捨て、俗語を国家語として採用したとき、俗語文法は国家が当然所有すべき固有財産目録の一項目となる。
11	言語と国家 II	民族語は民族という文化単位の形成、すなわち文化の次元との関わりによりのみとどまって、権力との関係をぼかすものであるのに対し、国家語とは、義務教育その他の、国家権力の行使によって行政的に採用されて課される、政治的特権を与えられた特定民族語を指す。従って、民族語は共存的、競合的であるのに対し、国家語は排他的独占的な地位を要求する。母語によっては、自ら国家の言語になる機会を得るのに、ある母語は、その言語共同体が属する国家の言語、すなわち国家語に従属させられることも起き得る。そのような場合の母語は国家語への昇進の道を閉ざされた母語として、国家語と対極をなす。母語を国語や母国語と混同してはならない。
12	レヴィ=ストロース	レヴィ=ストロースの神話論や親族構造の研究は、二項対立、神話を構成する最小限の要素(神話素)、交換のシステムという補助線を引くことによって、経済上の動機と目に見える諸制度の間には、人間の無意識が作り上げている目に見えない制度がはさまっており、むしろこれが社会制度の動きに大きな役割を果たしている、という新しいイメージを提出している。
13	ラカンの欲望論	我々の欲望の対象は常にある何ものかの代理であり、そのあるものもまた他のものの代理であるという性格を持つ。そしてそれは果てしなく続く。それをずっと辿っていくと、結局〈Φ〉ファイという記号が出てくる。これはファロス(=ペニス)で、このように究極の不在を辿ることは、ペニスに欠けていることなのだ、とラカンは説明する。人間の欲望は、いわばこの根元的に欠けていることへの欲望の代理的連鎖である。

ゾシールと同じように、言語をゲームとして語ることは、ルールに従うということを言語活動の考察の中心におくということに他ならない。ゲームのルール問題には、明文化されたルールを持つゲーム以外では、明確な答えは存在しない。それは言語活動の規則性が、明文化されたルールと根本的に異なっていることを示している。ウイトゲンシュタインはこのルール問題を探求して行く。そこで絶えず問われているのは、我々がことばを知り、話すとはどういうことなのか？それは無秩序な現象や自然界の秩序的現象とどう違うのか？ということである。こうした探求において言語的秩序を求めるとき、我々は必然的にそれをことばで説明することになる。しかし我々が今求めているものは、あらゆることばをことばとして機能させる根元的秩序であり、その秩序の説明に、すでにこうした秩序のおかげでことばとして機能しているものを用いるのは、我々の説明がまだ根元そのものには接していないことを暗示している。ウイトゲンシュタインが求めるものは、あらゆることばがことばとして機能する根本条件であり、それ自身はいかなることばによっても語り得ないような根元である。すなわちウイトゲンシュタインが求めるものとは、我々のあらゆる探求の鋤を跳ね返す岩盤なのである。

[1]欲望論、[2]言語ゲーム(Sprache Spiel)、[3]パフォーマンス性(performativity)(=行為遂行性)、[4]理論より現場への関心、[5]ことばと社会、[6]言語使用と身体、[7]ことばの詩的機能と論理的機能、[8]エピステーメ(épistémè)(=思考の枠組み)の変換、[9]人間諸科学と言語のモデル、[10]ポスト構造主義(post-structuralisme)の登場と言語観の変容

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

テキストを配布します。

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

公共政策論 S

13141

担当者名 / Instructor 後藤 玲子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本講義では、公共政策の必要性とあり方について考察する。ここでいう公共政策には、広範囲の人々(見知らぬ人々も含む)の間の資源のなれをもとにして、ひとが(それがたった一人の個人であっても)直面するさまざまな困難や困窮に対応する制度や仕組みが広く含まれる。社会思想・哲学・経済学・法学・文学など異なる領域を自由にいききしながら、公共政策のベースにある考え方や心もちを探っていきたい。

到達目標 / Attainment Objectives

公共政策を論ずる際に、決まり文句にしがちな言葉(福祉や権利, 自由, 平等, 正義, 民主主義, 個人の尊重, 共同性, アイデンティティなど)について、自分の直面するさまざまな現実と照らし合わせながら、定義しなおす習慣をつけること。その際に、先人たちの思想や理論から豊かに学ぶこと。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	イントロダクション	公共政策をめぐる問い ――問われていること, 問うべきこと
2	個人・社会・公共	社会と公共はどう違うのか
3	市場と公共政策(実態)	再分配政策の機能(日本と世界の状況)
4	市場の論理	自由市場の利点(匿名性・効率性・自由), 近代経済学
5	市場の倫理	アダム・スミス, フォン・ハイエク, ケネス・アローの思想
6	公共政策の論理	税と保険の論理的相違
7	公共政策の思想1	アリストテレス, カント
8	公共政策の思想2	功利主義, 社会厚生関数
9	公共政策の思想3	ジョン・ロールズ
10	社会保障と福祉政策	日本の公共政策の特徴
11	現代の福祉政策	福祉政策の改革動向
12	自由と公共政策	liberty と freedom, アマルティア・セン
13	個人・コミュニティ・社会と公共政策	公共的相互性, 後藤玲子
14	多文化集団と福祉国家	福祉は国境を越えるか?
15	<実質的自由>の実質的保障に向けて: 公共政策の展望	フリーディスカッション

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

基礎知識はまったくありません。他の科目を受講する中で、ふと気にかかったものの、あえなく消えてしまいがちな疑問を、できるだけ授業にもちこんでください。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	自由討議の際に小レポートを3回ほど課す

とにかく考える、考えたプロセスを自分の言葉で表現することが大事です。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
正義の経済哲学: ロールズとセン	後藤玲子 / 東洋経済出版社 / /
福祉ガバナンス宣言 ―― 市場と国家を超えて	岡澤憲笑・連合総研編 / 日本経済評論社 / /

ルソーやアリストテレスなどの原典については文庫本で入手しやすいです。授業中にプリント配布もします。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

公的扶助論 S § 公的扶助論 SG

10687

担当者名 / Instructor 山本 隆

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

公的扶助とは、生活困窮者に対して、資力と需要を調査した上でその必要に応じて、公的な一般財源から支出される経済給付を意味する。諸外国では社会扶助、所得扶助などと呼ばれるが、わが国の公的扶助の中核をなすのが生活保護である。現行生活保護法は日本国憲法第25条に規定する理念に基づいており、国民生活にとって最後のよりどころとなっている。本講では、生活保護制度の仕組みを解説し、またグローバルな視点から貧困・社会的排除の問題を講述する

到達目標 / Attainment Objectives

実践編として生活保護制度の内容を把握し、理論編として貧困・社会的排除概念を理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

社会福祉概論、社会保障論

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
2	貧困とは何か —問題意識の醸成:格差社会・ワーキングプアの問題を知る—	ワーキングプア —国際比較の視点:韓国、アメリカ、イギリスの状況を比較の視点から考える—
1	公的扶助の変遷	救貧法から現代へと歴史の視点を養う
2	貧困・デプリベーション・社会的排除 —理論からみた貧困問題—	各国の貧困の現状 —アメリカ、イギリス、北欧諸国を中心に—
2	日本の生活保護の現状 —生活保護基準と最低生活保障水準—	生活保護の運営体制と財源・予算
2	生活保護の個別ケース	低所得対策の概要
2	イギリスの貧困対策 —「働くための福祉」—	イギリスの地域再生とソーシャルインクルージョン
2	イギリスの貧困対策と社会的企業	北欧のアクティベーション政策
2	調整	まとめ

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	50 %	
レポート試験	50 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

単に社会福祉士の受験科目として捉えるのではなく、最も深刻な現代社会の問題として認識し、理解を深めて欲しい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『公的扶助論』	岩田正美・岡部卓・杉村宏編 / ミネルヴァ書房 /

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

広告表現論 S

20287

担当者名 / Instructor 小泉 秀昭

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

テーマ:「広告表現分析」

本講義では、広告論での広告の基礎知識を前提として、広告表現の吟味、文化的な側面、グローバルな視点での広告など幅広い内容をカバーする。表現の吟味、文化的な側面での解説では比較的数多くビデオテープを使用し、実際のTV広告等を鑑賞し、自分の目で広告の良さを判断することも学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

受講する学生には、広告表現を通し、広告の送り手、そして受け手としてのメディアリテラシーを身につけることを期待する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

広告論を履修していることが望まれる

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	総括的導入講義、江戸・明治期・大正から戦時中の広告	引札、錦絵、ポスター、プロパガンダ
2	広告表現アイデアを吟味する	スライス・オブ・ライフ、ティーザー広告
3	タレント広告の役割とその功罪 + キャラクター表現	ドコモダケのケース、情報源効果、意味移転効果
4	ユーモア広告	クリエイティブディレクター石井達矢
5	ユーモア広告 キンチョウの広告はなぜ面白いのか	TVCM、つまらん!
6	コンシューマーインサイトを発見する方法	アカウントプランニング、スイートスポット、トレーニング法
7	新しい広告表現の流れ	ゲストスピーカー
8	時代と広告(1)	1950年代~70年代、トリス、イエイエ、高度経済成長
9	時代と広告(2)	1980年代~2000年代、西武、資生堂、サントリー
10	CSRと広告	ナショナルごみ処理機キャンペーン
11	社会的広告 ベネトンの事例	戦争、エイズ、死刑制度と広告
12	広告を考える	クリエイティブディレクター杉山登志の生涯
13	グローバル広告とは	カンヌ映画祭の受賞作品の解説
14	広告の中のジェンダー	時代的流れ、P&Gボールドの広告
15	ブランデッドエンタテインメント、講義の総括	プロダクトプライズメント、ショートフィルム

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

配布のレジュメでの復習。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	70 %	教科書およびノートなどの持込は不可
平常点(検証テスト)	30 %	不定期に授業内で課題を課す

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

課題は7~8回は行う予定のため出席が難しい学生には不向き。課題は講義の始めに行う場合もある。

空欄のあるレジュメを毎回配布するため、遅刻をせず出席し空欄を埋めること。

教科書 / Textbooks

特に市販のテキスト等は使用しない。オリジナルに作成した資料を使用。

参考書 / Reference Books

講義内で随時紹介する

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

アドミュージアム東京: http://www.admt.jp/parent_J.html

全日本シーエム放送連盟: <http://www.acc-cm.or.jp/>

公共広告機構: <http://www.ad-c.or.jp/>

その他 / Others

特になし

広告文化論 S

20289

担当者名 / Instructor 福岡 良明

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「広告」「広報」「宣伝」—これらのニュアンスはそれぞれ異なるが、その機能には重なり合う点が多い。むしろ、それらを殊更に区分することで、見えなくなるものも少なくない。たとえば、9・11直後、アメリカ政府は、国内外の宣伝政策の責任者に、大手広告代理店トップを起用した。このことは、「国内広報」「対外宣伝」と「広告」の連続性を示唆するものであろう。本講義では、「宣伝」「広報」も視野に入れながら、「広告＝宣伝」のメディア文化史を俯瞰する。そのうえで、(1)「広告＝宣伝」はナショナリズムや国民統合といかに結びついてきたのか、(2)それらを批判的に読み解いたうえで、いかに「自己＝われわれ」と「他者」との対話を構想することができるのか、という点について考察する。

なお、本講義では現代の事象のみならず、戦前・戦後の宣伝・広告文化史も多く取り上げる。現代は現代によってのみ見えるのではなく、過去の対比によって見えるものも少なくないためである。本講義では、関連する文化史も解説しながら、近現代の広告文化を読み解いていく。

到達目標 / Attainment Objectives

- ・「広告」「広報」「宣伝」の背後にあるポリティクス(ナショナリズム・異文化認識など)を読み解く視点を学ぶ。
- ・「広告」「広報」「宣伝」の文化を、総力戦体制以降の歴史をふまえながら、理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	ガイダンス～広告・広報・宣伝を横断する	授業の概要・導入
第2回	§ 1 現代広告に映る「異文化」	異文化認識のポリティクス
第3～5回	§ 2 博覧会と異文化表象	大阪万博の広報学
第6～9回	§ 3 戦時期の博覧会と「聖戦」の綻び	擬似戦場体験とメディア・イベント
第10・11回	§ 4 玉音放送の広報学	終戦記念日の神話
第12～14回	§ 5 9・11とプロパガンダの現代史	総力戦体制とアメリカの宣伝政策
第15回	§ 6 おわりに: 自己と他者の対話の可能性	逆さの世界(丸山眞男)

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

【重要】

- ・授業ではパワーポイントや映像資料を用いるほか、プリントを用いる。
- ・授業各回のプリントについては、授業用HP(<http://www.eonet.ne.jp/~yfukuma/>)の「授業に関するご連絡」よりダウンロードし、出力のうえ、授業にのぞむこと。授業時には配布しません。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	60 %	
レポート試験	30 %	中間レポートとして実施。未提出の場合は原則として成績評価対象にならない。
平常点(日常的)	10 %	適宜コミュニケーションペーパー等の提出を求める。出席点は設けない。
私語や携帯電話の使用をなす場合、即「不可」とし、以後の受講は認めない。		

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

教科書はとくに使用しない。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『情報戦争』	ナンシー・スノー／岩波書店／4000234013／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

広告論 S

13071

担当者名 / Instructor 小泉 秀昭

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

テーマ:「現代広告論」

本講義では、企業の行う広告活動を中心におき、広告および広告産業を包括的に理解することを目指す。広告の定義、機能、また広告キャンペーン立案プロセスなど幅広い内容を実際の企業のケースを通し解説する。

到達目標 / Attainment Objectives

受講する学生には、市民としての広告に対するリテラシーの向上を目指す一方、実社会において広告活動に関連する場面に直面した際に十分対応のできる知識、考え方を身につけることを望む。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	講義の進め方・広告の歴史および定義	マーケティング、宣伝
2	広告の種類と機能(社会的役割と企業のマーケティング活動としての役割)	マス4媒体、SP広告、経済・経営、社会・文化的機能、
3	広告産業とは:特に広告代理店の役割と今後の方向性	広告費、総合広告代理店、世界の代理店、クリエイティブエージェンシー
4	広告のブランド構築への役割	ブランドエクイティ、ブランド認知、知覚品質、ブランド連想、ブランドロイヤルティ
5	広告戦略立案プロセス(1)	Plan・Do・See、状況分析、SWOT分析、ポジショニング、ターゲティング
6	広告戦略立案プロセス(ケーススタディ)	ツーカーのキャンペーン、高齢者向け広告
7	表現戦略(1)TVCMの制作プロセス	クリエイティブブリーフ、ストーリーボード、TVCM
8	広告効果(1)	広告調査、AIDMA、DAGMAR、関与、FCBモデル
9	広告効果(2)	精緻化見込みモデル、ロシター&パーシーグリッド、認知的不協和低減の理論
10	メディア戦略(1)	メディアプランニング、GRP、CPM、視聴率
11	メディア戦略(2) ケーススタディ	クロス・メディア・プランニング:ゲストスピーカー
12	IMC戦略	統合型マーケティングコミュニケーション、アディダスのケース
13	広報・PR	村田製作所のケース
14	Web広告	ネット広告会社、バナー広告、行動ターゲティング告
15	新しい広告・講義の総括	ステルスマーケティング、バイラル広告、シームレス広告

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

配布のレジュメでの復習。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	70 %	教科書およびノートなどの持込は不可
平常点(日常的)	30 %	不定期に授業内で課題を課す

課題は7~8回は行う予定のため出席が難しい学生には不向き。課題は講義の始めに行う場合もある。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

比較的高度な広告理論の解説もあるため、しっかりとした受講態度を希望する空欄のあるレジュメを毎回配布するため、遅刻をせず出席し空欄を埋めること。

教科書 / Textbooks

特に市販のテキスト等は使用しない。オリジナルに作成した資料を使用。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
現代広告論	岸志津江、田中洋、嶋村和恵 / 有斐閣 / 4-641-12082-X /

新しい広告

嶋村和恵監修／電通／4-88553-183-7／

特になし

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

アドミュージアム東京 : http://www.admt.jp/parent_J.html

全日本シーエム放送連盟 : <http://www.acc-cm.or.jp/>

公共広告機構 : <http://www.ad-c.or.jp/>

その他 / Others

特になし

担当者名 / Instructor 秋葉 武

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

発展途上国における多くの社会問題に取り組む、国際協力活動を行うNGOを中心に組み立てて取り上げる。その関連で、国際機関(国連、世界銀行等)、政府のODAについても一部で取り扱う。途上国における貧困や、民族紛争、テロ、環境破壊は、世界全体を不安定な状態に陥れている。そうしたなか市民によって結成されたNGO(非政府組織)の役割に注目が集まっている。本講義では「NGOの時代」といわれる21世紀のなかで組織の活動、課題を検証していく。講義は毎回ビデオを使用し、また1-2回ゲストスピーカーを招聘する。それによって、アップデートな事象についてより具体的な理解を深めてもらう。

到達目標 / Attainment Objectives

- ・国際協力において、なぜ政府だけでは役割を果たせないのかを理解する
- ・NGOが具体的にどのような役割を果たしているのかを理解する
- ・国際協力NGOが現在、どのような立場に置かれているかの基本的問題や概念を理解する
- ・国際協力においてどのような人材が求められ、その特徴は何かについて理解する

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

NPO・NGO論(担当:秋葉武)

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の概要と導入	授業の趣旨、達成目標、成績評価方法、担当教員の自己紹介
2~3	NGOの台頭とその社会的背景	NGOの機動性、国境なき医師団、地雷雷絶キャンペーン、アフリカ
4~5	日本のNGOの活動分野と協力形態	適正技術、児童支援NGO、シャンティ国際ボランティア会、東南アジア
6~7	NGOの活動分野と協力形態	持続可能な発展、環境NGO、アマゾン
8	NGOと国内の国際化	コミュニティにおける他組織との連携、多文化共生、多文化共生センター
9~10	NGOの新たな戦略 ——マイクロクレジット——	ビジネスモデル、エンパワーメント、貧困と女性、グラミン銀行
11	NGOの新たな戦略 ——フェアトレード——	世界貿易の不均衡、ピープルツリー、フェアトレードラベル
12	NGOを取り巻く環境①—政府とのパートナーシップをめぐって—	創造的緊張、協働、下請け化の危機
13	NGOを取り巻く環境②—国連とのパートナーシップをめぐって—	国連の危機、アメリカとの相克、協働の進展
14	NGOを取り巻く環境③—グローバル化による社会構造の変化—	グローバル化、社会的排除、絶対的貧困
15	国際協力NGOの今後	NGOの課題と今後の展望について

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	50 %	定期試験とレポート提出の両方が必要となります。
レポート試験	30 %	定期試験とレポート提出の両方が必要となります。与えられたテーマについて、レポートを提出し、教員はそれを評価します。
平常点(日常的)	20 %	主にコミュニケーションペーパーを通してです。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

ガイダンスに出た上で、納得した上で受講登録をして下さい。せっかく受講するので、受講するだけでなく、自主的に勉強してテーマを深めていくと面白いと思います。

なお、下記の行為をする受講生は「F」評価となる可能性があるため、留意してください。①他の受講生の受講権の侵害・授業中の私語、大幅な遅刻、頻繁な途中入退室など ②マナーの欠如(携帯電話の時計以外の目的での使用など)

教科書 / Textbooks

書名 / Title 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
 ハンドブックNGO——市民の地球的規模の問題 馬橋憲男、斎藤千宏編(1998) / 明石書店 / /

への取り組み——

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

国際ジャーナリズム論 S

15589

担当者名 / Instructor 奥村 信幸

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

- ・海外の報道機関・メディア産業の現状を理解する。
- ・日本の報道と海外の報道を比較し、優れている点や課題を考察する。
- ・表現の自由、ジャーナリズムの原則が国際化、インターネットの発達でどう変質したか理解する。

到達目標 / Attainment Objectives

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	導入のはなし／カルチャーギャップ	異文化コミュニケーション・翻訳
第2回	ジャーナリズムとは何か	ニュース・表現の自由・民主主義・権力と監視
第3回	日本で外国のニュースはどのように伝えられているか	ニュースソース・通信社・衛星放送
第4回	権力とメディア	選挙・政治報道・メディアコントロール
第5回	戦争とメディア	ブール取材・「埋め込み」ジャーナリスト
第6回	表現の自由のない国で／忘れ去られたニュース	報道の自由・取材の自由・ニュースバリューとサブスタンス
第7回	メディア・ビジネスとニュース	資本集中・FCC・多様性と民主主義
第8回	メディアの倫理と理想をいかに守るか	権力の監視・取材倫理
第9回	(ゲスト・スピーカーに講演と質疑)	
第10回	公共放送を考える	NHK・BBC・公共性・災害報道
第11回	日本は世界からどう見られているか その1	皇室報道・「コイズミ現象」
第12回	日本は世界からどうみられているか その2	「ジャパン・クール」・ジャパニメーション
第13回	ニュースの新しい形とプライバシーの問題	ブログ・サイバー社会・ウェブ2.0
第14回	インターネットと創造的な社会(まとめの議論)	著作権・アーキテクチャ・プライバシー
第15回	まとめの議論と記述問題	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	30 %	テーマは追って指示します。
平常点(検証テスト)	40 %	事実関係を正確に把握した上で、議論を展開できるかを見ます。
平常点(日常的)	30 %	テーマ別発表とクラス内のディスカッション。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

- ・たくさんの文献(英語含む)を読んで、たくさん語り、書いてもらいます。
- ・新聞・テレビ・雑誌のニュースや情報に触れておいてください(それを前提に授業を進めます)。

教科書 / Textbooks

- ・クラス内で指示します。

参考書 / Reference Books

- ・クラス内で指示します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

国際援助論 S

20273

担当者名 / Instructor 吉川 卓郎

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

国際援助のあり方は多様化しており、従来の国際機関・国家から国家への資金・物資投入や人材派遣だけでは解決できない事例が増加している。

この背景には、ここ数十年のグローバルな経済関係の拡大に基づく、国家の位置づけ・役割の変化、また国家-社会関係の変容などがあり、現代の国際援助を考察する上で、これらのマクロな潮流を理解することは非常に重要である。

本講義では、世界的な政治・社会構造の変動について説明しながら、今、国際援助の実践の場で何が求められているのか、具体的な事例紹介を交えつつ論じる。

到達目標 / Attainment Objectives

世界的な政治・社会構造の変化が国際援助の方向性に何をもたらしているのか、国際援助の現場はどう動いているのかを、バランス良く理解してほしい。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

講義では国際関係論や比較政治学の理論に触れることも多いが、特に事前学習の必要はない。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	国際援助に何が起きているか	
第2回	グローバル化時代の「国家-社会」関係	
第3回	事例研究①	
第4回	ポストコロナル期の「国家-社会」関係	
第5回	事例研究②	
第6回	アナーキー化する「国家-社会」関係	
第7回	事例研究③	
第8回	「国家-社会」関係の新たな地平に向けて	
第9回	事例研究④	
第10回	「市民社会」を取り込む国家の戦略と再編の企て	
第11回	事例研究⑤	
第12回	「分権型」ローカル・ガバナンスの挑戦	
第13回	事例研究⑥	
第14回	相互エンパワーする「国家-社会」関係	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

特になし。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	100 %	授業で扱ったいくつかのテーマから、受講者関心に基づいてひとつのテーマを選択するもの。 授業内容に対する理解度やテーマに対する論理的説得力などを総合的に判断する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

特になし

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「途上国の試練と挑戦-新自由主義を超えて」	松下 冽 / ミネルバ書房 / 2007年

参考書 / Reference Books

最初の授業で紹介する

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

国際環境政策論 S

20280

担当者名 / Instructor 杉本 通百則

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

環境政策は歴史的にはまだ浅く、発展途上の政策科学であるが、現実の公害・環境問題の一層の深刻化に対応して、その問題解決のために、複雑な諸課題に応える「環境政策論」への期待は大きい。

本講義では、環境政策の基礎理論・原則・政策手法を概説するとともに、世界各国における環境政策や国際条約などについて考察する。その際、個別環境政策の内容だけでなく、政策立案・決定の合意形成過程にも焦点を当てると同時に、こうした規制を各主体にどのように遵守させ、実質化させるかという枠組みも含めて論じたい。これらの国際比較を通して、日本の環境政策を批判的に分析しつつ、他の諸政策とのポリシーミックスの方向性についても検討したい。

到達目標 / Attainment Objectives

- ・環境政策に関する基礎理論や諸手法について具体的に理解できる。
- ・公害・環境問題を国際的脈絡のなかで捉えることができる。
- ・現代の環境政策の課題について自己の見解を論理的に述べるができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「現代環境論」「環境論」を履修しておくことが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	はじめにー環境政策とは何か？	
第2回目	環境政策の歴史(1)	
第3回目	環境政策の歴史(2)	
第4回目	環境政策の目標と原則	
第5回目	環境政策の手法(1)	
第6回目	環境政策の手法(2)	
第7回目	気候・エネルギー政策(1)	
第8回目	気候・エネルギー政策(2)	
第9回目	廃棄物・リサイクル政策(1)	
第10回目	廃棄物・リサイクル政策(2)	
第11回目	自然保護政策	
第12回目	オゾン層破壊問題とモントリオール議定書	
第13回目	地球温暖化問題と京都議定書	
第14回目	環境政治の諸理論	
第15回目	まとめー環境再生とポリシーミックス	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	60 %	講義の理解度70%、論旨の明瞭度20%、議論の現実性10%
平常点(日常的)	40 %	中間レポート(20%)、および講義中に随時実施する小レポート(20%)などを評価。いわゆる出席点はなし。

中間レポートの課題については適切な時期に講義の中で発表する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

テキストは特に指定しない。必要に応じて講義レジュメや資料などを配布する。また時にはビデオ教材も利用する。

参考書 / Reference Books

参考文献については講義中に適宜紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

担当者名 / Instructor 小原 豊

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

発展途上国には不就学児や非識字者が未だに大勢おり、その支援が国際的に急がれている。本授業では、国際教育援助の現状と課題について概説し、国際社会の潮流や歴史的展開にも言及しながら、教育援助における基本的な原理と実践手法を概観し、その論点整理と展望の探究を行う。また、本授業は一方的な講義形式ではなく、受講者小集団によるプレゼンテーションや議論形式を取り入れた参加型学習を進める。

到達目標 / Attainment Objectives

- 1 国際教育援助の基本原則を理解し、発展途上国支援の諸課題を探究する力量を形成すること。
- 2 国際教育援助の歴史的展開を踏まえ、発展途上国支援の実践的手法について理解すること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

事前履修が必要な科目は特にありません。日頃から、様々な報道機関、諸外国のメディア等にも目を通して情報を比べることで、物事を多角的に考える習慣をつけて下さい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	国際教育援助とは何か? : 国境を越えて人が人の学びを支援する	国際社会の潮流, 世界識字実験計画(EWLP), 援助理念と政策
第2回	国際教育援助の仕組み	ODA, 円借款, 無償/有償資金協力, 技術協力
第3回	国際教育援助の概略史	ジョムティエン会議, ダカール行動枠組み, 成長のための基礎教育イニシアチブ
第4回	世界の基礎教育の現状と課題	量的拡大と質的向上, 識字率・就学率, 世界銀行, 女子教育,
第5回	日本による教育援助①その比較優位性: Jugyou-Kenkyu とは何か	授業研究, カスケード方式とクラスター方式, 住民参加
第6回	日本による教育援助②JICAの活動と青年海外協力隊の展開	JICA, JOCV, 選考・訓練・実情, 自助努力, 協力隊5か条
第7回	日本による教育援助③文部科学省による国際教育協力イニシアチブ	拠点システム, 日本の教育経験集約, 協力知見の体系化・共有化
第8回	途上国理解・支援の原理①文化的アイデンティティ	民族性, 多言語・他文化社会, 僻地複式モデル
第9回	途上国理解・支援の原理②持続可能性(Sustainability)	技術移転, プロジェクト評価, 参加型ガバナンス
第10回	途上国理解・支援の手法①教育開発モデル	社会構造, モデル分析(ハービンソン&マイヤーズ, カミングス)
第11回	途上国理解・支援の手法②教育セクター分析	包括性と選択, 優先課題, ファストトラックイニシアチブ(FTI)
第12回	国際教育協力フィールドワーク①NGOの活躍: アフガニスタンを事例に	実際に国際教育協力で勤しむNGOの方を招聘し, 議論・懇談する
第13回	国際教育協力フィールドワーク②草の根交流: インドネシアを事例に	実際に国際教育協力で勤しむ活動家を招聘し, 議論・懇談する
第14回	国際教育協力フィールドワーク③専門家派遣: ラオスを事例に	実際に国際教育協力で勤しむ専門家を招聘し, 議論・懇談する
第15回	国際教育援助の論点整理と展望: 支援から共生へ	世界人権宣言の理念, Education for All (EFA), ヨハネスブルグ宣言

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study**(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method**

本授業は一方的な伝達形式ではなく、受講者の関心や問題意識に基づいた議論を中心に進めていきます。教員の指示をただ待つのではなく、教育援助に関する課題を様々な一次資料から探究していくことが大切です。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	40 %	小集団による課題発表に対する自己評価, 受講者同士による相互評価, 教員評価を参照する。
平常点(日常的)	60 %	出席を重視する。また日常点(学習態度, 質問内容, 討論参加等)も加算する。

特別な事情がない限り、開講回数2/3以上を出席することを単位認定の基本条件とします。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

我々は国際社会を生きる上で、自国の文化に根ざしながらも、多様な価値観をもって異なる文化の在り方を尊重し、受け入れねばなりません。

国際教育援助については、ドナー国と被援助国が対等な立場で相互理解を深め、国際社会での共生を目指す立場で学ぶ必要があります。とかく視野が狭窄しがちな教育分野ですが、国際的な視野で教育問題を捉える経験が、受講者各位にとって大きな財産になることを願います。

教科書 / Textbooks

教科書は指定しません。必要に応じて授業時に参考資料を適宜配布します。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
国際教育協力論	内海成治 / 世界思想社 / 4-7907-0910-8 / 教育協力分野の学際的な知識が得られる。
国際教育開発論	黒田一雄, 横関祐見子 / 有斐閣 / 4-641-07697-9 / 多様な領域の教養が体系的に得られる。
国際教育協力を志す人のために	千葉泉弘, 寺尾明人, 永田佳之 / 学文社 / 4-7620-1359-5 / 専門的知識が包括的に得られる。

その他, 参考図書の内容は随時紹介し, 必要に応じて抜粋を配布します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

国際協力機構(JICA)や国際教育イニシアティブの活動関連のweb site 等を随時紹介していきます。

その他 / Others

授業において不明な点, 疑問に感じた点を大切に, まずは自らその解消に努めて下さい。またPCを利用した授業を行う場合もあります。

国際産業論 S

20272

担当者名 / Instructor 高嶋 正晴

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

産業は、国や地域の経済的な基盤をなす。このシンプルな事実を念頭においておきたい。グローバル化の進展とともに、産業のあり方は大きく変わってきた。すなわち、人やモノ、サービス、マネー、情報・思想などのグローバル化に乗じて新しい産業が現れ、多様化するとともに、企業はその活動を国外に拡大して、グローバル／リージョナルに多種多様なネットワークを形成し、熾烈な国際競争を展開してきている。

本講義では、現代の産業のあり方について、グローバルかつローカルな視野から、また、組織論的な視点や政策論的な視点を取り入れて、多面的かつ分野ごとに具体的に理解することをねらいとする。そこでは、その社会的インパクトについての分析も含むことになる。この講義を通じて、産業は国・地域の経済的基盤であるという観点から、企業・産業のグローバル化はいかなる意味を持ち、そして、持続可能な経済社会の実現のために企業・産業のグローバル化とそのガバナンス・メカニズムはどうあるべきか、そして、企業・産業はその社会的責任をいかに果たすべきか、また、私たちはこれらの問題にどう関わりうるのか、といった諸論点についても考えてみたい。

到達目標 / Attainment Objectives

- 1) グローバル化のなかで現代の産業のあり方がどのように変化してきたのかを理解する
- 2) 企業のグローバル／リージョナルな活動とそれを規定する諸要因について学ぶ
- 3) 産業のグローバル化の社会的インパクト(産業空洞化、雇用)について考える
- 4) 企業および産業のグローバルな社会的責任についての取組みを学ぶ
- 5) 企業・産業の望ましいガバナンス・システムのあり方について考える

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

とくになし。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	グローバル化のなかの現代産業～(資本主義的な)高度化と多様化～	脱工業化、ポストフォーディズム、消費主義、経済のグローバル化とIT化
第2回	企業活動の国際化～決断、成功、失敗～	企業のグローバル戦略、国・地域の産業政策、ローカル市場
第3回	企業のグローバル化の歩み	対外直接投資(FDI)、アメリカ、ヨーロッパ、日本、アジアの国際・地域比較
第4回	生産のグローバル化① ～生産プロセスの変化～	トランスナショナル企業、生産とサービス、生産連鎖、輸出促進地域
第5回	生産のグローバル化② ～産業立地、国の競争力、雇用～	産業の国際化空洞化、労働(力)の多様化、雇用の多様化
第6回	現代企業のグローバル戦略と多様なネットワーク形成～M&A、戦略的提携、グローバル・ソーシング～	在外子会社、コオプション、コスベシヤリゼーション、学習
第7回	国際経済システムと日本の対外経済戦略	世界貿易機関(WTO)、地域主義、FTA/EPA
第8回	製造業の国際的地位と日本のものづくり政策 ～東アジアの地域主義と産業集積・ネットワークの高度化～	クラスター形成、すり合わせ戦略、東アジア経済交流推進機構
第9回	情報産業にみる新しいグローバル競争 ～その国際的地位と日本の国際デジタル情報政策～	ネットワーク外部性、プラットフォーム、モジュール、ウェブ2.0
第10回	文化コンテンツ産業 ～その国際的地位と日本のソフトパワー戦略～	ソフトパワー、ジャパン・クール、ジャパニメーション
第11回	物流・小売業 ～港湾物流・小売業の国際的地位と日本の国際物流政策～	SCM、ロジスティクス、港湾の国際競争、日本の港湾政策
第12回	観光業 ～その国際的地位と日本の国際インバウンド観光政策～	インバウンド観光振興、ピジット・ジャパン・キャンペーン、グローバル観光戦略
第13回	アグロ＝フード・ビジネス ～その国際的地位と日本の政策～	「攻めの農政」、農林水産物の輸出促進、農業の多面的機能
第14回	持続可能な社会経済の実現に向けた産業・企業の取組み	国連グローバル・コンパクト、CSR、グリーン経営、静脈産業、フェアトレード

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	60 %	講義全体についての理解度を考査する。

平常点(日常的) 40 % うち20%は、参考文献リストのなかにある書籍についての読書ノートを作成し、個別産業についての知識の習得を考査する。
残る20%は、講義内容に関するミニテスト、あるいは、講義についての感想や質問その他の記入内容から、講義の理解度を考査する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

図書館で、『日経新聞』や、より専門的な『日経産業新聞』、『日経MJ』、また、『エコノミスト』、『ダイヤモンド』、『東洋経済』といった週刊経済雑誌などをチェックしてみよう。

また、たとえば、受講生それぞれにとって身近なブランドについて興味を持って調べてみるといったことから、そのグローバルな活動の内容と問題点、あるいは、産業のグローバル化の事例と展望について考えてみてほしい。

教科書 / Textbooks

全体を通じて利用する教科書は定めないが、参考書を講義内容に応じて適宜活用し、その都度明示する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『通商白書』各年版	経済産業省／ぎょうせい／経済産業省のHPでも閲覧可能
『フラット化する世界—経済の大転換と人間の未来—』【増補改訂版】上・下巻	T・フリードマン／日本経済新聞社／2007年の原著新版の翻訳
『ライバル国家、ライバル企業』	J・ストッポード&S・ストレンジ／文眞堂／4830942207／
『MITチームの調査研究によるグローバル企業の成功戦略』	S・バーガー／草思社／4794215258／
『グローバル資本主義—危機か繁栄か—』	R・ギルピン／東洋経済新報社／4492442804／
『世界企業のカリスマたち—CEOの未来戦略—』	J・ガーテン／日経ビジネス文庫／4532190819／
『トヨタを知るといふこと』	中沢・赤池／日経ビジネス人文庫／4532192587／
『貧富・公正貿易・NGO』	オックスファム・インターナショナル／新評論／479480685／
『マクドナルドはグローバルか—東アジアのファーストフード—』	J・ワトソン(編)／新曜社／4788508362／
『ネクスト・マーケット』	C・K・ブラハラード／英治出版／4901234714／
The Global Shift, 5th ed.: Mapping the Changing Countours of the World Economy	Peter Dicken／Sage／978-1-4129-4(pbk)／
『サービス多国籍企業とアジア経済』	関下・板木・中川(編)／ナカニシヤ出版／477501156／
『クリエイティブ・クラスの世紀』	R・フロリダ／ダイヤモンド社／9784478000762／

上記の他、多数の参考書を活用したい。適宜、講義中に紹介したい。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

経済産業省 <http://www.meti.go.jp/>
 財団法人日本経済団体連合会(経団連) <http://www.keidanren.or.jp/indexj.html>
 日本貿易振興機構(JETRO=ジェトロ) <http://www.jetro.go.jp/indexj.html>
 トヨタ自動車 <http://www.toyota.co.jp/index.html>
 農林水産省 <http://www.maff.go.jp/>
 国土交通省 <http://www.mlit.go.jp/>

その他 / Others

担当者名 / Instructor 深澤 敦

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

21世紀に入って経済のグローバル化が進まざるを得ないと思われていますが、それとともに、これまで基本的には各国家を政策主体として遂行されてきた社会政策も大きな変容を余儀なくされ、その一層の国際化が求められています。とはいえ、第一次世界大戦の終結とともにILOが創設されて以来、20世紀においても社会政策は一国の枠を越えて明確に国際化の方向性を示してきました。

本講義は、こうした「国際社会政策」の歴史と現状の検討を通じて、とりわけ日本の社会政策の特異性、つまりグローバル・レイバー・スタンダードからのその大きな乖離の実態を歴史的に解明することを中心的な課題としています。そして、これによって、日本社会の特異性、とりわけ多方面に現れているジェンダー・バイアスや経済・社会のその他の格差構造などの問題性を浮き彫りにすることを意図しています。

到達目標 / Attainment Objectives

- ・社会政策と国際社会政策の基本的概念をその歴史的発展の中で正確に理解できるようになること。
- ・日本の労働問題を初めとする多くの労働・福祉・ジェンダー・社会の諸問題に関して国際的な視点から分析できるようになること。
- ・「社会的公正」と「経済効率」との関係についての国際的経験(例えばCSRやSRIなど)から日本の将来に関する展望を持つことができるようになること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

事前に履修しておかなければならないような科目は特別にありませんが、日常的にテレビや新聞などを通じて、労働問題や社会政策の動向に注目することが求められます。そして、毎年6月にスイスのジュネーブで開催されるILO総会で何が議題になっているかについて関心を持つ必要があります。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	I) 社会政策の基礎理論 (1) 社会政策とは何か	現実の社会政策、社会政策論、19世紀最大の不況
第2回	論 (2) 社会政策の道義	ドイツ歴史学派、分配の正義、「講壇社会主義」
第3回	論 (3) 社会政策の政治	ワイマール憲法、労働者参加の思想、生産政策
第4回	理論 (4) 社会政策の経済	生産要素としての「労働力」、労働力の創出・保全・掌握政策、譲歩・妥協としての社会政策
第5回	題性 (5) 大河内理論の問	相対的過剰人口、資本の有機的構成、労働生産性
第6回	II) 国際社会政策の登場 (1) 国際社会政策の概念	国内社会政策、超国家的社会政策、競争条件の平等化
第7回	(2) 国際社会政策の内容と性格	労働基準政策、雇用・失業政策、労使関係政策、社会保障政策
第8回	(3) 国際社会政策成立への途	ダニエル・ル・グラン、スイスの国際会議提唱、ベルリン会議
第9回	(4) 国際労働者保護立法協会の成立	ブリュッセル会議、1906年のベルン条約、1913年のベルン条約案
第10回	(5) 第一次世界大戦とILO創設	AFLの1914年大会決議、国際労働法制委員会、ヴェルサイユ条約
第11回	III) ILOの機能と日本 (1) ILOの機能と戦前の活動	国際労働総会、国際労働条約、フィラデルフィア宣言
第12回	(2) ILOと日本(その一)	官選労働者代表問題、ILO第一号条約、日本のILO脱退
第13回	(3) ILOと日本(その二)	179号事件、結社の自由委員会、ドライバー報告
第14回	IV) 現代の国際社会政策 (1) EUの社会政策	ローマ条約、社会憲章、同一価値労働同一賃金
第15回	(2) ジェンダーと国際社会政策	女性差別撤廃条約、ILO156号条約、ポジティブ・アクション

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

既述のように日々のニュースを通じて労働・福祉・ジェンダーに関する世界の動向に注目すると同時に、就活の準備も兼ねて日本の企業や産業の状況について自ら積極的に情報を集めるよう努力して下さい。

また、各講義ごとに内容が段階的に積み重ねられていくために、やむをえない場合を除いて毎回出席しないと理解が困難になりますので、その点に注意して下さい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	80 %	講義の理解度、問題分析能力を評価

レポート試験

20 % 講義に関わる問題についてのレポートを自主的に提出してもらい、その内容の評価

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

歴史との関連で国際的な動向について正確に知ることなくして日本社会の科学的分析は困難だと考えられますので、常に国際的な視野からものごとを見るよう努力して下さい。

教科書 / Textbooks

教科書やテキストは使用せず、毎回講義レジュメや資料を配布します。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
福祉国家とジェンダー・ポリティクス	深澤和子著 / 東信堂 / 2003年
国際ジェンダー関係論	サンドラ・ウイトワース著・武者小路公秀(代表)監訳 / 藤原書店 / 2000年
社会政策—国際化、高齢化、雇用の弾力化—	石畑良太郎・牧野富夫編著 / ミネルヴァ書房 / 1999年
ILOとジェンダー	戸塚悦朗著 / 日本評論社 / 2006年

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

<http://www.ilo.org>
<http://www.socialeurope.com>

その他 / Others

担当者名 / Instructor 篠田 武司

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

文化や経済あるいは政治面でのグローバル化がますます進んでいます。世界の各国は其中に不可避に巻き込まれています。このことにより、国家の役割が大きく変わったり、また市民権のあり方をも変えつつあります。こうしたグローバル化は、いままてを市場の競争原理でもって解決していこうとする、いわゆる新自由主義のグローバル化として進み、このことが、また、様々な問題を引き起こしています。たとえば、先進諸国と開発途上国との間の経済格差はこれまで以上に開き、貧困が深刻な問題となってきました。本講義では、グローバル化がどのように進み、またそれがどのような課題をわれわれに与えているのかを、具体例をあげながら経済的、社会的に見ていきます。

到達目標 / Attainment Objectives

- 1) 世界はグローバル化しているのか、しているとすればどのような意味でそうなのかを経済を中心にして理解する。
- 2) グローバル化を進める多国籍企業について理解する
- 3) 人の移動に伴う市民権概念の変化と多文化の共生のあり方を考える
- 4) 開発途上国における貧困問題を理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1回目	グローバル化とはなにかーいつはじまり、その定義は	インターナショナル化、グローバル化、グローバリズム
2回目	経済のグローバル化ーその実態は？	貿易、対外投資、労働力の流動化
3回目	多国籍企業ーグローバル化をすすめるもの	多国籍企業の定義、企業内貿易、国連グローバル・コンパクト
4回目	EUにみるグローバル化	リージョナリズム、多層多主体ガバナンス、エーレスンドに見るリージョナル化
5回目	グローバル化のメインストリームーそれはアメリカ化か？	新自由主義、ワシントンコンセンサス、対抗ヘゲモニー
6回目	グローバル化と市民権(1)ーEUにみる市民権問題	マーシャル、デニズンシップ、国籍、市民権
7回目	グローバル化と市民権(2)ー多文化共生と市民権	文化多様性政策、同化政策
8回目	グローバル化と市民権(3)日本にみる市民権問題	参政権、公務就任権
9回目	小総・まとめ	理解確認テスト(評価とは無関係)、アンケート、質問
10回目	グローバル化と開発ー貧困と格差	UNDP、ミレニアム目標、(南北)格差
11回目	開発論の展開	輸入代替、構造調整、経済開発
12回目	グローバル化と開発ー社会・人間開発へ	アマティア・セン、潜在能力、貧困、人間開発
13回目	グローバル化と市民ーどのようなグローバル化なのか	世界社会フォーラム、国際NGO、アタック
14回目	グローバル化をめぐる議論ー3つの考え方	グローバル化論、グローバル懐疑論、変容論
15回目	まとめ	半年の講義を振り返って。アンケート、質問

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

講義で示された参考文献などについては、読んでおくことが望ましい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	80 %	講義の理解度を考査する
平常点(日常的)	20 %	3~4回、出席を取り、それを点数化する

出席点を20点、定期試験80点=100点として、評価する。
出席表を出す際には、QRコードを使用するので常に持参すること

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

新聞の国際欄を読むといい。

教科書 / Textbooks

講義は、レジュメに沿って行われる。特にテキストは指定しない。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『グローバル化とは何か』	デヴィッド・ヘルド中谷監訳／法律文化社／／

『人間開発報告』各年度版

UNDP／国際協力出版会／／

『ラテンアメリカは警告する』

内橋・佐野編／新評論／／

『グローバル経済という怪物』

D. コーテン(西川訳)／主プリンガー東京／／

『ヨーロッパの市民権』

宮島喬／岩波新書／／

講義中に適時上記以外にも知らせていく。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

担当者名 / Instructor 太田 美帆

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

各国の子育ての状況を比較することとおして、先進諸国の福祉制度の特徴を明らかにします。
 公的機関が中心となって問題解決するのが福祉国家であるとするならば、家族、企業、公的機関、NPO 等が互いに協力し合いながら問題解決するのが福祉社会であると考えられます。とはいえ、国によってこの協力関係のあり方は様々です。
 講義の中で、各国の福祉のあり方は様々であるということを知り、なぜそれらの方法が採用されたのか考えましょう。そしてそれぞれの方法ごとに、何が解決され、何が新たな問題として生じているのかを考えましょう。

到達目標 / Attainment Objectives

各国でさまざまな方法で行われている福祉追求のあり方を学び、それらを体系的に理解すること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特にありません。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	導入	リスク管理
第2回目	日本の子育て	家族、性別役割分業
第3回目	スウェーデンの子育て(1)	家族
第4回目	スウェーデンの子育て(2)	保育制度
第5回目	スウェーデンの子育て(3)	両親休暇制度、短時間勤務
第6回目	スウェーデンの子育て(4)	家庭内分業
第7回目	スウェーデンの家族政策を支えるもの	働き方、労働市場政策
第8-9回目	フランスとドイツの子育て	家族、働き方、家族政策
第10回目	アメリカの子育て	家族、働き方、家族政策
第11回	社会的リスクの管理方法	工業社会、脱工業社会、福祉国家
第12回目	福祉国家の基本モデルとサービス産業のジレンマ	
第13-14回目	福祉国家の三類型	自由主義レジーム、保守主義レジーム、社会民主主義レジーム
第15回	まとめ	経済と福祉と家族のつながり

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

テレビや新聞、雑誌、映画など様々な機会をとおして、各国の福祉のあり方はさまざまであるということを知り、その社会的背景に注意を向けてみて下さい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	90 %	講義で取り上げた基本的な問題や概念について理解し、自分の言葉で論じることができているかを評価する。
平常点(日常的)	10 %	小テストおよび出席状況によって評価する。

原則として、期末試験に基づいて成績評価を行います。
 日常点を加味することもあります。日常点はあくまでも補足資料として使います。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

講義の内容と日常生活を関連づけて考えてみて下さい。
 また、講義中に理解できなかったことは、早めに解決するようにして下さい。

教科書 / Textbooks

特に指定しません。講義ではレジュメを配布します。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
ポスト工業経済の社会的基礎:市場・福祉国家・家族の政治経済学	G.エスピン-アンデルセン / 桜井書店 / 4-921190-00-3 /
福祉資本主義の三つの世界:比較福祉国家の理論と動態	G.エスピン-アンデルセン / ミネルヴァ書房 / 4-623-03323-6 /

講義中に適宜、紹介します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

講義中に適宜、紹介します。

その他 / Others

担当者名 / Instructor 芝田 英昭

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

・ニュージーランドの福祉政策

かつて南半球の福祉国家といわれたニュージーランドが、1980年代以降あらゆる場面において規制緩和を推し進め市場主義国家に変貌したが、どのような背景で福祉国家を解体したのか。また福祉政策が、市場主義国家になったことでどのように変化したのかを、1970年代から現在まで概観しその変遷を考察する。

到達目標 / Attainment Objectives

社会保障や福祉政策の研究対象は、ややもすると北欧やイギリスに偏りがちであるが、あえて「かつての福祉国家ニュージーランド」を選んだ。それは、ニュージーランドの規制緩和が、日本の橋本内閣(当時)以来の規制緩和の「模範」とされたからである。ニュージーランドの規制緩和、福祉政策を学ぶことで、日本の将来予測を試みたい。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

社会保障論、福祉政策論。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	ニュージーランドの概要	位置、人口規模
第2回目	ニュージーランドの概要	政治、経済
第3回目	福祉国家から市場主義国家への変貌の背景	イギリスとの特恵的関係、Think Big Project、多額の債務
第4回目	労働党政権(1984年～1990年)による規制緩和・経済改革	ロジャーノミックス、GST(物品サービス税=わが国の消費税に相当)、郵政3事業の企業化
第5回目	国民党政権(1990年～1999年)による規制緩和・社会保障改革	雇用契約法、老齢年金、ACCの民営化
第6回目	労働党等連立政権(1999年以降)による改革の流れ	ACCの再国営化、雇用関係法、Kiwi Bank(国民銀行の設立)
第7回目	第1回検証テスト(60分)と解説(30分)	* 検証テストの時期は、あくまでも予定なので変更の可能性はある
第8回目	ニュージーランドの社会保障の仕組み	保健セクターの仕組み、ACCの仕組み
第9回目	規制緩和が国民生活に与えた影響	貧富の格差拡大、ホームレス、選挙への関心の低下
第10回目	教育の市場かともたらした経済負担と若者の心への影響	Tomorrow School政策、教育の市場化、理事会の権限
第11回目	教育の市場かともたらした経済負担と若者の心への影響	学生ローン、Brain Drain(頭脳流出)、若者の荒廃
第12回目	郵政の企業化、福祉国家崩壊を招いた雇用契約法	サービスの低下、雇用契約法、雇用関係法
第13回目	KiwiSaver(新年金制度)とはどのような制度か	退職貯蓄運用型年金の概要と、今後の年金制度の行方
第14回目	第2回検証テスト(60分)と解説(30分)	* 検証テストの時期は、あくまでも予定なので変更の可能性はある
第15回目	ニュージーランドの福祉国家への揺り戻しと、わが国への教訓	本講義のまとめと復習

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

ニュージーランドに関する文献は少ないので、インターネット等で資料を検索し、情報を収集しておくこと。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	70 %	定期試験は70点とする。
平常点(検証テスト)	30 %	検証テストを2回実施する。1回の配点は15点とし、計30点とする。検証テストの実施時期は予定なので変更の可能性はある。

コミュニケーション・ペーパーを毎回とり、次回授業の冒頭10分程度で質問や意見に関し答える。ただし、コミュニケーション・ペーパーは出席の確認としては使用しないので注意すること。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

日本と北欧との比較を念頭に置き、福祉国家のあり方を探ってみること。

教科書 / Textbooks

書名 / Title

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

新しい社会保障の設計

芝田英昭 / 文理閣 / ISBN4-89259-521-7 /

芝田英昭著『新しい社会保障の設計』第9章および、芝田著「ニュージーランド新年金制度KiwiSaverの導入が意味するもの」(『賃金と社会保障』第1453号、旬報社、2007年11月上旬号)を中心に講義を進めるので、事前に読んでおくこと。

参考書 / Reference Books

書名 / Title

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

ニュージーランド福祉国家の再設計

ジョナサン・ポストン編著、芝田英昭監訳 / 法律文化社 / ISBN4-589-02786-0 /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

ニュージーランド政府 : www.govt.nz

その他 / Others

担当者名 / Instructor 松田 亮三

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

健康と医療に関するグローバルな動向と高所得国と中・低所得国それぞれの健康課題についての議論を検討する。
国際保健医療という医師など医療従事者だけの分野かと思われるかもしれないが、実際にはプロジェクトの運営などに関わって多様な背景・専門性をもった人材が関わっている。その意味で、貧困、疾病、福祉などに関わる国際的諸問題に関心ある受講生に役立つ授業とする。

到達目標 / Attainment Objectives

1. 医療制度についての基礎的概念を説明することができる能力を獲得する。
2. 多様な医療制度のあり方について、医療財政のあり方を中心に説明し、望ましいあり方を議論する能力を獲得する。
3. 医療改革の動向について、高所得国ないし低・中所得国での課題と今後の望ましいあり方を議論することができる能力を獲得する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

国際福祉論、国際社会論、国際社会政策論、国際ボランティア論、地域保健論、現代人とヘルスケア、などが、内容をより立体的に理解する上で有用であろう。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	グローバルにみる健康と医療(授業の概要、進め方、情報源の紹介)	国際保健、グローバル健康政策、国際協力、医療システム、医療改革、世界保健機関(WHO)、世界銀行、国連エイズ総会、ミレニアム目標
2	グローバルにみる健康状態 歴史的推移と現状	死亡率、人口学的転換、疫学的転換、健康転換、パンデミック、保健統計、健康格差、健康の公平
3-4	保健医療制度論 歴史的発展と分析枠組み	保健医療制度、医療供給制度、医療財政制度、規制、市場、ガバナンス
5-6	保健医療制度の国際比較	国際比較の意義と限界、制度の差、経路依存性、NHS、社会保険、公平と効率、医療の質、医療支出、医療人員
7	中間総括	医療制度を考えるときのポイントは何か?
8-11	保健医療制度と改革の動向 高所得国(イギリス、スウェーデン、米国など)	保健医療改革、疑似市場、民営化、無保険、普遍的医療制度、民間保険、マネージド・ケア、利用者負担、政策形成、分権化
12-13	保健医療制度と改革の動向 アジア諸国(シンガポール、韓国)、中所得国(タイなど)、低所得国。	普遍的健康保険、医療貯蓄口座、民営化、力量形成、地域社会による財政、マイクロ・インシュアランス、分権化、医療貯蓄口座
14	総括討議	今後の医療政策の方向として何をめざすべきか、そしてどのような手段で?

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

1. 本授業は国際インスティテュート学生を対象として設計されており、国際的な医療の動向に関心のある学習意欲の高い学生を歓迎する。
2. 重要文献を授業中に指示するので、自分で読んで理解を深めること。
3. 学習の理解を深めるのに、課題を着実にこなしていくこと。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	60 %	到達目標に照らして評価する。持ち込み不可。
平常点(日常的)	40 %	2回のミニレポート(1000字程度)と期末レポート(2000字程度)を課す。原則コースツールを用いた提出とする。

評価は定期試験を中心に行うが、授業中に提示する課題を確実にこなしていくことが獲得目標に到達するためには必要である。日常評価での課題は、定期試験と重なりあっている。

評価は、学生の所属回生等とはまったく無関係に厳密に行うことを徹底しているので、留意されたい。出席はとらないが、確実に出席をして授業内容を確実に把握し、課題をこなしていかないと、C評価を得ることも難しい可能性が高い。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

授業はパワーポイントを使いながら行う。資料はウェブCTで配布するほか、教室でも可能な限り配布する(欠席して資料を入手できなかった場合は、ウェブCTをまずみる)。なお、著作権の関係で教室でしか配布できない資料もあるので注意されたい。また、原則として欠席した場合の資料は後日配布しないので、各自他の受講生に依頼するなどして入手すること。

授業は基本的に教員のプレゼンと問題提起、受講生の討議ないしワーク、さらには可能であれば事前に与えた課題をもとにグループ・ワークを行う。積極的な参加を望む。

全体として広く浅くではなく、応用のきく基本的な事項を確実に理解することを主眼として授業を運営する。

教科書 / Textbooks

書名 / Title

医療財源論 : ヨーロッパの選択

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

エリアス・モシアロス [ほか] 編著 / 光生館 / ヨーロッパ各国の医療財政制度を分析した図書であり、各国の概要をつかむのによい。

医療問題 第3版

池上直己著 / 日本経済新聞社 / 日経文庫。大づかみに日本の医療制度を理解し、その背景にある考え方を知るのによい。

上記の2冊を直接授業で用いるのではないが、授業の内容とかなり重なりあっている内容を含んでいる図書として、教科書として指定する。

参考書 / Reference Books書名 / Title

医療制度改革の国際比較 (講座 医療経済・政策学 第6巻)

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

田中滋・二本立編 / 勁草書房 /

世界の医療制度改革 : 質の良い効率的な医療システムに向けて

OECD編 / 明石書店 / OECDの最近の議論のまとめ

医療の質国際指標 : OECD医療の質指標プロジェクト報告書

OECD編著 / OECD編著 / 資料

入門医療経済学 : 「いのち」と効率の両立を求めて

真野俊樹著 / 中央公論新社 / 中公新書

入門 医療経済学

柿原 浩明 / 日本評論社 /

国際的視点から学ぶ医療経済学入門

B.マックペイク, L.クマラナヤケ, C.ノルマンド著 / 東京大学出版会 / ややハイレベル

Comparative health policy

Robert H. Blank and Viola Burau / Basingstoke : Palgrave Macmillan / 最近の英語圏の教科書

An introduction to health : policy, planning and financing

Brian Abel-Smith / London : Longman / 058223865X / 古典的名著

詳しい参照文献は別途指示します。最近の比較分析は、Health Affairs (<http://www.healthaffairs.org/>)にしばしば掲載されますが、残念ながらまだ立命館では利用できませんので、内容の紹介を可能な範囲でしていきます。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員のウェブを参照。

<http://plaza.umin.ac.jp/~ihpo/cgi-bin/wiki/wiki.cgi>

国際的には、WHO, UNAIDS, UNDP, EU, 世界銀行, OECDなどの国際機関、各種の研究機関、NGOなど多数あります。

国内では、外務省, JICA, 関係学会など、これも多数あります。

これらの詳細については、授業で紹介します。

その他 / Others

子どもとスポーツ S

20321

担当者名 / Instructor 石田 智巳

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

この科目は、子ども社会専攻の「子どもと現代社会領域」科目群に位置づく科目です。

スポーツはそれぞれの時代にそれぞれの地域によって楽しみ方を変えてきた。にもかかわらず、学校ではバスケットボール(アメリカ)、サッカー(イギリス)、剣道(日本)などを教材として指導するが、それぞれにどのような人間形成機能を持たせようとしているのかは不明であることが多い。一方で、スポーツには、特待生や留学生の問題、ボクシングの親子問題、相撲部屋問題、ドーピングなどネガティブな側面もあるし、子どもに勝利至上主義的な価値観を植え付ける機能も果たしている。そこで本授業では、近代スポーツの基礎的な知識を学ぶとともに、今日的な問題を題材にして、子どもとスポーツの関係、特にスポーツと人間形成について考えていく。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツは歴史的社会的な文化であるが、その意味すら忘れ去られてスポーツを享受しているのが現状である。サッカーの試合時間は0からスタートするのに、バスケットではなぜ0へと向かう(カウントダウン)のか、オフサイドは何のためにあるのか、なぜラグビーは両校優勝なのか、これらはスポーツの風土と関係が深い。そこで、これらのことに触れながら、スポーツを子どもに教えることやスポーツと子どもの関係を再考できる力を養う。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーションと遊戯論	
2	遊戯からスポーツへ	スポーツを定義してみる
3	映画「炎のランナー」鑑賞	
4	映画「炎のランナー」鑑賞Ⅱ ミニレポートの作成	
5	「巨人軍は紳士たれ」は間違い!?	アマチュアスポーツとプロスポーツ
6	「ボールの授業」	スポーツの出自と特徴を考える
7	スポーツの風土Ⅰ	イギリス的男らしさ
8	スポーツの風土Ⅱ	アメリカ的合理性
9	スポーツの風土Ⅲ	日本人の勝負観の過去と現在
10	部活動を考えるⅠ	野球留学, 外国人留学生問題から
11	部活動を考えるⅡ	民主的な部活動運営の実例
12	道徳教材「星野君の二るい打」	子どもの集団観の日米比較
13	スポーツ(メディア)リテラシーを鍛える	スポーツ中継より
14	子どもをスポーツの創造者へ	スポーツと人間形成の可能性
15	授業のまとめ	これまでに提出されたレポートの確認と講評

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

テレビ、新聞などで流れるスポーツ情報を自分なりに読み解く訓練を行うこと。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	60 %	子どもとスポーツを巡る問題点を読み解き、スポーツによる人間形成の可能性について問う。
平常点(日常的)	40 %	出席、感想文、ミニレポートの点を加味して総合的に評価する。

やむを得ない事情によりミニレポート作成日に出席できない場合は、相談に応じます。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特定の教科書は用いない。資料を適宜配布する。

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

子どもとメディア S

15588

担当者名 / Instructor 浪田 陽子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

現代の子どもは、テレビやラジオ・新聞・雑誌・映画といった従来のメディアのほか、ゲームやインターネットなどのデジタル・メディアに囲まれて育っている。本講義では、子どもとメディアのかかわりについて、社会・教育・心理学的見地から考察する。

到達目標 / Attainment Objectives

- ・「メディアが子どもの日常生活においてどのような役割を果たしているのか」、「子どもはメディアをどのように理解し使用しているのか」、「メディアが子どもの成長にどのような影響を与えるのか」、といったメディアと子どもについての基本的な事柄について理解する。
- ・子どもにメディアを教えるにあたり、メディア・リテラシーの基本的な概念や教育の実践についての基礎的な知識を身につける。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	総括的導入講義 (授業の進め方)、メディアとは何か	
第2回目	子どものメディア環境(1) 子ども時代の変化	
第3回目	子どものメディア環境(2) 子どものメディア利用実態	
第4回目	子どもの発育、行動、モラル形成とメディア	
第5回目	子どもとポピュラー・カルチャー	
第6回目	メディアと暴力	
第7回目	メディアとジェンダー: 女の子らしさ・男の子らしさ	
第8回目	消費者としての子ども(1)	
第9回目	消費者としての子ども(2)	
第10回目	デジタル時代の子ども: インターネットと子どものメディア発信	
第11回目	子どもの権利とメディア	
第12回目	子どもにメディアを教える(1) メディア・リテラシーとは何か	
第13回目	子どもにメディアを教える(2) メディア・リテラシーの基本概念	
第14回目	子どもにメディアを教える(3) メディア・リテラシー教育の実践	
第15回目	検証テスト(60分)と解説(30分)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

日常生活において、自分が使うメディアや子供向けのメディアに常に注意を払い、本講義の目的を体して意識的にメディアを観察すること。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(検証テスト)	40 %	第15回の最終回の授業で、それまでの授業内容の理解度とそれを踏まえて自分の考えを記述できるかどうかを確認する検証テストを実施する。
平常点(日常的)	60 %	授業中に毎回A4用紙一枚程度のコミュニケーションペーパーを課す。内容はメディア分析や小レポートなど。0～5点で評価する。単に出席しただけでは点数がつかないので注意。

・授業の内容をよく理解した上で、メディア分析や授業内課題に積極的に取り組むことが望まれる。コミュニケーション・ペーパーはその出来によって評価し、点数をつける。

・毎回QRコードシールを持参すること。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

- ・講義だけではなく、子ども向けのメディアを分析したり自分なりの考察を深めるなど、受講者の積極的な参加が必要とされる授業である。
- ・初回に授業の進め方、試験、評価方法などの詳細な説明とともにアンケートも行うので、第1回目から必ず出席すること。
- ・遅刻は他の受講者の迷惑になるので厳しく対処する。レジュメや資料等も授業開始から30分以降は一切配布しないので注意してほしい(病欠ややむを得ない事情を除く)。

教科書 / Textbooks

教科書は特に指定しない。必要に応じて授業中にレジュメと参考文献リストを配る。

参考書 / Reference Books

書名 / Title出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

メディアと人間の発達 - テレビ、テレビゲーム、インターネット、そしてロボットの心理的影響

坂元章編 / 学文社 / 4762012629 /

Children, adolescents, & the media

Victor C. Strasburger & Barbara J. Wilson / Sage Publications / 0761921257 /

メディア・リテラシーへの招待

国立教育政策研究所編 / 東洋館出版社 / 4491019487 /

メディア・リテラシーを伸ばす国語の授業 小学校編

児童言語研究会編 / 一光社 / 4752810514 /

その他、適宜授業中に紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

The International Clearing House on Children, Youth, & Media <http://www.nordicom.gu.se/clearinghouse.php>

FCTメディア・リテラシー研究所 <http://www.mlpj.org/index.shtml>

その他 / Others

子どもと学習活動 S

20334

担当者名 / Instructor 岩下 修

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

【本科目は、小学校教諭一種免許状課程の必修科目です】

現在の子ども の 状況、教育現場の状況を学びながら、現場で役に立つ具体的な授業の方法、子どもの学習活動の指導方法を、実践的、体験的に身につける。

本授業は、知識・技法の一方向的な伝達ではなく、授業を受ける者が、参加し発信できる形をとる。本授業を体験することにより、現場に必要な授業力を実践的に、体験的に身につけることができる。15回の授業すべてへの参加を前提に計画を立てた。授業参加者の実態を見ながら、変更、修正をしていくことになる。

到達目標 / Attainment Objectives

- ①教師として必要な指導技法の基礎・基本を体験的に理解し身につける。
- ②実際に模擬授業をすることを通して、授業力の基礎を身につける。
- ③①②を通して、現代の子ども像、あるべき教師像、必要な授業思想を構築する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーション	教師という仕事 教師の技法とは 子どもの現状 記録の書き方
2	授業を成立させるための基礎技能1	全員を参加させる技法
3	授業を成立させるための基礎技能2	子どもを動かす言葉の原則
4	授業を成立させるための基礎技能3	子どもを動かす言葉を作る
5	授業を成立させるための基礎技能4	発問・指示を作る
6	授業を成立させるための基礎技能5	身体技法 まなざし うなずき 時間感覚
7	教材の開発と教材の解釈	指導要領 教科書 教材の開発
8	「表現」活動のある授業	表現を求める子ども達 音読・朗読の指導技法 教師に必要な言葉力
9	教育機器の授業への活用	授業の効率化・濃密化に向けて
10	学級経営の技法	学級経営とは 学級経営の原則
11	自学の方法	宿題から自学へ 家庭でもできる知的作業
12	授業作り演習	学習指導案とは 授業の構想
13	授業づくり演習	授業作りの実際 教師になって模擬授業する
14	授業づくり演習	教師になって模擬授業する
15	教師として生きる	追記 記録の書き方 研究授業 教育の再生に向けて

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	30 %	・与えられたテーマに対する知識、論理的思考力、創造力の有無
平常点(日常的)	70 %	・毎時の授業での「学び」の記録に見られる意欲・思考力、創造力の有無 ・作成された指導案等の資料の内容の質

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
AせたいならBと言え	岩下修/明治図書/4-18-915719-8/すべての教師の必読書と言われている
自学のシステムづくり	岩下修/明治図書/4-18-29082-3/現在行われている自学システムの原点になった著
国語の授業力を劇的に高めるとっておきの技法 30	岩下修/明治図書/4-18-305211-4/岩下の最新刊、現場教師によく読まれている
学ぶからだを育てる	岩下修/明治図書/4-18-507917-6/今の子ども達にいかにか表現が大切かを述べる

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

子どもと教育の歴史 S

15574

担当者名 / Instructor 四方 利明

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

【本科目は、小学校教諭一種免許状課程の必修科目です】

今日「教育問題」は、マスコミに報道されない日がないほどに、社会の大きな関心事となっている。また、そうした「教育問題」への対処として、「教育改革」が矢継ぎ早に提起され続けている。だが、はたして「教育問題」として語られているものは、本当にそのように「問題」であり、「教育改革」を必要とする「問題」なのであろうか。本講義では、歴史的なアプローチによって、世間に流布されている「教育問題」「教育改革」という「常識」的な教育言説を相対化し、学校や教育を考える際に多様で確かな見方ができるようになることを目指す。

到達目標 / Attainment Objectives

歴史的な視点でもって、学校や教育について考えることができるようになる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーション	
2	ことばと学校教育(1)	単線型/複線型、戦後教育改革
3	ことばと学校教育(2)	近代、国民国家、国語
4	学校建築史(1)	一斉教授、一望監視装置
5	学校建築史(2)	寺子屋、郷学、藩校、私塾
6	学校建築史(3)	学制、国民皆学、擬洋風校舎、北側片廊下
7	学校建築史(4)	オープン・スペース・スクール、学校施設の複合化、開かれた学校、学校と地域社会
8	学校のモノの歴史と現在(1)	制服
9	学校のモノの歴史と現在(2)	教科書
10	学校のモノの歴史と現在(3)	給食
11	学校のモノの歴史と現在(4)	内申書
12	学校のモノの歴史と現在(5)	保健室
13	学校のモノの歴史と現在(6)	図書室
14	学校のモノの歴史と現在(7)	飼育動物
15	まとめ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

教育史の通史については、尾崎ムゲン『日本の教育改革』中公新書等によって各自で年表を作成して学習し、大まかな流れをおさえておくと、本講義の理解に役立つはずである。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind 割合 / Percentage 評価基準等 / Grading Criteria etc.

レポート試験 100% 到達目標にのっとり、まとまったレポートが作成されているかどうか。

本講義では、後半はグループ研究発表を取り入れる。授業中にグループ研究発表を行ったか否かによって、レポートの枚数や課題が大幅に変わるので、注意されたい。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

本講義では、前半は担当教員から講義を行い、後半はグループ研究発表を取り入れるので、主体的かつ積極的な参加を求める。そのような参加ができない学生は、グループ研究発表ではなく、レポートによって単位を取得すること。

教科書 / Textbooks

書名 / Title 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
なし。 / / /

参考書 / Reference Books

書名 / Title 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
新訂 教育の歴史 佐藤秀夫/放送大学教育振興会 / /
学校のモノ語り 教育解放研究会/東方出版 / /
学校ことはじめ事典 佐藤秀夫/小学館 / /

学校教育うらおもて事典 佐藤秀夫／小学館／／

戦後公教育の成立 小山静子・菅井鳳展・山口和宏／世織書房／／

日本の教育改革 尾崎ムゲン／中央公論社／／

教育の文化史 佐藤秀夫／阿吽社／／全4巻

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

子どもと社会 S

11355

担当者名 / Instructor 中山 一樹

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

子どもはみずから世界を立ち上げようとするとき、さまざまな関係に出会う。子どもと社会という時の「社会」とは、そうした関係の総体をさす。関係は、定位家族との垂直方向の関係に始まり、同輩や集団との交わり(水平方向)へと展開する。その中で一般的な他者からなる社会を知り、自己像を獲得する。この意味で、外的関係構築への模索と内的世界の変容は分離したものではなく、世界像獲得へのひと続きの過程である。本講義では、こうした過程を子どもたちの具体的な問題や課題を読み解くかたちで展開してゆく。

到達目標 / Attainment Objectives

この講義は、
 1 教職をはじめとする子どもへの関わりや支援の仕事への序説として、
 2 そのような仕事を志望する動機が何に由来するのかを確認する場として、
 3 さらに、自分の好きなこと、したいことを模索する(80年代の言い方では自分探し)に行き暮れてひと休みしようとする学生を念頭においている。
 したがって、本講のねらいは、子どもの世界立ち上げの姿を知ると同時に、受講生が、みずからの世界を、子どもから現在にいたる遍歴に重ねて理解するところにある。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	開講にあたって いつ子どもは子どもでなくなるのか	社会的カテゴリーとしての大人と子ども
第2回目	現代の子どものすがた―事件から読み解く関係の質	関係性
第3回目	子ども世界のマイクロポリティクスと個人の歴史	生育史
第4回目	依存と親密な関係―存在の承認	承認関係
第5回	他者像の変遷―垂直関係からの離脱の問題	近代家族 親子カプセル
第6回	交わりと対象関係	外的対象 内的対象
第7回	子どもの世界の政治学―異質性の担保と同等な世界の展望	仲間 学級
第8回	公共性としての社会との出会い	公共空間 一般的他者
第9回	子ども社会専攻の展開科目と領域の説明1	中間まとめとディスカッション
第10回	学校的価値とその対抗文化	学校文化 若者文化
第11回	消費文化世界における自分イメージ―消費し消費される自分	消費文化
第12回	社会への過剰適応と自分の奪還	過剰適応
第13回	一般的他者の発見と世界像の確定	社会化の過程
第14回	子ども社会専攻の展開科目と領域の説明2	子ども社会専攻での学びについてのディスカッション
第15回	本講の整理とレポートの講評	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	60 %	数回にわたるレポート論述を通して知識が身についているかを確認し、さらに受講生自身の能動的な理解の程度を確認する。
平常点(日常的)	40 %	基本的な概念の理解を、発言などによってその都度確認する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
子どもの自分くずしと自分づくり	竹内常一 / 東京大学出版会 /

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

子どもと地球環境 S

20325

担当者名 / Instructor 山口 歩

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「地球環境問題」がもたらす明確な「ダメージ」は、今すぐというより近未来社会において出現する。ゆえにこの問題解決は、我々の子どもたち(子孫)の生存権にかかわる課題であり、福利厚生課題なのである。環境問題は、なにか特定の「有害物質」を締め出せば解決するものではない。「問題」には、今日のモノの生産と消費のありかた、そのスピードなどが関わっている。言葉をかえると現行の「富」の追及のありかたを見直すことなしには、問題は解決しない。

本講義では、まず地球環境問題が帰結する未来イメージを正確に伝え、それを回避する処方箋について考えていく。繰り返しになるが、根本的解決のためには、「現行の生活スタイル」そのものの改変が求められている。それは、市民(消費者)側から見たら、「住の問題」や「食生活の問題」であり、「ショッピング(流通)」や交通の問題でもある。こうした「あたりまえにくりかえされている」営為のオルタナティブを構想するのが本講義の主眼である。

到達目標 / Attainment Objectives

- ① IPCCの提起を理解し、きたるダメージを軽減する根本的対策について考察できるようになること。
- ② 言葉としての「対策」ではなく、身近な「実践的課題」を考察できるようになること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	はじめに 地球環境問題概論	地球環境問題
第2回	地球環境問題の「原因と結果」IPCC報告に学ぶ	IPCCレポート
第3回	地球史、自然史を概観する	地球の年齢 進化
第4回	エネルギー問題を考える 1 電力問題概観	エネルギー政策 ロードカーブ
第5回	エネルギー問題を考える 2 家庭で電力を生産する(太陽光 コジェネ)	太陽光発電 コジェネレーション 小型分散電力
第6回	エネルギー問題を考える 3 原子力の負の遺産	原子力発電 放射性廃棄物 世代間の不公平
第7回	エネルギー問題を考える 4 消費削減の課題	省エネ 低エネルギー社会
第8回	食生活を考える 1 遺伝子組み換え作物の安全性	遺伝子組み換え技術
第9回	食生活を考える 2 外食産業の発展と生活の変容	ファストフード
第10回	消費生活を考える 1 揺れ動く「ショッピング形態」	コンビニ 郊外型大店舗 ネットショップ
第11回	消費生活を考える 2 電化製品の「発展」	PSE法 家電リサイクル法 デジタル化
第12回	生活空間を考える 1 公園の未来	公園 アミューズメントパーク
第13回	生活空間を考える 2 交通体系の再編	LRT
第14回	生活空間を考える 3 私の住みたい街	まちづくり
第15回	まとめ 環境問題解決にむけての生活スタイル	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

特になし

教科書 / Textbooks

テキストはなし。毎回レジュメ、参考資料を配布する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『エネルギーと私たちの社会』	J.S.ノルゴウ、B.L.クリステンセン / 新評論 / ISBN4-7948-0559-4 /
適宜紹介する	

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

適宜紹介する

その他 / Others

特になし

子どもと遊び S

20332

担当者名 / Instructor 笹野 恵理子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

この科目は、子ども社会専攻の専門展開科目「子どもと現代社会領域」科目群に位置づく科目です。子どもにとって遊びとは何か、遊びを切り口にして、子ども文化・子ども社会について考えます。

到達目標 / Attainment Objectives

子どもにとって遊びとは何か、遊びと子ども文化/子ども社会の関連を自分の問題意識をもって考え、論理的に自分の考えを述べるができる。
子どもの遊びをとらえて、子ども社会についての問題意識や考えを深めることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特にありません。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	イントロダクション	
2	子どもにとって遊びとは何か(1)	「遊び」とは何か
3	子どもにとって遊びとは何か(2)	子どもの社会と文化をどうとらえるか
4	子どもの遊びをどう理解するか	
5	子どもの社会的発達と仲間集団	
6	子どもの遊び環境	
7	子どものライフスタイル	
8	子どもの放課後を考える	
9	教室の中の流行	
10	ケータイ文化を考える	
11	マンガ文化を考える	
12	日本の子どもの伝承遊びを考える	
13	世界の子どもの遊び	
14	大人は子どもの遊びにどうかかわり得るのか	
15	総括-子どもの遊び文化のもつ意味とは何か	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

フィールドワークをしていただくことがあります(受講生数によって未定)。またグループでプレゼンテーションをしていただくことがあります。詳細は受講生数が決定した時点で、適宜授業時に指示します。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	40 %	これまでの講義内容、他者の発表やディスカッションなどを踏まえて、自分なりの問題意識をもって論理的に自分の考えを述べるができるかをみる。
平常点(日常的)	60 %	出席、ミニレポート、グループのプレゼンテーション、ディスカッションへの参加意欲・態度など、総合的に評価する。

出席は3分の2以上を要します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

日常での生活の中で自分なりに課題意識をもって考えてみてください。

教科書 / Textbooks

必要に応じてレジュメを配布します。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
子どもの「遊び」は魔法の授業	キャシー・ハーシュゼック他/アスペクト/4-7572-1284-4/
子どもの発達とあそびの指導	勅使千鶴/ひとなる書房/4-89464-031-7/
いま、子ども社会に何がおこっているか	日本子ども社会学会編/北大路書房/4-7628-2147-0/
いま子どもの放課後はどうなっているのか	深谷昌志他編/北大路書房/4-7628-2506-9/

「遊び」の探究	小川博久／生活ジャーナル／4-88259-080-8／
昭和の子ども生活史	深谷昌志／黎明書房／4654090096／
子ども世界の遊びと流行	深谷昌志・深谷和子編著／大日本図書／4-477-12160-1／
忍者にであった子どもたち	加用文男／ミネルヴァ書房／4623024563／

参考図書は授業時に適宜紹介します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

子どもの理解と指導 S

20343

担当者名 / Instructor 中山 一樹

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

【本科目は、小学校教諭一種免許状課程の必修科目です】

初等教育課程における子どもとの関係づくりの基礎的課題を検討します。

子どもという存在は単独の存在ではありません。小学校入学までに出会う保護者、養育者、同胞関係、遊び仲間などとの関係を基本にして、子どもたちは学校という公共的な世界に出会います。これは親子関係を基本とする関係とはちがひ、他者と出会いながらそれらと自分との関係を作り直す関係にあります。つまり社会的自己を形成するのです。教師はこれらの過程において出会う他者であり、子どもからみれば公共的世界の大人として映るのです。子どもについての理解や指導は、こうした子どもの体験する世界を前提として成り立ちます。定型化された理解や指導をあてはめることではありません。

このようなねらいから、本講義では受講生一人ひとりの思考や表現(発言や報告)を求めながら、生きた知識を蓄積させてゆきます。

到達目標 / Attainment Objectives

- ・子どもという歴史的カテゴリーについての理解を身につける。
- ・受講生の被教育体験を対象化することができる。
- ・日常世界における子どもの表出行為を理解しようとすることができる。
- ・初等教育における学びの意義を再確認することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	講義概要 定位家族のなかの子どもたち	定位家族
2	学校に登場する子どもたち	近代家族の産育構造
3	履修生の学校体験の記憶	被教育体験 学校文化
4	自他未分の世界の意味へ依存、甘え、迷惑、おびえへ	前思春期の世界 退行と再接近
5	水平関係の構築への模索と自分たちの世界	親密な友だち
6	履修生の仲間体験の記憶	自他の成立 他者
7	児童期から前思春期への移行と葛藤	学校文化への適応と不適応
8	中間まとめとディスカッション	
9	「家族・学校・消費文化 世界」におけるわたし	人格的統合
10	パターナリズムから社会的シティズンシップへ	社会的存在 再生産の公共性
11	知識と技能を教え伝える過程とその意義	教育の社会的意義
12	初等教育のレリバンズと公共的支援	教育機会の拡大 普通教育
13	学校という公共的な世界の接触と葛藤	階層化社会の再生産構造
14	履修生の公共的な世界の接触と葛藤	社会的存在としての教師
15	総括的まとめと報告・レポートの講評	被教育体験からの離脱

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	60 %	数度のレポートの論述によって、子どもの多様な姿を肯定できるために、基本的概念が受講生の身についているかを確認する。
平常点(日常的)	40 %	受講生の内発的な参加を確認する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
子どもの自分くずしと自分づくり	竹内常一 / 東京大学出版会 / /
各回の講義でレジュメを配付する。また、資料と参考文献を適宜紹介する。	

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

コミュニケーション政策論 S

15458

担当者名 / Instructor 日高 勝之

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

メディア、コミュニケーションの政策を学ぶことは、メディアをめぐる責任、モラル、約束事(convention)と商業主義などのイデオロギー、権利と権力、市民と政治などのせめぎあいを見つめ、そこから生まれる問題、ジレンマを批判的に考察することに他ならない。テレビニュース、新聞などのジャーナリズムを中心に、実例を大切にしながら学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

メディア、コミュニケーションの政策に関連する主要なテーマ、すなわちメディアをめぐる責任、モラル、約束事(convention)と商業主義などのイデオロギーなどのせめぎあいが抱える問題点を批判的に理解し、その上で各自の意見が言えるようになること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の概要と導入～国家とプロパガンダ～	ナチズム、ベルリン・オリンピック、大本営発表
第2回	コミュニケーション政策と政治の思惑～ユネスコ新世界情報秩序と商業主義の問題～	ユネスコ、マクブライド委員会、文化帝国主義、情報格差
第3回	EU統合、「国家のないテレビ政策」と加盟国アイデンティティ	欧州放送連合、ユーロビジョン・ソング・コンテスト、ナショナルイズム、リージョナリズム
第4回	公共放送制度と国家①イギリスBBCの制度と模索	公共放送、BBC、ライセンス・フィー、ナショナルイズム他
第5回	公共放送制度と国家②NHKと公共性を考える視座	公共放送、NHK、放送法、受信料他
第6回	ケーススタディ「21世紀の公共放送のモデルとは」	討論と授業内レポート
第7回	公平原則・不偏不党と選挙報道	許認可制度、放送法
第8回	記者クラブ・皇室報道・リーク	ニュース機関の組織構成
第9回	やらせの構造①～メディア・ルーティン：日本とイギリス～	請け負い、外部プロダクション
第10回	やらせの構造②映画「ニュースの天才」から	記者のルーティン
第11回	ニュースの偏向要因	組織内外レベルの偏向要因
第12回	報道のプライバシー～実名報道他～	少年法、犯罪報道
第13回	検閲と自己規制	
第14回	グローバル化時代の国家プレゼンスとメディア政策	韓国映画・政策
第15回	検証テストと解説	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

授業で学んだことの復習、応用を念頭に置いて、授業内に参考資料や、応用への取り組みなどを適宜紹介する。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	授業で学んだことに関連テーマについて、①その基礎的な理解が出来ているか、②その上で論理的かつ独自に批判的な思考がどの程度述べられているか。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

- ・受講人数にもよるが、テーマに応じたディスカッションを適宜実施することを考えているので、議論を通じての問題意識と批判力を鍛えて欲しい。
- ・本科目の性質上、時事的な問題を扱うことが多いので、シラバスの予定は開講以降に変更される場合や、授業外学習の指示のみに代替されることもありうる。
- ・私語は厳禁である。周囲の学生に迷惑になるような私語には厳しく対処する。

教科書 / Textbooks

テーマが多岐にわたるので、教科書は特に使用しない。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
ジャーナリズムの科学	門奈直樹 / 有斐閣選書 / 4-641-28046-0 /
メディアの法理と社会的責任	渡辺武達・松井茂記(責任編集) / ミネルヴァ書房 / 4-623-04073-9 /
メディア・リテラシー～媒体と情報の構造学	井上泰浩 / 日本評論社 / 4-535-58390-0 /
その他、必要に応じて授業内で適宜指示する。	

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

コミュニケーション理論 S

13025

担当者名 / Instructor 赤井 正二

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「コミュニケーション」は、さまざまな思いをこめることのできる多義的なキーワードになっています。ますますビジネス化する生活に潤いをもたらすものとして、金銭づくの人間関係から癒された精神へと救済する途として、さらには、国際社会のなかで生き残る手だてとして、「コミュニケーション」がひきあいだされます。しかしこうした日常的な使用とは別に「コミュニケーション」は現代の社会諸科学の共通のキーワードでもある。戦後の社会科学、つまり社会心理学、経済学、社会理論、情報理論などはそれぞれ「コミュニケーション」(コミュニケーションを意識的に排除することも含めて)を軸として新たな歩みをはじめたといえるし、これらはそれぞれが多義的な「コミュニケーション」の特殊な面を取り上げたものともいえます。

この講義では、「コミュニケーション」に関する考え方を軸として現代の4つの理論を順に検討して、4種の「コミュニケーション」イメージについて理解を深めます。

現代的なトピックスも利用するが、トピックスを軸とした構成でなく、考え方の基礎を正確に学ぶことを目標としているので、やや難解であることは承知してもらいたい。また確率論の初歩と対数に関する基礎知識は前提します。

到達目標 / Attainment Objectives

具体的な学習目標は、

主に、4種の「コミュニケーション」理論のそれぞれの意義と差異について理解し、「社会」と「コミュニケーション」との関係について混同しない多角的な視点を獲得することを目標とします。具体的には、第一に、基本的な事項の理解、第二に、講義内容に関連した問題について、講義を前提とし、独自の回答を組み立てる力を形成することです。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

基礎社会学

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	はじめに、「コミュニケーション」と社会科学、講義の概要	コミュニケーションについての多様な問題意識、コミュニケーション研究の4つのながれ
2	状況の力-同調圧力としてのコミュニケーション1-	社会心理学のいくつかの実験、K. レヴィンの「グループ・ダイナミクス」
3	同意への圧力-同調圧力としてのコミュニケーション2-	説得コミュニケーション、R. B. チャルディーニ『影響力の武器』、世論形成と説得
4	沈黙への圧力-同調圧力としてのコミュニケーション3-	ル・ボン『群集心理』、タルド『世論と公衆』、ノエル・ノイマン「沈黙の螺旋」
5	コミュニケーションと文化=コンテクスト	E. T. ホール「高コンテクスト文化」と「低コンテクスト文化」、コンテクストとコミュニケーション
6	その選択は損か得か-戦略としてのコミュニケーション1-	ゲーム理論の基本発想、フォン・ノイマン、J. ナッシュ
7	裏切りと協調のはざま-戦略としてのコミュニケーション2-	非協力ゲーム、社会学からの一つの批判、アクセルロッドの実験
8	説得と交渉-戦略としてのコミュニケーション3-	「交渉術」、「行動経済学」の試み
9	議論のトゥールミン・モデル-議論としてのコミュニケーション1-	主張、根拠、論拠、日常会話と「議論」
10	議論と市民社会-議論としてのコミュニケーション2-	J. ハーバーマス「理想的コミュニケーション」、「市民的公共圏」
11	秘密と公開-議論としてのコミュニケーション3-	コミュニケーションの場所としての都市、E. ゴフマン「市民的無関心」
12	不確実性と情報-通信としてのコミュニケーション1-	情報の量、不確実性、選択、C. E. シャノン
13	通信とコミュニケーション・システム-通信としてのコミュニケーション2-	通信路モデル、このモデルの広範な影響
14	場所とコミュニケーション-通信としてのコミュニケーション3-	時間と空間の圧縮、場所の意味をめぐる議論
15	全体まとめと補足、「文化とコミュニケーション」	コミュニケーションと状況・労働・暴力……、文化の越え方

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

講義は資料を掲載したレジメを使って進行します。レジメには重要な文献の紹介がありますので、レジメを参考にそれらの文献を実際に読むことが期待されます。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind 割合 / Percentage 評価基準等 / Grading Criteria etc.

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

私語は厳禁。

レジメは教室内でのみ配布します。

参考書のどれかを読めば、理解は格段に深まり、講義はより意義のあるものとなります。

教科書 / Textbooks

講義はレジメによって進行するので、教科書は使用しない。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『影響力の武器』	チャルディーニ / 誠信書房 / /
『囚人のジレンマ』	W. パウンドストーン / 青土社 / /
『テキストとコンテキスト』	J. ハーバーマス / 晃洋書房 / /
『文化を越えて』	E. T. ホール / TBSブリタニカ / /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

特になし

その他 / Others

特になし

担当者名 / Instructor 小川 栄二

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本講義では、近年注目されているコミュニティ・ケアについて、歴史、方法、政策と課題の各方面から概要を解説する。広くは地域福祉論の一環でもあるが、对人的「ケア」と地域での展開に焦点を置いて、ケアマネジメント、資源とネットワーク、地域に密着した課題を考察する。近年導入されたケアマネジメント、2006年から実施された、改正介護保険法、障害者自立支援法、2008年からスタート予定の後期高齢者医療制度も視野に入れる。

到達目標 / Attainment Objectives

「ケア」「コミュニティ」の概念の検討の上で、地域でのケアの必要とする人々が地域で暮らす上で持つ生活の困難性を理解する。「コミュニティケア」が政策的に登場した経過と背景を理解し、介護保険制度、障害者自立支援法などにおける地域ケアを検討する。地域からの住民の共同によるケアのありかたを、対人援助、地域活動、自治体の政策の各面から検討する

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

介護概論 地域福祉論

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の概要と導入／ケアをめぐる事件	
2	「コミュニティケア」と「ケア」の考え方	コミュニティ、地域、在宅、ネットワーク、共同、暮らし
3	「コミュニティケア」と「ケア」の考え方	看護・介護・社会福祉、ケアの思想
4	コミュニティケア政策の生成	グリフィス報告、コミュニティケア法、ケアマネジメント
5	コミュニティケア政策の日本での展開(1)1970年代～1980年代	コミュニティ政策、在宅福祉政策、社会的入院
6	コミュニティケア政策の日本での展開(2)1990年代	社会福祉基礎構造改革、介護保険制度、サービス制限、2006年改定、後期高齢者医療
7	ケアマネジメントの実際(1)介護保険制度の仕組み	保険、財源、要介護認定
8	ケアマネジメントの実際(2)ケアマネジメントの考え方	インテーク、アセスメント、ケアプラン、ケアパッケージ、モニタリング
9	ケアマネジメントの実際(3)介護保険制度下でのケアマネジメント	ケアプラン、区分支給限度額、介護報酬、地域ケア会議
10	障害者自立支援法と障害者ケア	支援費制度、自立支援法、見直し
11	障害者と地域生活——ゲストスピーカーによる現状紹介	
12	高齢者を地域で支える①「ケア」を必要とする高齢者・障害者・住民の状態	高齢者像、援助拒否、孤立、潜在化
13	高齢者を地域で支える②ゲストスピーカーによる地域活動	
14	コミュニティケアの課題	在宅、地域、共同
15	検証テスト	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	0 %	。
平常点(検証テスト)	80 %	検証テストを行う。コミュニティケアの政策と課題の理解を問う
平常点(日常的)	20 %	コミュニケーションペーパーなどにより問題関心の涵養をみる。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

受講生への学習に関するアドバイス / Educational advice for enrolled students

コミュニティケアと今日政策的焦点である小地域密着型の高齢者施策展開、障害者の地域支援活動に関心を払い、日常的に現実を把握するよう努めてください。

教科書 / Textbooks

指定しない。

参考書 / Reference Books

参考書は授業中に随時紹介します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

授業の概要 / Course Outline

この講義で言うところのコミュニティ・メディアは、地理的な範囲を中心とした地域コミュニティのメディアである。

大きな災害が起きるたびに、マス・メディアに登場する小規模なメディアがある。それが、地域メディアと言われる、ローカル新聞やコミュニティFMである。地域メディアは、その名の通りに地域に密着した情報を伝えるために存在している。われわれの生活はマス・メディアを中心に成立しているが、一定範囲の地域を意識し、その地域で生活する人びとを中心に成立しているメディアも確かに存在しているのだ。だが、先述のようにその存在が認識されるのは、大きな災害など特別な状況が起こったときに限られている。

また、われわれが学ぼうとしているメディアにはさまざまな存在理由があり、生まれてきた理由もある。メディアの歴史を学ぶとき、その存在理由はあまり問われることがない。1本の時間軸の上にトピックスとして並べられ、他の可能性や別の時間軸は無視される。特に、地域という一定の地理的範囲や人的なつながりのなかで生み出されたメディアの歴史は、その存在すら忘れられている。

それはなぜなのだろうか？この授業の基本的な関心は、常に疑問と共にある。なぜマスなメディアだけではダメなのだろうか？なぜ、地域コミュニティとメディアが強く結びつくのだろうか？なぜ、自らメディアを生み出そうとするのだろうか？自明と思われていることに改めて目を向け、それを確認し、分析し、理解をする。授業は、その繰り返しである。

到達目標 / Attainment Objectives

1. マス・メディア以外のメディアの存在を理解する。
2. コミュニティとメディアの関係を理解できる。
3. メディアの存在を自明とせず、さまざまな角度から観察できる。
4. コミュニティ・メディアにアクティブなアプローチができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

コア科目 (情報メディア学系用)
基礎社会学
メディア社会論
パブリックアクセス論

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	日常に偏在するコミュニティとメディア	コミュニティの地域性と共同性
2	コミュニティ・メディアの概観	コミュニティ・メディアとはどのようなメディアか
3	コミュニティ・メディア研究と調査1	どんな研究視点や方法があるのか
4	コミュニティ・メディア研究と調査2	コミュニティ・メディアと社会を巡る視点
5	コミュニティ・メディアと災害1	災害とメディア
6	コミュニティ・メディアと災害2	被災地とメディア
7	コミュニティ・メディアと災害3	災害と地域とメディアの関係性
8	コミュニティ・メディアを巡る議論(中間レポート)	コミュニティ・メディアの理想とは？
9	NPOコミュニティ・メディアからネットが作るコミュニティ・メディアまで	コミュニティ・メディアはどこへ行くのか？
10	メディアはなぜ、どのように生まれるのか	コミュニティが生み出すメディアという発想
11	メディアの進化？深化？	コミュニティ・メディアの独自性
12	メディアの独立と孤独	地方と中央を巡るメディアの闘い
13	歴史の中に消えるメディア	生活音としての親子ラジオ
14	多言語とコミュニティ・メディア	日本の中の世界、世界の中の日本
15	コミュニティ・メディアとは何か？	メディアは決して1つではない

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	70 %	客観問題と論述問題を併用
レポート試験	30 %	中間レポートとして実施。未提出の場合は原則として成績評価対象にならない。 中間レポートは内容によって5段階で評価し、評価に沿った点数(30~0)を割り当てる。

授業開始後30分経過した時点で、レジュメ、資料等の配布を中止する。以降は、一切再配布を行わないので、遅刻をしないように注意すること。

各回の授業予定は、最新のトピックスに合わせて変更する場合がある。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

<u>書名 / Title</u>	<u>出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment</u>
地域メディアを学ぶ人のために	田村紀雄篇 / 世界思想社 / /
「声」の有線メディア史	坂田謙司 / 世界思想社 / /
地域SNS最前線	庄司昌彦 / アスキー / /
コミュニティ・メディア	金山智子 / 慶応義塾大学出版部 / /
現代地域メディア論	田村紀雄・白水繁彦 / 日本評論社 / /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference**その他 / Others**

参加のデザイン論 S

15531

担当者名 / Instructor 乾 亨

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

もはや「参加」を思索・啓蒙する時代ではない。また、制度的・形式的に「参加」を論ずるだけでは不十分である。「参加」を個々人と社会との関わり方や共生の作法としてとらえ、参加の意味と必要性(あるいは必然性)を踏まえながら、実践のなかで「参加」の状況をデザインする態度と力が求められている。

本講義では、環境創造(まちづくり)活動における住民参加・住民主体の事例を紹介しつつ、「参加」の意味や成立要件、行政や住民の役割、公共とはなにか、などについて考えていく。あわせて、「参加型まちづくり」を展開するための手法についても学習する。

理論的アプローチではなく、スライドを活用しつつ事例をもとに考える。「政治参加」の制度論・政策論ではない。

到達目標 / Attainment Objectives

具体的事例を通して「参加」を概念化するとともに、参加の状況を創りだす(デザインする・マネージメントする)態度と技を学ぶ。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本講義のみで完結する内容ですが、前期におこなう「居住環境デザイン論」をあわせて受講することを期待します。より理解の幅が深まるはずす。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	「参加のデザイン」ってなに?	講義の目的と位置づけ
第2回	「参加」の事例を見て考えよう…パート1	コーポラティブハウジング(住み手参加の住まいづくり) ユーコートの事例を見る
第3回	「参加」の事例を見て考えよう…パート2	40年にわたり住民主体のまちづくりに取り組む真野地区の事例を見る
第4回	ユーコートを通して「参加」を考える その1	ユーコートの計画プロセスを追いながら「参加」の特性と成立要件を考える
第5回	ユーコートを通して「参加」を考える その2	
第6回	ユーコートを通して「参加」を考える その3	日本のコーポラティブハウジング
第7回	真野まちづくりを通して「参加」を考える その1	まちづくりのプロセスを追いながら、多様な主体が関わる「参加」の特性と成立要件を考える
第8回	真野まちづくりを通して「参加」を考える その2	
第9回	真野まちづくりを通して「参加」を考える その3	アクティブ参加とパッシブ参加(コミュニティのなかに居場所がある状況)
第10回	市民活動型まちづくりにおける「参加」	「私」からほどばしり出る「公」
第11回	市民と行政のパートナーシップ型まちづくり その1	近年の京都の事例を通して、参加における行政や専門家の役割を考える
第12回	市民と行政のパートナーシップ型まちづくり その2	
第13回	参加の手法を学ぶ その1	イキイキとした参加の状況を創る手法である「ワークショップ」の事例を学ぶ
第14回	参加の手法を学ぶ その2	ワークショップの進め方や考え方を学ぶ
第15回	まとめ	参加の哲学

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	100 %	基本的には提出された「試験レポート」の質で評価。それなりに厳しく採点します。
平常点(日常的)	20 %	適宜(数回/半期)、出席確認を兼ねて感想や質問を提出してもらい、出席率がいい人は「試験にかわるレポート」の評価に加点します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

事例を物語りその意味を考えてもらう問題提起型の講義なので、継続的出席を望みます。とりわけ第1週・第2週・第3週は問題提起編なので、必ず、絶対、万難を排して、出席のこと(本来講義は出席するものですからこの指示はヘンですが…笑)

教科書 / Textbooks

教科書は用いず、適宜レジュメを配布します。

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

産業デザイン論 S

13048

担当者名 / Instructor 要 真理子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

デザインは、単に、視覚的にも美しい、格好いいというだけでなく、私たちの思考や感情に働きかけ、ときに政治的な道具となることもある。この講義では、産業革命以後のおもにイギリスのデザインに注目し、文化的社会的コンテクストと照応させながら、デザインの機能とその可能性について考察する。

到達目標 / Attainment Objectives

- ・スライドで紹介した装飾品や建造物などのデザインの様式的特徴を理解し、視覚的に区別できる。
- ・デザインが近代の社会構造や産業の発展と密接なつながりをもっていることを理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

美術や産業に関する授業と併行して受講すると、いっそう理解が深まるでしょう。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	はじめに	
第2回	デザインの定義	構成要素と原理、形、色、素材
第3回	デザインと技術	古典古代、実用性
第4回	産業革命と機械生産	鉄、ガラス
第5回	ウィリアム・モリスの理論と活動(1)	コミュニティ、共同作業、理想の書物
第6回	ウィリアム・モリスの理論と活動(2)	コミュニティ、共同作業、理想の書物
第7回	アーツ・アンド・クラフツ運動(1)	生活のための芸術
第8回	アーツ・アンド・クラフツ運動(2)	生活のための芸術
第9回	唯美主義とアール・ヌーヴォー	芸術のための芸術
第10回	大衆社会と趣味の変質(1)	大量生産、多品種少量生産
第11回	大衆社会と趣味の変質(2)	複製、画一化、ファシズム
第12回	境界線の曖昧化	身体、認識、環境
第13回	デザインの可能性	人、コミュニケーション、関係
第14回	まとめ	
第15回	定期試験	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

授業内で紹介する作品を実際に展覧会に足を運んだり、あるいはカタログやDVDなどで確認するなど、進んで作品鑑賞を行ってほしい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	70 %	各回で取り上げた基本問題や語句について理解できているかどうかを評価する。
平常点(日常的)	30 %	小テストや授業態度を参考にする。

セメスターの途中で予告なしに小テストを行う場合がある。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

パワーポイントとテキストを併用する。授業中に紹介した作品については、そのデータをノートに書き留めておくこと。当然のことだが、私語・携帯メール等は慎んでほしい。場合によっては退室を求められることもある。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『ロジャー・フライの批評理論』	要真理子 / 東信堂 / 4887135890 / ヴィジョンとデザインについてより深く学びたい学生向け

その他の参考文献については、授業内で適宜紹介していく。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

20分を超えての遅刻、途中退室は原則として不可とする。

産業技術論 S

15524

担当者名 / Instructor 山口 歩

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

一国の生産技術のありかたは、その経済状況のみならず、生活水準や諸文化のスタイルにも大きな影響を与える。またそれ以上に、技術は今後の地球環境の変化の方向に決定的な影響を与える因子でもある。本講義では、生産技術が社会の諸事象にいかに関与しているのかを具体的に解きほぐし、またその発展過程を歴史的に解明していくことで、現代技術を批判的に捉える視点を示し、技術に関する問題の解決指針を与えていく。

それには、技術自身について理解すること以上に、それが社会の中でどのように機能しているか、役にたっているかについてのセンスを磨く必要があらわれる。技術を生活や社会の中に正確に位置づけ、その中から、スベックに感わされない本来の「技術と社会の発展」のありようについて考えていきたい。

到達目標 / Attainment Objectives

技術発展の指標について理解し、現今の技術を評価できるようになること

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

環境技術論を同時に履修していくことが望ましい(履修順序は問わない)

対象となる科学・技術についての説明に専門概念を使用することもあります。そうした事項については、その都度丁寧に説明いたします。受講に理系的知識を前提としてません。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	オリエンテーション 技術発展と社会発展	技術発展 社会発展
第2回	発明と普及の時間差について	蒸気船と帆船 動力と制御
第3回	大型化の利得について	スケールメリット 表面効果と体積効果
第4回	産業革命論1 道具と機械	道具と機械 産業革命
第5回	産業革命論2 大量生産社会	大量生産
第6回	工作機械論	工作機械 汎用と専用
第7回	フォーディズム 流れ作業	コンベア流れ生産 大量生産
第8回	フォーディズム2 テーラーシステム	テーラーシステム
第9回	ポストフォーディズム	リーン生産方式
第10回	日本的生産様式	FMS JIT
第11回	ロボット論	ロボット Rキューブ
第12回	半導体工業論	半導体 IC
第13回	エレクトロニクス製品の現状 1 楽器の問題	PCM デジタル
第14回	エレクトロニクス製品の現状 2 PC 通信技術	PC ケイタイ
第15回	全体まとめ 技術発展とは	技術発展

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

多数の本、視覚教材を随時紹介していきます

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	講義者の論理を正確に理解すること
なし		

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

1冊のテキストで学習できるものではありませんので、講義を聞き逃さないようにしてください。

教科書 / Textbooks

テキストはありません。随時レジュメ、参考資料を配布していきます。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『技術と労働』	大沼正則 / 岩波書店 / ISBN4-00-003662-9 c0336 /
『アメリカンシステムから大』	D.A.ハウシエル / 名古屋大学出版会 / ISBN4-8158-0350-1 /

上記以外にも参考書は多数に渡りますので、随時紹介し、また抜粋なども配布します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

適宜、講義などで紹介していきます。

その他 / Others

なし

産業社会学 S

15495

担当者名 / Instructor 木田 融男

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

産業社会学を「産業社会としてとらえられる現代社会の学」としつつ、主としてそこに生きる人々の生活スタイル(労働や生活をめぐる生き方)に焦点を絞り、生活スタイルの今まで、今日、そしてこれから、を見ていく。主として日本社会をあつかうが、大きく企業社会から新自由主義社会への変容を軸としつつ、雇用(不況)、女性、若もの／子どもなどをめぐる環境変化のなかで、日本人の生活スタイルおよび日本社会の今後の像を考えていきたい。

到達目標 / Attainment Objectives

現代社会およびそこに生き／働く日本人の生活スタイルを、理論的／実態的にとらえることを目標とする。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

コア科目(現代と社会)、基礎社会学

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1週 講義のオリエンテーション	産業社会学部	社会学
2週 本講義の産業社会学について	産業社会	産業社会学
3週 現代社会と生活スタイル1 現代社会論と日本社会の位置	企業社会	新自由主義社会
4週 現代社会と生活スタイル2 社会学理論と生活スタイル	生活空間／生活史	生活スタイル
5週 現代社会と生活スタイル3 社会学理論と生活スタイル2	本来的志向	手段的志向
6週 日本社会と生活スタイル1 日本人論、日本的集団主義論をめぐって	日本的集団主義	罪と恥
7週 日本社会と生活スタイル2 今までの生活スタイル：私生活志向と企業社会志向	私生活志向	企業社会志向
8週 日本社会と生活スタイル3 両方志向(狭い私生活志向と企業社会志向)をめぐって	両方志向	
9週 日本社会と生活スタイル4 企業社会の病理とその変容	生活優先社会	会社人間
10週 日本社会と日本人の諸層1 働く人々の環境変容	年功制／成果主義賃求	階層化

11週 日本社会と日本人の諸層 2 女性の社会的進出	M字カーブ	母性神話
12週 日本社会と日本人の諸層3 若もの／子どもの意識変容 付 フリーター／ニート現象	知と人間関係	ゆとり教育
13週 日本社会の変容と生活スタイル1 現代社会のこれから	第3の道	日本型新福祉社会
14週 日本社会の変容と生活スタイル 2 日本社会のこれからと新しい生活スタイル	新しい共同性(公共性)	自分たちの社会
15週 まとめ		

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

コメントを時には持って帰ってもらい、学んだ箇所の整理と認識、およびそれへの自らのコメントを考えてもらう。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	80 %	
平常点(日常的)	20 %	講義へのコメントをし、全体の成績によって評価に加味する場合がある

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

レジュメ・資料にもとづいて講義する。時々コメント(コミュニケーション・ペーパー)を出してもらい、講義へのあなたたちの思索を把握したり、講義の往復に使ったりする。このコメントは、評価に加味する場合もある。決まったテキストはない。講義のなかでレジュメ・資料を配布する。参考文献は、講義のなかでで紹介する。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
浪江巖・木田融男・守屋貴司編『変容する企業と社会—現代日本の再編—』八千代出版	///
渡辺治『企業社会・日本はどこへ行くのか』教育史料出版会	///
佐々木嬉代三・中川勝雄編『転換期の人間と社会』法律文化社	///
木田融男・佐々木嬉代三編『変貌する社会と文化』法律文化社	///

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

ジェンダーと教育 S

20344

担当者名 / Instructor 日野 玲子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

この講義では、近年、教育現象をとらえる視座として重要とされるようになった、ジェンダーの視点から、教育における制度的・文化的な捉えなおしを行うつもりである。ジェンダー概念を理解するとともに、教育を制度的・社会的事項との関連から検討して、教育に対する視野を広く持つような機会を提供したい。また、ジェンダー平等をすすめる教育について考える場として、ジェンダーに敏感な感性を養うとともに、教育課題として男女の対等な関係づくりや公正な社会について考えていきたい。

到達目標 / Attainment Objectives

ジェンダーの視点で教育を検討する力を身につける。
教科書・教育がつくられていることを見抜く力をつける。
男女平等教育の実践について興味関心をもつ。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

ジェンダー論を履修していることが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1講	授業の概要と導入——ジェンダーという考え方	
第2講	ジェンダー概念の理解——文化の力を知る	
第3講	暮らしをジェンダー・チェック	
第4講	言葉とジェンダー	
第5講	ジェンダーの視点でメディアを検討(1)	
第6講	ジェンダーの視点でメディアを検討(2)	
第7講	子どもたちのジェンダー意識の形成	
第8講	学校文化の検討——隠れたカリキュラムの視点	
第9講	教科書はつくられている	
第10講	教科書分析	
第11講	教室という場での相互作用	
第12講	男女平等教育のとりくみの検討(1)	
第13講	男女平等教育のとりくみの検討(2)	
第14講	非暴力のための教育とコミュニケーション能力	
第15講	教育とジェンダーの可能性	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

ジェンダーに敏感になって暮らしを検討してほしい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	70 %	
平常点(日常的)	30 %	中間レポート 授業時のミニレポート

評価対象は、授業回数3分の2以上の出席者のみ。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

テキストは使用しない。授業時に資料プリントを配布する。

参考書 / Reference Books

参考図書は授業時に紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

司法福祉論 S

15481

担当者名 / Instructor 野田 正人

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

司法福祉は、司法を通じて福祉課題を解決しようという営みであり、政策から臨床技術を含む。従来は少年非行問題を中心に研究が進んできたが、今日では福祉全般における法的手続きの課題が大きくなり、家族への介入や権利擁護などの分野でも必要とされるようになってきている。本講ではその流れを受けて、非行にとどまらない分野での取り組みに言及する。留意点として、司法福祉は法学的知識や心理学的知識が求められるものの、あくまで福祉分野の科目であることを認識して受講されたい

到達目標 / Attainment Objectives

司法福祉の分野を理解すると同時に、福祉課題解決のために司法が関与する余地の意義について学習する。非行・虐待・財産保全などに関して、司法活用の余地がある福祉課題であるという側面と、各事例がもつ福祉的側面を理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	司法福祉の概念と定義	
2	司法福祉の発見と発展	
3	司法手続の概要とシステム	
4	司法に関わる福祉課題(夫婦)	
5	司法に関わる福祉課題(親子)	
6	司法に関わる福祉課題(虐待)	
7	司法に関わる福祉課題(地域福祉権利擁護事業と成年後見)	
8	少年保護制度と少年法	
9	少年法と児童福祉法	
10	非行へのまなざし	
11	非行を見分けること	
12	非行を施設で克服すること	
13	非行を在宅で克服すること	
14	被害者を支えること	
15	司法福祉の今後とまとめ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

レポート課題としても取り上げる予定であるので、07年中の司法福祉に関する社会的事象(事件や制度制定など・特に少年法や児童虐待に関連するものなど)に関心を向けてください。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	70 %	
平常点(日常的)	30 %	講義中に要求する課題と小レポート

原則毎回コミュニケーションカードの記入を求める。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

受講期間中は、社会で生じる司法福祉上の課題に関心を持って、収集につとめてください

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
よくわかる司法福祉	村尾・廣井 / ミネルヴァ書房 / 4-623-04000-3 /
少年法・児童福祉法・児童虐待防止法・民法などいくつかの法令を参照するので、できれば小六法などを準備すること。	

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
犯罪白書	法務省 / / /

司法統計年報

最高裁///

家庭裁判月報

最高裁家庭局///

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

担当者名 / Instructor 山口 歩

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本講義は、ライフスタイルと環境負荷の関係を問うものである。

よく知られているように、温暖化をくいとめるために必要な二酸化炭素の削減量は、現状の約60%と伝えられる。この量は、現状の省エネやリサイクル活動を積み重ねることで達成できるレベルをはるかに超えているように思われる。これを問題設定の出発点とする。

この問題を根本的に解決していくには、現今の生活スタイルを劇的に転換していく必要がある。基本的にはエネルギー消費を劇的に減らすことであるが、それが可能となるライフスタイルについては、さまざまな選択肢がある。この講義では、現今の技術システム、ライフスタイルがどのような環境負荷をもたらしているのかについて概説し、オルタナティブなライフスタイルを模索していく。

到達目標 / Attainment Objectives

- 1 問題の概要(事実)をつかむこと
- 2 問題を処理する論理の概要をつかむこと

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

教養の現代環境論をとっていると理解の助けになる

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	導入 資源エネルギーの考え方	資源エネルギー
第2回	地球環境問題概説 1	温暖化
第3回	地球環境問題概観 2	公害論と地球環境問題
第4回	自然史の中の人間	進化 自然
第5回	資源とエネルギー1	エネルギー政策 電力発達史
第6回	資源とエネルギー2	化石燃料 資源寿命
第7回	原子力問題	原子力 放射能
第8回	再生可能エネルギー論1	風力発電 電力コスト
第9回	再生可能エネルギー2	太陽光発電 電力支援政策
第10回	交通体系とエネルギー消費	LRT
第11回	資源とリサイクル 1 概論	3R 消費生活
第12回	資源とリサイクル 2 石油とプラスチック	容器包装法 PET
第13回	資源とリサイクル 3 耐久消費財	家電リサイクル法 PSE法
第14回	資源とリサイクル 4 希少金属	タンタル
第15回	全体まとめ 日本の資源エネルギー政策	エネルギー政策

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

なし

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind 割合 / Percentage 評価基準等 / Grading Criteria etc.

定期試験(筆記) 100% 講義者の論理をよく理解すること

テキストがないので、欠席すると全体の流れがつかめなくなります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

なし

教科書 / Textbooks

テキストはありません。随時レジュメ、参考資料を配布します

参考書 / Reference Books

書名 / Title 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

『エネルギーと私たちの社会』 J.S.ノルゴー、B.L.クリステンセン / 新評論 / ISBN4-7948-0559-4 /

『新・地球環境論』 和田武 / 創元社 / ISBN4-422-40017-7 /

随時追加で紹介します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

講義中指示します。

その他 / Others

なし

担当者名 / Instructor 竹内 謙彰

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本授業では、児童期および青年期における発達の特徴について講述するとともに、そうした発達の特徴を生み出す諸要因について論じる。大まかには、認知発達の側面と対人関係的・感情的側面の両面から、発達の特徴について考察するとともに、統合的な観点としての人格発達についても触れる。児童期における発達にかかわっては、特に学校教育との関係ならびに社会的関係に焦点を当てる。また、青年期における発達にかかわっては、自立と依存という二つのモメントに揺れる心性に焦点を当てるとともに、特に現代的な青年心理の特徴についても考察を行いたい。あわせて、発達障害に触れるとともに、児童期・青年期における発達上の諸困難に関しても論じることとする。

到達目標 / Attainment Objectives

- ① 児童期・青年期の生活や発達の特徴に関心を深めるとともに、それらを捉える視点を獲得すること。
- ② 児童期ならびに青年期を中心とする心理発達上の諸特徴についての資料の読み取りや分析に習熟すること。
- ③ 児童期・青年期の発達に影響する諸条件についても基本的な知識を得るとともに、発達を捉えるための理論について知ること。
- ④ これら3点を基礎に、発達上の諸問題について一定の考察ができるようになること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

乳幼児心理学 S

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	「授業の概要と進め方について」及び「児童期・青年期の発達の時期区分と生涯発達上の位置づけ」	生涯発達, 発達段階, 歴史の中の児童・青年
第2回	幼児期から児童期への移行	リテラシー, 幼児教育, 学校教育
第3回	児童期前期の発達の特徴	学校適応, 具体的操作期
第4回	児童期後期の発達の特徴	集団生活, ギャング・エイジ
第5回	思春期とは何か	性的成熟, アドレッセント・スパート, ジェンダー
第6回	青年期の発達の特徴	自己理解, アイデンティティ
第7回	児童・青年における認知の発達	思考の発達, ピアジェ, 9~10歳の発達の節, 社会認識, 形式的操作期
第8回	児童・青年における感情の発達	共感性, 視点取得, 自尊感情, 怒りと感情制御
第9回	家族の中の児童・青年	家族関係, 親の機能, 依存と自立
第10回	学校の中の児童・青年	授業, 学力, 学校知, 進路選択
第11回	就職と労働	職業選択, キャリア・発達, 日本社会の産業構造
第12回	青年期と非行	薬物乱用, 性非行, 精神疾患
第13回	不登校と引きこもり	不登校, 引きこもり, 精神疾患, 社会的不適応
第14回	現代の児童・青年の生活と文化	依存, 自立, 個性, 生活時間, 生活空間, 文化
第15回	児童・青年を理解する方法	行動観察, 質問紙, 面接, 状況の理解, 関係の中での理解, 権利主体

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	70 %	授業において学んだ知識の獲得状況を評価するとともに、そうした知識を踏まえて児童期・青年期の問題について考察する能力を評価する。
平常点(日常的)	30 %	コミュニケーションペーパー(7~8回程度行う予定)により、講義に対する理解度や関与度を評価する。あわせて、講義中や講義後の質問、意見表明など、積極的アピールも評価に加える。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

WebCTに、授業用レジュメ(授業時に提示するパワーポイント画面のPDF版または、同内容のワード版)を掲載するので、参考にして欲しい。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
新 かたりあう青年心理学	心理科学研究会(編) / 青木書店 / 978-4250990090 / 問題意識を広げるために
児童心理学試論	心理科学研究会「児童心理学試論」編集委員会 / 三和書房 / 978-4783300298 / 問題意識を広げるために

上記以外にも、各授業時に参考となる書籍等については紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

児童・発達心理学 S

20346

担当者名 / Instructor 平沼 博将

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

【本科目は、小学校教諭一種免許状課程の必修科目です】

本講義では、児童期から思春期・青年期における子どもの発達の特徴と課題について概説する。また「小1プロブレム」、「学級崩壊」、「登校拒否・不登校」、「いじめ」、「特別支援教育」といった学校現場が抱える諸問題から、子どもたちの心にアプローチする。

到達目標 / Attainment Objectives

- ① 児童期から思春期・青年期に到る人間発達の道筋について理解する。
- ② 学校現場が抱えている「問題」の背景にある、子どもたちの心理について考える。
- ③ 小学校の教員として働き続けるために必要な知識と態度(心構え)を身につける。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	生涯発達における児童期のもつ意味	発達の時期区分、発達課題、生涯発達心理学
第2回	幼児期の子どもの生活と発達(1)	自我の誕生としつけ、幼児の内面世界、子どもの絵
第3回	幼児期の子どもの生活と発達(2)	自立と自律、自我と自己、自己肯定感の土台
第4回	児童期の子どもの発達と教育(1)―「学級崩壊」から見えてくるもの―	学級崩壊、発達要求、子どもと社会
第5回	児童期の子どもの発達と教育(2)―小1プロブレム―	小1プロブレム、幼保小連携、接続問題
第6回	児童期の子どもの発達と教育(3)―ぬうちを捉えるカー	価値を捉える力、保存概念、教科教育
第7回	児童期の子どもの生活と発達(1)―「あそび」とは何か?―	あそび、ギャングエイジ、仲間意識、社会性の発達
第8回	児童期の子どもの生活と発達(2)―学童保育で育つ子どもたち―	学童保育、放課後子どもプラン、指導員、放課後保障
第9回	思春期の子どもの発達と教育(1)―登校拒否・不登校と自己肯定感―	登校拒否、不登校、保健室登校、自己肯定感
第10回	思春期の子どもの発達と教育(2)―いじめはなくせるのか?―	いじめ、子どもと偏見、集団の心理
第11回	思春期の子どもの発達と教育(3)―社会的自立モデルと「13歳のハローワーク」―	社会的自立モデル、社会との出会い、職業選択
第12回	障害のある子どもの発達と教育(1)―発達障害について知る―	発達障害、学習障害、ADHD、アスペルガー障害
第13回	障害のある子どもの発達と教育(2)―特別支援教育の課題―	特別支援教育、養護学校、統合教育
第14回	まとめ	
第15回	定期試験	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	60 %	授業内容の理解度を測る試験を実施する。
平常点(日常的)	40 %	授業レポートを重視する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

児童福祉論 S § 児童福祉論 SG

10785

担当者名 / Instructor 野田 正人

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

児童福祉は、最近では「子ども家庭福祉」とも呼ばれ、社会福祉分野の重要な一領域である。特に子どもの権利を視野に入れ、子どもの福祉に関するさまざまな制度や施策を理解すると同時に、その実現のためのソーシャルワークをも理解することが必要である。そこで、子どもの権利について学んだ上で、児童福祉の展開に関して学び、中でも特に児童虐待や非行など、援助が困難な領域の基本を学ぶ場とする。

到達目標 / Attainment Objectives

社会福祉士の基本分野のひとつであり、児童に関する専門職としての基本を学ぶものである。児童虐待防止法の第1条にあるように、子どもの命とその人生、そして次世代までを視野にいれた援助を学ぶ科目である。本来通年でも不足するボリュームを半期で学ぶため、相当厳しい内容となり、例年相当数がFとなる。教養レベルではないのでこころして受講されたい。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	子ども家庭福祉の原理と子どもの権利の系譜	
2	子どもの権利の系譜	
3	子どもの権利条約	
4	日本の子どもの課題	
5	子ども家庭福祉の施策	
6	子ども家庭福祉の実施体制	
7	分野別の課題(子育て支援・保育)	
8	分野別の課題(健全育成)	
9	分野別の課題(自立支援)	
10	分野別の課題(児童虐待)	
11	分野別の課題(非行)	
12	子ども家庭福祉の専門職	
13	子ども家庭ソーシャルワーク	
14	子ども家庭福祉の課題	
15	子ども家庭福祉の今後	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	60 %	通常の試験として実施する。
レポート試験	20 %	講義中に指示し、回収日を指定するので、特に気をつけておくこと。
平常点(日常的)	20 %	コミュニケーションカードを求める。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

社会福祉発達史から、具体的な援助技術方法論まで言及するので、そのような領域の基本書を一度目を通しておくことをすすめる。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
子ども家庭福祉論	高橋重宏・才村純編著 / 建帛社 / 4-7679-3304-8 / 必ず必要である。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
子どもの権利と社会的子育て	許斐・望月・野田・桐野 / 信山社 / /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kodomo/index.html>
(厚労省子ども子育て支援)

担当者名 / Instructor 景井 充

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

例年通り、コミュニケーション・ペーパーを用いた双方向型講義を行う。本年度の講義では、社会学における日本社会論や「世間学」などを取り上げる予定である。そして考察の中心点は、日本社会の構造原理であり続けてきた「世間」の中に生きる我々の意識と経験の構造はどうなっているのか、である。そして、「世間」という社会編成の原理や、その中で我々の意識や経験が、それ自体我々の人間的可能性に対する阻害要因となっているのだとすれば、さて我々は何をなすべきなのか、について考えをめぐらしてみることとしたい。

到達目標 / Attainment Objectives

講義名からは心理学的内容を連想するかもしれないが、基本的には社会学的視点からの考察である。そして目指すは、社会学的視点から我々自身と日本社会を捉え返す批判的視点を獲得することである。そしてまた、そのような視点に立ちつつ、そこから見える社会的・個人的パースペクティブを言語化できるようになるための基礎的訓練の機会としたい。究極的には、社会学が目指す社会的・人間的オルタナティブの提起というものが具体的にいかなるものかを知ることを、到達目標とする。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「社会学理論」・「社会学史」・「社会倫理学」・「社会文化論」などの講義を履修していることが望ましい。自分の個人的な体験に寄りかからない次元の想像力や思考力を獲得するために、抽象的な思考の地平を経験してきて欲しい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	講義の主題、展開、手法についての概説、「予備コミュニケーション・ペーパー」(以下CPと記す)	「世間」と「社会」、世間学
2	「予備CP」へのレスポンス、日本社会の伝統的編成原理としての「世間」(1)	「世間」の構造
3	日本社会の伝統的編成原理としての「世間」(2)	「世間」の歴史①<平安期・鎌倉期>
4	日本社会の伝統的編成原理としての「世間」(3)	「世間」の歴史②<江戸文学>
5	日本社会の伝統的編成原理としての「世間」(4)	「世間」の歴史③<近代日本文学>、CP①
6	CP①へのレスポンス、小括	
7	「世間体」の構造(1)	「世間」の意味
8	「世間体」の構造(2)	「世間」観の変遷
9	「世間体」の構造(3)	「世間」とは何か
10	「世間体」の構造(4)―「世間」の社会心理①	恥と罪の意識
11	「世間体」の構造(5)―「世間」の社会心理②、CP②	笑いの文化
12	CP②へのレスポンス、小括	
13	「甘え」の構造(1)―「世間」の深層心理①	「甘え」現象とは何か
14	「甘え」の構造(2)―「世間」の深層心理②	「甘え」現象の次元
15	総括 ―「世間」と我々	脱「世間」は可能か

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	100 %	講義の内容を踏まえた上での、論理的な内容構成力と説得力を問う。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

2回生には少し難しい講義ではないかと思うので、3・4回生での履修を勧めるが、意欲的な2回生の履修はもちろん大歓迎。単位が欲しいだけの学生には無理。みずからの個人的・社会的・文化的経験を意識的に捉え返す、ある意味で厳しい時間になるはずである。そのような心と頭の準備をしてきてもらえればよろしからう。

教科書 / Textbooks

教科書として特定の著作を使うことはない。講義で使うテキストは、講義の展開に応じつつこちらでプリントして配布する。

参考書 / Reference Books

講義の中で適宜紹介する。紹介する諸著作の中から、各自にとって意義ありと思われるものを読んでもらいたい。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

質的調査論 S § 質的調査論 SG

15552

担当者名 / Instructor 斎藤 真緒

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本講義は、社会調査士プログラムの一環として今年度から開講される科目である。複雑化・多様化する現代社会において、人々の生活のリアリティに迫る手法として、質的調査が注目を集めている。本講義では、情報処理や計量社会学に含まれている量的調査との相互補完関係にある質的調査について、基本的な考え方、様々な種類の質的調査の方法とそれぞれの特性について学習する。同時に、受講生が自ら質的調査を実施する(グループ調査および個人調査)ことを通じて、質的調査についての理解をより実践的に深めることを目的とする。

到達目標 / Attainment Objectives

本講義では、質的調査の理論的・哲学的基礎を理解すると同時に、調査での実践力を培うことで、社会調査にかかわるスキルの向上を目指す。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

量的調査に関する基礎知識を前提として講義を進めるため、関連する社会調査士プログラム等(情報処理、計量社会学)を受講しておくことが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	質的調査入門	
第2回	質的調査と量的調査	帰納法、演繹法、リアリティ
第3回	質的調査の歴史	シカゴ学派、エスノメソロジー
第4回	インタビュー調査の計画	
第5回	「あたりまえ」を疑う社会学①	生の「固有性」 相互作用 役割演技
第6回	「あたりまえ」を疑う社会学②	実証主義 グラウンデッド・セオリー 対話的構築主義
第7回	「あたりまえ」を疑う社会学③	カテゴリー化 ドミナント・ストーリー オルタナティブ・ストーリー
第8回	「あたりまえ」を疑う社会学④	アクティヴ・インタビュー
第9回	トランスクリプションの作り方	トランスクリプション
第10回	ケーススタディ①	
第11回	ケーススタディ②	
第12回	インタビュー調査報告会①	
第13回	インタビュー調査報告会①	
第14回	質的調査のススメ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

講義外でインタビュー調査を行い、実践的・体験的に質的調査の手法を学ぶ。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	インタビュー調査のトランスクリプションおよびレポートの提出
平常点(日常的)	20 %	講義の最後にミニレポートの提出を課す場合がある。

本講義は、一方向的な講義ではなく、講義外の時間を用いた調査および講義での報告会を行う予定である。したがって常的な出席が難しい学生には適さない。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「あたりまえ」を疑う社会学—質的調査のセンス	好井裕明 / 光文社新書 / 9784334033439 /

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

社会ガバナンス論 S

15522

担当者名 / Instructor 太田 美帆

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

ガバナンス (governance) という言葉は、社会科学の様々な分野で、様々な意味で用いられています。この講義では政治・行政分野における「ガバナンス」を理論的、実証的に示します。

政治・行政の分野ではガバナンスは大きく分けて二つの意味で用いられています。一つは政策の形成過程・運営過程への関係者(住人、NPO、企業等)の参加、もう一つは行政組織の効率化の試みです。両者とも、従来の行政機構 (government) が時代のニーズを捉えきれていないことや、行政活動において資源が有効に使われていないことに対する不満から生まれました。

講義では、ガバメントが機能しない理由、ガバメントからガバナンスへの動き、ガバナンスとガバメントの補完関係などについて考えてゆきたいと思います。なお、具体的事例を取り入れながら講義を進めます。

到達目標 / Attainment Objectives

- ・ガバナンスの必要性を理解していること。
- ・ガバナンスのための仕組みを理解していること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特にありません。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	導入: ガバナンスとは何か?	社会ガバナンス、コーポレート・ガバナンス
第2回目	ガバメントとガバナンス	官僚制
第3-4回目	なぜ行政改革が必要なのか?	地方自治改革
第5回目	行政活動をシステムという視点から考える	ネットワーク、資源の交換
第6回目	政策ネットワーク	コーディネート
第7回目	政策ネットワークから見る家族政策の変化	日本型福祉
第8回目	政策決定過程の変容	多元主義
第9回目	小テスト	
第10-11回目	福祉提供の「バランスのとれた」役割分担へ向けて	政府の失敗、市場の失敗、ボランタリーセクターの失敗、福祉多元主義
第12-13回目	NPOの役割	社会サービス、財源、供給、規制・監視
第14回目	政府の役割の変化	財政援助方式
第15回目	まとめ: 福祉国家から福祉社会へ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

新聞、テレビ、インターネット上、日常生活の中に見え隠れしている「ガバナンス」の情報に注意しておいて下さい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	90 %	講義で取り上げた基本問題や概念について理解しているかどうか、また、それを自分の言葉で論じることができているかどうかを評価する。
平常点(日常的)	10 %	出席状況と小テストで判断する。小テストでは、講義内容の理解度を確認する。

原則として、期末試験に基づいて成績評価を行います。

日常点を加味することもあります。日常点はあくまでも補足資料です。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

日常生活とかかわらせながら、講義を聞いて下さい。

また、講義中に理解できなかったことは、早めに解決するようにして下さい。

教科書 / Textbooks

講義中に適宜、指示します。なお、講義ではレジュメを配布します。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
福祉国家のガバナンス	武智秀之 / ミネルヴァ書房 / 4-623-03772-X /
福祉社会: 社会政策とその考え方	武川正吾 / 有斐閣 / 4-641-12119-2 /
講義中に適宜、指示します。	

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

講義中に適宜、指示します。

その他 / Others

担当者名 / Instructor 清 真人

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

現代の日本の青年は社会にその積極的形成者として能動的にアンガージュマン(参与)することにきわめて強い懐疑と無力感をもっている。これは諸外国と比べても異常ともいえる無力感である。この事態をどう考えるかという問題を、「社会」意識と「私」意識とを適切に媒介する社会関与の「中間団体」的場の衰弱という点に的を絞り、西欧社会思想の伝統とも突き合わせながら考える。

この問題視点は、さらに「社会文化運動」の視点によって補完され強化される。今日のコミュニケーション関係の問題性を「私」意識の極度の孤立化形態の問題とつなげ、それに文化運動的に対抗する視点として「小さいけれど、別な空間のコミュニケーション的創出」という文化運動的課題を提起する。

なお話をたんに理論的議論の枠内にとどめず、現実に関心されているさまざまな実践を具体的に紹介しながら、問題を考えることにする。

到達目標 / Attainment Objectives

「社会」概念をめぐる社会科学的思想の伝統のアウトラインを基礎知識として身につけると同時に、それを今日の自分自身に適應して、今日の「社会」創造の生きた営みへの視点を獲得すること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	カフカの不安の構造と現代日本社会の社会意識	キーワード カフカの不安 不可視化される全体社会権力と孤立化された個人
第2回	「いじめ」のトラウマが社会意識のあり方へ及ぼす問題	キーワード 「いじめ」、「仲間」関係性の疎外形態と暴力
第3回	ルソーの問題提起とシェーラーの「差異価値」批判の論理	ルソーの「自己疎外論」のアクチュアリティと競争主義的心理構造
第4回	テーマ 和辻哲郎の受けたショックと発見と思索——「社会」をめぐる日本的伝統意識の問題性	キーワード 和辻哲郎 『風土』 「家」社会と「内と外」の論理 西欧的個人と市民的公共性
第5回	テーマ 阿部謹也の「世間」論からの問題提起	キーワード 阿部謹也 「世間」概念 「中間団体」論
第6回	テーマ ルース・ベネディクトの『菊と刀』の日本人論と「世間」の問題	キーワード ルース・ベネディクト 『菊と刀』 世間と恥の意識
第7回	チャップリン「モダンタイムズ」「独裁者」からの問題提起	キーワード チャップリン モダンタイムズ
第8回	「小さいけれど、別な空間」のコミュニケーション的創出という問題提起	キーワード 社会文化運動、転回点としての68年、「新しい社会運動」、アイデンティティ問題と複数主義
第9回	テーマ 「社会文化運動」の視点1——エーリッヒ・フロムの「社会心理学」の視点	キーワード 社会の内面化としての自我、「市場的構え」の問題性、新しいアイデンティティ意識
第10回	テーマ 「社会文化運動」の視点2——街とコミュニティ・カフェ	キーワード 「場」とコミュニケーション、ハーバーマス、公共圏とコミュニケーション、媒体としての芸術・文学・演劇
第11回	テーマ 「社会文化運動」の視点3——街と情報(南野佳代子さんの試み)	キーワード 「街を耕すこととしてのコミュニティ・ペーパー」
第12回	テーマ「社会文化運動」の視点4——街と在日外国人	キーワード 多文化共生とグローバリゼーション、生野の歴史、在日の歴史、複数主義的アイデンティティ
第13回	テーマ まとめ1	キーワード
第14回	テーマ まとめ2	キーワード
第15回	テーマ 試験(レポート)	キーワード

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

自分の住む町や郷里での草の根の市民からの新しい街づくりの試みを発見し、その実際を知り、考察すること

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

本授業を他の授業と自分の頭のなかで関連付け、「社会」に関する自分の基礎知識と関心とを《断片的に散在している状態》から《有機的に繋がりが総合的となっていく状態》へと高めること

教科書 / Textbooks

書名 / Title

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

『経験の危機を生きる——小さいけれど、別な空間の創出』 清 真人／青木書店／／

教科書は、(1)授業中に適宜配るプリントと(2)『経験の危機を生きる——小さいけれど、別な空間の創出』、清真人、青木書店、(9月末出版予定)との二本立てからなる。

後者は、今日の「社会」の危機を、人間的な生を支え導く意識の形成の土台となる基礎的な「経験」の危機という視点から照らし出そうとしたものであり、またその点で「社会文化運動」の視点の基礎となる考え方を示したのもでもあり、本授業での問題考察をより内面的な視点から支え補完するものである。この点で、授業中に関連箇所が適宜指示され、「社会」と「意識」とをたえまなく関連付ける本授業の進行を「意識」の側から支える役割を果たす。

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

社会階層論 S

13140

担当者名 / Instructor 中井 美樹

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本講義の狙いは、受講生が「階層(社会階層)」という概念を理解し、その理解に基づいて日本社会を認識する力を習得することです。「階層」とは、収入などの社会的資源の格差を記述するための概念です。したがって、階層を論じることは「総中流」と言われてきた日本社会の中にある格差を認識することでもあります。講義では、教育、家族、仕事といった身近なトピックと絡めつつ、このテーマについて論じていく予定です。

到達目標 / Attainment Objectives

社会階層論および関連分野の概念・論理を習得すること。すなわち、そうした概念・論理を用いて(日本)社会を論じることができるようになること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特にありません。講義では「数字」や「数式」も登場します。しかし、議論の中心は、階層(格差)を維持したり、作りだしたりする仕組みであり、その仕組みを認識するための概念・論理です。「数字アレルギー」「数学アレルギー」の方も毛嫌いせず、受講してください。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	社会階層とは何か	社会階層、社会移動
2	階層および階層論の現状(1)	階層、階級、社会移動
3	階層および階層論の現状(2)	社会階層、社会移動、社会的資源の配分
4	現代日本の社会階層(1)	社会階層、社会移動、社会的地位、職業
5	現代日本の社会階層(2)	社会階層、社会移動、開放性
6	現代日本の社会階層(3)	地位達成、階層再生産
7	教育と社会階層(1)	学歴社会、メリトクラシー、文化的再生産、インセンティブ・ディバイド
8	教育と社会階層(2)	学歴社会、メリトクラシー、文化的再生産、インセンティブ・ディバイド
9	教育と社会階層(3)	学歴社会、メリトクラシー、文化的再生産、インセンティブ・ディバイド
10	社会階層とジェンダー(1)	ジェンダー、セグリゲーション
11	社会階層とジェンダー(2)	ジェンダー、セグリゲーション
12	社会階層と家族(1)	家族、世帯
13	社会階層と家族(2)	家族、世帯
14	社会階層と文化	文化的再生産、ハビトゥス
15	確認テスト(70分)と解説(20分)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(検証テスト)	90 %	
平常点(日常的)	10 %	簡単な課題を数回提出してもらう予定。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

近年マスメディアには「格差」をめぐる議論があふれています。それらに親しんでおいてください。

教科書 / Textbooks

授業中にプリントを配布します。それが「教科書」になります。

参考書 / Reference Books

配布のプリントに記載します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

授業の概要 / Course Outline

この科目は、身近な社会現象についての多角的な分析を通じて、現代とはどのような時代か、社会構造はどのように変わろうとしているのかを考える。この科目は、社会分析に必要な基礎的な理論、基礎的概念、および分析視点を提供する。本年度は、グローバルな視点および文化的な視点を取り込んで、各担当者は次のような内容を取り上げる。1) (小澤) 世代と文化、ボランティアと文化、公共性問題、グローバリゼーションと文化など、2) (リム) 世界都市・ニューヨークについてその誕生、都市文化の開花、マイノリティの可能性、都市再生の条件など、3) (高嶋) グローバル化時代における現代日本社会の変化と問題点について、とくに企業社会、新自由主義、社会的不平等と格差、労働・雇用などを中心に。これら3つのテーマについて、それぞれの基礎的倫理、基礎的概念、主要な事例分析を見ていく。

なお、この科目では、第1回目と第14回目をのぞいて、3名の担当者が輪番で各自4回ずつ講義を行う。

到達目標 / Attainment Objectives

- 1) 「世代と文化」、「ボランティアと文化」、「公共性問題」、「グローバリゼーションと文化」、などについて扱い、今日、かかわり合いや結びつきの大きな変化の中で生み出されている危機と可能性の両面を考察することによって、自分自身の「文化を見る視点」を獲得すること。
- 2) 世界都市・ニューヨークの基本的構造を分析する作業を通じて、都市型社会の生成発展過程とその将来展望に関する理解力と教養を深めること。
- 3) グローバル化時代の現代日本社会について、とくに、企業社会、新自由主義、格差問題、労働といった視点から、その社会変化の内容と性質、問題点、そして展望について理解すること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の概要と導入(小澤、リム、高嶋)	授業の到達目標、進め方、成績評価方法など
第2回	若者たち自身による「若者論」(小澤)	頭脳地図による若者論、世代論、文化相対主義
第3回	ボランティアに見る「かかわり」の文化の可能性と問題性(小澤)	ボランティア文化、国際比較、日本文化論
第4回	「新たな公共性」を求めて(小澤)	公共性論、アソシエーション論、市民社会
第5回	グローバルなものとナショナルなもの(小澤)	グローバリゼーション、ナショナリズム、NGO
第6回	マンハッタンの誕生(リム)	自然環境、先住民、移民、貿易港、都市計画、摩天楼
第7回	都市文化の開花(リム)	20世紀、世界都市、ボヘミアン、ハーレム・ルネサンス
第8回	マイノリティの可能性(リム)	人種差別、エスニック・コミュニティ、ホームレス
第9回	都市再生の条件(リム)	「9・11事件」、共生、モザイク社会、NPO、社会起業家
第10回	グローバル化と企業社会の変化—グローバル化時代の企業と日本社会の変化—(高嶋)	企業社会、法人資本主義、企業の社会的責任(CSR)、NPOセクター
第11回	新自由主義と現代日本社会の変化—新自由主義とその導入、帰結について—(高嶋)	新自由主義、市場、規制緩和、自由化、民営化
第12回	グローバリゼーションと格差問題—社会的不平等をどう考えるか—(高嶋)	社会的不平等、社会的格差、所得格差、男女格差、都市と地方の格差
第13回	グローバル化時代の雇用と労働—労働が多様化することの意味について—(高嶋)	労働の多様化、正規雇用と非正規雇用、ワーキングプア、キャリア形成
第14回	講義のまとめ	論点確認と補足説明
第15回	現代社会をとらえる多角的なまなざしの意味	現代における社会学の意義とその面白さについて

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	55 %	基本概念や語句や事例の理解など、授業内容にかかわって、その学修到達の程度を確認する。
平常点(日常的)	45 %	学期期間中に3回のミニレポート課題などを課す。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

テキストについては、授業の資料あるいはホームワーク用資料として使用する。基礎的理論の解説のほか、参考文献、参考WEBなど有益な情報を紹介しているので、各自、有効に利用すること。なお、小澤担当セッションにおいては、『<方法>としての人間と文化』の入手が困難となっているため、第7～10章をプリントし配布する予定である。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

『21世紀の日本を見つめる: 家族から地球まで』 立命館大学現代社会研究会／晃洋書房／4-7710-1592-0／2004年

随時参考図書を紹介し、また必要な参考資料は配布します。

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

随時紹介する。

その他 / Others

社会学講読 S

13094

担当者名 / Instructor 佐々木 嬉代三

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

社会学の基礎的な知識を修得することを目的とするが、購読という科目の性格を考えて、参加する学生個々人にテキストの分担報告を行ってもらうことになるであろう。ただし、参加する学生数に応じて、授業運営の方法を具体的に考えたい。購読テキストは参加学生が2回生以上ということ considering、平易だが内容豊かなものを選んだつもりである。

到達目標 / Attainment Objectives

社会学の基礎的な知識を修得すること、あるいは、社会的な思考の仕方を身につけること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	担当教員の自己紹介(専門分野の紹介)、授業の進め方に関する相談	
第2回	社会学的パースペクティブについて	「社会と個人」問題、「脱」常識
第3回	合理性の非合理的基礎	社会類型の変化、機械的連帯と有機的連帯、社会秩序
第4回	合理性の非合理的基礎-2	フリーライダー問題、連帯の感情
第5回	神の社会学	宗教、象徴、儀礼
第6回	神の社会学-2	人格崇拝、相互作用儀礼
第7回	権力の逆説	カリスマ、官僚制
第8回	権力の逆説-2	自明性の支配、不確実性の力
第9回	犯罪の常態性	正常と異常、社会秩序と犯罪
第10回	犯罪の常態性-2	ラベリング、意味付与、犯罪の創出
第11回	愛と所有	家族の運命、運命としての家族
第12回	愛と所有	現代家族の病理
第13回	現代社会の捉え方	ボードリアール、消費社会、アイデンティティ
第14回	現代の問題と病理	消費社会、格差社会、自殺、殺人等
第15回	レポート試験	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	
平常点(日常的)	50 %	

学生が自ら分担報告する点を考慮して、上記のような評価基準にした。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

デュルケムやウエーバーの著作に親しんで欲しい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
脱常識の社会学	ランドル・コリンズ著、井上俊・磯部卓三訳／岩波書店／4-00-001275-4／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

授業の概要 / Course Outline

社会学の生誕、確立の歴史を、重要な社会学者に則して概説する。その際には、社会学の形成発展を促した西欧近代社会の展開との関連を重視する。したがって、重要な社会学者の理論内容とともに、その歴史的社会的背景や思想的背景についてもできるだけわかりやすく解説し、社会学が立ててきた社会への問いの性格や意味について理解し考えていくことを重視して講義する。

到達目標 / Attainment Objectives

社会学を基礎づけてきた古典的な社会学者の社会学説を理解し、社会的歴史的な背景のなかで問われた時代や社会の問題を考え、それをうけて各社会学者が設定した問題、重要概念や研究方法、社会学研究に立ち向かう考え方について学び、社会学的思考のための基礎的な素養を身につけることを目標にする。

具体的到達目標は、①代表的社会学者の主要な学説内容、主張、キー概念を理解すること、②それらの諸概念を普段の生活や学習に応用して考えていく社会学的思考力を身につける。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「基礎社会学」を受講していることはぜひ勧めたい。その他、社会学に関わる諸講義を受講しておれば、関心も持て理解しやすくなるだろう。また、西欧近代史、近代の哲学思想(史)や経済学、政治学にかかわる講義も理解を助けるであろう。

社会学を学ぶ学生にとっては社会学史に関する知識は必須の知識ともいえる事柄なので、軽視しないで授業時のプリントや講義ノートや参考書をもとに自主的に学習して欲しい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	社会学成立の背景; 16世紀以来の西欧近代の誕生と19世紀ヨーロッパ市民社会の危機と変容と社会思想ならびに社会科学の課題	ヨーロッパ近代市民社会
第2回	社会学の前史としての社会思想; 近代市民社会の成立と啓蒙主義的市民社会論; 1ホブズ、ロック、ルソー	近代社会の形成、自然法と経験科学、社会契約
第3回	社会学の前史としての社会思想; 近代社会の成立と啓蒙主義的市民社会論; 2アダム・スミス	自然法の経験科学、啓蒙の成果
第4回	社会学の生誕とその意味; 資本主義の矛盾と啓蒙主義思想の破綻(19世紀問題)とそれに立ち向かう社会科学としての社会学	啓蒙の破綻と変容、19世紀的転換期の危機
第5回	社会学の生誕1; コントとスペンサー	社会有機体説、歴史発展の法則、実証主義
第6回	社会学の生誕2; 資本主義の矛盾とマルクス(1)	資本主義の矛盾、階級、疎外、物象化
第7回	社会学の生誕2; 資本主義の矛盾とマルクス(2)	史的唯物論、生産力、生産関係、土台と上部構造
第8回	社会学の確立、社会学の古典期の成果; 19世紀末から生じた20世紀的な社会的構造転換と社会学の対象、方法の自覚的な仕上げ1; ジンメル	社会化の形式と形式社会学、心的相互作用
第9回	社会学の確立、社会学の古典期の成果; 19世紀末から生じた20世紀的な社会的構造転換と社会学の対象、方法の自覚的な仕上げ2; デュルケーム(1)	実証主義、社会学主義、集合意識、社会的拘束力、方法論的集合主義
第10回	社会学の確立、社会学の古典期の成果; 19世紀末から生じた20世紀的な社会的構造転換と社会学の対象、方法の自覚的な仕上げ2; デュルケーム(2)	社会的事実、聖なるもの、俗なるもの、象徴主義
第11回	社会学の確立、社会学の古典期の成果; 19世紀末から生じた20世紀的な社会的構造転換と社会学の対象、方法の自覚的な仕上げ3; M.ヴェーバー(1)	価値自由、理念型、方法論的個人主義、行為の諸類型、理解社会学、合理化
第12回	社会学の確立、社会学の古典期の成果; 19世紀末から生じた20世紀的な社会的構造転換と社会学の対象、方法の自覚的な仕上げ3; M.ヴェーバー(2)	支配、権力、支配の諸類型、集団類型、官僚制
第13回	社会学の確立、社会学の古典期の成果; 19世紀末から生じた20世紀的な社会的構造転換と社会学の対象、方法の自覚的な仕上げ3; M.ヴェーバー(3)	カリスマ、プロテスタンティズムと資本主義の精神、エートス、世俗内禁欲、使命予言、模範予言、ゼクテ、脱魔術化
第14回	第一次大戦以後の社会学; シカゴ学派とアメリカ社会学の展開	都市社会学、トマス、ミード
第15回	現代社会学お出立; パーソンズ社会学とその批判	AGIL図式、機能要件、構造機能主義、ラジカル社会学、現象学的社会学、ハーバーマスとコミュニケーションの合理性

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study**(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho**

受講にあたっては、毎回の講義に出席するとともに、講義時に配布する「講義レジメ」とWebCT上に掲示する「講義ノート」をもとに、自宅学習をすることが重要になります。講義ノートとレジメを活用するとともに、以下の社会学史の参考書と辞典も活用することを勧めます。

新睦人他『社会学の歩み』有斐閣新書

同『社会学の歩み パート2』有斐閣新書

那須壽編『クロニクル社会学』有斐閣選書

浜島朗編『社会学小辞典』有斐閣

また、普段から古典と言われる重要な社会学者の著作を読むこと。自分の研究テーマをもって学習し、社会学を応用的に生かすように普段から心がけることが大切です。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	試験を行います。試験は、社会学史上重要な社会学者の学説、その基礎概念の知識を問います。

 評価は、試験中心です。講義を聴くだけでなく、配布されるレジメやWebCT上の「講義ノート」その他の参考書を使用して、普段に学習することが大切です。勉強していなければ、答えられない試験問題が出ます。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

講義時に配布する講義レジメ、WebCT上で掲示する講義ノートをもとに、自宅学習をすることが重要になります。講義ノートとレジメを活用するとともに、以下の社会学史の参考書と辞典も活用することを勧めます。

新睦人他『社会学の歩み』有斐閣新書

同『社会学の歩み パート2』有斐閣新書

那須壽編『クロニクル社会学』有斐閣選書

浜島朗編『社会学小辞典』有斐閣

また、普段から古典と言われる重要な社会学者の著作を読むこと。自分の研究テーマをもって学習し、社会学を応用的に生かすように普段から心がけることが大切です。

教科書 / Textbooks

教科書は指定しません。授業は授業時に配布する「講義レジメ」を使用して行います。別途WebCTに掲載する「講義ノート」も活用して下さい。上のアドバイスの欄に挙げたその他の参考書も、活用して下さい。

参考書 / Reference Books

参考書は、「講義ノート」に詳しく載っています。その他、普段使用した方がいい参考書は、上のアドバイスの欄にかいておきました。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

特に指定しません。

その他 / Others

特になし

社会学理論 S

15505

担当者名 / Instructor 宝月 誠

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

社会の成り立ちを理解するのに有効な社会学理論の基本的な考え方を学んでもらうことを主眼にしている。そのために、デュルケームやヴェーバー、シカゴ学派、システム論、合理的選択論を取り上げる。社会的連帯・儀礼・権力・官僚組織・宗教と資本主義の精神、都市化・移民、技術の普及過程などを具体的な事例にして、古典的な社会学理論のエッセンスを解説する。

到達目標 / Attainment Objectives

1. 基本的な社会学概念に習熟すること。
2. 社会学的な考え方を、具体的な社会現象を理解するのに応用できるようになる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

日常性の社会学、社会学史

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の	理論の学び方・授業計画
2	デュルケーム理論	『自殺論』 欲求と規制(アノミー)・個人と社会
3	社会学的方法の規準	実証主義 正常と異常
4	宗教生活について	儀礼・集会的沸騰
5	ヴェーバーの理論	宗教社会学 宗教倫理・資本主義の精神
6	比較宗教社会学	『儒教と道徳』を読む
7	理解社会学の方法	理念型の意義 『客観性』の論文を読む
8	シカゴ学派の社会学	社会過程論・人間生態学
9	『ポーランド農民』を読む	移民・社会解体・再組織
10	社会解体の世界	スラム・非行・家族解体・人種葛藤
11	シカゴ学派から相互作用論へ	ゴフマン、シンボリック相互作用論
12	システム論の考え方	パーソンズ、自己組織性
13	中範囲の理論の意義	マーソンの機能分析、準拠集団論
14	合理的選択論の可能性	コールマン、論理的思考の道具
15	社会学理論の可能性	歴史主義と論理実証主義を超えて

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

授業で適宜紹介する文献をできるだけ読むこと。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	社会学理論の基本的な概念や考え方についての理解度を試し、どれだけ現実の社会の理解に理論を活用する能力を習得しているのかによって評価する。

授業の理解度を知るために、特定のテーマが終わった段階ごとに、質問紙で質問を行う。こうした質疑への積極的な参加が望ましい。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

まじめな態度で受講して欲しい。授業ではレジメを配布するので、それを熟読し、参考文献にも目を通してもらいたい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
社会学のあゆみ	新 睦人ほか / 有斐閣 / 4-641-08857-8 /

テキストの他に授業では毎回レジメを配布する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
シカゴ学派の社会学	中野正大・宝月誠 / 世界思想社 / 4-7907-1029-7 /

そのほか適宜、授業中に紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

担当者名 / Instructor 篠田 武司

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

いま日本では所得格差が広がっているといわれています。企業の業績は好調で、好景気もつづいているというのに不思議な話です。その原因は多くあるでしょう。雇用の多様化の中で進む賃金格差や、また教育格差がその直接的な原因のひとつだといっているかも知れません。しかし、では、なぜ雇用が多様化するのでしょうか。そこには、グローバル化という大きな世界の動きがあります。また知識基盤型経済へと経済の仕組みが変わってきていることがあります。しかし、やはり根本的には、現在経済の舵をとっている経済の考え方が新自由主義的なものであることに大きな原因があります。経済は、人が動かしている以上どのような考え方でいま経済の舵が取られているのかを考えることはきわめて重要です。本講義では、まずこうした変化の特徴がなんであるのかを、経済の基本的な概念(言葉)、あるいは経済の基本的な仕組みから説明しつつ、歴史的に明らかにしていきます。その上で、どのような考え方で経済社会がこれまで動いてきたのか、また今動いているのかを考えてみたいと思います。

到達目標 / Attainment Objectives

- 1) 経済学の基本的な用語、経済システムに関する知識の獲得(GDP、金融のメカニズムなど)
- 2) 戦後日本の経済社会の歴史の概括・比較による現在の経済社会の特徴の確認
- 3) 現代経済社会に関する諸理論の確認

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

現代経済学
経済学理論

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1回目	経済空間の構造－資本と市場	資本の3形態、商品市場、金融市場、労働市場
2回目	企業と産業－株式会社	株式会社の構造、産業分類
3回目	貨幣と金融－お金の話	貨幣の種類、銀行の役割、金融政策
4回目	国民経済計算の基礎－成長と所得	国民所得、3面等価、成長率
5回目	ケインズの経済学(1)－市場と政府	自由放任主義、エリート主義、
6回目	ケインズの経済学(2)－完全雇用	完全雇用、有効需要、財政・金融政策
7回目	グローバル化と知識基盤型社会－新たな時代	経済のグローバル化、産業社会、情報化・知識化社会
8回目	戦後日本の蓄積構造と危機－経済と社会の変化	フォード主義的大量生産、消費社会、都市化、フォードイズムの危機
9回目	新自由主義の経済学(1)－市場原理主義と小さな政府	レーガニズム、規制緩和、民営化
10回目	新自由主義の経済学(2)－自由と平等	機会の平等、成績主義、個人責任
11回目	所得格差の拡大－排除と貧困	ジニ係数、社会的排除、絶対的・相対的貧困
12回目	雇用の現状－雇用の多様化	正規・非正規労働、女性の労働力化、雇用格差
13回目	「第三の道」の経済学－包含の経済学	ギデンス、社会的包含
14回目	福祉と経済	効率と公正、ワークフェア、トランポリンネット
15回目	まとめと総括	半年間の講義を振り返って。質問、アンケート

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

講義で、そのつど文献を指定するので、読んでおくことが望ましい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	80 %	講義の理解度を考査する
平常点(日常的)	20 %	3~4回の出席をとり、それを点数に換算する。

講義は通して受講することが望ましい。したがって、適時出席をとる。定期試験80点プラス出席点20点=100点で評価をする。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

レジュメ、資料は講義での配布時に入手すること。

質問は、講義後に適時受け付ける。また、出席をとる際にも、記入欄を設けるので利用して欲しい。

教科書 / Textbooks

講義は、レジュメに沿って行われる。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
市民のための社会経済学	篠田等編 / 八千代書房 / /
ケインズ	伊藤光晴 / 岩波新書 / /
-----	-----
漂流する資本主義	佐和隆光 / ダイヤモンド社 / /
-----	-----
もうひとつの日本は可能だ	内橋克人 / 光文社 / /
人間回復の経済学	神野直彦 / 岩波新書 / /
-----	-----

なお、上記の参考書以外にも、適時参考文献を講義中に知らせていく。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

<http://www.stat.go.jp> (政府統計局の『日本統計年鑑』。国民経済計算、産業分類、金融統計など)
<http://www.esri.go.jp> (内閣府「国民生活白書」。国民生活に関する資料)
<http://www.mhlw.go.jp> (厚生労働省。雇用、福祉に関する資料) など。

その他 / Others

担当者名 / Instructor 鈴木 栄樹

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

テーマ: 明治の文明開化と都市社会の諸相

日本の近代国家の形成過程は、同時に新たな近代都市の建設過程でもあった。それまでに形成されてきた都市社会は、近代国家の建設と資本主義経済の移植過程でどのように変貌していったのであろうか。講義では、ほぼ明治期を広い意味での文明開化の時期としてとらえ、主に京都を事例としつつ、適宜その他の都市にもふれながら、その都市化の過程にみられる特徴的な諸問題について学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

様々な問題を抱える現代日本の都市の生成過程について、とくに京都を事例として、その直接の起原にさかのぼり、歴史的な視点から考察する。その際、歴史のなかの様々な都市一般に共通する点と、建設期の日本の近代都市、とくに京都に見られる特徴とを意識的に比較考察する知的姿勢を学ぶ。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	テーマ イントロダクション	キーワード 近代化と都市(化)
第2回	テーマ 幕末期の京都 1850年代～67年	キーワード 京都の政治都市化、災害と戦火のなかの京都
第3回	テーマ 明治初年の京都(1) 1868年～70年代半ば	キーワード 天皇東幸(車駕東幸)、遷都と奠都
第4回	テーマ 明治初年の京都(2) 1860年代末～1888年頃	キーワード 京都の文明開化、町組から番組へ、番組小学校の建営
第5回	テーマ 明治初年の京都(3) 1860年代末～1888年頃	キーワード 京都の殖産興業、専門教育と実業教育、勸業場と舎密局
第6回	テーマ 明治中期の京都(1) 1880年代を中心に	キーワード 琵琶湖疏水の開削、伝染病と衛生問題、交通と運輸
第7回	テーマ 明治中期の京都(2) 1890年代前半	キーワード 市制特例下の京都市、平安遷都1100年記念祭、第4回内国勸業博覧会
第8回	テーマ 明治中期の京都(3) 1890年代後半	キーワード 日清戦争、市制特例の撤廃、共同組合の設立
第9回	テーマ 明治後期・大正初期の京都(1)	キーワード 内地雑居と観光、都市と衛生
第10回	テーマ 明治後期・大正初期の京都(2)	キーワード 日露戦争と地域社会
第11回	テーマ 明治後期・大正初期の京都(3)	キーワード 三大事業の構想と実施、都市経営
第12回	テーマ 明治期京都の都市問題	キーワード 工業化、貧困、差別、衛生
第13回	テーマ 明治期京都の娯楽と大衆文化	キーワード 新京極、演劇と映画、百貨店、性文化
第14回	テーマ 大正期の日本の都市と京都	キーワード 工業化の進展、都市計画法、関東大震災
第15回	テーマ まとめ	キーワード

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

受講にあたっては、日本近代史全般についての概括的な知識をもっていることが望ましいが、テーマに対する興味や関心があれば、理解が可能なように配慮する。知識が不十分なばあいには、必要に応じて参考文献などを指示するので、自分でも独自に学習してほしい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	80 %	論述筆記試験。事前にある程度の示唆を与えるので、それに対して準備しておくことが望ましい。
平常点(日常的)	20 %	随時、講義に対する理解度・疑問点などを書いてもらうことにより講義に対する積極性を評価するが、これは出席点という意味ではない。定期試験の評価を主としつつ、講義に対する積極性如何を加味して評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

ノートのとり方に工夫を心がけてほしい。板書を機械的に写すだけのノートでは意味がない。黒板のスペースは限られているが、ノートは十分なスペースがあるのだから、口頭で述べたこと、あるいは自分で調べたことなどを書き加えたりするなど、オリジナルノートを作成してもらいたい。また、歴史は現代的な関心から学びとられるものであるから、常に現代の国内外の動きと関わらせながら自分なりの問題関心を培ってほしい。

教科書 / Textbooks

特になし。随時プリントにて配布

参考書 / Reference Books

<u>書名 / Title</u>	<u>出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment</u>
京都府の百年	井ヶ田良治・原田久美子編／山川出版社／4634272601／1993年7月、鈴木も執筆
近代京都の改造―都市経営の起源1850～1918年―	伊藤之雄編著／ミネルヴァ書房／4-623-04517-X／2006年4月刊、鈴木の論文も収録

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

京都市歴史資料館情報提供システム「フィールド・ミュージアム京都」
<http://www.city.kyoto.jp/somu/rekishi/fm/index.html>

その他 / Others

担当者名 / Instructor 松田 博

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

現代社会とその主体である人間との諸関係をめぐる問題はますます複雑かつ陰影を伴う分野となっている。かつて近代化論が想定した「成長の神話」は国際的に瓦解しつつある。経済発展による生活の物質的な条件整備つまり「豊かな社会」は必要条件ではあっても、自動的に「人間の安全保障」や「精神的・文化的・生活の充実」をもたらすものではなく、むしろ手段と目的の転倒によるさまざまな社会問題の要因になることも少なくない。「持つ文化」は「在る文化」を代替することは出来ない。「近代という未完のプロジェクト」において根源的な「人間の安全保障」や「安全社会」などの課題を、自由論・平等論・友愛論という社会思想の基本的命題と関連付けて検討し、現代的社会思想の意義を掘り下げてみたい。社会科学の想像力養成のために、断片的知識の習得ではなく、文章表現能力の向上も重視したい。

到達目標 / Attainment Objectives

社会思想とは、習得した知識、情報、経験を基礎に、現代社会を総合的に把握するための方法論＝思考方法を豊かにするための、総合的かつ学際的な研究分野である。したがって具体的な諸論題をとおして、現代社会像を捉える「総合の知」の習得が不可欠である。さらにそれを自己の見解として論理的に表現しうる文章表現能力の向上が目標となることを受講生は自覚して欲しい。たんなる感想文やエッセイと論文・レポートは質的に異なっている。専門科目にふさわしい論述能力を身につけるための努力を期待する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

社会(科)学の基礎理論。社会(科)学の歴史。社会理論系の科目。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス 講義計画	
2	メディアのなかの社会像 「8・15の社会思想」	世論、社会イメージ、リテラシー
3	ステレオタイプ論	リップマン、世論、ステレオタイプの功罪
4	エスノセントリズム(自民族中心主義)	サムナー、フォークウエイズ、ナショナリズム
5	権威主義的パーソナリティ	アドルノ、権威主義、社会的性格
6~7	人間の安全保障論(その歴史的背景・基本概念など)	セン、Human Security(HS)、基本的人権
8	中間まとめ 小論文 質疑・討論	HSと人権概念
9~10	国際社会と「人間の安全保障」	寛容、多文化共生、他者理解
11~12	「人間の安全保障」と「ホブス」問題	ホブス、『リヴァイアサン』、自然状態
13~14	「ルソー」問題	ルソー、『人間不平等起源論』、『社会契約論』
15	全体まとめ、質疑、レポート注意事項	レポート作成の基本条件

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

各講義の終わりに文献、資料など伝えるので、自主的な学習を期待したい。さらに基本的なテーマ(たとえばステレオタイプの実例など)についてはインターネットにて最新の情報をサーベイしてほしい。外国語の使用能力アップのためにも海外の動向に関心を持って欲しい。意識の「国際化」にも有益であろう。資料レジュメ末尾には、最新の文献情報を紹介する予定である。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	70 %	期末レポートはとくに文章表現能力を重視する。またフリーディクショナリーの記述のみを参考にした小論文やレポートは禁止します。講義で紹介した文献資料の学習を重視します。
平常点(日常的)	30 %	小論文、コミュニケーション・カードなどを評価する。

「論文・レポート作成方法」にかんする解説書を読んでおくこと。論文の構成、文献注などの必要事項を学んで、スキルアップを自覚的に心がけて欲しい。このようなスキルは社会人となっても、仕事や生活において必ず役に立ちます。本学の卒業生には、感想文やエッセイと論文・レポートとの相違を理解し、必要に応じて様々な文章を自在に書き分けられる能力を身につけて欲しい。学生時代の知識は忘れても、一度身につけたスキル＝技能は、水泳や自転車同様、忘れないものです。これは脳科学では「エピソード記憶」や「意味記憶」とは異なる「手続き記憶」として知的財産となるものです。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

備考を参照のこと。期末のレポートは、たんなる感想文やエッセイの類は失格ないし減点とします。この科目を永年担当しているが、本学部学生の知的好奇心や問題意識が旺盛な学生が多いことは、学部によき伝統といえる。しかしレポートや小論文という文章になると、その長所が十分発揮されているとはいえない。残念なことである。「豊かな問題意識、貧しい文章力」ではもったいないと思う。文章表現力は、意識的に文章を書く努力によって確実に向上する。昨年の受講生にも見違えるほど書く能力がアップした者が少なくなかった。ぜひチャレンジしてください。

教科書 / Textbooks

教科書は使用しない。テーマに応じて資料レジュメ配布や参考文献紹介をおこなう。また「人間の安全保障」に関する最近の文献資料を逐次紹介するので自主的に学習することを期待します。重要な文献の箇所は資料レジュメとして講読します。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
人間の安全保障	A・セン／集英社新書／／人間の安全保障論の基本的文献
貧困の克服	A・セン／集英社新書／／前書を理解するのに有益
フォークウエイズ	サムナー／青木書店／／エスノセントリズム論の古典
権威主義的パーソナリティ	アドルノ／青木書店／／権威主義分析
グラムシ思想の探究	松田博／新泉社／／市民社会論など社会思想の検討
自由への大いなる歩み	キング／岩波新書／／キングの代表的著作
ガンジー自立の思想	ガンジー／地湧社／／ガンジー思想の紹介
世論	リップマン／岩波文庫／／ステレオタイプ論の古典

シラバスに記入した文献以外は、講義において紹介する。講義についての質問、意見を歓迎します。「人間の安全保障」に関する文献は多数あるので少なくとも一冊は読むことを期待したい。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

ステレオタイプその他本講義でとりあげるテーマは海外のサイトが充実しているので、ぜひ参照して欲しい。

その他 / Others

初歩的なことですが他の学生の迷惑になる私語などは厳禁します。常習者は退室を命じます。特別の理由のない大幅な遅刻者は入室を禁止します。「他人の迷惑になることはしない」という初歩的常識を忘れないで欲しい。「喜・哀・楽 仮面の上に描くたび 己の顔をうしなう仮面」(現代学生百人一首)。

社会心理学 S

13131

担当者名 / Instructor 門田 幸太郎

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

人々は社会からさまざまな影響を受けながら日々の生活を送っている。このような個々人の中に見られる社会的影響の産物として社会的態度をとらえることができる。社会的態度はどのように形成され、どのような条件下で変化しうなのか。本講では社会的態度を中心に、個々人の持つパーソナリティや社会的動機、個人と個人との対人認知や対人関係、個人と集団とのかかわりあい、集団と集団との相互作用、さらに比較文化といった複眼的な視点から社会の中の人間行動を考えてみる。

到達目標 / Attainment Objectives

人間が社会から受ける影響、人間と人間の相互作用、個々人の態度の形成と変容などについて理解できる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

心理学、社会学

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	1) 社会心理学とは	社会心理学の位置づけ、他の領域との関連性
2	2) 社会心理学の歴史・研究方法	社会心理学の研究の流れ、研究方法
3	3) 個人の中の社会的影響	社会が個人に与える影響について欲求・動機づけ・本能概念
4	4) 達成欲求	達成欲求の測定法、達成欲求と行動特性、達成欲求
5	5) 親和欲求	親和欲求、不安と親和欲求
6	6) 対人認知	情動の認知、パーソナリティの認知
7	7) 印象形成	暗黙裡のパーソナリティ理論、相貌と印象、言語情報からの印象形成、行動観察による印象形成
8	8) 社会的態度とは	態度と対象の関係、態度の定義・機能
9	9) 態度の形成	態度形成の問題について認知的成分、感情的成分、行動傾向成分
10	10) 態度の変化	コミュニケーターの信憑性、コミュニケーションの提示方法
11	11) 対人魅力の規定因	空間的近接・身体的魅力・態度の類似度・他者評価
12	12) 対人魅力の理論	理論相互依存性理論・バランス理論・錯誤帰属説
13	13) 人格とは	パーソナリティの概念、パーソナリティの理論、活動システムとしてのパーソナリティ、心理＝社会的アイデンティティ
14	14) 人格の形成	社会化の概念と過程、価値の社会的学習、社会的学習のメカニズム、モデリングとしての同一視、文化的価値の伝達と内在化
15	15) 文化と「人格形成」	乳児期からの社会的学習、子育てと文化のパターン

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(検証テスト)	70 %	重要語句と研究例、理論の理解を確認する。
平常点(日常的)	30 %	理解度を確認するため不定期に小テストまたはレポート課題を課す。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

<http://www.ritsumeai.ac.jp/~monden/Reference/>を参照。

参考書 / Reference Books

<http://www.ritsumeai.ac.jp/~monden/Reference/>を参照。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

<http://www.ritsumeai.ac.jp/~monden/Reference/>を参照。

その他 / Others

担当者名 / Instructor 鈴木 未来

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

この授業では、社会調査における分析法のひとつである多変量解析を統計解析ソフトSPSSの操作を通じておこなうことで、大量のデータを処理する技術の習得を目的とする。その上で、量的調査で収集される個票を集計するにとどまらず、得られたデータの相関や散らばりなど、個々のデータの有する社会的な意味を探索する力の習得もめざす。

到達目標 / Attainment Objectives

SPSSの操作を通じた、多変量解析によるデータ分析法の習得

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

社会調査論 社会統計学

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	イントロダクション	社会調査 統計解析
第2回	【基礎編】SPSSの入力方法	
第3回	度数分布表の作成	
第4回	グラフと図の作成・基礎統計量を求める	記述統計
第5回	【応用編】探索的分析とは	
第6回	2群の平均値の差を検定する	t検定
第7回	質的な変数の関連を調べる1	クロス集計表
第8回	質的な変数の関連を調べる2	χ^2 乗検定
第9回	全体的な「差」を検討する	分散分析
第10回	量的な変数の関連を調べる	散布図 相関係数
第11回	【応用編】の総復習	
第12回	【発展編】多変量解析(1)	重回帰分析
第13回	多変量解析(2)	判別分析
第14回	多変量解析(3)	因子分析
第15回	社会調査の活用法	調査倫理

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	毎回提出の課題の評価および出席頻度を点数化する

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

すべての内容が連続しているので、操作法習得のためには連続した出席が求められる。欠席しなければならない場合は、参考書等の文献で該当箇所を補習した上で次回の授業に望むこと。

教科書 / Textbooks

使用しない。授業時にプリントを配布する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『SPSSでやさしく学ぶ統計解析[第2版]』	室淳子・石村貞夫 / 東京図書 / 4-489-00637-3 /
『SPSSでやさしく学ぶ多変量解析[第2版]』	室淳子・石村貞夫 / 東京図書 / 4-489-00638-1 /
『改訂版 社会調査の基礎』	岩永雅也 / 日本放送出版協会 / 4-595-12687-5 / 放送大学教材
『あなたもできる データの処理と解析』	岩淵千明編 / 福村出版 / 4-571-20058-7 /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

受講の際はフロッピーディスクやフラッシュメモリーなど記憶媒体を必ず持参のこと。

担当者名 / Instructor 寺尾 洋子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

この科目では統計解析ソフトSPSSを学ぶことにより、社会調査等で得たデータを自分で解析する力を身につけることを目指す。大量のデータを処理する技術だけでなく、得られたデータの相関や散らばり、因果関係など社会的な意味を探求する力を身につけることをも目的とする。具体的には情報処理の基本概念を理解し、主要な計量モデルを概観する。その後、社会調査データを用いた解析と取り組む。

到達目標 / Attainment Objectives

- ・SPSSを使って基本的な統計解析ができる
- ・解析結果を使ってレポートを作成できる

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

IDとパスワードはあらかじめ各自で確認しておくこと。

自分用のフロッピーディスクまたはUSBメモリを持参すること。

なお、最低限必要なスキルとして、以下の3点を求める。

1. タッチタイピングができること
2. ファイル管理ができること(ファイルのコピー、削除、移動、ファイル名の変更)
3. 複数のウィンドウを切り替えて操作できること。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	社会調査と統計解析、統計ソフトSPSSの基礎	
2	記述統計量、計量モデルの概観	
3	量的変数の関連	相関係数
4	質的変数の関連	クロス表分析、カイニ乗検定
5	質的変数の関連	エラボレーション第3変数とは、コントロール、エラボレーションの考えかた
6	2群の差の検定	t検定
7	多変量解析	分散分析
8	多変量解析	因果分析(1)回帰分析
9	多変量解析	因果分析(2)重回帰分析、パス解析
10	多変量解析	因子分析(1)因子分析とは、因子数、回転
11	多変量解析	因子分析(2)因子スコア
12	社会調査データを用いた分析(1)	分析課題の設定とデータ分析、調査分析レポートの作成
13	社会調査データを用いた分析(2)	調査データの解析とレポートの作成
14	社会調査データを用いた分析(3)	解析結果のプレゼンテーション方法
15	社会調査データを用いた分析(4)	解析結果のプレゼンテーションと批評

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	30 %	社会調査データを自分なりに解析し、分析したレポートを求める。
平常点(日常的)	70 %	毎回の講義で課題出題する。また、質疑応答に積極的に参加したか等の講義参加傾向を加味する。

毎回実習を行い、課題提出を求めるので、遅刻・欠席は可能な限り避けること。それによる学習の遅れは自分で取り戻すことを原則とする。また、課題をこなすためには自習が必要になるので自主的な学習姿勢を持つことが必要である。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
SPSSでやさしく学ぶ統計解析	室淳子、石村貞夫 / 東京図書 / 9784489020070 / テキストに沿って講義を進めるので必ず購入すること

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
------------	--

統計学がわかる

向後千春、富永敦子／技術評論社／9784774131900／統計学を全く学んだことがない人はぜひ読んでください。

統計でウソをつく法—数式を使わない統計学入門

ダレル・ハフ／講談社ブルーバックス／4061177206／

講義中にも随時紹介する

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

講義用のWebサイト

<http://www.ritsumeai.ac.jp/~ytt06067/>

その他 / Others

社会調査論 S § 社会調査論 SG

13098

担当者名 / Instructor 中井 美樹

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

社会調査は、複雑で常に変化している社会や経済の諸現象をとらえるための重要な手段です。社会調査を行って実証研究をすすめるためには、基礎的な知識や技法の修得が不可欠です。この講義では、社会調査全般に対する理解を深めることを目標にして、社会調査の種類と特徴を整理し、社会調査の準備・計画と実査についての注意点を検討します。また、もっとも一般的な社会調査の方法となっている調査票調査を中心に、標本抽出法、測定方法、調査票の作成法などを修得していきます。

到達目標 / Attainment Objectives

社会調査を行って実証研究をすすめるためには、基礎的な知識や技法および調査倫理が必要です。これらを理解することを目標とします。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

社会統計学、計量社会学

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	社会学と社会調査: 社会調査とは・社会調査の歴史	社会調査
2	社会調査の種類と特徴(1): 量的調査、質的調査	調査票法、観察法、自由面接法
3	社会調査の種類と特徴(2): 量的調査、質的調査	調査票法
4	社会調査の手順: 社会調査の一般の手順・調査の倫理	調査倫理、仮説
5	社会調査と理論(1): 記述と説明・仮説構築・先行研究と理論・命題と概念	記述、説明、理論、命題、概念、調査研究例
6	社会調査と理論(2): 記述と説明・仮説構築・先行研究と理論・命題と概念	記述、説明、理論、命題、概念、調査研究例
7	標本調査の考え方: サンプルングの方法(1) サンプルングの歴史とサンプルングの理論	サンプルング
8	標本調査の考え方: サンプルングの方法(2) 無作為抽出法・多段抽出法・層化抽出法	無作為抽出法、多段抽出法、層化抽出法
9	標本調査と標本誤差: 標本誤差と非標本誤差・推定の精度	標本誤差、非標本誤差、推定
10	調査票の作成: 項目の選択・用語と文章・回答の形式・調査項目の配列	調査票、ワーディング
11	コーディング: データの整理とチェック・エディティング・コーディング	エディティング、コーディング
12	調査票の集計: データの記述: データの基礎的集計・変数の種類・データの記述	基礎統計量
13	データの分析(1) データの分析とは・2変数の関連の分析(クロス表分析)・エラポレーション	クロス表、エラポレーション
14	データの分析(2) 結果の公表 2変量の関連の分析・相関係数・疑似相関・調査研究論文と調査報告書の作成	相関係数、疑似相関、調査研究例、調査倫理
15	確認テスト(70分)と解説(20分)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

新聞、雑誌などに掲載されている「アンケート」や「世論調査」を批判的に読む癖を付けてください。ここで「批判的に読む」とは、故意あるいは無知ゆえに誤った方法で行われる社会調査があつとを絶ちませんが、こうした誤りに注意して、つまり「数字に騙されないように」読むということです。授業で解説する社会調査に関する知識が、そうした「批判的な読み」に役立つはずですが。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(検証テスト)	90 %	試験は「持ち込み不可」です。
平常点(日常的)	10 %	簡単な課題を数回提出してもらう予定。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

本授業で扱うのは社会調査の基礎となる知識です。可能なら1年次に学習することを勧めます。

教科書 / Textbooks

授業中にプリントを配布します。それが「教科書」になります。

参考書 / Reference Books

授業中配布のプリントに記載します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

担当者名 / Instructor 長澤 克重

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

この講義では、社会調査データを集計・分析する上で必要となる統計的分析方法の基礎を学ぶ。調査データを集計し要約的に記述する方法、母集団の特性値を推定する方法、母集団についての仮説を検定する方法について、理論的な基礎を講義するとともに練習問題を通じて実際にデータ分析を行う。

到達目標 / Attainment Objectives

統計学の基本的な概念と方法について、理解し説明ができる。
記述統計と推測統計の基本的な方法を用いて、調査データの要約と推計・検定を行うことができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	統計データとは、統計的方法とは	統計データ、統計的方法、統計変量、記述統計、推測統計
第2回目	比率と指数	変化率、寄与度・寄与率、指数
第3回目	分布とその特性	度数分布表、ヒストグラム、代表値、散布度
第4回目	確率の基礎	順列、組み合わせ、確率、条件付確率、ベイズの定理
第5回目	確率変数と分布	確率変数、確率分布、期待値、分散、2項分布、正規分布
第6回目	母集団と標本、標本調査法	母集団、標本、サンプリング、ランダムサンプリング
第7回目	統計量の標本分布(1)	統計量、母数、標本分布、標本平均の分布
第8回目	統計量の標本分布(2)	大数の法則、中心極限定理
第9回目	統計的推定(1)	点推定、区間推定、良い推定量の基準、信頼区間、母平均の推定
第10回目	統計的推定(2)	母比率の推定、母平均の差の推定
第11回目	統計的検定(1)	仮説検定、有意水準、第I種・第II種の過誤、母平均・母比率の検定
第12回目	統計的検定(2)	平均値の差の検定
第13回目	クロス集計表とその検定	クロス集計表、カイ2乗分布、適合度検定、独立性の検定
第14回目	相関	相関、相関係数
第15回目	回帰	回帰分析、独立変数、従属変数、最小2乗法

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

毎回の授業内容を必ず復習すること。課題を解きながら考えると理解が深まる。
またEXCELの関数が使える者は、パソコンでも課題を解いて確認してみるとさらによい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	60 %	統計学の基本的概念の理解度、基本的方法を使ったデータの分析力を試す問題を出す。
平常点(日常的)	40 %	ほぼ毎回の授業で復習のための簡単な課題(宿題)を課す。課題の提出状況を平常点とする。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

統計学は積み立て型の科目なので、遅刻・欠席をすると授業についていくことが困難になります。授業への出席は必須です。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
よくわかる統計学 I 基礎編	金子治平・上藤一郎編 / ミネルヴァ書房 / 978-4-623-04926-4 / 教科書に沿って講義を行う

講義は教科書に沿って進める。教科書の練習問題も授業・課題で利用・解説するので、開講までに必ず入手しておくこと。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
新・涙なしの統計学	D.ロウントリー / 新世社 / 4-88384-035-2 / 数式をほとんど使っていないので、数学が

苦手な人には読みやすい

統計学入門

東京大学教養学部統計学教室編／東京大学出版会／4-13-042065-8／入門と書いてあるが、やや高度な内容も含む

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

電卓を使って練習問題を解くので、毎回の授業に√の計算のできる電卓を持ってきてください。

社会動機論 S

13028

担当者名 / Instructor 藤島 寛

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本講義では(1)人間の動機、(2)自己意識における社会、(3)臨床社会心理学の3つのトピックを取り上げ、動機付けにおける社会的文化的側面を考察する。

到達目標 / Attainment Objectives

社会や文化の与える動機づけへの影響についての現代的課題を理解し、その問題点について心理学における動機づけの視点から論理的に考察できるようになることを目標とする。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

心理学の基礎的知識について学習できる科目を履修していることが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	人間の動機(1) 一次的な動機づけにおける人間の側面	感性、欲望
2	人間の動機(2) 社会的動機	マレーの社会的動機リスト、達成動機、親和動機
3	人間の動機(4) 向社会的行動(a)	援助行動
4	人間の動機(5) 向社会的行動(b)	ボランティア行動
5	人間の動機(6) 向社会的行動(c)	社会的ジレンマ、信頼と協調
6	自己意識における社会(1) 自己意識の測定	公的自己意識と私的自己意識
7	自己意識における社会(2) 公的自己意識から自己の意味を考える	不安とヒステリー
8	自己意識における社会(3) 自己を支えるもの(a)	自尊心、アイデンティティ
9	自己意識における社会(3) 自己を支えるもの(b)	自己愛と「愛」
10	臨床社会心理学(1) 健康心理学	メンタル・ヘルス
11	臨床社会心理学(2) ストレス・コーピング	コーピング、サポート
12	臨床社会心理学(3) うつと認知(a)	帰属、ベックの認知療法
13	臨床社会心理学(4) うつと認知(b)	自己注目理論
14	臨床社会心理学(5) パーソナリティとコーピングの関係	完全主義、気晴らし、現実へのとらわれ
15	臨床社会心理学(6) 物語療法	物語られるもの、聴取、人生の意味

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

参考文献を読み、各トピックのテーマに対する現代的問題への関心を深めること。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	各トピックにおける基礎的概念の理解に基づく現代的問題点への気づきとその問題点に対する深い考察を評価
平常点(日常的)	50 %	日常的レポートにおける、各トピックのテーマに基づく現代的問題点への気づきと関心を評価。提出期限は6月の最終講義時まで、それ以後の提出は認めない。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

講義に出席し、“静かに”、“深く”考察すること

教科書 / Textbooks

教科書は用いないが、講義内容の理解に必要な資料を配布する

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
社会心理学への招待	高木修(編) / 有斐閣 / 人間の動機における向社会的行動の参考書
自分のことから読む臨床心理学入門	丹野義彦・坂本真士 / 東京大学出版会 / 臨床社会心理学の参考書

講義内容に応じて、適宜参考文献を紹介する

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

Webではなく骨のある論考を読むことを切に願う

社会発展論 S

15560

担当者名 / Instructor 伊藤 正純

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

ヨーロッパ近代市民社会の誕生。20世紀「社会主義」の誕生と崩壊。大衆消費社会。スウェーデン型「福祉国家」の原型。戦後福祉国家と資本主義の黄金時代、そしてその崩壊。経済のグローバル化と新自由主義イデオロギーによる「構造改革」。社会民主主義型「福祉国家」の再編成。アメリカ合衆国。スウェーデンなど北欧諸国の実験。

到達目標 / Attainment Objectives

社会発展論は、社会的・経済的進歩について考察するものである。だが、何をもって社会的・経済的進歩とみるか、また何が社会的・経済的進歩を牽引しているかとみるかで、見方は様々である。本講義では、様々な歴史のエポックメイキングを順次取り上げるので、それらを参考に、現代の日本社会の特徴(特異性と問題点)を自ら考えるようになってもらいたい。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
10/1	社会発展とは何か	近代市民社会 近代的法規範の成立(アダム・スミス、共感 神の見えざる手)
10/8	マルクスの唯物史観	マルクス コミュニズム 個体的所有の再建
10/15	社会主義の誕生	ロシア革命 1917年 レーニン 国有化 スターリン 個人崇拜
10/22	大衆消費社会の出現	アメリカ 自動車 フォード・システム 1920～30年代
10/29	スウェーデン型「福祉国家」の理念	スウェーデン社会民主労働党の実験 1930年代
11/5	資本主義の黄金期(高度成長期)とその崩壊	フォーディズム ポスト・フォーディズム レギュレーション 理論
11/12	経済のグローバル化と新自由主義イデオロギー	国際化 グローバル化 新しい「階級闘争」
11/19	アメリカ型「金融資本主義」	金融の自由化 通貨危機(アジア 中南米など) 金融危機
11/26	新自由主義イデオロギーと貧富の格差(1)	アメリカ合衆国
12/3	新自由主義イデオロギーと貧富の格差(2)	日本 OECD報告書 相対的貧困率
12/10	北欧諸国の豊かさ(1)	平等と効率の両立 普遍的福祉 強い国際競争力
12/17	北欧諸国の豊かさ(2)	スウェーデン 高齢者 医療改革 年金改革
12/24	北欧諸国の豊かさ(3)	知識基盤社会に適応した教育制度
1/8	北欧諸国の豊かさ(4)	税に対する信頼 公共の責任 公正な選挙制度
1/15	日本社会の発展の程度を考える	アメリカ EU 北欧 中国 中東

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	記述式論文試験。持ち込み不可。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
スウェーデンにみる個性重視社会	二文字理明・伊藤正純編著 / 桜井書店 / 4-921190-16-X /
復権する市民社会論	八木紀一郎他編 / 日本評論社 / 4-535-55142-1 /
教育改革の国際比較	大桃敏行他編 / ミネルヴァ書房 / 978-4-623-04975-2 /
危機－資本主義	ボワイエ、山田鋭夫編 / 藤原書店 / 4-938661-69-1 /
希望の構想	神野直彦・井手英策編 / 岩波書店 / 4-00-022553-7 /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

授業の概要 / Course Outline

本講義では、学説史的な展開を踏まえつつ、学生諸氏にとって身近なテーマを取り上げる中で、「社会」病理学の基本的な視点の獲得を目指す。パート1では、なぜ・どのように近代・現代社会に特有の社会病理が登場してきたのかを、社会構造の変化という観点から捉える。主に、「自由」、「平等」、「博愛」といった近代社会で「正しい」とされている考え方が、逆に社会病理を生み出すといった視座を提示する。パート2では、青少年の意識といった側面を社会病理学の視点から掘り下げる。特に、「社会には病理が元々ある」という見方と、「社会病理が社会的に作り出される」という視点との交錯を講義する。パート3では、近年登場してきた「新しい」社会病理への見方を、主に家族臨床から捉え、社会病理学への理解の深化を図る。同時に、「心」を病理とする見方の進展が進んでいる現状に対して、「社会」病理学の視点からそれを懐疑的に見ていく重要性を示す。

到達目標 / Attainment Objectives

- ・「社会病理」とされる事柄について、社会学的な見方を身につける。
- ・近代の「善」なる理念が、病理現象を生み出すパラドックスを理解する。
- ・とりわけ青少年の病理行動の背景を理解する。
- ・「新しい」病理現象とされる事柄への知識を深める。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「社会学史」、「社会学概論」等の基礎的な知識を習得していることが望ましい。近年、マスメディアなどで頻繁に取り上げられる社会問題への関心を持った学生の受講を希望する。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第一回	イントロダクション	近代社会の功罪
第二回	Part1:「社会」病理学とは何か:社会構造と社会病理・「自由」であることは良いことなのか?:アノミーという社会心理	アノミー、自由
第三回	「博愛」をどの範囲まで持てるのか?:都市化と社会的連帯の崩壊	アーバニズム、インナーシティ
第四回	「平等」であることはどこまで正しいのか?:「成功神話」の落とし穴	教育、階層
第五回	「勤勉」であるだけで良いのだろうか?:下位文化の光と影	文化的再生産
第六回	Part2:現代の青年意識を「社会」病理学してみる・なぜ「気の合う仲間」が出来るのか?文化的学習理論による「仲間」作り	学習理論
第七回	最近の少年は「キレやすい」のか?:少年犯罪を巡る統計とレイベリング論	統計の陥穽
第八回	少年犯罪は「凶悪化」しているのか?:社会問題の構成主義	マスメディアと少年非行
第九回	地域や家族による支援はどこまで有効なのか:他者との繋がりと紐帯理論	地域、NPO
第十回	「引きこもり」は何故起きるのか?:私事化する社会での青年意識	コミュニケーションの高度化
第十一回	Part3:現代社会の病理の諸相:社会病理の現在・目立つことと目立たぬこと:劇場化する社会	劇場型犯罪
第十二回	なぜ「家族」に問題を求めるのか?:トラウマとアディクション	アダルト・チルドレン
第十三回	「語ること」でラクになる?:ナラティブ・アプローチという相互行為	セルフヘルプ・グループ
第十四回	病理の過剰/病理の過剰:医療化の進展と社会病理	医療化、心理主義化
第十五回	まとめ:「心」の病理と「社会」の病理	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

- ・毎回指示する、参考課題図書を出るだけ読むこと。
- ・各パート毎に、自らの考えを纏めること。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	授業内容を踏まえ、自らの視点で社会病理を分析出来ているかで判断する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

- ・社会病理は社会そのものを映し出す鏡である。日頃から新聞やニュース等に注目すること(但し、うのみにしないこと)。

教科書 / Textbooks

特に指定しない。レジュメ、資料等を必要に応じて配布する。

参考書 / Reference Books

必要に応じて紹介するが、社会病理学の学説史を押さえたものとして徳岡秀雄『社会病理を考える』世界思想社、宝月誠『逸脱とコントロールの社会学』有斐閣、佐々木嬉代三『社会病理学と社会的現実』学文社を挙げておく。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference**その他 / Others**

社会福祉援助技術現場実習 SA § 社会福祉援助技術現場実習 SG

20232

担当者名 / Instructor 岡田 まり

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

この授業は「社会福祉援助技術実習指導Ⅱ」で配属された施設・機関で実習を行う。夏期を中心に行うが、実習先の都合により後期セメスターに実習を行うこともある。

到達目標 / Attainment Objectives

社会福祉援助技術実習分野に関係する社会福祉制度・政策についての十分な知識を獲得するとともに、実習分野に関する現実的な問題状況についても認識を深め、現場実習によって十分な成果を獲得する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本科目の履修にあたり、「社会福祉援助技術実習指導Ⅰ」の履修は必須となる。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回		
第2回		
第3回		
第4回		
第5回		
第6回		
第7回		
第8回		
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

社会福祉施設や機関の見学やボランティア活動などを積極的にに行い、自主的に問題意識を深めることが望まれる。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	社会福祉援助技術現場実習の実践経過と成果によって評価を行う。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「ソーシャルワーク実習」	岡田まり他／有斐閣／4-641-05541-6／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

社会福祉援助技術現場実習 SB

20233

担当者名 / Instructor 櫻谷 真理子

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

この授業は「社会福祉援助技術実習指導Ⅱ」で配属された施設・機関で実習を行う。夏期を中心に行うが、実習先の都合により後期セメスターに実習を行うこともある。

到達目標 / Attainment Objectives

社会福祉援助技術実習分野に関係する社会福祉制度・政策についての十分な知識を獲得するとともに、実習分野に関する現実的な問題状況についても認識を深め、現場実習によって十分な成果を獲得する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本科目の履修にあたり、「社会福祉援助技術実習指導Ⅰ」の履修は必須となる。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回		
第2回		
第3回		
第4回		
第5回		
第6回		
第7回		
第8回		
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

社会福祉施設や機関の見学やボランティア活動などを積極的にに行い、自主的に問題意識を深めることが望まれる。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	社会福祉援助技術現場実習の実践経過と成果によって評価を行う。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「ソーシャルワーク実習」	岡田まり他 / 有斐閣 / 4-641-05541-6 /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

社会福祉援助技術現場実習 SC § 社会福祉援助技術現場実習 SC

20234

担当者名 / Instructor 芝田 英昭

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

この授業は「社会福祉援助技術実習指導Ⅱ」で配属された施設・機関で実習を行う。夏期を中心に行うが、実習先の都合により後期セメスターに実習を行うこともある。

到達目標 / Attainment Objectives

社会福祉援助技術実習分野に関係する社会福祉制度・政策についての十分な知識を獲得するとともに、実習分野に関する現実的な問題状況についても認識を深め、現場実習によって十分な成果を獲得する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本科目の履修にあたり、「社会福祉援助技術実習指導Ⅰ」の履修は必須となる。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回		
第2回		
第3回		
第4回		
第5回		
第6回		
第7回		
第8回		
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

社会福祉施設や機関の見学やボランティア活動などを積極的にに行い、自主的に問題意識を深めることが望まれる。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	社会福祉援助技術現場実習の実践経過と成果によって評価を行う。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「ソーシャルワーク実習」	岡田まり他 / 有斐閣 / 4-641-05541-6 /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

社会福祉援助技術現場実習 SD

20235

担当人名 / Instructor 村本 邦子

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

この授業は「社会福祉援助技術実習指導Ⅱ」で配属された施設・機関で実習を行う。夏期を中心に行うが、実習先の都合により後期セメスターに実習を行うこともある。

到達目標 / Attainment Objectives

社会福祉援助技術実習分野に関係する社会福祉制度・政策についての十分な知識を獲得するとともに、実習分野に関する現実的な問題状況についても認識を深め、現場実習によって十分な成果を獲得する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本科目の履修にあたり、「社会福祉援助技術実習指導Ⅰ」の履修は必須となる。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回		
第2回		
第3回		
第4回		
第5回		
第6回		
第7回		
第8回		
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

社会福祉施設や機関の見学やボランティア活動などを積極的に行い、自主的に問題意識を深めることが望まれる。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	社会福祉援助技術現場実習の実践経過と成果によって評価を行う。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「ソーシャルワーク実習」	岡田まり他 / 有斐閣 / 4-641-05541-6 /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

社会福祉援助技術現場実習 SE

20236

担当者名 / Instructor 小川 栄二

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

この授業は「社会福祉援助技術実習指導Ⅱ」で配属された施設・機関で実習を行う。夏期を中心に行うが、実習先の都合により後期セメスターに実習を行うこともある。

到達目標 / Attainment Objectives

社会福祉援助技術実習分野に関係する社会福祉制度・政策についての十分な知識を獲得するとともに、実習分野に関する現実的な問題状況についても認識を深め、現場実習によって十分な成果を獲得する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本科目の履修にあたり、「社会福祉援助技術実習指導Ⅰ」の履修は必須となる。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回		
第2回		
第3回		
第4回		
第5回		
第6回		
第7回		
第8回		
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

社会福祉施設や機関の見学やボランティア活動などを積極的に行い、自主的に問題意識を深めることが望まれる。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	社会福祉援助技術現場実習の実践経過と成果によって評価を行う。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「ソーシャルワーク実習」	岡田まり他 / 有斐閣 / 4-641-05541-6 /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

社会福祉援助技術現場実習 SF

20228

担当者名 / Instructor 峰島 厚

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

この授業は「社会福祉援助技術実習指導Ⅱ」で配属された施設・機関で実習を行う。夏期を中心に行うが、実習先の都合により後期セメスターに実習を行うこともある。

到達目標 / Attainment Objectives

社会福祉援助技術実習分野に関係する社会福祉制度・政策についての十分な知識を獲得するとともに、実習分野に関する現実的な問題状況についても認識を深め、現場実習によって十分な成果を獲得する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本科目の履修にあたり、「社会福祉援助技術実習指導Ⅰ」の履修は必須となる。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回		
第2回		
第3回		
第4回		
第5回		
第6回		
第7回		
第8回		
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

社会福祉施設や機関の見学やボランティア活動などを積極的に行い、自主的に問題意識を深めることが望まれる。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	社会福祉援助技術現場実習の実践経過と成果によって評価を行う。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「ソーシャルワーク実習」	岡田まり他 / 有斐閣 / 4-641-05541-6 /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

社会福祉援助技術現場実習 SG

20229

担当者名 / Instructor 山本 耕平

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

この授業は「社会福祉援助技術実習指導Ⅱ」で配属された施設・機関で実習を行う。夏期を中心に行うが、実習先の都合により後期セメスターに実習を行うこともある。

到達目標 / Attainment Objectives

社会福祉援助技術実習分野に関係する社会福祉制度・政策についての十分な知識を獲得するとともに、実習分野に関する現実的な問題状況についても認識を深め、現場実習によって十分な成果を獲得する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本科目の履修にあたり、「社会福祉援助技術実習指導Ⅰ」の履修は必須となる。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回		
第2回		
第3回		
第4回		
第5回		
第6回		
第7回		
第8回		
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

社会福祉施設や機関の見学やボランティア活動などを積極的に行い、自主的に問題意識を深めることが望まれる。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	社会福祉援助技術現場実習の実践経過と成果によって評価を行う。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「ソーシャルワーク実習」	岡田まり他 / 有斐閣 / 4-641-05541-6 /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

社会福祉援助技術現場実習 SH

20230

担当者名 / Instructor 秋葉 武

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

この授業は「社会福祉援助技術実習指導Ⅱ」で配属された施設・機関で実習を行う。夏期を中心に行うが、実習先の都合により後期セメスターに実習を行うこともある。

到達目標 / Attainment Objectives

社会福祉援助技術実習分野に関係する社会福祉制度・政策についての十分な知識を獲得するとともに、実習分野に関する現実的な問題状況についても認識を深め、現場実習によって十分な成果を獲得する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本科目の履修にあたり、「社会福祉援助技術実習指導Ⅰ」の履修は必須となる。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回		
第2回		
第3回		
第4回		
第5回		
第6回		
第7回		
第8回		
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

社会福祉施設や機関の見学やボランティア活動などを積極的にに行い、自主的に問題意識を深めることが望まれる。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	社会福祉援助技術現場実習の実践経過と成果によって評価を行う。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「ソーシャルワーク実習」	岡田まり他 / 有斐閣 / 4-641-05541-6 /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

社会福祉援助技術現場実習 SI

本文無し

担当者名 / Instructor単位数 / Credit授業の概要 / Course Outline到達目標 / Attainment Objectives履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study授業スケジュール / Course Schedule(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods教科書 / Textbooks参考書 / Reference Books参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Referenceその他 / Others

社会福祉援助技術実習指導II SA § 社会福祉援助技術実習指導II SA

12777

担当者名 / Instructor 岡田 まり

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

この授業は「人間福祉演習Ⅲ」と連動しており、実習に向けた事前学習を行う。実習先の現状や課題、機能、体制などの状況をより詳しく理解し、実習に対するイメージを明確にする。実習先となる社会福祉の現場理解を重視した内容とする。

到達目標 / Attainment Objectives

社会福祉援助技術実習分野に関係する社会福祉制度・政策についての十分な知識を獲得するとともに、実習分野に関する現実的な問題状況についても認識を深め、実習によって十分な成果が得られるための必要な準備を行う。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本科目の履修にあたり、「社会福祉援助技術実習指導Ⅰ」の履修は必須となる。また、「社会福祉援助技術論Ⅰ」「社会福祉援助技術論Ⅱ」の履修が望まれる。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の概要と導入	
第2回	社会福祉現場についての専門的理解(1)	
第3回	社会福祉現場についての専門的理解(2)	
第4回	社会福祉現場についての専門的理解(3)	
第5回	社会福祉現場についての専門的理解(4)	
第6回	社会福祉現場についての専門的理解(5)	
第7回	課題についてのグループ討議(1)	
第8回	課題についてのグループ討議(2)	
第9回	課題についてのグループ討議(3)	
第10回	課題についてのグループ討議(4)	
第11回	課題についてのグループ討議(5)	
第12回	実習に向けた個別ヒアリング(1)	
第13回	実習に向けた個別ヒアリング(2)	
第14回	実習に向けた個別ヒアリング(3)	
第15回	実習に向けた個別ヒアリング(4)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	毎回、個別に講義や討論等の内容をまとめたレポートを作成する。理解の深さ、討論の深さとともに、レポートの客観性や論理性についても評価する。また、講義への質問内容や討論への参加度も評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

- ・この授業はあらかじめクラス指定があるため科目登録の際は注意すること。
- ・4週間の福祉施設・機関・団体における実習の事前学習であるため、毎回必ず出席すること。
- ・実習先の事前学習や訪問学習についても必要に応じて提起するので毎週の演習以外にも時間を工面すること。
- ・出席状況等に問題がある場合は、現場実習を履修できない場合があるので注意すること。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「ソーシャルワーク実習」	岡田まり他編/有斐閣/4-641-05541-6/

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

社会福祉援助技術実習指導II SB § 社会福祉援助技術実習指導II SB

12778

担当者名 / Instructor 櫻谷 真理子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

この授業は「人間福祉演習Ⅲ」と連動しており、実習に向けた事前学習を行う。実習先の現状や課題、機能、体制などの状況をより詳しく理解し、実習に対するイメージを明確にする。実習先となる社会福祉の現場理解を重視した内容とする。

到達目標 / Attainment Objectives

社会福祉援助技術実習分野に関係する社会福祉制度・政策についての十分な知識を獲得するとともに、実習分野に関する現実的な問題状況についても認識を深め、実習によって十分な成果が得られるための必要な準備を行う。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本科目の履修にあたり、「社会福祉援助技術実習指導Ⅰ」の履修は必須となる。また、「社会福祉援助技術論Ⅰ」「社会福祉援助技術論Ⅱ」の履修が望まれる。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の概要と導入	
第2回	社会福祉現場についての専門的理解(1)	
第3回	社会福祉現場についての専門的理解(2)	
第4回	社会福祉現場についての専門的理解(3)	
第5回	社会福祉現場についての専門的理解(4)	
第6回	社会福祉現場についての専門的理解(5)	
第7回	課題についてのグループ討議(1)	
第8回	課題についてのグループ討議(2)	
第9回	課題についてのグループ討議(3)	
第10回	課題についてのグループ討議(4)	
第11回	課題についてのグループ討議(5)	
第12回	実習に向けた個別ヒアリング(1)	
第13回	実習に向けた個別ヒアリング(2)	
第14回	実習に向けた個別ヒアリング(3)	
第15回	実習に向けた個別ヒアリング(4)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	毎回、個別に講義や討論等の内容をまとめたレポートを作成する。理解の深さ、討論の深さとともに、レポートの客観性や論理性についても評価する。また、講義への質問内容や討論への参加度も評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

- ・この授業はあらかじめクラス指定があるため科目登録の際は注意すること。
- ・4週間の福祉施設・機関・団体における実習の事前学習であるため、毎回必ず出席すること。
- ・実習先の事前学習や訪問学習についても必要に応じて提起するので毎週の演習以外にも時間を工面すること。
- ・出席状況等に問題がある場合は、現場実習を履修できない場合があるので注意すること。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「ソーシャルワーク実習」	岡田まり他編 / 有斐閣 / 4-641-05541-6 /

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

社会福祉援助技術実習指導II SC § 社会福祉援助技術実習指導II SC

12779

担当者名 / Instructor 井上 公子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

この授業は「人間福祉演習Ⅲ」と連動しており、実習に向けた事前学習を行う。実習先の現状や課題、機能、体制などの状況をより詳しく理解し、実習に対するイメージを明確にする。実習先となる社会福祉の現場理解を重視した内容とする。

到達目標 / Attainment Objectives

社会福祉援助技術実習分野に関係する社会福祉制度・政策についての十分な知識を獲得するとともに、実習分野に関する現実的な問題状況についても認識を深め、実習によって十分な成果が得られるための必要な準備を行う。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本科目の履修にあたり、「社会福祉援助技術実習指導Ⅰ」の履修は必須となる。また、「社会福祉援助技術論Ⅰ」「社会福祉援助技術論Ⅱ」の履修が望まれる。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の概要と導入	
第2回	社会福祉現場についての専門的理解(1)	
第3回	社会福祉現場についての専門的理解(2)	
第4回	社会福祉現場についての専門的理解(3)	
第5回	社会福祉現場についての専門的理解(4)	
第6回	社会福祉現場についての専門的理解(5)	
第7回	課題についてのグループ討議(1)	
第8回	課題についてのグループ討議(2)	
第9回	課題についてのグループ討議(3)	
第10回	課題についてのグループ討議(4)	
第11回	課題についてのグループ討議(5)	
第12回	実習に向けた個別ヒアリング(1)	
第13回	実習に向けた個別ヒアリング(2)	
第14回	実習に向けた個別ヒアリング(3)	
第15回	実習に向けた個別ヒアリング(4)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	毎回、個別に講義や討論等の内容をまとめたレポートを作成する。理解の深さ、討論の深さとともに、レポートの客観性や論理性についても評価する。また、講義への質問内容や討論への参加度も評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

- ・この授業はあらかじめクラス指定があるため科目登録の際は注意すること。
- ・4週間の福祉施設・機関・団体における実習の事前学習であるため、毎回必ず出席すること。
- ・実習先の事前学習や訪問学習についても必要に応じて提起するので毎週の演習以外にも時間を工面すること。
- ・出席状況等に問題がある場合は、現場実習を履修できない場合があるので注意すること。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「ソーシャルワーク実習」	岡田まり他編 / 有斐閣 / 4-641-05541-6 /

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

社会福祉援助技術実習指導II SD § 社会福祉援助技術実習指導II SD

12780

担当者名 / Instructor 廣末 利弥

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

この授業は「人間福祉演習Ⅲ」と連動しており、実習に向けた事前学習を行う。実習先の現状や課題、機能、体制などの状況をより詳しく理解し、実習に対するイメージを明確にする。実習先となる社会福祉の現場理解を重視した内容とする。

到達目標 / Attainment Objectives

社会福祉援助技術実習分野に関係する社会福祉制度・政策についての十分な知識を獲得するとともに、実習分野に関する現実的な問題状況についても認識を深め、実習によって十分な成果が得られるための必要な準備を行う。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本科目の履修にあたり、「社会福祉援助技術実習指導Ⅰ」の履修は必須となる。また、「社会福祉援助技術論Ⅰ」「社会福祉援助技術論Ⅱ」の履修が望まれる。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の概要と導入	
第2回	社会福祉現場についての専門的理解(1)	
第3回	社会福祉現場についての専門的理解(2)	
第4回	社会福祉現場についての専門的理解(3)	
第5回	社会福祉現場についての専門的理解(4)	
第6回	社会福祉現場についての専門的理解(5)	
第7回	課題についてのグループ討議(1)	
第8回	課題についてのグループ討議(2)	
第9回	課題についてのグループ討議(3)	
第10回	課題についてのグループ討議(4)	
第11回	課題についてのグループ討議(5)	
第12回	実習に向けた個別ヒアリング(1)	
第13回	実習に向けた個別ヒアリング(2)	
第14回	実習に向けた個別ヒアリング(3)	
第15回	実習に向けた個別ヒアリング(4)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	毎回、個別に講義や討論等の内容をまとめたレポートを作成する。理解の深さ、討論の深さとともに、レポートの客観性や論理性についても評価する。また、講義への質問内容や討論への参加度も評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

- ・この授業はあらかじめクラス指定があるため科目登録の際は注意すること。
- ・4週間の福祉施設・機関・団体における実習の事前学習であるため、毎回必ず出席すること。
- ・実習先の事前学習や訪問学習についても必要に応じて提起するので毎週の演習以外にも時間を工面すること。
- ・出席状況等に問題がある場合は、現場実習を履修できない場合があるので注意すること。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「ソーシャルワーク実習」	岡田まり他編 / 有斐閣 / 4-641-05541-6 /

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

社会福祉援助技術実習指導II SE § 社会福祉援助技術実習指導II SE

12781

担当者名 / Instructor 小川 栄二

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

この授業は「人間福祉演習Ⅲ」と連動しており、実習に向けた事前学習を行う。実習先の現状や課題、機能、体制などの状況をより詳しく理解し、実習に対するイメージを明確にする。実習先となる社会福祉の現場理解を重視した内容とする。

到達目標 / Attainment Objectives

社会福祉援助技術実習分野に関係する社会福祉制度・政策についての十分な知識を獲得するとともに、実習分野に関する現実的な問題状況についても認識を深め、実習によって十分な成果が得られるための必要な準備を行う。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本科目の履修にあたり、「社会福祉援助技術実習指導Ⅰ」の履修は必須となる。また、「社会福祉援助技術論Ⅰ」「社会福祉援助技術論Ⅱ」の履修が望まれる。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の概要と導入	
第2回	社会福祉現場についての専門的理解(1)	
第3回	社会福祉現場についての専門的理解(2)	
第4回	社会福祉現場についての専門的理解(3)	
第5回	社会福祉現場についての専門的理解(4)	
第6回	社会福祉現場についての専門的理解(5)	
第7回	課題についてのグループ討議(1)	
第8回	課題についてのグループ討議(2)	
第9回	課題についてのグループ討議(3)	
第10回	課題についてのグループ討議(4)	
第11回	課題についてのグループ討議(5)	
第12回	実習に向けた個別ヒアリング(1)	
第13回	実習に向けた個別ヒアリング(2)	
第14回	実習に向けた個別ヒアリング(3)	
第15回	実習に向けた個別ヒアリング(4)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	毎回、個別に講義や討論等の内容をまとめたレポートを作成する。理解の深さ、討論の深さとともに、レポートの客観性や論理性についても評価する。また、講義への質問内容や討論への参加度も評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

- ・この授業はあらかじめクラス指定があるため科目登録の際は注意すること。
- ・4週間の福祉施設・機関・団体における実習の事前学習であるため、毎回必ず出席すること。
- ・実習先の事前学習や訪問学習についても必要に応じて提起するので毎週の演習以外にも時間を工面すること。
- ・出席状況等に問題がある場合は、現場実習を履修できない場合があるので注意すること。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「ソーシャルワーク実習」	岡田まり他編 / 有斐閣 / 4-641-05541-6 /

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

社会福祉援助技術実習指導II SF § 社会福祉援助技術実習指導II SF

12782

担当者名 / Instructor 山田 尋志

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

この授業は「人間福祉演習Ⅲ」と連動しており、実習に向けた事前学習を行う。実習先の現状や課題、機能、体制などの状況をより詳しく理解し、実習に対するイメージを明確にする。実習先となる社会福祉の現場理解を重視した内容とする。

到達目標 / Attainment Objectives

社会福祉援助技術実習分野に関係する社会福祉制度・政策についての十分な知識を獲得するとともに、実習分野に関する現実的な問題状況についても認識を深め、実習によって十分な成果が得られるための必要な準備を行う。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本科目の履修にあたり、「社会福祉援助技術実習指導Ⅰ」の履修は必須となる。また、「社会福祉援助技術論Ⅰ」「社会福祉援助技術論Ⅱ」の履修が望まれる。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の概要と導入	
第2回	社会福祉現場についての専門的理解(1)	
第3回	社会福祉現場についての専門的理解(2)	
第4回	社会福祉現場についての専門的理解(3)	
第5回	社会福祉現場についての専門的理解(4)	
第6回	社会福祉現場についての専門的理解(5)	
第7回	課題についてのグループ討議(1)	
第8回	課題についてのグループ討議(2)	
第9回	課題についてのグループ討議(3)	
第10回	課題についてのグループ討議(4)	
第11回	課題についてのグループ討議(5)	
第12回	実習に向けた個別ヒアリング(1)	
第13回	実習に向けた個別ヒアリング(2)	
第14回	実習に向けた個別ヒアリング(3)	
第15回	実習に向けた個別ヒアリング(4)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	毎回、個別に講義や討論等の内容をまとめたレポートを作成する。理解の深さ、討論の深さとともに、レポートの客観性や論理性についても評価する。また、講義への質問内容や討論への参加度も評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

- ・この授業はあらかじめクラス指定があるため科目登録の際は注意すること。
- ・4週間の福祉施設・機関・団体における実習の事前学習であるため、毎回必ず出席すること。
- ・実習先の事前学習や訪問学習についても必要に応じて提起するので毎週の演習以外にも時間を工面すること。
- ・出席状況等に問題がある場合は、現場実習を履修できない場合があるので注意すること。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「ソーシャルワーク実習」	岡田まり他編 / 有斐閣 / 4-641-05541-6 /

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

社会福祉援助技術実習指導II SG § 社会福祉援助技術実習指導II SG

12783

担当人名 / Instructor 池添 素

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

この授業は「人間福祉演習Ⅲ」と連動しており、実習に向けた事前学習を行う。実習先の現状や課題、機能、体制などの状況をより詳しく理解し、実習に対するイメージを明確にする。実習先となる社会福祉の現場理解を重視した内容とする。

到達目標 / Attainment Objectives

社会福祉援助技術実習分野に関係する社会福祉制度・政策についての十分な知識を獲得するとともに、実習分野に関する現実的な問題状況についても認識を深め、実習によって十分な成果が得られるための必要な準備を行う。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本科目の履修にあたり、「社会福祉援助技術実習指導Ⅰ」の履修は必須となる。また、「社会福祉援助技術論Ⅰ」「社会福祉援助技術論Ⅱ」の履修が望まれる。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の概要と導入	
第2回	社会福祉現場についての専門的理解(1)	
第3回	社会福祉現場についての専門的理解(2)	
第4回	社会福祉現場についての専門的理解(3)	
第5回	社会福祉現場についての専門的理解(4)	
第6回	社会福祉現場についての専門的理解(5)	
第7回	課題についてのグループ討議(1)	
第8回	課題についてのグループ討議(2)	
第9回	課題についてのグループ討議(3)	
第10回	課題についてのグループ討議(4)	
第11回	課題についてのグループ討議(5)	
第12回	実習に向けた個別ヒアリング(1)	
第13回	実習に向けた個別ヒアリング(2)	
第14回	実習に向けた個別ヒアリング(3)	
第15回	実習に向けた個別ヒアリング(4)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	毎回、個別に講義や討論等の内容をまとめたレポートを作成する。理解の深さ、討論の深さとともに、レポートの客観性や論理性についても評価する。また、講義への質問内容や討論への参加度も評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

- ・この授業はあらかじめクラス指定があるため科目登録の際は注意すること。
- ・4週間の福祉施設・機関・団体における実習の事前学習であるため、毎回必ず出席すること。
- ・実習先の事前学習や訪問学習についても必要に応じて提起するので毎週の演習以外にも時間を工面すること。
- ・出席状況等に問題がある場合は、現場実習を履修できない場合があるので注意すること。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「ソーシャルワーク実習」	岡田まり他編 / 有斐閣 / 4-641-05541-6 /

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

社会福祉援助技術実習指導Ⅱ SH § 社会福祉援助技術実習指導Ⅱ SH

12784

担当者名 / Instructor 高橋 正人

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

この授業は「人間福祉演習Ⅲ」と連動しており、実習に向けた事前学習を行う。実習先の現状や課題、機能、体制などの状況をより詳しく理解し、実習に対するイメージを明確にする。実習先となる社会福祉の現場理解を重視した内容とする。

到達目標 / Attainment Objectives

社会福祉援助技術実習分野に関係する社会福祉制度・政策についての十分な知識を獲得するとともに、実習分野に関する現実的な問題状況についても認識を深め、実習によって十分な成果が得られるための必要な準備を行う。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本科目の履修にあたり、「社会福祉援助技術実習指導Ⅰ」の履修は必須となる。また、「社会福祉援助技術論Ⅰ」「社会福祉援助技術論Ⅱ」の履修が望まれる。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の概要と導入	
第2回	社会福祉現場についての専門的理解(1)	
第3回	社会福祉現場についての専門的理解(2)	
第4回	社会福祉現場についての専門的理解(3)	
第5回	社会福祉現場についての専門的理解(4)	
第6回	社会福祉現場についての専門的理解(5)	
第7回	課題についてのグループ討議(1)	
第8回	課題についてのグループ討議(2)	
第9回	課題についてのグループ討議(3)	
第10回	課題についてのグループ討議(4)	
第11回	課題についてのグループ討議(5)	
第12回	実習に向けた個別ヒアリング(1)	
第13回	実習に向けた個別ヒアリング(2)	
第14回	実習に向けた個別ヒアリング(3)	
第15回	実習に向けた個別ヒアリング(4)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	毎回、個別に講義や討論等の内容をまとめたレポートを作成する。理解の深さ、討論の深さとともに、レポートの客観性や論理性についても評価する。また、講義への質問内容や討論への参加度も評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

- ・この授業はあらかじめクラス指定があるため科目登録の際は注意すること。
- ・4週間の福祉施設・機関・団体における実習の事前学習であるため、毎回必ず出席すること。
- ・実習先の事前学習や訪問学習についても必要に応じて提起するので毎週の演習以外にも時間を工面すること。
- ・出席状況等に問題がある場合は、現場実習を履修できない場合があるので注意すること。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「ソーシャルワーク実習」	岡田まり他編 / 有斐閣 / 4-641-05541-6 /

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

社会福祉援助技術実習指導Ⅲ SA § 社会福祉援助技術実習指導Ⅲ SA

12803

担当者名 / Instructor 岡田 まり

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

この授業は「人間福祉演習Ⅲ」と連動しており、実習の事後学習を基本とする。実習体験をフィードバックし、実習計画や実習課題がいかに達成されたか、これらの課題は何かについて、個別あるいはグループ学習の中で報告・確認していく場とする。また各自の実習を振り返り、社会福祉現場の現状や課題、機能、体制などの状況をより深く理解するとともに、これからの社会福祉及び社会福祉従事者について考察する。

到達目標 / Attainment Objectives

社会福祉援助技術現場実習についての成果を整理し、社会福祉に関する専門的な学習を深めるための総括をすることができる。社会福祉現場実習によって、社会福祉実践に対する十分な理解を踏まえた我が国の社会福祉制度・政策の問題点や社会福祉問題について、的確な判断ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本科目の履修にあたり、「社会福祉援助技術実習指導Ⅱ」の履修は必須となる。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の概要と導入	
第2回	実習報告(1)	
第3回	実習報告(2)	
第4回	実習報告(3)	
第5回	実習報告(4)	
第6回	課題についての合同クラス報告(1)	
第7回	課題についての合同クラス報告(2)	
第8回	課題についての合同クラス報告(3)	
第9回	課題についての合同クラス報告(4)	
第10回	実習報告会の事前討議(1)	
第11回	実習報告会の事前討議(2)	
第12回	実習報告会	
第13回	報告書作成(1)	
第14回	報告書作成(2)	
第15回	実習総括討議(シンポジウム開催)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

社会福祉施設や機関の見学やボランティア活動などを積極的にに行い、自主的に問題意識を深めることが望まれる。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	毎回、個別に講義や討論等の内容をまとめたレポートを作成する。理解の深さ、討論の深さとともに、レポートの客観性や論理性についても評価する。また、講義への質問内容や討論への参加度も評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「ソーシャルワーク実習」	岡田まり他編 / 有斐閣 / 4-641-05541-6 /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

担当者名 / Instructor 櫻谷 真理子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

この授業は「人間福祉演習Ⅲ」と連動しており、実習の事後学習を基本とする。実習体験をフィードバックし、実習計画や実習課題がいかに達成されたか、これらの課題は何かについて、個別あるいはグループ学習の中で報告・確認していく場とする。また各自の実習を振り返り、社会福祉現場の現状や課題、機能、体制などの状況をより深く理解するとともに、これからの社会福祉及び社会福祉従事者について考察する。

到達目標 / Attainment Objectives

社会福祉援助技術現場実習についての成果を整理し、社会福祉に関する専門的な学習を深めるための総括をすることができる。社会福祉現場実習によって、社会福祉実践に対する十分な理解を踏まえた我が国の社会福祉制度・政策の問題点や社会福祉問題について、的確な判断ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本科目の履修にあたり、「社会福祉援助技術実習指導Ⅱ」の履修は必須となる。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の概要と導入	
第2回	実習報告(1)	
第3回	実習報告(2)	
第4回	実習報告(3)	
第5回	実習報告(4)	
第6回	課題についての合同クラス報告(1)	
第7回	課題についての合同クラス報告(2)	
第8回	課題についての合同クラス報告(3)	
第9回	課題についての合同クラス報告(4)	
第10回	実習報告会の事前討議(1)	
第11回	実習報告会の事前討議(2)	
第12回	実習報告会	
第13回	報告書作成(1)	
第14回	報告書作成(2)	
第15回	実習総括討議(シンポジウム開催)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study**(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method**

社会福祉施設や機関の見学やボランティア活動などを積極的にに行い、自主的に問題意識を深めることが望まれる。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	毎回、個別に講義や討論等の内容をまとめたレポートを作成する。理解の深さ、討論の深さとともに、レポートの客観性や論理性についても評価する。また、講義への質問内容や討論への参加度も評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods**教科書 / Textbooks****参考書 / Reference Books**

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「ソーシャルワーク実習」	岡田まり他編 / 有斐閣 / 4-641-05541-6 /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference**その他 / Others**

社会福祉援助技術実習指導Ⅲ SC § 社会福祉援助技術実習指導Ⅲ SC

12805

担当者名 / Instructor 井上 公子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

この授業は「人間福祉演習Ⅲ」と連動しており、実習の事後学習を基本とする。実習体験をフィードバックし、実習計画や実習課題がいかに達成されたか、これらの課題は何かについて、個別あるいはグループ学習の中で報告・確認していく場とする。また各自の実習を振り返り、社会福祉現場の現状や課題、機能、体制などの状況をより深く理解するとともに、これからの社会福祉及び社会福祉従事者について考察する。

到達目標 / Attainment Objectives

社会福祉援助技術現場実習についての成果を整理し、社会福祉に関する専門的な学習を深めるための総括をすることができる。社会福祉現場実習によって、社会福祉実践に対する十分な理解を踏まえた我が国の社会福祉制度・政策の問題点や社会福祉問題について、的確な判断ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本科目の履修にあたり、「社会福祉援助技術実習指導Ⅱ」の履修は必須となる。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の概要と導入	
第2回	実習報告(1)	
第3回	実習報告(2)	
第4回	実習報告(3)	
第5回	実習報告(4)	
第6回	課題についての合同クラス報告(1)	
第7回	課題についての合同クラス報告(2)	
第8回	課題についての合同クラス報告(3)	
第9回	課題についての合同クラス報告(4)	
第10回	実習報告会の事前討議(1)	
第11回	実習報告会の事前討議(2)	
第12回	実習報告会	
第13回	報告書作成(1)	
第14回	報告書作成(2)	
第15回	実習総括討議(シンポジウム開催)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

社会福祉施設や機関の見学やボランティア活動などを積極的にに行い、自主的に問題意識を深めることが望まれる。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	毎回、個別に講義や討論等の内容をまとめたレポートを作成する。理解の深さ、討論の深さとともに、レポートの客観性や論理性についても評価する。また、講義への質問内容や討論への参加度も評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「ソーシャルワーク実習」	岡田まり他編 / 有斐閣 / 4-641-05541-6 /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

社会福祉援助技術実習指導Ⅲ SD § 社会福祉援助技術実習指導Ⅲ SD

12806

担当者名 / Instructor 廣末 利弥

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

この授業は「人間福祉演習Ⅲ」と連動しており、実習の事後学習を基本とする。実習体験をフィードバックし、実習計画や実習課題がいかに達成されたか、これらの課題は何かについて、個別あるいはグループ学習の中で報告・確認していく場とする。また各自の実習を振り返り、社会福祉現場の現状や課題、機能、体制などの状況をより深く理解するとともに、これからの社会福祉及び社会福祉従事者について考察する。

到達目標 / Attainment Objectives

社会福祉援助技術現場実習についての成果を整理し、社会福祉に関する専門的な学習を深めるための総括をすることができる。社会福祉現場実習によって、社会福祉実践に対する十分な理解を踏まえた我が国の社会福祉制度・政策の問題点や社会福祉問題について、的確な判断ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本科目の履修にあたり、「社会福祉援助技術実習指導Ⅱ」の履修は必須となる。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の概要と導入	
第2回	実習報告(1)	
第3回	実習報告(2)	
第4回	実習報告(3)	
第5回	実習報告(4)	
第6回	課題についての合同クラス報告(1)	
第7回	課題についての合同クラス報告(2)	
第8回	課題についての合同クラス報告(3)	
第9回	課題についての合同クラス報告(4)	
第10回	実習報告会の事前討議(1)	
第11回	実習報告会の事前討議(2)	
第12回	実習報告会	
第13回	報告書作成(1)	
第14回	報告書作成(2)	
第15回	実習総括討議(シンポジウム開催)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

社会福祉施設や機関の見学やボランティア活動などを積極的にに行い、自主的に問題意識を深めることが望まれる。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	毎回、個別に講義や討論等の内容をまとめたレポートを作成する。理解の深さ、討論の深さとともに、レポートの客観性や論理性についても評価する。また、講義への質問内容や討論への参加度も評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「ソーシャルワーク実習」	岡田まり他編 / 有斐閣 / 4-641-05541-6 /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

社会福祉援助技術実習指導Ⅲ SE § 社会福祉援助技術実習指導Ⅲ SE

12807

担当者名 / Instructor 小川 栄二

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

この授業は「人間福祉演習Ⅲ」と連動しており、実習の事後学習を基本とする。実習体験をフィードバックし、実習計画や実習課題がいかに達成されたか、これらの課題は何かについて、個別あるいはグループ学習の中で報告・確認していく場とする。また各自の実習を振り返り、社会福祉現場の現状や課題、機能、体制などの状況をより深く理解するとともに、これからの社会福祉及び社会福祉従事者について考察する。

到達目標 / Attainment Objectives

社会福祉援助技術現場実習についての成果を整理し、社会福祉に関する専門的な学習を深めるための総括をすることができる。社会福祉現場実習によって、社会福祉実践に対する十分な理解を踏まえた我が国の社会福祉制度・政策の問題点や社会福祉問題について、的確な判断ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本科目の履修にあたり、「社会福祉援助技術実習指導Ⅱ」の履修は必須となる。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の概要と導入	
第2回	実習報告(1)	
第3回	実習報告(2)	
第4回	実習報告(3)	
第5回	実習報告(4)	
第6回	課題についての合同クラス報告(1)	
第7回	課題についての合同クラス報告(2)	
第8回	課題についての合同クラス報告(3)	
第9回	課題についての合同クラス報告(4)	
第10回	実習報告会の事前討議(1)	
第11回	実習報告会の事前討議(2)	
第12回	実習報告会	
第13回	報告書作成(1)	
第14回	報告書作成(2)	
第15回	実習総括討議(シンポジウム開催)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

社会福祉施設や機関の見学やボランティア活動などを積極的にに行い、自主的に問題意識を深めることが望まれる。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	毎回、個別に講義や討論等の内容をまとめたレポートを作成する。理解の深さ、討論の深さとともに、レポートの客観性や論理性についても評価する。また、講義への質問内容や討論への参加度も評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「ソーシャルワーク実習」	岡田まり他編 / 有斐閣 / 4-641-05541-6 /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

社会福祉援助技術実習指導Ⅲ SF § 社会福祉援助技術実習指導Ⅲ SF

12808

担当者名 / Instructor 山田 尋志

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

この授業は「人間福祉演習Ⅲ」と連動しており、実習の事後学習を基本とする。実習体験をフィードバックし、実習計画や実習課題がいかに達成されたか、これらの課題は何かについて、個別あるいはグループ学習の中で報告・確認していく場とする。また各自の実習を振り返り、社会福祉現場の現状や課題、機能、体制などの状況をより深く理解するとともに、これからの社会福祉及び社会福祉従事者について考察する。

到達目標 / Attainment Objectives

社会福祉援助技術現場実習についての成果を整理し、社会福祉に関する専門的な学習を深めるための総括をすることができる。社会福祉現場実習によって、社会福祉実践に対する十分な理解を踏まえた我が国の社会福祉制度・政策の問題点や社会福祉問題について、的確な判断ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本科目の履修にあたり、「社会福祉援助技術実習指導Ⅱ」の履修は必須となる。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の概要と導入	
第2回	実習報告(1)	
第3回	実習報告(2)	
第4回	実習報告(3)	
第5回	実習報告(4)	
第6回	課題についての合同クラス報告(1)	
第7回	課題についての合同クラス報告(2)	
第8回	課題についての合同クラス報告(3)	
第9回	課題についての合同クラス報告(4)	
第10回	実習報告会の事前討議(1)	
第11回	実習報告会の事前討議(2)	
第12回	実習報告会	
第13回	報告書作成(1)	
第14回	報告書作成(2)	
第15回	実習総括討議(シンポジウム開催)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

社会福祉施設や機関の見学やボランティア活動などを積極的にに行い、自主的に問題意識を深めることが望まれる。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	毎回、個別に講義や討論等の内容をまとめたレポートを作成する。理解の深さ、討論の深さとともに、レポートの客観性や論理性についても評価する。また、講義への質問内容や討論への参加度も評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「ソーシャルワーク実習」	岡田まり他編 / 有斐閣 / 4-641-05541-6 /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

社会福祉援助技術実習指導Ⅲ SG § 社会福祉援助技術実習指導Ⅲ SG

12809

担当者名 / Instructor 池添 素

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

この授業は「人間福祉演習Ⅲ」と連動しており、実習の事後学習を基本とする。実習体験をフィードバックし、実習計画や実習課題がいかに達成されたか、これらの課題は何かについて、個別あるいはグループ学習の中で報告・確認していく場とする。また各自の実習を振り返り、社会福祉現場の現状や課題、機能、体制などの状況をより深く理解するとともに、これからの社会福祉及び社会福祉従事者について考察する。

到達目標 / Attainment Objectives

社会福祉援助技術現場実習についての成果を整理し、社会福祉に関する専門的な学習を深めるための総括をすることができる。社会福祉現場実習によって、社会福祉実践に対する十分な理解を踏まえた我が国の社会福祉制度・政策の問題点や社会福祉問題について、的確な判断ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本科目の履修にあたり、「社会福祉援助技術実習指導Ⅱ」の履修は必須となる。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の概要と導入	
第2回	実習報告(1)	
第3回	実習報告(2)	
第4回	実習報告(3)	
第5回	実習報告(4)	
第6回	課題についての合同クラス報告(1)	
第7回	課題についての合同クラス報告(2)	
第8回	課題についての合同クラス報告(3)	
第9回	課題についての合同クラス報告(4)	
第10回	実習報告会の事前討議(1)	
第11回	実習報告会の事前討議(2)	
第12回	実習報告会	
第13回	報告書作成(1)	
第14回	報告書作成(2)	
第15回	実習総括討議(シンポジウム開催)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

社会福祉施設や機関の見学やボランティア活動などを積極的にに行い、自主的に問題意識を深めることが望まれる。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	毎回、個別に講義や討論等の内容をまとめたレポートを作成する。理解の深さ、討論の深さとともに、レポートの客観性や論理性についても評価する。また、講義への質問内容や討論への参加度も評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「ソーシャルワーク実習」	岡田まり他編 / 有斐閣 / 4-641-05541-6 /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

社会福祉援助技術実習指導Ⅲ SH § 社会福祉援助技術実習指導Ⅲ SH

12810

担当者名 / Instructor 高橋 正人

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

この授業は「人間福祉演習Ⅲ」と連動しており、実習の事後学習を基本とする。実習体験をフィードバックし、実習計画や実習課題がいかに達成されたか、これらの課題は何かについて、個別あるいはグループ学習の中で報告・確認していく場とする。また各自の実習を振り返り、社会福祉現場の現状や課題、機能、体制などの状況をより深く理解するとともに、これからの社会福祉及び社会福祉従事者について考察する。

到達目標 / Attainment Objectives

社会福祉援助技術現場実習についての成果を整理し、社会福祉に関する専門的な学習を深めるための総括をすることができる。社会福祉現場実習によって、社会福祉実践に対する十分な理解を踏まえた我が国の社会福祉制度・政策の問題点や社会福祉問題について、的確な判断ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本科目の履修にあたり、「社会福祉援助技術実習指導Ⅱ」の履修は必須となる。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の概要と導入	
第2回	実習報告(1)	
第3回	実習報告(2)	
第4回	実習報告(3)	
第5回	実習報告(4)	
第6回	課題についての合同クラス報告(1)	
第7回	課題についての合同クラス報告(2)	
第8回	課題についての合同クラス報告(3)	
第9回	課題についての合同クラス報告(4)	
第10回	実習報告会の事前討議(1)	
第11回	実習報告会の事前討議(2)	
第12回	実習報告会	
第13回	報告書作成(1)	
第14回	報告書作成(2)	
第15回	実習総括討議(シンポジウム開催)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

社会福祉施設や機関の見学やボランティア活動などを積極的にに行い、自主的に問題意識を深めることが望まれる。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	毎回、個別に講義や討論等の内容をまとめたレポートを作成する。理解の深さ、討論の深さとともに、レポートの客観性や論理性についても評価する。また、講義への質問内容や討論への参加度も評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「ソーシャルワーク実習」	岡田まり他編 / 有斐閣 / 4-641-05541-6 /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

担当者名 / Instructor 小川 栄二

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

社会福祉活動(ソーシャルワーク)の総括原理を以下の内容で講義する。社会福祉活動(ソーシャルワーク)の対象である対人援助課題、社会福祉課題、生活問題の現実と出現経路を学び、公的社会福祉制度と社会福祉活動(ソーシャルワーク)との必要性を学ぶ。社会福祉活動(ソーシャルワーク)の概要・体系と社会福祉制度と社会福祉活動(ソーシャルワーク)の関係を学ぶ。社会福祉活動(ソーシャルワーク)展開、関連する方法・技法の基本的な知識と社会福祉援助活動の共通課題を学ぶ。社会福祉活動の場・従事者の実情を学。社会福祉活動の構造を国民生活の状況、改善を求めるイニシアティブ、国家による制度の関係を学ぶ。社会福祉従事者の現状と倫理を学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

社会福祉活動の対象となる国民生活問題を理解する。社会福祉活動の原理と構造を理解する。社会福祉活動の基礎的知識と理論を理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

社会保障論、社会福祉六法に関する各福祉論(公的扶助論、老人福祉論など)

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	①授業の概要と導入 ②社会福祉援助活動を理解するための事例——対人援助課題	「社会福祉援助技術」という用語、生活上の困難性、社会福祉援助
2	社会福祉援助活動を理解するための視点(1)——事例から生活問題の具体的把握へ	生活問題
3	社会福祉援助活動を理解するための視点(2)——生活問題に対応する社会福祉活動具体的把握	生活問題の要因、生活の全体性、生活問題の出現経路、社会福祉課題
4	社会福祉活動を必要とする問題状況とその対応	生活問題の発生、危機、生活の再設計、児童期の社会的養護、生活障害、在宅ケア、施設ケア、ネットワーク、地域、ボランティア、ターミナル
5	社会福祉が行なわれる「場」・制度・人材	「場」の考え方、社会福祉機関、社会福祉施設、社会福祉活動、社会福祉従事者
6	社会福祉活動の「レパートリー」(1)	三大技術、三大分類、レパートリー、ケースワーク、グループワーク、カウンセリング
7	社会福祉活動の「レパートリー」(2)	グループワーク、コミュニティワーク、ソーシャルリサーチ、プランニング、ネットワークング
8	社会福祉活動の「レパートリー」(3)	アドミニストション、スーパビジョン、コンサルテーション、ソーシャルアクション
9	社会福祉活動の歴史と理論(1)	救済、本源的蓄積、救貧法、産業革命、資本性社会、貧困、慈善事業、ソーシャルワーク、COS、セツルメント、恐慌、リッチモンド、ソーシャルワーク学校、
10	社会福祉活動の歴史と理論(2)	ミルフオード会議、統合化、世界恐慌、ニューディール、社会保障、診断主義、機能主義、折衷主義、ベヴァリッジ報告、福祉国家、
11	社会福祉活動の歴史と理論(3)	貧困の再発見、エンパワメント、多様なモデル・アプローチ、ジェネリック志向、エコロジカルシステム、生活モデル
12	日本の社会福祉活動(1)	第二次大戦、GHQ、日本国憲法、社会福祉事業法、社会福祉論争、社会福祉主事、5法ワーカー、専門職
13	日本の社会福祉活動(1)	福祉見直し、多元化、専門職制度、ケアマネジメント、社会福祉基礎構造改革
14	社会福祉「援助」と「技術」	社会福祉の方法、社会福祉の主体、社会福祉の三元構造、社会福祉従事者の倫理、社会福祉労働
15	検証テストと解説	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	80 %	筆記試験による。
平常点(日常的)	20 %	随時の提出物、コミュニケーションペーパーによる。

・ソーシャルワーク歴史と理論の概要を問う

- ・社会福祉課題の基本的性格と社会的対応としての社会福祉活動についての理解がなされているかを問う。
- ・随時のコミュニケーションペーパーにより、社会福祉課題についての問題関心の涵養を問う。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

現実の社会福祉課題を知り、いかに対応すべきなのか、個人・家族、地域・自治体、国家の各レベルで主体的に考察してください。

教科書 / Textbooks

教科書は指定しない。参考書参照のこと。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
社会福祉方法原論	植田章・岡村正幸・結城俊哉 / 法律文化社 / /
新・社会福祉士養成テキストブック2 社会福祉援助技術論 上	北島英治 / ミネルヴァ書房 / /
社会福祉援助技術論 I	福祉士養成講座編集委員会 / 中央法規 / /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

担当者名 / Instructor 岡田 まり

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本講義の目的は、社会福祉援助(ソーシャルワーク)に必要な専門性の礎を築くことである。講義内容は、ソーシャルワークの基本的な考え方や、実践に必要な理論や専門技術などについてである。ソーシャルワークは、個人から地域、政策までさまざまなレベルで展開されているが、本講義ではソーシャルワークの全体像を視野に入れつつ、個人、家族、グループへの支援に焦点をあてて学習する。

到達目標 / Attainment Objectives

- ・ソーシャルワークの専門性と役割について説明できる。
- ・ソーシャルワーク実践のプロセスと方法について述べるができる。
- ・ソーシャルワーカーが常に遵守しなければならないことを述べるができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

社会福祉士課程の指定科目を可能なかぎり履修しておくことが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	ソーシャルワークとは	定義、目的、目標、価値と倫理
第2回	ソーシャルワークの分野・領域	家庭、地域、学校、組織、子ども、高齢者、障害者、患者、低所得者、異文化
第3回	ソーシャルワークの基本的な考え方	エコロジカル・システム・モデル、ストレングス・モデル
第4回	ソーシャルワークのプロセスとコミュニケーション	プロセス、コミュニケーション技法
第5回	アセスメント	アセスメントの目的、方法
第6回	家族機能のアセスメント	家族の特性、機能、家族システム、構造
第7回	グループ機能のアセスメント	グループのステージ、グループ総体、グループメンバー
第8回	ソーシャルワークの介入	課題達成、認知再構成、問題解決能力の向上、環境改善、社会資源の活用、エンパワメント
第9回	家族関係への介入	コミュニケーションの促進、家族関係の変化、認知再構成、役割の変化
第10回	グループ介入	グループの発達段階に応じた介入
第11回	組織・組織への介入	組織、地域
第12回	記録	記録の目的、種類、方法
第13回	介入の評価	評価の意義、アカウントビリティ、評価方法
第14回	スーパービジョン	スーパービジョンの機能と方法
第15回	確認テスト(60分)と解説(30分)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(検証テスト)	60 %	各回の内容について理解し、自分の言葉で説明できるか、また、それらの内容を課題の事例において活用できるかを評価する。
平常点(日常的)	40 %	ミニ課題およびコミュニケーション・ペーパーによって理解度を確認する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

授業中には講義だけでなく演習を行うこともあるので主体的な参加が重要である。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
社会福祉実践の新潮流	平山尚・平山佳須美・黒木保博・宮岡京子 / ミネルヴァ書房 / 4-623-02899-2 /
特に指定しません	

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

日本社会福祉士会 <http://www.jacsw.or.jp/>

担当者名 / Instructor 小川 栄二

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本講義では、近年注目されているコミュニティ・ケアについて、歴史、方法、政策と課題の各方面から概要を解説する。広くは地域福祉論の一環でもあるが、对人的「ケア」と地域での展開に焦点を置いて、ケアマネジメント、資源とネットワーク、地域に密着した課題を考察する。近年導入されたケアマネジメント、2006年から実施された、改正介護保険法、障害者自立支援法、2008年からスタート予定の後期高齢者医療制度も視野に入れる。

到達目標 / Attainment Objectives

「ケア」「コミュニティ」の概念の検討の上で、地域でのケアの必要とする人々が地域で暮らす上で持つ生活の困難性を理解する。「コミュニティケア」が政策的に登場した経過と背景を理解し、介護保険制度、障害者自立支援法などにおける地域ケアを検討する。地域からの住民の共同によるケアのありかたを、対人援助、地域活動、自治体の政策の各面から検討する

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

介護概論 地域福祉論

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の概要と導入／ケアをめぐる事件	
2	「コミュニティケア」と「ケア」の考え方	コミュニティ、地域、在宅、ネットワーク、共同、暮らし
3	「コミュニティケア」と「ケア」の考え方	看護・介護・社会福祉、ケアの思想
4	コミュニティケア政策の生成	グリフィス報告、コミュニティケア法、ケアマネジメント
5	コミュニティケア政策の日本での展開(1)1970年代～1980年代	コミュニティ政策、在宅福祉政策、社会的入院
6	コミュニティケア政策の日本での展開(2)1990年代	社会福祉基礎構造改革、介護保険制度、サービス制限、2006年改定、後期高齢者医療
7	ケアマネジメントの実際(1)介護保険制度の仕組み	保険、財源、要介護認定
8	ケアマネジメントの実際(2)ケアマネジメントの考え方	インテーク、アセスメント、ケアプラン、ケアパッケージ、モニタリング
9	ケアマネジメントの実際(3)介護保険制度下でのケアマネジメント	ケアプラン、区分支給限度額、介護報酬、地域ケア会議
10	障害者自立支援法と障害者ケア	支援費制度、自立支援法、見直し
11	障害者と地域生活——ゲストスピーカーによる現状紹介	
12	高齢者を地域で支える①「ケア」を必要とする高齢者・障害者・住民の状態	高齢者像、援助拒否、孤立、潜在化
13	高齢者を地域で支える②ゲストスピーカーによる地域活動	
14	コミュニティケアの課題	在宅、地域、共同
15	検証テスト	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	0 %	。
平常点(検証テスト)	80 %	検証テストを行う。コミュニティケアの政策と課題の理解を問う
平常点(日常的)	20 %	コミュニケーションペーパーなどにより問題関心の涵養をみる。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

受講生への学習に関するアドバイス / Educational advice for enrolled students

コミュニティケアと今日政策的焦点である小地域密着型の高齢者施策展開、障害者の地域支援活動に関心を払い、日常的に現実を把握するよう努めてください。

教科書 / Textbooks

指定しない。

参考書 / Reference Books

参考書は授業中に随時紹介します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

担当者名 / Instructor 岡田 まり

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本講義は、ソーシャルワーク論の続編である。ミクロレベルでの実践(個人、家族、グループへの支援)の意義と方法を踏まえたうえで、プログラムを開発したり、地域社会によりよい変化をもたらすマクロレベルでの実践において重要となる計画に焦点をあてる。実際の計画を例として取り上げながら、計画の意義と目的について理解できるようにするとともに、モデルや理論に基づいて計画策定を行うための基礎的な知識と技術を習得することをめざす。そして、生活問題の解決・発生予防のためには、さまざまなレベルでの取り組みが必要であることを認識し、状況に応じて適切な援助技術を選んで活用する力をつけたい。

到達目標 / Attainment Objectives

- ・計画の意義と重要性について自分の言葉で説明できる。
- ・計画策定・実施・評価のプロセスと方法およびその留意点について説明できる。
- ・行政や民間団体が策定した計画およびその実施について、短所と長所を指摘できる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

ソーシャルワーク論を事前に履修しておくことが望ましい。また、社会福祉士課程の指定科目をできるだけ履修しておくことが、本科目での理解を深めるのに役立つ。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	ソーシャルワークのマクロレベルでの実践とは	プログラム開発、地域介入
第2回	計画とは①	意義と目的、プロセス
第3回	計画とは②	ゴールドプラン、エンゼルプラン、障害者プラン、高齢者保健福祉計画、地域福祉計画
第4回	計画のモデル	PRECEDE-PROCEED モデル、MIDORI モデル
第5回	アセスメント①	生活の質、生活課題
第6回	アセスメント②	行動、環境
第7回	アセスメント③	準備因子
第8回	アセスメント④	強化因子、実現因子
第9回	アセスメント⑤	組織、プログラム、政策
第10回	計画策定	実施主体、対象、目標と課題、内容、予算
第11回	計画実施	計画実施の留意点、モニタリング
第12回	評価	経過評価、影響評価、結果評価
第13回	計画策定の実際	住民参画、行政の役割、専門職の役割
第14回	自分の町の計画	社会資源、市町村
第15回	確認テスト(60分)と解説(30分)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

授業前に指定の文献・HPを必ず読んでくること。授業は、受講生がそれらを読んだことを前提として行う。

課題レポートは、受講生が生活する地域について、①地域の概要、②関心のある福祉領域に関する社会資源、③地方自治体が行っている計画についての批評、の3点をまとめたものであり、その作成のためには役所や図書館などを訪問する必要がある。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(検証テスト)	60 %	各回で取り上げた内容について理解し、自分の言葉で説明することができるか、また、それらの内容を実際に活用できるかを評価する。
平常点(日常的)	40 %	課題レポートおよびコミュニケーション・ペーパーをとおして、理解が深まっているか確認する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

授業では、講義だけでなくグループ演習も行うので、主体的な参加が重要。

教科書 / Textbooks

授業時にレジュメを配布する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
実践ヘルスプロモーション: PRECEDE-PROCEEDモデルによる企画と評価	ローレンス W.グリーン・マーシャルW.クローター著、神馬征峰訳 / 医学書院 / 4-260-00171-X / 本書より参考となる部分をコピーして配布する予定。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

日本社会福祉士会 <http://www.jacsw.or.jp/>
国際ソーシャルワーカー連盟 <http://www1.ifsw.org/>
厚生労働省 <http://www.mhlw.go.jp/>

その他 / Others

担当者名 / Instructor 石倉 康次

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

社会福祉サービスは、今日では私たちが地域で生活していく中で必要不可欠な社会サービスとなっている。しかし、必ずしもそのことが市民や学生の皆さんの常識とはなっていない。講義では、社会の歴史的な変化の中で社会福祉サービスがしめる位置とその役割を具体的な事例を通して確認する作業を行う。

到達目標 / Attainment Objectives

社会の中での社会福祉サービスの位置とその役割について理解する。社会福祉制度の形成と変動の構造について理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	導入:本講義でのねらいや受講の心得について説明する	
2	人間社会のなかでの福祉的営みの意義を考える	ボノボ、共同社会、学習、遺伝
3	家族と地域社会における共同関係と資本主義の発展にもなう変容	合掌造り、複合家族、直系家族、核家族
4	家族・地域社会における共同性の歴史から社会福祉形成の歴史的前提を考える	資本主義、労働力の商品化、国・地方自治体
5	大学生のあなたは次の質問に正確に回答できますか？義務教育で社会保障について何を学んだか？	出産手当、育児手当、医療保障、老後保障、障害者福祉、スウェーデンの教科書
6	社会福祉問題の現代的広がり～児童・青少年問題の今～	児童相談所、家庭裁判所調査官
7	認知症の人と向き合う	痴呆、認知症、デイケア
8	当事者が語る若年認知症の世界	若年認知症、スティグマ、残存能力、ケアパートナー
9	地域福祉と権利擁護の課題	消費者被害、一人暮らし、悪質商法、地域福祉権利擁護事業、成年後見人、消費生活センター
10	社会福祉援助が必要となる場面での自己と他者関係	ミー、Iとme、社会統制、自我意識の獲得
11	ワーキングプア	働く女性、地場産業の崩壊、働く高齢者、貧困の世代連鎖
12	格差拡大社会と社会福祉	非正規雇用、失業率、生活保護率、共働き、就学援助、就労支援、ワーク・ライフバランス、貧困の世代的再生産
13	高次脳機能障害の世界	交通事故、もやもや病、だまされる脳、記憶障害、認知機能障害
14	社会福祉の現実と制度の「目標・理念」からの乖離	慈善事業、サービス業、三元構造、対象化された対象、社会福祉法人、社会福祉基礎構造改革
15	まとめと試験	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

社会福祉、国民の暮らしにかかわるテレビで放送されるニュース、ドキュメンタリー、ドラマに注目してほしい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	80 %	講義の理解度
レポート試験	10 %	テーマに関わる課題の考察
平常点(日常的)	10 %	授業の出席

遅刻・欠席は出来るだけ避けてほしい。講義ではビデオを多く観るが、これが講義のポイントの理解を助ける重要な教材と考えているし、課題で出すテーマもビデオに関係させて出すことが多い。遅刻したり欠席するとその肝心のところの理解がおろそかになることを覚悟してほしい。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

講義に出席し毎回提出する課題を考察する小レポートに取り組むことで、考える力をつけてほしい。大学での勉強はあらかじめ明確な問題の答えを覚えることではなく、課題を発見し自ら考察して自分の力で答えをみつけることにあることを理解してほしい。

教科書 / Textbooks

テキストは使わない。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『福祉のひろば』	総合社会福祉研究所 / かもがわ出版 / 福祉の新鮮な情報が満載の月刊誌
『社会福祉辞典』	/ 大月書店 / 基礎用語の学習に役立つ

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

厚生労働省: <http://www.mhlw.go.jp/index.html> 認知症の人と家族の会: <http://www2f.biglobe.ne.jp/~boke/boke2.htm> 日本障害者センター:
<http://shogaisha.jp/> 総合社会福祉研究所: <http://www.jfast1.net/~sosyaken/> 保育研究所: <http://www.hoiku-zenhoren.org/kenkai/index.html> 全国老人福祉問題研究会: <http://members3.jcom.home.ne.jp/0376228901/romonken/> 全国障害者問題研究会: <http://www.nginet.or.jp/> 全国児童養護問題研究会: <http://www.ne.jp/asahi/yomon/ken/>

その他 / Others

社会福祉法制 S

13073

担当者名 / Instructor 山田 耕造

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

①社会福祉制度とは何か、②現行の各社会福祉制度(児童福祉制度、一人親家庭福祉制度、障害者福祉制度、老人福祉制度)等に関する主要な法律の概要を把握する。

到達目標 / Attainment Objectives

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	社会福祉制度とは	
2	社会福祉法制とは、社会福祉関係法の体系	
3	社会福祉法の概要 ①	
4	社会福祉法の概要 ②	
5	児童福祉制度関係法の体系と児童福祉法の概要 ①	
6	児童福祉法の概要 ②	
7	一人親家庭福祉制度関係法の体系と母子及び寡婦福祉法の概要	
8	障害者福祉制度関係法の体系と障害者自立支援法の概要	
9	身体障害者福祉法の概要	
10	知的障害者福祉法の概要	
11	精神保健及び精神障害者福祉に関する法律の概要	
12	老人福祉制度関係法の体系と老人福祉法の概要	
13	介護保険法の概要	
14	高齢者の医療の確保に関する法律の概要	
15	まとめ -わが国社会福祉関係法の課題-	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
テキストブック現代社会福祉法制	山田耕造 編 / 法律文化社 / /
社会福祉小六法2008	ミネルヴァ書房編集部 / ミネルヴァ書房 / /

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

担当者名 / Instructor 出口 剛司

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

批判理論における「理性による自然支配」テーゼを文化社会学的な視点から多面的に検討していく。われわれは、日常生活のなかでもあまりにも自明なものとして「食べる」「におう」「見る」「読む」「聞く」「感じる」などの身体的行動を繰り返している。また同時にこのような身体的経験を、個人の感覚・感情・好みに左右される最も私的なものと考えている。それに対して社会学は、日常生活にあふれる、一見主観的で個人的な感性的経験を社会や歴史のなかで抑圧的あるいは拘束的に形成されてきたものとして捉える。本講義では、このような「個人」の身体的経験とそれを「社会」にまとめあげるメディアの効果を考察することによって、近代社会のしくみやその変容過程について明らかにしていく。またそれらの考察をふまえて、ポスト近代社会にふさわしい倫理のあり方について、受講生とともに考えてみたい。

到達目標 / Attainment Objectives

- ①近代社会の文化的特徴を理解し、われわれ自身の「文化」を批判的に相対化する能力を身に着ける。
- ②文化社会学及びそれに隣接する社会文化研究の基本概念、基本学説を理解する。
- ③批判理論における近代文化批判の課題と意義を理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

基礎社会学

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	視覚的近代の成立(身体感覚の社会学のために)	視覚 理性中心主義 まなざしの地獄 フーコーの権力論
第2回	嗅覚の社会史 I (嗅覚とアローマ)	嗅覚の復権
第3回	嗅覚の社会史 II (公衆衛生と視覚・嗅覚の交差)	公衆衛生 アナール学派の社会史
第4回	食の歴史社会学 I (食・このおぞましくも魅惑的なもの)	身体感覚と欲望
第5回	食の歴史社会学 II (テーブルマナーとガストロノミー)	礼儀作法 文明化の過程 ノルベルト・エリアスの社会学
第6回	食の歴史社会学 III (見えないコルセット=体重計)	ダイエットの成立 食と近代社会の病理
第7回	食の歴史社会学 IV (見えない体重計と魂のコルセット)	食と近代社会の病理
第8回	ファッションの文化社会学 I (ファッションと記号を求めまなざし)	記号論 資本主義と記号消費
第9回	ファッションの文化社会学 II (ドレスとスーツの誕生)	セクシュアリティ ジェンダー
第10回	文字と声の知識社会学 I (声の文化と文字の文化)	オングとマクルーハン
第11回	文字と声の知識社会学 II (書物の出現と文字の想像力)	書物の歴史 シャルチエと読書の社会史
第12回	読書の社会史 I (宗教改革とナショナリズム)	ナショナリズムの成立 アンダーソンと想像の共同体
第13回	読書の社会史 II (スキャンダルのまなざしと聖性剥奪)	読書とフランス革命
第14回	批判理論と文化批判への視座①	近代社会の文化的批判 批判理論とモデルネ
第15回	批判理論と文化批判への視座②	多文化主義と倫理の方へ

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

講義中適宜指示する。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	講義内容の理解度及びその文化批判への応用能力を問う。
平常点(日常的)	0 %	場合によっては一部出席を加点することがある(原則として定期試験)。

講義終了時に出席に代わる簡単なコミュニケーションペーパーを作成してもらう。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

適宜指示する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
エーリッヒ・フロム: 希望なき時代の希望	出口剛司/新曜社/4-7885-0824-9/多文化主義と倫理のあり方について
テキストとコンテキスト	J.ハーバーマス/晃洋書房/4-7710-1751-4/批判的社会理論の展開について

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

社会保障論 S § 社会保障論 SG

11946

担当者名 / Instructor 芝田 英昭

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

現在、私たちの生活にとって「社会保障制度」は、必要不可欠な生活の条件となっているが、その生成・発展の歴史を辿ることで、社会保障の理念・本質・機能について学びたいと思う。また、21世紀における福祉国家再生のための「社会保障のあり方」を考察する。

到達目標 / Attainment Objectives

現在「社会保障」は、マスコミに取り上げられない日がないほどポピュラーになっている。しかし、学問として捉えると、難しいと敬遠されるのが現状である。そこでこの講義では、社会保障の体系や理念を学んで、少しでも社会保障を身近なものと感じ興味を持って頂こうと思う。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

現代と福祉、福祉政策論、福祉計画論。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	社会保障の理念の変遷とその意義	所得保障、対人社会サービス、社会保障法(アメリカ)、ニュージーランドの社会保障
第2回目	社会保障の理念の変遷とその意義	ILO、ベヴァリッジ・レポート、憲法第25条、社会保障制度審議会、セイフティー・ネット、総合社会保険構想
第3回目	社会保障のあゆみとダイナミクス・・・イギリスにおける社会保障の歴史	救貧法、本源の蓄積、ブース、ラウントリー
第4回目	社会保障のあゆみとダイナミクス・・・ドイツにおける社会保障の歴史	飴と鞭の政策、ビスマルク
第5回目	社会保障の基本原則と限界・・・社会保障の対象・財源	生活障害、生活危険、生活不能、生活の社会化、労働力の価値、社会保険方式、消費税
第6回目	社会保障の基本原則と限界・・・社会保障の資本主義的限界	社会的排除、第三の道、貧困
第7回目	第1回「検証テスト」(60分)と解説(30分)	* 検証テストの時期は、あくまでも予定なので変更の可能性がある。
第8回目	年金制度改革の新提案	女性と年金、基本年金構想
第9回目	医療制度への市場原理導入の危険性	日本の医療の質と水準
第10回目	医療制度への市場原理導入の危険性	健康保険法等の一部改正の中身
第11回目	消費税の本質	消費税導入の根拠
第12回目	消費税の福祉目的税化	運動論からの批判
第13回目	社会保障の一元化と将来像・・・「国民保険」構想の中身	国民保険、事業主負担、減免措置、ペナルティー
第14回目	第1回「検証テスト」(60分)と解説(30分)	* 検証テストの時期は、あくまでも予定なので変更の可能性がある。
第15回目	社会保障の一元化と将来像・・・「社会保障税」・「新しい社会保障」の提案	最低賃金、目的税、社会保障税

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

教科書は、必ず購入し事前に読んでおくように。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	70 %	定期試験は70点とする。
平常点(検証テスト)	30 %	前半、後半に1回ずつ計2回の検証テストを行う。配点は、1回を15点とする。

毎年大講義となるの、2008年度からは出席の確認は行わない。ただし、検証テストがそれに代わるものとなるので、十分注意すること。また、検証テストは、進度によって実施する時期を変更することもある。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

毎回、コミュニケーション・ペーパーを配布・回収し、次週の講義冒頭10分程度で質問等に答える。ただし、コミュニケーション・ペーパーは、出席を確認するものとしては使用しないので注意すること。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
新しい社会保障の設計	芝田英昭 / 文理閣 / ISBN4-89259-521-7 /

参考書 / Reference Books

書名 / Title

社会保障のダイナミックと展望

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

芝田英昭 / 法律文化社 / ISBN4-589-02891-3 /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

厚生労働省: <http://www.mhlw.go.jp>

その他 / Others

社会倫理学 S

13137

担当者名 / Instructor 清 真人

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「応答の倫理学」の視点から、今日の社会が抱えている問題を照射し、社会思想・理論と倫理意識との関係をあらためて問題意識に上らせる思考の作業をおこなう。「いじめ」という今日の日本できわめて日常的で普遍的な問題をこの「応答の倫理学」の視点で照らした場合、何が問題として浮かび上がってくるか？ という問題を出発点にすえて、「応答の倫理」対暴力の関係性を基軸に、差別や戦争あるいはテロリズムなどの問題を考え、あるいはまた、「引きこもり」の問題をとおして逆にコミュニティの再建の課題と社会参加意識の再獲得の課題とのつながりの問題を考察する。

到達目標 / Attainment Objectives

「応答の倫理学」の視点から、今日の社会が抱えている問題を照射し、社会思想・理論と倫理意識との関係をあらためて問題意識に上らせ、社会の問題に積極的に関心をもつためのいわば基礎工事をおこなう。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	「いじめ」経験は何を告げるか？	いじめ、基礎経験
第2回	カフカの不安の問題構造と世界の夢化	カフカ、不安、現実の非現実化と非現実の現実化
第3回	応答の倫理学①——レヴィナスの問題提起、糾弾されるという経験の意義	応答、応答責任、レヴィナス、傷つきやすさ
第4回	応答の倫理学②——フロムの問題提起、二つの責任観とヴァイツゼッカーのいう「過去への責任」	外的責任、内的責任、倫理的責任、戦争責任問題
第5回	応答の倫理学③——ブーバーの問題提起、「私ーきみ」関係性	ブーバー、「私ーきみ」と「私ーそれ」の関係性
第6回	応答の倫理学④——ブーバーと「自由社会主義」、ブーバーとパレスティナ問題	「自由社会主義者」、「国権的社会主義」批判、「シオニズム」批判
第7回	応答の倫理学⑤——レインの問題提起、現代的人間関係の権力的性格批判	人間関係をつかさどる権力的技術、相互性、関係性の力学、経験
第8回	応答の倫理学⑥——レインの反精神医学運動と「家族」病理の探究	隔離病棟と開放病棟、「家族」の政治学
第9回	応答の倫理学⑦——ニーチェとサルトルの問題提起と暴力のマニ教主義	ニーチェ、サルトル、暴力、マニ教主義
第10回	応答の倫理学⑧——ニーチェ主義と現代	ニーチェ、ナチズムとハイデガーとポストモダン
第11回	応答の倫理学⑨——サルトルの生き方	サルトル、ファノン、アルジェリア戦争とベトナム戦争、テロリズム批判
第12回	応答の倫理学⑩——アーレントの「全体主義」批判	アーレント、サルトル、全体主義、経験とコミュニティ
第13回	「小さいけれど、別な空間の創出を」という問題提起①	「中間社会」、コミュニティ、オルタナティブ
第14回	「小さいけれど、別な空間の創出を」という問題提起②	タウン誌の思想・コミュニティカフェの思想
第15回	まとめ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	70 %	
平常点(日常的)	30 %	授業中に課題提起するミニレポートの提出頻度

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『創造の生へ——小さいけれど、別な空間を創る』	清真人 / はるか書房 / ISBN978-4-434-11148-8 /
教	

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

ジャーナリズム論 S

15457

担当者名 / Instructor 柳澤 伸司

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本講義では、ジャーナリズムの機能・役割と責任、言論・表現の自由について、なぜそれらが私たちにとって重要な意味をなすのかといった観点を起点に、日本のジャーナリズム活動、ジャーナリストたちの言論活動や思想などを歴史的に踏まえながら考えていく。現在のジャーナリズムの問題点をとらえ、見る眼を養うためにも、政治的社会的側面から見た現代社会におけるジャーナリズムの状況と課題を整理しつつ、時事的・実際的な問題などと関連させながら多面的に考察する。

到達目標 / Attainment Objectives

ジャーナリズムの本質やその現在的問題を歴史的相対的に捉える視座を獲得することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

現代とメディア

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	はじめに～授業の進め方と評価について	ジャーナリズムの視点
第2回	ジャーナリズムとは何か	マス・コミュニケーション、ジャーナリズム、ジャーナリスト
第3回	日本の報道メディアの特質～歴史的視点(1)明治期日本の新聞記者	ジョセフ・ヒコ、福地源一郎、福澤諭吉
第4回	日本の報道メディアの特質～歴史的視点(2)新聞に対する読者の視線	黒岩涙香、宮武外骨
第5回	日本の報道メディアの特質～歴史的視点(3)言論の力と大正デモクラシー	米騒動、井上江花、白虹事件
第6回	日本の報道メディアの特質～歴史的視点(4)批判の限界と新聞人	菊竹六鼓、桐生悠々
第7回	日本の報道メディアの特質～歴史的視点(5)ジャーナリズム批判と言論活動	石橋湛山、高見順
第8回	報道することの難しさ～皇室報道をめぐる	皇室報道、表現の自由
第9回	権力を監視すること～記者クラブというシステムと取材のあり方	記者クラブ、報道協定、情報公開
第10回	国家秘密と知る権利～外務省密約事件	知る権利、沖縄返還密約事件、記者の倫理
第11回	戦争とジャーナリズム～(1)戦争報道から何を考えればよいか	宣伝、情報操作、報道管制
第12回	戦争とジャーナリズム～(2)メディアは何を伝えているか	映像のリアリティ
第13回	取材と報道のバランス～(1)報道と人権の狭間	犯罪報道、報道被害、メディア・スクラム
第14回	取材と報道のバランス～(2)メディアが作り出す報道被害	スクープ、報道被害、実名・匿名問題
第15回	ジャーナリズムをどうするか～報道規制の動き／まとめの議論	ジャーナリストという職能／ジャーナリズムの可能性

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

新聞、テレビ、週刊誌など現代社会の出来事を伝える報道に意識的に接触すること。ジャーナリズム論を深めるための参考文献を授業時に多数紹介するが、関連する文献を読み、問題意識を深めてほしい。なお、ジャーナリズム論は近現代史と深く関わっているため、近現代史の知識を増やすよう努力すること。授業は資料を中心にビデオ映像などを使いながら進めていく。電子掲示板などを活用して授業内容に関する受講者の考察や意見を求める課題を課す。授業の進度によっては予定のテーマが前後・伸縮することもある。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	70 %	最終的に授業に関連したテーマで作成した課題レポートを指定された期間までにオンライン(メール)提出。論点や表現の的確性、オリジナリティなどの観点を中心に評価。課題についての理解度、論旨の構成や説得力を重視する。
平常点(日常的)	30 %	授業時に講義内容に関連した課題レポート(小レポートに準ずるもの)を課す。決められた期日までに提出(電子掲示板への書き込み提出)することが求められる。主題に関わる意見の的確性、独自性を中心に評価。

レポートはメール(オンライン)での提出となるので、パソコンスキルを身につけておいてほしい。授業期間中に出される課題レポート(電子掲示板への提出)を全く提出しなかった場合は出席していないと判断する。第1回目に「授業の進め方と評価について」詳細な説明をするので、受講予定者は必ず出席すること。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

この授業は、ジャーナリズムを見る眼を養うための知識を獲得することも必要であるが、むしろ問題意識を啓発することに主眼を置くので、そこから生じるさまざまなテーマに関する問題意識に対して自分なりに深めることが重要である。問題意識を啓発するための資料を読んだり、ビデオ映像などを視聴し、そこから得る新たな知見、意見などを求めながら授業を構成していく。ジャーナリズムの歴史など日本の近現代史に関わることもあり、歴史上の人物や著作など事典や文献などでさらに調べることで知識を広げてほしい。なお、時事的な問題を扱うこともあるので本シラバスの予定は、開講以降に変更される場合があり、若干講義予定の順序が変動または授業外学習の指示に代替されることがある。授業中の私語は他の受講者の迷惑になるので厳しく対処する。また、配布物等は授業時教室以外では配布しない。

教科書 / Textbooks

使用しない。必要に応じて資料等を用意する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
キーワードで読み解く現代のジャーナリズム	JCJジャーナリズム研究会編／大月書店／4272330454／日本のジャーナリズムについて俯瞰し、ジャーナリズムをめぐる状況を総体的に把握することができる。授業を進める上で基本的な知識を深めたいときの参考書である。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference**その他 / Others**

住民自治論 S

20378

担当者名 / Instructor 谷口 浩司

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

地域格差が拡大するなかで、「都市再生」政策が推進されているが、果たして都市は再生するのだろうか。2000年4月、国と地方の関係を上下から対等に変えることを目指した「地方分権一括法」が施行され、地方の時代への期待がますます高まっている。それにもかかわらず国の都市再生政策は、「民間にできることは民間に」と民活路線である。本来国から地方に移譲されて、検討されるべき都市再生のはずである。大型小売店や高層マンションの建設など再開発にともなって、各地で紛争が生じている。地域は誰のものか。地域の担い手として、自治を深める社会的メカニズムと技法について学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

- 1) 経済と政治と社会の概念とその関係を理解すること
- 2) 戦後日本の地域開発政策を通して、地域の扱われかたを理解すること
- 3) 地域社会の構造変化における住民の役割を理解すること

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1回目	住民自治論を学ぶ	自然・人間・社会、学問の対象と方法
2回目	日本の近代化過程における国家・地方・地域	近代化、産業化、中央集権化
3回目	戦後日本の地域開発政策 その1 国土開発計画の変遷	国土開発、総合計画、線引き
4回目	戦後日本の地域開発政策 その2 工業化、都市化の論理	高度成長、公害問題、住民運動
5回目	地域開発政策と農村の変容 その1 伝統的集落の自治構造	農村集落、ムラの社会関係、生活の共同
6回目	地域開発政策と農村の変容 その2 基本法農政	農業の近代化、構造改善事業、兼業農家、
7回目	地域開発政策と農村の変容 その3 農村、農業の解体	過疎、農民層分解、限界集落、食料生産と自給率
8回目	都市化と都市問題 その1 郊外化と集住化	ニュータウン開発、マンション問題、管理組合
9回目	都市化と都市問題 その2 中心市街地の衰退	商店街、大規模小売店、再開発
10回目	都市の自治の歴史 その1 京都の町衆とお町内	西陣、室町、伝統産業、町(ちょう)の成立、
11回目	都市の自治の歴史 その2 京都の小学校区の歴史的意義	町と町組、番組小学校、近代行政と住民の関係、行政補完
12回目	都市の自治と歴史 その3 京都の都市の成り立ち	計画都市、自由都市、政治と経済と社会、歴史・文化と暮らし
13回目	地域計画と住民自治	政治的回路、住民参加、都市計画、地区計画
14回目	京都市新景観政策と地域ガバナンス	市民活動、景観、町並み、町家、マンション、
15回目	講義のまとめ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
地域社会の政策とガバナンス	岩崎信彦他監修 / 東信堂 / ISBN4-8871-680-3 / 地域社会学会30周年記念出版

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

担当者名 / Instructor 坂井田 美代子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

私達はコミュニケーションを通して、人間関係を築き・広げ・豊かに創りだしている。また、コミュニケーションをとることで、さまざまな刺激を受け、考え、判断し人として成長してゆく。音声によるコミュニケーションが中心の社会において聴覚障害者は情報の伝達から阻害され、情報の共有を阻まれてしまう。また聴覚障害に対する理解の不十分さやコミュニケーション手段等の相違からコミュニケーションの壁をつくられやすく、人と人との係わり合いや社会参加に大きな制約を受けてしまう。聴覚障害者の社会参加を進めるためにはコミュニケーション保障や情報保障は欠かせない。これらは聴覚障害者の基本的な人権の保障にかかわる大きな課題であるとともに他の障害者のコミュニケーション課題とも共通する部分がある。

よって、本講義では聴覚障害を中心にしながら、コミュニケーションの役割・手段、聴覚障害、手話の歴史と発展、聴覚障害者のコミュニケーション環境の歴史・実態・課題等を中心に講義を展開することを通して障害者とコミュニケーションについて考察していく。

到達目標 / Attainment Objectives

- : コミュニケーションの役割、聴覚障害者のコミュニケーション現状、課題、コミュニケーション手段について理解する。
- : 耳の役割、聴覚障害、障害の特徴、コミュニケーションの手段や選択の方法について理解する。
- : 聴覚障害者を取り巻く社会環境やコミュニケーション環境について、歴史、現状、課題、展望について理解する。
- : バリアフリー調査を行い、社会や自分の生活地域の実態や課題を考える。
- : 当事者の生活体験から聴覚障害者が抱える課題や要望を知る。
- : 聴覚障害者が利用できる社会資源を知る。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の概要と導入、聴覚障害とコミュニケーションの基礎的理解(1): コミュニケーションの役割	コミュニケーション機能、コミュニケーション保障と情報保障
第2回	聴覚障害とコミュニケーションの基礎的理解(2): 聴覚障害について	耳の役割、聞こえの仕組み、障害の部位、障害の特徴とコミュニケーション手段
第3回	聴覚障害とコミュニケーションの基礎的理解(3): 聴覚障害者とコミュニケーション(その1)	コミュニケーションの手段の決定要因、障害部位、聴力レベル、失聴年齢、ことばの発達と聴覚障害
第4回	聴覚障害とコミュニケーションの基礎的理解(4): 聴覚障害者とコミュニケーション(その2)	社会環境、社会背景と生活環境
第5回	聴覚障害者の情報保障(1)当事者から学ぶ	障害の受容、生活体験、大学や職場での情報保障
第6回	聴覚障害者の情報保障(2)手話の成立と発展	手話の歴史と発展、聴覚障害者の暮らしと手話、手話の特徴、音声言語と手話、手話を取り巻く日本・世界の現状
第7回	聴覚障害者の情報保障(3)聴覚障害者とコミュニケーション手段と使用方法	コミュニケーション成立の条件、手話、口話、筆談、空書、触手話、指字他
第8回	聴覚障害者の情報保障(4)「ドン(原爆)が聞こえなかった」ビデオから、情報から阻害された聴覚障害者の実態について学ぶ。	家族・近隣・友人など私的なコミュニケーション、行政等の公的な情報、コミュニケーションからの阻害と人生に及ぼす影響
第9回	聴覚障害者の情報保障(5)ろう運動の歴史(その1)	ろう集団の形成、お願い運動の時代、権利運動の時代
第10回	聴覚障害者の情報保障(5)ろう運動の歴史(その2)	手話発展の時代、国民に理解を求める運動、社会生活の広がり運動、ろう運動の展望
第11回	聴覚障害者とコミュニケーションの課題(1)「私の生活圏における聴覚障害者のバリアフリーの実態」の調査	聞こえる便利さ、見てわかる工夫、社会の聴覚障害者に対する意識、人的社会資源
第12回	聴覚障害者のコミュニケーションの課題(2): コミュニケーション保障の動向	手話通訳保障の歴史、手話通訳制度、手話通訳者の役割
第13回	聴覚障害者のコミュニケーションの課題(3): 聴覚障害者のコミュニケーション環境	教育環境、参政権保障、労働環境の歴史・現状・展望
第14回	聴覚障害者のコミュニケーション保障の課題(4): 聴覚障害者のコミュニケーション環境の整備	聴覚障害者福祉施策、障害者の権利条約、社会資源の充実
第15回	授業内容の「検証テスト」と解説	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

講義終了時に下記のような復習課題、予習課題を提示する。

- : 自分とはどのようなコミュニケーションをしているのか、自分にとってコミュニケーションはどんな役割を果たしているのかを考察する。
- : 聴覚障害者の体験記録などを読む。
- : テレビ等の情報保障の現状について知る。
- : 公表されている資料に目を通す(障害者の権利条約)等

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(検証テスト)	60 %	授業で扱ったキーワードから出題し、到達目標を達成できているかどうかを検証する、記述試験を実施する。
平常点(日常的)	40 %	毎回の授業終了時に、その授業内容に関してのコメント(コミュニケーションレポート)をもとめる。中間レポート(バリアフリー調査レポート)の提出を求める。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

ビデオ教材、ゲスト講師による聴覚障害者当事者の体験、自分の生活圏におけるバリアフリー調査を通して、コミュニケーションの意味や役割、社会の現状等具体的な課題として実感的に学ぶことを望む。下記に触れているが手に入らない参考書が多いこともあるので、興味関心のあるキーワードについては遠慮なく積極的な質問を望む。

教科書 / Textbooks

毎回の授業で詳細レジメ、資料を配布する。

参考書 / Reference Books

聴覚関係の書物は少なく、聴覚や手話に関わる団体等が、さまざまな調査や研究をし報告書等出されているものの、一般書店や図書館などに置かれておらず、なかなか目に触れることや手にすることが困難な実態にある。各授業のキーワードや関する詳細資料は配布するが、授業の進行に合わせ参考図書、報告書等紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

jdf.or.jp 当事者団体(全日本ろうあ連盟)の考え方、現在の聴覚障害者を取り巻く課題についての運動状況、研究状況などの参考。他キーワードに関する理解を深めるために授業時に紹介する。

その他 / Others

障害者とスポーツ S

15442

担当者名 / Instructor 水谷 裕

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

テーマ「すべての障害のある人にスポーツを」

障害のある人とスポーツについて、今日まで講師の実践を通し体験してきたことを中心に、講義と「障害のある人々のスポーツ活動」等に関するビデオ画像を通して、障害のある人々のスポーツ活動の実際を知り、社会参加の現状を理解し、障害のある人のスポーツ活動における、より良いパートナーとして、「障害のある人に何が出来るかではなく、どうしたら出来るか」を考えられる力を育てたいと考えています。

到達目標 / Attainment Objectives

- * 障害のある人々の概念や問題を幅広く理解できる。
- * 障害のある人々のスポーツに関する概念や問題を幅広く理解できる。
- * 障害のある人々のスポーツをとらえて社会のあり方を考えられる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の概要と導入、小レポート「障害のある人とスポーツ」について、ビデオ	障害のある人とスポーツに関する知識、体験等
第2回	小レポートについて、講義「わが国における障害のある人の実態と福祉の概要」、ビデオ	人数・傾向、戦後の歴史等
第3回	講義「障害について」、ビデオ	原因・症状等
第4回	講義「障害を考える」、ビデオ	意味・とらえ方等
第5回	講義「障害の受傷時期による相違」、小レポート「水谷を初めて見た時どう思ったか」、ビデオ	葛藤・受容・心理等
第6回	講義「障害のある人との関わるための留意点」、ビデオ	言葉づかい・態度・考え方等
第7回	講義「障害のある人とスポーツ」、ビデオ	スポーツ観・残存能力・訓練との相違等
第8回	講義「障害のある人に何故スポーツ?」、ビデオ	運動は動物存在の基礎条件等
第9回	講義「障害者スポーツの歴史」、ビデオ	時代的背景等
第10回	講義「障害者スポーツの組織」、ビデオ	施設・団体等
第11回	講義「障害のある人のスポーツ権」、ビデオ	背景にあるくみんなのスポーツ運動等
第12回	講義「障害のある人がスポーツをする意義」、ビデオ	身体的・精神的・社会的等
第13回	講義「障害のある人のスポーツを行うにあたって」、ビデオ	阻害要因・視点等
第14回	講義「障害のある人や家族の願いと今後の課題」、ビデオ	人間的平等・発達保障等、指導者・環境・現状把握等
第15回	確認テスト(60分)とまとめ(30分)等	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

テレビや新聞などの障害のある人のスポーツに関する番組や記事を見て、メディアについては、社会の理解度を認識する。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(検証テスト)	90 %	特に言葉の言回しなど、障害のある人を理解できているかを基本に、出題された課題について論点が押さえられているかどうかを問います。
平常点(日常的)	10 %	最低3分の1以上の出席が望ましい。

* 論述1問とします。
* 確認テストを重視します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

受講について

- * 授業は前の席にて受講すること。
- * 講師は言語障害があるので、注意して聞くこと。
- * 話の中にある意図を理解すること。

研究について

- * 障害のある人々の基礎的な知識を得た上で、スポーツ活動の現状やあり方を広い視野から見ること。

教科書 / Textbooks

- * 特に決まったテキストは使用しません。

* 適時、コピー等を配付します。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「障害者スポーツ」	日本リハビリテーション医学会スポーツ委員会編集／医学書院／障害のある人々のスポーツに関する紹介本です。
「障害者とスポーツ」	芝田徳造／文理閣／本学名誉教授の著書で、京都での実践を通して書かれた本です。
「身体障害者のスポーツ指導の手引き」	(財)日本障害者スポーツ協会編集／株式会社ぎょうせい／身体に障害のある人に対するスポーツ指導に関する本です。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

- * 日本障害者スポーツ協会WWWページ
- * 京都障害者スポーツ振興会WWWページ
- * 京都市障害者スポーツセンターWWWページ
- * 京都障害者スポーツ指導者協議会WWWページ
- * その他、障害者スポーツ関係団体WWWページ多数あり

その他 / Others

- * 障害のある人のスポーツに興味を持ち、スポーツ活動を通して障害のある人の社会参加活動の理解ある良きパートナーを目指す学生なら誰でも歓迎します。
- * 脳性マヒ等による四肢機能障害で、車いすを常用し、京都市障害者スポーツセンターに勤務しています。
- * 授業後、気軽に話しかけて来てほしいと思っています。

障害者教育・福祉論 S

20367

担当者名 / Instructor 峰島 厚、森下 勇

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

障害のある人たちの教育(就学前教育・高等教育を含む)と福祉(雇用、生活など)の現状と課題について論じる。

本講義では、障害者の実態や施策・制度全体について、各種統計、報告書、実践記録、映像などを検討して障害者全体の動向を学べるようにする。また、障害者分野における教育と福祉の関連や連携に関する諸問題についても理解を深める。

到達目標 / Attainment Objectives

障害児者の福祉制度は、理念や内容で教育とは大きく異なっている。とくに福祉は制度転換がこの間に大きくなされ、混乱も生じている。転換の基本的内容の理解と、利用の基本を押さえられるようにしたい。

なおこの授業では、第4回から6回までは森下勇さん、第8回から9回は土井恵二さん、第10回は佐藤貞雄さん、第11回は脇中起余子さんが、ゲストスピーカーとして障害種別の講義をする。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

とくにない。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の概要と計画	障害児教育・福祉の現状(1)障害児者の権利保障、発達保障の考え方、インクルーシブな社会、特別なニーズ、バリアフリー
第2回	障害児教育・福祉の現状(2)権利としての教育と福祉	憲法25条、26条
第3回	障害児教育・福祉の現状(3)制度の対象、障害の定義・障害概念	制限列挙方式、医学モデル中心から社会モデル中心へ、日常生活上の不利
第4回	知的障害者・肢体不自由者・病弱者の教育・福祉の現状(1):就学前教育・就学指導・学校選択・遊び	
第5回	知的障害者・肢体不自由者・病弱者の教育・福祉の現状(2):教科教育・自立活動・交流教育・放課後保障	
第6回	知的障害者・肢体不自由者・病弱者の教育・福祉の現状(3):自立から自律へ・思春期の課題(障害の自己認識)・生活支援、教育支援、レクリエーション	
第7回	視覚障害児・者の理解(1)(早期発見・対応、早期教育についての内容含む)	
第8回	視覚障害児・者の理解(2)(弱視児の教育・点字教育についての内容含む)	
第9回	知的障害者・肢体不自由者・病弱者の教育・福祉の現状(4):職業指導・雇用対策・労働と発達・障害と労働	障害者雇用促進法、働くことの意義
第10回	聴覚障害者の教育・福祉(1):早期発見と早期対応・早期教育	
第11回	聴覚障害者の教育・福祉(2):言語指導・教科教育、9歳の壁	
第12回	障害児教育・福祉の課題(1):障害者自立支援法の基本的な仕組み	措置から利用契約へ
第13回	障害児教育・福祉の課題(2):福祉のサービス利用	障害程度区分、契約
第14回	障害児教育・福祉の課題(3):福祉の施設・事業体系	介護給付と訓練等給付
第15回	まとめ・評価	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind 割合 / Percentage 評価基準等 / Grading Criteria etc.

レポート試験 80 %

平常点(日常的) 20 % 出席状況を問う。

なお4人のゲストスピーカーの内容についても問うので、評価配分や形態は変更がありうる。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title

障害者自立支援法と実践の創造

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

峰島厚 / 全障研出版部 / ISBN-88134-274-6 /

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

担当者名 / Instructor 趙 没名

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

障害者福祉は今大きくかわろうとしている。とくに日本においては「同一年齢の他の国民と同等な生活を障害者に権利として保障する」ノーマライゼーションに逆行する動きが顕著となっている。この授業では、こうした転換内容を、歴史的にかつ現代的課題としてとりあげる。

到達目標 / Attainment Objectives

措置制度から支援費制度に、さらに障害者自立支援法に、その後においては障害者福祉の介護保険との統合もすすめられようとしている。その制度展開の基本的方向を理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業ではコミュニケーションペーパーによる質疑応答を重視する。聞くだけでなく、ともに考え意見交換できるようにしてほしい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1) 導入講義(1)	授業の概要と計画	障害観の課題
2) 導入講義(2)	障害観、発達観の変革	権利保障運動に学ぶ
3) 障害概念の検討(1)	国際的動向	社会モデル、三層構造
4) 障害概念の検討(2)	日本の制度対象である障害	手帳制度、障害程度区分
5) 障害概念の検討(3)	自立支援法の障害	利用手続き、障害認定
6) 障害者福祉の歴史(1)	市民制社会以前の障害者問題	自給自足社会、奴隷制、身分制と障害者
7) 障害者福祉の歴史(2)	産業革命時代の障害者問題	劣等処遇、分類処遇、隔離収容
8) 障害観の中間レポート	障害観に関するレポート	当事者、現場に聞く・触れる・見る
9) 障害者福祉の歴史(3)	現代社会の障害者問題(1)	能力主義と障害
10) 障害者福祉の歴史(4)	現代社会の障害者問題(2)	ノーマライゼーション、インクルージョン
11) 障害者自立支援法(1)	政策的背景	福祉国家からの転換
12) 障害者自立支援法(2)	支援費制度からの転換	財源問題と介護保険統合問題
13) 障害者自立支援法(3)	制度の内容	施設・事業体系
14) 障害者自立支援法(4)	今後の課題	規制緩和

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

中間レポートは作成のための課題を提起し、1回分とする。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	80 %	基礎知識、論述
レポート試験	20 %	障害観など
レポートは中間に実施(何回目になるかは変更あり)		

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

対話を重視したいので、それによって進行具合は変わる。

教科書 / Textbooks

書名 / Title

障害者自立支援法と実践の創造

授業の必要な個所で使用。

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

峰島厚 / 全国障害者問題研究会出版部 / /

参考書 / Reference Books

書名 / Title

転換期の障害者福祉

障害者自立支援法の基本と活用

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

峰島厚 / 全国障害者問題研究会出版部 / /

峰島・白沢・多田 / ぜんっく障害者問題研究会出版部 / /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

担当者名 / Instructor 竹濱 朝美

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

テーマ: 気候変動・環境保全と消費者

この講義では、気候変動・環境保全と消費生活とのかかわりについて、考察する。次の諸点を取り上げる。気候変動 (climate change、温暖化) が消費者の生活に及ぼす影響、温室効果ガス削減に対して消費者が果たすべき責任について考える。現代の大量消費スタイルから発生する環境負荷、食生活から発生する温暖化負荷の実態を学ぶ。危険な気候変動を緩和するためのemission pathway、温室効果ガスの削減量と削減期限、削減ペース、消費者部門における温室効果ガス削減対策を学ぶ。気候変動に関する消費者向け情報コミュニケーションについて考察する。

到達目標 / Attainment Objectives

- ・温室効果ガス削減は、なぜ、緊急かつ大量に必要なのか、「気候変動の影響・被害に対する対策は、なぜ、緊急に必要なのか」、「climate changeは、なぜ、消費者政策として、重要な課題なのか」を理解することが、第一の目標である。
- ・学生一人一人が、気候変動は自らの生活に直接かつ深刻な影響を及ぼす問題として、自分のライフスタイルを振り返る契機にする。
- ・climate science, 気候変動政策に関する英文の資料、英文の科学ニュースを読むことを通じて、EUで報じられる気候変動ニュースと日本のマスコミ報道の違いに気づく。
- ・climate change の現状、温室効果ガスの長期的影響、climate inertia に関する基礎的知識を得る。climate changeの影響、被害最小化の対応策について、基礎知識を獲得する。
- ・消費者部門から発生する環境負荷について、基礎的知識を獲得する。
- ・家庭部門における温室効果ガスの削減対策について、理解を深める。日本とEUにおける温室効果ガス削減策を比較し、日本の最策は、どこに問題があるのか、考える。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし。

この科目では、IPCCの第四次報告書や、EUの政策文書など、直接に、英文資料を読む。気候変動について、より専門的に掘り下げた講義となる。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	はじめに。なぜ、気候変動が消費者政策にとって重要か。海外の気候変動ニュースとビデオ。	
2	気候変動に関する海外のDVDを見る。An Inconvenient Truth、または、Global Dimming	
3	IPCC第四次報告書の概略、温度上昇、海面上昇の予測	
4	温室効果ガスの長期的影響。温室効果ガスの大気中寿命。climate inertia。海洋における熱エネルギー。重要なthresholds。「危険な気候変動」。2°C、3°C上昇の意味。	小レポートを行う。
5	温度2°C上昇、3°C上昇のリスク。温室効果ガス安定化濃度。550ppm安定化と気温上昇。排出削減パス。必要な削減量とpeakingの期限。	
6	京都議定書と各国の温室効果ガス排出量。世界の温室効果ガス排出量の推移予測。UNFCCCの温室効果ガス排出量のデータを読む。	小レポートを行う
7	気候変動による被害と熱波対策。イギリスの熱波警報システム(Heat-Health-Watch)、EU、オーストラリアの熱波マニュアル。どのような人がハイリスクか?	
8	日本における気候変動の影響。台風、集中豪雨の予測、高潮リスク。海外における気象災害の予測。洪水被害とEUにおける洪水対策。	
9	海外の気象災害に対する対応策について、復習する。	小レポートを行う。
10	温室効果ガス削減策としての自然エネルギーの導入。風力、太陽光発電に関するEUの政策。ドイツの再生可能エネルギー政策。	
11	EUにおける再生可能エネルギーと気候保全対策の関係。EUの再生可能エネルギー目標、欧州における再生可能エネルギー産業の成長。	
12	交通部門における温室効果ガス削減策。EUにおける乗用車に対する二酸化炭素排出規制、飛行機旅行に対する規制。日本との比較。	小レポートを行う。
13	家庭部門における温室効果ガス削減策。住宅における断熱性能の改善。家電製品に関する省エネ製品の導入。海外の取り組み。	

14	気候変動による農産物生産への影響。日本の食糧自給率とフードマイレージ。オーストラリアの穀物生産と早魃の影響。ビデオを見る。	気候変動と食料政策への影響について、ニュースを読む
15	温室効果ガス削減策と、気候変動の影響に対する適応策について講義のまとめ。	最終の小レポートを行う。

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

講義では、主に、気候変動に関する最近の英文ニュース、資料を使用する。気候変動に関する最新の情報は、多くは、英文である。このため、授業中に配布する英文資料について、毎回、復習すること。十分な復習がなければ、授業内容を理解することは困難である。最終講義試験では、授業中に配布した英文資料から出題する。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	授業中の小レポート、および、最終講義における小レポートで判断する。 単位取得を希望するものは、必ず、最終の講義における小レポートを提出すること。 就職などで、提出できないものは、指定した期限内に、代わりに小レポートを提出すること。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

授業中に使用する資料の大半は、英文資料を予定している。単位修得のためには、授業中に配布する英文資料を「毎回十分に復習する」ことが不可欠である。

気候変動 (climate change、または温暖化) は既にかなり進行しており、温度上昇は今世紀中、進行する。気候変動がいかに深刻化しているかについて、消費者が正確に理解すること無しには、なぜ、緊急かつ大量に、温室効果ガス削減が必要か理解することができない。温室効果ガスの削減を実行するためには、消費者が気候変動の現状について正確な知識を持つことが必要であり、climate science (気候変動科学) の基礎知識は不可欠である。講義では、climate science に関するサイエンス情報、およびEUの政策文書、政策ニュースを取り上げる。これらの情報はほとんど英語である。英文資料を読むことが単位取得量上、不可欠である。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
呉世煌・西村多嘉子編、『消費経済学体系・3・消費者問題』、第9章、2005年。	／慶応義塾大学出版会／ISBN 4-7664-1211-7。／第9章。竹濱朝美、「地球温暖化の影響と家庭部門における二酸化炭素削減策」、
竹濱朝美、「気候変動をめぐる消費者向け環境情報——温暖化影響および家庭部門における二酸化炭素削減策——」『立命館産業社会論集』第41巻第2号、2005年12月。	／／／
IPCC, Climate Change 2007: The Physical Science Basis, Summary for Policy Makers, contribution of working Group I to the Forth Assessment Report of the Intergovernmental panel on Climate Change.	／／／インターネットより入手可能
「環境展望」、Vol. 2、3、4、5	日本科学者会議公害問題研究会、環境展望編集会編／実教出版／／
「温室効果ガス排出削減の道すじ」『日本の科学者』2007年12月、42巻。	竹濱朝美／本の泉社／／雑誌論文

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

環境省、温暖化ホームページ (<http://www.env.go.jp/earth/index.html#ondanka>)
 The Intergovernmental Panel on Climate Change (IPCC) (<http://www.ipcc.ch>)

その他 / Others

担当者名 / Instructor 長澤 克重

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

情報ネットワークインフラの発達によって、社会的コミュニケーションのあり方、経済活動、社会活動に大きな変革が生じている。電子商取引の普及とユビキタスネットワークの形成により、ビジネスの方法、企業組織、流通構造、産業構造も変わりつつある。また、電子商取引が引き起こすさまざまな問題に対する諸制度の整備、消費者の側でのリテラシー涵養も求められている。この講義では電子商取引を中心とするネットワーク経済の実態、電子商取引を支える技術的基盤の仕組み、社会制度面で必要となる環境整備の課題等について考察する。

到達目標 / Attainment Objectives

- ・電子商取引の仕組み、構成、現状について理解できる
- ・電子商取引を支える技術的基盤の基本的しくみについて理解できる
- ・電子商取引の社会的影響について理解できる
- ・電子商取引に関わる法的問題、消費者保護の基本的課題について理解できる

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	イントロダクション 情報ネットワーク化と経済活動	情報経済、情報化社会、ICT、ユビキタスネットワーク社会
第2回	電子商取引(EC、Electronic Commerce)とは何か	電子商取引、定義、取引主体、市場規模
第3回	企業・消費者間(BtoC)のEC(1)	ユーザー像、市場の実態、ビジネス・モデル
第4回	企業・消費者間(BtoC)のEC(2)	中抜き、インフォメディアリ、メリット・デメリット
第5回	インターネット広告	ネット広告市場、基本分類、ビジネスモデル
第6回	企業間(BtoB)のEC	EDI、サプライチェーンマネジメント、e-マーケットプレイス
第7回	デジタル・エコノミーと経済法則の変化	経済性、取引費用、情報財、収穫通増
第8回	ECの技術的基盤(1) 情報処理システムと通信ネットワーク	コンピュータの発達、分散処理、通信ネットワーク
第9回	ECの技術的基盤(2) インターネット	パケット通信、プロトコル、TCP/IP、インターネット利用の実態
第10回	ECの技術的基盤(3) セキュリティ、暗号化と認証	暗号技術、デジタル署名、電子認証、電子公証、PKI
第11回	電子決済システム	ICカード型、ネットワーク型、プリペイド型
第12回	ユビキタスネットワーク(1)	ユビキタス、u-Japan政策、RFID
第13回	ユビキタスネットワーク(2)	トレーサビリティ、トラッキング、プライバシー保護
第14回	ECに関わる犯罪・トラブルと法的規制	特定商取引法、電子契約法、オンラインマーク制度、プライバシーマーク
第15回	情報ネットワーク社会における個人情報保護	個人情報漏洩、個人情報、プライバシー、OECD8原則、個人情報保護法

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

- ・理解を深めるために、参考文献(あるいは同分野の書籍)を講義の前後に読んでおくこと。
- ・講義の中で取り上げられた事例をインターネット上で確認してみる。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	70 %	講義で取り上げた基本的な用語、概念、基本問題が正確に理解されているかを評価する。
平常点(日常的)	30 %	講義で紹介した事例を実際に自分で調査・確認してもらう。3回の提出課題を課す。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

- ・新聞やWebサイトから講義に関わる内容はかなり勉強することができるので、意識的に目を通すように。
- ・ネットショッピングの際に、サイトの取引規約・プライバシーポリシーなど、普段あまり目を通さない所を隅々までしっかりと読んでみよう。また提供されているサービスをすみずみまで調べてみよう。これだけでもかなり勉強になる。

教科書 / Textbooks

特定の教科書は使用せず、教室で提示するスライド、授業中に配布するプリントを使用する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
エレクトロニック・コマース入門	井上英也 / 日本経済新聞社 / 4532107571 / 電子商取引の全体像をざっと理解するのに便利である
IT経済入門	篠崎彰彦 / 日本経済新聞社 / 4532109426 / 第7回目の講義内容の理解が深まる
IT革命を読み解く	岩村充 / 技術評論社 / 4774113204 / 第1回～第5回の講義内容の理解が深まる
デジタルID革命	國領二郎、日経デジタルコアトレーサビリティ研究会 / 日本経済新聞社 / 4532311179 / 第12回・13回の講義内容の理解が深まる
インターネットと法 第3版	高橋和之, 松井茂記 / 有斐閣 / 4641129460 / 第14、15回の講義内容の理解が深まる

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

次世代電子商取引推進協議会 <http://www.ecom.or.jp/>
 日本通信販売協会 <http://www.jadma.org/>
 総務省 <http://www.soumu.go.jp/>

その他 / Others

社会調査情報処理 SA § 情報処理 SX § 社会調査情報処理 SA

15496

担当者名 / Instructor 鈴木 未来

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

この授業では、社会調査における分析法のひとつである多変量解析を統計解析ソフトSPSSの操作を通じておこなうことで、大量のデータを処理する技術の習得を目的とする。その上で、量的調査で収集される個票を集計するにとどまらず、得られたデータの相関や散らばりなど、個々のデータの有する社会的な意味を探索する力の習得もめざす。

到達目標 / Attainment Objectives

SPSSの操作を通じた、多変量解析によるデータ分析法の習得

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

社会調査論 社会統計学

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	イントロダクション	社会調査 統計解析
第2回	【基礎編】SPSSの入力方法	
第3回	度数分布表の作成	
第4回	グラフと図の作成・基礎統計量を求める	記述統計
第5回	【応用編】探索的分析とは	
第6回	2群の平均値の差を検定する	t検定
第7回	質的な変数の関連を調べる1	クロス集計表
第8回	質的な変数の関連を調べる2	χ^2 乗検定
第9回	全体的な「差」を検討する	分散分析
第10回	量的な変数の関連を調べる	散布図 相関係数
第11回	【応用編】の総復習	
第12回	【発展編】多変量解析(1)	重回帰分析
第13回	多変量解析(2)	判別分析
第14回	多変量解析(3)	因子分析
第15回	社会調査の活用法	調査倫理

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	毎回提出の課題の評価および出席頻度を点数化する

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

すべての内容が連続しているため、操作法習得のためには連続した出席が求められる。欠席しなければならない場合は、参考書等の文献で該当箇所を補習した上で次の授業に望むこと。

教科書 / Textbooks

使用しない。授業時にプリントを配布する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『SPSSでやさしく学ぶ統計解析[第2版]』	室淳子・石村貞夫 / 東京図書 / 4-489-00637-3 /
『SPSSでやさしく学ぶ多変量解析[第2版]』	室淳子・石村貞夫 / 東京図書 / 4-489-00638-1 /
『改訂版 社会調査の基礎』	岩永雅也 / 日本放送出版協会 / 4-595-12687-5 / 放送大学教材
『あなたもできる データの処理と解析』	岩淵千明編 / 福村出版 / 4-571-20058-7 /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

受講の際はフロッピーディスクやフラッシュメモリーなど記憶媒体を必ず持参のこと。

担当者名 / Instructor 寺尾 洋子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

この科目では統計解析ソフトSPSSを学ぶことにより、社会調査等で得たデータを自分で解析する力を身につけることを目指す。大量のデータを処理する技術だけでなく、得られたデータの相関や散らばり、因果関係など社会的な意味を探求する力を身につけることをも目的とする。具体的には情報処理の基本概念を理解し、主要な計量モデルを概観する。その後、社会調査データを用いた解析と取り組む。

到達目標 / Attainment Objectives

- ・SPSSを使って基本的な統計解析ができる
- ・解析結果を使ってレポートを作成できる

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

IDとパスワードはあらかじめ各自で確認しておくこと。

自分用のフロッピーディスクまたはUSBメモリを持参すること。

なお、最低限必要なスキルとして、以下の3点を求める。

1. タッチタイピングができること
2. ファイル管理ができること(ファイルのコピー、削除、移動、ファイル名の変更)
3. 複数のウィンドウを切り替えて操作できること。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	社会調査と統計解析、統計ソフトSPSSの基礎	
2	記述統計量、計量モデルの概観	
3	量的変数の関連	相関係数
4	質的変数の関連	クロス表分析、カイニ乗検定
5	質的変数の関連	エラボレーション第3変数とは、コントロール、エラボレーションの考えかた
6	2群の差の検定	t検定
7	多変量解析	分散分析
8	多変量解析	因果分析(1)回帰分析
9	多変量解析	因果分析(2)重回帰分析、パス解析
10	多変量解析	因子分析(1)因子分析とは、因子数、回転
11	多変量解析	因子分析(2)因子スコア
12	社会調査データを用いた分析(1)	分析課題の設定とデータ分析、調査分析レポートの作成
13	社会調査データを用いた分析(2)	調査データの解析とレポートの作成
14	社会調査データを用いた分析(3)	解析結果のプレゼンテーション方法
15	社会調査データを用いた分析(4)	解析結果のプレゼンテーションと批評

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	30 %	社会調査データを自分なりに解析し、分析したレポートを求める。
平常点(日常的)	70 %	毎回の講義で課題出題する。また、質疑応答に積極的に参加したか等の講義参加傾向を加味する。

毎回実習を行い、課題提出を求めるので、遅刻・欠席は可能な限り避けること。それによる学習の遅れは自分で取り戻すことを原則とする。また、課題をこなすためには自習が必要になるので自主的な学習姿勢を持つことが必要である。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
SPSSでやさしく学ぶ統計解析	室淳子、石村貞夫 / 東京図書 / 9784489020070 / テキストに沿って講義を進めるので必ず購入すること

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
------------	--

統計学がわかる

向後千春、富永敦子／技術評論社／9784774131900／統計学を全く学んだことがない人はぜひ読んでください。

統計でウソをつく法—数式を使わない統計学入門

ダレル・ハフ／講談社ブルーバックス／4061177206／

講義中にも随時紹介する

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

講義用のWebサイト

<http://www.ritsumeai.ac.jp/~ytt06067/>

その他 / Others

担当者名 / Instructor 福島 力洋

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

高度情報通信社会において情報流通に伴って生じる様々な法的諸問題について、基本的人権としての表現の自由に関する基本的理解を踏まえつつ、現行の枠組みの意義と限界等も視野に入れながら講ずることとした。

到達目標 / Attainment Objectives

情報流通をめぐる法的問題について、説得力ある理由付けを伴って(=単なる独りよがりではない)、自分なりの結論を下すことができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

憲法(基本的人権)

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1講	授業の概要説明、講義の進め方、アンケート実施	
第2講	表現の自由総論(1)	
第3講	表現の自由総論(2)	
第4講	プライバシー侵害	
第5講	個人情報保護	
第6講	名誉毀損	
第7講	人格権侵害と救済	
第8講	性表現	
第9講	放送	
第10講	インターネット	
第11講	情報媒介者の責任	
第12講	メディアの融合と規制	
第13講	取材の自由(1)	
第14講	取材の自由(2)	
第15講	情報公開	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study**(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method**

- ・随時提示される小括的な問いに関し、参考書指定文献等を参照しつつ、自分の言葉で説明できるようなアウトプットを行うこと
- ・授業中に触れる諸判例について、概要と判旨の確認、授業担当者とは違った視線からの解説に触れること

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	問題点を法的に分析し、それに対し説得力ある理由付けを伴った結論を下せているかどうか

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

新聞や雑誌、放送、インターネットなど、身の回りにあるメディアのあり方について、単なる一利用者から脱却し、一步はなれたところから眺めてみて、「何かおかしい」と思うところを見つけてください。それが学習のスタート地点です。

教科書 / Textbooks

教科書は特定のもの是指定しないが、下記参考書が準教科書としての位置づけとなる。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
メディア判例百選	服部政男・長谷部恭男編 / 有斐閣 / 464111479X /
情報法(改正版)	宇賀克也・長谷部恭男編 / 放送大学教育振興会 / 9784595126154 /
マスメディア法入門	松井茂記 / 日本評論者 / 4535513643 /

教科書として位置づける。また「授業外学習の指示」参照

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

特になし

その他 / Others

授業の概要 / Course Outline

パソコンとインターネットが社会生活のあらゆる分野に浸透しつつある今日、情報ネットワーク環境の活用能力を身につけることは文字の読み書きと同様に社会生活に不可欠となっている。高校での情報科目必修化はそのあらわれであり、大学における情報科目は基礎を修得したことをふまえた、より進んだスキル獲得へと深化している。また、大学での学びにおいても、レジュメ作成、プレゼンテーション、レポート及び論文作成に至るまで、講義やゼミでの全ての学びに不可欠となっている。

この科目では、産業社会学部での4年間の学びに必要なパソコンの利用法(Windowsの操作、ワープロ、表計算)と情報ネットワーク(e-mail、インターネットWWW)の利用法について、体系的に実習を行う。また、演習などの学習に不可欠なオンラインデータベースの活用法やインターネットからの情報検索方法など学術情報関連、授業支援ツールの利用方法、情報ネットワークを利用する上で必要となるマナーやセキュリティなど、主体的な学修と研究の基礎となる情報リテラシーを実習により学んでいく

到達目標 / Attainment Objectives

コンピュータの基礎をふまえた上で応用的なスキルを修得し、産業社会学部で学ぶ4年間の学習面での活用ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

ガイダンス中に行われるコンピュータ・スキルの自己申告に基づいて、「入門」「初級」「中級」の3グレード制のクラス編成を行う。なお、「入門」クラスを申告する場合には、自身のコンピュータ経験や高校における情報授業の内容などの理由を明記する必要がある。また、各クラスの学習内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なる。自分のスキルにあったクラスを選択することも重要だが、より高いレベルを修得する意欲も持って欲しい。さらなるスキルアップやキャリアにつながるスキル獲得を目指す場合には、情報リテラシーⅢの受講を強く勧める。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	【入門・初級】	
第1回	Windows基礎 ID・パスワードの管理方法、学内システム利用について、メディアの取り扱い(USBフラッシュメモリ)、ファイル・フォルダの管理(教材フォルダの利用)	
第2回	コースツール・インターネット コースツールの使い方、インターネットの仕組みと情報検索、情報倫理(ネチケット、SNS利用の注意点)	
第3回	Webメール Webメールの使い方(送受信、アドレス帳の登録と利用、メールの検索、メールの整理、添付メール)、データの圧縮・解凍メールのマナー	
第4回	学術情報① 情報の種類と特徴の理解、情報の探し方(RUNNERS・NACSISWebcat、各種データベース)、情報の活用と著作権(引用の方法)	
第5回	学術情報②【課題①】 総復習(ここまでの内容のまとめ)【課題①】データ検索(メール添付)	
第6回	文書作成(Word)① 案内文書の作成(箇条書き・文字装飾)、タイトル・本文・記書き文、文書の印刷	
第7回	文書作成(Word)② ワードアート・クリップアートを利用した文書	
第8回	文書作成(Word)③【課題②】 総復習【課題②】案内文書の作成	
第9回	表計算(Excel)① Excelの基本操作、データ入力(文字データと数値データ、セル参照、四則演算、移動・コピー、範囲選択、消去、保存)、関数を使った計算(SUM、AVERAGE)	
第10回	表計算(Excel)② 関数復習、オートフィル機能、関数と絶対参照、表の書式設定(罫線、表示形式、書式設定)	
第11回	表計算(Excel)③ 関数と絶対参照(復習)、グラフの使い分け、基本的なグラフ(値の比較)作成	
第12回	表計算(Excel)④ 総復習【課題③】表計算とグラフの作成	
第13回	PowerPoint① PowerPointの基本操作、簡単なスライド作成(表紙・目次・箇条書き・表)、配色の変更、クリップアートの挿入	

第14回	PowerPoint② スライドへの設定(画面切り替え効果・アニメーションの設定)、スライドショーの実行、配布資料の印刷
第15回	前期総復習・問題解説 マークシートによる前期総合多肢選択式(75問)
	【中級クラス】
第1回	Windows基礎 ID・パスワードの管理方法、学内システム利用について、メディアの取り扱い(USBフラッシュメモリ)、ファイル・フォルダの管理(教材フォルダの利用)
第2回	コースツール・インターネット コースツールの使い方、インターネットの仕組みと情報検索、情報倫理(ネチケツ、SNS利用の注意点)
第3回	Webメール Webメールの使い方(送受信、アドレス帳の登録と利用、メールの検索、メールの整理、添付メール)、データの圧縮・解凍メールのマナー
第4回	学術情報① 情報の種類と特徴の理解、情報の探し方(RUNNERS・NACSISWebcat、各種データベース)、情報の活用と著作権(引用の方法)
第5回	学術情報②【課題①】 総復習(ここまでの内容のまとめ)【課題①】データ検索(メール添付)
第6回	文書作成(Word)① 案内文書の作成(インデント・スタイル設定)タイトル・本文・箇条書き、表、文書の印刷
第7回	文書作成(Word)② ワードアート・クリップアート・画像を利用した文書、図ツールバーを使った画像処理
第8回	文書作成(Word)③【課題②】 総復習【課題②】案内文書の作成
第9回	表計算(Excel)① Excelの基本操作、データ入力(文字データと数値データ、セル参照、四則演算、移動・コピー、範囲選択、消去、保存)、関数を使った計算(SUM、AVERAGE)
第10回	表計算(Excel)② オートフィル機能、関数と絶対参照、表の書式設定(罫線、表示形式、書式設定)、グラフの使い分け
第11回	表計算(Excel)③ 基本的なグラフ(値の比較・比率)の作成、関数応用(RANK、ROUNDDOWN、ROUNDUP)
第12回	表計算(Excel)④ 総復習【課題③】表計算とグラフの作成
第13回	PowerPoint① PowerPointの基本操作、簡単なスライド作成(表紙・目次・箇条書き・表)、配色の変更、クリップアートの挿入
第14回	PowerPoint② スライドへの設定(画面切り替え効果・アニメーションの設定)、スライドショーの実行、配布資料の印刷
第15回	前期総復習・問題解説 マークシートによる前期総合多肢選択式(75問)

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(検証テスト)	100 %	出席点、課題提出状況、小テスト・最終講義日に実施する検証テストによって評価する。
平常点(日常的)	0 %	0

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

- ・3回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。
- ・入門クラス・初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。3クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。
- ・フラッシュメモリーあるいはフロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
- ・宿題を数回、提出してもらう予定。
- ・授業に5分以上遅刻したものは欠席と見なす。

教科書 / Textbooks**書名 / Title****出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment**

Rainbow Guide2006

///

情報活用の基礎

///

参考書 / Reference Books**参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference****その他 / Others**

担当者名 / Instructor 森西 真弓

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

パソコンとインターネットが社会生活のあらゆる分野に浸透しつつある今日、情報ネットワーク環境の活用能力を身につけることは文字の読み書きと同様に社会生活に不可欠となっている。高校での情報科目必修化はそのあらわれであり、大学における情報科目は基礎を修得したことをふまえた、より進んだスキル獲得へと深化している。また、大学での学びにおいても、レジュメ作成、プレゼンテーション、レポート及び論文作成に至るまで、講義やゼミでの全ての学びに不可欠となっている。

この科目では、産業社会学部での4年間の学びに必要なパソコンの利用法(Windowsの操作、ワープロ、表計算)と情報ネットワーク(e-mail、インターネットWWW)の利用法について、体系的に実習を行う。また、演習などの学習に不可欠なオンラインデータベースの活用法やインターネットからの情報検索方法など学術情報関連、授業支援ツールの利用方法、情報ネットワークを利用する上で必要となるマナーやセキュリティなど、主体的な学修と研究の基礎となる情報リテラシーを実習により学んでいく

到達目標 / Attainment Objectives

コンピュータの基礎をふまえた上で応用的なスキルを修得し、産業社会学部で学ぶ4年間の学習面での活用ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

ガイダンス中に行われるコンピュータ・スキルの自己申告に基づいて、「入門」「初級」「中級」の3グレード制のクラス編成を行う。なお、「入門」クラスを申告する場合には、自身のコンピュータ経験や高校における情報授業の内容などの理由を明記する必要がある。また、各クラスの学習内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なる。自分のスキルにあったクラスを選択することも重要だが、より高いレベルを修得する意欲も持って欲しい。さらなるスキルアップやキャリアにつながるスキル獲得を目指す場合には、情報リテラシーⅢの受講を強く勧める。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	【入門・初級】	
第1回	Windows基礎 ID・パスワードの管理方法、学内システム利用について、メディアの取り扱い(USBフラッシュメモリ)、ファイル・フォルダの管理(教材フォルダの利用)	
第2回	コースツール・インターネット コースツールの使い方、インターネットの仕組みと情報検索、情報倫理(ネチケット、SNS利用の注意点)	
第3回	Webメール Webメールの使い方(送受信、アドレス帳の登録と利用、メールの検索、メールの整理、添付メール)、データの圧縮・解凍メールのマナー	
第4回	学術情報① 情報の種類と特徴の理解、情報の探し方(RUNNERS・NACSISWebcat、各種データベース)、情報の活用と著作権(引用の方法)	
第5回	学術情報②【課題①】 総復習(ここまでの内容のまとめ)【課題①】データ検索(メール添付)	
第6回	文書作成(Word)① 案内文書の作成(箇条書き・文字装飾)、タイトル・本文・記書き文、文書の印刷	
第7回	文書作成(Word)② ワードアート・クリップアートを利用した文書	
第8回	文書作成(Word)③【課題②】 総復習【課題②】案内文書の作成	
第9回	表計算(Excel)① Excelの基本操作、データ入力(文字データと数値データ、セル参照、四則演算、移動・コピー、範囲選択、消去、保存)、関数を使った計算(SUM、AVERAGE)	
第10回	表計算(Excel)② 関数復習、オートフィル機能、関数と絶対参照、表の書式設定(罫線、表示形式、書式設定)	
第11回	表計算(Excel)③ 関数と絶対参照(復習)、グラフの使い分け、基本的なグラフ(値の比較)作成	
第12回	表計算(Excel)④ 総復習【課題③】表計算とグラフの作成	
第13回	PowerPoint① PowerPointの基本操作、簡単なスライド作成(表紙・目次・箇条書き・表)、配色の変更、クリップアートの挿入	

第14回	PowerPoint② スライドへの設定(画面切り替え効果・アニメーションの設定)、スライドショーの実行、配布資料の印刷
第15回	前期総復習・問題解説 マークシートによる前期総合多肢選択式(75問)
	【中級クラス】
第1回	Windows基礎 ID・パスワードの管理方法、学内システム利用について、メディアの取り扱い(USBフラッシュメモリ)、ファイル・フォルダの管理(教材フォルダの利用)
第2回	コースツール・インターネット コースツールの使い方、インターネットの仕組みと情報検索、情報倫理(ネチケツ、SNS利用の注意点)
第3回	Webメール Webメールの使い方(送受信、アドレス帳の登録と利用、メールの検索、メールの整理、添付メール)、データの圧縮・解凍メールのマナー
第4回	学術情報① 情報の種類と特徴の理解、情報の探し方(RUNNERS・NACSISWebcat、各種データベース)、情報の活用と著作権(引用の方法)
第5回	学術情報②【課題①】 総復習(ここまでの内容のまとめ)【課題①】データ検索(メール添付)
第6回	文書作成(Word)① 案内文書の作成(インデント・スタイル設定)タイトル・本文・箇条書き、表、文書の印刷
第7回	文書作成(Word)② ワードアート・クリップアート・画像を利用した文書、図ツールバーを使った画像処理
第8回	文書作成(Word)③【課題②】 総復習【課題②】案内文書の作成
第9回	表計算(Excel)① Excelの基本操作、データ入力(文字データと数値データ、セル参照、四則演算、移動・コピー、範囲選択、消去、保存)、関数を使った計算(SUM、AVERAGE)
第10回	表計算(Excel)② オートフィル機能、関数と絶対参照、表の書式設定(罫線、表示形式、書式設定)、グラフの使い分け
第11回	表計算(Excel)③ 基本的なグラフ(値の比較・比率)の作成、関数応用(RANK、ROUNDDOWN、ROUNDUP)
第12回	表計算(Excel)④ 総復習【課題③】表計算とグラフの作成
第13回	PowerPoint① PowerPointの基本操作、簡単なスライド作成(表紙・目次・箇条書き・表)、配色の変更、クリップアートの挿入
第14回	PowerPoint② スライドへの設定(画面切り替え効果・アニメーションの設定)、スライドショーの実行、配布資料の印刷
第15回	前期総復習・問題解説 マークシートによる前期総合多肢選択式(75問)

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(検証テスト)	100 %	出席点、課題提出状況、小テスト・最終講義日に実施する検証テストによって評価する。
平常点(日常的)	0 %	0

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

- ・3回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。
- ・入門クラス・初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。3クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。
- ・フラッシュメモリーあるいはフロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
- ・宿題を数回、提出してもらう予定。
- ・授業に5分以上遅刻したものは欠席と見なす。

教科書 / Textbooks**書名 / Title****出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment**

Rainbow Guide2006

///

情報活用の基礎

///

参考書 / Reference Books**参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference****その他 / Others**

担当者名 / Instructor 森西 真弓

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

パソコンとインターネットが社会生活のあらゆる分野に浸透しつつある今日、情報ネットワーク環境の活用能力を身につけることは文字の読み書きと同様に社会生活に不可欠となっている。高校での情報科目必修化はそのあらわれであり、大学における情報科目は基礎を修得したことをふまえた、より進んだスキル獲得へと深化している。また、大学での学びにおいても、レジュメ作成、プレゼンテーション、レポート及び論文作成に至るまで、講義やゼミでの全ての学びに不可欠となっている。

この科目では、産業社会学部での4年間の学びに必要なパソコンの利用法(Windowsの操作、ワープロ、表計算)と情報ネットワーク(e-mail、インターネットWWW)の利用法について、体系的に実習を行う。また、演習などの学習に不可欠なオンラインデータベースの活用法やインターネットからの情報検索方法など学術情報関連、授業支援ツールの利用方法、情報ネットワークを利用する上で必要となるマナーやセキュリティなど、主体的な学修と研究の基礎となる情報リテラシーを実習により学んでいく

到達目標 / Attainment Objectives

コンピュータの基礎をふまえた上で応用的なスキルを修得し、産業社会学部で学ぶ4年間の学習面での活用ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

ガイダンス中に行われるコンピュータ・スキルの自己申告に基づいて、「入門」「初級」「中級」の3グレード制のクラス編成を行う。なお、「入門」クラスを申告する場合には、自身のコンピュータ経験や高校における情報授業の内容などの理由を明記する必要がある。また、各クラスの学習内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なる。自分のスキルにあったクラスを選択することも重要だが、より高いレベルを修得する意欲も持って欲しい。さらなるスキルアップやキャリアにつながるスキル獲得を目指す場合には、情報リテラシーⅢの受講を強く勧める。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	【入門・初級】	
第1回	Windows基礎 ID・パスワードの管理方法、学内システム利用について、メディアの取り扱い(USBフラッシュメモリ)、ファイル・フォルダの管理(教材フォルダの利用)	
第2回	コースツール・インターネット コースツールの使い方、インターネットの仕組みと情報検索、情報倫理(ネチケット、SNS利用の注意点)	
第3回	Webメール Webメールの使い方(送受信、アドレス帳の登録と利用、メールの検索、メールの整理、添付メール)、データの圧縮・解凍メールのマナー	
第4回	学術情報① 情報の種類と特徴の理解、情報の探し方(RUNNERS・NACSISWebcat、各種データベース)、情報の活用と著作権(引用の方法)	
第5回	学術情報②【課題①】 総復習(ここまでの内容のまとめ)【課題①】データ検索(メール添付)	
第6回	文書作成(Word)① 案内文書の作成(箇条書き・文字装飾)、タイトル・本文・記書き文、文書の印刷	
第7回	文書作成(Word)② ワードアート・クリップアートを利用した文書	
第8回	文書作成(Word)③【課題②】 総復習【課題②】案内文書の作成	
第9回	表計算(Excel)① Excelの基本操作、データ入力(文字データと数値データ、セル参照、四則演算、移動・コピー、範囲選択、消去、保存)、関数を使った計算(SUM、AVERAGE)	
第10回	表計算(Excel)② 関数復習、オートフィル機能、関数と絶対参照、表の書式設定(罫線、表示形式、書式設定)	
第11回	表計算(Excel)③ 関数と絶対参照(復習)、グラフの使い分け、基本的なグラフ(値の比較)作成	
第12回	表計算(Excel)④ 総復習【課題③】表計算とグラフの作成	
第13回	PowerPoint① PowerPointの基本操作、簡単なスライド作成(表紙・目次・箇条書き・表)、配色の変更、クリップアートの挿入	

第14回	PowerPoint② スライドへの設定(画面切り替え効果・アニメーションの設定)、スライドショーの実行、配布資料の印刷
第15回	前期総復習・問題解説 マークシートによる前期総合多肢選択式(75問)
	【中級クラス】
第1回	Windows基礎 ID・パスワードの管理方法、学内システム利用について、メディアの取り扱い(USBフラッシュメモリ)、ファイル・フォルダの管理(教材フォルダの利用)
第2回	コースツール・インターネット コースツールの使い方、インターネットの仕組みと情報検索、情報倫理(ネチケツ、SNS利用の注意点)
第3回	Webメール Webメールの使い方(送受信、アドレス帳の登録と利用、メールの検索、メールの整理、添付メール)、データの圧縮・解凍メールのマナー
第4回	学術情報① 情報の種類と特徴の理解、情報の探し方(RUNNERS・NACSISWebcat、各種データベース)、情報の活用と著作権(引用の方法)
第5回	学術情報②【課題①】 総復習(ここまでの内容のまとめ)【課題①】データ検索(メール添付)
第6回	文書作成(Word)① 案内文書の作成(インデント・スタイル設定)タイトル・本文・箇条書き、表、文書の印刷
第7回	文書作成(Word)② ワードアート・クリップアート・画像を利用した文書、図ツールバーを使った画像処理
第8回	文書作成(Word)③【課題②】 総復習【課題②】案内文書の作成
第9回	表計算(Excel)① Excelの基本操作、データ入力(文字データと数値データ、セル参照、四則演算、移動・コピー、範囲選択、消去、保存)、関数を使った計算(SUM、AVERAGE)
第10回	表計算(Excel)② オートフィル機能、関数と絶対参照、表の書式設定(罫線、表示形式、書式設定)、グラフの使い分け
第11回	表計算(Excel)③ 基本的なグラフ(値の比較・比率)の作成、関数応用(RANK、ROUNDDOWN、ROUNDUP)
第12回	表計算(Excel)④ 総復習【課題③】表計算とグラフの作成
第13回	PowerPoint① PowerPointの基本操作、簡単なスライド作成(表紙・目次・箇条書き・表)、配色の変更、クリップアートの挿入
第14回	PowerPoint② スライドへの設定(画面切り替え効果・アニメーションの設定)、スライドショーの実行、配布資料の印刷
第15回	前期総復習・問題解説 マークシートによる前期総合多肢選択式(75問)

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(検証テスト)	100 %	出席点、課題提出状況、小テスト・最終講義日に実施する検証テストによって評価する。
平常点(日常的)	0 %	0

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

- ・3回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。
- ・入門クラス・初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。3クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。
- ・フラッシュメモリーあるいはフロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
- ・宿題を数回、提出してもらう予定。
- ・授業に5分以上遅刻したものは欠席と見なす。

教科書 / Textbooks**書名 / Title****出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment**

Rainbow Guide2006

///

情報活用の基礎

///

参考書 / Reference Books**参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference****その他 / Others**

授業の概要 / Course Outline

パソコンとインターネットが社会生活のあらゆる分野に浸透しつつある今日、情報ネットワーク環境の活用能力を身につけることは文字の読み書きと同様に社会生活に不可欠となっている。高校での情報科目必修化はそのあらわれであり、大学における情報科目は基礎を修得したことをふまえた、より進んだスキル獲得へと深化している。また、大学での学びにおいても、レジュメ作成、プレゼンテーション、レポート及び論文作成に至るまで、講義やゼミでの全ての学びに不可欠となっている。

この科目では、産業社会学部での4年間の学びに必要なパソコンの利用法(Windowsの操作、ワープロ、表計算)と情報ネットワーク(e-mail、インターネットWWW)の利用法について、体系的に実習を行う。また、演習などの学習に不可欠なオンラインデータベースの活用法やインターネットからの情報検索方法など学術情報関連、授業支援ツールの利用方法、情報ネットワークを利用する上で必要となるマナーやセキュリティなど、主体的な学修と研究の基礎となる情報リテラシーを実習により学んでいく

到達目標 / Attainment Objectives

コンピュータの基礎をふまえた上で応用的なスキルを修得し、産業社会学部で学ぶ4年間の学習面での活用ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

ガイダンス中に行われるコンピュータ・スキルの自己申告に基づいて、「入門」「初級」「中級」の3グレード制のクラス編成を行う。なお、「入門」クラスを申告する場合には、自身のコンピュータ経験や高校における情報授業の内容などの理由を明記する必要がある。また、各クラスの学習内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なる。自分のスキルにあったクラスを選択することも重要だが、より高いレベルを修得する意欲も持って欲しい。さらなるスキルアップやキャリアにつながるスキル獲得を目指す場合には、情報リテラシーⅢの受講を強く勧める。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	【入門・初級】	
第1回	Windows基礎 ID・パスワードの管理方法、学内システム利用について、メディアの取り扱い(USBフラッシュメモリ)、ファイル・フォルダの管理(教材フォルダの利用)	
第2回	コースツール・インターネット コースツールの使い方、インターネットの仕組みと情報検索、情報倫理(ネチケット、SNS利用の注意点)	
第3回	Webメール Webメールの使い方(送受信、アドレス帳の登録と利用、メールの検索、メールの整理、添付メール)、データの圧縮・解凍メールのマナー	
第4回	学術情報① 情報の種類と特徴の理解、情報の探し方(RUNNERS・NACSISWebcat、各種データベース)、情報の活用と著作権(引用の方法)	
第5回	学術情報②【課題①】 総復習(ここまでの内容のまとめ)【課題①】データ検索(メール添付)	
第6回	文書作成(Word)① 案内文書の作成(箇条書き・文字装飾)、タイトル・本文・記書き文、文書の印刷	
第7回	文書作成(Word)② ワードアート・クリップアートを利用した文書	
第8回	文書作成(Word)③【課題②】 総復習【課題②】案内文書の作成	
第9回	表計算(Excel)① Excelの基本操作、データ入力(文字データと数値データ、セル参照、四則演算、移動・コピー、範囲選択、消去、保存)、関数を使った計算(SUM、AVERAGE)	
第10回	表計算(Excel)② 関数復習、オートフィル機能、関数と絶対参照、表の書式設定(罫線、表示形式、書式設定)	
第11回	表計算(Excel)③ 関数と絶対参照(復習)、グラフの使い分け、基本的なグラフ(値の比較)作成	
第12回	表計算(Excel)④ 総復習【課題③】表計算とグラフの作成	
第13回	PowerPoint① PowerPointの基本操作、簡単なスライド作成(表紙・目次・箇条書き・表)、配色の変更、クリップアートの挿入	

第14回	PowerPoint② スライドへの設定(画面切り替え効果・アニメーションの設定)、スライドショーの実行、配布資料の印刷
第15回	前期総復習・問題解説 マークシートによる前期総合多肢選択式(75問)
	【中級クラス】
第1回	Windows基礎 ID・パスワードの管理方法、学内システム利用について、メディアの取り扱い(USBフラッシュメモリ)、ファイル・フォルダの管理(教材フォルダの利用)
第2回	コースツール・インターネット コースツールの使い方、インターネットの仕組みと情報検索、情報倫理(ネチケツ、SNS利用の注意点)
第3回	Webメール Webメールの使い方(送受信、アドレス帳の登録と利用、メールの検索、メールの整理、添付メール)、データの圧縮・解凍メールのマナー
第4回	学術情報① 情報の種類と特徴の理解、情報の探し方(RUNNERS・NACSISWebcat、各種データベース)、情報の活用と著作権(引用の方法)
第5回	学術情報②【課題①】 総復習(ここまでの内容のまとめ)【課題①】データ検索(メール添付)
第6回	文書作成(Word)① 案内文書の作成(インデント・スタイル設定)タイトル・本文・箇条書き、表、文書の印刷
第7回	文書作成(Word)② ワードアート・クリップアート・画像を利用した文書、図ツールバーを使った画像処理
第8回	文書作成(Word)③【課題②】 総復習【課題②】案内文書の作成
第9回	表計算(Excel)① Excelの基本操作、データ入力(文字データと数値データ、セル参照、四則演算、移動・コピー、範囲選択、消去、保存)、関数を使った計算(SUM、AVERAGE)
第10回	表計算(Excel)② オートフィル機能、関数と絶対参照、表の書式設定(罫線、表示形式、書式設定)、グラフの使い分け
第11回	表計算(Excel)③ 基本的なグラフ(値の比較・比率)の作成、関数応用(RANK、ROUNDDOWN、ROUNDUP)
第12回	表計算(Excel)④ 総復習【課題③】表計算とグラフの作成
第13回	PowerPoint① PowerPointの基本操作、簡単なスライド作成(表紙・目次・箇条書き・表)、配色の変更、クリップアートの挿入
第14回	PowerPoint② スライドへの設定(画面切り替え効果・アニメーションの設定)、スライドショーの実行、配布資料の印刷
第15回	前期総復習・問題解説 マークシートによる前期総合多肢選択式(75問)

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(検証テスト)	100 %	出席点、課題提出状況、小テスト・最終講義日に実施する検証テストによって評価する。
平常点(日常的)	0 %	0

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

- ・3回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。
- ・入門クラス・初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。3クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。
- ・フラッシュメモリーあるいはフロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
- ・宿題を数回、提出してもらう予定。
- ・授業に5分以上遅刻したものは欠席と見なす。

教科書 / Textbooks**書名 / Title****出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment**

Rainbow Guide2006

///

情報活用の基礎

///

参考書 / Reference Books**参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference****その他 / Others**

担当者名 / Instructor 杉本 通百則

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

パソコンとインターネットが社会生活のあらゆる分野に浸透しつつある今日、情報ネットワーク環境の活用能力を身につけることは文字の読み書きと同様に社会生活に不可欠となっている。高校での情報科目必修化はそのあらわれであり、大学における情報科目は基礎を修得したことをふまえた、より進んだスキル獲得へと深化している。また、大学での学びにおいても、レジュメ作成、プレゼンテーション、レポート及び論文作成に至るまで、講義やゼミでの全ての学びに不可欠となっている。

この科目では、産業社会学部での4年間の学びに必要なパソコンの利用法(Windowsの操作、ワープロ、表計算)と情報ネットワーク(e-mail、インターネットWWW)の利用法について、体系的に実習を行う。また、演習などの学習に不可欠なオンラインデータベースの活用法やインターネットからの情報検索方法など学術情報関連、授業支援ツールの利用方法、情報ネットワークを利用する上で必要となるマナーやセキュリティなど、主体的な学修と研究の基礎となる情報リテラシーを実習により学んでいく

到達目標 / Attainment Objectives

コンピュータの基礎をふまえた上で応用的なスキルを修得し、産業社会学部で学ぶ4年間の学習面での活用ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

ガイダンス中に行われるコンピュータ・スキルの自己申告に基づいて、「入門」「初級」「中級」の3グレード制のクラス編成を行う。なお、「入門」クラスを申告する場合には、自身のコンピュータ経験や高校における情報授業の内容などの理由を明記する必要がある。また、各クラスの学習内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なる。自分のスキルにあったクラスを選択することも重要だが、より高いレベルを修得する意欲も持って欲しい。さらなるスキルアップやキャリアにつながるスキル獲得を目指す場合には、情報リテラシーⅢの受講を強く勧める。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	【入門・初級】	
第1回	Windows基礎 ID・パスワードの管理方法、学内システム利用について、メディアの取り扱い(USBフラッシュメモリ)、ファイル・フォルダの管理(教材フォルダの利用)	
第2回	コースツール・インターネット コースツールの使い方、インターネットの仕組みと情報検索、情報倫理(ネチケット、SNS利用の注意点)	
第3回	Webメール Webメールの使い方(送受信、アドレス帳の登録と利用、メールの検索、メールの整理、添付メール)、データの圧縮・解凍メールのマナー	
第4回	学術情報① 情報の種類と特徴の理解、情報の探し方(RUNNERS・NACSISWebcat、各種データベース)、情報の活用と著作権(引用の方法)	
第5回	学術情報②【課題①】 総復習(ここまでの内容のまとめ)【課題①】データ検索(メール添付)	
第6回	文書作成(Word)① 案内文書の作成(箇条書き・文字装飾)、タイトル・本文・記書き文、文書の印刷	
第7回	文書作成(Word)② ワードアート・クリップアートを利用した文書	
第8回	文書作成(Word)③【課題②】 総復習【課題②】案内文書の作成	
第9回	表計算(Excel)① Excelの基本操作、データ入力(文字データと数値データ、セル参照、四則演算、移動・コピー、範囲選択、消去、保存)、関数を使った計算(SUM、AVERAGE)	
第10回	表計算(Excel)② 関数復習、オートフィル機能、関数と絶対参照、表の書式設定(罫線、表示形式、書式設定)	
第11回	表計算(Excel)③ 関数と絶対参照(復習)、グラフの使い分け、基本的なグラフ(値の比較)作成	
第12回	表計算(Excel)④ 総復習【課題③】表計算とグラフの作成	
第13回	PowerPoint① PowerPointの基本操作、簡単なスライド作成(表紙・目次・箇条書き・表)、配色の変更、クリップアートの挿入	

第14回	PowerPoint② スライドへの設定(画面切り替え効果・アニメーションの設定)、スライドショーの実行、配布資料の印刷
第15回	前期総復習・問題解説 マークシートによる前期総合多肢選択式(75問)
	【中級クラス】
第1回	Windows基礎 ID・パスワードの管理方法、学内システム利用について、メディアの取り扱い(USBフラッシュメモリ)、ファイル・フォルダの管理(教材フォルダの利用)
第2回	コースツール・インターネット コースツールの使い方、インターネットの仕組みと情報検索、情報倫理(ネチケツ、SNS利用の注意点)
第3回	Webメール Webメールの使い方(送受信、アドレス帳の登録と利用、メールの検索、メールの整理、添付メール)、データの圧縮・解凍メールのマナー
第4回	学術情報① 情報の種類と特徴の理解、情報の探し方(RUNNERS・NACSISWebcat、各種データベース)、情報の活用と著作権(引用の方法)
第5回	学術情報②【課題①】 総復習(ここまでの内容のまとめ)【課題①】データ検索(メール添付)
第6回	文書作成(Word)① 案内文書の作成(インデント・スタイル設定)タイトル・本文・箇条書き、表、文書の印刷
第7回	文書作成(Word)② ワードアート・クリップアート・画像を利用した文書、図ツールバーを使った画像処理
第8回	文書作成(Word)③【課題②】 総復習【課題②】案内文書の作成
第9回	表計算(Excel)① Excelの基本操作、データ入力(文字データと数値データ、セル参照、四則演算、移動・コピー、範囲選択、消去、保存)、関数を使った計算(SUM、AVERAGE)
第10回	表計算(Excel)② オートフィル機能、関数と絶対参照、表の書式設定(罫線、表示形式、書式設定)、グラフの使い分け
第11回	表計算(Excel)③ 基本的なグラフ(値の比較・比率)の作成、関数応用(RANK、ROUNDDOWN、ROUNDUP)
第12回	表計算(Excel)④ 総復習【課題③】表計算とグラフの作成
第13回	PowerPoint① PowerPointの基本操作、簡単なスライド作成(表紙・目次・箇条書き・表)、配色の変更、クリップアートの挿入
第14回	PowerPoint② スライドへの設定(画面切り替え効果・アニメーションの設定)、スライドショーの実行、配布資料の印刷
第15回	前期総復習・問題解説 マークシートによる前期総合多肢選択式(75問)

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(検証テスト)	100 %	出席点、課題提出状況、小テスト・最終講義日に実施する検証テストによって評価する。
平常点(日常的)	0 %	0

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

- ・3回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。
- ・入門クラス・初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。3クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。
- ・フラッシュメモリーあるいはフロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
- ・宿題を数回、提出してもらう予定。
- ・授業に5分以上遅刻したものは欠席と見なす。

教科書 / Textbooks**書名 / Title****出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment**

Rainbow Guide2006

///

情報活用の基礎

///

参考書 / Reference Books**参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference****その他 / Others**

担当者名 / Instructor 杉本 通百則

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

パソコンとインターネットが社会生活のあらゆる分野に浸透しつつある今日、情報ネットワーク環境の活用能力を身につけることは文字の読み書きと同様に社会生活に不可欠となっている。高校での情報科目必修化はそのあらわれであり、大学における情報科目は基礎を修得したことをふまえた、より進んだスキル獲得へと深化している。また、大学での学びにおいても、レジュメ作成、プレゼンテーション、レポート及び論文作成に至るまで、講義やゼミでの全ての学びに不可欠となっている。

この科目では、産業社会学部での4年間の学びに必要なパソコンの利用法(Windowsの操作、ワープロ、表計算)と情報ネットワーク(e-mail、インターネットWWW)の利用法について、体系的に実習を行う。また、演習などの学習に不可欠なオンラインデータベースの活用法やインターネットからの情報検索方法など学術情報関連、授業支援ツールの利用方法、情報ネットワークを利用する上で必要となるマナーやセキュリティなど、主体的な学修と研究の基礎となる情報リテラシーを実習により学んでいく

到達目標 / Attainment Objectives

コンピュータの基礎をふまえた上で応用的なスキルを修得し、産業社会学部で学ぶ4年間の学習面での活用ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

ガイダンス中に行われるコンピュータ・スキルの自己申告に基づいて、「入門」「初級」「中級」の3グレード制のクラス編成を行う。なお、「入門」クラスを申告する場合には、自身のコンピュータ経験や高校における情報授業の内容などの理由を明記する必要がある。また、各クラスの学習内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なる。自分のスキルにあったクラスを選択することも重要だが、より高いレベルを修得する意欲も持って欲しい。さらなるスキルアップやキャリアにつながるスキル獲得を目指す場合には、情報リテラシーⅢの受講を強く勧める。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	【入門・初級】	
第1回	Windows基礎 ID・パスワードの管理方法、学内システム利用について、メディアの取り扱い(USBフラッシュメモリ)、ファイル・フォルダの管理(教材フォルダの利用)	
第2回	コースツール・インターネット コースツールの使い方、インターネットの仕組みと情報検索、情報倫理(ネチケット、SNS利用の注意点)	
第3回	Webメール Webメールの使い方(送受信、アドレス帳の登録と利用、メールの検索、メールの整理、添付メール)、データの圧縮・解凍メールのマナー	
第4回	学術情報① 情報の種類と特徴の理解、情報の探し方(RUNNERS・NACSISWebcat、各種データベース)、情報の活用と著作権(引用の方法)	
第5回	学術情報②【課題①】 総復習(ここまでの内容のまとめ)【課題①】データ検索(メール添付)	
第6回	文書作成(Word)① 案内文書の作成(箇条書き・文字装飾)、タイトル・本文・記書き文、文書の印刷	
第7回	文書作成(Word)② ワードアート・クリップアートを利用した文書	
第8回	文書作成(Word)③【課題②】 総復習【課題②】案内文書の作成	
第9回	表計算(Excel)① Excelの基本操作、データ入力(文字データと数値データ、セル参照、四則演算、移動・コピー、範囲選択、消去、保存)、関数を使った計算(SUM、AVERAGE)	
第10回	表計算(Excel)② 関数復習、オートフィル機能、関数と絶対参照、表の書式設定(罫線、表示形式、書式設定)	
第11回	表計算(Excel)③ 関数と絶対参照(復習)、グラフの使い分け、基本的なグラフ(値の比較)作成	
第12回	表計算(Excel)④ 総復習【課題③】表計算とグラフの作成	
第13回	PowerPoint① PowerPointの基本操作、簡単なスライド作成(表紙・目次・箇条書き・表)、配色の変更、クリップアートの挿入	

第14回	PowerPoint② スライドへの設定(画面切り替え効果・アニメーションの設定)、スライドショーの実行、配布資料の印刷
第15回	前期総復習・問題解説 マークシートによる前期総合多肢選択式(75問)
	【中級クラス】
第1回	Windows基礎 ID・パスワードの管理方法、学内システム利用について、メディアの取り扱い(USBフラッシュメモリ)、ファイル・フォルダの管理(教材フォルダの利用)
第2回	コースツール・インターネット コースツールの使い方、インターネットの仕組みと情報検索、情報倫理(ネチケツ、SNS利用の注意点)
第3回	Webメール Webメールの使い方(送受信、アドレス帳の登録と利用、メールの検索、メールの整理、添付メール)、データの圧縮・解凍メールのマナー
第4回	学術情報① 情報の種類と特徴の理解、情報の探し方(RUNNERS・NACSISWebcat、各種データベース)、情報の活用と著作権(引用の方法)
第5回	学術情報②【課題①】 総復習(ここまでの内容のまとめ)【課題①】データ検索(メール添付)
第6回	文書作成(Word)① 案内文書の作成(インデント・スタイル設定)タイトル・本文・箇条書き、表、文書の印刷
第7回	文書作成(Word)② ワードアート・クリップアート・画像を利用した文書、図ツールバーを使った画像処理
第8回	文書作成(Word)③【課題②】 総復習【課題②】案内文書の作成
第9回	表計算(Excel)① Excelの基本操作、データ入力(文字データと数値データ、セル参照、四則演算、移動・コピー、範囲選択、消去、保存)、関数を使った計算(SUM、AVERAGE)
第10回	表計算(Excel)② オートフィル機能、関数と絶対参照、表の書式設定(罫線、表示形式、書式設定)、グラフの使い分け
第11回	表計算(Excel)③ 基本的なグラフ(値の比較・比率)の作成、関数応用(RANK、ROUNDDOWN、ROUNDUP)
第12回	表計算(Excel)④ 総復習【課題③】表計算とグラフの作成
第13回	PowerPoint① PowerPointの基本操作、簡単なスライド作成(表紙・目次・箇条書き・表)、配色の変更、クリップアートの挿入
第14回	PowerPoint② スライドへの設定(画面切り替え効果・アニメーションの設定)、スライドショーの実行、配布資料の印刷
第15回	前期総復習・問題解説 マークシートによる前期総合多肢選択式(75問)

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(検証テスト)	100 %	出席点、課題提出状況、小テスト・最終講義日に実施する検証テストによって評価する。
平常点(日常的)	0 % 0	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

- ・3回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。
- ・入門クラス・初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。3クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。
- ・フラッシュメモリーあるいはフロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
- ・宿題を数回、提出してもらう予定。
- ・授業に5分以上遅刻したものは欠席と見なす。

教科書 / Textbooks**書名 / Title****出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment**

Rainbow Guide2006

///

情報活用の基礎

///

参考書 / Reference Books**参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference****その他 / Others**

担当者名 / Instructor 杉本 通百則

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

パソコンとインターネットが社会生活のあらゆる分野に浸透しつつある今日、情報ネットワーク環境の活用能力を身につけることは文字の読み書きと同様に社会生活に不可欠となっている。高校での情報科目必修化はそのあらわれであり、大学における情報科目は基礎を修得したことをふまえた、より進んだスキル獲得へと深化している。また、大学での学びにおいても、レジュメ作成、プレゼンテーション、レポート及び論文作成に至るまで、講義やゼミでの全ての学びに不可欠となっている。

この科目では、産業社会学部での4年間の学びに必要なパソコンの利用法(Windowsの操作、ワープロ、表計算)と情報ネットワーク(e-mail、インターネットWWW)の利用法について、体系的に実習を行う。また、演習などの学習に不可欠なオンラインデータベースの活用法やインターネットからの情報検索方法など学術情報関連、授業支援ツールの利用方法、情報ネットワークを利用する上で必要となるマナーやセキュリティなど、主体的な学修と研究の基礎となる情報リテラシーを実習により学んでいく

到達目標 / Attainment Objectives

コンピュータの基礎をふまえた上で応用的なスキルを修得し、産業社会学部で学ぶ4年間の学習面での活用ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

ガイダンス中に行われるコンピュータ・スキルの自己申告に基づいて、「入門」「初級」「中級」の3グレード制のクラス編成を行う。なお、「入門」クラスを申告する場合には、自身のコンピュータ経験や高校における情報授業の内容などの理由を明記する必要がある。また、各クラスの学習内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なる。自分のスキルにあったクラスを選択することも重要だが、より高いレベルを修得する意欲も持って欲しい。さらなるスキルアップやキャリアにつながるスキル獲得を目指す場合には、情報リテラシーⅢの受講を強く勧める。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	【入門・初級】	
第1回	Windows基礎 ID・パスワードの管理方法、学内システム利用について、メディアの取り扱い(USBフラッシュメモリ)、ファイル・フォルダの管理(教材フォルダの利用)	
第2回	コースツール・インターネット コースツールの使い方、インターネットの仕組みと情報検索、情報倫理(ネチケット、SNS利用の注意点)	
第3回	Webメール Webメールの使い方(送受信、アドレス帳の登録と利用、メールの検索、メールの整理、添付メール)、データの圧縮・解凍メールのマナー	
第4回	学術情報① 情報の種類と特徴の理解、情報の探し方(RUNNERS・NACSISWebcat、各種データベース)、情報の活用と著作権(引用の方法)	
第5回	学術情報②【課題①】 総復習(ここまでの内容のまとめ)【課題①】データ検索(メール添付)	
第6回	文書作成(Word)① 案内文書の作成(箇条書き・文字装飾)、タイトル・本文・記書き文、文書の印刷	
第7回	文書作成(Word)② ワードアート・クリップアートを利用した文書	
第8回	文書作成(Word)③【課題②】 総復習【課題②】案内文書の作成	
第9回	表計算(Excel)① Excelの基本操作、データ入力(文字データと数値データ、セル参照、四則演算、移動・コピー、範囲選択、消去、保存)、関数を使った計算(SUM、AVERAGE)	
第10回	表計算(Excel)② 関数復習、オートフィル機能、関数と絶対参照、表の書式設定(罫線、表示形式、書式設定)	
第11回	表計算(Excel)③ 関数と絶対参照(復習)、グラフの使い分け、基本的なグラフ(値の比較)作成	
第12回	表計算(Excel)④ 総復習【課題③】表計算とグラフの作成	
第13回	PowerPoint① PowerPointの基本操作、簡単なスライド作成(表紙・目次・箇条書き・表)、配色の変更、クリップアートの挿入	

第14回	PowerPoint② スライドへの設定(画面切り替え効果・アニメーションの設定)、スライドショーの実行、配布資料の印刷
第15回	前期総復習・問題解説 マークシートによる前期総合多肢選択式(75問)
	【中級クラス】
第1回	Windows基礎 ID・パスワードの管理方法、学内システム利用について、メディアの取り扱い(USBフラッシュメモリ)、ファイル・フォルダの管理(教材フォルダの利用)
第2回	コースツール・インターネット コースツールの使い方、インターネットの仕組みと情報検索、情報倫理(ネチケット、SNS利用の注意点)
第3回	Webメール Webメールの使い方(送受信、アドレス帳の登録と利用、メールの検索、メールの整理、添付メール)、データの圧縮・解凍メールのマナー
第4回	学術情報① 情報の種類と特徴の理解、情報の探し方(RUNNERS・NACSISWebcat、各種データベース)、情報の活用と著作権(引用の方法)
第5回	学術情報②【課題①】 総復習(ここまでの内容のまとめ)【課題①】データ検索(メール添付)
第6回	文書作成(Word)① 案内文書の作成(インデント・スタイル設定)タイトル・本文・箇条書き、表、文書の印刷
第7回	文書作成(Word)② ワードアート・クリップアート・画像を利用した文書、図ツールバーを使った画像処理
第8回	文書作成(Word)③【課題②】 総復習【課題②】案内文書の作成
第9回	表計算(Excel)① Excelの基本操作、データ入力(文字データと数値データ、セル参照、四則演算、移動・コピー、範囲選択、消去、保存)、関数を使った計算(SUM、AVERAGE)
第10回	表計算(Excel)② オートフィル機能、関数と絶対参照、表の書式設定(罫線、表示形式、書式設定)、グラフの使い分け
第11回	表計算(Excel)③ 基本的なグラフ(値の比較・比率)の作成、関数応用(RANK、ROUNDDOWN、ROUNDUP)
第12回	表計算(Excel)④ 総復習【課題③】表計算とグラフの作成
第13回	PowerPoint① PowerPointの基本操作、簡単なスライド作成(表紙・目次・箇条書き・表)、配色の変更、クリップアートの挿入
第14回	PowerPoint② スライドへの設定(画面切り替え効果・アニメーションの設定)、スライドショーの実行、配布資料の印刷
第15回	前期総復習・問題解説 マークシートによる前期総合多肢選択式(75問)

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(検証テスト)	100 %	出席点、課題提出状況、小テスト・最終講義日に実施する検証テストによって評価する。
平常点(日常的)	0 % 0	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

- ・3回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。
- ・入門クラス・初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。3クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。
- ・フラッシュメモリーあるいはフロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
- ・宿題を数回、提出してもらう予定。
- ・授業に5分以上遅刻したものは欠席と見なす。

教科書 / Textbooks**書名 / Title****出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment**

Rainbow Guide2006

///

情報活用の基礎

///

参考書 / Reference Books**参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference****その他 / Others**

担当者名 / Instructor 杉本 通百則

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

パソコンとインターネットが社会生活のあらゆる分野に浸透しつつある今日、情報ネットワーク環境の活用能力を身につけることは文字の読み書きと同様に社会生活に不可欠となっている。高校での情報科目必修化はそのあらわれであり、大学における情報科目は基礎を修得したことをふまえた、より進んだスキル獲得へと深化している。また、大学での学びにおいても、レジュメ作成、プレゼンテーション、レポート及び論文作成に至るまで、講義やゼミでの全ての学びに不可欠となっている。

この科目では、産業社会学部での4年間の学びに必要なパソコンの利用法(Windowsの操作、ワープロ、表計算)と情報ネットワーク(e-mail、インターネットWWW)の利用法について、体系的に実習を行う。また、演習などの学習に不可欠なオンラインデータベースの活用法やインターネットからの情報検索方法など学術情報関連、授業支援ツールの利用方法、情報ネットワークを利用する上で必要となるマナーやセキュリティなど、主体的な学修と研究の基礎となる情報リテラシーを実習により学んでいく

到達目標 / Attainment Objectives

コンピュータの基礎をふまえた上で応用的なスキルを修得し、産業社会学部で学ぶ4年間の学習面での活用ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

ガイダンス中に行われるコンピュータ・スキルの自己申告に基づいて、「入門」「初級」「中級」の3グレード制のクラス編成を行う。なお、「入門」クラスを申告する場合には、自身のコンピュータ経験や高校における情報授業の内容などの理由を明記する必要がある。また、各クラスの学習内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なる。自分のスキルにあったクラスを選択することも重要だが、より高いレベルを修得する意欲も持って欲しい。さらなるスキルアップやキャリアにつながるスキル獲得を目指す場合には、情報リテラシーⅢの受講を強く勧める。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	【入門・初級】	
第1回	Windows基礎 ID・パスワードの管理方法、学内システム利用について、メディアの取り扱い(USBフラッシュメモリ)、ファイル・フォルダの管理(教材フォルダの利用)	
第2回	コースツール・インターネット コースツールの使い方、インターネットの仕組みと情報検索、情報倫理(ネチケット、SNS利用の注意点)	
第3回	Webメール Webメールの使い方(送受信、アドレス帳の登録と利用、メールの検索、メールの整理、添付メール)、データの圧縮・解凍メールのマナー	
第4回	学術情報① 情報の種類と特徴の理解、情報の探し方(RUNNERS・NACSISWebcat、各種データベース)、情報の活用と著作権(引用の方法)	
第5回	学術情報②【課題①】 総復習(ここまでの内容のまとめ)【課題①】データ検索(メール添付)	
第6回	文書作成(Word)① 案内文書の作成(箇条書き・文字装飾)、タイトル・本文・記書き文、文書の印刷	
第7回	文書作成(Word)② ワードアート・クリップアートを利用した文書	
第8回	文書作成(Word)③【課題②】 総復習【課題②】案内文書の作成	
第9回	表計算(Excel)① Excelの基本操作、データ入力(文字データと数値データ、セル参照、四則演算、移動・コピー、範囲選択、消去、保存)、関数を使った計算(SUM、AVERAGE)	
第10回	表計算(Excel)② 関数復習、オートフィル機能、関数と絶対参照、表の書式設定(罫線、表示形式、書式設定)	
第11回	表計算(Excel)③ 関数と絶対参照(復習)、グラフの使い分け、基本的なグラフ(値の比較)作成	
第12回	表計算(Excel)④ 総復習【課題③】表計算とグラフの作成	
第13回	PowerPoint① PowerPointの基本操作、簡単なスライド作成(表紙・目次・箇条書き・表)、配色の変更、クリップアートの挿入	

第14回	PowerPoint② スライドへの設定(画面切り替え効果・アニメーションの設定)、スライドショーの実行、配布資料の印刷
第15回	前期総復習・問題解説 マークシートによる前期総合多肢選択式(75問)
	【中級クラス】
第1回	Windows基礎 ID・パスワードの管理方法、学内システム利用について、メディアの取り扱い(USBフラッシュメモリ)、ファイル・フォルダの管理(教材フォルダの利用)
第2回	コースツール・インターネット コースツールの使い方、インターネットの仕組みと情報検索、情報倫理(ネチケット、SNS利用の注意点)
第3回	Webメール Webメールの使い方(送受信、アドレス帳の登録と利用、メールの検索、メールの整理、添付メール)、データの圧縮・解凍メールのマナー
第4回	学術情報① 情報の種類と特徴の理解、情報の探し方(RUNNERS・NACSISWebcat、各種データベース)、情報の活用と著作権(引用の方法)
第5回	学術情報②【課題①】 総復習(ここまでの内容のまとめ)【課題①】データ検索(メール添付)
第6回	文書作成(Word)① 案内文書の作成(インデント・スタイル設定)タイトル・本文・箇条書き、表、文書の印刷
第7回	文書作成(Word)② ワードアート・クリップアート・画像を利用した文書、図ツールバーを使った画像処理
第8回	文書作成(Word)③【課題②】 総復習【課題②】案内文書の作成
第9回	表計算(Excel)① Excelの基本操作、データ入力(文字データと数値データ、セル参照、四則演算、移動・コピー、範囲選択、消去、保存)、関数を使った計算(SUM、AVERAGE)
第10回	表計算(Excel)② オートフィル機能、関数と絶対参照、表の書式設定(罫線、表示形式、書式設定)、グラフの使い分け
第11回	表計算(Excel)③ 基本的なグラフ(値の比較・比率)の作成、関数応用(RANK、ROUNDDOWN、ROUNDUP)
第12回	表計算(Excel)④ 総復習【課題③】表計算とグラフの作成
第13回	PowerPoint① PowerPointの基本操作、簡単なスライド作成(表紙・目次・箇条書き・表)、配色の変更、クリップアートの挿入
第14回	PowerPoint② スライドへの設定(画面切り替え効果・アニメーションの設定)、スライドショーの実行、配布資料の印刷
第15回	前期総復習・問題解説 マークシートによる前期総合多肢選択式(75問)

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(検証テスト)	100 %	出席点、課題提出状況、小テスト・最終講義日に実施する検証テストによって評価する。
平常点(日常的)	0 % 0	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

- ・3回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。
- ・入門クラス・初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。3クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。
- ・フラッシュメモリーあるいはフロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
- ・宿題を数回、提出してもらう予定。
- ・授業に5分以上遅刻したものは欠席と見なす。

教科書 / Textbooks**書名 / Title****出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment**

Rainbow Guide2006

///

情報活用の基礎

///

参考書 / Reference Books**参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference****その他 / Others**

担当者名 / Instructor 坂田 謙司

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

パソコンとインターネットが社会生活のあらゆる分野に浸透しつつある今日、情報ネットワーク環境の活用能力を身につけることは文字の読み書きと同様に社会生活に不可欠となっている。高校での情報科目必修化はそのあらわれであり、大学における情報科目は基礎を修得したことをふまえた、より進んだスキル獲得へと深化している。また、大学での学びにおいても、レジュメ作成、プレゼンテーション、レポート及び論文作成に至るまで、講義やゼミでの全ての学びに不可欠となっている。

この科目では、産業社会学部での4年間の学びに必要なパソコンの利用法(Windowsの操作、ワープロ、表計算)と情報ネットワーク(e-mail、インターネットWWW)の利用法について、体系的に実習を行う。また、演習などの学習に不可欠なオンラインデータベースの活用法やインターネットからの情報検索方法など学術情報関連、授業支援ツールの利用方法、情報ネットワークを利用する上で必要となるマナーやセキュリティなど、主体的な学修と研究の基礎となる情報リテラシーを実習により学んでいく

到達目標 / Attainment Objectives

コンピュータの基礎をふまえた上で応用的なスキルを修得し、産業社会学部で学ぶ4年間の学習面での活用ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

ガイダンス中に行われるコンピュータ・スキルの自己申告に基づいて、「入門」「初級」「中級」の3グレード制のクラス編成を行う。なお、「入門」クラスを申告する場合には、自身のコンピュータ経験や高校における情報授業の内容などの理由を明記する必要がある。また、各クラスの学習内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なる。自分のスキルにあったクラスを選択することも重要だが、より高いレベルを修得する意欲も持って欲しい。さらなるスキルアップやキャリアにつながるスキル獲得を目指す場合には、情報リテラシーⅢの受講を強く勧める。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	【入門・初級】	
第1回	Windows基礎 ID・パスワードの管理方法、学内システム利用について、メディアの取り扱い(USBフラッシュメモリ)、ファイル・フォルダの管理(教材フォルダの利用)	
第2回	コースツール・インターネット コースツールの使い方、インターネットの仕組みと情報検索、情報倫理(ネチケット、SNS利用の注意点)	
第3回	Webメール Webメールの使い方(送受信、アドレス帳の登録と利用、メールの検索、メールの整理、添付メール)、データの圧縮・解凍メールのマナー	
第4回	学術情報① 情報の種類と特徴の理解、情報の探し方(RUNNERS・NACSISWebcat、各種データベース)、情報の活用と著作権(引用の方法)	
第5回	学術情報②【課題①】 総復習(ここまでの内容のまとめ)【課題①】データ検索(メール添付)	
第6回	文書作成(Word)① 案内文書の作成(箇条書き・文字装飾)、タイトル・本文・記書き文、文書の印刷	
第7回	文書作成(Word)② ワードアート・クリップアートを利用した文書	
第8回	文書作成(Word)③【課題②】 総復習【課題②】案内文書の作成	
第9回	表計算(Excel)① Excelの基本操作、データ入力(文字データと数値データ、セル参照、四則演算、移動・コピー、範囲選択、消去、保存)、関数を使った計算(SUM、AVERAGE)	
第10回	表計算(Excel)② 関数復習、オートフィル機能、関数と絶対参照、表の書式設定(罫線、表示形式、書式設定)	
第11回	表計算(Excel)③ 関数と絶対参照(復習)、グラフの使い分け、基本的なグラフ(値の比較)作成	
第12回	表計算(Excel)④ 総復習【課題③】表計算とグラフの作成	
第13回	PowerPoint① PowerPointの基本操作、簡単なスライド作成(表紙・目次・箇条書き・表)、配色の変更、クリップアートの挿入	

第14回	PowerPoint② スライドへの設定(画面切り替え効果・アニメーションの設定)、スライドショーの実行、配布資料の印刷
第15回	前期総復習・問題解説 マークシートによる前期総合多肢選択式(75問)
	【中級クラス】
第1回	Windows基礎 ID・パスワードの管理方法、学内システム利用について、メディアの取り扱い(USBフラッシュメモリ)、ファイル・フォルダの管理(教材フォルダの利用)
第2回	コースツール・インターネット コースツールの使い方、インターネットの仕組みと情報検索、情報倫理(ネチケツ、SNS利用の注意点)
第3回	Webメール Webメールの使い方(送受信、アドレス帳の登録と利用、メールの検索、メールの整理、添付メール)、データの圧縮・解凍メールのマナー
第4回	学術情報① 情報の種類と特徴の理解、情報の探し方(RUNNERS・NACSISWebcat、各種データベース)、情報の活用と著作権(引用の方法)
第5回	学術情報②【課題①】 総復習(ここまでの内容のまとめ)【課題①】データ検索(メール添付)
第6回	文書作成(Word)① 案内文書の作成(インデント・スタイル設定)タイトル・本文・箇条書き、表、文書の印刷
第7回	文書作成(Word)② ワードアート・クリップアート・画像を利用した文書、図ツールバーを使った画像処理
第8回	文書作成(Word)③【課題②】 総復習【課題②】案内文書の作成
第9回	表計算(Excel)① Excelの基本操作、データ入力(文字データと数値データ、セル参照、四則演算、移動・コピー、範囲選択、消去、保存)、関数を使った計算(SUM、AVERAGE)
第10回	表計算(Excel)② オートフィル機能、関数と絶対参照、表の書式設定(罫線、表示形式、書式設定)、グラフの使い分け
第11回	表計算(Excel)③ 基本的なグラフ(値の比較・比率)の作成、関数応用(RANK、ROUNDDOWN、ROUNDUP)
第12回	表計算(Excel)④ 総復習【課題③】表計算とグラフの作成
第13回	PowerPoint① PowerPointの基本操作、簡単なスライド作成(表紙・目次・箇条書き・表)、配色の変更、クリップアートの挿入
第14回	PowerPoint② スライドへの設定(画面切り替え効果・アニメーションの設定)、スライドショーの実行、配布資料の印刷
第15回	前期総復習・問題解説 マークシートによる前期総合多肢選択式(75問)

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(検証テスト)	100 %	出席点、課題提出状況、小テスト・最終講義日に実施する検証テストによって評価する。
平常点(日常的)	0 %	0

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

- ・3回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。
- ・入門クラス・初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。3クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。
- ・フラッシュメモリーあるいはフロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
- ・宿題を数回、提出してもらう予定。
- ・授業に5分以上遅刻したものは欠席と見なす。

教科書 / Textbooks**書名 / Title****出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment**

Rainbow Guide2006

///

情報活用の基礎

///

参考書 / Reference Books**参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference****その他 / Others**

授業の概要 / Course Outline

パソコンとインターネットが社会生活のあらゆる分野に浸透しつつある今日、情報ネットワーク環境の活用能力を身につけることは文字の読み書きと同様に社会生活に不可欠となっている。高校での情報科目必修化はそのあらわれであり、大学における情報科目は基礎を修得したことをふまえた、より進んだスキル獲得へと深化している。また、大学での学びにおいても、レジュメ作成、プレゼンテーション、レポート及び論文作成に至るまで、講義やゼミでの全ての学びに不可欠となっている。

この科目では、産業社会学部での4年間の学びに必要なパソコンの利用法(Windowsの操作、ワープロ、表計算)と情報ネットワーク(e-mail、インターネットWWW)の利用法について、体系的に実習を行う。また、演習などの学習に不可欠なオンラインデータベースの活用法やインターネットからの情報検索方法など学術情報関連、授業支援ツールの利用方法、情報ネットワークを利用する上で必要となるマナーやセキュリティなど、主体的な学修と研究の基礎となる情報リテラシーを実習により学んでいく

到達目標 / Attainment Objectives

コンピュータの基礎をふまえた上で応用的なスキルを修得し、産業社会学部で学ぶ4年間の学習面での活用ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

ガイダンス中に行われるコンピュータ・スキルの自己申告に基づいて、「入門」「初級」「中級」の3グレード制のクラス編成を行う。なお、「入門」クラスを申告する場合には、自身のコンピュータ経験や高校における情報授業の内容などの理由を明記する必要がある。また、各クラスの学習内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なる。自分のスキルにあったクラスを選択することも重要だが、より高いレベルを修得する意欲も持って欲しい。さらなるスキルアップやキャリアにつながるスキル獲得を目指す場合には、情報リテラシーⅢの受講を強く勧める。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	【入門・初級】	
第1回	Windows基礎 ID・パスワードの管理方法、学内システム利用について、メディアの取り扱い(USBフラッシュメモリ)、ファイル・フォルダの管理(教材フォルダの利用)	
第2回	コースツール・インターネット コースツールの使い方、インターネットの仕組みと情報検索、情報倫理(ネチケット、SNS利用の注意点)	
第3回	Webメール Webメールの使い方(送受信、アドレス帳の登録と利用、メールの検索、メールの整理、添付メール)、データの圧縮・解凍メールのマナー	
第4回	学術情報① 情報の種類と特徴の理解、情報の探し方(RUNNERS・NACSISWebcat、各種データベース)、情報の活用と著作権(引用の方法)	
第5回	学術情報②【課題①】 総復習(ここまでの内容のまとめ)【課題①】データ検索(メール添付)	
第6回	文書作成(Word)① 案内文書の作成(箇条書き・文字装飾)、タイトル・本文・記書き文、文書の印刷	
第7回	文書作成(Word)② ワードアート・クリップアートを利用した文書	
第8回	文書作成(Word)③【課題②】 総復習【課題②】案内文書の作成	
第9回	表計算(Excel)① Excelの基本操作、データ入力(文字データと数値データ、セル参照、四則演算、移動・コピー、範囲選択、消去、保存)、関数を使った計算(SUM、AVERAGE)	
第10回	表計算(Excel)② 関数復習、オートフィル機能、関数と絶対参照、表の書式設定(罫線、表示形式、書式設定)	
第11回	表計算(Excel)③ 関数と絶対参照(復習)、グラフの使い分け、基本的なグラフ(値の比較)作成	
第12回	表計算(Excel)④ 総復習【課題③】表計算とグラフの作成	
第13回	PowerPoint① PowerPointの基本操作、簡単なスライド作成(表紙・目次・箇条書き・表)、配色の変更、クリップアートの挿入	

第14回	PowerPoint② スライドへの設定(画面切り替え効果・アニメーションの設定)、スライドショーの実行、配布資料の印刷
第15回	前期総復習・問題解説 マークシートによる前期総合多肢選択式(75問)
	【中級クラス】
第1回	Windows基礎 ID・パスワードの管理方法、学内システム利用について、メディアの取り扱い(USBフラッシュメモリ)、ファイル・フォルダの管理(教材フォルダの利用)
第2回	コースツール・インターネット コースツールの使い方、インターネットの仕組みと情報検索、情報倫理(ネチケツ、SNS利用の注意点)
第3回	Webメール Webメールの使い方(送受信、アドレス帳の登録と利用、メールの検索、メールの整理、添付メール)、データの圧縮・解凍メールのマナー
第4回	学術情報① 情報の種類と特徴の理解、情報の探し方(RUNNERS・NACSISWebcat、各種データベース)、情報の活用と著作権(引用の方法)
第5回	学術情報②【課題①】 総復習(ここまでの内容のまとめ)【課題①】データ検索(メール添付)
第6回	文書作成(Word)① 案内文書の作成(インデント・スタイル設定)タイトル・本文・箇条書き、表、文書の印刷
第7回	文書作成(Word)② ワードアート・クリップアート・画像を利用した文書、図ツールバーを使った画像処理
第8回	文書作成(Word)③【課題②】 総復習【課題②】案内文書の作成
第9回	表計算(Excel)① Excelの基本操作、データ入力(文字データと数値データ、セル参照、四則演算、移動・コピー、範囲選択、消去、保存)、関数を使った計算(SUM、AVERAGE)
第10回	表計算(Excel)② オートフィル機能、関数と絶対参照、表の書式設定(罫線、表示形式、書式設定)、グラフの使い分け
第11回	表計算(Excel)③ 基本的なグラフ(値の比較・比率)の作成、関数応用(RANK、ROUNDDOWN、ROUNDUP)
第12回	表計算(Excel)④ 総復習【課題③】表計算とグラフの作成
第13回	PowerPoint① PowerPointの基本操作、簡単なスライド作成(表紙・目次・箇条書き・表)、配色の変更、クリップアートの挿入
第14回	PowerPoint② スライドへの設定(画面切り替え効果・アニメーションの設定)、スライドショーの実行、配布資料の印刷
第15回	前期総復習・問題解説 マークシートによる前期総合多肢選択式(75問)

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(検証テスト)	100 %	出席点、課題提出状況、小テスト・最終講義日に実施する検証テストによって評価する。
平常点(日常的)	0 % 0	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

- ・3回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。
- ・入門クラス・初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。3クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。
- ・フラッシュメモリーあるいはフロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
- ・宿題を数回、提出してもらう予定。
- ・授業に5分以上遅刻したものは欠席と見なす。

教科書 / Textbooks**書名 / Title****出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment**

Rainbow Guide2006

///

情報活用の基礎

///

参考書 / Reference Books**参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference****その他 / Others**

授業の概要 / Course Outline

パソコンとインターネットが社会生活のあらゆる分野に浸透しつつある今日、情報ネットワーク環境の活用能力を身につけることは文字の読み書きと同様に社会生活に不可欠となっている。高校での情報科目必修化はそのあらわれであり、大学における情報科目は基礎を修得したことをふまえた、より進んだスキル獲得へと深化している。また、大学での学びにおいても、レジュメ作成、プレゼンテーション、レポート及び論文作成に至るまで、講義やゼミでの全ての学びに不可欠となっている。

この科目では、産業社会学部での4年間の学びに必要なパソコンの利用法(Windowsの操作、ワープロ、表計算)と情報ネットワーク(e-mail、インターネットWWW)の利用法について、体系的に実習を行う。また、演習などの学習に不可欠なオンラインデータベースの活用法やインターネットからの情報検索方法など学術情報関連、授業支援ツールの利用方法、情報ネットワークを利用する上で必要となるマナーやセキュリティなど、主体的な学修と研究の基礎となる情報リテラシーを実習により学んでいく

到達目標 / Attainment Objectives

コンピュータの基礎をふまえた上で応用的なスキルを修得し、産業社会学部で学ぶ4年間の学習面での活用ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

ガイダンス中に行われるコンピュータ・スキルの自己申告に基づいて、「入門」「初級」「中級」の3グレード制のクラス編成を行う。なお、「入門」クラスを申告する場合には、自身のコンピュータ経験や高校における情報授業の内容などの理由を明記する必要がある。また、各クラスの学習内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なる。自分のスキルにあったクラスを選択することも重要だが、より高いレベルを修得する意欲も持って欲しい。さらなるスキルアップやキャリアにつながるスキル獲得を目指す場合には、情報リテラシーⅢの受講を強く勧める。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	【入門・初級】	
第1回	Windows基礎 ID・パスワードの管理方法、学内システム利用について、メディアの取り扱い(USBフラッシュメモリ)、ファイル・フォルダの管理(教材フォルダの利用)	
第2回	コースツール・インターネット コースツールの使い方、インターネットの仕組みと情報検索、情報倫理(ネチケット、SNS利用の注意点)	
第3回	Webメール Webメールの使い方(送受信、アドレス帳の登録と利用、メールの検索、メールの整理、添付メール)、データの圧縮・解凍メールのマナー	
第4回	学術情報① 情報の種類と特徴の理解、情報の探し方(RUNNERS・NACSISWebcat、各種データベース)、情報の活用と著作権(引用の方法)	
第5回	学術情報②【課題①】 総復習(ここまでの内容のまとめ)【課題①】データ検索(メール添付)	
第6回	文書作成(Word)① 案内文書の作成(箇条書き・文字装飾)、タイトル・本文・記書き文、文書の印刷	
第7回	文書作成(Word)② ワードアート・クリップアートを利用した文書	
第8回	文書作成(Word)③【課題②】 総復習【課題②】案内文書の作成	
第9回	表計算(Excel)① Excelの基本操作、データ入力(文字データと数値データ、セル参照、四則演算、移動・コピー、範囲選択、消去、保存)、関数を使った計算(SUM、AVERAGE)	
第10回	表計算(Excel)② 関数復習、オートフィル機能、関数と絶対参照、表の書式設定(罫線、表示形式、書式設定)	
第11回	表計算(Excel)③ 関数と絶対参照(復習)、グラフの使い分け、基本的なグラフ(値の比較)作成	
第12回	表計算(Excel)④ 総復習【課題③】表計算とグラフの作成	
第13回	PowerPoint① PowerPointの基本操作、簡単なスライド作成(表紙・目次・箇条書き・表)、配色の変更、クリップアートの挿入	

第14回	PowerPoint② スライドへの設定(画面切り替え効果・アニメーションの設定)、スライドショーの実行、配布資料の印刷
第15回	前期総復習・問題解説 マークシートによる前期総合多肢選択式(75問)
	【中級クラス】
第1回	Windows基礎 ID・パスワードの管理方法、学内システム利用について、メディアの取り扱い(USBフラッシュメモリ)、ファイル・フォルダの管理(教材フォルダの利用)
第2回	コースツール・インターネット コースツールの使い方、インターネットの仕組みと情報検索、情報倫理(ネチケツ、SNS利用の注意点)
第3回	Webメール Webメールの使い方(送受信、アドレス帳の登録と利用、メールの検索、メールの整理、添付メール)、データの圧縮・解凍メールのマナー
第4回	学術情報① 情報の種類と特徴の理解、情報の探し方(RUNNERS・NACSISWebcat、各種データベース)、情報の活用と著作権(引用の方法)
第5回	学術情報②【課題①】 総復習(ここまでの内容のまとめ)【課題①】データ検索(メール添付)
第6回	文書作成(Word)① 案内文書の作成(インデント・スタイル設定)タイトル・本文・箇条書き、表、文書の印刷
第7回	文書作成(Word)② ワードアート・クリップアート・画像を利用した文書、図ツールバーを使った画像処理
第8回	文書作成(Word)③【課題②】 総復習【課題②】案内文書の作成
第9回	表計算(Excel)① Excelの基本操作、データ入力(文字データと数値データ、セル参照、四則演算、移動・コピー、範囲選択、消去、保存)、関数を使った計算(SUM、AVERAGE)
第10回	表計算(Excel)② オートフィル機能、関数と絶対参照、表の書式設定(罫線、表示形式、書式設定)、グラフの使い分け
第11回	表計算(Excel)③ 基本的なグラフ(値の比較・比率)の作成、関数応用(RANK、ROUNDDOWN、ROUNDUP)
第12回	表計算(Excel)④ 総復習【課題③】表計算とグラフの作成
第13回	PowerPoint① PowerPointの基本操作、簡単なスライド作成(表紙・目次・箇条書き・表)、配色の変更、クリップアートの挿入
第14回	PowerPoint② スライドへの設定(画面切り替え効果・アニメーションの設定)、スライドショーの実行、配布資料の印刷
第15回	前期総復習・問題解説 マークシートによる前期総合多肢選択式(75問)

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(検証テスト)	100 %	出席点、課題提出状況、小テスト・最終講義日に実施する検証テストによって評価する。
平常点(日常的)	0 % 0	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

- ・3回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。
- ・入門クラス・初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。3クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。
- ・フラッシュメモリーあるいはフロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
- ・宿題を数回、提出してもらう予定。
- ・授業に5分以上遅刻したものは欠席と見なす。

教科書 / Textbooks**書名 / Title****出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment**

Rainbow Guide2006

///

情報活用の基礎

///

参考書 / Reference Books**参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference****その他 / Others**

授業の概要 / Course Outline

パソコンとインターネットが社会生活のあらゆる分野に浸透しつつある今日、情報ネットワーク環境の活用能力を身につけることは文字の読み書きと同様に社会生活に不可欠となっている。高校での情報科目必修化はそのあらわれであり、大学における情報科目は基礎を修得したことをふまえた、より進んだスキル獲得へと深化している。また、大学での学びにおいても、レジュメ作成、プレゼンテーション、レポート及び論文作成に至るまで、講義やゼミでの全ての学びに不可欠となっている。

この科目では、産業社会学部での4年間の学びに必要なパソコンの利用法(Windowsの操作、ワープロ、表計算)と情報ネットワーク(e-mail、インターネットWWW)の利用法について、体系的に実習を行う。また、演習などの学習に不可欠なオンラインデータベースの活用法やインターネットからの情報検索方法など学術情報関連、授業支援ツールの利用方法、情報ネットワークを利用する上で必要となるマナーやセキュリティなど、主体的な学修と研究の基礎となる情報リテラシーを実習により学んでいく

到達目標 / Attainment Objectives

コンピュータの基礎をふまえた上で応用的なスキルを修得し、産業社会学部で学ぶ4年間の学習面での活用ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

ガイダンス中に行われるコンピュータ・スキルの自己申告に基づいて、「入門」「初級」「中級」の3グレード制のクラス編成を行う。なお、「入門」クラスを申告する場合には、自身のコンピュータ経験や高校における情報授業の内容などの理由を明記する必要がある。また、各クラスの学習内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なる。自分のスキルにあったクラスを選択することも重要だが、より高いレベルを修得する意欲も持って欲しい。さらなるスキルアップやキャリアにつながるスキル獲得を目指す場合には、情報リテラシーⅢの受講を強く勧める。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	【入門・初級】	
第1回	Windows基礎 ID・パスワードの管理方法、学内システム利用について、メディアの取り扱い(USBフラッシュメモリ)、ファイル・フォルダの管理(教材フォルダの利用)	
第2回	コースツール・インターネット コースツールの使い方、インターネットの仕組みと情報検索、情報倫理(ネチケット、SNS利用の注意点)	
第3回	Webメール Webメールの使い方(送受信、アドレス帳の登録と利用、メールの検索、メールの整理、添付メール)、データの圧縮・解凍メールのマナー	
第4回	学術情報① 情報の種類と特徴の理解、情報の探し方(RUNNERS・NACSISWebcat、各種データベース)、情報の活用と著作権(引用の方法)	
第5回	学術情報②【課題①】 総復習(ここまでの内容のまとめ)【課題①】データ検索(メール添付)	
第6回	文書作成(Word)① 案内文書の作成(箇条書き・文字装飾)、タイトル・本文・記書き文、文書の印刷	
第7回	文書作成(Word)② ワードアート・クリップアートを利用した文書	
第8回	文書作成(Word)③【課題②】 総復習【課題②】案内文書の作成	
第9回	表計算(Excel)① Excelの基本操作、データ入力(文字データと数値データ、セル参照、四則演算、移動・コピー、範囲選択、消去、保存)、関数を使った計算(SUM、AVERAGE)	
第10回	表計算(Excel)② 関数復習、オートフィル機能、関数と絶対参照、表の書式設定(罫線、表示形式、書式設定)	
第11回	表計算(Excel)③ 関数と絶対参照(復習)、グラフの使い分け、基本的なグラフ(値の比較)作成	
第12回	表計算(Excel)④ 総復習【課題③】表計算とグラフの作成	
第13回	PowerPoint① PowerPointの基本操作、簡単なスライド作成(表紙・目次・箇条書き・表)、配色の変更、クリップアートの挿入	

第14回	PowerPoint② スライドへの設定(画面切り替え効果・アニメーションの設定)、スライドショーの実行、配布資料の印刷
第15回	前期総復習・問題解説 マークシートによる前期総合多肢選択式(75問)
	【中級クラス】
第1回	Windows基礎 ID・パスワードの管理方法、学内システム利用について、メディアの取り扱い(USBフラッシュメモリ)、ファイル・フォルダの管理(教材フォルダの利用)
第2回	コースツール・インターネット コースツールの使い方、インターネットの仕組みと情報検索、情報倫理(ネチケツ、SNS利用の注意点)
第3回	Webメール Webメールの使い方(送受信、アドレス帳の登録と利用、メールの検索、メールの整理、添付メール)、データの圧縮・解凍メールのマナー
第4回	学術情報① 情報の種類と特徴の理解、情報の探し方(RUNNERS・NACSISWebcat、各種データベース)、情報の活用と著作権(引用の方法)
第5回	学術情報②【課題①】 総復習(ここまでの内容のまとめ)【課題①】データ検索(メール添付)
第6回	文書作成(Word)① 案内文書の作成(インデント・スタイル設定)タイトル・本文・箇条書き、表、文書の印刷
第7回	文書作成(Word)② ワードアート・クリップアート・画像を利用した文書、図ツールバーを使った画像処理
第8回	文書作成(Word)③【課題②】 総復習【課題②】案内文書の作成
第9回	表計算(Excel)① Excelの基本操作、データ入力(文字データと数値データ、セル参照、四則演算、移動・コピー、範囲選択、消去、保存)、関数を使った計算(SUM、AVERAGE)
第10回	表計算(Excel)② オートフィル機能、関数と絶対参照、表の書式設定(罫線、表示形式、書式設定)、グラフの使い分け
第11回	表計算(Excel)③ 基本的なグラフ(値の比較・比率)の作成、関数応用(RANK、ROUNDDOWN、ROUNDUP)
第12回	表計算(Excel)④ 総復習【課題③】表計算とグラフの作成
第13回	PowerPoint① PowerPointの基本操作、簡単なスライド作成(表紙・目次・箇条書き・表)、配色の変更、クリップアートの挿入
第14回	PowerPoint② スライドへの設定(画面切り替え効果・アニメーションの設定)、スライドショーの実行、配布資料の印刷
第15回	前期総復習・問題解説 マークシートによる前期総合多肢選択式(75問)

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(検証テスト)	100 %	出席点、課題提出状況、小テスト・最終講義日に実施する検証テストによって評価する。
平常点(日常的)	0 %	0

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

- ・3回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。
- ・入門クラス・初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。3クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。
- ・フラッシュメモリーあるいはフロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
- ・宿題を数回、提出してもらう予定。
- ・授業に5分以上遅刻したものは欠席と見なす。

教科書 / Textbooks**書名 / Title****出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment**

Rainbow Guide2006

///

情報活用の基礎

///

参考書 / Reference Books**参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference****その他 / Others**

担当者名 / Instructor 上出 浩

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

パソコンとインターネットが社会生活のあらゆる分野に浸透しつつある今日、情報ネットワーク環境の活用能力を身につけることは文字の読み書きと同様に社会生活に不可欠となっている。高校での情報科目必修化はそのあらわれであり、大学における情報科目は基礎を修得したことをふまえた、より進んだスキル獲得へと深化している。また、大学での学びにおいても、レジュメ作成、プレゼンテーション、レポート及び論文作成に至るまで、講義やゼミでの全ての学びに不可欠となっている。

この科目では、産業社会学部での4年間の学びに必要なパソコンの利用法(Windowsの操作、ワープロ、表計算)と情報ネットワーク(e-mail、インターネットWWW)の利用法について、体系的に実習を行う。また、演習などの学習に不可欠なオンラインデータベースの活用法やインターネットからの情報検索方法など学術情報関連、授業支援ツールの利用方法、情報ネットワークを利用する上で必要となるマナーやセキュリティなど、主体的な学修と研究の基礎となる情報リテラシーを実習により学んでいく

到達目標 / Attainment Objectives

コンピュータの基礎をふまえた上で応用的なスキルを修得し、産業社会学部で学ぶ4年間の学習面での活用ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

ガイダンス中に行われるコンピュータ・スキルの自己申告に基づいて、「入門」「初級」「中級」の3グレード制のクラス編成を行う。なお、「入門」クラスを申告する場合には、自身のコンピュータ経験や高校における情報授業の内容などの理由を明記する必要がある。また、各クラスの学習内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なる。自分のスキルにあったクラスを選択することも重要だが、より高いレベルを修得する意欲も持って欲しい。さらなるスキルアップやキャリアにつながるスキル獲得を目指す場合には、情報リテラシーⅢの受講を強く勧める。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	【入門・初級】	
第1回	Windows基礎 ID・パスワードの管理方法、学内システム利用について、メディアの取り扱い(USBフラッシュメモリ)、ファイル・フォルダの管理(教材フォルダの利用)	
第2回	コースツール・インターネット コースツールの使い方、インターネットの仕組みと情報検索、情報倫理(ネチケット、SNS利用の注意点)	
第3回	Webメール Webメールの使い方(送受信、アドレス帳の登録と利用、メールの検索、メールの整理、添付メール)、データの圧縮・解凍メールのマナー	
第4回	学術情報① 情報の種類と特徴の理解、情報の探し方(RUNNERS・NACSISWebcat、各種データベース)、情報の活用と著作権(引用の方法)	
第5回	学術情報②【課題①】 総復習(ここまでの内容のまとめ)【課題①】データ検索(メール添付)	
第6回	文書作成(Word)① 案内文書の作成(箇条書き・文字装飾)、タイトル・本文・記書き文、文書の印刷	
第7回	文書作成(Word)② ワードアート・クリップアートを利用した文書	
第8回	文書作成(Word)③【課題②】 総復習【課題②】案内文書の作成	
第9回	表計算(Excel)① Excelの基本操作、データ入力(文字データと数値データ、セル参照、四則演算、移動・コピー、範囲選択、消去、保存)、関数を使った計算(SUM、AVERAGE)	
第10回	表計算(Excel)② 関数復習、オートフィル機能、関数と絶対参照、表の書式設定(罫線、表示形式、書式設定)	
第11回	表計算(Excel)③ 関数と絶対参照(復習)、グラフの使い分け、基本的なグラフ(値の比較)作成	
第12回	表計算(Excel)④ 総復習【課題③】表計算とグラフの作成	
第13回	PowerPoint① PowerPointの基本操作、簡単なスライド作成(表紙・目次・箇条書き・表)、配色の変更、クリップアートの挿入	

第14回	PowerPoint② スライドへの設定(画面切り替え効果・アニメーションの設定)、スライドショーの実行、配布資料の印刷
第15回	前期総復習・問題解説 マークシートによる前期総合多肢選択式(75問)
	【中級クラス】
第1回	Windows基礎 ID・パスワードの管理方法、学内システム利用について、メディアの取り扱い(USBフラッシュメモリ)、ファイル・フォルダの管理(教材フォルダの利用)
第2回	コースツール・インターネット コースツールの使い方、インターネットの仕組みと情報検索、情報倫理(ネチケット、SNS利用の注意点)
第3回	Webメール Webメールの使い方(送受信、アドレス帳の登録と利用、メールの検索、メールの整理、添付メール)、データの圧縮・解凍メールのマナー
第4回	学術情報① 情報の種類と特徴の理解、情報の探し方(RUNNERS・NACSISWebcat、各種データベース)、情報の活用と著作権(引用の方法)
第5回	学術情報②【課題①】 総復習(ここまでの内容のまとめ)【課題①】データ検索(メール添付)
第6回	文書作成(Word)① 案内文書の作成(インデント・スタイル設定)タイトル・本文・箇条書き、表、文書の印刷
第7回	文書作成(Word)② ワードアート・クリップアート・画像を利用した文書、図ツールバーを使った画像処理
第8回	文書作成(Word)③【課題②】 総復習【課題②】案内文書の作成
第9回	表計算(Excel)① Excelの基本操作、データ入力(文字データと数値データ、セル参照、四則演算、移動・コピー、範囲選択、消去、保存)、関数を使った計算(SUM、AVERAGE)
第10回	表計算(Excel)② オートフィル機能、関数と絶対参照、表の書式設定(罫線、表示形式、書式設定)、グラフの使い分け
第11回	表計算(Excel)③ 基本的なグラフ(値の比較・比率)の作成、関数応用(RANK、ROUNDDOWN、ROUNDUP)
第12回	表計算(Excel)④ 総復習【課題③】表計算とグラフの作成
第13回	PowerPoint① PowerPointの基本操作、簡単なスライド作成(表紙・目次・箇条書き・表)、配色の変更、クリップアートの挿入
第14回	PowerPoint② スライドへの設定(画面切り替え効果・アニメーションの設定)、スライドショーの実行、配布資料の印刷
第15回	前期総復習・問題解説 マークシートによる前期総合多肢選択式(75問)

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(検証テスト)	100 %	出席点、課題提出状況、小テスト・最終講義日に実施する検証テストによって評価する。
平常点(日常的)	0 % 0	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

- ・3回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。
- ・入門クラス・初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。3クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。
- ・フラッシュメモリーあるいはフロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
- ・宿題を数回、提出してもらう予定。
- ・授業に5分以上遅刻したものは欠席と見なす。

教科書 / Textbooks**書名 / Title****出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment**

Rainbow Guide2006

///

情報活用の基礎

///

参考書 / Reference Books**参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference****その他 / Others**

担当者名 / Instructor 上出 浩

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

パソコンとインターネットが社会生活のあらゆる分野に浸透しつつある今日、情報ネットワーク環境の活用能力を身につけることは文字の読み書きと同様に社会生活に不可欠となっている。高校での情報科目必修化はそのあらわれであり、大学における情報科目は基礎を修得したことをふまえた、より進んだスキル獲得へと深化している。また、大学での学びにおいても、レジュメ作成、プレゼンテーション、レポート及び論文作成に至るまで、講義やゼミでの全ての学びに不可欠となっている。

この科目では、産業社会学部での4年間の学びに必要なパソコンの利用法(Windowsの操作、ワープロ、表計算)と情報ネットワーク(e-mail、インターネットWWW)の利用法について、体系的に実習を行う。また、演習などの学習に不可欠なオンラインデータベースの活用法やインターネットからの情報検索方法など学術情報関連、授業支援ツールの利用方法、情報ネットワークを利用する上で必要となるマナーやセキュリティなど、主体的な学修と研究の基礎となる情報リテラシーを実習により学んでいく

到達目標 / Attainment Objectives

コンピュータの基礎をふまえた上で応用的なスキルを修得し、産業社会学部で学ぶ4年間の学習面での活用ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

ガイダンス中に行われるコンピュータ・スキルの自己申告に基づいて、「入門」「初級」「中級」の3グレード制のクラス編成を行う。なお、「入門」クラスを申告する場合には、自身のコンピュータ経験や高校における情報授業の内容などの理由を明記する必要がある。また、各クラスの学習内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なる。自分のスキルにあったクラスを選択することも重要だが、より高いレベルを修得する意欲も持って欲しい。さらなるスキルアップやキャリアにつながるスキル獲得を目指す場合には、情報リテラシーⅢの受講を強く勧める。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	【入門・初級】	
第1回	Windows基礎 ID・パスワードの管理方法、学内システム利用について、メディアの取り扱い(USBフラッシュメモリ)、ファイル・フォルダの管理(教材フォルダの利用)	
第2回	コースツール・インターネット コースツールの使い方、インターネットの仕組みと情報検索、情報倫理(ネチケット、SNS利用の注意点)	
第3回	Webメール Webメールの使い方(送受信、アドレス帳の登録と利用、メールの検索、メールの整理、添付メール)、データの圧縮・解凍メールのマナー	
第4回	学術情報① 情報の種類と特徴の理解、情報の探し方(RUNNERS・NACSISWebcat、各種データベース)、情報の活用と著作権(引用の方法)	
第5回	学術情報②【課題①】 総復習(ここまでの内容のまとめ)【課題①】データ検索(メール添付)	
第6回	文書作成(Word)① 案内文書の作成(箇条書き・文字装飾)、タイトル・本文・記書き文、文書の印刷	
第7回	文書作成(Word)② ワードアート・クリップアートを利用した文書	
第8回	文書作成(Word)③【課題②】 総復習【課題②】案内文書の作成	
第9回	表計算(Excel)① Excelの基本操作、データ入力(文字データと数値データ、セル参照、四則演算、移動・コピー、範囲選択、消去、保存)、関数を使った計算(SUM、AVERAGE)	
第10回	表計算(Excel)② 関数復習、オートフィル機能、関数と絶対参照、表の書式設定(罫線、表示形式、書式設定)	
第11回	表計算(Excel)③ 関数と絶対参照(復習)、グラフの使い分け、基本的なグラフ(値の比較)作成	
第12回	表計算(Excel)④ 総復習【課題③】表計算とグラフの作成	
第13回	PowerPoint① PowerPointの基本操作、簡単なスライド作成(表紙・目次・箇条書き・表)、配色の変更、クリップアートの挿入	

第14回	PowerPoint② スライドへの設定(画面切り替え効果・アニメーションの設定)、スライドショーの実行、配布資料の印刷
第15回	前期総復習・問題解説 マークシートによる前期総合多肢選択式(75問)
	【中級クラス】
第1回	Windows基礎 ID・パスワードの管理方法、学内システム利用について、メディアの取り扱い(USBフラッシュメモリ)、ファイル・フォルダの管理(教材フォルダの利用)
第2回	コースツール・インターネット コースツールの使い方、インターネットの仕組みと情報検索、情報倫理(ネチケツ、SNS利用の注意点)
第3回	Webメール Webメールの使い方(送受信、アドレス帳の登録と利用、メールの検索、メールの整理、添付メール)、データの圧縮・解凍メールのマナー
第4回	学術情報① 情報の種類と特徴の理解、情報の探し方(RUNNERS・NACSISWebcat、各種データベース)、情報の活用と著作権(引用の方法)
第5回	学術情報②【課題①】 総復習(ここまでの内容のまとめ)【課題①】データ検索(メール添付)
第6回	文書作成(Word)① 案内文書の作成(インデント・スタイル設定)タイトル・本文・箇条書き、表、文書の印刷
第7回	文書作成(Word)② ワードアート・クリップアート・画像を利用した文書、図ツールバーを使った画像処理
第8回	文書作成(Word)③【課題②】 総復習【課題②】案内文書の作成
第9回	表計算(Excel)① Excelの基本操作、データ入力(文字データと数値データ、セル参照、四則演算、移動・コピー、範囲選択、消去、保存)、関数を使った計算(SUM、AVERAGE)
第10回	表計算(Excel)② オートフィル機能、関数と絶対参照、表の書式設定(罫線、表示形式、書式設定)、グラフの使い分け
第11回	表計算(Excel)③ 基本的なグラフ(値の比較・比率)の作成、関数応用(RANK、ROUNDDOWN、ROUNDUP)
第12回	表計算(Excel)④ 総復習【課題③】表計算とグラフの作成
第13回	PowerPoint① PowerPointの基本操作、簡単なスライド作成(表紙・目次・箇条書き・表)、配色の変更、クリップアートの挿入
第14回	PowerPoint② スライドへの設定(画面切り替え効果・アニメーションの設定)、スライドショーの実行、配布資料の印刷
第15回	前期総復習・問題解説 マークシートによる前期総合多肢選択式(75問)

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(検証テスト)	100 %	出席点、課題提出状況、小テスト・最終講義日に実施する検証テストによって評価する。
平常点(日常的)	0 % 0	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

- ・3回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。
- ・入門クラス・初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。3クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。
- ・フラッシュメモリーあるいはフロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
- ・宿題を数回、提出してもらう予定。
- ・授業に5分以上遅刻したものは欠席と見なす。

教科書 / Textbooks**書名 / Title****出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment**

Rainbow Guide2006

///

情報活用の基礎

///

参考書 / Reference Books**参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference****その他 / Others**

担当者名 / Instructor 上出 浩

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

パソコンとインターネットが社会生活のあらゆる分野に浸透しつつある今日、情報ネットワーク環境の活用能力を身につけることは文字の読み書きと同様に社会生活に不可欠となっている。高校での情報科目必修化はそのあらわれであり、大学における情報科目は基礎を修得したことをふまえた、より進んだスキル獲得へと深化している。また、大学での学びにおいても、レジュメ作成、プレゼンテーション、レポート及び論文作成に至るまで、講義やゼミでの全ての学びに不可欠となっている。

この科目では、産業社会学部での4年間の学びに必要なパソコンの利用法(Windowsの操作、ワープロ、表計算)と情報ネットワーク(e-mail、インターネットWWW)の利用法について、体系的に実習を行う。また、演習などの学習に不可欠なオンラインデータベースの活用法やインターネットからの情報検索方法など学術情報関連、授業支援ツールの利用方法、情報ネットワークを利用する上で必要となるマナーやセキュリティなど、主体的な学修と研究の基礎となる情報リテラシーを実習により学んでいく

到達目標 / Attainment Objectives

コンピュータの基礎をふまえた上で応用的なスキルを修得し、産業社会学部で学ぶ4年間の学習面での活用ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

ガイダンス中に行われるコンピュータ・スキルの自己申告に基づいて、「入門」「初級」「中級」の3グレード制のクラス編成を行う。なお、「入門」クラスを申告する場合には、自身のコンピュータ経験や高校における情報授業の内容などの理由を明記する必要がある。また、各クラスの学習内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なる。自分のスキルにあったクラスを選択することも重要だが、より高いレベルを修得する意欲も持って欲しい。さらなるスキルアップやキャリアにつながるスキル獲得を目指す場合には、情報リテラシーⅢの受講を強く勧める。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	【入門・初級】	
第1回	Windows基礎 ID・パスワードの管理方法、学内システム利用について、メディアの取り扱い(USBフラッシュメモリ)、ファイル・フォルダの管理(教材フォルダの利用)	
第2回	コースツール・インターネット コースツールの使い方、インターネットの仕組みと情報検索、情報倫理(ネチケット、SNS利用の注意点)	
第3回	Webメール Webメールの使い方(送受信、アドレス帳の登録と利用、メールの検索、メールの整理、添付メール)、データの圧縮・解凍メールのマナー	
第4回	学術情報① 情報の種類と特徴の理解、情報の探し方(RUNNERS・NACSISWebcat、各種データベース)、情報の活用と著作権(引用の方法)	
第5回	学術情報②【課題①】 総復習(ここまでの内容のまとめ)【課題①】データ検索(メール添付)	
第6回	文書作成(Word)① 案内文書の作成(箇条書き・文字装飾)、タイトル・本文・記書き文、文書の印刷	
第7回	文書作成(Word)② ワードアート・クリップアートを利用した文書	
第8回	文書作成(Word)③【課題②】 総復習【課題②】案内文書の作成	
第9回	表計算(Excel)① Excelの基本操作、データ入力(文字データと数値データ、セル参照、四則演算、移動・コピー、範囲選択、消去、保存)、関数を使った計算(SUM、AVERAGE)	
第10回	表計算(Excel)② 関数復習、オートフィル機能、関数と絶対参照、表の書式設定(罫線、表示形式、書式設定)	
第11回	表計算(Excel)③ 関数と絶対参照(復習)、グラフの使い分け、基本的なグラフ(値の比較)作成	
第12回	表計算(Excel)④ 総復習【課題③】表計算とグラフの作成	
第13回	PowerPoint① PowerPointの基本操作、簡単なスライド作成(表紙・目次・箇条書き・表)、配色の変更、クリップアートの挿入	

第14回	PowerPoint② スライドへの設定(画面切り替え効果・アニメーションの設定)、スライドショーの実行、配布資料の印刷
第15回	前期総復習・問題解説 マークシートによる前期総合多肢選択式(75問)
	【中級クラス】
第1回	Windows基礎 ID・パスワードの管理方法、学内システム利用について、メディアの取り扱い(USBフラッシュメモリ)、ファイル・フォルダの管理(教材フォルダの利用)
第2回	コースツール・インターネット コースツールの使い方、インターネットの仕組みと情報検索、情報倫理(ネチケツ、SNS利用の注意点)
第3回	Webメール Webメールの使い方(送受信、アドレス帳の登録と利用、メールの検索、メールの整理、添付メール)、データの圧縮・解凍メールのマナー
第4回	学術情報① 情報の種類と特徴の理解、情報の探し方(RUNNERS・NACSISWebcat、各種データベース)、情報の活用と著作権(引用の方法)
第5回	学術情報②【課題①】 総復習(ここまでの内容のまとめ)【課題①】データ検索(メール添付)
第6回	文書作成(Word)① 案内文書の作成(インデント・スタイル設定)タイトル・本文・箇条書き、表、文書の印刷
第7回	文書作成(Word)② ワードアート・クリップアート・画像を利用した文書、図ツールバーを使った画像処理
第8回	文書作成(Word)③【課題②】 総復習【課題②】案内文書の作成
第9回	表計算(Excel)① Excelの基本操作、データ入力(文字データと数値データ、セル参照、四則演算、移動・コピー、範囲選択、消去、保存)、関数を使った計算(SUM、AVERAGE)
第10回	表計算(Excel)② オートフィル機能、関数と絶対参照、表の書式設定(罫線、表示形式、書式設定)、グラフの使い分け
第11回	表計算(Excel)③ 基本的なグラフ(値の比較・比率)の作成、関数応用(RANK、ROUNDDOWN、ROUNDUP)
第12回	表計算(Excel)④ 総復習【課題③】表計算とグラフの作成
第13回	PowerPoint① PowerPointの基本操作、簡単なスライド作成(表紙・目次・箇条書き・表)、配色の変更、クリップアートの挿入
第14回	PowerPoint② スライドへの設定(画面切り替え効果・アニメーションの設定)、スライドショーの実行、配布資料の印刷
第15回	前期総復習・問題解説 マークシートによる前期総合多肢選択式(75問)

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(検証テスト)	100 %	出席点、課題提出状況、小テスト・最終講義日に実施する検証テストによって評価する。
平常点(日常的)	0 %	0

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

- ・3回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。
- ・入門クラス・初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。3クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。
- ・フラッシュメモリーあるいはフロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
- ・宿題を数回、提出してもらう予定。
- ・授業に5分以上遅刻したものは欠席と見なす。

教科書 / Textbooks**書名 / Title****出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment**

Rainbow Guide2006

///

情報活用の基礎

///

参考書 / Reference Books**参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference****その他 / Others**

授業の概要 / Course Outline

パソコンとインターネットが社会生活のあらゆる分野に浸透しつつある今日、情報ネットワーク環境の活用能力を身につけることは文字の読み書きと同様に社会生活に不可欠となっている。高校での情報科目必修化はそのあらわれであり、大学における情報科目は基礎を修得したことをふまえた、より進んだスキル獲得へと深化している。また、大学での学びにおいても、レジュメ作成、プレゼンテーション、レポート及び論文作成に至るまで、講義やゼミでの全ての学びに不可欠となっている。

この科目では、産業社会学部での4年間の学びに必要なパソコンの利用法(Windowsの操作、ワープロ、表計算)と情報ネットワーク(e-mail、インターネットWWW)の利用法について、体系的に実習を行う。また、演習などの学習に不可欠なオンラインデータベースの活用法やインターネットからの情報検索方法など学術情報関連、授業支援ツールの利用方法、情報ネットワークを利用する上で必要となるマナーやセキュリティなど、主体的な学修と研究の基礎となる情報リテラシーを実習により学んでいく

到達目標 / Attainment Objectives

コンピュータの基礎をふまえた上で応用的なスキルを修得し、産業社会学部で学ぶ4年間の学習面での活用ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

ガイダンス中に行われるコンピュータ・スキルの自己申告に基づいて、「入門」「初級」「中級」の3グレード制のクラス編成を行う。なお、「入門」クラスを申告する場合には、自身のコンピュータ経験や高校における情報授業の内容などの理由を明記する必要がある。また、各クラスの学習内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なる。自分のスキルにあったクラスを選択することも重要だが、より高いレベルを修得する意欲も持って欲しい。さらなるスキルアップやキャリアにつながるスキル獲得を目指す場合には、情報リテラシーⅢの受講を強く勧める。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	【入門・初級】	
第1回	Windows基礎 ID・パスワードの管理方法、学内システム利用について、メディアの取り扱い(USBフラッシュメモリ)、ファイル・フォルダの管理(教材フォルダの利用)	
第2回	コースツール・インターネット コースツールの使い方、インターネットの仕組みと情報検索、情報倫理(ネチケット、SNS利用の注意点)	
第3回	Webメール Webメールの使い方(送受信、アドレス帳の登録と利用、メールの検索、メールの整理、添付メール)、データの圧縮・解凍メールのマナー	
第4回	学術情報① 情報の種類と特徴の理解、情報の探し方(RUNNERS・NACSISWebcat、各種データベース)、情報の活用と著作権(引用の方法)	
第5回	学術情報②【課題①】 総復習(ここまでの内容のまとめ)【課題①】データ検索(メール添付)	
第6回	文書作成(Word)① 案内文書の作成(箇条書き・文字装飾)、タイトル・本文・記書き文、文書の印刷	
第7回	文書作成(Word)② ワードアート・クリップアートを利用した文書	
第8回	文書作成(Word)③【課題②】 総復習【課題②】案内文書の作成	
第9回	表計算(Excel)① Excelの基本操作、データ入力(文字データと数値データ、セル参照、四則演算、移動・コピー、範囲選択、消去、保存)、関数を使った計算(SUM、AVERAGE)	
第10回	表計算(Excel)② 関数復習、オートフィル機能、関数と絶対参照、表の書式設定(罫線、表示形式、書式設定)	
第11回	表計算(Excel)③ 関数と絶対参照(復習)、グラフの使い分け、基本的なグラフ(値の比較)作成	
第12回	表計算(Excel)④ 総復習【課題③】表計算とグラフの作成	
第13回	PowerPoint① PowerPointの基本操作、簡単なスライド作成(表紙・目次・箇条書き・表)、配色の変更、クリップアートの挿入	

第14回	PowerPoint② スライドへの設定(画面切り替え効果・アニメーションの設定)、スライドショーの実行、配布資料の印刷
第15回	前期総復習・問題解説 マークシートによる前期総合多肢選択式(75問)
	【中級クラス】
第1回	Windows基礎 ID・パスワードの管理方法、学内システム利用について、メディアの取り扱い(USBフラッシュメモリ)、ファイル・フォルダの管理(教材フォルダの利用)
第2回	コースツール・インターネット コースツールの使い方、インターネットの仕組みと情報検索、情報倫理(ネチケツ、SNS利用の注意点)
第3回	Webメール Webメールの使い方(送受信、アドレス帳の登録と利用、メールの検索、メールの整理、添付メール)、データの圧縮・解凍メールのマナー
第4回	学術情報① 情報の種類と特徴の理解、情報の探し方(RUNNERS・NACSISWebcat、各種データベース)、情報の活用と著作権(引用の方法)
第5回	学術情報②【課題①】 総復習(ここまでの内容のまとめ)【課題①】データ検索(メール添付)
第6回	文書作成(Word)① 案内文書の作成(インデント・スタイル設定)タイトル・本文・箇条書き、表、文書の印刷
第7回	文書作成(Word)② ワードアート・クリップアート・画像を利用した文書、図ツールバーを使った画像処理
第8回	文書作成(Word)③【課題②】 総復習【課題②】案内文書の作成
第9回	表計算(Excel)① Excelの基本操作、データ入力(文字データと数値データ、セル参照、四則演算、移動・コピー、範囲選択、消去、保存)、関数を使った計算(SUM、AVERAGE)
第10回	表計算(Excel)② オートフィル機能、関数と絶対参照、表の書式設定(罫線、表示形式、書式設定)、グラフの使い分け
第11回	表計算(Excel)③ 基本的なグラフ(値の比較・比率)の作成、関数応用(RANK、ROUNDDOWN、ROUNDUP)
第12回	表計算(Excel)④ 総復習【課題③】表計算とグラフの作成
第13回	PowerPoint① PowerPointの基本操作、簡単なスライド作成(表紙・目次・箇条書き・表)、配色の変更、クリップアートの挿入
第14回	PowerPoint② スライドへの設定(画面切り替え効果・アニメーションの設定)、スライドショーの実行、配布資料の印刷
第15回	前期総復習・問題解説 マークシートによる前期総合多肢選択式(75問)

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(検証テスト)	100 %	出席点、課題提出状況、小テスト・最終講義日に実施する検証テストによって評価する。
平常点(日常的)	0 %	0

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

- ・3回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。
- ・入門クラス・初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。3クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。
- ・フラッシュメモリーあるいはフロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
- ・宿題を数回、提出してもらう予定。
- ・授業に5分以上遅刻したものは欠席と見なす。

教科書 / Textbooks**書名 / Title****出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment**

Rainbow Guide2006

///

情報活用の基礎

///

参考書 / Reference Books**参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference****その他 / Others**

授業の概要 / Course Outline

パソコンとインターネットが社会生活のあらゆる分野に浸透しつつある今日、情報ネットワーク環境の活用能力を身につけることは文字の読み書きと同様に社会生活に不可欠となっている。高校での情報科目必修化はそのあらわれであり、大学における情報科目は基礎を修得したことをふまえた、より進んだスキル獲得へと深化している。また、大学での学びにおいても、レジュメ作成、プレゼンテーション、レポート及び論文作成に至るまで、講義やゼミでの全ての学びに不可欠となっている。

この科目では、産業社会学部での4年間の学びに必要なパソコンの利用法(Windowsの操作、ワープロ、表計算)と情報ネットワーク(e-mail、インターネットWWW)の利用法について、体系的に実習を行う。また、演習などの学習に不可欠なオンラインデータベースの活用法やインターネットからの情報検索方法など学術情報関連、授業支援ツールの利用方法、情報ネットワークを利用する上で必要となるマナーやセキュリティなど、主体的な学修と研究の基礎となる情報リテラシーを実習により学んでいく

到達目標 / Attainment Objectives

コンピュータの基礎をふまえた上で応用的なスキルを修得し、産業社会学部で学ぶ4年間の学習面での活用ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

ガイダンス中に行われるコンピュータ・スキルの自己申告に基づいて、「入門」「初級」「中級」の3グレード制のクラス編成を行う。なお、「入門」クラスを申告する場合には、自身のコンピュータ経験や高校における情報授業の内容などの理由を明記する必要がある。また、各クラスの学習内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なる。自分のスキルにあったクラスを選択することも重要だが、より高いレベルを修得する意欲も持って欲しい。さらなるスキルアップやキャリアにつながるスキル獲得を目指す場合には、情報リテラシーⅢの受講を強く勧める。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	【入門・初級】	
第1回	Windows基礎 ID・パスワードの管理方法、学内システム利用について、メディアの取り扱い(USBフラッシュメモリ)、ファイル・フォルダの管理(教材フォルダの利用)	
第2回	コースツール・インターネット コースツールの使い方、インターネットの仕組みと情報検索、情報倫理(ネチケット、SNS利用の注意点)	
第3回	Webメール Webメールの使い方(送受信、アドレス帳の登録と利用、メールの検索、メールの整理、添付メール)、データの圧縮・解凍メールのマナー	
第4回	学術情報① 情報の種類と特徴の理解、情報の探し方(RUNNERS・NACSISWebcat、各種データベース)、情報の活用と著作権(引用の方法)	
第5回	学術情報②【課題①】 総復習(ここまでの内容のまとめ)【課題①】データ検索(メール添付)	
第6回	文書作成(Word)① 案内文書の作成(箇条書き・文字装飾)、タイトル・本文・記書き文、文書の印刷	
第7回	文書作成(Word)② ワードアート・クリップアートを利用した文書	
第8回	文書作成(Word)③【課題②】 総復習【課題②】案内文書の作成	
第9回	表計算(Excel)① Excelの基本操作、データ入力(文字データと数値データ、セル参照、四則演算、移動・コピー、範囲選択、消去、保存)、関数を使った計算(SUM、AVERAGE)	
第10回	表計算(Excel)② 関数復習、オートフィル機能、関数と絶対参照、表の書式設定(罫線、表示形式、書式設定)	
第11回	表計算(Excel)③ 関数と絶対参照(復習)、グラフの使い分け、基本的なグラフ(値の比較)作成	
第12回	表計算(Excel)④ 総復習【課題③】表計算とグラフの作成	
第13回	PowerPoint① PowerPointの基本操作、簡単なスライド作成(表紙・目次・箇条書き・表)、配色の変更、クリップアートの挿入	

第14回	PowerPoint② スライドへの設定(画面切り替え効果・アニメーションの設定)、スライドショーの実行、配布資料の印刷
第15回	前期総復習・問題解説 マークシートによる前期総合多肢選択式(75問)
	【中級クラス】
第1回	Windows基礎 ID・パスワードの管理方法、学内システム利用について、メディアの取り扱い(USBフラッシュメモリ)、ファイル・フォルダの管理(教材フォルダの利用)
第2回	コースツール・インターネット コースツールの使い方、インターネットの仕組みと情報検索、情報倫理(ネチケツ、SNS利用の注意点)
第3回	Webメール Webメールの使い方(送受信、アドレス帳の登録と利用、メールの検索、メールの整理、添付メール)、データの圧縮・解凍メールのマナー
第4回	学術情報① 情報の種類と特徴の理解、情報の探し方(RUNNERS・NACSISWebcat、各種データベース)、情報の活用と著作権(引用の方法)
第5回	学術情報②【課題①】 総復習(ここまでの内容のまとめ)【課題①】データ検索(メール添付)
第6回	文書作成(Word)① 案内文書の作成(インデント・スタイル設定)タイトル・本文・箇条書き、表、文書の印刷
第7回	文書作成(Word)② ワードアート・クリップアート・画像を利用した文書、図ツールバーを使った画像処理
第8回	文書作成(Word)③【課題②】 総復習【課題②】案内文書の作成
第9回	表計算(Excel)① Excelの基本操作、データ入力(文字データと数値データ、セル参照、四則演算、移動・コピー、範囲選択、消去、保存)、関数を使った計算(SUM、AVERAGE)
第10回	表計算(Excel)② オートフィル機能、関数と絶対参照、表の書式設定(罫線、表示形式、書式設定)、グラフの使い分け
第11回	表計算(Excel)③ 基本的なグラフ(値の比較・比率)の作成、関数応用(RANK、ROUNDDOWN、ROUNDUP)
第12回	表計算(Excel)④ 総復習【課題③】表計算とグラフの作成
第13回	PowerPoint① PowerPointの基本操作、簡単なスライド作成(表紙・目次・箇条書き・表)、配色の変更、クリップアートの挿入
第14回	PowerPoint② スライドへの設定(画面切り替え効果・アニメーションの設定)、スライドショーの実行、配布資料の印刷
第15回	前期総復習・問題解説 マークシートによる前期総合多肢選択式(75問)

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(検証テスト)	100 %	出席点、課題提出状況、小テスト・最終講義日に実施する検証テストによって評価する。
平常点(日常的)	0 % 0	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

- ・3回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。
- ・入門クラス・初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。3クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。
- ・フラッシュメモリーあるいはフロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
- ・宿題を数回、提出してもらう予定。
- ・授業に5分以上遅刻したものは欠席と見なす。

教科書 / Textbooks**書名 / Title****出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment**

Rainbow Guide2006

///

情報活用の基礎

///

参考書 / Reference Books**参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference****その他 / Others**

担当者名 / Instructor 奥川 櫻豊彦

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

パソコンとインターネットが社会生活のあらゆる分野に浸透しつつある今日、情報ネットワーク環境の活用能力を身につけることは文字の読み書きと同様に社会生活に不可欠となっている。高校での情報科目必修化はそのあらわれであり、大学における情報科目は基礎を修得したことをふまえた、より進んだスキル獲得へと深化している。また、大学での学びにおいても、レジュメ作成、プレゼンテーション、レポート及び論文作成に至るまで、講義やゼミでの全ての学びに不可欠となっている。

この科目では、産業社会学部での4年間の学びに必要なパソコンの利用法(Windowsの操作、ワープロ、表計算)と情報ネットワーク(e-mail、インターネットWWW)の利用法について、体系的に実習を行う。また、演習などの学習に不可欠なオンラインデータベースの活用法やインターネットからの情報検索方法など学術情報関連、授業支援ツールの利用方法、情報ネットワークを利用する上で必要となるマナーやセキュリティなど、主体的な学修と研究の基礎となる情報リテラシーを実習により学んでいく

到達目標 / Attainment Objectives

コンピュータの基礎をふまえた上で応用的なスキルを修得し、産業社会学部で学ぶ4年間の学習面での活用ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

ガイダンス中に行われるコンピュータ・スキルの自己申告に基づいて、「入門」「初級」「中級」の3グレード制のクラス編成を行う。なお、「入門」クラスを申告する場合には、自身のコンピュータ経験や高校における情報授業の内容などの理由を明記する必要がある。また、各クラスの学習内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なる。自分のスキルにあったクラスを選択することも重要だが、より高いレベルを修得する意欲も持って欲しい。さらなるスキルアップやキャリアにつながるスキル獲得を目指す場合には、情報リテラシーⅢの受講を強く勧める。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	【入門・初級】	
第1回	Windows基礎 ID・パスワードの管理方法、学内システム利用について、メディアの取り扱い(USBフラッシュメモリ)、ファイル・フォルダの管理(教材フォルダの利用)	
第2回	コースツール・インターネット コースツールの使い方、インターネットの仕組みと情報検索、情報倫理(ネチケット、SNS利用の注意点)	
第3回	Webメール Webメールの使い方(送受信、アドレス帳の登録と利用、メールの検索、メールの整理、添付メール)、データの圧縮・解凍メールのマナー	
第4回	学術情報① 情報の種類と特徴の理解、情報の探し方(RUNNERS・NACSISWebcat、各種データベース)、情報の活用と著作権(引用の方法)	
第5回	学術情報②【課題①】 総復習(ここまでの内容のまとめ)【課題①】データ検索(メール添付)	
第6回	文書作成(Word)① 案内文書の作成(箇条書き・文字装飾)、タイトル・本文・記書き文、文書の印刷	
第7回	文書作成(Word)② ワードアート・クリップアートを利用した文書	
第8回	文書作成(Word)③【課題②】 総復習【課題②】案内文書の作成	
第9回	表計算(Excel)① Excelの基本操作、データ入力(文字データと数値データ、セル参照、四則演算、移動・コピー、範囲選択、消去、保存)、関数を使った計算(SUM、AVERAGE)	
第10回	表計算(Excel)② 関数復習、オートフィル機能、関数と絶対参照、表の書式設定(罫線、表示形式、書式設定)	
第11回	表計算(Excel)③ 関数と絶対参照(復習)、グラフの使い分け、基本的なグラフ(値の比較)作成	
第12回	表計算(Excel)④ 総復習【課題③】表計算とグラフの作成	
第13回	PowerPoint① PowerPointの基本操作、簡単なスライド作成(表紙・目次・箇条書き・表)、配色の変更、クリップアートの挿入	

第14回	PowerPoint② スライドへの設定(画面切り替え効果・アニメーションの設定)、スライドショーの実行、配布資料の印刷
第15回	前期総復習・問題解説 マークシートによる前期総合多肢選択式(75問)
	【中級クラス】
第1回	Windows基礎 ID・パスワードの管理方法、学内システム利用について、メディアの取り扱い(USBフラッシュメモリ)、ファイル・フォルダの管理(教材フォルダの利用)
第2回	コースツール・インターネット コースツールの使い方、インターネットの仕組みと情報検索、情報倫理(ネチケツ、SNS利用の注意点)
第3回	Webメール Webメールの使い方(送受信、アドレス帳の登録と利用、メールの検索、メールの整理、添付メール)、データの圧縮・解凍メールのマナー
第4回	学術情報① 情報の種類と特徴の理解、情報の探し方(RUNNERS・NACSISWebcat、各種データベース)、情報の活用と著作権(引用の方法)
第5回	学術情報②【課題①】 総復習(ここまでの内容のまとめ)【課題①】データ検索(メール添付)
第6回	文書作成(Word)① 案内文書の作成(インデント・スタイル設定)タイトル・本文・箇条書き、表、文書の印刷
第7回	文書作成(Word)② ワードアート・クリップアート・画像を利用した文書、図ツールバーを使った画像処理
第8回	文書作成(Word)③【課題②】 総復習【課題②】案内文書の作成
第9回	表計算(Excel)① Excelの基本操作、データ入力(文字データと数値データ、セル参照、四則演算、移動・コピー、範囲選択、消去、保存)、関数を使った計算(SUM、AVERAGE)
第10回	表計算(Excel)② オートフィル機能、関数と絶対参照、表の書式設定(罫線、表示形式、書式設定)、グラフの使い分け
第11回	表計算(Excel)③ 基本的なグラフ(値の比較・比率)の作成、関数応用(RANK、ROUNDDOWN、ROUNDUP)
第12回	表計算(Excel)④ 総復習【課題③】表計算とグラフの作成
第13回	PowerPoint① PowerPointの基本操作、簡単なスライド作成(表紙・目次・箇条書き・表)、配色の変更、クリップアートの挿入
第14回	PowerPoint② スライドへの設定(画面切り替え効果・アニメーションの設定)、スライドショーの実行、配布資料の印刷
第15回	前期総復習・問題解説 マークシートによる前期総合多肢選択式(75問)

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(検証テスト)	100 %	出席点、課題提出状況、小テスト・最終講義日に実施する検証テストによって評価する。
平常点(日常的)	0 % 0	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

- ・3回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。
- ・入門クラス・初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。3クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。
- ・フラッシュメモリーあるいはフロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
- ・宿題を数回、提出してもらう予定。
- ・授業に5分以上遅刻したものは欠席と見なす。

教科書 / Textbooks**書名 / Title****出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment**

Rainbow Guide2006

///

情報活用の基礎

///

参考書 / Reference Books**参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference****その他 / Others**

担当者名 / Instructor 奥川 櫻豊彦

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

パソコンとインターネットが社会生活のあらゆる分野に浸透しつつある今日、情報ネットワーク環境の活用能力を身につけることは文字の読み書きと同様に社会生活に不可欠となっている。高校での情報科目必修化はそのあらわれであり、大学における情報科目は基礎を修得したことをふまえた、より進んだスキル獲得へと深化している。また、大学での学びにおいても、レジュメ作成、プレゼンテーション、レポート及び論文作成に至るまで、講義やゼミでの全ての学びに不可欠となっている。

この科目では、産業社会学部での4年間の学びに必要なパソコンの利用法(Windowsの操作、ワープロ、表計算)と情報ネットワーク(e-mail、インターネットWWW)の利用法について、体系的に実習を行う。また、演習などの学習に不可欠なオンラインデータベースの活用法やインターネットからの情報検索方法など学術情報関連、授業支援ツールの利用方法、情報ネットワークを利用する上で必要となるマナーやセキュリティなど、主体的な学修と研究の基礎となる情報リテラシーを実習により学んでいく

到達目標 / Attainment Objectives

コンピュータの基礎をふまえた上で応用的なスキルを修得し、産業社会学部で学ぶ4年間の学習面での活用ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

ガイダンス中に行われるコンピュータ・スキルの自己申告に基づいて、「入門」「初級」「中級」の3グレード制のクラス編成を行う。なお、「入門」クラスを申告する場合には、自身のコンピュータ経験や高校における情報授業の内容などの理由を明記する必要がある。また、各クラスの学習内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なる。自分のスキルにあったクラスを選択することも重要だが、より高いレベルを修得する意欲も持って欲しい。さらなるスキルアップやキャリアにつながるスキル獲得を目指す場合には、情報リテラシーⅢの受講を強く勧める。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	【入門・初級】	
第1回	Windows基礎 ID・パスワードの管理方法、学内システム利用について、メディアの取り扱い(USBフラッシュメモリ)、ファイル・フォルダの管理(教材フォルダの利用)	
第2回	コースツール・インターネット コースツールの使い方、インターネットの仕組みと情報検索、情報倫理(ネチケット、SNS利用の注意点)	
第3回	Webメール Webメールの使い方(送受信、アドレス帳の登録と利用、メールの検索、メールの整理、添付メール)、データの圧縮・解凍メールのマナー	
第4回	学術情報① 情報の種類と特徴の理解、情報の探し方(RUNNERS・NACSISWebcat、各種データベース)、情報の活用と著作権(引用の方法)	
第5回	学術情報②【課題①】 総復習(ここまでの内容のまとめ)【課題①】データ検索(メール添付)	
第6回	文書作成(Word)① 案内文書の作成(箇条書き・文字装飾)、タイトル・本文・記書き文、文書の印刷	
第7回	文書作成(Word)② ワードアート・クリップアートを利用した文書	
第8回	文書作成(Word)③【課題②】 総復習【課題②】案内文書の作成	
第9回	表計算(Excel)① Excelの基本操作、データ入力(文字データと数値データ、セル参照、四則演算、移動・コピー、範囲選択、消去、保存)、関数を使った計算(SUM、AVERAGE)	
第10回	表計算(Excel)② 関数復習、オートフィル機能、関数と絶対参照、表の書式設定(罫線、表示形式、書式設定)	
第11回	表計算(Excel)③ 関数と絶対参照(復習)、グラフの使い分け、基本的なグラフ(値の比較)作成	
第12回	表計算(Excel)④ 総復習【課題③】表計算とグラフの作成	
第13回	PowerPoint① PowerPointの基本操作、簡単なスライド作成(表紙・目次・箇条書き・表)、配色の変更、クリップアートの挿入	

第14回	PowerPoint② スライドへの設定(画面切り替え効果・アニメーションの設定)、スライドショーの実行、配布資料の印刷
第15回	前期総復習・問題解説 マークシートによる前期総合多肢選択式(75問)
	【中級クラス】
第1回	Windows基礎 ID・パスワードの管理方法、学内システム利用について、メディアの取り扱い(USBフラッシュメモリ)、ファイル・フォルダの管理(教材フォルダの利用)
第2回	コースツール・インターネット コースツールの使い方、インターネットの仕組みと情報検索、情報倫理(ネチケツ、SNS利用の注意点)
第3回	Webメール Webメールの使い方(送受信、アドレス帳の登録と利用、メールの検索、メールの整理、添付メール)、データの圧縮・解凍メールのマナー
第4回	学術情報① 情報の種類と特徴の理解、情報の探し方(RUNNERS・NACSISWebcat、各種データベース)、情報の活用と著作権(引用の方法)
第5回	学術情報②【課題①】 総復習(ここまでの内容のまとめ)【課題①】データ検索(メール添付)
第6回	文書作成(Word)① 案内文書の作成(インデント・スタイル設定)タイトル・本文・箇条書き、表、文書の印刷
第7回	文書作成(Word)② ワードアート・クリップアート・画像を利用した文書、図ツールバーを使った画像処理
第8回	文書作成(Word)③【課題②】 総復習【課題②】案内文書の作成
第9回	表計算(Excel)① Excelの基本操作、データ入力(文字データと数値データ、セル参照、四則演算、移動・コピー、範囲選択、消去、保存)、関数を使った計算(SUM、AVERAGE)
第10回	表計算(Excel)② オートフィル機能、関数と絶対参照、表の書式設定(罫線、表示形式、書式設定)、グラフの使い分け
第11回	表計算(Excel)③ 基本的なグラフ(値の比較・比率)の作成、関数応用(RANK、ROUNDDOWN、ROUNDUP)
第12回	表計算(Excel)④ 総復習【課題③】表計算とグラフの作成
第13回	PowerPoint① PowerPointの基本操作、簡単なスライド作成(表紙・目次・箇条書き・表)、配色の変更、クリップアートの挿入
第14回	PowerPoint② スライドへの設定(画面切り替え効果・アニメーションの設定)、スライドショーの実行、配布資料の印刷
第15回	前期総復習・問題解説 マークシートによる前期総合多肢選択式(75問)

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(検証テスト)	100 %	出席点、課題提出状況、小テスト・最終講義日に実施する検証テストによって評価する。
平常点(日常的)	0 %	0

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

- ・3回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。
- ・入門クラス・初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。3クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。
- ・フラッシュメモリーあるいはフロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
- ・宿題を数回、提出してもらう予定。
- ・授業に5分以上遅刻したものは欠席と見なす。

教科書 / Textbooks**書名 / Title****出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment**

Rainbow Guide2006

///

情報活用の基礎

///

参考書 / Reference Books**参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference****その他 / Others**

担当者名 / Instructor 上出 浩

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

パソコンとインターネットが社会生活のあらゆる分野に浸透しつつある今日、情報ネットワーク環境の活用能力を身につけることは文字の読み書きと同様に社会生活に不可欠となっている。高校での情報科目必修化はそのあらわれであり、大学における情報科目は基礎を修得したことをふまえた、より進んだスキル獲得へと深化している。また、大学での学びにおいても、レジュメ作成、プレゼンテーション、レポート及び論文作成に至るまで、講義やゼミでの全ての学びに不可欠となっている。

この科目では、産業社会学部での4年間の学びに必要なパソコンの利用法(Windowsの操作、ワープロ、表計算)と情報ネットワーク(e-mail、インターネットWWW)の利用法について、体系的に実習を行う。また、演習などの学習に不可欠なオンラインデータベースの活用法やインターネットからの情報検索方法など学術情報関連、授業支援ツールの利用方法、情報ネットワークを利用する上で必要となるマナーやセキュリティなど、主体的な学修と研究の基礎となる情報リテラシーを実習により学んでいく

到達目標 / Attainment Objectives

コンピュータの基礎をふまえた上で応用的なスキルを修得し、産業社会学部で学ぶ4年間の学習面での活用ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

ガイダンス中に行われるコンピュータ・スキルの自己申告に基づいて、「入門」「初級」「中級」の3グレード制のクラス編成を行う。なお、「入門」クラスを申告する場合には、自身のコンピュータ経験や高校における情報授業の内容などの理由を明記する必要がある。また、各クラスの学習内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なる。自分のスキルにあったクラスを選択することも重要だが、より高いレベルを修得する意欲も持って欲しい。さらなるスキルアップやキャリアにつながるスキル獲得を目指す場合には、情報リテラシーⅢの受講を強く勧める。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	【入門・初級】	
第1回	Windows基礎 ID・パスワードの管理方法、学内システム利用について、メディアの取り扱い(USBフラッシュメモリ)、ファイル・フォルダの管理(教材フォルダの利用)	
第2回	コースツール・インターネット コースツールの使い方、インターネットの仕組みと情報検索、情報倫理(ネチケット、SNS利用の注意点)	
第3回	Webメール Webメールの使い方(送受信、アドレス帳の登録と利用、メールの検索、メールの整理、添付メール)、データの圧縮・解凍メールのマナー	
第4回	学術情報① 情報の種類と特徴の理解、情報の探し方(RUNNERS・NACSISWebcat、各種データベース)、情報の活用と著作権(引用の方法)	
第5回	学術情報②【課題①】 総復習(ここまでの内容のまとめ)【課題①】データ検索(メール添付)	
第6回	文書作成(Word)① 案内文書の作成(箇条書き・文字装飾)、タイトル・本文・記書き文、文書の印刷	
第7回	文書作成(Word)② ワードアート・クリップアートを利用した文書	
第8回	文書作成(Word)③【課題②】 総復習【課題②】案内文書の作成	
第9回	表計算(Excel)① Excelの基本操作、データ入力(文字データと数値データ、セル参照、四則演算、移動・コピー、範囲選択、消去、保存)、関数を使った計算(SUM、AVERAGE)	
第10回	表計算(Excel)② 関数復習、オートフィル機能、関数と絶対参照、表の書式設定(罫線、表示形式、書式設定)	
第11回	表計算(Excel)③ 関数と絶対参照(復習)、グラフの使い分け、基本的なグラフ(値の比較)作成	
第12回	表計算(Excel)④ 総復習【課題③】表計算とグラフの作成	
第13回	PowerPoint① PowerPointの基本操作、簡単なスライド作成(表紙・目次・箇条書き・表)、配色の変更、クリップアートの挿入	

第14回	PowerPoint② スライドへの設定(画面切り替え効果・アニメーションの設定)、スライドショーの実行、配布資料の印刷
第15回	前期総復習・問題解説 マークシートによる前期総合多肢選択式(75問)
	【中級クラス】
第1回	Windows基礎 ID・パスワードの管理方法、学内システム利用について、メディアの取り扱い(USBフラッシュメモリ)、ファイル・フォルダの管理(教材フォルダの利用)
第2回	コースツール・インターネット コースツールの使い方、インターネットの仕組みと情報検索、情報倫理(ネチケツ、SNS利用の注意点)
第3回	Webメール Webメールの使い方(送受信、アドレス帳の登録と利用、メールの検索、メールの整理、添付メール)、データの圧縮・解凍メールのマナー
第4回	学術情報① 情報の種類と特徴の理解、情報の探し方(RUNNERS・NACSISWebcat、各種データベース)、情報の活用と著作権(引用の方法)
第5回	学術情報②【課題①】 総復習(ここまでの内容のまとめ)【課題①】データ検索(メール添付)
第6回	文書作成(Word)① 案内文書の作成(インデント・スタイル設定)タイトル・本文・箇条書き、表、文書の印刷
第7回	文書作成(Word)② ワードアート・クリップアート・画像を利用した文書、図ツールバーを使った画像処理
第8回	文書作成(Word)③【課題②】 総復習【課題②】案内文書の作成
第9回	表計算(Excel)① Excelの基本操作、データ入力(文字データと数値データ、セル参照、四則演算、移動・コピー、範囲選択、消去、保存)、関数を使った計算(SUM、AVERAGE)
第10回	表計算(Excel)② オートフィル機能、関数と絶対参照、表の書式設定(罫線、表示形式、書式設定)、グラフの使い分け
第11回	表計算(Excel)③ 基本的なグラフ(値の比較・比率)の作成、関数応用(RANK、ROUNDDOWN、ROUNDUP)
第12回	表計算(Excel)④ 総復習【課題③】表計算とグラフの作成
第13回	PowerPoint① PowerPointの基本操作、簡単なスライド作成(表紙・目次・箇条書き・表)、配色の変更、クリップアートの挿入
第14回	PowerPoint② スライドへの設定(画面切り替え効果・アニメーションの設定)、スライドショーの実行、配布資料の印刷
第15回	前期総復習・問題解説 マークシートによる前期総合多肢選択式(75問)

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(検証テスト)	100 %	出席点、課題提出状況、小テスト・最終講義日に実施する検証テストによって評価する。
平常点(日常的)	0 %	0

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

- ・3回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。
- ・入門クラス・初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。3クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。
- ・フラッシュメモリーあるいはフロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
- ・宿題を数回、提出してもらう予定。
- ・授業に5分以上遅刻したものは欠席と見なす。

教科書 / Textbooks**書名 / Title****出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment**

Rainbow Guide2006

///

情報活用の基礎

///

参考書 / Reference Books**参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference****その他 / Others**

情報リテラシーII SA

11926

担当者名 / Instructor 森西 真弓

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

【入門】及び【初級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシー I における学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。論文作成、データ処理に不可欠なワードプロセッサ(Word)や表計算(Excel)、ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト(PowerPoint)の使用について確実に実習することで、主体的な学修と研究のためのスキルをより確実なものとする。

【中級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシー I における学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト(PowerPoint)のより高度な使用方法を実習により学修するとともに、ホームページの仕組みについても学ぶことで、主体的な学修と研究のためのスキルの向上と次の段階への展開を図る。

到達目標 / Attainment Objectives

コンピュータの基礎をふまえた上で応用的なスキルを修得し、産業社会学部で学ぶ4年間の学習面での活用ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

情報リテラシーIIIに引き続き、「入門」「初級」「中級」の3グレード制のクラス編成を行う。なお、情報リテラシーIの修得内容をふまえた上で、上位のグレードへの変更のみ希望を受け付ける。情報リテラシーIと同様に、各クラスの学習内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なる。さらなるスキルアップやキャリアにつながるスキル獲得を目指す場合には、情報リテラシーIIIの受講を強く勧める。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	入門・初級クラス	
第1回	プレゼンテーション(PowerPoint①) スライド作成(復習)、表スライド・グラフスライドの作成(復習)、文字と図のバランス(レイアウトを考える、視線の流れを理解する)、ビジュアル化への流れ(表・グラフ・チャート表現方)	
第2回	プレゼンテーション(PowerPoint②) 図形技法(図表ギャラリーの利用、オートシェイプを使った図形描画、レイアウトの調整・グループ化機能)	
第3回	プレゼンテーション(PowerPoint③) カラーリング(配色表現・配色の基本技法、カラーリング技法の注意点)、配布資料の作成(ノートの活用、スライド・配布資料の印刷)	
第4回	プレゼンテーション(PowerPoint④) マスターの設定、高度なアニメーションの設定、発表技法	
第5回	プレゼンテーション(PowerPoint⑤)【課題①】 代表発表、データ回収	
第6回	表計算応用(Excel①) 応用的な関数の利用(IF、COUNT、COUNTIF、SUMIF、IFのネスト)	
第7回	表計算応用(Excel②) グラフ表現(簡単なグラフの復習と複合グラフ)	
第8回	表計算応用(Excel③) 複数シート間の計算(3D集計)、シート間のセル参照(リンク)	
第9回	表計算応用④ Excelデータの活用(Word・PowerPointへの貼り付け)、埋め込みオブジェクト、リンクオブジェクト	
第10回	表計算応用⑤【課題②】 総復習 【課題②】応用的な関数を用いた計算と複合グラフの作成	
第11回	文書作成応用① レポート作成上の注意(表紙やタイトルの記入、引用方法、参考文献の記入方法)、レポート作成に必要な機能(ページ設定、スタイルを使ったタイトル設定、脚注、ページ番号の挿入、傍点、ヘッダー・フッター機能)	
第12回	文書作成応用② レイアウトを考える(段組の利用)、Excelからのデータ利用方法(リンクオブジェクト・埋め込みオブジェクト)、キャプションの設定	
第13回	文書作成応用③ 長文作成機能(見出しの設定・アウトライン番号の設定、段落の入れ替え、目次の作成)	
第14回	文書作成応用④【課題③】 レポート作成	
第15回	前期総復習・問題解説 マークシートによる後期総合多肢選択式(75問)	

中級クラス

第1回	プレゼンテーション(PowerPoint①) 表スライド・グラフスライドの作成(復習)、文字と図のバランス(レイアウトを考える、視線の流れを理解する)、ビジュアル化への流れ(表・グラフ・チャート表現方法)
第2回	プレゼンテーション(PowerPoint②) 図解技法(図表ギャラリーの利用、オートシェイプを使った図形描画方法、レイアウトの調整・グループ化機能)、配布資料の作成(ノートの活用、スライド・配布資料の印刷)
第3回	プレゼンテーション(PowerPoint③) カラーリング(配色表現・配色の基本技法、カラーリング技法の注意点)マスタの設定、高度なアニメーションの設定、発表技法
第4回	プレゼンテーション(PowerPoint④)【課題①】 代表発表データ提出
第5回	表計算応用① 応用的な関数の利用(IF、COUNT、COUNTIF、SUMIF、IFのネスト)
第6回	表計算応用② グラフ表現(簡単なグラフの復習と複合グラフ)
第7回	表計算応用③ 複数シート間の計算(3D集計)、シート間のセル参照(リンク)
第8回	表計算応用④【課題②】 総復習 【課題②】応用的な関数を用いた計算と複合グラフの作成、複数シート間の連携利用
第9回	文書作成応用① レポート作成上の注意点(表紙やタイトルの記入、引用方法、参考文献の記入方法)、レポート作成に必要な機能(ページ設定、スタイルを使ったタイトル設定(復習)、ページ番号の挿入、傍点、ヘッダー・フッター機能)、レイアウトを考える(段組の利用)
第10回	文書作成応用② Excelからのデータ利用(リンクオブジェクト・埋め込みオブジェクト)、Excel表をWordに作る(Excelワークシートの挿入)、キャプションの設定
第11回	文書作成応用③ 長文作成機能(見出しの設定・アウトライン番号の設定、段落の入れ替え、目次の作成)
第12回	文書作成応用④【課題③】 レポート作成
第13回	HTMLでのWeb作成① Webの構造、Web作成での注意事項(ブログとWebページの違い、著作権、肖像権、accessibility・usability)、基本的なWebページ作成(TITLE、見出し、画像、リンク(別ページ・メール))
第14回	HTMLでのWeb作成② カラーコードとは、フリー素材集の利用、復習(オリジナルページを完成させる)
第15回	前期総復習・問題解説 マークシートによる後期総合多肢選択式(75問)

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind 割合 / Percentage 評価基準等 / Grading Criteria etc.

平常点(検証テスト) 100 % 出席点、課題提出状況、小テスト・最終講義日に実施する検証テストによって評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

- ・3回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。
- ・入門クラス・初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。3クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。
- ・フラッシュメモリーあるいはフロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
- ・宿題を数回、提出してもらう予定。
- ・授業に5分以上遅刻したものは欠席と見なす。

教科書 / Textbooks

書名 / Title 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

Rainbow Guide2006

///

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

授業の概要 / Course Outline

【入門】及び【初級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシー I における学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。論文作成、データ処理に不可欠なワードプロセッサ(Word)や表計算(Excel)、ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト(PowerPoint)の使用について確実に実習することで、主体的な学修と研究のためのスキルをより確実なものとする。

【中級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシー I における学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト(PowerPoint)のより高度な使用方法を実習により学修するとともに、ホームページの仕組みについても学ぶことで、主体的な学修と研究のためのスキルの向上と次の段階への展開を図る。

到達目標 / Attainment Objectives

コンピュータの基礎をふまえた上で応用的なスキルを修得し、産業社会学部で学ぶ4年間の学習面での活用ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

情報リテラシーIIIに引き続き、「入門」「初級」「中級」の3グレード制のクラス編成を行う。なお、情報リテラシーIの修得内容をふまえた上で、上位のグレードへの変更のみ希望を受け付ける。情報リテラシーIと同様に、各クラスの学習内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なる。さらなるスキルアップやキャリアにつながるスキル獲得を目指す場合には、情報リテラシーIIIの受講を強く勧める。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	入門・初級クラス	
第1回	プレゼンテーション(PowerPoint①) スライド作成(復習)、表スライド・グラフスライドの作成(復習)、文字と図のバランス(レイアウトを考える、視線の流れを理解する)、ビジュアル化への流れ(表・グラフ・チャート表現方)	
第2回	プレゼンテーション(PowerPoint②) 図形技法(図表ギャラリーの利用、オートシェイプを使った図形描画、レイアウトの調整・グループ化機能)	
第3回	プレゼンテーション(PowerPoint③) カラーリング(配色表現・配色の基本技法、カラーリング技法の注意点)、配布資料の作成(ノートの活用、スライド・配布資料の印刷)	
第4回	プレゼンテーション(PowerPoint④) マスターの設定、高度なアニメーションの設定、発表技法	
第5回	プレゼンテーション(PowerPoint⑤)【課題①】 代表発表、データ回収	
第6回	表計算応用(Excel①) 応用的な関数の利用(IF、COUNT、COUNTIF、SUMIF、IFのネスト)	
第7回	表計算応用(Excel②) グラフ表現(簡単なグラフの復習と複合グラフ)	
第8回	表計算応用(Excel③) 複数シート間の計算(3D集計)、シート間のセル参照(リンク)	
第9回	表計算応用④ Excelデータの活用(Word・PowerPointへの貼り付け)、埋め込みオブジェクト、リンクオブジェクト	
第10回	表計算応用⑤【課題②】 総復習 【課題②】応用的な関数を用いた計算と複合グラフの作成	
第11回	文書作成応用① レポート作成上の注意(表紙やタイトルの記入、引用方法、参考文献の記入方法)、レポート作成に必要な機能(ページ設定、スタイルを使ったタイトル設定、脚注、ページ番号の挿入、傍点、ヘッダー・フッター機能)	
第12回	文書作成応用② レイアウトを考える(段組の利用)、Excelからのデータ利用方法(リンクオブジェクト・埋め込みオブジェクト)、キャプションの設定	
第13回	文書作成応用③ 長文作成機能(見出しの設定・アウトライン番号の設定、段落の入れ替え、目次の作成)	
第14回	文書作成応用④【課題③】 レポート作成	
第15回	前期総復習・問題解説 マークシートによる後期総合多肢選択式(75問)	

中級クラス

第1回	プレゼンテーション(PowerPoint①) 表スライド・グラフスライドの作成(復習)、文字と図のバランス(レイアウトを考える、視線の流れを理解する)、ビジュアル化への流れ(表・グラフ・チャート表現方法)
第2回	プレゼンテーション(PowerPoint②) 図解技法(図表ギャラリーの利用、オートシェイブを使った図形描画方法、レイアウトの調整・グループ化機能)、配布資料の作成(ノートの活用、スライド・配布資料の印刷)
第3回	プレゼンテーション(PowerPoint③) カラーリング(配色表現・配色の基本技法、カラーリング技法の注意点)マスタの設定、高度なアニメーションの設定、発表技法
第4回	プレゼンテーション(PowerPoint④)【課題①】 代表発表データ提出
第5回	表計算応用① 応用的な関数の利用(IF、COUNT、COUNTIF、SUMIF、IFのネスト)
第6回	表計算応用② グラフ表現(簡単なグラフの復習と複合グラフ)
第7回	表計算応用③ 複数シート間の計算(3D集計)、シート間のセル参照(リンク)
第8回	表計算応用④【課題②】 総復習 【課題②】応用的な関数を用いた計算と複合グラフの作成、複数シート間の連携利用
第9回	文書作成応用① レポート作成上の注意点(表紙やタイトルの記入、引用方法、参考文献の記入方法)、レポート作成に必要な機能(ページ設定、スタイルを使ったタイトル設定(復習)、ページ番号の挿入、傍点、ヘッダー・フッター機能)、レイアウトを考える(段組の利用)
第10回	文書作成応用② Excelからのデータ利用(リンクオブジェクト・埋め込みオブジェクト)、Excel表をWordに作る(Excelワークシートの挿入)、キャプションの設定
第11回	文書作成応用③ 長文作成機能(見出しの設定・アウトライン番号の設定、段落の入れ替え、目次の作成)
第12回	文書作成応用④【課題③】 レポート作成
第13回	HTMLでのWeb作成① Webの構造、Web作成での注意事項(ブログとWebページの違い、著作権、肖像権、accessibility・usability)、基本的なWebページ作成(TITLE、見出し、画像、リンク(別ページ・メール))
第14回	HTMLでのWeb作成② カラーコードとは、フリー素材集の利用、復習(オリジナルページを完成させる)
第15回	前期総復習・問題解説 マークシートによる後期総合多肢選択式(75問)

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind 割合 / Percentage 評価基準等 / Grading Criteria etc.

平常点(検証テスト) 100 % 出席点、課題提出状況、小テスト・最終講義日に実施する検証テストによって評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

- ・3回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。
- ・入門クラス・初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。3クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。
- ・フラッシュメモリーあるいはフロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
- ・宿題を数回、提出してもらう予定。
- ・授業に5分以上遅刻したものは欠席と見なす。

教科書 / Textbooks

書名 / Title 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

Rainbow Guide2006

///

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

情報リテラシーII SC

11928

担当者名 / Instructor 森西 真弓

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

【入門】及び【初級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシー I における学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。論文作成、データ処理に不可欠なワードプロセッサ(Word)や表計算(Excel)、ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト(PowerPoint)の使用について確実に実習することで、主体的な学修と研究のためのスキルをより確実なものとする。

【中級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシー I における学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト(PowerPoint)のより高度な使用方法を実習により学修するとともに、ホームページの仕組みについても学ぶことで、主体的な学修と研究のためのスキルの向上と次の段階への展開を図る。

到達目標 / Attainment Objectives

コンピュータの基礎をふまえた上で応用的なスキルを修得し、産業社会学部で学ぶ4年間の学習面での活用ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

情報リテラシーIIIに引き続き、「入門」「初級」「中級」の3グレード制のクラス編成を行う。なお、情報リテラシーIの修得内容をふまえた上で、上位のグレードへの変更のみ希望を受け付ける。情報リテラシーIと同様に、各クラスの学習内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なる。さらなるスキルアップやキャリアにつながるスキル獲得を目指す場合には、情報リテラシーIIIの受講を強く勧める。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	入門・初級クラス	
第1回	プレゼンテーション(PowerPoint①) スライド作成(復習)、表スライド・グラフスライドの作成(復習)、文字と図のバランス(レイアウトを考える、視線の流れを理解する)、ビジュアル化への流れ(表・グラフ・チャート表現方)	
第2回	プレゼンテーション(PowerPoint②) 図形技法(図表ギャラリーの利用、オートシェイプを使った図形描画、レイアウトの調整・グループ化機能)	
第3回	プレゼンテーション(PowerPoint③) カラーリング(配色表現・配色の基本技法、カラーリング技法の注意点)、配布資料の作成(ノートの活用、スライド・配布資料の印刷)	
第4回	プレゼンテーション(PowerPoint④) マスターの設定、高度なアニメーションの設定、発表技法	
第5回	プレゼンテーション(PowerPoint⑤)【課題①】 代表発表、データ回収	
第6回	表計算応用(Excel①) 応用的な関数の利用(IF、COUNT、COUNTIF、SUMIF、IFのネスト)	
第7回	表計算応用(Excel②) グラフ表現(簡単なグラフの復習と複合グラフ)	
第8回	表計算応用(Excel③) 複数シート間の計算(3D集計)、シート間のセル参照(リンク)	
第9回	表計算応用④ Excelデータの活用(Word・PowerPointへの貼り付け)、埋め込みオブジェクト、リンクオブジェクト	
第10回	表計算応用⑤【課題②】 総復習 【課題②】応用的な関数を用いた計算と複合グラフの作成	
第11回	文書作成応用① レポート作成上の注意(表紙やタイトルの記入、引用方法、参考文献の記入方法)、レポート作成に必要な機能(ページ設定、スタイルを使ったタイトル設定、脚注、ページ番号の挿入、傍点、ヘッダー・フッター機能)	
第12回	文書作成応用② レイアウトを考える(段組の利用)、Excelからのデータ利用方法(リンクオブジェクト・埋め込みオブジェクト)、キャプションの設定	
第13回	文書作成応用③ 長文作成機能(見出しの設定・アウトライン番号の設定、段落の入れ替え、目次の作成)	
第14回	文書作成応用④【課題③】 レポート作成	
第15回	前期総復習・問題解説 マークシートによる後期総合多肢選択式(75問)	

中級クラス

第1回	プレゼンテーション(PowerPoint①) 表スライド・グラフスライドの作成(復習)、文字と図のバランス(レイアウトを考える、視線の流れを理解する)、ビジュアル化への流れ(表・グラフ・チャート表現方法)
第2回	プレゼンテーション(PowerPoint②) 図解技法(図表ギャラリーの利用、オートシェイブを使った図形描画方法、レイアウトの調整・グループ化機能)、配布資料の作成(ノートの活用、スライド・配布資料の印刷)
第3回	プレゼンテーション(PowerPoint③) カラーリング(配色表現・配色の基本技法、カラーリング技法の注意点)マスタの設定、高度なアニメーションの設定、発表技法
第4回	プレゼンテーション(PowerPoint④)【課題①】 代表発表データ提出
第5回	表計算応用① 応用的な関数の利用(IF、COUNT、COUNTIF、SUMIF、IFのネスト)
第6回	表計算応用② グラフ表現(簡単なグラフの復習と複合グラフ)
第7回	表計算応用③ 複数シート間の計算(3D集計)、シート間のセル参照(リンク)
第8回	表計算応用④【課題②】 総復習 【課題②】応用的な関数を用いた計算と複合グラフの作成、複数シート間の連携利用
第9回	文書作成応用① レポート作成上の注意点(表紙やタイトルの記入、引用方法、参考文献の記入方法)、レポート作成に必要な機能(ページ設定、スタイルを使ったタイトル設定(復習)、ページ番号の挿入、傍点、ヘッダー・フッター機能)、レイアウトを考える(段組の利用)
第10回	文書作成応用② Excelからのデータ利用(リンクオブジェクト・埋め込みオブジェクト)、Excel表をWordに作る(Excelワークシートの挿入)、キャプションの設定
第11回	文書作成応用③ 長文作成機能(見出しの設定・アウトライン番号の設定、段落の入れ替え、目次の作成)
第12回	文書作成応用④【課題③】 レポート作成
第13回	HTMLでのWeb作成① Webの構造、Web作成での注意事項(ブログとWebページの違い、著作権、肖像権、accessibility・usability)、基本的なWebページ作成(TITLE、見出し、画像、リンク(別ページ・メール))
第14回	HTMLでのWeb作成② カラーコードとは、フリー素材集の利用、復習(オリジナルページを完成させる)
第15回	前期総復習・問題解説 マークシートによる後期総合多肢選択式(75問)

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind 割合 / Percentage 評価基準等 / Grading Criteria etc.

平常点(検証テスト) 100 % 出席点、課題提出状況、小テスト・最終講義日に実施する検証テストによって評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

- ・3回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。
- ・入門クラス・初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。3クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。
- ・フラッシュメモリーあるいはフロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
- ・宿題を数回、提出してもらう予定。
- ・授業に5分以上遅刻したものは欠席と見なす。

教科書 / Textbooks

書名 / Title 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

Rainbow Guide2006

///

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

情報リテラシーII SD

11929

担当者名 / Instructor 森西 真弓

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

【入門】及び【初級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシー I における学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。論文作成、データ処理に不可欠なワードプロセッサ(Word)や表計算(Excel)、ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト(PowerPoint)の使用について確実に実習することで、主体的な学修と研究のためのスキルをより確実なものとする。

【中級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシー I における学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト(PowerPoint)のより高度な使用方法を実習により学修するとともに、ホームページの仕組みについても学ぶことで、主体的な学修と研究のためのスキルの向上と次の段階への展開を図る。

到達目標 / Attainment Objectives

コンピュータの基礎をふまえた上で応用的なスキルを修得し、産業社会学部で学ぶ4年間の学習面での活用ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

情報リテラシーIIIに引き続き、「入門」「初級」「中級」の3グレード制のクラス編成を行う。なお、情報リテラシーIの修得内容をふまえた上で、上位のグレードへの変更のみ希望を受け付ける。情報リテラシーIと同様に、各クラスの学習内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なる。さらなるスキルアップやキャリアにつながるスキル獲得を目指す場合には、情報リテラシーIIIの受講を強く勧める。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	入門・初級クラス	
第1回	プレゼンテーション(PowerPoint①) スライド作成(復習)、表スライド・グラフスライドの作成(復習)、文字と図のバランス(レイアウトを考える、視線の流れを理解する)、ビジュアル化への流れ(表・グラフ・チャート表現方)	
第2回	プレゼンテーション(PowerPoint②) 図形技法(図表ギャラリーの利用、オートシェイプを使った図形描画、レイアウトの調整・グループ化機能)	
第3回	プレゼンテーション(PowerPoint③) カラーリング(配色表現・配色の基本技法、カラーリング技法の注意点)、配布資料の作成(ノートの活用、スライド・配布資料の印刷)	
第4回	プレゼンテーション(PowerPoint④) マスターの設定、高度なアニメーションの設定、発表技法	
第5回	プレゼンテーション(PowerPoint⑤)【課題①】 代表発表、データ回収	
第6回	表計算応用(Excel①) 応用的な関数の利用(IF、COUNT、COUNTIF、SUMIF、IFのネスト)	
第7回	表計算応用(Excel②) グラフ表現(簡単なグラフの復習と複合グラフ)	
第8回	表計算応用(Excel③) 複数シート間の計算(3D集計)、シート間のセル参照(リンク)	
第9回	表計算応用④ Excelデータの活用(Word・PowerPointへの貼り付け)、埋め込みオブジェクト、リンクオブジェクト	
第10回	表計算応用⑤【課題②】 総復習 【課題②】応用的な関数を用いた計算と複合グラフの作成	
第11回	文書作成応用① レポート作成上の注意(表紙やタイトルの記入、引用方法、参考文献の記入方法)、レポート作成に必要な機能(ページ設定、スタイルを使ったタイトル設定、脚注、ページ番号の挿入、傍点、ヘッダー・フッター機能)	
第12回	文書作成応用② レイアウトを考える(段組の利用)、Excelからのデータ利用方法(リンクオブジェクト・埋め込みオブジェクト)、キャプションの設定	
第13回	文書作成応用③ 長文作成機能(見出しの設定・アウトライン番号の設定、段落の入れ替え、目次の作成)	
第14回	文書作成応用④【課題③】 レポート作成	
第15回	前期総復習・問題解説 マークシートによる後期総合多肢選択式(75問)	

中級クラス

第1回	プレゼンテーション(PowerPoint①) 表スライド・グラフスライドの作成(復習)、文字と図のバランス(レイアウトを考える、視線の流れを理解する)、ビジュアル化への流れ(表・グラフ・チャート表現方法)
第2回	プレゼンテーション(PowerPoint②) 図解技法(図表ギャラリーの利用、オートシェイブを使った図形描画方法、レイアウトの調整・グループ化機能)、配布資料の作成(ノートの活用、スライド・配布資料の印刷)
第3回	プレゼンテーション(PowerPoint③) カラーリング(配色表現・配色の基本技法、カラーリング技法の注意点)マスタの設定、高度なアニメーションの設定、発表技法
第4回	プレゼンテーション(PowerPoint④)【課題①】 代表発表データ提出
第5回	表計算応用① 応用的な関数の利用(IF、COUNT、COUNTIF、SUMIF、IFのネスト)
第6回	表計算応用② グラフ表現(簡単なグラフの復習と複合グラフ)
第7回	表計算応用③ 複数シート間の計算(3D集計)、シート間のセル参照(リンク)
第8回	表計算応用④【課題②】 総復習 【課題②】応用的な関数を用いた計算と複合グラフの作成、複数シート間の連携利用
第9回	文書作成応用① レポート作成上の注意点(表紙やタイトルの記入、引用方法、参考文献の記入方法)、レポート作成に必要な機能(ページ設定、スタイルを使ったタイトル設定(復習)、ページ番号の挿入、傍点、ヘッダー・フッター機能)、レイアウトを考える(段組の利用)
第10回	文書作成応用② Excelからのデータ利用(リンクオブジェクト・埋め込みオブジェクト)、Excel表をWordに作る(Excelワークシートの挿入)、キャプションの設定
第11回	文書作成応用③ 長文作成機能(見出しの設定・アウトライン番号の設定、段落の入れ替え、目次の作成)
第12回	文書作成応用④【課題③】 レポート作成
第13回	HTMLでのWeb作成① Webの構造、Web作成での注意事項(ブログとWebページの違い、著作権、肖像権、accessibility・usability)、基本的なWebページ作成(TITLE、見出し、画像、リンク(別ページ・メール))
第14回	HTMLでのWeb作成② カラーコードとは、フリー素材集の利用、復習(オリジナルページを完成させる)
第15回	前期総復習・問題解説 マークシートによる後期総合多肢選択式(75問)

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind 割合 / Percentage 評価基準等 / Grading Criteria etc.

平常点(検証テスト) 100 % 出席点、課題提出状況、小テスト・最終講義日に実施する検証テストによって評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

- ・3回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の 対象とならない。
- ・入門クラス・初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。3クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。
- ・フラッシュメモリーあるいはフロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておく こと。
- ・宿題を数回、提出してもらう予定。
- ・授業に5分以上遅刻したものは欠席と見なす。

教科書 / Textbooks

書名 / Title 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

Rainbow Guide2006

///

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

情報リテラシーII SE

11930

担当者名 / Instructor 杉本 通百則

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

【入門】及び【初級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシー I における学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。論文作成、データ処理に不可欠なワードプロセッサ(Word)や表計算(Excel)、ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト(PowerPoint)の使用について確実に実習することで、主体的な学修と研究のためのスキルをより確実なものとする。

【中級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシー I における学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト(PowerPoint)のより高度な使用方法を実習により学修するとともに、ホームページの仕組みについても学ぶことで、主体的な学修と研究のためのスキルの向上と次の段階への展開を図る。

到達目標 / Attainment Objectives

コンピュータの基礎をふまえた上で応用的なスキルを修得し、産業社会学部で学ぶ4年間の学習面での活用ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

情報リテラシーIIIに引き続き、「入門」「初級」「中級」の3グレード制のクラス編成を行う。なお、情報リテラシーIの修得内容をふまえた上で、上位のグレードへの変更のみ希望を受け付ける。情報リテラシーIと同様に、各クラスの学習内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なる。さらなるスキルアップやキャリアにつながるスキル獲得を目指す場合には、情報リテラシーIIIの受講を強く勧める。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	入門・初級クラス	
第1回	プレゼンテーション(PowerPoint①) スライド作成(復習)、表スライド・グラフスライドの作成(復習)、文字と図のバランス(レイアウトを考える、視線の流れを理解する)、ビジュアル化への流れ(表・グラフ・チャート表現方)	
第2回	プレゼンテーション(PowerPoint②) 図形技法(図表ギャラリーの利用、オートシェイプを使った図形描画、レイアウトの調整・グループ化機能)	
第3回	プレゼンテーション(PowerPoint③) カラーリング(配色表現・配色の基本技法、カラーリング技法の注意点)、配布資料の作成(ノートの活用、スライド・配布資料の印刷)	
第4回	プレゼンテーション(PowerPoint④) マスターの設定、高度なアニメーションの設定、発表技法	
第5回	プレゼンテーション(PowerPoint⑤)【課題①】 代表発表、データ回収	
第6回	表計算応用(Excel①) 応用的な関数の利用(IF、COUNT、COUNTIF、SUMIF、IFのネスト)	
第7回	表計算応用(Excel②) グラフ表現(簡単なグラフの復習と複合グラフ)	
第8回	表計算応用(Excel③) 複数シート間の計算(3D集計)、シート間のセル参照(リンク)	
第9回	表計算応用④ Excelデータの活用(Word・PowerPointへの貼り付け)、埋め込みオブジェクト、リンクオブジェクト	
第10回	表計算応用⑤【課題②】 総復習 【課題②】応用的な関数を用いた計算と複合グラフの作成	
第11回	文書作成応用① レポート作成上の注意(表紙やタイトルの記入、引用方法、参考文献の記入方法)、レポート作成に必要な機能(ページ設定、スタイルを使ったタイトル設定、脚注、ページ番号の挿入、傍点、ヘッダー・フッター機能)	
第12回	文書作成応用② レイアウトを考える(段組の利用)、Excelからのデータ利用方法(リンクオブジェクト・埋め込みオブジェクト)、キャプションの設定	
第13回	文書作成応用③ 長文作成機能(見出しの設定・アウトライン番号の設定、段落の入れ替え、目次の作成)	
第14回	文書作成応用④【課題③】 レポート作成	
第15回	前期総復習・問題解説 マークシートによる後期総合多肢選択式(75問)	

中級クラス

第1回	プレゼンテーション(PowerPoint①) 表スライド・グラフスライドの作成(復習)、文字と図のバランス(レイアウトを考える、視線の流れを理解する)、ビジュアル化への流れ(表・グラフ・チャート表現方法)
第2回	プレゼンテーション(PowerPoint②) 図解技法(図表ギャラリーの利用、オートシェイブを使った図形描画方法、レイアウトの調整・グループ化機能)、配布資料の作成(ノートの活用、スライド・配布資料の印刷)
第3回	プレゼンテーション(PowerPoint③) カラーリング(配色表現・配色の基本技法、カラーリング技法の注意点)マスタの設定、高度なアニメーションの設定、発表技法
第4回	プレゼンテーション(PowerPoint④)【課題①】 代表発表データ提出
第5回	表計算応用① 応用的な関数の利用(IF、COUNT、COUNTIF、SUMIF、IFのネスト)
第6回	表計算応用② グラフ表現(簡単なグラフの復習と複合グラフ)
第7回	表計算応用③ 複数シート間の計算(3D集計)、シート間のセル参照(リンク)
第8回	表計算応用④【課題②】 総復習 【課題②】応用的な関数を用いた計算と複合グラフの作成、複数シート間の連携利用
第9回	文書作成応用① レポート作成上の注意点(表紙やタイトルの記入、引用方法、参考文献の記入方法)、レポート作成に必要な機能(ページ設定、スタイルを使ったタイトル設定(復習)、ページ番号の挿入、傍点、ヘッダー・フッター機能)、レイアウトを考える(段組の利用)
第10回	文書作成応用② Excelからのデータ利用(リンクオブジェクト・埋め込みオブジェクト)、Excel表をWordに作る(Excelワークシートの挿入)、キャプションの設定
第11回	文書作成応用③ 長文作成機能(見出しの設定・アウトライン番号の設定、段落の入れ替え、目次の作成)
第12回	文書作成応用④【課題③】 レポート作成
第13回	HTMLでのWeb作成① Webの構造、Web作成での注意事項(ブログとWebページの違い、著作権、肖像権、accessibility・usability)、基本的なWebページ作成(TITLE、見出し、画像、リンク(別ページ・メール))
第14回	HTMLでのWeb作成② カラーコードとは、フリー素材集の利用、復習(オリジナルページを完成させる)
第15回	前期総復習・問題解説 マークシートによる後期総合多肢選択式(75問)

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(検証テスト)	100 %	出席点、課題提出状況、小テスト・最終講義日に実施する検証テストによって評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

- ・3回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の 対象とならない。
- ・入門クラス・初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。3クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。
- ・フラッシュメモリーあるいはフロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておく こと。
- ・宿題を数回、提出してもらう予定。
- ・授業に5分以上遅刻したものは欠席と見なす。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
Rainbow Guide2006	///

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

情報リテラシーII SF

11931

担当者名 / Instructor 杉本 通百則

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

【入門】及び【初級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシー I における学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。論文作成、データ処理に不可欠なワードプロセッサ(Word)や表計算(Excel)、ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト(PowerPoint)の使用について確実に実習することで、主体的な学修と研究のためのスキルをより確実なものとする。

【中級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシー I における学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト(PowerPoint)のより高度な使用方法を実習により学修するとともに、ホームページの仕組みについても学ぶことで、主体的な学修と研究のためのスキルの向上と次の段階への展開を図る。

到達目標 / Attainment Objectives

コンピュータの基礎をふまえた上で応用的なスキルを修得し、産業社会学部で学ぶ4年間の学習面での活用ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

情報リテラシーIIIに引き続き、「入門」「初級」「中級」の3グレード制のクラス編成を行う。なお、情報リテラシーIの修得内容をふまえた上で、上位のグレードへの変更のみ希望を受け付ける。情報リテラシーIと同様に、各クラスの学習内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なる。さらなるスキルアップやキャリアにつながるスキル獲得を目指す場合には、情報リテラシーIIIの受講を強く勧める。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	入門・初級クラス	
第1回	プレゼンテーション(PowerPoint①) スライド作成(復習)、表スライド・グラフスライドの作成(復習)、文字と図のバランス(レイアウトを考える、視線の流れを理解する)、ビジュアル化への流れ(表・グラフ・チャート表現方)	
第2回	プレゼンテーション(PowerPoint②) 図形技法(図表ギャラリーの利用、オートシェイプを使った図形描画、レイアウトの調整・グループ化機能)	
第3回	プレゼンテーション(PowerPoint③) カラーリング(配色表現・配色の基本技法、カラーリング技法の注意点)、配布資料の作成(ノートの活用、スライド・配布資料の印刷)	
第4回	プレゼンテーション(PowerPoint④) マスターの設定、高度なアニメーションの設定、発表技法	
第5回	プレゼンテーション(PowerPoint⑤)【課題①】 代表発表、データ回収	
第6回	表計算応用(Excel①) 応用的な関数の利用(IF、COUNT、COUNTIF、SUMIF、IFのネスト)	
第7回	表計算応用(Excel②) グラフ表現(簡単なグラフの復習と複合グラフ)	
第8回	表計算応用(Excel③) 複数シート間の計算(3D集計)、シート間のセル参照(リンク)	
第9回	表計算応用④ Excelデータの活用(Word・PowerPointへの貼り付け)、埋め込みオブジェクト、リンクオブジェクト	
第10回	表計算応用⑤【課題②】 総復習 【課題②】応用的な関数を用いた計算と複合グラフの作成	
第11回	文書作成応用① レポート作成上の注意(表紙やタイトルの記入、引用方法、参考文献の記入方法)、レポート作成に必要な機能(ページ設定、スタイルを使ったタイトル設定、脚注、ページ番号の挿入、傍点、ヘッダー・フッター機能)	
第12回	文書作成応用② レイアウトを考える(段組の利用)、Excelからのデータ利用方法(リンクオブジェクト・埋め込みオブジェクト)、キャプションの設定	
第13回	文書作成応用③ 長文作成機能(見出しの設定・アウトライン番号の設定、段落の入れ替え、目次の作成)	
第14回	文書作成応用④【課題③】 レポート作成	
第15回	前期総復習・問題解説 マークシートによる後期総合多肢選択式(75問)	

中級クラス

第1回	プレゼンテーション(PowerPoint①) 表スライド・グラフスライドの作成(復習)、文字と図のバランス(レイアウトを考える、視線の流れを理解する)、ビジュアル化への流れ(表・グラフ・チャート表現方法)
第2回	プレゼンテーション(PowerPoint②) 図解技法(図表ギャラリーの利用、オートシェイブを使った図形描画方法、レイアウトの調整・グループ化機能)、配布資料の作成(ノートの活用、スライド・配布資料の印刷)
第3回	プレゼンテーション(PowerPoint③) カラーリング(配色表現・配色の基本技法、カラーリング技法の注意点)マスタの設定、高度なアニメーションの設定、発表技法
第4回	プレゼンテーション(PowerPoint④)【課題①】 代表発表データ提出
第5回	表計算応用① 応用的な関数の利用(IF、COUNT、COUNTIF、SUMIF、IFのネスト)
第6回	表計算応用② グラフ表現(簡単なグラフの復習と複合グラフ)
第7回	表計算応用③ 複数シート間の計算(3D集計)、シート間のセル参照(リンク)
第8回	表計算応用④【課題②】 総復習 【課題②】応用的な関数を用いた計算と複合グラフの作成、複数シート間の連携利用
第9回	文書作成応用① レポート作成上の注意点(表紙やタイトルの記入、引用方法、参考文献の記入方法)、レポート作成に必要な機能(ページ設定、スタイルを使ったタイトル設定(復習)、ページ番号の挿入、傍点、ヘッダー・フッター機能)、レイアウトを考える(段組の利用)
第10回	文書作成応用② Excelからのデータ利用(リンクオブジェクト・埋め込みオブジェクト)、Excel表をWordに作る(Excelワークシートの挿入)、キャプションの設定
第11回	文書作成応用③ 長文作成機能(見出しの設定・アウトライン番号の設定、段落の入れ替え、目次の作成)
第12回	文書作成応用④【課題③】 レポート作成
第13回	HTMLでのWeb作成① Webの構造、Web作成での注意事項(ブログとWebページの違い、著作権、肖像権、accessibility・usability)、基本的なWebページ作成(TITLE、見出し、画像、リンク(別ページ・メール))
第14回	HTMLでのWeb作成② カラーコードとは、フリー素材集の利用、復習(オリジナルページを完成させる)
第15回	前期総復習・問題解説 マークシートによる後期総合多肢選択式(75問)

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(検証テスト)	100 %	出席点、課題提出状況、小テスト・最終講義日に実施する検証テストによって評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

- ・3回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。
- ・入門クラス・初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。3クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。
- ・フラッシュメモリーあるいはフロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
- ・宿題を数回、提出してもらう予定。
- ・授業に5分以上遅刻したものは欠席と見なす。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
Rainbow Guide2006	///

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

情報リテラシーII SG

11932

担当者名 / Instructor 杉本 通百則

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

【入門】及び【初級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシー I における学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。論文作成、データ処理に不可欠なワードプロセッサ(Word)や表計算(Excel)、ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト(PowerPoint)の使用について確実に実習することで、主体的な学修と研究のためのスキルをより確実なものとする。

【中級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシー I における学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト(PowerPoint)のより高度な使用方法を実習により学修するとともに、ホームページの仕組みについても学ぶことで、主体的な学修と研究のためのスキルの向上と次の段階への展開を図る。

到達目標 / Attainment Objectives

コンピュータの基礎をふまえた上で応用的なスキルを修得し、産業社会学部で学ぶ4年間の学習面での活用ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

情報リテラシーIIIに引き続き、「入門」「初級」「中級」の3グレード制のクラス編成を行う。なお、情報リテラシーIの修得内容をふまえた上で、上位のグレードへの変更のみ希望を受け付ける。情報リテラシーIと同様に、各クラスの学習内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なる。さらなるスキルアップやキャリアにつながるスキル獲得を目指す場合には、情報リテラシーIIIの受講を強く勧める。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	入門・初級クラス	
第1回	プレゼンテーション(PowerPoint①) スライド作成(復習)、表スライド・グラフスライドの作成(復習)、文字と図のバランス(レイアウトを考える、視線の流れを理解する)、ビジュアル化への流れ(表・グラフ・チャート表現方)	
第2回	プレゼンテーション(PowerPoint②) 図形技法(図表ギャラリーの利用、オートシェイプを使った図形描画、レイアウトの調整・グループ化機能)	
第3回	プレゼンテーション(PowerPoint③) カラーリング(配色表現・配色の基本技法、カラーリング技法の注意点)、配布資料の作成(ノートの活用、スライド・配布資料の印刷)	
第4回	プレゼンテーション(PowerPoint④) マスターの設定、高度なアニメーションの設定、発表技法	
第5回	プレゼンテーション(PowerPoint⑤)【課題①】 代表発表、データ回収	
第6回	表計算応用(Excel①) 応用的な関数の利用(IF、COUNT、COUNTIF、SUMIF、IFのネスト)	
第7回	表計算応用(Excel②) グラフ表現(簡単なグラフの復習と複合グラフ)	
第8回	表計算応用(Excel③) 複数シート間の計算(3D集計)、シート間のセル参照(リンク)	
第9回	表計算応用④ Excelデータの活用(Word・PowerPointへの貼り付け)、埋め込みオブジェクト、リンクオブジェクト	
第10回	表計算応用⑤【課題②】 総復習 【課題②】応用的な関数を用いた計算と複合グラフの作成	
第11回	文書作成応用① レポート作成上の注意(表紙やタイトルの記入、引用方法、参考文献の記入方法)、レポート作成に必要な機能(ページ設定、スタイルを使ったタイトル設定、脚注、ページ番号の挿入、傍点、ヘッダー・フッター機能)	
第12回	文書作成応用② レイアウトを考える(段組の利用)、Excelからのデータ利用方法(リンクオブジェクト・埋め込みオブジェクト)、キャプションの設定	
第13回	文書作成応用③ 長文作成機能(見出しの設定・アウトライン番号の設定、段落の入れ替え、目次の作成)	
第14回	文書作成応用④【課題③】 レポート作成	
第15回	前期総復習・問題解説 マークシートによる後期総合多肢選択式(75問)	

中級クラス

第1回	プレゼンテーション(PowerPoint①) 表スライド・グラフスライドの作成(復習)、文字と図のバランス(レイアウトを考える、視線の流れを理解する)、ビジュアル化への流れ(表・グラフ・チャート表現方法)
第2回	プレゼンテーション(PowerPoint②) 図解技法(図表ギャラリーの利用、オートシェイブを使った図形描画方法、レイアウトの調整・グループ化機能)、配布資料の作成(ノートの活用、スライド・配布資料の印刷)
第3回	プレゼンテーション(PowerPoint③) カラーリング(配色表現・配色の基本技法、カラーリング技法の注意点)マスタの設定、高度なアニメーションの設定、発表技法
第4回	プレゼンテーション(PowerPoint④)【課題①】 代表発表データ提出
第5回	表計算応用① 応用的な関数の利用(IF、COUNT、COUNTIF、SUMIF、IFのネスト)
第6回	表計算応用② グラフ表現(簡単なグラフの復習と複合グラフ)
第7回	表計算応用③ 複数シート間の計算(3D集計)、シート間のセル参照(リンク)
第8回	表計算応用④【課題②】 総復習 【課題②】応用的な関数を用いた計算と複合グラフの作成、複数シート間の連携利用
第9回	文書作成応用① レポート作成上の注意点(表紙やタイトルの記入、引用方法、参考文献の記入方法)、レポート作成に必要な機能(ページ設定、スタイルを使ったタイトル設定(復習)、ページ番号の挿入、傍点、ヘッダー・フッター機能)、レイアウトを考える(段組の利用)
第10回	文書作成応用② Excelからのデータ利用(リンクオブジェクト・埋め込みオブジェクト)、Excel表をWordに作る(Excelワークシートの挿入)、キャプションの設定
第11回	文書作成応用③ 長文作成機能(見出しの設定・アウトライン番号の設定、段落の入れ替え、目次の作成)
第12回	文書作成応用④【課題③】 レポート作成
第13回	HTMLでのWeb作成① Webの構造、Web作成での注意事項(ブログとWebページの違い、著作権、肖像権、accessibility・usability)、基本的なWebページ作成(TITLE、見出し、画像、リンク(別ページ・メール))
第14回	HTMLでのWeb作成② カラーコードとは、フリー素材集の利用、復習(オリジナルページを完成させる)
第15回	前期総復習・問題解説 マークシートによる後期総合多肢選択式(75問)

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind 割合 / Percentage 評価基準等 / Grading Criteria etc.

平常点(検証テスト) 100 % 出席点、課題提出状況、小テスト・最終講義日に実施する検証テストによって評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

- ・3回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。
- ・入門クラス・初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。3クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。
- ・フラッシュメモリーあるいはフロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
- ・宿題を数回、提出してもらう予定。
- ・授業に5分以上遅刻したものは欠席と見なす。

教科書 / Textbooks

書名 / Title 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

Rainbow Guide2006

///

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

担当者名 / Instructor 杉本 通百則

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

【入門】及び【初級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシー I における学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。論文作成、データ処理に不可欠なワードプロセッサ(Word)や表計算(Excel)、ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト(PowerPoint)の使用について確実に実習することで、主体的な学修と研究のためのスキルをより確実なものとする。

【中級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシー I における学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト(PowerPoint)のより高度な使用方法を実習により学修するとともに、ホームページの仕組みについても学ぶことで、主体的な学修と研究のためのスキルの向上と次の段階への展開を図る。

到達目標 / Attainment Objectives

コンピュータの基礎をふまえた上で応用的なスキルを修得し、産業社会学部で学ぶ4年間の学習面での活用ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

情報リテラシーIIIに引き続き、「入門」「初級」「中級」の3グレード制のクラス編成を行う。なお、情報リテラシーIの修得内容をふまえた上で、上位のグレードへの変更のみ希望を受け付ける。情報リテラシーIと同様に、各クラスの学習内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なる。さらなるスキルアップやキャリアにつながるスキル獲得を目指す場合には、情報リテラシーIIIの受講を強く勧める。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	入門・初級クラス	
第1回	プレゼンテーション(PowerPoint①) スライド作成(復習)、表スライド・グラフスライドの作成(復習)、文字と図のバランス(レイアウトを考える、視線の流れを理解する)、ビジュアル化への流れ(表・グラフ・チャート表現方)	
第2回	プレゼンテーション(PowerPoint②) 図形技法(図表ギャラリーの利用、オートシェイプを使った図形描画、レイアウトの調整・グループ化機能)	
第3回	プレゼンテーション(PowerPoint③) カラーリング(配色表現・配色の基本技法、カラーリング技法の注意点)、配布資料の作成(ノートの活用、スライド・配布資料の印刷)	
第4回	プレゼンテーション(PowerPoint④) マスターの設定、高度なアニメーションの設定、発表技法	
第5回	プレゼンテーション(PowerPoint⑤)【課題①】 代表発表、データ回収	
第6回	表計算応用(Excel①) 応用的な関数の利用(IF、COUNT、COUNTIF、SUMIF、IFのネスト)	
第7回	表計算応用(Excel②) グラフ表現(簡単なグラフの復習と複合グラフ)	
第8回	表計算応用(Excel③) 複数シート間の計算(3D集計)、シート間のセル参照(リンク)	
第9回	表計算応用④ Excelデータの活用(Word・PowerPointへの貼り付け)、埋め込みオブジェクト、リンクオブジェクト	
第10回	表計算応用⑤【課題②】 総復習 【課題②】応用的な関数を用いた計算と複合グラフの作成	
第11回	文書作成応用① レポート作成上の注意(表紙やタイトルの記入、引用方法、参考文献の記入方法)、レポート作成に必要な機能(ページ設定、スタイルを使ったタイトル設定、脚注、ページ番号の挿入、傍点、ヘッダー・フッター機能)	
第12回	文書作成応用② レイアウトを考える(段組の利用)、Excelからのデータ利用方法(リンクオブジェクト・埋め込みオブジェクト)、キャプションの設定	
第13回	文書作成応用③ 長文作成機能(見出しの設定・アウトライン番号の設定、段落の入れ替え、目次の作成)	
第14回	文書作成応用④【課題③】 レポート作成	
第15回	前期総復習・問題解説 マークシートによる後期総合多肢選択式(75問)	

中級クラス

第1回	プレゼンテーション(PowerPoint①) 表スライド・グラフスライドの作成(復習)、文字と図のバランス(レイアウトを考える、視線の流れを理解する)、ビジュアル化への流れ(表・グラフ・チャート表現方法)
第2回	プレゼンテーション(PowerPoint②) 図解技法(図表ギャラリーの利用、オートシェイブを使った図形描画方法、レイアウトの調整・グループ化機能)、配布資料の作成(ノートの活用、スライド・配布資料の印刷)
第3回	プレゼンテーション(PowerPoint③) カラーリング(配色表現・配色の基本技法、カラーリング技法の注意点)マスタの設定、高度なアニメーションの設定、発表技法
第4回	プレゼンテーション(PowerPoint④)【課題①】 代表発表データ提出
第5回	表計算応用① 応用的な関数の利用(IF、COUNT、COUNTIF、SUMIF、IFのネスト)
第6回	表計算応用② グラフ表現(簡単なグラフの復習と複合グラフ)
第7回	表計算応用③ 複数シート間の計算(3D集計)、シート間のセル参照(リンク)
第8回	表計算応用④【課題②】 総復習 【課題②】応用的な関数を用いた計算と複合グラフの作成、複数シート間の連携利用
第9回	文書作成応用① レポート作成上の注意点(表紙やタイトルの記入、引用方法、参考文献の記入方法)、レポート作成に必要な機能(ページ設定、スタイルを使ったタイトル設定(復習)、ページ番号の挿入、傍点、ヘッダー・フッター機能)、レイアウトを考える(段組の利用)
第10回	文書作成応用② Excelからのデータ利用(リンクオブジェクト・埋め込みオブジェクト)、Excel表をWordに作る(Excelワークシートの挿入)、キャプションの設定
第11回	文書作成応用③ 長文作成機能(見出しの設定・アウトライン番号の設定、段落の入れ替え、目次の作成)
第12回	文書作成応用④【課題③】 レポート作成
第13回	HTMLでのWeb作成① Webの構造、Web作成での注意事項(ブログとWebページの違い、著作権、肖像権、accessibility・usability)、基本的なWebページ作成(TITLE、見出し、画像、リンク(別ページ・メール))
第14回	HTMLでのWeb作成② カラーコードとは、フリー素材集の利用、復習(オリジナルページを完成させる)
第15回	前期総復習・問題解説 マークシートによる後期総合多肢選択式(75問)

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind 割合 / Percentage 評価基準等 / Grading Criteria etc.

平常点(検証テスト) 100 % 出席点、課題提出状況、小テスト・最終講義日に実施する検証テストによって評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

- ・3回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。
- ・入門クラス・初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。3クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。
- ・フラッシュメモリーあるいはフロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
- ・宿題を数回、提出してもらう予定。
- ・授業に5分以上遅刻したものは欠席と見なす。

教科書 / Textbooks

書名 / Title 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

Rainbow Guide2006

///

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

情報リテラシーII SI

11944

担当者名 / Instructor 坂田 謙司

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

【入門】及び【初級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシー I における学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。論文作成、データ処理に不可欠なワードプロセッサ(Word)や表計算(Excel)、ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト(PowerPoint)の使用について確実に実習することで、主体的な学修と研究のためのスキルをより確実なものとする。

【中級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシー I における学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト(PowerPoint)のより高度な使用方法を実習により学修するとともに、ホームページの仕組みについても学ぶことで、主体的な学修と研究のためのスキルの向上と次の段階への展開を図る。

到達目標 / Attainment Objectives

コンピュータの基礎をふまえた上で応用的なスキルを修得し、産業社会学部で学ぶ4年間の学習面での活用ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

情報リテラシーIIIに引き続き、「入門」「初級」「中級」の3グレード制のクラス編成を行う。なお、情報リテラシーIの修得内容をふまえた上で、上位のグレードへの変更のみ希望を受け付ける。情報リテラシーIと同様に、各クラスの学習内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なる。さらなるスキルアップやキャリアにつながるスキル獲得を目指す場合には、情報リテラシーIIIの受講を強く勧める。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	入門・初級クラス	
第1回	プレゼンテーション(PowerPoint①) スライド作成(復習)、表スライド・グラフスライドの作成(復習)、文字と図のバランス(レイアウトを考える、視線の流れを理解する)、ビジュアル化への流れ(表・グラフ・チャート表現方)	
第2回	プレゼンテーション(PowerPoint②) 図形技法(図表ギャラリーの利用、オートシェイプを使った図形描画、レイアウトの調整・グループ化機能)	
第3回	プレゼンテーション(PowerPoint③) カラーリング(配色表現・配色の基本技法、カラーリング技法の注意点)、配布資料の作成(ノートの活用、スライド・配布資料の印刷)	
第4回	プレゼンテーション(PowerPoint④) マスターの設定、高度なアニメーションの設定、発表技法	
第5回	プレゼンテーション(PowerPoint⑤)【課題①】 代表発表、データ回収	
第6回	表計算応用(Excel①) 応用的な関数の利用(IF、COUNT、COUNTIF、SUMIF、IFのネスト)	
第7回	表計算応用(Excel②) グラフ表現(簡単なグラフの復習と複合グラフ)	
第8回	表計算応用(Excel③) 複数シート間の計算(3D集計)、シート間のセル参照(リンク)	
第9回	表計算応用④ Excelデータの活用(Word・PowerPointへの貼り付け)、埋め込みオブジェクト、リンクオブジェクト	
第10回	表計算応用⑤【課題②】 総復習 【課題②】応用的な関数を用いた計算と複合グラフの作成	
第11回	文書作成応用① レポート作成上の注意(表紙やタイトルの記入、引用方法、参考文献の記入方法)、レポート作成に必要な機能(ページ設定、スタイルを使ったタイトル設定、脚注、ページ番号の挿入、傍点、ヘッダー・フッター機能)	
第12回	文書作成応用② レイアウトを考える(段組の利用)、Excelからのデータ利用方法(リンクオブジェクト・埋め込みオブジェクト)、キャプションの設定	
第13回	文書作成応用③ 長文作成機能(見出しの設定・アウトライン番号の設定、段落の入れ替え、目次の作成)	
第14回	文書作成応用④【課題③】 レポート作成	
第15回	前期総復習・問題解説 マークシートによる後期総合多肢選択式(75問)	

中級クラス

第1回	プレゼンテーション(PowerPoint①) 表スライド・グラフスライドの作成(復習)、文字と図のバランス(レイアウトを考える、視線の流れを理解する)、ビジュアル化への流れ(表・グラフ・チャート表現方法)
第2回	プレゼンテーション(PowerPoint②) 図解技法(図表ギャラリーの利用、オートシェイブを使った図形描画方法、レイアウトの調整・グループ化機能)、配布資料の作成(ノートの活用、スライド・配布資料の印刷)
第3回	プレゼンテーション(PowerPoint③) カラーリング(配色表現・配色の基本技法、カラーリング技法の注意点)マスタの設定、高度なアニメーションの設定、発表技法
第4回	プレゼンテーション(PowerPoint④)【課題①】 代表発表データ提出
第5回	表計算応用① 応用的な関数の利用(IF、COUNT、COUNTIF、SUMIF、IFのネスト)
第6回	表計算応用② グラフ表現(簡単なグラフの復習と複合グラフ)
第7回	表計算応用③ 複数シート間の計算(3D集計)、シート間のセル参照(リンク)
第8回	表計算応用④【課題②】 総復習 【課題②】応用的な関数を用いた計算と複合グラフの作成、複数シート間の連携利用
第9回	文書作成応用① レポート作成上の注意点(表紙やタイトルの記入、引用方法、参考文献の記入方法)、レポート作成に必要な機能(ページ設定、スタイルを使ったタイトル設定(復習)、ページ番号の挿入、傍点、ヘッダー・フッター機能)、レイアウトを考える(段組の利用)
第10回	文書作成応用② Excelからのデータ利用(リンクオブジェクト・埋め込みオブジェクト)、Excel表をWordに作る(Excelワークシートの挿入)、キャプションの設定
第11回	文書作成応用③ 長文作成機能(見出しの設定・アウトライン番号の設定、段落の入れ替え、目次の作成)
第12回	文書作成応用④【課題③】 レポート作成
第13回	HTMLでのWeb作成① Webの構造、Web作成での注意事項(ブログとWebページの違い、著作権、肖像権、accessibility・usability)、基本的なWebページ作成(TITLE、見出し、画像、リンク(別ページ・メール))
第14回	HTMLでのWeb作成② カラーコードとは、フリー素材集の利用、復習(オリジナルページを完成させる)
第15回	前期総復習・問題解説 マークシートによる後期総合多肢選択式(75問)

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind 割合 / Percentage 評価基準等 / Grading Criteria etc.

平常点(検証テスト) 100 % 出席点、課題提出状況、小テスト・最終講義日に実施する検証テストによって評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

- ・3回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。
- ・入門クラス・初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。3クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。
- ・フラッシュメモリーあるいはフロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
- ・宿題を数回、提出してもらう予定。
- ・授業に5分以上遅刻したものは欠席と見なす。

教科書 / Textbooks

書名 / Title 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

Rainbow Guide2006

///

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

担当者名 / Instructor 坂田 謙司

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

【入門】及び【初級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシー I における学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。論文作成、データ処理に不可欠なワードプロセッサ(Word)や表計算(Excel)、ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト(PowerPoint)の使用について確実に実習することで、主体的な学修と研究のためのスキルをより確実なものとする。

【中級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシー I における学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト(PowerPoint)のより高度な使用方法を実習により学修するとともに、ホームページの仕組みについても学ぶことで、主体的な学修と研究のためのスキルの向上と次の段階への展開を図る。

到達目標 / Attainment Objectives

コンピュータの基礎をふまえた上で応用的なスキルを修得し、産業社会学部で学ぶ4年間の学習面での活用ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

情報リテラシーIIIに引き続き、「入門」「初級」「中級」の3グレード制のクラス編成を行う。なお、情報リテラシーIの修得内容をふまえた上で、上位のグレードへの変更のみ希望を受け付ける。情報リテラシーIと同様に、各クラスの学習内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なる。さらなるスキルアップやキャリアにつながるスキル獲得を目指す場合には、情報リテラシーIIIの受講を強く勧める。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	入門・初級クラス	
第1回	プレゼンテーション(PowerPoint①) スライド作成(復習)、表スライド・グラフスライドの作成(復習)、文字と図のバランス(レイアウトを考える、視線の流れを理解する)、ビジュアル化への流れ(表・グラフ・チャート表現方)	
第2回	プレゼンテーション(PowerPoint②) 図形技法(図表ギャラリーの利用、オートシェイプを使った図形描画、レイアウトの調整・グループ化機能)	
第3回	プレゼンテーション(PowerPoint③) カラーリング(配色表現・配色の基本技法、カラーリング技法の注意点)、配布資料の作成(ノートの活用、スライド・配布資料の印刷)	
第4回	プレゼンテーション(PowerPoint④) マスターの設定、高度なアニメーションの設定、発表技法	
第5回	プレゼンテーション(PowerPoint⑤)【課題①】 代表発表、データ回収	
第6回	表計算応用(Excel①) 応用的な関数の利用(IF、COUNT、COUNTIF、SUMIF、IFのネスト)	
第7回	表計算応用(Excel②) グラフ表現(簡単なグラフの復習と複合グラフ)	
第8回	表計算応用(Excel③) 複数シート間の計算(3D集計)、シート間のセル参照(リンク)	
第9回	表計算応用④ Excelデータの活用(Word・PowerPointへの貼り付け)、埋め込みオブジェクト、リンクオブジェクト	
第10回	表計算応用⑤【課題②】 総復習 【課題②】応用的な関数を用いた計算と複合グラフの作成	
第11回	文書作成応用① レポート作成上の注意(表紙やタイトルの記入、引用方法、参考文献の記入方法)、レポート作成に必要な機能(ページ設定、スタイルを使ったタイトル設定、脚注、ページ番号の挿入、傍点、ヘッダー・フッター機能)	
第12回	文書作成応用② レイアウトを考える(段組の利用)、Excelからのデータ利用方法(リンクオブジェクト・埋め込みオブジェクト)、キャプションの設定	
第13回	文書作成応用③ 長文作成機能(見出しの設定・アウトライン番号の設定、段落の入れ替え、目次の作成)	
第14回	文書作成応用④【課題③】 レポート作成	
第15回	前期総復習・問題解説 マークシートによる後期総合多肢選択式(75問)	

中級クラス

第1回	プレゼンテーション(PowerPoint①) 表スライド・グラフスライドの作成(復習)、文字と図のバランス(レイアウトを考える、視線の流れを理解する)、ビジュアル化への流れ(表・グラフ・チャート表現方法)
第2回	プレゼンテーション(PowerPoint②) 図解技法(図表ギャラリーの利用、オートシェイブを使った図形描画方法、レイアウトの調整・グループ化機能)、配布資料の作成(ノートの活用、スライド・配布資料の印刷)
第3回	プレゼンテーション(PowerPoint③) カラーリング(配色表現・配色の基本技法、カラーリング技法の注意点)マスタの設定、高度なアニメーションの設定、発表技法
第4回	プレゼンテーション(PowerPoint④)【課題①】 代表発表データ提出
第5回	表計算応用① 応用的な関数の利用(IF、COUNT、COUNTIF、SUMIF、IFのネスト)
第6回	表計算応用② グラフ表現(簡単なグラフの復習と複合グラフ)
第7回	表計算応用③ 複数シート間の計算(3D集計)、シート間のセル参照(リンク)
第8回	表計算応用④【課題②】 総復習 【課題②】応用的な関数を用いた計算と複合グラフの作成、複数シート間の連携利用
第9回	文書作成応用① レポート作成上の注意点(表紙やタイトルの記入、引用方法、参考文献の記入方法)、レポート作成に必要な機能(ページ設定、スタイルを使ったタイトル設定(復習)、ページ番号の挿入、傍点、ヘッダー・フッター機能)、レイアウトを考える(段組の利用)
第10回	文書作成応用② Excelからのデータ利用(リンクオブジェクト・埋め込みオブジェクト)、Excel表をWordに作る(Excelワークシートの挿入)、キャプションの設定
第11回	文書作成応用③ 長文作成機能(見出しの設定・アウトライン番号の設定、段落の入れ替え、目次の作成)
第12回	文書作成応用④【課題③】 レポート作成
第13回	HTMLでのWeb作成① Webの構造、Web作成での注意事項(ブログとWebページの違い、著作権、肖像権、accessibility・usability)、基本的なWebページ作成(TITLE、見出し、画像、リンク(別ページ・メール))
第14回	HTMLでのWeb作成② カラーコードとは、フリー素材集の利用、復習(オリジナルページを完成させる)
第15回	前期総復習・問題解説 マークシートによる後期総合多肢選択式(75問)

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind 割合 / Percentage 評価基準等 / Grading Criteria etc.

平常点(検証テスト) 100 % 出席点、課題提出状況、小テスト・最終講義日に実施する検証テストによって評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

- ・3回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。
- ・入門クラス・初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。3クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。
- ・フラッシュメモリーあるいはフロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
- ・宿題を数回、提出してもらう予定。
- ・授業に5分以上遅刻したものは欠席と見なす。

教科書 / Textbooks

書名 / Title 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

Rainbow Guide2006

///

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

情報リテラシーII SK

12072

担当者名 / Instructor 坂田 謙司

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

【入門】及び【初級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシー I における学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。論文作成、データ処理に不可欠なワードプロセッサ(Word)や表計算(Excel)、ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト(PowerPoint)の使用について確実に実習することで、主体的な学修と研究のためのスキルをより確実なものとする。

【中級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシー I における学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト(PowerPoint)のより高度な使用方法を実習により学修するとともに、ホームページの仕組みについても学ぶことで、主体的な学修と研究のためのスキルの向上と次の段階への展開を図る。

到達目標 / Attainment Objectives

コンピュータの基礎をふまえた上で応用的なスキルを修得し、産業社会学部で学ぶ4年間の学習面での活用ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

情報リテラシーIIIに引き続き、「入門」「初級」「中級」の3グレード制のクラス編成を行う。なお、情報リテラシーIの修得内容をふまえた上で、上位のグレードへの変更のみ希望を受け付ける。情報リテラシーIと同様に、各クラスの学習内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なる。さらなるスキルアップやキャリアにつながるスキル獲得を目指す場合には、情報リテラシーIIIの受講を強く勧める。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	入門・初級クラス	
第1回	プレゼンテーション(PowerPoint①) スライド作成(復習)、表スライド・グラフスライドの作成(復習)、文字と図のバランス(レイアウトを考える、視線の流れを理解する)、ビジュアル化への流れ(表・グラフ・チャート表現方)	
第2回	プレゼンテーション(PowerPoint②) 図形技法(図表ギャラリーの利用、オートシェイプを使った図形描画、レイアウトの調整・グループ化機能)	
第3回	プレゼンテーション(PowerPoint③) カラーリング(配色表現・配色の基本技法、カラーリング技法の注意点)、配布資料の作成(ノートの活用、スライド・配布資料の印刷)	
第4回	プレゼンテーション(PowerPoint④) マスターの設定、高度なアニメーションの設定、発表技法	
第5回	プレゼンテーション(PowerPoint⑤)【課題①】 代表発表、データ回収	
第6回	表計算応用(Excel①) 応用的な関数の利用(IF、COUNT、COUNTIF、SUMIF、IFのネスト)	
第7回	表計算応用(Excel②) グラフ表現(簡単なグラフの復習と複合グラフ)	
第8回	表計算応用(Excel③) 複数シート間の計算(3D集計)、シート間のセル参照(リンク)	
第9回	表計算応用④ Excelデータの活用(Word・PowerPointへの貼り付け)、埋め込みオブジェクト、リンクオブジェクト	
第10回	表計算応用⑤【課題②】 総復習 【課題②】応用的な関数を用いた計算と複合グラフの作成	
第11回	文書作成応用① レポート作成上の注意(表紙やタイトルの記入、引用方法、参考文献の記入方法)、レポート作成に必要な機能(ページ設定、スタイルを使ったタイトル設定、脚注、ページ番号の挿入、傍点、ヘッダー・フッター機能)	
第12回	文書作成応用② レイアウトを考える(段組の利用)、Excelからのデータ利用方法(リンクオブジェクト・埋め込みオブジェクト)、キャプションの設定	
第13回	文書作成応用③ 長文作成機能(見出しの設定・アウトライン番号の設定、段落の入れ替え、目次の作成)	
第14回	文書作成応用④【課題③】 レポート作成	
第15回	前期総復習・問題解説 マークシートによる後期総合多肢選択式(75問)	

中級クラス

第1回	プレゼンテーション(PowerPoint①) 表スライド・グラフスライドの作成(復習)、文字と図のバランス(レイアウトを考える、視線の流れを理解する)、ビジュアル化への流れ(表・グラフ・チャート表現方法)
第2回	プレゼンテーション(PowerPoint②) 図解技法(図表ギャラリーの利用、オートシェイブを使った図形描画方法、レイアウトの調整・グループ化機能)、配布資料の作成(ノートの活用、スライド・配布資料の印刷)
第3回	プレゼンテーション(PowerPoint③) カラーリング(配色表現・配色の基本技法、カラーリング技法の注意点)マスタの設定、高度なアニメーションの設定、発表技法
第4回	プレゼンテーション(PowerPoint④)【課題①】 代表発表データ提出
第5回	表計算応用① 応用的な関数の利用(IF、COUNT、COUNTIF、SUMIF、IFのネスト)
第6回	表計算応用② グラフ表現(簡単なグラフの復習と複合グラフ)
第7回	表計算応用③ 複数シート間の計算(3D集計)、シート間のセル参照(リンク)
第8回	表計算応用④【課題②】 総復習 【課題②】応用的な関数を用いた計算と複合グラフの作成、複数シート間の連携利用
第9回	文書作成応用① レポート作成上の注意点(表紙やタイトルの記入、引用方法、参考文献の記入方法)、レポート作成に必要な機能(ページ設定、スタイルを使ったタイトル設定(復習)、ページ番号の挿入、傍点、ヘッダー・フッター機能)、レイアウトを考える(段組の利用)
第10回	文書作成応用② Excelからのデータ利用(リンクオブジェクト・埋め込みオブジェクト)、Excel表をWordに作る(Excelワークシートの挿入)、キャプションの設定
第11回	文書作成応用③ 長文作成機能(見出しの設定・アウトライン番号の設定、段落の入れ替え、目次の作成)
第12回	文書作成応用④【課題③】 レポート作成
第13回	HTMLでのWeb作成① Webの構造、Web作成での注意事項(ブログとWebページの違い、著作権、肖像権、accessibility・usability)、基本的なWebページ作成(TITLE、見出し、画像、リンク(別ページ・メール))
第14回	HTMLでのWeb作成② カラーコードとは、フリー素材集の利用、復習(オリジナルページを完成させる)
第15回	前期総復習・問題解説 マークシートによる後期総合多肢選択式(75問)

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind 割合 / Percentage 評価基準等 / Grading Criteria etc.

平常点(検証テスト) 100 % 出席点、課題提出状況、小テスト・最終講義日に実施する検証テストによって評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

- ・3回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。
- ・入門クラス・初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。3クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。
- ・フラッシュメモリーあるいはフロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
- ・宿題を数回、提出してもらう予定。
- ・授業に5分以上遅刻したものは欠席と見なす。

教科書 / Textbooks

書名 / Title 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

Rainbow Guide2006

///

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

授業の概要 / Course Outline

【入門】及び【初級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシー I における学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。論文作成、データ処理に不可欠なワードプロセッサ(Word)や表計算(Excel)、ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト(PowerPoint)の使用について確実に実習することで、主体的な学修と研究のためのスキルをより確実なものとする。

【中級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシー I における学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト(PowerPoint)のより高度な使用方法を実習により学修するとともに、ホームページの仕組みについても学ぶことで、主体的な学修と研究のためのスキルの向上と次の段階への展開を図る。

到達目標 / Attainment Objectives

コンピュータの基礎をふまえた上で応用的なスキルを修得し、産業社会学部で学ぶ4年間の学習面での活用ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

情報リテラシーIIIに引き続き、「入門」「初級」「中級」の3グレード制のクラス編成を行う。なお、情報リテラシーIの修得内容をふまえた上で、上位のグレードへの変更のみ希望を受け付ける。情報リテラシーIと同様に、各クラスの学習内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なる。さらなるスキルアップやキャリアにつながるスキル獲得を目指す場合には、情報リテラシーIIIの受講を強く勧める。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	入門・初級クラス	
第1回	プレゼンテーション(PowerPoint①) スライド作成(復習)、表スライド・グラフスライドの作成(復習)、文字と図のバランス(レイアウトを考える、視線の流れを理解する)、ビジュアル化への流れ(表・グラフ・チャート表現方)	
第2回	プレゼンテーション(PowerPoint②) 図形技法(図表ギャラリーの利用、オートシェイプを使った図形描画、レイアウトの調整・グループ化機能)	
第3回	プレゼンテーション(PowerPoint③) カラーリング(配色表現・配色の基本技法、カラーリング技法の注意点)、配布資料の作成(ノートの活用、スライド・配布資料の印刷)	
第4回	プレゼンテーション(PowerPoint④) マスターの設定、高度なアニメーションの設定、発表技法	
第5回	プレゼンテーション(PowerPoint⑤)【課題①】 代表発表、データ回収	
第6回	表計算応用(Excel①) 応用的な関数の利用(IF、COUNT、COUNTIF、SUMIF、IFのネスト)	
第7回	表計算応用(Excel②) グラフ表現(簡単なグラフの復習と複合グラフ)	
第8回	表計算応用(Excel③) 複数シート間の計算(3D集計)、シート間のセル参照(リンク)	
第9回	表計算応用④ Excelデータの活用(Word・PowerPointへの貼り付け)、埋め込みオブジェクト、リンクオブジェクト	
第10回	表計算応用⑤【課題②】 総復習 【課題②】応用的な関数を用いた計算と複合グラフの作成	
第11回	文書作成応用① レポート作成上の注意(表紙やタイトルの記入、引用方法、参考文献の記入方法)、レポート作成に必要な機能(ページ設定、スタイルを使ったタイトル設定、脚注、ページ番号の挿入、傍点、ヘッダー・フッター機能)	
第12回	文書作成応用② レイアウトを考える(段組の利用)、Excelからのデータ利用方法(リンクオブジェクト・埋め込みオブジェクト)、キャプションの設定	
第13回	文書作成応用③ 長文作成機能(見出しの設定・アウトライン番号の設定、段落の入れ替え、目次の作成)	
第14回	文書作成応用④【課題③】 レポート作成	
第15回	前期総復習・問題解説 マークシートによる後期総合多肢選択式(75問)	

中級クラス

第1回	プレゼンテーション(PowerPoint①) 表スライド・グラフスライドの作成(復習)、文字と図のバランス(レイアウトを考える、視線の流れを理解する)、ビジュアル化への流れ(表・グラフ・チャート表現方法)
第2回	プレゼンテーション(PowerPoint②) 図解技法(図表ギャラリーの利用、オートシェイブを使った図形描画方法、レイアウトの調整・グループ化機能)、配布資料の作成(ノートの活用、スライド・配布資料の印刷)
第3回	プレゼンテーション(PowerPoint③) カラーリング(配色表現・配色の基本技法、カラーリング技法の注意点)マスタの設定、高度なアニメーションの設定、発表技法
第4回	プレゼンテーション(PowerPoint④)【課題①】 代表発表データ提出
第5回	表計算応用① 応用的な関数の利用(IF、COUNT、COUNTIF、SUMIF、IFのネスト)
第6回	表計算応用② グラフ表現(簡単なグラフの復習と複合グラフ)
第7回	表計算応用③ 複数シート間の計算(3D集計)、シート間のセル参照(リンク)
第8回	表計算応用④【課題②】 総復習 【課題②】応用的な関数を用いた計算と複合グラフの作成、複数シート間の連携利用
第9回	文書作成応用① レポート作成上の注意点(表紙やタイトルの記入、引用方法、参考文献の記入方法)、レポート作成に必要な機能(ページ設定、スタイルを使ったタイトル設定(復習)、ページ番号の挿入、傍点、ヘッダー・フッター機能)、レイアウトを考える(段組の利用)
第10回	文書作成応用② Excelからのデータ利用(リンクオブジェクト・埋め込みオブジェクト)、Excel表をWordに作る(Excelワークシートの挿入)、キャプションの設定
第11回	文書作成応用③ 長文作成機能(見出しの設定・アウトライン番号の設定、段落の入れ替え、目次の作成)
第12回	文書作成応用④【課題③】 レポート作成
第13回	HTMLでのWeb作成① Webの構造、Web作成での注意事項(ブログとWebページの違い、著作権、肖像権、accessibility・usability)、基本的なWebページ作成(TITLE、見出し、画像、リンク(別ページ・メール))
第14回	HTMLでのWeb作成② カラーコードとは、フリー素材集の利用、復習(オリジナルページを完成させる)
第15回	前期総復習・問題解説 マークシートによる後期総合多肢選択式(75問)

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind 割合 / Percentage 評価基準等 / Grading Criteria etc.

平常点(検証テスト) 100 % 出席点、課題提出状況、小テスト・最終講義日に実施する検証テストによって評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

- ・3回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。
- ・入門クラス・初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。3クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。
- ・フラッシュメモリーあるいはフロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
- ・宿題を数回、提出してもらう予定。
- ・授業に5分以上遅刻したものは欠席と見なす。

教科書 / Textbooks

書名 / Title 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

Rainbow Guide2006

///

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

担当者名 / Instructor 上出 浩

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

【入門】及び【初級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシー I における学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。論文作成、データ処理に不可欠なワードプロセッサ(Word)や表計算(Excel)、ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト(PowerPoint)の使用について確実に実習することで、主体的な学修と研究のためのスキルをより確実なものとする。

【中級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシー I における学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト(PowerPoint)のより高度な使用方法を実習により学修するとともに、ホームページの仕組みについても学ぶことで、主体的な学修と研究のためのスキルの向上と次の段階への展開を図る。

到達目標 / Attainment Objectives

コンピュータの基礎をふまえた上で応用的なスキルを修得し、産業社会学部で学ぶ4年間の学習面での活用ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

情報リテラシーIIIに引き続き、「入門」「初級」「中級」の3グレード制のクラス編成を行う。なお、情報リテラシーIの修得内容をふまえた上で、上位のグレードへの変更のみ希望を受け付ける。情報リテラシーIと同様に、各クラスの学習内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なる。さらなるスキルアップやキャリアにつながるスキル獲得を目指す場合には、情報リテラシーIIIの受講を強く勧める。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	入門・初級クラス	
第1回	プレゼンテーション(PowerPoint①) スライド作成(復習)、表スライド・グラフスライドの作成(復習)、文字と図のバランス(レイアウトを考える、視線の流れを理解する)、ビジュアル化への流れ(表・グラフ・チャート表現方)	
第2回	プレゼンテーション(PowerPoint②) 図形技法(図表ギャラリーの利用、オートシェイプを使った図形描画、レイアウトの調整・グループ化機能)	
第3回	プレゼンテーション(PowerPoint③) カラーリング(配色表現・配色の基本技法、カラーリング技法の注意点)、配布資料の作成(ノートの活用、スライド・配布資料の印刷)	
第4回	プレゼンテーション(PowerPoint④) マスターの設定、高度なアニメーションの設定、発表技法	
第5回	プレゼンテーション(PowerPoint⑤)【課題①】 代表発表、データ回収	
第6回	表計算応用(Excel①) 応用的な関数の利用(IF、COUNT、COUNTIF、SUMIF、IFのネスト)	
第7回	表計算応用(Excel②) グラフ表現(簡単なグラフの復習と複合グラフ)	
第8回	表計算応用(Excel③) 複数シート間の計算(3D集計)、シート間のセル参照(リンク)	
第9回	表計算応用④ Excelデータの活用(Word・PowerPointへの貼り付け)、埋め込みオブジェクト、リンクオブジェクト	
第10回	表計算応用⑤【課題②】 総復習 【課題②】応用的な関数を用いた計算と複合グラフの作成	
第11回	文書作成応用① レポート作成上の注意(表紙やタイトルの記入、引用方法、参考文献の記入方法)、レポート作成に必要な機能(ページ設定、スタイルを使ったタイトル設定、脚注、ページ番号の挿入、傍点、ヘッダー・フッター機能)	
第12回	文書作成応用② レイアウトを考える(段組の利用)、Excelからのデータ利用方法(リンクオブジェクト・埋め込みオブジェクト)、キャプションの設定	
第13回	文書作成応用③ 長文作成機能(見出しの設定・アウトライン番号の設定、段落の入れ替え、目次の作成)	
第14回	文書作成応用④【課題③】 レポート作成	
第15回	前期総復習・問題解説 マークシートによる後期総合多肢選択式(75問)	

中級クラス

第1回	プレゼンテーション(PowerPoint①) 表スライド・グラフスライドの作成(復習)、文字と図のバランス(レイアウトを考える、視線の流れを理解する)、ビジュアル化への流れ(表・グラフ・チャート表現方法)
第2回	プレゼンテーション(PowerPoint②) 図解技法(図表ギャラリーの利用、オートシェイブを使った図形描画方法、レイアウトの調整・グループ化機能)、配布資料の作成(ノートの活用、スライド・配布資料の印刷)
第3回	プレゼンテーション(PowerPoint③) カラーリング(配色表現・配色の基本技法、カラーリング技法の注意点)マスタの設定、高度なアニメーションの設定、発表技法
第4回	プレゼンテーション(PowerPoint④)【課題①】 代表発表データ提出
第5回	表計算応用① 応用的な関数の利用(IF、COUNT、COUNTIF、SUMIF、IFのネスト)
第6回	表計算応用② グラフ表現(簡単なグラフの復習と複合グラフ)
第7回	表計算応用③ 複数シート間の計算(3D集計)、シート間のセル参照(リンク)
第8回	表計算応用④【課題②】 総復習 【課題②】応用的な関数を用いた計算と複合グラフの作成、複数シート間の連携利用
第9回	文書作成応用① レポート作成上の注意点(表紙やタイトルの記入、引用方法、参考文献の記入方法)、レポート作成に必要な機能(ページ設定、スタイルを使ったタイトル設定(復習)、ページ番号の挿入、傍点、ヘッダー・フッター機能)、レイアウトを考える(段組の利用)
第10回	文書作成応用② Excelからのデータ利用(リンクオブジェクト・埋め込みオブジェクト)、Excel表をWordに作る(Excelワークシートの挿入)、キャプションの設定
第11回	文書作成応用③ 長文作成機能(見出しの設定・アウトライン番号の設定、段落の入れ替え、目次の作成)
第12回	文書作成応用④【課題③】 レポート作成
第13回	HTMLでのWeb作成① Webの構造、Web作成での注意事項(ブログとWebページの違い、著作権、肖像権、accessibility・usability)、基本的なWebページ作成(TITLE、見出し、画像、リンク(別ページ・メール))
第14回	HTMLでのWeb作成② カラーコードとは、フリー素材集の利用、復習(オリジナルページを完成させる)
第15回	前期総復習・問題解説 マークシートによる後期総合多肢選択式(75問)

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(検証テスト)	100 %	出席点、課題提出状況、小テスト・最終講義日に実施する検証テストによって評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

- ・3回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の 対象とならない。
- ・入門クラス・初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。3クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。
- ・フラッシュメモリーあるいはフロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておく こと。
- ・宿題を数回、提出してもらう予定。
- ・授業に5分以上遅刻したものは欠席と見なす。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
Rainbow Guide2006	///

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

授業の概要 / Course Outline

【入門】及び【初級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシー I における学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。論文作成、データ処理に不可欠なワードプロセッサ(Word)や表計算(Excel)、ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト(PowerPoint)の使用について確実に実習することで、主体的な学修と研究のためのスキルをより確実なものとする。

【中級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシー I における学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト(PowerPoint)のより高度な使用方法を実習により学修するとともに、ホームページの仕組みについても学ぶことで、主体的な学修と研究のためのスキルの向上と次の段階への展開を図る。

到達目標 / Attainment Objectives

コンピュータの基礎をふまえた上で応用的なスキルを修得し、産業社会学部で学ぶ4年間の学習面での活用ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

情報リテラシーIIIに引き続き、「入門」「初級」「中級」の3グレード制のクラス編成を行う。なお、情報リテラシーIの修得内容をふまえた上で、上位のグレードへの変更のみ希望を受け付ける。情報リテラシーIと同様に、各クラスの学習内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なる。さらなるスキルアップやキャリアにつながるスキル獲得を目指す場合には、情報リテラシーIIIの受講を強く勧める。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	入門・初級クラス	
第1回	プレゼンテーション(PowerPoint①) スライド作成(復習)、表スライド・グラフスライドの作成(復習)、文字と図のバランス(レイアウトを考える、視線の流れを理解する)、ビジュアル化への流れ(表・グラフ・チャート表現方)	
第2回	プレゼンテーション(PowerPoint②) 図形技法(図表ギャラリーの利用、オートシェイプを使った図形描画、レイアウトの調整・グループ化機能)	
第3回	プレゼンテーション(PowerPoint③) カラーリング(配色表現・配色の基本技法、カラーリング技法の注意点)、配布資料の作成(ノートの活用、スライド・配布資料の印刷)	
第4回	プレゼンテーション(PowerPoint④) マスターの設定、高度なアニメーションの設定、発表技法	
第5回	プレゼンテーション(PowerPoint⑤)【課題①】 代表発表、データ回収	
第6回	表計算応用(Excel①) 応用的な関数の利用(IF、COUNT、COUNTIF、SUMIF、IFのネスト)	
第7回	表計算応用(Excel②) グラフ表現(簡単なグラフの復習と複合グラフ)	
第8回	表計算応用(Excel③) 複数シート間の計算(3D集計)、シート間のセル参照(リンク)	
第9回	表計算応用④ Excelデータの活用(Word・PowerPointへの貼り付け)、埋め込みオブジェクト、リンクオブジェクト	
第10回	表計算応用⑤【課題②】 総復習 【課題②】応用的な関数を用いた計算と複合グラフの作成	
第11回	文書作成応用① レポート作成上の注意(表紙やタイトルの記入、引用方法、参考文献の記入方法)、レポート作成に必要な機能(ページ設定、スタイルを使ったタイトル設定、脚注、ページ番号の挿入、傍点、ヘッダー・フッター機能)	
第12回	文書作成応用② レイアウトを考える(段組の利用)、Excelからのデータ利用方法(リンクオブジェクト・埋め込みオブジェクト)、キャプションの設定	
第13回	文書作成応用③ 長文作成機能(見出しの設定・アウトライン番号の設定、段落の入れ替え、目次の作成)	
第14回	文書作成応用④【課題③】 レポート作成	
第15回	前期総復習・問題解説 マークシートによる後期総合多肢選択式(75問)	

中級クラス

第1回	プレゼンテーション(PowerPoint①) 表スライド・グラフスライドの作成(復習)、文字と図のバランス(レイアウトを考える、視線の流れを理解する)、ビジュアル化への流れ(表・グラフ・チャート表現方法)
第2回	プレゼンテーション(PowerPoint②) 図解技法(図表ギャラリーの利用、オートシェイブを使った図形描画方法、レイアウトの調整・グループ化機能)、配布資料の作成(ノートの活用、スライド・配布資料の印刷)
第3回	プレゼンテーション(PowerPoint③) カラーリング(配色表現・配色の基本技法、カラーリング技法の注意点)マスタの設定、高度なアニメーションの設定、発表技法
第4回	プレゼンテーション(PowerPoint④)【課題①】 代表発表データ提出
第5回	表計算応用① 応用的な関数の利用(IF、COUNT、COUNTIF、SUMIF、IFのネスト)
第6回	表計算応用② グラフ表現(簡単なグラフの復習と複合グラフ)
第7回	表計算応用③ 複数シート間の計算(3D集計)、シート間のセル参照(リンク)
第8回	表計算応用④【課題②】 総復習 【課題②】応用的な関数を用いた計算と複合グラフの作成、複数シート間の連携利用
第9回	文書作成応用① レポート作成上の注意点(表紙やタイトルの記入、引用方法、参考文献の記入方法)、レポート作成に必要な機能(ページ設定、スタイルを使ったタイトル設定(復習)、ページ番号の挿入、傍点、ヘッダー・フッター機能)、レイアウトを考える(段組の利用)
第10回	文書作成応用② Excelからのデータ利用(リンクオブジェクト・埋め込みオブジェクト)、Excel表をWordに作る(Excelワークシートの挿入)、キャプションの設定
第11回	文書作成応用③ 長文作成機能(見出しの設定・アウトライン番号の設定、段落の入れ替え、目次の作成)
第12回	文書作成応用④【課題③】 レポート作成
第13回	HTMLでのWeb作成① Webの構造、Web作成での注意事項(ブログとWebページの違い、著作権、肖像権、accessibility・usability)、基本的なWebページ作成(TITLE、見出し、画像、リンク(別ページ・メール))
第14回	HTMLでのWeb作成② カラーコードとは、フリー素材集の利用、復習(オリジナルページを完成させる)
第15回	前期総復習・問題解説 マークシートによる後期総合多肢選択式(75問)

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind 割合 / Percentage 評価基準等 / Grading Criteria etc.

平常点(検証テスト) 100 % 出席点、課題提出状況、小テスト・最終講義日に実施する検証テストによって評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

- ・3回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。
- ・入門クラス・初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。3クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。
- ・フラッシュメモリーあるいはフロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
- ・宿題を数回、提出してもらう予定。
- ・授業に5分以上遅刻したものは欠席と見なす。

教科書 / Textbooks

書名 / Title 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

Rainbow Guide2006

///

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

情報リテラシーII SO

12076

担当者名 / Instructor 上出 浩

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

【入門】及び【初級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシー I における学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。論文作成、データ処理に不可欠なワードプロセッサ(Word)や表計算(Excel)、ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト(PowerPoint)の使用について確実に実習することで、主体的な学修と研究のためのスキルをより確実なものとする。

【中級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシー I における学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト(PowerPoint)のより高度な使用方法を実習により学修するとともに、ホームページの仕組みについても学ぶことで、主体的な学修と研究のためのスキルの向上と次の段階への展開を図る。

到達目標 / Attainment Objectives

コンピュータの基礎をふまえた上で応用的なスキルを修得し、産業社会学部で学ぶ4年間の学習面での活用ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

情報リテラシーIIIに引き続き、「入門」「初級」「中級」の3グレード制のクラス編成を行う。なお、情報リテラシーIの修得内容をふまえた上で、上位のグレードへの変更のみ希望を受け付ける。情報リテラシーIと同様に、各クラスの学習内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なる。さらなるスキルアップやキャリアにつながるスキル獲得を目指す場合には、情報リテラシーIIIの受講を強く勧める。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	入門・初級クラス	
第1回	プレゼンテーション(PowerPoint①) スライド作成(復習)、表スライド・グラフスライドの作成(復習)、文字と図のバランス(レイアウトを考える、視線の流れを理解する)、ビジュアル化への流れ(表・グラフ・チャート表現方)	
第2回	プレゼンテーション(PowerPoint②) 図形技法(図表ギャラリーの利用、オートシェイプを使った図形描画、レイアウトの調整・グループ化機能)	
第3回	プレゼンテーション(PowerPoint③) カラーリング(配色表現・配色の基本技法、カラーリング技法の注意点)、配布資料の作成(ノートの活用、スライド・配布資料の印刷)	
第4回	プレゼンテーション(PowerPoint④) マスターの設定、高度なアニメーションの設定、発表技法	
第5回	プレゼンテーション(PowerPoint⑤)【課題①】 代表発表、データ回収	
第6回	表計算応用(Excel①) 応用的な関数の利用(IF、COUNT、COUNTIF、SUMIF、IFのネスト)	
第7回	表計算応用(Excel②) グラフ表現(簡単なグラフの復習と複合グラフ)	
第8回	表計算応用(Excel③) 複数シート間の計算(3D集計)、シート間のセル参照(リンク)	
第9回	表計算応用④ Excelデータの活用(Word・PowerPointへの貼り付け)、埋め込みオブジェクト、リンクオブジェクト	
第10回	表計算応用⑤【課題②】 総復習 【課題②】応用的な関数を用いた計算と複合グラフの作成	
第11回	文書作成応用① レポート作成上の注意(表紙やタイトルの記入、引用方法、参考文献の記入方法)、レポート作成に必要な機能(ページ設定、スタイルを使ったタイトル設定、脚注、ページ番号の挿入、傍点、ヘッダー・フッター機能)	
第12回	文書作成応用② レイアウトを考える(段組の利用)、Excelからのデータ利用方法(リンクオブジェクト・埋め込みオブジェクト)、キャプションの設定	
第13回	文書作成応用③ 長文作成機能(見出しの設定・アウトライン番号の設定、段落の入れ替え、目次の作成)	
第14回	文書作成応用④【課題③】 レポート作成	
第15回	前期総復習・問題解説 マークシートによる後期総合多肢選択式(75問)	

中級クラス

第1回	プレゼンテーション(PowerPoint①) 表スライド・グラフスライドの作成(復習)、文字と図のバランス(レイアウトを考える、視線の流れを理解する)、ビジュアル化への流れ(表・グラフ・チャート表現方法)
第2回	プレゼンテーション(PowerPoint②) 図解技法(図表ギャラリーの利用、オートシェイブを使った図形描画方法、レイアウトの調整・グループ化機能)、配布資料の作成(ノートの活用、スライド・配布資料の印刷)
第3回	プレゼンテーション(PowerPoint③) カラーリング(配色表現・配色の基本技法、カラーリング技法の注意点)マスタの設定、高度なアニメーションの設定、発表技法
第4回	プレゼンテーション(PowerPoint④)【課題①】 代表発表データ提出
第5回	表計算応用① 応用的な関数の利用(IF、COUNT、COUNTIF、SUMIF、IFのネスト)
第6回	表計算応用② グラフ表現(簡単なグラフの復習と複合グラフ)
第7回	表計算応用③ 複数シート間の計算(3D集計)、シート間のセル参照(リンク)
第8回	表計算応用④【課題②】 総復習 【課題②】応用的な関数を用いた計算と複合グラフの作成、複数シート間の連携利用
第9回	文書作成応用① レポート作成上の注意点(表紙やタイトルの記入、引用方法、参考文献の記入方法)、レポート作成に必要な機能(ページ設定、スタイルを使ったタイトル設定(復習)、ページ番号の挿入、傍点、ヘッダー・フッター機能)、レイアウトを考える(段組の利用)
第10回	文書作成応用② Excelからのデータ利用(リンクオブジェクト・埋め込みオブジェクト)、Excel表をWordに作る(Excelワークシートの挿入)、キャプションの設定
第11回	文書作成応用③ 長文作成機能(見出しの設定・アウトライン番号の設定、段落の入れ替え、目次の作成)
第12回	文書作成応用④【課題③】 レポート作成
第13回	HTMLでのWeb作成① Webの構造、Web作成での注意事項(ブログとWebページの違い、著作権、肖像権、accessibility・usability)、基本的なWebページ作成(TITLE、見出し、画像、リンク(別ページ・メール))
第14回	HTMLでのWeb作成② カラーコードとは、フリー素材集の利用、復習(オリジナルページを完成させる)
第15回	前期総復習・問題解説 マークシートによる後期総合多肢選択式(75問)

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind 割合 / Percentage 評価基準等 / Grading Criteria etc.

平常点(検証テスト) 100 % 出席点、課題提出状況、小テスト・最終講義日に実施する検証テストによって評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

- ・3回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。
- ・入門クラス・初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。3クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。
- ・フラッシュメモリーあるいはフロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
- ・宿題を数回、提出してもらう予定。
- ・授業に5分以上遅刻したものは欠席と見なす。

教科書 / Textbooks

書名 / Title 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

Rainbow Guide2006

///

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

担当者名 / Instructor 上出 浩

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

【入門】及び【初級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシー I における学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。論文作成、データ処理に不可欠なワードプロセッサ(Word)や表計算(Excel)、ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト(PowerPoint)の使用について確実に実習することで、主体的な学修と研究のためのスキルをより確実なものとする。

【中級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシー I における学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト(PowerPoint)のより高度な使用方法を実習により学修するとともに、ホームページの仕組みについても学ぶことで、主体的な学修と研究のためのスキルの向上と次の段階への展開を図る。

到達目標 / Attainment Objectives

コンピュータの基礎をふまえた上で応用的なスキルを修得し、産業社会学部で学ぶ4年間の学習面での活用ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

情報リテラシーIIIに引き続き、「入門」「初級」「中級」の3グレード制のクラス編成を行う。なお、情報リテラシーIの修得内容をふまえた上で、上位のグレードへの変更のみ希望を受け付ける。情報リテラシーIと同様に、各クラスの学習内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なる。さらなるスキルアップやキャリアにつながるスキル獲得を目指す場合には、情報リテラシーIIIの受講を強く勧める。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	入門・初級クラス	
第1回	プレゼンテーション(PowerPoint①) スライド作成(復習)、表スライド・グラフスライドの作成(復習)、文字と図のバランス(レイアウトを考える、視線の流れを理解する)、ビジュアル化への流れ(表・グラフ・チャート表現方)	
第2回	プレゼンテーション(PowerPoint②) 図形技法(図表ギャラリーの利用、オートシェイプを使った図形描画、レイアウトの調整・グループ化機能)	
第3回	プレゼンテーション(PowerPoint③) カラーリング(配色表現・配色の基本技法、カラーリング技法の注意点)、配布資料の作成(ノートの活用、スライド・配布資料の印刷)	
第4回	プレゼンテーション(PowerPoint④) マスターの設定、高度なアニメーションの設定、発表技法	
第5回	プレゼンテーション(PowerPoint⑤)【課題①】 代表発表、データ回収	
第6回	表計算応用(Excel①) 応用的な関数の利用(IF、COUNT、COUNTIF、SUMIF、IFのネスト)	
第7回	表計算応用(Excel②) グラフ表現(簡単なグラフの復習と複合グラフ)	
第8回	表計算応用(Excel③) 複数シート間の計算(3D集計)、シート間のセル参照(リンク)	
第9回	表計算応用④ Excelデータの活用(Word・PowerPointへの貼り付け)、埋め込みオブジェクト、リンクオブジェクト	
第10回	表計算応用⑤【課題②】 総復習 【課題②】応用的な関数を用いた計算と複合グラフの作成	
第11回	文書作成応用① レポート作成上の注意(表紙やタイトルの記入、引用方法、参考文献の記入方法)、レポート作成に必要な機能(ページ設定、スタイルを使ったタイトル設定、脚注、ページ番号の挿入、傍点、ヘッダー・フッター機能)	
第12回	文書作成応用② レイアウトを考える(段組の利用)、Excelからのデータ利用方法(リンクオブジェクト・埋め込みオブジェクト)、キャプションの設定	
第13回	文書作成応用③ 長文作成機能(見出しの設定・アウトライン番号の設定、段落の入れ替え、目次の作成)	
第14回	文書作成応用④【課題③】 レポート作成	
第15回	前期総復習・問題解説 マークシートによる後期総合多肢選択式(75問)	

中級クラス

第1回	プレゼンテーション(PowerPoint①) 表スライド・グラフスライドの作成(復習)、文字と図のバランス(レイアウトを考える、視線の流れを理解する)、ビジュアル化への流れ(表・グラフ・チャート表現方法)
第2回	プレゼンテーション(PowerPoint②) 図解技法(図表ギャラリーの利用、オートシェイブを使った図形描画方法、レイアウトの調整・グループ化機能)、配布資料の作成(ノートの活用、スライド・配布資料の印刷)
第3回	プレゼンテーション(PowerPoint③) カラーリング(配色表現・配色の基本技法、カラーリング技法の注意点)マスタの設定、高度なアニメーションの設定、発表技法
第4回	プレゼンテーション(PowerPoint④)【課題①】 代表発表データ提出
第5回	表計算応用① 応用的な関数の利用(IF、COUNT、COUNTIF、SUMIF、IFのネスト)
第6回	表計算応用② グラフ表現(簡単なグラフの復習と複合グラフ)
第7回	表計算応用③ 複数シート間の計算(3D集計)、シート間のセル参照(リンク)
第8回	表計算応用④【課題②】 総復習 【課題②】応用的な関数を用いた計算と複合グラフの作成、複数シート間の連携利用
第9回	文書作成応用① レポート作成上の注意点(表紙やタイトルの記入、引用方法、参考文献の記入方法)、レポート作成に必要な機能(ページ設定、スタイルを使ったタイトル設定(復習)、ページ番号の挿入、傍点、ヘッダー・フッター機能)、レイアウトを考える(段組の利用)
第10回	文書作成応用② Excelからのデータ利用(リンクオブジェクト・埋め込みオブジェクト)、Excel表をWordに作る(Excelワークシートの挿入)、キャプションの設定
第11回	文書作成応用③ 長文作成機能(見出しの設定・アウトライン番号の設定、段落の入れ替え、目次の作成)
第12回	文書作成応用④【課題③】 レポート作成
第13回	HTMLでのWeb作成① Webの構造、Web作成での注意事項(ブログとWebページの違い、著作権、肖像権、accessibility・usability)、基本的なWebページ作成(TITLE、見出し、画像、リンク(別ページ・メール))
第14回	HTMLでのWeb作成② カラーコードとは、フリー素材集の利用、復習(オリジナルページを完成させる)
第15回	前期総復習・問題解説 マークシートによる後期総合多肢選択式(75問)

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind 割合 / Percentage 評価基準等 / Grading Criteria etc.

平常点(検証テスト) 100 % 出席点、課題提出状況、小テスト・最終講義日に実施する検証テストによって評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

- ・3回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。
- ・入門クラス・初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。3クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。
- ・フラッシュメモリーあるいはフロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
- ・宿題を数回、提出してもらう予定。
- ・授業に5分以上遅刻したものは欠席と見なす。

教科書 / Textbooks

書名 / Title 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

Rainbow Guide2006

///

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

情報リテラシーII SQ

12092

担当者名 / Instructor 奥川 櫻豊彦

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

【入門】及び【初級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシー I における学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。論文作成、データ処理に不可欠なワードプロセッサ(Word)や表計算(Excel)、ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト(PowerPoint)の使用について確実に実習することで、主体的な学修と研究のためのスキルをより確実なものとする。

【中級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシー I における学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト(PowerPoint)のより高度な使用方法を実習により学修するとともに、ホームページの仕組みについても学ぶことで、主体的な学修と研究のためのスキルの向上と次の段階への展開を図る。

到達目標 / Attainment Objectives

コンピュータの基礎をふまえた上で応用的なスキルを修得し、産業社会学部で学ぶ4年間の学習面での活用ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

情報リテラシーIIIに引き続き、「入門」「初級」「中級」の3グレード制のクラス編成を行う。なお、情報リテラシーIの修得内容をふまえた上で、上位のグレードへの変更のみ希望を受け付ける。情報リテラシーIと同様に、各クラスの学習内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なる。さらなるスキルアップやキャリアにつながるスキル獲得を目指す場合には、情報リテラシーIIIの受講を強く勧める。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	入門・初級クラス	
第1回	プレゼンテーション(PowerPoint①) スライド作成(復習)、表スライド・グラフスライドの作成(復習)、文字と図のバランス(レイアウトを考える、視線の流れを理解する)、ビジュアル化への流れ(表・グラフ・チャート表現方)	
第2回	プレゼンテーション(PowerPoint②) 図形技法(図表ギャラリーの利用、オートシェイプを使った図形描画、レイアウトの調整・グループ化機能)	
第3回	プレゼンテーション(PowerPoint③) カラーリング(配色表現・配色の基本技法、カラーリング技法の注意点)、配布資料の作成(ノートの活用、スライド・配布資料の印刷)	
第4回	プレゼンテーション(PowerPoint④) マスターの設定、高度なアニメーションの設定、発表技法	
第5回	プレゼンテーション(PowerPoint⑤)【課題①】 代表発表、データ回収	
第6回	表計算応用(Excel①) 応用的な関数の利用(IF、COUNT、COUNTIF、SUMIF、IFのネスト)	
第7回	表計算応用(Excel②) グラフ表現(簡単なグラフの復習と複合グラフ)	
第8回	表計算応用(Excel③) 複数シート間の計算(3D集計)、シート間のセル参照(リンク)	
第9回	表計算応用④ Excelデータの活用(Word・PowerPointへの貼り付け)、埋め込みオブジェクト、リンクオブジェクト	
第10回	表計算応用⑤【課題②】 総復習 【課題②】応用的な関数を用いた計算と複合グラフの作成	
第11回	文書作成応用① レポート作成上の注意(表紙やタイトルの記入、引用方法、参考文献の記入方法)、レポート作成に必要な機能(ページ設定、スタイルを使ったタイトル設定、脚注、ページ番号の挿入、傍点、ヘッダー・フッター機能)	
第12回	文書作成応用② レイアウトを考える(段組の利用)、Excelからのデータ利用方法(リンクオブジェクト・埋め込みオブジェクト)、キャプションの設定	
第13回	文書作成応用③ 長文作成機能(見出しの設定・アウトライン番号の設定、段落の入れ替え、目次の作成)	
第14回	文書作成応用④【課題③】 レポート作成	
第15回	前期総復習・問題解説 マークシートによる後期総合多肢選択式(75問)	

中級クラス

第1回	プレゼンテーション(PowerPoint①) 表スライド・グラフスライドの作成(復習)、文字と図のバランス(レイアウトを考える、視線の流れを理解する)、ビジュアル化への流れ(表・グラフ・チャート表現方法)
第2回	プレゼンテーション(PowerPoint②) 図解技法(図表ギャラリーの利用、オートシェイブを使った図形描画方法、レイアウトの調整・グループ化機能)、配布資料の作成(ノートの活用、スライド・配布資料の印刷)
第3回	プレゼンテーション(PowerPoint③) カラーリング(配色表現・配色の基本技法、カラーリング技法の注意点)マスタの設定、高度なアニメーションの設定、発表技法
第4回	プレゼンテーション(PowerPoint④)【課題①】 代表発表データ提出
第5回	表計算応用① 応用的な関数の利用(IF、COUNT、COUNTIF、SUMIF、IFのネスト)
第6回	表計算応用② グラフ表現(簡単なグラフの復習と複合グラフ)
第7回	表計算応用③ 複数シート間の計算(3D集計)、シート間のセル参照(リンク)
第8回	表計算応用④【課題②】 総復習 【課題②】応用的な関数を用いた計算と複合グラフの作成、複数シート間の連携利用
第9回	文書作成応用① レポート作成上の注意点(表紙やタイトルの記入、引用方法、参考文献の記入方法)、レポート作成に必要な機能(ページ設定、スタイルを使ったタイトル設定(復習)、ページ番号の挿入、傍点、ヘッダー・フッター機能)、レイアウトを考える(段組の利用)
第10回	文書作成応用② Excelからのデータ利用(リンクオブジェクト・埋め込みオブジェクト)、Excel表をWordに作る(Excelワークシートの挿入)、キャプションの設定
第11回	文書作成応用③ 長文作成機能(見出しの設定・アウトライン番号の設定、段落の入れ替え、目次の作成)
第12回	文書作成応用④【課題③】 レポート作成
第13回	HTMLでのWeb作成① Webの構造、Web作成での注意事項(ブログとWebページの違い、著作権、肖像権、accessibility・usability)、基本的なWebページ作成(TITLE、見出し、画像、リンク(別ページ・メール))
第14回	HTMLでのWeb作成② カラーコードとは、フリー素材集の利用、復習(オリジナルページを完成させる)
第15回	前期総復習・問題解説 マークシートによる後期総合多肢選択式(75問)

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind 割合 / Percentage 評価基準等 / Grading Criteria etc.

平常点(検証テスト) 100 % 出席点、課題提出状況、小テスト・最終講義日に実施する検証テストによって評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

- ・3回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。
- ・入門クラス・初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。3クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。
- ・フラッシュメモリーあるいはフロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
- ・宿題を数回、提出してもらう予定。
- ・授業に5分以上遅刻したものは欠席と見なす。

教科書 / Textbooks

書名 / Title 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

Rainbow Guide2006

///

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

授業の概要 / Course Outline

【入門】及び【初級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシー I における学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。論文作成、データ処理に不可欠なワードプロセッサ(Word)や表計算(Excel)、ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト(PowerPoint)の使用について確実に実習することで、主体的な学修と研究のためのスキルをより確実なものとする。

【中級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシー I における学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト(PowerPoint)のより高度な使用方法を実習により学修するとともに、ホームページの仕組みについても学ぶことで、主体的な学修と研究のためのスキルの向上と次の段階への展開を図る。

到達目標 / Attainment Objectives

コンピュータの基礎をふまえた上で応用的なスキルを修得し、産業社会学部で学ぶ4年間の学習面での活用ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

情報リテラシーIIIに引き続き、「入門」「初級」「中級」の3グレード制のクラス編成を行う。なお、情報リテラシーIの修得内容をふまえた上で、上位のグレードへの変更のみ希望を受け付ける。情報リテラシーIと同様に、各クラスの学習内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なる。さらなるスキルアップやキャリアにつながるスキル獲得を目指す場合には、情報リテラシーIIIの受講を強く勧める。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	入門・初級クラス	
第1回	プレゼンテーション(PowerPoint①) スライド作成(復習)、表スライド・グラフスライドの作成(復習)、文字と図のバランス(レイアウトを考える、視線の流れを理解する)、ビジュアル化への流れ(表・グラフ・チャート表現方)	
第2回	プレゼンテーション(PowerPoint②) 図形技法(図表ギャラリーの利用、オートシェイプを使った図形描画、レイアウトの調整・グループ化機能)	
第3回	プレゼンテーション(PowerPoint③) カラーリング(配色表現・配色の基本技法、カラーリング技法の注意点)、配布資料の作成(ノートの活用、スライド・配布資料の印刷)	
第4回	プレゼンテーション(PowerPoint④) マスターの設定、高度なアニメーションの設定、発表技法	
第5回	プレゼンテーション(PowerPoint⑤)【課題①】 代表発表、データ回収	
第6回	表計算応用(Excel①) 応用的な関数の利用(IF、COUNT、COUNTIF、SUMIF、IFのネスト)	
第7回	表計算応用(Excel②) グラフ表現(簡単なグラフの復習と複合グラフ)	
第8回	表計算応用(Excel③) 複数シート間の計算(3D集計)、シート間のセル参照(リンク)	
第9回	表計算応用④ Excelデータの活用(Word・PowerPointへの貼り付け)、埋め込みオブジェクト、リンクオブジェクト	
第10回	表計算応用⑤【課題②】 総復習 【課題②】応用的な関数を用いた計算と複合グラフの作成	
第11回	文書作成応用① レポート作成上の注意(表紙やタイトルの記入、引用方法、参考文献の記入方法)、レポート作成に必要な機能(ページ設定、スタイルを使ったタイトル設定、脚注、ページ番号の挿入、傍点、ヘッダー・フッター機能)	
第12回	文書作成応用② レイアウトを考える(段組の利用)、Excelからのデータ利用方法(リンクオブジェクト・埋め込みオブジェクト)、キャプションの設定	
第13回	文書作成応用③ 長文作成機能(見出しの設定・アウトライン番号の設定、段落の入れ替え、目次の作成)	
第14回	文書作成応用④【課題③】 レポート作成	
第15回	前期総復習・問題解説 マークシートによる後期総合多肢選択式(75問)	

中級クラス

第1回	プレゼンテーション(PowerPoint①) 表スライド・グラフスライドの作成(復習)、文字と図のバランス(レイアウトを考える、視線の流れを理解する)、ビジュアル化への流れ(表・グラフ・チャート表現方法)
第2回	プレゼンテーション(PowerPoint②) 図解技法(図表ギャラリーの利用、オートシェイブを使った図形描画方法、レイアウトの調整・グループ化機能)、配布資料の作成(ノートの活用、スライド・配布資料の印刷)
第3回	プレゼンテーション(PowerPoint③) カラーリング(配色表現・配色の基本技法、カラーリング技法の注意点)マスタの設定、高度なアニメーションの設定、発表技法
第4回	プレゼンテーション(PowerPoint④)【課題①】 代表発表データ提出
第5回	表計算応用① 応用的な関数の利用(IF、COUNT、COUNTIF、SUMIF、IFのネスト)
第6回	表計算応用② グラフ表現(簡単なグラフの復習と複合グラフ)
第7回	表計算応用③ 複数シート間の計算(3D集計)、シート間のセル参照(リンク)
第8回	表計算応用④【課題②】 総復習 【課題②】応用的な関数を用いた計算と複合グラフの作成、複数シート間の連携利用
第9回	文書作成応用① レポート作成上の注意点(表紙やタイトルの記入、引用方法、参考文献の記入方法)、レポート作成に必要な機能(ページ設定、スタイルを使ったタイトル設定(復習)、ページ番号の挿入、傍点、ヘッダー・フッター機能)、レイアウトを考える(段組の利用)
第10回	文書作成応用② Excelからのデータ利用(リンクオブジェクト・埋め込みオブジェクト)、Excel表をWordに作る(Excelワークシートの挿入)、キャプションの設定
第11回	文書作成応用③ 長文作成機能(見出しの設定・アウトライン番号の設定、段落の入れ替え、目次の作成)
第12回	文書作成応用④【課題③】 レポート作成
第13回	HTMLでのWeb作成① Webの構造、Web作成での注意事項(ブログとWebページの違い、著作権、肖像権、accessibility・usability)、基本的なWebページ作成(TITLE、見出し、画像、リンク(別ページ・メール))
第14回	HTMLでのWeb作成② カラーコードとは、フリー素材集の利用、復習(オリジナルページを完成させる)
第15回	前期総復習・問題解説 マークシートによる後期総合多肢選択式(75問)

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind 割合 / Percentage 評価基準等 / Grading Criteria etc.

平常点(検証テスト) 100 % 出席点、課題提出状況、小テスト・最終講義日に実施する検証テストによって評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

- ・3回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。
- ・入門クラス・初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。3クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。
- ・フラッシュメモリーあるいはフロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
- ・宿題を数回、提出してもらう予定。
- ・授業に5分以上遅刻したものは欠席と見なす。

教科書 / Textbooks

書名 / Title 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

Rainbow Guide2006

///

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

情報リテラシーII SS

12094

担当者名 / Instructor 奥川 櫻豊彦

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

【入門】及び【初級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシー I における学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。論文作成、データ処理に不可欠なワードプロセッサ(Word)や表計算(Excel)、ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト(PowerPoint)の使用について確実に実習することで、主体的な学修と研究のためのスキルをより確実なものとする。

【中級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシー I における学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト(PowerPoint)のより高度な使用方法を実習により学修するとともに、ホームページの仕組みについても学ぶことで、主体的な学修と研究のためのスキルの向上と次の段階への展開を図る。

到達目標 / Attainment Objectives

コンピュータの基礎をふまえた上で応用的なスキルを修得し、産業社会学部で学ぶ4年間の学習面での活用ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

情報リテラシーIIIに引き続き、「入門」「初級」「中級」の3グレード制のクラス編成を行う。なお、情報リテラシーIの修得内容をふまえた上で、上位のグレードへの変更のみ希望を受け付ける。情報リテラシーIと同様に、各クラスの学習内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なる。さらなるスキルアップやキャリアにつながるスキル獲得を目指す場合には、情報リテラシーIIIの受講を強く勧める。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	入門・初級クラス	
第1回	プレゼンテーション(PowerPoint①) スライド作成(復習)、表スライド・グラフスライドの作成(復習)、文字と図のバランス(レイアウトを考える、視線の流れを理解する)、ビジュアル化への流れ(表・グラフ・チャート表現方)	
第2回	プレゼンテーション(PowerPoint②) 図形技法(図表ギャラリーの利用、オートシェイプを使った図形描画、レイアウトの調整・グループ化機能)	
第3回	プレゼンテーション(PowerPoint③) カラーリング(配色表現・配色の基本技法、カラーリング技法の注意点)、配布資料の作成(ノートの活用、スライド・配布資料の印刷)	
第4回	プレゼンテーション(PowerPoint④) マスターの設定、高度なアニメーションの設定、発表技法	
第5回	プレゼンテーション(PowerPoint⑤)【課題①】 代表発表、データ回収	
第6回	表計算応用(Excel①) 応用的な関数の利用(IF、COUNT、COUNTIF、SUMIF、IFのネスト)	
第7回	表計算応用(Excel②) グラフ表現(簡単なグラフの復習と複合グラフ)	
第8回	表計算応用(Excel③) 複数シート間の計算(3D集計)、シート間のセル参照(リンク)	
第9回	表計算応用④ Excelデータの活用(Word・PowerPointへの貼り付け)、埋め込みオブジェクト、リンクオブジェクト	
第10回	表計算応用⑤【課題②】 総復習 【課題②】応用的な関数を用いた計算と複合グラフの作成	
第11回	文書作成応用① レポート作成上の注意(表紙やタイトルの記入、引用方法、参考文献の記入方法)、レポート作成に必要な機能(ページ設定、スタイルを使ったタイトル設定、脚注、ページ番号の挿入、傍点、ヘッダー・フッター機能)	
第12回	文書作成応用② レイアウトを考える(段組の利用)、Excelからのデータ利用方法(リンクオブジェクト・埋め込みオブジェクト)、キャプションの設定	
第13回	文書作成応用③ 長文作成機能(見出しの設定・アウトライン番号の設定、段落の入れ替え、目次の作成)	
第14回	文書作成応用④【課題③】 レポート作成	
第15回	前期総復習・問題解説 マークシートによる後期総合多肢選択式(75問)	

中級クラス

第1回	プレゼンテーション(PowerPoint①) 表スライド・グラフスライドの作成(復習)、文字と図のバランス(レイアウトを考える、視線の流れを理解する)、ビジュアル化への流れ(表・グラフ・チャート表現方法)
第2回	プレゼンテーション(PowerPoint②) 図解技法(図表ギャラリーの利用、オートシェイブを使った図形描画方法、レイアウトの調整・グループ化機能)、配布資料の作成(ノートの活用、スライド・配布資料の印刷)
第3回	プレゼンテーション(PowerPoint③) カラーリング(配色表現・配色の基本技法、カラーリング技法の注意点)マスタの設定、高度なアニメーションの設定、発表技法
第4回	プレゼンテーション(PowerPoint④)【課題①】 代表発表データ提出
第5回	表計算応用① 応用的な関数の利用(IF、COUNT、COUNTIF、SUMIF、IFのネスト)
第6回	表計算応用② グラフ表現(簡単なグラフの復習と複合グラフ)
第7回	表計算応用③ 複数シート間の計算(3D集計)、シート間のセル参照(リンク)
第8回	表計算応用④【課題②】 総復習 【課題②】応用的な関数を用いた計算と複合グラフの作成、複数シート間の連携利用
第9回	文書作成応用① レポート作成上の注意点(表紙やタイトルの記入、引用方法、参考文献の記入方法)、レポート作成に必要な機能(ページ設定、スタイルを使ったタイトル設定(復習)、ページ番号の挿入、傍点、ヘッダー・フッター機能)、レイアウトを考える(段組の利用)
第10回	文書作成応用② Excelからのデータ利用(リンクオブジェクト・埋め込みオブジェクト)、Excel表をWordに作る(Excelワークシートの挿入)、キャプションの設定
第11回	文書作成応用③ 長文作成機能(見出しの設定・アウトライン番号の設定、段落の入れ替え、目次の作成)
第12回	文書作成応用④【課題③】 レポート作成
第13回	HTMLでのWeb作成① Webの構造、Web作成での注意事項(ブログとWebページの違い、著作権、肖像権、accessibility・usability)、基本的なWebページ作成(TITLE、見出し、画像、リンク(別ページ・メール))
第14回	HTMLでのWeb作成② カラーコードとは、フリー素材集の利用、復習(オリジナルページを完成させる)
第15回	前期総復習・問題解説 マークシートによる後期総合多肢選択式(75問)

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind 割合 / Percentage 評価基準等 / Grading Criteria etc.

平常点(検証テスト) 100 % 出席点、課題提出状況、小テスト・最終講義日に実施する検証テストによって評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

- ・3回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。
- ・入門クラス・初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。3クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。
- ・フラッシュメモリーあるいはフロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
- ・宿題を数回、提出してもらう予定。
- ・授業に5分以上遅刻したものは欠席と見なす。

教科書 / Textbooks

書名 / Title 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

Rainbow Guide2006

///

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

情報リテラシーII ST

12095

担当者名 / Instructor 上出 浩

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

【入門】及び【初級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシー I における学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。論文作成、データ処理に不可欠なワードプロセッサ(Word)や表計算(Excel)、ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト(PowerPoint)の使用について確実に実習することで、主体的な学修と研究のためのスキルをより確実なものとする。

【中級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシー I における学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト(PowerPoint)のより高度な使用方法を実習により学修するとともに、ホームページの仕組みについても学ぶことで、主体的な学修と研究のためのスキルの向上と次の段階への展開を図る。

到達目標 / Attainment Objectives

コンピュータの基礎をふまえた上で応用的なスキルを修得し、産業社会学部で学ぶ4年間の学習面での活用ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

情報リテラシーIIIに引き続き、「入門」「初級」「中級」の3グレード制のクラス編成を行う。なお、情報リテラシーIの修得内容をふまえた上で、上位のグレードへの変更のみ希望を受け付ける。情報リテラシーIと同様に、各クラスの学習内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なる。さらなるスキルアップやキャリアにつながるスキル獲得を目指す場合には、情報リテラシーIIIの受講を強く勧める。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	入門・初級クラス	
第1回	プレゼンテーション(PowerPoint①) スライド作成(復習)、表スライド・グラフスライドの作成(復習)、文字と図のバランス(レイアウトを考える、視線の流れを理解する)、ビジュアル化への流れ(表・グラフ・チャート表現方)	
第2回	プレゼンテーション(PowerPoint②) 図形技法(図表ギャラリーの利用、オートシェイプを使った図形描画、レイアウトの調整・グループ化機能)	
第3回	プレゼンテーション(PowerPoint③) カラーリング(配色表現・配色の基本技法、カラーリング技法の注意点)、配布資料の作成(ノートの活用、スライド・配布資料の印刷)	
第4回	プレゼンテーション(PowerPoint④) マスターの設定、高度なアニメーションの設定、発表技法	
第5回	プレゼンテーション(PowerPoint⑤)【課題①】 代表発表、データ回収	
第6回	表計算応用(Excel①) 応用的な関数の利用(IF、COUNT、COUNTIF、SUMIF、IFのネスト)	
第7回	表計算応用(Excel②) グラフ表現(簡単なグラフの復習と複合グラフ)	
第8回	表計算応用(Excel③) 複数シート間の計算(3D集計)、シート間のセル参照(リンク)	
第9回	表計算応用④ Excelデータの活用(Word・PowerPointへの貼り付け)、埋め込みオブジェクト、リンクオブジェクト	
第10回	表計算応用⑤【課題②】 総復習 【課題②】応用的な関数を用いた計算と複合グラフの作成	
第11回	文書作成応用① レポート作成上の注意(表紙やタイトルの記入、引用方法、参考文献の記入方法)、レポート作成に必要な機能(ページ設定、スタイルを使ったタイトル設定、脚注、ページ番号の挿入、傍点、ヘッダー・フッター機能)	
第12回	文書作成応用② レイアウトを考える(段組の利用)、Excelからのデータ利用方法(リンクオブジェクト・埋め込みオブジェクト)、キャプションの設定	
第13回	文書作成応用③ 長文作成機能(見出しの設定・アウトライン番号の設定、段落の入れ替え、目次の作成)	
第14回	文書作成応用④【課題③】 レポート作成	
第15回	前期総復習・問題解説 マークシートによる後期総合多肢選択式(75問)	

中級クラス

第1回	プレゼンテーション(PowerPoint①) 表スライド・グラフスライドの作成(復習)、文字と図のバランス(レイアウトを考える、視線の流れを理解する)、ビジュアル化への流れ(表・グラフ・チャート表現方法)
第2回	プレゼンテーション(PowerPoint②) 図解技法(図表ギャラリーの利用、オートシェイブを使った図形描画方法、レイアウトの調整・グループ化機能)、配布資料の作成(ノートの活用、スライド・配布資料の印刷)
第3回	プレゼンテーション(PowerPoint③) カラーリング(配色表現・配色の基本技法、カラーリング技法の注意点)マスタの設定、高度なアニメーションの設定、発表技法
第4回	プレゼンテーション(PowerPoint④)【課題①】 代表発表データ提出
第5回	表計算応用① 応用的な関数の利用(IF、COUNT、COUNTIF、SUMIF、IFのネスト)
第6回	表計算応用② グラフ表現(簡単なグラフの復習と複合グラフ)
第7回	表計算応用③ 複数シート間の計算(3D集計)、シート間のセル参照(リンク)
第8回	表計算応用④【課題②】 総復習 【課題②】応用的な関数を用いた計算と複合グラフの作成、複数シート間の連携利用
第9回	文書作成応用① レポート作成上の注意点(表紙やタイトルの記入、引用方法、参考文献の記入方法)、レポート作成に必要な機能(ページ設定、スタイルを使ったタイトル設定(復習)、ページ番号の挿入、傍点、ヘッダー・フッター機能)、レイアウトを考える(段組の利用)
第10回	文書作成応用② Excelからのデータ利用(リンクオブジェクト・埋め込みオブジェクト)、Excel表をWordに作る(Excelワークシートの挿入)、キャプションの設定
第11回	文書作成応用③ 長文作成機能(見出しの設定・アウトライン番号の設定、段落の入れ替え、目次の作成)
第12回	文書作成応用④【課題③】 レポート作成
第13回	HTMLでのWeb作成① Webの構造、Web作成での注意事項(ブログとWebページの違い、著作権、肖像権、accessibility・usability)、基本的なWebページ作成(TITLE、見出し、画像、リンク(別ページ・メール))
第14回	HTMLでのWeb作成② カラーコードとは、フリー素材集の利用、復習(オリジナルページを完成させる)
第15回	前期総復習・問題解説 マークシートによる後期総合多肢選択式(75問)

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(検証テスト)	100 %	出席点、課題提出状況、小テスト・最終講義日に実施する検証テストによって評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

- ・3回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。
- ・入門クラス・初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。3クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。
- ・フラッシュメモリーあるいはフロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
- ・宿題を数回、提出してもらう予定。
- ・授業に5分以上遅刻したものは欠席と見なす。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
Rainbow Guide2006	///

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

担当者名 / Instructor 小森 伸子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

社会の中の様々な事象に関して、心理学からはどのようなアプローチを試みているのかを知り、「行動の科学」としての心理学の方法論、その限界などについて学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

心理学がどのような考え方の上に成り立っているのか、社会や人間をどのように理解してきたかを知り、自分の学びに生かしていけるようになること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特に指定はしませんが、他の科目も積極的に受講し、心理学との違いについて考えておくと、より講義の意義が深まると思われます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の概要と導入	心理学は「こころ」をどのようにとらえてきたか？について歴史を踏まえて解説する
2	社会を認識する心理学	私達が外界の対象を捉える時な特徴、そのゆがみについて考える
3	考えることの心理学	外界の対象を認識したり、考えたりする際の特徴について考える
4	学ぶことの心理学	人が物事を学んでいく際の特徴について考える
5	評価することの心理学	人格検査・知能検査など他者を評価する道具としての心理学の方法について考える
6	成長することの心理学1	乳幼児期の身体・認知がどのように変化していくのかについて考える
7	成長することの心理学2	乳幼児期の社会性の発達について考える。同時に発達検査の特性と問題について考える
8	大人になることの心理学1	青年期の認知や社会との関わりかたの特性について考える
9	大人になることの心理学	アイデンティティ・自己の確立 依存と自立など青年期に特徴的な問題について考える
10	老いることの心理学	加齢による変化とそのとらえ方について考える
11	集団と個人の心理学1	社会集団の中での個人の態度変容、個人を見る時のゆがみ(偏見)などについて考える
12	集団と個人の心理学2	社会集団の中で自分をどのように提示し、自己を評価していくのかについて考える
13	集団と個人の心理学3	社会集団の中での人との関わり、友人関係・恋愛関係などについて考える
14	こころの健康と心理学1	こころの病や問題をとらえる理論的枠組みを考える
15	こころの健康と心理学1	こころの病や問題の種類や療法について考える

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	60 %	
平常点(日常的)	40 %	講義中に小レポートを2回実施する予定なので、その際の提出状況、内容評価をもって平常点とする(実施日と内容は講義期間中に告知する)

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

レジュメを配布するので、毎回講義に出席することが望まれる。

教科書 / Textbooks

教科書は特に指定しない。

参考書 / Reference Books

書名 / Title

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

「グラフィック心理学」

北尾倫彦・中島実・井上毅・石王敦子／サイエンス社／／1997年

参考図書等はレジュメ、講義中にも紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

心理検査法 S

13105

担当者名 / Instructor 目黒 朋

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本講義では、テキストを用いて心理検査の基礎を学ぶ。心理検査の歴史と発展、その意義、心理検査における数量データのとらえ方について具体的に学習する。また、心理検査の実践について、知能検査法、発達検査法、人格検査法の中から代表的なものを取り上げ、それぞれの検査の意味と具体的手法について学び、教育・福祉分野においてどのように活用されるべきかを考察する力を養う

到達目標 / Attainment Objectives

- ・心理検査の歴史、基礎となる考え方について正しく理解できる
- ・心理検査の数量的データの表す内容を考察できる
- ・心理検査の意義・特性を踏まえ、社会における活用法について考察することができる

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	心理検査の種類と歴史	
第2～5回	心理検査におけるデータ	標準偏差 回帰分析 相関係数 ルート機能のついた電卓
第6回	心理検査の実際Ⅰ－知能検査法①	知能検査の開発と発展
第7回	心理検査の実際Ⅰ－知能検査法②	ウェクスラー式知能検査
第8回	心理検査の実際Ⅱ－発達検査法①	新版K式発達検査法
第9回	心理検査の実際Ⅱ－発達検査法②	発達診断
第10回	心理検査の実際Ⅱ－発達検査法③	発達相談
第11回	心理検査の実際Ⅲ－性格検査法①	作業検査法
第12回	心理検査の実際Ⅲ－性格検査法②	質問紙法
第13回	心理検査の実際Ⅲ－性格検査法③	投影法
第14回	まとめ－心理検査の活用と心理検査者の倫理	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	55 %	
平常点(日常的)	45 %	毎回のコメントカードの提出状況および記述内容に見られる理解度や積極性。講義時間内に中間的に実施する小レポート。最低3回以上の出席を有効評価の基礎条件とする

レポート試験として実施する。日常点評価は小レポートにおいて講義の理解度を問うものと、毎回のコメントカードの提出状況および記述内容によって行う。出席を重視するので、出席が規定回数に満たない場合はレポートを受取しない。出席回数規定については第1回の講義で説明する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

心理学についての基礎的な知識を得ていることが望ましい。具体例を用いて参加型の講義を予定しているので、出席を重視します。主体的積極的に参加してほしい。データ処理の基礎について学習するので、平方根(ルート)機能のついた電卓を用意すること。いわゆる『心理ゲーム』のようなものは扱わないのでそのつもりで受講してほしい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
心理検査法入門－正確な診断と評価のために	渡部 洋 / 福村出版 / 講義内で使用するため必携

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
心理検査の実際	水田善次郎 編 / ナカニシヤ出版 /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

心理臨床論 S

15523

担当者名 / Instructor 高垣 忠一郎

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

講義の前半では生まれてから死に至るまでのライフサイクルの各発達段階における発達課題や心理的特徴をふまえ、その時期に生じがちな心の病理について話す。後半は社会的な問題になっている不登校問題、社会的引きこもり問題、少年犯罪問題に焦点をあて、そこにおける社会と心理の関わり、それらの問題を通じて問われているものは何なのかを考えたい。そして最後にまとめとして、今日の社会における心理臨床家(「心の専門家」)の役割について論じたい。

到達目標 / Attainment Objectives

- ① 人生の各時期における発達課題や心理的特徴を理解すること
- ② それぞれの時期における心の病理を理解すること
- ③ 不登校・ひきこもり・少年犯罪などの社会問題を通じて、社会と心の関係を考える手がかりをつかむこと
- ④ 以上のような理解や考察をもとに、心理臨床の存在意義や役割について考え理解する視点をもつこと

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

とくになし。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	今日の社会と心理臨床	物語・アイデンティティ・語り
	乳幼児の心理臨床	生理的早産・基本的信頼感・分離個体化
	児童期の心理臨床	異年齢集団・発達の節・自己中心生
	思春期の心理臨床	自我の目覚め・第2の誕生・親からの独立戦争
	青年期の心理臨床	アイデンティティ・モラトリアム・プロテウス的人間
	中年期の心理臨床	人生半ばの危機・世代性・価値の逆転と統合
	老年期の心理臨床	喪失体験・衰え・死
	不登校・ひきこもりの心理臨床1	高度経済成長・新幹線・高速道路
	不登校・ひきこもりの心理臨床2	学校教育・教師・子ども
	不登校・ひきこもりの心理臨床3	構造改革・規制緩和・ロストジェネレーション
	非行・少年犯罪の心理臨床1	思春期・体験世界・「いい子」の病理
	非行・少年犯罪の心理臨床2	「心の闇」・トラウマ・発達障害
	「共に待つ心たち」のセラピー文化	自助グループ・不登校・ひきこもりの「親の会」・居場所
	「心の専門家」はいらないのか	社会の心理学化・心理主義批判・セラピー文化
	予備・もし時間があれば、これまでの授業をふまえた質疑 討論の時間にあてる	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	80 %	
平常点(日常的)	20 %	授業中に出すレポート課題の提出を考慮する

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
生きることと自己肯定感	高垣忠一郎 / 新日本出版社 / //
共に待つ心たち	高垣忠一郎 / かもがわ出版 / //
揺れつ戻りつ思春期の峠	高垣忠一郎 / 新日本出版社 / //
心を商品化する社会	小沢牧子ら / 洋泉社 / //
心の専門家はいらない	小沢牧子 / 洋泉社 / //

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業の概要 / Course Outline

「身体」というテーマは、現在、実に様々な視角から論じられているテーマです。本講義は、このテーマに対して「哲学」からの接近を試みます。哲学においては、身体は様々な枠組みで語られてきましたが、これが主題的に論じられるには、20世紀の現象学者、メルロ＝ポンティを待たねばなりません。そして、哲学に限らず身体に関する様々な視角へ影響を与えた者として、フーコーの存在は大きいでしょう。そこで本講義では、1) 哲学の歴史において身体がどのように扱われてきたのか、2) メルロ＝ポンティやフーコーが、身体とその問題の多様性をどのように論じたのか、検討することになります。

到達目標 / Attainment Objectives

受講する学生は、次のことができるようになるでしょう。また、そうなるように、真剣に受講することを望みます。

- ・哲学史における基本概念を幅広く理解し、身体がどのように論じられてきたか説明できる(とくにこの目標に達することを望みます)。
- ・メルロ＝ポンティの思想において身体が中心テーマの一つであったことを、彼が論じた文脈において説明できる。
- ・異常性や生政治等に関するフーコーの見解を概説できる。

(その他、講義中に紹介する現代の思想家たちによる身体に関する言説から、現代における身体への問い方を知ることができる)

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特にありません。この講義は、哲学に関する予備知識がなくとも十分理解可能です。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の概要と導入	
第2回	1) 哲学史における身体—古代ギリシャ哲学(前ソクラテス期)	アルケー、ソーマ・セーマ理論、テオリア、ピュシス、物活論、等
第3回	1) 哲学史における身体—古代ギリシャ哲学(ソクラテス、プラトン)	イロニー、国家、魂への配慮、無知の知、等
第4回	1) 哲学史における身体—古代ギリシャ哲学(プラトン)	イデア、エロス、狂気、国家、想起、魂の区分、等
第5回	1) 哲学史における身体—古代ギリシャ哲学(アリストテレス)	可能態、形相、原因、現実態、質料、魂、同名異義問題、ピュシス、等
第6回	1) 哲学史における身体 —ヘレニズム期の哲学	アタラクシア、アディアボラ、アパテイア、コスモポリス、自然、汎神論、等。
第7回	1) 哲学史における身体 —キリスト教	アガペー、栄光の身体、サルクス、受肉、贖罪思想、聖体拝領、ソーマ、等。
第8回	1) 哲学史における身体 —キリスト教(中世)	教父、新プラトン主義、三位一体論、スコラ哲学、目的論的自然観、等。
第9回	1) 哲学史における身体—近世の哲学(ルネサンス)	医学、科学革命、機械論、人文主義、等
第10回	1) 哲学史における身体—近世の哲学(特に17世紀)	因果的相互作用説、コギト、自然的判断、実体、情念、心身の実在的区別、等
第11回	1) 哲学史における身体—近世の哲学(特に17世紀)、2) 20世紀以降の哲学における身体—フッサール	エポケー、機会原因説、厳密学、現象学的還元、二側面説、予定調和説、
第12回	2) 20世紀以降の哲学における身体—フッサールとメルロ＝ポンティ	感覚、幻影肢、現象学的還元、ゲシュタルト心理学、生活世界、反射、フィー現象、等
第13回	2) 20世紀以降の哲学における身体—メルロ＝ポンティ(現象学と古典的理論)	遠近法、共通感覚、キリスト教、自然的判断、シュナイダー症例、代償行為、手がかり、等
第14回	2) 20世紀以降の哲学における身体—メルロ＝ポンティ、フーコー	エピステーメー、狂気、現象的身体、権力、身体図式、身体の監獄である精神、二重感覚、等
第15回	2) 20世紀以降の哲学における身体—フーコー、および、その他の思想家	医療化、性、生政治、カントローヴィチ、リングス等
	(講義の進度によりスケジュールには変更の可能性があります)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

授業中に指示した文献を学習するとよいでしょう。特に、哲学史に関する部分では、多くの参考文献がありますから、自習しておくとう理解が深まるはずです。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	60 %	語句説明、および概念同士の連関に関する記述問題を出します。

平常点(日常的) 40 % 毎回授業終了後に簡単なコミュニケーションペーパーを書いてもらいます。授業の内容に関する小レポートを2回(原稿用紙1. 2枚程度)実施します。小レポートの実施時期は、授業中に指示しますが、おおむね古代、近代に関する講義が終了する度に行うことになります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書を用いない講義形式の授業ですから、毎回の講義内容を真剣に聞くことが大切です。

教科書 / Textbooks

用いません。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
ヨーロッパ思想入門	岩田靖男 / 岩波ジュニア新書 / 4-00-500441-5 C0210 / ジュニア向けの入門書ですが、哲学について全く知らない者はこれで大きな歴史の流れをつかむとよいでしょう。
西洋哲学史—理性の運命と可能性—	/ 昭和堂 / 哲学の歴史に関する知識を補うことができます。
講義・身体現象学—身体という自己—	ヴァルデンフェルス / 知泉書院 / 現象学的な身体論研究について知ることができます。
知覚の現象学	メルロ＝ポンティ / みすず書房 / メルロ＝ポンティの身体論に関しては主にこの著作から扱います。

以上の参考書は講義の全体像をつかむためのものです。その他、小レポートなどのための参考文献は授業中に指示します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

身体表現論 S

13130

担当者名 / Instructor 遠藤 保子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

我々の身体は、姿勢、しぐさ、動作などによって言語以上に雄弁にものを伝えることが可能である。こうした身体表現は、ことばならざることばであるところの非言語コミュニケーションと考えられ、コミュニケーションの重要な要素と考えられる。またその身体表現は、自然・社会・文化などと深くかかわり様式化された身体表現つまり舞踊として踊られている。こうしたことをふまえて、この講義では、1. 身体表現の概念と諸相 2. 日本と世界各国におけるさまざまな舞踊と自然・社会・文化とのかかわりを考察する。

到達目標 / Attainment Objectives

身体表現とは何か、さらに身体表現は自然・社会・文化と深くかかわっていることを学ぶことによって、受講者の「身体表現と社会・文化を見る視点」を獲得することが期待される。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

芸術と社会にかかわる科目
文化人類学

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1回	授業の概要と導入	自己紹介、授業の到達目標、成績評価方法等
2回	非言語コミュニケーションの概念	肉体、姿勢、しぐさ、空間、色彩、時間等
3回	非言語コミュニケーションと社会・文化	高コンテクスト～低コンテクスト国・文化と非言語コミュニケーション
4回	非言語コミュニケーションの分類・役割及び30分間の確認テスト	確認、修飾、代用、コミュニケーション管理、矛盾等
5回	舞踊(様式化された身体表現)の概念・現代における舞踊の意味	舞、踊り、舞踊、ダンスという言葉の意味、舞踊における聖と俗等
6回	日本の伝統舞踊(1)	古典舞踊(雅楽、能楽、歌舞伎、日本舞踊等)と民俗舞踊(神楽、田楽、風流等)のとらえかた
7回	日本の伝統舞踊(2)	表現の様式と技法、表現要素の複合化、序破急の形式、道行の形式、舞踊動作の特性
8回	中間のまとめとグループワーク・レポート提出	非言語コミュニケーションに関する多面的な討論とプレゼンテーション
9回	世界の舞踊(1)	アフリカ(特にナイジェリア)の舞踊と社会、舞踊特性と自然・社会・文化
10回	世界の舞踊(2)	アジア(特にインド)の舞踊と社会、舞踊特性と自然・社会・文化
11回	世界の舞踊(3)	欧米の舞踊(特にフォークダンス、バレエ)と自然・社会・文化
12回	現代の舞踊(4)と30分間の確認テスト実施	欧米の舞踊(特にモダンダンス、ポストモダンダンス、コンテンポラリーダンス)と自然・社会・文化
13回	クロスオーバーする現代の舞踊	現代美術、パフォーマンス等における身体表現、オルタナティブスペース
14回	舞踊教育の思潮と動向、生涯学習時代における舞踊教育	アメリカ、イギリス、日本における舞踊教育の流れ、生涯学習時代における舞踊学習内容
15回	定期試験と講評	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

授業中に紹介する参考文献を読み、自ら関係する文献を検索し、さらには実際の舞踊公演を鑑賞し、身体表現に関する知見を広め深化させる。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	60 %	試験答案における論理的な記述や授業の理解度などを評価する。
平常点(日常的)	40 %	2回の確認テスト実施と1回のレポート提出:どの程度主体的に学習し、自ら考察しようとしたのかを判定する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

無意識に行っている身体表現を意識化させ、その表現は、自然・社会・文化と深く結びついていることを考える。

教科書 / Textbooks

書名 / Title

舞踊学講義

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

舞踊教育研究会／大修館書店／4-469-26197-1／

参考書 / Reference Books書名 / Title

非言語コミュニケーション

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

マジェリー/F/ヴァーガス／新潮社／4-10-600334-1／

しぐさの世界

野村雅一／日本放送出版協会／4-14-001429-6／

異界へのメッセンジャー

姫野 翠／出帆新社／4-86103-016-1／

おどりの美学

郡司正勝／演劇出版社／4-900256-40-4／

渡来の祭り 渡来の芸能

前田憲二／岩波書店／4-00-024123-0／

舞踊と社会

遠藤保子／文理閣／4-89259-375-3／

手の日本人 足の西欧人

大築立志／徳間書店／4-19-554087-9／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference**その他 / Others**

担当者名 / Instructor 高木 正朗

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

マルサスが「人口の原理」で提起した、食糧と人口の関係にかんする命題・仮説を、この講義の「縦糸」とします。そして日本人の過去300年の人口行動(経験)を歴史人口学と生活構造論の視点からデータに基づいて解説、現代の先進諸国と開発途上国の人口問題・生活問題の本質を理解する一助としたい。トピックは、人口維持と生活水準、人口の少子・高齢化、飢饉疾病と危機的死亡増、中絶と生活水準など。

到達目標 / Attainment Objectives

人口を長期的に観察するどういうメリットがあるか。日本の歴史人口学と生活学の成果、省庁公開データなど具体的データ・事例検討を通じて理解し、予測することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	序論(講義解題、基礎概念、人口の現在)	マルサスの命題、人口の定義、人口学の諸分野、教区簿冊、world population clock
2	VTR-1「世界の地域人口は今」(アフリカ・シエラレオネ) + (小ペーパー)	シエラレオネの概要、乳児死亡、平均余命、GIS data map
3	人口再生産と生活構造-I	生活構造概念の生成史、サラリーマンの誕生、家族論
4	人口再生産と生活構造-II	家族論・家計論
5	人口再生産と生活構造-III	労働力論、生活時間・生活空間論
6	VTR-2「サラリーマンの誕生」(日本) + (小ペーパー / communication paper)	東京、産業化・都市化、明治大・正期、腰弁、学歴と賃金(帝大卒と私大卒)
7	人口再生産と生活構造-IV world population clock	階級・階層論、現代日本の人口規模・構造(population bonus, population onus)・2050年予測
8	近世人口論-I (人口データの取得)	江戸システム、幕府・諸藩の文書体系、村方・町方の文書体系、絵図、幕府・諸藩の人口調査、宗門帳(サンプル)
9	近世人口論-II (東北・太平洋諸藩の人口)	藩人口の復元、オリジナル史料、推計結果の検証
10	VTR-3「飢饉」(天明大飢饉) + (小ペーパー / communication paper)	マルサスの命題、領国財政、大坂堂島の米市場、先物取引
11	近世人口論-III (凶作・飢饉と栄養供給)	過去帳、天保飢饉、栄養(カロリー)供給-異常年と平常年【GISデジタルマップ】 庶民の暮らし、出産/出生比、人口調節(sex selective)
12	近世人口論IV・近代人口論I (東北の藩・県)	近世末期の人口減少対策、東北日本の凶作経験と食糧生産・人口移動【GISデジタルマップ】
13	VTR-4「20世紀の食糧生産」(インド、アメリカ、カザフスタン) + (小ペーパー / communication paper)	緑の革命、略奪農法/有機農法、遺伝子操作
14	現代と日本の人口指標、世界の最貧困地域は今 world population clock	テキストの主要データを抽出・確認、アフリカ・ダルフルの民族紛争と地域人口、非定住化・難民化
15	まとめと検証テスト(60分)、解説(30分)、	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(検証テスト)	70 %	到達度評価: 授業内容からキーワードを7つ程度抽出、その意味内容を説明。評価基準は説明の正確性・妥当性。
平常点(日常的)	30 %	日常的評価: 小ペーパー(A41枚程度)を3回程度提出、それを以下の基準で評価。評価基準は解説の妥当性、授業の理解度。

授業進行その他の理由で小ペーパー日に変更が生じる時は、事前に教室でアナウンス、また本オンライン・シラバス中の「授業スケジュール」に掲示。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
我が国の人口動態	厚生労働省大臣官房統計情報部(編) / 厚生統計協会 / 最新版 / 日本の人口動態指

標をコンパクトにグラフ化(安価に入手可能)

テキストは常時使用。第1回授業までに各自で購入(1200円程度)・準備しておくこと。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
18・19世紀の人口変動と地域・村・家族—歴史人口学の課題と方法—	高木正朗 / 古今書院 / 978-4-7722-4114-4 / 授業に直接関連した参考書
人口で見る日本史	鬼頭 宏 / PHP研究所 / 978-4-569-69204-3 / 日本人口の規模を通史的に概観した入門書
人口学への招待—少子・高齢化はどこまで解明されたか—	河野綱果 / 中公新書 / 978-4-12-101910-3 / 現代日本の人口問題の入門書

人口学の基本用語は「人口学大事典」(日本人口学会,2002)を参照するとよい。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

www.mhlw.go.jp/ (厚生労働省HPの統計を参照)、www.cao.go.jp/ (内閣府HP)
 www.stat.go.jp/ (総務省統計局HP)、www.ipss.go.jp/ (国立社会保障・人口問題研究所HP)
 google, yahooなどで省庁・機関名を入力してアクセス。

その他 / Others

スクールソーシャルワーク論 S

20339

担当者名 / Instructor 野田 正人

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

スクールソーシャルワークは、アメリカにおいてはソーシャルワークの草分け的分野のひとつとして長い歴史をもつものの、日本ではまだ最近知られるようになり、制度化された分野である。

この講義では、スクールソーシャルワークの理解と応用、課題などについて研究する。

到達目標 / Attainment Objectives

子どもの最善の利益を追求する活動である、スクールソーシャルワークを理解したうえで、スクールソーシャルワーカーとして活動することを念頭においての価値・知識・技術を学ぶと同時に、

教員などが、スクールソーシャルワーカーを使う場合、またスクールソーシャルワーク的な視点を身につけた活動のありようを学びます。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	スクールソーシャルワークの概要	
2	ソーシャルワークの視点の確認	児童福祉分野のソーシャルワーク
3	スクールソーシャルワークの担い手として	
4	日本の学校の特性と支援 初等教育	
5	日本の学校の特性と支援 中等教育	
6	アセスメント 情報の収集と分析	
7	校内ケース会議	
8	関係機関連携ケース会議	
9	課題別検討 児童虐待	
10	課題別検討 発達障害	
11	不登校1	
12	不登校2	
13	非行・問題行動	
14	スクールカウンセラーとスクールソーシャルワーカー	
15	スクールソーシャルワークの展望	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	60 %	日常課題の延長上のレポートを課す。
平常点(日常的)	40 %	小レポートを活用した系統的な課題学習を行うので、特に授業中や掲示に留意すること。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

2008年度から、スクールソーシャルワークが文科省により制度化される見込みが発表されており、さまざまなメディアの報道に関心をもっておいください。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
スクールソーシャルワークの可能性	山野則子・峯本耕治 / ミネルヴァ書房 / 978-4-623-04955-4 /

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

<http://jsssw.com/> 日本学校ソーシャルワーク学会

その他 / Others

スポーツクラブ論 S

20317

担当者名 / Instructor 中西 匠

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

一概にスポーツクラブといっても、学校の運動部活動、大学でのサークル活動、地域でのスポーツクラブ、職場でのスポーツチームなどその形態は多様である。この授業では、クラブの本質を踏まえ、たうえですべてのスポーツクラブに該当する組織・運営の原則を明らかにし、さまざまな現場でのその実践課題を探る。

到達目標 / Attainment Objectives

- ・スポーツクラブの組織としての特徴を、クラブの歴史的考察から導き出し、説明することができる。
- ・スポーツクラブでスポーツ組織・運営上の課題を構造的に理解し、説明することができる。
- ・クラブの形態に応じたクラブワークの方法、留意点を説明することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

なし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の概要と導入	
2	クラブとは何か スポーツクラブのルーツと基本的特徴	
3	「チーム」と「クラブ」の違い	
4	グラウンド・コート・クラブハウス クラブに必要なスポーツ環境	
5	「わりかんの原則」 活動費用の調達と分配	
6	キャプテンの役割 スポーツクラブにおけるリーダーシップ	
7	マネージャーの役割 クラブをマネジメントするとはどういうことか	
8	スポーツクラブと地域・社会とのかかわり	
9	クラブ間交流の意義と課題	
10	運動部活動の現状と課題(1) 競技力の向上と組織・運営能力の育成	
11	運動部活動の現状と課題(2) 指導体制の問題	
12	サークルとしてのスポーツクラブの可能性	
13	地域スポーツクラブの現状と課題	
14	インターネット社会におけるスポーツクラブの展望	
15	検証テスト(60分)と解説(30分)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(検証テスト)	75 %	最終回に学習成果を検証する「検証テスト」を実施する。授業内容の構造的な理解にとどまらず、受講生自身が実践課題をいかに形成しているかを重視する。
平常点(日常的)	25 %	毎回提出する「ミニレポート」を参考資料とする。授業終了時に回収し、次の授業時に内容を交流する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

授業時に資料を配布する。

参考書 / Reference Books

必要に応じてその都度紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

スポーツとジェンダー S

20295

担当者名 / Instructor 伊藤 公雄

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

スポーツ現象について、特にジェンダーの観点から考察します。ジェンダー概念の説明から開始し、生物学的性差や身体の問題などにふれつつ、文化や歴史のなかでのジェンダーとスポーツの問題について講義を行う予定です。

到達目標 / Attainment Objectives

ともすれば生物学的決定論の視点でのみ語られがちなスポーツにおける性差問題を、ジェンダーという観点からとらえ直すための力をつけることを目標にします。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	授業の概要と導入	自己紹介、授業の目的、進め方、成績評価等
第2回目	ジェンダーとは？	ジェンダー、セックス
第3回目	身体的性差とジェンダー	身体的性差、生物学、ワンセックスモデル、ツーセックスモデル
第4回目	文化のなかのジェンダーとスポーツ(1)	文化、コスモス、世界認識、ジェンダー分離
第5回目	文化のなかのジェンダーとスポーツ(2)	文化、文化変容
第6回目	歴史のなかのジェンダーとスポーツ(1)	伝統スポーツ、パフォーマンス、宗教性
第7回目	歴史のなかのジェンダーとスポーツ(2)	近代スポーツ、現代社会
第8回目	近代スポーツと<男らしさ>	男性性、産業化、近代スポーツ
第9回目	暴力とスポーツ	フーリガン、暴力、男性性、ホモフォビア
第10回目	近代スポーツと女性	女性性、教育、ジェンダー規範
第11回目	スポーツと性暴力	性暴力、セクシュアルハラスメント
第12回目	ポピュラーカルチャーのなかのジェンダー(1)	マンガ、テレビドラマ、映画、ゲーム
第13回目	ポピュラーカルチャーのなかのジェンダーとスポーツ(2)	マンガ、テレビドラマ、映画、ゲーム
第14回目	スポーツ政策とジェンダー	スポーツ政策、スポーツフォアオール
第15回目	スポーツの未来	ジェンダー、世代、障害

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	70 %	与えられた課題についてのレポート試験を課す。視点の斬新さ、裏付けとなるデータの信頼性、および議論の進め方の説得力を基準に評価する。
平常点(日常的)	30 %	授業中、授業内容にかかわるA4、1枚程度のレポート課題を出す。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
ジェンダーの社会学	伊藤公雄 / 放送大学教育振興会 / 2008年3月刊行
ジェンダーについての教科書ですが、この教科書と関連づけつつスポーツについてお話する予定です。	

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

スポーツバイオメカニクスⅢ S

20319

担当者名 / Instructor 漆原 良

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

バイオメカニクスは、生理学、解剖学、力学といった領域における知見を参考にして、身体の動きの仕組みについて解明していこうとする学問である。特にスポーツにおけるバイオメカニクスは、スポーツ技術の習得や指導を行う上で有用であるだけでなく、自分ではスポーツを行わない人にとっても経験したことのないスポーツの動きを観察したり、それを表現する際に役立つものとなる。

本講義では、数学や物理学が不得意な人でも理解できるよう、バイオメカニクスの基礎となる知識について時間をかけて説明した上で、日常目にしたことのあるスポーツの中での運動を例に、その仕組みについて考えていく。

到達目標 / Attainment Objectives

バイオメカニクスの基礎となる筋収縮や解剖学的知識について理解した上で、スポーツにおける基本的な運動についてバイオメカニクスの視点から観察できる力を養う。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

履修していなくても十分理解できるように講義を進めるが、「生理学」では、バイオメカニクスの基礎となる運動時の筋収縮やエネルギー供給過程などについて扱うため、「スポーツバイオメカニクス」をよりよく理解したいと考えている人には履修を薦める。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の概要と導入 スポーツバイオメカニクスとは	スポーツバイオメカニクス
2	からだの構造と運動	骨格, 関節運動
3	筋の収縮様式	等尺性収縮, 短縮性収縮, 伸張性収縮
4	筋を収縮させる仕組み	エネルギー供給, 随意運動, 不随意運動
5	筋自体が発揮する力	テコ
6	運動の3法則	ニュートンの法則
7	力の働かせ方	運動量, 力積, エネルギー
8	重心	重心
9	速度を測る	速度, 加速度, 角速度
10	回転運動	慣性モーメント, トルク
11	歩く, 走る運動のバイオメカニクス	走動作
12	跳ぶ運動のバイオメカニクス	跳動作
13	投げる運動のバイオメカニクス	投動作
14	打つ・蹴る運動のバイオメカニクス	打撃
15	運動のエネルギー効率とスポーツ技術	効率のよい運動とは?

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

講義開始時に講義内容に関連する知識や意見を問うことがある。講義内容を身近な運動やスポーツ競技に関連づけながら考えることがより理解を深めることにつながるため、常に講義内容を応用して自分なりに考えておいてもらいたい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	70 %	基本的な知識を理解した上で、自身の活動に結び付けて論理的な展開ができる。
平常点(日常的)	30 %	出席及び受講態度についてリアクションペーパーを中心に評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

講義内容は自然科学的なものになるが、高校時に数学や物理学、大学において関連する領域の科目を履修していない学生にも十分理解できるように講義を進める予定である。また、講義中に授業内容について理解を深めるための簡単な演習課題を課すことがあるので、常に授業に積極的な姿勢で臨んでもらいたい。

教科書 / Textbooks

特に指定しない
講義内容に応じて、随時資料を配付する。

参考書 / Reference Books

必要に応じて講義内で適宜紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

特になし

スポーツボランティア論 S

20316

担当者名 / Instructor 山下 高行

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

スポーツボランティアというアクターは日本では90年代に着目されるようになり、今日ではスポーツの場では必要不可欠な位置を占めていると言っても過言ではない。にもかかわらずこのスポーツボランティアがどのようなものであり、そこにどのような課題が存在しているか。またその望ましいあり方など、十分に理解されているわけではない。そこで本講座ではゲスト講師も交えスポーツボランティアの現状と課題について浮き彫りにし、それが「グローバルな市民社会」という視角からはどのような可能性を持っているのかを論ずることにしたい。

到達目標 / Attainment Objectives

現代社会の中でのスポーツボランティアの位置や役割について理解する。
変化するスポーツの場のなかでスポーツボランティアが果たしている役割を理解し、今後のスポーツの課題について考えられるようにする。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	講義の概要とすすめかた	スポーツボランティアとはなにか
2	ボランティアという存在	市民社会、ボランティア、新自由主義
3	スポーツの場の展開とスポーツボランティアの登場(1)	スポーツボランティア、状況の反転
4	スポーツの場の展開とスポーツボランティアの登場(2)	Jリーグ、サポーター、2002W杯
5	スポーツボランティアの多様性	障害者スポーツ、イベントボランティア、地域総合型スポーツクラブ、プロスポーツ
6	サポーターというアクターとその活動(1)	ゲスト講師(大阪サポーター協会理事長)
7	サポーターというアクターとその活動(2)	ゲスト講師(新潟アライアンス2002代表)
8	地域総合型スポーツクラブとスポーツボランティア	ゲスト講師
9	障害者スポーツとボランティア	地域、クラブ、イベント
10	プロスポーツとスポーツボランティア	地域、企業スポーツ、プロスポーツ団体
11	ボランティアの経営(1)	情報システム
12	ボランティアの経営(2)	財政システム
13	ボランティアの経営(3)	組織プロセス
14	新しい社会運動としてのボランティア	スタイル、意思表示、市民社会
15	まとめ	ボランティアとは何か

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	70 %	授業をもとに任意のテーマを設定しレポートとしてまとめる。ボランティアについての知見や経験をまとめることを目的とする。
平常点(日常的)	30 %	授業中にとる小レポートの提出。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

スポーツボランティア論はまだ十分に総括されているわけではない。一方でそれは進行中の出来事であるであるが、他方で現場の課題に十分なメスが入っていないことや、これまでなかったカテゴリーだけだったのでその位置づけも曖昧である。そのため本講義はゲスト講師を中心に現場からの声をまとめ上げる形で授業構成を行うが、講師の都合により内容等一部変更がある旨了解されたい。その場合は事前に指示することとしたい。

教科書 / Textbooks

特に用いない

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
スポーツ・ボランティアへの招待	山口泰雄編 / 世界思想社 / 4-7907-1052-1 / 網羅的に現状を説明している数少ない本。事前に読まれることをお勧めする。
現代に生きる遊牧民	アルベルト・メルツ / 岩波書店 / 4-00-000644-4 /
スポーツ・レジャー社会学	D.ジェリー、J.ホーン、清野正義他編 / 道和書院 / 4-8105-4008-1 /
その他授業中適宜指示する	

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

<http://www.jsss.jp/> (日本スポーツ社会学会HP)

その他 / Others

スポーツマネジメント論 S

20308

担当者名 / Instructor 山下 秋二

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

スポーツは個人が楽しむもの、といった時代はとくに過ぎ去ってしまったようであり、そのことを反映してか、わが国でも、スポーツマネジメントという言葉が次第に定着しつつある。それは、スポーツクラブや球団の「経営」であったり、具体的なスポーツ活動の場を提供する「サービス」であったり、監督・コーチなどの現場スタッフの手による「チームメイク」であったりする。本講義では、そうした広範囲なスポーツマネジメントの知識の中から、とくに基本的なものを整理し、提供する。

到達目標 / Attainment Objectives

- スポーツを動かす力としてのマネジメントの意味内容を幅広く理解できる。
- スポーツの経済的価値や実際の経済活動について知る。
- マーケティング・テクノロジーを各種スポーツ場面やスポーツ組織の運営に応用できる。
- スポーツのコーチングやスポーツのプロデュースに関する基礎知識を身につける

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	スポーツを動かす力	スポーツ、マネジメント、スポーツマネジメント
第2回目	スポーツマネジメントのための基礎知識	スポーツ文化、スポーツイノベーション、スポーツアドミニストレーション
第3回目	スポーツ組織の仕事	スポーツビジネス、スポーツマーケティング、スポーツオペレーション
第4回目	スポーツ市場のメカニズム	スポーツコンシューマー、購買プロセス、スポーツブランド
第5回目	スポーツビジネスの発展	スポーツイベント、クラブビジネス、プロフィットチェーン
第6回目	プロスポーツの組織化	サッカー市場、北米プロリーグ、Jリーグ
第7回目	スポーツ組織のビジネス環境	スポーツスポンサー、選手組合、スポーツエージェント
第8回目	スポーツ組織のコントロールシステム	法務的問題、長期ビジョン、スポーツ業績
第9回目	スポーツマーケティング・アプローチ	関係性マーケティング、競争対応、スポーツ倫理
第10回目	スポーツマーケティング・プロセス	ターゲティング、スポーツ満足ポートフォリオ、スポーツプロモーション
第11回目	スポーツプロダクトの概念	プロダクト構造、プロダクトライフサイクル、プロダクトミックス
第12回目	スポーツサービスの品質管理	サービス、サービスクオリティ、サービス戦略
第13回目	スポーツのチームメイク	ゼネラルマネジャー、スポーツスカウティング、チーム戦略
第14回目	スポーツのコーチング	コーチング、リーダーシップスタイル、モチベーションマネジメント
第15回目	スポーツゲームのプロデュース	スポーツプロデュース、スポーツデバイス、スターマネジメント

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

スポーツの新しい動き(とくに球団経営やチームの運営、法律や規則の改正、スポーツイベントをめぐる問題など)について敏感であること。スポーツに関する新聞記事(単なるゲーム結果ではなくコラム記事のようなもの)は日頃より注意して、よく読んでおいてください。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	毎回の授業終了後に、その授業内容に関してコメントの提出を求める。授業内容の理解度を確認する小テストを実施する。3分の2以上の出席を有効評価の基礎条件とする。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

これから何らかのかたちでスポーツを支えていこうとしている人、すでに、あるスポーツチームやスポーツ組織に属しながら実際にスポーツを支えている人、さらには、改めてスポーツマネジメントとは何かを考えてみようと思っている人たちの受講を歓迎する。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
図解 スポーツマネジメント	山下秋二／大修館書店／4469265713／毎回の授業までに該当の章を予習し、授業日には必ず教科書を持参する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title

スポーツ経営学 改訂版

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

山下秋二 / 大修館書店 / 4469264342 / 授業内容のうち、とくにスポーツ組織の経営について更に深めたいときの参考書である。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

北米スポーツマネジメント学会

<http://unb.ca/web/SportManagement/index.html>

その他 / Others

担当者名 / Instructor 川口 晋一

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本講義では、スポーツイベントとメディアがどのような関係にあるのか、スポーツ番組がどのように構成されているのか、視聴者や読者がどのような状況に置かれているのかといった問題を、スポーツ文化それ自体の特性(メディア性)をふまえて考察していく。

到達目標 / Attainment Objectives

- ・メディアスポーツの構造と機能について理解し、説明できるようにする。
- ・メディアスポーツ視聴者の楽しみがいかなるものか理解し、説明できるようにする。
- ・スポーツの意味や価値が自明のものではなく、様々な力関係もとで、一定の仕掛けを経て創り出されていることを理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の概要と導入/研究の領域と課題(1)	授業の到達目標、進め方、成績評価方法等/講義の枠組み、スポーツとメディア
2	研究の領域と課題(2)	メディアスポーツとは何か
3	メディアスポーツの構造と機能(1)	映像の構成原理を考える
4	メディアスポーツの構造と機能(2)	スポーツ番組のプロデュース
5	メディアスポーツの構造と機能(3)	その生産・流通・消費の過程
6	メディアスポーツの構造と機能(4)	プレビュー番組とは何か
7	メディアスポーツの構造と機能(5)	プレビュー番組の構造と役割
8	メディアがつくる物語(1)	問題の提示と修正について
9	メディアがつくる物語(2)	補強と脚色について
10	メディアスポーツとその消費者	「利用と満足」研究とスポーツ視聴の「多様性」
11	メディアイベント論とスポーツ(1)	メディアイベントとは何か
12	メディアイベント論とスポーツ(2)	新聞の企業化と学生野球の言説、劇場化
13	メディアイベント論とスポーツ(3)	武道の近代化・合理化、社会的意味の創造におけるメディアの役割
14	文化装置としてのスポーツ	メディアによる分節・接合
15	文化装置としてのスポーツ	作り手の意図と読み手の多様性、エンコーディング・デコーディング・モデル

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	70 %	現象や構造の理解および問題の把握、そしてそれを説明する力の検証。
平常点(日常的)	30 %	毎回、その回の授業内容に関わった小テストあるいは小レポートを時間内に課す。その提出の有無、理解度によって0, 1, 2, 3点で評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

書籍だけで学習することが難しい科目なので、授業に毎回出席して、分からないところがあれば質問をして欲しい。

教科書 / Textbooks

教科書は使用しない。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
近代日本のメディア・イベント	津金澤聰廣 / 同文館 / ISBN4-495-86281-2 / メディアイベント論に関わって参考にされたい。
越境するスポーツ	高津勝・尾崎正峰 / 創文企画 / ISBN4-921164-41-X C3075 / 「第2章 メディアスポーツ」を参照されたい。

参考書は、私が講義をする上で参考にするものであり、受講者にとっては講義の内容を確認したり、より深く、また広く学習する上で役立てることができるものである。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

必要に応じて授業の中で紹介する。

その他 / Others

受講を検討する際に、本講義が、実学的なメディア制作現場のハウ・トゥーものでないことに十分注意してもらいたい。内容は現状に対して批判的なものである。また、他学部受講を考えている学生は、本講義が産業社会学部の専門科目であることを十分考慮に入れる必要があり、単にスポーツに関心があるという理由で受講すべき科目ではない。

スポーツ規範論 S

15501

担当者名 / Instructor 山下 高行

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

スポーツの文化様式としての内容・構成要素を分析する。スポーツが単なる日常の身体活動と異なる最大の理由は、それが“ルール”によって設定された虚構空間としての特殊な活動であるからである。では、スポーツ・ルールはどのような意味を持つのか、それはどんな原則から成り立つのか、変化は何故起こるのかについて、解明する。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの構成要素のなかで、規範的要素は、技術、競争の制度などと共にスポーツを固有の文化として成り立たせる「構成的」要素の一つである。このため、ここではルールの原則にかかわる基礎的知識を理解することを通し、文化としてのスポーツの固有性について理解し、現代スポーツの深部を洞察する力を養う。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	(導入)スポーツの文化的構成と規範	(1)スポーツ文化の固有性、(2)規範
第2回	スポーツの文化的意味と構成	(1)遊び(2)競争(3)演劇(4)興奮
第3回	文化と「構成的要素」としての規範	(1)規範(2)レフリー
第4回	スポーツ・ルールの構造と機能	(1)明示的ルール(2)暗示的ルール
第5回	スポーツ・ルールの構造と機能—明示的ルールの変遷	(1)フットボール(2)器械体操
第6回	スポーツ・ルールの構造と機能—明示的ルールの構造	(1)フットボール
第7回	スポーツ・ルールの構造と機能—明示的ルールの機能	(1)オフサイド
第8回	スポーツの暗示的ルール—暗示的ルールの変遷	(1)アスレティズム(2)アマチュアリズム
第9回	スポーツの暗示的ルール—暗示的ルールの変遷	(1)身体(2)消費文化
第10回	スポーツの暗示的ルール—暗示的ルールの意味	(1)ディシプリン権力(2)パノプティコン
第11回	スポーツの演劇性	(1)ミミクリ(2)イベント
第12回	現代スポーツとルール—競争の構成	(1)メディア(2)ドーピング
第13回	現代スポーツとルール—グローバル化のなかの変化	(1)統轄機関(2)TVメディア
第14回	現代スポーツとルール—グローバル化のなかの変化	(1)グローバリゼーション(2)文明化の過程
第15回	スポーツ・ルールの構造と機能—まとめ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

担当者変更につき内容の一定の変更があることに留意されたい。詳細に関しては開講時冒頭にて説明する。

教科書 / Textbooks

特に用いない

参考書 / Reference Books

授業中適宜指示する

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

- 1)レジュメは、資料を含めて章・節ごとに教室でのみ配布する。
- 2)解らないことはその場で質問すること。解った気にならないこと。

スポーツ教育論実習I SA

20301

担当者名 / Instructor 金 尚憲

単位数 / Credit 1

授業の概要 / Course Outline

学校体育領域の一つである器械運動種目(マット、跳び箱、鉄棒、平均台)に於ける運動特性を理解し夫々の種目で技を行う際に必要な感覚、筋力、柔軟性等を体感し、それらの適性の獲得を目指し実習・学習する。又、学校体育で指導されている器械運動種目に於ける様々な技の習得・習熟を目指し実習・学習する。

到達目標 / Attainment Objectives

器械運動の指導者に必要とされる技能及び知識の獲得を目指す。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス。器械運動各種目の説明、体力作り、各種技の説明及び基本練習等々。	マット、跳び箱、鉄棒、平均台
2	器械運動の適性獲得のための体力作り、マット、鉄棒の基本練習等々。	適性獲得、マット、鉄棒
3	器械運動の適性獲得のための体力作り、マット、鉄棒、跳び箱の基本練習等々。	適性獲得、マット、鉄棒、跳び箱
4	器械運動の適性獲得のための体力作り、マット、跳び箱、平均台の基本練習等々。	適性獲得、マット、跳び箱、平均台
5	器械運動実施の際に必要な感覚、筋力、柔軟性等の理解及びそれら適性の獲得練習等々。	感覚、筋力、柔軟性
6	器械運動実施の際に必要な感覚、筋力、柔軟性等の理解及びそれら適性の獲得練習等々。	感覚、筋力、柔軟性
7	習得した技を習熟させ、より確実に実施するための練習方法の解説及び実習。	技の習熟度、実施時の確実性
8	習得した技を習熟させ、より確実に実施するための練習方法の解説及び実習。	技の習熟度、実施時の確実性
9	複数の技を組み合わせて連続して演技する実習・学習。技能テストの課題発表及びその練習。	連続技、テスト課題発表
10	複数の技を組み合わせて連続して演技する実習・学習。技能テストの課題の練習。	連続技、テスト課題
11	複数の技を組み合わせて連続して演技する実習・学習。技能テストの課題の練習。	連続技、テスト課題
12	複数の技を組み合わせて連続して演技する実習・学習。技能テストの課題の練習。	連続技、テスト課題
13	マット及び跳び箱、技能テスト。	マット、跳び箱
14	鉄棒及び平均台、技能テスト。	鉄棒、平均台
15	技能テストまとめ。	マット、跳び箱、鉄棒、平均台

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(検証テスト)	50 %	各器械運動種目の実技課題テストのできばえ及び課題技実施の確実性等です。
平常点(日常的)	50 %	左の50%は出席状況30%、授業姿勢20%です。尚、出席率が70%未満の者は評価の対象としません。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

授業は体育館で行います。ジーンズ等の普段着での授業参加はできません。体操服・体育館シューズを準備して下さい。

教科書 / Textbooks

必要に応じてプリント配付。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
体操競技研究	金 尚憲ら / タイムス / /

器械運動指導ハンドブック

中島光広ら／大修館書店／／

器械運動の授業づくり

高橋建夫ら／大修館書店／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

スポーツ教育論実習I SB

20302

担当者名 / Instructor 金 尚憲

単位数 / Credit 1

授業の概要 / Course Outline

学校体育領域の一つである器械運動種目(マット、跳び箱、鉄棒、平均台)に於ける運動特性を理解し夫々の種目で技を行う際に必要な感覚、筋力、柔軟性等を体感し、それらの適性の獲得を目指し実習・学習する。又、学校体育で指導されている器械運動種目に於ける様々な技の習得・習熟を目指し実習・学習する。

到達目標 / Attainment Objectives

器械運動の指導者に必要とされる技能及び知識の獲得を目指す。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス。器械運動各種目の説明、体力作り、各種技の基本練習等々。	マット、跳び箱、鉄棒、平均台
2	器械運動の適性獲得のための体力作り、マット、鉄棒の基本練習等々。	適性獲得、マット、鉄棒
3	器械運動の適性獲得のための体力作り、マット、鉄棒、跳び箱の基本練習等々。	適性獲得、マット、鉄棒、跳び箱
4	器械運動の適性獲得のための体力作り、マット、跳び箱、平均台の基本練習等々。	適性獲得、マット、跳び箱、平均台
5	器械運動実施の際に必要な感覚、筋力、柔軟性等の理解及びそれら適性の獲得練習等々。	感覚、筋力、柔軟性
6	器械運動実施の際に必要な感覚、筋力、柔軟性等の理解及びそれら適性の獲得練習。	感覚、筋力、柔軟性
7	習得した技を習熟させ、より確実に実施するための練習方法の解説及び実習。	技の習熟度、実施時の確実性
8	習得した技を習熟させ、より確実に実施するための練習方法の解説及び実習。	技の習熟度、実施時の確実性
9	複数の技を組み合わせ連続して演技する実習・学習。技能テストの課題発表及びその練習。	連続技、テスト課題発表
10	複数の技を組み合わせ連続して演技する実習・学習。技能テストの課題の練習。	連続技、テスト課題
11	複数の技を組み合わせ連続して演技する実習・学習。技能テストの課題の練習。	連続技、テスト課題
12	複数の技を組み合わせ連続して演技する実習・学習。技能テストの課題の練習。	連続技、テスト課題
13	マット及び跳び箱、技能テスト。	マット、跳び箱
14	鉄棒及び平均台、技能テスト。	鉄棒、平均台
15	技能テストまとめ。	マット、跳び箱、鉄棒、平均台

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(検証テスト)	50 %	各器械運動種目の実技課題テストのできばえ及び課題技実施の確実性等です。
平常点(日常的)	50 %	左の50%は出席状況30%、授業姿勢20%です。尚、出席率が70%未満の者は評価の対象としません。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

授業は体育館で行います。ジーンズ等の普段着での授業参加はできません。体操服・体育館シューズを準備して下さい。

教科書 / Textbooks

必要に応じてプリント配付。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
体操競技研究	金 尚憲ら / タイムス / /

器械運動指導ハンドブック

中島光広ら／大修館書店／／

器械運動の授業づくり

高橋建夫ら／大修館書店／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

スポーツ教育論実習Ⅲ SA

20544

担当者名 / Instructor 石田 智巳、山下 高行

単位数 / Credit 1

授業の概要 / Course Outline

本スポーツ教育論実習は、水泳のうち競泳を中心として、各種泳法、スタート、ターンやそれらの指導法を学ぶことを目的として行うものである。実習は基本的にプールで行うため、実技を中心としてその合間に指導法やトレーニング法などを学ぶこととなる。

到達目標 / Attainment Objectives

- 1)近代4泳法(クロール, 平泳ぎ, 背泳, バタフライ), ターン, スタートの習得
- 2)初心者指導と各種泳法の指導法の習得

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーション	プレテスト
2	泳法指導1	クロール
3	泳法指導2	平泳ぎ
4	泳法指導3	バタフライ
5	泳法指導4	
6	苦手な泳法への挑戦1	
7	苦手な泳法への挑戦2	
8	苦手な泳法への挑戦3	
9	初心者指導	
10	個人メドレーとメドレーリレー	
11	スタートとターン	
12	指導形態と指導手段	
13	水泳のトレーニング法	耐乳酸, 最大酸素摂取量の向上
14	着衣泳と安全の確保	
15	ファイナルテストと解説	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	20 %	初心者指導に関する知識と学校における水泳指導の困難さをどう克服するのかを具体的に論述できているかを問う。
平常点(検証テスト)	60 %	ファイナルテストにて泳法ならびに指導法のチェックを行う。
平常点(日常的)	20 %	出席状況や体調管理などから評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
水泳指導教本	日本水泳連盟編/大修館書店/4-469-26575-6/

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

スイムスーツ, スイミングキャップ, ゴーグル等は各自で用意すること。その他実習上の諸注意など、夏休み前に授業履修上の必須の事項についてオリエンテーションを行うので必ず参加すること。

スポーツ教育論実習II SA

17128

担当者名 / Instructor 遠藤 保子

単位数 / Credit 1

授業の概要 / Course Outline

この授業では、スポーツ教育論のなかでも特にダンスに焦点をあてて、理論的な学習をもとに、ダンスの基本動作や技術などを確実に身につけると同時に、ダンス実践を通じてダンスの理念、方法、ダンスの指導法についても習得する。そのために、受講生によるダンスの模擬授業を行ったり、指導案を作成することもある。(ダンスができる服装、靴などを準備すること)

到達目標 / Attainment Objectives

授業の目標は、ダンスの理論的な学習を行い、ダンスの基本動作や技術などを確実に身につけると同時に、ダンスの模擬授業を通じてダンスの理念や方法、ダンスの指導法、ダンスの指導案作成についても習得することにある。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	授業の概要と導入	授業目標、授業のスケジュール、成績評価方法、自己紹介
第2回目	課題学習の原則と進め方	踊り・創る・観る、ダンスの全体験、イメージ課題、運動課題
第3回目	発達課題と学習	イメージと運動、運動課題、イメージ課題、走る一跳ぶ一回る、雷と稲妻等
第4回目	単元計画の進め方	授業の目標、1時間の授業の時間配分、1単元の計画
第5回目	運動課題とイメージをつなぐ指導	メリハリをもった課題の動き、イメージをもって踊る、クラス内での鑑賞、出し合ったイメージから新しい創造
第6回目	1時間完結の学習から作品作りへつなぐ授業	運動課題、イメージ課題、構成課題、全習と分習、作品作り、発表・鑑賞
第7回目	中間のまとめ	課題学習の概念、指導項目、指導内容
第8回目	課題学習の実践(1)	伸びる一縮む、空間の変化と速さの変化、運動からイメージ、イメージから運動
第9回目	課題学習の実践(2)	新聞紙一流れの動きの創造、新聞紙を使用したイメージと動きの体験
第10回目	課題学習の実践(3)	音による動き、鈴、太鼓、カスタネット、マラカス
第11回目	課題学習の実践(4)	コンタクトインプロヴィゼーション、他者と触れ合う、かかわりからできる動き
第12回目	課題の連続・創作	これまでの課題による自由な創作、小作品創作
第13回目	創作	テーマに即した内容、グループによる作品創造
第14回目	創作・発表・鑑賞	題名をつけた作品、作品発表、作品鑑賞
第15回目	総まとめ、レポート提出	課題学習に関する学び、感想・意見の提出

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	30 %	レポート課題に関して、論理的に記述されているのかなどを評価する。
平常点(日常的)	70 %	ダンスの理論と課題学習ができたか、ダンスの指導に関するポイントが習得できたか、などを評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
こどもと教師とでひらく表現の世界	松本千代栄 / 大修館書店 / 4-469-26107-6 /

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

スポーツ教育論実習II SB(ダンス)

本文無し

担当者名 / Instructor単位数 / Credit授業の概要 / Course Outline到達目標 / Attainment Objectives履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study授業スケジュール / Course Schedule(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods教科書 / Textbooks参考書 / Reference Books参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Referenceその他 / Others

スポーツ教育論実習IV SA

20306

担当者名 / Instructor 山下 秋二

単位数 / Credit 1

授業の概要 / Course Outline

各種球技の技能を習得させ、さらに、ひとりひとりを活かすチーム戦術の考案から個性的なチームづくりの学習に発展させるためには、どんな内容(教材)をどんなかたちで用意したらよいかを研究する。このテーマを研究するために、受講者自らが球技の模擬授業を計画し、実践する。

到達目標 / Attainment Objectives

- 各種球技の特性を理解する。
- 球技の授業づくりができる。
- 生徒の立場から、それぞれの授業でのめあてが言える。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	ゴール型ボールゲーム①:バスケットボール(その1)	技術紹介、モチベーションエクササイズ
第2回目	ゴール型ボールゲーム①:バスケットボール(その2)	技能・戦術練習、修正されたゲーム
第3回目	ゴール型ボールゲーム①:バスケットボール(その3)	チーム練習、ゲーム運営
第4回目	ゴール型ボールゲーム②:サッカー(その1)	技術紹介、モチベーションエクササイズ
第5回目	ゴール型ボールゲーム②:サッカー(その2)	技能・戦術練習、修正されたゲーム
第6回目	ゴール型ボールゲーム②:サッカー(その3)	チーム練習、ゲーム運営
第7回目	ゴール型ボールゲーム③:ハンドボールまたはフラッグフットボール(その1)	技術紹介、モチベーションエクササイズ
第8回目	ゴール型ボールゲーム③:ハンドボールまたはフラッグフットボール(その2)	技能・戦術練習、修正されたゲーム
第9回目	ゴール型ボールゲーム③:ハンドボールまたはフラッグフットボール(その3)	チーム練習、ゲーム運営
第10回目	ネット型ボールゲーム①:バレーボール(その1)	技術紹介、モチベーションエクササイズ
第11回目	ネット型ボールゲーム①:バレーボール(その2)	技能・戦術練習、修正されたゲーム
第12回目	ネット型ボールゲーム①:バレーボール(その3)	ペア練習、ゲーム運営
第13回目	ネット型ボールゲーム②:テニスまたはバドミントン(その1)	技術紹介、モチベーションエクササイズ
第14回目	ネット型ボールゲーム②:テニスまたはバドミントン(その2)	技能・戦術練習、修正されたゲーム
第15回目	ネット型ボールゲーム②:テニスまたはバドミントン(その3)	ペア練習、ゲーム運営

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	3分の2以上の出席が必要であり、その上で、模擬授業への協力、授業づくりのアイデア(担当授業時に指導案の提出を求める)などが評価される。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
ボールゲーム指導事典	G. シュテラー / 大修館書店 / 4469062073 /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

担当者名 / Instructor 山下 秋二

単位数 / Credit 1

授業の概要 / Course Outline

各種球技の技能を習得させ、さらに、ひとりひとりを活かすチーム戦術の考案から個性的なチームづくりの学習に発展させるためには、どんな内容(教材)をどんなかたちで用意したらよいかを研究する。このテーマを研究するために、受講者自らが球技の模擬授業を計画し、実践する。

到達目標 / Attainment Objectives

- 各種球技の特性を理解する。
- 球技の授業づくりができる。
- 生徒の立場から、それぞれの授業でのめあてが言える。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	ゴール型ボールゲーム①:バスケットボール(その1)	技術紹介、モチベーションエクササイズ
第2回目	ゴール型ボールゲーム①:バスケットボール(その2)	技能・戦術練習、修正されたゲーム
第3回目	ゴール型ボールゲーム①:バスケットボール(その3)	チーム練習、ゲーム運営
第4回目	ゴール型ボールゲーム②:サッカー(その1)	技術紹介、モチベーションエクササイズ
第5回目	ゴール型ボールゲーム②:サッカー(その2)	技能・戦術練習、修正されたゲーム
第6回目	ゴール型ボールゲーム②:サッカー(その3)	チーム練習、ゲーム運営
第7回目	ゴール型ボールゲーム③:ハンドボールまたはフラッグフットボール(その1)	技術紹介、モチベーションエクササイズ
第8回目	ゴール型ボールゲーム③:ハンドボールまたはフラッグフットボール(その2)	技能・戦術練習、修正されたゲーム
第9回目	ゴール型ボールゲーム③:ハンドボールまたはフラッグフットボール(その3)	チーム練習、ゲーム運営
第10回目	ネット型ボールゲーム①:バレーボール(その1)	技術紹介、モチベーションエクササイズ
第11回目	ネット型ボールゲーム①:バレーボール(その2)	技能・戦術練習、修正されたゲーム
第12回目	ネット型ボールゲーム①:バレーボール(その3)	ペア練習、ゲーム運営
第13回目	ネット型ボールゲーム②:テニスまたはバドミントン(その1)	技術紹介、モチベーションエクササイズ
第14回目	ネット型ボールゲーム②:テニスまたはバドミントン(その2)	技能・戦術練習、修正されたゲーム
第15回目	ネット型ボールゲーム②:テニスまたはバドミントン(その3)	ペア練習、ゲーム運営

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	3分の2以上の出席が必要であり、その上で、模擬授業への協力、授業づくりのアイデア(担当授業時に指導案の提出を求める)などが評価される。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
ボールゲーム指導事典	G. シュテラー / 大修館書店 / 4469062073 /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

スポーツ行政論 S

20314

担当者名 / Instructor 権 学俊

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

1976年欧州審議会の「ヨーロッパスポーツ・フォー・オール憲章」、1978年ユネスコの「体育・スポーツに関する国際憲章」においてスポーツは人々の基本的権利としてうたわれている。この基本的権利を保障する役割をスポーツ行政は担っているとされる。日本のスポーツ発展は行政と密接に結びついて発展してきたが、本講義では、これまでの日本のスポーツ行政の概要を概観し、現代日本の抱えているスポーツ発展の諸問題について検討するとともに、地域スポーツやスポーツ行政の現場で利用することができる基礎的知識の習得を目指す。

まず、どのような法的根拠によってスポーツ行政が行われているのかを把握し、スポーツ行政における制度、組織体制、財政、スポーツ振興施策について把握してみる。また、地方自治体のスポーツ行政の事例検討と諸外国のスポーツ行政の特徴を検討することによって、日本スポーツ行政に関する問題点と課題を理解していく。

到達目標 / Attainment Objectives

学生の皆さんとともにスポーツ行政について考え、意見を述べあえる授業を目指す。

- 1) スポーツ行政の概念と目的、意義を理解する。
- 2) スポーツ行政と法律の関係を理解し、それらと関係づけることができる。
- 3) スポーツ行政の具体化としての政策・施策を検証し、判断することができる。
- 4) スポーツ行政の事例を収集・対比し、検証することができる。(地方自治体のスポーツ行政事例を発表する)
- 5) 日本におけるスポーツ行政の歴史の変遷と現状及び課題を理解する。
- 6) 諸外国におけるスポーツ行政を理解する。
- 7) 与えられたテーマに対して自らの考えを表現できる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「スポーツ政策論」

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	スポーツ行政についての概要と導入(シラバス説明、本講の目的・内容、学習の進め方、評価などについての概説)	概説、シラバス、評価
2	スポーツ行政の概念・意義や目的、日本のスポーツ行政と関係法令、スポーツ行政における法的根拠	行政、政府、地方自治体、スポーツ振興法、教育基本法、社会教育法、スポーツ振興基本計画
3	国におけるスポーツ行政組織とスポーツ振興施策	文部科学省、経済産業省(通産省)、国土交通省(建設省)、総務省、中央教育審議会(保健体育審議会)
4	スポーツ行政と政治との関係	政治、行政、東京オリンピック、モスクワオリンピック、国家主義
5	スポーツ行政と経済との関係	経済、行政、地域振興
6	スポーツ行政の財政施策 — スポーツ財政	財政行政、予算編成、執行
7	競技スポーツ(競技力向上政策)とスポーツ行政	国民体育大会、選手強化体制、勝利至上主義、ナショナルリズム、日本オリンピック委員会
8	学校体育・生涯スポーツ振興施策とスポーツ行政	学校、教科体育、部活、スポーツ権、スポーツ振興基本計画、民営化、民間
9	障害者と高齢者、在日外国人のスポーツ振興施策	福祉国家、共生、パラリンピック、ねんりんピック
10	諸外国のスポーツ行政	イギリス、ドイツ、アメリカ、フランス、韓国
11	地方自治体のスポーツ行政組織(スポーツ行政)とスポーツ振興施策	教育委員会、スポーツ振興審議会、地域振興、地方分権
12	地方自治体スポーツ行政の事例検討(1)	地方自治体、スポーツ行政
13	地方自治体スポーツ行政の事例検討(2)	地方自治体、スポーツ行政
14	地方自治体スポーツ行政の事例検討(3)	地方自治体、スポーツ行政
15	日本スポーツ行政の示唆点と意味 — ポスト福祉国家とスポーツ行政	まとめ、福祉国家、NPO

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

授業内容に関してレポートを課す場合がある。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	50 %	1.講義で取り上げたテーマについてきちんと理解できているかどうかを評価する。(講義内容の理解度) 2.主題の明確な把握と論述の根拠、批判・批評の論点、自分の考えを論理的に述べているかどうか、文章の完成度などを総合的に評価。

平常点(日常的)

- 50 % 1. 講義に関する意見や感想などを書いてもらい、それを評価する。
2. 感想文をもって出欠をとり、それを平常点として評価する。

地方自治体のスポーツ行政に関する簡単なグループ発表がありうる。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

受講者は自分の意見や感想などを発表できる力を授業を通して身につけてほしい。積極的に授業に参加することが求められる。

教科書 / Textbooks

テキストは特になし。講義時にプリントを配布し、テキストとする。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
スポーツの行政学	中村祐司 / 成文堂 / 4-7923-3203-6 / スポーツ行政をめぐる政策ネットワークについて
スポーツの法と政策	同志社スポーツ政策フォーラム編 / ミネルヴァ書房 / 4-623-03200-0 / スポーツ振興と行政について
スポーツの経済学	池田勝・守能信次編 / 杏林書院 / 4-7644-1554-2 / スポーツと経済の結びつきについて
障害者とスポーツ	高橋 明 / 岩波書店 / 4-00-430896-8 / 障害者スポーツの歴史について
スポーツ・ボランティアへの招待	山口泰雄編 / 世界思想社 / 4-7907-1052-1 / スポーツ・ボランティアの社会的側面について

その他、参考文献は毎回の講義時に紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

文部科学省 <http://www.mext.go.jp/>
 厚生労働省 <http://www.mhlw.go.jp/>
 長寿社会開発センター <http://www.nenrin.or.jp/center/pic/>
 (財)日本体育協会 <http://www.japan-sports.or.jp/>
 (財)日本オリンピック委員会 <http://www.joc.or.jp/>
 (財)日本障害者スポーツ協会 <http://www.jsad.or.jp/>
 独立行政法人日本スポーツ振興センター <http://www.naash.go.jp/>
 (財)日本スポーツクラブ協会 <http://www.jsca21.or.jp/>
 (財)日本体育施設協会 <http://www.jp-taiikushisetsu.or.jp/>

その他 / Others

ゲストスピーカーによる講義がある。
 講義の理解度を高めるため、講義に関連するビデオ鑑賞もありうる。

スポーツ行動論 S

13100

担当者名 / Instructor 市井 吉興

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

社会理論は「スポーツ」を把握する試みを通じて、理論そのものの魅力や豊かさを深めてきた。そこで、本講義の目的は、社会理論がスポーツのように扱い、それを通じて社会理論がどのように発展してきたのかという相関関係に注目し、そこから社会理論のアクチュアリティを検討することにある。そのさい、本講義では、スポーツ研究において様々な成果をあげてきたエリアス学派に注目し、この学派が依拠するノルベルト・エリアスの社会理論とスポーツをめぐる諸問題を検討したい。

到達目標 / Attainment Objectives

エリアス学派のスポーツ研究を通じて、受講生がスポーツの問題を「社会的文脈」と関連づけて理解することを目指す。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし。強いていえば社会学史、社会学理論を扱った講義を受講している、受講したことが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス	今後の講義のアウトラインの提示と成績評価方法の確認。
2	エリアスの社会理論①	エリアスの「文明化過程論」を考察。
3	エリアスの社会理論②	エリアスの「フィギュレーション」という概念を考察。
4	エリアスの社会理論③	オランダ・エリアス学派による「脱形式化論」を考察。
5	文明化過程におけるスポーツの発生①	暴力抑制としての近代スポーツの誕生
6	文明化過程におけるスポーツの発生②	民衆娯楽から「スポーツ」への転換点を探る
7	文明化過程におけるスポーツの発生③	パブリックスクールとスポーツとの関係
8	文明化過程におけるスポーツの発生④	「興奮の探求」としてのスポーツとは、どういうことなのか？
9	スポーツにおける暴力の問題①	フリーガニズムとはなにか？
10	スポーツにおける暴力の問題②	現在のフリーガン研究を概観する。
11	スポーツにおけるジェンダーの問題①	男性とスポーツ
12	スポーツにおけるジェンダーの問題②	女性とスポーツ
13	スポーツにおけるジェンダーの問題③	ある女性競艇選手の性転換を事例にして考察。
14	スポーツにおけるジェンダーの問題④	ゲイ・スポーツの現在
15	まとめ	これまでの講義を確認し、近代スポーツを相対化し、再構成する起点を提示。

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	90 %	①講義内容の理解 ②各自の問題設定の仕方
平常点(日常的)	10 %	進度に合わせた簡単なレポートや感想文の提出。「抜き打ち」の出欠確認でもある。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特定のテキストを使用せず、講義毎にレジュメを配布する。なお、講義において視聴覚教材を用いることもある。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
Sport and Leisure in Social Thought	Grant Jarvie and Joseph Maguire / Routledge / 0-415-07704-4 /
Sport and Modern Social Theorists	Richard Giulianotti(ed) / Palgrave / 0-333-80079-6 /
スポーツ・レジャー社会学: オールタナティブの現在	デービッド・ジェリー他編 / 道和書院 / 4-8105-4008-1 /
スポーツの近代史社会学	リチャード・グルノー / 不昧堂 / 4-8293-0360-3 /
社会学思想小史	アラン・スウィンジウッド / 文理閣 / 4-89259-128-9 /

問題としてのスポーツ

エリック・ダニング／法政大学出版局／4-588-02222-9／

スポーツと文明化

ノルベルト・エリアス、エリック・ダニング／法政大学出版局／4-588-00492-1／

講義ごとに改めて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

スポーツ産業論 S

13061

担当者名 / Instructor 川口 晋一

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

全体を通して「スポーツ産業」とは何か、それはどうあるべきかという問いを投げかける。内容としては、1980年代から1990年代にかけて、通産省によってそれが奨励されたのはなぜか、そこで提示されたプランの何がどう問題なのか、なぜ失敗したのかなどについて考えるところから話し始める。さらにそこから内容を深め、日本の労働生活と余暇生活、地域経済と国土開発といったスポーツ産業が成り立つ基盤を重視して話しを進めていく。

到達目標 / Attainment Objectives

- ・通産省のスポーツ産業政策の意味や位置づけを理解し、その問題を説明できるようにする。
- ・戦後日本の余暇と労働の関係について理解し、スポーツ・レジャーの状況について説明できるようにする。
- ・日本の国土開発計画と国民の生活の関係について理解し、レジャー・スポーツ生活の問題点について説明できるようにする。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の概要と導入/スポーツ産業を考える視点	授業の到達目標、進め方、成績評価方法等/日本のスポーツ政策:文部省と通産省
2	通産省のスポーツ産業政策(1)	『スポーツビジョン21』スポーツ産業の理念と役割
3	通産省のスポーツ産業政策(2)	『スポーツビジョン21』スポーツ産業の現状と課題
4	通産省のスポーツ産業政策(3)	『スポーツビジョン21』スポーツ産業振興の基本指針
5	戦後日本のレジャー・スポーツ(1)	高度成長経済、「消費革命」「自由時間」、娯楽・スポーツの組織化
6	戦後日本のレジャー・スポーツ(2)	産業立地政策と国民の余暇・スポーツ
7	戦後日本のレジャー・スポーツ(3)	内需拡大政策とスポーツ産業の展開
8	戦後日本のレジャー・スポーツ(4)	「企業社会」における自由時間の分断と消費的レジャー・スポーツ
9	戦後日本のレジャー・スポーツ(5)	長時間・過密労働、過労死問題と余暇・スポーツ産業
10	国土開発・地域経済とスポーツイベント(1)	長野オリンピック
11	国土開発・地域経済とスポーツイベント(2)	大阪五輪招致
12	国土開発・地域経済とスポーツイベント(3)	大阪市のスポーツ
13	経済とスポーツ政策(1)	外国の事例、戦後ドイツのスポーツ政策
14	経済とスポーツ政策(2)	外国の事例、ドイツにおける消費経済の進行とスポーツ・クラブの変容
15	経済とスポーツ政策(3)	グローバル化時代と公共スポーツの破壊・スポーツ産業

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	70 %	講義で提示した内容の理解とそれを説明する力の検証。
平常点(日常的)	30 %	毎回、その回の授業内容に関わった小テストあるいは小レポートを時間内に課す。その提出の有無、理解度によって0, 1, 2, 3点で評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

自習が難しい対象を扱った講義なので、できるだけ休まずに授業に出席してほしい。

教科書 / Textbooks

テキストは使用しない。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
スポーツビジョン21—スポーツ産業研究会報告書—	通産省産業政策局編 / (財)通産産業調査会 / ISBN4-8065-2360-7 / 内容を批判的に分析する。
企業社会と余暇	榊瀧俊子 / 学陽書房 / ISBN4-313-81401-9 / 戦後日本の余暇と労働の状況を紹介するために使う。

参考書は、私が講義をする上で参考にするものであり、受講者にとっては講義の内容を確認したり、より深く、また広く学習する上で役立てることができるものである。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

必要に応じて授業内で紹介する。

その他 / Others

授業の概要 / Course Outline

本講義は、江戸時代後期から高度経済成長期にかけての日本における近代スポーツの展開過程に加えて、運動会やラジオ体操などといった日本独自の身体運動文化の展開過程についても検討することによって、広い意味での「スポーツ」という視点から日本の近現代史を捉え直していくことを目的としている。したがって受講者には日本近現代史についての最低限の知識を持っていることが望まれるが、あくまでもスポーツの展開過程に関する話題が中心なので、一般的知識については適宜講義の中で補いながら説明することを心がけたいと考えている。

到達目標 / Attainment Objectives

19世紀後半以降に日本に伝播・普及した近代スポーツは、元来日本社会に根を持たない身体運動文化であり、当時の日本人にとってはまさに“異文化”であったと言える。そうした“異文化”としての近代スポーツが日本中に普及したことは、近代日本にとって一体どのような意味を持っていたのか。さらには、日本人にとって近代スポーツとは、真の意味で必要不可欠な文化であると言えるのか。本講義では、そういった「日本人とスポーツの関係性」に関する様々な問いについて受講生にも考えてもらうことによって、日本人に合った形でのスポーツ文化への関与のあり方を常に模索できるような姿勢が養われることを望みたい。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	「日本人とスポーツ」の現在	スポーツ実践の「日常化・個人化」
第2回	江戸時代後期における身体技芸と養生法	武芸、相撲、着物社会、『養生訓』
第3回	明治時代における近代スポーツの普及過程[1]	「健康」概念や体操の普及
第4回	明治時代における近代スポーツの普及過程[2]	運動会の社会史
第5回	明治時代における近代スポーツの普及過程[3]	女性と近代スポーツ
第6回	明治時代における近代スポーツの普及過程[4]	“精神野球”の形成
第7回	明治時代における近代スポーツの普及過程[5]	「武道」の誕生
第8回	スポーツの「企業化」の始まり	新聞社、私鉄会社、スポーツイベント
第9回	昭和初期におけるスポーツの大衆化[1]	“野球狂時代”、“スポーツ狂時代”、“職業野球”の出現
第10回	昭和初期におけるスポーツの大衆化[2]	権力装置としてのスポーツ
第11回	昭和初期におけるスポーツの大衆化[3]	ラジオ体操の社会史
第12回	戦時体制下におけるスポーツ	「幻の東京オリンピック」とその周辺
第13回	高度経済成長期におけるスポーツ[1]	東京オリンピック①
第14回	高度経済成長期におけるスポーツ[2]	東京オリンピック②
第15回	高度経済成長期におけるスポーツ[3]	スポーツにおける“根性”の賞賛

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	70 %	授業内容全体の理解度を重視する。
平常点(日常的)	30 %	数回に一度の割合で、授業の感想・質問・要望等を授業後に書いてもらい、それを日常点として組み入れる。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

近代日本のスポーツに関する社会史研究は、ここ20～30年の間に画期的に進展してきてはいるものの、その通史に関するまとまった文献で、現在入手が容易なものほとんどない。なので、講義の中で紹介する様々な文献は言わば各論的なものばかりだが、どの文献からも日本のスポーツ史に関する新鮮な知見を得られることは間違いない。積極的に目を通すようにしてもらいたい。

教科書 / Textbooks

テキストは特に指定しない。講義の中で参考文献を適宜紹介する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「健康」の日本史	北澤一利／平凡社／4-582-85068-5／明治時代における「健康」概念と体操の普及に関する文献
運動会と日本近代	吉見俊哉 他／青弓社／4-7872-3167-7／近代日本において運動会が持った意味とは何か？

権力装置としてのスポーツ	坂上康博／講談社／4-06-258136-1／「思想善導」政策としてのスポーツの意味
にっぽん野球の系譜学	坂上康博／青弓社／4-7872-3187-1／日本独特の“精神野球”の実像とは？
ラジオ体操の誕生	黒田勇／青弓社／4-7872-3165-0／ラジオ体操は戦時下の国民を動員し得たか？
武道の誕生	井上俊／吉川弘文館／4-642-05579-7／近代以降の武道の栄光と挫折
日本近代スポーツ史の底流	高津勝／創文企画／40523336／戦前期のスポーツに関する通史的文献
皇紀・万博・オリンピック	古川隆久／中央公論新社／4-12-101406-5／「幻の東京オリンピック」をめぐる欲望の追求
戦後野球マンガ史	米沢嘉博／平凡社／4-582-85154-1／“スポ根マンガ”とその周辺
近代スポーツの実像	中村敏雄／創文企画／978-4-921164-60-7／日本人にとっての近代スポーツの意味とは？

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

スポーツ文化史料情報館 <http://www.eonet.ne.jp/~otagiri/>

(「論壇サロン」中の論文「江戸後期百年に探る『スポーツする身体』」や、「日本スポーツ史年表」などが参考になる)

その他 / Others

スポーツ指導論 S

20311

担当者名 / Instructor 中西 匠

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

スポーツがひとびとの生活に深く浸透し、その指導者の役割・責任は非常に大きくなってきている。一概にスポーツを指導するといっても、スポーツの「何を」「だれに」「どのように」指導するのかを指導者自身が明確化できていない場合は、その指導は効果をあげられないばかりではなく、逆効果になることもある。

この授業では、実例や受講生自身の経験を交流しながら、指導対象に応じたスポーツの指導内容と、効果的な指導方法の原則を明らかにする。

到達目標 / Attainment Objectives

- ・スポーツを文化として捉えたうえでスポーツの指導内容を構造的に理解し、説明することができる。
- ・受講生自身の経験や具体的事例を踏まえ、今日のスポーツ指導の課題を明らかにすることができる。
- ・対象者に応じたスポーツ指導の方法、留意点を説明することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

なし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	スポーツの構造的理解とスポーツ指導の概念	
2	過去の経験に学ぶスポーツ指導の現状と魅力	
3	スポーツ指導における技術認識と技能習熟の関係	
4	戦略・戦術の構造とその指導	
5	技術指導の系統性	
6	直接的な指導と間接的な指導	
7	スポーツ指導における計画—実践—評価のサイクル	
8	スポーツの「見かた」の指導	
9	一貫的な指導と体制づくり	
10	スポーツ指導と安全管理	
11	「アスリート」と「市民スポーツ」の区別と関連	
12	「子どもスポーツ」の指導	
13	「性別」「年齢」とスポーツ指導の焦点	
14	「しょうがい者スポーツ」の現状と課題	
15	検証テスト(60分)と解説(30分)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

なし

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(検証テスト)	75 %	最終回に学習成果を検証する「検証テスト」を実施する。授業内容の構造的な理解にとどまらず、受講生自身が実践課題をいかに形成しているかを重視する。
平常点(日常的)	25 %	毎回提出する「ミニレポート」を参考資料とする。授業終了時に回収し、次の授業時に内容を交流する。te

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

授業ごとに資料を配布する。

参考書 / Reference Books

必要に応じてその都度紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

スポーツ社会学 S

13144

担当者名 / Instructor 山下 高行

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツを社会学する」とはどのようなことだろうか。そうすることで何が見えてくるのだろうか。本講義では、この問いに答えるためこれまで研究されてきたスポーツ社会学の代表的研究や理論の紹介を通し、何が、どのように見えてくるのかを示すこととしたい。

またこの講義では同時に、今日のスポーツをスポーツ社会学ではどのように捉え、何を問題として見ようとしているのか説明することとしたい。

到達目標 / Attainment Objectives

- ・スポーツを社会的に見るとはどのようなことか、そのことによって得られる新しいスポーツに対する見方とはどのようなものなのかを理解することを目的とします。
- ・そのことを通して、現代のスポーツの問題を、各自が「社会的文脈」と関連づけてとらえることができるようになることを、最終的な目的とします。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

・スポーツ社会学は文字通り「社会学」の一つです。従って、社会学の基礎理論の科目をあらかじめ、または並行して受講することで理解が深まると思います。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	スポーツ社会学とは; 歴史と研究状況	ISSA、日本スポーツ社会学会
2	スポーツ・バーナウトの構造	バーナウト、ドロップアウト、トランスファー
3	役割期待のアンヴィバレンス	組織、地位、役割
4	組織構造とパフォーマンス	P機能、M機能、権限構造
5	小集団の凝集性	ソシオメトリー、FIRO-B
6	「日本的」スポーツ組織の構造	属性原理、業績原理、擬制家制度
7	スポーツ社会学の代表的理論(1)ブルデューとフランススポーツ社会学	スポーツの選択原理、階級、ハビトゥス
8	スポーツ社会学の代表的理論(2)スポーツの場の理論と日本のスポーツの変容	スポーツの場、状況の「反転」
9	スポーツ社会学の代表的理論(3)カルチュラル・スタディーズと英国スポーツ社会学	権力、ジェンダー、階級、表象分析
10	スポーツ社会学の代表的理論(4)ナショナリズムとスポーツ	スペクタクル、モニュメント、象徴
11	スポーツ社会学の代表的理論(5)エリアス「文明化の過程」とスポーツ	近代文化、近代スポーツ、情動の制御
12	スポーツ社会学の代表的理論(6)グローバルスポーツの展開	スポーツ=メディアコンプレックス、スポーツ移民、スポーツ商品
13	日本社会の変容とスポーツ(1)スポーツの産業化とスポーツの社会的基盤の変化	第二臨調・行革、プラザ合意、スポーツビジネス
14	日本社会の変容とスポーツ(2)スポーツの場の反転	Jリーグ、サポーター、地域
15	まとめ: スポーツの新しい可能性と主体	新しい社会運動、スポーツNPO

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

可能な限り身近な問題から説明し、徐々にマクロな構造的問題に敷衍していくこととしたい。社会評論ではなく、あくまで社会学であるので、個々の授業では前半は理論的枠組みの説明になる。従って理解を円滑にすすめるため、可能な限り当該領域の理論の予習をされることを望

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind 割合 / Percentage 評価基準等 / Grading Criteria etc.

定期試験(筆記) 100 % 1. 授業内容の理解度(概念の正しい理解が主となる)。2. 自身の問題設定の仕方。

ゲストスピーカーを招き授業時にレポートを課す場合がある。その場合は原則としてレポートを加点として取り扱う。その旨授業時に指示する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

社会学理論を多用し、その応用的展開という性格を持つので、3年生以上の受講が望ましい。2年生が受講する場合は基礎的な社会学の概念や理論についての理解を独自にすすめておくこと。

教科書 / Textbooks

特に使わない。授業時のみレジュメを配布する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
スポーツ・レジャー社会学	D. ジェリー、清野正義他編 / 道和書院 / 4-8105-4008-1 / 理論部分の予習用
変容する現代社会とスポーツ	日本スポーツ社会学会編 / 世界思想社 / 4-7907-0723-7 / 現代スポーツの変化について
近代ヨーロッパの探求8、スポーツ	有賀郁敏他著 / ミネルヴァ書房 / 4-623-03509-3 / 近代スポーツ史、グローバリゼーションの理解に
スポーツ・ボランティアへの招待	山口泰雄編 / 世界思想社 / 4-7907-1052-1 / 新しいスポーツの主体を考察する
スポーツ・権力・文化	ジョン・ハーグリーヴズ / 不昧堂 / 4-8293-0267-4 / カルチュラスタディズのスポーツ論
スポーツと文明化	エリアス、ダニング / 法政大学出版 / 4-588-00492-1 / エリアス学派のスポーツ論
現代に生きる遊牧民	アルベルト・メルッチ / 岩波書店 / 4-00-000644-4 / スポーツボランティアの可能性を考える
その他適宜授業中に指示する。	

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

<http://www.jsss.jp/> (日本スポーツ社会学会HP)

その他 / Others

スポーツ心理学Ⅲ S

20318

担当者名 / Instructor 藤田 太郎

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

スポーツ心理学で扱われてきた先行研究をどのように現場に活用する事が可能かを考えていく。また、「競技におけるメンタル面とは何か？」をメンタルトレーニングとスポーツカウンセリングの視点から考え、個別に関わるための手立てについて言及する

到達目標 / Attainment Objectives

先行研究から実践への応用についての可能性を考える事ができる
競技者をサポートをしていく態度と姿勢について考え続けることができる

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
10/1	ガイダンス	スポーツ心理学 メンタルトレーニング スポーツカウンセリング
10/8	スポーツ技能の習得	認知 連合 自動化 集中法 分散法 自己調整学習方略
10/15	あがりの理論	意識的制御理論 無意識的制御 パフォーマンスへの影響
10/22	性格特性	Y-G検査 情緒性 UK ベルソナ
10/29	動機付け	やる気 内発的動機 自己原因性 生活習慣
11/5	メンタルトレーニングの基礎	腹式呼吸 自律訓練法 催眠 観念動
11/12	イメージトレーニング	イメージの特徴 鮮明性 パフォーマンスとの関連
11/19	集中力	競技別集中の種類 注意力 格子法 シュプリルの振り子
11/26	思考とセルフトーク	劣勢 取り組み姿勢 認知の再構成
12/3	スポーツカウンセリングの基礎	ロールプレイ 受容 共感 純粋性
12/10	風景構成法	枠付け 構成 投影 発達段階 質問紙との相違
12/17	事例1	来談経緯 対人関係 内的成長
12/24	事例2	怪我 対人関係 転移 逆転移
1/7	チームワーク	協調性 上下関係 チーム力
1/14	テスト	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(検証テスト)	70 %	基礎的な語句の理解度確認するための内容と、選手に関わるための例題に対する捉え方を検証テストとする
平常点(日常的)	30 %	出席を5%理解度を確認するための授業内レポートを25%成績評価の対象とする。レポート内容によっては出席を含めてプラスαする場合と一にする場合がある

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

5限目なので疲れていると思いますが、可能な限り授業内で把握しレポートは提出してください。
今後教員になられてから部活の顧問をする人が少なくないと思うので、今後の参考になればと思います。

教科書 / Textbooks

特に指定しません。参考書を参照してください。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
スポーツ学の視点	江田 昌佑 編 / 昭和堂 //

風景構成法その後の発展

山中 康裕 編／岩崎学術出版／／

スポーツ心理学の世界

杉原 隆 他／福村出版／／

アスリートの心理臨床

中込四郎／道和書院／／

メンタルトレーニングワークブック

中込四郎／道和書院／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

スポーツ人類学 S

20294

担当者名 / Instructor 遠藤 保子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

スポーツ人類学は、スポーツを文化人類学的に研究するものである。これまでのスポーツ研究は、主として有文字社会のスポーツだけを扱ってきた。しかしながら、有文字社会がカバーできる時代と地域はかなり限定されたものであり、無文字社会であった地域におけるスポーツも考察しなければ、スポーツとは何かを知ることはならない。そこで、この授業では、無文字社会だった地域におけるスポーツ、例えば北・南米、アジア、アフリカなどのエスニックスポーツを対象にし、スポーツとは何かをさまざまな観点から検討する。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツ人類学とは何か、さらにはスポーツは自然・社会・文化と深く関わって行われていたことを学ぶことによって、受講者にスポーツと社会・文化を多面的にみる視点を獲得することが期待される。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

文化人類学
スポーツの歴史と発展
スポーツと現代社会

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1回	授業の概要と導入	自己紹介、授業の到達目標、成績の評価方法等
2回	スポーツ人類学の概要	研究対象、スポーツ人類学の理論モデル等
3回	スポーツ人類学の研究方法	フィールドワークの概要、フィールドワークの諸問題、フィールドワークの展望
4回	スポーツと神話・儀礼・宗教・30分の確認テスト	儀礼的スポーツの意味、儀礼的スポーツの研究展望
5回	スポーツの起源・伝播・文化変容	スポーツと起源と伝播、スポーツと変化、同化と拒絶
6回	スポーツと観光	人類学と観光、観光開発とスポーツ
7回	スポーツの文化化	遊びに見られる文化化機能、学校教育と文化化
8回	中間のまとめとグループワーク・レポート提出	スポーツ人類学に関する様々な討論とプレゼンテーション
9回	世界のエスニックスポーツ(1)・北米先住民のスポーツ	イヌイットの競技、ボール・ゲーム(球戯)の意味、分布、特性等
10回	世界のエスニックスポーツ(2)・中南米先住民のスポーツ	丸太担ぎレース、カボエイラの意味、特性等
11回	世界のエスニックスポーツ(3)・中国・少数民族のスポーツ	少数民族のスポーツ、伝統体育運動会、生活とスポーツ等
12回	世界のエスニックスポーツ(4)・東南・南アジア稲作民のスポーツ・30分の確認テスト	ボートレース、豊穡祈願、降雨儀礼等
13回	世界のエスニックスポーツ(5)・モンゴルのスポーツ	ナーダム祭、相撲、競馬、弓射等
14回	世界のスポーツ(6)・アフリカのスポーツ	セネガルの相撲、舞踊、豊穡祈願等
15回	定期試験と講評	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

授業中に紹介する参考文献、あるいは自らが文献を検索し、さらには実際にエスニックスポーツを体験したり、みることによって、スポーツに関する知見を広め、深化させる。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	60 %	試験答案における論理的な記述や授業の理解度を評価する。
平常点(日常的)	40 %	2回の確認テストと1回のレポートをもとに、どの程度主体的に学習し、自ら考察しようとしたのかを判定する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

世界には、様々なエスニックスポーツがあり、それらは生活と密接に結びついて行われていたことを理解する。そのことによって、近代スポーツの特性を再確認し、スポーツとは何かを多面的に考える。

教科書 / Textbooks

書名 / Title 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
 教養としてのスポーツ人類学 寒川恒夫 / 大修館書店 / 4-469-26552-7 /

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
スポーツ人類学入門	k. ブランチャード他 / 大修館書店 / 4-469-26133-5 /
舞踊と社会	遠藤保子 / 文理閣 / 4-89259-375-3 /
スポーツの後近代	稲垣正浩 / 三省堂 / 4-385-35675-0 /
相撲の人類学	寒川恒夫 / 大修館書店 / 4-469-26322-2 /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference**その他 / Others**

スポーツ政策論 S

20313

担当者名 / Instructor 権 学俊

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

スポーツ政策とは、スポーツにかかわる問題を解決するための手段、方策の体系といえる。今日、あらゆる方面で急速にスポーツの役割とメリットが高まりつつある中、今後どのような方向にどのような手段によってスポーツを発展させるべきか、スポーツ政策の存在価値・目標でもある。

本講義では、スポーツ政策の意義や目的及び政策の策定過程を理解するとともに、近現代日本のスポーツ政策の変遷過程と現状及び課題を把握してみる。また、諸外国のスポーツ政策の現実を検討することによって、今後日本のスポーツ政策が行くべき道、スポーツ政策のあり方を論

到達目標 / Attainment Objectives

学生の皆さんと共にスポーツ政策について考え、意見を述べあえる授業を目指す。

- 1) スポーツ政策の概念を理解する。
- 2) スポーツ政策の意義や目的及び政策策定のプロセス・力学を理解する。
- 3) 日本におけるスポーツ政策の歴史の変遷と現状及び課題を理解する。
 - ① 学校体育とスポーツ政策、② 国際競技力の向上をめぐる政策、③ 生涯スポーツに関する政策
- 4) 諸外国におけるスポーツ政策を理解する。
- 5) テーマに対して自らの考えを表現できる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「スポーツと現代社会」「余暇・スポーツ史S」

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	スポーツ政策についての概要と導入(シラバス説明、本講の目的・内容、学習の進め方、評価など)	概要、シラバス、評価
2	スポーツ政策の概念、スポーツ政策の形成者と体系、スポーツ政策形成のプロセス	政策、政府、行政、民間、統計
3	国におけるスポーツ行政組織とスポーツ振興施策	文部科学省、経済産業省(通産省)、国土交通省(建設省)、総務省、中央教育審議会(保険体育審議会)
4	地方公共団体における行政組織とスポーツ振興施策	教育委員会、スポーツ振興審議会、地域振興、地方分権、まちづくり
5	日本のスポーツ政策の歴史の変遷(1) — スポーツ政策の胎動と国民統制	大正デモクラシー、思想善導、身体、鍛錬、文部省、内務省
6	日本のスポーツ政策の歴史の変遷(2) — 戦時下のスポーツ	天皇、軍国主義、明治神宮体育大会、厚生省、大日本体育会
7	日本のスポーツ政策の歴史の変遷(3) — 戦後初期におけるスポーツ改革政策	GHQ、民主化、大衆化、国民体育大会、冷戦、国際復帰
8	日本のスポーツ政策の歴史の変遷(4) — 東京オリンピックと勝利至上主義	オリンピック体制、選手強化体制、スポーツ振興法、勝利至上主義、根性
9	日本のスポーツ政策の歴史の変遷(5) — 国民総スポーツ運動の歴史の意味	スポーツ権、新体連、スポーツ振興、生涯スポーツ、コミュニティスポーツ、公害、市民運動
10	日本のスポーツ政策の歴史の変遷(6) — スポーツ産業の成長と新自由主義	商業主義、新自由主義、国家主義、民間、合理化、民営化
11	学校体育と生涯・国際競技力向上スポーツ政策の歴史と現状、課題(1)	学校体育、生涯スポーツ、エリートスポーツ
12	学校体育と生涯・国際競技力向上スポーツ政策の歴史と現状、課題(2)	学校体育、生涯スポーツ、エリートスポーツ
13	世界のスポーツ政策の動向(1)	イギリス、ドイツ、アメリカ、フランス
14	世界のスポーツ政策の動向(2)	韓国、中国
15	日本スポーツ政策の示唆点と意味	まとめ、スポーツ政策、示唆点

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

授業内容に関してレポートを課す場合がある。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	50 %	1. 講義で取り上げたテーマについてきちんと理解できているかどうかを評価する。(講義内容の理解度) 2. 主題の明確な把握と論述の根拠、批判・批評の論点、自分の考えを論理的に述べているかど

うか、文章の完成度などを総合的に評価する。

平常点(日常的) 50 % 1. 講義に関する意見や感想、ビデオ鑑賞の感想などを書いてもらい、それを評価する。
2. 感想文をもって出欠をとり、それを平常点として評価する。

日本のスポーツ政策に関する提案など簡単なグループ発表がありうる。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

受講者は自分の意見や感想などを発表できる力を授業を通して身につけてほしい。積極的に授業に参加することが求められる。

教科書 / Textbooks

テキストは特になし。講義時にプリントを配布し、テキストとする。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
戦後スポーツ体制の確立	内海和雄 / 不昧堂出版 / 4-8293-0271-2 / 戦後から1970年代辺りまでの日本のスポーツ政策の成立過程について
戦後日本のスポーツ政策	関春南 / 大修館書店 / 4-469-26362-1 / 現代日本のスポーツ問題とスポーツ政策について
地域のスポーツと政策	中山正吉 / 大学教育出版 / 4-88730-392-0 / 地域のスポーツと政策の問題について
権力装置としてのスポーツ	坂上康博 / 講談社 / 4-06-258136-1 / 近代日本のスポーツ政策と思想善導について
体育・スポーツにみる戦争責任	アジアに対する日本の戦争責任を問う民衆法廷準備会 / 樹花舎 / 4-7952-5022-7 / 帝国日本の体力管理・スポーツ統制と植民地朝鮮における体育政策について
新版 日本現代史	藤原彰・荒川章二・林博史 / 大月書店 / 4-272-52040-7 / 現代日本の社会・歴史について

その他、参考文献は毎回の講義時に紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

文部科学省 <http://www.mext.go.jp/>
 (財)日本体育協会 <http://www.japan-sports.or.jp/>
 (財)日本オリンピック委員会 <http://www.joc.or.jp/>
 独立行政法人日本スポーツ振興センター <http://www.naash.go.jp/>
 (財)日本スポーツクラブ協会 <http://www.jsca21.or.jp/>
 (財)日本体育施設協会 <http://www.jp-taikushisetsu.or.jp/>

その他 / Others

講義に対する理解を高めるため、講義内容に関連するビデオ鑑賞がある。
 ゲストスピーカーによる講義もありうる。

スポーツ批評論 S

20297

担当者名 / Instructor 梶原 誠一

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

スポーツは近代国家の成熟に伴い発展してきたが、それに存分に打ち込むには国、社会の在り方次第といった側面が大きな比重を占める。現代人のQOL(クオリティ・オブ・ライフ)向上に欠かせないのがスポーツだが、世界人口66億のうちわずか3分の1しかそれを享受できないのが現実である。豊かな国では益々スポーツ文化が栄える一方で、途上国は置き去りにされる現象が顕著になりつつあり、背後にある政治、経済の安定という社会科学要素の多角的検証が求められている。本講義では近現代史をひもとき、戦争、独裁、貧困、環境悪化といった人類の課題と人間行動を知ることで、スポーツに関する基礎的素養を高めようとするものである。

到達目標 / Attainment Objectives

- ①政治、経済がスポーツに及ぼす影響を検証し、物事の背後、核心を考える力を養う
- ②オリンピックなど世界的イベントの経緯を学びスポーツ文化の変遷と本質に迫る

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

現代と社会 スポーツ社会学

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	オリエンテーション	講義の内容、講義の進め方、評価方法
第2回	文明とスポーツ①	現代文明、自由主義、古代オリンピアとの比較
第3回	文明とスポーツ②	グローバル化、富裕と貧困、地球温暖化とスポーツの未来
第4回	政治経済との関り①	ベルリン五輪の背景、中国台湾問題、ボスニア紛争
第5回	政治経済との関り②	ミュンヘンテロ事件、冷戦、モスクワ五輪ボイコット問題
第6回	政治経済との関り③	商業主義、環境、エネルギー問題、精神主義
第7回	政治経済との関り④	熱を帯びる国際大会、ナショナリズム、北京五輪、ワールドカップ、国威発揚の是非
第8回	プロとアマチュアリズム	ジム・ソープ事件、不況下の企業スポーツ、市場原理
第9回	メディアとの共存	メディアソフトとしてのプロスポーツ、スペクテーター、スポーツビジネス
第10回	ドーピング問題	バリー・ボンズ問題、Jリーグの判断、旧東欧諸国、高地トレーニング、BSE
第11回	規範意識	批判精神、スポーツ奨学生、ハンドボール事件
第12回	人類の課題①	生物としての人間存在、人類学的見地、地域共同体
第13回	人類の課題②	人口爆発、異常気象、国連、地球公共財
第14回	人類の課題③	ノーブレス・オブリージュ、難民、伝統文化
第15回	まとめ	問題点の復習、まとめ、ミニテスト

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

- ①講義で配布する資料には必ず目を通すこと。参考文献はできるだけ読み読んでおくこと
- ②新聞、テレビ、オピニオン誌などで政治経済情報に関心を持つこと

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	60 %	講義内でのミニレポート3回、提出回数と内容
平常点(検証テスト)	20 %	講義内でのミニテスト、成果と内容
平常点(日常的)	20 %	学習態度、質問に対する答え方、出席回数

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

世界と国内の諸情勢に普段から関心を持つことで視野、教養が広がり、就職活動の自信に繋がる

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
スポーツと政治	坂上康博 / 山川出版社 / 4-634-54580-2 / 歴史と概要が分る

20世紀特派員 4

産経新聞取材班／扶桑社文庫／4-594-03113-7／オリンピック経緯詳細、内容
よし

現代メディアスポーツ論

橋本純一編／世界思想社／4-7907-0968-x／できれば読む

スポーツとは何か

玉木正之／講談社現代新書／4-06-149454-6／手軽に読め、参考になる

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

スポーツ文化論 S

13031

担当者名 / Instructor 草深 直臣

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

2005年は、国連の「体育・スポーツ国際年」であった。スポーツは単なる身体運動として存在するのではなく、人間の創り上げた文化様式として、また国境を越える世界文化として益々注目されている。そのために、学生諸君が持っているスポーツの固定観念をうち破り、スポーツの概念を歴史的にたどりながら、その社会的背景を捉えることを重視する。更に、その概念から構想されるスポーツ機構(Institution)の意味と問題点に焦点を当て、スポーツ文化を構造的に把握し、その構成要素と基本的枠組みを提示し、スポーツ諸科学との関係を明らかにする。

到達目標 / Attainment Objectives

多くの人が経験的に持つスポーツ観念を打ち破り、スポーツを文化として成り立たせている要素を抽出し、人間スポーツ社会の枠組みでスポーツの総体を把握する方法論の基礎を身につける。概念史、理論史を踏まえることによって、現代スポーツの諸問題にアプローチする方法を理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

教養科目「スポーツと現代社会」「スポーツの歴史と発展」を事前に履修しておくことが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1週	序章:1節 「体験としてのスポーツ」からの脱却	意識・感覚言語とスポーツ用語 体験の対象化
第2週	序章:2節 グローバリゼーションとスポーツ	世界文化としてのスポーツ スポーツのローカリズム
第3週	I章 スポーツ概念の変遷	(1)スポーツの語源 (2)英語圏
第4週	(3)ドイツ語圏・フランス語圏、中国語圏と日本語圏	(4)スポーツ概念の特徴:行為本性説と目的価値的規定。(5)スポーツの外延と内包
第5週	II章 スポーツ機構説の土台	(1)競技志向とプレイへの注目(2)ホイジンガ”ホモ・ルーデンス”、(3)カイヨワ”2極4領域”説
第6週	III章 スポーツ機構説の確立	(1)ロイのカイヨワ批判 (2)スポーツの多層的把握
第7週	III章 スポーツ機構説の確立	(3)機構化の指標:a)組織 b)技術 c)シンボル d)教育
第8週	III章 スポーツ機構説の確立	(4)社会機構としてのスポーツ :a)プレイヤーノットコントロール(Edward) b)管轄機構の支配力 c) 機構の問題点
第9週	(5)社会状況としてのスポーツ	(6)ロイ「スポーツ機構」説の特徴と問題点
第10週	IV章 スポーツ機構説の展開	(1)佐伯「スポーツ体系説」
第11週	IV章 スポーツ機構説の展開と問題点	(2)多々納「スポーツ・シンボル」説 (3)構造一機能主義の問題点
第12週	V章 スポーツの構造的把握にむけて	(1)プレイ論の主観主義 (2)客観的実在としてのスポーツ
第13週	V章 スポーツの構造的把握にむけて	(3)草深「2層3領域」説の提示
第14週	V章 スポーツの構造的把握にむけて	(4)スポーツ構造における機構の主導性 (5)ガッツマンの【近代化の指標】の再検討
第15週	V章 スポーツの構造的把握にむけて	(6)競技と交流:結果と過程 (7)応援と観賞

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

マスコミにおけるスポーツ言説に惑わされずに、人間にとってスポーツとは何か、スポーツ現象を支える社会機構を見抜くように、リテラシー感覚を磨くこと。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	基礎的知識の理解、理論的展開の総合的把握、現実の論理的分析力

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

スポーツ・ゲームを体験的、固定的に理解せず、社会的影響によって変化・変質する文化構造を多角的に捉える観点に注視して欲しい。出欠は取らないが、出席しないと理解できないし、高回生配当科目の位置づけも明確にならない。

教科書 / Textbooks

教科書は指定しない。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
スポーツの自由と現代、上下	伊藤高弘・草深直臣他編 / 青木書店 / /
スポーツの概念	体育原理分科会編 / 不昧堂 / /
スポーツ文化を学ぶために	スポーツ社会学会編 / 世界思想社 / /
スポーツと文化帝国	A.ガッツマン / 平凡社 / /
近代スポーツ論	西山孝夫 / 世界思想社 / /
その他、参考文献は各章毎にレジュメに明記する。	

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

- 1) 解らないことは、できる限りその場で質問すること。
- 2) レジュメは区切りの良い章、または節ごとに、教室でのみ配布する。レジュメ配布は予告する。

スポーツ変動論 S

20292

担当者名 / Instructor 川口 晋一

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

今でこそ見えにくくなっているが、スポーツは19世紀後半から20世紀の間にその形質を大きく変えてきた。スポーツにおける変動の重要な局面・諸相を捉え、それがもたらされた政治、経済、社会・思想の状況について考えることは、現在のスポーツを理解するに当たって不可欠である。本講義では、そのような考えのもとに、アメリカ合衆国、旧ソビエト連邦、旧東ドイツなどを中心に見ることで、現在のグローバルなスポーツ状況に至るまでの過程を捉え返していく。

到達目標 / Attainment Objectives

- ・スポーツにおける変動を生み出す政治経済的背景について理解し、説明できるようにする。
- ・19世紀後半から20世紀のスポーツについて理解を深め、現在に繋がる鳥瞰図を描けるようにする。
- ・スポーツイベントやリーグスポーツの成り立ちについて理解し、それが孕む問題について説明できるようにする。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の概要と導入/スポーツ変動を考える視点	授業の到達目標、進め方、成績評価方法等/19、20世紀のスポーツ
2	スポーツのあり方を決めるもの	近代社会の時間と空間、アマチュアリズムとプロフェッショナル
3	資本主義社会とスポーツ(1)	産業社会の到来とアメリカスポーツ
4	資本主義社会とスポーツ(2)	ヨーロッパ移民とスポーツ
5	資本主義社会とスポーツ(3)	大都市の形成とスポーツの大衆化
6	資本主義社会とスポーツ(4)	労働力の再生産とレクリエーション・スポーツ
7	見せるスポーツの時代	スポーツの政治的・経済的価値の増大
8	社会主義国家のスポーツ(1)	旧ソ連の身体文化とスポーツ
9	社会主義国家のスポーツ(2)	旧ソ連の国家主義スポーツ
10	社会主義国家のスポーツ(3)	旧東ドイツの科学とスポーツ
11	冷戦時代のスポーツ	東西のスポーツと勝利至上主義、ドーピング問題
12	グローバル資本とスポーツ(1)	ロサンゼルス・オリンピック
13	グローバル資本とスポーツ(2)	イベントビジネス
14	グローバル資本とスポーツ(3)	リーグスポーツ
15	スポーツ変動の諸断面	政治、経済、社会・思想

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	70 %	講義で提示した内容の理解とその応用力・説明力の検証。
平常点(日常的)	30 %	毎回、その回の授業内容に関わった小テストあるいは小レポートを時間内に課す。その提出の有無、理解度によって0, 1, 2, 3点で評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

教科書は使用しない。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
スペクテイター・スポーツ	レイダー、ベンジャミン・G / 大修館書店 / ISBN4-469-26132-7 / 20世紀アメリカスポーツの理解に関わって参照されたい。
ソビエトのスポーツ	リオードン、ジェームス / 道和書院 / ソビエトスポーツの理解に関わって参照されたい。
衝撃 東独スポーツ王国の秘密	長谷川公之 / 山本茂 / テレビ朝日 / 東独スポーツの理解に関わって参照されたい。

参考書は、私が講義をする上で参考に用いるものであり、受講者にとっては講義の内容を確認したり、より深く、また広く学習する上で役立てることができるものである。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

必要に応じて授業内で紹介する。

その他 / Others

担当者名 / Instructor 吉田 勝光

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

現在では、スポーツと法とが密接に関わりを持っている。スポーツ法学は、スポーツに関する法を研究する学問であるが、新しい領域であることから、その体系はまだ確立されていない。そこで、体系的観点から講義を進めようとするのではなく、できるだけ、現在問題が発生している分野(論点)を中心に、基礎的事項を織り交ぜながら、個々の問題を取り上げていくこととする。また、スポーツ法学上の諸問題は、スポーツの国際化が進む中、日本の問題にとどまらず、外国との関係で問題となり、類似の事例が外国で発生している等、外国のスポーツ法学の動きにも目を配る必要がある。時間の許す限り、テーマごとにその都度触れることとしたい。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツに関して、法の具体的適用場面は、多い。法自体は、極めて抽象的であるが、適用場面は具体的である。学生諸君は、本講義の履修により現在のスポーツ法学の諸問題を具体的事例を通して理解することができる。具体的事例は、スポーツ事故の判例、新聞記事、雑誌等に掲載されたものを取り上げる。こうした豊富な生きた具体的事例による学習で、学生諸君は、スポーツ法学の基礎知識を習得できるとともに、諸問題について、実状を踏まえた理解ができ、課題解決ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

具体的事例を十分に示すので、特に必要ない。しかし、強いてあげるとすれば、スポーツを取り巻く実状を少しでも知っておくために「現代とスポーツ」を、また法的素養を身につけておくことが学習効果を高めることから、法学系科目(「法学」等)を履修しておくことが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	スポーツ法学の現状	スポーツ法学上の諸問題、学生諸君に身近なスポーツ法学の事例、スポーツ審判の法的問題、関連学会
第2回目	スポーツ権と法	憲法上の人権保障、スポーツ権、スポーツ基本法、スポーツ基本条例、スポーツ立法政策
第3回目	スポーツ振興と法	スポーツ振興法、スポーツ振興基本計画、スポーツ立法政策
第4回目	スポーツ団体と法	性格、法人、団体と処分、選手選考
第5回目	法の下での平等とスポーツの法	性差別、国籍による差別、障害者のスポーツ、スポーツ立法政策
第6回目	スポーツ事故と法(1)	私人間のスポーツ事故の法律関係
第7回目	スポーツ事故と法(2)	学校でのスポーツ事故の法律関係
第8回目	スポーツ事故と法(3)	スポーツ施設・設備の瑕疵による事故の法律関係
第9回目	スポーツビジネスと法	選手契約と代理人、肖像権、命名権ビジネス
第10回目	スポーツメディアと法	スポーツ放送、放送法、スポーツ団体と放送規定、スポーツ放送の著作権、スポーツ立法政策
第11回目	企業スポーツ・プロスポーツと法	企業スポーツ選手の法的地位、日本のプロスポーツ、アメリカのプロスポーツ
第12回目	スポーツの環境と法	スポーツ施設設備の環境とスポーツにより侵害される環境、スポーツ立法政策
第13回目	スポーツ問題の紛争解決	スポーツ仲裁裁判所(CAS)、日本スポーツ仲裁機構(J SAA)、その他の裁判外紛争解決制度
第14回目	検証テスト(60分)と解説(30分)	スポーツ法学の基礎知識の確認、スポーツ法学上の諸問題に関する具体的理解度の確認
第15回目	検証テストの講評、北京オリンピックに関するスポーツ法学上の問題	オリンピック憲章、参加資格、スポーツの権利、差別の排除、環境保護、スポーツ仲裁、ドーピング、ビジネス、スポーツ立法政策

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

北京オリンピック直後の講義であるので、最終回(第15回目)には、北京オリンピックにおける法的問題について取り上げる。京都の夏は暑いですが、どのような問題が法と関係するのか考えつつ、新聞やインターネット等で情報収集を怠らないこと(収集した情報の提出は求めない)。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(検証テスト)	55 %	スポーツ法学の基礎知識及び諸問題の理解の程度を測る。
平常点(日常的)	45 %	第1日目から第5日目まで毎日当日学習した中で、特に自分の関心のあるテーマ(複数可)について法的観点からの意見、感想等のレポートをA4サイズの用紙1枚(活字は12ポイントサイズ)に書き、翌日提出してもらう(手書き可)。各日、4段階(0:不提出、3:もう一歩、6:普通、9:良い)で加点する。

毎日提出のレポートの分量は、少なくとも75パーセント(4分の3)を基準とする。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

- 1 テレビ、新聞等によりスポーツ情報の継続的入手を怠らないこと。
- 2 シラバスは教科書の一部と考え、必ず授業に持参すること。

教科書 / Textbooks

書名 / Title 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

導入対話によるスポーツ法学(第2版) 小笠原正監修／不磨書房／基本的なテキストとして使用

スポーツ六法 2008 小笠原正他編集代表／信山社／978-4-7972-5607-9／常時使用

講義は、上記指定の教科書(2冊とも)を携帯していることを前提として進めていく。両教科書とも第1回目の講義から使用する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

地方自治体のスポーツ立法政策論 吉田勝光／成文堂／978-4-7923-9160-7／スポーツ立法政策、スポーツ権、指定管理者制度等の説明で使用

スポーツ政策の現代的課題 諏訪伸夫他編集／日本評論社／未定／本年3月発行予定

上記『地方自治体のスポーツ立法政策論』は、スポーツ法学の新たな論点であるスポーツ立法政策関連(スポーツ権、スポーツ基本条例、スポーツの振興、指定管理者制度等)の講義で随時参考とする。上記『スポーツ政策の現代的課題』は、「第5章第2節 体育・スポーツ事故訴訟各論」を吉田が分担執筆しており、スポーツ事故の法律関係を整理し、関連判例の事件内容を示しつつ段階的に解説しているので、「スポーツ事故と法」関連の講義(第6、7、8回)で参考とする。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

- ① 日本スポーツ法学会 <http://wwwsoc.nii.ac.jp/jsla/>
- ② 日本スポーツ仲裁機構 <http://www.jsaa.jp/>
- ③ 文部科学省 <http://www.mext.go.jp/>

その他 / Others

世界の子どもと学校 S

20322

担当者名 / Instructor 高藤 三千代

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

近代に誕生した「子ども観」、「子ども時代」のあり方と学校教育制度の関係性の考察を踏まえ、グローバル化する社会における人間形成と学校のあり方を探る。その手続きとして、日本に暮らす外国人在留・定住者家族の体験を手掛かりに、社会・経済のグローバル化の下、国家間の移動を余儀なくされる子どもたちの学校体験を考察する。そして、学校という現実の多元性、オルタナティブ教育の実情を世界の様々な学校の事例に見ていく。

到達目標 / Attainment Objectives

- ・「教育」「学校」「子ども時代」の自明性を疑い、その成り立ちの歴史・社会的背景を理解する。
- ・国家間の移動を余儀なくされている子どもたちの置かれている教育状況と、その政治・経済・社会的背景を理解する。
- ・以上から既存の学校制度を批判的に考察し、新たなかたちの人間形成と学校のあり方を模索する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	概要	授業計画、進め方、成績評価方法等の説明
2~3	近代と子ども	近代家族、学校制度、大人と子ども、労働と遊び
4~5	グローバル化・労働・国際移住	移住の歴史・経済・政治的背景、国籍・市民権・国民国家
6~7	グローバル化する社会と教育問題	就学と国籍、移住と母語と学校言語、家族と教育、アイデンティティの葛藤
8~9	近代学校制度の成り立ちと学校化社会	国民の形成、国語の普及、学級の発明、通過儀礼、教育の標準化
10~11	学校という現実の多元性と人間形成	人間形成の文脈としての国民国家と学校、実践共同体への参加、ハビトゥスの形成、
12~14	オルタナティブ教育	ホーリスティックな視点と学びのかたち、多数派(マジョリティ)、少数派(マイノリティ)、社会的拘束と創造性、共生
15	総括	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

主に講義形式をとるが、適宜小グループに分かれての討論の場を設ける。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	60 %	授業内容に関連するテーマを各自で自由に設定し、そのテーマに関連して論述(4000字程度)。必ず文献を1点以上参照のこと。講義内容や授業内の討論を活かしつつ、論理的説得力をもって記述されているかをみる。
平常点(日常的)	40 %	(授業態度10%[討論への参加]+覚書30%[文献・映像資料に関するコメント・意見・感想・質問等々をまとめたもの。B5・1枚程度])

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『子どもの誕生』	フィリップ・アリエス・著／みすず書房／／授業で適宜参照する
『世界の子どもと学校:教育制度から日常の学校風景まで』	二宮皓・編著／学事出版／／授業で適宜参照する
『オルタナティブ教育:国際比較に見る21世紀の学校づくり』	永田佳之・著／新評論／／授業で適宜参照する
『外国人の子どもの不就学:異文化に開かれた教育とは』	佐久間孝正・著／勁草書房／／授業で適宜参照する
『脱学校社会』	イヴァン・イリイチ／東京創元社／／授業で適宜参照する

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

担当者名 / Instructor 高木 正朗

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

マルサスが「人口の原理」で提起した、食糧と人口の関係にかんする命題・仮説を、この講義の「縦糸」とします。そして日本人の過去300年の人口行動(経験)を歴史人口学と生活構造論の視点からデータに基づいて解説、現代の先進諸国と開発途上国の人口問題・生活問題の本質を理解する一助としたい。トピックは、人口維持と生活水準、人口の少子・高齢化、飢饉疾病と危機的死亡増、中絶と生活水準など。

到達目標 / Attainment Objectives

人口を長期的に観察するどういうメリットがあるか。日本の歴史人口学と生活学の成果、省庁公開データなど具体的データ・事例検討を通じて理解し、予測することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	序論(講義解題、基礎概念、人口の現在)	マルサスの命題、人口の定義、人口学の諸分野、教区簿冊、world population clock
2	VTR-1「世界の地域人口は今」(アフリカ・シエラレオネ) + (小ペーパー)	シエラレオネの概要、乳児死亡、平均余命、GIS data map
3	人口再生産と生活構造-I	生活構造概念の生成史、サラリーマンの誕生、家族論
4	人口再生産と生活構造-II	家族論・家計論
5	人口再生産と生活構造-III	労働力論、生活時間・生活空間論
6	VTR-2「サラリーマンの誕生」(日本) + (小ペーパー / communication paper)	東京、産業化・都市化、明治大・正期、腰弁、学歴と賃金(帝大卒と私大卒)
7	人口再生産と生活構造-IV world population clock	階級・階層論、現代日本の人口規模・構造(population bonus, population onus)・2050年予測
8	近世人口論-I (人口データの取得)	江戸システム、幕府・諸藩の文書体系、村方・町方の文書体系、絵図、幕府・諸藩の人口調査、宗門帳(サンプル)
9	近世人口論-II (東北・太平洋諸藩の人口)	藩人口の復元、オリジナル史料、推計結果の検証
10	VTR-3「飢饉」(天明大飢饉) + (小ペーパー / communication paper)	マルサスの命題、領国財政、大坂堂島の米市場、先物取引
11	近世人口論-III (凶作・飢饉と栄養供給)	過去帳、天保飢饉、栄養(カロリー)供給-異常年と平常年【GISデジタルマップ】 庶民の暮らし、出産/出生比、人口調節(sex selective)
12	近世人口論IV・近代人口論I (東北の藩・県)	近世末期の人口減少対策、東北日本の凶作経験と食糧生産・人口移動【GISデジタルマップ】
13	VTR-4「20世紀の食糧生産」(インド、アメリカ、カザフスタン) + (小ペーパー / communication paper)	緑の革命、略奪農法/有機農法、遺伝子操作
14	現代と日本の人口指標、世界の最貧困地域は今 world population clock	テキストの主要データを抽出・確認、アフリカ・ダルフルの民族紛争と地域人口、非定住化・難民化
15	まとめと検証テスト(60分)、解説(30分)、	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(検証テスト)	70 %	到達度評価: 授業内容からキーワードを7つ程度抽出、その意味内容を説明。評価基準は説明の正確性・妥当性。
平常点(日常的)	30 %	日常的評価: 小ペーパー(A41枚程度)を3回程度提出、それを以下の基準で評価。評価基準は解説の妥当性、授業の理解度。

授業進行その他の理由で小ペーパー日に変更が生じる時は、事前に教室でアナウンス、また本オンライン・シラバス中の「授業スケジュール」に掲示。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
我が国の人口動態	厚生労働省大臣官房統計情報部(編) / 厚生統計協会 / 最新版 / 日本の人口動態指

標をコンパクトにグラフ化(安価に入手可能)

テキストは常時使用。第1回授業までに各自で購入(1200円程度)・準備しておくこと。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
18・19世紀の人口変動と地域・村・家族—歴史人口学の課題と方法—	高木正朗 / 古今書院 / 978-4-7722-4114-4 / 授業に直接関連した参考書
人口で見る日本史	鬼頭 宏 / PHP研究所 / 978-4-569-69204-3 / 日本人口の規模を通史的に概観した入門書
人口学への招待—少子・高齢化はどこまで解明されたか—	河野綱果 / 中公新書 / 978-4-12-101910-3 / 現代日本の人口問題の入門書

人口学の基本用語は「人口学大事典」(日本人口学会,2002)を参照するとよい。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

www.mhlw.go.jp/ (厚生労働省HPの統計を参照)、www.cao.go.jp/ (内閣府HP)
 www.stat.go.jp/ (総務省統計局HP)、www.ipss.go.jp/ (国立社会保障・人口問題研究所HP)
 google, yahooなどで省庁・機関名を入力してアクセス。

その他 / Others

担当者名 / Instructor 八木橋 慶一

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

現代社会における福祉の重要性を、国家や社会との関係から、また具体的な施策を通じて検討していきます。福祉国家の理念や歴史、そして現在の状況、という流れです。具体的な施策としては、家族や児童、高齢者政策などを、また福祉への住民参画の取り組みも取り上げます。これらを諸外国の事例を紹介しながら検討します。また、最近の福祉社会を研究する上で、重要なキーワードになっている「社会的排除」についても紹介します。最後にイギリスにおける地域再生政策を取り上げます。福祉社会のあり方を考える際に、重要な論点が含まれている政策だからです。

到達目標 / Attainment Objectives

- ・なぜ福祉国家が必要とされたのか、また現在も存続しているのかを理解できる
- ・現代の福祉社会の具体的な施策の内容や課題を理解できる

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	イントロダクション	
第2回	福祉国家とは何か	理論的枠組み
第3回	福祉国家の歴史1	ヨーロッパ
第4回	福祉国家の歴史2	日本
第5回	現代の福祉国家1	福祉多元主義
第6回	現代の福祉国家2	福祉レジーム
第7回	福祉社会1	家族、児童、若者
第8回	福祉社会2	高齢者、障害者
第9回	福祉社会3	住民参画、NPO、地域福祉
第10回	社会的排除1	理論的枠組み
第11回	社会的排除2	失業、若者、外国人
第12回	イギリスの地域再生1	コミュニティ開発プロジェクト、統合再生予算、ブレア政権
第13回	イギリスの地域再生2	地域協定、パートナーシップ、社会的包摂
第14回	イギリスの地域再生3	ケーススタディ
第15回	まとめ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	論述試験です。講義内容を理解した上で、どれだけ自説を論理的に展開できたかを評価します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

社会福祉だけでなく、社会学や政治学など、他の社会科学の分野にも関心を持ってください。講義への理解がより深まります。

教科書 / Textbooks

とくに使用しません

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
福祉資本主義の三つの世界	G.エスピン＝アンデルセン／ミネルヴァ書房／4-623-03323-6／
グローバリゼーションと福祉国家の変容	ノーマン・ジョンソン／法律文化社／4-589-02604-X／
社会的排除／包摂と社会政策	福原宏幸／法律文化社／4-589-03051-9／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

担当者名 / Instructor 中村 治

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

環境破壊の原因を思想に求めるのではなく、暮らしの変化に求める。そして戦後に暮らしの大きな変化が起こるまで、どのように暮らしが営まれていたのか、それがどのような過程を経て変化し、その結果、どのような問題が起こってきたのか。昔の暮らしぶりを写した写真を見ることにより、身近な暮らしの変化から、現代社会がかかえる諸問題を考察する。

到達目標 / Attainment Objectives

自分の身近なところで起こっている変化を見つめ、その変化の原因について考え、その変化と自分とのかかわりについて考える力を養う。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	テーマ 生活文化の消失。現代の暮らしの見つめなおし。	キーワード 生活、文化
第2回	テーマ かつての暮らしを思い出すための手がかりとしての写真、聞き取り。	キーワード 写真、聞き取り
第3回	テーマ 写真の歴史。生活遺跡。	キーワード 写真、生活遺跡
第4回	テーマ 暮らしの変化が始まる前の京都近郊農家の一年	キーワード 米、麦、野菜、豆、自給自足
第5回	テーマ 食	キーワード 地産地消
第6回	テーマ 農作業の機械化	キーワード 購入費用、保管場所
第7回	テーマ 暮らしの機械化	キーワード 電化
第8回	テーマ 運搬方法の変化	キーワード 自動車、電車、バス、トラック、車
第9回	テーマ 燃料の問題	キーワード 山林荒廃、地球温暖化
第10回	テーマ 廃水処理の問題	キーワード 電動ポンプ、水道、すいも、下水処理、水質悪化。
第11回	テーマ 子どもの暮らしの変化	キーワード 地域共同体、地域の目
第12回	テーマ 冠婚葬祭の変化	キーワード 地域共同体、葬列
第13回	テーマ 小学校卒業写真に見る暮らしと風俗の変化	キーワード 洋服、学生服、髪型、戦争
第14回	テーマ 学生による発表	キーワード
第15回	テーマ 学生による発表	キーワード

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

古い写真を家族、親戚、知人から借りて、コピーし、その写真が暮らしの変化においてどのような意味を持っているのか聞いて、発表すること。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	0 %	小テスト。
レポート試験	60 %	身近な問題を取り上げること。独自の資料を集めること。聞き取りをしていること。
平常点(検証テスト)	20 %	身近な問題にどれだけ関心を持っているか。
平常点(日常的)	20 %	写真についての聞き取りの成果の発表。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

自分の身近なところで起こっている変化に注意し、その変化の原因について考え、その変化と自分との関係において考える力を養うこと。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『あゝのころ京都の暮らし』	中村治 / 世界思想社 / 4-7907-1095-5 / 2004年

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『京都洛北の原風景』	中村治 / 世界思想社 / 4-7907-0816-0 / 2000年
『癒しの里・洛北岩倉』	中村治・青山純 / / 2000年
『京都府レッドデータブック』下巻(地形・地質・自然生態系編)	京都府企画環境部企画課 / / 2002年

『洛北岩倉研究』第1号～第8号	岩倉の歴史と文化を学ぶ会／／／1997年～2003年
『卒業写真で見る暮らしと風俗の変化』	中村治、岩倉の歴史と文化を学ぶ会／／／2003年
『古写真で語る京都—映像資料の可能性—』	京都映像資料研究会編／淡交社／4-473-03149-7／2004年
『洛北岩倉』	中村治／コトコト／／2007年
『洛北八瀬』	中村治／コトコト／／2008年

[参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference](#)

[その他 / Others](#)

生命倫理学 S

20277

担当者名 / Instructor 大谷 いづみ

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

生命科学と先端医療の急激な発達により、「生・老・病・死」の諸相は大きく変容しようとしている。本講座では、生命倫理の問題群の倫理的・法的・社会的な問題を考える。

本年度はとくに先端医療の発達と「生命の終わり」をめぐる問題に焦点を当て、そこから考察を発展させる。

到達目標 / Attainment Objectives

- ・生命倫理をめぐる現代的課題を認識する。
- ・一市民としてどのように問題を理解し対処すべきか、多角的・多元的に判断するための基盤を獲得する。
- ・「安楽死」「尊厳ある死」の言説をめぐる問題についての認識を深め、分析し、考察するための観点を獲得することをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

前期に開講されている同担当者による教養科目「生命科学と倫理」を受講していることが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1.	ガイダンス／授業の概要と説明	
2.	導入：映画『海を飛ぶ夢』が問いかけるもの(1)映画視聴	
3.	導入：映画『海を飛ぶ夢』が問いかけるもの(2)論点の抽出	
4.	死の「再定義」：「脳死」という基準の登場と背景(1)臓器移植という問題	
5.	死の「再定義」：「脳死」という基準の登場と背景(2)「植物人間」がもたらす表象	
6.	カレン・アン・クインラン事件(1)事件の概要と裁判の経緯	
7.	カレン・アン・クインラン事件(2)ヒポクラテスの誓いと医学	
8.	「安楽死・尊厳死」論の系譜(1)慈悲による死	
9.	「安楽死・尊厳死」論の系譜(2)ナチス・ドイツ下の「安楽死」計画	
10.	「安楽死・尊厳死」論の系譜(3)ナチス後の安楽死運動	
11.	生命倫理学／デス・スタディの誕生と展開(1)自律原則と「死ぬ権利」	
12.	生命倫理学／デス・スタディの誕生と展開(2)ホスピス・ムーブメントとメント・モリ	
13.	生命倫理学／デス・スタディの誕生と展開(3)スピリチュアリティ・ブームとデス・エデュケーション	
14.	隠された問い：経済をめぐる問題	
15.	残された問い：承認をめぐる問題	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

生命科学と生命倫理に関連する問題は、ドキュメンタリーや新聞などで日常的に話題になる。また、医療問題をとりあげた映画やTVドラマも多い。複眼的な視点で活用し、自らの問題意識を深める機会にしてほしい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	60 %	授業理解および授業参加度を評価する。
平常点(日常的)	40 %	出席の他、授業終了後に、数回、コミュニケーション・ペーパーの提出を求める。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

生死の問題は、誰もが自分自身の歴史のなかで自分自身を織り込んで考えることのできるテーマである。問題から「自分」を棚上げせず、自身を織り込んで考えることを大切にしつつ、そこにとどまることなく、生死をめぐる社会構造や法理・諸制度の変遷、死をめぐる言説の歴史について、授業で紹介する資料をもとに、各自が自主的・積極的な学習を進めてほしい。

教科書 / Textbooks

大谷いづみ『「尊厳死」言説の誕生』(仮題、勁草書房、2008)を刊行予定。後期開始までに出版されていればそれを用いる。

参考書 / Reference Books

書名 / Title

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

脳死・臓器移植の本当の話

小松美彦 / PHP新書 / /

死ぬ権利——カレン・クインラン事件と生命倫理
の転回

香川知晶 / 勁草書房 / /

参考文献は以上のほか、授業中に適宜紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

授業の概要 / Course Outline

ヒトの生命は、身体内の様々な機能により維持されている。生理学は、これら個々の機能、そしてそれらが統合された個体全体としての生命現象を解明していこうとする学問分野である。本講義では、まずヒトが最低限その生命を維持するために必要とする植物性機能について、いかにこれらの機能が生命維持という目的のために運動して機能しているのかを中心に、これらの機能が営まれる器官の解剖学的内容もあわせて概説していく。

一方で、料理を作ったり、楽器を演奏したり、スポーツをしたり、社会の中で人が自立し、より人間らしく生きようとするときには少なからず身体の動き、運動を伴う。講義の後半では、その運動を担う動物性機能の中心である骨格筋や神経系の構造および機能について概説し、あわせて運動にともなう身体の生理的な変化についても触れていく。

到達目標 / Attainment Objectives

ヒトの生命維持や運動に関わる構造と機能について、基本的な用語を踏まえて、個々の機能だけでなくその関連について理解する。また、運動に伴う身体の生理的な変化についても理解することもあわせて目指す。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特にない。高校で生物などを履修していなくても理解できるように講義を進めていく。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の概要と導入 ヒトの生理機能	植物性機能, 動物性機能
2	細胞内部環境の維持	ホメオスタシス
3	生命維持のためのエネルギー供給過程	ATP
4	生命維持のための呼吸機能	外呼吸, 内呼吸
5	生命維持のための循環機能	心臓, 肺循環, 体循環
6	生命維持のための排泄機能	排泄, 体温調節
7	植物性機能の調整	内分泌, 自律神経
8	前半のまとめ, 後半への導入	動物性機能の意義
9	骨格筋の収縮様式	骨格筋
10	筋収縮のためのエネルギー供給過程	解糖系, 乳酸
11	運動時の酸素摂取	最大酸素摂取量
12	運動時の心拍, 血圧	血流再分配
13	骨格筋収縮を調節する仕組み1	神経回路
14	骨格筋収縮を調節する仕組み2	感覚, 反射
15	運動の発現, まとめ	感覚と運動の結びつき

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study**(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method**

講義開始時に講義内容に関連する知識や意見を問うことがある。また、定期的に授業内容を整理するための簡単な課題を課すことがあるので、常に授業内容について自ら考えておいてもらいたい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	70 %	基本的な用語を理解した上で、自らの言葉で論理的な記述ができる。
平常点(日常的)	30 %	出席及び受講態度についてリアクションペーパーを中心に評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

本講義は、高校で生物を学んでいない学生でも理解しやすいように、基礎的な内容にしばって概説的にわかりやすく行えるように努めていくが、分からない用語などがあれば、講義中であっても積極的に質問を行うような姿勢で臨んでもらいたい。

教科書 / Textbooks

特に指定しない
講義内容に応じて、随時資料を配付する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
生理学	真島英信 / 文光堂 / 978-4830602016 / 講義内容についてより理解を深める時に役立つ

その他、必要に応じて講義内で適宜紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

特になし。

その他 / Others

担当者名 / Instructor 村本 詔司

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

わが身に関わるこの上なく重要なことでありながら、自分でも気づいていないこと、そのありかを昔の人はあの世や霊界に想定し、現代人は無意識に求める。私は何に突き動かされて生きてきたのか？私は何に向かって生きているのか？わたしは誰か？私の心の中で何が起きているのか？

こういった誰にとっても気になる問題に取り組む精神分析は、20世紀の最も代表的な心理療法の流れであるだけでなく、それなしには現代社会を理解できないとさえ言える思想、精神運動、社会文化現象でもある。

本講義では、種々の関連文献や関連サイトを紹介しながら、広い意味での精神分析(意識以外に無意識も認める深層心理学、力動心理学と称される)を代表する3人、フロイトとアドラーとユングの生涯と思想と後継者たちにおける展開を紹介する。最初の3日間の最後の時間は、深層心理学に関連する映画等(タイトルは未定だが、いずれにせよ、比較的見る機会の少ないもの)を鑑賞し、心理学的な映画の見方あるいは映画に示唆される人間理解を学ぶとともに、現代文化における心理学の役割や功罪を冷静に見つめるきっかけを提供したいと思う。できるだけ、DVD,CD、OHC、PCなどの視聴覚教材を駆使して授業内容の理解を促進したい。

到達目標 / Attainment Objectives

- (1) 教養としての精神分析を学ぶことを通じて、人間や社会文化、歴史についてのリテラシーを広め、深めること。
- (2) 基本的用語に英語で馴染む。
- (3) 心理臨床関係の仕事を目指するものにとってのある程度の準備。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特に指定しないが、広く人文科学的教養を身につけられるような科目を意識して履修しておくことが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	オリエンテーションとフロイトの精神分析(1)	ユダヤ、ウィーン、唯物論、ヒステリー、性の欲動と自我
第2回	フロイトの精神分析(2)	意識と無意識、快楽原則と現実原則、エディプス・コンプレックス、死の本能
第3回	フロイトの精神分析(3)	文化の解釈、フロイト以降の精神分析の展開
第4回	深層心理学と文化(1)	映画(タイトル未定)に見る深層心理学。映写時間の関係で第3回の後半から始まる可能性がある。
第5回	アドラーの個性心理学(1)	劣等感と優越感、自分だけの理屈、思い込み、ライフスタイル、人生目標
第6回	アドラーの個性心理学(2)	共同体感情、ホーリズム
第7回	アドラーの個性心理学(3)	アドラー以降の展開： フランクルのロゴセラピー、人間性心理学、現存在分析
第8回	深層心理学と文化(2)	映画(タイトル未定)に見る深層心理学。映写時間の関係で第7回の後半から始まる可能性がある。
第9回	ユングの分析心理学(1)	運命としてのキリスト教、内向性と外向性、コンプレックス
第10回	ユングの分析心理学(2)	元型(自我、ペルソナ、影、アニマとアニムス、自己)
第11回	ユングの分析心理学(3)	錬金術、シンクロニシティ、宗教
第12回	深層心理学と文化(3)	映画(タイトル未定)に見る深層心理学。映写時間の関係で第11回の後半から始まる可能性がある。
第13回	思想史における無意識(1)	近代以前と近代における世界観・人間観、科学技術と啓蒙思想、ロマン主義、ゲーテとワーグナー
第14回	思想史における無意識(2) 現代社会における心理学	心理学人間、心理主義、ケアの管理
第15回	まとめと検証テスト	授業内容を振り返り、授業の理解度を問う

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

オンライン百科事典Wikipedia(日本語版、できれば英語版も)の関連項目の説明に目を通しておくこと。ただし、記述の真実性に関しては慎重であること。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	20 %	基準：授業内容の理解、授業への積極的姿勢、授業内容の創造的活用、独創性 予想されるテーマ： ①授業で取り扱った事柄について ②リストから選んだ映画の心理学的解釈あるいは映画が示唆する心理学の人間理解 ③授業の感想

①②③いずれも1201-1600字。

平常点(検証テスト)	60 %	最後の時間(第15回)に実施する。授業全体の内容の理解を問う。
平常点(日常的)	20 %	出席。コミュニケーションカードの提出。授業内容の理解、授業への積極的な取り組みなどを主な基準とする。積極的な姿勢と取り組み。毎回の終わりに授業内容理解のチェックを行い、正答をもって出席とみなす

毎回終了時に、その回の内容を理解しているかどうかをチェックする設問を行い、その答えを出席カードの裏に書いて提出してもらうことにする。正答をもって出席とする。

レポートのテーマは、現在考えている時点では、①授業で取り扱った心理学者、思想家、芸術家を一人選んで、考えるところ。②授業で提示し、リストに挙げた映画、文学作品、劇、音楽などをひとつ選んで、考えるところ(心理学的解釈、心理学への示唆など)。③授業の感想。①②③いずれも、サイズは1201-1600字。

受講生の数などが明らかになった時点で、授業の内容や予定、方法を若干変更する必要がある場合は、授業開始前までに前もって連絡する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

授業に先立って、あらかじめWikipediaなどで授業に関連する項目を読んでおくと、より有利な条件で授業に臨むことができ、授業がよりわかりやすくなる。

集中講義で夏の暑い毎日、朝から夕方まで連続授業を行うので、注意の集中力をいかに持続させるかが課題でとなろう。休憩時間にしっかりと気分をリフレッシュして、新たな気持ちで授業に臨むこと。

授業内容に関する質問は、講師の個人ホームページ(<http://www5d.biglobe.ne.jp/~shojimur/>)のトップページからメールで行うことができる。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
マンガ フロイト入門	／ブルーバックス／／OHCでも提示する
知的常識シリーズ ユング	マギー・ハイド／心交社／／絶版状態。OHCで提示する
Adler for Beginners	Anne Hooper & Jeremy Holford／Writers and Readers Publishing, Inc.／／OHCでも提示する
特になし。	

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
援助者のためのフロイト入門	村本邦子／三学出版／／
フロイト著作集	フロイト／人文書院／／
ユング・コレクション	ユング／人文書院／／品切れ状態になっているものが何巻かある。
ファウスト 第一部・第二部	ゲーテ／岩波文庫、新潮文庫、中公文庫など／／
アドラーの生涯	エドワード・ホフマン／金子書房／4-7608-2139-2／

フロイト、アドラー、ユング関係で比較的廉価な書物がたくさん出回っており、ここにはあえて列挙しない。各自amazon.comなどで検索して、それぞれの著者の立場に注意しながら、目を通すことをお勧める。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

Wikipedia(日本語版、英語版)の関連項目
 日本精神分析協会<http://www.jpas.jp/>
 日本精神分析学会<http://www.seishinbunseki.jp/greeting.html>
 日本アドラー心理学会<http://adler.cside.ne.jp/>
 アドラー心理学ネットワーク<http://homepage3.nifty.com/adlerian/>
 ユングネット<http://www.asahi-net.or.jp/~we7n-hkt/jung.html>
 ゲーテ自然科学の集い<http://www.cc.okayama-u.ac.jp/~ohtaro/goethe-natur/index.htm>
 日本ワグナー協会<http://www.wagner-jp.org/>

その他 / Others

精神保健福祉援助演習 S

14359

担当者名 / Instructor 山本 耕平

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

精神科ソーシャルワーカーの養成において重要な役割を果たすのが精神保健福祉援助演習である。精神保健福祉に関する他の科目で学んだ理論を、教員と学生の共同作業により具象化し、精神科ソーシャルワーカーの専門性(価値・倫理、知識、技術)を培う。当事者の生活と権利を護り、当事者のパートナーとして実践を展開するために必要な倫理や価値、さらに技術をディベート、グループワーク、ロールプレイ等々を活用し獲得することを目指す。

到達目標 / Attainment Objectives

- ① 揺れながら共に学び、共に育つ。
- ② 討論できる精神科ソーシャルワーカーとして育つ。
- ③ 生きづらさを持つ個々の精神障害者と同様の課題を持つ仲間達が、社会に参加する力を獲得するプロセスを提示できる力を獲得する。
- ④ 専門性を獲得する為に自己に求められている課題と対峙する力を獲得する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

精神保健福祉実習は本科目と同時に履修しなければならない。
他の精神保健福祉士課程専門科目をできるだけ事前に、もしくは本科目と同時に履修する必要がある。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	オリエンテーション	援助演習の約束 自己開示
第2回	精神障害者の生活と支援①	KJ法 当事者理解
第3回	精神障害者の生活と支援②	リフレーミング ストレNGTHS
第4回	支援関係形成とコミュニケーション・スキル①	話す人としての役割 聞く人としての役割
第5回	支援関係形成とコミュニケーション・スキル②	バイステック7原則 循環的關係
第6回	支援関係形成とコミュニケーション・スキル③	非言語的コミュニケーション ロールプレイ
第7回	課題の発見・分析と支援計画① 一統合失調症一	マッピング技法 ICF 資源
第8回	課題の発見・分析と支援計画② 一アディクション一	マッピング技法 家族支援
第9回	課題の発見・分析と支援計画③ 一思春期・青年期一	マッピング技法 家族システム 多機関連携
第10回	保健所におけるソーシャルワーク事例	危機対応 受療支援 退院促進
第11回	精神科病院におけるソーシャルワーク事例	権利擁護 家族調整 住居設定
第12回	社会復帰施設におけるソーシャルワーク事例	柔らかな危機対応 自立支援 結婚 ステイグマ
第13回	自己覚知	自身の長所・短所 ゲーム 他己紹介
第14回	自己覚知	強さに視点をあてた自己理解
第15回	前期のまとめ	実習前課題
第16回	グループワーク①	SST 日常生活場面 デイケア
第17回	グループワーク②	心理教育 統合失調症圏 思春期・青年期圏 アディクション圏
第18回～第23回	スーパービジョン	限界と課題 自己の可能性
第24回～第29回	各領域でのソーシャルワーク	実習報告
第30回	まとめ	精神保健福祉士としての価値

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	演習への参加回数と参加意欲で判断する

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

- ① 精神科ソーシャルワーカー(精神保健福祉士)として育っていく為に、常に当事者の暮らしに関心を持って欲しい。
- ② この演習は、精神障害者の生活支援スキルを学ぶことを目的としており、各自の悩みを解決する場ではない。

教科書 / Textbooks

なし

参考書 / Reference Books

授業のなかで指示する

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

精神保健福祉援助実習 S

14360

担当者名 / Instructor 山本 耕平

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

精神保健福祉援助実習は、通年の授業と180時間以上の現場実習で構成されている。現場実習は、精神科ソーシャルワーカー(精神保健福祉士)として、精神障害者の伴走者となる初めての体験である。180時間という限定された時間であるが精神障害を持つ当事者や家族と直接関わるなかで、講義で学んだ理論や演習で間接的に体験した知識を活用することが求められる。その直接的な関わりの中で、専門職としてのスキルや価値、倫理を高め、支援者として自らの課せられている課題を知ることが必要である。

到達目標 / Attainment Objectives

- ①精神障害者の生活課題を理解し、地域生活支援のありかたにつき考察する力を獲得する。
- ②医療・生活の現場における専門職の実践課題と現状につき分析する力を獲得する。
- ③支援者として自らが求められている課題を明確にできる。
- ④最低限の倫理や義務につき理解し護ることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

精神保健福祉援助演習は本科目と同時に履修しなければならない。
他の精神保健福祉士課程専門科目をできるだけ事前に、もしくは本科目と同時に履修する必要がある。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	オリエンテーション	実習の意義 目的 一年間の課題
第2回	事前学習の内容と方法	現場が求めている実習生 現場が求めない実習生 実習に期待すること KJ法
第3回	事前学習①-実習計画立案にあたって①-	実習先の情報収集 実習報告からの学び
第4回	事前学習②-精神障害者と家族に関する文献学習-	精神科医療 精神保健福祉 家族間力動 偏見
第5回	事前学習③-精神障害者の地域生活資源に関する文献学習	精神保健福祉法 自立支援法
第6回	実習計画の立て方	目的、意義、目標、課題、評価方法
第7回	実習計画の発表	目的 意義 目標 課題
第8回	実習計画の再発表	目的 意義 目標 課題
第9回	精神科ソーシャルワーカー(精神保健福祉士)の視点と実践①	パートナーシップ バウンダリー
第10回	精神科ソーシャルワーカー(精神保健福祉士)の視点と実践②	抵抗 逆抵抗 共感 自己覚知
第11回	精神科ソーシャルワーカー(精神保健福祉士)の視点と実践③	マイクロカウンセリング技法
第12回	精神科ソーシャルワーカー(精神保健福祉士)の視点と実践④	バーンアウト要因
第13回	実践と記録	客観的描写 自己評価 気づき(課題発見)
第14回	実習生の心得	倫理、課題、スーパービジョン
第15回	実習直前ガイダンス	手続き、必要書類、様々な状況への対処
第16~17回	実習の振り返り	当事者 支援者 自己 地域
第18~23回	実習報告	実習概要 学び 成長 今後の課題
第24~26回	実習報告会	報告の準備、報告
第27~29回	共通課題についてのグループ演習	視点 対処法 倫理 自己覚知など
第30回	総括的演習 まとめ	今後の課題

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

実習前に、実習施設を訪問し、オリエンテーションを受けるとともに、実習計画について相談する。
前期には、実習に関連する事前学習を行い、その内容の発表準備とレポート作成が必要。また、実習計画書の作成は必須。後期には、実習についてのクラス発表の準備、実習報告会の準備、実習報告書の作成を行う。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	演習活動への参加、事前学習レポート、実習計画、実習報告、実習記録などを総合的に評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

- ①文献学習とは、各自が文献を検索し、自己学習結果を報告することを意図する。
- ②実習計画は、グループで発表し指摘を受けた項目を考慮し再発表する機会を与える。
- ③実習には、受講生が主体的に取り組むことがなによりも求められる。

教科書 / Textbooks

指定しない

参考書 / Reference Books

授業進行と共に紹介する

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

担当者名 / Instructor 神保 哲生

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

やっぱ、メディアは大事でしょ。

メディアについて巷間あれこれ言われることが多いが、とは言えメディアは私たちが世界や日本で何が起きているかを知る、唯一無二のチャンネルであることに変わりはない。ブログや掲示板などネット上で乱れ飛ぶ「事実っぽい情報」も、ごく例外的なものを除き、基本的にはメディアが報じた情報のコピペに過ぎない。

そこで、本授業では、日本初のビデオジャーナリストであると同時に、現役のビデオジャーナリストでもある神保哲生が、ビデオジャーナリズムという新しい形の映像ジャーナリズムを通じて、映像表現の特性やデジタル化・インターネット時代のジャーナリズムのあるべき姿とその役割についての基本的な問いを皆さんに投げかけるというもの。

早い話が、21世紀のメディアのあり方について、基礎の基礎から少し考えてみようではないかというクラスです。

到達目標 / Attainment Objectives

そもそもメディアとは何で、ジャーナリズムとは何なのかについての基本的な理解を得る。また、インターネット時代のジャーナリズムの課題、ビデオジャーナリズムの役割、既存のメディアが抱える構造的な問題等、メディア全般に対する理解を深める。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし。ただし、できるだけ新聞は毎日を読み、一日一回はテレビのニュースを欠かさずに見る習慣をつけておくことが望ましい。授業では具体的なニュースの事例を取り上げることが多いため、日常的に新聞を読みテレビのニュース番組を見ている人とそうでない人との間には、このクラスから得られるものに大きな開きが生じることになる。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	メディアとは	メディア、ジャーナリズム、新聞、テレビ、雑誌
第2回	ジャーナリズムの役割	
第3回	ジャーナリズムの構成要件①ニュース性	
第4回	ジャーナリズムの構成要件②公共性	
第5回	ジャーナリズムの構成要件③中立性	
第6回	インターネットのインパクト① 可能性編	
第7回	インターネットのインパクト② 問題点編	
第8回	ビデオジャーナリズム① ビデオとは何か	
第9回	ビデオジャーナリズム② ビデオの特性と応用	
第10回	ビデオジャーナリズム③ 既存のテレビの問題点	
第11回	ビデオジャーナリズム④ なぜ今ビデオジャーナリズムなのか	
第12回	メディアが抱える諸問題① 日本のメディアの構造問題	
第13回	メディアが抱える諸問題② 集団加熱報道、視聴率・販売数競争、広告圧力など	
第14回	メディアが抱える諸問題③ グローバル化の中のメディア産業	
第15回	レビュー(復習)&レポート(提出)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

新聞は最低一紙毎日読むことが望ましい。また、テレビのニュース番組もできる限り1日最低1回は見る事が望まれる。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	34 %	論文形式のレポートテストを最終講義の後に実施します。
平常点(検証テスト)	33 %	論文形式の小テストを学期中に何度か実施します。
平常点(日常的)	33 %	授業は双方向方式で進めます。名簿から名前を呼ばれた際に不在だと欠席扱いとなり、評価に影響します。また、学期中に実施される小テストや論文の提出状況でも出欠を判断します。また、授業中の積極的な議論への参加も評価の対象としてカウントします。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

毎回授業はその週に起きたニュースを取り上げて双方向(教員と生徒間)でその内容や伝え方の是非を議論することから始まります。

また、本クラスは後期のメディア制作IIと連動します。基本的には後期メディア制作IIの履修を希望する人は、前期専門特殊講義(ビデオジャーナリズム論)を履修しておくことが求められます。

更に、メディア制作IIが、来年度の神保ゼミと連動するので、翌年神保ゼミの登録を考えている人は、2回生時に本クラスを履修しておくことを強く勧めます。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
ビデオジャーナリズム カメラを持って世界に飛び出そう	神保哲生 / 明石書店 / 978-4750323589 /

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
ジャーナリズムの原則	コバッチ、ローゼンステール / 日本経済評論社 / 978-4818814479 /
日本人のための憲法原論	小室直樹 / 集英社インターナショナル / 978-4797671452 /
漂流するメディア政治	神保哲生ほか / 春秋社 / 978-4393332207 /
ネット社会の未来像	神保哲生ほか / 春秋社 / 978-4393332443 /
ビデオジャーナリストの挑戦	神保哲生 / ほんの木 / 978-4938568603 /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

www.jimbo.tv
 www.vjdojo.net
 www.videonews.com

その他 / Others

担当者名 / Instructor 神谷 雅子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

京都がなぜ「日本映画のふるさと」といわれているのか、京都の映画の歴史を中心に、映画誕生期、映画産業形成期、戦時下の映画を利用したプロパガンダ政策、戦後の映画産業の盛衰、現在の映画産業の構造、映画振興政策、今後の映画映像産業の方向、などを、映像資料や最近の統計調査などを使い、映画産業の歴史的縦軸と、日本の産業構造を中心としつつ世界の状況も見通した面的な状況を話す予定。

到達目標 / Attainment Objectives

- 1、京都でなぜ日本映画が発展していったのかの基本的な理解。
- 2、第七の芸術といわれる「映画」とは何かの、基本的な理解
- 3、映画産業の構造の理解と今後の産業としての可能性の検証

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の進め方、ガイダンス	
第2回	映画誕生	リュミエール兄弟
第3回	京都の映画史1	稲畑勝太郎
第4回	京都の映画史2	マキノ省三 尾上松之助
第5回	京都の映画史3	日本初の女性映画監督 坂根田鶴子
第6回	戦争と映画1	ナチスドイツの映画法、日本の映画法
第7回	戦争と映画2	満州国 満州映画協会
第8回	権力と映画	参考上映
第9回	戦後の映画産業	大映映画を中心に〜世界に認められた日本映「羅生門」「雨月物語」
第10回	映画産業の構造	製作、配給
第11回	映画産業の構造	興行
第12回	日本の映画振興政策	コンテンツビジネスとして
第13回	韓国の映画振興政策	韓国映画躍進の背景、今後の課題—対ハリウッド映画対策など
第14回	フランスの映画振興政策	第2次大戦後すぐに始まる。メディアリテラシー教育の重視、今後の課題
第15回	映画産業の今後の展開、可能性	試験

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

映画館や大学内での上映会等で、たくさんの映画をみること。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	80 %	試験の解答内容で、授業の理解度を判断する
レポート試験	10 %	映画館で見た日本映画の感想レポートの提出
平常点(日常的)	10 %	授業後のコミュニケーションペーパーを活用する

毎授業終了時提出してもらったコミュニケーションペーパーの内容のほか、2,000字程度の「レポート」を出題する予定です。

講義はレジュメを配布、折々の新聞記事やテレビ番組や参考作品のビデオ、DVDなどの鑑賞を行っています。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

映画を出来る限りたくさん見て欲しい。学内での上映会(有料)での作品もレポート課題の作品とする場合がある。映画産業は現在進行形でつねに変動している。今の時代の映画館、映画興行の現場の雰囲気を感じること、今後の映画産業の方向性が見えてくるはずである。ハリウッド大作、日本のメジャー作品だけでなく、世界の様々な国の作品を積極的に見て欲しい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

///

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
京都の映画80年のあゆみ	／京都新聞社／／
シネマがやってきた〜日本映画事始め	都築政昭／小学館／／日本映画の黎明期の様子が分かる
京都映画図説	鴫明浩＋映画探偵団／フィルムアート社／／京都の映画史の新記述等もある
別冊太陽 日本映画と京都	／平凡社／／
女人賛歌 甲斐庄楠音の生涯	栗田勇／新潮社／／溝口健二監督のスタッフだった画家の生涯
映画館ほど素敵な商売はない	神谷雅子／かもがわ出版／9784780301342／映画館の役割などを詳述した。

上記など。また随時授業でも紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

goo映画 <http://movie.goo.ne.jp/> all cinema online <http://www.allcinema.net> キネマ旬報データベース <http://walkerplus.com/movie/kinejun/> ミニパラ(全国のミニシアターのportalサイト)
<http://www.minipara.com/>など。

その他 / Others

- 1、遅刻は30分以上は認めない。30分以上遅れた学生は、必ず教室の後ろのドアから入ること。遅れた学生には、コミュニケーションペーパーの提出は求めない。
- 2、私語は厳禁(携帯でのメールのやりとりも禁止する、注意してもやめない場合退出を求める場合もある)
- 3、最終授業日に試験の内容についてのコメントする。
- 4、参考上映は、授業の進行と合わせて何回か行う。毎回、京都シネマで上映予定の最新作の予告編を授業の最初に上映する。

担当者名 / Instructor 白石 憲二

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

日々届けられる新聞は、どんな取材と論議を経てつくられているのか。事件、事故、政治、経済、国際、芸能、スポーツ…。一面からラテ面まで各面にちりばめられた一つひとつの記事には、過去から現在に連なる歴史の「縦軸」と、グローバル化が進む地球的な広がりを示す「横軸」とが交差する中で、各メディアが選び取ったメッセージが込められている。「良い記事」「悪い記事」はどう見分けるのか。「特ダネ」はどのようにして生まれるのか。新聞を中心にしたメディアが日々発信しているその「意味」を、社内で交わされている「紙面論議」などを手がかりに同時進行的に紹介、解析していく。

到達目標 / Attainment Objectives

新聞を中心にメディアが日々発信しているメッセージについて、その狙いなどを客観的に理解し、バランスのとれた視点で、その記事などのすぐれた点や不十分な点を評価、指摘できるようになる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	はじめに。新聞はどのようにしてつくられているのか。報道の役割とは。	発掘力
第2回	事件報道と人権(匿名・実名問題など)	個人情報
第3回	事件報道と人権(被害者報道、加熱取材など)	メディアスクラム
第4回	事件報道と人権(歴史的的重大事件など)	教訓
第5回	司法取材の現場から(死刑再審など)	冤罪
第6回	調査報道とは(リクルート事件など)	特ダネ
第7回	虚報と誤報(サンゴ事件)	あせり
第8回	報道の自由と取材源の秘匿(沖縄密約など)	スクープ
第9回	社説について(憲法改正論議など)	提言
第10回	教育現場から(日の丸・君が代)	良心
第11回	社風・社論(信頼される報道とは)	綱領
第12回	生活ニュースとは(街だね)	目線
第13回	発表ジャーナリズムからの脱却	記者クラブ
第14回	開かれた新聞とは(市民ネットと投書)	ブログ

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	70 %	「課題についての理解度、論旨の構成や説得力を重視する
平常点(日常的)	30 %	毎回のコミュニケーションペーパー、数回おきのミニレポートで理解度ををはかる

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

できるかぎり新聞を読むこと。とくに興味あるテーマについて継続的にウオッチし、各新聞の論調を比べてみる。大きな事件の判決報道で、自分ならどう本記(判決の中身を伝える記事)を書くか、判決要旨などを読んで試してみる。読解力と文章力がつく。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

<http://www.pressnet.or.jp/> 日本新聞協会プレスネット、週一回更新の「紙面展望」。
加盟新聞社の社説の論調をテーマ別に紹介している。

その他 / Others

担当者名 / Instructor 浪田 陽子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「NHK講座」では、NHKの番組制作取材や技術の最前線で活躍している方々やOBを講師に迎え、日頃それぞれの現場で何を考え追いつめているのか、理念と現実等について語ってもらいます。こうしたメディアの最前線を多角的に紹介し、多様なメディアから噴出するさまざまな情報を主体的に読み解き、参加する能力を養うことを目的としています。

本講座はNHK京都局の企画にもとづき、受講生との「双方向授業」を実施します。授業教室はキャンパスプラザ京都です。

※ 授業は4月12日から6月21日の間で集中して開講します。1日2回連続で実施する日があります。開催日程・時間割に注意してください。

※ 講義開始時間は午後1時です。講義終了時間は1講義の日は午後2時半、2講義の日は午後4時15分です。

到達目標 / Attainment Objectives

講師の話聞くことでテレビメディアの現状を理解し、双方向授業への参加によって積極的な学習能力を身につける。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	※2008年度NHK講座の授業期間は、4月12日から6月21日までの毎週土曜日です。ただし、5月3日(土)と5月24日(土)は休講です。	講義開始時間は午後1時です。終了時間は一日1講義の日は午後2時30分、一日2講義の日は午後4時15分です。
第1回 (4月12日)	1. 藤澤秀敏／解説委員室 【テーマ】グローバル化の中のメディアの役割	
第2回 (4月19日)	2. 中谷日出／解説委員室 【テーマ】企画実現のために～図解主義でいこう～	
第3,4回 (4月26日)	3. 丸山俊一／番組制作局 【テーマ】テレビは異文化コミュニケーションの現場だ！～「英語でしゃべらナイト」「爆笑問題のニッポンの教養」から～	4. 大谷聡／番組制作局 【テーマ】「天才てれびくんMAX」と「みんなのうた」～子どもたちに伝えることとは～
第5,6回 (5月10日)	5. 大森龍一郎／京都局制作 【テーマ】双方向授業① 番組制作の基本・提案課題設定	6. 未定／アナウンス室 【テーマ】未定
第7,8回 (5月17日)	7. 江口三朗／国際放送局 【テーマ】海外発信競争時代の映像国際放送	8. 田中良憲／視聴者サービス局事業部 【テーマ】視聴者と直接つながるNHKのイベントサービス
第9,10回 (5月31日)	9. 貫井博司／広報局制作部 【テーマ】伝えるコト、感じるコト。	10. 黒岩美香／国際メディアコーポレーション 【テーマ】海外ドラマが日本で放送されるまで
第11,12回 (6月7日)	11. 太勇次郎／京都局ニュース 【テーマ】アフガニスタンとパキスタンの最新情報・テロとの戦い	12. 長村中／営業局 【テーマ】受信料と公共放送
第13,14回 (6月14日)	13. 森信行／京都局技術部 【テーマ】「カメラマンの思考」～対象に何を感じ、どう向き合うか～	14. 大森龍一郎／京都局制作 【テーマ】双方向授業② 提案の秘訣・提案課題プレゼンテーション
第15回 (6月21日)	15. 福地茂雄／NHK会長 【テーマ】未定	

講師とテーマは3月27日現在のものですので、変更される可能性があります。初回授業にて確定した講義計画を配布します。

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	出席と講義時に提出する授業内レポート、ならびに双方向授業の際の提出物(番組提案票など)により評価を行う。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

担当者名 / Instructor 反畑 誠一、門田 幸太郎

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

デジタル技術革新とインターネット、携帯電話など通信網の普及で音楽コンテンツ産業は厳しい構造的変化に晒されています。それは音楽文化にも未知の課題を投げかけています。一方では芸術文化の創造と著作権の保護が重要なテーマになっています。ヨーロッパから発進した文化こそが最大の財産という理念のもとに「Culture First」が世界的な合言葉になっています。この授業は、激動する音楽コンテンツ産業界の最前線で活躍されている方々を講師にリレー式にお迎えし、知的創作物やその著作権保護等の現状ともっか直面している課題や今後の展望について講義していただき、大学コンソーシアム京都ならではの内容で構成されています。前・後期15回ずつ、計30回で唯一無二の専門書が完成するように配慮してあります。ぜひ1年間通して受講することをお奨めします。

なお本講義は、キャンパスプラザ京都で行われます。

※授業時間は午前11時～12時30分です。ただし、5月31日及び7月19日は2限連続(9時30分～11時、11時15分～12時45分)となります。5月24日及び6月28日は休講です。開催日程・時間割に注意をしてください。

到達目標 / Attainment Objectives

- 国際的視野で、音楽コンテンツ産業の実態を学ぶ。
- 過去を知り、知識を蓄積する。
- 現実を直視し、一流を知る。
- 明日を考え、展望する。
- 叡智と感性と創造力を培う。
- 自己の研究課題と進路を見つける。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	※授業時間は午前11時～12時30分です。ただし、5月31日及び7月19日は2限連続(9時30分～11時、11時15分～12時45分)となります。5月24日及び6月28日は休講です。開催日程・時間割に注意をしてください。	
第1回(4月12日)	反畑誠一 先生 (音楽評論家、立命館大学産業社会学部客員教授)	テーマ「Culture First (はじめに文化ありき)」
第2回(4月19日)	水村雅博 先生 ((社)日本レコード協会常務理事)	テーマ「音楽配信はCDを超えるか」
第3回(4月26日)	小杉茂 先生・野村達矢 先生・金井文幸 先生 ((社)音楽制作者連盟理事)	テーマ「今すぐわかる著作権講座」
第4回(5月3日)	茂原義春 先生 (田園調布雙葉高等学校教諭、沖縄音楽愛好家)	テーマ「沖縄音楽に魅せられて」
第5回(5月10日)	伊藤八十八 先生 (㈱エイティエイト代表取締役、音楽プロデューサー(録音技術))	テーマ「究極のレコーディング(録音)」
第6回(5月17日)	山崎芳人 先生 ((社)全国コンサートツアー事業者協会副会長、㈱キョードー東京代表取締役社長)	テーマ「ライブエンタテインメントと契約ビジネス」
第7回(5月31日)	錦織淳 先生 (弁護士、(社)音楽事業者協会顧問)	テーマ「知財と著作権」*ワークショップ付
第8回(5月31日)	反畑誠一 先生 (音楽評論家、立命館大学産業社会学部客員教授)	テーマ「実践著作権相談Q&A」
第9回(6月7日)	須藤晃 先生 ((株)よしもとアール・アンド・シー取締役副社長、音楽プロデューサー)	テーマ「不滅の尾崎豊伝説」
第10回(6月14日)	石坂敬一 先生 ((株)ユニバーサル・ミュージック代表取締役会長兼CEO)	テーマ「ザ・ビートルズ、アゲイン」
第11回(6月21日)	朝妻一郎 先生 ((社)音楽出版協会会長、㈱フジバシフィック音楽出版代表取締役会長)	テーマ「音楽著作権と国際社会」
第12回(7月5日)	後藤豊 先生 (㈱フォーライフミュージックエンタテイメント代表取締役社長)	テーマ「インディーズ創世記」
第13回(7月12日)	大月俊倫 先生 (キングレコード株式会社常務取締役、スターチャイルド本部長)	テーマ「アニメーションと音楽」
第14回(7月19日)	酒井均 先生 (特定非営利活動法人社会工学研究所代表理事)	テーマ「野外コンサートと経済効果」
第15回(7月19日)	反畑誠一 先生 (音楽評論家、立命館大学産業社会学部客員教授)	テーマ「日本とアジアの音楽コンテンツ市場」

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

<u>種別 / Kind</u>	<u>割合 / Percentage</u>	<u>評価基準等 / Grading Criteria etc.</u>
平常点(日常的)	100 %	(出席点・レポートなどで総合的に評価します)

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

JASRACホームページ: <http://www.jasrac.or.jp/>

その他 / Others

- 今や総表現者時代。各自が著作権と想定して学ぶ「知財幸福論」である●

担当者名 / Instructor 反畑 誠一、門田 幸太郎

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

デジタル技術革新とインターネット、携帯電話など通信網の普及で音楽コンテンツ産業は厳しい構造的変化に晒されています。それは音楽文化にも未知の課題を投げかけています。一方では芸術文化の創造と著作権の保護が重要なテーマになっています。ヨーロッパから発進した文化こそが最大の財産という理念のもとに「Culture First」が世界的な合言葉になっています。この授業は、激動する音楽コンテンツ産業界の最前線で活躍されている方々を講師にリレー式にお迎えし、知的創作物やその著作権保護等の現状ともっか直面している課題や今後の展望について講義していただき、大学コンソーシアム京都ならではの内容で構成されています。前・後期15回ずつ、計30回で唯一無二の専門書が完成するように配慮してあります。ぜひ1年間通して受講することをお奨めします。

なお本講義は、キャンパスプラザ京都で行われます。

※授業時間は午前11時～12時30分です。ただし、1月17日は2限連続(9時30分～11時、11時15分～12時45分)となります。12月6日は休講です。開催日程・時間割に注意してください。

到達目標 / Attainment Objectives

- 国際的視野で、音楽コンテンツ産業の実態を学ぶ。
- 過去を知り、知識を蓄積する。
- 現実を直視し、一流を知る。
- 明日を考え、展望する。
- 叡智と感性と創造力を培う。
- 自己の研究課題と進路を見つける。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	【開講式・オリエンテーション】	反畑誠一 先生 (音楽評論家、立命館大学産業社会学部客員教授)
第2回	長澤雅彦 先生 (映画監督)、熊木杏里 先生 (シンガー・ソングライター)	テーマ「映画と音楽」 キーワード:映画『天国はまだ遠く』
第3回	亀田誠治 先生 (音楽プロデューサー)	テーマ「ヒットの理由」 キーワード:配信と音楽
第4回	椎名和夫 先生 (実演家著作隣接権センター(CPRA)運営委員)	テーマ「実演家と著作隣接権」 キーワード:ダビング10
第5回	辻居幸一 先生 (弁護士)	テーマ「消費者の違法行為」 キーワード:「Lマーク」「OTMマーク」
第6回	笹路正徳 先生 (音楽プロデューサー)	テーマ「音楽プロデュースの変遷」 キーワード:洋楽と邦楽の比較
第7回	杉本誠司 先生 (㈱ニワンゴ代表取締役社長 兼 ニコニコ動画事業本部事業推進部部长)	テーマ「動画配信の現状と展望」 キーワード:ニコニコ動画
第8回	三枝照夫 先生 (ビクターエンタテインメント株式会社取締役会長)	音楽マーケティングにおける市場への取り組み ～マーケット・セグメントとアプローチ 【*中間レポート提出日】
第9回	岡田富美子 先生 (作詞家)	テーマ「作詞家という仕事」 キーワード:作詞論
第10回	杵屋佐近 先生 (長唄佐門会)	テーマ「伝統音楽と8ビート」 キーワード:歌舞伎ロック(三味線実演付)
第11回	渡辺俊幸 先生 (作曲家)	テーマ「ドラマと音楽」 キーワード:オーケストレーション
第12回	吉田敬 先生 (㈱ワーナーミュージック・ジャパン代表取締役社長)	テーマ「メジャーレコード会社の組織と運営」 キーワード:ヒットメーカー
第13回	山本久 先生 (インディペンデント・レーベル協議会会長)	テーマ「インディペンデント・レーベル市場」 キーワード:インディーズ
第14回	山下和茂 先生 (文化庁長官官房著作権課長)	テーマ「著作権行政の課題」 キーワード:著作権法改正
第15回	【期末総括】	反畑誠一 先生 (音楽評論家、立命館大学産業社会学部客員教授) 【*期末レポート提出日】

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	(出席点・中間レポート・期末レポートなどで総合的に評価します)

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

JASRACホームページ: <http://www.jasrac.or.jp/>

その他 / Others

●今や総表現者時代。各自が著作権と想定して学ぶ「知財幸福論」である●

担当者名 / Instructor 斎藤 喬

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

テーマ: 21世紀の世界とジャーナリズム

イラク戦争とその後の戦後復興をめぐる、米英とドイツ、フランス、ロシアが対立、その間を縫うように多発するテロ事件など世界は混迷を深めています。アジアに目を転じて中国の経済発展に伴う階層の分裂、北朝鮮の核問題、各国で猛威を振るう鳥インフルエンザなど多難な問題が山積みしています。日本でも自衛隊イラク復興支援部隊をめぐる国民の意見は分裂、マスコミの対応にも違いが大きくなりはじめています。この世界の現在と未来をどう読み解くのか、読売テレビと読売新聞のリーダーと第一線の記者らが講義します。

到達目標 / Attainment Objectives

激動の社会の中でメディアが何を考え、どう行動しているかを十分に把握して欲しい

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
4/9	中村 仁・読売新聞大阪本社代表取締役社長	「情報化社会のジャーナリズムの責任」
4/16	越智常雄・読売テレビ代表取締役専務	「地上波テレビの現状と未来」
4/23	森克二・読売新聞大阪本社社会部長	「社会部のいま」
4/30	岩田公雄・読売テレビ放送報道局解説委員長	「テレビジャーナリズムの現場から」
5/7	塩雅晴・読売新聞大阪本社論説委員長	「裁判員制度について」
5/14	西垣慎一郎・読売テレビ放送コンテンツ開発事業局長	「デジタル時代のコンテンツ」
5/21	上野昌彦・読売新聞大阪本社経済部長	「変わる経済報道」
5/28	森岡啓人・読売テレビ放送執行役員コンプライアンス推進室長	「記者レポート論」
6/4	佐藤 伸・読売新聞大阪本社英字国際課長	「国際報道の現場から」
6/11	丸山公夫・読売テレビ放送執行役員編成局長	「デジタル時代の編成戦略」
6/18	辛坊治郎・読売テレビ放送報道局局長兼解説副委員長	「言論の自由のために知っておくべきこと」
6/25	朝倉敏夫・読売新聞東京本社論説委員長	「新聞と社論」
7/2	岸本弘一・読売新聞大阪本社編集局長	「新聞が伝えるべくもの」
7/9	本田邦章・読売テレビ放送取締役報道局長	「テレビ報道の現状と課題」

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

テーマ及び講師は変更になる場合もあります。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	100 %	

毎授業終了時提出してもらおうアンケート用紙への回答のほか、2,000字程度の「レポート」を出題する予定です。講義はレジュメを配布、折々の新聞記事やテレビ番組や新聞記事、ビデオなどを使って行います。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

マスコミ(テレビ・新聞)に関心がある学生、マスコミ界を目指している人で、日々のニュースに興味を持って見ている人が対象。

専門特殊講義II SH § 専門特殊講義 SH

15443

担当者名 / Instructor 斎藤 喬

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

テーマ: 読賣マスコミ講座2～ジャーナリズムの現場～

現場の取材活動のなかで、何が行われているか、また取材における問題関心はどういったところに向けられているかなど、現場で活躍している専門記者の方々が、各分野にそくした現状等を講義します。

※講義スケジュールについては、変更される場合があります。

到達目標 / Attainment Objectives

激動の社会の中でメディアが何を考え、どう行動しているかを十分に把握して欲しい

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
10/1	新谷 弘・読賣テレビ放送 報道局局長	「テレビ映像の文法」
10/8	柳林 修・読賣新聞大阪本社編集委員	「遺跡発掘現場から」
10/15	堀川 雅子・読賣テレビ放送報道局記者	「犯罪被害者と報道」
10/22	田中 里佳・読賣新聞大阪本社編成部主任	「デジタル時代の新聞編集」
10/29	道浦 俊彦・読賣テレビ放送報道局局長補佐兼アナウンサー	「平成言葉事情」
11/5	森川 暁子・読賣新聞大阪本社社会部主任	「報道といのち」
11/12	相島 良樹・読賣テレビ放送報道局プロデューサー	「『ミヤネ屋』の冒険」
11/19	古岡 三枝子・読賣新聞大阪本社記者	
11/26	脇浜 紀子・読賣テレビ放送アナウンサー	「テレビリポート原論」
12/3	浪川知子・読賣新聞大阪本社文化部主任	「平成文学マップ」
12/10	常喜 満・読賣テレビ放送カメラマン	「報道テレビカメラマンが見たもの」
12/17	吉村 慎吾・読賣新聞大阪本社社会部次長	「事件報道のいま」
12/24	本多 宏・読賣新聞大阪本社科学部長	「科学報道の現場」
1/7	藪田 正弘・読賣テレビ放送報道局局長兼報道番組部長	「災害報道～テレビがライフラインであるために～」

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

テーマ及び講師については変更になる場合があります。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	100 %	

毎授業終了時提出してもらったアンケート用紙への回答とともに、2,000字程度の「レポート」を出題する予定です。講義はレジュメを配布、折々の新聞記事やテレビ番組や新聞記事、ビデオなどを使って行います。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

マスコミ(テレビ・新聞)に関心がある学生、マスコミ界を目指している人で、日々のニュースを興味を持って見ている人が対象。

担当者名 / Instructor 有賀 郁敏

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

* テーマ:「見る」「歩く」「遊ぶ」「働く」「暮らす」「創る」から考える、“私たちのまち京都”

京都市には現在約150万人の市民が住み(平成19年11月)、1年間に4,800万人を超える観光客が訪れる(平成18年)。また、市内には25の大学と12の短期大学があり、約14万人の学生が学んでいる(平成18年度)。京都の世界有数の文化観光都市であり、かつ「大学のまち」である。京都で生活し、学び、働き、そして遊ぶ人々は京都に魅力を抱きながら京都のまちの良さを保持し、それを発展させたいと願っている。こうした願いを底辺からサポートしているのが京都市政(行政)である。京都市には局・区役所があり、それぞれが連携して市民や京都を訪れる人々のために仕事をしている。もちろん、市の形は行政だけでつくられるのではなく、よりよい京都のありようを考える市民自らの市政への参画が欠かせない。

本講義では、京都のまちや人々の諸活動を理解している各局の課長を招聘し、京都のまちを「見る」「歩く」「遊ぶ」「働く」「暮らす」「創る」という6つのキーワードから立体的に捉えてみたい。受講生には本講義を通じて、京都のまちに関する諸々の知識を修得するとともに、よりよい京都を創造していくための担い手になって欲しい。

到達目標 / Attainment Objectives

- ①京都市の現状を理解し、京都の課題を興味を持って探究することができる
- ②京都市の行政の取り組みを理解することができる
- ③京都で学ぶ学生として京都市政のありように主体的に関与していくための知識を身につけることができる

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	私たちのまち「京都」—京都のまちの魅力:見る、歩く、遊ぶ、働く、暮らす、創る	京都、まちづくり、京都市行政、講義の課題、評価
2	京都のまちを「見る」①—京都市の総合計画	京都のまち、総合計画
3	京都のまちを「見る」②—京都創生	京都創生
4	京都のまちを「見る」③—京都市財政のあらまし	京都市政
5	京都のまちを「歩く」①—京都市の景観政策	景観政策
6	京都のまちを「歩く」②—文化財保護とその取組	文化財保護
7	京都のまちで「遊ぶ」①—京都の文化芸術に親しみ、もっと楽しむために	文化芸術
8	京都のまちで「遊ぶ」②—京都市のスポーツ振興	スポーツ振興
9	京都のまちで「遊ぶ」③—「5000万人観光都市・京都」の実現を目指して	観光都市
10	京都のまちで「働く」—京都市の産業構造と産業振興策	産業構造、産業振興策
11	京都のまちで「暮らす」—京のごみ戦略21	ごみ戦略
12	京都のまちを「創る」①—京都市の子育て支援	子育て支援
13	京都のまちを「創る」②—京都市の教育改革	教育改革
14	京都のまちを「創る」③—「大学のまち・京都」	大学のまち
15	再び考えてみよう! 私たちのまち「京都」	私たちのまち、京都

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	京都のまちの状況を「見る」「歩く」「遊ぶ」「働く」「暮らす」「創る」という視点から認識できているかどうか
平常点(日常的)	50 %	それぞれの講義でのミニレポートがしっかり書けているかどうか

* レポート試験のテーマについては講義の中で提示し、かつ掲示する。

* ミニレポートの内容は講義の中で紹介する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

本講義は、京都のまちのありよを考えていくものであるが、京都市をはじめ公務員を志望する学生にとっても有益である。

教科書 / Textbooks

テキストは使用しないが、各講師から関連資料が配布される。

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

京都は魅力あるまちである。多くの学生が本講義に参加し、京都のまちづくりの担い手となることを期待するものである。

担当者名 / Instructor 反畑 誠一

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

放送と通信の融合など、デジタル時代における多様化が日進月歩で進み、その急激な進化に伴うメカニズムへの波及と本質への影響を正確に把握、理解し、適宜に活用する必要性が不可欠になった。本講義では、産業社会学の見地から、活字メディア、ラジオ・テレビ等の放送メディア、ブロードバンド(高速・大容量)のインターネット、モバイル(携帯)メディア、配信メディアに至るまで、歴史と現況とビジネスモデルを表象的ではあるがカテゴリー別に学び、1億総発信者時代のメディア運営・研究の基礎を着実に構築し、生きる力を育てる。

到達目標 / Attainment Objectives

国際的視野を持った創造性豊かな実践型の人材育成を目指す。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

マスコミ論、音楽文化・産業論

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	テーマ「メディアと環境①」=インターネットの歴史、機能、特性	キーワード「SNS(ソーシャル・ネットワーク・サービス)」
第2回	テーマ「メディアと環境②」=活字(新聞・雑誌)メディアの歴史、使命、機能特性	キーワード「表現の自由」「フリーペーパー」
第3回	テーマ「メディアと環境③」=放送(テレビ・ラジオ)メディアの歴史、使命、機能特性	キーワード「IPマルチキャスト放送」「アーカイブス」
第4回	テーマ「メディアと環境④」=モバイル(携帯)メディアの歴史、機能特性、活用法	キーワード「情報弱者」「ケータイ・ビジネス」
第5回	テーマ「メディアと環境⑤」=パッケージ・メディア(DVD)の機能、特性	キーワード「人格権・著作権」「肖像権」
第6回	テーマ「メディアと環境⑥」=ノンパッケージ・メディア(音楽配信)のインフラ、機能	キーワード「著作権ビジネス」「私的録音・録画補償金」
第7回	テーマ「メディアと環境⑦」=次世代デジタル機器とビジネスモデル	キーワード「PtoP」「違法ファイル交換」
第8回	テーマ「メディアと環境⑧」=情報とモラル	キーワード「情報リテラシー」「ユビキタス社会」
第9回	テーマ「メディアと環境⑨」=音楽ホール、ライブハウス	キーワード「ライブ・エンタテインメント」「空間活用」
第10回	テーマ「メディアと環境⑩」=東南アジアのメディア事情 I	キーワード「電波行政」「ケーブルテレビ」
第11回	テーマ「メディアと環境⑪」=東南アジアのメディア事情 II	キーワード「著作権相互管理契約」
第12回	テーマ「メディアの活用①」=広告・広報・PR	キーワード「広告会社」「媒体選択」
第13回	テーマ「メディアの活用②」=プロモーション	キーワード「予算管理」「PV」
第14回	テーマ「メディア」=メディアの活用③「情報マネジメント	キーワード「情報の発信・受信」「チェック機能」
第15回	テーマ「総括」=創作者の自己チェックポイント	キーワード「好奇心」

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	70 %	
平常点(日常的)	30 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

- 環境が刻々と変化するので、新聞等活字メディアからの情報収集を怠りないように。
- テーマが多岐にわたるので、継続的な聴講、学習を期待します。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「著作権法の解説」	千野直邦、尾中普子共著／一橋出版／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

(社)日本音楽著作権協会、(社)日本レコード協会、(社)音楽出版社協会、(社)著作権情報センター、

(社)日本民間放送連盟、(社)日本新聞協会等のホームページを随時参考にするよう薦めます。

その他 / Others

担当者名 / Instructor 黒田 学

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本講義では、アジア太平洋地域の発展途上諸国における障害者問題について、ベトナムの障害者問題を通じて障害者の権利、福祉と教育を考え、検討する。発展途上国の障害者問題は、歴史的経緯や社会的文化的背景が異なっても、福祉と教育の施策が遅れ、様々な課題を抱えている。第二次アジア太平洋障害者の十年(2003-2012年)の意義と障害者施策の動向を踏まえ、国連・障害者権利条約採択(2006年12月)のもと、ベトナムを中心に障害者福祉・教育の課題を検討することとする。

到達目標 / Attainment Objectives

障害者問題を国内だけでなく、国際的な権利保障の課題として理解し、思考する力を養う。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

発達保障論、障害者福祉論

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
§ 1	発展途上国の人権保障と社会問題(戦争と貧困、福祉課題)その1	ユニセフ、UNDP、人間の安全保障、人間開発
§ 2	発展途上国の人権保障と社会問題(戦争と貧困、福祉課題)その2	ユニセフ、UNDP、人間の安全保障、人間開発
§ 3	発展途上国の人権保障と社会問題(戦争と貧困、福祉課題)その3	ユニセフ、UNDP、人間の安全保障、人間開発
§ 4	第二次アジア太平洋障害者の十年(2003-2012年)と障害者施策の動向 その1	UNESCAP、障害概念、ノーマライゼーション、BMF、中国、タイ、マレーシア
§ 5	第二次アジア太平洋障害者の十年(2003-2012年)と障害者施策の動向 その2	UNESCAP、障害概念、ノーマライゼーション、BMF、中国、タイ、マレーシア
§ 6	第二次アジア太平洋障害者の十年(2003-2012年)と障害者施策の動向 その3	UNESCAP、障害概念、ノーマライゼーション、BMF、中国、タイ、マレーシア
§ 7	第二次アジア太平洋障害者の十年(2003-2012年)と障害者施策の動向 その4	UNESCAP、障害概念、ノーマライゼーション、BMF、中国、タイ、マレーシア
§ 8	ベトナム社会と障害者 その1	ベトナムの略史、ドイモイ、障害者の生活実態、枯れ葉剤、専門家養成
§ 9	ベトナム社会と障害者 その2	ベトナムの略史、ドイモイ、障害者の生活実態、枯れ葉剤、専門家養成
§ 10	ベトナム社会と障害者 その3	ベトナムの略史、ドイモイ、障害者の生活実態、枯れ葉剤、専門家養成
§ 11	ベトナム社会と障害者 その4	ベトナムの略史、ドイモイ、障害者の生活実態、枯れ葉剤、専門家養成
§ 12	ベトナム社会と障害者 その5	ベトナムの略史、ドイモイ、障害者の生活実態、枯れ葉剤、専門家養成
§ 13	ベトナム社会と障害者 その6	ベトナムの略史、ドイモイ、障害者の生活実態、枯れ葉剤、専門家養成
§ 14	ベトナム社会と障害者 その7	ベトナムの略史、ドイモイ、障害者の生活実態、枯れ葉剤、専門家養成
§ 15	アジア太平洋地域の障害者の権利保障と課題～まとめにかえて	BMF、国連・障害者権利条約、発達保障

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

テーマに関連してアジア太平洋地域の障害者問題に関する文献や資料を図書館やインターネットで探してもらいたい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	60 %	文献および講義を踏まえた考察、および論理的かつ明確な自己の見解の記述。
平常点(日常的)	40 %	不定期に行うVTR視聴等に関する感想文の提出。感想文には自己の見解が論理的かつ明確に記述されているかどうかを評価の基軸とする。

何らかの理由で出席が難しい事情をもつ学生への配慮は一切できないので、その点を踏まえて受講(登録)してもらいたい。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
ベトナムの障害者と発達保障	黒田 学 / 文理閣 / 4892595101 / 本書は授業内容をほぼ網羅している

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『世界の社会福祉年鑑』各年版	仲村優一他 / 旬報社 / /
胎動するベトナムの教育と福祉	黒田学・向井啓二・津止正敏・藤本文朗編 / 文理閣 / 4892594350 /
人間の安全保障	アマルティア・セン / 集英社新書 / 408720328X /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

アジア太平洋障害開発センター・APCD (<http://www.apcdproject.org/>)
障害保健福祉研究情報システム (<http://www.dinf.ne.jp/index.html>)

その他 / Others

担当者名 / Instructor 白石 憲二

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

少子高齢化社会が進行し、若者の活字離れも伴って伝統的なメディアの代表であった「新聞」に北風が吹き続けている。「新聞がなくなる日」「ネットが新聞を殺すのか」などの書物が出回っているが、新聞は本当にIT産業に飲み込まれてしまうのか。双方向メディア・ネットの拡大は、社会や民主主義のありかたにどんな激変をもたらすのか。人員削減、総合情報産業への脱皮、グループ企業間の新たな連携、紙面改革、デジタル化…。変容するメディア産業の現状を、過去のとのつながりの中から立体的に読み解いていく中で今後の姿を探っていく。テーマによってはゲスト講師を招く。

到達目標 / Attainment Objectives

メディアが多様化していく中で、新聞企業が直面している課題が理解できる。ネット社会の未来についてのおおまかな青写真が描ける。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	はじめに～講義の進め方と評価について・総論	マスコミ四媒体
第2回	日本の新聞業界～この半年の主な動き	デジタル
第3回	世界のメディア事情～韓国・北朝鮮	ネット新聞
第4回	世界のメディア事情～アメリカ	削減
第5回	世界のメディア事情～ヨーロッパ	タブロイド
第6回	世界のメディア事業～中国	自由化
第7回	新聞の連携と地方紙	連合
第8回	フリーペーパーの挑戦	多様化
第9回	新聞経営の合理化	外部化
第10回	電子新聞の模索	動画
第11回	電子電波メディアの現状と行方～テレビと通信	融合
第12回	電子電波メディアの現状と行方～NHK問題	肥大化
第13回	スポーツ紙の世界	元気
第14回	2009年の新聞界展望	淘汰

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	70 %	講義の内容についての理解度、論旨の構成や説得力を重視する。
平常点(日常的)	30 %	毎回のコミュニケーションペーパー、数回おきのミニレポートで理解度ををはかる。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

特殊講義(各部門共通)I RA § 専門特殊講義II SN § 人文科学総合講座特殊講義I LH § 日本外交論 J § 専門特殊講義 20418
§ 特殊講義(基礎)1(日本外交論) C

担当者名 / Instructor 石原 直紀

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

『日本外交論』

本講義の目指すものは、日本外交の実態を外務省の現役の方々に講義に来ていただき、現在の外交問題を論じてもらうことにより、各地域における外交や、国連外交など国際機関を通じた諸問題や協力の実態に理解を深めることである。

到達目標 / Attainment Objectives

国際関係学部 of 全コース共通の特殊講義として開講する。コースの固有専門科目である。法学部学生にとっては、日本外交論として開講する。文学部学生は人文科学総合講座特殊講義 I として開講する。(ただし国際Pの学生は特殊講義)こうした日本外交を担う人々の生の声を聞ける機会はあまり無い。外交問題に興味がある学生はこうした機会を見逃さぬ受講登録することを奨める。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

夏季集中講義で行なう。日時・内容は、現在外務省と調整中である。決定次第、発表予定。

授業スケジュール / Course Schedule

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	40 %	
平常点(日常的)	60 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特になし。適時講師作成の資料を配布予定。

参考書 / Reference Books

外務省「外交青書」各年版(外務省のホームページから入手可能です)

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

外務省<<http://www.mofa.go.jp/mofaj/>>

その他 / Others

時間割は、外務省講師の都合により変則的になる可能性があるので注意すること。

専門特殊講義 SO

15586

担当者名 / Instructor 是枝 裕和

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

主に1960年代のテレビ番組を振り返りながら、テレビの問題点と可能性について考察してみたい。

【事務室からの注意事項】

- 1) 本講義は、予備登録の上、受講者を決定します。予備登録の方法は掲示にて確認し、指定された期日内に手続きを行うこと。(配当回生:3回生以上)
- 2) 講義と関連して作品上映などが必要となるため、本講義の次の時限と連続で講義が行われることがあります。本講義の受講を希望する者は、次時限(前期金曜日5限)もあけておくこと。

到達目標 / Attainment Objectives

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
講義の詳細は、第1回講義で説明します。		

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

政策科学特殊講義 PA § 法政特殊講義 JI § 人文科学総合講座特殊講義I LQ § 特殊講義(各部門共通)IRD § 専門特¹⁴⁰³⁹
義 SP § 特殊講義 WA § 専門特殊講義II SP

担当者名 / Instructor 石原 一彦

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本講義は、読売新聞の援助により各府県知事のタイトな日程を調整して頂いた上でお迎えし、それぞれの政策的課題などを自由に語ってもらうものである。各府県の置かれた状況も、知事個人が抱える政治的事情もそれぞれまちまちであるので、個別政策や個人の政治戦略のレベルでは統一された話にはならない。ただ、分権改革以降、地方自治体のできる事が少しは増えてきており、とりわけ、知事ができることは多い。それぞれの知事の政策や戦略はそうした全国的な政治動向の影響を受けており、中央地方関係の変動をレンズにして日本政治を見ていくという視点に立てば、この講義の一貫したテーマを発見できるだろう。

講義では、まずコーディネータ側から知事の簡単な紹介をしたのち、それぞれの知事に自由に語って頂く。少し時間を余らせて頂くようお願いしているので、質問の時間を設ける。積極的に鋭い質問をぶつけてほしい。

滑り出しの数は難しいが、あらかじめ学生諸君から各知事にどのような話を伺いたいのかなどがあれば、毎回の出席票に記載欄を設けるのでこれに書いてもらうことを考えている。これを一定集約した上で、各府県の知事部局担当者に伝えることで、単なる連続講演会ではなく、一貫した講義としてのテーマ追求も行っていくたい。

到達目標 / Attainment Objectives

日本の地方自治と政府間関係(中央政府と地方政府の関係)について総合的に理解を深めることが目標である。知事の講演を受動的に聞いて満足することなく、自分で問いを立てて知事と擬似的に対話するぐらいのつもりで授業に望んでほしい。

あるいは、U・J・Iターンを考えている学生にとっては、それぞれの地域の政治行政のリーダーを見極めるチャンスでもある。講義は一貫したものとして運営するので、上述のテーマを理解することが第一の目標ではあるが、特に関心のある府県、特に関心のある知事について集中的に受講するという選択があっても良い。ただし、毎回出席しないと単位にはなりにくいので、そのつもりで。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

政治学、行政学、行政法、地方自治、地方財政、地域政策、地域研究、地域経済など、なんらかの関わりのある科目と主体的に関連づけること。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	講義の概要	
第2回	鳥取県 平井伸治知事	
第3回	福井県 西川一誠知事	
第4回	レポート「都道府県行政の課題と今後の方向性」の執筆・提出	
第5回	神奈川県 松沢成文知事	
第6回	京都市 門川大作市長	
第7回	岩手県 達増拓也知事	
第8回	熊本県 蒲島郁夫知事	
第9回	地方自立政策研究所 代表 穂坂邦夫氏	
第10回	NPO法人パブリックリソースセンター 事務局長 岸本幸子氏	
第11回	姫路市 石見利勝市長	
第12回	元大分県知事 平松守彦氏	
第13回	岡山県 石井正弘知事	
第14回	和歌山県 仁坂吉伸知事	
第15回	七尾街づくりセンター株式会社 谷内博史氏	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

各自の関心にそくして、地方自治・地方行政・地域政策などにかかわる書籍、論文、資料、新聞記事、各都道府県のウェブサイトなどに目を通しておくこと。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	80 %	各回の講義内容に関わる記述又は選択問題を出題する。
平常点(日常的)	20 %	出席票により出席をカウントして日常点評価とする。

出席票には、3週先の知事講義に対する質問事項等とともに、講義内容に関する感想を求める。出席票は講義開始前の入室時にのみ配布し、各講義終了時に回収する。コピーなどの不正行為をするものにはペナルティが与えられる。出席票にはQRコードシールを添付させるので、シールを毎回必ず持参すること。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

忙しい公務の時間を割いて来て頂く講師に対する最低限の儀礼として、遅刻・早退はしない。やむを得ざる事情で、そうしたことになった場合は、目立たぬように後部の出入口より静かに入退出すること。また、当然であるが、講義中は脱帽。また、言わずもがなであろうが、私語・飲食厳禁である。減点する場合もあるので注意するように。

3週先の知事講義に対する質問事項等は、どのような話を期待するか、何を聞きたいかについて、書くように。これについては、特にあれば、ということなので、無理に書かねばならないというものではない。この部分は採点の対象とはしないので、本当に聞きたいことがあるときだけ書いてほしい。

各回講義の要約を立命館大学のウェブサイトアップする。しかし、定期試験はこのことを前提に作成する。出席しなくても要約さえ覚えれば定期試験に解答できるといった問題は作成しないので注意するように。あくまでも、各回の講義に出席し、講義内容を理解することが基本である。各自の関心にそくして、地方自治・地方行財政・地域政策などに関わる書籍、論文、資料、新聞記事、各都道府県のウェブサイトなどに目を通しておくこと。

知事の講演は毎回独立したものとして語られるので、受動的に知事の話の聞いているだけではこの講義の獲得目標を達成することは難しい。受講生自身が地方政治、地方行財政をめぐる自分の関心にそくして問いかけながら知事の講演を聞くことが重要である。講義なのだから、時間学習が求められることは当然である。

出席票を出してもらうことで日常評価も一部入れようと考えているが、就職活動などでこれが厳しいものもあろうと配慮して、この部分を20%に抑えた。出席がたりないと考えるものは定期試験の準備でこれをカヴァするように。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『地方が変わる、日本を変える 全国知事リレー講座』(全7巻)	読売新聞社編／ぎょうせい／ISBN4-324-0693*／第一期知事講義(2002～3年)の成果
『テキストブック地方自治』	村松岐夫編／東洋経済新報社／ISBN4-492-21159-4／地方自治の基本的教科書
『知事が日本を変える』	浅野史郎・橋本大二郎・北川正恭／文春新書／ISBN4-16-660238-1／改革派知事と呼ばれた方々のもの
『分権推進と自治の展望』	田村悦一・水口憲人・見上崇洋・佐藤満／日本評論社／ISBN4-535-51434-8／政策科学研究科分権リサーチプロジェクトの成果

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

知事の入洛予定が決まり次第、掲げていくことになるが、上記のウェブページにより丁寧な情報が記載されることになるので、そちらを見ておくように。

政策科学特殊講義 PB § 法政特殊講義 JK § 人文科学総合講座特殊講義I LR § 特殊講義(各部門共通)IRJ § 専門特¹⁶⁵¹⁹
義 SQ § 特殊講義 WB § 専門特殊講義II SQ

担当者名 / Instructor 佐藤 満

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本講義は、読売新聞の援助により各府県知事のタイトな日程を調整して頂いた上でお迎えし、それぞれの政策的課題などを自由に語ってもらうものである。各府県の置かれた状況も、知事個人が抱える政治的事情もそれぞれまちまちであるので、個別政策や個人の政治戦略のレベルでは統一された話にはならない。ただ、分権改革以降、地方自治体のできる事が少しは増えてきており、とりわけ、知事ができることは多い。それぞれの知事の政策や戦略はそうした全国的な政治動向の影響を受けており、中央地方関係の変動をレンズにして日本政治を見ていくという視点に立てば、この講義の一貫したテーマを発見できるだろう。

講義では、まずコーディネータ側から知事の簡単な紹介をしたのち、それぞれの知事に自由に語って頂く。少し時間を余らせて頂くようお願いしているため、質問の時間を設ける。積極的に鋭い質問をぶつけてほしい。

滑り出しの数は難しいが、あらかじめ学生諸君から各知事にどのような話を伺いたいのかなどがあれば、毎回の出席票に記載欄を設けるのでこれに書いてもらうことを考えている。これを一定集約した上で、各府県の知事部局担当者に伝えることで、単なる連続講演会ではなく、一貫した講義としてのテーマ追求も行っていきたい。

到達目標 / Attainment Objectives

日本の地方自治と政府間関係(中央政府と地方政府の関係)について総合的に理解を深めることが目標である。知事の講演を受動的に聞いて満足することなく、自分で問いを立てて知事と擬似的に対話するぐらいのつもりで授業に望んでほしい。

あるいは、U・J・Iターンを考えている学生にとっては、それぞれの地域の政治行政のリーダーを見極めるチャンスでもある。講義は一貫したものとして運営するので、上述のテーマを理解することが第一の目標ではあるが、特に関心のある府県、特に関心のある知事について集中的に受講するという選択があっても良い。ただし、毎回出席しないと単位にはなりにくいので、そのつもりで。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

政治学、行政学、行政法、地方自治、地方財政、地域政策、地域研究、地域経済など、なんらかの関わりのある科目と主体的に関連づけること。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	講義の概要	
第2回	高知県 尾崎正直知事	
第3回	兵庫県 井戸敏三知事	
第4回	講義	
第5回	石川県 谷本正憲知事	
第6回	長崎県 金子原二郎知事	
第7回	休講	
第8回	山口県 二井関成知事	
第9回	茨城県 橋本昌知事	
第10回	京丹後市 中山 泰 市長	
第11回	読売新聞 大阪本社 論説委員 田口 晃也 氏	
第12回	千葉県 堂本暁子知事	
第13回	沖縄県 仲井眞弘多知事	
第14回	秋田県 寺田典城知事	
第15回	佐賀県 古川康知事	
	京都府 猿渡副知事(11月13日第7回分補講)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

各自の関心にそくして、地方自治・地方行財政・地域政策などにかかわる書籍、論文、資料、新聞記事、各都道府県のウェブサイトなどに目を通しておくこと。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind 割合 / Percentage 評価基準等 / Grading Criteria etc.

定期試験(筆記) 80 %

平常点(日常的) 20 % 出席票を配布する。

出席票は講義開始前の入室時にのみ配布する。コピーなどの不正行為をするものにはペナルティが与えられる。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

忙しい公務の時間を割いて来て頂く講師に対する最低限の儀礼として、遅刻・早退はしない。やむを得ざる事情で、そうしたことになった場合は、目立たぬように後部の出入口より静かに入退出すること。また、当然であるが、講義中は脱帽。また、言わずもがなであろうが、私語・飲食厳禁である。

知事の講演は毎回独立したものとして語られるので、受動的に知事の話の聞いているだけではこの講義の獲得目標を達成することは難しい。受講生自身が地方政治、地方行財政をめぐる自分の関心にそくして問いかけながら知事の講演を聞くことが重要である。講義なのだから、時間学習が求められることは当然である。

出席票を出してもらうことで日常評価も一部入れようと考えているが、就職活動などでこれが厳しいものもあろうと配慮して、この部分を20%に抑えた。出席がたりないと考えるものは定期試験の準備でこれをカバーするように。

教科書 / Textbooks

教科書は特にないが、一般には地方政治、地方行財政をめぐる書籍を読んでおきたい。参考書の中にそうしたものを数点掲げておく。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『地方が変わる、日本を変える 全国知事リレー講座』(全7巻)	読売新聞社編／ぎょうせい／ISBN4-324-0693*／第一期知事講義(2002～3年)の成果
『テキストブック地方自治』	村松岐夫編／東洋経済新報社／ISBN4-492-21159-4／地方自治の基本的教科書
『知事が日本を変える』	浅野史郎・橋本大二郎・北川正恭／文春新書／ISBN4-16-660238-1／改革派知事と呼ばれた方々のもの
『分権推進と自治の展望』	田村悦一・水口憲人・見上崇洋・佐藤満／日本評論社／ISBN4-535-51434-8／政策科学研究科分権リサーチプロジェクトの成果

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

知事リレーHP

<http://www.ritsumeai.ac.jp/liberal/chiji/2008/index.htm>

その他 / Others

知事の入浴予定が決まり次第、掲げていくことになるが、上記のウェブページにより丁寧な情報が記載されることになるので、そちらを見ておくように。

地域活性化ボランティア GA § 特殊講義(基礎)1 CD § 専門特殊講義 SR § 特殊講義(自由選択)1 MC § 特殊講義(自由選択)16759
 択) QC § 地域活性化ボランティア JA § 地域活性化ボランティア PA § 特殊講義(自由選択)I(地域活性化VT) TA

担当者名 / Instructor 桜井 政成

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

ボランティアセンターでは複数の地域と連携し、ボランティア活動を通じて地域に貢献しつつ、参加者にとって地域社会の一員としての自覚と能力を育成し、専門知識の応用的な理解を促す機会となる「地域活性化ボランティアプログラム」を実施している。これは、お祭りやまちづくりの支援活動、里山保全活動、子育て、災害援助活動など、さまざまな地域のさまざまな課題に対して取り組むものである。活動の期間は2日から1週間程度の集中的な活動から、半年近く活動するものまで様々である。

この「地域活性化ボランティアプログラム」に所定の時間以上参加し、なおかつ事前学習・事後学習に参加し、さらに所定の提出物を提出したもののについて、単位を認定する。

到達目標 / Attainment Objectives

ボランティア活動を通じて地域に貢献しつつ、地域社会の一員としての自覚と能力を育成し、自身の学問的専門領域への関心を高めること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「地域参加活動入門」(教養科目・前期2単位)

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	事前学習1(2コマ)	ボランティア活動の基礎知識、活動目標の設定、リスクマネジメント学習
2	事前学習2(2コマ)	実際に活動する内容に応じて、活動先の状況、活動内容に必要な知識、リスクマネジメントなどを学習する
3	ボランティア活動(40時間以上)	ボランティアセンターが主催する「地域活性化ボランティアプログラム」への参加
4	中間振り返り(1コマ)	ボランティア活動を振り返り、目標の達成度を検証します。
5	事後学習(3コマ)	ボランティア活動終了後、自己および専攻学問とのかかわりについて学習を深め、ボランティア活動を単なる地域体験にとどめず、その後の学修計画につなげることを目的として行う
6	活動報告会(2コマ)	活動プログラムごとに地域活性化と学びについての成果発表。

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	事前学習、活動、中間振り返り、事後学習、活動報告会のすべてに参加し、かつ必要な提出物および評価対象物(レポートなど)をすべて提出すること。

評価対象物は、活動計画書、活動記録、活動日誌、レポートを予定している。それらの評価基準としては、受講生自身にとって学びが何であったかが明確であることが重要となる。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

受講方法、評価方法については、詳しくは受講ガイダンスで伝える。4月以降、数回実施予定なので、ボランティアセンターホームページや、学部事務室の掲示などをよく見ておくこと。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

担当者名 / Instructor 神谷 雅子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「ドキュメンタリーはフィクションである」は、昨年惜しくも亡くなったドキュメンタリー映画の監督、佐藤真氏の言葉である。一般的にドキュメンタリーは、ノンフィクションと捉えられ、現実をありのままに映し出したものとされている。が、20年余り、さまざまなドキュメンタリーを見てきたが、「ドキュメンタリーはフィクションである」という言葉は、重要な指摘だと考える。ドキュメンタリーとは何か。いくつかの作品を見ながら考察していく。

到達目標 / Attainment Objectives

いくつかのドキュメンタリー作品の考察により、映画、テレビを問わず、広く映像メディア全体を捉え直す。作品ごとの考察は、受講生の積極的な発表を促す形で進める。ドキュメンタリーは、ノンフィクションか、フィクションか。それを越えたものなのか。理解を深めていく。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	ドキュメンタリーとは1	ドキュメンタリー、ノンフィクション
第2回	ドキュメンタリーとは2	演出とやらせ
第3回	ドキュメンタリー作品鑑賞	ドキュメント路上 土本典昭監督 1964年製作 白黒 54分
第4回	作品分析発表 4人 意見交換	ランダムに指名した受講生に、作品分析の発表を行ってもらう。
第5回	作品分析についての論評	
第6回	ドキュメンタリー作品鑑賞	原一男監督「ゆきゆき神軍」(1987年)120分 2回にわけて鑑賞
第7回	ドキュメンタリー作品鑑賞	原一男監督「ゆきゆきて神軍」2回目
第8回	作品分析発表 4人 意見交換	
第9回	作品分析についての論評	
第10回	ドキュメンタリー作品鑑賞	佐藤真監督「中東レポート アラブの人々から見た自衛隊イラク派兵」(2004年 カラー 43分)
第11回	作品分析発表 4人	
第12回	作品分析について論評	
第13回	ゲスト監督を招いて(未定)	作品鑑賞
第14回	作品分析の発表 4人	
第15回	ドキュメンタリーとは、ドキュメンタリーの可能性	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

ドキュメンタリー映画やテレビのドキュメンタリー番組を積極的に見て欲しい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	80 %	設問に対する解答の記述内容で、授業の理解度をはかる。
レポート試験	10 %	映画館で公開中、および学内上映会での上映作品(有料)のドキュメンタリー作品の感想レポートの提出。なお、作品分析発表者には、このレポート提出は求めない。
平常点(日常的)	10 %	授業後のコミュニケーションペーパーで、理解度を確認する。出席はとらない。

授業への30分以上の遅刻は認めない。私語、メール等も厳禁。注意しても聞かない場合は退出を求める場合もある。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
ドキュメンタリーの修辞学	佐藤真 / みすず書房 / 9784622072515 / ドキュメンタリーとは、最近の傾向など、いまのドキュメンタリーの周辺および監督の思いが伝わる好著

参考図書に関しては適宜紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

担当者名 / Instructor 神谷 雅子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

日本映画は、06年に興行収入で21年ぶりに外国映画を上回る活況を見せた。が、07年は、洋画が上回った。ここ数年、実際の製作本数は、公開本数の約2倍、公開されずに「お蔵入り」となっている映画が相変わらず多い。日本映画バブルの状況はまだまだ続きそうである。が、過去の日本映画の名作を見る機会は、学生にはほとんどない。京都は、あらためていうまでもなく、日本映画を作り続けている都市だ。京都文化の蓄積の成果でもある京都で製作された、過去の日本映画を見ることは重要だと考える。京都で作られた日本映画の鑑賞を通じて、今後どのような日本映画が望まれるのか、などを考えたい。

到達目標 / Attainment Objectives

京都で製作された日本映画の鑑賞を通じて、京都の歴史、文化的蓄積をあらためて学ぶ。映画の分析的見方を獲得して欲しい。京都をモデルケースに日本映画と地域との関係についての理解を深める。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	映画都市京都の現状	撮影所、太秦
第2回	京都映画史概略	日本映画のふるさと・京都
第3回	伊藤大輔監督の仕事	
第4回	伊藤大輔監督作品鑑賞	弁天小僧(1958年) 主演 市川雷蔵
第5回	作品分析発表 4人 意見交換	
第6回	発表についての論評と作品の背景など	
第7回	ゲストスピーカー 撮影監督 森田富士夫氏を予定	
第8回	溝口健二監督の仕事	
第9回	溝口健二監督作品鑑賞	祇園囃子 (1953年)主演 若尾文子、小暮実千代
第10回	作品分析発表 4人	
第11回	発表についての論評と、作品の背景などについて	
第12回	衣笠貞之助監督の仕事	
第13回	衣笠貞之助監督作品の鑑賞	時獄門 1953年 1954年カンヌ国際映画祭グランプリ受賞、米国アカデミー賞衣裳賞など受賞
第14回	作品分析の発表 4人	
第15回	日本映画と京都 映画と時代、地域、社会など、全体を通して考察	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

日本映画をたくさん見て欲しい。ゲスト並びに上映作品は、変更する場合もあるが、事前に説明を行う。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	80 %	設問に対する解答内容で理解度をはかる。
レポート試験	10 %	映画館および学内での上映会(有料)の作品の感想レポートの提出。ただし、作品分析発表者はのぞく。
平常点(日常的)	10 %	授業後のコミュニケーションペーパーで理解度をはかる。出席はとらない。

30分上の遅刻は認めない。私語、携帯メール等厳禁。私語等注意してもやめない場合は、退出を求める場合もある。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
日本映画を読む	大島渚ほか / ダゲレオ出版 / /
ある映画監督の生涯	新藤兼人 / 岩波新書 / /
日本映画批判	双葉十三郎 / トパーズプレス / /

日本映画

佐藤忠男／第三文明社／4-476-03175-7／

参考図書は随時提示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

担当者名 / Instructor 森西 真弓

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

歌舞伎について、歴史、特色、代表的な作品、演者などを授業します。また、歌舞伎は400年以上にわたって興行として成立する商業演劇であり続けています。それを可能にしている要因は何かについても考察します。理解を助けるため、適宜、映像資料を用います。

到達目標 / Attainment Objectives

日本の伝統芸能を代表する歌舞伎の基礎知識を身につけます。他の伝統芸能との関わりや現代演劇との交流について学びます。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	授業の概要と導入	伝統芸能と歌舞伎の位置
第2回目	歌舞伎誕生	出雲のお国から芳沢あやめへ
第3回目	元禄歌舞伎	江戸と上方
第4回目	劇場の整備と舞台機構の工夫	並木正三・回り舞台
第5回目	演目の分類と役柄の分化	丸本歌舞伎・立役の演技
第6回目	名門の形成と家の芸	歌舞伎十八番
第7回目	『勸進帳』の解説と鑑賞	映像資料視聴
第8回目	上方歌舞伎	三都比較に見る大阪
第9回目	化政期から幕末の歌舞伎	生世話物・白浪物
第10回目	明治・大正の歌舞伎	演劇改良・新歌舞伎
第11回目	京都の歌舞伎	南座・顔見世
第12回目	歌舞伎の舞踊	能取り物・変化舞踊・風俗舞踊
第13回目	昭和・平成の歌舞伎	松竹・前進座・国立劇場
第14回目	『野田版 研辰の討たれ』の解説と鑑賞	映像資料視聴
第15回目	歌舞伎の今・これから	全体のまとめ

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	持ち込みなしの筆記試験を行います。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

適宜、プリントを配布します。

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

担当者名 / Instructor 斎藤 喬、山下 高行

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「専門特殊講義 I - 読売スポーツ社会学講座 -」

2008年度8月に北京五輪が開催されるが、このような国際的なスポーツのギガイベントは、今日多面的にすすむグローバル化の流れを受け、様々な要素や問題の複合として表れており、社会科学の視座から深く切り込んでいくべき諸課題が数多く存在する。このため北京五輪をめぐる報道も、スポーツに直接関わる事象ばかりではなく、広い視野からそれを多面的に読み解いていくようにおこなわれきており、それは今日のスポーツ報道の一つの典型的なありようを示していると言ってもよい。

本特殊講義ではこの北京五輪という格好の素材をもとに、ジャーナリズム現場の専門家、特別ゲスト講師そして学部専任教員のコラボレーションにより、スポーツ報道の現代的様態や、さらにそれを通して現代社会におけるスポーツの価値、機能、さらに抱えている課題などについて考察を深めていくこととしたい。とりわけ「北京五輪」のありようを人文社会科学の視点から受講生が立体的に把握できるような講義として展開するものとした。

到達目標 / Attainment Objectives

本講義では、北京五輪というテーマを素材を通し、以下の二つの点について考えていけるようにすることを受講生の到達目標とする。

- 1) 現代社会におけるスポーツの価値、機能、抱えている課題などについて理解し、考察を深めていく。
- 2) スポーツ報道の現代的ありようを、主に制作者の側からみることによって理解し、その方向性や望ましいありようについても考察をおこなう。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	「イントロダクション」: 本講座の目的、スポーツイベントをめぐる問題群、各講義相互の関連性、評価など	山下 高行: 立命館大学産業社会学部教授
2	「北京オリンピック取材して」	新宮 広万氏: 読売新聞大阪本社運動部記者
3	「米大リーグの取材から」	大月 達也氏: 読売新聞大阪本社運動部主任
4	「TVとSPORTS」	萩原 大氏: 読売テレビ制作スポーツ局スポーツ部次長
5	「スポーツ報道の変遷」	高倉 祐司氏: 読売新聞大阪本社運動部次長
6	「TVとスポーツイベント」	上田 雅也氏: 読売テレビスポーツ局チーフ・プロデューサー
7	「メガスポーツイベント招致と国家及び都市の戦略」	【特別ゲスト講師】酒井 均氏: 特定非営利活動法人社会工学研究所代表理事 株式会社電通ソーシャル・プランニング局研究顧問
8	「現代中国社会における民族、政治、経済、文化: 北京五輪の背景」	文 楚雄: 立命館大学産業社会学部教授
9	「ベラ・チャスラフスカと東京五輪」	【特別ゲスト講師】後藤 正治氏: スポーツジャーナリスト、神戸夙川学院大学教授
10	「野球は幸せか——プロスポーツと経営戦略の真実」	【特別ゲスト講師】清武 英利氏: 讀賣巨人軍球団代表
11	「トップアスリートの光と影」	【特別ゲスト講師】八十 祐治氏: 弁護士・摂津総合法律事務所、元Jリーガー
12	「スポーツと北京五輪 I オリンピックにおけるスポーツ倫理」	草深 直臣: 立命館大学産業社会学部教授
13	「スポーツと北京五輪 II オリンピックの歴史と公共性」	有賀 郁敏: 立命館大学産業社会学部教授
14	「スポーツと北京五輪 III オリンピックにおける競技力体制」	漆原 良: 立命館大学産業社会学部准教授
15	「スポーツと北京五輪 IV オリンピックとグローバル化」	山下 高行: 立命館大学産業社会学部教授

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	70 %	本講義全体を通して学んだことから各自任意の課題を設定してまとめる。
平常点(日常的)	30 %	出席、および授業時に行われる簡単なレポート提出により評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

本講義では、これまでのゲスト講師によるリレー講義に加えて、共通のテーマ(スポーツ・メディア・北京五輪)をめぐるゲスト講師と学部専任教員が、それぞれの観点からアプローチしていく新しい方式をとっている。そのため授業の内容、および講師に関して一部変更が生じることがある。その場合事前に指示するが、その旨了承されたい。

教科書 / Textbooks

特に用いない。

参考書 / Reference Books

各授業中適宜指示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

- ・本講義は「読売マスコミ講座」と同様、読売新聞、読売テレビのご支援、ご協力をえて「スポーツ・メディア・北京五輪」をテーマにして、「専門特殊講義Ⅰー読売スポーツ社会学講座ー」として開講する。
- ・本講座は事前登録科目である旨注意されたい。

地域活性化ボランティア GB § 専門特殊講義 SX § 地域活性化ボランティア JB § 地域活性化ボランティア PB § 特殊講義¹⁶⁹⁶⁹
 (自由選択)I(地域活性化VT) TB § 特殊講義(自由選択)1 MG § 特殊講義(自由選択) QG § 特殊講義(基礎)1 CE

担当者名 / Instructor 中根 智子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

ボランティアセンターでは複数の地域と連携し、ボランティア活動を通じて地域に貢献しつつ、参加者にとって地域社会の一員としての自覚と能力を育成し、専門知識の応用的な理解を促す機会となる「地域活性化ボランティアプログラム」を実施している。これは、お祭りやまちづくりの支援活動、里山保全活動、子育て、災害援助活動など、さまざまな地域のさまざまな課題に対して取り組むものである。活動の期間は2日から1週間程度の集中的な活動から、半年近く活動するものまで様々である。

この「地域活性化ボランティアプログラム」に所定の時間以上参加し、なおかつ事前学習・事後学習に参加し、さらに所定の提出物を提出したもののについて、単位を認定する。

到達目標 / Attainment Objectives

ボランティア活動を通じて地域に貢献しつつ、地域社会の一員としての自覚と能力を育成し、自身の学問的専門領域への関心を高めること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

衣笠キャンパス開講「地域参加活動入門」(教養科目・前期2単位)

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	事前学習1(2コマ)	ボランティア活動の基礎知識、活動目標の設定、リスクマネジメント学習
2	事前学習2(2コマ)	実際に活動する内容に応じて、活動先の状況、活動内容に必要な知識、リスクマネジメントなどを学習する
3	ボランティア活動(40時間以上)	ボランティアセンターが主催する「地域活性化ボランティアプログラム」への参加
4	中間振り返り(1コマ)	ボランティア活動を振り返り、目標の達成度を検証します。
5	事後学習(3コマ)	ボランティア活動終了後、自己および専攻学問とのかかわりについて学習を深め、ボランティア活動を単なる地域体験にとどめず、その後の学修計画につなげることを目的として行う
6	活動報告会(2コマ)	活動プログラムごとに地域活性化と学びについての成果発表。

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	事前学習、活動、中間振り返り、事後学習、活動報告会のすべてに参加し、かつ必要な提出物および評価対象物(レポートなど)をすべて提出すること。

評価対象物は、活動計画書、活動記録、活動日誌、レポートを予定している。それらの評価基準としては、受講生自身にとって学びが何であったかが明確であることが重要となる。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

受講方法、評価方法については、詳しくは受講ガイダンスで伝える。4月以降、数回実施予定なので、ボランティアセンターホームページや、学部事務室の掲示などをよく見ておくこと。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

地域活性化ボランティア GC § 専門特殊講義 SY § 地域活性化ボランティア JC § 地域活性化ボランティア PC § 特殊¹⁶⁹⁷⁰
(自由選択)I(地域活性化VT) TC § 特殊講義(自由選択)1 MH § 特殊講義(自由選択) QH § 特殊講義(基礎)1 CF

担当者名 / Instructor 角谷 嘉則

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

ボランティアセンターでは複数の地域と連携し、ボランティア活動を通じて地域に貢献しつつ、参加者にとって地域社会の一員としての自覚と能力を育成し、専門知識の応用的な理解を促す機会となる「地域活性化ボランティアプログラム」を実施している。これは、お祭りやまちづくりの支援活動、里山保全活動、子育て、災害援助活動など、さまざまな地域のさまざまな課題に対して取り組むものである。活動の期間は2日から1週間程度の集中的な活動から、半年近く活動するものまで様々である。

この「地域活性化ボランティアプログラム」に所定の時間以上参加し、なおかつ事前学習・事後学習に参加し、さらに所定の提出物を提出したもののについて、単位を認定する。

到達目標 / Attainment Objectives

ボランティア活動を通じて地域に貢献しつつ、地域社会の一員としての自覚と能力を育成し、自身の学問的専門領域への関心を高めること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

衣笠キャンパス開講「地域参加活動入門」(教養科目・前期2単位)

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	事前学習1(2コマ)	ボランティア活動の基礎知識、活動目標の設定、リスクマネジメント学習
2	事前学習2(2コマ)	実際に活動する内容に応じて、活動先の状況、活動内容に必要な知識、リスクマネジメントなどを学習する
3	ボランティア活動(40時間以上)	ボランティアセンターが主催する「地域活性化ボランティアプログラム」への参加
4	中間振り返り(1コマ)	ボランティア活動を振り返り、目標の達成度を検証します。
5	事後学習(3コマ)	ボランティア活動終了後、自己および専攻学問とのかかわりについて学習を深め、ボランティア活動を単なる地域体験にとどめず、その後の学修計画につなげることを目的として行う
6	活動報告会(2コマ)	活動プログラムごとに地域活性化と学びについての成果発表。

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	事前学習、活動、中間振り返り、事後学習、活動報告会のすべてに参加し、かつ必要な提出物および評価対象物(レポートなど)をすべて提出すること。

評価対象物は、活動計画書、活動記録、活動日誌、レポートを予定している。それらの評価基準としては、受講生自身にとって学びが何であったかが明確であることが重要となる。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

受講方法、評価方法については、詳しくは受講ガイダンスで伝える。4月以降、数回実施予定なので、ボランティアセンターホームページや、学部事務室の掲示などをよく見ておくこと。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

担当者名 / Instructor 岡田 まり

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本講義の目的は、社会福祉援助(ソーシャルワーク)に必要な専門性の礎を築くことである。講義内容は、ソーシャルワークの基本的な考え方や、実践に必要な理論や専門技術などについてである。ソーシャルワークは、個人から地域、政策までさまざまなレベルで展開されているが、本講義ではソーシャルワークの全体像を視野に入れつつ、個人、家族、グループへの支援に焦点をあてて学習する。

到達目標 / Attainment Objectives

- ・ソーシャルワークの専門性と役割について説明できる。
- ・ソーシャルワーク実践のプロセスと方法について述べるができる。
- ・ソーシャルワーカーが常に遵守しなければならないことを述べるができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

社会福祉士課程の指定科目を可能なかぎり履修しておくことが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	ソーシャルワークとは	定義、目的、目標、価値と倫理
第2回	ソーシャルワークの分野・領域	家庭、地域、学校、組織、子ども、高齢者、障害者、患者、低所得者、異文化
第3回	ソーシャルワークの基本的な考え方	エコロジカル・システム・モデル、ストレングス・モデル
第4回	ソーシャルワークのプロセスとコミュニケーション	プロセス、コミュニケーション技法
第5回	アセスメント	アセスメントの目的、方法
第6回	家族機能のアセスメント	家族の特性、機能、家族システム、構造
第7回	グループ機能のアセスメント	グループのステージ、グループ総体、グループメンバー
第8回	ソーシャルワークの介入	課題達成、認知再構成、問題解決能力の向上、環境改善、社会資源の活用、エンパワメント
第9回	家族関係への介入	コミュニケーションの促進、家族関係の変化、認知再構成、役割の変化
第10回	グループ介入	グループの発達段階に応じた介入
第11回	組織・組織への介入	組織、地域
第12回	記録	記録の目的、種類、方法
第13回	介入の評価	評価の意義、アカウントビリティ、評価方法
第14回	スーパービジョン	スーパービジョンの機能と方法
第15回	確認テスト(60分)と解説(30分)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(検証テスト)	60 %	各回の内容について理解し、自分の言葉で説明できるか、また、それらの内容を課題の事例において活用できるかを評価する。
平常点(日常的)	40 %	ミニ課題およびコミュニケーション・ペーパーによって理解度を確認する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

授業中には講義だけでなく演習を行うこともあるので主体的な参加が重要である。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
社会福祉実践の新潮流	平山尚・平山佳須美・黒木保博・宮岡京子 / ミネルヴァ書房 / 4-623-02899-2 /
特に指定しません	

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

日本社会福祉士会 <http://www.jacsw.or.jp/>

担当者名 / Instructor 奥川 櫻豊彦

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

人は自文化の枠組みにそって物事の処理方法を自然に身につけ、無意識のうちに“標準モード”にしたがって時間や空間の概念を培っている。同時に、人は母語として身につけた自文化固有のコミュニケーションスタイルやしぐさが当然であると暗黙のうちに取り込み、さりどて不思議に思わない。しかし、国内外を問わず、他文化と接する過程で当然と思い込んでいた言語・非言語のやりとりが時にアレルギー反応を起こすのに気づく(気づかない人もいる!)。そのようなとき、「キモイ!」と反応する人、「なんでだろう?」と不思議に思う人、あるいは「外国人は理解できない!」と開き直る人など、人によってさまざまな反応がみられる。

このような問題意識に立ち、映像・スポーツなどを扱ったいくつかのビデオ録画を通して、また、新聞・月刊誌・週刊誌からの記事を通して、エドワード・T・ホールが提唱する「文化のコンテクスト論」を軸に、韓国、中国、台湾、ドイツ、アメリカなどとの比較文化の分析を試みる。

到達目標 / Attainment Objectives

将来、国内外を問わず、受講生の多くが経験するであろう「多文化コンテクスト」についてのメカニズムを理解できるように準備し、「文化のコンテクスト論」を第三者に説明でき、納得してもらえる“多文化感性”を培うのが到達目標。これは単なる机上論ではなく、受講生が将来、多文化化する日本はもちろんのこと、世界のどこで生活しても“通用する人間”になるための第一歩を踏み出せる機会になるように研鑽する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1/15	科目ガイダンス、担当教員の自己紹介、「受講生データ」の記入	「ガイアの夜明け」(テレビ東京制作)からの問題提起をどう受けとめるか?
2/15	モノクロニック・ポリクロニックの時間概念	「マージナル・マン」(社会学概念)
3/15	モノクロニック・ポリクロニックの時間概念(つづき)	「ペーパー課題」(全体の成績評価の25%+25%)についてのガイダンス
4/15	連続体(⇔二分法)としての「文化コンテクスト」の概念	【関連ビデオ(吉田敏明前全米バレーボール監督のコーチ体験)鑑賞】
5/15	連続体としての「文化コンテクスト」の概念(つづき)	【関連ビデオ(松井秀喜がNYヤンキースでの選手体験)】
6/15	「空間」概念からみた多文化コミュニケーション	エレベーターの中、ドアの開閉からみた多文化コミュニケーション
7/15	中国・台湾・韓国からみた日本との多文化コミュニケーション(1)	【関連ビデオ(台中地震で露呈した先住民との多文化コミュニケーション)】
8/15	中国・台湾・韓国からみた日本との多文化コミュニケーション(2)	「ペーパー課題」の取り組み報告(1)
9/15	中国・台湾・韓国からみた日本との多文化コミュニケーション(3)	「ペーパー課題」の取り組み報告(2)
10/15	中間テスト(全体の成績評価の50%)の実施	【理由がなんであれ、再試験は行わないので、予めこの日程を確認しておくこと】
11/15	「ペーパー課題」の提出→口頭発表の日取りと順番の決定	【欠席者は、発表の順番を確保するために代理を立てるか、あらかじめ連絡しておくこと】
12/15	ペーパー課題の口頭発表(1)発表者へ中間テストの返却	発表者以外は「コメントシート」の記入
13/15	ペーパー課題の口頭発表(2)発表者へ中間テストの返却	発表者以外は「コメントシート」の記入
14/15	ペーパー課題の口頭発表(3)発表者へ中間テストの返却	発表者以外は「コメントシート」の記入
15/15	まとめ—「コメントシート」の返却	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	50 %	10回目の授業で実施される中間テスト 【公平を守るため、理由の如何に拘わらず中間テストの再試験は行わない】
レポート試験	50 %	ペーパー課題(25%、25%) 「ペーパー課題50%」のうち25%は、ペーパー課題を締切日までに提出した者に限定。残りの25%は、その口頭発表。ただし、ペーパー課題を締切日までに提出しなければ、口頭発表する権利を喪失するので注意。

【週によって授業変更の可能性あり】中間テスト、口頭発表の日程は変更ない。

1. 第10週目を実施予定の中間テストの範囲は、以下のテキスト、論文・記事のすべてが含まれる。
2. 「ペーパー課題」は、自らの多文化体験について文化のコンテクスト論を応用した内容に限定される。なぜなら、毎年、少なくとも数人がインターネットから無断引用して、自らの体験を偽り、それを受講生の前で発表する人はいないだろうとの前提でペーパー課題を課している。
3. 「ペーパー課題」の書式：A4版パソコンによる制作のみ提出可能。1行40字、1ページ25行、約4～10ページ。ただし、上限なし。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『かくれた差異』	エドワード・T. ホール他 / メディアハウス / 関連する章のみプリント配布予定
『文化を超えて』	エドワード・T. ホール / TBSブリタニカ / 関連する章のみプリント配布予定

以下の論文・記事もプリント配布予定：

1. 奥川櫻豊彦「文化のコンテクスト」『立命館産業社会論集』1994年(30巻3号).
2. 山脇啓造他「多民族国家日本の構想」『世界』2001年7月号.
3. 「2030年 移民大国ニッポン」『NEWSWEEK』(日本版)2003年8月3日号.
4. 「こんな国では働けない 外国人労働者『使い捨て』の果て」『日経ビジネス』2006年9月11日号.
5. 「島国ニッポンの危うい移民無策」『NEWSWEEK』(日本版)2006年9月13日号.

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

多文化共生論 S § 多文化共生論 I

15459

担当者名 / Instructor 小澤 亘

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

新たな社会モデルとして、「多文化共生社会」が模索されている。本講義では、異なる文化の間に生じる激しい軋轢や摩擦の現状を見極めながら、いかにして、そうした困難を乗り越え、ひとびとが、文化の違いを、むしろ、「生き方の多様性＝豊かさ」として捉え返していけるのか、参加者とともに考えていきたい。

到達目標 / Attainment Objectives

- 1) 多文化性について理解する。
- 2) 自分とはいったい何者かという問いを出発点として、異なる文化に接近する方法を理解する。
- 3) 多文化共生問題の本質を理解する。
- 4) 問題を乗り越えていく視点を獲得する。
- 5) 具体的に提案し活動していく力を身に付ける。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本科目は、現代社会専攻社会文化領域の入門専門科目として位置づけられている。そうした位置づけを意識しながら授業展開をこころがけるので、社会文化領域の関連科目を継続的に履修することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の概要と導入: 映画『12人の怒れる男』鑑賞	映画分析 レポート提出(以下、レポートスケジュールについては、初回に説明する)
第2回	多文化共生問題へのアプローチ	「共生」という概念 エスニシティとは何か?
第3回	ネイションとは何か?	TST分析について「想像の共同体」「民族という名の宗教」
第4回	文化摩擦の事例研究	「イスラムのヴェール事件」
第5回	国民国家とは何か? I	リヴァイアサンの登場 フランス共和制の構造
第6回	国民国家とは何か? II	普遍主義のジレンマ 「相互性」の変質
第7回	新たな国民国家像への挑戦	多文化主義のジレンマ 文化的ネットワークの必要性
第8回	差別問題へのアプローチ	ビデオ『青い目、茶色い目』差別の普遍性
第9回	文化的再生産の理論	文化にもとづく差別の構造化
第10回	日本におけるエスニシティ問題 I	在日問題、新屋英子『身世打鈴』、中国帰国者問題
第11回	日本におけるエスニシティ問題 II	東九条マダモ 多文化共生に向けた文化装置
第12回	外国籍住民の政治参加	外国人市民会議の可能性
第13回	多文化共生に向けた社会形成	多文化社会とNPOの役割
第14回	日本において多文化共生社会は可能か?	レポートフィードバック ディスカッション
第15回	検証テスト	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

期中に4回ほどレポートを課す。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(検証テスト)	60 %	授業理解および授業参加度を評価する。
平常点(日常的)	40 %	期中に、4回ほど課すレポートによって評価する。

ただし、受講生数によっては、定期試験をやめて、レポート4回と最終レポートによる総合評価へと変更する可能性もある。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

最初に、『12人の怒れる男』を視聴する。単調な映画で、しんどいと思ひの方は、この授業の受講自体を再検討されたい。なぜなら、こうした映画を最後まで見ることができるか、いなか、それが、「多文化共生」という困難なテーマに立ち向かう皆さんの潜在能力を計る試金石となるからである。分析レポートを課す予定。履修を希望する者は、初日から必ず参加すること。

教科書 / Textbooks

教科書は使用しない。

参考書 / Reference Books

授業中に適時紹介していく。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業中に適時紹介していく。

その他 / Others

期中に4回ほどレポートを課す。授業への参加姿勢をできるだけ評価したい。問題領域は、社会学・福祉問題・文化に関する学・NPO論など広範囲にわたる。紹介する図書を、少なくとも2, 3冊は授業を受講しながら読んでいって欲しい。

担当者名 / Instructor 上柴 とおる

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

長年にわたる放送(ラジオ中心) & 音楽業界での現場体験を生かして(今も現役真最中)、ラジオがこれまでに果たして来た役割、効用、おもしろさなどを皆さんに再認識してもらえるように経験を交えながら講義をし、そしてラジオを軸に発展を遂げた大衆音楽の流れやそれを取り巻く産業の発達、新しい大衆文化の芽生え。。。と話を広げて参ります。時代的に言えば終戦(1945年)後から1980年代~1990年代に至る頃までの話が中心となります。そんな中から現代のラジオ媒体や音楽シーンの現状も改めて見えて来るかと思えます。はっきり言っていわゆる大学の講座らしからぬ‘ケツタイな’授業です。変わったもの(?)を好む人は是非受講しましょう! 私自身の経験に基づく観点から物事を捉えます(ここでしか聞けない話も多い!)。時には映像や楽曲音源なども(レアもの!?)使用します。将来、マスコミ関連の仕事を目指す皆さんにとっても何らかの参考になるはずです。

到達目標 / Attainment Objectives

戦後(1945年~)大衆の娯楽として発展して行ったラジオの影響力の大きさ、そしてどのような文化を育み現在に至ったのか、またラジオと共に歩んだ大衆音楽のスターたちのさまざまな自己表現のスタイルを生み出した時代の空気感を認識する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	前説~自己紹介&講座概要紹介	ラジオの現状(印象・評価)
2	‘ラジオ・ネーム’の表現効力~ラジオといかに関わるか、その楽しみ方	ハンドル・ネーム、メール、ファックス、ハガキ、リクエスト、メッセージ
3	ゴールデン・ラジオ・デイズ①~民放ラジオの歴史と大衆文化との相関関係	AMラジオ、ヒット・パレード、カウントダウン、映画音楽
4	ゴールデン・ラジオ・デイズ②~‘団塊の世代’がリードした1970年代の深夜放送ブームと‘ユース・カルチャー’	ヤング・リクエスト、ヤング・タウン、オールナイト・ニッポン。。。。
5	ゴールデン・ラジオ・デイズ③~FMの発展によってもたらされたもの	ステレオ、カセット、エア・チェック、ウォークマン、FM雑誌
6	ゴールデン・ラジオ・デイズ④~FM802はなぜ関西地区でNo.1ステーションであり続けるのか?~大衆に広く支持されたその成功過程を開局前夜にまで遡って検証	広報戦略、ファンキー、ステッカー、グッズ、J-POP
7	パッケージの変遷と大衆の消費行動	SPLレコード、シングル盤、LP盤、コンパクト・ディスク、i-pod、ダウンロード、紙ジャケット盤
8	タイトルの訴求力~邦題付け放題!?外国語楽曲に日本語のタイトルは必要か?	イーグルス、ダニエル・パウター、シザー・シスターズ、ザ・ピペッツ。。。。
9	病克服で復活! ‘反骨’ミュージシャン、忌野清志郎の‘封印’された過去~かつて葬り去られた内外の放送‘禁止’楽曲	RCサクセッション、タイマーズ、ローリング・ストーンズ、ドアーズ。。。。
10	山下達郎 & 竹内まりやを軸に1970年代の不遇時代を経て隆盛を迎えるに至ったJ-POPの流れとあり方を考える	ニュー・ミュージック、シュガーベイブ、ユージン、サザンオールスターズ、小室哲哉。。。。
11	‘関西ロック’の体内に宿る(!?)お笑いのDNA	ウルフルズ、誰がカバやねんロックンロールショー、少年ナイフ、1980年代初期の大漫オブーム
12	マイケル・ジャクソンと1980年代~ヴィジュアル時代の功罪!?	「スリラー」25周年、MTV、ビデオ・クリップ
13	マドンナと1980年代~新しい女性ポップ・スター像	ライク・ア・ヴァージン、シンディ・ローパー、ショーン・ペン。。。。
14	「ライヴ・アース」(2007年)の原点「ライヴ・エイド」(1985年)を基軸とする1980年代のチャリティー・イベント	ボブ・ゲルドフ、バンド・エイド、ウィ・アー・ザ・ワールド、ライヴ・エイド、フジテレビ
15	あれから45年~いまだ「スキヤキ」(坂本九:1963年全米No.1)よりおいしいメニューを輸出出来ない日本のポップ・ミュージック・シーン	上を向いて歩こう、YMO、ピンク・レディー、ラウドネス、松田聖子、倅田来未、宇多田ヒカル。。。。

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	授業内容への興味・関心・認識度

毎回レジュメを配布しますがそれを入手するだけでは試験をクリアできません。出来る限り授業に出席をして何かを‘つかんで’下さい。それが定期試験における課題への回答につながります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
亀淵昭信のオールナイト・ニッポン35年目のリクエスト	亀淵昭信 / 白泉社 / ISBN4-592-75012-8 /
放送禁止歌	森達也 / 光文社 / ISBN4-334-78225-6 /
洋楽で育ったぼくらの話	鈴木カツ / えい出版社 / ISBN4-7779-0459-8 /
封印歌謡大全	石橋春海 / ミオブックス / ISBN978-4-86199-066-3 /
季刊「上方芸能」162号(2006.12発行)	特集「団塊の世代と芸能文化」 / 上方芸能 / ISSN-0910-5506 /
マドンナのアメリカ	井上一馬 / PHP研究所 / ISBN4-569-55917-4 /
「クイック・ジャパン」Vol.63(2005.12)	総力特集「ラジオ」 / 太田出版 / ISBN4-87233-995-9 C0095 /
「別冊宝島」1499号(2008.2)	「流行り歌に隠されたタブー事件史」 / 宝島社 / ISBN978-4-7966-6178-2 /

授業への興味・関心を高める意味合いでの参考書籍・雑誌です。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

<http://www.sponichi.co.jp/osaka/soci/dankai/backnumber.html>

<特に以下の記事を参照>

* 2008/01/08～01/22(紙ジャケットCD)

* 2007/01/09～02/06(ラジオの世界)

その他 / Others

地域スポーツ論 S

20310

担当者名 / Instructor 山下 秋二

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

この授業では、スポーツを、まちづくりや地域、あるいは人、住民参加などの視点から考察し、地域に根ざしたスポーツの実態を掘り起こすとともに、スポーツによる地域活性化の足がかりを得ることを目的とする。

到達目標 / Attainment Objectives

- 地域スポーツの新しい文脈について知る。
- 豊かなスポーツを生み出す地域スポーツの諸条件をまとめられる。
- 対象者の応じたスポーツの展開と課題を理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

スポーツマネジメント論(事前に必要な知識を得られる授業を参考程度に紹介しています)

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	スポーツとまちづくり	まちづくり、豊かな生活実感、地域意識
第2回目	地域のもつ力を活かすスポーツ	社会環境の変化、スポーツ導入タイプ、地域再生
第3回目	地域スポーツの創造プロセス	Jリーグ百年構想、Jクラブの自立、地域アイデンティティ
第4回目	スポーツ活動の拠点づくり	施設づくり、アクセスビリティ、利用効率
第5回目	スポーツ活動を育てるプログラム	スポーツ行事、スポーツ教室、スポーツの日常化
第6回目	スポーツクラブの育成	集団活動の萌芽、存続発展の条件、ゆるやかな紐帯
第7回目	スポーツイベントの活用	地域振興、経済波及効果、社会的効果
第8回目	スポーツ組織の必要性	組織の機能、行政組織、住民主体のスポーツ経営
第9回目	地域スポーツの演出者①:指導者	指導者の役割、指導者の条件・資質、指導者養成事業
第10回目	地域スポーツの演出者②:ボランティア	スポーツボランティア、住民参加、チェンジエージェント
第11回目	地域スポーツの演出者③:住民	スポーツの自家生産、個人間ネットワーク、水平的影響
第12回目	少年スポーツ	子どもの遊び、精神的疲弊、過程重視の指導
第13回目	女性スポーツ	社会的進出の拡大、スポーツの多様化現象、伝統的家庭観の克服
第14回目	高齢者スポーツ	高齢化社会、ゲートボールの普及、生活に根ざしたスポーツ
第15回目	障害者スポーツ	障害者自立、バリアフリー、クリエイティブスポーツ

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	授業で扱ったいくつかのテーマから、受講者の関心に基づいて1つのテーマを選び、それについての考えを問う。レポートの客観性や論理性について評価する。
平常点(日常的)	50 %	3分の2以上の出席を有効評価の基礎条件とする。また、第5回頃と第10回頃の授業で、それまでの授業内容に対する理解度を確かめるためのレポートを課す。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
スポーツで地域をつくる	堀 繁 / 東京大学出版会 / 9784130530156 /
地域スポーツの創造と展開	厨 義弘 / 大修館書店 / 4469261890 /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

地域社会論 S

15541

担当者名 / Instructor 中川 勝雄

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

授業の概要は、地域社会の歴史的展開を概観したうえで、社会と人間生活との相互関係を解明しようとする事象に焦点をあて、全体社会や人間にとっての地域社会の位置と意義について考察しようとするものである。授業内容の基本的な柱は、地域社会論の成り立ち、前近代・近代・現代の地域社会、日本の地域社会の歴史的展開、現代の地域社会の重層構造、新しい地域社会形成、などである。

到達目標 / Attainment Objectives

全体社会や諸個人にとって地域社会の位置と意義が的確に理解でき、地域社会の矛盾あるいは課題を解決しようする素養を習得すること

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

基礎演習 I・II、コア科目(現代と社会、現代とメディア、人間と文化、現代と福祉)

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1～3	地域社会論(学)とは何か	農村社会学、都市社会学、全般的都市化
	地域社会学とは何か	地域社会概念、地域社会の重層化
	地域社会論(学)とは何か	地域社会分析の基本視点、資本、住民、地域集団、地方自治体
4～5	地域社会の歴史的展開	共同体としての前近代、産業都市としての近代
	地域社会の歴史的展開	現代の地域社会
6～8	日本における地域社会の歴史的発展の特質	村落共同体、特殊な近代的な地域社会の成立
	日本における地域社会の歴史的発展の特質	現代的な地域社会の成立
	日本における地域社会の歴史的発展の特質	地域開発政策、企業誘致、地域社会変動、地方行政の広域化
9～12	現代社会における地域社会の構成	地域社会の重層構造
	現代社会における地域社会の構成	生活の諸側面、生活様式
	現代社会における地域社会の構成	農村的生活様式、都市的生活様式、共同社会的生活様式
	現代社会における地域社会の構成	地域社会分析の意味の変化、地域社会分析の有効性、地域社会研究の課題と構成
13～15	新しい地域社会形成の取り組み	村落共同体の現代的再編
	新しい地域社会形成の取り組み	ネットワーク型存立形態を有する沖繩村落
	新しい地域社会形成の取り組み	地域福祉センターとしてのNPO活動
	新しい地域社会形成の取り組み	新興住宅団地での学区社会福祉協議会の活動

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

是非読んでほしい参考文献です。

青井和夫監修/蓮見音彦編集『地域社会学』サイエンス社、1991年

佐々木嬉代三・中川勝雄編『転換期の社会と人間』法律文化社、1996年

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	地域社会についてのリアルな理解ができているかどうかで評価する

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

居住地での地域生活についての実態に関心を向けること、授業中の私語は厳禁

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
社会・生活構造と地域社会	北川隆吉 / 時潮社 / 地域社会学を理解するのに有益である
地域の政治と経済	島恭彦 / 自治体研究社 / 地域社会の基本的視点を示している

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

担当者名 / Instructor 津止 正敏

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

地域福祉とは何か。この一見単純な問いかけに一言で答える事はそれほど容易ではない。老人福祉法や児童福祉法などといった根拠法をもつ分野別福祉とは違ってその領域・対象確定が難しいこと、分野・領域というよりむしろ関連領域とのネットワークやシステム化、組織化といった方法論に特徴をもつこと、ボランティアなど制度を補完し、あるいは先導する市民の自主的活動により深くコミットすること、さらにはその活動を通して市民の福祉に対する価値観や態度、ひいては法制度など社会システムの変容すら課題とすること、などという地域福祉の特質がその理解をことさらに難しくしている要因かもしれない。そして、「地域福祉の推進」を柱にして社会福祉法が新たな地域福祉理解を提起していることもその理解をより複雑にしている。この講義で現実の地域福祉プログラムの臨床研究を通して「地域福祉とは何か」に迫ってみようと思う。

到達目標 / Attainment Objectives

1. 高齢・児童・障害等各分野別福祉との比較検討による地域福祉理解を図ると共に、地域福祉の固有の構造と領域、方法、歴史について理解を深める。
 2. 福祉を通して地域社会への興味・関心を深める。
- ※原則として、変更されることはありません。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

児童、老人、障害の各分野別福祉論並びに社会福祉概論、社会福祉援助技術論等は事前に履修しておくことが望ましい。この講義は、具体的な地域福祉と地域福祉活動の臨床研究を中心に展開するが、全体を通して「地域福祉とは何か」を問う講義となる予定である。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	イントロダクションー地域福祉論スケッチー	歴史 社会問題 地域社会 社会福祉
2	地域福祉とコミュニティー論文「地域福祉とネットワーク」 ー	コミュニティ 少子高齢化 ネットワーク
3	新しい地域福祉プログラムー論文「福祉とコミュニティ」 ー	コミュニティ 少子高齢化 ご近所
4	新しい地域福祉活動プログラム 2ーネオ町内会ー	町内会・自治会 ソーシャルキャピタル
5	地域福祉と当事者支援①ー子育て支援①ー	子育て支援 子育てサークル 当事者
6	地域福祉と当事者支援②ー子育て支援②ー	子育て支援 子育てサークル 当事者
7	地域福祉と当事者支援③ー障害児と地域福祉①ー	障害児 放課後保障 ボランティア
8	地域福祉と当事者支援④ー障害児と地域福祉②ー	障害児 放課後保障 ボランティア
9	地域福祉と当事者支援⑤ー男性介護者支援①ー	男女共同参画 ジェンダー 介護 社会資源
10	地域福祉と当事者支援⑥ー男性介護者支援②ー	男女共同参画 ジェンダー 介護 社会資源
11	地域福祉の方法①ーコミュニティワークー	ソーシャルワーク コミュニティワーク 間接援助技術
12	地域福祉の方法②ー地域福祉(活動)計画ー	地域福祉(活動)計画 市民参画 ワークショップ
13	地域福祉の方法③ー地域福祉の機関と担い手ー	社会福祉協議会 民生委員 社会福祉施設 NPO
14	地域福祉の方法④ーボランティアリズムと地域福祉ー	ボランティアセンター ボランティアコーディネーター NPO
15	地域福祉とは何かー地域福祉の歴史的発展を踏まえて ー	地域福祉 分野別福祉 住民主体 関係性 当事者性 社会運動

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

地域福祉活動やボランティア活動についての体験があれば、講義内容の理解が容易であると思われる。実際に活動に参加・体験してみたり、友人知人の体験談や活動実施機関・団体等のレポートなどにも目を通しておくことを薦める。ゲストスピーカーも予定し、毎回簡単な感想／意見(コミュニケーションペーパー)を求め、可能な限り教員学生の双方向の授業実現に努めたい。毎回の出席が学びの達成に直結するよう進めていく。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	40 %	講義内容に即した地域福祉理解について評価する
レポート試験	30 %	2～3回の中間試験又はレポートを課す
平常点(検証テスト)	0 %	実施しない
平常点(日常的)	30 %	講義時のコミュニケーションペーパーなどを活用する

本講義は、2回生以上の配当科目ではあるが、各分野別福祉論(児童、障害、老人、など)や援助技術論を受講後の方が望ましいし、その方

が講義理解を容易にすると思われる。各分野別福祉との比較検討の中で地域福祉固有の構造や領域、方法について具体的に講義していく予定。各分野別福祉論を受講し終えた3回生以上に受講を勧めたい。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書としては特に指定はないが、講義中にその都度適宜紹介する。また、社会福祉士の国家試験の受験を予定しているものは、本講義では特にその受験対策は行なわないために、該当テキストによって自学自習すること。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
男性介護者白書	津止正敏／かもがわ出版／978-4-0117-5／
地域福祉事典	日本地域福祉学会／中央法規／4-8058-2519-7／高額のため図書館活用のこと

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

全国社会福祉協議会 <http://www.shakyo.or.jp/>
 厚生労働省 <http://www-bm.mhlw.go.jp/index.html>
 内閣府 <http://www.cao.go.jp/>

その他 / Others

地域保健論 S

13107

担当者名 / Instructor 松田 亮三

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

健康は誰もが関心のあることであり、人生の重要な資源である。この講義では、地域社会で暮らす人々—子どもも大人も、若者も高齢者も、男性も女性もすべて含んだすべての人々を視野にいれて、その人びとの健康を保持・増進するための総合的予防戦略を形成する理論を、受講者それぞれがある特定の地域の健康問題を検討することを通じて獲得する。

到達目標 / Attainment Objectives

この科目を終了した学生は、次のことができるよう期待されている。

1. 健康概念と地域の健康アセスメント、疾病のリスクモデル、予防戦略の理論、地域資源の活用法などをふまえて、住民の健康問題に関して検討し、総合的な予防戦略を立案できる思考の枠組みを獲得すること。
2. 総合的な予防戦略形成に関わる主要概念を、具体的な例をあげながら説明できること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特にないが、地域社会論、地域福祉論、現代人とヘルスケア、衛生学、などとあわせて受講することで理解が深まるであろう。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1回	はじめに 地域保健へのいざない	地域, 人口, 健康, 公衆衛生, 地域保健, 健康づくり
2-4回	地域における健康問題の具体的検討(子どもの健康, 喫煙, 精神保健などを予定)	保健統計, 保健行動, 疾病負担, 死亡率
5回	理論編1 地域の健康把握に向けて 健康とは	健康の定義, 積極的健康観, 動的な健康観, 健康の次元
6回	理論編2 地域保健の戦略形成論(概観)	地域保健戦略, 健康課題と要因分析, 予防戦略, 健康資源の動員
7-8回	理論編3 地域の健康把握に向けて 地域の健康を評価する	疫学, 死亡率, 罹患率, 有病率, 主観的健康感, 地域保健アセスメント,
9-10回	理論編4 健康のリスクと疾病モデル	疾病モデル, 健康リスク, 要因分析, リスク評価, 保健行動, 健康の社会要因, 自然環境要因
11回	理論編5 予防戦略形成論1	予防の3段階(1次予防, 2次予防, 3次予防), 人口全体(ポピュレーション)戦略, 高リスク戦略
12回	理論編6 予防戦略形成論2	オタワ宣言, ヘルス・プロモーション, 健康公共政策, 健康支援環境, 個人技能, コミュニティ活動
13回	理論編7 地域健康資源論	地域の健康資源, 保健組織, 医療制度,
14回	総合 地域保健の戦略形成論(再検討)	地域保健戦略, 健康課題と要因分析, 予防戦略, 健康資源の動員

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

1-4回目の授業は、地域保健の具体的かつ総合的な姿を示しながら、地域保健というフィールドを理解することに当てられている。

5回目の授業からは、受講生は、それぞれに、念頭におく人口と健康問題を想定して、具体的に検討しながら学習をすすめていくこととなるので、受講生は、5回目の授業までに、新聞や雑誌、ウェブ等を調べつつ、自らの興味を持てる、ある特定の人口(例えば、A市の20歳代の女性、B市で介護をしている人々、C国の高齢者など、具体的なイメージがわくように対象を絞ることで)における健康問題を考えておくことが望ましい。その健康問題を授業で述べる理論枠組をもとに検討していき、最終的にレポートして提出してもらう。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	60 %	筆記試験を行い到達目標に照らして評価する。
平常点(日常的)	40 %	レポートによる学習評価を行う。各人が想定した人口と健康問題についての4000字程度の予防戦略計画書を提出する。授業の内容に対応した書式を示すので、それを用いて作成すること。詳細は授業にて指示する。

1) レポートの書式は、コースツール等で配布するので、それを下に作成してすること。また、提出時に規定の表紙を添付すること。

2) 引用は適切に行うこと。明らかな、あるいは、過度の、他の資料の無断使用・コピー(剽窃)には厳しく対処する。詳細は授業にて指示する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

1) この授業で扱う範囲の理論は比較的シンプルなもの。興味深く学ぶために、何か具体的な人々の抱える健康課題への取り組みを、自分で考えながら学んでいくことを勧めます。最終的にレポートにもしていただきますので、最初の1ヶ月ぐらいの間に自分がとりにくむ課題を考えましょう。

2) 特に、5回目と6回目の授業はスムーズに学習をすすめる上で重要です。

3) 理論編に入るまでは、具体的な場合を総合的に述べて、イメージがわくようにします。理論編になってからは、毎回の授業に出てしっかり内容

を把握し、その理論にもとづいて自ら取り組む人口と健康問題について考えて、最終的に提出するレポートを作成していくことが求められます。このレポートは細かく検討する事項が指定されていますので、その点をよく理解して取り組む必要があります。これまでの経験では、特に理論編のところに出席できていない人は、何らかの方法でしっかりとカバーしないと不合格になっているようです。

4)評価は試験とレポート(最終授業で提出を予定)により、厳密に行います。レポート課題は、授業開始後1ヶ月以内(早ければ初回に)にクラスおよびコースツールで配布します。学習目標を具体的にしましたものですので、早めに目を通して課題を考えながら学ぶとよいでしょう。

教科書 / Textbooks

必要な資料等は授業中で紹介します。いくつかの健康問題については、入手しやすい情報源を紹介します。しかし、レポートでそれらを使う際には、引用のルールをまもって下さい。

授業で配布する諸課題を早めにじっくりと読んで、学期終了時に何が求められているかをよく理解しておいて下さい。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
シンプル衛生・公衆衛生学	鈴木庄亮・久道茂 / 何かを調べる際に
健康づくりと社会環境	松田亮三他 / 法律文化社 / 主に健康づくりについて

・授業の説明は、パワーポイントを用いて行うのを基本とする。ただし、他の配布物もある。
 ・パワーポイントについては、著作権の問題のない範囲で、コースツールにその印刷原稿を掲載するので、欠席した人はコース・ツール等から入手すること。
 ・レポート課題等重要な連絡を授業で連絡するとともに、コースツールなどでフォームを配布する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

(行政)

厚生労働省(<http://www.nih.go.jp/eiken/index.html>)

健康日本21 <http://www.kenkounippon21.gr.jp/>

(研究機関)

国立健康・栄養研究所(<http://www.nih.go.jp/eiken/index.html>)

国立保健医療科学院(<http://www.niph.go.jp/>)

電子図書館からは、『保健医療科学』(かつての『公衆衛生研究』)が読める

<http://www.niph.go.jp/toshokan/denshi-toshokan.htm>

厚生労働科学研究のデータベースもある

<http://www.niph.go.jp/wadai/mhlw/index.htm>

(ポータルサイト)

健康ネット <http://www.health-net.or.jp/> (健康に関連したNGO)

その他、多数あり。授業中に紹介する。

その他 / Others

伝統芸能論 S

15534

担当者名 / Instructor 森西 真弓

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

日本の伝統芸能の中から、能、狂言、文楽、音楽、舞踊を取り上げ、それぞれの歴史、特色、演目などについて授業します。理解を助けるため、適宜、映像資料を用います。

到達目標 / Attainment Objectives

伝統芸能の基礎知識を見につけます。また、作品からは日本人の心性を読み取るとともに、芸能と時代や社会、人との関わりについて考察します。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	授業の概要と導入	
第2回目	能の歴史	
第3回目	能の特色	
第4回目	能の作品	
第5回目	『道成寺』の解説と鑑賞	
第6回目	狂言の特色	
第7回目	狂言の作品	
第8回目	『素襖落』の解説と鑑賞	
第9回目	文楽の歴史と特色	
第10回目	近松門左衛門	
第11回目	近松の作品	
第12回目	文楽の三大名作	
第13回目	『義経千本桜』の解説と鑑賞	
第14回目	舞踊と音楽	
第15回目	伝統芸能のこれから	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	持ち込みなしの筆記試験を行います。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

適宜、プリントを配布します。

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

担当者名 / Instructor 乾 亨

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本講義では、一人ひとりにとって居心地のいい居住環境とはどのようなものなのかを明らかにするとともに、そのような環境を創出するための考え方や知恵や技を伝授する。

多くの具体的事例を通して、「空間・場(都市・まち)」の質が「ひと」の在り方(社会関係や文化等)を規定し「できごと(生活のドラマ)」を誘発すると同時に、「ひと」の「思い」や「できごと」が「場」に意味を与えるという、「場」と「人」の「創り・創られる」相互浸透的で重層的な関係として「居住環境」を読み解く視点を学んでいく。

講義では、スライド映像等を活用しつつ、多くの事例をもとに「見える都市」から「見えない都市」を読み解いていく。知識提供型ではなく、事例を物語りその意味を考えてもらう問題提起型の講義。

到達目標 / Attainment Objectives

人々が心地よく暮らさう「場=居住環境」とはなにかを知り、そのような環境を創出するための考え方や技を身に着けるための糸口を、事例とその解説を通じて自ら学び、発見する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本講義のみで完結する内容ですが、後期におこなう「参加のデザイン論」をあわせて受講することを期待します。より理解の幅が深まるはずで

す。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	「居住環境デザイン論」ってなに? 「居住環境」ってなに?	本授業の視点の提供: 「ひと」と「場所=都市(まち・地域)」の関係論
第2回	だから都市はおもしろい その1	京都歴史散歩…京都は千年の都、万古不易って本当?
第3回	だから都市はおもしろい その2	続・京都歴史散歩…「都市」の魅力は多層性・多義性にある
第4回	だから都市はおもしろい その3	都市はうつろいゆくもの。網目としての都市・自己創出系としての都市=「まちづくり」の視座
第5回	「都市をつくる企て」としての近代都市計画 その1	都市計画とはなにか
第6回	「都市をつくる企て」としての近代都市計画 その2	「理想の都市」は創りうるか=近代都市計画の光と影(1)
第7回	「都市をつくる企て」としての近代都市計画 その3	「理想の都市」は創りうるか=近代都市計画の光と影(2)
第8回	中間まとめ	
第9回	「都市」の構造を継承するところみ その1	こちよ場所をつくる「まちづくり」事例(1)
第10回	「都市」の構造を継承するところみ その2	こちよ場所をつくる「まちづくり」事例(2)
第11回	「都市」の構造を継承するところみ その3	こちよ場所をつくる「まちづくり」事例(3)
第12回	「都市」(まち)に住み続けるために その1	京都の現状…京都は住み続けられるまちか?(1)
第13回	「都市」(まち)に住み続けるために その2	京都の現状…京都は住み続けられるまちか?(2)
第14回	「都市」(まち)に住み続けるために その3	新しい京都の動き
第15回	まとめ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	100 %	基本的には提出された「試験レポート」の質で評価。それなりに厳しく採点します。
平常点(日常的)	20 %	適宜(数回/半期)、出席確認を兼ねて感想や質問を提出してもらい、出席率がいい人は「試験にかわるレポート」の評価に加点します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

知識提供型ではなく、事例を物語りその意味を考えてもらう問題提起型の講義なので、きちんと出席して継続して受講することを望みます

教科書 / Textbooks

教科書は用いず、適宜レジュメを配布します。

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

都市政策論 G

13084

担当者名 / Instructor リム・ボン

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

都市政策とは、われわれが日常生活の場で直面する種々の都市問題を解決するための社会工学的取り組みに他ならない。本講義では、主として京都市を事例としつつ、都市のランドデザインと局所的な地域デザインとの相互関係を分析する。このような作業を通じて、都市政策における基本コンセプトの構築方法とそれを具現化するための技術的アプローチの体系のあり方を考察する。

到達目標 / Attainment Objectives

都市の地域特性の把握方法、地域特性に対応した政策立案の実例についての知識、政策技法のトレーニング

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「都市論」

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	景観問題とコミュニティ ー 崩れゆく歴史街ー	銚町のマンション問題、町並み保全、都市計画、規制と誘導
第2回	景観法と京都の町並み保全政策	観法、景観保全地区、景観機構、ランドマーク、京町家、国家戦略
第3回	歴史都市の再生	パリ、パッサージュ、京都の袋路、細街路、密集市街地、建築基準法
第4回	人権コミュニティの創造	京都、被差別部落、人権、文化、近代化遺産、保存運動、まちづくり、京都再生
第5回	都市の危機管理① 阪神大震災の教訓	自然災害、人災、復興計画、マンション建て替え問題、コミュニティ
第6回	都市の危機管理② 9・11同時多発テロ	ニューヨーク、消防隊、ナショナリズム
第7回	都市の危機管理③ グラウンド・ゼロの復興をめぐる攻防	建築家、コンペ、政治、闘争、妥協
第8回	都市の危機管理④ 犯罪都市の増加と対策	ロンドン、犯罪、監視カメラ、移民排斥運動、コミュニティ、ネットワーク
第9回	リサーチ・デイ①	フィールドワーク
第10回	まちづくりとNPO	第二次ハーレムルネッサンス、タイムズスクエア、コモングラウンド、自治体行政
第11回	安心・安全まちづくりと魅力アップまちづくり(京都・木屋町まちづくり)	歓楽街、犯罪、治安回復、木屋町、都市再生モデル調査、市民自治の可能性
第12回	欠陥住宅と耐震強度偽装問題	建築基準法、建築設計、建築指導行政、性善説と性悪説、犯罪の多発
第13回	町衆企業とコミュニティ	京都銚町、東京神田、大阪船場、地域住民、企業市民
第14回	変貌する公共事業	市町村合併、地域経済、汚職、談合、政治家、官僚、天下りの功罪
第15回	リサーチ・デイ②	フィールドワーク

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	マークシート方式で、50問出題する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

教科書は特に指定しない。

参考書 / Reference Books

授業中に適宜紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

- * 学生諸君に可能な限り最新の情報を提供したいので、授業の内容が変更されることがあります。
- * 試験の問題はすべて授業中に解説した内容をもとに作成します。

都市論 S

13034

担当者名 / Instructor リム・ボン

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

古代から未来までの時間軸で都市の歴史の変遷過程を通時的に捉え、同時に、各時代断面ごとにみられる都市の地域間特性を共時的に概観する。誰もが同意できるような「都市の定義」というものは今もって確立してはいないが、本講義では、これまでの都市づくりの実践例とその背景にある諸学説とを学ぶ作業を通じて、われわれの身近にある都市の風俗や空間のコンテキストを解釈する能力を養うことを目的としている。

到達目標 / Attainment Objectives

歴史都市の概念の把握、都市の基本構造の理解、京都を舞台としたフィールドワークの実践力の獲得

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	歴史都市の光と影	歴史都市、京都、ニューヨーク、プラハ、フィレンツェ、北京、空間、建築
第2回	京都の近代化と都市政策	明治維新、遷都、都市再生、町衆、番組小学校、先端技術、伝統と革新の融合
第3回	京都の地下水脈と都市文化	水上都市、伝統産業、下賀茂神社、上賀茂神社、風水思想
第4回	竜安寺の石庭と京都文化	仏教、石庭、被差別部落、襖絵、ニューヨーク、中国
第5回	ニューヨーク①・マンハッタンの誕生から現在まで	氷河、先住民、移民、貿易港、都市計画、摩天楼
第6回	ニューヨーク②・マンハッタンの20世紀	ボヘミアン、経済の隆盛、都市文化の開花、ハーレム・ルネッサンス
第7回	ニューヨーク③・第二次ハーレムルネッサンス	アフリカン・アメリカン、ハーレム、スラム、都市再生、NPO
第8回	ニューヨーク④・国連ビルの建築をめぐる建築家たちの攻防	ル・コルビュジエ、建築家、デザイン、権力闘争
第9回	リサーチ・デイ①	フィールドワーク
第10回	ベルリン①・都市文化の紹介	ドイツ、東西冷戦、建築、都市構造、食文化、経済
第11回	ベルリン②・都市構造	古地図、ヒトラー、近代都市計画、統一ドイツ、労働者
第12回	上海の都市と建築	外国人租界、経済成長、未来都市、再開発、住民の立ち退き
第13回	京の都市文化	首都機能、都市設計、四合院の建築、オリンピック、再開発
第14回	韓国の都市文化	ソウル、釜山、植民地経営、近代化遺産、日本町、保存と再生、清溪川の再生
第15回	リサーチ・デイ②	フィールドワーク

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	マークシート方式で、50問出題する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

教科書は指定しない。

参考書 / Reference Books

参考書等は授業中に適宜紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

* 学生諸君に可能な限り最新の情報を提供したいので、授業の内容が変更されることがあります。

* 試験の問題はすべて授業中に解説した内容をもとに作成します。

道徳教育論 S

20337

担当者名 / Instructor 大谷 いづみ

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

【本科目は、小学校教諭一種免許状課程の必修科目です】

およそ人が、人として、人と共に生きていく上で、何らかの法的規制に加えて、内的な規制としての道徳を欠くことはできない。本講座では、善悪に傾く人間の両義性の認識、道徳が持つ「人間＝ジンカン」としての本質的特徴に着目して、道徳をめぐる今日的な問題を学校における課題との関連で考える。

到達目標 / Attainment Objectives

- ・道徳教育の概観を知る。
- ・子どもたちの実情を踏まえた上で「よく生きること」を希求する教育的意味を考える。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1.	ガイダンス／授業の概要と説明	
2.	子どもたちが生きる世界(1)	
3.	子どもたちが生きる世界(2)	
4.	「道徳」とは何か	
5.	道徳教育の歴史と学習指導要領	
6.	道徳性の発達理論	
7.	ケアの倫理と道徳教育	
8.	実践例の検討(1)	
9.	実践例の検討(2)	
10.	現代社会と道徳教育(1) 『青い眼・茶色い眼』の実践	
11.	現代社会と道徳教育(2) 『青い眼・茶色い眼』の実践(2)	
12.	現代社会と道徳教育(3) 『青い眼・茶色い眼』の波紋と変容	
13.	「道徳」で何をどう教えるか～体験／実験／情報	
14.	人間の両義性:二分法を超えて	
15.	まとめ:問いとともに生きる	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	60 %	授業理解および授業参加度を評価する。
平常点(日常的)	40 %	出席、授業中に課すコミュニケーション・ペーパーなど

一定以上の出席が無い場合、評価対象としない
授業中の私語、途中入退出は厳禁します

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
小学校学習指導要領解説 道徳編	文部科学省／国立印刷局／4172137164 /

参考書 / Reference Books

授業で適宜紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

特別活動・学級経営論 S

20336

担当者名 / Instructor 谷川 邦宏

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

【本科目は、小学校教諭一種免許状課程の必修科目です】

特別教育活動は、教育課程の一領域として重要な意味を持ち、家庭や地域社会との連携も視野に入れつつ、各学校で創意工夫を發揮して取り組まれるものであり、特に小学校段階では、児童の成長にとって重要な意味をもつ。本講義では、現代の家庭や地域社会の特質、個人と集団のとりえ方等の理解を踏まえながら、小学校における学級活動、指導会活動、クラブ活動、学校行事といった特別活動の主な内容について理解を深めていく。また、特別活動を展開する基本的単位でもある「学級」にも着目し、特別活動をより有効に実践するための学級のあり方についても見当していく。講義では、必要に応じて実践例を取り上げながら、特別活動の目標を達成するための具体的な方法や技術についても考察していく。

到達目標 / Attainment Objectives

- I、小学校学習指導要領の変遷の中で「特別活動」が歴史的にどのように変遷したのかを理解する
- II、小学校学習指導要領の一領域である「特別活動」の内容を説明し、指導上の留意点を理解する。
- III、「学級経営」を進める上で「特別活動」は重要な位置を占めていることを理解する。
- IV、受講者自身の経験を思い起こし、自ら学級担任として実践する場合を想定しての心構えを求める。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

現代学校教育論

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	「学習の進め方」グループ編成の確認	学習の態度 討論の進行 役割分担
第2回	「教育の三領域 特別活動に至る経過」	学習指導要領改訂の歴史
第3回	「学級経営に占める特別活動の役割」	グループコミュニケーション
第4回	「特別活動改訂の趣旨と改訂の要点」	平成元年の改訂 平成11年の改訂 平成20年の改訂
第5回	「特別活動の目標」	心身の調和 個性の発見と理解 自主的、実践的な態度の育成
第6回	「特別活動の基本的な性格①」	特別活動の教育的意義と各教科との関係
第7回	「特別活動の基本的な性格②」	特別活動と道徳、生徒指導の関係
第8回	「特別活動の内容と指導①」	学級活動 児童会活動 クラブ活動
第9回	「特別活動の内容と指導②」	学校行事の特質と内容 指導計画
第10回	「自分たちの経験を報告し、グループ討論する」	
第11回	「グループ討論の結果を報告し全体討論をする」	
第12回	「学校の創意工夫」	望ましい集団活動の育成・指導
第13回	「学校ボランティア経験者の報告を聞く」	
第14回	「学級経営と学校の教育目標」	ゲストスピーカーの報告を聞く
第15回	まとめ 「学級経営に占める特別活動の役割」テスト	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

特に今年度は学習指導要領改訂の年である。指導要領改訂の告示、移行期間、完全実施までの処置が学校現場に押し寄せる。学習者としては、新旧指導要領の対比、改訂の趣旨と重点等の学習が必要である。常にアンテナを張り情報収集に努めること。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	30 %	グループ討論の報告、感想文の提出を基準として評価する。
平常点(検証テスト)	40 %	特別活動の内容の理解、指導上の留意点を理解できているか。 学級経営上、特別活動の重要性の理解
平常点(日常的)	30 %	出席を極めて重視する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

学校現場の理解のために時間の余裕があれば学校ボランティアの経験をすることが望ましい。

教科書 / Textbooks

小学校学習指導要領は08年3月末には告示される予定だが出版はもう少し遅れることになると予想される。具体的なスケジュールが判明しだい指示する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

「新しい時代の教職入門」

秋田喜代美・佐藤 学 編著 / 有斐閣 / /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

特別支援教育論 S

20365

担当者名 / Instructor 朝野 浩

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

現代の学校教育では、従来の特殊教育の対象の障害だけでなく、LD、ADHD、高機能自閉症を含めた障害のある児童生徒に、適切な教育や指導を通じて必要な支援を行っていく、特別支援教育の必要が国際的にも国内的にも高まってきている。個々の障害についての基本的知識の理解を促すとともに、発達段階、生活状況などにも配慮した一人ひとりの子どもたちの特別なニーズを把握して、学習や生活上の困難を改善又は克服するために必要な方法を検討していく。

到達目標 / Attainment Objectives

- ・今日の特別支援教育の意義とその理念について理解し、適切な教育の在り方について説明ができるようになる。
- ・障害のある児童生徒および障害者の権利及び今後の教育的課題について考察することができる。
- ・障害児・者を取り巻く社会的状況から学習及び生活上の様々な法整備及び支援の状況について学ぶことができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	障害児教育をめぐる動向ー特別支援教育とは？	特別支援教育の理念と基本的な考え方、学校制度、福祉・医療・労働等に関わる様々な制度
第2回	障害児教育の発展の歴史(1)(義務教育制以前:近世) 障害児教育の発展の歴史(2)(義務教育制以降:近代以降)	近代盲・聾教育の始まり、明治以降の障害児教育、知的障害教育・肢体不自由教育・病弱教育の始まり
第3回	障害児教育の発展の歴史(3)(第2次世界大戦以降)憲法、教育基本法、学校教育法の制定と障害児教育	学校教育法の制定と障害児教育、養護学校の義務制施行後の教育
第4回	障害児教育の発展の歴史(4)(養護学校義務制移行から特別支援教育へ)	養護学校、特殊学級の発展、軽度の障害のある児童生徒の教育の充実、国際障害者年と障害者対策に関する計画
第5回	障害児教育の制度(1)①就学指導 ②特別支援学校 ③特別支援学級	特別支援教育の対象となる幼児児童生徒、学校教育法施行令、就学制度
第6回	障害児教育の制度(2)①通級制度 ②特別支援学級 ③特別支援コーディネータ	通級による指導、教育課程の編成と配慮事項
第7回	特別支援教育のあり方(1)小学校・中学校における特別支援教育	学習指導要領と教育課程の編成及び配慮事項、法令
第8回	特別支援教育のあり方(2)特別支援学校における教育①	盲・聾・養護学校の学習指導要領の歴史、特別支援学校の教育の概要、障害種別への対応:視覚・聴覚・知的障害
第9回	特別支援教育のあり方(3)特別支援学校における教育②	特別支援学校の教育課程の特色、教育課程編成の特色、自立活動、障害種別への対応:肢体・病弱・重複障害
第10回	特別支援教育のあり方(4)特別支援学校における教育③	センター的機能とその役割、特別支援教育コーディネータの役割、専門機関との連携と協働、交流及び共同学習
第11回	特別支援教育のあり方(5)地域に根ざす特別支援教育:放課後や長期休暇での障害児者の生活、余暇活動、家族	障害のある子供の余暇活動、地域生活、家庭と家族、福祉施策、障害者自立支援法、障害児タイムケア事業
第12回	特別支援教育のあり方(6)地域に根ざす特別支援教育:地域ネットワークと支援のあり方	コミュニティ・スクール、ボランティア活動、広域特別支援連携協議会、コミュニティにおける双方向の援助
第13回	国際的な特別支援教育の動向と日本(1)特別なニーズ、サマランカ宣言	SEN、「万人のための教育」宣言の理念、ユニバーサル・デザイン、バリアフリー社会、ノーマライゼーション
第14回	国際的な特別支援教育の動向と日本(2)インクルーシブ教育、慈悲から権利へパラダイム転換、	国際障害者年、障害者の権利条約、びわこミレニアム・フレームワーク、クラスター・オブ・スクール
第15回	まとめ・評価	今後の特別支援教育の展望、新しい学習指導要領、特別支援教育と自分とのかかわり、新しい福祉施策

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	自らと特別支援教育とのかかわり方についてレポートを課す。授業で扱った内容を生かして論

理的説得力をもって記述されているかを見る。

平常点(検証テスト) 50 % 授業で扱った特別支援教育関わる人権・教育制度・福祉施策・援助活動などについての理解度を確かめる。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

・これから教職を目指す者にとっては、特別支援教育についての理解なしは、教職に付くことは難しくなる と考える。これまでの特殊教育の対象であった児童生徒は、就学児の約1%であったのが、発達障害の児童生徒が約6%強在籍していることが全国調査で分った。これまでの障害のある児童生徒及び周辺児童生徒を合わせると10%を超えと思われる。全ての学級に障害のある児童生徒が在籍して当たり前の時代が来たということである。一人一人の教育的ニーズに応じた教育をする必要があるということである

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
盲・聾・養護学校学習指導要領及び解説書	文部科学省／国立印刷局／／H20.3に新学習指導要領の改正

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

担当者名 / Instructor 奥村 信幸

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

- ・テレビ・ラジオ放送の仕組みや関連する法制度を通して社会的な位置づけを理解する。
- ・映像の製作技術、特にニュースやドキュメンタリーの手法やソフトの進化や問題点を理解する。
- ・インターネットの発達によるメディア地図の変化を考察する。

到達目標 / Attainment Objectives

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	イントロダクション: 放送の「ことば」と映像	
第2回	放送の仕組み(1) 番組が企画からあなたのもとに届くまで	企画・取材・演出・編集
第3回	放送の仕組み(2) ニュースは儲かるのか?	視聴率・コマーシャル・受信料
第4回	映像の「約束事」と現実	ドキュメンタリー・演出・やらせ
第5回	ニュースとは何か?	ニュースキャスター・ワイドショー
第6回	放送におけるジャーナリズムの危機	取材・インタビュー・ニュースバリュー・ビデオジャーナリズム
第7回	テレポリティクスとメディアコントロールの実際	政治家とテレビ・戦争報道・選挙報道
第8回	メディアの「暴力性」	メディアスクラム・犯罪被害者・プール取材
第9回	「公共放送」は必要なのか	NHK・BBC・FCC・災害報道
第10回	テレビは夢や希望を与えられるのか	バラエティ・ドラマ・エンターテインメント
第11回	(ゲストスピーカー予定)	
第12回	デジタルの基礎知識とその功罪	地上波デジタル・IP放送
第13回	ブロードバンドと新たに生じた問題	ウェブ2.0・オンデマンド放送・コンテンツビジネス
第14回	サイバー社会の諸問題	個人情報・著作権
第15回	まとめの議論と記述問題	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	30 %	テーマや形式は追って指示する。
平常点(検証テスト)	40 %	事実関係を踏まえて見解をきちんとまとめられているかを見る。
平常点(日常的)	30 %	テーマ発表の内容とそのレポート、授業中のディスカッション。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

- ・テレビは授業ではほとんど観ません。自分でたくさん観て、たくさん評論してもらいます。
- ・たくさん読んで、たくさん意見を言って、たくさん文字を書いてもらいます。
- ・新聞を少なくとも1紙毎日目を通しておいてください。

教科書 / Textbooks

- ・追って指示します・

参考書 / Reference Books

- ・追って指示します・

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

担当者名 / Instructor 団 士郎

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

対人コミュニケーションには言語的なものと、非言語的なものがあります。そして人は圧倒的に多く言語的コミュニケーションを使います。そこではしばしば上手、下手の意識が生まれます。その結果ついつい、「他人とのコミュニケーションは苦手・・・」などという説明を自分に貼り付けてしまいます。

また一方で、得意な人も苦手な人も、非言語的コミュニケーションについて自覚することは少ないものです。自分の態度が他者の目にどのように映っているのか。気にはなるけれども、明らかにされる機会はそうありません。ここにも焦点を当てます。

対人コミュニケーションにおいては「技術」と「内容」の二つの課題が存在します。当然のことですが、良好なコミュニケーションはコンテンツ(伝える内容)とプロセス(伝達の手段技術)の両者がうまく備わってこそです。この授業では、大学の講義としては馴染みの少ない、毎回の実習形式でこれらの課題に各自挑戦してもらいます。

毎年説明しているように、教室はコミュニケーションの「ジム」だととらえてください。練習しない人や言い訳にすがりつきたい人には意味を持ちません。対人関係が苦手な人は少しの勇気と共に、得意だと思っている人は、持ち味だけで一生過ごせるわけがないことを内省しながら受講を決めて下さい。

到達目標 / Attainment Objectives

まず、対人コミュニケーションにおける自身の特徴を自覚する事から始まります。そしてそこで発見される課題に各自が取り組みます。エクササイズは毎回提示されますが、どう取り組むかは受講生に委ねられます。教室は知的情報取得の場ではなく、コミュニケーションスキルの練習場です。到達目標はそれぞれのコミュニケーション能力の一步前進です。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
0929(1)	イントロダクション 授業の進め方 第一回の実習 ミニレポート(記述・提出)	
1006(2)	前回のレポート振り返り(レクチュア)・今日の課題実習・今日のフィードバック(記述・提出)	
1013(3)	前回のレポート振り返り(レクチュア)・今日の課題実習・今日のフィードバック(記述・提出)	
1020(4)	前回のレポート振り返り(レクチュア)・今日の課題実習・今日のフィードバック(記述・提出)	
1027(5)	前回のレポート振り返り(レクチュア)・今日の課題実習・今日のフィードバック(記述・提出)	
1103(6)	前回のレポート振り返り(レクチュア)・今日の課題実習・今日のフィードバック(記述・提出)	
1110(7)	前回のレポート振り返り(レクチュア)・今日の課題実習・今日のフィードバック(記述・提出)	
1117(8)	前回のレポート振り返り(レクチュア)・今日の課題実習・今日のフィードバック(記述・提出)	
1124(9)	前回のレポート振り返り(レクチュア)・今日の課題実習・今日のフィードバック(記述・提出)	
1201(10)	前回のレポート振り返り(レクチュア)・今日の課題実習・今日のフィードバック(記述・提出)	
1206(11)	前回のレポート振り返り(レクチュア)・今日の課題実習・今日のフィードバック(記述・提出)	
1208(12)	前回のレポート振り返り(レクチュア)・今日の課題実習・今日のフィードバック(記述・提出)	
1215(13)	前回のレポート振り返り(レクチュア)・今日の課題実習・今日のフィードバック(記述・提出)	
1222(14)	今日の課題実習(屋外実習) 今日のフィードバック(記述・提出)	
0119(15)	前回のレポート振り返り(レクチュア)・今日の課題実習・今日のフィードバック	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	

平常点(日常的) 50 % 毎週、ミニレポートの提出があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

三分の二以上(10回)出席できそうにない者は登録しないでください。基本的に毎週フィードバックシートの提出を課します。遅刻してミニレポートだけ出しに来るような対応も承認しません。その場合、評価除外します。やむを得ない欠席、遅刻に関しては、フィードバックシートに事情を明記してください。

教科書 / Textbooks**参考書 / Reference Books****書名 / Title****出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment**

家族の練習問題

団士郎／ホンブロックKK／マンガです。主に家族のコミュニケーションに焦点をあてたものです。

不登校の解法—家族のシステムとは何か—

団士郎／文春新書／読みやすい新書です。家族システム論の視点から、親子のコミュニケーションをテーマに書いています。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference**その他 / Others**

担当者名 / Instructor 原尻 英樹

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本講義は、一般的な文化の概念についての検討をしたあと、具体的事例研究として身体文化についての理解を深めていく。なぜならば、今日のグローバリゼーションの状況のなかで、人々の生活は激変したかみえて(同じところに永年生活と文化を共有している人々が社会を形成するのではなく、インターネットを媒介したネット社会の出現など)、人々が何らかの共同体を形成する際には、身体あるいは身体文化の共有があげられているからである。また、身体文化には、これまでの文化人類学等の研究における文化の多様性ではなく、普遍的な身体文化という側面があり、その普遍性故に、グローバリゼーションされている現代にあっても、その意味が小さくないといえるのである。

到達目標 / Attainment Objectives

- (1)文化の概念についての一般的な知識と考え方の獲得。
- (2)身体文化の意味と身体がもっている普遍的な意味について考える力。
- (3)固有文化と普遍文化という考え方についての理解獲得。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

文化人類学等の文化に関連する科目。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業全体のイントロダクション	文化概念、身体、身体文化、グローバリゼーション
第2回	文化の概念についてその1	人種差別主義、進化主義、文化
第3回	文化の概念についてその2	文化相対主義、生活文化、上部構造と下部構造
第4回	これまでの文化概念の問題点	普遍的な文化、相対的文化、身体文化
第5回	身体文化とは何か	身体、イメージ、体認
第6回	身体文化としての武道	近代武道、前近代武術、スポーツ
第7回	普遍的な「合気」概念	合気、発勁、韓国(朝鮮)伝統舞踊
第8回	近代武道と古流武術	近代的身体、武道的身体、武道的身体の育成
第9回	舞踊と武道	日本舞踊、琉球舞踊、韓国(朝鮮)舞踊、合気
第10回	合気修得の過程にみる身体文化その1	合気あげ、身体づくり、技の習得
第11回	合気修得の過程にみる身体文化その2	合気修得の条件、合気で何が出来るか、合気の応用
第12回	アジアと日本武道その1	植民地主義、日本武道、合気と発勁
第13回	アジアと日本武道その2	アジア、共有遺産、国境を超えた身体文化
第14回	嘉納治五郎と植芝盛平	柔道、合気道、柔術、合気
第15回	グローバリゼーションのなかの身体	身体からわかること、普遍的な身体文化、全体のまとめ

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

基本的には、教科書及び配布プリントによる予習・復習。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	35 %	テキスト及び授業内容の理解度。マークシート方式の試験。
レポート試験	45 %	実質的には定期小テスト(三回実施する)
平常点(日常的)	20 %	毎回出席をとる。出席点。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

毎回授業に出席し、決められたことをこなせば、必ず、合格できる授業にするが、出席せずに、決められたことをやらなければ、単位取得は極めて困難である。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『21世紀の武道教育』	原尻英樹 / (2008年8月に出版予定)

参考書 / Reference Books

授業中に適宜紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

担当者名 / Instructor 草深 直臣

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

スポーツをめぐる状況は、世界的規模で急変している。グローバルな市場経済に翻弄される一方で、健康づくり・地域コミュニケーション・自己実現などの価値に向かって、生活の文化として定着しつつある。入門科目として、スポーツ文化と社会に関する基礎的知識を整理し、現状の問題点を抽出しながら、課題の重要性を解明する。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの体験で培われてきた感性を対象化し。客観化することを通じて、スポーツ文化の社会性の理解に重点をおく。スポーツは社会構造のさまざまな要素から影響を受け、同時に「人間」の理想像の探求として、社会に影響を与えてきた。こうした関係を理解しながら、現代日本スポーツが持つ問題点を抽出し、それを打開していく方向性をさぐりながら、学びの道筋を発見することを目標とする。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

教養科目「スポーツの発展と歴史」「スポーツと現代社会」をあわせて履修することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	序章:	【スポーツ社会専攻】での学び、小テスト(クイズ形式)
2	序章	「習わなかった体育理論」「スポーツ体験」の対象化
3	第1章 「する」スポーツの思想	「ゲーム」内の世界 ゲームの「心構え」論
4	第1章 「する」スポーツの思想	アマチュアリズム K・デームの思想 アマチュアリズムとナショナリズム 「東京オリンピック」
5	第2章 ビッグイベントビジネスの登場—越境するイベント	第1節 アマチュアリズムの崩壊 / 冷戦体制の中の五輪 / ロス・五輪と「ユベロス」神話
6	第2章 ビッグイベントビジネスの登場—越境するイベント	第2節 プロスポーツとボーダレス化 / グローバリゼーション / スポーツ市場 / 国籍条項 / アメリカナイゼーション
7	第2章 ビッグイベントビジネスの登場—越境するイベント	第3節 イベントビジネスとメディア資本(文化帝国) / 放映権 / プロパピリティ / テレ・メディアの介入
8	第2章 ビッグイベントビジネスの登場—越境するイベント	第4節 スポーツ文化のナショナリティ / 数量化と客観的判定 / 勝利至上主義とナショナリズム / 非合理的の美
9	第2章のまとめと小テスト	
10	第3章 現代日本のスポーツ事情	第1節 増大するスポーツ要求 / 「スポーツ世論調査」の変遷 / スポーツの価値と多様性 / ユネスコ「スポーツ国際憲章」第2節 エリア・スクール・ビジネスの限界 / 「バブル」の後先 / 「宴」の後で
11	第3章 現代日本のスポーツ事情	第2節 エリア・スクール・ビジネスの限界 / 「バブル」の後先 / 「宴」の後で
12	第3章 現代日本のスポーツ事情	第3節 新「地域スポーツ振興策の展開と問題点」 / 「総合型地域スポーツクラブ」の発足と展開
13	第3章 現代日本のスポーツ事情	第4節 新「地域スポーツ振興策の展開と問題点」 / 「スポーツNPO」 / スポーツ事業と財務 / プロのキャリア形成
14	第3章 現代日本のスポーツ事情	第5節 新「地域スポーツ振興策の展開と問題点」 / マーケティングとマネジement: 小テスト
15	終章: 「する」「見る」時代から「考える」「創る」時代へ	横浜Fマリノス事件から学ぶ / 「プロ野球ストライキ」から学ぶ / スポーツ文化の担い手

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

テキストは指定しない。講義は章または節毎にまとめたレジュメによって展開する。レジュメは教室でのみ配布。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	80 %	基礎的な概念の理解、錯綜する構造の総合的分析力
平常点(日常的)	20 %	基礎的な用語・概念についての理解

出欠は取りません。ただし、点数化はしません。小テストをシラバスの予告週および予告なく2回行い、日常点として組み入れます。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

分からないことは率直に質問すること。用語・概念を正確に理解すること。日々のスポーツ報道に目を配ること。

教科書 / Textbooks

テキストは指定しません。講義は毎週、教室内でのみ配布されるレジュメによって展開されます。

参考書 / Reference Books

書名 / Title

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

スポーツを考える

多木浩二 / 中公新書 / 少し難しいけど、チャレンジされるように

参考文献・資料はレジュメの章末に掲載します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

<http://www.sportsnetwork.co.jp/cgi-bin/index.html>

その他 / Others

【スポーツ】のゲームだけを考える時代は終わった。さまざまな教養科目・専門科目の知見と照らし合わせて、スポーツ問題を捉えるように期待する。

人間発達論 S

15504

担当者名 / Instructor 竹内 謙彰

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

人間の生涯にわたる発達のプロセスを概観する。その際、人格の発達に焦点を当てるが、それと同時に、認識や感情といった発達の諸相についても、可能な範囲で触れることとした。

到達目標 / Attainment Objectives

- ①人間の発達に関して、基本的な知識を得ること。
- ②人間発達に関わる知識を、福祉や教育の観点と結びつけて理解を深めること
- ③これらを基礎に、発達上の諸問題について一定の考察ができるようになること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	「授業の進め方についての説明」、および、「発達とは何か」	機能連関、発達権
第2回	人間発達と進化	進化、遺伝と環境、人間性
第3回	胎生期の発達の特徴	受精、着床、胎芽期、胎児期
第4回	乳児期前半の発達の特徴	周産期、新生児期、原始反射、顔の知覚、姿勢
第5回	乳児期後半の発達の特徴	共同注意、三項関係、歩行
第6回	幼児期前半の発達の特徴	言葉の始まり、表象、自我、第一反抗期
第7回	幼児期後半の発達の特徴	認知世界の広がり、素朴理論、自己主張と自己抑制
第8回	児童期前半の発達の特徴	学校への移行、勤勉性、具体的操作
第9回	児童期後半の発達の特徴	ギャング・エイジ、9、10歳の発達の節、仲間関係と自己意識
第10回	青年期の発達の特徴	性的成熟、第二反抗期、アイデンティティ、自立と依存
第11回	成人期の発達の特徴	労働、結婚、親になること
第12回	老年期の発達の特徴	子どもの巣立ち、関係性の変容、衰退、英知
第13回	現代社会における自立①	義務としての自立、権利としての自立
第14回	現代社会における自立②	依存的自立、全人格的自立
第15回	現代社会における人格発達の課題	人格、発達の危機、自立

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	70 %	学習内容に関する基本的な理解に基づく妥当な考察が行われていること。
平常点(日常的)	30 %	コミュニケーションペーパーにより、講義に対する理解度や関与度を評価する。あわせて、講義中や講義後の質問、意見表明など、積極的アピールも評価に加える。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
障害者の自立と発達保障	加藤直樹 / 全障研出版部 / 4-88134-143-X / 講義の一部で言及する
現代心理学入門2発達心理学	無藤隆 他 / 岩波書店 / 4-00-003922-9 / 講義の一部で言及する
家族の関わりから考える生涯発達心理学	尾形和男 他 / 北大路書房 / 4-7628-2520-4 / 理解を深めるために
ライフサイクル、その完結	E. H. エリクソン 他 / みすず書房 / 4-6220-3967-2 / 理解を深めるために
1歳児の発達診断入門	田中昌人 / 大月書店 / 4-2724-0361-3 / 理解を深めるために

上記以外にも、参考となる文献は、随時授業で紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

人間論 S

13036

担当者名 / Instructor 佐藤 嘉一

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

人間の社会との「かかわり」の歴史を「民話」や「小説」を題材にして社会的に論じます。伝統社会に生きる「あかずきんちゃん」、モダンソサエティの到来とロビンソン・クルーソー、変貌する大都会ペテルブルグに生きるアルカイジュー青年などの生き方にみる「人格形成と社会構造」の問題を論じます。

到達目標 / Attainment Objectives

社会学や経済学、精神分析や言語倫理などの学習をとおして「社会の動きと自己アイデンティティの形成」に関するものの見方の習得をめざします。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

一回生科目「基礎社会学」、同「人間と文化」、二回生科目「文化理論」、同「現代文化」の履修を薦めます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	社会とアイデンティティ問題を「物語」によって語るわけ	アウグスチヌス『告白』、ルソー『告白』、自己論、ポスト・モダンという時代！？ わたくし語りの歴史
第2回	「わたくし」という現象—宮沢賢治の詩を読む:「自分をさがす」とはどのようなことを考えてみる	「わたくし」という現象、一人称単数で語る、現実は多元的である、現象学的社会学
第3回	「あかずきんちゃん」にみるアイデンティティと社会:民話の世界から「むら社会」(伝統的共同社会)に生きる	あかずきんちゃん、共同体、口承、構造優位、むらともり、民話
第4回	「恩」の構造:日本のプレモダンの共同社会を生きる「伝統的パーソナリティ」の特徴を「恩を返すはなし」	「契約における非契約的要素の問題」、「読み直す」ということ
第5回	グリム童話「蛙の王様」と「鶴の恩返し」—物語にみるヨーロッパの「プレモダン」と日本の「プレモダン」	グリム童話、日本昔話、内発・能動と外発・受動、象徴動物—蛙と鶴・亀
第6回	『ロビンソン・クルーソー』におけるアイデンティティと社会—社会学者や社会学者によるこの物語の読み方	一人称単数「わたし」の視点、構造の視点、理解社会学の行為の視点、経済的カテゴリー、モダンの理念型
第7回	夏目漱石の『ロビンソン・クルーソー』論—イギリス留学を体験した漱石の目から見た18世紀のイギリス社会	ロビンソン型人間類型と漱石型人間類型、内発・能動、外発・受動 漱石のイギリス体験、近代と日本
第8回	「わたくし語り」とドストエフスキー:小説『未成年』をよむ—ドストエフスキーの物語世界を「わたくし語り」として読む	「盤根錯節」問題、近代とロシア、ドストエフスキーの創作ノート、「地下室の主人公」、自然的態度の現象学
第9回	「わたくし語り」とドストエフスキー(続き):「わたくし語り」のコンポジション:伝達・表現・叙述の3つ	直接世界、他者のあられ、私の身体のアラわれ、私のこころのアラわれ、「いま」と「ここ」
第10回	「わたくし語り」とドストエフスキー(続き):今ここへ「内向する」語りと今ここを「超える」語り	意味連関のモザイク模様、類型化される意味世界、類型化される時間、類型化される空間、類型化される人格
第11回	「わたくし語り」とドストエフスキー(結び):「わたし語り」の形式によってなにが、どのように物語られるのか	われわれ関係、汝が関係した私、語る私、「内世界的間主観性」、ポストモダンの自己アイデンティティ問題
第12回	「からだ・こころ・他者」について—「社会とアイデンティティの問題」をめぐる若干の基本カテゴリーについて	肖像画を描く画家の目、文学者の目としての「異化」の方法、日常生活のリズムをとめる、サルトル
第13回	サルトルの「からだ・こころ・他者」を読み直す—『存在と無』からだの4つの位相論	状況の中からのからだ、役割演技、キャフェイのボーイ、眼差しの地獄、サディズムとマゾヒズム
第14回	自己論への道程—ヤヌスの課題を背負って:物語論にみられる「社会とアイデンティティ」問題の三つの視座:	社会科学・社会学・文学の間、現場に居合わせる、社会構造と個人、ドロシー・エメット
第15回	まとめ 物語における社会とアイデンティティ論の射程	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	80 %	授業全体の理解度や基礎概念の学習度などを主に考査する
平常点(日常的)	20 %	授業で学んだ「社会とアイデンティティ」問題を各自が創造的に再構築する作業として位置づける

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

レポートを書くことは問題を整理し、理解を早めるばかりでなく、自分の新しい考え方に気づく自己発見の場となります。必ずレポートを書くようにしましょう。

教科書 / Textbooks

書名 / Title

物語のなかの社会とアイデンティティ

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

佐藤 嘉一 / 晃洋書房 / 4-7710-1525-2 /

参考書 / Reference Books書名 / Title

未成年

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

ドストエフスキー / 岩波文庫 / / 授業の理解を深めるために

春と修羅

宮沢賢治 / 岩波文庫 / / 授業の理解を深めるために

ロビンソン・クルーソー

ダニエル・デフォー / 岩波文庫 / / 授業の理解を深めるために

グリム童話集1

グリム / 岩波文庫 / 4-00-324131-2 / 授業の理解を深めるために

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference<http://webct.ritsumeai.ac.jp/webct/entryPageIns.dowebct>**その他 / Others**

日常性の社会学 S

担当者名 / Instructor 宝月 誠

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

逸脱とコントロールに注目して、日常生活の秩序を構成し、再生産している社会的メカニズムについて考える。こうした問題を巡る社会学の主要な学説を紹介したうえで、現代社会の逸脱現象なから暴力やホワイトカラー犯罪を具体的なケースとして取り上げる。さらに、社会生活のフォーマル・インフォーマルなコントロールを中心にして制度のあり方を考える。

到達目標 / Attainment Objectives

1. テキストと講義に基づいて、逸脱・犯罪についての社会的な考え方を習得する。
2. 事件などをメディアの報道を批判的に読み解く能力をつける。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特に指定科目はないが、基本的な社会的視点を学んでおくことが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の目的と概要	日常世界において逸脱をテーマにする意義
2	逸脱に対する考え方(1): デュルケムの理論	集合意識・犯罪・刑罰
3	逸脱に対する考え方(2): アメリカ社会学の場合	シカゴ学派・アノミー論・ラベリング論・合理的選択論
4	逸脱とは何か(1)	構造論・相互作用論・行為者論
5	逸脱とは何か(2)	定義の構築・適用過程
6	なぜ逸脱するのか(1)	社会解体論・アノミー論
7	なぜ逸脱するのか(2)	差別的接触論・ラベリング論
8	なぜ逸脱するのか(3)	社会的絆論・合理的選択論
9	なぜ逸脱するのか(4)	具体的な事例
10	コントロールの考え方	コントロールの存在根拠・機能
11	コントロールの目的	応報・抑止・治療・和解
12	インフォーマルなコントロール	社会的資本・世論
13	フォーマルなコントロール	統制機関・遂行過程・裁量
14	コントロールの事例	監視社会
15	社会秩序のあり方	研究の成果と社会政策

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

犯罪報道と公式統計を批判的に読む態度を実践する。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	犯罪・逸脱・反作用などの基本的な概念や考え方についての理解度を試し、現実の問題への応用能力をどれだけマスターしているのかによって評価する。
ひとつのテーマが終わるたびに、理解の程度と質問事項を確認するための質問紙を配布する。		

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

授業中に紹介した文献や資料は図書館を利用して自習することが望ましい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
逸脱とコントロールの社会学	宝月 誠 / 有斐閣 / 4-641-12227-x /
大学生協書籍部で購入可能	

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
社会的コントロールの現在	宝月誠・進藤雄三 / 世界思想社 / 4-7907-1108-0 /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

日本経済論 S

13126

担当者名 / Instructor 松葉 正文

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

現代日本経済分析をテーマとし、1990年以降のバブル崩壊不況と近年における若干の景気回復状況および国民生活の諸相について、文字通りの「現局面」分析を行なう。

本科目は、もちろん独立した科目であるが、私のもう1つの担当科目「現代経済論」と連結しておりその後半部分にあたる。

到達目標 / Attainment Objectives

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1.	はじめにー日本経済の概況	
2.	市民社会と企業社会	
3.	大企業体制の2類型	
4.	国家財政の動向	
5.	勤労者層の賃金構造	
6.	同上. 労働諸条件	
7.	外国人労働者問題の現状	
8.	農民層の経済生活条件	
9.	中小企業経営の現状	
10.	国民の所得構成	
11.	同上. 資産構成	
12.	社会保障の現状と問題点	
13.	住宅・土地問題	
14.	まとめ	
15.	定期試験	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

松葉正文『現代日本経済論：市民社会と企業社会の間』晃洋書房。

参考書 / Reference Books

授業中に適時紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

乳幼児心理学 S

13065

担当者名 / Instructor 平沼 博将

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本講義では、胎生期から児童期までの人間発達について概説するとともに、保育や教育における問題や課題についても論じる。また、障害のある子どもの発達的特徴および保育・療育の課題についても考察する。

到達目標 / Attainment Objectives

- ① 子どもへの関心を高め、乳幼児期の発達を捉える視点を明確にする。
- ② 保育園や幼稚園における子どもたちの生活について学ぶ。
- ③ 障害のある子どもたちの生活や発達について学ぶ。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	「発達」の捉え方、生涯発達における乳幼児期のもつ意味	発達段階、人権としての発達、発達の3つの系、生涯発達心理学
第2回	胎生期の発達	受精、卵体期、胎芽期、胎児期、胎児の知覚世界、胎生期の発達保障
第3回	乳児期前半の発達と保育	赤ちゃんの不思議、新生児微笑、生活リズム
第4回	乳児期後半の発達と保育	8か月不安、定位行動、はいはい、喃語
第5回	1歳児の発達と保育	自我の誕生、直立二足歩行、道具の操作、音声言語、しつけ
第6回	2歳児の発達と保育	対概念、象徴機能、みたて・つもり遊び
第7回	3歳児の発達と保育	イチヨマエの3歳、ごっこ遊び、3歳児の心の揺れ
第8回	4歳児の発達と保育	～シナガラ～スル、心の理論、4歳児のプライド
第9回	5歳児の発達と保育	自我から自己へ、中間世界の成立、自己信頼感、集団あそび
第10回	障害のある子どもの発達と保育(1)	自閉症、ダウン症、発達遅滞、乳幼児健診
第11回	障害のある子どもの発達と保育(2)	発達障害、学習障害(LD)、注意欠陥・多動性障害(ADHD)、アスペルガー症候群
第12回	児童期の発達と教育(1)	小学校、ねうちを捉える力、小一プロブレム
第13回	児童期の発達と教育(2)	ギャングエイジ、学童保育、接続問題
第14回	まとめ	
第15回	定期試験	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	80 %	期末試験により授業内容の理解度を問う。
平常点(日常的)	20 %	講義中に課す授業レポートなどの成績。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
育ちあう乳幼児心理学	心理科学研究会(編) / 有斐閣 / 4-641-07634 /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

ネットワーク論 S

15518

担当者名 / Instructor 堀 孝弘

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

ITネットワークを扱う講座ではない。市民活動における人づくり、コミュニケーションスキル、組織運営、ネットワーク構築について原則および実践事例などを紹介する。学園生活だけでなく社会に出てからも役立つスキルや考え方を、座学だけでなく「受講者参加ワーク」も用いて体験的に修得する講座である。知識を提供するだけでなく、「知恵」を育む講座である。

また、理解を深めるうえで情報のもつ意味は大きく、市民セクターの成長やセクター間協働について、講師自らの活動経験を含めて、環境ネットワーク活動の最新事例も紹介し受講者の視野を広げる。

なお、本講座講師は、学外において、行政や企業、教育機関、一般市民などを対象に、ひろく社会活動を実践している者であり、受講姿勢については特に重視する。

到達目標 / Attainment Objectives

将来にわたり活用できる人的ネットワーク構築、および団体運営の基本スキルの修得
セクターを越えた協働社会の構築に向けた、市民セクターの活動成果と可能性の理解

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

景観デザイン論、環境形成論

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業概要および講師紹介 ネットワークの基礎 基本知識と実際(金持ちがますます金持ちになるのは何故か)	世界は6次の隔たりでつながっている? 【参加ワーク】人と人とのつながりを豊かに(非攻撃的の自己主張の体験)
第2回	人と人のつながり 対人コミュニケーションの発想転換	ゲームの理論からWin-Winの関係へ 【参加ワーク】質問力を高めよう(詰問からOpen Questionへ)
第3回	団体の運営 社会性のある活動を継続的に生み出すには	目的と目標、問題と課題、ミッションとビジョンの違いなど 【参加ワーク】リーダーに必要な要件、緊急性と重要性の整理
第4回	団体の運営 共感を得る活動企画の基礎理解(マーケティングとポテンシャル)	コーディネーターの重要性、ネットワークが必要になるとき 【参加ワーク】ポテンシャル分析(あなたの持っている30の顔)
第5回	環境ネットワーク活動の活動事例 その1 「日本の環境首都コンテスト全国ネットワーク」の活動から	ここまで伝えた団体運営に必要な手順等を実際の活動事例を通じて確認する。【参加ワーク】問題を「課題」に置き換えよう
第6回	会議の効率的な進め方(仲間の思いを引き出し活かす。誰も発言しない会議、何が決まったかわからない会議を卒業しよう)	会議での意見の引き出し方、ブレインストーミングの4つの約束など 【参加ワーク】会議の「次第」をつくらう
第7回	会議で出た意見の整理(意見を整理分類し、関係と階層を考え、課題を明らかにする)	【参加ワーク】意見の分類と整理をしてみよう(滅茶苦茶な意見、反論、質問で混乱した会議をまとめよう)
第8回	透明性のある合意形成 幾つかの手法紹介と手法活用の留意点	衆目評価法 一対比較行列評価など 【参加ワーク】弱小チーム改造計画A~C案 合意形成手法体験
第9回	団体内での人づくり 肯定的指導、プロセス評価と成長への助言(コンビタンシー評価との違い)	団体内でのエンパワーメント 次世代リーダー育成 【参加ワーク】プロセス評価を体験しよう
第10回	仲間づくり 異セクター協働の難しさ 市民・事業者・行政、立場の違う人たちの協力が何が必要か	地域計画策定への住民参画事例紹介【参加ワーク】コーディネーターの出番(のび夫とスネ太とジョイアの3すくみを解消しよう)
第11回	環境ネットワーク活動の活動事例 その2 グリーンコンシューマー活動の地域展開とネットワーク	海外の先進活動を国内事情にあわせてアレンジ 【参加ワーク】ネットワーク・スケジュールと仲間への作業配分
第12回	環境ネットワーク活動の活動事例 その3 グリーン購入ネットワーク	ネットワーク成功の要因(それぞれのポテンシャルの活用と人と人のつながり)
第13回	思いをかたちにする 活動企画に必要な要件 PDCAサイクルでの活動の展開・深化	「企画」とは、あこがれの人へのアプローチと同じ 【参加ワーク】活動を企画してみよう
第14回	ビジョンを実現する力 バックキャストとフォアキャスト(いかにして自分の夢に近づくか)	ビジョン共有の大切な「スウェーデンの緑の福祉国家構想から」 【参加ワーク】思いを伝える 学生企画の発表
第15回	自己実現に向けて 人権と平和のために闘ってきた人たち	日々の時間の使い方 クワドラント分析【参加ワーク】学びのふりかえりと分かち合い

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	60 %	講師が各回提示・提供した情報等を、応用でき得るよう咀嚼・理解しているか
レポート試験	3 %	授業内で提示 市民活動の発展と可能性の理解(A4・1枚程度)
平常点(日常的)	37 %	出席を重視するが、単に「出ている」だけでなく、受講姿勢と授業理解について各回提出の「授業感想」により判断する

本講座講師は、学外において、行政や企業、教育機関、一般市民などを対象に、ひろく社会活動を実践している者であり、受講姿勢については特に重視する。

下記の行為は授業妨害とみなし、当該学生を「D」評価とすることがあり得る。

他の受講生の受講妨害(授業中の私語、大幅な遅刻や頻繁な途中入退室など)

授業中の携帯電話の使用(Eメールの送受信を含む)

参加ワークの不参加

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

<http://www.kankyoshimin.org/>

講師堀が事務局長を務める「NPO法人環境市民」のWebサイトである。環境市民は、国内でも活動内容のユニークさや先進性で注目されている団体である(2004年度グリーン購入大賞環境大臣賞受賞、2005年度京都府環境トップランナー賞受賞、京都新聞2005年元旦社説での紹介等)。授業でとり上げる活動が紹介されているので、ホームページの閲覧をすすめる。

その他 / Others

農村環境計画論 S

13021

担当者名 / Instructor 浅野 智子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本講義は、人的、社会的、自然資源の流出・変容が深刻な農村地域の環境保全にかかる問題構造と計画手法について、総合的に把握することを目的とする。構成は(1)農村地域の環境計画の方法論として、農村の空間的、社会的な特質と制度上の関わり、(2)今日の農村地域における取り組みの現状、(3)ボトムアップ型の計画手法の現状、である。

到達目標 / Attainment Objectives

- (1)農村地域の環境計画の方法論として、農村の空間的、社会的な特質と制度上の関わりについて構造的に把握する
- (2)農村地域の環境保全にむけた取り組みの現状と課題について、農村と都市(都市圏および地方都市)との関係から理解する
- (3)農村地域のボトムアップ型の計画手法とその現状を理解する

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	講義の概要	自己紹介、講義の目的と進め方、評価方法等の説明
2	環境計画の方法論、農村の社会的・自然的資源	物理的空間と社会的空間、二次的自然、農村集落
3	農村の空間構成と地域単位	集落の空間構造、耕作放棄地、獣害、伝統と近代化、過疎問題
4	農村計画の変遷と現在の計画手法の特徴	都市計画法、農振法、景観法、住民参加
5	自然環境保全の取り組み	ビオトープ、グラウンドワーク、ため池と流域管理
6	農村集落保全の取り組み	ナショナルトラスト、世界遺産、古民家活用
7	生産環境保全の取り組み	水田の多面的機能、オーナー制度、中山間地域等直接支払制度
8	文化・芸術創造の取り組み	語り部、現代アート、エコミュージアム
9	農村と都市の交流事業・グリーンツーリズムの背景	農村と都市の資源の交換、マストツーリズム、ルーラルツーリズム
10	アジアにおけるグリーンツーリズム	モンスーン気候と農業、地域経営型運営、休暇制度
11	グリーンツーリズムと地域振興および運営組織	ワーキングホリデー、農家民泊、地域通貨、着地型旅行
12	グリーンツーリズムのニーズと制度	食育、環境教育、旅行業法
13	農村における住民参加の方法と現状	市町村合併、限界集落、ワークショップ
14	農村におけるコミュニティづくりの現状	新規就労支援、高齢者と女性の活躍、定年帰農
15	講義のまとめ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

毎回、国内外の農村地域の環境保全、地域振興に取り組む事例を中心に講義を進める。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	50 %	講義で紹介した事例や個々人の事例調査から、仮説を組み立てる試験を実施するので講義期間中にフィールドワークを自主的・積極的に行うこと。評価は、自主調査の独自性と仮説の組み立て能力の2つより行う。
平常点(日常的)	50 %	講義の中で意見シートを配布、回収し、講義に対する質問や感想等を評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

近畿圏の事例を積極的に紹介するので、可能な限り視察に行くこと。

教科書 / Textbooks

各講義で資料を配付する。また講義の中で、参考文献やサイトを紹介するので、自習すること。

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

発達障害論 S

13104

担当者名 / Instructor 荒木 穂積

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

発達障害の概念、発生・成立のメカニズム、診断、予後および療育・指導方法などについて、人間の発達段階と関わらせて論じる。乳児期、幼児期においては早期発見・早期対応・早期療育などの課題と関わらせて、学童期・青年期においては学校教育・集団活動などの視点から発達支援の課題と関わらせて考えていきたい。

本講義では、人間発達の過程において発達の質的転換期(例えば、「階層-段階」理論など)との関わりで発達障害をとらえていく。発達障害児・者への支援の実際について学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

- ・発達障害の基礎的概念や用語を知る。
- ・発達障害の発生・成立のメカニズムを知る。
- ・人間発達における質的転換期と発達障害の関係について理解を深める。
- ・発達障害児・者への支援の実際について学ぶ。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

乳幼児心理学、児童青年の心理、人間コミュニケーション論、障害者福祉論、心理検査法

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	1-1.発達障害とは(1)ー基礎的用語と定義の説明ー	発達、障害、発達障害、学習障害、言語障害、情緒障害、行動障害、自閉症、アスペルガー症候群
第2回	1-2.発達障害とは(2)ー歴史・現状ー	障害者数、発達障害者数、発達障害者支援法、障害の定義
第3回	2-1.人間発達と発達障害(1)ー系統発生と障害(その1):ヒトの誕生までー	人間進化、動物福祉学、遺伝病、障害の発生と進化
第4回	2-1.人間発達と発達障害(2)ー系統発生と障害(その2):ヒトの誕生以降ー	ヒトの誕生、ネアンデルタール人、共同社会、社会の進歩と障害者、知的障害と能力主義、障害と社会
第5回	3-1.発達の「階層-段階」と発達障害(1)ー胎生期(その1)ー	卵体期、胎芽期、遺伝病、染色体異常
第6回	3-2.発達の「階層-段階」と発達障害(2)ー胎生期(その2)ー	胎児期、脳の発達、神経の成長、先天異常、流産と死産
第7回	3-3.発達の「階層-段階」と発達障害(3)ー周生期ー	未熟児、低体重児、仮死、アプガー指数、脳性マヒ
第8回	3-4.発達の「階層-段階」と発達障害(4)ー乳児期前半ー	原始反射、親と子の絆、運動発達、笑顔の獲得、情緒の発達、親子関係、重度重複障害
第9回	3-5.発達の「階層-段階」と発達障害(5)ー乳児期後半ー	移動、コミュニケーション、注意共有機構(SAM)、模倣と学習、愛着の発達、対人関係障害
第10回	3-6-1.発達の「階層-段階」と発達障害(6)ー幼児期(その1)ー	歩行、道具の操作、言語の獲得、表象、象徴機能、遊びと学習、言語障害、行動障害
第11回	3-6-2.発達の「階層-段階」と発達障害(7)ー幼児期(その2)ー	自閉症、社会性の障害、コミュニケーションの障害、想像力の障害、早期発見、MCHAT、情緒障害、言語障害
第12回	3-6-3.発達の「階層-段階」と発達障害(7)ー幼児期(その3)ー	見立て遊び、ごっこ遊び、自我の発達、心の理論、アスペルガー症候群、気になる子ども
第13回	3-7-1.発達の「階層-段階」と発達障害(7)ー学童期・青年期(その1)ー	生活的概念、科学的概念、ルール遊び、役割取得、集団、社会的自己、ギャングエイジ
第14回	3-7-2.発達の「階層-段階」と発達障害(7)ー学童期・青年期(その2)ー	軽度発達障害(LD・ADHD・PDD)、行為障害(CD)、いじめ、不登校、障害の自己認識、特別支援教
第15回	まとめ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

実習やフィールドでの経験があると理解しやすい。
日頃、耳にする用語や概念を授業で正確に理解してほしい。
発達障害への基礎知識の習得をすすめる努力をしてほしい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	50 %	配点にそって採点する。 日本語としての文章や表記が正確でない場合は減点となる。

レポート試験 50 % 事実と自分の意見・感想が区別して述べられているか。
資料や文献の読み込みがしっかりできているか。
資料や文献の紹介が中心のレポートは減点となる。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

授業の途中でレポートの提出をもとめます。必ず提出してください。
授業テーマと関連する教材や文献を活用して知識をひろげる努力をしてください。

教科書 / Textbooks

授業では毎回レジュメを配付します。レジュメはコースツールからもダウンロードできます。
教科書は指定しませんが、授業と併行して下記の参考書で自己学習をすすめてください。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
子どもの発達と診断①～⑤	田中昌人・田中杉恵／大月書店／／人間発達の基礎を学ぶ
自閉症スペクトラム児・者の理解と支援—医療・教育・福祉・心理・アセスメントの基礎知識—	日本自閉症スペクトラム学会(編集)、／教育出版／／自閉症スペクトラムの基礎を学ぶ
自閉症と遊び	ヤニック・ベイヤー & ローネ・ガメルトフ／クリエイツかもがわ／／自閉症スペクトラムの基礎を学ぶ
自閉症スペクトラム学び方ガイド—社会参加をめざした授業づくり—	レベッカ・A・モイズ／クリエイツかもがわ／／自閉症スペクトラムの基礎を学ぶ

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

日本自閉症協会: <http://www.autism.or.jp/>
 日本ダウン症ネットワーク: <http://jdsn.gr.jp/>
 日本知的障害者福祉連盟: <http://www13.ocn.ne.jp/~jlid/>
 日本発達障害者ネットワーク: <http://jddnet.jp/>
 全国障害者問題研究会: <http://www.nginet.or.jp/>
 文部科学省: <http://www.mext.go.jp/>
 厚生労働省: <http://www.mhlw.go.jp/>

その他 / Others

レジュメは当日配布します。授業後はコースツールにアップロードしておきますので各自ダウンロードしてください。授業の連絡事項も授業場面及びコースツールの連絡事項で指示をします。

発達保障論 S

15500

担当者名 / Instructor 加藤 直樹

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

授業の概要：発達保障とは、社会福祉や保育・教育、医療などの実践や理論と関わり、人権や社会保障を根底から成り立しめるために生まれた権利保障の思想と科学である。人間が一生をかけて自己実現を成し遂げるためには、生まれてから死をむかえるまでのライフサイクルをとおして、人生のそれぞれの時期にどのような人間的自由を獲得し、人間発達が保障される中で、人格の拡大・充実・発展を成し遂げるかを考える学問である。

本年度は、特に子ども、障害者(児)、教育の視点から発達保障の諸課題を取り上げる。人間発達の阻害状況とともに、子どもや障害をもつ人たちの発達の可能性とそれを保障するための理論と実際について考察していく。

到達目標 / Attainment Objectives

発達保障の成り立ってきた歴史的背景、現代社会における人間発達の阻害状況、およびそれを発達の契機として築きあげてこられた人間の発達を保障するための諸理論と実践についての理解を深める。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

社会保障論、人格発達論、障害者福祉論、現代人権論、ライフサイクル論、発達障害論

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	発達保障とは何か(1)	性格と構成要素
第2回	発達保障とは何か(2)	発達保障の系譜
第3回	子どもと発達保障(1)	生出生まで、乳児期の課題
第4回	子どもと発達保障(2)	幼児期の課題
第5回	子どもと発達保障(3)	学童期の課題
第6回	子どもから青年への課題と発達保障	
第7回	成人期、高齢期の発達保障	
第8回	障害者と発達保障(1)	知的障害者の発達保障
第9回	障害者と発達保障(2)	身体障害者の発達保障
第10回	障害者と発達保障(3)	精神障害者の発達保障
第11回	現代社会と発達保障(1)	現代社会と自立の課題
第12回	現代社会と発達保障(2)	集団と発達保障1
第13回	現代社会と発達保障(3)	集団と発達保障2
第14回	現代社会と発達保障(4)	社会進歩と発達保障
第15回	現代社会と発達保障(5)	私たちの課題

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

授業の途中でレポートの提出をもとめる。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	90 %	配点にそって採点する。日本語と別の文章や表記が正確でない場合は減点となる。
レポート試験	10 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

教科書は使用しない。

参考書 / Reference Books

参考書は講義の中で紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

パブリックアクセス論 S

13135

担当者名 / Instructor 津田 正夫

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

デジタル化の到来によって、多メディア・多チャンネル化は現実となった。こうしたメディア資源を市民社会に開いていくことは民主主義の基盤である。アメリカでは一般市民が1000以上のテレビチャンネルをもっているし、ヨーロッパやアジアでも市民がメディアに参加することは常識である。しかし日本ではマス・メディアへのアクセス権は保障されていない。市民社会での相互理解、自己決定、合意形成などの基本的システムとして、どのようにメディアへのアクセス権、言論の公共圏を形成してゆけるのか、アクセス権の生成、世界の現状から日本での今後の課題を考える。

到達目標 / Attainment Objectives

- ・言論・表現の自由と公共圏の変容が理解できる
- ・現代的市民社会の成立の過程でのメディア・アクセスの実践的な歴史を知る
- ・アメリカ型/ヨーロッパ型/アジア型のパブリック・アクセスの比較する
- ・日本の市民メディアの現況と課題を理解する

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

ジャーナリズムの歴史や現代的な課題
世界の近代史
市民社会論

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	なぜパブリック・アクセスか	市民社会、マスメディアの機能と役割、3極構造
2	パブリック・フォーラムの成立と変質	プレス自由、古典的自由論、公共圏の変質、社会的責任論
3	反論する権利	松元サリン事件、記者クラブ、反論権
4	人権侵害と名誉回復	メディア操作、捏造、メディアスクラム
5	メディア規制のルールと現状	メディア関連法、苦情処理、第三者機関、BPO
6	アクセス権の拡大	アクセス権、パロン、フェアネスドクトリン
7	北米のパブリック・アクセス(1)制度	パブリック・アクセス・チャンネル、アクセスセンター、
8	北米のパブリック・アクセス(2)背景と課題	ケーブルテレビ、コミュニティ、変革への挑戦、多文化主義
9	ヨーロッパのオープン・チャンネル(1)	グローバル化、ドイツ多元主義、オープンチャンネル
10	ヨーロッパのオープン・チャンネル(2)	オランダNOS、海賊放送、市民放送、自由テレビ
11	韓国のパブリック・アクセス	民主化運動、KBS改革、デジタル化
12	日本のさまざまなパブリック・アクセス番組	中海テレビ、NPO放送局、市民メディア協議会
13	パブリック・アクセスの現場から(1)	
14	パブリック・アクセスの現場から(2)	
15	パブリック・アクセスの課題と政策	放送制度、編集権、技術移転、中間組織

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	70 %	
平常点(日常的)	30 %	

* 適宜実施する小テストおよび期末テストによる。受講生自身のメディアへの積極的なアクセス実践や、具体的な事例の研究・調査の発表やレポートなども高く評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

この講義は主にメディアへのアクセスの理論、自ら表現する思想や実践を学ぶものであることから、日頃から「市民とメディアの関係」に積極的に関心をもち、メディアに働きかける習慣を持つようになると、実践的な理解が深まる。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
新版 パブリック・アクセスを学ぶ人のために	津田正夫・平塚千尋編 / 世界思想社 / 生協扱い

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
メディア・アクセスとNPO	津田正夫 / リベルタ出版 / /
アクセス権とは何か	堀部政男 / 岩波新書 / /
市民メディア論	松野良一 / ナカニシヤ出版 / /
新版・地域メディア	竹内郁郎・田村紀雄編 / 日本評論社 / /
新版・ジャーナリズムを学ぶ人のために	田村紀雄編 / 世界思想社 / /
表現する市民たち	児島和人 / NHK出版 / /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

<http://www.tcc117.org/fmyy/>
<http://www.medekiku.jp/gwtv/kanagawa.shtml>
<http://radiocafe.jp/>
<http://www.janjan.jp/link/sogo/media/alternative.php#kyoto>

その他 / Others

バリアフリー論 S

13068

担当者名 / Instructor 斎藤 正一

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

バリアフリーという言葉は、最近いろいろなところで耳にします。バリアフリー住宅にバリアフリー施設。バリアフリーがもっと一般化してユニバーサルデザインと各種商品にも記載され登場しています。しかし本当のバリアーとは一体何でしょう。私は、日々職業柄考えさせられることがあります。

バリアフリーには、物の障害だけではなく身体・精神・環境・施設・人・経済といったように様々なバリアーが存在します。講師は、現在も病院で実際に体の不自由な方と共に機能回復の援助を行う理学療法士です。また講師自身視覚障害(先天性弱視)を持っています。仕事では昨年法人内移動で職場が南区の病院に変わりました。これまでになかった貧困というバリアーを現場から経験しました。日々現場で感じてきた各種の問題、自分自身が体験してきたことを学生諸子にも知っていただき今後社会に出て何らかの役に立てていただければと考えています。

到達目標 / Attainment Objectives

- 1: 各種のバリアフリーをいろいろな角度から知る
- 2: バリアーが影響するその実態を自分の身体で心で感じ取る
- 3: 障害の実際を知る

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

基本的に何も知らなくても良いと思いますがもし知っているなら
医学・建築・社会福祉制度

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1講義	導入 バリアフリー論について 講義の概要	バリアフリー リハビリテーション 障害受容 PT OT ST
第2～5講義	第一章 身体のバリアフリー 基礎医学 各疾患	筋 骨格系 神経 脳血管障害 脊髄損傷 リウマチ パーキンソン病 高齢者に多い骨折 廃用症候群
第6～7講義	第二章 精神のバリアフリー	認知症 高次脳機能 人の心理
第8講義	第三章 体験	本当の車椅子体験 障害者の気持ち
第9～11講義	第四章 住環境のバリアフリー	住環境 福祉用具
第12～14講義	第五章 人・制度・環境のバリアフリー	地域社会 ボランティア 社会福祉制度 行政機関 民間活力 都市環境 経済環境
第15講義	最終章 障害者の限界 バリアフリーって何だろう	パラリンピック 障害者スポーツ 人間の限界

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	70 %	授業で学んだことを正しく理解できているか評価します。
レポート試験	0 %	課題レポートを指示します
平常点(日常的)	30 %	毎回の授業終了時に授業の感想や自分の考えを記載してもらいます。感想がなく名前だけの者は出席と認めません。

* 定期試験として実施

講義に一度も出席しない方の単位を出す事は不可能です。

基本的に講義をまじめに聞いて頂ければ合格点は取れると思います。

ただ全講義出席していても定期試験で間違った答に点数を出すなどのことは致しません。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

テキストは配布いたしますが基本事項のテキストです。講義の中で講師がお話する事を学生自身で

テキストの余白に記入して完全なテキストにして下さい。

質問の時など、教室の遠くで黙って挙手をしていただいてもおそらく見えないと思います。講師は先天性弱視の視覚障害を持っているためです。

したがって授業中に何か質問や疑問が出たときは、大きな声を出して挙手をしながら起立などして意思表示してください。また授業最後の出席とともに出していただく感想に質問していただいてもかまいません。必ず返答希望の方は、授業終了後直接質問しに来て頂くかメールアドレスに質問していただければお答えできると思います。

教科書 / Textbooks

基本テキストは、毎回講義のときに配布いたします。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
目で見えるリハビリテーションの実際	上田 敏 / 東京大学出版 / /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

<http://yagi.doshisha.ac.jp/bf/guide/guide-top.htm> <車椅子で回れる京都観光ガイド>
<http://www.jaic.or.jp/hyk/index.htm> <ひとにやさしい建築・住宅推進協議会>
<http://www.kansai-fukushi.net/> <関西福祉ネット>
<http://ruazealand.com/html/index.html> <ルアジーランド流山>
<http://www.normanet.ne.jp/~JSCF/SIRYOU/s-seido/s-mokuji.htm> <福祉制度:障害者制度集>
<http://www.hcr.or.jp/> <国際福祉機器展>
<http://www.dinf.ne.jp/doc/japanese/intl/icf/icf.html> <国際生活機能分類>
<http://wwwsoc.nii.ac.jp/jpta/menu.htm> <日本理学療法士協会>
<http://www.jaot.or.jp/> <日本作業療法士協会>
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shisetu/009/toushin/04031903.htm <学校施設バリアフリー化推進指針>
http://www.jsad.or.jp/2004athen/athen_top.htm <日本障害者スポーツ協会>
<http://www.asahi-net.or.jp/~ve9k-nkk/toukyuuhyou.htm> <身体障害者障害程度等級表>
<http://akatan.cool.ne.jp/index.html> <赤の他人のホントのわたし>
<http://www.bfa.gr.jp/> <バリアフリー協会>
<http://members.jcom.home.ne.jp/1653895301/top.html> <バリアフリー住宅>
http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/barrier/mokuji_.html <交通バリアフリー>
http://www.mlit.go.jp/barrierfree/barrierfree_.html <国土交通省のバリアフリー・ユニバーサルデザイン>
<http://www.universal-design.gr.jp/> <ユニバーサルデザインフォーラム>

その他 / Others

比較ジェンダー論 S

15497

担当者名 / Instructor 中川 順子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

男女の「社会的文化的につくられた性差」-ジェンダーによって、個々人の生き方が制約され、その能力の開花を妨げられる状況が依然として存在する。この状況は、日本国内でも、世界的にも、一様ではない。歴史や文化・宗教、国際関係などによって、それぞれの地域では、ジェンダー状況のあり方、すなわちジェンダー秩序の差異があり、それは女性の生きやすさの差異として現れる。先進国間では、比較福祉国家類型論を手がかりとしてジェンダー秩序の差異をとらえる。さらに、東アジアなど周辺化された地域や、女性移民などを射程に入れて、グローバルなジェンダー秩序の編成を考える。

到達目標 / Attainment Objectives

まずは、身の回りの様々な場面をジェンダー状況という視点で見直すことの出来る力量を身につけること。同時に、世界各地についてもその視点を生かした理解の仕方を身につけること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

ジェンダー、家族、福祉国家論などに関連する科目。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	導入・国連にデータにみる各国の女性の地位	ジェンダー・エンパワーメント
2	日本のジェンダー状況	家族・職場・地域における性別分業の固定化状況
3	比較ジェンダー論の考え方	ジェンダー状況・ジェンダー秩序
4	比較ジェンダー論の方法と分析 その1 福祉国家類型論の活用	G. エスピン-アンデルセン、福祉供給の類型とジェンダー
5	比較ジェンダー論の方法と分析 その2 ジェンダー視角からのG. エスピン-アンデルセンの批判的検討	フェミニスト・脱商品化批判・脱家族化
6	比較ジェンダー論の方法と分析 その3 ジェンダー視角からの福祉国家モデル	フェミニスト、男性稼得者モデル・個人モデル
7	欧米諸国のジェンダー秩序 その1	北欧・社会民主主義レジーム・ノルウェー
8	欧米諸国のジェンダー秩序 その2	大陸ヨーロッパ・ドイツ
9	欧米諸国のジェンダー秩序その3	自由主義レジーム・アメリカ
10	グローバリゼーションと国際ジェンダー関係	マリア・ミース・主婦化・不可視な労働
11	後発国家とジェンダー その1	開発とジェンダー・キャロライン・モーザー
12	後発国家とジェンダー その2	福祉国家の東アジアモデルとジェンダー
13	後発国家とジェンダーその3	経済格差・女性輸出
14	福祉国家と移民女性	ノルウェー・福祉国家の底辺労働
15	まとめー日本社会のジェンダー状況ー	少子化・働きかたの見直し・男女共同参画社会

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

講義で紹介する文献・サイトを積極的に活用して理解を深めて欲しい。時事的要素もあるので新聞に目を通して欲しい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	論述試験。講義内容の理解度を総合的に判断。
小レポートを数回行う、理解度の確認などコミュニケーション・ペーパーとして活用する。		

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

講義の進捗状況によって、講義日程と内容に変更を加えることがある。

教科書 / Textbooks

テキストは使用しない。

参考書 / Reference Books

参考文献・資料等は、講義において適宜紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

講義において適宜紹介する。

その他 / Others

私語・飲食は慎んでほしい。

比較スポーツ論 S

15498

担当者名 / Instructor 金井 淳二

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

『スポーツに込められた社会の思い = いかにしてスポーツは生み出され展開されてきたか』

様々な国で様々な展開されるスポーツは、それぞれかつてに生み出されてきたのではない。自国から生みだしたにせよ、また他国から受け入れてきたにせよ、それぞれの時代的背景がある。そのことが、スポーツに独特な思想と制度を付与させていくことになる。英・米・日のスポーツについて、その競技形態・ルールや規範・組織機構などを、そのスポーツを生み出した社会・経済的背景とあわせて比較し、今後のスポーツ受け入れ・交流のあり方を考えていく。

到達目標 / Attainment Objectives

この授業の中で、まず自分なりの問題意識を発見することが必要です。そして、比較を通じてどう違うかだけでなくなぜ違うかが考えられるようになることが必要です。最終的には「スポーツとはこういうものだ」といった自分なりのスポーツ観を明確にもてるようになることをめざします。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

産業社会学部に開講されているスポーツ関連専門科目をできるだけ多く受講し、それらと関連づけて学習してほしい。少なくとも教養科目のスポーツ方法論やスポーツと現代社会、およびスポーツの歴史と発展を履修していることが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	比較スポーツの視角	脱工業化社会 / 文化の比較法 / 比較の枠組み
第2回	近代オリンピックスポーツ比較の課題	巨大化 / 商業化 / アマチュアリズム / プロ化
第3回	スポーツの母国イギリス(その1)	市民革命とブルジョアジー / 資本主義と民衆スポーツ
第4回	スポーツの母国イギリス(その2)	近代スポーツの階級性 / スポーツの私事性と公共性
第5回	スポーツの母国イギリス(その3)	大衆化と高度化の矛盾 / 近代オリンピック
第6回	スポーツの母国イギリス(まとめ)	
第7回	スポーツの王国アメリカ(その1)	植民地時代 / プロテスタンティズム
第8回	スポーツの王国アメリカ(その2)	南北戦争 / 過剰労働力 / 能力主義
第9回	スポーツの王国アメリカ(その3)	アメリカ的スポーツ / ローカリズムとナショナリズム / アメリカ主義
第10回	スポーツの王国アメリカ(まとめ)	
第11回	日本のスポーツ(その1)	英米スポーツの日本的受容 / 学校教育とスポーツ /
第12回	日本的スポーツ(その2)	農耕祭祀 / 封建権力 / 武術と武道
第13回	日本的スポーツ(その3)	スポーツにおける日本的なもの / 日本的スポーツの国際化
第14回	日本的スポーツ(まとめ)	
第15回	グローバル化の中のスポーツ	歴史的スポーツ / 法則性と蓋然性

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

スポーツ学は学際的であるので、授業の中で関係があるなどと思ったらスポーツ関係の書籍だけでなく、歴史・経済・文化その他の書籍を幅広く読み、理解を深めてほしい。また、新聞のスポーツ欄ばかりでなく政治や経済・文化欄にも常日頃から目を向けておいてほしい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	基本的な述語の理解を軸にして授業内容全体の理解度および独自の考察視点の有無を重視する。

クラス規模によっては毎回授業内容についてのコメントを提出してもらうことがある。その場合は記述内容をプラスアルファとして評価に反映させる。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

教室でレジメ・資料を配布する。とくにテキストとするものは使用しない。

参考書 / Reference Books

参考文献は授業の中で紹介して行く。とりあえず、創文企画から出版されている“スポーツ文化シリーズ”のいくつかを読んで欲しい。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

比較家族論 S

20269

担当者名 / Instructor 鈴木 未来

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

家族にかかわる事件や話題を耳にすると、家族のあり方に問題があるとは思えるものの、その問題の特徴となるような個々の事件や話題の共通点を見出すことが難しい状況となってきている。この授業では、これまでの家族の論じられ方をふまえたうえで、現代日本と現代中国の家族生活の実態の比較を通じて、家族のあり方の何がどこまで変わってきているのか、あるいは変わらず残り続けているのかを捉えていく。その上で、変わらず残り続けているもののひとつとされる家父長制の現代的な意味を探りながら、今日の家族問題の共通点を明らかにしていきたい。

到達目標 / Attainment Objectives

家族の国際比較(日本と中国)を通じて、家族のかたちが似ているようでも社会状況によってその営みの意味が異なることもありえること、また社会状況が異なっても特定の家族のあり方が維持されることがありえること、といった家族を動きのあるものとして捉える力を養う。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

家族社会学

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	イントロダクション	核家族論 家族多様化論
第2回	家族の論じられ方あれこれ	家族不要論 家族解体論
第3回	現代日本の家族論の展開(1)	民主化
第4回	現代日本の家族論の展開(2)	経済成長
第5回	現代日本の家族論の展開(3)	豊かさ
第6回	改革開放と現代中国の家族論(1)	婚姻法
第7回	改革開放と現代中国の家族論(2)	一人っ子政策
第8回	女性と家族をめぐる日中比較(1)	子育て
第9回	女性と家族をめぐる日中比較(2)	高齢者扶養
第10回	家族生活と主婦(1)	主婦論争
第11回	家族生活と主婦(2)	女性を家庭に論争
第12回	姓と家族(1)	家制度
第13回	姓と家族(2)	宗族
第14回	日本と中国との家父長制比較(1)	
第15回	日本と中国との家父長制比較(2)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

家族に関する講義科目(家族社会学など)もあわせて履修することが望まれる

教科書 / Textbooks

使用しない。授業時にプリントを配布する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
変貌するアジアの家族 比較・文化・ジェンダー	山中美由紀編/昭和堂/4-8122-0405-4/
アジアの家族とジェンダー	落合恵美子他編/勁草書房/978-4-326-64874-0/
東アジアの家父長制-ジェンダーの比較社会学	東アジアの家父長制-ジェンダーの比較社会学/勁草書房/978-4-326-6519-4-8/

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

比較市民教育論 S

20328

担当者名 / Instructor 森田 真樹、角田 将士

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本授業では、日本の明治期から現代までの各時期における市民教育の特質を概観するとともに、諸外国の事例としてアメリカ合衆国、イギリス、アジア諸国を取り上げ、各国における市民教育の特質を概観し、現代社会における市民教育の特質や課題を探求していく。

到達目標 / Attainment Objectives

日本、アメリカ合衆国、イギリス、アジア諸国における市民教育の特質と課題を説明することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

とくになし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の目的と方法及び導入 (森田・角田)	
2	日本における市民教育(1)－近代学校の成立－ (角田)	
3	日本における市民教育(2)－近代化の推進と教育勅語体制－ (角田)	
4	日本における市民教育(3)－教育の軍国主義化－ (角田)	
5	日本における市民教育(4)－戦後教育改革－ (角田)	
6	日本における市民教育(5)－教育の保守化と高度経済成長－ (角田)	
7	日本における市民教育(6)－現代社会のなかの教育－ (角田)	
8	日本における市民教育(7)－授業のまとめとテスト－ (角田)	
9	諸外国における市民教育(1)－アメリカ合衆国の場合1－ (森田)	
10	諸外国における市民教育(2)－アメリカ合衆国の場合2－ (森田)	
11	諸外国における市民教育(3)－アメリカ合衆国の場合3－ (森田)	
12	諸外国における市民教育(4)－イギリスの場合－ (森田)	
13	諸外国における市民教育(5)－アジア諸国の場合－ (森田)	
14	諸外国における市民教育(6)－21世紀の市民教育をめぐる動向－ (森田)	
15	諸外国における市民教育(7)－授業のまとめとテスト－ (森田)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

問題意識を持って臨むこと。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(検証テスト)	70 %	各担当者の内容ごとに8回目(角田担当分)15回目(森田担当分)に実施する。
平常点(日常的)	30 %	出席及びコメントペーパーによる。
出席及びコメントペーパーについては複数回、不定期を予定。		

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

受講生同士のディスカッションなども行うので、まずは出席すること。

教科書 / Textbooks

授業内容に応じたレジュメを配布する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title

日本教育小史

世界のシティズンシップ教育

これ以外は、授業の中で適宜指示をする。

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

山住正己 / 岩波書店 / /

嶺井明子編 / 東信堂 / /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

比較宗教論 S

13134

担当者名 / Instructor 高木 正朗

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

人間の普遍的行為(生き、他者を愛し、死を迎える)への対処法を、比較宗教の視点で通文化的に理解し、その価値を他者と共有できる。

到達目標 / Attainment Objectives

人間はだれでも、有為転変するこの世間で、軽蔑をうけ不安のなかで生きるよりも、誇りと自信をもって生きるほうが、よほど快適である。そのため「知恵」は、人類が長期にかけて蓄積してきたので、われわれはそれを古典から容易に入手できる。世界の宗教・思想が定式化した知恵を素材とすれば、個として「現在を生きる力」を内面化できる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	講義の概要と導入 / 宗教とは何か? それは役にたつのか?	文化圏とエートス、セクト、支配の諸類型、3つの徳性(合理・論理・倫理性)
2	中国・東アジア文化圏の宗教(1): 氏族と「個」の葛藤(1)	「論語」の世界: 孔子「仁=博愛」の発見、魯迅「阿Q正伝」、師弟関係、葬儀
3	中国・東アジア文化圏の宗教(2): 氏族と「個」の葛藤(2)	「孟子」の世界: 4端説、孝道にみる「古代的心性」、宗法と国法
4	中国・東アジア文化圏の宗教(3) アジア的知識人と隠遁	「老子」「荘子」の世界: 玄牝、無為自然、混沌・幽玄、「胡蝶の夢」、逃げるが勝ち
5	中国・東アジア文化圏の宗教(4): 血の連帯、「社会」と「個人」の欠如	◎VTR『土楼の生活』+[小ペーパー+communication paper]
6	インド・ヒンドゥー文化圏(1): 民族移動と哲学創成	ウパニシャッドの世界: アーリア人(「リグ・ヴェーダ賛歌」)、アートマンとブラフマン、バラモン
7	インド・ヒンドゥー文化圏(2): 民族移動と言葉の誕生(印欧語族とノストラ祖語)	◎VTR『言語の起源』(印欧語族を中心に)
8	インド・ヒンドゥー文化圏(3): ダルマ・アルタ・カーマ	「マヌの法典」の世界: 人生の5周期、euthanasia、疎林と錬行、マヌ法典の女性
9	インド・ヒンドゥー文化圏(4): 出家とニルバーナ(1)	ブディズムの世界: 釈迦「苦の発見」、諸学習合、密林と輪廻転生、日本仏教
10	インド・ヒンドゥー文化圏(5): 出家とニルバーナ(2)	◎VTR『ブッダの生涯』(バラモン、ヒンドゥー教との相違)+[小ペーパー+communication paper]
11	ユダヤ・キリスト教文化圏(1): 部族宗教の論理	「旧約聖書」(映画「ユダ・ベンハー」)の世界: モーセ、十戒、「罪の発見」(I)
12	ユダヤ・キリスト教文化圏(2): 「世界宗教」の論理(1)	「新約聖書」(映画「パッション」)の世界: ユダヤ教の隘路とキリスト教、「罪の発見」(II)
13	ユダヤ・キリスト教文化圏(3): 「世界宗教」の論理(2)	「新約聖書」(映画「オリバー・ツイスト」)の世界: キリスト教の隘路、ユダヤ問題(ディアスポラ)
14	ユダヤ・キリスト教文化圏(4): 「世界宗教」の論理(3)	◎VTR『イエスの生涯』(キリスト教の起源)+[小ペーパー+communication paper]
15	検証テスト(60分)と解説(30分)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(検証テスト)	70 %	筆記。論述による回答を以下の3点で評価。1)設問に対する論旨の妥当性、2)自分のことばで記述、3)丁寧な文字で記述。
平常点(日常的)	30 %	授業スケジュールの節目毎に小ペーパーを3回程度提出・それを評価。

授業進行その他の理由で小ペーパー日に変更が生じる時は、事前に教室でアナウンス、また本オンライン・シラバス中の「授業スケジュール」に掲示。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

上記「授業スケジュール」に挙げた映画、小説、エッセイ、古典。1つでもみておくことを勧めます。

教科書 / Textbooks

使用しない。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
思想をどうとらえるか—比較思想の道標—	中村元 / 東京書籍 / 4-487-72157-1 / 世界思想の核心をわかりやすく解説
孔子・老子・釈迦「三聖対談」	諸橋轍次 / 講談社学術文庫 / 4-06-158574-6 / 東アジアの比較宗教を論じた名著
ヨーガ禅道話	佐保田鶴治 / 人文書院 / 4-409-41008-3 / 仏教・ヒンドゥー思想の血肉化の一典型を示す著書
福音書	塚本虎治訳 / 岩波文庫 / 4-00-338031-2 / イエス・キリストの行動記録(生涯がわかる)

その他は「授業スケジュール」に挙げた映画、小説、エッセー、古典。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

用語、その概念などは「世界宗教大事典」で確認するとよい(yahoo, googleによるキーワード検索は、あくまで第1次情報と理解、辞書・辞典類に依拠すること)。

その他 / Others

◎VTRは、上記より適切なものがあれば、事前に予告の上変更することがある。

配布レジュメは、①教室で当該日分と前回分とを配布(残りは、受講者の集中力をkeepする必要上、教室の後部入り口廊下のテーブルに置く)、②各回のレジュメ残紙は、第14回目に4回生に優先的に取得していただく(20080524)。

担当者名 / Instructor 國廣 敏文

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

人類はこれまで様々な政治制度や体制を経験してきた。だがこれまでに試みられてきたどの政治制度も、飢餓や貧困、紛争や差別、エネルギー・食料問題など、人々の生活を十全な形で、平和で公平で安定したものとするには成功していない。本講義は、こうした状況を踏まえ、主要先進国の政治システムの構造・機能・動態を相互に比較・考察することによって各国政治の特質と問題点を抽出し、21世紀に相応しい政治の在り方＝“新しい政治”の在り方を模索することを目的とする。その際、何よりも事実に基づく分析によって、各国政治に関する正確で具体的な知識の取得とそれらを昇華させた形で日本政治改革への視点を得ることも視野に入れたい。

到達目標 / Attainment Objectives

- ・比較政治の方法と意義を理解する。
- ・それらを踏まえ、各国政治の歴史と特質を知る。
- ・自分の国ならびに社会の諸問題を考える視点と材料を発見する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

グローバルな視点から国家と社会を見るために、「現代政治論」をあわせて履修することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	I. 比較政治学の方法	歴史—アリストテレス、モンテスキュー、アロン— 比較政治学
第2回	比較政治学の現代的アプローチ—歴史と構造—	現代の比較政治学の方法と課題
第3回	比較の指標	比較政治の指標
第4回	II. 各国政治の制度的特質と現状—憲法、中央・地方自治、改革の現状	アメリカ合衆国建国の歴史と憲法の特質 連邦主義と立憲主義
第5回	アメリカ合衆国の政治—大統領制—	現代アメリカ合衆国の政治
第6回	カナダ政治の歴史と特質	カナダ政治
第7回	イギリスの建国と歴史	イギリス政治
第8回	イギリスの政治—議院内閣制—	議院内閣制
第9回	フランス建国の歴史	フランス政治
第10回	フランスの政治—半大統領制—	半大統領制
第11回	ドイツ建国の歴史	ドイツ
第12回	ドイツ政治の歴史と特質	ドイツ政治
第13回	イタリア政治の歴史と特質	イタリア政治
第14回	ヨーロッパ小国の政治	スイス、ベルギー、オランダ
第15回	III. まとめ—各国政治の歴史と特質の概括—	新しい政治の在り方を求めて—日本の課題— 日本政治の課題

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

普段から新聞やニュース、各国のHPに目配りしておくこと。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	70 %	講義の内容への理解度と学習の到達度を確認する
レポート試験	20 %	講義内容に関わるレポート、あるいは特定のテーマでのレポート課題を課す
平常点(日常的)	10 %	出席点を加味する

* 定期試験として実施 成績評価＝単位認定は、 Semester 終了時の論述試験を中心としつつ、レポートと出席点も加味して総合的に判定する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

内容が盛りだくさんなので、授業のスピードは速い。したがって、テキストを事前に読んでおくこと、授業終了後には、得た知識や視点を振り返って、更なる学習をすることが望ましい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『新版 比較政治制度論』	田口富久治・中谷義和編 / 法律文化社 / /

授業に際してレジュメを配布するとともに、参考文献等を適宜紹介するので、事前・事後の学習に役立てて欲しい。

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業の際に紹介する。

その他 / Others

「私語」は、自の学習権の放棄であると同時に、他人のそのの侵害であるので、厳禁する。

授業の概要 / Course Outline

「恥の比較民族論-日本文化論とネパール先住民族の文化論-」

近年、日常の様々な場面で「恥じ知らず」な行為が目につく、日本人は「恥の感覚」を失った、といった論調が新聞等で目立つようになった。そして、日本人は文化人類学者によって「恥の文化」を持つとされたが一体どうしてしまったのか、とか、「恥の文化」の再生は今日の日本の課題である、といった議論がしばしばそれらに続く。確かに人間関係に関わる「恥」は社会にとって重要な問題である。だが、日本文化は「恥の文化」と言えるのか、そもそも「恥」とは何か、という検討は、十分になされているとは言い難い。

一方「恥の文化」を持つのは日本人だけではない。ネパールやインドにも「恥の民族」とされる人びとがあり、それらの文化も今日大きく変容を遂げつつある、とされる。

本講義では、「恥の文化」を中心に日本文化論、ネパールの民族文化論を取り上げ、その比較検討を行いながら「恥の民族論」の根底を問い直していく。また、その他の「恥」に関わる議論も幅広く取り上げながら、「恥」の現代性や民族文化論にとっての「恥」について考察する。

到達目標 / Attainment Objectives

- ・文化を比較することの問題と可能性を理解する。
- ・日本文化論やネパール社会論の基本的知識を身につける。
- ・個別文化の理解や記述といった民族誌的な課題を理解する。
- ・文化人類学の理論と倫理との関わりを理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本講義では、「恥」の文化について論じながら、文化人類学における国民性研究、文化相対主義、権力・イデオロギー論、近代論といった理論的立場に焦点を当てる。文化人類学や文化研究に馴染みのない学生には、あらかじめ「文化人類学入門」、「文化人類学S」、「エスニシティ論」を履修しておくことを勧めたい。また、本講義の履修後でも、それらの受講により、文化人類学の広範な議論を俯瞰し、そのなかに本講義を位置づけることが可能になる。履修を勧めたい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	「恥」をめぐる今日の課題	恥、現代社会、日本、ネパール
2	「日本文化論」の祖型を考える1	マルコ・ポーロ、ジャボニスム
3	「日本文化論」の祖型を考える2	100年前の日本
4	国民性研究とその問題	国民性、対称型
5	文化相対主義とその問題	文化相対主義、サバルタン
6	「文化の型」とその問題	ディオニソス、アポロン
7	日本文化論を読む1	ベネディクト、菊と刀
8	日本文化論を読む2	中根千枝、タテ社会の人間関係
9	日本文化論を読む3	土居健郎、甘えの構造
10	日本文化論とイデオロギー	イデオロギー、アルチュセール
11	文化のイデオロギーと方法	ベフハルミ、イデオロギーとしての日本文化論
12	ネパール民族誌 1	国家、カースト
13	ネパール民族誌 2	チェバン社会、平等主義
14	「恥」を考える	アウシュヴィッツ、恥、近代
15	確認テスト(60分)と解説(30分)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

授業は、多くの文献を取り上げ、その内容を精査するかたちで進める。文献の原典にあたり、さらに読み込むことで理解を深めて欲しい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(検証テスト)	80 %	授業期間中に講義の内容に関するテストを2回ほどおこなう。 第6回目頃と第15回目に行う予定。
平常点(日常的)	20 %	毎回コミュニケーション・ペーパーを配布。講義への質問を受け付け、課題を出すこともある。講義への参加度を評価する。その他に、数回レポートを課し、採点する。

テストの内容や期日については、授業中に指示するので注意して欲しい。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

下記の参考書の本講義では主に取り上げるが、受講者はそれ以外の日本文化論も各自で探して読んでおくこと。それにより、本講義の議論を応用的に理解することが容易になる。

教科書 / Textbooks

教科書は用いないが、下記の図書のうち前三者は入手しやすいので、できれば購入し参考にして欲しい。

参考書 / Reference Books

<u>書名 / Title</u>	<u>出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment</u>
菊と刀	ベネディクト R. / 講談社 / 日本文化を恥の文化とした古典
タテ社会の人間関係	中根千枝 / 講談社 / 日本社会をタテ社会とした論攷
甘えの構造	土居健郎 / 弘文堂 / 日本文化の根本に甘えがあるとした論攷
イデオロギーとしての日本文化論	ハルミ・ベフ / 思想の科学社 / 日本文化論全般についての批判的検討
アウシュヴィッツの残りもの	アガンベン G. / 月曜社 / 恥についての論攷を含む

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference**その他 / Others**

表現の自由論 S

15520

担当者名 / Instructor 白石 憲二

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「表現の自由」は近代社会を開き、発展させてきた基本的な理念の一つで、憲法でも保障されている。しかし、高度情報化社会の進展にともなう「表現の自由」に派生するマスメディアが担う「報道の自由」に対する市民からのまなざしは厳しくなり、ネットでの「匿名情報」の氾濫など負の側面も強調されるようになってきている。表現の自由と、プライバシーなど他の人権とどう調和させていくか。新聞、電波、電子、マスメディアの世界で起きている「表現の自由」にかかわる諸問題をてがかりに、広く市民社会の表現活動の状況を点検し、あるべき表現方法とそれを実現していくための条件を考察していく。

到達目標 / Attainment Objectives

「表現の自由」をめぐる対立、トラブルで問題の本質をとらえ、双方の利害対立を整理したうえで、一定の解決策を提案できる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	はじめに～講義の進め方と評価について総論	憲法21条
第2回	いま、世界の「表現の自由度」は	ランキング
第3回	「表現の自由」を求めて	弾圧
第4回	プレスコード「抑えられた原爆報道」	検閲
第5回	言論テロとの闘い「横浜事件」	自白
第6回	言論テロとの闘い「朝日新聞阪神支局襲撃事件」	時効
第7回	取材の自由とその制約①～取材源の秘匿	逮捕
第8回	取材の自由とその制約②～取材資料の目的外使用	押収
第9回	取材の自由とその制約③～公務員の守秘義務とのかかわり	密約
第10回	表現の自由への規制	ビラ配り
第11回	メディア規制～個人除法保護法	匿名
第12回	メディア規制～有事法制	指定機関
第13回	ネット情報の氾濫と規制	炎上
第14回	名誉毀損訴訟の変遷	高額化

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	70 %	課題についての理解度、論旨の構成や説得力を重視する。
平常点(日常的)	30 %	毎回のコミュニケーションペーパー、数回のミニレポートで、理解度をはかる。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

必要に応じてレジュメ・資料を用意する。ビデオを使用することもある

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
言論の不自由	朝日新聞社会部編／径(こみち)書房／
新聞社襲撃	116号事件取材班／岩波書店／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

表象文化論 S § 芸術表現論 S

15600

担当者名 / Instructor 仲間 裕子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

美術作品にどのように時代の観察者の眼が反映しているのか。科学的、思想的、政治的な観点から考える。17世紀オランダのリアリズム、近代の自然描写と思想、あるいは断片の世界観、そして政治的な視線の差異などを中心テーマとする。フェルメール、ヘダ、フリードリヒ、アングル、マネ、モネ、セザンヌ、ゴッゲン、ピカソ、ボッチョーニ、モンドリアン、デュシャン、ヘッヒ、ポロック、ボイス、リヒター、キーンラーなど17世紀から現在までの絵画、写真作品、および展覧会を対象として、観察者の立場で作品に向き合う。

到達目標 / Attainment Objectives

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

芸術社会論

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	講義の全体像	観察者、自然、都市、視線の差異
第2回	17世紀オランダ絵画と観察の眼(1)	カメラ・オブスクーラ、植物図鑑、室内画、静物画
第3回	17世紀オランダ絵画と観察の眼(1)	カメラ・オブスクーラ、植物図鑑、室内画、静物画
第4回	自然と観察者(1)	ドイツ・ロマン主義
第5回	自然と観察者(2)	ドイツ・ロマン主義
第6回	芸術における自然観(3)	都市vs田園
第7回	芸術における自然観(4)	20世紀美術
第8回	芸術における自然観(5)	コンテンポラリーアート
第9回	「断片」の美学(1)	フランス近代、印象派
第10回	「断片」の美学(2)	20世紀美術、キュビズム、未来派、新造形主義
第11回	「断片」の美学(3)	フォトモンタージュ
第12回	「自己」と「他者」の視線(1)	プリミティヴ・アート
第13回	「自己」と「他者」の視線(2)	オリエンタリズム、写真、美術
第14回	「自己」と「他者」の視線(3)	展覧会、ドクメンタ、アジアのトリエンナーレ、ビエンナーレ
第15回	確認のテスト	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	80 %	
平常点(日常的)	20 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
観察者の系譜－視覚空間の変容とモダニティ	ジョナサン・クレーリー／以文社／
絵画の政治学	リンダ・ノックリン／彩樹社／
C.D.フリードリヒ、《画家のアトリエからの眺め》－視覚と思考の近代	仲間裕子／三元社／
美術史をつくった女性たち－モダニズムの歩みのなかで	神林恒道・仲間裕子編／勁草書房／
20世紀美術におけるプリミティヴィズム	ウィリアム・ルービン編／淡交社／
<方法>としての人間と文化	佐藤嘉一編／ミネルヴァ書房／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

フィランソロピ論 S

15548

担当者名 / Instructor 松田 弘

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

フィランソロピとは以前は「企業等の慈善活動」や「ボランティア活動」のことでしたが、現在では「企業等の社会的責任」すなわち「CSR論」で語られます。この講義は会社人間OBが語る「現場の企業等の社会的責任論」。現役「淡海フィランソロピネット」設立発起人が担当します。実学の「フィランソロピ論」ですから直近の企業等の実例を駆使して学生諸君と意見を交換します。これから企業等を社会学的に研究しようとする諸君と就活で企業調査したい諸君にも役に立つかもしれません。

到達目標 / Attainment Objectives

- フィランソロピの概念を実学として説明できる。
- 昨今のフィランソロピを歴史的な背景や経緯から論述する。
- フィランソロピからCSRについて言及ができる。
- 資本市場におけるフィランソロピやCSRを社会学的な立場から意見を述べるができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

NPO論とかボランティア論など

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	講義入門編	授業の概要説明。シラバスの確認。
第2回	講義入門編	フィランソロピの単純実例を学ぶ
第3回	講義入門編	さまざまなフィランソロピの事例を探索して。第1回宿題
第4回	基礎編	フィランソロピやメセナの歴史と社是・社訓から学ぶ
第5回	基礎編	事例の検証。第1回宿題のオーデイション
第6回	基礎編	フィランソロピ等の実態統計調査から課題を考察
第7回	中級編	フィランソロピ論とCSR論への展開。CSRメリット。第2回宿題
第8回	中級編	CSRやフィランソロピの具体的な取り組み、NPOと企業等の協働とは
第9回	中級編	企業等のCSR報告書等を研究、攻めのCSR・フィランソロピ。第2回宿題のオーデイション
第10回	応用編	CSR推進ノウハウ、報告書等の課題
第11回	応用編	成功するためのCSR・フィランソロピ推進と診断作業
第12回	専門編	CSR論からSRIを研究。(資本市場からフィランソロピの検証)
第13回	専門編	宿題オーデイション。CSR報告書などの総括
第14回	専門編	資本市場からCSR(フィランソロピ)の現実を考察
第15回	総括(講義到達目標の確認と自己評価)	CSR・フィランソロピの総合評価と定期試験諸注意

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

第3回以降の講義から教科書の予習又は復習が必要になります。講義開始後30分以内の入場を要求します。講義開始30分以降から集中的に質問をすることがあります。不在の学生は遅刻又は欠席と理解することがある。学生からの質問は出席カード又はコミュニケーションペーパーを使用します。質問は講義中に回答するケースと個人的に回答をするケースがあります。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	50 %	基本概念や語句の理解を前提に、現実のフィランソロピやCSRに対する洞察力を試す問題を出す。答案の構成力や論理性を重点評価する。
平常点(日常的)	50 %	講義中3回ほど宿題又は即日レポート課題を出す。その内容評価で平常点評価をする。2/3以上の授業に出席して、指示した宿題やレポートを提出した者のみを成績評価の対象とする。ただし、所謂「出席点」の加点は行わない。

講義中は特に質問をして講義秩序の維持及び、出席確認をすることがある。宿題は所定期限内提出が条件です。宿題提出皆無の学生及び講義出席日数が2/3未満の学生は単位認定はしません。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

実学を基調としますから、就職活動で講義欠席が多い学生は講義辞退を勧告します。時事テーマを多用するから、新聞やメディア報道を常時注意してください。

教科書 / Textbooks

<u>書名 / Title</u>	<u>出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment</u>
よくわかるCSR入門	トーマツCSRグループ / 日本実業出版社 / 534-03918-2 / 在庫確認中

教科書の在庫状況によって教科書を変更することがある。教科書以外の教材は毎回講義で配布する。講義資料(レジュメ)の在庫は1週間前のものを在庫確保しておきます。

参考書 / Reference Books

<u>書名 / Title</u>	<u>出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment</u>
CSR入門	岡本亮二 / 日経文庫 / 4-532-11040-8 / 教科書の代替本かも?
社会責任投資の基礎知識	秋山をね・菱山隆二 / 岩波アクティブ新書 / 4-00-700108-1 /

「CSR入門」は教科書在庫不足であれば使用を予定しています。講義開始直後に指示します。「社会責任投資の基礎知識」は講義後半内容の理解を深めるために役に立ちます。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference**その他 / Others**

宿題の虚偽作成、出席カードに不正があれば、単位認定で処分することがある。

福祉経営論 S

15445

担当者名 / Instructor 廣末 利弥

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

社会保障構造改革のもとで福祉事業が市場化され民間営利企業の参入が著しい。その中において、真に国民の期待に応え、憲法に保障される生活権、生存権に値する福祉事業の運営と経営のあり方を考える。その為に、社会福祉とは何か、社会福祉事業とは何か。福祉施設、事業は誰のため何のために存在するか、について福祉事業の運営と経営の実際から学びながら、21世紀の社会福祉の運営と経営のあるべき姿や方向性を見出すことを目的とする。

到達目標 / Attainment Objectives

社会福祉、社会福祉事業の役割と使命を理解する。その上で、公的責任のもとでの福祉事業と市場化された事業運営と経営の実態を学びながら、権利としての福祉事業とそれを担う非営利である社会福祉法人としての運営、経営のあり方と役割使命について理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

事前学習としては社会保障論や各種の福祉制度及び社会福祉法を学習しておくこと。また、できれば社会福祉の現場に赴く機会をもって、福祉援助の実際を体験しておくことが望ましい。その上で、経営ということについては学生時代には現実的イメージが困難と思われるので、講義を聴いて考える力を養うことを重視している。したがって、欠席のないように努めること。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	総括的導入講義	自己紹介、授業計画
2	福祉経営を学ぶ視点	福祉とは、経営とはなにか。
3	社会福祉の理念	社会福祉の歴史、福祉実践の到達と課題
4	老人福祉法と権利	老人福祉法の理念と各種施策の実際及び課題を理解
5	社会福祉法	社会福祉の概要と社会福祉事業
6	社会福祉法人	社会福祉法人の概要、設立、定款
7	社会福祉法人の設立と運営	資産、役員、運営原則、事前規制、監査など
8	福祉事業における財源	措置制度と措置費の仕組み
9	措置制度における福祉事業運営	基本的な要項及び加算等財源構成
10	保険制度のもとでの経営	介護保険制度の概要と仕組み
11	市場化のもとでの福祉経営	収入の仕組みと経営維持のために
12	民間営利企業の参入と福祉現場	規制緩和、福祉と営利をどうみるか、経営の実態
13	経営管理と福祉労働	従事者をとりまく法的整備と給与実態、経営管理との狭間で
14	福祉労働の専門性	福祉労働とはなにか、福祉に働くものの誇りと情熱そして身分保障
15	社会福祉法人のアイデンティティ	社会福祉法人の役割使命とこれからの姿を求めて

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

できれば、福祉にかかる事業所(福祉施設等)を見学しておくことが望ましい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	40 %	社会福祉にかかる知識、役割にかかる理解度、事業運営、経営にかかる知識と問題意識を中心とする
平常点(日常的)	60 %	出席40%、コミュニケーションペーパーによる意見、問題意識の明確化20%

講義をよく聴くことで、福祉の実際やあり様を考える力を身につけることができると考えるため、出席を重視している。出席が6割を切るると絶対的に及第としない。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

福祉を理解し、学ぶということは、知識も大切であるが対人援助事業をとおして行われる専門性豊かな援助実践を理解することが大切である。したがって、人を理解し自らの人間性を高めること、人と社会を見つめる確かな目を養うように研鑽することが大切である。

教科書 / Textbooks

毎回、レジュメ、資料を提供する

参考書 / Reference Books

書名 / Title

社会福祉辞典

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

同編集委員会 / 大月書店 / 4-272-36040-x /

民間社会福祉事業と公的責任

福祉労働福祉経営共同研究所／かもがわ出版／4-87699-731-4／

転換期の社会福祉事業と経営

石倉康次／かもがわ出版／4-87699-651-2／

福祉の公的責任と社会福祉法人のあり方に関
する中間のまとめ

同検討会／同検討会／なし／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

担当者名 / Instructor 岡田 まり

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本講義は、ソーシャルワーク論の続編である。ミクロレベルでの実践(個人、家族、グループへの支援)の意義と方法を踏まえたうえで、プログラムを開発したり、地域社会によりよい変化をもたらすマクロレベルでの実践において重要となる計画に焦点をあてる。実際の計画を例として取り上げながら、計画の意義と目的について理解できるようにするとともに、モデルや理論に基づいて計画策定を行うための基礎的な知識と技術を習得することをめざす。そして、生活問題の解決・発生予防のためには、さまざまなレベルでの取り組みが必要であることを認識し、状況に応じて適切な援助技術を選んで活用する力をつけたい。

到達目標 / Attainment Objectives

- ・計画の意義と重要性について自分の言葉で説明できる。
- ・計画策定・実施・評価のプロセスと方法およびその留意点について説明できる。
- ・行政や民間団体が策定した計画およびその実施について、短所と長所を指摘できる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

ソーシャルワーク論を事前に履修しておくことが望ましい。また、社会福祉士課程の指定科目をできるだけ履修しておくことが、本科目での理解を深めるのに役立つ。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	ソーシャルワークのマクロレベルでの実践とは	プログラム開発、地域介入
第2回	計画とは①	意義と目的、プロセス
第3回	計画とは②	ゴールドプラン、エンゼルプラン、障害者プラン、高齢者保健福祉計画、地域福祉計画
第4回	計画のモデル	PRECEDE-PROCEED モデル、MIDORI モデル
第5回	アセスメント①	生活の質、生活課題
第6回	アセスメント②	行動、環境
第7回	アセスメント③	準備因子
第8回	アセスメント④	強化因子、実現因子
第9回	アセスメント⑤	組織、プログラム、政策
第10回	計画策定	実施主体、対象、目標と課題、内容、予算
第11回	計画実施	計画実施の留意点、モニタリング
第12回	評価	経過評価、影響評価、結果評価
第13回	計画策定の実際	住民参画、行政の役割、専門職の役割
第14回	自分の町の計画	社会資源、市町村
第15回	確認テスト(60分)と解説(30分)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

授業前に指定の文献・HPを必ず読んでくること。授業は、受講生がそれらを読んだことを前提として行う。

課題レポートは、受講生が生活する地域について、①地域の概要、②関心のある福祉領域に関する社会資源、③地方自治体が行っている計画についての批評、の3点をまとめたものであり、その作成のためには役所や図書館などを訪問する必要がある。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(検証テスト)	60 %	各回で取り上げた内容について理解し、自分の言葉で説明することができるか、また、それらの内容を実際に活用できるかを評価する。
平常点(日常的)	40 %	課題レポートおよびコミュニケーション・ペーパーをとおして、理解が深まっているか確認する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

授業では、講義だけでなくグループ演習も行うので、主体的な参加が重要。

教科書 / Textbooks

授業時にレジュメを配布する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
実践ヘルスプロモーション:PRECEDE-PROCEEDモデルによる企画と評価	ローレンス W.グリーン・マーシャルW.クワイター著、神馬征峰訳/医学書院/4-260-00171-X/本書より参考となる部分をコピーして配布する予定。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

日本社会福祉士会 <http://www.jacsw.or.jp/>
国際ソーシャルワーカー連盟 <http://www1.ifsw.org/>
厚生労働省 <http://www.mhlw.go.jp/>

その他 / Others

福祉行財政論 S

15510

担当者名 / Instructor 山本 隆

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

福祉行財政について、ローカルガバナンスという視点から講述する。ガバナンスとは政府機構、市場経済、市民社会のあり方を問い返し、それらの役割を再規定し、各セクターの協働により、社会経済における自律的な問題解決領域を増やそうとする考えである。今、ローカルガバナンスの動きとして、分権的な福祉の取り組みが各地で展開されている。本講では地域の視点から、福祉国家、自治体の政策、民間福祉の役割等を学習していく。

到達目標 / Attainment Objectives

福祉財政の実務と理論をともに理解する。社会福祉政策と財政との関係を理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

社会福祉政策論、社会保障論、社会福祉原論、地域福祉論

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	グローバル化と福祉国家の変容	経済のグローバル化、福祉国家、社会保障、福祉の市場化
2	ローカルガバナンスとは何か	統治、自治、ガバナンス、多層型ガバナンス、ローカルガバナンス
1	日本におけるローカルガバナンスの状況	三位一体、法定受託事務、自治事務
1	イギリスにおけるローカルガバナンスの状況	ニューパブリックマネジメント、準市場、ジョイニングアップ、パートナーシップ
2	スウェーデンにおけるローカルガバナンスの状況	分権と自治、コミュニティ、共同性
1	アメリカにおけるローカルガバナンスの状況	連邦国家、ディロン・ルール、成長志向
2	日本の介護保険制度	改正介護保険、保険者の機能、サービスと保険料の市町村格差
1	イギリスの介護保障の検証 — 準市場の検証 —	コミッションング、購入、契約
1	地域福祉、地域福祉計画、福祉コミュニティ	コミュニティワーク、社会福祉協議会、自治会、民生委員
1	イギリスの地域再生とソーシャルインクルージョン	社会的排除、社会的排除ユニット、地域戦略パートナーシップ
1	福祉とシティズンシップ	福祉権、シティズンシップ、エンパワメント
1	公共性基準を求めて	地方政体の分化、新しい政府間主義、ソーシャルコーリティ

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	50 %	
レポート試験	50 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

厚生労働白書を読んで、受講してください。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
ローカルガバナンス — 社会福祉政策と協治の戦略 —	山本隆 / ミネルヴァ書房 / /

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
厚生労働白書	///

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

福祉産業論 S

13032

担当者名 / Instructor 今井 久人

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

福祉産業論と一口に言っても、現状を見る限り自動車産業や鉄鋼産業などの天下国家を支えるほど巨大なものではない。また、明確な共通イメージがあるわけでもない。一般的なイメージでは保健・医療・福祉など日常生活部面で提供されているサービスが多く見られるところである。少子高齢社会の到来とともに保健・医療・福祉など、それぞれの分野で市場が形成また拡大されつつあり、今後のこれらの分野の成長が見込まれることから既存産業からの参入が図られているところである。本講義では、その現状を見ながらこの分野の将来性とその成長が市民生活の支援等にどう寄与するかを見る。

到達目標 / Attainment Objectives

保健・医療・福祉といった生活関連産業のそれぞれの分野の特徴や具体的な事業展開例から、福祉産業を俯瞰的に広く理解するレベルに達すること。さらにその理解の上になら、今後、社会人として生活の様々な場面で利用するであろう保健・医療・福祉などのサービスを、供給側・受給側など視点を変えながら、その抱える諸課題や産業としての発展性や可能性を探るレベルまでに高めること。

(若い学生諸君にはまだそれぞれのサービスの利用は身近なものではないが、関心を持つことによりその公的・私的なサービスを消費者として理解するような学習態度を期待する)

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

基本的に社会福祉論、老人福祉論、障害者福祉論、児童福祉論などを履修していることが望ましいが、これらの分野に対して日頃から新聞や雑誌から時事的な話題に関心を持つことが大事である。特に近年は、介護保険制度の改正をはじめ障害者自立支援法の制定、後期高齢者医療制度の改正など大きな変化があった。そのような背景のなか、既存の事業から新規に参入する企業やその商品などを生活実践から学び取る姿勢が大事である。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	総括的導入講義	
2	福祉産業とは何か(講義の概要)	生活関連産業と暮らし
3~4	医療産業の市場 日本の医療(医療機関)の現状と課題	厚生動向 医療保険制度 高齢者医療制度 診療報酬
5~6	医療産業の市場 日本の医療(医療周辺産業)の現状と課題	医療機器 医薬品 医療廃棄物
7~8	健康産業市場 日本の健康産業の現状と課題	健康日本21 ヘルスプロモーション
9	健康産業の市場 日本の健康増進ビジネス	フィットネスクラブ サプリメント市場 健康グッズ
10~11	福祉産業の市場 介護保険制度 障害者自立支援法	介護報酬 介護ビジネス 紙おむつ 介護機器 高齢者住宅
12~13	福祉産業の市場	介護事業事例(訪問介護、通所介護、施設介護)
14	中国の高齢化と高齢者福祉	
15	総括(まとめ)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	定期試験に代わるものとして全体の講義を通して、理解度と全体的な視点、気づきを問う。
平常点(日常的)	50 %	出席を重視する。中間に小レポートの提出を求め関心事や理解の深さを確認する。出席時のコメントシートを利用しながら、授業内容のコメントの提出を求める。

定期試験は実施しないが、日頃の受講態度から福祉産業に関する関心事や興味など、視野の広がりや知識の習得度合いを見るため、期間中に1から2回程度、課題を与えて小レポートを提出してもらう。そのため、毎回の出席に占める比重は高い。また、全体のまとめとしての到達度を測るため期末レポートの提出を求める。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
日本を元気にする健康サービス産業	島田晴雄 / 東洋経済新報社 / /
シルバーサービス論	シルバーサービス論 / ミネルヴァ書房 / /
日経ヘルスケア21	/ 日経BP社 / /

参考文献は多くないが、日常から新聞・業界誌等の関連記事に注意を払うこと。

厚生労働省のHP・経済産業省等のHP

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

担当者名 / Instructor 八木橋 慶一

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

現代社会における福祉の重要性を、国家や社会との関係から、また具体的な施策を通じて検討していきます。福祉国家の理念や歴史、そして現在の状況、という流れです。具体的な施策としては、家族や児童、高齢者政策などを、また福祉への住民参画の取り組みも取り上げます。これらを諸外国の事例を紹介しながら検討します。また、最近の福祉社会を研究する上で、重要なキーワードになっている「社会的排除」についても紹介します。最後にイギリスにおける地域再生政策を取り上げます。福祉社会のあり方を考える際に、重要な論点が含まれている政策だからです。

到達目標 / Attainment Objectives

- ・なぜ福祉国家が必要とされたのか、また現在も存続しているのかを理解できる
- ・現代の福祉社会の具体的な施策の内容や課題を理解できる

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	イントロダクション	
第2回	福祉国家とは何か	理論的枠組み
第3回	福祉国家の歴史1	ヨーロッパ
第4回	福祉国家の歴史2	日本
第5回	現代の福祉国家1	福祉多元主義
第6回	現代の福祉国家2	福祉レジーム
第7回	福祉社会1	家族、児童、若者
第8回	福祉社会2	高齢者、障害者
第9回	福祉社会3	住民参画、NPO、地域福祉
第10回	社会的排除1	理論的枠組み
第11回	社会的排除2	失業、若者、外国人
第12回	イギリスの地域再生1	コミュニティ開発プロジェクト、統合再生予算、ブレア政権
第13回	イギリスの地域再生2	地域協定、パートナーシップ、社会的包摂
第14回	イギリスの地域再生3	ケーススタディ
第15回	まとめ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	論述試験です。講義内容を理解した上で、どれだけ自説を論理的に展開できたかを評価します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

社会福祉だけでなく、社会学や政治学など、他の社会科学の分野にも関心を持ってください。講義への理解がより深まります。

教科書 / Textbooks

とくに使用しません

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
福祉資本主義の三つの世界	G.エスピン-アンデルセン / ミネルヴァ書房 / 4-623-03323-6 /
グローバリゼーションと福祉国家の変容	ノーマン・ジョンソン / 法律文化社 / 4-589-02604-X /
社会的排除 / 包摂と社会政策	福原宏幸 / 法律文化社 / 4-589-03051-9 /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

福祉住環境論 S

13043

担当者名 / Instructor 蔵田 力

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

テーマ「高齢者・障害者が住まいで地域で安心して住み続けられるために」我国の急速に進む高齢社会において、障害を持つ高齢者も増え続けている。高齢者・障害者が住まいで、地域で人間らしく安心して住み続けられる環境はどうあるべきか。日本の住宅政策、福祉政策を先進の北欧等の国々と歴史的に比較しながら考察していく。また、国連における「居住の権利」宣言等の最近の動きも学びながら、「住まうことは基本的人権」であることを確認する。なお現在、世界および日本の各地で取り組まれている住民と各分野の専門家及び行政の連携による「住まいの環境改善」や「福祉のまちづくり」の実践例を学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

世界的な流れである「住まいは福祉の基盤」「住まいは人権」を理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

高齢者・障害者の福祉および「住まい」「まちづくり」に対して興味を持っていること。又、将来それらに関わることを目指している。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	講義概要、流れ、到達目標等説明	
第2回	住宅総論Ⅰ「住まい」とは	
第3回	住宅総論Ⅱ「居住の権利宣言」を学ぶ	
第4回	住宅総論Ⅲ 日本、世界の住宅政策と福祉政策	
第5回	住宅各論Ⅰ バリアフリーの考え方	
第6回	住宅各論Ⅱ-1「住まいの環境改善」のあり方	
第7回	住宅各論Ⅱ-2「住まいの環境改善」における専門家の連携	
第8回	住宅各論Ⅱ-3 事例研究	
第9回	住宅各論Ⅲ「住まい」と家族	
第10回	住宅各論Ⅳ「住まい」と健康	
第11回	住宅各論Ⅴ ホームレス問題	
第12回	地域論Ⅰ 日本と世界の都市政策	
第13回	地域論Ⅱ-1 高齢者・障害者が住み続けられる“まちづくり”	
第14回	地域論Ⅱ-2 生活圏構想	
第15回	まとめ・超高齢社会を展望する“まちづくり”の課題(討論)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

配布資料および参考書のポイントを復習、また事前に配布された資料の予習

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	講義の理解度および与えられたテーマに対して、主体的にどう深めたのかを評価
平常点(検証テスト)	20 %	コミュニケーションカードの講義に対する感想等で評価

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

- (1) 配布資料は必ず整理し、毎回の講義に持参する。
- (2) コミュニケーションカードには、積極的に感想、意見を述べる。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「居住福祉」	早川和男／岩波新書／／大学生協等で各自購入

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「住宅の権利・誓約集」	監修・中林 浩／日本住宅会議／／日本住宅会議が注文販売

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

福祉情報論 S

13035

担当者名 / Instructor 生田 正幸

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

介護保険制度の導入は、介護・福祉分野におけるコンピュータ活用のあり方を大きく変えた。社会福祉施設や在宅サービス機関においても、パソコンや情報システム、情報ネットワークがごく当たり前の存在となり、サービスの利用と提供を支える重要な役割を担っている。さらに、社会福祉法の施行によって、情報の開示・提供、苦情解決、サービス評価など情報に関わる事柄が、利用者のサービス選択を保障しサービスの質を高めていく重要なファクターとして位置づけられるようになった。

また、情報の入手や利用、発信の障壁(バリア)に直面する「情報弱者」の問題が顕在化し、先端的なICT(情報通信技術)を駆使した情報バリアフリー、情報のユニバーサルデザインへの取り組みが展開されている。福祉情報機器を用いた様々な自立支援システムなど支援技術(Assistive Technology)の発達と普及も著しい。社会全体が、ICTと情報への依存を強めようとしている中で、介護・福祉分野も例外ではなく、今や、介護・福祉の立場からの主体的な取り組みが強く求められている。

この講義では、福祉情報化とは何か、何をすることなのかについて、福祉の立場からあきらかにするとともに、福祉における情報化とコンピュータ利用のあり方について、コンピュータ実習をはさみながら考えていくことにする。

到達目標 / Attainment Objectives

- ・福祉・介護分野におけるICT化・情報化の実態と考え方を知る。
- ・福祉・介護に関する情報を利用するための基礎的な知識と方法を身につける。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「情報リテラシー」を履修し、メール、Web閲覧、ワープロ操作など、基礎的なパソコン操作を的確に行えることが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	イントロダクション	福祉情報論がめざすもの
第2回	インターネットと福祉情報(1)	福祉の情報資源を使いこなす part1
第3回	インターネットと福祉情報(2)	福祉の情報資源を使いこなす part2
第4回	福祉と情報(1)	なぜ、情報を提供するのか
第5回	福祉と情報(2)	福祉が変わる、情報が変わる
第6回	福祉情報をどう使うのか(1)	探す・評価する・選択する
第7回	福祉情報をどう使うのか(2)	福祉のための情報システムと情報機器
第8回	福祉情報をどう使うのか(3)	共有する・発信する・結びつける
第9回	福祉情報とは何か(1)	情報は便利なのか？
第10回	福祉情報とは何か(2)	福祉情報の体系と構造
第11回	福祉情報化とは(1)	誰のための情報化なのか
第12回	福祉情報化とは(2)	情報化とは何をすることなのか
第13回	福祉情報化の課題と展望(1)	様々な課題
第14回	福祉情報化の課題と展望(2)	新しい福祉への戦略
第15回	試験	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

福祉・介護とICT・情報というと、福祉分野の学生諸君にはあまり関係がないように思われるかもしれませんが、しかし、私たちの生活が、今やICTや情報の活用なしには成り立たないように、福祉・介護分野におけるサービスの利用や提供もICTや情報の活用と深く関わっています。そして、福祉や介護に関する情報を入手・活用し、あるいは発信することが、当事者や地域住民にとって非常に重要な課題となりつつあります。私たちの生活と福祉・介護を前進させていくためにICTや情報をいかに活用していくのかという観点から、社会の動き、制度や政策の動きに対する関心を深めて授業に臨んでください。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	70 %	
平常点(日常的)	30 %	毎回出席をとります。
講義の要点は『社会福祉情報論へのアプローチ』(生田正幸著・ミネルヴァ書房)に記載されているので必要に応じて購入すること。(ISBN4-623-03054-7)		

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

WAM NET(<http://www.wam.go.jp/>)、厚生労働省(<http://www.mhlw.go.jp/>)など。その他、必要に応じて授業中に紹介する。

その他 / Others

福祉政策論 S § 福祉政策論 SG

12016

担当者名 / Instructor 芝田 英昭

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

2008年度衆議院総選挙に向けた各政党マニフェストの社会保障部分を中心に、その分析を通してあるべき日本の社会保障の姿を提案する。具体的には、自民党、公明党、民主党、日本共産党、社民党など、5政党別にグループ分けし小集団学習を中心に授業を行う。従って、授業に参加できることを前提にするものとする。

到達目標 / Attainment Objectives

社会保障や福祉政策について、その分析能力、立案能力の涵養を目的とする。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

社会保障論、社会福祉概論、国際福祉政策論。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	福祉政策の概要	社会福祉、マニフェスト、政党
第2回目	自民党2007年度参議院選挙公約(マニフェスト)における社会保障・福祉政策の紹介	憲法改正、企業減税
第3回目	公明党2007年度参議院選挙公約(マニフェスト)における社会保障・福祉政策の紹介	少子化対策、社会保障と世代間格差
第4回目	民主党2007年度参議院選挙公約(マニフェスト)における社会保障・福祉政策の紹介	年金の一元化、高等学校の無償化、
第5回目	日本共産党2007年度参議院選挙公約(マニフェスト)における社会保障・福祉政策の紹介	介護保険の見直し、最低保障年金制度の実現
第6回目	社会民主党2007年度参議院選挙公約(マニフェスト)における社会保障・福祉政策の紹介	格差社会の是正、公正な税制改正
第7回目	各政党別班編成、各班による制度・政策分析(各班での討議)	学生の希望を配慮して班編成を行う
第8回目	各班による制度・政策分析(各班での討議)	討議・分析
第9回目	各班による制度・政策分析(各班での討議)	討議・分析
第10回目	各班による政党別制度・政策分析プレゼンテーション(予定)	各政党の社会保障・福祉政策の違いの確認、
第11回目	各班による現代社会に適した社会保障・福祉政策の策定(討議)	社会保障・福祉政策の現状分析、政策立案
第12回目	各班による現代社会に適した社会保障・福祉政策の策定(討議)	社会保障・福祉政策の現状分析、政策立案
第13回目	各班による現代社会に適した社会保障・福祉政策のプレゼンテーション(予定)	実行可能性ある社会保障・福祉政策
第14回目	各班による現代社会に適した社会保障・福祉政策のプレゼンテーション(予定)	実行可能性ある社会保障・福祉政策
第15回目	これまでの講義を通して全体的な講評と復習	日本における社会保障・福祉政策

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

空き時間を利用して、各班での調査・討議を行うこと。プレゼンテーション時期は、あくまでも予定なので変更の可能性がある。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	70 %	定期試験は70点とする。
平常点(日常的)	30 %	各班によるプレゼンテーションは、前半と後半に計2回行う。1回の配点を15点とし計30点とする。

出席はとらないが、各班での調査・討議が中心となるので、参加できることを前提に講義登録して欲しい。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

班別で学習を進めていくので、班員に迷惑がかからないよう極力講義に参加できる学生の受講を希望する。

教科書 / Textbooks

テキストは使わない。

参考書 / Reference Books

書名 / Title

新しい社会保障の設計

参考文献は、適宜紹介する。

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

芝田英昭 / 文理閣 / ISBN4-89259-521-7 /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

首相官邸ホームページ: <http://www.kantei.go.jp/>

自由民主党ホームページ: <http://www.jimin.jp/>

公明党ホームページ: <http://www.komei.or.jp/>

民主党ホームページ: <http://www.dpj.or.jp/>

日本共産党ホームページ: <http://www.jcp.or.jp/>

社民党ホームページ: <http://www5.sdp.or.jp/>

その他 / Others

福祉調査・統計論 S

15590

担当者名 / Instructor 鈴木 未来

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

この授業では、社会福祉を学ぶにあたってあるいは社会福祉の現場ではたらくにあたって必要となる調査資料の読み方や作り方を学習することになる。社会福祉は個別の困りごとから政策立案まで幅広い領域を扱うがゆえに、ミクロとマクロの両方の視点で往復することが求められる。その際に、両者を橋渡しするような資料を読み込んだり、あるいは実際に作成することで多くの社会福祉の関係者に理解を得られる説明や提案が可能になろう。社会福祉の情報の発信者にも受信者にもなりえる知識が得られるような授業を進めていきたい。

到達目標 / Attainment Objectives

授業前半は社会福祉関連の調査法の特徴と実査にあたって必要となる事柄を学んでいくことになる。後半は収集されたデータや既存のデータベースを調査者の関心の沿って分析したり、分析されたものを評価したりする力を身につけていくことになる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

社会調査論 社会統計学

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	イントロダクション	社会福祉調査とは
第2回	社会福祉調査の種類とその特徴1	質的調査法
第3回	社会福祉調査の種類とその特徴2	量的調査法
第4回	実査にあたっての準備1	問題意識と仮説 文献研究
第5回	実査にあたっての準備2	調査法の選択 対象者の選定
第6回	調査票の作成1	基本項目 調査種類ごとの項目
第7回	調査票の作成2	言葉の選択 事柄の絞込み レイアウト
第8回	社会福祉調査の現場の実際1	調査設計
第9回	社会福祉調査の現場の実際2	聴き取り調査
第10回	調査データの整理・集計1	エディティング コーディング データ・クリーニング
第11回	調査データの整理・集計2	単純集計 図表化
第12回	調査データの整理・集計3	母集団 探索的分析 t検定
第13回	調査データの整理・集計4	質的変数の関連 χ^2 乗検定
第14回	調査データの整理・集計5	量的変数の関連 相関係数
第15回	社会福祉調査における倫理	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	70 %	前半(調査法)の内容で1回、 後半(統計分析)の内容で1回、 計2回のレポートを予定
平常点(日常的)	30 %	毎回の出席を点数化する

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

それぞれの回の内容は連続しているため、連続出席が望まれる。欠席の場合は下記に示す参考書等で当該項目の知識を各自自習した上で授業に臨んでもらいたい。

教科書 / Textbooks

使用しない。授業時にプリントを配布する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
社会福祉調査入門	島中宗一・木村直子 / ミネルヴァ書房 / 4-623-03972-2 /
ソーシャルワーカーのための社会福祉調査法	平山尚他 / ミネルヴァ書房 / 4-623-03831-9 /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

福祉発達史 S

13037

担当者名 / Instructor 徐 林 卉

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本講義ではヨーロッパの福祉の発達を中心に、福祉の発達を考察する。福祉の実践として一番歴史の古いものは貧困の救済である。そこで、いかにして一般の人々の貧困の救済が国の責任となっていったかを辿るが、その過程は決して簡単な楽な道程ではなかった。早い時期から貧困対策を行ってきたイギリスも同様である。そこには階級格差があり、一般の労働者達が人間らしい暮らしを送るには何百年もの時間を要した。中流階級以下の労働者が政治的に力を持ち、「ナショナル・ミニマム(国民最低限)」の保障を得るようになったのは20世紀に入ってからのものである。時代の変化と共に変貌してきた福祉は、現在ではなくてはならないものであり、当たり前のものでされているが、一方では経済の停滞と共に後退を余儀なくされている。福祉の歴史を単なる「過去の出来事」として捉えるのではなく、人々の大きな要求のうねりが生み出してきた足跡として辿りたい。そしてまた、福祉は現在の我々の要求によりその形をいかようにも変えるものであるということを感じ取って頂きたい。同時に人が社会で生きていく上で、社会保障や社会福祉がどれ程重要なものであるか実感して頂きたい。講義では福祉の発達について、国・経済という大きな存在と一般個人とがどのようにかかわってきたかを中心にみなさんと一緒に考えていきたい。

到達目標 / Attainment Objectives

社会福祉に対する国の役割を捉え、また社会福祉は個人にとって社会で生活する上で不可欠なものであり、かつ、改善するには国民全体の努力が必要であることを認識できるように、講義を通じ考える力を持つ事

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	国が福祉にかかわる以前、福祉はどのように行われていたのか	
2	ヨーロッパにおける中世紀までの貧困の救済	
3	イギリス救貧法の生成過程①	
4	イギリス救貧法の生成過程②	
5	イギリス救貧法の生成過程③	
6	スチュワート王朝期における救貧法の変容	
7	市民革命期・産業革命期の福祉 - 貧民の有利な雇用論	
8	市民革命期・産業革命期の福祉 - 救貧法の人道化	
9	新救貧法の成立	
10	新救貧法の目的と評価	
11	19世紀末の民間における福祉の実践	
12	19世紀末から20世紀初頭の福祉の展開①	
13	19世紀末から20世紀初頭の福祉の展開②	
14	大恐慌期から1940年代の「福祉国家」の生成	
15	総括およびテスト	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(検証テスト)	50 %	最終日テスト成績
平常点(日常的)	50 %	小レポート評価

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

教科書は使用しません

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「社会福祉の歴史」	高島進氏 / ミネルヴァ書房 / /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

福祉臨床論 S

15447

担当者名 / Instructor 山本 耕平

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

この授業では、生活者が、生活上の諸課題に対峙し、主体的な生活を創造することが可能となるために求められる福祉実践を“子ども”“思春期・青年期”“成人期”“円熟期”の各期に分け取り上げる。そのなかで、人生の各期に共通するソーシャルワークの視座と各期に固有なソーシャルワークの視座及び実践(方法ならびに運動)、政策につき考える。

到達目標 / Attainment Objectives

- ☆社会福祉を学ぶ学生として、社会の諸要因により国民の生活が阻害されている状況を科学的に捉える力を獲得する。
- ☆今各分野の実践で共通して求められているソーシャルワーカーの役割りを認識する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	オリエンテーション ソーシャルワークの魅力と科学としての介入、アセスメントの視座とファクター	ソーシャルワークの局面 人と生活、発達
第2回	支援原則と支援理念 ―パターンリズムからフレンドシップへ、侵襲的介入から自尊を獲得する介入へ―	自尊心、所属感、依存、自己決定、フレンドシップとパターンリズム
第3回	子どもの発達・生活と福祉課題① ―障害の受容に関わる課題―	早期発見、障害受容
第4回	子どもの発達・生活と福祉課題② ―子どもの虐待と再養育―	通告、緊急保護、措置、再養育、
第5回	子どもの発達・生活と福祉課題③ ―一人親家庭の生活課題	母子と父子
第6回	思春期・青年期の課題①―不登校・ひきこもりと当事者支援―	居場所、スクールソーシャルワーク
第7回	思春期・青年期の課題②―軽度発達障害と思春期危機―	就労支援、家族
第8回	成人期の課題①―中途障害や難病と家族崩壊、スティグマ―	慢性疾患、所得中断、生活崩壊、危機
第9回	成人期の課題②―過労自死と家族―	過労自死
第10回	成人期の課題③―ドメスティック・バイオレンスと家族1	DV、虐待サイクル、緊急保護、体と心
第11回	成人期の課題③―ドメスティック・バイオレンスと家族2	自尊心、家族内トラウマ
第12回	円熟期の課題―円熟期と孤立―	高齢者 心理
第13回	精神障害と自立	精神障害 社会的孤立 自立
第14回	福祉実践と協同 ―地域福祉要求の組織化と地域づくり―	要求の組織化、乳幼児期から円熟期、麦の郷
第15回	総括講義	アセスメント技法

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	80 %	
平常点(日常的)	20 %	出席点を定期試験に加え評価する

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

いかなる媒体でも結構ですから国民の生活に関するニュースに常に触れて下さい。
 コミュニケーションペーパーでの質問や講義への参加を期待します。

教科書 / Textbooks

教科書は特に定めません。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
児童虐待とソーシャルワーク実践	柏女霊峰/ミネルヴァ書房/4-623-03508-5/

貧困と闘う人びと	寺久保光良／あけび書房／487154057X／
激増する過労自殺	ストレス疾患労災研究会／皓星社／4-7744-0292-3／
対人援助の臨床福祉学	佐藤俊一／中央法規／4-8058-2452-2／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

<http://www.ccap.or.jp/>
<http://www.jstss.org/>

その他 / Others

福祉労働論 S

13030

担当者名 / Instructor 石倉 康次

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

社会福祉領域の仕事には多様な分野がある。社会福祉施設、福祉事務所、児童相談所、医療機関、社会福祉協議会などの場所で、保育や養護を必要とする児童、障害をもった人、介護を要する高齢者、経済生活で困窮状態にある人、地域社会の一般住民などを対象に、相談・面談をし、日常生活支援や社会参加にかかわるの一方、地域ネットワークの組織化も行う。また施設や事業の運営・経営に関わる業務もある。講義では、これらの社会福祉労働に共通する特徴や職業倫理について具体的に考察する。

到達目標 / Attainment Objectives

福祉労働における合理的根拠についての理解を深め、福祉労働の発展方向や条件を客観的に捉える眼を獲得する。また、福祉労働者の労働条件、福祉施設の経営条件、社会福祉の諸制度が福祉労働の質を制約する仕方についても理解をする。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

社会学、経済学、政治学、法律学の基礎教養科目を軽視しないでほしい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	導入:本講義でのねらいや受講の心得について説明する	
2	ポノボの生態から共同社会の原理を考える	生活物資の確保、再生産、生活の共同性、コミュニケーション
3	「福祉労働」とは何だろう	生命の維持・再生産、コミュニケーション、人の生産とモノの生産、労働過程の三要素
4	対象者のかかえる生活問題と発達の課題をとらえる科学的・技術的合理性	脳機能再生、大人と子ども、自発性、社会的支援
5	福祉労働の規範的合理性をめぐって	身体拘束、人権保障、生存権、発達権、抑制廃止宣言
6	福祉労働の規範的合理性をめぐって(続)	社会福祉の理念と現実との乖離、抑制廃止宣言の意義
7	福祉労働におけるコミュニケーション的合理性を考える	相互理解、処遇審査会、面接
8	福祉労働におけるコミュニケーション的合理性を考える(続)	コミュニケーション的行為、行動にもとづく理解、
9	福祉労働の三つの合理性の理論的な基礎	マックス・ヴェーバー、社会的行為の四類型、合理的と非合理的、ハーバーマス、コミュニケーション的合理性
10、11	ビデオドラマをみて社会的行為の類型について考える	目的合理的行為、価値合理的行為、感情的・情緒的行為、伝統的行為
12	福祉労働の三つの合理性の確認	本人支援、家族支援
13	社会福祉労働と社会福祉法人	事業経営、福祉労働者の労働条件、
14	介護・福祉サービス労働者の現状	労働条件、専門性の評価、措置制度、介護報酬
15	まとめと試験	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

テレビで放映される福祉番組に注目してほしい。福祉施設での現場の苦勞を伝えるメディアを探してほしい。福祉施設で起こる事件、ホームヘルプ事業に進出した企業動向にも注目してほしい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	80 %	講義内容の理解度合い
レポート試験	10 %	問題・課題の考察
平常点(日常的)	10 %	講義への出席

講義でビデオをたくさん観るが、内容はきっと印象に残るはず。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
なし	///

講義で資料、ビデオを提示します。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
福祉のひろば	／総合社会福祉研究所／現場の声が多く紹介された月刊雑誌
形成期の痴呆老人ケア	石倉康次他／北大路書房／認知症ケアの基本を学ぶ
転換期の社会福祉事業と経営	石倉康次他／かもがわ出版／社会福祉施設の経営問題を掘り下げ
社会保障社会福祉大事典	／旬報社／社会保障の全体を学ぶ書
発達保障と教育・福祉労働	二宮厚美／全障研出版部／コミュニケーション労働について深める

テキストは使用せず、適宜配布する資料、ビデオ等をもとに講義を行う。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

厚生労働省: <http://www.mhlw.go.jp/index.html> 認知症の人と家族の会: <http://www2f.biglobe.ne.jp/~boke/boke2.htm> 日本障害者センター:
<http://shogaisha.jp/> 総合社会福祉研究所: <http://www.jfast1.net/~sosyaken/> 保育研究所: <http://www.hoiku-zenhoren.org/kenkai/index.html> 全国老人福祉問題研究会: <http://members3.jcom.home.ne.jp/0376228901/romonken/> 全国障害者問題研究会: <http://www.nginet.or.jp/> 全国児童養護問題研究会: <http://www.ne.jp/asahi/yomon/ken/>

その他 / Others

武道論 S

20296

担当者名 / Instructor 藪 耕太郎

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本講義は、武道に付与される諸々の価値や理念そのものを紹介する科目ではない。むしろ、そうした価値や理念が歴史のいかなる文脈において付与されてきたのか、その過程と背景を探ることを目的とする。他方で、もはや日本のみに収斂しきれない、広義における武道文化を読み解くために、海外への武道の普及史を紐解き、武道の”BUDO”化という現代的課題にも目を向けたい。

到達目標 / Attainment Objectives

- ① 武道の誕生から現代に至るまでの武道理念の歴史的な変遷過程を理解する。
- ② ①を踏まえ、現代における武道を巡る諸状況について、複眼的な立場から考察する力を得る。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	ガイダンス	講義目的、進め方、授業評価について
第2回	(日本編)近代文化としての武道①	武術と武道A、講道館柔道の設立と発展、嘉納治五郎の理念
第3回	(日本編)近代文化としての武道②	女性と武道、教育と武道
第4回	(日本編)武道の総本山としての大日本武徳会①	設立経緯と発展過程
第5回	(日本編)武道の総本山としての大日本武徳会②	諸武道の統括団体、大日本武徳会の武道理念
第6回	(日本編)スポーツと武道①	外来スポーツと武道、イデオロギー装置としての武道
第7回	(日本編)スポーツと武道②	スポーツの武道化、総力戦体制と武道
第8回	(日本編)戦後の武道	大日本武徳会の解散、武道の復興と再編
第9回	(海外編)武道の海外普及① 日清戦争後から第1次世界大戦まで	武術と武道B、山下義韶とヒガシ・カツマ
第10回	(海外編)武道の海外普及② 第1次世界大戦後から第2次世界大戦まで	ロンドン武徳会、世界柔道連盟
第11回	(海外編)武道の海外普及③ 戦後の発展過程	国際柔道連盟の設立、道上伯とヘーシンク
第12回	オリンピックと武道	嘉納治五郎とIOC、オリンピック競技としての武道
第13回	現代社会と武道①	学校-企業-町道場の関係性、競技化と勝利至上主義
第14回	現代社会と柔道②	プロ格闘技と武道、武道とBUDO
第15回	まとめ	歴史のなかの武道と現代的課題

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	30 %	任意のテーマを設定し、レポートとしてまとめる。講義で扱う内容の構造的な理解度を評価する。
平常点(検証テスト)	30 %	講義期間中に2回(第8回頃・第14回頃)、論述形式の試験を課す。それぞれの試験では、授業の前半・後半の理解度を評価する。
平常点(日常的)	40 %	授業ごとに提出する「ミニ・レポート」によって、講義内容の理解度を評価し、出席回数を判定する。また、自学自習を随時受け付ける、評価基準は提出回数と内容による。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

本講義では、武術から武道へと近代化を図るうえで先導的な役割を果たした講道館柔道を中心に授業を進める。もちろん他の武道も適宜扱う予定ではあるが、受講者はぜひ自学自習を行って欲しい。また、随時質問を受け付け、その内容はできる限り講義に反映させたい。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
武道の誕生	井上俊 / 吉川弘文館 / 4642055797 /
米国対日占領政策と武道教育—大日本武徳会の興亡	山本礼子 / 日本図書センター / 4820569988 /

武道を生きる

松原隆一郎／NTT出版／4757141084／

上記以外の文献に関しては、適宜講義の際に紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

文化経済論 S § 文化経済論 W

15454

担当者名 / Instructor 金武 創

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

文化経済学の基礎的理解

これまで相反するものと思われがちであった、「文化」と「経済」の関係を価値規範やライフスタイルの変化の視点から捉えなおし、これからの企業やNPO、中央政府・地方自治体のあり方を考える。授業では、理論／実証研究の解説と関連話題（VTRや新聞）の提供という組み合わせで進めていきたい。以下のテーマを順番にすべてやるわけではないが、教科書の内容に即して、できるだけふれていきたいと思う。

到達目標 / Attainment Objectives

文化経済学の基本問題や概念を幅広く理解できる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	芸術作品とオークション	オークション
第2回	芸術文化と市場	価格、需要と供給
第3回	文化的価値と経済的価値	支払い意思
第4回	芸術文化の消費	1980年代の消費文化
第5回	芸術文化の生産	高層建築とデザイン
第6回	芸術文化と情報	出版とブログ
第7回	文化資本の考え方	伝統文化と大衆文化、世界遺産登録運動
第8回	文化支援と文化政策	まちづくり、地域文化
第9回	慈善活動のためのギャンブル	サッカーくじ
第10回	競争と協働のネットワーク	温泉観光、情報の非対称問題
第11回	埋蔵文化財の文化経済学	文化遺産、町並み保存、世界遺産
第12回	ブレイクするJ-POP	音楽CD、ミリオンセラー
第13回	スポーツNPOの経済的利点	規模の経済と範囲の経済、障害者スポーツ
第14回	公共財としてのパブリックアート	Young British Artist
第15回	まとめ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	70 %	
平常点(日常的)	30 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

- ・教科書を手し、毎回の授業で持参してくることを前提に授業を進めます。
- ・受講人数によっては、成績評価の方法を変えるかもしれません。人数確定後、授業内で伝えます。
- ・時事問題等を優先して扱うので、授業の順番は入れ替わる可能性があります。期間内に教科書全てにふれるつもりです。
- ・始業時間を守ってください。平常点をいろいろな方法で評価する予定です。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『文化経済論』	金武創・阪本崇 / ミネルヴァ書房 // 2005年

参考書 / Reference Books

特になし

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

特になし

その他 / Others

授業の概要 / Course Outline

グローバリゼーションが展開し、自由が広がる今日の社会では、既存の秩序が様々なかたちで崩壊している。9.11の同時多発テロの背景には、そうした自由に対する危機感から原理主義などの「伝統」へ戻ろうとする力が大きく働いていた、と言われる。「伝統」に戻るべきか、それとも「自由」を推し進めるべきか、私たちの身の回りでもその選択が迫られるが、「自由」とは何か、「伝統」とは何か、問われることはほとんどない。

本講義では、「自由」と「伝統」の成り立ちについて、文化人類学の立場から検討する。すなわち、1. 近代的な「自由の文化」の仕組みとその問題点、2. 「伝統文化」の価値や意味づけの仕組みとその問題点、3. 両者が対立せずに接続される可能性、について考察することを目指す。

到達目標 / Attainment Objectives

- ・「構造主義(関係論)」とはどのような理論か、理解する。
- ・「伝統文化」と「近代」の構造とその問題を理解する。
- ・「民族」という枠組みの多様性や歴史性を理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本講義では、構造主義や関係論という立場からの文化分析を紹介する。理論的な議論が多くなるので、本講義の履修前に(不可能なら履修後でも)「文化人類学入門」(原尻英樹教授担当)を履修し、文化人類学理論の基本を学ぶことを推奨する。さらに「エスニシティ論」(原尻英樹教授担当)、比較文化論(橋健一担当)を受講すれば、文化人類学的な素養を幅広く身につけることができるので、履修を勧めたい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	自由の広がりとは伝統への回帰	自由、伝統
2	文化とは何か	文化進化論、機能主義、構造主義
3	意味秩序の構造	表現、内容
4	伝統文化論1	神話
5	伝統文化論2	儀礼
6	伝統文化論3	身体加工
7	伝統文化論4	贈与
8	自由の文化論1	市場、貨幣
9	自由の文化論2	資本主義、ファッション
10	自由の文化論3	市民社会、近代科学
11	自由の文化論4	国民国家
12	自由の文化論5	産業社会、フォーディズム
13	自由の文化論6	複製文化
14	自由と伝統	文化相対主義
15	確認テスト(60分)と解説(30分)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

参考書以外にも構造主義や関係論について論じた著作を読んでおくことを勧めたい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(検証テスト)	80 %	授業期間中に講義の内容に関するテストを2回ほどおこなう。第8回目頃と第15回目に行う予定。
平常点(日常的)	20 %	毎回コミュニケーション・ペーパーを配布。講義への質問を受け付け、課題を出すこともある。講義への参加度を評価する。その他に、数回レポートを課し、採点する。

テストの内容や期日については、授業中に指示するので注意して欲しい。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

講義では映像資料を提示し抽象的な概念や考え方を解説する。抽象度の高い議論を理解するために、参考文献をしっかりと読み込むこと。

教科書 / Textbooks

教科書は用いないが、講義内容の理解が難しいときに、下記の図書を参考にしたい。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
はじめての構造主義	橋爪大三郎 / 講談社現代新書 / 構造主義全般の理解に役立つ

文化人類学15の理論	綾部恒雄編／中公新書／／文化人類学の理論全般を見通す
精神と自然	ベイトソン G.／新思索社／／関係論の理解に参考
精神の生態学	ベイトソン G.／新思索社／／ダブルバインド理論に関する論文
神話と意味	レヴィ＝ストロース／みすず書房／／神話の構造分析の入門書
レヴィ＝ストロース入門	小田亮／ちくま新書／／レヴィ＝ストロースの構造主義の解説書

その他の参考書については、必要に応じて指示する。

なお、本講義では用いないが、「文化人類学入門」の教科書(『フィールドワーク教育入門』原尻英樹、玉川大学出版部、『文化人類学の方法と歴史』原尻英樹、新幹社)を受講者の判断で各自参考にして欲しい。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

担当者名 / Instructor 森重 拓三

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「文化を生きる」という観点から、代表的とおもわれる「文化理論」を紹介・整理し、「生きること」と文化との関わりを「社会的」に明らかにする。

到達目標 / Attainment Objectives

どのような関心から「文化」の問題に出会うのか。「生の形成」としての「文化」に関する問題を、1.文学、2.文化人類学、3.精神分析、4.文化社会学などの様々な切り口からみることで、「生活のなかの文化」を捉える視点を身につける。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の導入 / 文化の語り方・見方	関心のあり方: 経験(インタビュー)と想像
第2回	文化の採集(1)	他文化への関心 / 自文化への関心
第3回	文化の採集(2) / 文化と文化理論の定義	「語り方・採集の仕方」を基準にした文化理論の整理
第4回	文化の構造(1):『悲しき熱帯』(C.レヴィ=ストロース)	顔面・身体塗飾、絵画芸術、構造主義
第5回	文化の機能(1):『西太平洋の遠洋航海者』(B.マリノフスキー著)	クラの交換、クラの呪術、民族学的事実としてのクラ
第6回	文化の機能(2):「機能主義」とよばれる文化理論(B.マリノフスキー)	装置としての文化、有機的全体の仮説、機能主義の人類学
第7回	文化の解釈(1):文化を語る視座・異文化と自文化の交差	複眼の視点、文化を観察する者(研究者)、文化を生活する者(生活者)
第8回	文化の解釈(2):社会の力学・社会の意味論	見えるもの/見えないもの、意味するもの/意味されるもの
第9回	文化の構造(2):『「甘え」の構造』(土居健郎著)ー文化人類学的「関心」からの異文化「解釈」ー	自明性の喪失、「甘え」の発見、「ことば」の解釈
第10回	文化の構造(3):『「甘え」の構造』(土居健郎著)ー日本文化との向き合い方ー	甘えの社会関係、義理と人情、他人と遠慮、「うち」と「そと」
第11回	文化の構造(4):『「いき」の構造』(九鬼周造著)	「いき」の意味的構造(内包と外延)、媚態・意気地・諦め、事象の世界と意味
第12回	文化の構造(5):翻訳という文化問題	外国語と日本語の比較対照
第13回	文化の構造(6):『漱石の心的世界』(土居健郎著)	「こころ」の構造、「甘え」による作品分析
第14回	文化理論の基礎づけ(1):文化と言語 文化の問題を「生の形式」としての言語から考える	文化装置としての言語、非言語的行為、言語的行為
第15回	文化理論の基礎づけ(2):文化の基礎概念(定義、採集、観察、解釈、機能、構造等)の整理	言語、行為、意味、生の形式、生の内容、私的体験、間主観的体験

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	80 %	文化研究の理論と方法、基礎概念などの学習到達度をテスト
平常点(日常的)	20 %	講義で学んだテーマを具体的事例にどのように応用し、また学問的な方法によって適切に言い表すことができるかをテストします

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教室で指示します

教科書 / Textbooks

教科書は用いない。講義レジュメを教材として用いる。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
物語のなかの社会とアイデンティティ	佐藤嘉一 / 晃洋書房 / /
社会的世界の意味構成	アルフレッド・シュッツ / 木鐸社 / /
社会学の根本概念	マックス・ヴェーバー / 岩波書店 / /

菊と刀 ルース・ベネディクト／新潮学術文庫／／

「甘え」の構造 土居健郎／弘文堂／／

悲しき熱帯 レヴィ=ストロース／中央公論社／／

以下の文献を読むことを薦めます。

佐藤嘉一『物語のなかの社会とアイデンティティ』

土居健郎『「甘え」の構造』、ルース・ベネディクト『菊と刀』、

マリノフスキー『西太平洋の遠洋航海者』、レヴィ=ストロース『悲しき熱帯』

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

担当者名 / Instructor 漆原 良

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

テレビや雑誌などでは、日々様々な健康にまつわる問題が取り上げられており、健康について意識する人は多い。しかし、病院に入院している患者など他者に健康を管理してもらえる人はわずかで、多くの人が日常生活の中で自らの健康を管理していかなければならない。自身の健康を管理するためには、健康に対して自分なりの考えを持ち、その健康を維持するための正しい知識の理解と、それを活用する実行力が必要となる。

本講義では、生涯にわたってより人間らしく社会で自立した生活を営むために自分自身で健康管理できる力を身につけるきっかけとして、健康を維持する身体の仕組みについて概説し、いくつかの日常生活における健康問題をとりあげ、それに対する運動の役割について考えていく。

到達目標 / Attainment Objectives

生涯にわたる自身の「健康」について自分なり考えることができ、その健康を自分で維持、管理するために運動を活用するための基本的な知識について理解し、それらを日常生活の中で応用していく意識をもつ。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「ウエルネス論」や「生理学」において関連した内容について扱っており、これらの科目を履修することにより本講義に対する理解がより深まる。ただし、これらの科目や高校時に生物などの科目を履修していなくとも十分理解できるよう説明していく予定である。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の概要と導入 健康・体力とは	健康
2	自分の身体を知る	体脂肪, BMI
3	自らの生活を知る	基礎代謝, 生活活動強度
4	自らの心肺能力を知る	最大酸素摂取量
5	自らの筋力を知る	筋力
6	有酸素運動	有酸素運動
7	筋力トレーニング	筋力トレーニング
8	討論 自分にとっての健康とは	自分の健康観
9	何のための運動か	合目的性
10	環境に適応する能力	コーディネーション
11	子どもの体力と運動	遊び
12	加齢による身体機能の変化と運動	ADL
13	身体障害と運動	リハビリ
14	競技スポーツのためのトレーニング	トレーニング, 運動
15	まとめ	健康における運動の意義

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study**(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method**

講義開始時に講義内容に関連する知識や意見を問うことがある。また授業で学んだことを自分たちの日常生活の中で実践して試してもらうために、定期的に授業内容を整理するための簡単な課題を課すことがあるので、常に授業内容について自ら考えておいてもらいたい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	70 %	キーワードを理解した上で、自らの言葉で論理的な記述ができる。
平常点(日常的)	30 %	出席及び受講態度についてリアクションペーパーを中心に評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

講義を通して、健康な生活とはどういうことなのか、健康に生き続けていくためにはどのように行動しなければならないのか、自ら考える力身につけてもらう。またそのきっかけになるような話題を提供していきたいと考えているので、積極的な姿勢で講義にのぞみ、自らの生活に活かしてもらいたい。

教科書 / Textbooks

特に指定しない。
講義内容に応じて、随時資料を配付する。

参考書 / Reference Books

必要に応じて講義内で適宜紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

特になし。

その他 / Others

担当者名 / Instructor 奥村 信幸

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

- ・テレビ・ラジオ放送の仕組みや関連する法制度を通して社会的な位置づけを理解する。
- ・映像の製作技術、特にニュースやドキュメンタリーの手法やソフトの進化や問題点を理解する。
- ・インターネットの発達によるメディア地図の変化を考察する。

到達目標 / Attainment Objectives

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	イントロダクション: 放送の「ことば」と映像	
第2回	放送の仕組み(1) 番組が企画からあなたのもとに届くまで	企画・取材・演出・編集
第3回	放送の仕組み(2) ニュースは儲かるのか?	視聴率・コマーシャル・受信料
第4回	映像の「約束事」と現実	ドキュメンタリー・演出・やらせ
第5回	ニュースとは何か?	ニュースキャスター・ワイドショー
第6回	放送におけるジャーナリズムの危機	取材・インタビュー・ニュースバリュー・ビデオジャーナリズム
第7回	テレポリティクスとメディアコントロールの実際	政治家とテレビ・戦争報道・選挙報道
第8回	メディアの「暴力性」	メディアスクラム・犯罪被害者・プール取材
第9回	「公共放送」は必要なのか	NHK・BBC・FCC・災害報道
第10回	テレビは夢や希望を与えられるのか	バラエティ・ドラマ・エンターテインメント
第11回	(ゲストスピーカー予定)	
第12回	デジタルの基礎知識とその功罪	地上波デジタル・IP放送
第13回	ブロードバンドと新たに生じた問題	ウェブ2.0・オンデマンド放送・コンテンツビジネス
第14回	サイバー社会の諸問題	個人情報・著作権
第15回	まとめの議論と記述問題	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	30 %	テーマや形式は追って指示する。
平常点(検証テスト)	40 %	事実関係を踏まえて見解をきちんとまとめられているかを見る。
平常点(日常的)	30 %	テーマ発表の内容とそのレポート、授業中のディスカッション。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

- ・テレビは授業ではほとんど観ません。自分でたくさん観て、たくさん評論してもらいます。
- ・たくさん読んで、たくさん意見を言って、たくさん文字を書いてもらいます。
- ・新聞を少なくとも1紙毎日目を通しておいてください。

教科書 / Textbooks

- ・追って指示します・

参考書 / Reference Books

- ・追って指示します・

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

ボランティア入門 S

15551

担当者名 / Instructor 桂 良太郎

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

ボランティア活動、NPO活動に関連したコンセプト(概念)をわかりやすく解説しながら、こうした活動がいかにこれからの国際交流や国際協働において重要であるかについてさまざまな実践的事例を紹介しながら、学としての「ボランティア論」の再構築をめざしたい。NPO学会やボランティア学会の研究成果をまじえながら、実践科学としてのボランティア活動の現状と課題について考察を深めたい。

到達目標 / Attainment Objectives

さまざまなボランティア活動にまつわる主要コンセプトを理解することが本講座の主要な目標であるが、机の勉強だけでなく、じっさいにさまざまなボランティア活動に関わることによって、経験したなかから、ボランティアとは何かを考えることが大切である。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

できるだけ、社会的なものの見方や考え方をしっかりおさえておくこと。それによって講義が非常にわかりやすくなる。また普段から新聞記事をおおくり読みこなし、ボランティア活動に関する情報収集も行っておくことによって、幅広いボランティア論が展開できる。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーションー講義のすすめかた、目標等についてー	ボランティア
2	ボランティアとはそもそも何ぞや!	ボランティア、市民、市民活動、市民社会、NPO、NGO
3	ボランティア・市民活動の歴史	社会福祉、環境、国際、人権、青少年
4	ボランティア活動・市民活動の鍵概念	共生、自治・分権・参加、持続可能性(サステナビリティ)、協働、多元主義と補完性の原則、ボランティアリ
5	市民活動の法制度	公益法人制度、NPO支援税制
6	ボランティア活動の経営と運営、個人支援・運動展開・組織運営の方法(その1)	エンバワメント、市民参加・参画、ボランティアグループの運営
7	ボランティア活動の経営と運営、個人支援・運動展開・組織運営の方法(その2)	NPOの組織経営、ボランティアマネージメント、コミュニティ・ディベロップメント
8	ボランティア・NPOの支援システム(その1)	インターメディアリー、ボランティアコーディネーター、助成財団
9	ボランティア・NPOの支援システム(その2)	市民活動の評価、企業の社会的貢献活動、行政の市民活動振興政策、情報支援
10	ボランティア・NPOの担い手	児童・生徒、青年・学生、高齢者、女性、勤労者、セルフヘルプ
11	ボランティア活動の分野、対象、領域ーボランティア・NPOの領域(その1)	社会福祉、医療・保健、環境
12	ボランティア活動の分野、対象、領域ーボランティア・NPOの領域(その2)	国際、人権、まちづくり
13	ボランティア活動の分野、対象、領域ーボランティア・NPOの領域(その3)	教育、文化、スポーツ・レクリエーション、災害
14	諸外国の状況について	諸外国の状況
15	まとめとA+希望学生のプレゼンテーション	総括

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

講義だけでなく、実際にさまざまなボランティア活動にかかわり、積極的にリサーチしたことがらなどをレポートにしてほしい。実際に体をうごかしながら、ボランティア活動とはなにかを学ぶ姿勢をのぞみたい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	

レポート試験の結果は最終講義日までに成績を公表する。A+希望者は事前に最後の講義時にプレゼンテーションを行うことを申し出ておくこと(受講生の5%)。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

毎回しっかりノートをとること、できるだけ新聞等にも目を通すこと。そしてボランティアセンターにできるだけ足をはこんで、情報を手に入れ、自分にそくしたボランティア活動をしてほしいし、また講師がすすめる講座等にも積極的に参加し報告(レポート)した学生は、評価の際の加点対象となる。

教科書 / Textbooks

テキストは講義中に紹介する。

参考書 / Reference Books

参考文献は講義のなかで紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

今年は、「第6回国際平和博物館会議」(10月6日～10日京都、広島)と「第8回日中韓居住問題国際会議」(11月17日～20日京都)が開催されます。ぜひ参加してください。

まちづくりと産業 S

20283

担当者名 / Instructor 善積 康子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

“まちづくり”という言葉が頻りに耳にする今日この頃であるが皆さんはどのように考えているだろうか。本授業では、その地域で働き、子育てをし、自らの選択において住み続けることができる、そういった環境を整えていくことを、まちづくりの定義と考える。そのためには経済的な自立、住民間の連携、支え合う意識、地域マネジメント組織の存在などが必要となってくるが、これらの要素が揃っている地域は多くない。当事者である住民が主体的に課題に取り組む必要があるが、それが簡単ではないから問題が生じているのである。京都には、職住共存地区とあって、古くよりそこに住みかつ和装といった伝統産業などの仕事を持つという生活スタイルが定着しているエリアがある。和装産業の低迷とともにまち全体の力が弱まっているなかで地域力を高めるべくさまざまな取組が展開されている。本授業では、今地域に起きている課題とそれが生じている背景、そこから脱しようとする取り組み、外部から地域に関わる者としてどのように支援するのか、などについて、京都のまちなかの事例を中心に、多様な事例や学生間の討議を交えて具体的に伝えていきたい。

到達目標 / Attainment Objectives

- ・地域コミュニティの弱体化や地域経済の低迷など地域を取り巻く問題とそれが生じる背景について理解する。
- ・問題を整理し、多くの関係者と共有する方法について知る。
- ・地域が活性化していくための道筋を一種類でもイメージでき、地域と共有できるような提案の形にまとめる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

都市計画法や建築基準法などがわかっていると理解が早いですが、必ず履修していなければならないわけではない。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業ガイダンス(進め方等)、導入(自分の考えを簡単にまとめる)	自分にとってのまちづくりとは
第2回	地域課題の説明	京都・職住共存地区の現状(都市計画、産業面から)
第3回	地域の取組について説明 I	地域自治とは、本能元学区の取組 I (平成11~14)
第4回	地域の取組についての説明 II	歩いて暮らせるまちづくり事業を通して
第5回	地域の取組についての説明 III	本能元学区の取組 II (平成15~現在)
第6回	地域活力のあり方 I	コミュニティビジネスとは
第7回	地域活力のあり方 II	地域課題を産業活力へ(事例を通して)
第8回	地域活力のあり方 III	中心市街地活性化について
第9回	地域課題の共有化手法について	ワークショップ、まち歩き等
第10回	地域課題の共有化手法について	ワークショップ(実際の進め方)、そのほかの手法
第11回	地域分析(地域の姿をとらえよう)	データの種類、見方について
第12回	実際に考えてみよう!	学生ワークショップ(仮想のまちの課題分析) I
第13回	実際に考えてみよう!	学生ワークショップ II
第14回	産業とまちづくり(ブレイクスルーはどこ?)	日本の慣行、法規制等からの限界、視点の持ち方(海外事例)
第15回	総括(ざっくばらんに意見交換)	自分の考え方の提示

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

○自分の関心ある地域を特定し(自分が生活をしている場所等)、その場所での産業のあり方を観察、授業内容と連動して考え、レポート作成に備える。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	70 %	状況分析や自己の考え方整理、論理構築力、アピール力(わかりやすさ、他人に興味を持たせる書き方、説得力)
平常点(日常的)	30 %	ワークショップでの発言・関わり方、自分の意見が出せるか

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

まちづくりは自分自身が主体となることを想定して聞かれないと、他人を動かす力を持ち得ない。周囲の声に耳を傾けながら自分の考えをじっくり育ててほしい。正しい回答が一つというものではないので、自由な着想と現実とのバランスをとれるように考える練習が求められる。

教科書 / Textbooks

まちづくりに関する書籍は多いので、自分が読みやすいものを探して、最低一つは読んでほしい。

参考書 / Reference Books

授業内で都度紹介

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

京都市景観・まちづくりセンター(京都市のまちづくり支援組織)

<http://machi.hitomachi-kyoto.jp/>

このほか、全国で産業をキーワードに町おこしをしている事例などを、時間をみてネットサーフィンをしてみてほしい。

その他 / Others

マンガ文化論 S

20288

担当者名 / Instructor 瓜生 吉則

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

テーマ: マンガというメディア/文化

「マンガを読む」というとき、われわれは必ずしもその「内容」だけを鑑賞しているわけではない。例えば雑誌連載で読むのか、それとも単行本で読むのかで、同じ作品から受け取る印象が異なることがある。また、マンガを原作にしたアニメやドラマと比較しながら読むこともあるだろう。われわれはいつ、どこで、どうやって、マンガに接しているのか。本講義では、「内容」分析ではこぼれ落ちてしまう、マンガの生産・受容の「形式」に着目するメディア論的アプローチから戦後日本社会におけるマンガの布置を考察していく。

到達目標 / Attainment Objectives

作者の「メッセージ」が読み取られるべきテキストとしてではなく、作者と読者との「あいだ」にあって両者をつなぐモノ＝メディアとしてマンガをとらえ、その「文化」としてのありようを言語化できるようになること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス <マンガ>をどのように考えるのか?	
2	冒険者・手塚治虫(表現論1)	
3	劇画、この劇的なもの(メディア論&読者論1)	
4	少年週刊誌と読者の「成長」(メディア論&読者論2)	
5	「ぼくら」の夢舞台(メディア論&読者論3)	
6	少女マンガの<革命>(表現論2)	
7	“友情・努力・勝利”の方程式 課題:本宮ひろ志『男一匹ガキ大将』	
8	1970年代の「新しい波」 課題:大友克洋『気分はもう戦争』	
9	これってあたし? 課題:吉田秋生『河よりも長くゆるやかに』『桜の園』	
10	リスペクトとバクリのあいだ 課題:石ノ森章太郎+島本和彦『スカルマン』ほか	
11	一人メディアの逆襲 課題:小林よしのり『ゴーマニズム宣言』	
12	ベタ・マンガ/メタ・マンガ 課題:相原コージ・竹熊健太郎『サルでも描けるまんが教室』	
13	そのマンガは誰のものか?(総括1)	
14	<マンガ文化>の現在(総括2)	
15	最終総括 <マンガ>はどのように考えられるのか?	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

メール提出による小課題は1960~80年代のマンガも含んでいる(上記授業スケジュール参照)ので、受講者はマンガ喫茶や専門店・古書店など、これらのマンガを閲覧・購読可能な場所をあらかじめ各自で確保しておくこと(「見つけれない」「手に入れられない」という理由で課題が提出されない場合も未提出とみなす)。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	70 %	授業で扱ったいくつかのテーマから、受講者の関心に基づいてひとつのテーマを選び、それについて論述する(8000字以内のレポートを予定)。
平常点(日常的)	30 %	第7回~第12回までは、上記スケジュールに記載したマンガを事前に読み、感想をメールで提出する。小課題のすべてを提出しなくても成績評価の対象とするが、最終レポートのみの提出では単位取得が相当に困難になるはずなので、単位取得を目指す場合は小課題もできるだけ提出すること。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

マンガ産業論

中野晴行 / 筑摩書房 / /

マンガ学への挑戦

夏目房之介 / NTT出版 / /

テヅカ イズ デッド ひらかれたマンガ表現論へ

伊藤剛 / NTT出版 / /

その他、講義の進行に合わせて適宜指示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

担当者名 / Instructor 浪田 陽子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

現代社会において、メディアは政治・経済・社会・文化など我々の生活のあらゆる側面に影響を及ぼしている。このメディア社会を主体的に生きるには、メディアをクリティカルに読み解き、社会におけるメディアの役割や特性を理解し、また自らメディアを制作する力、すなわちメディア・リテラシーが不可欠である。本講義においては、メディア・リテラシーの定義、目標、基本概念、理論、国内外におけるメディア・リテラシー教育の現状などを実践を通して学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

- ・メディア・リテラシーの定義、目標、基本概念、理論、国内外におけるメディア・リテラシー教育の現状など基本的な事柄を理解する。
- ・メディア分析やメディア制作課題などのグループ活動、およびメディアログ等の課題によって、メディアをクリティカルに読み解き、メディアを制作する力を身につける。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	総括的導入講義 (授業の進め方)、メディアとは何か	メディア、メディア社会
第2回目	メディア・リテラシーとは何か	メディア・リテラシー
第3回目	メディア・リテラシーの基本概念	リプレゼンテーション (representation)、イデオロギー、価値観
第4回目	メディアとオーディエンス	アクティブ・オーディエンス、エンコーディング・デコーディング
第5回目	広告を考える(1) テレビ・コマーシャル	映像言語、メディア言語、映像技法、音声技法
第6回目	広告を考える(2) 消費社会	消費社会、ブランド化 (Branding)
第7回目	広告を考える(3) 子どもへのマーケティング	ターゲット・オーディエンス
第8回目	カルチュラル・スタディーズとメディア・リテラシー	カルチュラル・スタディーズ、サブカルチャー
第9回目	リプレゼンテーションとアイデンティティ(1) ジェンダー	ジェンダー
第10回目	リプレゼンテーションとアイデンティティ(2) 民族と文化	民族、エスニシティ、文化
第11回目	メディアと暴力	バイオレンス、モラル・パニック
第12回目	産業としてのメディア	メディア・コングロメリット、民主主義とメディア
第13回目	世界におけるメディア・リテラシー教育の取り組み(1) / グループ・プレゼンテーション(1)	メディア・エデュケーション
第14回目	世界におけるメディア・リテラシー教育の取り組み(2) / グループ・プレゼンテーション(2)	カリキュラム、ネットワーキング
第15回目	グローバル時代のメディア / グループ・プレゼンテーション(3)	グローバル化、グローバルメディア、デジタルメディア

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

- ・日常生活において自分が使うメディアに常に注意を払い、本講義の目的を体して意識的にメディアを観察すること。
- ・メディア制作はグループで活動する時間を授業内にも設けるが、授業時間外に資料を集めたり取材や撮影を行わなければならないこともある。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	①メディアログ(15%) ②メディア分析レポート(15%) ③コミュニケーション・ペーパー(40%、毎回行い0~5点で評価する) ④グループ・メディア制作(30%)

- ・メディアログ(個人でつけるメディア日記)は第3回目の授業で提出する(15%)。各自が接したメディアの内容、文脈、時間、ならびにそのメディアに対する自分の考えや反応などを記録する。
- ・メディア分析レポートは、第8回目の授業で提出する(15%)。個人で雑誌広告の内容分析を行い、分析シートにまとめる。分析方法等は授業で紹介・実践する。
- ・コミュニケーション・ペーパーは、授業の内容をよく理解した上で、メディア分析やその他の授業内課題を記述するものである(40%)。よって単なる出欠確認ではなく、内容の出来によって0~5点で評価する。
- ・グループ・メディア制作は、4、5人のグループでメディア(5分程度のビデオや雑誌・ポスターなどメディアの形態は各グループに任せる)を制作し、後半3回の授業で発表・ディスカッションを行う。社会・環境問題や消費社会についてなど、興味に応じてテーマとメッセージの方向性を決め、その意図が伝わるようなものを作る。評価は製作技術の高さではなく、この講義で学んだメディア・リテラシーの基本概念を理解して

それに基づいて制作されたものかどうかを基準とする。成績はグループ・ワークへの貢献度や課題の出来を加味して、個人ごとにつける。グループは、他回生・他学部生がバランスよく混ざるようこちらで指定する。

- ・ 受講者の人数等により、メディア制作課題の内容などに変更が出ることもあるかもしれないが、その際はすみやかに授業中に知らせる。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

- ・ メディア分析やメディア制作など、受講者の積極的な参加が必要とされる授業である。全員でアイデアを出しあい、また互いの意見を尊重しながら協力してグループワークを行うことが要求されることを理解した上で受講登録すること。
- ・ ほぼ毎回行われるメディア・テキスト分析は日常点であるとともに、この講義の集大成であるメディア制作課題の練習・準備でもあるので、毎回の出席と能動的な参加が必須である。初回に授業の進め方や課題、評価方法について詳細な説明をするとともにアンケートも行うので、第1回目から必ず出席すること。
- ・ QRコードシールを毎回持参すること。
- ・ 遅刻は他の受講者の迷惑になるだけでなくグループ活動などに支障をきたすので、厳しく対処する。レジュメや資料等は、授業開始から30分以降は一切配布しないので注意してほしい(病欠ややむを得ない事情を除く)。

教科書 / Textbooks

教科書は特に指定しない。必要に応じて授業中にレジュメや資料を配る。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
新版 Study Guide メディア・リテラシー[入門編]	鈴木みどり編／リベルタ出版／4947637595／
メディア・リテラシーへの招待	国立教育政策研究所編／東洋館出版社／4491019487／
メディア・リテラシーの現在と未来	鈴木みどり編／世界思想社／4790708969／
メディア・リテラシー教育:学びと現代文化	D. バッキンガム著、鈴木みどり監訳／世界思想社／4790712265／
その他、適宜授業中に紹介する。	

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

Media Awareness Network <http://www.media-awareness.ca/english/index.cfm>
 FCT メディア・リテラシー研究所 <http://www.mlpj.org/index.shtml>

その他 / Others

担当者名 / Instructor 篠木 涼

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

多種多様なイメージが氾濫する現代社会において、私たちは常にイメージに取り囲まれている。そのシステムを理解することは、自己を再認識することにつながる。本講義では、各時代の最先端でイメージおよび映像を生み出してきた芸術作品を、社会学および哲学的な観点から検討する。

到達目標 / Attainment Objectives

テクノロジーの発達と切り離すことのできない芸術動向と、そこから事後的に生まれる社会の変容とを理解することによって、映像メディアと自己との関係を認識してほしい。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	イントロダクション	メディア・アート・テクノロジー
第2回	テクノロジーの発達と社会の変容(1)	産業革命と社会の変化
第3回	テクノロジーの発達と社会の変容(2)	写真・映画の発明
第4回	テクノロジーの発達と社会の変容(3)	テレビの発明
第5回	後期資本主義のイメージシステム	CM・広告・イメージ戦略
第6回	キッチュの氾濫	大衆・娯楽・物質主義
第7回	アウラの消失	ベンヤミン・芸術作品の意義の変容
第8回	シミュラクルとシミュレーション	ボードリヤール・予定調和的社会
第9回	作者の死	バルト・芸術の終焉・主体の変容
第10回	開かれた作品	インタラクティビティ
第11回	映像の遍歴	映画・TVドラマ・CM
第12回	映像・イメージ・身体(1)	ビデオ・アート・その位置づけ
第13回	映像・イメージ・身体(2)	ビデオ・アート・知覚への挑戦
第14回	映像・イメージ・身体(3)	ビデオ・アート・新たな認識
第15回	確認テストと解説	テスト60分・解説30分

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(検証テスト)	60 %	
平常点(日常的)	40 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

講義中に適宜指示します。

教科書 / Textbooks

使用しません。

参考書 / Reference Books

講義中に適宜指示します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

講義中に適宜指示します。

その他 / Others

メディア技術史 S

15515

担当者名 / Instructor 宮下 晋吉

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

ケータイ・携帯電話やデジタルハイビジョン放送などメディアの技術進歩は日進月歩である。本講は、マクルーハンなどのメディア論をふまえ、中世のグーテンベルクの活版印刷術の発明から、今日のインターネット、ケータイ、ユビキタスまで、メディア技術がどのように発展してきたのかを具体的に明らかにする。

到達目標 / Attainment Objectives

次の3点をめざす。

- 第一に、メディア論をふまえたメディア技術史全体の流れの理解
- 第二に、歴史に登場した各メディア技術の社会的意味を検討、考察すること
- 第三に、写真、映画、テレビ等の映像メディア技術をはじめ歴史的に最も重要なメディア技術の原理の基礎の理解

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「現代とメディア」は履修していることが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	メディア・技術・社会	ケータイをめぐって、メディアとは、メディア技術史とは
2	グーテンベルクの銀河系(その1)	「42行聖書」、M. マクルーハン、マクルーハンのメディア論、「人間の拡張」
3	グーテンベルクの銀河系(その2)	紙とインク、ブックの誕生、J.グーテンベルク、活版印刷術の発明
4	電子メディアの誕生	腕木式通信から電信へ、近代テレコミュニケーション技術としての電信と電話、モールスとベル
5	電子とは、電波とは？	マックスウェルの電磁気学、ヘルツと電磁波の発見、マルコーニと無線電信の発明
6	写真と映画の発明	ニエプス、ダゲール、タルボットと近代写真術、エジソンとリュミエール兄弟
7	エジソンと音の複製	フォノグラフからグラモフォンへ
8	ラジオの発明	クルックスの「予言」？、真空管、ドゥ・フォレスト、「第三帝国の同調装置」か？
9	テレビの発明	ブラウン管とニブコー円盤、ツオリキンとアイコノスコープ(撮像管)
10	コンピュータの誕生	コンピュータの起源、ENIACとフォン・ノイマン、ノイマン型コンピュータ
11	シリコンバレーの一粒の麦	電子部品の発達、トランジスターからICへ、R.ノイス
12	シリコンバレーの夢	マイクロプロセッサの発明からグーグルまで
13	インターネットヒストリー	S.ジョブズ、ビル・ゲイツとパソコンの発明、アーパネットからインターネットへ、M.アンドリーセン
14	ユビキタスとユビキタス社会	M.ワイザーと坂村健、トロンと組み込みコンピュータ、ICタグ
15	マクルーハン再論	L.マンフォードとマクルーハン、メディア史の時代区分、「テトラッド」—メディアの栄枯盛衰

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

授業中に指示する参考文献を学習することが望まれる。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	80 %	
平常点(日常的)	20 %	授業中に実施するミニレポートやコミュニケーションペーパーなどから評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

理論的ベースに関わるテキストのエッセンス、必要最小限の部分は、講義資料として配付するのでそれをよく読むこと、また各メディア技術の原理の基礎に関しては、授業中にできるだけいねいに解説することを心がけるが、不明の点があればその次の回の授業のときに質問すること。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
メディア論 人間の拡張の諸相	M. マクルーハン / みすず書房 / ISBN4-622-01897-7 /
ゲーテンベルクの銀河系 活字人間の形成	M. マクルーハン / みすず書房 / ISBN-4-622-01896-9 /
複製技術時代の芸術	W. ベンヤミン / 晶文社 / ISBN4-7949-1266-8 /
20世紀のメディア①エレクトリックメディアの近代	水越伸篇 / ジャストシステム / ISBN4-88309-081-7 /

毎回それに添って授業を進めるという意味でのテキストではないが、授業の理論的ベースに関わるテキストとして

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
新版電気の技術史	山崎俊雄、木本忠昭 / オーム社 / ISBN4-274-12914-4 /
目で見えるデジタル計算の道具史	キトウェル、セルージ / ジャストシステム / ISBN4-88309-096-5 /
ゲーテンベルク聖書の行方	富田修二 / 図書出版社 / ISBN4-8099-0504-7-C0090 /
起業家エジソン 知的財産・システム・市場開発	名和小太郎 / 朝日新聞社 / ISBN4-02-259771-2 /
電子立国日本の自叙伝	相田洋 / NHK出版 / ISBN4-14-084007-2他 /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

映画(キネマトグラフ)や蓄音機(フォノグラフ)の発明者エジソンについて:
<http://edison.rutgers.edu/papers.htm>

その他 / Others

メディア社会専門特殊講義 S

20291

担当者名 / Instructor 神谷 雅子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

20世紀を「映像の世紀」とする観点から、世界に大きな影響を与えているメディアとしての「映画／映像」についての理解を深める。テレビと映画との違いや、プロデュースすることについての基礎的な知識の習得、現場のプロデューサーや監督などの実践的な講義も予定。おもに、映画の制作現場からのアプローチをしていく。

到達目標 / Attainment Objectives

映画／映像メディアの果たしてきた役割、および果たしている役割の理解。

プロデューサーとは、どのような仕事であるのかの理解。

映画／映像メディアの今後の可能性、重要性についての理解

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	映画の発明、初期の映画について	リュミエール兄弟、エジソン
第2回	映画発達の歴史 ジャンル映画の確立	記録映画、劇映画、音楽映画、アニメーション映画
第3回	テレビの発明とその歴史	写真の電送からテレビへ
第4回	テレビと権力の関係～GHQ支配下の日本	日本テレビによる、日本でのテレビ放送の開始とその背景 正力松太郎
第5回	映画とテレビの違い	娯楽の王様の座 1950年代後半
第6回	映画、映像製作の現場	プロデューサーと監督、ディレクター、
第7回	映画「映画監督って何だ」メイキング鑑賞	日本映画監督協会
第8回	映画「映画監督って何だ」鑑賞	
第9回	ゲストスピーカー 監督あるいはプロデューサー	
第10回	テレビ作品の鑑賞	
第11回	映画作品の鑑賞	
第12回	ふたたび映画とテレビの違いについて	意見交換
第13回	テレビ視聴率と映画の興行収入	
第14回	映画／映像メディアの可能性とその未来	
第15回	映像をプロデュースすること。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

30分以上の遅刻は認めない。授業中の私語、携帯電話の使用厳禁、注意してもやめない場合は退出を求める場合もある。

出席は取らない。映画をたくさん見て欲しい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	80 %	設問に対する解答の内容で理解度をはかる。
レポート試験	10 %	映画館での上映作品、学内上映会での上映作品(有料)を指定して、感想レポートを提出。
平常点(日常的)	10 %	授業後のコミュニケーションペーパーで理解度をはかる。出席はとらない。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
映画プロデューサーの基礎知識	キネマ旬報映画総合研究所編／キネマ旬報社／4-87376-620-6／
映画ビジネス現在と未来	ジェイスン・E・スクワイヤ編／晶文社／4-7949-6132-4／
映画館ほど素敵な商売はない	神谷雅子／かもがわ出版／978-4-7803-0134-2／映画興行における映画館の役割を詳述。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

メディア社会論 S

15449

担当者名 / Instructor 今田 絵里香

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

メディアとはなんだろうか。社会においてどのような働きをしているのだろうか。このことを問い直す。メディアとは単なるコミュニケーションのツールではない。また、メディアがおこなっていることは、単なる情報の伝達ではない。メディアにまつわるそれぞれの「常識」「固定観念」をまずは取り払ってほしい。そして、メディアについてもう一度考え直してもらいたい。

到達目標 / Attainment Objectives

メディアを社会構造から捉える力を養うこと。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	メディア社会論	マスメディアをどう捉えるか
2	社会的行為	社会的に構築されるふるまい
3	テキストと読み手	フランス哲学、エスノメソドロジー
4	構造化の理論	ギデンズ
5	ハビトゥス①	ブルデュー
6	ハビトゥス②	ブルデュー
7	権力と象徴闘争	ブルデュー
8	メディアとは何か	「客観的世界像」の創出
9	科学とメディア	科学は何を作り出すのか
10	階層とメディア	正統文化の創出
11	ジェンダーとメディア	ジェンダー知の創出
12	サブカルチャー	正統文化と下位文化
13	メディアとコミュニティ	メディアにおけるコミュニティ、ネットワーク
14	メディアとジェンダー・カテゴリー	ジェンダー・カテゴリー
15	教育とメディア	学校文化と反学校文化

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	
平常点(日常的)	50 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

・特別な事情がある場合を除き、遅刻と途中退室は認めない。

教科書 / Textbooks

プリントを用いるため、特に使用しない。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『「少女」の社会史』	今田絵里香／勁草書房／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

講義中に適宜指示を行う。

その他 / Others

メディア制作I SA

13080

担当者名 / Instructor 奥村 信幸

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

- ・映像撮影の基礎を理解し、実践してみる。
- ・ニュース制作の企画、取材、構成、編集の一連の作業を通じて実践的ジャーナリズムを体感する。
- ・制作過程を通じて現在メディアで流通している映像に関し批評し改善のための提案ができる能力を養う。

到達目標 / Attainment Objectives

自分の周囲の出来事を発見し、それを撮影・構成・編集してビデオ・パッケージとしてまとめる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	クラス案内・導入のはなし	
第2回	ビデオカメラによる撮影(1) フレームを決める	
第3回	ビデオカメラによる撮影(2) 画面に必要な情報の選別	
第4回	映像の文脈(1)基本的なルール	
第5回	映像の文脈(2)映像の意味	
第6回	企画書を書く(1)何を見つけるか	
第7回	企画書を書く(2) おもしろさとは何か	
第8回	取材の基本とルール	
第9回	取材と構成(1)情報を記録し整理する	
第10回	取材と構成(2)粗編集・話の流れをつくる	
第11回	ナレーション(1)書き言葉と話し言葉	
第12回	ナレーション(2)効果的な音声の使い方	
第13回	編集と演出(1) わかりやすさと正確さ	
第14回	編集と演出(2) 字幕も重要	
第15回	上映会と討論	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	各週に課す課題、最終成果物の出来で判断。

クラスの外での取材や撮影、編集などの時間が、あなたの想像している以上に必要になります。
中途半端な気持ちでは受講できません。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

- ・クラス外で行う各自の課題が中心です。要領のいい人でもクラスの10倍以上の時間を費やすことを覚悟してください。
- ・ビデオカメラは貸し出しますが、自前のハンディカムを持っていることが望ましいと思います。

教科書 / Textbooks

- ・クラス内で指示する。

参考書 / Reference Books

- ・クラス内で指示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

メディア制作I SB

13092

担当者名 / Instructor 津田 正夫

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

この百年は映像の創出と発展の世紀であった。なかでもニュース報道における映像ジャーナリズムの発展と、事象内部を掘り起こし制作者の視点で真実を再構成するドキュメンタリー、現場からの同時中継などの表現形式は、社会に大きな影響を与えてきた。この授業は、写真にはじまり記録映画、ドキュメンタリーにいたる発達と作品を検討し、さらに現代において映像ドキュメンタリー(とりわけ戦争報道や表現)における実際の制作・演出・露出過程の諸相を、各人の研究報告とワークショップ形式を中心に考え、ドキュメンタリー表現の形式の構造と課題にせまる。

到達目標 / Attainment Objectives

- ・映像ジャーナリズム、ドキュメンタリーの成立の構造を理解する
- ・ドキュメンタリー映像という表現形式の構造や課題を理解する
- ・制作主体、取材対象、オーディエンスの関係性をダイナミックにつかむ

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

近代史
ジャーナリズム関係
映画関係

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	いま、なぜ、誰に何を伝えるか ~きょうのニュースから~	映像ジャーナリズムの諸相、ニュース、ドキュメンタリー
2	写真と映像の時代がやってきた	写実、カメラ、ジャンセン、リュミエール、グリフィス、見世物
3	ドキュメンタリーのはじまり	モンタージュ、ドキュメンタリー、社会的映像、戦争記録
4	フラハティとグリアスン	ドキュメンタリーの的方法論、危機の時代、映画運動、プロパガンダ *「企画」の出し方
5	レポートテーマの提案と編成	企画書提出とテーマ絞込み
6	プロパガンダ	国家利益、ナショナリズム、ゲッベルス、イラク戦争報道
7	日本のドキュメンタリー	亀井文夫、岩波映画
8	ドキュメンタリーと演出 現場から*	『はげわしと少女』、北朝鮮報道、『ドキュメンタリーは嘘をつく』
9	私的ドキュメンタリーの可能性	河瀬直美、原一男
10	研究発表(1)	
11	研究発表(2)	
12	研究発表(3)	
13	研究発表(4)	
14	研究発表(5)	
15	ドキュメンタリーとは何か	戦争記録・報道をめぐって、映像の多義性(発信/受容)

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	
平常点(日常的)	50 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

後半は受講者自身が設定した実際の映像課題についてレポートし、ワークショップ形式による討論によって、課題を明確にしていきます。積極的な参加が必要です。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
ドキュメンタリー映画の原点	谷川義雄 / 風濤社 / /
ドキュメンタリー映画の地平	佐藤真 / 凱風社 / /
テレビジャーナリズムの現在	津田正夫編 / 現代書館 / /

ニュースキャスター エド・マロー

田草川弘／中公新書／／

映像学原論

植条則夫編／ミネルヴァ書房／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

授業の概要 / Course Outline

メディアは実際に自分でやってみなければ何もわからない。

主に本年度前期の専門特殊講義II(ビデオジャーナリズム論)履修者を対象に、ビデオジャーナリズム論で学んだビデオジャーナリズムの理論を実習形式で実践する。より具体的には、履修者自身がビデオカメラを使って自ら企画したテーマに沿って取材・撮影を行い、自ら執筆した原稿に基づくナレーションを吹き込み、1本のレポートを最後まで作りきることを最終目標とする。パソコンを使ったビデオ編集の基本も学ぶ。

優れたレポートは、神保ゼミの学生たちが運営するインターネット放送局『VJ道場』(www.vjdojo.net)で公開することも可能。また、更に優れたレポートは、KBS京都などの地上波放送局でも放送される可能性がある。

尚、本クラスはビデオジャーナリズム論が履修済であることを前提にカリキュラムが組まれてるため、ビデオジャーナリズム論が未履修の学生が本講義を履修する場合は、『ビデオジャーナリズム カメラを持って世界に飛び出そう』(神保哲生著・明石書店刊)などを熟読し、ビデオジャーナリズムの理論について最低限の知識を得ておく必要がある。

また、本クラスはあくまで基礎的な実習クラスのため、ここで学んだことを翌年神保ゼミが主宰するインターネット放送局『VJ道場』で更に発展させていくことが強く望まれる。

尚、本クラスの履修希望者が定員を上回る場合は、面接を実施する場合がある。

到達目標 / Attainment Objectives

ビデオカメラの基本的な操作と基礎的な撮影技術の体得。

ビデオの特性に対する実践的理解。

パソコンを使った映像編集の基礎技術の体得。

報道取材の基礎知識の習得。

一般公開に求められる質と信用性のレベルに対する理解。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

事前に専門特殊講義(ビデオジャーナリズム論)を履修していることが強く望まれる。未履修者が本講義に登録する場合は、『ビデオジャーナリズム』(神保哲生著・明石書店刊)を熟読し、ビデオジャーナリズムの理論に予め精通しておく必要がある。また、本クラスはあくまで基礎的な実習クラスのため、ここで学んだことを翌年のゼミ活動等を通じて更に発展させていくことが強く望まれる。尚、本クラスの履修希望者が定員を上回る場合は、面接を実施する場合がある。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	実際にビデオに触ってみる	
2	ビデオ撮影入門1	
3	ビデオ撮影入門2	
4	ビデオ撮影入門3	
5	ビデオ撮影入門4	
6	ビデオ撮影入門5	
7	ビデオ撮影入門6、企画1	
8	ビデオ撮影入門7、企画2	
9	ビデオ撮影入門8、企画3	
10	ビデオ編集1	
11	ビデオ編集2	
12	ビデオ編集3	
13	ビデオ編集4	
14	作品講評	
15	作品講評	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

前半は講義形式で授業を行うが、生徒がカメラの基本的な撮影技術とパソコン編集の知識を身につけた後は、各自が個別に自分の課題の制作にあたる。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	30 %	
平常点(日常的)	70 %	

本クラスは専門特殊講義(ビデオジャーナリズム論)でビデオジャーナリズムの理論を事前に学んだ生徒に対して、その理論を実際に実践する場を提供することを意図して設計されている。そのため、本クラスを履修する場合は、事前に専門特殊講義II SA(ビデオジャーナリズム論)を履修していることが強く望まれる。

また、仮に何らかの理由で専門特殊講義II SA(ビデオジャーナリズム論)を履修していない生徒が本クラスの履修を希望する場合、教科書の『ビデオジャーナリズム論』(神保哲生著・明石書店)を熟読し、ビデオジャーナリズムの理論にあらかじめ精通しておくことが求められる。

カリキュラムも、それを前提に設計されている。尚、履修希望者多数の場合、面接を実施する場合がある。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

メディアに関心があり、特に映像ジャーナリズムに関心の高い生徒は学ぶところの多い授業となるであろう。また、既存のメディアが抱えるさまざまな問題に敏感な生徒にとっても、本クラスは得るところの多いものと思われる。

前期の専門特殊講義(ビデオジャーナリズム論)と本クラスを履修した生徒の多くが、3回生時に神保ゼミに参加し、そこでゼミ生の運営するインターネット放送局『VJDOJO』の運営に携わることで、将来日本のメディアの中核を担っていくことができる人材を育てることが、本クラスの究極的な目標である。

本クラスの履修者は希望すれば、履修時からVJDOJOへの参加も可能である。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
ビデオジャーナリズム カメラを持って世界に飛び出そう	神保哲生 / 明石書店 / 978-4750323589 / 必須

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
ジャーナリズムの原則	コバッチ他 / 日本経済評論社 / 978-4818814479 /
日本人のための憲法原論	小室 直樹 / 集英社インターナショナル / 978-4797671452 /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

www.jimbo.tv
www.videonews.com
www.vjdo.net

その他 / Others

メディア制作II SB

15554

担当者名 / Instructor 小泉 秀昭

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

テーマ:「広告プランニング実習」

本講義では、企業の広告コミュニケーション活動に影響を及ぼす外部的要因および内部的要因の分析から広告表現、媒体戦略、販売促進活動、イベントプランの立案まで幅広い内容をカバーし、グループ単位でトータル広告プランを立案しプレゼンテーションまで行う。

到達目標 / Attainment Objectives

企業およびその他組織が行う広告活動に則し、広告表現開発、媒体プラン等を作成できる知識の習得を目指す。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

広告論Iを履修していることが望まれる

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	講義内容の説明(サンプルプランの解説)	
2	ケーススタディ	ハイチオールC
3	広告活動に関わる内部・外部環境の分析	PEST分析、3C分析
4	広告を行なうブランドの分析	ポジショニング分析/SWOT分析など
5	ブランドを取り巻く課題の分析	AMITUL分析、The day in the life
6	広告調査	定性調査、定量調査
7	ケーススタディ(ニーズ分析)	ロシアのマクドナルドの分析
8	中間プレゼンテーション	
9	広告表現戦略分析	クリエイティブブリーフの作成
10	広告表現制作	TVストーリーボード・プリントラフスケッチ等
11	媒体戦略立案	マスメディア、イベント、PR
12	トータル広告プランの整理	
13	グループごとのプレゼンテーションと討議(1)	
14	グループごとのプレゼンテーションと討議(2)	
15	グループごとのプレゼンテーションと討議(3)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

グループおよび個人の課題が多く、授業外での作業時間のとりにくい学生には不向き。出席を重視するうえ、授業外での学習がかなり多いため、履修に関しては慎重に検討すること。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	60 %	グループごとの広告プランの提出およびプレゼンテーションの内容および個人のプランで評価
平常点(日常的)	40 %	授業中のプレゼンテーションや討議に参加したかなど、積極性について評価(10%)、また毎回出席を取り、出席の状況で評価を行なう(30%)。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

出席を重視し、授業外のグループ活動もあるため、時間の余裕のない学生には不向き

教科書 / Textbooks

特になし、毎回プリントを配布

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
	///

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

特になし

メディア調査法 S

15486

担当者名 / Instructor 登丸 あすか

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本講義では、メディアに関連する調査法について学ぶ。具体的には、効果研究、利用と満足研究、オーディエンス研究などのメディア研究の事例を用いて、調査結果の読み方とそこに潜む政治性の発見に重点を置く。また、メディアを分析対象とする調査や、世論調査、視聴率調査などメディアが実施する調査を分析対象として取り上げ、調査する側とされる側の関係性、メディアが調査した結果がメディアを通じて伝えられることの意味について問い直す。講義は大きく3つのパートに分かれている。パート1では、メディア調査の方法論を学ぶにあたって必要な理論や過去に行われた様々な調査事例を紹介する。パート2では調査の技法として、準備段階からメディア別の調査方法までを取り上げる。パート3では、メディアに関する調査の結果をクリティカルな視点で読み解いていく。

到達目標 / Attainment Objectives

- ・それぞれのメディアが持つ特性について理解し、調査方法との関連性を見出す。
- ・実際に行われている調査の実態を把握し、理解を深める。
- ・クリティカルな視点でメディアに関する調査を分析する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	メディア調査を学ぶとは何か	
2	メディア調査の方法論1	メディア調査とは何か / 理論とマス・メディア
3	メディア調査の方法論2	メディア研究と調査
4	メディア調査の方法論3	受け手研究とメディア調査1
5	メディア調査の方法論4	受け手研究とメディア調査2
6	メディア調査の方法論5	カルチュラルスタディーズのオーディエンス研究
7	メディア調査技法1	メディア調査と準備
8	メディア調査技法2	アンケート調査
9	メディア調査技法3	インタビュー調査
10	メディア調査技法4	インターネットと調査
11	メディア調査技法5	メディアの歴史と調査
12	メディア調査の分析1	調査内容の量的分析手法
13	メディア調査の分析2	内容分析の手法
14	メディア調査の分析3	言説分析の手法
15	まとめ メディアの調査から見えてくるもの	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	70 %	客観問題と論述問題を併用
平常点(日常的)	30 %	それぞれのパート終了時(合計3回)に、理解度を知るためのコメントの提出を求める。

講義開始から30分経過した時点でレジュメなどの配布を中止する。以後、一切配付しない。遅刻をしないように注意すること。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

講義中に適宜紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

担当者名 / Instructor 瓜生 吉則

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

テーマ:テレビ視聴者と／のバラエティ

現在の日本のテレビは「バラエティ」にあふれている。言い換えれば、「ニュース」も「情報番組」も「お笑い」も、すべてが「バラエティ」という括りでひとまとめにできてしまえる、つまり「総バラエティ化」と呼べるような状況になっている。こうした状況は、どのような歴史的経緯を経て出現したのか。そして、われわれ視聴者は、そうした「バラエティ」あふれる(あるいは、「バラエティ」ばかりの)現在のテレビと、どのように関わっているのか。本講義では、テレビ番組やテレビを題材にした映画などを資料としながら、戦後日本社会において「テレビ視聴者」の位置がどのように変化してきたのかを考察していく。

到達目標 / Attainment Objectives

テレビが視聴者をどのように構成し、また視聴者がテレビというメディアからどのような「本当らしさ(リアリティ)」を感受しているのか、自身のテレビ体験を相対化しながら、テレビが編制する<メディア文化>について言語化できるようになること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

講義担当者による前期科目「メディア理論」

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス テレビ視聴者とバラエティ	
2	「観客」から「視聴者」へ	
3	舞台の「裏」とはどこか?	
4	「素」を見ることの快楽	
5	画面に映っているのは誰か?	
6	テレビにとって「リアリティ」とは何か?・1	
7	テレビにとって「リアリティ」とは何か?・2	
8	「見る」と「見られる」ことのあいだ・1	
9	「見る」と「見られる」ことのあいだ・2	
10	「リアリティ」の作り方・1	
11	「リアリティ」の作り方・2	
12	「リアリティ」の作り方・3	
13	「ただの現在」としてのテレビ・1	
14	「ただの現在」としてのテレビ・2	
15	まとめ テレビ視聴者のバラエティ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	60 %	授業で扱ったいくつかのテーマから、受講者の関心に基づいてひとつのテーマを選び、それについて論述する(8000字以内のレポートを予定)。
平常点(日常的)	40 %	第5回と第9回頃に小レポート(2000字程度)を課す。最終レポートを含め、計3回のレポートをすべて提出した者のみ成績評価対象とする。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
社会は笑う—ボケとツッコミの人間関係	太田省一／青弓社／／
嗤う日本の「ナショナリズム」	北田暁大／NHKブックス／／
その他、講義の進行に合わせて適宜指示する。	

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

メディア理論 S

13086

担当者名 / Instructor 瓜生 吉則

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

あるものとあるものとの「あいだ」にあって両者を媒介するもの。それがメディアである。しかし、それは単に「情報」をそっくりそのまま乗せて届けるパイプや箱のようなものではない。その「あいだ」が「情報」のカタチを変えることもあれば、私たちのコミュニケーションの形式を規定することもある。本講義では、私たちの日常的なコミュニケーションを媒介する様々な「メディア」について考えるための理論的な枠組を、活字・ラジオ・テレビ・インターネットなどを素材にしながら紹介していく。

到達目標 / Attainment Objectives

「メディア」の力学について敏感になり、その作用について考え、言語化できるようになること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス <メディア>について考えるとはどういうことか	
2	洞窟での／からの景色 メディアを「信じる」ということ	
3	ドン・キホーテの銀河系 活字を読む経験	
4	輿論と世論 大衆社会の中の新聞	
5	火星人が来た！ ラジオとプロパガンダ	
6	いつでも、どこでも、同じもの 複製技術時代のアウラ	
7	「現場」で見える／茶の間で見る テレビとメディア・イベント	
8	その意見は本当に「あなたのもの」ですか？ 効果研究の展開	
9	メディアはメッセージである マクルーハンの誘惑	
10	そのメディアは何色ですか？・1 メディア・リテラシー論とトロント学派	
11	そのメディアは何色ですか？・2 カルチュラル・スタディーズ	
12	「本を読む」とは何事か 読書論の射程	
13	プロレス化する社会 高度情報化時代のテレビ	
14	もし地球がひとつの村だったら インターネットと「グローバル・ヴァレッジ」	
15	まとめ <メディア>について(さらに)考えるために	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	基本概念や語句の理解、および「メディア」についての洞察力を試す問題を課す。答案の構成や論理性を重点的に評価する。
授業終了時に提出するレスポンスカードで内容の理解度を評価する場合もあるが、基本は定期試験で評価する。		

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
マスコミの受容理論	佐藤毅 / 法政大学出版局 / /
現代メディア史	佐藤卓己 / 岩波書店 / /
その他、講義の進行に合わせて適宜指示する。	

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

メディア倫理 S

20286

担当者名 / Instructor 柳澤 伸司

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

マスメディアにおけるプライバシーの侵害や集団的過熱取材など取材・報道をめぐる倫理的問題が大きく問われています。巨大な影響力を持つがゆえにその社会的責任も大きいといえます。同時に、メディアを規制する法制化の動きなどが加速しており、言論・表現の自由、とりわけ民主主義社会の根幹と深く関わっているジャーナリズム活動に大きな影響を及ぼしかねない状況にあります。この授業ではジャーナリズム活動が市民社会のなかで制約されるとどうなるのかをまず歴史的に振り返り、メディアの報道・言論活動はいかにあるべきか、権力を監視するメディアの倫理とはどのようなものなのか、過去のメディアのあり方を検証しながら、最近の具体的な問題や事例に即しながらメディアの法制的諸問題と倫理的諸ルールについて考察します。

到達目標 / Attainment Objectives

この授業を通して、メディア倫理の問題について基本的な知識を獲得し、自ら関連する課題認識の枠組みを獲得することができることを到達目標とします。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

ジャーナリズム論

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	オリエンテーション～授業の概要と進め方(内容の視点)	メディア倫理を考える枠組み
第2回	戦前日本のメディア状況と規制法	新聞人の反省、言論法制とメディアの規制、戦時体制、言論統制
第3回	言論表現に対する規制と新聞人	新聞人の態度、知識人の視線、朝日新聞社宣言「国民と共に立たん」、日本新聞協会・新聞倫理綱領
第4回	言論表現の自由と占領下の二重基準	占領期の日本の新聞界、レッド・パージの問題点、「自由」の本質、報道倫理の構築
第5回	民主主義とメディアを考える 国家秘密とメディアの責務～沖縄密約事件から	国家秘密と知る権利、アクセス権、取材の自由とプライバシー、外務省密約事件、記者の倫理
第6回	皇室報道とメディアを考える 皇室報道に求められるメディアの倫理とは何か	「風流夢譚」事件、紀子妃の右手、表現規制とタブー
第7回	犯罪報道とメディア 犯罪報道にメディアはどのような役割を果たさなければならないか。	犯罪報道の犯罪、少年犯罪実名報道、犯罪被害者
第8回	集団的過熱取材と報道規制 誰が実名発表・匿名発表を判断するのか。	人権擁護法、市民的自由
第9回	記者の仕事 報道は誰のためにあるのか。ドラマ表現から何が読み取れるか。	桶川ストーカー殺人事件、写真週刊誌
第10回	取材と報道のバランス 取材のモラルとは何か。記者は何を、どこまで取材すべきなのか。	脱線事故報道検証、取材のモラル
第11回	放送と表現の自由 表現の自由は何のためにあるのか。なぜ、自己規制が起きるのか。	放送禁止歌、法的規制、表現の自由
第12回	捏造・やらせ・嘘・改ざん 表現者に何が求められるのか。視聴者・読者は何を求めるのか。	発掘!あるある大事典2
第13回	報道か人命か～ジャーナリストの使命とは ピューリッツ賞「ハゲワシと少女」(ケビン・カーター)写真論争から何を考えなければならないか。	フォト・ジャーナリズム、報道写真
第14回	戦争報道 戦争報道は何を伝え、何が伝えられないか。戦争報道で何を伝えるべきなのか。何のための戦争報道なのか。	戦争報道、権力とメディア、メディア規制
第15回	まとめ～メディアの倫理と私たちの視線	メディア倫理をどう捉えるか

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

この授業では、皆さんに参画してもらう参画型授業を行います。関連するビデオ映像や資料を使って受講生のみなさんが自らの視点で考えてもらうように授業を進めたいと考えています。各自、関心のあるテーマをもとに、グループでビデオ映像と文献を参考に考察して、プレゼンテーションをしていただきます。プレゼンテーションが終わったグループは、他のグループの報告をもとに考察し、講評を掲示板に書き込みます。これらは評価ポイントに加算されます。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	70 %	授業に関連したテーマで作成した課題レポートを指定された期間までにオンライン(メール)提

出。論点や表現的的確性、オリジナリティなどの観点を中心に評価。課題についての理解度、論旨の構成や説得力を重視する。

平常点(日常的) 30 % 授業時に講義内容に関連した課題レポート(小レポートに準ずるもの)を課す。決められた期日までに提出(電子掲示板への書き込み提出)することが求められる。主題に関わる意見的的確性、独自性を中心に評価。

レポートはメール(オンライン)での提出です。授業期間中に出されるレポート(電子掲示板への提出)を全く提出しなかった場合は出席していないと判断します。第1回目に「授業の進め方と評価について」詳細な説明をしますので、受講予定者は必ず出席してください。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

この授業は、はじめに、現在のメディアの法制度的ありようを考える上で過去のメディアのありようを検証していくアプローチをとります。そこから現在のメディア倫理の問題を考える視点を獲得するものです。最初は文献資料などを紹介しながら考察していきます。その後、映像(ビデオ)などを活用し、受講者の皆さんには問題意識を深めていただき、何を考えていくべきなのか認識を深めるような参加型の授業としていきます。授業中の私語は他の受講者の迷惑になるので厳しく対処します。また、配布物等がある場合は授業時教室以外では配布しません。

教科書 / Textbooks

特に指定しません。必要に応じて文献資料等を紹介します。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『メディアの法と倫理』	大石 泰彦 / 嵯峨野書院 / /
『法とジャーナリズム』	山田 健太 / 学陽書房 / /

その他、授業時に適宜紹介します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

余暇・スポーツ史 S

13136

担当者名 / Instructor 有賀 郁敏

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

不幸にして「余暇」と訳されてしまった狭義の非労働時間は、この言葉から派生するやや消極的な意味とは裏腹に、われわれの生命や生活に固有でかけがいのない意味を付与することもある。それゆえ「余暇」を欠落させた生活を考えることは、現代社会ではもはやリアリティを欠いているといってもよいだろう。日本とヨーロッパの生活史をひもとくなら、「余暇」が娯楽性のみならず、民衆にとって多様で重要な意味をもっていたことに気づく。じつは、この民衆の「余暇」活動をいかにして管理していくのかは国家をはじめとした諸権力にとって非常に重要な課題であったのである。本講義では広範囲にわたる「余暇」活動のなかから、幾つかのサブテーマを選び取り、「余暇」の実相と権力との関連に迫りたい。

到達目標 / Attainment Objectives

- ①余暇・スポーツの諸事象を歴史学、社会科学の視点から考察することの意義を理解できる
- ②文化あるいはスポーツと諸権力の関係を理解することができる

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

スポーツ文化論、スポーツ社会学

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	余暇・スポーツの歴史を学ぶということ	余暇・スポーツ、歴史学、講義の進め方、評価
第2回	近代イギリスの「合理的娯楽」運動①	シャリバリ、民衆娯楽、賭け、アニマルスポーツ
第3回	近代イギリスの「合理的娯楽」運動②	カウンターアトラクション、福音主義
第4回	ビデオ鑑賞	映画「プラス」、労働者文化
第5回	「ハリイ・ポッター」の世界:パブリックスクールと近代サッカー	パブリックスクール、アーノルド、「自由と規律」
第6回	ヨーロッパにおけるアソシエーション①	公共性、公と個人、アソシエーション、協会組織運動
第7回	ヨーロッパにおけるアソシエーション②	近代ドイツ、男性合唱協会、体操協会、自主消防団
第8回	ヨーロッパにおけるアソシエーション③	社会参加、相互扶助、社会国家
第9回	国民社会主義の余暇・スポーツ①	ワイマール共和国、ナチズム、体制・思想・運動
第10回	国民社会主義の余暇・スポーツ②	大衆動員、歓喜力行団、戦後体制、分断国家
第11回	近代日本における近代化政策と民衆娯楽①	日本における「公私関係」、行政国家
第12回	近代日本における近代化政策と民衆娯楽②	運動会、森有礼、身体の規律化
第13回	近代日本における近代化政策と民衆娯楽③	村の遊び日、祭りと祭祀、民衆世界、自由運動会
第14回	近代日本における近代化政策と民衆娯楽④	国民化と総力戦、国家の体力管理
第15回	余暇スポーツの歴史と歴史意識、現代社会	現代社会、歴史意識

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

- ①講義で配布する資料、紹介する参考文献には必ず目を通すこと
- ②自学自習をしっかりと行うこと

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	講義の各テーマごとの課題を認識できているか 提示された課題に対して歴史学、社会科学の視点から論理的に論じているか
平常点(日常的)	50 %	本講義では毎回、受講生の自学自習の成果を受理するが、それらも評価の対象とする。また、各テーマの最後の時間に簡単なレポートを書いてもらうが、それも評価に加えることとする。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

- ①講義で配布する資料、紹介する参考文献には必ず目を通すこと
- ②自学自習をしっかりと行うこと

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
英国社会の民衆娯楽	R. マーカムソン / 平凡社 / 4-582-47325-3 /
近代ヨーロッパの探究8 スポーツ	有賀郁敏他 / ミネルヴァ書房 / 4-623-03509-3 /
近代日本スポーツ史の底流	高津勝 / 創文企画 / /

スポーツと帝国	A. グットマン／昭和堂／4-8122-9712-5／
運動会と日本近代	吉見俊哉他／青弓社／4-7872-3167-7／
日本の近代化と民衆思想	安丸良夫／平凡社／4-582-76306-5／
ファンズム	山口定／岩波書店／4-00-600159-8／

参考文献は毎回の講義の折により詳細に紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

本講義は、当然のことだが、定刻に始まり定刻に終了する。

講義では、参考文献の中から必要な箇所を印刷して受講生に配布する場合がありますのでファイルを用意して欲しい。

余暇の社会史 S

20379

担当者名 / Instructor 有賀 郁敏

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「余暇」という言葉を一義的に理解することは難しい。たとえば「余暇」を非労働時間とした場合、労働(真面目)との対比において、あるいは労働力の回復、再生産の時間や場としてこの言葉が位置づけられ、「余暇」はやや消極的な意味を付与されるという事態がしばしば生じる。しかし、「余暇」は労働と同様に、否、状況によってはそれ以上に、生命や生活にする固有でかけがいのない意味をわれわれに提供することもある。「余暇」にはまた、現代のわれわれの理解からするとおもよぬ不思議な価値が含まれていることもある。日本とヨーロッパの生活史をひもとくなら、「余暇」が日々の生活、宗教、娯楽など、民衆にとって多様で重要な意味をもっていたことに気づく。じつは、この民衆の「余暇」活動をいかにして管理していくのかは、とりわけ近代以降、国家をはじめとする諸権力にとって非常に重要な課題であったのである。

本講義では、このような広範囲にわたる「余暇」の意味や活動のなかから、幾つかのサブテーマを選び取り、「余暇」の実相と権力との関連に迫りたい。

到達目標 / Attainment Objectives

- ①余暇のありようを歴史学、社会科学の視点から考察することができる
- ②文化あるいはスポーツと諸権力の関係を理解することができる

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

現代とスポーツ、スポーツ文化論、基礎社会学

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	歴史の中の余暇	余暇、歴史学、社会史、社会科学、成績評価
2	余暇と民衆①—前近代社会の暮らしの中の余暇<ヨーロッパ編>	娯楽、シャリバリ、モラルエコノミー
3	余暇と民衆②—前近代社会の暮らしの中の余暇<ヨーロッパ編>	中世の娯楽
4	余暇と民衆③—前期近代社会の暮らしの中の余暇<日本編>	中世、近世の結社と娯楽
5	余暇の世俗化と統制①—啓蒙思想と近代社会	科学の進展、理性、視覚の重視
6	余暇の世俗化と統制②—近代イギリスの「合理的娯楽」運動①	民衆娯楽、福音主義、室内余暇
7	余暇の世俗化と統制②—近代イギリスの「合理的娯楽」運動②	カウンターアトラクション、旅行、リゾート
8	余暇の大衆化と市民化①—市民社会とアソシエーション	ハーバース、市民的公共
9	余暇の大衆化と市民化②—読書協会、合唱協会	議論する公衆、男声合唱、混声合唱
10	余暇の大衆化と市民化③—体操協会、自主消防団	ヤーン、社会参加と相互扶助、1848/49年革命
11	余暇の大衆化と国民化①—万国博覧会と帝国のまなざし	資本主義と進歩の眼差し、文化帝国主義
12	余暇の大衆化と国民化②—運動会の社会史	森有礼、明治国家、通俗道徳、ナショナリズム
13	余暇の大衆化と国民化③—やわらかいファシズム	ファシズム、ナチズム、歓喜力行団、ヘゲモニー
14	新しい時代の余暇①	労働者文化、オールタナティブ
15	新しい時代の余暇②	NPO、新しい社会運動、スポーツ・フォア・オール

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	
平常点(日常的)	50 %	・本講義では毎回、受講生の自学自習の成果を受理するが、それらも評価の対象とする。また、各テーマの最後の時間に簡単なレポートを書いてもらうが、それも評価に加えることとする。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

- ①講義で配布する資料、紹介する参考文献には必ず目を通すこと
- ②自学自習をしっかり行うこと

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
シャリバリ	蔵持不三也 / 同文館 / 4-495-85651-0 /
英国社会の民衆娯楽	ロバート・マーカムソン / 平凡社 / 4-582-47325-3 /
賭博・暴力・社交	池上俊一 / 講談社 / 4-06-258004-7 /
近代ヨーロッパの探究8 スポーツ	有賀郁敏他 / ミネルヴァ書房 / 4-623-03509-3 /
ハマータウンの野郎ども	ポール・ウィルス / ちくま学芸文庫 / 4-480-08296-4 /
参考文献は講義ごとにより詳しく紹介する。	

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

本講義は、当然のことだが、定刻に始まり定刻に終了する。

講義では、参考文献の中から必要な箇所を印刷して受講生に配布する場合がありますのでファイルを用意して欲しい。

現代余暇論 S § 余暇論 S

15506

担当者名 / Instructor 棚山 研

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本講義では、まず人間と社会にとっての余暇・自由時間の意義について説明し、次に近年の日本の余暇の全体的状況を概観・分析し、さらにグリーンツーリズムや「まちづくり」活動などの「新しい余暇活動」について解説していく。そして、そのような余暇活動がいかなる社会的背景を持った人々によって支えられているのか、また、そこから照らし出される現代社会の諸相について、あるいは余暇活動における人々の主体的実践がどのような社会的可能性を持っているのか、について解説する。

到達目標 / Attainment Objectives

労働(あるいはカネ)だけではなく、余暇・自由時間もまた現代の人間と社会にとって、必要不可欠かつ固有の意義を持っていることを理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「産業社会学」、「労働社会学」、「余暇・スポーツ史」、「スポーツ文化史」

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	講義ガイダンス	「カネか時間か」
第2回	余暇の「人間的意義」について—文化的意義と生存的意義— ①文化的意義	「余暇」、スコレー、オティム、産業革命、消費文化、フォーディズム
第3回	余暇の「人間的意義」について—文化的意義と生存的意義— ②生存的意義	肉体的疲労 精神的疲労 レクリエーション
第4回	現代日本の労働時間—国際比較も兼ねて	年総実労働時間 毎月勤労統計調査、労働力調査、週休2日制、有給休暇
第5回	現代日本の余暇活動(1)—余暇に関する意識、支出	自由時間関連支出、「カネか時間か」
第6回	現代日本の余暇活動(2)—余暇活動の実態、およびレジャー産業の動向から見る	NHK国民生活時間調査、テレビ視聴時間、「薄利多売」、余暇市場
第7回	日本の余暇政策をめぐって(1)	「36協定」「前川リポート」
第8回	日本における余暇政策の展開(2)	リゾート・ブーム グリーン・ツーリズム バカンス
第9回	現代日本の余暇活動(3)—「新しい余暇活動」のトレンド、『レジャー白書』より	「自然・健康(いやし)」、「能力向上」、「交流」、「地域活動(社会性余暇)」、「スロー」、IT化、地域
第10回	「新しい余暇活動」について(1)—グリーンツーリズムをめぐって	「いやし」、「まじわり」、「スロー」、カントリーサイド、農村、都会、農業、地域振興、産地交流
第11回	「新しい余暇活動」について(2)—「まちづくり」など「社会性余暇」を中心に	「社会性余暇」、ボランティア、公共事業、地域資源
第12回	「新しい余暇活動」について(3)—「新しい余暇活動」と市民社会	「縁」、楽しみ、公共性、市民社会、市民権
第13回	余暇と「格差社会」	ワークシェアリング 「格差社会」 社会的排除
第14回	まとめ—講義全体を総括しつつ、「余暇社会」の可能性について考える	情報化、脱物質主義、脱消費主義、想像力
第15回	到達度の検証テスト(60分)と解説(30分)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

何よりも日本の余暇問題は労働時間問題である。授業では簡単に触れるに留めるが、他の授業などを通じて、労働時間についての基本的知識(国際比較など)を持っておくことが望ましい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	「これが正解」というものを求める授業ではないので、試験もレポートに準じたものとして、余暇・自由時間についての考え方を問うものになる。
平常点(日常的)	0 %	「余暇に関する適当なテーマ」で個人発表の時間を設ける予定。発表した人には、原則として単位認定する予定。下記「その他」参照。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

主として、データを掲載した資料・レジュメと、板書を使用した講義となる。特にデータの解説の要点は板書するが、詳細は口頭になるので注意すること。例年、受講生が多いので、やり取りはコミュニケーションペーパーを使う予定。

教科書 / Textbooks

使用しない。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『余暇生活論』	一番ヶ瀬康子ほか / 有斐閣 / /
『自由時間』	内田弘 / 有斐閣 / /
『大真面目に休む国ドイツ』	福田直子 / 平凡社(新書) / /
『レジャー白書』2001、2003年版	社会経済生産性本部編 / / /
『働きすぎの時代』	森岡孝二 / 岩波書店(新書) / /
その他、適宜指示する。	

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

適宜紹介する。

その他 / Others

その他、学生参加の授業形態を予定している。授業中、希望者を募り「余暇に関する適当なテーマ」で個人発表の時間を設ける。発表した人には、原則として単位認定する予定。第1回目の授業で希望者を募り、報告日程を決める(日程は講義日日程後半に設定する)。詳しくは授業中に説明する。

担当者名 / Instructor 奥川 櫻豊彦

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

小学校から高校までの作文教育では、社会で役立つ実践的な文章は書けない。社会で求められるのは、自分の日常生活や感情を表現する文章ではなく、事実を報告したり意見を述べたり他人を説得したりする文章だからである。そのような文章は、いずれも論理的な構造をもっていて、一定の手順のもとに作られるものである。

この授業では、大学での学習・研究に必要な不可欠なレポート・論文の作成に必要な知識と技術を解説し、理論的な文章作成法を身に付けてもらうことを目指す。

到達目標 / Attainment Objectives

日本語文章能力検定準2級に合格できる程度の文章能力を獲得する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回(9月29日)	講義の意義と目標	
第2回(10月6日)	文章の部分が持つ役割をとらえる	事実を客観的に述べる
第3回(10月13日)	文章の部分の役割と全体の関係を認識する	文の役割の意味
第4回(10月20日)	文章の部分の役割と全体の関係を認識する	段落の役割の意味
第5回(10月27日)	文章の部分の役割と全体の関係を認識する	要旨と文章展開の関係
第6回(11月3日)	わかりやすい文章を書く	執筆、推敲のための基礎知識
第7回(11月10日)	材料を集めるための技法を見に付ける	ブレイン・ストーミング
第8回(11月17日)	材料集めから主題を見つける	
第9回(11月24日)	主題を分析して材料を集める	
第10回(12月1日)	レポート・小論文の型を知る	
第11回(12月6日)	意見文・論説文の型を知る	
第12回(12月8日)	説得力のある論説文を書く	
第13回(12月15日)	書簡文・通信文についての基本を身につける	
第14回(12月22日)	文章能力達成度評価テスト 概要説明と実施	
第15回(1月19日)	文章能力達成度テストの解説、授業全体のまとめ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	出席点(30%)、課題提出(30%)、評価テスト(40%)

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「文章表現ワークシート」	///

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「日本語文章能力検定2級徹底解明」	日本語文章能力検定協会 ///
「日本語文章能力検定準2級徹底解明」	日本語文章能力検定協会 ///

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

文章能力検定協会ホームページ <http://www.kentei.co.jp/bunken/index.html>

その他 / Others

前期定期試験期間中に「プレメントテスト」を実施予定。1回生は全員受験すること。

担当者名 / Instructor 奥川 櫻豊彦

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

小学校から高校までの作文教育では、社会で役立つ実践的な文章は書けない。社会で求められるのは、自分の日常生活や感情を表現する文章ではなく、事実を報告したり意見を述べたり他人を説得したりする文章だからである。そのような文章は、いずれも論理的な構造をもっていて、一定の手順のもとに作られるものである。

この授業では、大学での学習・研究に必要な不可欠なレポート・論文の作成に必要な知識と技術を解説し、理論的な文章作成法を身に付けてもらうことを目指す。

到達目標 / Attainment Objectives

日本語文章能力検定準2級に合格できる程度の文章能力を獲得する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回(9月29日)	講義の意義と目標	
第2回(10月6日)	文章の部分が持つ役割をとらえる	事実を客観的に述べる
第3回(10月13日)	文章の部分の役割と全体の関係を認識する	文の役割の意味
第4回(10月20日)	文章の部分の役割と全体の関係を認識する	段落の役割の意味
第5回(10月27日)	文章の部分の役割と全体の関係を認識する	要旨と文章展開の関係
第6回(11月3日)	わかりやすい文章を書く	執筆、推敲のための基礎知識
第7回(11月10日)	材料を集めるための技法を見に付ける	ブレイン・ストーミング
第8回(11月17日)	材料集めから主題を見つける	
第9回(11月24日)	主題を分析して材料を集める	
第10回(12月1日)	レポート・小論文の型を知る	
第11回(12月6日)	意見文・論説文の型を知る	
第12回(12月8日)	説得力のある論説文を書く	
第13回(12月15日)	書簡文・通信文についての基本を身につける	
第14回(12月22日)	文章能力達成度評価テスト 概要説明と実施	
第15回(1月19日)	文章能力達成度テストの解説、授業全体のまとめ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	出席点(30%)、課題提出(30%)、評価テスト(40%)

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「文章表現ワークシート」	///

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「日本語文章能力検定2級徹底解明」	日本語文章能力検定協会 ///
「日本語文章能力検定準2級徹底解明」	日本語文章能力検定協会 ///

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

文章能力検定協会ホームページ <http://www.kentei.co.jp/bunken/index.html>

その他 / Others

前期定期試験期間中に「プレメントテスト」を実施予定。1回生は全員受験すること。

ライティングリテラシー SC

10388

担当者名 / Instructor 奥川 櫻豊彦

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

小学校から高校までの作文教育では、社会で役立つ実践的な文章は書けない。社会で求められるのは、自分の日常生活や感情を表現する文章ではなく、事実を報告したり意見を述べたり他人を説得したりする文章だからである。そのような文章は、いずれも論理的な構造をもっていて、一定の手順のもとに作られるものである。

この授業では、大学での学習・研究に必要な不可欠なレポート・論文の作成に必要な知識と技術を解説し、理論的な文章作成法を身に付けてもらうことを目指す。

到達目標 / Attainment Objectives

日本語文章能力検定準2級に合格できる程度の文章能力を獲得する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回(9月29日)	講義の意義と目標	
第2回(10月6日)	文章の部分が持つ役割をとらえる	事実を客観的に述べる
第3回(10月13日)	文章の部分の役割と全体の関係を認識する	文の役割の意味
第4回(10月20日)	文章の部分の役割と全体の関係を認識する	段落の役割の意味
第5回(10月27日)	文章の部分の役割と全体の関係を認識する	要旨と文章展開の関係
第6回(11月3日)	わかりやすい文章を書く	執筆、推敲のための基礎知識
第7回(11月10日)	材料を集めるための技法を見に付ける	ブレイン・ストーミング
第8回(11月17日)	材料集めから主題を見つける	
第9回(11月24日)	主題を分析して材料を集める	
第10回(12月1日)	レポート・小論文の型を知る	
第11回(12月6日)	意見文・論説文の型を知る	
第12回(12月8日)	説得力のある論説文を書く	
第13回(12月15日)	書簡文・通信文についての基本を身につける	
第14回(12月22日)	文章能力達成度評価テスト 概要説明と実施	
第15回(1月19日)	文章能力達成度テストの解説、授業全体のまとめ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	出席点(30%)、課題提出(30%)、評価テスト(40%)

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「文章表現ワークシート」	///

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「日本語文章能力検定2級徹底解明」	日本語文章能力検定協会 ///
「日本語文章能力検定準2級徹底解明」	日本語文章能力検定協会 ///

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

文章能力検定協会ホームページ <http://www.kentei.co.jp/bunken/index.html>

その他 / Others

前期定期試験期間中に「プレメントテスト」を実施予定。1回生は全員受験すること。

ライティングリテラシー SD

10540

担当者名 / Instructor 乾 亨

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

小学校から高校までの作文教育では、社会で役立つ実践的な文章は書けない。社会で求められるのは、自分の日常生活や感情を表現する文章ではなく、事実を報告したり意見を述べたり他人を説得したりする文章だからである。そのような文章は、いずれも論理的な構造をもっていて、一定の手順のもとに作られるものである。

この授業では、大学での学習・研究に必要な不可欠なレポート・論文の作成に必要な知識と技術を解説し、理論的な文章作成法を身に付けてもらうことを目指す。

到達目標 / Attainment Objectives

日本語文章能力検定準2級に合格できる程度の文章能力を獲得する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回(9月29日)	講義の意義と目標	
第2回(10月6日)	文章の部分が持つ役割をとらえる	事実を客観的に述べる
第3回(10月13日)	文章の部分の役割と全体の関係を認識する	文の役割の意味
第4回(10月20日)	文章の部分の役割と全体の関係を認識する	段落の役割の意味
第5回(10月27日)	文章の部分の役割と全体の関係を認識する	要旨と文章展開の関係
第6回(11月3日)	わかりやすい文章を書く	執筆、推敲のための基礎知識
第7回(11月10日)	材料を集めるための技法を見に付ける	ブレイン・ストーミング
第8回(11月17日)	材料集めから主題を見つける	
第9回(11月24日)	主題を分析して材料を集める	
第10回(12月1日)	レポート・小論文の型を知る	
第11回(12月6日)	意見文・論説文の型を知る	
第12回(12月8日)	説得力のある論説文を書く	
第13回(12月15日)	書簡文・通信文についての基本を身につける	
第14回(12月22日)	文章能力達成度評価テスト 概要説明と実施	
第15回(1月19日)	文章能力達成度テストの解説、授業全体のまとめ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	出席点(30%)、課題提出(30%)、評価テスト(40%)

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
文章表現ワークシート	///

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「日本語文章能力検定2級徹底解明」	日本語文章能力検定協会 ///
「日本語文章能力検定準2級徹底解明」	日本語文章能力検定協会 ///

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

文章能力検定協会ホームページ <http://www.kentei.co.jp/bunken/index.html>

その他 / Others

前期定期試験期間中に「プレメントテスト」を実施予定。1回生は全員受験すること。

担当者名 / Instructor 乾 亨

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

小学校から高校までの作文教育では、社会で役立つ実践的な文章は書けない。社会で求められるのは、自分の日常生活や感情を表現する文章ではなく、事実を報告したり意見を述べたり他人を説得したりする文章だからである。そのような文章は、いずれも論理的な構造をもっていて、一定の手順のもとに作られるものである。

この授業では、大学での学習・研究に必要な不可欠なレポート・論文の作成に必要な知識と技術を解説し、理論的な文章作成法を身に付けてもらうことを目指す。

到達目標 / Attainment Objectives

日本語文章能力検定準2級に合格できる程度の文章能力を獲得する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回(9月29日)	講義の意義と目標	
第2回(10月6日)	文章の部分が持つ役割をとらえる	事実を客観的に述べる
第3回(10月13日)	文章の部分の役割と全体の関係を認識する	文の役割の意味
第4回(10月20日)	文章の部分の役割と全体の関係を認識する	段落の役割の意味
第5回(10月27日)	文章の部分の役割と全体の関係を認識する	要旨と文章展開の関係
第6回(11月3日)	わかりやすい文章を書く	執筆、推敲のための基礎知識
第7回(11月10日)	材料を集めるための技法を見に付ける	ブレイン・ストーミング
第8回(11月17日)	材料集めから主題を見つける	
第9回(11月24日)	主題を分析して材料を集める	
第10回(12月1日)	レポート・小論文の型を知る	
第11回(12月6日)	意見文・論説文の型を知る	
第12回(12月8日)	説得力のある論説文を書く	
第13回(12月15日)	書簡文・通信文についての基本を身につける	
第14回(12月22日)	文章能力達成度評価テスト 概要説明と実施	
第15回(1月19日)	文章能力達成度テストの解説、授業全体のまとめ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	出席点(30%)、課題提出(30%)、評価テスト(40%)

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「文章表現ワークシート」	///

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「日本語文章能力検定2級徹底解明」	日本語文章能力検定協会 ///
「日本語文章能力検定準2級徹底解明」	日本語文章能力検定協会 ///

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

文章能力検定協会ホームページ <http://www.kentei.co.jp/bunken/index.html>

その他 / Others

前期定期試験期間中に「プレメントテスト」を実施予定。1回生は全員受験すること。

担当者名 / Instructor 乾 亨

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

小学校から高校までの作文教育では、社会で役立つ実践的な文章は書けない。社会で求められるのは、自分の日常生活や感情を表現する文章ではなく、事実を報告したり意見を述べたり他人を説得したりする文章だからである。そのような文章は、いずれも論理的な構造をもっていて、一定の手順のもとに作られるものである。

この授業では、大学での学習・研究に必要な不可欠なレポート・論文の作成に必要な知識と技術を解説し、理論的な文章作成法を身に付けてもらうことを目指す。

到達目標 / Attainment Objectives

日本語文章能力検定準2級に合格できる程度の文章能力を獲得する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回(9月29日)	講義の意義と目標	
第2回(10月6日)	文章の部分が持つ役割をとらえる	事実を客観的に述べる
第3回(10月13日)	文章の部分の役割と全体の関係を認識する	文の役割の意味
第4回(10月20日)	文章の部分の役割と全体の関係を認識する	段落の役割の意味
第5回(10月27日)	文章の部分の役割と全体の関係を認識する	要旨と文章展開の関係
第6回(11月3日)	わかりやすい文章を書く	執筆、推敲のための基礎知識
第7回(11月10日)	材料を集めるための技法を見に付ける	ブレイン・ストーミング
第8回(11月17日)	材料集めから主題を見つける	
第9回(11月24日)	主題を分析して材料を集める	
第10回(12月1日)	レポート・小論文の型を知る	
第11回(12月6日)	意見文・論説文の型を知る	
第12回(12月8日)	説得力のある論説文を書く	
第13回(12月15日)	書簡文・通信文についての基本を身につける	
第14回(12月22日)	文章能力達成度評価テスト 概要説明と実施	
第15回(1月19日)	文章能力達成度テストの解説、授業全体のまとめ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点(日常的)	100 %	出席点(30%)、課題提出(30%)、評価テスト(40%)

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「文章表現ワークシート」	///

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「日本語文章能力検定2級徹底解明」	日本語文章能力検定協会 ///
「日本語文章能力検定準2級徹底解明」	日本語文章能力検定協会 ///

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

文章能力検定協会ホームページ <http://www.kentei.co.jp/bunken/index.html>

その他 / Others

前期定期試験期間中に「プレメントテスト」を実施予定。1回生は全員受験すること。

ライフサイクル論 S

15538

担当者名 / Instructor 櫻谷 真理子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

人間が社会の中で生まれ、育ち、老いていく過程を概説し、自己形成および人格発達について考察する。なお、各ライフステージにおける心理的危機について注目し、その背景や要因を探り、心理的援助、福祉の課題を明らかにする。

到達目標 / Attainment Objectives

- ・ライフサイクルの基本や概念を理解できる。
- ・人間発達についての理解を深める。
- ・個人の発達を支えるための社会的制度、福祉的援助について問題意識を持ち、解決の方向を探る。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	導入講義	ライフサイクルとは何か、人生周期
2	胎児、新生児の発達	胎児の発達過程、新生児の能力
3	乳児期の発達特徴	人格発達の土台、基本的信頼感、アタッチメントの形成、愛着障害
4	幼児前期の発達特徴	自我の芽生え、甘えと自立
5	幼児後期の発達特徴	自制心の育ち、意欲、自発性
6	学童期の発達と心理的危機	勤勉性、劣等感、ギャングエイジ
7	思春期の課題と心理的危機	身体の成熟、アイデンティティの形成、いじめ、不登校
8	青年期の課題と心理的危機	自立、モラトリアム、ひきこもり
9	成人期の発達と心理的危機1	職業選択、恋愛、結婚、自己実現
10	成人期の発達と心理的危機2	親密性、子育て、父親不在と母子密着の影響
11	中年期の心理的特徴1	心身の変化、人生の転換期
12	中年期の心理的特徴2	衰退と充実、アイデンティティの問い直し
13	ライフサイクルの中の老い1	老いの受容、喪失
14	ライフサイクルの中の老い2	人格の統合、絶望、死
15	総括講義	ライフサイクル論のまとめ

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	70 %	発達段階、発達課題に対する基本的理解がなされたのか、また、それぞれの段階で生じる問題を克服するために必要な社会的支援についての理解が深まったのか把握するための試験を実施する。
平常点(日常的)	30 %	レポートを提出してもらうことがある。また、コミュニケーションカードによる授業の感想や意見も評価に加える。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

人間の一生について概説し、様々な問題を扱うために幅広い知識が必要です。そこで、授業中に紹介する文献を読み、理解を深めるように努めてください。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
ライフサイクルの臨床心理学	馬場禮子・永井徹共編 / 培風館 / 563-05610-3 /
女性のためのライフサイクル心理学	岡本祐子・松下美知子編 / 福村出版 / 571-20051-x /
子育て支援の現在	垣内国光・櫻谷真理子共編 / ミネルヴァ書房 / 4-623-03643-xc3336 /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

担当者名 / Instructor 村本 邦子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

フロイトは、大人が健康に生きていくために必要なのは、「働くことと愛すること」と言った。敷かれたレールを受動的に走るだけ、安易に状況に流されるだけでは満足できる豊かな人生を送ることはできない。納得のいく生活を創っていくためには、自分の人生を主体的に組み立てていくこと、すなわちライフデザインが必要である。かと言って、用意周到に綿密な人生計画を立てても、必ずしも思い通りにいくわけでもない。予想外に降りかかっている出来事を受け入れ、新しい可能性に心を啓く柔軟さも必要であろう。

本授業は、①働くこと＝仕事 ②愛すること＝親密な関係や家族 に関する心理社会学的理論を学びながら、それを自分の日常や将来設計につなげていくための体験的プロセスから構成される。毎回出席が前提であり、講義を聴くだけでなく、小グループでのディスカッションやグループワーク、レポート提出など能動的参加が求められる。

到達目標 / Attainment Objectives

- 1) ライフコースは社会とともに変化することを理解し、現代社会のライフコースの特徴をつかむと同時に、どんな社会にも共通してあるライフサイクル論について学ぶ
- 2) 親密な関係、および仕事についての心理・社会学的理論と研究を概観するとともに、ジェンダーへの視点が不可欠であることを理解する
- 3) 知的に学習したことを、体験プロセスを介して自分のものとして消化し、現時点でのライフデザインを描けるようになる

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

とくになし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	オリエンテーション	ライフコース、ライフサイクル、ライフデザイン
第2回	さまざまなライフサイクル論	レヴィンソン、ユング、エリクソン
第3回	ライフサイクルとジェンダー	性別役割、性別役割分業、ジェンダー、
第4回	親密な関係の心理・社会学(1)	親密さ、暴力
第5回	親密な関係の心理・社会学(2)	好意、愛
第6回	親密な関係の心理・社会学(3)	セクシュアリティ、セックス
第7回	親密な関係についての心理・社会学(3)	結婚、離婚、再婚
第8回	親密な関係の心理・社会学(4)	まとめ
第9回	働くことの心理・社会学(1)	キャリア、仕事
第10回	働くことの心理・社会学(2)	雇用形態、経済、社会
第11回	働くことの心理・社会学(3)	ジェンダーと仕事
第12回	働くことの心理・社会学(4)	まとめ
第13回	ワーク・ファミリーバランス	仕事、家族
第14回	自分の人生をデザインすること、流れに乗ること	ライフデザイン
第15回	課題レポートと解説	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

(学部科目) ふだんからライフデザインについての関心を持って、新聞、小説、映画などに触れるよう心懸けること。友人や先輩、家族、その他の人々と語り合う習慣を身につけておくこと。その上で、自分自身の生き方を考えること。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	40 %	
平常点(日常的)	60 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

参加型の授業になります。他の受講生とのディスカッションやグループワークに参加することが課されます。それを了解のうえ、登録してください。

教科書 / Textbooks

教科書はとくに指定しません。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『女性ライフサイクル研究17号～ワークライフバ』	女性ライフサイクル研究所／三学出版／

ランス社会をめざして』

『女性ライフサイクル研究15号～人生の選択に迷うとき』 女性ライフサイクル研究所／三学出版／

『女性ライフサイクル研究13号～ライフサイクルにおけるストレス・危機とケア』 女性ライフサイクル研究所／女性ライフサイクル研究所／

参考書は授業内で適宜、紹介していきます。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

リスク社会論 S

20281

担当者名 / Instructor 原 強

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

現代社会は「リスク社会」といわれる。なぜ「リスク」が強調されるのか。また、どのような「リスク」があるというのか。この授業は「リスク社会」論入門というべきもので、さまざまなリスクのなかで、環境や健康障害などに関わるリスクを事例にしなから、「リスク」の考え方や「リスク」管理の方法、「安全・安心な社会」をめざすうえでの課題や問題点を考えることにしたい。

到達目標 / Attainment Objectives

この授業は「リスク社会論」の入門講義というべきものであり、この授業を通じて「リスク」や「リスク社会」をめぐる問題の概要を理解し、本格的な学習・研究にむかううえで必要な手がかりを見つけてもらいたい。同時に、実生活におけるさまざまなリスクとのつきあい方を身につけてもらいたい。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

とくにない。参考文献としてあげたものを事前に学習しておくことによって理解が深まるであろう。また、新聞やテレビなどの「リスク」に関する報道に注意して、関連情報を集めることに心がけてもらいたい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の概要と導入 / 『沈黙の春』の警告	20世紀文明 レイチェル・カーソン
第2回	チェルノブイリの衝撃と「危険社会」	チェルノブイリ原発事故 ウルリッヒ・ベックの『危険社会』
第3回	放射線とリスク	放射能の世紀 放射線による健康障害
第4回	ダイオキシンとリスク	ごみとダイオキシン 食の安全とダイオキシン
第5回	環境ホルモンとリスク	「環境ホルモン」論争 予防原則
第6回	BSEとリスク	BSEによる健康障害 全頭検査
第7回	飲み水の安全とリスク	塩素処理副生成物
第8回	感染症とリスク	DDTとマラリヤ 新型インフルエンザの流行
第9回	気候変動とリスク	気候変動の予測と対策
第10回	補論と中間まとめ	
第11回	化学物質規制の動向	EUの化学物質規制
第12回	食の安全とリスクアナリシス	BSEの教訓 食品安全基本法と食品安全委員会
第13回	リスクをマネジメントする	リスクマネジメントの手法
第14回	リスク・コミュニケーション	リスク・コミュニケーションの必要性和実際
第15回	リスクとつきあう	「安全・安心な社会」をめざす

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

授業内容の復習により、内容を確認するとともに、授業で紹介する参考文献の学習を通じて問題意識をさらにひろげるように心がけてもらいたい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	60 %	授業を通じて「リスク社会」論についてどのように理解が深まったかを確認する。
平常点(日常的)	40 %	出席状況と、課題図書についてのレポートで評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

テキストを指定していないので、授業に出席し講義内容を正確に理解するとともに、参考文献で問題意識をひろげていくことが重要である。

教科書 / Textbooks

テキストは指定しない。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
水の環境戦略	中西準子 / 岩波書店 / /
安全と安心の科学	村上陽一郎 / 集英社 / /
リスクセンス	ジョン・F・ロス / 集英社 / /
リスクのモノサシ	中内谷一也 / 日本放送出版協会 / /

リスクとつきあう

吉川肇子／有斐閣／／

授業の中でこれ以外の参考文献を順次紹介する。

日本リスク研究学会編『リスク学事典』(阪急コミュニケーションズ)は高価なものだが、本格的に研究する場合には手元におきたいものである。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

リハビリテーション論 S

15444

担当者名 / Instructor 宮崎 博子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

リハビリテーションは、理想的には「全人間的復権」を目的とし、従来の「疾患を対象とし、治癒を目的とした」医学とは異なり、障害を対象とするという特徴を持つ。医療の現場ではこの従来の医学とリハビリテーション医学の両方が求められている。また高齢化がすすみ、介護保険が施行された時代にあつて、リハビリテーションは医療と福祉をつなぐ重要な役割を持っている。本講義は、医療を中心としたリハビリテーションの現場の諸問題をとりあげ、リハビリテーションの理念とともに、現場で役立つ知識をえることを目的とする。

到達目標 / Attainment Objectives

障害者の置かれている状況や心情などが理解出来る。
リハビリテーションの概念と手法が理解できる。
個々の分野におけるリハビリテーションがイメージ出来、対応が分る。
今、医療・福祉の現場で、何が求められているかが理解出来る。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本講義の詳細なスケジュール(確定版)は最初の講義時に提示する。以下に記載するのは(暫定版)講義の基本的内容で、これを押さえた内容で行うが、講義順序などや詳細は変更することがある。社会福祉士などの取得をめざし、将来医療・福祉の現場で働くことを希望する学生が、現場をイメージできるように、ビデオ、スライドなどを利用して施行する。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
10月2日	リハビリテーション概論、障害論	門先生
10月9日	廃用症候群のリハビリテーション	宮崎先生
10月16日	障害者の心理、障害受容	中川先生
10月23日	脳卒中、脳外傷のリハビリテーション	石川先生
10月30日	小児のリハビリテーション、教育的リハビリテーション	神田先生
11月6日	嚥下障害のリハビリテーション	宮崎先生
11月13日	脊髄疾患のリハビリテーション	長谷先生
11月20日	地域リハビリテーション、介護保険	垣田先生
11月27日	義肢装具のリハビリテーション	増田先生
12月4日	神経・筋疾患のリハビリテーション	武澤先生
12月11日	排尿障害のリハビリテーション	野々村先生
12月18日	運動器疾患のリハビリテーション	吾妻先生
12月25日	内部障害のリハビリテーション	宮崎先生
1月8日	悪性疾患、加齢性疾患のリハビリテーション	宮崎先生
1月15日	精神疾患のリハビリテーション	安東先生

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	80 %	基本的概念を理解し、自分の言葉で表現出来ているかを、評価する。
平常点(日常的)	20 %	学習意欲や態度を評価する。

試験は、講義プリント、参考書、他、持ち込み自由。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

授業に必要なプリントを作成配布する。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
リハビリテーションの森-ツアーガイド-寝たきりが9割いなくなる!	京都府保険医協会・地域リハビリテーションシステム研究会 / かもがわ出版 / 978-4-7803-0177-9 /

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
リハビリテーション医療入門	/ 医学書院 / /

目で見るとリハビリテーション医学 第2版	上田 敏／東京大学出版会／／
脳卒中のリハビリテーション	／医歯薬出版株式会社／／
狭心症、心筋梗塞のリハビリテーション	／南江堂／／
嚥下障害ポケットマニュアル	藤島一郎／医歯薬出版株式会社／／
障害児の包括的評価法マニュアル	全国肢体不自由児施設運営協議会編／メジカルビュー社／／
変わるリハビリ	上月正博／ヴァンメデイカル社／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

<http://www.copd-info.net/> COPD情報ネット

その他 / Others

臨床社会学 S

13077

担当者名 / Instructor 村本 邦子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

現代社会は、虐待、DV、不登校、ひきこもり、非行と犯罪など多様な臨床的課題を抱え、さまざまな援助が試みられている。こうした課題が浮かび上がる人間関係と社会環境を見ていくと、社会それ自体の病理性を扱うこととなる。逆に、これらをあくまでも心理主義的に捉え解決しようとする社会の心理化、および心理学ブームを社会現象のひとつとして反省的に捉え直す必要もあろう。臨床的援助を必要とする「問題行動」を単に個人の「逸脱」や「不適応」という課題にのみ還元しない方法として臨床社会学を位置づけ、社会関係に係留しながら問題を把握し、そうした問題を生じさせる社会環境(コミュニティ、家族、学校、産業など)を「異化する実践」が求められる。本授業では、社会分析を可能にするマクロな社会科学的視野と援助実践の個別性を見失わない臨床心理的なミクロな視野とが会合する「メゾフィールド」として、臨床実践を位置づける。映像、新聞・雑誌記事などの教材を用い、学生同士のディスカッションなど含めながら、具体的トピックスを取り上げ、その社会的特質を解説し、解決の糸口を模索する。

到達目標 / Attainment Objectives

- 1) 心理的な要援助課題の背後にある社会臨床的な側面を把握するための基礎的知識、基本概念を把握する。
- 2) 社会の心理化という側面に配慮しつつ、多様な臨床的援助課題を社会問題という視点から再構成して理解する能力を養う。
- 3) 社会環境(コミュニティ、家族、学校、産業など)の改善に資することのできる社会臨床的なものの見方を養い、各々が実践できることを考える。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

とくになし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	臨床社会学への導入～社会構築主義を理解する	臨床社会学、社会構築主義
第2回	臨床社会学とは何か	臨床社会学、テーマ、歴史
第3回	「羅生門的現実」とは何か①	羅生門的現実、社会構築主義
第4回	「羅生門的現実」とは何か②	羅生門的現実、社会構築主義
第5回	心理化する社会①	心理主義、心理学ブーム、社会の心理化
第6回	心理化する社会②	心理主義、心理学ブーム、社会の心理化
第7回	トラウマと社会①	トラウマの弁証法、歴史
第8回	トラウマと社会②	トラウマ、社会、ジェンダー
第9回	トラウマと社会③	トラウマ、戦争、文化
第10回	虐待と子育て支援①	虐待、子育て支援
第11回	虐待と子育て支援②	虐待、子育て支援
第12回	親密さと暴力①	DV、デートDV
第13回	親密さと暴力②	DV、デートDV
第14回	臨床社会学の可能性	心理化する社会の社会化、臨床実践の社会的性格
第15回	課題レポートと解説	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

授業外での学習を促すため、配布資料や主題に合わせた参考文献などを読み、レポートをまとめるなど宿題があります。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	40 %	課題レポート
平常点(日常的)	60 %	授業への主体的参加度や宿題などを評価にします。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

出席は前提に授業を進めます。また、他の学生たちとのグループディスカッションなど、主体的参加が必須となります。

教科書 / Textbooks

とくに指定しません。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『女性ライフサイクル研究11号～子どもの虐待』	女性ライフサイクル研究所／女性ライフサイクル研究所／／

『女性ライフサイクル研究12号～非暴カプログラム
ムその思想と実践』 女性ライフサイクル研究所／女性ライフサイクル研究所／／

『女性ライフサイクル研究13号～ライフサイクル
におけるストレス・危機とケア』 女性ライフサイクル研究所／女性ライフサイクル研究所／／

『女性ライフサイクル研究14号～戦争とトラウマ』 女性ライフサイクル研究所／女性ライフサイクル研究所／／

その他、授業で適宜、紹介します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

担当者名 / Instructor 村本 邦子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

フロイトは、大人が健康に生きていくために必要なのは、「働くことと愛すること」と言った。敷かれたレールを受動的に走るだけ、安易に状況に流されるだけでは満足できる豊かな人生を送ることはできない。納得のいく生活を創っていくためには、自分の人生を主体的に組み立てていくこと、すなわちライフデザインが必要である。かと言って、用意周到に綿密な人生計画を立てても、必ずしも思い通りにいくわけでもない。予想外に降りかかっている出来事を受け入れ、新しい可能性に心を啓く柔軟さも必要であろう。

本授業は、①働くこと＝仕事 ②愛すること＝親密な関係や家族 に関する心理社会学的理論を学びながら、それを自分の日常や将来設計につなげていくための体験的プロセスから構成される。毎回出席が前提であり、講義を聴くだけでなく、小グループでのディスカッションやグループワーク、レポート提出など能動的参加が求められる。

到達目標 / Attainment Objectives

- 1) ライフコースは社会とともに変化することを理解し、現代社会のライフコースの特徴をつかむと同時に、どんな社会にも共通してあるライフサイクル論について学ぶ
- 2) 親密な関係、および仕事についての心理・社会学的理論と研究を概観するとともに、ジェンダーへの視点が不可欠であることを理解する
- 3) 知的に学習したことを、体験プロセスを介して自分のものとして消化し、現時点でのライフデザインを描けるようになる

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

とくになし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	オリエンテーション	ライフコース、ライフサイクル、ライフデザイン
第2回	さまざまなライフサイクル論	レヴィンソン、ユング、エリクソン
第3回	ライフサイクルとジェンダー	性別役割、性別役割分業、ジェンダー、
第4回	親密な関係の心理・社会学(1)	親密さ、暴力
第5回	親密な関係の心理・社会学(2)	好意、愛
第6回	親密な関係の心理・社会学(3)	セクシュアリティ、セックス
第7回	親密な関係についての心理・社会学(3)	結婚、離婚、再婚
第8回	親密な関係の心理・社会学(4)	まとめ
第9回	働くことの心理・社会学(1)	キャリア、仕事
第10回	働くことの心理・社会学(2)	雇用形態、経済、社会
第11回	働くことの心理・社会学(3)	ジェンダーと仕事
第12回	働くことの心理・社会学(4)	まとめ
第13回	ワーク・ファミリーバランス	仕事、家族
第14回	自分の人生をデザインすること、流れに乗ること	ライフデザイン
第15回	課題レポートと解説	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

(学部科目) ふだんからライフデザインについての関心を持って、新聞、小説、映画などに触れるよう心懸けること。友人や先輩、家族、その他の人々と語り合う習慣を身につけておくこと。その上で、自分自身の生き方を考えること。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	40 %	
平常点(日常的)	60 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

参加型の授業になります。他の受講生とのディスカッションやグループワークに参加することが課されます。それを了解のうえ、登録してください。

教科書 / Textbooks

教科書はとくに指定しません。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『女性ライフサイクル研究17号～ワークライフバ』	女性ライフサイクル研究所／三学出版／／

ランス社会をめざして』

『女性ライフサイクル研究15号～人生の選択に迷うとき』 女性ライフサイクル研究所／三学出版／

『女性ライフサイクル研究13号～ライフサイクルにおけるストレス・危機とケア』 女性ライフサイクル研究所／女性ライフサイクル研究所／

参考書は授業内で適宜、紹介していきます。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

労働社会学 S

13060

担当者名 / Instructor 大野 威

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

バブルが崩壊してからおよそ15年の間に、日本の雇用(仕事を得ること)や労働のあり方(働き方)は急激に変化し、それが私達の生活や意識にも大きな影響を与えている。授業では、他の国の状況と比較しながら、雇用や労働のあり方がどのように変化し、それが私達の生活にどのような影響を与えているか考えていく。

到達目標 / Attainment Objectives

雇用や賃金に関する新聞記事やニュースを、その背景まで含めて十分に理解できるようになる。
また授業をきっかけにして、自分はどのような仕事をしたいのか、あるいはどのような働き方をしていきたいのか自分なりのイメージを持てるようになる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	労働社会学で何を学ぶか	
2	多様化する雇用:パート、派遣、請負という働き方	
3	非正規雇用の増大と格差問題	
4	女性雇用の現状:M字型雇用と少子化	
5	女性雇用政策の国際比較1:育児と仕事の両立	
6	女性雇用政策の国際比較2:男女雇用機会均等法	
7	働きすぎと過労死1:労働時間の国際比較	
8	働きすぎと過労死2:長時間労働の背景にあるもの1	
9	働きすぎと過労死3:長時間労働の背景にあるもの2	
10	失業率とは何か?	
11	若年と高齢者の雇用:フリーターは日本だけの問題か?	
12	フリーターについて考える	
13	高齢者雇用の現状と課題	
14	製造業の職場の変遷1:テーラーシステムとホーソン実験	
15	製造業の職場の変遷2:知的熟練論を巡る論争	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	講義内容の理解度。
平常点(日常的)	0 %	場合によっては出席を加点することがある。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

新聞やテレビ等で、雇用、働き方、賃金にかかわる記事や番組があったら、興味を持って見て欲しい。また、身近に働いている人がいたら、授業で興味を持ったことをいろいろ質問(インタビュー)してみることも有益である。

教科書 / Textbooks

必要な資料は、授業中に適宜配布する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
現代の労働問題(第3版)	笹島芳雄 / 中央経済社 / 450236150X /
雇用不安	野村正実 / 岩波書店 / 4004305675 /
日本的雇用慣行	野村正実 / ミネルヴァ書房 / 4623049248 /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

労働政策研究・研修機構 <http://www.jil.go.jp/>
厚生労働省 <http://www.mhlw.go.jp/>

その他 / Others

担当者名 / Instructor 高橋 正人

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

わが国の高齢者福祉制度、サービスに関する基礎知識とそこにおける問題点について講じる。また高齢者の介護問題を中心に、在宅福祉の展開過程をたどりながら、わが国の高齢者福祉のあり方を福祉先進国といわれる諸外国の高齢者福祉事情と比較しながら検討する。とくに公的介護保険制度の導入にかかわる諸動向について述べ、そこにおける問題点や課題を明らかにする。

到達目標 / Attainment Objectives

わが国の高齢者福祉施策の史的展開について理解を深め、かつ諸外国との比較の視点より高齢者福祉の現状を的確に説明できる。さらにそれらを通して高齢者福祉の現代的課題が文化・社会・政治・経済などと連関する社会問題であることを理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	高齢者福祉の考え方	福祉ニーズ、デマンドと資源などについて
2	人口高齢化	日本の特殊性、問題の予見などについて
3	「家」制度と核家族化	産業化、高齢者問題の現出などについて
4	経済社会と高齢者福祉施策(1)	老人福祉法制定、1970年代の高齢者福祉などについて
5	福祉先進国の高齢者福祉施策	デンマークの在宅福祉などについて
6	経済社会と高齢者福祉施策(2)	高齢者の在宅福祉、福祉理念、日本型福祉などについて
7	経済社会と高齢者福祉施策(3)	1980年代の高齢者福祉施策、老人保健法などについて
8	経済社会と高齢者福祉施策(4)	自助化、多元化、分権化、普遍化、自由化、地域化などについて
9	高齢者福祉と介護問題	介護問題の深刻化などについて
10	高齢者保健福祉推進10カ年戦略	福祉理念と財源問題などについて
11	高齢者福祉と介護保険(1)	福祉理念と財源問題などについて
12	高齢者福祉と介護保険(2)	介護の社会化問題などについて
13	高齢者福祉と介護保険(3)	介護保険の改正ポイントなどについて
14	高齢者の生活と福祉と地域	地域共同性、社会的連帯、公正、社会正義などについて
15	高齢者福祉の展望	市民社会と高齢者福祉施策

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

新聞・雑誌等に掲載される高齢者福祉関連の記事に関心をもつこと。自分の住んでいる地域の高齢者福祉について調べたりすること。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	70 %	高齢者福祉制度、政策についての理解を前提に、高齢化社会に対する洞察力を試す問題を出す。答案の構成や論理性を重点的に評価する。
平常点(日常的)	30 %	第5回頃と第10回頃の授業で、それまでの授業内容に対する理解度を確かめるためのレポートを課す。Web-CTを使つての提出を受け付ける。

定期試験は講義でとりあげた範囲内から出題されるので、各回の講義における課題をよく把握すること。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

「老い」というものを想像し、「自分の問題」としてほしい。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
社会福祉士養成講座(第2巻)「老人福祉論」	／中法法規出版／／標準的な構成と内容をもつテキスト
最新介護福祉全書(8巻)「老人の心理と援助」	／メジカルフレンド社／／標準テキストだが、すこし個性的な内容をもつ
体験ルポ世界の高齢者福祉	山野井和則／岩波新書／／わかりやすい高齢者福祉のレポート
高齢者医療と福祉	岡本祐三／岩波新書／／福祉と医療の視野をあわせもつ高齢者の本

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

老年社会学 S § 老年社会学 SG

11634

担当者名 / Instructor 高橋 正人

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

高齢化にともなう社会変化は多様である。高齢化社会の問題に対するアプローチも人口、雇用・就業、家族、医療保健、社会福祉、社会活動・生涯学習、生きがい等と多様である。本講義では高齢化社会の問題を諸データを通じて多角的にとらえつつも、そこに通底する意味を探る。その際、高齢期の問題が世代をこえた課題として実感される接点を提示する。また現代の「老い」の意味を探ることをめざし、社会学的幸福論を主テーマとしたい。

到達目標 / Attainment Objectives

社会学的視点にたち、高齢期に関する諸問題現象を科学的なデータを用いて考察することができ、またその因果的連関を説明できる。さらには現代社会における「老いて生きる」ことの意味を自分の問題としていく探求心を身につける。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	「老い」を想像する	言語性能力と動作性能力などについて
2	高齢期のころと身体	個人差、「老い」の多様性などについて
3	高齢期の世代的特性	無限定性、「世代性」などについて
4	高齢期の健康生活と認知症	アルツハイマー型、脳血管性など、認知症について
5	高齢期の経済生活と年金	階層格差、年金の社会的機能などについて
6	高齢期の家族生活と老親扶養慣行	「家」規範と家族変化などについて
7	高齢ねたきりと介護問題	人口高齢化と介護ニーズなどについて
8	高齢期の無為と生きがい・社会活動	喪失のライフイベントなどについて
9	高齢期の孤独・孤立	社会的疎外などについて
10	高齢期の自殺と虐待	自殺率と自殺に関する社会類型などについて
11	エイジズム	「老い」の価値観、「老い」の神話などについて
12	高齢期の社会的役割	活動性と離脱性、受容とあきらめなどについて
13	高齢期の社会的寄与	高齢期の「世代性」などについて
14	「老い」をきく	老いの受容などについて
15	「老い」の意味を考える	「発達と回帰」などについて

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

日常生活の中で、高齢者や高齢者にかかわる事柄に関心をむける。また新聞・雑誌等の高齢者に関する記事を読む際は、「高齢者がどのような生活をしているのか」「高齢者に何が起きているか」を探索しながら読む。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	70 %	「高齢社会」、「老い」についての理解を前提に、高齢化社会に対する洞察力を試す問題を出す。答案の構成や論理性を重点的に評価する。
平常点(日常的)	30 %	第5回頃と第10回頃の授業で、それまでの授業内容に対する理解度を確かめるためのレポートを課す。Web-CTを使つての提出を受け付ける。

定期試験は講義でとりあげた範囲内から出題されるので、各回の講義における課題をよく把握すること。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

「老い」というものを想像し、「老い」に関する問題を「自分の問題」としてとらえてほしい。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
エイジングの社会学	／日本評論社／「老い」に関する社会学的な視点を確保するのに役立つ
図説高齢者白書	／全国社会福祉協議会／「老い」に関する諸現象の客観データをみることができる

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others